

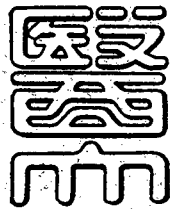
ISSN 1341-8254

# 日本医科大学研究業績年報

第 43 卷

Nippon Medical School Research Annual

Vol. 43



平成 8 (1996) 年度

April 1996 — March 1997

# 日本医科大学研究業績年報

## 第 43 卷

Nippon Medical School Research Annual

Vol. 43

平成 8 (1996) 年度

April 1996 — March 1997

# まえがき

学長 早川 弘一

この「まえがき」を書くことになって3年目を迎えた。過去2年、われわれの研究業績がどのようなトレンドを示しているのかについて数値による根拠を示してきた。今回も1996年度（現在本文を執筆しているのが1997年12月なので、かなりの時間的ギャップを感じているが…）と過去との対比を以下の表に示した。

業績集総ページ数は前年度と殆んど変わらず、論文数、著者数はやや減少気味である。しかし、英文論文数、学会発表数は増加傾向にあり、われわれの大学の強さを感じている。なお、科学研究費などのアプライおよび受理された件数1996年度～97年にはかなり増加している。全体的にみて、着実に研究業績が年々充実しかつ増加していると評価できると思うが、国外、国内のレベルとくらべてまだまだ努力の余地が残されていると思う。今回の業績等が学内の研究コンペティションの誘発因子になってくれればと願う次第である。

1996年度研究業績年報内訳表

年度	総頁数☆	基礎科学	基礎医学	臨床医学	付置施設
1986	285	13	40	226	3
1987	299	14	37	234	4
1988	287	15	38	220	2
1989	300	16	43	229	3
1990	327	17	40	252	6
1991	349	18	45	271	6
1992	351	18	43	276	4
1993	367	14	48	289	6
1994	393	15	56	304	10
1995	429	14	60	340	15
1996	434	14	57	348	15

☆1頁=52字数×42行=2184字

	1986年度	1995年度	増加率(倍)	1986年度	1996年度	増加率(倍)
論文数	1189	1885	1.59	1189	1766	1.49
著書数	339	480	1.42	339	461	1.36
学会発表数	2492	3679	1.48	2492	3887	1.56

	1995年度	1996年度	増加率(倍)
論文数	1885	1766	-0.94
著書数	480	461	-0.96
学会発表数	3679	3887	1.06

年度	総論文数	英文論文数	比率(%)
1989	1158	140	12.09
1990	1325	176	13.28
1991	1555	200	12.86
1992	1492	208	13.94
1993	1618	250	15.45
1994	1634	308	18.85
1995	1885	380	20.16
1996	1766	401	22.71

# 目 次

## (1) 基礎科学

1. 人文科学・社会科学	1
[国文学]	1
[哲学・倫理学]	1
[心理学]	2
[歴史学]	3
[文化人類学]	4
[経済学]	4
2. 自然科学	5
[数 学]	5
[物理学]	6
[化 学]	7
[生物学]	8
3. 外国語	11
[英 語]	11
[ドイツ語]	12
4. 保健体育	13
[保健体育]	13

## (2) 基礎医学

1. 解剖学第一講座	17
2. 解剖学第二講座	20
3. 生理学第一講座	23
4. 生理学第二講座	29
5. 生化学第一講座	31
6. 生化学第二講座	34
7. 薬理学講座	38
[薬理学]	38
[臨床薬理センター]	40
8. 病理学第一講座	42
9. 病理学第二講座	47
10. 微生物学・免疫学講座	53
11. 衛生学・公衆衛生学講座	57
12. 法医学講座	59
13. 医療管理学講座	62
14. 基礎医学共同研究利用施設	66
[実験動物管理室]	66
[中央電子顕微鏡研究施設]	67

[情報科学センター (旧：医療情報部)]	70
----------------------	----

(3) 臨床医学

1. 内科学第一講座	77
[付属病院第1内科]	77
[付属病院老人科]	96
[第二病院内科]	100
[多摩永山病院内科]	103
[千葉北総病院内科]	106
2. 内科学第二講座	114
[第一病院内科・付属病院第2内科]	114
[第一病院リウマチ科]	124
3. 内科学第三講座	129
[付属病院第3内科]	129
4. 内科学第四講座	141
[付属病院第4内科]	141
5. 精神医学講座	150
[付属病院神経科・第一病院神経科・千葉北総病院神経科]	150
6. 小児科学講座	156
[付属病院小児科・第二病院小児科・ 多摩永山病院小児科・千葉北総病院小児科]	156
7. 放射線医学講座	168
[付属病院放射線科]	168
[第一病院放射線科]	182
[第二病院放射線科]	183
[多摩永山病院放射線科]	186
[千葉北総病院放射線科]	188
8. 皮膚科学講座	193
[付属病院皮膚科]	194
[第一病院皮膚科]	199
[第二病院皮膚科]	199
[千葉北総病院皮膚科]	201
9. 外科学第一講座	203
[付属病院第1外科]	203
[多摩永山病院外科]	221
[多摩永山病院消化器科]	223
[千葉北総病院外科]	225
10. 外科学第二講座	227
[付属病院第2外科・第一病院外科]	227
[付属病院第2外科]	227
[第一病院外科]	235

	[第一病院内視鏡科].....	238
	[第二病院外科].....	240
	[千葉北総病院胸部外科・呼吸器外科].....	243
11.	脳神経外科学講座.....	245
	[付属病院脳神経外科].....	245
	[第二病院脳神経外科].....	256
	[多摩永山病院脳神経外科].....	259
	[千葉北総病院脳神経外科].....	261
12.	整形外科学講座.....	264
	[付属病院整形外科・第一病院整形外科・第二病院整形外科・多摩永山病院整形外科・ 千葉北総病院整形外科].....	264
13.	産婦人科学講座.....	273
	[付属病院産婦人科].....	273
	[第一病院産婦人科].....	281
	[第二病院産婦人科].....	284
	[多摩永山病院産婦人科].....	288
	[千葉北総病院産婦人科].....	291
14.	耳鼻咽喉科学講座.....	293
	[付属病院耳鼻咽喉科].....	293
	[第一病院耳鼻咽喉科].....	300
	[第二病院耳鼻咽喉科].....	301
	[多摩永山病院耳鼻咽喉科].....	303
	[千葉北総病院耳鼻咽喉科].....	303
15.	泌尿器科学講座.....	305
	[付属病院泌尿器科].....	305
	[第一病院泌尿器科].....	311
	[第二病院泌尿器科].....	312
	[多摩永山病院泌尿器科].....	313
	[千葉北総病院泌尿器科].....	314
16.	眼科学講座.....	316
	[付属病院眼科・第一病院眼科・第二病院眼科・多摩永山病院眼科・千葉北総病院眼科].....	316
17.	麻酔科学講座.....	322
	[付属病院麻酔科].....	322
	[第一病院麻酔科].....	324
	[第二病院麻酔科].....	327
	[多摩永山病院麻酔科].....	328
	[千葉北総病院麻酔科].....	330
18.	救急医学講座.....	332
	[付属病院高度救命救急センター・多摩永山病院救命救急センター・ 新東京国際空港クリニック].....	332

	[多摩永山病院救命救急センター].....	345
	[千葉北総病院救命救急部].....	350
19.	形成外科学講座.....	357
	[付属病院形成外科].....	357
	[第二病院形成外科].....	362
	[千葉北総病院形成外科].....	362
20.	付属病院付置施設等.....	365
	[付属病院集中治療室].....	365
	[付属病院病理部].....	372
	[付属病院中央検査部].....	374
	[付属病院薬剤部].....	376
	[付属病院生理機能センター].....	379
	[日本医科大学腎クリニック].....	381
21.	第一病院付置施設等.....	383
	[第一病院病理部].....	383
	[第一病院中央検査室].....	386
	[第一病院血液センター].....	386
	[第一病院薬剤科].....	387
	[第一病院東洋医学センター].....	387
	[第一病院中央研究室].....	388
22.	第二病院付置施設等.....	390
	[第二病院消化器病センター].....	390
	[第二病院リハビリテーションセンター].....	395
	[第二病院健康管理科].....	398
	[第二病院病理部].....	398
	[第二病院中央検査室].....	401
	[第二病院薬剤科].....	403
23.	多摩永山病院付置施設等.....	404
	[多摩永山病院病理部].....	404
	[多摩永山病院中央検査室].....	407
	[多摩永山病院薬剤科].....	408
	[多摩永山病院看護部].....	410
24.	千葉北総病院付置施設等.....	412
	[千葉北総病院集中治療部].....	412
	[千葉北総病院病理部].....	415
	[千葉北総病院中央検査室].....	417
	[千葉北総病院薬剤科].....	418
	[千葉北総病院中央画像検査室].....	419
〔4〕 付置研究施設		
1.	老人病研究所.....	423

[病理部門].....	423
[生化学部門].....	424
[免疫部門].....	427
[疫学部門].....	429
[分子生物学部門].....	430
2. ワクチン療法研究施設.....	436

付表：各種研究費補助金・研究助成金交付状況 .....	441
1. 平成8年度科学研究費補助金交付決定一覧.....	441
2. 平成8年度文部省科学研究費補助金（分担研究）の採択・交付状況.....	444
3. 平成8年度厚生省科学研究費補助金（主任研究・分担研究）の交付状況.....	445
4. 平成8年度その他省庁，自治体，財団による研究助成金等の交付状況.....	446



# 〔1〕基 礎 科 学

# 1. 人文科学・社会科学

## [国文学]

### 研究概要

○本年度は昨年にひき続き、日本の近代文学における〈大衆〉と〈大衆文化〉の存在に着目し、日本近代文学会春季大会において、シンポジウム『『大衆』の発生と文学』をプロデュースし、司会を担当した。また、明治40年代の高級なく大衆文化〉の担い手としての百貨店〈三越〉と、夏目漱石の文学との関わりを考察した。

連続研究テーマである「日本近現代文学の中の東京」に関しては、森 鴎外「雁」における〈無縁坂〉の意味を論じた。女性文学研究については、『樋口一葉事典』において一葉と関係の深い病気などを調査執筆した。また、現代の作家久間十義の文学作法について論じた。

### 研究業績

#### 論文

(1) 原著：

- 1) 神田由美子：森 鴎外「雁」の無縁坂。国語展望，1996；No 98：9-11，小学館・尚学図書。
- 2) 神田由美子：夏目漱石と三越。国語展望，1996；No 99：9-11，小学館・尚学図書。

#### 著書

- 1) 神田由美子：[分担] 現代文指導資料①-④（4分冊）（日本近代文学，日本現代文学の作家について）1996；① pp24-28，② pp7-9，③ pp7-8，④ pp6-8，尚学図書。
- 2) 神田由美子：[分担] 樋口一葉事典。1996；pp137-8，pp149-50，pp190，pp248-9，おうふう。
- 3) 神田由美子：[分担] 久間十義。“たとえば純文学はこんなふうにして書く”（女性文学会編）1996；pp121-130，同文書院。

#### 学会発表

シンポジウム

- 1) 神田由美子，片岡 豊，高橋博史，中村三代司，松本常彦（『大衆』の発生と文学）日本近代文学会，1996。5。

## [哲学・倫理学]

### 研究概要

まず、本年度から翻訳書が一気に出るが（4月，5月に各1冊ずつ出ているが，次年度分ということになる），その1冊目が今年度分として報告できる。

1) ドイツ観念論における自然哲学の研究。この数年間続けている研究のテーマであるが，①自然哲学の理論的基礎，②周辺との関係，③研究の現状と課題の解明というのが現在の課題である。①については昨年書いたように，自然哲学の枠を越えて，「存在を如何に把握するのか」というテーマのもとで追求している。このテーマはほぼ「ドイツ観念論の対抗軸」という形でめどがつき始めている。②については，ドイツでの在外研究時に入手した文献の解説を行ってこれは基本的なきているが，「エッセンマイヤーとシェリング」という形で限定し解析を行っている。ドイツ人研究者との連携は引き続き行っている。資料上，研究上の援助を持続的に受けている。なお，来年以後発表できるが，この面の研究では，この数年いくつかの翻訳を平行して試みてきている。それらはほぼ完成に近づきつつあるので，

今後成果として公表できることになるだろう。③に関しては、専門学会「日本シェリング協会」の理事を引き受けて、その運営に携わってきている。また、自然哲学研究会の方の仕事も、今後はドイツと日本との交流が頻繁になるだろう。

2) 生命倫理に関しても、基礎理論についての研究を中心としている。学会を中心にして仕事をしているが、こちらでも編集委員になったので、論文執筆が課題となっている。この間一貫してテーマにしているのは、功利主義倫理と規範倫理の問題と「出生に関する諸問題」である。翻訳に関しては1冊出したが、現在2冊の本を編集しているので、この面でもいずれ成果が現れるだろう。

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著：

- 1) 長島 隆：シェリングとエッセンマイヤー—絶対者と知的直観。理想，1996；第657号：55-66。
- 2) 長島 隆：「世界靈魂」と自然構成の原理—自然の超越論的基礎付けと「無制約者」問題。モルフォロギア1996；第18号：57-73。

#### (2) 書評：

- 1) 長島 隆：中里 巧『キルケゴールとその思想風土』。シェリング年報 1996；第4号。
- 2) 長島 隆：『ソフィーの世界』。季刊保育問題研究 1996；6月号。

#### (3) 研究報告書：

- 1) シェリング・テキストデータベース（作成）：日本シェリング協会データベース作成部会（高山 守，長島 隆，藤田正勝，松山寿一）。1996年度文部省科学研究費補助金研究成果公開促進費「データベース作成部門」，1996。

### 著書

- 1) 長島 隆：〔翻訳〕H.M.バウムガルトナー著『シェリング哲学入門』。早大出版部 1997年2月。

### 学会発表

#### (1) シンポジウム：

- 1) 長島 隆：絶対知とフィヒテ，シェリング。ヘーゲル研究会，1996，6。

#### (2) セミナー：

- 1) 長島 隆：体系期ヘーゲル自然哲学の差異—ハイデルベルク・エンチュクロペディ（自然哲学）とエンチュクロペディ第2版との相違の検討。自然哲学研究会第21回例会，1996，11。

## [心理学]

### 研究概要

本年度はコラージュ療法の臨床的研究と啓蒙活動に加えて、東京外国語大学留学生センター助教授の鈴木康明氏との共同研究でコラージュ技法の基礎的研究を行った。

1. 「集団コラージュの自己開発的意義について—高齢者問題に関わる対人援助者の自己開発に用いた集団コラージュ」を共同研究で行った。この研究は安田生命社会事業団の研究助成対象である。

2. コラージュ療法の臨床的研究と啓蒙活動に本年度も力を注いだ。11月に韓国美術治療学会（第3回国際美術治療セミナー）から招聘を受け、2日間にわたりコラージュ療法の講演を行った。その他、犯罪心理学会のワークショップの講師や心理臨床学会において座長等を務めた。本教室を事務局として東京コラージュ療法研究会を5月、7月、9月、11月、1997年2月の計5回開催し、産業、看護、教育（小・中・高）の各分野での事例研究を行った。

3. 学生相談室が開設以来2年目に入り、週3日の開室となった。新入生全員にUPI(学生健康調査)テストを行った。1995年度の相談室活動報告及びUPIの結果などを含めた学生相談室報告書第1号を発行した。

## 研究業績

### 論文

(1) 原著：

- 1) 杉浦京子, 田畑信利<sup>1)</sup> (1)ワーナーランパート株式会社)：大学生を対象とした観賞魚飼育による心理的効果の研究。日本医科大学基礎科学紀要 1996(4)；20。
- 2) 杉浦京子：心の健康について：青年期のメンタルヘルス。学生相談室報告書, 日本医科大学学生相談室 1996；1：17-19。
- 3) 杉浦京子, 小川邦治<sup>1)</sup> (1)早稲田大学)：不登校児の親の会における自主コラージュ制作とその意義：コラージュ作品からみた母親の変化。日本医科大学基礎科学紀要 1996(10)；21。
- 4) 杉浦京子：3種類の電話相談における臨床心理士の関わり方の違い。心理臨床事例集第4号, 日本教育臨床学会 1997(3)。

### 著書

- 1) 杉浦京子：〔分担〕「共にある」ことを目指して。こころの散歩 1996(4)；pp238-245, エージー出版。
- 2) 杉浦京子：〔分担〕こどもの心の発達とカウンセリング①。解脱 1996(5)；pp26-29, 解脱会出版部。
- 3) 杉浦京子：〔分担〕こどもの心の発達とカウンセリング②。解脱 1996(6)；pp26-29, 解脱会出版部。
- 4) 杉浦京子：〔分担〕「I and You」と「I and It」。向上 1996(7)；pp19-23, 財団法人修養団。
- 5) 杉浦京子：〔分担〕心の傷はどう癒されるか。児童心理 1997(1)；pp49-54, 金子書房。

### 学会発表

(1) シンポジウム：

- 1) 入江 茂<sup>1)</sup>, 中村勝治<sup>2)</sup>, 近喰ふじ子<sup>3)</sup>, 服部令子<sup>4)</sup>, 岡田 敦<sup>5)</sup>, 高江洲義英<sup>6)</sup>, 西村洲衛男<sup>7)</sup>, 杉浦京子, 森谷寛之<sup>8)</sup> (1)入江クリニック, 2)中村心理カウンセリング, 3)佼成病院, 4)国立精神神経センター・精神保健研究所, 5)共和病院, 6)いずみ病院, 7)愛知教育大学, 8)鳴門教育大学)：コラージュ療法の展開 その3。日本心理臨床学会, 1996. 9。

(2) セミナー：

- 1) 杉浦京子：コラージュ療法Ⅰ。3rd International Seminar and Workshop for Art Therapy, The Korean Art Therapy Association, 1996. 11。
- 2) 杉浦京子：コラージュ療法Ⅱ。3rd International Seminar and Workshop for Art Therapy, The Korean Art Therapy Association, 1996.11。

(3) ワークショップ：

- 1) 杉浦京子：コラージュ療法：犯罪非行臨床への適用。日本犯罪学会, 1996. 10。

(4) ポスターセッション：

- 1) 杉浦京子：不登校児の親の会における自主コラージュ制作とその効用。日本心理臨床学会, 1996. 9。

## [歴史学]

### 研究概要

本年度には、大きく二点が目立つ。第一点は、『鎌倉史跡事典』が刊行されたことである。中学生だった頃から鎌倉

は歩き始めていたが、その後、さまざまに調査と研究を重ね、約二年間にわたって執筆した結果が、かなりの大部のものとなって、世に問うことができたのである。いささか私事にわたるが感激である。

本年度で目立つ第二点は、これも私事にわたるが、25年前に始めた毎年春秋2回の鎌倉歴史散歩の会が、ついに50回目を迎えたことである。約200名の方々が参加されてくれたのも、望外の幸せであった。

研究、教育のほか、社会啓蒙も大学人の責務であるとの気持ちから、朝日カルチャー新宿校、同横浜校、東急カルチャーなどのほか、江東区、大田区などでも講演を行ってきた。

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著：

- 1) 奥富敬之：鎌倉史跡事典の余波。経済往来 1996；48巻4号：22-23.
- 2) 奥富敬之：源氏誕生。歴史読本 1996；41巻9号：95-145.
- 3) 奥富敬之：畠山庄司重忠：源平合戦の大力無双と清廉。歴史と旅 1996；23巻9号：68-73.
- 4) 奥富敬之：源平合戦の主役。別冊歴史読本 1996；21巻24号：34-40.
- 5) 奥富敬之：清和源氏出自の謎。歴史と旅 1996；23巻11号：160-163.
- 6) 奥富敬之：源 実朝/畠山重忠。別冊歴史読本 1996；21巻49号：196-197, 200-201.
- 7) 奥富敬之：百二十五代の天皇と皇后。歴史と旅 1997；24巻5号：262-416. の中に10項目

### 著書

- 1) 奥富敬之：鎌倉史跡事典。1997；新人物往来社。

### 学会発表

#### (1) 一般講演：

- 1) 奥富敬之：原始巫医の世界的普遍性の考察。第97回日本医史学会総会および学術大会，1996。6。

## [文化人類学]

### 研究概要

人間の行動原理と文化・文明の変容原理との関連性、ならびに人間の行動原理と現代における大きな社会的諸問題との関連性について究明している。また、これら社会的諸問題の根本的な解決法についても模索している。今年度は、理想としての社会の指針について究明した。

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著：

- 1) 伊藤末博：理想としての社会の指針。日本医科大学基礎科学紀要 1996；21：25-36.

## [経済学]

### 研究概要

経済理論および日本経済・世界経済の現状把握のための研究会を組織し、研究を進めてきた。経済理論におけるテーマは商業資本論で、最近の商業資本をめぐる研究の整理を進めており、近く論文としてまとめる予定である。日本経

済に関してはこれまで通り「日本の経済システム」を、また世界経済では「環太平洋アジア地域の経済発展」をテーマとし、後者については「東アジアの外国投資誘致政策と将来展望について」まとめた。

また、21世紀の教育と産業を考える研究会の事務局を担当し、以下のテーマの調査研究を進めてきた。

(1) 電子情報技術の発達が生産事業に与える影響について(実験が広く進められるようになってきた電子マネーを中心に、電子情報技術の発達が金融システムにどのような影響を与えるかを含めて)

(2) ヘルスケアを担う人材の育成と確保に関する調査研究。

さらに、成熟社会化が進む中で大学院の新しい役割について研究を進めており、その一部として寄付講座(冠講座)などを利用した、教育における産学連携のあり方について調査を進めている所である。

## 研究業績

### 論文

(1) 研究報告書：

- 1) 三浦宏一<sup>1)</sup>, 三輪春樹, 小林秀徳<sup>2)</sup> (1)東海大学, 2)中央大学)：マルチメディア社会におけるベンチャー企業の在り方に関する調査研究。産業研究所・政策科学研究所, 1996.
- 2) 三浦宏一<sup>1)</sup>, 三輪春樹, 永島暢太郎<sup>1)</sup> (1)東海大学)：新たな企業システムの創造とマルチメディアに関する調査研究。産業研究所・政策科学研究所, 1997.
- 3) 三浦宏一<sup>1)</sup>, 大橋 純<sup>3)</sup>, 三輪春樹, 小澤純理<sup>2)</sup>, 田口 徹<sup>2)</sup>, 岡田 守<sup>2)</sup>, 古館精治<sup>2)</sup>, 後藤恒久<sup>2)</sup>, 刀川 眞<sup>2)</sup>, 大城守雄<sup>2)</sup> (1)東海大学, 2)N T Tデータ通信)：マルチメディアと新産業：政策科学研究所・マルチメディアと新産業研究会, 1996.
- 4) 三浦宏一<sup>1)</sup>, 三輪春樹, 鈴木邦彦<sup>2)</sup>, 霧生 廣<sup>2)</sup>, 岩田恵一<sup>2)</sup>, 吉田倫夫<sup>2)</sup>, 小栗裕治<sup>2)</sup>, 柴野 淳<sup>2)</sup>, 大杉 圭<sup>2)</sup> (1)東海大学, 2)政策科学研究所)：ヘルスケアを担う人材の育成と確保に関する調査研究報告書(財団法人 長寿社会開発センター委託事業)：21世紀の教育と産業を考える研究会健康福祉分科会, 1997.
- 5) 三浦宏一<sup>1)</sup>, 三輪春樹, 吉田倫夫<sup>2)</sup> (1)東海大学, 2)住鋳防蝕)：科学技術の国際交流に関する調査研究報告書：21世紀の教育と産業を考える研究会, 1996.
- 6) 山田勝久<sup>1)</sup>, 植田和弘<sup>2)</sup>, 榎 彰<sup>3)</sup>, 大橋皓介<sup>4)</sup>, 三輪春樹, 三浦宏一<sup>3)</sup> (1)アジア経済研究所, 2)京都大学, 3)東海大学, 4)電通総研)：東アジアの外国投資誘致政策と将来展望に関する調査研究：産業研究所・新構想研究会, 1997.

## 2. 自然科学

### [数 学]

#### 研究概要

三宅：クラスター分析, 数量化第Ⅲ類, 重回帰分析, 分散共分散分析等を中心とした多変量解析の統計分析手法が, 社会学の研究にどの様に適用されているかを調査したい。多次元基準正規分布の直交変換に関する不変性と, 正射影行列によるベクトル空間の互いに直行する部分空間への分割とを, 理論的な基盤として推測統計学を論述する統計書を作成したい。

儀我：divergence form の偏微分作用素と analytic semigroup の関係について調べた。

渡辺：フラクタル上の漸近1次元拡散の分析を完成した。Wilson fermion から chiral anomaly を厳密に導く試みに着手した。場の量子論の数学的構成に関して数学者向けに集中講義した。

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著：

- 1) Giga, M.: The Extension of Solutions of Parabolic Differential Equations with Dirichlet Boundary Condition. 日本医科大学基礎科学紀要 1996; No. 21, 1-5.

### 著書

- 1) 三宅章彦：基礎数学シリーズ7，統計学。1997 培風館。

### 学会発表

#### (1) シンポジウム：

- 1) 須田 宏<sup>1)</sup>，三宅章彦，儀我真理子，飯田博和，稲井田次郎<sup>2)</sup>，津田 栄<sup>3)</sup>，箭内顕彦<sup>4)</sup>，箭内美智子<sup>5)</sup>，奥田良治<sup>6)</sup>，山下 元<sup>6)</sup>(<sup>1)</sup>慶應義塾大学，<sup>2)</sup>日本大学，<sup>3)</sup>国学院高校，<sup>4)</sup>早稲田実業高校，<sup>5)</sup>淑徳高校，<sup>6)</sup>早稲田大学)：ファジィ理論の大学基礎教育への導入。日本ファジィ学会，第12回ファジィシステムシンポジウム，1996. 6.
- 2) 三宅章彦，飯田博和：シヨケ積分の加法性。日本ファジィ学会，第12回ファジィシステムシンポジウム，1996. 6.
- 3) 三宅章彦，飯田博和：パソコンを使った統計教育。第10回日本計算機統計学会シンポジウム，1996. 11.

#### (2) セミナー：

- 1) 儀我真理子：The differential operator of divergence form in Lipschitz domain. 解析学セミナー，お茶の水女子大学，1996. 11.
- 2) 渡辺 浩：Chiral anomaly の格子構成における数学的問題。佐賀大学数学教室談話会，1997. 2.

#### (3) 一般講演：

- 1) 三宅章彦，飯田博和，須田 宏<sup>1)</sup>，山下 元<sup>2)</sup>，有田清三郎<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>慶應義塾大学，<sup>2)</sup>早稲田大学，<sup>3)</sup>関西医科大学)：医学生に対するファジィ特別講義。バイオメディカルファジィシステム学会，第9回年次大会，1996. 11.

#### (4) 集中講義：

- 1) 渡辺 浩：場の量子論の数学的構成。佐賀大学数学教室，1996. 2.

## [物理学]

### 研究概要

1) 筋肉蛋白質間の力の性質を研究するための分子間力測定装置を開発する前段階として、マイクロニュートン精度の分子間力測定装置を製作した。また、半経験的分子軌道法を用いて ATP の最適化構造が pH によってどう変わるかを調べた。このための多量の計算をするにあたり、LAN などを経由して複数台の Windows 95 パソコンを遠隔で使用する簡易な方法を開発した。〔香川〕

2) 1. C-フィコシアニン発色団の光吸収特性に関して理論的に解析を行い、発色団はタンパク質中で、近くに存在するアスパラギン酸側鎖の影響によってプロトン化していることを予言した。2. フィコビリソームを作るタンパク質会合体の構造が3回の対称性を持つ理由に関し、機能的な必然性に起因しているはずである、という立場から理論的な考察を行っている。3. バクテリオロドプシンにおけるプロトンポンプの分子的メカニズムの考察を始めた。〔菊地〕

3) 前年度に続いて、量子カオスの統計性と安定性、および生体系のカオス、特に神経系のカオスについて検討している。準古典近似での量子標準マップで、ランダムノイズを印加すると、状態転移が生じることを見出し、新しい現象として学会に発表し、雑誌に投稿し、更に準備中である。〔須田〕

4) 有効的なクォークの質量の一つの案として提案された“Outward Quark Mass”の考えを応用して、10次元重粒子の磁気能率を計算した。実験では、まだ、 $\Omega^-$ 粒子と $\Delta$ 粒子の磁気能率が測定されている段階ではあるが、それらの値とかなり良く一致している。また、重いクォークと反クォークから構成される中間子（チャーモニウムとボトモニウム）の質量と軽粒子崩壊を、我々が以前に発表したポテンシャルモデルに基づいて計算した。〔三浦〕

## 研究業績

### 論文

(1) 原著：

- 1) Miura K : Magnetic Moments of  $\Omega^-$  and Other Baryon Octet. Nuovo Cimento 1996 ; 109A : 559-567.
- 2) Itoh C<sup>1)</sup>, Minamikawa T<sup>2)</sup>, Miura K, Watanabe T<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup> Meiji-Gakuin Univ, <sup>2)</sup> Tokyo Univ. of Mercantile Marine, <sup>3)</sup> Asia Univ.) : Heavy Quarkonium Spectroscopy and Leptonic Decay Widths. Nuovo Cimento 1996 ; 109A : 569-574.
- 3) Suda N : Stability and stochasticity of quantum chaos. BUSSEI KENKYU 1996 ; 66 : 466-467.
- 4) 香川 浩, 永井喜則<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 国士舘大・情報科学センター) : マイクロニュートン精度の分子間力測定装置. 日医大基礎科学紀要 1996 ; 21 : 37-44.
- 5) 香川 浩, 柴村英道<sup>1)</sup>, 市村 純<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 埼玉衛生短大・物理, <sup>2)</sup> 国士舘大・情報科学センター : Windows 95環境における簡易な遠隔実行法. 国士舘大情報科学センター紀要, 1997 ; 18 : 48-54.

### 学会発表

(1) 一般講演：

- 1) Wako H<sup>1)</sup>, Kikuchi H ( <sup>1)</sup> Waseda Univ ) : Rigid domain in static and dynamic structures of proteins. XII th. International Biophysics Congress, 1996. 8.
- 2) 香川 浩, 永井喜則<sup>1)</sup>, 森 和英<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup> 国士舘大・情報科学センター) : pH 変化による ATP の構造変化. 第34回日本生物物理学会年会, 1996. 11.
- 3) 菊地浩人, 杉本 徹<sup>1)</sup>, 三室 守<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 関東学院大, <sup>2)</sup> 基生研) : C-フィコシアニン発色団の光吸収特性に対する理論的解析. 第4回「光合成細菌の色素系と反応中心に関するセミナーIII」, 1996. 6.
- 4) 菊地浩人, 杉本 徹<sup>1)</sup>, 三室 守<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 関東学院大, <sup>2)</sup> 基生研) : C-フィコシアニン発色団の光吸収特性に関する理論的解析. 日本生物物理学会第34回年会, 1996. 11.
- 5) 菊地浩人, 杉本 徹<sup>1)</sup>, 三室 守<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 関東学院大, <sup>2)</sup> 基生研) : C-フィコシアニン発色団の光吸収特性に関する理論的解析. 第3回日本光生物学協会講演会, 1996. 12.
- 6) 菊地浩人, 小田井圭<sup>1)</sup>, 鈴木英雄<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 湘北短大, <sup>2)</sup> 早大) : バクテリオロドプシンにおける発色団・アミノ酸残基の相互作用に関する理論的研究. 第3回日本光生物学協会講演会, 1996. 12.
- 7) 小田井圭<sup>1)</sup>, 菊地浩人, 小野秀樹<sup>2)</sup>, 鈴木英雄<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup> 湘北短大, <sup>2)</sup> 早大) : バクテリオロドプシンにおける発色団とアミノ酸残基との相互作用. 日本物理学会第52回年会, 1997. 3.
- 8) 須田信弘 : 量子カオスにおけるノイズの影響II. 日本物理学会1996年秋の分科会, 1996. 9.
- 9) 須田信弘 : 量子カオスにおけるノイズの影響III. 日本物理学会第52回年会, 1997. 3.

## [化 学]

### 研究概要

石田：シリカゲル TLC に関する研究

- (1) ジルコニウム (IV), ハフニウム (IV) 及び他の金属の三成分分離.



(2) 塩類-有機溶媒-水系における希土類元素の吸着挙動と隣接元素の多成分分離。

(3) 希土類元素の吸着機構の解明。

田中：(1) 質量分析計を用いた研究：金属錯体，生体内微量物質の同定及び定量，中毒原因物質の同定等。

(2) 原子炉を用いた研究：中性子放射化分析による生体内微量金属の同定及び定量。

菅原：アルカリ金属-ナフタレン錯体を用いたテルペン系化合物の合成及び，不飽和酸とジクロロカルベンとの反応によるジクロロシクロプロパンカンルボン酸の合成。

永井：アミノ酸と塩基 (2,2'-ピリジン，1,10-フェナントロリンなど) を配位子とするルテニウム三元錯体の研究。

(1) 錯体の合成

(2) 高速液体クロマトグラフィーによる錯体異性体の分離及びその機構。

(3) 錯体の溶液化学，錯体構造と溶媒和の関係。

(4) 錯体の熱及び光化学反応。

武田：CM セルロース TLC 及びゼオライト TLC に関する研究。

(1) 塩類水溶液系-有機溶媒混合系における希土類元素の陽イオン交換吸着挙動。

(2) 吸着挙動に及ぼす諸因子の検討。

(3) イットリウムの特異的分離とその機構の解明。

## 研究業績

### 論文

(1) 原著：

- 1) Srisukho S<sup>1)</sup>, Prathnadi P<sup>1)</sup>, Suprasert S<sup>1)</sup>, Pausawasdi A<sup>2)</sup>, Naito E<sup>3)</sup>, Tasaki T<sup>3)</sup>, Miki M<sup>4)</sup>, Tanaka M<sup>1)</sup> (Chiang-Mai Univ, <sup>2)</sup>Mahidol Univ, <sup>3)</sup>第二病院消化器病センター, <sup>4)</sup>同外科) : Mercury Content in the Gallstones and Bile of Thai People (Chiang-Mai and Bangkok) and Japanese. J Med Assoc Thai 1996 ; 79(5) : 299-308.

### 著書

- 1) 石田宏二：〔共著〕基礎分析化学，“3. 重量分析”，1967；pp61-73，朝倉書店。  
2) 石田宏二：〔共著〕基礎分析化学，“6. クロマトグラフィー”，1967；pp103-135，朝倉書店。

### 学会発表

(1) 一般講演：

- 1) 三木瑛一<sup>1)</sup>，長田祥子<sup>1)</sup>，富沢比呂之<sup>1)</sup>，永井 俊，田中幹夫<sup>(<sup>1)</sup>立教大理)</sup>：8-キノリノラトおよび2-メチル-8-キノリノラト配位子を含むニトロシルルテニウム (II) 錯体の幾何異性体。第46回錯体化学討論会，1996. 10。  
2) 田中幹夫，永井 俊，三木瑛一<sup>1)</sup>，石森達二郎<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>立教大理)：LSIMS スペクトル上で観察されたグリセロールと [Ru (CN)<sub>2</sub> (bpy)<sub>2</sub>] 間の強い水素結合。第46回錯体化学討論会，1996. 10。

## [生物学]

### 研究概要

1) 多年生草本の繁殖戦略の研究を行っている。多くの多年草は種子繁殖と栄養繁殖の両方を行う。種子は栄養繁殖体より小さい場合が多く，生存率や成長速度の点で劣っている。反面，分散力に優れ，親と遺伝的に異なるという特徴も備えている。このように生態学的にも遺伝的にも異なる二つのタイプの繁殖子をどのような割合で生産するのが

植物にとって最適なのか、推移行列を用いたシミュレーションで検討している。(西谷)

2) 光合成生物のクロロフィルの中心金属としてはマグネシウムのみが知られていたが、好酸性好気性光合成細菌 *Acidiphilium* から、亜鉛を中心金属として光合成活性をもつクロロフィルを発見した。その化学構造、光合成における機能、存在意義などを研究している(国内共同研究)。(高市)

3) カロテノイド色素の化学構造、物理化学的性質、生理的機能などを研究している(国際、国内共同研究)。①種々の生物から得たカロテノイド生合成遺伝子を大腸菌内で発現させる代謝工学的手法により、新規カロテノイドなどを合成させることができた。②緑色光合成細菌 *Chlorobium tepidum* における光捕集構造体や色素蛋白複合体におけるカロテノイドの配置、機能を検討している。③絶対嫌気性光合成細菌 *heliobacteria* は、通常見られる炭素数40ではなく30のカロテノイドをもつことを発見した。④フェムト秒領域でのカロテノイドの励起エネルギー転移を調べている。(高市)

4) 棘皮動物のウニ類、ナマコ類およびヒトデ類における体腔細胞の種類、形態についての比較を行った。ウニ類では、これまでの報告のように phagocyte, vibratile cell, red molura cell, white molura cell の4種を確認したが、ナマコ類、ヒトデ類では phagocyte 以外の3種は確認できなかった。ウニ類の4種の体腔細胞の培養法、それらの生理的役割などについて今後検討していく。(関)

5) 細菌自体が生産する自己の増殖を抑制する因子の分離同定を行うため、サルモネラ菌を用いて野生株の定常期を超えて増殖する変異株の分離を試み、数株を得た。これらが突然変異によるものであることを確認した上で、抑制因子の分離同定と、関与する遺伝子の分析を行う。(石津)

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著:

- 1) Wakao N<sup>1)</sup>, Yokoi N<sup>1)</sup>, Isoyama N<sup>1)</sup>, Hiraishi A<sup>2)</sup>, Shimada K<sup>3)</sup>, Kobayashi M<sup>4)</sup>, Kise H<sup>4)</sup>, Iwaki M<sup>5)</sup>, Itoh S<sup>5)</sup>, Takaichi S, Sakurai Y<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>Iwate Univ, <sup>2)</sup>Konishi Co, <sup>3)</sup>Tokyo Metropolitan Univ, <sup>4)</sup>Univ Tsukuba, <sup>5)</sup>Natl Inst Basic Biol) : Discovery of natural photosynthesis using Zn-containing bacteriochlorophyll in an aerobic bacterium *Acidiphilium rubrum*. Plant Cell Physiol 1996 ; 37 : 889-893.
- 2) Akimoto S<sup>1)</sup>, Takaichi S, Ogata T<sup>2)</sup>, Nishimura Y<sup>1)</sup>, Yamazaki I<sup>1)</sup>, Mimuro M<sup>3)</sup> (<sup>1)</sup>Hokkaido Univ, <sup>2)</sup>Kitasato Univ, <sup>3)</sup>Natl Inst Basic Biol) : Excitation energy transfer in carotenoid-chlorophyll-protein complexes probed by femtosecond fluorescence decays. Chem Phys Lett 1996 ; 260 : 147-152.
- 3) Takaichi S, Sandmann G<sup>1)</sup>, Schnurr G<sup>2)</sup>, Satomi Y<sup>3)</sup>, Suzuki A<sup>3)</sup>, Misawa N<sup>3)</sup> (<sup>1)</sup>J W Goethe-Univ, <sup>2)</sup>Univ Konstanz, <sup>3)</sup>Kirin Brewery Co Ltd) : The carotenoid 7,8-dihydro- $\psi$ -end group can be cyclized by the lycopene cyclases from the bacterium *Erwinia uredovora* and the higher plant *Capsicum annuum*. Eur J Biochem 1996 ; 241 : 291-296.
- 4) Mimuro M<sup>1)</sup>, Akimoto S<sup>2)</sup>, Takaichi S, Yamazaki I<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>Natl Inst Basic Biol, <sup>2)</sup>Hokkaido Univ) : Effect of molecular structures and solvents on the excited state dynamics of the S<sub>2</sub> state of carotenoids analyzed by the femtosecond up-conversion method. J Am Chem Soc 1997 ; 119 : 1452-1453.

### 学会発表

#### (1) 一般講演:

- 1) Takaichi S, Sandmann G<sup>1)</sup>, Misawa N<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>J W Goethe-Univ, <sup>2)</sup>Kirin Brewery Co Ltd) : 7,8-Dihydro- $\psi$ -end group of the carotenoid can be cyclized by the lycopene cyclases from both the bacterium *Erwinia uredovora* and the higher plant *Capsicum annuum*. 11th International Symposium on Carotenoids (Leiden), 1996, 8.

- 2) Takaichi S, Tamura Y<sup>1)</sup>, Azegami K, Yamamoto Y<sup>1)</sup>, Ishitsu J ( <sup>1)</sup>Meiji Univ) : New carotenoid derivatives, carotenoid glucoside mycolic acid esters, from the nocardioform actinomycetes, *Rhodococcus rhodochrous*. 11th International Symposium on Carotenoids (Leiden), 1996. 8.
- 3) Alia<sup>1)</sup>, Kato A<sup>1)</sup>, Takaichi S, Chen THH<sup>2)</sup>, Murata N<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Natl Inst Basic Biol, <sup>2)</sup>Oregon State Univ) : Isolation of *Chlamydomonas* mutant impaired at the intervening step in abscisic acid biosynthesis. 日本植物生理学会1997年度年会および第37回シンポジウム, 1997. 3.
- 4) 高市真一, 王 征宇<sup>1)</sup>, 今村行雄<sup>1)</sup>, 野澤庸則<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>東北大工) : *Chlorobium tepidum* の新規カロテノイドの構造. 光合成細菌の色素系と反応中心に関するセミナー, 1996. 6.
- 5) 松浦克美<sup>1)</sup>, Frigaard N-U<sup>1),2)</sup>, 広田雅光<sup>1)</sup>, 高市真一, 嶋田敬三<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>都立大理, <sup>2)</sup>Odense Univ) : クロロソームにおける酸素分子によるエネルギー移動調節とキノンの役割. 光合成細菌の色素系と反応中心に関するセミナー, 1996. 6.
- 6) 高市真一, 王 征宇<sup>1)</sup>, 今村行雄<sup>1)</sup>, 野澤庸則<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>東北大工) : 緑色硫黄光合成細菌 *Chlorobium tepidum* の新規カロテノイドの構造, 色素組成と分布. 日本植物学会第60回大会, 1996. 10.
- 7) 若尾紀夫<sup>1)</sup>, 平石 明<sup>2)</sup>, 嶋田敬三<sup>3)</sup>, 松浦克美<sup>3)</sup>, 小林正美<sup>4)</sup>, 高市真一, 岩城雅代<sup>5)</sup>, 伊藤 繁<sup>5)</sup> ( <sup>1)</sup>岩手大農, <sup>2)</sup>コニシ環境工学研, <sup>3)</sup>都立大理, <sup>4)</sup>筑波大物質工, <sup>5)</sup>基生研) : *Acidiphilium rubrum* の新しい光合成: Zn を使う光合成系の発見. 日本植物学会第60回大会, 1996. 10.
- 8) 若尾紀夫<sup>1)</sup>, 秋山満知子<sup>2)</sup>, 平石 明<sup>3)</sup>, 高市真一, 嶋田敬三<sup>4)</sup>, 渡辺 正<sup>5)</sup>, 岩城雅代<sup>6)</sup>, 伊藤 繁<sup>6)</sup>, 木瀬秀夫<sup>2)</sup>, 小林正美<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>岩手大農, <sup>2)</sup>筑波大物質工, <sup>3)</sup>コニシ環境工学研, <sup>4)</sup>都立大理, <sup>5)</sup>東京大生技研, <sup>6)</sup>基生研) : 天然で機能する Zn クロロフィルの発見. 日本化学会秋季年会, 1996. 10.
- 9) 高市真一, 王 征宇<sup>1)</sup>, 野澤庸則<sup>1)</sup>, 井上和仁<sup>2)</sup>, 小林正美<sup>3)</sup>, 大岡宏造<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup>東北大工, <sup>2)</sup>神奈川大理, <sup>3)</sup>筑波大物質工, <sup>4)</sup>大阪大理) : 新しい光合成細菌の新しいカロテノイドの構造. 第10回カロテノイド研究談話会, 1996. 10.
- 10) 高市真一, Sandmann G<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>J W Goethe-Univ) : 代謝工学的手法による新規カロテノイドの生成. 第10回カロテノイド研究談話会, 1996. 10.
- 11) 秋本誠志<sup>1)</sup>, 緒方武比古<sup>2)</sup>, 高市真一, 西村賢宣<sup>1)</sup>, 山崎 巖<sup>1)</sup>, 三室 守<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup>北海道大工, <sup>2)</sup>北里大水産, <sup>3)</sup>基生研) : カロテノイドからクロロフィル *a* へのエネルギー転移過程. 日本生物物理学会第34回年会, 1996. 11.
- 12) Frigaard N-U<sup>1)</sup>, 高市真一, 広田雅光<sup>2)</sup>, 嶋田敬三<sup>2)</sup>, 松浦克美<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>Odense Univ, <sup>2)</sup>都立大理) : 緑色光合成細菌クロロソーム中のキノンとエネルギー移動調節. 日本生物物理学会第34回年会, 1996. 11.
- 13) 伊藤 繁<sup>1)</sup>, 岩城雅代<sup>1)</sup>, 平石 明<sup>2)</sup>, 嶋田敬三<sup>3)</sup>, 小林正美<sup>4)</sup>, 高市真一, 若尾紀夫<sup>5)</sup> ( <sup>1)</sup>基生研, <sup>2)</sup>豊橋技科大エコロジー工, <sup>3)</sup>都立大理, <sup>4)</sup>筑波大物質工, <sup>5)</sup>岩手大農) : Zn-バクテリオクロロフィルを使う光合成生物の発見: 1. 光合成反応. 第3回日本光生物学協会講演会, 1996. 11.
- 14) 嶋田敬三<sup>1)</sup>, 永島賢治<sup>1)</sup>, 松浦克美<sup>1)</sup>, 伊藤 繁<sup>2)</sup>, 岩城雅代<sup>2)</sup>, 平石 明<sup>3)</sup>, 高市真一, 小林正美<sup>4)</sup>, 若尾紀夫<sup>5)</sup> ( <sup>1)</sup>都立大理, <sup>2)</sup>基生研, <sup>3)</sup>豊橋技科大エコロジー工, <sup>4)</sup>筑波大物質工, <sup>5)</sup>岩手大農) : Zn-バクテリオクロロフィルを使う光合成生物の発見: 2. 色素タンパクの性質. 第3回日本光生物学協会講演会, 1996. 11.
- 15) 若尾紀夫<sup>1)</sup>, 磯山尚人<sup>1)</sup>, 平石 明<sup>2)</sup>, 小林正美<sup>3)</sup>, 高市真一, 嶋田敬三<sup>4)</sup>, 岩城雅代<sup>5)</sup>, 伊藤 繁<sup>5)</sup> ( <sup>1)</sup>岩手大農, <sup>2)</sup>コニシ環境バイオ研, <sup>3)</sup>筑波大物質工, <sup>4)</sup>都立大理, <sup>5)</sup>基生研) : 天然における亜鉛含有バクテリオクロロフィルの存在: その発見および分布. 第12回日本微生物生態学会, 1996. 11.
- 16) 平石 明<sup>1)</sup>, 若尾紀夫<sup>2)</sup>, 小林正美<sup>3)</sup>, 高市真一, 嶋田敬三<sup>4)</sup>, 岩城雅代<sup>5)</sup>, 伊藤 繁<sup>5)</sup> ( <sup>1)</sup>コニシ環境バイオ研, <sup>2)</sup>岩手大農, <sup>3)</sup>筑波大物質工, <sup>4)</sup>都立大理, <sup>5)</sup>基生研) : 天然における亜鉛含有バクテリオクロロフィルの存在: 構造, 機能, および生態的意味. 第12回日本微生物生態学会, 1996. 11.
- 17) 高市真一, 井上和仁<sup>1)</sup>, 赤池光博<sup>1)</sup>, 小林正美<sup>2)</sup>, 大岡宏造<sup>3)</sup>, Madigan M T<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup>神奈川大理, <sup>2)</sup>筑波大物質工, <sup>3)</sup>大阪大理, <sup>4)</sup>Southern Illinois Univ) : 光合成細菌ヘリオバクテリアのカロテノイドの再同定: 4,4'-Diaponeurosporene. 日本植物生理学会1997年度年会および第37回シンポジウム, 1997. 3.

- 18) 長谷川実加<sup>1)</sup>, 高市真一, 桑原朋彦<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>筑波大バイオシステム, <sup>2)</sup>筑波大生物): 光化学系II膜を用いたピオラキサンチンデエポキシダーゼの反応系と Tween 20の効果. 日本植物生理学会1997年度年会および第37回シンポジウム, 1997. 3.
- 19) 岩城雅代<sup>1)</sup>, 伊藤 繁<sup>1)</sup>, 平石 明<sup>2)</sup>, 嶋田敬三<sup>3)</sup>, 小林正美<sup>4)</sup>, 高市真一, 若尾紀夫<sup>5)</sup> (<sup>1)</sup>基生研, <sup>2)</sup>豊橋技科大エコロジー工, <sup>3)</sup>都立大理, <sup>4)</sup>筑波大物質工, <sup>5)</sup>岩手大農): Zn-バクテリオクロロフィルをもつ細菌 *Acidiphilium rubrum* の光合成反応. 日本植物生理学会1997年度年会および第37回シンポジウム, 1997. 3.
- 20) 嶋田敬三<sup>1)</sup>, 松浦克美<sup>1)</sup>, 伊藤 繁<sup>2)</sup>, 岩城雅代<sup>2)</sup>, 平石 明<sup>3)</sup>, 高市真一, 小林正美<sup>4)</sup>, 若尾紀夫<sup>5)</sup> (<sup>1)</sup>都立大理, <sup>2)</sup>基生研, <sup>3)</sup>豊橋技科大エコロジー工, <sup>4)</sup>筑波大物質工, <sup>5)</sup>岩手大農): Zn-バクテリオクロロフィルを使う細菌の光合成色素タンパク. 日本植物生理学会1997年度年会および第37回シンポジウム, 1997. 3.
- 21) 小林正美<sup>1)</sup>, 秋山満知子<sup>1)</sup>, 高市真一, 平石 明<sup>2)</sup>, 嶋田敬三<sup>3)</sup>, 渡辺 正<sup>4)</sup>, 石田信昭<sup>5)</sup>, 小泉美香<sup>6)</sup>, 狩野広美<sup>6)</sup>, 岩城雅代<sup>7)</sup>, 伊藤 繁<sup>7)</sup>, 木瀬秀夫<sup>1)</sup>, 若尾紀夫<sup>8)</sup> (<sup>1)</sup>筑波大物質工, <sup>2)</sup>豊橋技科大エコロジー工, <sup>3)</sup>都立大理, <sup>4)</sup>東京大生技研, <sup>5)</sup>食品総研, <sup>6)</sup>農業生物資源研, <sup>7)</sup>基生研, <sup>8)</sup>岩手大農): Zn 型クロロフィルで機能する光合成系の発見. 日本化学会春季年会, 1997. 3.
- 22) 小林正美<sup>1)</sup>, 山村麻由<sup>1)</sup>, 秋山満知子<sup>1)</sup>, 若尾紀夫<sup>2)</sup>, 高市真一, 渡辺 正<sup>3)</sup>, 木瀬秀夫<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>筑波大物質工, <sup>2)</sup>岩手大農, <sup>3)</sup>東京大生技研): Zn- および Mg-バクテリオクロロフィルの酸に対する耐性の比較. 日本化学会春季年会, 1997. 3.
- 23) 秋山誠志<sup>1)</sup>, 山崎 巖<sup>1)</sup>, 高市真一, 三室 守<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>北海道大工, <sup>2)</sup>基生研): カロテノイドの S<sub>2</sub> 蛍光寿命に対する構造効果・溶媒効果: フェトム秒蛍光アップコンバージョン法による測定. 日本化学会春季年会, 1997. 3.
- 24) 西谷里美: ヤブレガサの繁殖生態: ジェネットの動態のシミュレーション. 第44回日本生態学会, 1997. 3.

### 3. 外国語

#### [英語]

##### 研究概要

The English B and D components of our programme were designed with the importance of communicative competence in English for medical researchers in mind. In an attempt to cater to the future needs of our students, we offered listening and speaking practice focusing on medical subjects as an elective course in English D for the first time.

Reading and writing skills are clearly of no less importance to medical researchers, and these were developed in the English A and C courses. A one-term course in paragraph writing was taught as part of English A, and extensive essay-writing practice was given in the English C programme.

The growing number of English-language contributions to the NMS Journal reflects the ever increasing importance of English in international medical research; the English Department continued to cooperate in reviewing these papers.

The Department was also involved in the rewriting of a Ministry of Education-approved writing textbook for senior high school students to be published next year.

Literary research was carried out into the reception of Chaucer's *Canterbury Tales* in the eighteenth century, and on sixteenth-century English dramas.

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著：

- 1) Nakamura T : “Theory and Practice of Chaucerian Modernisations in Eighteenth-Century Britain with Particular Reference to George Ogle’s Clerk’s Tale.” *The Medieval Translator : Traduire au Moyen Age*. Ed. Roger Ellis and René Tixier. Vol. 5. 1996 ; pp. 322-336, Brepols, Turnhout.
- 2) 中村哲子：イギリスにおけるインターロードの登場とその展開。日本医科大学基礎科学紀要, 1996 ; 20 : 1-23.
- 3) Minton TD : コミュニケーションのための英文法講座。April 1996-March 1997, 時事英語研究, 第51巻, 第1号～第12号.

### 著書

- 1) Nakamura T : [分担編集] *Annual Bibliography of English Language and Literature for 1994*. Gen. ed. Gerard Lowe. 1996 ; 69 : Modern Humanities Research Association, London.
- 2) 山口俊治 : COMPLETE ENGLISH GRAMMAR, NEW EDITION. 1996 ; 桐原書店.
- 3) 山口俊治 : CORE ENGLISH GRAMMAR. 1997 ; 桐原書店.
- 4) 山口俊治 : Training Book for COMPLETE ENGLISH GRAMMAR. 1997 ; 桐原書店.
- 5) 山口俊治 : Training Book for CORE ENGLISH GRAMMAR. 1997 ; 桐原書店.

### 学会発表

#### (1) 招待講演：

- 1) 山口俊治：引きつける英語指導。教師のための英語教育セミナー，研究社出版，現代英語教育，1996. 8.
- 2) 山口俊治：英文法指導と教材開発。桐原英語教育セミナー，桐原英語研修会広島・福岡・沖縄部会，1996.10.

#### (2) その他

- 1) 山口俊治：英語質問なんでも OK (12) - (16)。実況中継，語学春秋社，April 1996 - February 1996.
- 2) 山口俊治，Minton TD : Yamaguchi-Minton’s Compositional Advice. 実況中継，語学春秋社，May 1996 - March 1996.

## [ドイツ語]

### 研究概要

本教室では、従来、学生にドイツ文法を教えるにはどのような方法がより効果的であるかという問題について検討してきている。学生からよく聞かれる「文法をより系統的、かつ能率的に修得する方法はないか」という要求を考慮しつつ、従来の固定化された教育方法に柔軟性を持たせながら、「教えやすく、習いやすい」教材の作成を目指している。

現在、各大学におけるドイツ語の教授方法には、大きく分けて2つのタイプがあると考えられる。一つは「文法・講読分離型」、もう一つは外国語の能力は「話す、聞く、読む、書く」という4つの能力の総合であるという判断から、教授法においてもこれを分離することを否定する「総合型」である。後者のタイプにおいてはドイツ各州の教育センターやゲーテ・インスティトゥートを始め、国内の大学でも次々と新しい試みがなされている。特に数年前からは、発話者の意思や思想、感情などの伝達および交換に重点を置く”Kommunikativer Sprachunterricht”が盛んに研究されるようになってきており、この面での教材も開発され、授業で実際に成果を挙げているところもある。本教室では、「総合型」を加味しつつ「分離型」を採用して、学生の読解および表現能力の養成につとめている。

なお、教室員の個別的活動について言えば、国信はヴィンケルマン研究およびその日本における受容史について、安藤は日独文化交流史研究の一環として、幕末・明治における来日外国人の足跡とその業績について調査・研究、資料蒐集および翻訳を行なっている。横内は初級ドイツ語教育における諸問題について調べている。

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著：

- 1) 国信浩洋，横内一実：〔共訳〕オーストリア・ハンガリー帝国調査報告（1868－1871）：シヤム，清国，および日本に関して，各分野の専門家より：Dr. カール・フォン・シェルツァー（下）．日本医科大学基礎科学紀要，1996；20：59-102.

### 学会発表

#### (1) 一般講演：

- 1) 安藤 勉：慰藉と驚愕の日本景観：明治来日ドイツ人を中心として，1996年度日本独学史学会研究発表会，1996，11.
- 2) 国信浩洋：ペルンハルト・フォン・ヴェラーストルフ男爵．1996年度日本独学史学会研究発表会，1996，11.

## 4. 保健体育

### 〔保健体育〕

#### 研究概要

三上：以下の3項目についての研究を行った。1) 以前より継続していた「持久的運動トレーニングが赤血球の比重と酵素活性に及ぼす影響」について研究成果をまとめた。2) これも以前よりの継続したテーマである「激運動後の持続性高尿酸血症の発症に及ぼすプリンヌクレオチド合成の影響」についてさらに詳細に検討した。その結果，激運動後にはプリンヌクレオチド合成由来の尿酸生成の増加が認められ，このことが激運動後にみられる持続的高尿酸血症の要因の一つであることが明らかとなった。3) 「体内尿酸量の変化が過酸化脂質の生成におよぼす影響」について，筑波大学体育科学系・伊藤 朗教授と文部省科学研究費に関する共同研究を行った。この結果，尿酸代謝阻害剤を投与して体内尿酸量を増加させたラットでは，激運動負荷時の生体内の過酸化脂質量の増加無投与ラットに比べ低下することが明らかとなり，生体内の尿酸量の変化が過酸化脂質の生成と関係していることが明らかとなった。

武藤：高齢者の体力，および幼児から大学生の体格・体力の縦断的推移等について継続して研究している。1) 埼玉県東部農村地域に在住する男女60歳以上の中高年者を対象に，健康と体力に関するアンケート調査と1年間のレセプトを基に，運動・文化活動者，運動活動者，文化活動者，非活動者の4群について，生活習慣と受療状況について検討した。その結果日常活発に行動している運動・文化活動群は体力に自信が高く，受療率が低かった。運動活動群では，体力に自信のある者と全くない者が他の3群に比較して多く，非活動群においては，体力の自信度が低い特徴がみられ，3) 高齢者において運動の必要性が示唆された。2) 本学学生の20年間における入学時の体格・体力テスト結果について報告した。また，過去15年間の本学付属看護学校生徒の体格と体力テスト結果から，現在体力が低下している要因を検討している。

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著：

- 1) 三上俊夫：持久的運動トレーニングが赤血球の比重と酵素活性に及ぼす影響。運動生化学 1997；9：142-145.
- 2) 武藤三千代：本学学生の20年間における入学時の体格と体力テスト結果について。日本医科大学基礎科学紀要 1996；20：51-58.

### 学会発表

#### (1) 一般講演：

- 1) 三上俊夫：持久的運動トレーニングによる赤血球密度分布と赤血球酵素活性の変化。第4回日本運動生理学会，1996. 7.
- 2) 三上俊夫：激運動後の持続的高尿酸血症の発症に対するプリン体 de novo 合成の関与。第64回日本医科大学医学学会総会，1996. 9.
- 3) 三上俊夫，武藤三千代：体内尿酸量の変化が過酸化脂質の生成におよぼす影響について。第51回日本体力医学会大会，1996. 9.
- 4) 武藤三千代，三上俊夫，高橋修和<sup>1)</sup>，酒巻敏夫<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>老研，<sup>2)</sup>鷺宮町保健センター)：高齢者の健康と体力に関する生活習慣と受療状況について。第51回日本体力医学会大会，1996. 9.
- 5) 三上俊夫：持久的運動トレーニングが赤血球の比重と酵素活性に及ぼす影響。第9回運動生化学研究会シンポジウム，1996. 11.
- 6) 三上俊夫：激運動後の持続的高尿酸血症の発症にプリン体 de novo 合成は関与するか否か。第30回日本プリン・ピリミジン代謝学会総会，1997. 3.

## 〔2〕基 礎 医 学



# 1. 解剖学第一講座

## 研究概要

本年度も各種組織の形態と機能について、新しい技法を開発しつつ、研究がすすめられた。

物理的刺激の一つとしての高浸透圧処理によって血管各部の内皮細胞が如何なる応答を示すのかをアクチン細胞骨格動態の面から探った。その結果、内皮細胞はその血管部位によって特異な反応を示すことが分かった。また、独自に開発した伸縮負荷装置を培養内皮細胞に適用し、形成されたストレスファイバーは伸展強度に対応した特定の配列方向を示すという事実を見出したが、これは従来の説を覆すものである。(杉本, 武政, 亀谷ら)

ラット膝関節の滑膜に対する副腎皮質ホルモンの影響を調べた研究では滑膜細胞や、その下の線維層に間隙の拡大化や細胞質の縮小が認められることが分かった。特にF型細胞のr-ERの減少が著しく滑液の分泌が減少していることを示した。(後藤, 村重ら)

マウス横隔膜の筋線維構成の特徴を調べ部位差を明らかにした。胸骨部の線維は肋骨部に比して太くまたミトコンドリアの断面積も大きいことがわかった。また、Type2ではミトコンドリアの様々な形態から筋タイプの移行状態が推察出来ることを示した。(後藤, 佐藤ら)

明暗環境変化とc-fos mRNAの発現に関する研究では、ラット大脳皮質において、暗期に高く、明期に低い日内リズムを示すことを見出し、その発現に日内リズムが関与することを明らかにした。また、CRF Receptor I型のmRNAのラット胎仔における発現については、胎生13日より蝸牛管に発現し、胎生後期においては、胎生18日にはすでに、下垂体、大脳新皮質、海馬、扁桃体、視床下核などに発現が見られることを明らかにした。(今城, 小野寺ら)

肝組織の三次元再構築の研究では、スunksという格好な実験動物を用い、肝小葉区域と肝静脈系の立体配置を明らかにした。これによると肝小葉の中心静脈側は肝静脈の分岐に均等に分布し、樹枝状を呈し、門脈側の肝小葉域はこの間を埋めるように配置し、従来の考えに疑問を投げかけた。さらに、スunksにおいて、小葉内の肝区域の細胞の形態に大きな差があり、これがどのように発現するか、胎生期から成獣にいたるまで三次元的に観察した。これらの研究において、コンピュータを用いる三次元立体構築の技術をほぼ完成することができた。同時に、これは本学におけるこの方面の機器及びソフトを整備し、実用に供する技術レベルにもってきたことを意味するものである。(石川, 市川, 森, 山下ら)

スunksにも幼若期(生後30日)から糖尿病を発症する系統が作出されたが、この豚島を1年以上に亘って観察した。その結果、この系統は罹患しながら、生殖を全うし、豚島においてはインシュリン細胞の萎縮・変性と肥大・増生像の併存と膵臓の特定部位(右葉)にのみ存在するPP細胞の肥大・増生像を示すことを明らかにした。また、膵臓外分泌細胞の著明な萎縮と特定部位の正常像の残存を見出した。(山下, 市川ら)

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著:

- 1) Ishikawa, H<sup>1)</sup>, Sugimoto K, Yamashita K, Araki T<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>Department of Obstetrics and Gynecology): Shear stress modulates cell shape and stress fiber expression in the rat umbilical vessel endothelial cells. *Biomed Res* 1996; 17: 241-249.
- 2) Yoshida K<sup>1)</sup>, Sugimoto K (<sup>1)</sup>Department of Surgery, The Jikei University School of Medicine): Morphological and cytoskeletal changes in endothelial cells of vein grafts under arterial hemodynamic conditions in vivo. *J Electron Microscopy* 1996; 45: 428-435.
- 3) Imaki T<sup>1)</sup>, Naruse M<sup>1)</sup>, Harada S<sup>1)</sup>, Chikada, N<sup>1)</sup>, Imaki J, Onodera H, Demura H<sup>1)</sup>, Vale W<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>Tokyo Womens Medical College, <sup>2)</sup>The Salk Institute, USA): Corticotropin-releasing factor up-regulates its own

receptor mRNA in the paraventricular nucleus of the hypothalamus. *Molecular Brain Research* 1996 ; 38 : 166-170.

- 4) Harada T<sup>1)</sup>, Imaki J, Ohki K<sup>1)</sup>, Ono K<sup>1)</sup>, Ohashi T<sup>1)</sup>, Matsuda H<sup>1)</sup>, Yoshida K<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>Hokkaido University) : Cone-associated c-fos gene expression in the light-damaged rat retina. *Investigative Ophthalmology & Visual Science* 1996 ; 37 : 1250-1255.
  - 5) Ohki K<sup>1)</sup>, Yoshida K<sup>1)</sup>, Harada T<sup>1)</sup>, Takamura M<sup>1)</sup>, Matsuda H<sup>1)</sup>, Imaki J (<sup>1)</sup>Hokkaido University) : C-fos gene expression in postnatal rat retinas with light/dark cycle. *Vision Research* 1996 ; 36 : 1883-1886.
  - 6) Takemasa T, Sugimoto K, Yamashita K : Amplitude-dependent stress fiber reorientation in early response to cyclic strain. *Exp Cell Res* 1997 ; 230 : 407-410.
  - 7) Sakai M<sup>1)</sup>, Imaki J, Yoshida K<sup>1)</sup>, Ogata A<sup>1)</sup>, Matsushimahibiya Y<sup>1)</sup>, Kuboki Y<sup>1)</sup>, Nishizawa M<sup>2)</sup>, Nishi S<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>Hokkaido University, <sup>2)</sup>Kyoto University) : Rat maf related genes-specific expression in chondrocytes, lens and spinal cord. *Oncogene* 1997 ; 14 : 745-750.
- (2) 総説
- 1) Hagiwara M<sup>1)</sup>, Shimomura A<sup>1)</sup>, Yoshida K<sup>2)</sup>, Imaki J (<sup>1)</sup>Nagoya University, <sup>2)</sup>Hokkaido University) : Gene expression and CREB phosphorylation induced by cAMP and Ca<sup>2+</sup> in neuronal cells. (Review). *Advances in Pharmacology* 1996 ; 36 : 277-285.
  - 2) 杉本啓治, 藤井幸子, 武政 徹, 山下和雄 : 内皮細胞および血管の伸展刺激に対する応答(特集:機械刺激に対する細胞の応答性)。 *組織培養* 1996 ; 22 : 398-402.

## 学会発表

### (1) 一般講演 :

- 1) Imaki J, Onodera H, Yoshida K<sup>1)</sup>, Yamashita K (<sup>1)</sup>Dept. of Ophthalmology, Hokkaido University School of Medicine) : Developmental expression of corticotropin-releasing factor (CRF) and CRF receptor 1mRNA in the rat fetus. 10th International Congress of Endocrinology (San Francisco), 1996. 6.
- 2) 市川安昭, 山下和雄, 日下部守昭<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>理化学研究所・実験動物) : テネイシン遺伝子欠損 C3H マウス胸腺の微細構造。第101回日本解剖学会全国学術集会, 1996. 4.
- 3) 石川朋子, 森 美貴, 市川安昭, 鬼頭純三<sup>1)</sup>, 山下和雄 (<sup>1)</sup>名古屋大・医・動物実験施設) : 肝小葉区域と肝静脈系の立体配置の三次元的観察。第101回日本解剖学会全国学術集会, 1996. 4.
- 4) 石川博臣<sup>1)</sup>, 杉本啓治, 山下和雄, 荒木 勤<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>産婦人科) : ラット胎児の臍帯動・静脈内皮細胞におけるストレスファイバー動態。第48回日本産婦人科学会学術講演会, 1996. 4.
- 5) 後藤 忠, 村重典昭, 山下和雄 : ラット尾腱および腱鞘の表面構築。第101回日本解剖学会総会, 1996. 4.
- 6) 石川朋子, 森 美貴, 市川安昭, 山下和雄 : 肝小葉区域と肝静脈系の立体配置の三次元的観察。第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 9.
- 7) 亀谷 肇, 杉本啓治, 藤井幸子, 武政 徹, 山下和雄 : 虚血再灌流によるラット血管内皮細胞の形態的, 機能的変化について。第49回日本細胞生物学会総会, 1996. 10.
- 8) 武政 徹, 杉本啓治, 山下和雄 : 律動的伸縮刺激に対する内皮細胞のストレスファイバーの初期再配置反応。第49回日本細胞生物学会総会, 1996. 10.
- 9) 杉本啓治, 藤井幸子, 武政 徹, 山下和雄 : 高浸透圧刺激に対する各部血管内皮細胞の応答。第49回日本細胞生物学会総会, 1996. 10.
- 10) 市川安昭, 大野民生<sup>1)</sup>, 石川朋子, 森 美貴, 鬼頭純三<sup>2)</sup>, 山下和雄 (<sup>1)</sup>名古屋大・農・動物遺伝制御, <sup>2)</sup>名古屋大・医・動物実験施設) : 自然発症糖尿病系統スンス膵臓の形態学的観察。第102回日本解剖学会全国学術集会, 1997. 3.

- 11) 石川朋子, 森 美貴, 市川安昭, 鬼頭純三<sup>1)</sup>, 山下和雄 (1)名古屋大・医・動物実験施設): スンクス肝臓組織発生と肝細胞の部位差の発現. 第102回日本解剖学会全国学術集会, 1997. 3.
- 12) 村重典昭, 後藤 忠, 山下和雄: ラット膝蓋骨周囲の滑膜に対する副腎皮質ホルモンの影響. 第102回日本解剖学会総会, 1997. 3.
- 13) 後藤 忠, 佐藤研之, 山下和雄: マウス横隔膜の筋線維構成. 第102回日本解剖学会総会, 1997. 3.
- 14) 今城純子, 小野寺英貴, 山下和雄: ラット胎子における CRF(corticotropin releasing factor) Receptor I 型 mRNA の発現. 日本解剖学会第102回総会全国学術集会, 1997. 3.

## 2. 解剖学第二講座

### 研究概要

解剖学第二講座の研究は比較神経学と肉眼解剖学の二つの分野からなっている。比較神経学の分野は、従来の系統樹の本幹に添った（特殊化していない）動物種のみを扱う古典的な比較神経学と異なり、むしろ特殊化した動物種を積極的に対象とする。すなわち、共通の祖先から同一時期に出来るだけ多くの種に分かれて適応放散に成功し、現存しているものを対象とする方法である。これまで、種に特有な脳構造をその種が獲得した生態的地位を解析することによって意味づけし、中枢神経系の成立機構そのものの解明を目指してきた。現在このような比較神経学的な考え方を基盤として、①原始的な硬骨魚類であるチョウザメの脳を解析し、適応放散に成功した現代的な棘鱗類の脳との比較、②二つ以上の異なる種類の情報（特に視覚と一般体性感覚）の脳内での相関機構の解明、③感覚系において中枢から感覚器、または高次のセンターから低次のセンターへ向かういわゆる遠心性投射の解析と機能の解明、④脳内の情報処理機構を知るために魚類の網膜を中枢神経系のモデルとして用い、光情報が網膜の各種細胞間をどのように伝達され修飾されるかの解明、⑤脳内の各所に分布するGnRHニューロンの機能とその起源の解明、などに重点を置いている。これらの研究には、通常のニッスル染色やゴルジ染色による細胞構築の解析、ボディアン染色による線維の解析、HRPやDiIを用いた実験的な線維連絡の解析、シナプス構築の解析などの他、免疫組織化学や異種間の胚の移植実験などの手法を用いて光学顕微鏡および電子顕微鏡のレベルで実験を行なっている。

肉眼解剖学の分野では、臨床上役立つものを一義的に考え、ヒトを中心として研究を進めている。成人に見られる異常構造（variation）や正常構造のパターンの成立機序を説明するためにヒトの胎児を用いて発生学的な検索を行ない、同時に、各種の食虫類や霊長類も合わせて用いて比較解剖学的な検索も行なっている。これらの対象となる範囲は、各部の動脈系と静脈系、肝臓の門脈系、泌尿器系（特に腎臓）、運動器系（筋肉と骨格）、末梢神経系、などである。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Yamamoto N, Uchiyama H<sup>1)</sup>, Ohki-Hamazaki H<sup>2)</sup>, Tanaka H<sup>3)</sup>, Ito H (<sup>1)</sup>Kagoshima University, <sup>2)</sup>National Institute of Neuroscience, <sup>3)</sup>Kumamoto University) : Migration of GnRH-immunoreactive neurons from the olfactory placode to the brain : A study using avian embryonic chimera. *Dev Brain Res* 1996 ; 95 : 234-244.
- 2) Ide K, Shirai Y<sup>1)</sup>, Ito H<sup>1)</sup>, Ito H (<sup>1)</sup>Department of Orthopaedic Surgery) : Sensory nerve supply in the human subacromial bursa : Silver impregnation and immunohistochemical study. *J Shoulder and Elbow Surgery* 1996 ; 5 : 371-382.
- 3) Morishima K, Miyaki T, Ito H : An autopsy case of abnormal kidney and its renal vascular distribution. *Acta Anat Nipponica* 1996 ; 71 : 215-218.
- 4) Uchiyama H<sup>1)</sup>, Yamamoto N, Ito H (<sup>1)</sup>Kagoshima University) : Tectal neurons that participate in centrifugal control of the quail retina : A morphological study by means of retrograde labeling with biocytin. *Vis Neurosci* 1996 ; 13 : 1119-1127.
- 5) Yamane Y, Yoshimoto M, Ito H : Area dosalis pars lateralis of the telencephalon in a teleost (*Sebastiscus marmoratus*) can be divided into dorsal and ventral regions. *Brain Behav Evol* 1996 ; 48 : 338-349.
- 6) Laufer M<sup>1)</sup>, Negishi K, Salas R<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>Centro de Biofisica y Bioquimica, Instituto Venezolano de Investigaciones Cientificas (IVIC), Caracas) : Effects of glutamic acid and related agents on horizontal cells in a marine teleost retina. *J Neurosci Res* 1996 ; 44 : 568-576.

- 7) Saito T<sup>1)</sup>, Gallagher E T<sup>1)</sup>, Culter S<sup>1)</sup>, Tanuma K, Yamada K<sup>1)</sup>, Saito N<sup>2)</sup>, Maruyama K<sup>1)</sup>, Carlsson C<sup>3)</sup>  
 (<sup>1)</sup>Anesthesiology of Tama-Nagayama Hospital, <sup>2)</sup>Department of Laboratory Medicine, Gunma University of School of Medicine, <sup>3)</sup>Temple University) : Extended unilateral anesthesia : New technique or paravertebral anesthesia? Regional Anesthesia 1996 ; 21 : 304-307.
- 8) Negishi K, Salas R<sup>1)</sup>, Laufer M<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Centro de Biofísica y Bioquímica, Instituto Venezolano de Investigaciones Científicas (IVIC), Caracas) : Origins of horizontal cell spectral responses in the retina of marine teleosts (*Centropomus* and *Mugil* sp.). J Neurosci Res 1997 ; 47 : 68-76.
- 9) Ito H, Yoshimoto M, Albert J S, Yamane Y, Yamamoto N, Sawai N<sup>1)</sup>, Kaur A<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>Department of Anatomy, Institute of Basic Medical Science, University of Tsukuba, <sup>2)</sup>Department of Zoology, Lyallpur S. Govt. College Sci., Edu., and Res. Punjab) : Terminal morphology of two branches arising from a single stem-axon of pretectal (PSm) neurons in the common carp. J Comp Neurol 1997 ; 378 : 379-388.
- 10) 根岸晃六, 山根洋一, 吉本正美, 伊藤博信 : 海産硬骨魚類ウマヅラハギ (*Navodon modestus*) の網膜ドーパミン神経細胞の密度分布. 日医大誌 1996 ; 63 : 343-348.
- 11) 斉藤敏之<sup>1)</sup>, 三枝茂彰<sup>1)</sup>, 田沼久美子, 山田光輝<sup>2)</sup>, 小川 龍<sup>1)</sup>, Chreister Carlsson<sup>3)</sup> (<sup>1)</sup>付属第一病院麻酔科, <sup>2)</sup>多摩永山病院中央手術室, <sup>3)</sup>Temple University) : 広範囲一側麻酔法の臨床症例. 臨床麻酔 1996 ; 20 : 984-986.
- (2) 総説 :
- 1) 伊藤博信, 石川裕二<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線医学総合研究所, 生物研究部) : 家畜化による脳の変化. Clinical Neurosci 1997 ; 15 : 455.
- (3) 寄書 :
- 1) 河野邦雄, 伊藤博信, 内山安男, 小野一幸, 後藤 昇, 重永凱男, 島田真之, 野坂洋一郎, 山科正平 : 教育課程の大綱化と肉眼解剖実習の多様化 : 平成 6・7 年度解剖学会教育委員会報告. 解剖誌 1996 ; 71 : 219-228.
- 2) 河野邦雄, 他 (含 ; 伊藤博信) : 解剖学会の正しい発展に向けて : 理事会からの回答に対する我々の見解. 解剖誌 1996 ; 71 : 557-559.

## 著 書

- 1) Negishi K : [分担] Studies of mitotic neuroblast cells by immunohistochemical detection of proliferating cell nuclear antigen in histogenesis and regeneration of the fish retina. In Retinal Degeneration and Regeneration (eds. Kato S, Osborne N N, and Tamai M), 1996 ; pp175-181. Kugler Publications, Amsterdam/New York.

## 学会発表

- (1) シンポジウム :
- 1) 山本直之 : テッポウウオの視蓋の線維連絡. (テーマ : 視蓋, 第 4 回脳の比較解剖学懇話会(福岡), 1996. 4.
- 2) 筒井秀和<sup>1)</sup>, 山本直之, 伊藤博信, 岡 良隆<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東京大) : ホヤにおける GnRH 免疫陽性神経系. (テーマ : 内分泌系の進化). 第21回日本比較内分泌学会 (浦和), 1996. 8.
- (2) セミナー :
- 1) Albert J S : The importance of systematics in the conservation of fishes. University Sam Ratulangi. (Manado, Indonesia), 1996. 12.
- 2) Albert. J S : Diversification of brain morphology in adrianichthyid fishes from Sulawesi, Indonesia. National Science Museum (Tokyo), 1997. 2.
- 3) Albert J S : Conservation update of lakes in central Sulawesi, Indonesia. Seminar in Wildlife Ecology

(Tokyo University), 1997. 3.

(3) 一般講演:

- 1) 浅川光夫: 本邦胎児腎臓の形態学的研究. 第101回日本解剖学会総会, 1996. 4.
- 2) 山本直之, 吉本正美, 澤井信彦<sup>1)</sup>, Albert JS, 伊藤博信 (<sup>1</sup>筑波大・基礎医学系): チョウザメの視覚路: 視蓋を経由する上行路について. 第101回日本解剖学会総会, 1996. 4.
- 3) 吉本正美, 山本直之, Albert JS, 澤井信彦<sup>1)</sup>, 伊藤博信 (<sup>1</sup>筑波大・基礎医学系): チョウザメ (*Acipenser transmontanus*) の網膜の投射. 第101回日本解剖学会総会, 1996. 4.
- 4) Albert. J S, Lannoo M: Testing mechanisms of evolution in the American electric fishes. American Society of Ichthyologists and Herpetologists (New Orleans), 1996. 6.
- 5) Albert. J S, Lannoo M: Testing mechanisms of evolution in the American electric fishes. Society of Systematic Biologists, (Washington University, Saint Louis), 1996. 6.
- 6) 吉本正美, 山本直之, Albert J S, 澤井信彦<sup>1)</sup>, 伊藤博信 (<sup>1</sup>筑波大・基礎医学系): チョウザメの網膜視神経細胞の分布と網膜投射. 第19回日本神経科学会, 1996. 7.
- 7) Albert J S, 吉本正美, 山本直之, 澤井信彦<sup>1)</sup>, 伊藤博信 (<sup>1</sup>筑波大・基礎医学系): 原始的条鰭類チョウザメの二つの視覚系. 第19回日本神経科学会, 1996. 7.
- 8) 石川裕二<sup>1)</sup>, 吉本正美, 山本直之, 伊藤博信 (<sup>1</sup>放射線医学総合研究所・生物研究部): メダカにおける脳形態の遺伝的変異. 第19回日本神経科学大会, 1996. 7.
- 9) 山本直之, 岡 良隆<sup>1)</sup>, 吉本正美, 伊藤博信 (<sup>1</sup>東京大): 中脳 GnRH ニューロンの分布: トレーサーと免疫組織化学による二重標識. 第19回日本神経科学大会, 1996. 7.
- 10) 益田律子<sup>1)</sup>, 横山和子<sup>1)</sup>, 田沼久美子 (<sup>1</sup>付属第一病院麻酔科): 内臓神経, 腹腔神経叢ブロック時における穿刺針と脊髄動脈系との解剖学的位置関係について. 第30回日本ペインクリニック学会総会, 1996. 7.
- 11) Masuda R<sup>1)</sup>, Yokoyama K<sup>1)</sup>, Tanuma K (<sup>1</sup>Department of Anesthesiology, Daiichi Hospital): Anatomical study for needle placement in celiac plexus and splanchnic nerve block to avoid ischemic injury to the spinal cord. 8th World Congress on Pain (Vancouver), 1996. 8.
- 12) Negishi K, Salas R<sup>1)</sup>, Laufer M<sup>1)</sup> (<sup>1</sup>Centro de Biofisica y Bioquimica, Instituto Venezolano de Investigaciones Cientificas (IVIC), Caracas): Correlates between spectral response and morphological types of horizontal cell in the marine teleost retina. The XII ICER (Yokohama-city), 1996, 9-10.
- 13) 山本直之, Parhar I<sup>1)</sup>, 澤井信彦<sup>2)</sup>, 佐久間康夫<sup>1)</sup>, 伊藤博信 (<sup>1</sup>第一生理, <sup>2)</sup>筑波大・基礎医学系): 下垂体へ投射する GnRH ニューロンについて. 第102回日本解剖学会総会, 1997. 3.
- 14) Albert J S, 吉本正美, 山本直之, 澤井信彦<sup>1)</sup>, 伊藤博信 (<sup>1</sup>筑波大・基礎医学系): 原始的な条鰭類チョウザメの視床における網膜および視蓋からの投射. 第102回日本解剖学会全国学術集会, 1997. 3.
- 15) 吉本正美, 山本直之, Albert J. S, 澤井信彦<sup>1)</sup>, 伊藤博信 (<sup>1</sup>筑波大・基礎医学系): 硬骨魚類の終脳各部の相同について. 第102回日本解剖学会全国学術集会, 1997. 3.
- 16) 菊池久美子<sup>1)</sup>, 吉本正美, 山本直之, 宗宮弘明<sup>2)</sup>, 伊藤博信 (<sup>1</sup>麻布大・獣医, <sup>2)</sup>三重大・生物資源): 音を出す硬骨魚類カサゴの sonic muscle を支配する運動ニューロン. 第102回日本解剖学会全国学術集会, 1997. 3.

### 3. 生理学第一講座

#### 研究概要

性ホルモンが脳の発生、機能の発揮に及ぼす作用について、遺伝子から行動に至る以下の5チームが研究を進めている。(1) 神経細胞の生存や死滅を通じて脳の形態形成や神経細胞死を調節するエストロゲン受容体の発現制御を遺伝子レベルで分子生物学的に明らかにする。(2) 視床下部の黄体形成ホルモン放出ホルモン(GnRH)産生ニューロンやエストロゲン受容体陽性ニューロンを対象として、遺伝子の発現やタンパクへの転写を手がかりに脳の形態形成、個体発生と性ホルモンによる制御をおもに形態学的に調べる。(3) パッチクランプと細胞内カルシウムイオン濃度の測定により、GnRHを始めとする活性ペプチドが下垂体前葉細胞や視床下部ニューロンの各種のイオンチャンネルにおよぼす作用とその機序を明らかにする。(4) 無麻酔無拘束動物において、視床下部ニューロンの活動を記録し、情動行動の基礎となる脳内神経回路を行動学的、神経生理学的手法により明らかにする。(5) 性ホルモンに依存する雌雄ラットの生殖行動を調節する神経回路と性ホルモンの作用機序を脳内特定部位の破壊、刺激やc-Fos発現により解明する。本年度は以下の目録に明らかのように、当講座独自の研究がようやく目立つようになると同時に、幾つかの共同研究が実を結び始めた。また、新たな研究提携も国内外の複数の大学や企業を相手に発足した。論文の公刊は研究者の責務であり、個々の研究者の日常の研究業績は、教育者として学生、大学院生に対する教育の質にも反映されると考えている。今後各チームが毎年少なくとも2編の原著を一流誌に発表することを目標としたい。

#### 研究業績

##### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Wada-Kiyama Y, Kiyama R<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>Institute of Molecular and Cellular Biosciences, Univ. of Tokyo) : An intrachromosomal repeating unit based on DNA bending. *Mol Cell Biol* 1996 ; 16 : 5664-5673.
- 2) Saito Y<sup>1)</sup>, Kato M, Kubohara Y<sup>1)</sup>, Kobayashi I<sup>1)</sup>, Tatemoto K<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>Dept. of Laboratory Medicine and Clinical Laboratory Center, School of Medicine and Dept. of Molecular Physiology, Institute for Molecular and Cellular Regulation, Gunma Univ.) : Bradykinin increases intracellular free Ca<sup>2+</sup> concentration and promotes insulin secretion in the clonal  $\beta$ -cell, HIT-T15. *Biochem Biophys Res Comm* 1996 ; 221 : 577-580.
- 3) Parhar I S, Soga T, Sakuma Y : In situ hybridization of two differentially expressed GnRH genes following estrogen and triiodothyronine treatment in the brains of juvenile tilapia (cichlid). *Neurosci Lett* 1996 ; 218 : 135-138.
- 4) Parhar I S, Pfaff D W<sup>1)</sup>, Schwanzel-Fukuda M<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>Laboratory of Neurobiology and Behavior, The Rockefeller Univ.) : Gonadotropin-releasing hormone gene expression in teleosts. *Mol Brain Res* 1996 ; 41 : 216-227.
- 5) Parhar I S, Iwata M<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>Kitasato Univ.) : Intracerebral expression of gonadotropin-releasing hormone and growth hormone-releasing hormone is delayed until salmon smoltification. *Neurosci Res* 1996 ; 26 : 299-308.
- 6) Orikasa C, Mizuno K<sup>1)</sup>, Sakuma Y, Hayashi S<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>Dept. of Anatomy and Embryology, Tokyo Metropolitan Institute for Neuroscience, <sup>2)</sup>Dept. of Microbiology and Immunology, Tokyo Metropolitan Institute for Neuroscience) : Exogenous estrogen acts differently on production of estrogen receptor in the preoptic area and the mediobasal hypothalamic nuclei in the newborn rat. *Neurosci Res* 1996 ; 25 : 247-254.
- 7) Nakano K<sup>1)</sup>, Suga S<sup>2)</sup>, Kondo Y, Sato T<sup>1)</sup>, Sakuma Y (<sup>1)</sup>Institute of Medical Technology, Hirosaki Univ. School of Medicine and Allied Sciences, <sup>2)</sup>Dept. of Physiol. I, Hirosaki Univ. School of Medicine) :

- Estrogen-excitabile forebrain projections to the ventral premammillary nucleus of the female rat. *Neurosci Lett* 1997 ; 225 : 17-20.
- 8) Iino M : Effects of a homogeneous magnetic field on erythrocyte sedimentation and aggregation. *Bioelectromagnetics* 1997 ; 18(3) : 215-222.
- 9) Matsumoto T<sup>1)</sup>, Kondo Y, Sachs B D<sup>2)</sup>, Yamanouchi K<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>Neuroendocrinology, Sch. Human Sci, Waseda Univ, <sup>2)</sup>Dept. of Psychology, Univ. of Connecticut) : Effects of p-chlorophenylalanine on reflexive and noncontact penile erections in male rats. *Physiol Behav* 1997 ; 61 : 165-168.
- 10) 富原一哉<sup>1)</sup>, 近藤保彦 (<sup>1)</sup>筑波大学心理学系) : ラット・マウスにおける超音波コミュニケーションの研究技法と動向, *Tsukuba Pshycol Res* 1997 ; 19 : 147-154.
- (2) 総説 :
- 1) Parhar I S : DNA antisense technology for neuroscience. "Commercialisation of Malaysian R & D". *Proceeding by the Malaysian Ministry of Science and Enviroment* 1996 ; 1 : 11-16.
- 2) 林 績治, 横須賀誠, 折笠千登世 : 脳の性分化における性ステロイド受容体の役割. *ブレイン メディカル* 1996 ; 8(3) : 265-271.
- 3) 飯野正昭 : 均一な鉛直磁場による赤血球沈降速度の増加. *日バイオレオロジー会誌*, 1996 ; 10(6) : 97-101.
- 4) 近藤保彦, 佐久間康夫 : ペニス勃起 : 動物モデルと測定方法. *ヒューマンサイエンス* 1996 ; 8 : 98-107.
- 5) 近藤保彦, 佐久間康夫 : ラットにおける雄性行動と勃起. *アニテックス* 1996 ; 9 : 76-81.
- 6) 大坂元久 : 心拍変動の概日リズムと不整脈 : 線形解析と非線形解析. *医学のあゆみ* 1996 ; 177(9) : 602-606.
- 7) 佐久間康夫 : 雌ラット性行動の調節機構 : 性行動の中核としての内側視索前野の役割. *医学のあゆみ* 1996 ; 176 : 488-489.
- 8) 佐久間康夫 : ニューロンの性分化の電気生理学的特徴. *ブレイン メディカル* 1996 ; 8(3) : 249-255.
- 9) 上坂伸宏 : 鎌状赤血球症 (ヘモグロビン S 症) 患者赤血球の変形能 : 疾病と機能性食品の関連を考慮して. *手塚山短期大学食品科学研究会誌* 1996 ; 18 : 67-77.
- 10) 上坂伸宏, 比留間博之<sup>1)</sup>, 長谷川節雄<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>第3内科) : 鎌状赤血球 (Sickle cell) のレオロジー. *日バイオレオロジー会誌* 1996 ; 10 : 104-115.
- 11) 上坂伸宏, 大西忠博<sup>1)</sup>, 賀羽常道<sup>2)</sup>, 塩 栄夫<sup>3)</sup> (<sup>1)</sup>関東通信病院医科学研究所, <sup>2)</sup>司測研バイオメディカル部, <sup>3)</sup>滋賀県立成人病センター) : ニッケルメッシュフィルターを用いた新しい重力式赤血球変形能測定システム. *日バイオレオロジー会誌* 1997 ; 11 : 15-21.

## 著 書

- 1) Sakuma Y : Neural control of reproductive behavior : A bird's eye view. In : *Neural Control of Reproduction--Physiology and Behavior*, ed by Maeda K-I, Tsukamura H, Yokoyama A, 1997 ; pp155-164, Japan Scientific Societies Press, Tokyo/S Karger, Basel.
- 2) 上坂伸宏, 長谷川節雄<sup>1)</sup>, 比留間博之<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>第3内科) : ニッケルメッシュによる赤血球変形能測定法の臨床医学への応用. *血液レオロジー : 現在の問題点と臨床への応用*, 1997 ; pp61-74, メディカルレビュー社.

## 学会発表

### (1) 招待講演 :

- 1) Sakuma Y : Site- and sex-specific effects of estrogen on neuronal impulse flow. 2nd Meeting of European Neuroscience (Strasbourg), 1996. 9.

### (2) 特別講演 :

- 1) 上坂伸宏 : 先天性溶血性疾患患者赤血球のレオロジー特性と病態生理. 第36回日本血液学会中国四国地方会,



1997. 1.

(3) シンポジウム：

- 1) 上坂伸宏：ニッケルメッシュフィルターを用いた新しい重力式赤血球変形能測定システム。第19回日本バイオロロジー学会年会，1996. 6.
- 2) 佐久間康夫：性行動と脳。脳とホメオスタシス：内側視索前野の役割。第19回神経研シンポジウム，1996. 7.
- 3) 大阪元久：相互情報量による生体信号のゆらぎ解析。第11回生体・生理工学シンポジウム，1996. 11.
- 4) 近藤保彦：雄ラットにおける勃起。早稲田大学人間総合研究所第3回「性と生殖」公開シンポジウム，1996. 12.
- 5) 佐久間康夫：GnRH ニューロンの研究の現状。第74回日本生理学会大会，1997. 3.
- 6) Parhar I S, Soga T, Sakuma Y : Development and Regulation of GnRH Neurons. 第74回日本生理学会大会，1997. 3.

(4) 一般講演：

- 1) Parhar I S, Sakuma Y : Regulation of forebrain and midbrain GnRH neurons in juvenile teleosts. 3rd International Symposium on Fish Endocrinology (Hakodate), 1996. 5.
- 2) Osaka M, Saitoh H<sup>1)</sup>, Someya T<sup>1)</sup>, Hayakawa H<sup>1)</sup>, Cohen R J<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>First Dept. of Internal Medicine, <sup>2)</sup>MIT) : Mutual information provides a measure of temporal patterns of ventricular premature beats. 7th International Congress on Ambulatory Monitoring (Chiba), 1996. 5.
- 3) Kondo Y, Sakuma Y : Effects of the raphe obscurus lesion in the medulla on penile erection and copulatory behavior in the male rat. 28th Annual Conference on Reproductive Behavior (Montreal), 1996. 6.
- 4) Ashida H<sup>1)</sup>, Oonishi T<sup>2)</sup>, Uyesaka N (<sup>1)</sup>Dept. of Physiology, National Defense Medical College, <sup>2)</sup>The Medical Information Institute, The Kanto Teishin Hospital) : Compartment model of p-glycoprotein mediated transport in mdr1-gene-transfected lymphoma cells. ICOM'96 Proceedings(Yokohama), 1996. 8.
- 5) Wada-Kiyama Y, Kiyama R<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>Institute of Molecular and Cellular Biosciences, Univ. of Tokyo) : The Intrachromosomal repeating unit based on DNA bending is a nucleosome phasing signal. Federation of American Societies for Experimental Biology (Copper Mountain), 1996. 8.
- 6) Parhar I S : DNA antisense technology for neuroscience. Commercialisation of Malaysian R & D (Kuala Lumpur), 1996. 8.
- 7) Osaka M, Saitoh H<sup>1)</sup>, Yokoshima T<sup>1)</sup>, Kishida H<sup>1)</sup>, Hayakawa H<sup>1)</sup>, Cohen R J<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>First Dept. of Internal Medicine, <sup>2)</sup>MIT) : Nonlinear pattern analysis of ventricular premature beats by mutual information. 2nd IMIA-IFMBE International Workshop on Biosignal Interpretation (Kanagawa), 1996. 9.
- 8) Kato M : Pituitary adenylate cyclase activating peptide elicited novel hyperpolarization-activated Cl<sup>-</sup> currents in xenopus oocytes. First FAONS Congress & First IBRO Regional Congress (Pattaya), 1996. 10.
- 9) Parhar I S : Migration of GnRH neurons. First FAONS Congress & First IBRO Regional Congress (Pattaya), 1996. 10.
- 10) Oonishi T<sup>1)</sup>, Sakashita K<sup>1)</sup>, Uyesaka N (<sup>1)</sup>The Medical Information Institute, The Kanto Teishin Hospital) : Regulation of red cell deformability by stress-activated Ca<sup>2+</sup> channels and intracellular cAMP level. The American Society of Hematology 38th Annual Meeting & Exposition (Orlando), 1996. 12.
- 11) Wada-Kiyama Y, Kiyama R<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>Institute of Molecular and Cellular Biosciences, Univ. of Tokyo) : A structural basis for DNase I-hypersensitive sites in the human b-globin locus control region. The American Society of Hematology 38th Annual Meeting & Exposition (Orlando), 1996. 12.
- 12) 上坂伸宏，曾我美勝<sup>1)</sup>，恵良聖一<sup>2)</sup>，加藤一夫<sup>3)</sup>，大西忠博<sup>4)</sup>，Schechter A N<sup>5)</sup> (<sup>1)</sup>藤田保健衛生大・衛生・生理，<sup>2)</sup>岐阜大学・医・第二生理，<sup>3)</sup>稲沢市民病院・中検，<sup>4)</sup>関東逡信病院，<sup>5)</sup>LCB/NIDDK/NIH) : ヘモグロビン köln

- 患者赤血球の変形能と磁化移動現象. 第73回日本生理学会大会, 1996. 4.
- 13) 曾我美勝<sup>1)</sup>, 恵良聖一<sup>2)</sup>, 加藤一夫<sup>3)</sup>, 梶原孝彦<sup>1)</sup>, 中上 寧<sup>1)</sup>, 桑田一夫<sup>2)</sup>, 上坂伸宏 ( <sup>1)</sup>藤田保健衛生大・衛生・生理, <sup>2)</sup>岐阜大学・医・第二生理, <sup>3)</sup>稲沢市民病院・中検) : <sup>1)</sup>H-NMRによるタンパク質・溶液→ゲル変換における水構造変化の研究. 第73回日本生理学会大会, 1996. 4.
  - 14) 熊崎智司<sup>1)</sup>, 大西忠博<sup>2)</sup>, 坂下可奈子<sup>2)</sup>, 石原照夫<sup>1)</sup>, 末松直美<sup>3)</sup>, 上坂伸宏 ( <sup>1)</sup>関東通信病院呼吸器センター, <sup>2)</sup>同医用情報研第三研究部, <sup>3)</sup>浴風病院病理) : 気管支喘息発作時にみられる赤血球変形能の低下について. 第73回日本生理学会大会, 1996. 4.
  - 15) 坂下可奈子<sup>1)</sup>, 大西忠博<sup>1)</sup>, 池田壽雄<sup>2)</sup>, 上坂伸宏 ( <sup>1)</sup>関東通信病院医用情報研第三研究部, <sup>2)</sup>同第一研究部) : SHR (spontaneously hypertensive rats)で見出された赤血球変形能低下について. 第73回日本生理学会大会, 1996. 4.
  - 16) 伊藤慎芳<sup>1)</sup>, 大西忠博<sup>2)</sup>, 坂下可奈子<sup>2)</sup>, 上坂伸宏 ( <sup>1)</sup>関東通信病院消化器内科, <sup>2)</sup>同医用情報研第三研究部, <sup>2)</sup>同第一研究部) : 水溶性ヨード造影剤の分配係数が赤血球変形能に及ぼす作用. 第73回日本生理学会大会, 1996. 4.
  - 17) 大西忠博<sup>1)</sup>, 坂下可奈子<sup>1)</sup>, 上坂伸宏 ( <sup>1)</sup>関東通信病院医用情報研第三研究部) : メカニカル・ストレスによる赤血球変形能の低下とカルシウム拮抗薬の作用. 第73回日本生理学会大会, 1996. 4.
  - 18) 芦田 廣<sup>1)</sup>, 大西忠博<sup>2)</sup>, 上坂伸宏 ( <sup>1)</sup>防衛医大・生理学第二, <sup>2)</sup>関東通信病院・医用情報研究所) : P 糖蛋白による膜輸送のコンパートメントモデルによる解析. 第73回日本生理学会大会, 1996. 4.
  - 19) 上坂伸宏, 山脇瑠太<sup>1)</sup>, 大西忠博<sup>2)</sup>, 石井良和<sup>3)</sup>, 加羽常道<sup>1)</sup>, 塩 栄夫<sup>4)</sup>, 藤野武彦<sup>5)</sup> ( <sup>1)</sup>司測研, <sup>2)</sup>関東通信病院, <sup>3)</sup>第一製薬, <sup>4)</sup>滋賀県立成人病センター, <sup>5)</sup>九大・医・第一内科) : 赤血球変形能測定用フィルター (nickel mesh) のレオロジー特性. 第73回日本生理学会大会, 1996. 4.
  - 20) 飯野正昭 : 牛血清アルブミン N-B 転移前後の磁化移動. 第73回日本生理学会大会, 1996. 4.
  - 21) 木山裕子 : ヒト  $\beta$  グロビン遺伝子座における DNA 折れ曲がりによる染色体内繰り返しユニット. 第73回日本生理学会大会, 1996. 4.
  - 22) 加藤昌克, 花岡陽一<sup>1)</sup>, 立元一彦<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>群馬大学生体調節研) : PACAP は卵胞細胞に覆われた *Xenopus* 卵母細胞 (Follicle) に作用し内向整流性 Cl<sup>-</sup>電流を誘起する. 第73回日本生理学会大会, 1996. 4.
  - 23) 近藤保彦, 山内兄人<sup>1)</sup>, 佐久間康夫 ( <sup>1)</sup>早稲田大学人間科学神経内分泌) : 延髄不確線維核破壊による雄ラット陰莖勃起の抑制. 第73回日本生理学会大会, 1996. 4.
  - 24) 加藤 章, 佐久間康夫 : 雌ラットの生殖行動の諸要素に同期する視索前野ニューロンの活動. 第73回日本生理学会大会, 1996. 4.
  - 25) 鈴木清子, 近藤保彦, 佐久間康夫 : 脳虚血スナネズミの空間学習能力低下に対するエストロゲンの保護効果. 第73回日本生理学会大会, 1996. 4.
  - 26) 石神英子, 近藤保彦, 佐久間康夫 : エストロゲンは虚血によるスナネズミ前脳の神経終末変性を軽減する. 第73回日本生理学会大会, 1996. 4.
  - 27) 桑原健太郎, 佐久間康夫, 木山裕子 : ヒト・エストロゲン受容体遺伝子の上流域における DNA 折れ曲がり構造. 第73回日本生理学会大会, 1996. 4.
  - 28) 山科育子, 近藤保彦, 佐久間康夫 : Estrogen 依存行動から見た内側視索前野の多様性 : ロードシス, 誘惑行動, 回転籠走行活動性. 第73回日本生理学会大会, 1996. 4.
  - 29) 近藤保彦, 鈴木清子, 佐久間康夫 : 雌スナネズミの水迷路学習におけるエストロゲン投与の効果. 第56回日本動物心理学会, 1996. 4.
  - 30) 飯野正昭 : 赤血球沈降速度に対する強い鉛直磁場の効果 II. 第19回日本バイオレオロジー学会年会, 1996. 6.
  - 31) 折笠千登世, 林 纈治<sup>1)</sup>, 佐久間康夫, McEwen B S<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>東京都神経研・解剖発生, <sup>2)</sup>Rockefeller 大学) : 幼若ラットの海馬におけるエストロゲン受容体 (ER) および ER-mRN の発現. 第19回日本神経科学大会, 1996. 7.

- 32) 加藤 章, 近藤保彦, 佐久間康夫: ラット乳頭体前核の興奮アミノ酸刺激による雌性行動亢進. 第19回日本神経科学大会, 1996. 7.
- 33) 大坂元久: 心拍変動解析のアルゴリズム. 第31回理論心電図研究会, 1996. 7.
- 34) 折笠千登世, 林 纈治<sup>1)</sup>, 佐久間康夫, McEwen B S<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>東京都神経研・解剖発生, <sup>2)</sup>Rockefeller 大学): 新生仔ラット脳の視床下部及び海馬における変異型エストロゲン受容体の発現. 日本動物学会第67回大会, 1996. 9.
- 35) 飯野正昭: 沈降中赤血球の凝集に及ぼす磁場の効果. 秋季第57回応用物理学学会学術講演, 1996. 9.
- 36) 大坂元久, 斎藤寛和<sup>1)</sup>, 新 博次<sup>1)</sup>, 加藤貴雄<sup>1)</sup>, 伊藤高司<sup>2)</sup>, 岸田 浩<sup>1)</sup>, 早川弘一<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>第一内科, <sup>2)</sup>情報科学センター): 心室期外収縮出現パターンと心拍変動の関係. 第12回時間循環器研究会, 1996. 10.
- 37) 大坂元久, 斎藤寛和<sup>1)</sup>, 横島友子<sup>1)</sup>, 岸田 浩<sup>1)</sup>, 早川弘一<sup>1)</sup>, 伊藤高司<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>第一内科, <sup>2)</sup>情報科学センター): 相互情報量による生体信号のゆらぎ解析: 心室期外収縮出現のパターン分類への応用. 第11回生体・生理工学シンポジウム論文集 (社) 計測自動制御学会, 1996. 10.
- 38) 曾我美勝<sup>1)</sup>, 恵良聖一<sup>2)</sup>, 加藤一夫<sup>3)</sup>, 上坂伸宏, 中村浩二<sup>2)</sup>, 桑田一夫<sup>2)</sup>, 永井直樹<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>岐阜大学, <sup>2)</sup>岐阜大学・医・第二生理, <sup>3)</sup>稲沢市民病院・中検): <sup>1</sup>H-NMR による生体組織内の水性状に関する研究. 第74回日本生理学会大会, 1997. 3.
- 39) 曾我美勝<sup>1)</sup>, 恵良聖一<sup>2)</sup>, 村上政隆<sup>3)</sup>, 瀬尾芳輝<sup>4)</sup>, 上坂伸宏 (<sup>1)</sup>岐阜大学, <sup>2)</sup>岐阜大学・医・第二生理, <sup>3)</sup>生理研・分子生理, <sup>4)</sup>京都府立医大・第一生理): 細胞膜水透過の絶対反応速度論的研究. 第74回日本生理学会大会, 1997. 3.
- 40) 大西忠博<sup>1)</sup>, 坂下可奈子<sup>1)</sup>, 上坂伸宏 (<sup>1)</sup>関東通信病院医科学研第三研究部): 細胞内シグナル伝達系による赤血球変形能の制御. 第74回日本生理学会大会, 1997. 3.
- 41) 渋谷裕子<sup>1)</sup>, 大西忠博<sup>2)</sup>, 坂下可奈子<sup>2)</sup>, 五味朋子<sup>1)</sup>, 池田壽雄<sup>1)</sup>, 上坂伸宏 (<sup>1)</sup>関東通信病院腎臓内科, <sup>2)</sup>同医科学研第三研究部): メカニカル・ストレスによる本態性高血圧症患者赤血球の変形能低下について. 第74回日本生理学会大会, 1997. 3.
- 42) 伊地知哲生<sup>1)</sup>, 大西 康<sup>1)</sup>, 丸山 徹<sup>2)</sup>, 加治良一<sup>2)</sup>, 金谷庄蔵<sup>2)</sup>, 藤野武彦<sup>2)</sup>, 上坂伸宏 (<sup>1)</sup>レオロジー機能食品研究所, <sup>2)</sup>九州大学医学部第一内科): ニッケルメッシュフィルターを用いた健常者赤血球変形能の検討. 第74回日本生理学会大会, 1997. 3.
- 43) 大西 康<sup>1)</sup>, 伊地知哲生<sup>1)</sup>, 丸山 徹<sup>2)</sup>, 加治良一<sup>2)</sup>, 金谷庄蔵<sup>2)</sup>, 藤野武彦<sup>2)</sup>, 上坂伸宏 (<sup>1)</sup>レオロジー機能食品研究所, <sup>2)</sup>九州大学医学部第一内科): 健常者における赤血球変形能と血清脂質との関連. 第74回日本生理学会大会, 1997. 3.
- 44) 芦田 廣<sup>1)</sup>, 大西忠博<sup>2)</sup>, 上坂伸宏 (<sup>1)</sup>防衛医大・生理学第二, <sup>2)</sup>関東通信病院・医科学研究所): コンパートメントモデルによる多薬剤耐性機構の解析. 第74回日本生理学会大会, 1997. 3.
- 45) 加藤昌克, 佐久間康夫: ラット下垂体 GH 細胞において, 成長ホルモン (GH) 放出ホルモン (GHRH) は TTX 抵抗性 Na<sup>+</sup>電流を誘起し, ソマトスタチン (SRIF) はそれを抑制する. 第74回日本生理学会大会, 1997. 3.
- 46) 飯野正昭: 反磁性赤血球浮遊液に及ぼす均一強磁場の効果. 第74回日本生理学会大会, 1997. 3.
- 47) 木山裕子: ヒト・グロビン遺伝子スイッチングを制御する LCR みられる特異的 DNA 構造. 第74回日本生理学会大会, 1997. 3.
- 48) 加藤 章, 近藤保彦, 佐久間康夫: 雌ラット腹側乳頭体前核および腹側被蓋野の刺激による生殖行動誘発. 第74回日本生理学会大会, 1997. 3.
- 49) 鈴木清子, 桑原健太郎, 佐久間康夫, 木山裕子: ヒト・エストロゲン受容体遺伝子上流のクロマチン構造を規定する DNA 因子. 第74回日本生理学会大会, 1997. 3.
- 50) 桑原健太郎, 木山裕子, 佐久間康夫: ヒト・エストロゲン受容体遺伝子5'上流域における周期性 bent DNA 構造のゲノム構築上の意義. 第74回日本生理学会大会, 1997. 3.
- 51) 飯野正昭: 高濃度な剛体球的蛋白質水溶液中での種々な動的性質の統一的説明. 春季第44回応用物理学関係連合

講演会, 1997. 3.

- 52) 大坂元久, Leeman D E<sup>1)</sup>, Shubrooks S J<sup>1)</sup>, Albrecht P<sup>2)</sup>, Cohen R J<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>Deaconess Hospital, <sup>2)</sup>MIT) : 体表面ラプラシアン心電図の虚血部位検出のための有用性 : 経皮的冠動脈形成術施行中における検討. 第61回日本循環器学会学術集会, 1997. 3.

## 4. 生理学第二講座

### 研究概要

本講座では次の2つの研究課題、「脊髄運動ニューロンのシナプス伝達と活動電位発生機構」および「大脳辺縁系海馬の神経可塑性とてんかん焦点形成機構」を中心に、おもに電気生理学的手法を用いて研究を進めている。以下に、本年度の各グループの具体的検討課題とその成果について述べる。

(1) 藤田と鈴木のグループは第1生理学教室と共同で「球海綿体筋脊髄核神経回路形成に対する性ホルモンおよび神経栄養因子の作用機序の解明」を目的として研究を進めている。去勢により減退した勃起機能がテストステロン投与によって回復する事実は、性ホルモンが脊髄神経回路の維持と再構築において重要な役割を果たしていることを示している。この性ホルモンによる神経回路の可塑性を明らかにするため、電気生理学および形態学的研究を行った。

(2) 大脳辺縁系海馬はてんかん焦点の好発部位として知られているが、その病態生理学的機構についてはほとんど明らかにされていない。丸と大島のグループは、電流源密度解析法を用いて、「顆粒細胞の異常発芽がてんかん発作の発現を促進している」という現在もっとも有力な仮説を検討した。これまでの研究結果は発作発現における異常発芽の役割を否定するものであった。また、電圧感受性色素を用いた光学的電位計測実験では、顆粒細胞の異常発芽よりも抑制性シナプス伝達の可塑性の方がてんかん発作の発現により密接に関与していることを示唆する結果が得られた。

(3) 原田は、摘出脊髄標本を用いて、痛覚神経機構に関する一連の研究を行っている。本年度の研究では、これまで末梢痛覚機構における役割のみ注目されてきたプロスタグランジンが中枢（脊髄）痛覚伝導路のシナプス伝達制御にも関与していることを明らかにした。また、このシナプス部では、シナプス伝達物質の放出においてカルシウムイオンが重要な役割を果たしているとする「カルシウム仮説」に反する興味ある結果が得られており、現在その機構の詳細について検討中である。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 研究報告書：

- 1) 丸 栄一：難治てんかんモデルにおける海馬苔状線維発芽の発作波における意義。平成7年度厚生省精神・神経疾患研究委託費研究報告集。pp152, 1996.

#### 学会発表

##### (1) シンポジウム：

- 1) Nishiyama M, Hori N, Watanabe T, Hori T, Suzuki K, Maru E, Shimizu T : Arachidonate 12-lipoxygenase participates in neuronal plasticity. 12th International Symposium of TMIN (Tokyo), 1996.

##### (2) 一般講演：

- 1) Ohata H, Otsu Y, Ashida H, Maru E : Recurrent excitation of dentate granule cells during self-sustained seizure activity probably via sprouted mossy fibers in kindled rat. Japanese Journal of Physiology 1996 ; 46(Suppl) : S105.
- 2) Fujita Y, Saito M : Two mode of ventral root-elicited IS-spike generation and origin of the M-spike in cat motoneurons. Japanese Journal of Physiology 1996 ; 46(Suppl) : S100.
- 3) 藤田春雄, 嶋田将之, 植山珠代, 丸 栄一, 鈴木英弘：てんかん発作発現に対する塩酸リドカインの抑制効果。Journal of Anesthesia 1996 ; 10(Suppl) : 528.
- 4) Harada Y : Effect of prostaglandin E2 on spinal reflex in newborn rats. Neuroscience Research 1996 ;

- 20(Suppl) : S45.
- 5) Suzuki K, Migita K, Sasamoto K, Hori N : Effects of ischemic insults associated with cardiac arrest on the hippocampal neurons. *Neuroscience Research* 1966 ; 20(Suppl) : S145.
  - 6) Nishiyama M, Hori N, Suzuki K, Watanabe T, Hori T, Takekoshi S, Watanabe K, Maru E, Shimizu T, Yamamoto Y : Peroxidized diacylglycerol enhances long-term potentiation of the rat hippocampal CA1 in vitro. *Neuroscience Research* 1996 ; 20(Suppl) : S161.
  - 7) Ohata H, Otsu Y, Maru E, Kawakami Y : Sprouted mossy fibers of dentate granule cells function during self-sustained seizure activity probably via in kindled rat. *Society for Neuroscience* 1996 ; 26(Abstract) : 2090.
  - 8) Otsu Y, Iijima T, Ohata H, Ichikawa M, Maru E : Effects of mossy fibers on the neuronal activity of dentate granule cells analyzed by optical recordings. *Society for Neuroscience* 1996 ; 26(Abstract) : 2089.
  - 9) Suzuki K, Sasamoto K, Migita K, Kondo Y, Carpenter DO, Hori, N : Induction of physiological and morphological changes induced by cardiac arrest in rat hippocampus. *Society for Neuroscience* 1996 ; 26(Abstract) : 2148.
  - 10) Nishiyama M, Hori, N, Watanabe T, Hori T, Suzuki K, Maru E, Shimizu T : 12-hydroperoxyeicosatetraenoic acid induced the long-term potentiation in rat hippocampal CA1. *Society for Neuroscience* 1996 ; 26(Abstract) : 1459.
  - 11) Harada Y : Relationship of spinal monosynaptic reflex to extracellular calcium ions in newborn rats. *Japanese Journal of Physiology* 1997 ; 47(Suppl).

## 5. 生化学第一講座

### 研究概要

主任教授が新任になり、新しい研究体制のもとで研究が始められた。前任教授の研究テーマはヘモグロビンおよびその遺伝子の構造と機能、発現調節が主要であったが、一部その他の酸化還元酵素類についても研究がなされていた。新しい研究体制では、従来の研究室の伝統を受け継ぎ、酸化還元の問題をいままでと別の視点から展開する予定である。主な研究課題は以下の通りである。

#### 1. スーパーオキシドや一酸化窒素などの低分子ラジカルの生成と制御の機構—

低分子ラジカルは老化、細胞死、神経伝達、免疫、血液循環など様々な生命現象に関与し、数々の疾患の原因ともなっている。低分子ラジカル化合物を生成、消去するタンパク質群に焦点を絞り、その構造と機能の相関、調節機構、生理的・病理的意義について包括的な研究をおこなっている。

1) スーパーオキシドを生成するキサンチン酸化酵素(脱水素酵素)については分光学的解析や反応速度論的解析を継続的に展開しており、今年度はバキュロウイルス/昆虫細胞系を用いた発現系を用いた種々の変異酵素を作成し、その解析により、a) 脱水素酵素から酸化酵素型への変換機構、b) 補欠分子族を欠損した酵素作成による補欠分子族の役割解析をすすめた。また、c) x-線結晶解析による三次元構造の解析の研究をすすめている。

2) 一酸化窒素合成酵素については、一酸化窒素合成酵素の活性制御物質を発見し、その同定をおこなった。一酸化窒素合成酵素自身についてはcDNA発現系を構築し、酵素の大量調製と一部変異酵素を作成し、それらの酵素の解析に着手できる状況になった。

2. これら直接的にラジカル化合物を生成、消去する酵素群に加え、これらと相関するタンパク質についての解析もおこなっている。細胞内酸化的ストレス抵抗性タンパク質であろうと予想されるHBP23に関して、その性質、誘導機構について分析し、大量発現系の構築を行い、その性質の検討を開始した。また、メルカプトピルビン酸イオウ転移酵素につき、変異酵素の作成とその解析により、活性中心のアミノ酸の役割と反応機構の解明をおこなった。さらに、各種酸化還元酵素につき他大学・研究機関との共同研究もおこなった。

### 研究業績

#### 論文

(1) 原著：

- 1) Nagahara N, Nishino T : Role of amino acid residues in the active site of rat liver mercaptopyruvate sulfurtransferase. cDNA cloning, overexpression, and site-directed mutagenesis. *J Biol Chem* 1996 ; 271 : 27395-27401.
- 2) Qian Z<sup>1)</sup>, Iwasaki T, Wakagi T<sup>1)</sup>, Oshima T<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>東工大, 生命理学, <sup>2)</sup>東京薬科大, 生命科学) : 2-Oxoacid : ferredoxin oxidoreductase from the thermoacidophilic archaeon, *Sulfolobus* sp. strain 7. *J Biochem* 1996 ; 120 : 587-599.
- 3) Iwasaki T, Imai T<sup>1)</sup>, Urushiyama A<sup>1)</sup>, Oshima T<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>立教大, 化学, <sup>2)</sup>東京薬科大, 生命科学) : Redox-linked ionization of sulferredoxin of *Sulfolobus* sp. strain 7, an archaeal Rieske-type [2Fe-2S] protein. *J Biol Chem* 1996 ; 271 : 27659-27663.
- 4) Iwasaki T, Oshima T<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>東京薬科大, 生命科学) : Role of cytochrome b<sub>562</sub> in the archaeal aerobic respiratory chain of *Sulfolobus* sp. strain 7. *FEMS Microbiol. Lett* 1996 ; 144 : 259-266.
- 5) Iwasaki T, Suzuki T<sup>1)</sup>, Kon T<sup>1)</sup>, Imai T<sup>2)</sup>, Urushiyama A<sup>2)</sup>, Ohmori D<sup>3)</sup>, Oshima T<sup>4)</sup> (<sup>1)</sup>東工大, 生命理学, <sup>2)</sup>立教大, 化学, <sup>3)</sup>順天堂大, 化学, <sup>4)</sup>東京薬科大, 生命科学) : Novel zinc-containing ferredoxin family in the thermoacidophilic archaea. *J Biol Chem* 1997 ; 272 : 3453-3458.

- 6) Suzuki T<sup>1)</sup>, Inoki Y<sup>1)</sup>, Yamagishi A<sup>2)</sup>, Iwasaki T, Wakagi T<sup>1)</sup>, Oshima T<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>東工大, 生命理学, <sup>2)</sup>東京薬科大, 生命科学) : Molecular and phylogenetic characterization of isopropylmalate dehydrogenase of a thermoacidophilic archaeon, *Sulfolobus* sp. strain 7. J Bacteriol 1997 ; 179 : 1174-1179.
- 7) Nishino T<sup>1)</sup>, Kashima Y<sup>1)</sup>, Okamoto O, Iwasaki T, Nishino T (<sup>1)</sup>横浜市大, 医) : The monomeric form of xanthine dehydrogenase expressed in Baculovirus-insect cell system. Favins and Flavoproteins, 1996 ; 843-846.
- 8) Okamoto K, Nishino T : A new tight binding inhibitor of xanthine oxidase. Favins and Flavoproteins 1996 ; 839-842.
- 9) Niimura Y<sup>1)</sup>, Ohnishi K<sup>1)</sup>, Nishiyama Y<sup>1)</sup>, Kawasaki S<sup>1)</sup>, Miyaji T<sup>1)</sup>, Suzuki H, Nishino T, Massey V<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>東京農大, 生物生産, <sup>2)</sup>ミシガン大, 医) : *Amphibacillus xylanus* NADH oxidase/alkyl hydroperoxide reductase flavoprotein. Favins and Flavoproteins 1996 ; 741-750.

## 著 書

- 1) 堀 弘幸 : [分担] 新化学教科書シリーズ 第10巻, 「バイオケミストリー」(三浦謹一郎, 渡辺公綱 編著), 1997 ; pp58-119.

## 学会発表

### (1) シンポジウム :

- 1) Nishino T : Structure and function of xanthine dehydrogenase. Symposium on Biological Oxidations to Honor Professor Vincent Massey, Ann Arbor, Michigan (USA), June, 1996.
- 2) Okamoto K, Nishino T : A new tight binding inhibitor of xanthine oxidase. 12th International Symposium on Flavins and Flavoproteins, Calgary (Canada), June, 1996.
- 3) Nishino T<sup>1)</sup>, Okamoto K, Iwasaki T, Kashima Y<sup>1)</sup>, Nishino T (<sup>1)</sup>横浜市大医) : The structure and function of xanthine dehydrogenase expressed in baculovirus-insect cell system. 12th International Symposium on Flavins and Flavoproteins, Calgary (Canada), June, 1996.
- 4) Niimura Y, Nishiyama Y, Miyaji T, Suzuki H, Nishino T, Massey V : *Amphibacillus xylanus* NADH/alkyl hydroperoxide reductase flavoprotein. 12th International Symposium on Flavins and Flavoproteins, Calgary (Canada), June, 1996.
- 5) Nishino T, Okamoto K, Nakanishi S, Hori H, Nishino T : The mechanism of conversion of xanthine dehydrogenase to xanthine oxidase. International Symposia on Oxygen homeostasis and its dynamics (Tokyo), December, 1996.

### (2) 招待講演 :

- 1) 堀 弘幸 : NOSって何? . 第36回生化学会若い研究者の会夏の学校 (神戸), 1996. 8.

### (3) 一般講演 :

- 1) 大坪保雄<sup>1)</sup>, 沢倫太郎<sup>1)</sup>, 進 純郎<sup>1)</sup>, 荒木 勤<sup>1)</sup>, 堀 弘幸, 西野武士(<sup>1)</sup>産婦人科) : ヒト胎盤一酸化窒素合成酵素 (NOS) 活性の定量化の試み. 第48回日本産科婦人科学会学術講演会 (横浜), 1996. 4.
- 2) 大坪保雄<sup>1)</sup>, 堀 弘幸, 沢倫太郎<sup>1)</sup>, 進 純郎<sup>1)</sup>, 西野武士, 荒木 勤<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>産婦人科) : 妊娠ヒト胎盤の一酸化窒素合成酵素活性および isoform の検討. 日本産科婦人科栄養代謝研究会 (岡山), 1996. 8.
- 3) 永原則之, 西野武士 : mercaptopyruvate sulfurtransferase の基質結合部位におけるアミノ酸残基の役割. 第69回日本生化学会大会 (札幌), 1996. 8.
- 4) 堀 弘幸, 岩崎俊雄, 倉橋容子, 西野武士 : 脳神経型一酸化窒素合成酵素活性化/安定化物質の検索. 第69回日本生化学会 (札幌), 1996. 8.



- 5) 岩崎俊雄, 堀 弘幸, 倉橋容子, 西野武士: NO 合成酵素ヘム結合ドメインとシトクロム P450 とのトポロジー比較. 第69回日本生化学会 (札幌), 1996. 8.
- 6) 遠藤弥重太<sup>1)</sup>, 吉成茂夫<sup>1)</sup>, 山下健一<sup>1)</sup>, 堀 弘幸, 野中孝昌<sup>2)</sup>, 三井幸雄<sup>2)</sup>, 武田英士<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>愛媛大, 工, <sup>2)</sup>長岡技術大): alpha-サルシン変異体の作製とその RNase 活性の解析. 第69回日本生化学会 (札幌), 1996. 8.
- 7) 岩原信一郎, 阿部靖子, 堀 弘幸, 西野武士: ヘム結合23kDa 蛋白 (HBP23) の大腸菌による大量発現とその抗酸化作用におけるシステイン残基の性質. 第69回日本生化学会 (札幌), 1996. 8.
- 8) 堀 弘幸, 岩崎俊雄, 倉橋容子, 梅田真郷<sup>1)</sup>, 西野武士 (<sup>1)</sup>都臨床研, 炎症): 牛大脳より抽出される一酸化窒素合成酵素活性化/安定化物質. 「生体機能における金属イオンの特異的作用の分子科学」第2回プロジェクト研究会 (岡崎), 1996. 10.
- 9) 岩崎俊雄, 堀 弘幸, 倉橋容子, 西野武士: NO 合成酵素ヘム結合ドメインの Thr315. 「生体機能における金属イオンの特異的作用の分子科学」第2回プロジェクト研究会 (岡崎), 1996. 10.
- 10) 堀 弘幸, 岩崎俊雄, 倉橋容子, 梅田真郷<sup>1)</sup>, 西野武士 (<sup>1)</sup>都臨床研, 炎症): 脳神経型一酸化窒素合成酵素を活性化/安定化する脂溶性物質について. 「生体機能における金属イオンの特異的作用の分子科学」第1回ワークショップ (京都), 1996. 12.
- 11) 岩崎俊雄, 堀 弘幸, 倉橋容子, 林 陽子, 小倉 勤<sup>1)</sup>, 江角浩安<sup>1)</sup>, 西野武士 (<sup>1)</sup>国立ガンセンター, 東支所): 脳神経型 NO 合成酵素 alternate splicing 産物 nNOS2 のヘム結合ドメイン. 「生体機能における金属イオンの特異的作用の分子科学」第1回ワークショップ (京都), 1996. 12.
- 12) 阿部靖子, 岩原信一郎, 堀 弘幸, 西野武士: 抗酸化作用を有するラットヘム結合蛋白質 (HBP23). 「生体機能における金属イオンの特異的作用の分子科学」第1回ワークショップ (京都), 1996. 12.
- 13) 西野朋子, 岡本 研, 堀 弘幸, 岩崎俊雄, 水島純子, 西野武士: 昆虫細胞により発現したキサンチン酸化酵素の性質の検討 (I). 「生体機能における金属イオンの特異的作用の分子科学」第1回ワークショップ (京都), 1996. 12.
- 14) 中西茂子, 西野朋子, 岡本 研, 堀 弘幸, 水島純子, 西野武士: 昆虫細胞により発現したキサンチン酸化酵素の性質の検討 (II). 「生体機能における金属イオンの特異的作用の分子科学」第1回ワークショップ (京都), 1996. 12.

## 6. 生化学第二講座

### 研究概要

1) 分子生物部門：DNA の修復機構の解析，修復異常と疾患の関係を調べている。細菌のミスマッチ修復酵素である MutS 蛋白と相同性の高い MSH3 (MutS homolog 3) 蛋白の遺伝子をクローニングした。Jiricny 等との共同研究で，MSH3と MSH2の複合体 (hMSH $\beta$ ) がループミスマッチに特異的に結合することを in vitro 及び in vivo の実験系で示した。MSH3遺伝子の突然変異をいくつかの大腸癌細胞で発見し，MSH3蛋白の異常が細胞の癌化に関係している可能性を示した。

2) 遺伝子診断部門：遺伝病や癌の遺伝子診断を行っている。低フォスファターゼ症(アルカリフォスファターゼ欠損症)や先天性副腎過形成(ステロイド21ヒドロキシラーゼ欠損症)の遺伝子診断法を確立し，出生前診断も含め，国内外からの臨床サンプルについての解析を行っている。さらに，千駄木付属病院での遺伝病外来の開設に伴い，遺伝病検査システムの拡充を進めている。

3) 遺伝子治療部門：遺伝子導入技術の開発を行っている。レトロウイルスベクターの改良や導入法の条件を検討し造血幹細胞への遺伝子導入の実用化を進めている。レトロウイルスベクターのエンベロープを改造し，特定の組織にのみ遺伝子を導入できる細胞標的ベクターの開発に成功した。CD4を発現するアデノウイルスベクターと HIV ベクターの二重感染法により神経細胞やマクロファージなどの非分裂細胞に遺伝子導入する方法を確立した。アデノ随伴ウイルス (AAV) の染色体への組み込み機構を利用して，外来遺伝子を特定の染色体の部位に組み込む方法の開発を行った。

ベクター開発以外では，臨床各科と共同で遺伝子治療の前臨床試験を行っている。ゴーシェ病，異染色性ロイコディトロフィーの治療用ベクターを作製し，ヒトの末梢血幹細胞や骨髓幹細胞を標的とした臨床プロトコールの準備を進めている(小児科)。自殺遺伝子をもつアデノウイルスベクターを使い，ラットの膀胱癌に対する経尿道的遺伝子治療(泌尿器科)やイヌの消化器癌に対する経内視鏡的遺伝子治療(第一外科)の動物実験を行っている。

### 研究業績

#### 論文

(1) 原著：

- 1) Miyake K, Tohyama T, Shimada T : Two step gene transfer using adenovirus vector carrying the CD4 gene and HIV vectors. *Hum Gene Ther* 1996 ; 18 : 2281-2287.
- 2) Obaru K<sup>1)</sup>, Fujii S<sup>1)</sup>, Matsushita S<sup>1)</sup>, Shimada T, Takatsuki K<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>Dept. Of Internal Medicine, Kumamoto University) : Gene therapy for adult T cell leukemia using human immunodeficiency virus vector carrying the thymidine kinase gene of herpes simplex virus type 1. *Hum. Gene Ther* 1996 ; 7 : 2203-2208.
- 3) Palombo F<sup>1)</sup>, Iaccarino I<sup>1)</sup>, Nakajima E, Ikejima M, Shimada T, Jiricny J<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>Istituto di Ricerca di Biologia Molecolare) : "P. Angeletti". hMutS $\beta$ , a heterodimer of hMSH2 and hMSH3, binds to insertion/deletion loops in DNA. *Current Biol* 1996 ; 6 : 1181-1184.
- 4) Hu H<sup>1)</sup>, Shioda T<sup>1)</sup>, Moriyama C<sup>1)</sup>, Xin X<sup>1)</sup>, Hasan M K<sup>1)</sup>, Miyake K, Shimada T, Nagai Y<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>東大・医科研ウイルス感染研) : Infectivities of human and other primate lentiviruses are activated by desialylation of the virion surface. *J Virol* 1996 ; 70 : 7462-7470.
- 5) Orimo H, Nakajima E, Hayashi Z, Kijima K, Watanabe A, Tenjin H<sup>1)</sup>, Araki T<sup>1)</sup>, Shimada T (<sup>1)</sup>Department of Obstetrics and Gynecology) : First trimester prenatal molecular diagnosis of infantile hypophosphatasia in a Japanese family. *Prenatal Diag* 1996 ; 16 : 559-563.
- 6) Takase B<sup>1)</sup>, Maruyama T<sup>1)</sup>, Kurita A<sup>1)</sup>, Uehata A<sup>1)</sup>, Nishioka T<sup>1)</sup>, Mizono K<sup>1)</sup>, Nakamura H<sup>1)</sup>, Katsura K<sup>2)</sup>,

- Kanda Y (<sup>1</sup>防衛医大, <sup>2</sup>日本医大・2内) : Arachidonic acid metabolites in acute myocardial infarction. *Agiology* 1996 ; 47(7) : 649-661.
- 7) Takase B<sup>1</sup>, Kurita A<sup>1</sup>, Maruyama T<sup>1</sup>, Uehata A<sup>1</sup>, Nishioka T<sup>1</sup>, Mizuno K<sup>1</sup>, Nakamura H<sup>1</sup>, Kanda Y (<sup>1</sup>防衛医大) : Change of plasma leukotriene C4 during myocardial ischemia in humans. *Clinical Cardiology* 1996 ; 19(3) : 198-204.
- 8) Medin JA<sup>1</sup>, Migita M, Pawliuk R<sup>2</sup>, Jacobson S<sup>1</sup>, Amiri M<sup>1</sup>, Stahl SK<sup>1</sup>, Brady RO<sup>1</sup>, Humphries RK<sup>2</sup>, Karlsson S<sup>1</sup> (<sup>1</sup>NIH/NINDS, <sup>2</sup>Terry Fox Labo.Canada.) : A bicistronic therapeutic retroviral vector enables sorting of transduced CD34<sup>+</sup> cells and corrects the enzyme deficiency in cells from Gaucher patients. *Blood* 1996 ; 87 : 1754-1762.
- 9) Ueda T<sup>1</sup>, Fukunaga Y<sup>1</sup>, Migita M, Watanabe A<sup>1</sup>, Kaneko K<sup>1</sup>, Morita T<sup>2</sup>, Yamamoto M<sup>1</sup> (<sup>1</sup>日本医大・小児科, <sup>2</sup>国立東静病院・小児科) : Improvement of bone disease with increased dose of glucocerebrosidase in a Gaucher disease patient who had a bone lesion present during low-dose enzyme replacement therapy. *Acta Paediatrica Japonica* 1996 ; 38 : 260-264.
- 10) Yasukawa M<sup>1</sup>, Inoue Y<sup>1</sup>, Ohminami H<sup>1</sup>, Sada E<sup>1</sup>, Miyake K, Tohyama T, Shimada T, Fujita S<sup>1</sup> (<sup>1</sup>愛媛大学・1内) : Human herpesvirus 7 infection of lymphoid and myeloid cell lines transduced with an adenovirus vector containing the CD4 gene. *J Virol* 1997 ; 71 : 1708-1712.
- 11) Yamamoto S<sup>1</sup>, Suzuki S, Hoshino A, Akimoto M<sup>1</sup>, Shimada T (<sup>1</sup>Department of Urology, Nippon Medical School) : Herpes simplex virus thymidine kinase/ganciclovir-mediated killing of tumor cell induces tumor-specific cytotoxic T cell in mice. *Cancer Gene Ther* 1997 ; 4(2) : 91-96.
- (2) 綜説 :
- 1) Shimada T : Current status and future prospects of human gene therapy. *Acta Ped Japonica* 1996 ; 38 : 176-181.
- 2) 島田 隆 : AIDS 遺伝子治療. *医のあゆみ* 1996 ; 176(1) : 114-117.
- 3) 島田 隆 : 遺伝子治療. *日本リウマチ学会誌* 1996 ; 36(1) : 62-68.
- 4) 鈴木 聡, 島田 隆 : レトロウィルスベクターの基礎と応用. *医のあゆみ* 1996 ; 177(3) : 1001-1006.
- 5) 島田 隆 : 小児科臨床と遺伝子治療—遺伝子治療を理解するための初歩的知識. *小児臨* 1996 ; 49 (別冊) : 2568-2574.
- 6) 島田 隆 : 遺伝子治療の現状と問題点. *小児内科別冊* 1996 ; 28 : 35-40.
- 7) 島田 隆 : 遺伝子治療の現状と問題点. *日臨麻会誌別冊* 1996 ; 17(2) : 81-87.
- 8) 折茂英生 : 低ホスフォターゼ症の病態像と分子診断. (特集 : アルカリホスフォターゼ-マルチ機能蛋白). *臨床科学* 1996 ; 33(2) : 173-181.
- 9) 島田 隆 : 遺伝子治療の現状と問題点. *小児内科* 1996 ; 28(増刊号) : 35-40.
- 10) 三宅弘一, 島田 隆 : 非分裂細胞への遺伝子導入. *Molecular Medicine* 1996 ; 33 : 1090-1091.
- 11) 三宅弘一, 島田 隆 : AIDS の遺伝子治療 (特集 : AIDS の治療). *臨床科学* 1997 ; 33 : 81-87.
- 12) 三宅弘一, 右田 真, 島田 隆 : 新しいテクノロジーの開発と展望 (特集 : 遺伝子治療). *イラスト医学&サイエンスシリーズ* 1997 ; 104-108.

## 著 書

- 1) Shimada T, Miyake K : [分担] Targeted gene transfer into CD4 positive cells by HIV based retroviral vectors. *Molecular Biology of Hematopoiesis*. (Abraham, N. G., Asano, S., Brittinger, G., and Shadduck, R., eds.) 1996 ; pp323-329.
- 2) Medin J A<sup>1</sup>, Migita M, Karlsson S<sup>1</sup> (<sup>1</sup>NIH/NINDS) : [分担] Gene therapy of enzyme and

immunodeficiencies in the hematopoietic system. (G. Morstyn, W. Sheridan ed). Cell Therapy. 1996 ; pp386-413. Cambridge. New York.

- 3) 池島三与子, 島田 隆 : [分担] ミスマッチ修復の分子機構と発癌. "DNA 複製と発癌" (松影昭夫編). ニューメディカルサイエンスシリーズ. 1996 ; pp143-157. 羊土社.
- 4) 右田 真 : [分担] NIH/NINDS/DMNB Karlsson, S. Lab. 第 2 章ウィルスベクターの作製法 : 遺伝子治療の基礎技術. 実験医学別冊マニュアル UP シリーズ. (島田 隆, 斎藤 泉, 小澤敬也編). 1996 ; pp68-80, 羊土社.

## 学会発表

### (1) 特別講演 :

- 1) 島田 隆 : 遺伝子治療 最近の進歩 : 第5回川島カンファレンス (名古屋), 1996. 10.

### (2) シンポジウム :

- 1) Shimada T : Targeted gene transfer into CD4<sup>+</sup> cells using HIV based retroviral vectors. THE 9TH ANNUAL MEETING OF JAPANESE ASSOCIATION FOR ANIMAL CELL TECHNOLOGY (YOKOHAMA), 1996. 9.
- 2) 島田 隆 : 遺伝子治療, 最近の進歩. 金沢大学十全医学会総会・学術集会 (金沢), 1996. 6.
- 3) 島田 隆 : 遺伝子治療 最近の進歩. 脳腫瘍遺伝子療法懇話会 (神経疾患遺伝子治療懇話会) (佐賀). 1996. 6.
- 4) 島田 隆 : 遺伝子治療・最近の進歩と将来展望. 第 8 回21世紀の薬学を語る京都シンポジウム『ウィルス学と薬学の接点-同床異夢をのり越えてめざすもの』(京都), 1996. 6.
- 5) 島田 隆 : 「先端技術と現代医学」エイズの遺伝子治療 : BIO JAPAN '96 (東京), 1996. 7.
- 6) 島田 隆 : 「癌遺伝子治療の新しい方向性 : 遺伝子導入技術の問題点」. 第55回日本癌学会総会 (横浜). 1996. 10.
- 7) 島田 隆 : 「遺伝子治療の現状と将来」 遺伝子導入技術の進歩. 第24回日本臨床免疫学会 (東京), 1996. 9.

### (3) ワークショップ :

- 1) 右田 真 : 選択性を有するレトロウィルスベクターによる Gaucher 病に対する造血幹細胞への遺伝子導入. 第 3 回遺伝子治療研究会. 1996. 11.
- 2) 松倉則夫<sup>1)</sup>, 恩田昌彦<sup>2)</sup>, 星野有哉, 五十嵐健人, 長谷川博一<sup>1)</sup>, 田中茂夫<sup>2)</sup>, 飯島 修<sup>3)</sup>, 秋山勝彦<sup>3)</sup>, 後藤 武, 田久保海誉<sup>4)</sup>, 鈴木 聡, 島田 隆 (<sup>1)</sup>日本医大1外科, <sup>2)</sup>2 外科, <sup>3)</sup>久光製薬・筑波研, <sup>4)</sup>都老人研・病理) : イヌ実験胃癌の遺伝子治療. 第55回日本癌学会総会 (横浜), 1996. 10.
- 3) 赤坂修治<sup>1)</sup>, 清水宏之<sup>1)</sup>, 鈴木 聡, 五十嵐健人, 寺島保典<sup>1)</sup>, 秋元成太<sup>1)</sup>, 遠山 隆, 島田 隆 (<sup>1)</sup>日本医大泌尿器科) : HSV-tk 遺伝子組換え HSV-tkadenovirus vector の膀胱癌に対する抗腫瘍効果の検討. 第55回日本癌学会総会 (横浜). 1996. 10.

### (4) 一般講演 :

- 1) Tamayose K, Hirai Y, Shimada T : AAVvector mediated gene transfer into human primary hematopoietic cells. The second annual meeting of Japanese society of gene therapy (Tokyo), 1996. 6.
- 2) Miyake K, Suzuki N, Tohyama T, Shimada, T : Gene transfer into non-dividing cells by means of HIV based vectors. The second annual meeting of Japanese society of gene therapy (Tokyo), 1996. 6.
- 3) Migita M, Anderson S<sup>1)</sup>, Stahl SK<sup>1)</sup>, Schiffman R<sup>1)</sup>, Humphries RK<sup>2)</sup>, Karlsson S<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>NIH, USA, <sup>2)</sup>Terry Fox Labo., Canada) : Selection of transduced CD34<sup>+</sup> progenitors and enzymatic correction of cells from Gaucher patients using bicistronic selectable cell surface antigen, CD24. The second annual meeting of Japanese society of gene therapy (Tokyo), 1996. 6.
- 4) Migita M, Stahl S K<sup>1)</sup>, M, Anderson S<sup>1)</sup>, Schiffman R<sup>1)</sup>, Humphries R K<sup>2)</sup>, Karlsson S<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>NIH, USA, <sup>2)</sup>Terry

- Fox Labo., Canada) : Sorting and optimal transduction condetions for primitive hematopoietic progenitors using the CD24 selectable marker. The American Society of hematology the 38th annual meeting. (Orlando, USA), 1996. 12.
- 5) 折茂英生, 五関正江<sup>1)</sup>, 佐藤清二<sup>2)</sup>, 島田 隆 (<sup>1)</sup>東京医歯大・歯・生化, <sup>2)</sup>慶応大・医・小児科) : 長鎖 PCR を用いた組織非特異型アルカリホスホターゼのイントロンの塩基配列の決定と低ホスホターゼ症の遺伝子解析への応用. 第69回日本生化学会・第19回日本分子生物学会合同年会 (札幌), 1996. 8.
  - 6) 久安早苗, 宮内雅人, 山田理加, 秋山勝彦<sup>1)</sup>, 後藤 武<sup>1)</sup>, 佐藤秀次<sup>1)</sup>, 島田 隆 (<sup>1)</sup>久光製薬) : アシアロ糖蛋白受容体を介する肝細胞特異的遺伝子導入法の改良 : リジン-セリン-コポリマー使用によるリガンド-DNA 複合体の溶解性の高進. 第69回日本生化学会・第19回日本分子生物学会合同年会 (札幌), 1996. 8.
  - 7) 田野崎栄, 猪口孝一, 埴 秀樹, 岩切理歌, 二木真琴, 檀 和夫, 池島三与子, 島田 隆 : 急性白血病における Human MSH3 と microsatellite instability, 染色体異常, DCC 発現異常との関連. 第58回日本血液学会総会 (宇都宮), 1996. 4.
  - 8) 中島英逸, 池島三与子, 島田 隆 : hMSH3 蛋白質の精製と機能解析. 第69回日本生化学会・第19回日本分子生物学会合同年会 (札幌), 1996. 8.
  - 9) 三宅弘一, 鈴木紀子, 松岡弘樹, 玉寄兼治, 島田 隆, 田野崎栄, 猪口孝一, 檀 和夫, 野村武夫 : HIV ベクターによる ATL の遺伝子治療の検討. 第58回日本血液学会総会 (宇都宮), 1996. 8.
  - 10) 三宅弘一, 鈴木紀子, 猪口孝一, 島田 隆 : DCC 遺伝子による癌遺伝子治療の検討. 第69回日本生化学会大会・第19回日本分子生物学会年会 (札幌), 1996. 8.
  - 11) 折茂英生, 五関正江<sup>1)</sup>, 飯村忠浩<sup>1)</sup>, 高木裕三<sup>2)</sup>, 渡部 久<sup>3)</sup>, 武田和久<sup>4)</sup>, 佐藤清二<sup>5)</sup>, 真柳秀昭<sup>6)</sup>, 大竹 明<sup>7)</sup>, 大井田新一郎<sup>1)</sup>, 島田 隆 (<sup>1)</sup>東京医歯大・歯・生化, <sup>2)</sup>同・小児歯科, <sup>3)</sup>同・第2保存, <sup>4)</sup>岡山大・医・公衆衛生, <sup>5)</sup>慶応大・医・小児科, <sup>6)</sup>東北大・歯・小児歯科, <sup>7)</sup>埼玉医大・小児科) : 日本人低ホスホターゼ症 7 家系の遺伝子解析. 第41回日本人類遺伝学会大会 (札幌), 1996. 10.
  - 12) 五十嵐健人, 鈴木 聡, 星野有哉, 遠山 隆, 島田 隆 : Adenovirus vector を用いた癌性腹膜炎に対する遺伝子治療の検討. 第55回日本癌学会総会 (横浜), 1996. 10.
  - 13) 三宅弘一, 鈴木紀子, 飯島 修, 島田 隆 : HIV ベクターによる AIDS の遺伝子治療. 第59回日本血液学会総会 (京都), 1997. 3.
  - 14) 神田佳和, 久安早苗, 深井文雄 : Retinoic Acid の軟骨前駆細胞に対する離脱増幅作用. 第48回日本ビタミン学会大会, 1996. 6.
  - 15) 神田佳和, 久安早苗, 深井文雄 : MGF の軟骨前駆細胞に対する作用. 第69回日本生化学会大会・第19回日本分子生物学会年会 (札幌), 1996. 8.
  - 16) 右田 真, Anderson S<sup>1)</sup>, Stahl S K<sup>1)</sup>, Humphries R K<sup>2)</sup>, Karlsson S<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>NIH, USA, <sup>2)</sup>Terry Fox Labo., Canada) : 選択性を有するレトロウィルスベクターによる Gaucher 病に対する造血幹細胞への遺伝子導入. 第39回日本先天代謝異常学会, 1996. 11.
  - 17) 右田 真, 島田 隆, Karlsson S<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>NIH/NINDS) : 選択マーカー (CD24) を有するレトロウィルスベクターを用いた造血幹細胞への遺伝子導入. 第59回日本血液学会総会 (京都), 1997. 3.
  - 18) 清水宏之<sup>1)</sup>, 赤坂修治<sup>1)</sup>, 鈴木 聡, 五十嵐健人, 寺島保典<sup>1)</sup>, 秋元成太<sup>1)</sup>, 島田 隆 (<sup>1)</sup>日本医科大学泌尿器科) アデノウィルスベクター膀胱内注入による BBN 誘発ラット膀胱癌の遺伝子治療の検討. 第84回日本泌尿器科学会総会, 1996. 8.

## 7. 薬理学講座

### [薬理学]

#### 研究概要

当教室では、A) 神経細胞死の機構の解明、B) シナプス伝達機構の検索、C) 平滑筋の収縮機構の解明を目的とし、以下の研究を行っている。

A (1) 運動ニューロンの生存、神経突起伸張活性を示す物質が骨格筋中に存在すると想定し、ニワトリ胚後肢筋抽出物よりこの物質の分離精製を継続している。(2) ショウジョウバエ中枢神経系より樹立した細胞株において細胞死を誘導する系を確立し、解析した結果、この細胞内には少なくとも2種類のアポトーシスの経路が存在することが明らかとなった。これをモデル系として用い、神経細胞死の細胞内機構の解析を行っている。(3) ニワトリ脊髄細胞初代培養系を用いて、神経細胞の生存に関与する細胞内情報伝達機構の検討を行っている。(4) ニワトリの運動ニューロンよりアポトーシス関連遺伝子の検索を行っている。

B (1) 運動ニューロン及びショウジョウバエ中枢神経系より樹立した神経細胞株を用い、既存の神経伝達物質の非伝達物質作用の検索を行っている。(2) ラット脊髄の標本で運動ニューロンにパッチクランプを行う実験系を確立し、シナプス入力の詳細解析を行っている。

C 平滑筋の収縮・弛緩機構解明の目的で、モルモット摘出回腸縦走筋および摘出気管筋の膜透過性標本を作成し、 $Ca^{2+}$ 濃度変化に依存しない収縮・弛緩反応における細胞内収縮タンパク系やGタンパクの関与の検討している。

その他 (1) 新生ラット摘出脊髄標本を用いて、グルタミン酸受容体に対するATAの作用を検討した。(2) ビデオカメラを用いた色彩測定装置を試作し、生体の色彩情報の測定法とその評価法を確立した。

#### 研究業績

##### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Ui-Tei K, Ueda R<sup>1)</sup>, Togashi S<sup>1)</sup>, Miyake T<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>Mitsubishi Kasei Institute of Life Sciences) : Differentiation and transdetermination of cultured *Drosophila* imaginal disc cells. In Vitro Cell. and Dev. Biol 1996 ; Animal 32 : 524-527.
- 2) Ichinose T, Murakoshi T<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>Tokyo Med. and Dent. Univ. ) : Electrophysiological elucidation of pathways of intrinsic horizontal connections in rat visual cortex. Neuroscience 1996 ; 73(1) : 25-37.
- 3) Tabata H<sup>1)</sup>, Kumazawa K<sup>1)</sup>, Funakawa M<sup>1)</sup>, Takimoto J<sup>1)</sup>, Akimoto M (<sup>1)</sup>Nissan Motor Co., Ltd) : Microstructures and Optical Properties of Scales of Butterfly Wings. Optical Review 1996 ; 3 : 139-145.
- 4) 中野圭介 :  $\alpha$ -アドレノセプターを介するラット摘出右心房の変時作用について。日医大誌 1996 ; 63 : 473-480.

##### (2) 総説：

- 1) 宮田雄平：シナプス：序にかえて。Clinical Neuroscience 1996 ; 14 : 864-865.
- 2) 鈴木秀典，宮田雄平：素量的放出と非素量的放出（特集：シナプス-構造と機能）。Clinical Neuroscience 1996 ; 14 ; 913-915.
- 3) 一瀬倫見，宮田雄平：痛覚における内因性活性物質の役割。Clinical Neuroscience 1996 ; 14 : 1004-1006.
- 4) 宮田雄平：人工甘味料の神経毒性？ Clinical Neuroscience 1997 ; 15 : 101.
- 5) 宮田雄平：神経系の発生とシナプス形成：シナプス消失。Clinical Neuroscience 1997 ; 15 : 264-266.
- 6) 宮田雄平，一瀬倫見，張 天祥：Neurotrophin-3, Neurotrophin-4/5. 神経精神薬理 1996 ; 18 : 823-831.

## 学会発表

### (1) ワークショップ：

- 1) 程久美子, 佐藤 茂<sup>1)</sup>, 三宅 端, 宮田雄平<sup>(<sup>1</sup>中央電子顕微鏡施設)</sup>：ショウジョウバエ中枢神経系培養細胞株における異なるタイプのアポトーシス。昆虫の変態・休眠の分子機構。1996。 8。

### (2) 招待講演：

- 1) Akimoto M, Asaeda T<sup>1)</sup>, Miyata Y, Kikuta T<sup>2)</sup>, Namiki H<sup>2)</sup> (<sup>1</sup>Color Consultant, <sup>2</sup>Waseda Univ.)：Light-Tissue Interaction and Evaluation of Color Information in Biomedicine. Progress in Electromagnetics Research Symposium (Hong Kong), 1997。 1。

### (3) 一般講演：

- 1) Takagi Y<sup>1)</sup>, Miyake T, Ui-Tei K, Hirohashi S<sup>1)</sup> (<sup>1</sup>Japan Science and Technology Corporation, Hirohashi Cell Configuration)：A *Drosophila* cell line established from the third instar CNS shows laminin dependent focal contact formation. 37th Annual Drosophila Research Conference. (U.S.A.), 1996。 5。
- 2) Akimoto M, Miyata Y, Kikuta T<sup>1)</sup>, Namiki H<sup>1)</sup>, Asaeda T<sup>2)</sup> (<sup>1</sup>Waseda Univ., <sup>2</sup>Color Consultant)：Fabrication and Evaluation of Microscopic Colorimetry Using Charge-Coupled-Device Camera. Commission K, Electromagnetics in Biology and Medicine, 25th General Assembly of the International Union of Radio Science (URSI) (Lille, France), 1996。 8。
- 3) Kikuta T<sup>1)</sup>, Akimoto M, Namiki H<sup>1)</sup> (<sup>1</sup>Waseda Univ.)：Quantitation Method of Lightmicroscopical Immunostained Images through Image-Processing Techniques. 25th General Assembly of the International Union of Radio Science (Lille, France), 1996。 8。
- 4) 秋本眞喜雄, 宮田雄平, 浅枝暉雄<sup>1)</sup> (<sup>1</sup>カラーコンサルタント)：医学生物学における光と生体組織の相互作用および色彩情報の測定。第17回レーザー顕微鏡研究会, 1996。 6。
- 5) 鈴木秀典, 程久美子, 宮田雄平：ニワトリ胚培養運動神経細胞の生存維持に対するプロテインキナーゼ阻害薬の効果。第19回日本神経科学大会, 1996。 6。
- 6) 永野昌俊, 鈴木秀典, 程久美子, 宮田雄平：ショウジョウバエにおけるプロテインキナーゼ阻害剤, H-7によるアポトーシス。第19回日本神経科学大会, 1996。 6。
- 7) 高木康光<sup>1)</sup>, 程久美子, 三宅 端<sup>2)</sup>, 広橋説雄<sup>1)</sup> (<sup>1</sup>新技団, 広橋細胞形象プロジェクト, <sup>2</sup>三菱化学生命研)：ラミニンを基質として用いたショウジョウバエ神経細胞の培養系の確立とインテグリン分子のリン酸化。第69回日本生化学会大会, 第19回日本分子生物学会年会合同年会, 1996。 8。
- 8) 秋本眞喜雄, 朱 幽攻, 宮田雄平：生体の色彩情報の計測法とその評価。第5回日本バイオイメージング学会, 1996。 10。
- 9) 秋本眞喜雄, 朱 幽攻, 宮田雄平：色彩イメージングによる光と生体組織の相互作用の検討。第10回日本ME学会秋季大会, 1996。 10。
- 10) 山口俊平<sup>1)</sup>, 秋本眞喜雄 (<sup>1</sup>日本バイリン(株))：薬物の経皮吸収促進と皮膚の解析について。日本ME学会・生体情報の可視化技術研究会, 1996。 12。
- 11) 富岡譲二<sup>1)2)</sup>, 須崎紳一郎<sup>1)2)</sup>, 黒川 顕<sup>1)2)</sup>, 山本保博<sup>2)</sup>, 大塚敏文<sup>2)</sup>, 根本香代, 岡村忠夫 (<sup>1</sup>多摩永山病院救命救急センター, <sup>2</sup>救急医学教室)：パラコートが腸管運動に与える影響とその機序。第11回日本中毒学会東日本部会, 1997。 2。
- 12) 富岡譲二<sup>1)2)</sup>, 須崎紳一郎<sup>1)2)</sup>, 黒川 顕<sup>1)2)</sup>, 山本保博<sup>2)</sup>, 大塚敏文<sup>2)</sup>, 根本香代, 岡村忠夫 (<sup>1</sup>多摩永山病院救命救急センター, <sup>2</sup>救急医学教室)：モルモット回腸の収縮反応に及ぼす paraquat の抑制作用。第70回日本薬理学会年会, 1997。 3。
- 13) 永野昌俊, 鈴木秀典, 程久美子, 佐藤 茂<sup>1)</sup>, 宮田雄平 (<sup>1</sup>中央電子顕微鏡施設)：ショウジョウバエ中枢神経系由来細胞株において H-7 によって誘導されるアポトーシスは ICE 様プロテアーゼにより阻止される。第70回日

本薬理学会年会，1997． 3．

- 14) 中野圭介，宮田雄平： $\alpha$  作働薬によるラット摘出右心房の変時作用について．第70回日本薬理学会年会，1997． 3．

## [臨床薬理センター]

### 研究概要

臨床薬理センターでは臨床薬理学の立場から次のような研究を行っている。

1. Population pharmacokinetics の研究：NONMEM (Non Linear Mixed Effect Model) は患者一人当たりの採血点が1～2点でも解析可能な population pharmacokinetics 理論を応用した薬物動態解析プログラムで，その臨床的有用性を研究している．特に開発中の薬物の高齢者と若年者の薬物動態の相違を検討するため，従来の薬物動態解析法と population pharmacokinetics の両方の手法で比較している．

2. 自然発症慢性膵炎モデル：自然発症慢性膵炎モデルの WBN/Kob ラットを用いた抗慢性膵炎治療薬の効果の評価法に関する研究．慢性膵炎治療薬の治療メカニズムに関して Brd-U の細胞内取込みを指標として細胞増殖面からの検討を行っている．開発中の膵炎治療薬の本モデルによる薬効評価とヒトにおける臨床試験結果との関連も併せ検討している．

3. 薬物の臨床試験に関する方法論の研究：新薬開発における臨床試験のあり方，評価方法，薬物治験審査委員会 (IRB) のあり方などを委員会事務局としての業務経験を生かして研究している．本学で行われた臨床試験の実施状況，本学の IRB で問題となった事象を，付帯された条件，要望を通して retrospective に検討し IRB の果たす役割を考察した．

4. *Helicobacter pylori* と生体との免疫応答を中心とし研究を行っており，患者血清中に含まれる抗 *Helicobacter pylori* urease 抗体の臨床的意義に関して検討中である．さらに今年度は胃粘膜の局所免疫応答にも着目し，*Helicobacter pylori* urease に対する胃液中における抗体の産生意義に関して追跡中である．また，*Helicobacter felis* 株を用いたマウスモデルの作成を行い，胃粘膜障害の検討および *Helicobacter felis* urease を用いた感染防御機構の検索を行っている．

### 研究業績

#### 論文

(1) 原著：

- 1) 阿曾亮子，大須賀恵美子，大橋和史：医薬品開発における Population Pharmacokinetics の手法を用いた薬物動態解析．TDM 研究 1996；13：186-192．
- 2) 大須賀恵美子，阿曾亮子，大橋和史，奈良弘恵<sup>1)</sup>，堀口眞美<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>薬物治験審査委員会事務局)：治験水準向上のための IRB の役割—IRB からの条件・要望の分析—．臨床薬理 1997；28：351-352．
- 3) 阿曾亮子，大橋和史：医薬品開発における Population Pharmacokinetics．TDM 研究 1995；12：147-148．

#### 著書

- 1) 大橋和史，大須賀恵美子：[分担] 抗悪性腫瘍薬の臨床薬理．“臨床薬理学” (日本臨床薬理学会編)，1996；409-419，医学書院．

#### 学会発表

(1) 受賞講演：

- 1) 阿曾亮子：不整脈患者における disopyramide 光学異性体の population pharmacokinetics 解析と蛋白結合お



よび抗不整脈効果との関連性。第17回日本臨床薬理学会(臨床薬理学会平成8年度財団法人臨床薬理研究振興財団賞), 96. 11.

(2) シンポジウム:

- 1) 大橋和史: 治験実施におけるこれまでの問題点と改訂GCPへの対応: 治験審査委員会(IRB)の立場から。GCP改訂素案を念頭において新しい観点に立った臨床試験の進め方: ICH-GCPをも遵守したより科学的で倫理的な臨床試験の実施を目指して。1997. 3.

(3) 一般講演:

- 1) 大須賀恵美子, 阿曾亮子, 大橋和史, 奈良弘恵<sup>1)</sup>, 堀口眞美<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>薬物治験審査委員会事務局): 治験水準向上のためのIRBの役割-IRBからの条件・要望の分析-。第17回日本臨床薬理学会, 1996. 11.
- 2) 大須賀恵美子, 阿曾亮子, 奈良弘恵<sup>1)</sup>, 堀口眞美<sup>1)</sup>, 大橋和史(<sup>1)</sup>薬物治験審査委員会事務局): 日本医科大学5病院薬物治験審査委員会(IRB)年間報告(平成7年度)。第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 9.
- 3) 二神生爾, 高橋秀実<sup>1)</sup>, 廣田 薫, 野呂瀬嘉彦<sup>1)</sup>, 大橋和史, 小林正文<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>微生物・免疫学教室, <sup>2)</sup>第三内科): 慢性胃炎の分類に関するHP ウレアーゼに対する抗体検索の有用性。第82回日本消化器病学会総会, 1996. 4.

## 8. 病理学第一講座

### 研究概要

研究主題は、臓器としては腎臓、肺臓、心臓を中心とし、眼病理、消化器病理、腫瘍病理などにも及んでいる。内容としては炎症の修復機序の解明、病変における血管、結合織との関連についての研究が主である。国外諸施設との共同研究も積極的に推進し、米国 NIH 心肺研究所との気管創傷治癒に関する研究、Cincinnati 大学眼科学教室との角膜損傷とその修復についての検討、Nebraska 大学との細胞走化性についての研究が行われている。腎臓病理では、Thy-1腎炎を主とする実験腎炎モデルを用いた糸球体腎炎の病態の解明が続けられ、Thy-1腎炎発症期にみられる補体依存性アポトーシスの解析、Thy-1腎炎における好中球の役割、半月体形成性腎炎におけるアポトーシスの研究が行われた。また、腎血管炎における間質病変の成立に傍尿管毛細血管傷害が深く関わっていることを明らかにし、フランスで行われた日仏腎臓シンポジウムにおいて報告した。肺病理では、これまでの研究成果に基づき、間質性肺疾患における肺泡構造の改築、肺の形態形成における細胞外基質の関与などがシンポジウムにおいて報告され、各種肺疾患における matrix metalloproteinase (MMP) とその inhibitor の役割の解明、肺癌における弾性線維症の検討、thymidine phosphorylase と肺癌との関連についての研究が行われた。心臓については、逸脱弁膜の形成過程に関与する MMP やその inhibitor についての検討が行われた。眼病理は、角膜創傷治癒過程についての研究が主体で、アポトーシスの関与や MMP の動態などが検討された。このほか胃潰瘍における MMP の関与、卵巣黄体の血管形成についての研究などが行われている。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Shimizu A, Masuda Y, Kitamura H, Ishizaki M, Sugisaki Y, Yamanaka N : Apoptosis in progressive crescentic glomerulonephritis. *Lab Invest* 1996 ; 74 : 941-951.
- 2) Matsushima T, Fukuda Y, Tsukada K, Ymanaka N : The extracellular matrices and vascularization of the developing corpus luteum in rats. *J Submicrosc Cytol Pathol* 1996 ; 28 : 441-455.
- 3) Tsukada K, Mastusima T, Yamanaka N : Neovascularization of corpus luteum of rats during the estrus cycle. *Pathol Int* 1996 ; 46 : 408-416.
- 4) Wakamatsu K, Ghazizadeh M<sup>1)</sup>, Ishizaki M, Fukuda Y, Yamanaka N ( <sup>1</sup>中央電子顕微鏡研究施設 ) : Optimizing collagen antigen unmasking in paraffin-embedded tissues. *Histochem J* 1997 ; 29 : 65-72.
- 5) Asano T<sup>1)</sup>, Fukuda Y, Katsube Y<sup>1)</sup>, Fukunaga Y<sup>1)</sup>, Sugisaki Y, Yamamoto M<sup>1)</sup>, Yamanaka N ( <sup>1</sup>小児科 ) : Infantile acute monocytic leukemia with tumor formation expressing adhesion molecules. *Leuk Lymph* 1996 ; 23 : 173-179.
- 6) Kao WW-Y<sup>1)</sup>, Liu CY<sup>1)</sup>, Converse RL<sup>1)</sup>, Shiraishi A<sup>1)</sup>, Kao CW<sup>1)</sup>, Ishizaki M, Doetschman T<sup>1)</sup>, Duffy J<sup>1)</sup> ( <sup>1</sup>Department of Ophthalmology, University of Cincinnati ) : Keratin 12-deficient mice have fragile corneal epithelia. *Invest. Ophthalmol Vis Sci* 1996 ; 37 : 2572-2584.
- 7) Kao WW-Y<sup>1)</sup>, Zhu G<sup>1)</sup>, Benza R<sup>1)</sup>, Kao CW<sup>1)</sup>, Ishizaki M, Wander AH<sup>1)</sup> ( <sup>1</sup>Department of Ophthalmology, University of Cincinnati ) : Apperance of immune cells and expression of MHC II DQ molecule by fibroblasts in alkali-burned corneas. *Cornea* 1996 ; 15 : 397-408.
- 8) 持丸 博, 高橋卓夫<sup>1)</sup>, 久勝章司<sup>1)</sup>, 河内重人<sup>1)</sup>, 日野光紀<sup>1)</sup>, 川本雅司, 福田 悠, 川並汪一<sup>2)</sup>, 工藤翔二<sup>1)</sup> ( <sup>1</sup>第4内科, <sup>2</sup>第二病院病理部 ) 急性好酸球性肺炎の臨床病理学的検討. *日胸疾会誌* 1997 ; 35 : 22-29.
- 9) 川本雅司, 福田 悠, 福島光浩, 鴨井青龍<sup>1)</sup>, 小泉 潔<sup>2)</sup>, 山中宣昭 ( <sup>1</sup>産婦人科, <sup>2</sup>第2外科 ) : 原発性肺癌にお

ける Thymidine Phosphorylase の免疫組織学的局在。癌と化学療法 1996；23：1217-1219。

- 10) 松原美幸<sup>1)</sup>，川本雅司，田村浩一<sup>1)</sup>，渡会泰彦<sup>1)</sup>，前田昭太郎<sup>2)</sup>，杉崎祐一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>附属病院病理部，<sup>2)</sup>多摩永山病院病理部)：外陰部 Sebaceous carcinoma の 1 例。日臨細胞誌 1997；36：25-29。
- 11) 鴨井青龍<sup>1)</sup>，川本雅司，太田雄治郎<sup>1)</sup>，高橋英彦<sup>1)</sup>，荒木 勤<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>産婦人科)：子宮頸癌および子宮内膜癌患者における Thymidine Phosphorylase の活性と免疫組織学的局在。癌と化学療法 1996；23：801-804。

(2) 総説：

- 1) 山中宣昭：溶血性尿毒症症候群 (HUS) の病理。腎臓 1997；19：134-139。
- 2) 山中宣昭：抗 Thy-1腎炎。病理と臨床 1997；15 (臨時増刊号)：315。
- 3) 山中宣昭：高脂血症と腎。第31回日本小児腎臓学会学術セミナー記録集，日本小児腎臓学会 1996；5-7。
- 4) 福田 悠：間質性肺疾患における肺胞構造の改築 (特集：間質性肺疾患の病態と診断) 日医大誌 1996；63：379-383。
- 5) 福田 悠：特発性間質性肺炎における線維化の場とフィブロネクチンレセプター (特集：炎症肺における細胞分子機構)。分子呼吸器病 1997；1：2-10。
- 6) 川本雅司，福田 悠：病理医の立場から (特集：肺結節性陰影の診断)。臨床画像 1996；12：1270-1279。
- 7) 北村博司，山中宣昭：実験腎炎とアポトーシス (特集：腎とアポトーシス) 腎と透析 1996；41：781-788。
- 8) 北村博司，山中宣昭：Thy-1腎炎におけるアポトーシス (特集：腎とアポトーシス) 医学のあゆみ 1996；178：728-732。
- 9) 伊藤憲祐，河野 潤，高橋 健，川本雅司，小川真紀：「臨床医のために」術中迅速診断；適応が制限されている理由と注意点。日医大誌 1996；63：495-498。

著 書

- 1) Shimizu A, Kitamura H, Masuda Y, Ishizaki M, Sugisaki Y, Yamanaka N：〔分担〕 Glomerular capillary regeneration and endothelial cell apoptosis in both reversible and progressive models of glomerulonephritis. In：Progression of Chronic Renal Diseases. Contrib Nephrol. (eds by Koide H and Ichikawa I), 1996；pp29-40, Karger, Basel.
- 2) 山中宣昭：〔分担〕腎疾患，“Bio Science 用語ライブラリー：アポトーシス”，1996；pp192-193, 羊土社。
- 3) 福田 悠：〔分担〕筋線維芽細胞。“KEYWORD 1996-'97 呼吸器系” (小倉 剛，日和田邦男，山木戸道郎編)。1996；pp84-85, 先端医学社。
- 4) 福田 悠：〔分担〕肺疾患。“細胞外マトリックス—臨床医学への応用” (渡邊明治，岡崎 勲編)，1996；pp403-412, メディカルビュー社。
- 5) 佐藤雅史<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属第二病院放射線科)，福田 悠：〔分担〕間質性肺疾患。“臨床画像 SPECIAL 胸部画像診断—検査法の進歩と注目される胸部疾患” (宗近宏次編)，1996；pp81-91, メディカルビュー社。
- 6) 福田 悠：〔分担〕間質性肺疾患における肺胞構造改築。—電顕と免疫組織化学—。“Annual Review 呼吸器” (工藤翔二，土屋了介，金沢 実，太田 健編)，1997；pp110-116, 中外医学社。

学会発表

(1) 特別講演：

- 1) 山中宣昭：高脂血症と腎。第31回日本小児腎臓学会学術セミナー，1996。8。

(2) 教育講演：

- 1) 福田 悠：びまん性肺疾患の病理。日本胸部疾患学会北海道地方会第3回胸部疾患セミナー，1996。5。

(3) シンポジウム：

- 1) Yamanaka N, Kitamura H：Renal vasculitis and interstitial inflammation. 3rd Franco-Japanese Ne-

- phrology Symposium (Reims), 1996. 6.
- 2) 福田 悠：間質性肺疾患における肺胞構造の改築。(間質性肺疾患の病態と診断)，日本医科大学医学会第6回公開シンポジウム，1996. 6.
  - 3) 福田 悠：胎生肺，肺線維症，肺気腫における形態形成とECM(肺におけるマトリックス研究-臨床と基礎の接点)。第28回日本結合組織学会，1996. 5.
  - 4) 川本雅司：気道上皮細胞傷害とその修復機転。第17回六甲カンファレンス，1996. 8.
- (4) ワークショップ：
- 1) 北村博司，清水 章，益田幸成，石崎正通，杉崎祐一，山中宣昭：メサンギウム細胞の補体依存性アポトーシス。第85回日本病理学会総会，1996. 4.
  - 2) 石崎正通，尾崎憲子<sup>1)</sup>，福田 悠，山中宣昭<sup>(1)眼科</sup>：Arthus 反応による角膜障害の推移とアポトーシス。第85回日本病理学会総会，1996. 4.
- (5) 一般講演：
- 1) Shiraishi A<sup>1)</sup>，Kao CW<sup>1)</sup>，Shang Z<sup>1)</sup>，Kaufman AH<sup>1)</sup>，Converse R<sup>1)</sup>，Ishizaki M，Tseng SCG<sup>2)</sup>，Kao WW-Y<sup>1)</sup>  
(<sup>1)</sup>Department of Ophthalmology, University of Cincinnati, <sup>2)</sup>Bascom Palmer Eye Institute, University of Miami) : Characterization of mutation in BSK Mouse. 67th ARVO Meeting (Florida), 1996. 4.
  - 2) Kao WW-Y<sup>1)</sup>，Liu CY<sup>1)</sup>，Shiraishi A<sup>1)</sup>，Converse RL<sup>1)</sup>，Kao CW<sup>1)</sup>，Ishizaki M，Doetschman T<sup>1)</sup>，Duffy J<sup>1)</sup>  
(<sup>1)</sup>Department of Ophthalmology, University of Cincinnati) : Keratin 12 deficient mice with recurrent epithelial erosion. 67th ARVO Meeting (Florida), 1996. 4.
  - 3) Fukuda Y，Ishizaki M，Okada Y<sup>1)</sup>，Seiki M<sup>1)</sup>，Yamanaka N (<sup>1)</sup>金沢大学，がん研) : Expressions of matrix metalloproteinases and tissue inhibitor of metalloproteinases in diffuse pulmonary diseases. 1996 Int Conf Am Thoracic Society (New Orleans), 1996. 5.
  - 4) Horiba K<sup>1)</sup>，Fukuda Y，Ferrans VJ<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>第1外科，<sup>2)</sup>NHLBI, NIH) : Immunohistochemical study of FAS antigen and bcl-2 protein in cells undergoing apoptosis during rat tracheal wound healing. 1996 Int Conf Am Thoracic Society (New Orleans), 1996. 5.
  - 5) Kawamoto M，Fukushima M，Fukuda M，Kiozumi K<sup>1)</sup>，Yamanaka N (<sup>1)</sup>第2外科) : Immunohistochemical localization of thymidine phosphorylase in primary lung cancer. American Lung Association/American Thoracic Society International Conference (New Orleans), 1996. 5.
  - 6) Fukushima M，Fukuda Y，Kawamoto M，Haraguchi S<sup>1)</sup>，Koizumi K<sup>1)</sup>，Tanaka S<sup>1)</sup>，Yamanaka N (<sup>1)</sup>第2外科) : Elastosis of lung carcinoma. American Lung Association/American Thoracic Society International Conference (New Orleans), 1996. 5.
  - 7) Mochimaru H，Takahashi T<sup>1)</sup>，Kawanami O<sup>2)</sup>，Kawamoto M，Fukuda Y，Kudoh S<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>第4内科，<sup>2)</sup>第二病院病理部) : Characteristic of acute eosinophilic pneumonia. American Lung Association/American Thoracic Society International Conference (New Orleans), 1996. 5.
  - 8) Kitamura H，Yamanaka N : Renal vasculitis and peritubular capillary. 3rd Franco-Japanese Nephrology Symposium (Reims), 1996. 6.
  - 9) Horiba K<sup>1)</sup>，Fukuda Y，Stetler-Stevenson WG<sup>2)</sup>，Liotta LA<sup>2)</sup>，Ferrans VJ<sup>3)</sup> (<sup>1)</sup>第1外科，<sup>2)</sup>NCI, NIH, HL, <sup>3)</sup>NHLBI, NIH) : Matrix metalloproteinases (MMPs) and tissue inhibitor of metalloproteinases (TIMPs) during rat tracheal wound healing. United States and Canadian Academy of Pathology, 1996.
  - 10) Ishizaki M，Wakamatsu K，Shimoda M<sup>1)</sup>，Saiga T<sup>1)</sup>，Ohara K<sup>1)</sup>，Yamanaka N，Kao WW-Y<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>眼科，<sup>2)</sup>Department of Ophthalmology, University of Cincinnati) : Expressions of metalloproteinases/TIMP by myofibroblast in corneal wound healing. 3th JERVO Meeting (Montpellier), 1996. 10.
  - 11) Ozaki N<sup>1)</sup>，Ishizaki M，Saiga T<sup>1)</sup>，Ohara K<sup>1)</sup>，Kao WW-Y<sup>2)</sup>，Yamanaka N (<sup>1)</sup>眼科，<sup>2)</sup>Department of Ophthal-

- mology, University of Cincinnati) : Apoptosis mediates the decrease in cellularity during the healing process of arthus reaction in cornea. 3th JERVO Meeting (Montpellier), 1996. 10.
- 12) Saiga T<sup>1)</sup>, Ohara K<sup>1)</sup>, Ishizaki M ( <sup>1</sup>眼科) : Do conjunctival epithelial cells express ICAM-1 and MMPs during eosinophil infiltration in vernal keratoconjunctivitis?. 3th JERVO Meeting (Montpellier), 1996. 10.
  - 13) Wen Min<sup>1)</sup>, Yamanaka N ( <sup>1</sup>第一病院病理部) : Study on the developmental glomerular structure of the rat kidney by computer-generated 3D image analysis. 10th International Conference on Diagnostic Quantitative Pathology (Sendai), 1996. 11.
  - 14) Tamura K<sup>1)</sup>, Horiba K<sup>2)</sup>, Fukuda Y, Usuki J<sup>2)</sup>, Stetler-stevenson WG<sup>2)</sup>, Liotta LA<sup>2)</sup>, Yamanaka N, Ferrans VJ<sup>2)</sup> ( <sup>1</sup>附属病院病理部, <sup>2)</sup>NIH) : Expression of matrix metallo-proteinases (MMPs) and their tissue inhibitors (TIMPs) in floppy mitral valves (FMV). 第28回日本結合組織学会, 1996. 5.
  - 15) 福田 悠, 石崎正通, 山中宣昭 : 間質性肺疾患における筋線維芽細胞と細胞外基質. 第85回日本病理学会総会, 1996. 4.
  - 16) 川本雅司, 福田 悠, 山中宣昭 : 子宮頸部, 体癌と肺の原発癌における thymidine phosphorylase の免疫組織学的局在. 第85回日本病理学会総会, 1996. 4.
  - 17) 矢口高基, 福田 悠, 石崎正通, 山中宣昭 : 家兎プレオマイシン肺線維症における肺胞構造改築とマトリックスメタロプロテアーゼの役割. 第85回日本病理学会総会, 1996. 4.
  - 18) 福田 悠 : びまん性肺疾患における細胞外基質の変化と Matrix metalloproteinase, tissue inhibitor of metalloproteinase の発現. 第36回日本胸部疾患学会総会, 1996. 4.
  - 19) 福島光浩, 福田 悠, 川本雅司, 原口秀司<sup>1)</sup>, 小泉 潔<sup>1)</sup>, 田中茂夫<sup>1)</sup> ( <sup>1</sup>第2外科) : 肺癌の弾性線維症. 第36回日本胸部疾患学会総会, 1996. 4.
  - 20) 川本雅司, 福島光浩, 福田 悠 : 原発性肺癌における Thymidine Phosphorylase の免疫組織学的局在, 第36回胸部疾患学会総会, 1996. 4.
  - 21) 持丸 博, 高橋卓夫<sup>1)</sup>, 久勝章二<sup>1)</sup>, 河内重人<sup>1)</sup>, 日野光紀<sup>1)</sup>, 福田 悠, 川並汪一<sup>2)</sup>, 工藤翔二<sup>1)</sup> ( <sup>1</sup>第4内科, <sup>2)</sup>第二病院病理部) : 急性好酸球性肺炎の臨床病理学的検討. 第36回日本胸部疾患学会総会, 1996. 4.
  - 22) 日野光紀<sup>1)</sup>, 榎本達治<sup>1)</sup>, 高橋卓夫<sup>1)</sup>, 渋谷昌彦<sup>1)</sup>, 工藤翔二<sup>1)</sup>, 山田 隆<sup>2)</sup>, 五味聖二<sup>2)</sup>, 長谷川節男<sup>2)</sup>, 檀 和夫<sup>2)</sup>, 持丸 博, 福田 悠, 金子泰之<sup>1)</sup>, 川並汪一<sup>3)</sup> ( <sup>1</sup>第4内科, <sup>2)</sup>第3内科, <sup>3)</sup>第二病院病理部) : リンパ球系血液疾患に併発したびまん性肺病変. 第36回日本胸部疾患学会総会, 1996. 4.
  - 23) 中村陽一<sup>1)</sup>, 大串文隆<sup>1)</sup>, 曾根三郎<sup>1)</sup>, 川本雅司, Stephen I Rennard<sup>2)</sup> ( <sup>1</sup>徳島大学第3内科, <sup>2)</sup>UNMC) : 気管支上皮細胞による線維芽細胞増殖の調節. 第36回胸部疾患学会総会, 1996. 4.
  - 24) 志村俊郎<sup>1)</sup>, 川本雅司, 寺本 明<sup>1)</sup>, 杉崎祐一<sup>2)</sup>, 高橋 弘<sup>1)</sup>, 野手洋治<sup>1)</sup>, 太組一朗<sup>1)</sup>, 吹野晃一<sup>1)</sup> ( <sup>1</sup>脳神経外科, <sup>2)</sup>付属病院病理部) : 頭蓋内原発悪性リンパ腫における T 細胞の関与に関する免疫組織学的検討. 第14回日本脳腫瘍病理研究会, 1996. 4.
  - 25) 辰口篤志, 福田 悠, 石崎正通, 山中宣昭 : 正常家兎胃, ヒト胃潰瘍におけるマトリックスメタロプロテアーゼの発現. 第28回日本結合組織学会, 1996. 5.
  - 26) 益田幸成, 北村博司, 室賀一宏, 神長ちふみ, 石崎正通, 杉崎祐一, 山中宣昭 : Thy-1腎炎における好中球浸潤の検討. 第39回日本腎臓病学会学術総会, 1996. 5.
  - 27) 神長ちふみ, 益田幸成, 北村博司, 室賀一宏, 石崎正通, 杉崎祐一, 山中宣昭 : Thy-1腎炎における Lipopolysaccharide 投与の影響. 第39回日本腎臓病学会学術総会, 1996. 5.
  - 28) 松島 隆<sup>1)</sup>, 福田 悠, 塚田克也<sup>1)</sup>, 石崎正道, 山中宣昭, 菊池三郎<sup>1)</sup> ( <sup>1</sup>付属第二病院産婦人科) : ラット発育黄体における細胞外基質および血管形成. 第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 9.
  - 29) 持丸 博, 福田 悠, 福島光浩, 杉崎祐一<sup>1)</sup>, 山中宣昭, 神尾孝一郎<sup>2)</sup>, 田中庸介<sup>2)</sup>, 谷口泰之<sup>2)</sup>, 村田 朗<sup>2)</sup>, 工

- 藤翔<sup>2)</sup>, 秋山弘博<sup>3)</sup>, 原口秀司<sup>3)</sup>, 小泉 潔<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>附属病院病理部, <sup>2)</sup>第4内科, <sup>3)</sup>第2外科): 腫瘍間質にIV型コラーゲンを認めた肺の類上皮様血管内皮腫の1例. 第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 9.
- 30) 安達彰子<sup>1)</sup>, 佐藤 茂<sup>1)</sup>, 若松恭子, 石崎正通, 鈴木克哉<sup>1)</sup>, 相原 薫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>中央電子顕微鏡研究施設): 慢性肝炎における弾性系線維の超微観察. 第28回日本臨床電子顕微鏡学会総会, 1996. 9.
- 31) 佐藤 茂<sup>1)</sup>, 若松恭子, 石崎正通(<sup>1)</sup>中央電子顕微鏡研究施設): 胎児心臓における血管新生と線維芽細胞とIII型コラーゲン. 第28回日本臨床電子顕微鏡学会総会, 1996. 9.
- 32) 尾崎憲子<sup>1)</sup>, 若松恭子, 石崎正通, 安達彰子<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>眼科, <sup>2)</sup>中央電子顕微鏡研究施設): III型アレルギーによる角膜障害の推移とアポトーシスの関与. 第28回日本臨床電子顕微鏡学会総会, 1996. 9.
- 33) 葉山修陽<sup>1)</sup>, 須賀 優<sup>1)</sup>, 飯野靖彦<sup>2)</sup>, 赫 彰郎<sup>2)</sup>, 北村博司(<sup>1)</sup>千葉北総病院内科, <sup>2)</sup>第2内科): 長期間の無尿期を経て血液透析を離脱し得たThrombotic Microangiopathyの1症例. 第26回日本腎臓病学会東部学術大会, 1996. 11.
- 34) 須賀 優<sup>1)</sup>, 葉山修陽<sup>1)</sup>, 北村博司, 飯野靖彦<sup>2)</sup>, 赫 彰郎<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院内科, <sup>2)</sup>第2内科): 間質性病変を伴ったFSGSの1症例. 第26回日本腎臓病学会東部学術大会, 1996. 11.
- 35) 小野田教高<sup>1)</sup>, 栗原 怜<sup>1)</sup>, 内海甲一<sup>1)</sup>, 竹内正至<sup>1)</sup>, 桜井祐成<sup>1)</sup>, 大和田一博<sup>1)</sup>, 米島秀夫<sup>1)</sup>, 葉山修陽<sup>2)</sup>, 北村博司(<sup>1)</sup>春日部秀和病院, <sup>2)</sup>千葉北総病院内科): 急激に腎機能の低下を認めたThrombotic microangiopathyの1例. 第26回日本腎臓病学会東部学術大会, 1996. 11.
- 36) 北村博司, 山中宣昭: 腎血管炎における間質病変. 第4回膠原病と腎障害研究会, 1996. 12.

## 9. 病理学第二講座

### 研究概要

1) 腫瘍細胞の増殖、分化には間質の血管や細胞外基質の動態が関与している。すなわち、腫瘍細胞と間葉系細胞は相互に細胞外基質を生合成し受容体を介して、その増殖制御に関わっていると思われる。教室では癌細胞、心筋細胞、前立腺細胞、肝細胞、血管内皮細胞内の増殖分化における細胞外基質であるフィブロネクチン、グリコサミノグリカン、ラミニン、テネイシンIII型、IV型コラーゲンと関連して、その合成や各々の受容体の局在、これらの mRNA の発現と癌細胞における核質の性状変化に加えてプロテアーゼの発現を *in situ hybridization* 法で確認している。一方、上皮細胞や癌細胞には細胞外基質の生合成と併せ FGF, EGF, TGF $\beta$  など増殖因子とカドヘリンなどの接着因子が病態進展に関与している。このような細胞外基質や増殖因子の作用機構については、さらに細胞内の細胞骨格を介した細胞内シグナル伝達系、とくに Hsp,  $\alpha 5\beta$ -Integrin, DNase 1 カテニン、カテプシン B との関連性の上から細胞内における遺伝情報発現の調節機構の解明も試みられている。

2) 動脈硬化症の発生の基盤には高脂血症、高血圧、糖尿病などの関与が目されるが、とくに barrier としての血管内皮細胞障害が重要である。高血糖、高脂血症や内膜擦過動物モデルを用いて内膜の障害や修復の過程において内皮細胞の各種酵素の局在や再生過程における細胞外基質や FGF, VEGF, EGF など増殖因子、さらにエンドセリン、一酸化窒素の産生動態を解明し、内皮細胞と平滑筋細胞の相互作用の観点から動脈硬化の発生と関連した平滑筋細胞の増殖機序の解明を試みている。とくに、その促進因子の一つである AGE の作用機序と糖尿病に合併する動脈硬化と心筋梗塞の発生、さらに冠動脈病変の疎水環境の特異性につき、超音波やレーザー顕微鏡などで多次元画像解析法を導入し形態計測的な解明を試みている。

3) 敗血症や虚血性病変に続発するショックの病態の発生機序の解明を目的として心臓、肺臓の心肺機能不全や血管障害につき、free radical, NO, NOS の産生動態を介した細胞機能障害の発生機序に注目し検討している。

4) 神経病理学的にはアルツハイマー病など変性疾患を中心に、その発生病理につき解明を進めている。

### 研究業績

#### 論文

(1) 原著：

- 1) Bergman U<sup>1)</sup>, Funatomi H<sup>1)</sup>, Kornmann M<sup>1)</sup>, Ishiwata T, Beger HG<sup>2)</sup>, Korc M<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>Division of Endocrinology, Diabetes and Metabolism, Medical Science University of California, <sup>2)</sup>Department of General Surgery, University of Ulm) : Insulin-like growth factor II activates mitogenic signaling in pancreatic cancer cell via IRS-1 : In vivo evidence for an islet-cancer cell axis. *Int J Oncol* 1996 ; 9 : 487-492.
- 2) Yano M, Naito Z, Hirai K, Yokoyama M, Asano G (<sup>1)</sup>2nd Department of Surgery, Nippon Medical School) : Expression and roles of heat shock proteins in human breast cancer. *Jpn J Cancer Res* 1996 ; 97 : 908-915.
- 3) Shimizu M<sup>1)</sup>, Mwanatambe M, Shichinohe K<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>Department of Laboratory Animal Science Nippon Medical School) : Basophil response and histamine sensitivity in mongolian gerbils (*Meriones unguiculatus*). *Bull Soc Fr Jpn Sci* 1996 ; 7 : 1-9.
- 4) Kajihara T, Tomioka Y<sup>1)</sup>, Hata T<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>Department of Obstetrics and Gynecology, Saitama Medical School) : The expression and localization of endothelin-1 in rat uterus during pregnancy. *Saitama Med J* 1996 ; 23 : 159-167.
- 5) Kajihara T, Tomioka Y T, Hata T, Ghazizadeh M, Asano G (<sup>1)</sup>Department of Obstetrics and Gynecology, Saitama Medical School, <sup>2)</sup>Central Institute for Electron Microscopic Researches, Nippon Medical

- School) : Synthesis of endothelin-1 in rat uterus during pregnancy. *J Histochem Cytochem* 1996 ; 44 : 953-957.
- 6) Zheng S, Qiao Y, Xu G, Asano G, Kashiwado I<sup>1)</sup>, Hattori Y<sup>1)</sup>, Yuge K<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>Department of Otorhinolaryngology, Nippon Medical School, <sup>2)</sup>Department of Pathology EENT Hospital, Shanghai Medical University) : Ultrastructural observation of age related morphological changes in cochlea and blood vessels of guinea pigs. *Ophthalmology and Otolaryngology of China* 1996 ; 1 : 85-87.
  - 7) Ohkuni H<sup>1)</sup>, Todome Y<sup>1)</sup>, Okibayashi F<sup>1)</sup>, Watanabe Y<sup>1)</sup>, Ohtani N<sup>1)</sup>, Ishikawa T, Asano G, Kotani S<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>Department of Immunology, Institute of Gerontology, <sup>2)</sup>First Department of Surgery, Osaka College of Medical Technology) : Purification and partial characterization of a novel human platelet aggregation factor in the extracellular products of streptococcus mitis, strain Nm-65. *FEMS Immunology and Medical Microbiology* 1997 ; 17 : 121-129.
  - 8) Ezure T<sup>1)2)</sup>, Ishiwata T, Asano G, Tanaka S<sup>2)</sup>, Yokomuro K<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>Department of Microbiology and Immunology, <sup>2)</sup>2nd Department of Surgery, Nippon Medical School) : Production of macrophage colony-stimulating factor by murine liver in vivo. *Cytokine* 1997 ; 9 : 53-58.
  - 9) Guo F, Ishiwata T, Yokoyama M, Asano G : Expression of basic fibroblast growth factor, epidermal growth factor, and their receptors in castrated and testosterone injected rat prostates. *Acta Histochem Cytochem* 1997 ; 30 : 13-22.
  - 10) Ishiwata T, Guo F, Naito Z, Asano G, Nishigaki R<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>1st Department of Internal Medicine, Nippon Medical School) : Differential distribution of eNOS and iNOS mRNA in rat heart after endotoxin administration. *Jpn Heart J* 1997 ; 445-455.
  - 11) Aida K<sup>1)</sup>, Onda M<sup>1)</sup>, Asano G, Nakazawa N (<sup>1)</sup>Department of Surgery, Nippon Medical School) : Predisposition of subclones of pancreatic carcinoma cells, AsPC-1, to changes in functional and histopathological features of xenograft tumors with response to extracellular matrix. *J Nippon Med Sch* 1997 ; 64 : 163-171.
  - 12) Arita A<sup>1)</sup>, Asano G, Tanaka S<sup>1)</sup>, Nakazawa N (<sup>1)</sup>2nd Department of Surgery, Nippon Medical School) : Laminin-dependent growth arrest of human hepatic carcinoma cell line, HuH-7, in association with expression of p21/WAF-1 protein. *J Nippon Med Sch* 1997 ; 64 : 147-153.
  - 13) 黄田道信<sup>1)</sup>, 吉野慎一<sup>1)</sup>, 中村 洋<sup>1)</sup>, 浅野伍朗<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第一病院リウマチ科) : Interleukin-1 $\beta$  刺激下における関節リウマチ滑膜培養細胞の interleukin-1 $\beta$ , interleukin-6 産生に対する各種 disease modifying antirheumatic drugs (DMARDs) の抑制効果. *日医大誌* 1996 ; 63 : 419-423.
  - 14) 大谷信崇, 浅野伍朗 : Streptococcus mitis (Nm-65株) の代謝物質中に見い出されたヒト血小板凝集因子に関する研究. *日医大誌* 1996 ; 63 : 446-459.
  - 15) 福本裕子, 亀山孝二, 恩田宗彦, 内藤善哉, 浅野伍朗, 荒牧琢己, 早川弘一 : 冠動脈硬化巣内における平滑筋細胞とテネイシンの動態, 特に糖尿病と心筋梗塞発生との関連について. *脈管学* 1996 ; 36 : 899-906.
  - 16) 小栗 剛, 恩田昌彦, 徳永 昭, 浅野伍朗 : 胃癌における trefoil グループ細胞増殖因子 PS2発現の意義. *日消化器病学会雑誌* 1996 ; 3 : 15-13.
  - 17) 角田 隆 : 悪性線維性組織球腫の組織発生に関する免疫組織化学的検討. *日医大誌* 1996 ; 63 : 365-377.
  - 18) 前田昭太郎<sup>1)</sup>, 杉崎祐一<sup>2)</sup>, 浅野伍朗 (<sup>1)</sup>多摩永山病院病理部, <sup>2)</sup>付属病院病理部) : 運動器一軟部組織の細胞診. *癌の臨床* 1996 ; 42 : 1050-1059.
  - 19) 前田昭太郎<sup>1)</sup>, 浅野伍朗 (<sup>1)</sup>付属多摩永山病院病理部) : 細胞診の見方と考え方 [中枢神経系の細胞診] 腫瘍性疾患の細胞診 : 転移性脳腫瘍. *病理と臨床* 1996 ; 14 : 1041-1050.
  - 20) 浅野伍朗, 西垣龍太郎, 平田雅彦, 内藤善哉, 横山宗伯 : 一酸化窒素合成酵素の産生動態. *呼吸* 1996 ; 15 : 1153-1160.



- 21) 天野真紀<sup>1)</sup>, 天野康雄<sup>2)</sup>, 弦間和仁<sup>3)</sup>, 恩田宗彦, 浅野伍朗, 隈崎達夫<sup>2)</sup>, 山下 孝<sup>3)</sup> (<sup>1)</sup>癌研究会付属病院放射線科, <sup>2)</sup>放射線医学教室, <sup>3)</sup>博慈会記念総合病院放射線科): T2強調像において著明な低信号を呈した上咽頭癌の2例. 日磁気共鳴誌 1996; 16: 306-310.
- 22) 並里まさ子<sup>1)2)</sup>, 矢島幹久<sup>1)</sup>, 村上國男<sup>1)</sup>, 浅野伍朗, 小川秀興<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>国立療養所多磨全生園基本治療科, <sup>2)</sup>順天堂大学医学部皮膚科学教室): 寛解期らい患者に発症した汗腺癌, 肝癌の併発例. 臨床皮膚科 1996; 50: 461-464.
- 23) 余 紅<sup>1)</sup>, 森 修<sup>1)</sup>, 大秋美治<sup>1)</sup>, 河村 堯<sup>2)</sup>, 浅野伍朗 (<sup>1)</sup>千葉北総病院病理部, <sup>2)</sup>千葉北総病院産婦人科): 子宮に見られた adenomatoid tumor の3症例. 日医大誌 1996; 63: 294-298.
- 24) 細根 勝<sup>1)</sup>, 前田昭太郎<sup>1)</sup>, 片山博徳<sup>1)</sup>, 磯部宏昭<sup>1)</sup>, 吉田知永, 長江 康, 向後俊昭<sup>2)</sup>, 浅野伍朗 (<sup>1)</sup>多摩永山病院病理部, <sup>2)</sup>多摩永山病院小児科): 胸水穿刺吸引細胞診にて推定診断した非ホジキンリンパ腫・リンパ芽球型の1例. 日臨細胞会誌 1996; 35: 590-594.
- 25) 西垣龍太郎, 亀山孝二, 内藤善哉, 福田 悠<sup>1)</sup>, 鈴木恒道<sup>1)</sup>, 浅野伍朗, 本間 博<sup>2)</sup>, 宗像一雄<sup>2)</sup>, 岸田 浩<sup>2)</sup>, 荒牧琢己<sup>2)</sup>, 早川弘一<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>病理学第1, <sup>2)</sup>内科学第1): 生前異型狭心症と診断され肺炎の合併のみられた1剖検例. 呼と循 1996; 44: 1201-1205.
- 26) 横山宗伯, 石渡俊行, 恩田宗彦: 血管内皮細胞の増殖制御と機能分化の分子病理学的研究. 日医大誌 1996; 63: 516-518.
- 27) 太田雄治郎<sup>1)</sup>, 石原珠紀<sup>1)</sup>, 小西英気<sup>1)</sup>, 鴨井青龍<sup>1)</sup>, 内藤善哉, 浅野伍朗, 荒木 勤<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>産婦人科学): 左卵巣と対側卵管に同時発生した類内膜癌の1例. 産婦人科の実際 1996; 45: 487-491.
- 28) 丸山晴久<sup>1)</sup>, 白井康正<sup>1)</sup>, 沢泉卓哉<sup>1)</sup>, 藤井信人<sup>1)</sup>, 金田琴恵<sup>1)</sup>, 浅野伍朗 (<sup>1)</sup>整形外科科学教室): 内軟骨腫に起因する深指屈筋腱停止部剝離骨折の1症例. 骨・関節・靭帯 1997; 10: 359-362.
- 29) 王 若 皎, 内藤善哉, 浅野伍朗, 田村浩一<sup>1)</sup>, 鈴木恒道<sup>1)</sup>, 小山善哉<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>付属病院病理部, <sup>2)</sup>内科学第1): ウイルス性多発性筋炎が疑われた1剖検例. 腫瘍と感染 1997; 9: 15-20.

## 著 書

- 1) 浅野伍朗: [分担] 医系病理学, “慢性リュウマチ, その他の膠原病” (中村恭一, 若狭治毅, 桜井 勇編著) 1997; pp331-336, 中外医学社.
- 2) 浅野伍朗: [分担] ドーランド, 図説 医学大事典 (村尾 誠編) 28判 1997, 廣川書店.
- 3) Mastukura N, Asano G: [分担] Anatomy, Histology, Ultrastucture, Stomach, Rat. Digestive System, (Jones TC, Popp JA, Mohr U eds.) 1997; pp343-350, Springer, New York, USA.

## 学会発表

### (1) 特別講演:

- 1) 浅野伍朗: 病理学的立場からみた創傷治癒. 第3回ストーリーナビリテーションフォーラム(東京), 1997. 3.

### (2) シンポジウム:

- 1) 亀山孝二, 福本裕子, 町田 稔, 手塚 潔, 恩田宗彦, 横山宗伯, 浅野伍朗: 冠動脈硬化巣の unstable plaque への過程における疎水性変化と平滑筋細胞の形質変化. 第37回日本脈管学会総会, 1996. 11.

### (3) ワークショップ:

- 1) Ezure T, Ishiwata T, Asano G, Mabuchi A<sup>1)</sup>, Tanaka S<sup>2)</sup>, Yokomuro K<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>Department Microbiol & Immunol, <sup>2)</sup>2nd Department of Surgery, Nippon Medical School): In vivo production of macrophage colony-stimulating factor in the liver. The 9th International Congress of Immunology. Regional Immunity Workshop. San Francisco (USA), 1995. 7.
- 2) 長江 康, 前田昭太郎<sup>1)</sup>, 細根 勝<sup>1)</sup>, 片山博徳<sup>1)</sup>, 浅野伍朗 (<sup>1)</sup>多摩永山病院病理部): 乳癌におけるカドヘリンの発現様式と組織型, 転移との関連性. 第85回日本病理学会総会, 1996. 4.

(4) 一般講演：

- 1) Hirai K<sup>1)</sup>, Yokoyama M, Yano M, Naito Z, Asano G, Uchiyama K<sup>1)</sup>, Shibuya T<sup>1)</sup>, Tanaka S<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>2nd Department of Surgery, Nippon Medical School) : Expression of cathepsin B and cathepsin B inhibitor in colorectal carcinoma. 13th Asia Pacific Cancer Conference (Malaysia), 1996. 11.
- 2) Yano M<sup>1)</sup>, Naito Z, Hirai K, Yokoyama M, Asano G (<sup>1)</sup>2nd Department of Surgery, Nippon Medical School) : Expression and roles of heat shock proteins in human breast Cancer. 13th Asia Pacific Cancer Conference (Malaysia), 1996. 11.
- 3) Oguri T<sup>1)</sup>, Onda M<sup>1)</sup>, Tokunaga A<sup>1)</sup>, Teramoto T<sup>1)</sup>, Takita M<sup>1)</sup>, Shirakawa T<sup>1)</sup>, Ikeda K<sup>1)</sup>, Hiramoto Y<sup>1)</sup>, Yoshiyuki T<sup>1)</sup>, Kiyama T<sup>1)</sup>, Matsukura N<sup>1)</sup>, Asano G (<sup>1)</sup>1st Department of Surgery, Nippon Medical School) : Expression of trefoil group antigen pS2 in human gastric cancer and duodenal ulcer. Recent Advances in Gastroenterological Carcinogenesis (Hiroshima), 1996.
- 4) Sun M, Yokoyama M, Ishiwata T, Asano G : Localization of advanced glycation End Products (AGE) and Expression of receptor for AGE in diabetic rat tissue. Xth International Congress of Histochem Cytochem. (Kyoto), 1996.
- 5) 福本裕子, 亀山孝二, 恩田宗彦, 横山宗伯, 内藤善哉, 浅野伍朗 : 糖尿病の合併をみる冠動脈硬化病巣の特異性, 特に心筋梗塞発症との関連性. 第85回日本病理学会総会, 1996. 4.
- 6) 孫 攻, 横山宗伯, 石渡俊行, 内藤善哉, 浅野伍朗 : 糖尿病性血管障害の発生における AGE と RAGE の発現とその意義. 第85回日本病理学会総会, 1996. 4.
- 7) 町田 稔, 内藤善哉, 横山宗伯, 松本光司<sup>1)</sup>, 山田宜孝<sup>1)</sup>, 前田昭太郎<sup>2)</sup>, 大秋美治<sup>3)</sup>, 川並汪一<sup>4)</sup>, 浅野伍朗 (<sup>1)</sup>第一病院病理部, <sup>2)</sup>多摩永山病院病理部, <sup>3)</sup>千葉北総病院病理部, <sup>4)</sup>第二病院病理部) : 悪性類肉膜腫 : 特に悪性中胚葉性混合腫瘍 (Malignant mesoderm mixed tumour) の臨床病理学的検討. 第85回日本病理学会総会, 1996. 4.
- 8) 平井恭二, 横山宗伯, 内藤善哉, 浅野伍朗, 渋谷哲男<sup>1)</sup>, 田中茂夫<sup>1)</sup>, (<sup>1)</sup>外科学第2) : 大腸癌組織におけるカテプシン B の局在とカテプシン BmRNA 発現の検討. 第85回日本病理学会総会, 1996. 4.
- 9) 西垣龍太郎, 石渡俊行, 内藤善哉, 浅野伍朗, 荒牧琢己<sup>1)</sup>, 早川弘一<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>内科学第1) : 心不全発生における一酸化窒素合成酵素の局在とその意義. 第60回日本循環器病学会, 1996. 5.
- 10) 平井恭二<sup>1)</sup>, 石渡俊行, 浅野伍朗, 渋谷哲男<sup>1)</sup>, 田中茂夫<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>外科学第2) : 大腸癌におけるカテプシン B の局在とカテプシン BmRNA の発現の検討. 第97回日本外科学会総会, 1996. 4.
- 11) 矢野正雄<sup>1)</sup>, 尾形昌男<sup>1)</sup>, 内藤善哉, 石渡俊行, 工藤光洋, 浅野伍朗, 渋谷哲男<sup>1)</sup>, 田中茂夫<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>外科学第2) : ヒト乳癌組織における熱ショック蛋白発現とその役割. 第97回日本外科学会総会, 1996. 4.
- 12) 相田成隆<sup>1)</sup>, 山田宜孝<sup>2)</sup>, 松本光司<sup>2)</sup>, 浅野伍朗, 長浜充二<sup>1)</sup>, 渋谷哲男<sup>1)</sup>, 清水一雄<sup>1)</sup>, 田中茂夫<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>外科学第2, <sup>2)</sup>第一病院病理部) : 甲状腺濾胞性病変における血管の三次元的構築による観察. 第97回日本外科学会総会, 1996. 4.
- 13) 今津 修<sup>1)</sup>, 大秋美治<sup>1)</sup>, 粟屋 栄<sup>2)</sup>, 小林士郎<sup>2)</sup>, 前田昭太郎<sup>3)</sup>, 浅野伍朗 (<sup>1)</sup>千葉北総病院病理部, <sup>2)</sup>千葉北総病院脳神経外科, <sup>3)</sup>多摩永山病院病理部) : 脳室内出血で発症し, 巨大な石灰化と脈絡叢内脂肪腫を随伴した脳梁形成不全の1剖検例. 第37回日本神経病理学会総会, 1996. 5.
- 14) 江連 司<sup>1)</sup>, 石渡俊行, 浅野伍朗, 高橋めぐみ<sup>1)</sup>, 馬淵綾子<sup>1)</sup>, 田中茂夫<sup>2)</sup>, 横室公三<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>微生物免疫, <sup>2)</sup>外科学第2) : 肝臓の hematolymphoid system—再生肝及び傷害肝における M-CSF 産生. 第25回日本免疫学会総会, 1996. 5.
- 15) 亀山孝二, 福本裕子, 恩田宗彦, 横山宗伯, 浅野伍朗 : 冠動脈硬化進展過程における疎水性環境の検討 : とくに unstable plaque の発生について. 第28回日本動脈硬化学会総会, 1996. 6.
- 16) 矢野正雄<sup>1)</sup>, 尾形昌男<sup>1)</sup>, 内藤善哉, 浅野伍朗, 小熊将之<sup>1)</sup>, 渋谷哲男<sup>1)</sup>, 向井佐志彦<sup>1)</sup>, 田中茂夫<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>外科学第2) :

- ヒト乳癌組織における HSP90発現とその役割。第4回日本乳癌学会，1996。6。
- 17) 平井恭二，横山宗伯，内藤善哉，浅野伍朗，山本英希<sup>1)</sup>，酒井欣男<sup>1)</sup>，鈴木章一<sup>1)</sup>，内山喜一郎<sup>1)</sup>，渋谷哲男<sup>1)</sup>，田中茂夫<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>外科学第2)：大腸癌における cathepsin B と cathepsin B inhibitor の検討。第48回日本消化器外科学会総会，1996。7。
  - 18) 尾形昌男<sup>1)</sup>，矢野正雄<sup>1)</sup>，渋谷哲男<sup>1)</sup>，田中茂夫<sup>1)</sup>，内藤善哉，工藤光洋，横山宗伯，浅野伍朗(<sup>1)</sup>外科学第2)：膵癌における熱ショック蛋白発現の意義。第48回日本消化器外科学会総会，1996。7。
  - 19) 内田英二<sup>1)</sup>，恩田昌彦<sup>1)</sup>，中村慶春<sup>1)</sup>，井上松広<sup>1)</sup>，山村 進<sup>1)</sup>，丸山 弘<sup>1)</sup>，横山滋彦<sup>1)</sup>，石川紀行<sup>1)</sup>，斉藤忠生<sup>1)</sup>，梅原松臣<sup>1)</sup>，小川芳雄<sup>1)</sup>，有馬保生<sup>1)</sup>，金 徳栄<sup>1)</sup>，田尻 孝<sup>1)</sup>，江上 格<sup>1)</sup>，内藤善哉 (<sup>1)</sup>外科学第1)：残存膵の線維化からみた膵頭部十二指腸切除術における膵腸吻合の危険度。第48回日本消化器外科学会総会，1996。7。
  - 20) 西垣龍太郎，手塚 潔，河本陽子，亀山孝二，横山宗伯，内藤善哉，浅野伍朗，清水真澄<sup>1)</sup>，七戸和博<sup>1)</sup>，中山景介<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>実験動物管理室，<sup>2)</sup>第2学年)：スナネズミへのストレプトゾトシン投与の影響。第64回日本医科大学医学学会総会，1996。9。
  - 21) 安藤 哲<sup>1)</sup>，清水秀樹<sup>1)</sup>，三枝順子<sup>1)</sup>，小黑辰夫<sup>1)</sup>，森 修<sup>1)</sup>，大秋美治<sup>1)</sup>，日野光紀<sup>2)</sup>，横田裕行<sup>3)</sup>，川並汪一<sup>4)</sup>，浅野伍朗(<sup>1)</sup>千葉北総病院病理部，<sup>2)</sup>千葉北総病院内科，<sup>3)</sup>同救命救急部，<sup>4)</sup>第二病院病理部)：呼吸器感染症における気管支肺胞洗浄法 (BAL) の有用性と検体処理時の注意点について：特に AIDS 症例に見られた pneumocystis carinii を中心に。第64回日本医科大学医学学会総会，1996。9。
  - 22) 丸山晴久<sup>1)</sup>，浅野伍朗，前田昭太郎<sup>2)</sup>，森 淳<sup>1)</sup>，白井康正<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>付属病院整形外科，<sup>2)</sup>多摩永山病院病理部)：穿刺吸引細胞診で診断しえた小細胞型骨肉腫。第64回日本医科大学医学学会総会，1996。9。
  - 23) 長江 康，亀山孝二，横山宗伯，内藤善哉，浅野伍朗，前田昭太郎<sup>1)</sup>，細根 勝<sup>1)</sup>，片山博徳<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>多摩永山病院病理部)：乳癌におけるカドヘリンの発現と腫瘍周囲間質の膠原線維との関係。第64回日本医科大学医学学会総会，1996。9。
  - 24) 細根 勝<sup>1)</sup>，前田昭太郎<sup>1)</sup>，片山博徳<sup>1)</sup>，小林みどり<sup>2)</sup>，長澤紘一<sup>2)</sup>，浅野伍朗(<sup>1)</sup>多摩永山病院病理部，<sup>2)</sup>多摩永山病院内科)：非ホジキンリンパ腫加療後に発生した EB ウイルス関連ホジキン病の1例。第64回日本医科大学医学学会総会，1996。9。
  - 25) 福本裕子，亀山孝二，恩田宗彦，郭 方，横山宗伯，内藤善哉，浅野伍朗：心筋梗塞症に見られる冠動脈硬化病巣の特異性—特にアポトーシスとの関連について。第64回日本医科大学医学学会総会，1996。9。
  - 26) 内田英二<sup>1)</sup>，恩田昌彦<sup>1)</sup>，中村慶春<sup>1)</sup>，井上松広<sup>1)</sup>，山村 進<sup>1)</sup>，丸山 弘<sup>1)</sup>，横山滋彦<sup>1)</sup>，梅原松臣<sup>1)</sup>，有馬保生<sup>1)</sup>，金 徳栄<sup>1)</sup>，田尻 孝<sup>1)</sup>，江上 格<sup>1)</sup>，内藤善哉，浅野伍朗 (<sup>1)</sup>外科学第1)：膵腸吻合縫合不全におよぼす残存膵の線維化および残存機能の影響。第64回日本医科大学医学学会総会，1996。9。
  - 27) 山村 進<sup>1)</sup>，恩田昌彦<sup>1)</sup>，内田英二<sup>1)</sup>，井上松広<sup>1)</sup>，中村慶春<sup>1)</sup>，横山 正<sup>1)</sup>，相本隆幸<sup>1)</sup>，小林 匡<sup>1)</sup>，山中洋一郎<sup>1)</sup>，会田邦晴<sup>1)</sup>，笹島耕二<sup>1)</sup>，田尻 孝<sup>1)</sup>，江上 格<sup>1)</sup>，山下精彦<sup>1)</sup>，内藤善哉，浅野伍朗 (<sup>1)</sup>外科学第1)：膵癌の局所療法に関する実験的研究：エタノール局注の効果。第64回日本医科大学医学学会総会，1996。9。
  - 28) 藤井雄文，川原清子，西海けい子，工藤光洋，石渡俊行，横山宗伯，内藤善哉，浅野伍朗：一酸化窒素合成酵素 (NOS) の免疫組織化学的局在：特にエンドトキシン投与後の心臓・肺臓における変化。第64回日本医科大学医学学会総会，1996。9。
  - 29) 小黑辰夫<sup>1)</sup>，大秋美治<sup>1)</sup>，モハマッド ガジザデ<sup>2)</sup>，浅野伍朗 (<sup>1)</sup>千葉北総病院病理部，<sup>2)</sup>中央電顕施設)：Film sheet epoxy resin embedding method (FSEU) の開発について。第64回日本医科大学医学学会総会，1996。9。
  - 30) 小栗 剛<sup>1)</sup>，恩田昌彦<sup>1)</sup>，徳永 昭<sup>1)</sup>，平本義浩<sup>1)</sup>，白川 毅<sup>1)</sup>，瀧田雅仁<sup>1)</sup>，藤田逸郎<sup>1)</sup>，奥田武志<sup>1)</sup>，水谷 崇<sup>1)</sup>，木山輝郎<sup>1)</sup>，吉行俊郎<sup>1)</sup>，松倉則夫<sup>1)</sup>，浅野伍朗 (<sup>1)</sup>外科学第1)：胃癌および消化管潰瘍修復における細胞増殖因子様蛋白，pS2発現の意義。第55回日本癌学会総会，1996。10。
  - 31) 工藤光洋，内藤善哉，下村隆保，矢野正雄，尾形昌男，有田 淳，石渡俊行，横山宗伯，浅野伍朗：熱ショック及びケルセチン，カテニンの胆管細胞癌細胞 (HuCCT-1) への影響。第55回日本癌学会総会，1996。10。

- 32) 有田 淳, 中沢南堂, 工藤光洋, 渋谷哲男<sup>1)</sup>, 田中茂夫<sup>1)</sup>, 浅野伍朗<sup>(<sup>1</sup>外科学第2)</sup>: 肝臓癌細胞 (Huh-7) の増殖関連タンパク発現制御に関わる細胞外基質. 第55回日本癌学会総会, 1996. 10.
- 33) 徐 光, 喬 炎, 孫 攻, 横山宗伯, 浅野伍朗: 血管の加齢変化—特に冠状動脈の構造変化を中心に. 第28回日本臨床電子顕微鏡学会総会, 1996. 10.
- 34) 賈玉芝<sup>1)</sup>, 佐藤 茂<sup>1)</sup>, 劉建軍<sup>1)</sup>, 相原 薫<sup>1)</sup>, 浅野伍朗<sup>(<sup>1</sup>中央電顕施設)</sup>: 実験的ラット虚血心における虚血部位での循環動態. 第28回日本臨床電子顕微鏡学会総会, 1996. 10.
- 35) 郭 方, 喬 炎, 魏 苻那, 亀山孝二, 内藤善哉, 浅野伍朗: 去勢後ラット前立腺変化の推移の形態計測法による観察. 第28回日本臨床電子顕微鏡学会総会, 1996. 10.
- 36) 小黒辰夫<sup>1)</sup>, 清水秀樹<sup>1)</sup>, 三枝順子<sup>1)</sup>, 安藤 哲<sup>1)</sup>, 森 修<sup>1)</sup>, 大秋美治<sup>1)</sup>, 浅野伍朗, 佐佐木喜広<sup>1)</sup>, モハマッド・ガジザデ<sup>1)</sup> (<sup>1</sup>千葉北総病院病理部, <sup>2</sup>中央電子顕微鏡研究施設): Film sheet epoxy resin embedding method (FSEM) の開発について. 第28回日本臨床電子顕微鏡学会総会, 1996. 10.
- 37) 内田英二<sup>1)</sup>, 恩田昌彦<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>, 井上松応<sup>1)</sup>, 山村 進<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 横山滋彦<sup>1)</sup>, 吉田 寛<sup>1)</sup>, 梅原松臣<sup>1)</sup>, 小川芳雄<sup>1)</sup>, 金 徳栄<sup>1)</sup>, 有馬保生<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 山下精彦<sup>1)</sup>, 内藤善哉, 浅野伍朗<sup>(<sup>1</sup>外科学第1)</sup>: 膵頭部領域癌における非癌部膵組織の線維化の評価. 第55回日本癌学会総会, 1996. 10.
- 38) 平井恭二, 横山宗伯, 内藤善哉, 浅野伍朗, 渋谷哲男<sup>1)</sup>, 田中茂夫<sup>(<sup>1</sup>外科学第2)</sup>: 大腸癌組織におけるカテプシン B の局在とカテプシン BmRNA 発現の検討. 第55回日本癌学会総会, 1996. 10.
- 39) 徳永 昭<sup>1)</sup>, 恩田昌彦<sup>1)</sup>, 小栗 剛<sup>1)</sup>, 龍田雅仁<sup>1)</sup>, 白川 毅<sup>1)</sup>, 池田研吾<sup>1)</sup>, 平本義浩<sup>1)</sup>, 吉行俊郎<sup>1)</sup>, 木山輝郎<sup>1)</sup>, 浅野伍朗<sup>(<sup>1</sup>外科学第1)</sup>: 胃癌の進展における細胞増殖因子発現の意義—pS2および TGF- $\alpha$  をマーカーとして. 第55回日本癌学会総会, 1996. 10.
- 40) 平井恭二, 横山宗伯, 内藤善哉, 浅野伍朗, 渋谷哲男<sup>1)</sup>, 田中茂夫<sup>(<sup>1</sup>外科学第2)</sup>: 大腸癌における cathepsin B と cathepsin inhibitor の発現の検討. 第55回日本癌学会総会, 1996. 10.
- 41) 町田 稔, 亀山孝二, 恩田宗彦, 内藤善哉, 浅野伍朗: 光感受性物質 hematoporphyrin による動脈硬化病変の検討. 第37回日本脈管学会総会, 1996. 11.
- 42) 孫 攻, 横山宗伯, 内藤善哉, 王 若 咬, 石渡俊行, 浅野伍朗: 糖尿病血管障害発生と AGE RAGE の発現との関連についての検討. 日本動脈硬化学会冬季大会, 1996. 11.
- 43) 福本裕子, 亀山孝二, 恩田宗彦, 郭 方, 横山宗伯, 内藤善哉, 浅野伍朗: 糖尿病の合併をみる冠動脈硬化病巣の特異性, 特に心筋梗塞発症との関連性. 日本動脈硬化学会冬季大会, 1996. 11.
- 44) 孫 攻, 横山宗伯, 内藤善哉, 王 若 咬, 石渡俊行, 浅野伍朗: 糖尿病性組織障害の発生に於ける AGE と RAGE の役割. 第7回日本医大留学者研究会, 1996. 11.
- 45) 党 誠学, 喬 炎, 横山宗伯, 内藤善哉, 浅野伍朗, 秦 兆寅<sup>1)</sup>, 紀 宗正<sup>(<sup>1</sup>西安医科大学第二病院外科)</sup>: 膵癌症例における膵臓の神経分布と予後との関連性. 第7回日本医大留学者研究会, 1996. 11.
- 46) 江連 司<sup>1)</sup>, 石渡俊行, 浅野伍朗, 高橋めぐみ<sup>1)</sup>, 馬淵綾子<sup>1)</sup>, 田中茂夫<sup>2)</sup>, 横室公三<sup>(<sup>1</sup>微生物学免疫学, <sup>2</sup>外科学第2)</sup>: 肝臓の hematology system—in vivo での肝臓の M-CSF 産生. 第9回肝類洞壁細胞研究会, 1995. 12.

## 10. 微生物学・免疫学講座

### 研究概要

細菌学から微生物学、免疫学への発展の歴史は、それらの学問の膨大な蓄積と、関係する領域の拡大による必然の結果であった。従って、教室の研究成果も広範多岐にわたっている。

免疫学：[A] 我々は生後の肝臓が、hematolymphoid system の一臓器として機能する可能性のあることを示して来た。最近その意見が、世界の学会で徐々に承認されつつある。本年度は、①肝実質細胞が骨髄細胞を myeloid 系細胞と lymphoid 系細胞に分化させること（馬淵）、②肝臓では免疫系細胞の構成や抗原刺激に対する応答が、他のリンパ組織のそれと異なること（江連、寺部、林）、③肝臓内では IgA 産生細胞が優位で、肝実質細胞が IL-5 を産生すること（高橋め）、④肝臓に常在する  $\gamma\delta$ T 細胞は、胸線の内外で分化した細胞が独特の割合で混合した細胞群であること（小平）、等を見出している。[B] ① T 細胞の抗原リセプターとその関連分子（CD3分子群や CD4, CD8分子）とで形成する複合体分子の状態が、胸線細胞と末梢 T 細胞では異なることや、抗原刺激により CD3 $\zeta$  鎖におこる構造変化を観察している（大菌、西澤）、②アロ抗原特異的免疫寛容を導入するため、肝臓に特異的にアロ抗原を導入するベクターを開発し（宮内、西澤）、アロ抗原の経口投与による寛容誘導と比較している。[C] ウシII型コラーゲンによる慢性関節炎発症モデルについて、個体レベルから分子レベルに亘る研究を進めている（小笠原、渡理）。[D] B7-1遺伝子を導入した Hepatoma を用いて、キラーT細胞の誘導に成功した（中塚、中川、高橋秀）。[E] HIV 特異的 CD8陽性キラーT細胞は、破壊した標的細胞に由来するウイルス断片により、キラー活性が著しく低下することを見出し、その生物学的意義を探っている（中川、高橋秀）。

アレルギー学：アレルギー性腸炎の発症メカニズムを解析すると共に、その治療に主として消化器系機能改善に用いられる漢方薬の薬理効果と機作について研究を進めている（水谷、植松、竹内）。

微生物学：[A] *H. felis* によるマウスの慢性胃炎を model として、*Helicobacter pylori* 感染による胃病変発来の機序について研究している（野呂瀬、高橋秀）。[B] シクロスポリンによる麻疹ウイルス増殖抑制について研究を進めている（渡理）。[C] 多剤性ブドウ球菌や、*P. aeruginosa* の院内感染を防止する目的で、疫学調査、耐性獲得の機序等について研究を行っている（川角、竹内）。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Shirai M<sup>1)</sup>, Kurokouchi K<sup>2)</sup>, Pendleton C D<sup>2)</sup>, Boyd L F<sup>2)</sup>, Takahashi H, Margulies D<sup>2)</sup>, Berzofsky J<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>Dept. Microbiol., Yamaguchi Univ., <sup>2)</sup>NCI & NIAID, NIH, USA) : Reciprocal CTL cross-reactivity interactions between two major epitopes within HIV-1 gp160. J Immunol 1996 ; 157 : 4399-4411.
- 2) Shao X<sup>1)</sup>, Kikuchi K, Watari E, Norose Y, Araki T<sup>1)</sup>, Yokomuro K (<sup>1)</sup>産婦人科) : M-CSF like activity in chicken development. Reprod Fertil Dev. 1996 ; 8 : 103-109.
- 3) Maki K<sup>1)</sup>, Sunaga S<sup>1)</sup>, Komagata Y<sup>1)</sup>, Kodaira Y, Mabuchi A, Karasuyama H<sup>1)</sup>, Yokomuro K, Miyazaki J<sup>1)</sup>, Iikuta K<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>東京大学医学部疾患遺伝子制御 (サンド)) : Interleukin 7 receptor-deficient mice lack gd T cells. Proc Natl Acad Sci 1996 ; 93 : 7172-7177.
- 4) Ezure T, Ishiwatari T<sup>1)</sup>, Asano G<sup>1)</sup>, Tanaka S<sup>2)</sup>, Yokomuro K (<sup>1)</sup>病理学第二, <sup>2)</sup>外科学第二) : Production of Macrophage colonystimulating factor by murine liver in vivo. CYTOKINE, 1997 ; 9 : 53-58.
- 5) 馬淵綾子, 北島真澄, 寺部正記, 中川洋子, 垣内史堂<sup>1)</sup>, 高橋秀美, 横室公三 (<sup>1)</sup>東邦大学医学部免疫) : Hematolymphoid System としての肝臓の研究：初代培養肝実質細胞により骨髄から分化誘導した TCR-b<sup>+</sup>Mac-1<sup>+</sup>細胞の形態と機能について：a thymic nude mouse BMC の分化誘導について。肝臓洞壁細胞研究の進歩 1996 ; 9 :

90-92.

- 6) 小平祐造, 生田宏一<sup>1)</sup>, 馬淵綾子, 田中茂夫<sup>2)</sup>, 横室公三 ( <sup>1)</sup>東京大学医学部疾患遺伝子制御 (サンド), <sup>2)</sup>外科学第二) : 肝に分布する gd T 細胞の heterogeneity の解析. 肝類洞壁細胞研究の進歩 1996 ; 9 : 123-125.

(2) 総説 :

- 1) 高橋秀実 : 生体防御機構としての免疫システム (1) これまでの免疫学とこれからの免疫学. 治療 1996 ; 78 : 2670-2674.
- 2) 高橋秀実 : AIDS の免疫学 : 新たなる予防および治療への指標. アレルギー科 1996 ; 2 : 423-428.
- 3) 高橋秀実 : 生体防御機構としての免疫システム (2) 異を排除する仕組み : 非特異的な異物排除と特異的異物排除. 治療 1996 ; 78 : 3101-3107.
- 4) 高橋秀実 : HIV 感染と粘膜免疫. 医のあゆみ 1996 ; 178 : 1569-1575.
- 5) 高橋秀実 : Veto cell と免疫寛容. Immunology Frontier 1996 ; 6 : 359-365.
- 6) 高橋秀実 : 生体防御機構としての免疫システム (3) 生体反応としての疾病症候 : 細菌毒素に対する免疫応答. 治療 1996 ; 78 : 3515-3520.
- 7) 中川洋子, 高橋秀実, 横室公三 : HIV 感染症—基礎と臨床 : HIV ワクチン開発の現況. 現代医療 1996 ; 29 : 307-313.
- 8) 高橋秀実 : 生体防御機構賦活による未病へのアプローチ : エイズ発症阻止に向けて. 東京未病研究会雑誌 1996 ; 2 : 21-28.
- 9) 高橋秀実 : 生体防御機構としての免疫システム (4) 抗体産生の意義とその制御. 治療 1997 ; 79 : 162-167.
- 10) 高橋秀実 : ウイルス抗原に対する細胞性免疫応答の分子生物学的解析. 生物物理 1997 ; 34 : 138-145.
- 11) 高橋秀実 : 生体防御機構としての免疫システム (5) T 細胞による異物認識の仕組みとその存在意義. 治療 1997 ; 79 : 583-588.

(3) 研究報告書 :

- 1) 高橋秀実 : HIV-1 env ペプチドによる CTL の特異的抑制. 平成 8 年度長崎大学熱帯医学研究所共同研究成果報告書, 1996 ; pp66-71.
- 2) 高橋秀実, 中川洋子, 白井睦訓<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>山口大学微生物) : HIV-env 蛋白内に存在する V3 (p18) 特異的 CTL の交差部位. 平成 8 年度厚生省厚生科学研究費補助金 (エイズ対策研究事業 : HIV 感染による免疫異常に関する研究) 研究成果報告書, 1997 ; pp32-37.

## 著 書

- 1) 高橋秀実 : [分担] 病態からみた栄養と免疫 : 2感染 (腸粘膜バリアを含む) 栄養免疫学. (渡辺明治編), 1996 ; pp143-148. 医歯薬出版.
- 2) 高橋秀実 : [分担] HIV 感染における細胞性免疫応答. 別冊医学のあゆみ “AIDS 制圧に向けて” (高月 清編), 1996 ; pp66-71. 医歯薬出版.

## 学会発表

(1) 特別講演 :

- 1) 高橋秀実 : 生体防御システムと疾患 : 肝疾患への新たなるアプローチを求めて. 第 9 回九州肝と免疫研究会, 1996. 4.
- 2) 竹内良夫 : 院内 MRSA 対策について. 国立病院東京災害医療センター院内セミナー, 1996. 9.
- 3) 竹内良夫 : 漢方薬の抗アレルギー作用. 北海道漢方フォーラム (北海道医師会生涯教育講座), 1996. 9.
- 4) 高橋秀実 : HIV env ペプチドによる CVL の特異的抑制. 平成 8 年度長崎大学熱帯医学研究所共同研究集会「エイズの防疫と治療戦略」, 1997. 1.

- 5) 竹内良夫：アレルギー性腸炎と皮膚炎に対する漢方薬の効果。第8回神奈川県皮膚科漢方研究会，1997。1。
  - 6) 竹内良夫：食物アレルギーと漢方。日本皮膚科学会60回東京支部学術集会，1997。2。
  - 7) Takahashi H：Cellular immunity to human immunodeficiency virus type-1. 第1回日本研究皮膚科学会フォーラム「Protection and Disease Progression in HIV Infection」，1997。3。
- (2) シンポジウム：
- 1) Takahashi H：Cellular immune responses to HIV：Elicitation and inactivation of CD8<sup>+</sup> CTLs by viral component. The 14th International Congress for Tropical Medicine and Malaria, 1996。11。
  - 2) 高橋秀実：冠元顆粒の臨床経験。日中活血化於シンポジウム，1996。4。
  - 3) 高橋秀実：エイズウイルス蛋白による特異的キラーT細胞の制御。文部省「エイズの病態と制御に関する基礎研究」公開シンポジウム，1996。6。
  - 4) 高橋秀実：中医学の現代免疫学的検証。日本ホリスティック医学シンポジウム'96，1996。10。
  - 5) 高橋秀実：エピトープペプチド抗原によるキラーT細胞の特異的活性抑制。第26回日本免疫学会総会，1996。11。
  - 6) 高橋秀実：HIVと宿主の攻防：ウイルス蛋白による免疫機能の抑制：持続感染解明への手がかりを求めて。第11回「大学と科学」公開シンポジウム「HIV/AIDS研究はいまー基礎研究の立場から」，1997。2。
- (3) ワークショップ：
- 1) 高橋秀実：HIV-1 env蛋白由来エピトープペプチドによる特異的キラーT細胞の抑制：持続感染解明の手掛かりを求めて。第44回日本ウイルス学会総会，1996。4。
  - 2) 小平祐造，真木一茂<sup>1)</sup>，生田宏一<sup>1)</sup>，馬淵綾子，宮崎純一<sup>1)</sup>，田中茂夫<sup>2)</sup>，横室公三<sup>(<sup>1)</sup>東京大学医学部疾患遺伝子制御(サンド)，<sup>2)</sup>外科学第二)：肝内gd T細胞の分化機構の解析。第5回肝臓のリンパ球ワークショップ，1996。10。</sup>
- (4) 一般講演：
- 1) Mabuchi A, Ikeda M, Watari E, Yokomuro K：Growth control of primary culture hepatocytes by nonparenchymal livers—Role of interferon produced by liver sinusoidal cells—. 8th International Symposium on cells of the Hepatic Sinusoid, 1996。9。
  - 2) Kodaira Y, Ikuta K<sup>1)</sup>, Tanaka S<sup>2)</sup>, Miyazaki J I<sup>1)</sup>, Yokomuro K (<sup>1)</sup>東京大学医学部疾患遺伝子制御(サンド)，<sup>2)</sup>外科学第二)：Heterogeneity of gd T cells in the mouse liver. 8th International Symposium on cells of the Hepatic Sinusoid. 1996。9。
  - 3) Ogawa H<sup>1)</sup>, Kikuchi K, Yamabe S<sup>1)</sup>, Suzuki Y<sup>1)</sup>, Hayashi Y<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>相模女子大学生化学生理学)：Correlative morphological and biochemical studies of peroxisomes and mitochondria in the liver and of rats fed erucic acid or docosahexaenoic acid rich diets. 37th International Conference on the Biochemistry of Lipids Antwerp, 1996。9。
  - 4) Tsukui T<sup>1)</sup>, Schiffman M<sup>1)</sup>, Hildesheim A<sup>1)</sup>, Lucci J<sup>1)</sup>, Lorincz A<sup>1)</sup>, Corrigan A<sup>1)</sup>, David R S<sup>1)</sup>, Houghten R<sup>1)</sup>, Takahashi H, Yokomuro K, Berzofsky J A<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>NCI & NIAID, NIH, USA)：IL-2 response of peripheral lymphocytes to human papilloma virus-derived peptides among women of varying levels of cervical pathology. 第26回日本免疫学会総会，1996。11。
  - 5) 中塚雄久，高橋秀実，杉山弘高<sup>1)</sup>，中川洋子，金沢秀典<sup>2)</sup>，黒田 肇<sup>2)</sup>，小林正文<sup>2)</sup>，横室公三<sup>(<sup>1)</sup>National Jewish Center，<sup>2)</sup>内科学第三)：肝細胞癌特異的キラーT細胞の誘導とその免疫学的性状。第32回日本肝臓学会総会，1996。4。</sup>
  - 6) 二神生爾<sup>1)</sup>，高橋秀実，広田 薫<sup>1)</sup>，大橋和史<sup>2)</sup>，野呂瀬嘉彦，小林正文<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第三，<sup>2)</sup>臨床薬理センター)：慢性胃炎の分類に関するHP ウレアーゼに対する抗体検索の有用性。第82回日本消化器病学会総会，1996。4。
  - 7) 菊池京子，蓮見英世<sup>1)</sup>，上野智恵<sup>1)</sup>，山邊志都子<sup>1)</sup>，横室公三 (<sup>1)</sup>相模女子大学生化学生理学)：Aspergillus nigerカタラーゼの諸性質。第69回日本生化学会，1996。8。

- 8) 蓮見英世<sup>1)</sup>, 中島洋一<sup>1)</sup>, 飯尾裕之<sup>1)</sup>, 上野智恵<sup>1)</sup>, 菊池京子<sup>(1)相模女子大学生化学生理学</sup>): スーパーオキシドジスムアターゼの過酸化水素による断片化. 第69回日本生化学会, 1996. 8.
- 9) 野呂瀬嘉彦, 高橋秀実, 中川洋子, 横室公三, 市川安昭<sup>1)</sup>, 山下和雄<sup>(1)解剖学第一</sup>): *H. felis* 感染に伴ってマウス胃粘膜固有層内に出現するマスト細胞の形態・組織化学的検討. 第46回日本アレルギー学会総会, 1996. 10.
- 10) 渡理英二, 横室公三: シクロスポリン A の麻疹ウイルス増殖に及ぼす影響. 第44回日本ウイルス学会総会, 1996. 10.
- 11) 中川洋子, 高橋秀実, 竹下俊行<sup>1)</sup>, 横室公三, Berzofsky J A<sup>2)</sup>(<sup>1)産婦人科, 2)NCI, NIH, USA</sup>): HIV-env 抗原特異的キラーT細胞エピトープの解析: 細胞外プロセッシングの可能性について. 第26回日本免疫学会総会, 1996. 11.
- 12) 高橋秀実, 中川洋子, 横室公三, Berzofsky J A: 浮遊ペプチド抗原によるキラーT細胞の制御; (II) キラー活性抑制のメカニズム. 第26回日本免疫学会総会, 1996. 11.
- 13) 竹下俊行<sup>1)</sup>, 高橋秀実, 有坂康子<sup>1)</sup>, 朝倉啓文<sup>1)</sup>, 越野立夫<sup>1)</sup>, 荒木 勤<sup>(1)産婦人科</sup>): 妊娠中毒症における血管内皮細胞上の ICAM-1発現・末梢血 NK 細胞活性の増強. 第26回日本免疫学会総会, 1996. 11.
- 14) 中塚雄久, 高橋秀実, 杉山弘高<sup>1)</sup>, 中川洋子, 野呂瀬嘉彦, 横室公三 (<sup>1)National Jewish Center, USA</sup>): B7-1 transfectant による肝細胞癌特異的 CTL 誘導及びその *in vivo* における効果. 第26回日本免疫学会総会, 1996. 11.
- 15) 大菌英一, 西澤光義, 横室公三: 幼若 T 細胞における細胞内 T 細胞抗原レセプター複合体構造. 第26回日本免疫学会総会, 1996. 11.
- 16) 高橋めぐみ, 渡理英二, 馬淵綾子, 横室公三: 肝臓におけるサイトカインの発現について. 第26回日本免疫学会総会, 1996. 11.
- 17) 寺部正記, 林 晃一, 松井 聡, 江 連司, 馬淵綾子, 横室公三: スーパー抗原 SEB による免疫寛容誘導時, 肝内リンパ細胞 (IHL) に早期に見られる IL-2低応答性について. 第26回日本免疫学会総会, 1996. 11.
- 18) 小笠原浩明, 白井康正<sup>1)</sup>, 渡理英二, 横室公三 (<sup>1)整形外科</sup>): コラーゲン関節与による検討. 第26回日本免疫学会総会, 1996. 11.
- 19) 馬淵綾子, 北島真澄, 菊池京子, 寺部正記, 小平祐造, 野呂瀬嘉彦, 高橋めぐみ, 垣内史堂<sup>1)</sup>, 横室公三(<sup>1)東邦大学医学部免疫</sup>): 免疫学的寛容の誘導における肝臓の役割—初代培養肝実質細胞上で培養した骨髓細胞より分化した膠着性 Mac-1<sup>+</sup>細胞の抑制活性について—. 第26回日本免疫学会総会, 1996. 11.
- 20) 林 晃一, 寺部正記, 松井 聡, 馬淵綾子, 田中茂夫<sup>1)</sup>, 横室公三 (<sup>1)外科学第二</sup>): 細菌性スーパー抗原 (SEB) の経口投与により誘導される脾細胞 (SPC), 腸間膜リンパ細胞 (mLNC), 肝内リンパ細胞 (IHL), パイエル板 (PP) の寛容の特性. 第26回日本免疫学会総会, 1996. 11.
- 21) 林 晃一, 寺部正記, 松井 聡, 馬淵綾子, 田中茂夫<sup>1)</sup>, 横室公三 (<sup>1)外科学第二</sup>): 細菌性スーパー抗原 (SEB) の経口投与により誘導される脾細胞 (SPC), 腸間膜リンパ細胞 (mLNC), 肝内リンパ細胞 (IHL), パイエル板 (PP) の寛容の特性. 第10回肝類洞壁細胞研究会, 1996. 12.
- 22) 馬淵綾子, 北島真澄, 寺部正記, 垣内史堂<sup>1)</sup>, 横室公三(<sup>1)東邦大学医学部免疫</sup>): hematolymphoid system としての肝臓の研究—初代培養肝実質細胞により骨髓細胞から分化誘導した膠着性 Mac-1<sup>+</sup>細胞の抑制活性について—. 第10回肝類洞壁細胞研究会, 1996. 12.
- 23) 寺部正記, 林 晃一, 松井 聡, 馬淵綾子, 横室公三: スーパー抗原 SEB による免疫寛容誘導時, 肝内リンパ球 (IHL) に早期に見られる IL-2低応答性について. 第10回肝類洞壁細胞研究会, 1996. 12.
- 24) 畷本賜男, 川角 浩, 竹内良夫, 村田正弘: PMMX-エタノールゼリー (GOJORASRINR) の実用性の検討. 基礎と臨床 1996; 30(9): 231-236.
- 25) 竹内良夫, 本間義春: インターフェロン. *Smole Animal Clinic* 1996; 105: 1-17.
- 26) 竹内良夫: 感染症の危険はライフスタイルに潜んでいる. *Newton* 1996; 12: 78-79.



## 11. 衛生学・公衆衛生学講座

### 研究概要

今年度はサリンに明け暮れた年であった。業績の上では特にそれらしきものは未だ出ていないが、すでに J. Chromatogr. B に Minami らの代謝物質定量法が発表されている (J. Chron. B. 1997 ; 695 : 237)。このほか、新しいフッ素の定量法、被曝当時のサリン以外のコンタミネントの存在の確認とその生理作用に関する研究などがあり、次年度はこの中の幾つかが原著のリストに載るであろう。サリンについては、教室員が一丸となって協力してくれた事で本国で第一の業績を上げることが出来た。これにはカナダの防衛研究所の C. Boulet 博士の変わらない、あたたかい協力もあって、これも特筆に値する。彼は、IMPA, EMPA, EIMP, DIMP, DEMP の合成を行ない我々に提供してくれたのである。その他、今年度はそれぞれの者が自分の持場で研究成果を出しており、非常に嬉しいことである。但し、十年以上にわたって自分の生きる道を研究の上で擱めない者がいる事も事実である。しっかりした英文の原著を一編も書いていない者がいる。これは、この者が新しい技術を取り入れて手を動かそうとしないからである。何れにせよ、この一名を除き他の全員が前向きに研究に取り組んでいることは大変有り難いことである。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著 :

- 1) Li Q, Inagaki H, Minami M : Evaluation of cross-sensitization among dye-intermediate agents using a modified lymphocyte transformation test. Arch Toxicol 1996 ; 70 : 414-419.
- 2) Z-Y Wang, Minami M : Effects of chloramine on neuronal cholinergic factors : Further studies of toxicity mechanism suggested by an unusual case record. Biogenic Amines 1996 ; 12 : 213-223.
- 3) Mogi M<sup>1)</sup>, Harada M<sup>1)</sup>, Narabayashi H<sup>2)</sup>, Inagaki H, Minami M, Nagatsu T<sup>3)</sup> (<sup>1)</sup>Matsumoto Dent. Coll., <sup>2)</sup>Juntendo Univ., <sup>3)</sup>Fujita Health Univ.) : Interleukin (IL)-1 $\beta$ , IL-2, IL-6 and transforming growth factor- $\alpha$  levels are elevated in ventricular cerebrospinal fluid in juvenile parkinsonism and Parkinson's disease. Neurosci Lett 1996 ; 211 : 13-16.
- 4) Hasegawa S<sup>1)</sup>, Nakayama K<sup>1)</sup>, Iwakiri K<sup>1)</sup>, An E<sup>1)</sup>, Gomi S<sup>1)</sup>, Dan K<sup>1)</sup>, Katsumata M, Minami M, Wakabayashi I<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>Department of Internal Medicine) : Herbal medicine-associated lead intoxication. Internal Medicine 1997 ; 36 : 56-58.
- 5) Minami M, Mashiko K<sup>1)</sup>, Yamamoto Y<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>Department of Critical Care Medicine) : Organic solvent poisoning. Asian Med J 1997 ; 40 : 160-167.
- 6) 平田紀美子, 稲垣弘文, 南 正康 : ヒト尿中3-Methoxy-4-hydroxyphenylethyleneglycol (MHPG) の新しい固相抽出法. 薬学雑誌 1996 ; 116 : 813-821.
- 7) 前原直樹<sup>1)</sup>, 佐々木司<sup>1)</sup>, 李 卿, 澤 貢<sup>1)</sup>, 守 和子<sup>1)</sup>, 花岡知之<sup>1)</sup>, 渡辺明彦<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>労働科学研究所) : 深夜運転を行っているタクシー運転手 3 事例の勤務日, 勤務明け日及び公休日での心室期外収縮出現の様相. 労働科学 1996 ; 72 : 396-412.
- 8) 小栗顯二<sup>1)</sup>, 白川洋一<sup>2)</sup>, 甲元孝昌<sup>3)</sup>, 前川和彦<sup>4)</sup>, 角田紀子<sup>5)</sup>, 南 正康 (<sup>1)</sup>香川医大, <sup>2)</sup>愛媛大医, <sup>3)</sup>前陸上自衛隊, <sup>4)</sup>東大医, <sup>5)</sup>科警研) : サリン事件の中毒学. 中毒研究 1997 ; 10 : 35-74.

#### 学会発表

##### (1) シンポジウム :

- 1) 南 正康 : サリン代謝物質の生物学的モニタリング情報から毒性機序や後遺症などを推定できるであろうか

(テーマ：サリン事件の中毒学)。第18回日本中毒学会総会，1996. 7.

(2) 一般講演：

- 1) Minami M, Hui D-M, Wang Z, Inagaki H, Katsumata M : Clinical observation of the patient intoxicated with contaminated warfare gases in Tokyo sarin disaster. 14th Meeting of the International Association of Forensic Sciences (Tokyo), 1996. 8.
- 2) 恵 答美, 稲垣弘文, 勝又聖夫, 南 正康 : サリン代謝物質の生物学的モニタリング. 第66回日本衛生学会総会, 1996. 5.
- 3) 王 志玉, 勝又聖夫, 稲垣弘文, 南 正康 : サリン被曝者の血清及び赤血球の酵素についての検討. 第66回日本衛生学会総会, 1996. 5.
- 4) 勝又聖夫, 南 正康 : 漢方薬を煮出すために用いていた土瓶が原因と思われる鉛中毒症例. 第66回日本衛生学会総会, 1996. 5.
- 5) 李 卿, 南 正康, 稲垣弘文 : p-CNB の NK 細胞活性及びその他の免疫機能に対する影響. 第69回日本産業衛生学会, 1996. 6.
- 6) 稲垣弘文, 王 志玉, 南 正康 : ヒト血清コリンエステラーゼの Homospecific activity の測定とその応用. 第69回日本生化学会大会・第19回日本分子生物学会年会・合同年会, 1996. 8.
- 7) 李 卿, 稲垣弘文 : p-Chloronitrobenzene (p-CNB) のマウス NK, CTL 活性に対する影響. 第55回日本癌学会総会, 1996. 10.
- 8) 若山葉子, 荒牧琢己<sup>1)</sup>, 植田悠紀子<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>内科学第1, <sup>2)</sup>国立公衆衛生院) : 肝炎流行地区の予後の検討 : 20年間の肝疾患死亡の推移. 第55回日本公衆衛生学会総会, 1996. 10.

## 12. 法医学講座

### 研究概要

当教室では、以下のような研究を主に行っている。法医学実務としては、刑事・民事にかかわる具体的事例について検討する機会がある場合には積極的に対応している。また、親子鑑定を行い得るよう、検査能力を維持している。

#### 1. 臨床法医中毒学

救急医学教室と共同で急性薬毒物中毒による入院患者の緊急薬毒物分析法を開発し、TLC・HPLC・イムノアッセイ・GC・GC/MS等を用いたより簡便・迅速で精度の高い系統的な分析システムの開発に取り組んでいる。さらに、覚醒剤・コカイン・麻薬等の不法薬物の分析も行っている。

#### 2. アルコール代謝

アルコールの代謝ならびにアルコールの生体への影響をテーマとして、アルコール代謝における中心的酵素であるアルコール脱水素酵素・アルデヒド脱水素酵素の isozyme レベルでの代謝調節を検討し、アルコール感受性に対する個体差の解明に取り組んでいる。また、アルコールの臓器障害の機序やアルコールの溶液構造の影響を究明するため、培養細胞などを用いて生理学的・生化学的実験を行っている。

#### 3. NMR を用いた研究

共同利用施設の NMR を用いて、種々の薬毒物中毒時の脳内エネルギー代謝、水の緩和時間等を in vivo で経時的に測定し、中毒機序の解明に応用している。また、筋肉内のリン化合物などを NMR で測定し、筋肉の死後硬直の定量的分析と死後経過時間推定への応用を目指している。

#### 4. その他の研究

- 1) 脳死および臓器移植を中心に、生命倫理に関わる種々の問題を法医学的・社会医学的な立場から調査検討している。
- 2) 将来の司法解剖実施を睨み、病理組織学的手法による組織の死後変化を検討している。また、死後経過時間推定に関する研究、法医剖検例 VTR 画像の応用等の実務的研究を行っている。さらに、アルカロイド毒の薬物動態に関する研究を行っている。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Mikami K, Haseba T, Ohno Y : Ethanol induces transient arrest of cell division ( $G_2$ +M block) followed by  $G_0/G_1$  block : Dose effects of short- and longer-term ethanol exposure on cell cycle and cell functions. *Alcohol & Alcoholism* 1997 ; 32(2) : 145-152.
- 2) 黒須三恵 : 医学・医療の戦後50年：患者の人権は守られたか。 *生命倫理* 1996 ; 6(1) : 17-20.
- 3) 丸田哲生, 大野曜吉, 山本伊佐夫<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>神奈川歯科大学法医歯科学教室) : 火葬骨鑑定の1例。 *法医学の実際と研究* 1996 ; 39 : 67-70.
- 4) 林田真喜子, 大野曜吉, 仁平 信, 犬塚 祥<sup>1)</sup>, 野口貴史<sup>2)</sup>, 真砂佳代<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>救急医学教室, <sup>2)</sup>東京大学医学部医学科) : 交通外傷における重症度指標と入室時血中アルコール濃度。 *法医学の実際と研究* 1996 ; 39 : 307-316.
- 5) 林 あつみ<sup>1)</sup>, 清水真澄<sup>2)</sup>, 七戸和博<sup>2)</sup>, 長谷場健, 木元幸一<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>東京家政大学栄養学科, <sup>2)</sup>実験動物管理室) : スナネズミ (*Moriones unguiculatus*) の肝および胃におけるアルコール脱水素酵素アイソザイムに関する研究。 *日本栄養・食糧学会誌* 1996 ; 49(6) : 321-329.
- 6) 犬塚 祥<sup>1)</sup>, 林田真喜子, 仁平 信, 大野曜吉, 益子邦洋<sup>1)</sup>, 山本保博<sup>1)</sup>, 大塚敏文<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>救急医学教室) : 救急施設における薬物スクリーニング検査としての EMIT 法の有用性。 *日本救急医学会雑誌* 1996 ; 7 : 741-748.

7) 須崎紳一郎<sup>1)</sup>, 富岡譲二<sup>2)</sup>, 黒川 顕<sup>1)</sup>, 犬塚 祥<sup>1)</sup>, 山本保博<sup>1)</sup>, 林田真喜子 (<sup>1</sup>救急医学教室) : 向精神薬中毒. ICU と CCU 1997 ; 21(2) : 113-122.

(2) 総説 :

1) 長谷場健 : 医学からみた「酒の功と罪」. PHARM TECH JAPAN 1996 ; 12(10) : 93-100.

2) 長谷場健, 大野曜吉 : アルコール関連障害とアルコール依存症(特集 : アルコール代謝の酵素的メカニズム研究のためのアルコール代謝酵素の活性測定法). 日本臨床 1997 ; 55 : 665-673.

(3) その他 :

1) 黒須三恵 : 生きている無脳児からの臓器提供について : 米国医師会倫理法律問題審議会報告の紹介. 医療と倫理, 創刊号 1996 ; 99-114.

2) 大野曜吉 : 急性中毒情報ファイルシート No. 84トリカブト. 中毒研究 1997 ; 10(1) : 115-116.

## 学会発表

(1) 一般講演 :

1) Haseba T, Mikami K, Ohno Y, Tsujii T<sup>1)</sup>, Saeki C<sup>1)</sup>, Asakura T<sup>2)</sup>, Uedaira H<sup>2)</sup> (<sup>1</sup>Perkin-Elmer Japan Co. Ltd., <sup>2</sup>Coll. of Engineering, Hosei Univ., Tokyo Japan) : Modification of Acute alcoholic Intoxication by the Solution Structure. 14th Meeting of the International Association of Forensic Sciences (IAFS), 1996. 8.

2) Mikami K, Haseba T, Ohno Y : Effect of Ethanol on Cell Cycle Progression of Cultured Cells. 14th Meeting of the International Association of Forensic Sciences (IAFS), 1996. 8.

3) Tomita Y, Maruta T, Nihira M, Ohno Y, Sato S<sup>1)</sup> (<sup>1</sup>Central Institute for Electron Microscopic Researches) : Histological Study on Postmortem Changes in Various Organs. 14th Meeting of the International Association of Forensic Sciences (IAFS), 1996. 8.

4) Kurosu M, Haseba T, Ohno Y : Violation of Human Rights in Medicine and Medical Care in Japan after World War II. 14th Meeting of the International Association of Forensic Sciences (IAFS), 1996. 8.

5) Kurosu M : Japan Police Interrogation and Custody Systems : A Viewpoint of the Rights of the Suspects. The 4th International Conference of World Police Medical Officers in Clinical Forensic Medicine (WPMO-1996-KUMAMOTO), 1996. 8.

6) Ohno Y, Nihira M, Tomita Y, Hirakawa K, Uekusa K, Maruta T, Haseba T : Toxicokinetics of Aconitine in vivo. The 3rd International Symposium Advances in Legal Medicine (ISALM), 1996. 9.

7) Nihira M, Hayashida M, Ohno Y, Inuzuka S<sup>1)</sup>, Yokota H<sup>1)</sup>, Yamamoto Y<sup>1)</sup> (<sup>1</sup>Dept. Emergency Critical Care Medicine) : Drug Analysis of Body Fluids for Drug Smuggler, or Body-Packer. The 3rd International Symposium Advances in Legal Medicine (ISALM), 1996. 9.

8) Hayashida M, Nihira M, Ohno Y, Inuzuka S<sup>1)</sup> (<sup>1</sup>Dept. Emergency Critical Care Medicine) : Ten-Month Survey of Toxicology Screening in a Critical Care Medical Center, Nippon Medical School. The 3rd International Symposium Advances in Legal Medicine (ISALM), 1996. 9.

9) Hirakawa K, Uekusa K, Nihira M, Ohno Y : In vivo <sup>31</sup>P-MRS of the Skeletal Muscle in the Rat After Death. An Application to the Estimation of the Postmortem Interval. The 3rd International Symposium Advances in Legal Medicine (ISALM), 1996. 9.

10) Yamamura M<sup>1)</sup>, Itoi Y<sup>1)</sup>, Hyakusoku H<sup>1)</sup>, Kanno K<sup>2)</sup>, Hirakawa K, Uekusa K (<sup>1</sup>Dept. of Plastic and Reconstructive Surgery, <sup>2</sup>Nishiarai Skin and Hair Clinic) : Chemical Analytic Study of the Hydrogel Bag Prosthesis. 5th International Congress of Oriental Aesthetic Plastic Surgery (Taiwan), 1996. 12.

11) 丸田哲生, 大野曜吉, 山本伊佐夫<sup>1)</sup>, 富田ゆかり, 三上啓子, 佐藤美保 (<sup>1</sup>神奈川歯大法医歯科学教室) : 火葬骨

- 鑑定の1例. 第80次日本法医学会総会, 1996. 4.
- 12) 黒須三恵, 長谷場 健, 大野曜吉: 臓器移植法案の問題点と課題. 第80次日本法医学会総会, 1996. 4.
  - 13) 林田真喜子, 仁平 信, 大野曜吉, 植草協子, 平川慶子, 渡辺信夫<sup>1)</sup>, 犬塚 祥<sup>1)</sup>, 益子邦洋<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>救急医学教室): 救命救急センター薬物スクリーニングと精神疾患. 第80次日本法医学会総会, 1996. 4.
  - 14) 犬塚 祥<sup>1)</sup>, 林田真喜子, 仁平 信, 益子邦洋<sup>1)</sup>, 山本保博<sup>1)</sup>, 大塚敏文<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>救急医学教室): 外傷患者におけるアルコール/薬物スクリーニングの意義. 第10回日本外傷学会, 1996. 5.
  - 15) 林田真喜子, 植草協子, 平川慶子, 仁平 信, 大野曜吉, 神野清勝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>豊橋技術科学大学物質工学系): SPME/HPLC システムを用いた生体試料における有機リン系農薬分析. 日本法中毒学会第15年会, 1996. 6.
  - 16) 山村美和<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup>, 岡 敏行<sup>1)</sup>, 平川慶子, 植草協子(<sup>1)</sup>付属病院形成外科): Hydrogel bag Prothesis の検討 (第2報). 第66回日本美容外科学会地方会, 1996. 7.
  - 17) 柴田泰史<sup>1)</sup>, 犬塚 祥<sup>2)</sup>, 西澤健司<sup>3)</sup>, 青山昭徳<sup>1)</sup>, 里村克章<sup>1)</sup>, 益子邦洋<sup>2)</sup>, 大塚敏文<sup>2)</sup>, 林田真喜子, 仁平 信, 大野曜吉 (<sup>1)</sup>付属病院中央検査部, <sup>2)</sup>救急医学教室, <sup>3)</sup>付属病院薬剤部): Triage<sup>®</sup>および REMEDI-HS<sup>®</sup>による薬物スクリーニングの検討. 第18回日本中毒学会総会, 1996. 7.
  - 18) 山村美和<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup>, 平川慶子, 植草協子, 大野曜吉(<sup>1)</sup>付属病院形成外科): 乳房形成用各インプラントについての画像と分析. 第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 9.
  - 19) 丸田哲生, 仁平 信, 富田ゆかり, 大野曜吉, 内藤善哉<sup>1)</sup>, 浅野伍朗<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第2教室): コカイン・モルヒネ・メタンフェタミン急性中毒の病理組織学的検討. 第65回日本法医学会関東地方会, 1996. 10.
  - 20) 犬塚 祥<sup>1)</sup>, 横田裕之<sup>1)</sup>, 益子邦洋<sup>1)</sup>, 山本保博<sup>1)</sup>, 大塚敏文<sup>1)</sup>, 柴田泰史<sup>2)</sup>, 林田真喜子, 仁平 信, 大野曜吉 (<sup>1)</sup>救急医学教室, <sup>2)</sup>付属病院中央検査部): 救急患者における薬物スクリーニング: 薬物使用の実態と各種検査法の比較検討. 第24回日本救急医学会総会, 1996. 10.

## 13. 医療管理学講座

### 研究概要

学生に関する教育に力を注いでいる。3年の自主学習では一般患者の医師にたいする意識調査を行い定性的分析をした。この学習を通して、面接技法、チームワーク、集中力、ディスカッションの重要性を知った。また患者からの学びで、より良い医師になるための人間の成長と医学の勉強に目覚めた。4年の授業では患者体験から始め、社会の中の医療の位置を勉強している。模擬裁判では現職の弁護士の協力も得て、本格的な医学法律論争を繰り広げるまでに成長した。5年生は病院を色々な視野で俯瞰するために、病院建築家の協力を得て病院建築実習を行わせている。医療の理念、医療の在り方を、こうしたハードという手法を使って実習している。参加型の授業で必ず授業評価を学生にさせている。

学会活動は主任教授が日本病院設備学会の会長として活躍し、病院管理学会、医学教育学会、日本病院学会、日本プライマリ・ケア学会などの日本の学会で業績を発表しているだけでなく、韓国において第30回病的行動と精神医療学会のシンポジウムで教室の伊藤が講演した。

医療管理学教室は医療の質をテーマに一貫して研究を行ってきた。当教室に事務局をおく「医療の質に関する研究会」は、病院評価基準の作成、評価者養成、病院評価という実績をあげてきた。これは(財)日本医療機能評価機構として公式のものとなった。研究会は評価基準の質的向上の研究に方向転換しシンポジウム開催など学問的な業績を発表できる場に変換していく方向にある。

癒しの環境研究会は年3回の研究会を重ねてきた。癒しは医療だけでなく、社会的にも必要なキーワードとしてあちこちでとりあげられた。日本病院設備学会のメインテーマが癒しの環境でありさまざまな視点から論議された。日本病院学会でも療養環境の整備として特別セミナーが組まれた。日本病院会のストップエイズキャンペーン企画委員会で高がエイズ予防教育に努力している。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Takayanagi K, Iwasaki S : Death Education in Japanese Medical Schools. JJCT 1996 ; 1(1) : 46-55.
- 2) Ito H, Yamada K<sup>1)</sup>, Sasaki Y<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>Tokyo Kenbikyoin Foundation, <sup>2)</sup>Dokkyo University) : Indirect Consultation of family and staff in workplace for identified patients with schizophrenia. J Occupational Health 1996 ; 38 : 120-121.
- 3) Ito H, Sakai K<sup>1)</sup>, Sasaki Y<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>Sakai Clinic, <sup>2)</sup>Dokkyo University) : Spiritual Healing and mental health in Tokyo. Jpn J Health & Human Ecology 1997 ; 63 : 127-131.
- 4) 高柳和江、岩崎 榮 : 卒前医学教育における患者医師関係と死の教育。病院管理 1997 ; 34(1) : 21-30.
- 5) 高柳和江 : 医療施設における癒しの環境：入院ということ。病院設備 1997 ; 216 : 165-167.
- 6) 高柳和江 : 病院評価における重症度評価予後予測の意義 (特集：集中治療と重症度評価)。集中治療 1997 ; 9(1) : 73-85.

##### (2) 綜説：

- 1) Ito H, Iwasaki S, Komine K<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>Nishigahara Hospital) : Quality improvement in Japanese Hospitals. Psychiatric Services 1997 ; 48 : 107.
- 2) 岩崎 榮 : 診療録・診断書・証明書と法律 (特集：医師に必要な法律の知識)。日医雑誌 1996 ; 115(7) : 1048.
- 3) 岩崎 榮 : 医療評価をめぐる諸問題。ろうさいフォーラム 1996 ; 17(6) : 1-7.
- 4) 岩崎 榮 : 研修目標達成のための研修方式の種類と特徴。JIM 1996 ; 6(7) : 590-591.

- 5) 岩崎 榮：医学・医療における品質管理とは。日臨麻会誌 1996；16(8)：85-86。
  - 6) 岩崎 榮：病院評価の意味と方向性。日歯医師会誌 1996；557：746-747。
  - 7) 岩崎 榮：これからの医師に求められるもの（特集：“質”が問われる外来診療）。治療 1997；79(1)：6-8。
  - 8) 高柳和江：癒しの環境16：壁について考えてみよう。看教 1996；37(4)：256-257。
  - 9) 高柳和江：癒しの環境17：救急車における癒し。看教 1996；37(5)：340-341。
  - 10) 高柳和江：癒しの環境18：エイズ・ピア・エドゥケーター。看教 1996；37(6)：428-429。
  - 11) 高柳和江：癒しの環境19：術後にステーク!? 看教 1996；37(7)：514-515。
  - 12) 高柳和江：癒しの環境20：病院食だからこそ。看教 1996；37(8)：602-603。
  - 13) 高柳和江：癒しの環境21：入院患者体験。看教 1996；37(9)：690-691。
  - 14) 高柳和江：癒しの環境22：言葉がいちばん。看教 1996；37(10)：780-781。
  - 15) 高柳和江：癒しの環境23：死のみとり。看教 1996；37(11)：864-865。
  - 16) 高柳和江：癒しの環境24：顧客満足。看教 1996；37(13)：1104-1105。
  - 17) 高柳和江：長寿・福祉社会に対応した公園づくり。公園緑地 1996；57(3)：26-31。
  - 18) 高柳和江：医療の質と患者満足(CS)（特集：看護経営の指針を見出すための3つの特別講義）。看護部門 1997；10(1)：38-52。
  - 19) 高柳和江：医療・看護の質と顧客（患者）満足の関係（特集：看護の質を改善するための主任の役割と打つべき手）。主任アンド中堅 1996；31：23-29。
  - 20) 高柳和江：癒しの環境。WAM 1996；382：1。
  - 21) 高柳和江：なぜいま、「癒し」の時代なのか？ ばんぼう 1996；184：22-27。
  - 22) 高柳和江：患者心理に癒しを与える病棟環境。メンタルケアナーシング 1996；1(6)：23-28。
  - 23) 高柳和江：上手な生き方・上手な死に方：自然な死を迎えるための3つのポイント。日本歯技 1996；328：6-21。
  - 24) 高柳和江：「癒しの場」としての病院環境（特集：看護におけるピットフォール③療養環境領域）。臨牀看護 1996；303：2145-2149。
  - 25) 高柳和江：癒しの医療文化論。新医療 1997；265：59-61。
  - 26) 高柳和江：顧客満足（カスタマー・サティスファクション）はこれからの潮流。医療 CS 1997；1(1)：42-50。
  - 27) 高柳和江：医療施設における癒しの環境。病院設備 1997；216：157-159。
  - 28) 高柳和江：自然治癒力を高める病院環境を考える：「癒しの研究会」の活動。Nursing Today 1997；132：68-70。
  - 29) 伊藤弘人：精神科医療の機能評価。病院 1997；56：426-428。
  - 30) 伊藤弘人：精神科病院の医療機能評価の動向。海精会インフォメーション 1996；88：5-8。
  - 31) 伊藤弘人：精神科医療機能評価の国際的な動向。海精会インフォメーション 1996；89：4-7。
  - 32) 伊藤弘人：日本における医療機能評価の動向。海精会インフォメーション 1996；90：9-11。
  - 33) 伊藤弘人：精神科病院における医療機能評価。海精会インフォメーション 1996；95：14-16。
  - 34) 川上憲人<sup>1)</sup>、伊藤弘人、長見まき子<sup>2)</sup>（<sup>1)</sup>岐阜大学、<sup>2)</sup>あけぼの会メンタルヘルスセンター）：従業員援助プログラム(EAP)からみた産業精神保健の将来。産業精神保健 1997；5：30-36。
  - 35) 伊藤弘人：研究開発や設計部門におけるメンタルヘルス相談の特徴と組織的な対応。研究開発マネジメント 1996；6：4-8。
- (3) 研究報告書：
- 1) 高柳和江：癒しの医療文化論：芸術とヘルスケアに関する研究。「芸術と生命」芸術とヘルスケアに関する調査研究事業報告書、1997；pp17-18。
  - 2) 小林国男<sup>1)</sup>、高柳和江（<sup>1)</sup>帝京大学救命救急救命センター）：救急救命センターの医療の質ならびに評価方法に関する研究。平成7年度厚生科学研究“救急救命センターの質の向上に関する研究”報告書、1997。
  - 3) 高柳和江：TRISS法による救急医療システムと外傷治療の質的評価に関する研究。平成7年度厚生科学研究“救

- 急救命センターの質の向上に関する研究” 報告書, 1997.
- 4) 伊藤弘人, 今中雄一<sup>1)</sup>, 中野夕香里, 岩崎 榮, 郡司篤晃<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>九州大医, <sup>2)</sup>東京大医): 自己評価にみる「評価基準」の達成度: 病院機能評価の技法の開発研究. 平成7年度財団法人日本医療機能評価機構委託研究報告書, 1996; pp9-20.
  - 5) 伊藤弘人, 今中雄一<sup>1)</sup>, 中野夕香里, 岩崎 榮, 郡司篤晃<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>九州大医, <sup>2)</sup>東京大医): 自己評価にみる「評価基準」の達成度: 病院機能評価の技法の開発研究. 平成7年度財団法人日本医療機能評価機構委託研究報告書, 1996; pp21-32.
  - 6) 伊藤弘人, 岩崎 榮: 一般病院精神科の機能に関する予備的検討: 病院機能評価の普及啓発に関する研究. 平成8年度財団法人日本医療機能評価機構委託研究報告書, 1997; pp199-212.

## 著 書

- 1) 高柳和江: [分担] 患者満足度調査: 患者の声が聞こえますか. “婦長・主任のための『看護サービス時代の病棟経営』入門” (日総研教育事業グループ編), 1997; pp115-118, 日総研.
- 2) 高柳和江: [分担] 救急車における癒しの環境. “救急隊必携 緊急マニュアル” (消防庁緊急救助課監修), 1997; pp185-188, ぎょうせい.
- 3) 高柳和江: [分担] 癒しの環境づくりに向けて 癒しの環境ソフトとハード: 患者の視点から. “安らぎの医療環境を求めて 病医院・施設に必要な‘癒しの環境’づくり” (日経メディカル開発編), 1997; pp71-74, 日経メディカル開発.
- 4) 高柳和江: [分担] ヘルスケアデザインのポイント 急性期病院と慢性期病院: 患者の視点から. “安らぎの医療環境を求めて 病医院・施設に必要な‘癒しの環境’づくり” (日経メディカル開発編), 1997; pp168-173, 日経メディカル開発.

## 学会発表

### (1) シンポジウム:

- 1) Ito H: Illness behavior and mental health in Japan. The Mental Health Research Institute's 30th Academic Symposium on 'Illness Behavior and Mental Health' (Seoul), 1996. 11.
- 2) 高柳和江: 療養環境の向上をめざして. 第46回日本病院学会総会, 1996. 6.
- 3) 岩崎 榮: 21世紀医療のあり方. 国立病院総合医学会, 1996. 10.
- 4) 岩崎 榮: 高齢者医療における医療従事者像 (21世紀の高齢者医療を考える). 第50回国立病院・療養所総合医学会, 1996. 11.
- 5) 高柳和江: 癒しの環境作り: 入院ということ. 第25回日本病院設備学会総会, 1996. 11.
- 6) 高柳和江: デス・エデュケーションへの取組み. 日本臨床死生学会, 1996. 12.

### (2) シンポジウム司会:

- 1) 岩崎 榮: 医療の評価をめぐって. 第34回日本社会保険医学会, 1996. 10.
- 2) 岩崎 榮: 医療評価と医療従事者への教育. 第25回日本病院設備学会総会, 1996. 11.
- 3) 高柳和江: 癒しの環境作り: 医療施設における癒しの環境-患者の視点から考え直す. 第25回日本病院設備学会総会, 1996. 11.

### (3) 特別講演:

- 1) 岩崎 榮: 医学・医療における品質管理とは. 第16回日本臨床麻酔学会総会, 1996. 11.
- 2) 岩崎 榮: 医療動向と医師の将来像. 第14回九州地域医療学会, 1997. 2.
- 3) 高柳和江: 医学教育における医療管理の位置づけ. 歯科医療管理学会, 1996. 6.
- 4) 高柳和江: 21世紀に向かう医療を考える. 第10回北海道地区口腔インプラント臨床コロキウム, 1996. 11.
- 5) 高柳和江: 生と死. 宮城県医師会学校医部会医学会, 1996. 11.



- 6) 高柳和江：これからの病院サービス。神奈川県病院学会，1996。12。
- 7) 高柳和江：「施設症」に陥らないために 日常性をうばわないで明るくハッピーに。東京栄養士学会，1997。3。
- (4) 学会長講演：
- 1) 岩崎 榮：癒しの環境作り。第25回日本病院設備学会総会，1996。11。
- (5) 一般講演：
- 1) Imanaka Y<sup>1)</sup>, Yamashita S<sup>2)</sup>, Ito H, Iwasaki S (1)Kyushu University, 2)Tokyo University)：Relationship between quality improvement activities and patient satisfaction in Japanese hospitals. 13th International Society for Quality in Health Care (Israel), 1996。5。
- 2) 李 亜範<sup>1)</sup>, 高柳和江, 岩崎 榮 (1)医療管理学教室客員研究員)：肺癌の医療地図を用いた健康教育に関する一考察。第28回日本医学教育学会総会，1996。7。
- 3) 福島正人<sup>1)</sup>, 須藤賢太郎<sup>1)</sup>, 水谷英明<sup>1)</sup>, 森山 岳<sup>1)</sup>, 谷本佐理名<sup>2)</sup>, 高柳和江, 横田浩行<sup>2)</sup>, 田中啓治<sup>2)</sup>, 岩崎 榮 (1)日本医大3年, 2)日本医大千葉北総病院救命救急部)：ICU入院による患者体験を通じて再燃した医学生の向上心。第28回日本医学教育学会総会，1996。7。
- 4) 小井土雄一<sup>1)</sup>, 小関一英<sup>2)</sup>, 有賀 徹<sup>3)</sup>, 菊野隆明<sup>4)</sup>, 坂本哲也<sup>5)</sup>, 杉田 学<sup>5)</sup>, 佐々木勝<sup>6)</sup>, 針田 哲, 高柳和江, 益子邦洋<sup>1)</sup> (1)日本医科大学救急医学, 2)川口市立医療センター, 3)昭和大学救急医学, 4)国立東京第二病院, 5)公立昭和病院, 6)東京都立府中病院)：多施設合同研究による外傷治療の質的評価：Preventable trauma deathの頻度と原因。第24回日本救急医学会総会，1996。10。
- 5) 谷本佐理名<sup>1)</sup>, 小野寺謙吾<sup>1)</sup>, 小川理郎<sup>1)</sup>, 高橋幸道<sup>1)</sup>, 犬塚 祥<sup>1)</sup>, 小池 薫<sup>1)</sup>, 加藤一良<sup>1)</sup>, 横田裕行<sup>1)</sup>, 大塚敏文<sup>2)</sup>, 高柳和江, 岩崎 榮 (1)日本医大千葉北総病院救命救急部, 2)日本医大救急医学教室)：ICU入室中におけるストレスとその定量化。第24回日本救急医学会総会，1996。10。
- 6) 高柳和江, 小林国男<sup>1)</sup> (1)帝京大学救命救急センター)：救急の質プロセス評価の試み。第34回日本病院管理学会総会，1996。10。
- 7) 伊藤弘人, 今中雄一<sup>1)</sup>, 岩崎 榮, 郡司篤晃<sup>2)</sup> (1)九州大医, 2)東京大医)：精神病院への第三者評価の方法に関する検討(第1報)：精神病院の質向上活動への寄与を目指して。第92回日本精神神経学会総会，1996。5。
- 8) 伊藤弘人, 今中雄一<sup>1)</sup>, 中野夕香里, 岩崎 榮, 郡司篤晃<sup>1)</sup> (九州大医, 2)東京大医)：病院機能の第三評価の特徴。第34回日本病院管理学会学術総会，1996。11。
- 9) 伊藤弘人：精神科医療・相談機関に関する意識調査。日本社会精神医学会，1997。3。
- 10) 伊藤弘人：産業精神保健活動の機能評価(試論)。第3回日本産業精神保健学会総会，1996。6。
- 11) 伊藤弘人, 佐々木雄司<sup>1)</sup> (1)獨協大学)：精神分裂病圏の勤労者への精神衛生活動。第69回日本産業衛生学会総会，1996。5。
- 12) 伊藤弘人, 入田友子<sup>1)</sup>, 日下とも子<sup>1)</sup>, 岡田 賢<sup>1)</sup>, 三林真弓<sup>1)</sup>, 藤井賢一郎<sup>2)</sup>, 佐々木雄司<sup>3)</sup> (1)東京顕微鏡院, 2)三菱総合研究所, 3)獨協大学)：事業所外相談をベースとした産業精神衛生活動：財団法人東京顕微鏡院における10年の歩み。第55回日本公衆衛生学会総会，1996。10。
- 13) 今中雄一<sup>1)</sup>, 鈴木寿一<sup>1)</sup>, 信友浩一<sup>1)</sup>, 山下澄江<sup>2)</sup>, 伊藤弘人, 岩崎 榮 (1)九州大医, 2)東京大医)：病院職員の質改善活動，職務満足度と患者満足度との関係。第55回日本公衆衛生学会総会，1996。10。
- 14) 今中雄一<sup>1)</sup>, 山下澄江<sup>2)</sup>, 伊藤弘人, 郡司篤晃<sup>2)</sup>, 岩崎 榮 (1)九州大医, 2)東京大医)：患者による病院機能評価：病院および病棟単位の測定値の性質。第34回日本病院管理学会総会，1996。10。
- 15) 周 書義<sup>1)</sup>, 中野夕香里, 岩崎 榮 (1)医療管理学教室研修員)：退院サマリーの完成状況と診療録管理体制との関係についての検討。第22回日本診療録管理学会総会，1996。9。
- 16) 周 書義<sup>1)</sup>, 中野夕香里, 岩崎 榮 (1)医療管理学教室研修員)：退院サマリーの完成状況および診療現場における有用性に関する研究。第34回日本病院管理学会総会，1996。10。

## 14. 基礎医学共同研究利用施設

### [実験動物管理室]

#### 研究概要

糖尿病のモデル動物である WBN/kob 雄ラットは、飼料中の繊維成分の多・寡によって糖尿病発症が遅延または促進されることが知られており、消化管からの糖吸収と関連づけられている。そこで消化管からの糖の吸収を抑制する目的で用いられている  $\alpha$ -glucosidase inhibitor が、このラットの成育および糖尿病発症にどのような影響を与えるのかを調べる目的で Acarbose 添加飼料による長期飼育実験を行い、Acarbose 長期投与が WBN/Kob ラットにおける遺伝的糖尿病の発症を抑制することを明らかにした。

糖尿病の動物モデルは、薬剤による膵島破壊によっても作製することができる。催糖尿病薬の感受性は、動物種差が大きいため、病理組織学的に比較検討を行った。

被毛に関する突然変異遺伝子を持つ WBN/IIa-Ht rat のヘテロ及びホモ個体の哺育期における被毛の発育経過を調べるために樹脂を用いた抜毛による毛根部の観察と組織学的検索を行い、この遺伝形質が、哺育期の毛周期にも影響を与えていることを明らかにした。

漢方製剤 M-711 が喘息症状緩和作用を持つことを、in vivo と in vitro の実験系によって証明した。M-711 をアレルギー性皮膚炎モデルに投与すると、皮膚炎症状を抑制する作用も認められた。

スナネズミの生物学的特性についての検討の一環として、LDH、ALP および ADH のアイソザイムがラットやマウスと異なる特徴的なパターンを持つことを示した。末梢血中の好塩基球は、異種蛋白刺激に応答して誘導され、皮膚は、ヒスタミンに好感受性であることが明らかになった。

#### 研究業績

##### 論文

###### (1) 原著：

- 1) Shimizu M, Iida K<sup>1)</sup>, Yoshida H<sup>2)</sup>, Shichinohe K (<sup>1)</sup>Research Institute of Vaccine Therapy for Tumors and Infectious diseases, <sup>2)</sup>Sensyu Univ) : Electrophoretic study of lactate dehydrogenase and alkaline phosphatase isoenzymes of the Mongolian gerbil (*Meriones unguiculatus*). J Vet Med Sci 1996 ; 58 : 401-406.
- 2) Shichinohe K, Shimizu M, Kurokawa K<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>Nippon Veterinary and Animal Science Univ) : Effect of M-711 on experimental skin reactions induced by chemical mediators in rats. J Vet Med Sci 1996 ; 58 : 419-423.
- 3) Shimizu-Suganuma M, Mwanatambwe M<sup>1)</sup>, Shichinohe K (<sup>1)</sup>Department of Pathology 2) : Basophil response and histamine sensitivity in Mongolian gerbils (*Meriones unguiculatus*). Bull Soc Fr-Jpn Sci Vet 1996 ; 7 : 1-9.
- 4) Koido Y<sup>1)</sup>, Kato K<sup>1)</sup>, Shimizu-Suganuma M, Shichinohe K (<sup>1)</sup>Department of Emergency and Critical Care Medicine) : Nafamostat mesilate, a synthetic protease inhibitor, attenuated hypercoagulability in a canine model of hemorrhagic shock. J Nippon Med Sch 1997 ; 64 : 9-15.
- 5) 林あつみ<sup>1)</sup>, 清水眞澄, 七戸和博, 長谷場健<sup>2)</sup>, 木元幸一<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>東京家政大学, <sup>2)</sup>法医) : スナネズミ (*Meriones unguiculatus*) の肝および胃におけるアルコール脱水素酵素アイソザイムに関する研究—ラット・マウスおよびモルモットとの比較—。日本栄養食糧学会誌 1996 ; 49 : 321-329.
- 6) 仲間一雅, 秋元敏雄, 福生吉裕<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>内科第2) : アカルボース混餌による WBN/kob ラットの長期飼育観察。Diabetes Frontier 1996 ; 7 : 302-303.

## 学会発表

### (1) 一般講演：

- 1) Shimizu M, Iedokoro T<sup>1)</sup>, Fujita K<sup>1)</sup>, Mwanatambwe M<sup>2)</sup>, Asano G<sup>2)</sup>, Shichinohe K (<sup>1)</sup>Tokyo Medical and Dental Univ, <sup>2)</sup>Department of Pathology 2) : Immunological characteristics of the Mongolian gerbil as a susceptible host to parasitic infections. XIVth International Congress for Tropical Medicine and Malaria (Nagasaki, Japan), 1996. 11.
- 2) 秋元敏雄, 仲間一雅, 福生吉裕<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>内科第2) : 自発性糖尿病ラット (WBN/Kob) に対するアカルボース長期投与の影響—糖尿病発症について—. 第43回実験動物学会総会, 1996. 6.
- 3) 秋元敏雄, 仲間一雅, 福生吉裕<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>内科第2) : 自発性糖尿病ラット (WBN/Kob) に対するアカルボース長期投与の影響—成育経過について—. 第43回実験動物学会総会, 1996. 6.
- 4) 清水眞澄, 七戸和博, 飯田和美<sup>1)</sup> (ワクチン研) : 化学伝達物質に対する小型齧歯類の皮膚感受性の比較について(1). 第94回日本薬理学会関東部会, 1996. 6.
- 5) 七戸和博, 清水眞澄 : in vitro における M-711の抗アレルギー作用. 第122回日本獣医学会, 1996. 8.
- 6) 清水眞澄, 七戸和博 : フィラリア感染における遺伝背景検索スナネズミモデルの試み. 第122回日本獣医学会, 1996. 8.
- 7) 劉 効 蘭<sup>1)</sup>, 佐藤 茂<sup>1)</sup>, 佐々木美枝子<sup>1)</sup>, 清水眞澄, 七戸和博, 相原 薫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>中央電顕) : Streptozotocin 投与による膵内分泌組織の障害. 第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 9.
- 8) 西垣龍太郎<sup>1)</sup>, 手塚 潔<sup>1)</sup>, 河本陽子<sup>1)</sup>, 亀山孝二<sup>1)</sup>, 横山宗伯<sup>1)</sup>, 内藤善哉<sup>1)</sup>, 浅野伍朗<sup>1)</sup>, 清水眞澄, 七戸和博, 中山景介<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>病理第2, <sup>2)</sup>医学部2年) : スナネズミへのストレプトゾトシン投与の影響. 第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 9.
- 9) 秋元敏雄, 仲間一雅 : Hairless rat (WBN/IIa-Ht) の被毛の発育経過について. 第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 9.
- 10) 張 雪 君<sup>1)</sup>, 大須賀勝<sup>1)</sup>, 勝田悌実<sup>1)</sup>, 荒牧琢己<sup>1)</sup>, 秋元敏雄(<sup>1)</sup>内科第1) : 血管作動薬に対する門脈圧亢進症ラット大動脈の反応性. 第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 9.
- 11) 菅沼眞澄, 七戸和博 : マグヌス法による M-711の抗アレルギー作用の検討. 第95回日本薬理学会関東部会, 1996. 10.
- 12) 菅沼眞澄, 七戸和博, 福井正信<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>国立予研) : スナネズミの化学伝達物質による血管透過性の亢進. 第13回日本疾患モデル学会総会, 1996. 11.
- 13) 菅沼 (清水) 眞澄, 七戸和博 : in vivo および in vitro モデルを用いた M-711の抗アレルギー作用の検討. 第70回日本薬理学会総会, 1997. 3.

## [中央電子顕微鏡研究施設]

### 研究概要

本研究施設は本学共同利用研究施設であると同時に附置研究施設としての性格ももち、また、世界で2ヶ所(本学と韓国国立慶北大学校医科大学)しかない世界保健機関(WHO)指定研究センターとしての機能を具備している。

#### I. 中央電子顕微鏡研究施設としての機能

1) 学内外の電顕診断学活動の実施：1996年度においては約1200例の診断を行い、電子ファイルに保存するシステムを開発した。2) 大学院生、研究生の教育。3) 学内外の研究施設との共同研究開発事業(京都府立大学小児医療研究所との川崎病, Chicago 医科大学との乳癌における vaccine の研究, 国立循環器センター, NHLBI, NIH との人工心臓開発における心筋の形態変化の評価, カザフスタン医大とのアラル海塩害による小児生長障害の予防法の標準化, 肺界面活性物質の分子病理学的研究)を行っている。

## II. WHO 研究研修センターとしての機能

本研究施設が WHO 本部事務総長中嶋宏博士，西太平洋事務局長 S.T. Han 博士，各国政府の御指導と御支援をえて指定をうけて14年の年月を経過した。その間，中国の瀋陽，西安，北京，さらにはタイ国バンコクで電顕の医学，健康科学への応用についての Training course を行い，いささかの貢献をおこなってきたことにひそかな自負を覚える。その一環として先端先端医療技術研究会を発足させ，これら基盤を広く支えるための国際医学交流促進機構を発足させるはこびとなった。国際医学交流の実行 (Implementation) には人的，経済的，ならびに物的 resources の具備がなければならないというのが過去の経験からうまれた確信である。21世紀に向けて激しい活動を続ける国の内外の情勢をみるにつけこのセンター機能を整備するとともに本学の将来の発展に貢献したいと考えている。次に述べるような具体的な活動を展開している。

- 1) 年間を通じての電顕による組織の構造と機能についての公開講座の実施。
- 2) 東京都の助成を受けてリニアモーターステージによる超薄ミクロトームの開発と実用化 (国内，国際特許申請中)。
- 3) 学校法人日本医科大学附置日本医学技術専門学校における先端医学特論の講義と電子顕微鏡法の Training course (学生の80%が受講) の実施。
- 4) 社団法人日本電子顕微鏡学会関東支部主催：病理診断のための電顕技術講習会の開催
- 5) 日本医学生物学電子顕微鏡研究会と協力して国際 Training course の開催を行っている。
- 6) WHO，中国政府の強い要望により中国における小児癌の治療・診断・予防法についての国家会議 (National Meeting on the Malignant Tumors in Children) を組織することになった。症例数はそれほど多くはないとはいえ人類の次世代をになう小児を侵す悪性腫瘍についてこのような国家会議の運営組織化ができることは単に本施設のみならず本学の発展のための礎石となりうると信じてやまない。

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著：

- 1) Sato S, Kondo S<sup>1)</sup>, Aihara K (1)Mitsubishi Kasei Institute of Life Science) : Formation of the Cardiac Vascular System and Ventricular Compact Wall : An Ultrastructural Study. Med Electron Microsc 1995 ; 28 : 137-145.
- 2) Igarashi T<sup>1)</sup>, Sato S, Aihara K, Araki T<sup>1)</sup> (1)Department of Obstetrics and Gynecology) : Ultrastructural Changes in the Rat Endometrium during the Normal Estrous Cycle : Interactions between Epithelial Cells, Macrophages and Eosinophils. Med Electron Microsc 1995 ; 28 : 200-209.
- 3) Kajihara T<sup>1)</sup>, Tomioka Y<sup>1)</sup>, Hata T<sup>1)</sup>, Ghazizadeh M, Asano G<sup>2)</sup> (1)Department of Obstetrics and Gynecology, Saitama Medical School, 2)2nd Department of Pathology) : Synthesis of Endothelin-1 in Rat Uterus During Pregnancy. J Histochem Cytochem 1996 ; 44 : 953-957.
- 4) Ogawa H<sup>1)</sup>, Ghazizadeh M, Araki T<sup>1)</sup> (1)Department of Obstetrics and Gynecology) : Tn and Sialyl-Tn Antigens as Potential Prognostic Markers in Human Ovarian Carcinoma. Gynecol Obstet Invest 1996 ; 41 : 278-283.
- 5) Wakamatsu K<sup>1)</sup>, Ghazizadeh M, Ishizaki M<sup>1)</sup>, Fukuda Y<sup>1)</sup>, Yamanaka N<sup>1)</sup> (1)1st Department of Pathology) : Optimizing collagen antigenunmasking in paraffin-embedded tissues. Histochem J 1997 ; 29 : 65-72.
- 6) Inagaki K<sup>1)</sup>, Aihara K (1)Inagaki Clinic) : Light and Electron Microscopic Studies of Pathologic Changes in Rheumatoid Angitis. Med Electron Microsc 1996 ; 29 : 1-6.
- 7) Sato S, Jia Yu-Zhi, Pan Jie : Ultrastructural Damages in Rat Myocardium Induced by Hydrogen Peroxide Injection. Med Electron Microsc 1996 ; 29 : 76-83.

- 8) Shimura T<sup>1)</sup>, Teramoto A<sup>1)</sup>, Nakazawa S<sup>1)</sup>, Aihara K ( <sup>1)</sup>Department of Neurosurgery) : A clinicopathological study of malignant glioma done after local administration of chemotherapeutic agents. *Clini Neuropathol* 1996 ; 15 : 119-124.
- 9) Kobayashi N<sup>1)</sup>, Ogawa R<sup>1)</sup>, Sato S, Aihara K ( <sup>1)</sup>Department of Anesthesiology) : Therapeutic Effect of L-Canavanine, a Selective Inhibitor of Inducible Nitric Oxide Synthase, during Endotoxin Shock Lung in Rats : Ultra-structural Studies. *J Jpn Med Soc Biol Interface* 1996 ; 27 : 62-73.
- 10) Hagiwara T<sup>1)</sup>, Ozawa K<sup>1)</sup>, Fukuwatari Y<sup>1)</sup>, Hayasawa H<sup>1)</sup>, Hirohata Y, Adachi A, Kanda S, Aihara K ( <sup>1)</sup>Nutritional Science Laboratory, Morinaga Milk Industry Co.,Ltd) : EFFECTS OF LACTOFERRIN ON IRON ABSORPTION IN IMMATURE MICE. *Nutr Res* 1997 ; 17 : 895-906.
- 11) Sato S, Adachi A, Satomura K<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>1st Department of Internal Medicine) : The Ultrastructure of Spiralled Collagen in Liver Fibrosis. *Med Electron Microsc* 1996 ; 29 : 153-158.
- 12) Matsuzaki H<sup>1)</sup>, Arai K<sup>1)</sup>, Uehara M<sup>1)</sup>, Suzuki K<sup>1)</sup>, Sato S<sup>1)</sup>, Kanke Y<sup>1)</sup>, Goto S<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Department of Nutrition, Faculty of Agriculture, Tokyo University of Agriculture): INCREASING MAGNESIUM INTAKE PREVENTS HIGH PHOSPHORUS DIET-INDUCED KIDNEY DAMAGE IN YOUNG RATS. *Nutr Res* 1997 ; 17 : 325-337.
- 13) 佐藤 茂, 賈 玉 芝, 劉 爾 東, 劉 建 軍, 相原 薫 : 過酸化水素投与による肺傷害. *日本界面医学会雑誌* 1996 ; 27 : 99-109.
- 14) 安達彰子, 佐藤 茂 : 変性コラーゲンのステレオ観察 : 肝線維化. *呼吸* 1996 ; 15 : 1009-1014.
- 15) 松崎広志<sup>1)</sup>, 上原万里子<sup>1)</sup>, 鈴木和春<sup>1)</sup>, 佐藤 茂, 五島孜郎<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>東京農業大学農学部栄養学科栄養生理化学研究室) : ラット腎の石灰化と機能に及ぼす食事性リンレベルの影響. *東農大農学集報* 1996 ; 41 : 127-134.
- 16) 三枝英人<sup>1)</sup>, 秋元利香<sup>1)</sup>, 劉 愛 民, 神尾友信<sup>1)</sup>, 渡邊健一<sup>1)</sup>, 富山俊一<sup>1)</sup>, 相原 薫, 八木聰明<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>付・耳鼻咽喉科学教室) : 側頭骨原発悪性リンパ腫の1症例. *耳喉頭頸* 1997 ; 69 : 233-238.

## 著 書

- 1) 広畑泰久 : [分担] 基礎知識, 試料作製法, 利用. “電子顕微鏡 Q & A : 先端材料解析のための手引き” (堀内繁雄・弘津禎彦・朝倉健太郎共編), 1996, アグネ承風社.

## 学会発表

### (1) 一般講演 :

- 1) Ghazizadeh M, Jia Yu-Zhi, Sasaki Y, Aihara K : Proliferative Activity of Ovarian Carcinoma Assessed by PCNA and AgNOR Analyses. 第85回日本病理学会総会, 1996. 4.
- 2) Ghazizadeh M, Sasaki Y, Oguro T<sup>1)</sup>, Aihara, K ( <sup>1)</sup>Chiba Hokuso Hp) : Improved Immunolabeling of Routine Epoxy Resin Tissue Sections by Antigen Retrieval Using Microwave Heating. 第28回日本臨床電子顕微鏡学会総会, 1996. 10.
- 3) Liu A, Ghazizadeh M, Onouchi Z<sup>1)</sup>, Hamaoka K<sup>1)</sup>, Aihara K ( <sup>1)</sup>Division of Pediatrics, Children Research Hospital, Kyoto Prefectural University of Medicine) : Expression of HLA-DR Antigen in Myocardial Tissue in Kawasaki Disease. 第16回日本川崎病研究会, 1996. 11.
- 4) 佐藤 茂, 相原 薫 : 心室壁を形成する間質の起源 : 発生学的研究. 第85回日本病理学会総会, 1996. 4.
- 5) 温 敏<sup>1)</sup>, 佐藤 茂, 松本光司<sup>1)</sup>, 山田宣孝<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>第一病院病理部) : *Helicobacter pylori* 感染胃粘膜及び除菌治療後症例の電顕的検討. 第85回日本病理学会総会, 1996. 4.
- 6) 劉 巧 玲, 佐藤 茂, 松崎広志<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>東農大栄養生理科学) : 高リン食投与時の腎石灰化に対する漢方薬効果. 第85回日本病理学会総会, 1996. 4.

- 7) 姜 景 濤, 佐藤 茂, 相原 薫: 反復性一過性実験的脳虚血による脳障害. 第85回日本病理学会総会, 1996. 4.
- 8) 広畑泰久, 朝倉健太郎<sup>1)</sup>, 相原 薫, 古荘貞男<sup>2)</sup>, 山本資次<sup>2)</sup>, 今坂統一<sup>2)</sup>, 片岡宣義<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>東大工, <sup>2)</sup>中央精機): リニアモーターステージによるウルトラマイクロトームの開発(2). 第52回日本電子顕微鏡学会学術講演会, 1996. 5.
- 9) 小黒辰夫<sup>1)</sup>, 清水英樹<sup>1)</sup>, 三枝順子<sup>1)</sup>, 安藤 哲<sup>1)</sup>, 森 修<sup>1)</sup>, 大秋美治<sup>1)</sup>, 浅野伍朗<sup>2)</sup>, 佐佐木喜広, モハマッド・ガジザデ (<sup>1)</sup>千葉北総病院病理部, <sup>2)</sup>病理第2): Film Sheet Epoxy Resin Embedding Method (FSEM) の開発について. 第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 9.
- 10) 劉 効 蘭, 佐藤 茂, 佐々木美枝子, 相原 薫, 清水真澄<sup>1)</sup>, 七戸和博<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>実験動物管理室): Streptozotocin 投与による膵内分泌組織の傷害: 免疫組織および電顕的検討. 第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 9.
- 11) 劉 巧 玲, 佐藤 茂, 盧 春 燕, 相原 薫: 高リン食投与時の腎石灰化に対する漢方薬効果: 形態学的研究. 第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 9.
- 12) 小黒辰夫<sup>1)</sup>, 大秋美治<sup>1)</sup>, モハマッド・ガジザデ, 浅野伍朗<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>千葉北総病院病理部, <sup>2)</sup>病理第2): Film Sheet Epoxy Resin Embedding Method (FSEM) の開発について. 第28回日本臨床電子顕微鏡学会総会, 1996. 10.
- 13) 佐藤 茂, 若松恭子<sup>1)</sup>, 石崎正通<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>病理第1): 胎児心臓における血管新生と線維芽細胞とIII型コラーゲン. 第28回日本臨床電子顕微鏡学会総会, 1996. 10.
- 14) 劉 愛 民, 劉 効 蘭, 佐佐木喜広, 井上京子, 安達彰子, 佐藤 茂, 相原 薫: 小児白血病における超微形態. 第28回日本臨床電子顕微鏡学会総会, 1996. 10.
- 15) 賈 玉 芝, 佐藤 茂, 劉 建 軍, 相原 薫, 浅野伍朗<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>病理第2): 実験的ラット虚血心における虚血部位での循環動態. 第28回日本臨床電子顕微鏡学会総会, 1996. 10.
- 16) 安達彰子, 佐藤 茂, 若松恭子<sup>1)</sup>, 石崎正通<sup>1)</sup>, 鈴木克哉, 相原 薫 (<sup>1)</sup>病理第1): 慢性肝炎における弾性系線維の超微観察. 第28回日本臨床電子顕微鏡学会総会, 1996. 10.
- 17) 飯田泰人<sup>1)</sup>, 佐藤 茂, 佐佐木喜広, 相原 薫 (<sup>1)</sup>川西病院): 変形性関節症における膝関節軟骨の形態観察. 第28回日本臨床電子顕微鏡学会総会, 1996. 10.
- 18) 尾崎憲子<sup>1)</sup>, 若松恭子<sup>1)</sup>, 石崎正通<sup>1)</sup>, 安達彰子 (<sup>1)</sup>付・眼科, <sup>2)</sup>病理第1): III型アレルギーによる角膜障害の推移とアポトーシスの関与. 第28回日本臨床電子顕微鏡学会総会, 1996. 10.
- 19) 岸川テル子, Ghazizadeh M, 佐佐木喜広, 相原 薫: ヒト乳癌細胞株とヒト正常乳房上皮細胞株との細胞接着における腫瘍関連 T および Tn 抗原の関与. 第55回日本癌学会総会, 1996. 10.
- 20) 劉 爾 東, 佐藤 茂, 賈 玉 芝, 劉 建 軍, 相原 薫: 過酸化水素投与による肺傷害. 第32回日本界面医学会, 1996. 11.
- 21) 松村豪一<sup>1)</sup>, 上田真太郎<sup>2)</sup>, 正木文夫<sup>3)</sup>, 石原竜雄<sup>4)</sup>, 相原 薫 (<sup>1)</sup>関東医学研究所, <sup>2)</sup>日大院理工学研究科福祉工学専攻, <sup>3)</sup>富士バイオメディックス, <sup>4)</sup>大湧谷自然科学館): 霞山椒魚の幼生期(水生期)における呼吸領域に関する形態学的研究(I): 特に呼吸機能の発現について. 第32回日本界面医学会, 1996. 11.

## [情報科学センター (旧: 医療情報部)]

### 研究概要

日本医科大学広域学術ネットワークの運営開始後1年経過した。利用登録者数は昨年度初頭500名であったが現在1300名に達している。初年度であるので利用者サービスに尽力してきた。各病院、地区において利用講習会を数回行うなどの努力により利用者数に関しては順調に発展していると言えよう。昨年度問題であった公衆回線による遠隔アクセスの混雑も INS1500 の導入で最大23回線の接続, および ISDN64 による接続が可能とするなど品質の向上を行い, 現在ほぼ解決している。

本年度の千駄木校舎内の改装に伴い, センターの移動や本部棟でのネットワーク拡充などがあった。これに伴い

ISDNにより弥生寮などの校舎敷地外からのアクセスも可能となった。また、付属看護学校へのISDNによる接続が実現し、医科大学、看護学校との連携を深める事ができた。

情報科学センターが試験運用として立ちあげている、日本医科大学ホームページへのアクセスも、のべ5万件になっている。各教室のHPも幾つかで出来始めており、Webの管理が今後問題となろう。これら環境の発展に対応して各種の規定の整備をおこない、インフラとして確立してきたと言えよう。

弱点であった広域接続は、立ち上げ当初は1カ月は不安定で頻繁にダウンしたが年度後半は2、3カ月に1度ダウン程度となり、廉価な方法としては費用対効果は十分あるがインフラとしては、ほめられた状態では無い。高速、安定化が望まれている。人員の増員、運営体制の整備が必要である。

校内ネットワークが一応の稼働を開始し、利用者の増加が見られた現在では、学内におけるデータベースの充実が必要と判断し、文部省の平成8年度私立大学等経常費補助金特別補助(教育学術情報データベース等の開発)「医学教育用マルチメディアデータベース」を得る事ができた。平成9年度より入力作業を開始する。この研究は、近い将来の電子カルテへ繋がるものとして進めている。

以上、ネットワークに関する研究は渡部らが医療情報学会へ報告した他、文部省の情報処理教育研究集会で報告している。

情報化時代を迎え、社会状況の変化が見られ、情報化時代における倫理が重要な問題となることが予測される。この問題に対処するため、基礎科学哲学、倫理学教室より長島助教授を兼坦として迎え研究を依頼している。

また、分子レベルでの生体数理解析が大きなテーマとなりつつあり、これに対処するため、基礎科学物理学教室 菊池講師を兼坦として依頼した。

生体情報処理分野では、第一内科大坂等と心室期外収縮を題材として生体信号の揺らぎ解析が進められており、第11回生体、生理工学シンポジウムへ発表している。

河野は科学技術庁放射線医学総合研究所の各員協力研究員として同研究所の物理学グループの行う研究に脳波解析の立場から協同研究を行った。

伊藤は東海大開発工学部との共同研究を継続し、睡眠および自律神経系における制御、変動、ゆらぎの解析を行っている。

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著：

- 1) Kawano K, Shi J M<sup>1)</sup>, Duan L Y<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>日本医大生理学教室)：The frequency change in  $\alpha$  waves and the appearance of  $\theta$  waves during Qigong and Meditation. J Intl Soc Life Info Sci 1996；14(1)：22-31.
- 2) 河野貴美子：リラックスと集中を脳波から考える。Jpn. J Sports Sci 1996；15(3)：193-196.
- 3) 河野貴美子，榎田浩平<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>日本原子力研究所)：同一個人による坐禅，気功，弓道の脳波の比較。人体科学 1996；5(1)：39-45.
- 4) 道祖土栄<sup>1)</sup>，幸王孝仁<sup>1)</sup>，高橋 潤<sup>1)</sup>，長島圭子<sup>1)</sup>，山崎清之<sup>1)</sup>，岡本克郎<sup>1)</sup>，伊藤高司(<sup>1)</sup>東海大学開発工学部医用生体工学科)：断眠が精神作業成績に及ぼす影響。東海大学開発工学部紀要 1996；6：237-243.

### 学会発表

#### (1) シンポジウム：

- 1) 若月重之<sup>1)</sup>，相羽達弥<sup>1)</sup>，長島圭子<sup>1)</sup>，大塚 隆<sup>1)</sup>，山崎清之<sup>1)</sup>，岡本克郎<sup>1)</sup>，伊藤高司(<sup>1)</sup>東海大学開発工学部医用生体工学科)：Sitzball 着座時の覚醒水準変動。96'SAS インテリジェントシンポジウム (平塚)，1996. 11.
- 2) 木村達洋<sup>1)</sup>，川村智一<sup>1)</sup>，山崎清之<sup>1)</sup>，岡本克郎<sup>1)</sup>，伊藤高司(<sup>1)</sup>東海大学開発工学部医用生体工学科)：ホルター心電計を用いたサーカディアンリズムの検討。96'SAS インテリジェントシンポジウム (平塚)，1996. 11.

- 3) 大坂元久<sup>1)</sup>, 斎藤寛和<sup>2)</sup>, 横島友子<sup>2)</sup>, 岸田 浩<sup>2)</sup>, 早川弘一<sup>2)</sup>, 伊藤高司 (<sup>1)</sup>第一生理, <sup>2)</sup>第一内科): 相互情報量による生体信号のゆらぎ解析—心室期外収縮出現のパターン分類への応用 第11回生体・生理工学シンポジウム論文集, (社)計測自動制御学会(大阪), 1996. 11.
- 4) 山本幹男<sup>1)</sup>, 平澤雅彦<sup>1)</sup>, 小久保秀之<sup>1)</sup>, 河野貴美子, 古角智子<sup>1)</sup>, 平田 剛<sup>2)</sup>, 安田仲宏<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線医学総合研究所, <sup>2)</sup>NEC 情報メディア研究所): 体性感覚に関する変則的知覚課題における背景脳波変化. 第3回生命情報科学シンポジウム, 1997. 3.
- (2) 一般講演:
- 1) 河野貴美子, 榊田浩平<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>日本原子力研究所): 目隠し強圧呼吸による瞑想誘導と脳の情報処理機能. 第43回応用物理学関係連合講演会, 1996. 3.
- 2) 山本幹男<sup>1)</sup>, 平澤雅彦<sup>1)</sup>, 河野貴美子, 古川 章<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>放射線医学総合研究所): 背景脳波分析による下意識情報伝達実験. 第43回応用物理学関係連合講演会, 1996. 3.
- 3) 山本幹男<sup>1)</sup>, 平澤雅彦<sup>1)</sup>, 河野貴美子, 安田仲宏<sup>1)</sup>, 古川 章<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線医学総合研究所): 非接触対人遠隔作用に関する感覚遮断実験. 第43回応用物理学関係連合講演, 1996. 3.
- 4) 幸王孝仁<sup>1)</sup>, 道祖土栄<sup>1)</sup>, 高橋 潤<sup>1)</sup>, 伊藤高司, 山崎清之<sup>1)</sup>, 岡本克郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東海大学開発工学部医用生体工学科): 催眠ポリグラフィーからみた催眠パターンと“体動”の出現様式の検討. 日本人間工学会第37回大会(所沢), 1996. 5.
- 5) 道祖土栄<sup>1)</sup>, 幸王孝仁<sup>1)</sup>, 五明博彰<sup>1)</sup>, 米花菜央<sup>1)</sup>, 高橋 潤<sup>1)</sup>, 長島圭子<sup>1)</sup>, 伊藤高司, 山崎清之<sup>1)</sup>, 岡本克郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東海大学開発工学部医用生体工学科): 催眠ポリグラフィーからみた催眠パターンと精神作業成績に関する研究. 日本人間工学会第37回大会(所沢), 1996. 5.
- 6) 高橋 潤<sup>1)</sup>, 幸王孝仁<sup>1)</sup>, 道祖土栄<sup>1)</sup>, 近藤正規<sup>1)</sup>, 米花菜央<sup>1)</sup>, 伊藤高司, 安藤貴紀<sup>2)</sup>, 苗村育郎<sup>3)</sup>, 山崎清之<sup>1)</sup>, 岡本克郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東海大学開発工学部医用生体工学科, <sup>2)</sup>東京都精神医学総合研究所, <sup>3)</sup>秋田大学保健管理センター): 自律神経指標を考慮した sleep cycle の研究—統一された生活パターンでの催眠の質の検討—. 第35回日本エム・イー学会大会(大阪), 1996. 5.
- 7) 清水稔也<sup>1)</sup>, 杉本政也<sup>1)</sup>, 菅沼雅美<sup>1)</sup>, 山崎 香<sup>1)</sup>, 長島圭子<sup>1)</sup>, 伊藤高司, 山崎清之<sup>1)</sup>, 岡本克郎<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>東海大学開発工学部医用生体工学科): 視覚的擾乱を与えた場合の重心動揺の検討. 第35回日本エム・イー学会大会(大阪), 1996. 5.
- 8) 高木真吾<sup>1)</sup>, 米川晴恵<sup>1)</sup>, 杉本政也<sup>1)</sup>, 山田志津子<sup>1)</sup>, 伊藤高司, 山崎清之<sup>1)</sup>, 岡本克郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東海大学開発工学部医用生体工学科): 無自覚的視覚学習におよぼす聴覚妨害刺激の効果. 第35回日本エム・イー学会大会(大阪), 1996. 5.
- 9) 川崎真護<sup>1)</sup>, 相羽達弥<sup>1)</sup>, 杉本政也<sup>1)</sup>, 伊藤高司, 安藤貴紀<sup>2)</sup>, 山崎清之<sup>1)</sup>, 岡本克郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東海大学開発工学部医用生体工学科, <sup>2)</sup>東京都精神医学総合研究所): 情動負荷時の抹消被布組織血流の自照関連変動. 第35回日本エム・イー学会大会(大阪), 1996. 5.
- 10) 木村真人<sup>1)</sup>, 鈴木博子<sup>1)</sup>, 森 隆夫<sup>1)</sup>, 河野貴美子, 葉田道雄<sup>1)</sup>, 今井理子<sup>1)</sup>, 遠藤俊吉<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>日本医大神経科): ストレス負荷に対する香りの精神生理学的研究(第3報)—定量脳波分析と事象関連電位(ERPs)を用いた検討. 第12回日本催眠学会大会, 1996. 10.
- 11) 森 隆夫<sup>1)</sup>, 竹澤健司<sup>1)</sup>, 木村真人<sup>1)</sup>, 鬼頭 諭<sup>1)</sup>, 鈴木博子<sup>1)</sup>, 葉田道雄<sup>1)</sup>, 河野貴美子, 遠藤俊吉<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>日本医大神経科): ストレス負荷に対する香りの精神生理学的研究(第4報)—フラクタル次元解析を用いた検討—. 第12回日本催眠学会大会, 1996. 10.
- 12) 河野貴美子: 各種瞑想法実施中と強制誘導された瞑想時の脳波による比較. 第12回日本催眠学会大会, 1996. 10.
- 13) 大坂元久<sup>1)</sup>, 斎藤寛和<sup>2)</sup>, 新 博次<sup>2)</sup>, 加藤貴雄<sup>2)</sup>, 伊藤高司, 岸田 浩<sup>2)</sup>, 早川弘一<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>第一生理, <sup>2)</sup>第一内科): 心室期外収縮出現パターンと心拍変動の関係 第12回時間循環器研究会(東京), 1996. 10.
- 14) 河野貴美子: 香りの瞑想効果. 人体科学会第6回大会, 1996. 11.



- 15) 渡部 昇, 河野貴美子, 村松尚可, 伊藤高司, 殿崎正明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学付属図書館):「大学と付属病院の各地区を結ぶ広域学術ネットワーク. 第16回医療情報学連合大会(千葉), 1997. 11.
- 16) 渡部 昇, 伊藤高司: 広域学術ネットワーク整備後のコンピュータ利用. 平成8年度情報処理教育研究集会(名古屋), 1997. 12.
- 17) 道祖土栄<sup>1)</sup>, 幸王孝仁<sup>1)</sup>, 高橋 潤<sup>1)</sup>, 長島圭子<sup>1)</sup>, 伊藤高司, 山崎清之<sup>1)</sup>, 岡本克郎<sup>1)</sup>, 池田研二<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>東海大学開発工学部医用生体工学科, <sup>2)</sup>東海大学開発技術研究所): 統制された生活パターンでの睡眠の質に関する研究. 第12回ライフサポート学会大会(札幌), 1996. 12.
- 18) 青木史穂利<sup>1)</sup>, 杉本政也<sup>1)</sup>, 長島圭子<sup>1)</sup>, 伊藤高司, 山崎清之<sup>1)</sup>, 岡本克郎<sup>1)</sup>, 池田研二<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>東海大学開発工学部医用生体工学科, <sup>2)</sup>東海大学開発技術研究所): 重心動揺のランダム性を考慮した立位姿勢保持機能の検討. 第12回ライフサポート学会大会(札幌), 1996. 12.
- 19) 河野貴美子, 山本幹男<sup>1)</sup>, 平澤雅彦<sup>1)</sup>, 小久保秀之<sup>1)</sup>, 安田仲宏<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線医学総合研究所): 子供における課題集中時の脳波解析. 第3回生命情報科学シンポジウム, 1997. 3.
- 20) 河野貴美子, 赤坂文郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>物理哲学研究所): ICを内蔵した櫛様器具による血圧調整効果およびリラクセス効果. 第44回応用物理学関係連合講演会, 1997. 3.

## 〔3〕臨 床 医 学

# 1. 内科学第一講座

## [付属病院第1内科]

### 研究概要

内科学第一教室では循環器病学、肝臓病学ならびに代謝、糖尿病学を中心に以下に示すような臨床的、基礎的研究を行った。

循環器病学では、不整脈に関する研究として、1) 心拍変動周波数解析などの数理学的手法、薬理学的手法を用いた自律神経系と不整脈発生との関連の検討、2) 抗不整脈薬の臨床的、電気生理学的効果の検討、3) 各種不整脈に対するカテーテルアブレーション治療の応用、4) 失神患者における自律神経機能の評価、5) 加算平均心電図法を用いた各種不整脈発生機序の検討ならびに抗不整脈薬の評価、6) 単相性活動電位記録による不整脈発生機序の検討、7) 自律神経活動と心筋再分極不均一性変動の関連、8) 心房細動患者の予後検討、心房血栓の検出法の評価。

虚血性心疾患、心筋疾患に関する研究として、1) 薬剤負荷による viable myocardium、心筋虚血の検出、2) 虚血性心疾患における圧受容体反射、自律神経機能との関連、3) 血管内視鏡による冠動脈病変の評価、4) 異型狭心症における血管反応性と自律神経活動との関係、5) ischemic preconditioning の効果、6) 虚血性心疾患、心筋疾患における成長因子の役割、7) 急性心筋虚血時の血中 Troponin T 動態の検討、8) 2 各種同時集積法による心筋シンチグラフィに関する検討。

肝臓病学では、1) 門脈圧亢進症の病態、薬物療法に関する検討、2) 実験的門脈圧亢進症における血管作動物質の動態、3) C 型慢性肝炎に対するインターフェロン療法に関する検討、4) 肝細胞のイオンチャネルに関する電気生理学的検討。

代謝、糖尿病学では、1) 心筋梗塞を合併した糖尿病患者における late potential と心室頻拍発生との関連、2) 糖尿病患者における自律神経機能。

### 研究業績

#### 論文

[1995年度追加分]

総説：

- 1) 寺田秀人, 古明地弘和, 荒牧琢己：肝・胆道系症候群—その他の肝・胆道系疾患を含めて—肝臓編（上巻）Child A 肝硬変, Child B 肝硬変, Child C 肝硬変。日本臨床 領域別症候群シリーズ No. 7, 1995(別)；151-154。

(1) 原著：

- 1) Atarashi H, Kuruma A, Ino T, Hirayama Y, Saitoh H, Hayakawa H : Clinical effects and pharmacokinetics of a single oral dose of pirlmenol hydrochloride. J Cardiovasc Pharmacol 1996 ; 27 : 556-562.
- 2) Seino Y, Tomita Y, Hoshino K, Setsuta K, Takano T<sup>1)</sup>, Hayakawa H ( <sup>1)</sup>CCU) : Pathophysiological analysis of serum Troponin T release kinetics in evolving ischemic myocardial injury. Jpn Circ J 1996 ; 60 : 265-276.
- 3) Kishida H, Tada Y, Fukuma N, Saitoh T, Kusama Y, Sano J : Significant characteristics of variant angina patients with associated syncope. Jpn Heart J 1996 ; 37 : 317-326.
- 4) Miyatake Y, Kusama Y, Kishida H, Hayakawa H : Adenosine mediates the antiarrhythmic effect of ischemic preconditioning in isolated rat hearts. Jpn Circ J 1996 ; 60 : 341-348.
- 5) Sasabe N, Saitoh H, Ono T, Nomura A, Osaka M, Atarashi H, Katoh T, Hayakawa H, Itoh T<sup>1)</sup>, Mizukami

- H<sup>2)</sup> (<sup>1</sup>Information Science Center of Nippon Medical School, <sup>2</sup>Nippon Poraloid Kabushiki Kaisha) : The usefulness of Activation Recovery Interval (ARI) on 24 hour holter monitoring. Ther Res 1996 ; 17 : 2941-2945.
- 6) Saitoh T, Kishida H, Hanashi A, Tada Y, Sano J, Fukuma N, Kusama Y, Hayakawa H : Influence of autonomic nervous system and catecholamines on coronary tone in patients with vasospastic angina. Ther Res 1996 ; 17 : 2986-2998.
- 7) Atarashi H, Ogawa S<sup>1)</sup>, Harumi K<sup>2)</sup>, Hayakawa H, Sugimoto T<sup>3)</sup>, Okada R<sup>4)</sup>, Murayama M<sup>5)</sup>, Toyama J<sup>6)</sup> (<sup>1</sup>The Department of Internal Medicine, Keio University School of Medicine, <sup>2</sup>Department of Internal Medicine, Showa University Fujigaoka Hospital, <sup>3</sup>Kanto Central Hospital, <sup>4</sup>Division of Cardiology, Department of Internal Medicine, School of Medicine, Juntendo University, <sup>5</sup>Department of Internal Medicine, St. Marianna University School of Medicine, <sup>6</sup>Research Institute of Environmental Medicine, Nagoya University) : Characteristics of patients with right bundle branch block and ST-Segment elevation in right precordial leads. Am J Cardiol 1996 ; 78 : 581-584.
- 8) Atarashi H, Inoue H<sup>1)</sup>, Hiejima K<sup>2)</sup>, Hayakawa H (<sup>1</sup>the Second Department of Internal Medicine, Toyama Medical and Pharmaceutical University, <sup>2</sup>the First Department of Internal Medicine, Tokyo Medical and Dental University) : Conversion of recent-onset atrial fibrillation by a single oral dose of Pilsicainide (Philsicainide suppression trial on Atrial Fibrillation). Am J Cardiol 1996 ; 78 : 694-697.
- 9) Seino Y, Momomura S<sup>1)</sup>, Takano T<sup>2)</sup>, Hayakawa H, Kato K<sup>3)</sup> (<sup>1</sup>The Second Department of Internal Medicine, Tokyo University, <sup>2</sup>CCU, <sup>3</sup>the Cardiovascular Institute Hospital) : Multicenter, double-blind study of intravenous milrinone for patients with acute heart failure in Japan. Crit Care Med 1996 ; 24 : 1490-1497.
- 10) Kishida H, Kusama Y, Honma H : Dobutamine stress echocardiography for the detection of coronary artery disease and viable myocardium. Jpn Heart J 1997 ; 38 : 151-161.
- 11) 加藤和三<sup>1)</sup>, 飯沼宏之<sup>1)</sup>, 井上 博<sup>2)</sup>, 上田慶二<sup>3)</sup>, 小川 聡<sup>4)</sup>, 笠貫 宏<sup>5)</sup>, 下村克朗<sup>6)</sup>, 杉本恒明<sup>7)</sup>, 田辺晃久<sup>8)</sup>, 橋場邦武<sup>9)</sup>, 早川弘一, 比江嶋一昌<sup>10)</sup>, 傳 隆泰<sup>1)</sup>, 中島光好<sup>11)</sup> (<sup>1</sup>心臓血管研究所付属病院, <sup>2</sup>富山医科薬科大学第二内科, <sup>3</sup>東京都多摩老人医療センター循環器科, <sup>4</sup>慶應義塾大学呼吸循環器内科, <sup>5</sup>東京女子医科大学循環器内科, <sup>6</sup>国立循環器病センター内科, <sup>7</sup>関東中央病院循環器科, <sup>8</sup>東海大学第一内科, <sup>9</sup>NTT 長崎病院, <sup>10</sup>東京医科歯科大学第一内科, <sup>11</sup>浜松医科大学薬理学) : 生命に危険のある再発性の心室性頻脈性不整脈に対する Sotalol の臨床効果 : 多施設共同研究による用量設定試験および長期投与試験. 臨床医薬 1996 ; 12 : 583-617.
- 12) 加藤貴雄, 洪 基哲, 小原俊彦, 早川弘一 : SSS における自然発作と overdrive suppression による誘発発作の関係. 心電図 1996 ; 16 : 340-350.
- 13) 井野 威, 田寺 長, 小林義典, 宮内靖史, 川口直美, 大村和子, 八島正明, 新 博次, 早川弘一 : Orthodromic AVRT 中に記録される心房 double potentials の電気生理学的特徴. 臨床心臓電気生理 1996 ; 19 : 105-112.
- 14) 早川弘一 : 臨床試験担当医の立場から : 主観的評価が不要といわれている分野 : 抗不整脈薬. 臨床薬理 1996 ; 27 : 507-508.
- 15) 福間長知, 岸田 浩, 哲翁弥生, 多田祐美子, 馬淵浩輔, 松田裕之, 笠神康平, 富村正登, 葉梨亜矢, 佐野純子, 斉藤 勉, 宗像一雄, 早川弘一 : 心拍変動と血圧変動の関係 : 圧受容体反射による修飾. Ther Res 1996 ; 17 : 1928-1932.
- 16) 塚本 浩, 清野精彦, 柏木睦美, 早川弘一, 高野照夫<sup>1)</sup>, 大木清司<sup>2)</sup>, 中村辰男<sup>3)</sup>, 滝田孝之<sup>4)</sup> (<sup>1</sup>集中治療室, <sup>2</sup>友愛記念病院内科, <sup>3</sup>西部沼袋医院, <sup>4</sup>三菱重工株式会社健康管理センター) : 急性心不全治療に伴う皮膚微循環動態の変化に関する検討 : Laser Doppler による血流分析. Ther Res 1996 ; 17 : 1951-1957.
- 17) 草間芳樹, 岸田 浩 : 冠動脈疾患と Preconditioning 効果. Ther Res 1996 ; 17 : 3508-3514.

- 18) 遠藤康実, 新 博次, 平山悦之, 来馬明規, 田寺 長, 齋藤寛和, 井野 威, 早川弘一: 長期にわたり使用した抗不整脈薬を中止し得た持続性心室頻拍の2例. 循環器科 1996; 40: 311-315.
- 19) 松岡健平<sup>1)</sup>, 平田幸正<sup>2)</sup>, 金澤康徳<sup>3)</sup>, 矢崎義雄<sup>4)</sup>, 大竹 稔, 開原成允<sup>5)</sup>(<sup>1)</sup>東京都済生会中央病院内科, <sup>2)</sup>東京女子医科大学附属糖尿病センター, <sup>3)</sup>自治医科大学附属大宮医療センター, <sup>4)</sup>東京大学医学部第3内科, <sup>5)</sup>東京大学医学部附属病院中央医療情報部): 塩酸メキシレチン (MX-PDN) の糖尿病性神経障害患者に対する臨床至適用量の検討. 医学と薬学 1996; 36: 665-693.
- 20) 松岡健平<sup>1)</sup>, 平田幸正<sup>2)</sup>, 金澤康徳<sup>3)</sup>, 矢崎義雄<sup>4)</sup>, 大竹 稔, 開原成允<sup>5)</sup>(<sup>1)</sup>東京都済生会中央病院内科, <sup>2)</sup>東京女子医科大学附属糖尿病センター, <sup>3)</sup>自治医科大学附属大宮医療センター, <sup>4)</sup>東京大学医学部第3内科, <sup>5)</sup>東京大学医学部附属病院中央医療情報部): 塩酸メキシレチン (MX-PDN) の糖尿病性神経障害に対する二重盲検比較試験. 医学と薬学 1996; 36: 695-712.
- 21) 松岡健平<sup>1)</sup>, 大竹 稔, 磯貝行秀<sup>2)</sup>, 小川 聡<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>東京都済生会中央病院内科, <sup>2)</sup>東京慈恵会医科大学第3内科, <sup>3)</sup>慶應義塾大学医学部内科): 糖尿病性神経障害に対するMX-PDNカプセルの長期投与における検討. 医学と薬学 1996; 36: 741-757.
- 22) 勝田悌実, 本間 博, 張 雪君, 古明地弘和, 大須賀勝, 寺田秀人, 関山達也, 里村克章, 荒牧琢己: 慢性肝疾患における低酸素血症と肺循環異常. 薬理と治療 1996; 24(Suppl): S2169-S2175.
- 23) 福岡長知, 岸田 浩, 富村正登, 葉梨亜矢, 哲翁弥生, 多田祐美子, 佐野純子, 斉藤 勉, 草間芳樹, 宗像一雄, 早川弘一: 圧受容体反射感受性と運動負荷時血圧・心拍応答の関係. 心臓 1996; 28(Suppl5): 41-43.
- 24) 本間 博, 草間芳樹, 高橋直人, 馬 煥煥, 酒井俊太, 高山守正, 宗像一雄, 岸田 浩, 早川弘一: ドブタミン負荷心エコー図法による梗塞部残存心筋のhibernationからの回復予測. 心臓 1996; 28(Suppl5): 75-76.
- 25) 河住 茂<sup>1)</sup>, 名知仁子<sup>1)</sup>, 三田村宏<sup>2)</sup>, 村中正治<sup>2)</sup>, 加藤貴雄, 高野昭夫<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>三菱重工大倉山病院内科, <sup>2)</sup>湯河原厚生年金病院内科, <sup>3)</sup>集中治療室): 高齢者(76歳)Fallot四徴症の病態と長期生存要因の考察. 心臓 1996; 28: 802-807.
- 26) 新 博次, 小川 聡, 春見建一, 早川弘一, 杉本恒明, 岡田了三, 村山正博, 外山淳治, 相澤義房, 井上 博, 笠貫 宏, 大江 透, 岩 享(特発性心房細動調査委員会): 右脚ブロック・右側胸部誘導(V<sub>1</sub>~V<sub>3</sub>)ST上昇をきたす症例(Brugada症候群)の調査. 心臓 1996; 28(Suppl6): 121-124.
- 27) 西垣龍太郎<sup>1)</sup>, 亀山孝二<sup>1)</sup>, 内藤善哉<sup>1)</sup>, 福田 悠<sup>1)</sup>, 鈴木恒道<sup>1)</sup>, 浅野伍朗<sup>1)</sup>, 本間 博, 宗像一雄, 岸田 浩, 荒牧琢己, 早川弘一(<sup>1)</sup>病理学): 生前異型狭心症と診断され肺炎の合併のみられた1剖検例. 呼と循 1996; 44: 1201-1205.
- 28) 新 博次, 佐々木照之, 井野 威, 杉木雄治, 早川弘一, 角尾道夫<sup>1)</sup>, 加藤昌久<sup>2)</sup>, 高村悦子<sup>2)</sup>, 朝野芳郎<sup>3)</sup>, 下村昌夫<sup>3)</sup>, 大和千穂<sup>3)</sup>, 島村善子<sup>3)</sup>, 関 力<sup>3)</sup>, 栢野正則<sup>3)</sup>, 森下亘通<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>鳳クリニック, <sup>2)</sup>東京女子医科大学眼科, <sup>3)</sup>エーザイ株式会社, <sup>4)</sup>ワイズ・エーザイ株式会社): 酢酸フレカイニド(E0735)注射剤の臨床第1相試験. 臨床薬理 1996; 27: 713-723.
- 29) 武者春樹<sup>1)</sup>, 中村俊香<sup>1)</sup>, 國島友之<sup>1)</sup>, 村山正博<sup>2)</sup>, 太田壽城<sup>3)</sup>, 大津文雄<sup>4)</sup>, 川久保清<sup>5)</sup>, 岸田 浩, 久保田功<sup>6)</sup>, 外畑 巖<sup>7)</sup>, 平井真理<sup>8)</sup>(<sup>1)</sup>聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院循環器内科, <sup>2)</sup>聖マリアンナ医科大学第二内科, <sup>3)</sup>国立健康栄養研究所健康増進部, <sup>4)</sup>日本医科大学多摩永山病院, <sup>5)</sup>東京大学保健管理学, <sup>6)</sup>山形大学第一内科, <sup>7)</sup>常滑市民病院, <sup>8)</sup>名古屋大学第一内科): 運動負荷試験における事故に関する検討: 全国107施設調査結果. 心電図 1997; 17: 21-28.
- 30) 新 博次, 浜本 紘<sup>1)</sup>, 八木 洋<sup>2)</sup>, 杉 薫<sup>3)</sup>, 桜田春水<sup>4)</sup>, 小林洋一<sup>5)</sup>, 中里祐二<sup>6)</sup>, 松原 哲<sup>7)</sup>(<sup>1)</sup>橿原記念クリニック, <sup>2)</sup>日本大学駿河台病院循環器科, <sup>3)</sup>東邦大学医学部第3内科, <sup>4)</sup>都立広尾病院循環器科, <sup>5)</sup>昭和大学医学部第3内科, <sup>6)</sup>順天堂大学医学部循環器内科, <sup>7)</sup>東京医科大学第2内科): 高齢者における塩酸 pirlmenol 至適用量の検討. 診断と治療 1997; 85: 143-152.
- 31) 寺田秀人, 里村克章, 荒牧琢己: 心疾患を契機に発見された老年者原発性胆汁性肝硬変の2例. 老化と疾患

- 1997; 10: 246-250.
- 32) 福岡長知, 岸田 浩, 及川恵子, 馬淵浩輔, 松田裕之, 富村正登, 葉梨亜矢, 多田祐美子, 佐野純子, 斉藤 勉, 宗像一雄, 早川弘一: Nitroglycerin および Phentolamine 投与後の降圧に対する圧受容体反射感受性の検討. Ther Res 1997; 18: 733-737.
- 33) 安武正弘, 岸田 浩, Avkiran M<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>Cardiovascular Research, The Rayne Institute, St Thomas' Hospital): 再灌流不整脈の発生機序: PKC を介する Na/H 交換系活性亢進の役割. 心電図 1997; 17: 141-147.
- 34) 小川 聡<sup>1)</sup>, 杉本恒明<sup>2)</sup>, 平岡昌和<sup>3)</sup>, 井上 博<sup>4)</sup>, 笠貫 宏<sup>5)</sup>, 加藤貴雄, 児玉逸雄<sup>6)</sup>, 三田村秀雄<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>慶應義塾大学医学部, <sup>2</sup>関東中央病院, <sup>3</sup>東京医科歯科大学医学部, <sup>4</sup>富山医科薬科大学医学部, <sup>5</sup>東京女子医科大学, <sup>6</sup>名古屋大学環境医学研究所): Sicilian Gambit に基づく抗不整脈薬選択のガイドライン作成に向けて. 心電図 1997; 17: 191-197.
- 35) 小原俊彦, 呉 小怡, 小倉宏道, 大村和子, 野村敦宣, 斎藤寛和, 加藤貴雄, 早川弘一: 心不全を伴う重症不整脈例の心電図に及ぼすアミオダロンの影響の検討. 臨床薬理 1997; 28: 139-140.
- 36) 関山達也, 古明地弘和, 大須賀勝, 寺田秀人, 里村克章, 勝田悌実, 荒牧琢己: 肝硬変における  $\alpha\beta$ -Blocker, Carvedilol の全身ならびに肝血行動態に対する影響. 臨床薬理 1997; 28: 203-204.
- (2) 総説:
- 1) 岸田 浩: 冠拳縮性狭心症の治療法/その 1. 臨床科学 1996; 32: 483-485.
- 2) 関山達也, 荒牧琢己: 肝硬変(特集: 気づきにくい「黄疸」を診る - 1 ランク上の診療を目指して-). 治療 1996; 78: 1970-1973.
- 3) 加藤貴雄: Torsades de pointes (特集: 心電図を読みこなす). 救急医学 1996; 20: 608-610.
- 4) 富田喜文, 高野照夫<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>集中治療室): 血管造影 心疾患 (特集: 救急疾患画像診断アトラス-画像診断-読影のポイント). 総合臨床 1996; 45(増): 1146-1154.
- 5) 小林義典, 加藤貴雄: WPW 症候群における高周波カテーテル・アブレーション. Cardiologist 1996; 1: 437-439.
- 6) 清野精彦, 富田喜文, 星野公彦, 子島 潤<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>1)</sup>, 説田浩一<sup>2)</sup>(<sup>1</sup>集中治療室, <sup>2</sup>海老名総合病院循環器センター): 今月の主題 心筋梗塞の生化学的マーカー 心筋構造蛋白の臨床検査 [各論] トロポニン T. 臨床検査 1996; 40: 559-564.
- 7) 新 博次: Brugada 症候群の突然死の病態と予防 (特集: 心臓突然死予防への新しい展開). 最新医学 1996; 51: 974-979.
- 8) 清野精彦: 心不全の病態と治療: 最近の話題. 室蘭医報, 1996; 7(特): 3-8.
- 9) 関山達也, 荒牧琢己: 腹膜・後腹膜・腸間膜・大網・小網・横隔膜症候群: その他の関連疾患を含めて. 日本臨床 領域別症候群シリーズ No. 11, 1996; 別: 229-232.
- 10) 大坂元久: 心拍変動の概日リズムと不整脈: 線形解析と非線形解析. 医学のあゆみ 1996; 177: 602-606.
- 11) 野村敦宣, 新 博次: Brugada 症候群: ST・T 部の日差変動の意義. 医学のあゆみ 1996; 177: 612-616.
- 12) 清野精彦: 急性心筋梗塞: 血栓溶解療法. 臨床医 1996; 22(増): 940-941.
- 13) 清野精彦: 心筋梗塞後心膜炎ならびに心筋梗塞後症候群. 臨床医 1996; 22(増): 942-943.
- 14) 加藤貴雄: 心室性期外収縮の治療法/その 1. 臨床科学 1996; 32: 749-752.
- 15) 加藤貴雄: 不整脈の治療と LP. 不整脈診療 1996; 5: 12-15.
- 16) 井野 威, 早川弘一: 老年者の循環器疾患 不整脈. 循環科学 1996; 16: 646-648.
- 17) 岸田 浩: 心筋梗塞後における残存心筋虚血の治療対策. 東京都医師会誌 1996; 49: 378-385.
- 18) 岸田 浩: 突然死の病態と治療 虚血性心疾患 (テーマ: 心疾患と突然死). Coronary 1996; 13: 168-176.
- 19) 高野照夫<sup>1)</sup>, 清野精彦 (<sup>1</sup>集中治療室): Acute coronary syndrome の発症状況: 東京都 CCU ネットワークの分析から (特集: Acute coronary syndrome-急性冠症候群). Cardiac Pract 1996; 7: 275-280.

- 20) 岸田 浩：無症候性心筋虚血から発症する心筋梗塞(特集：Acute coronary syndrome-急性冠症候群). Cardiac Pract 1996；7：311-314.
- 21) 新 博次, 早川弘一：概論：不整脈の病因論, 分類 (特集：不整脈). 日本臨床 1996；54：2023-2028.
- 22) 早川弘一, 斎藤寛和：Holter 心電図 (特集：不整脈). 日本臨床 1996；54：2085-2090.
- 23) 新 博次：循環器症候群：その他の循環器疾患を含めて：I ブロックを伴った心房頻拍. 領域別症候群シリーズ No. 12. 日本臨床 1996；(別)：483-485.
- 24) 富田喜文, 岸田 浩：循環器症候群：その他の循環器疾患を含めて：I 急性冠動脈症候群. 領域別症候群シリーズ No. 12. 日本臨床 1996；(別)：636-640.
- 25) 草間芳樹：循環器症候群：その他の循環器疾患を含めて：I 急性心筋虚血. 領域別症候群シリーズ No. 12. 日本臨床 1996；(別)：641-644.
- 26) 岸田 浩：循環器症候群：その他の循環器疾患を含めて：I 食後狭心症. 領域別症候群シリーズ No. 12. 日本臨床 1996；(別)：688-691.
- 27) 加藤貴雄：除細動後の洞調律維持薬 (特集：心房細動のマネジメント). Cardiologist 1996；1：639-644.
- 28) 加藤貴雄, 早川弘一：不整脈用語解説：伝導系の解剖と不整脈の関連, 心電図計測値, 不応期, リエンتری回路, 乗り込み現象, 撃発活動, 自動能. Pharma Medica 1996；14：118-123.
- 29) 岸田 浩：「心臓突然死」予防と治療のための薬物療法 抗狭心症薬 (特集：心臓突然死：危険なサインを見落とさないために). 治療 1996；78：2979-2983.
- 30) 加藤貴雄：「心臓突然死」基礎疾患を探る 致死性不整脈 (特集：心臓突然死：危険なサインを見落とさないために). 治療 1996；78：3005-3012.
- 31) 野村敦宣, 高野照夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>集中治療室)：急性心筋梗塞の治療の実際 救急処置 (特集：冠動脈疾患の治療と諸問題). 臨床と研究 1996；73：1994-1997.
- 32) 岸田 浩：冠動脈疾患の今後と治療の展望 (特集：冠動脈疾患の治療と諸問題). 臨床と研究 1996；73：2043-2047.
- 33) 加藤貴雄, 早川弘一：不整脈用語解説：電気生理学的検査, ヒス束電位図, オーバードライブ・サブプレッション試験, 洞房伝導時間, 薬理学的自律神経遮断, プログラム電気刺激法. Pharma Medica 1996；14：117-123.
- 34) 加藤貴雄：上室性期外収縮 (特集：不整脈治療の最前線). 今月の治療 1996；4：1208-1211.
- 35) 新 博次：抗不整脈薬の分類と将来の展望：上室性不整脈への作用の立場から. Ther Res 1996；17：3546-3551.
- 36) 荒牧琢己, 寺田秀人：肝硬変症. 臨床栄養 1996；89：404-406.
- 37) 斎藤寛和, 加藤貴雄：循環器疾患と生体リズム(特集：生体リズムの障害). 神経精神薬理 1996；18：727-734.
- 38) 岸田 浩：無症候性心筋虚血. Cardiologist 1996；1：852-853.
- 39) 草間芳樹, 早川弘一：虚血性心疾患と突然死. Heart Disease-Update 1996；4：110-116.
- 40) 加藤貴雄：上室性不整脈：薬物療法. 循環器専門医 1996；4：295-299.
- 41) 清野精彦, 富田喜文, 長野具雄, 細根 勝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第二)：抗悪性腫瘍剤による心筋症. 循環器専門医 1996；4：337-342.
- 42) 加藤貴雄, 早川弘一：不整脈用語解説：食道誘導, 運動負荷試験, 遅延電位, 加算平均心電図, ホルター心電計, イベントプログラム付き心電計, ホルター記録解析, 概日リズム(日周期リズム), 心拍変動スペクトル. Pharma Medica 1996；14：213-217.
- 43) 新 博次：心不全に合併した不整脈の治療：アミオダロンを中心に. 治療学 1996；30：1259-1262.
- 44) 清野精彦：心血管疾患におけるホスホジエステラーゼ阻害薬. 治療学 1996；30：1323-1327.
- 45) 荒牧琢己, 佐藤丞子, 関山達也, 張 雪君：肝臓・肝静脈閉塞 (特集：緊急を要する重症肝胆膵疾患の診断とその対策). 肝胆膵 1996；33：627-633.

- 46) 小林義典, 新 博次: Disopyramide (リスモダン, ノルベース). 臨床麻酔 1996; 20: 1665-1667.
  - 47) 加藤貴雄, 早川弘一: 不整脈用語解説: 洞不全症候群, 徐脈頻脈症候群, 心房静止, 洞室調律, 補充調律. Pharma Medica 1996; 14: 209-214.
  - 48) 新 博次: 心房細動. Med Pract 1996; 13: 1943-1947.
  - 49) 清野精彦: 急性心筋梗塞の新しい指標: トロポニン T. 青臨技会誌 1996; 21: 3-6.
  - 50) 加藤貴雄: 適切な薬剤の選択と使い分け 2. 病態・疾患の面から (特集: 抗不整脈薬の適正使用). Prog Med 1996; 16: 2960-2966.
  - 51) 早川弘一: 不整脈の診断と治療 その最近の進歩: III群抗不整脈薬の megastudy (大規模試験). 興和医報 1996; 39: 57-61.
  - 52) 岸田 浩: 高齢者における狭心症の病態と治療: 無症候性心筋虚血の診断と治療. Gerontol 1997; 9: 119-124.
  - 53) 富田喜文, 高野照夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>集中治療室): 不安定狭心症の Braunwald 分類. Ischemic Heart Today 1997; 3: 2-4.
  - 54) 新 博次: 心房細動—基礎から臨床まで 心房細動の薬物治療: 基礎疾患を考慮して. 循環科学 1997; 17: 20-23.
  - 55) 岸田 浩: 無症状性疾患とその対策 心筋虚血 (特集: ドック・検診で見つかる無症状性疾患への対応). 臨床成人病 1997; 27: 241-246.
  - 56) 加藤貴雄: シシリアン・ガンビット: 不整脈薬物治療の新しい考え方. 日病薬誌 1997; 33: 141-147.
  - 57) 岸田 浩, 草間芳樹, 本間 博, 齊藤 勉: 狭心症: 診断と治療の進歩 III. 治療法の進歩 4. 虚血性心疾患の薬物療法の実際 (特集: 狭心症). 日内会誌 1997; 86: 259-264.
  - 58) 新 博次, 早川弘一: 危険な不整脈の治療 薬剤選択の順序 (特集: 頻脈診療の最前線). Heart View 1997; 1: 210-215.
  - 59) 岸田 浩: 無症候性心筋虚血とその臨床的意義 (特集: 虚血性心疾患—病態解明の進歩と臨床への応用). カレントセラピー 1997; 15: 23-28.
  - 60) 加藤貴雄: 診断的房室ブロック誘発試験. 心臓 1997; 29: 205-207.
  - 61) 加藤貴雄: 現代臨床機能検査—その実際と解釈—上巻 Holter 心電図. 日本臨床 1997; 55 (増): 541-546.
  - 62) 荒牧琢己, 寺田秀人, 奥村英正<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東京ばんなん白光園): 超高齢者の肝機能とその管理 (特集: 超高齢者の生体機能とその管理). ICU と CCU 1997; 21: 189-196.
  - 63) 清野精彦: 虚血性心疾患. 臨床医 1997; 23: 312-315.
  - 64) 加藤貴雄, 早川弘一: 不整脈用語解説: 脚ブロック, 脚枝ブロック・ヘミブロック, 心室内伝導障害, 交代性脚ブロック, 心拍数依存性脚ブロック. Pharma Medica 1997; 15: 131-136.
- (3) 研究報告書:
- 1) 富田喜文, 宗像一雄, 早川弘一: 心筋症ハムスター-BIO14.6の心筋組織における細胞増殖因子の検討. 厚生省特定疾患特発性心筋症調査研究班平成7年度報告 1996; pp94-98.
  - 2) 荒牧琢己, 関山達也, 古明地弘和, 大須賀勝, 寺田秀人, 里村克章, 勝田悌実: 肝硬変における  $\alpha$ ,  $\beta$  ブロッカー, カルベジロールの血行動態に対する影響. 厚生省特定疾患門脈血行異常症調査研究班平成7年度研究報告書 1996; pp215-217.
  - 3) 荒牧琢己, 関山達也, 勝田悌実, 古明地弘和, 長野具雄, 大須賀勝, 寺田秀人, 里村克章: 門脈圧亢進症に対する薬物治療における症例の選択. 厚生省特定疾患門脈血行異常症調査研究班平成7年度研究報告書 1996; pp263-266.

## 著 書

[1995年度追加分]

- 1) Kuroki S, Katoh T, Saitoh H, Ino T, Atarashi H, Hayakawa H, Hashimoto K<sup>1)</sup>, Sawanobori T<sup>2)</sup>, Hiraoka



M<sup>2</sup>), Tuno-o M<sup>3</sup>) (<sup>1</sup>Department of Pharmacology, Yamanashi Medical College, <sup>2</sup>Medical Research Institute, Tokyo Medical and Dental University, <sup>3</sup>Housen Clinic) : [分担] Phase I clinical trial of YUTAC, a new class I antiarrhythmic agent : Single and consecutive oral administration study with normal adults. "Electrocardiology '93" (Macfarlane PW, Rautaharju P. eds), 1994 ; pp131-133, World Scientific (Singapore).

- 1) Seino Y : [分担] Cardiovascular function and neurohumoral manifestations in acute myocardial infarction. "Shock From Molecular and Cellular Level to Whole Body" (Okada K, Ogata H. eds), 1996 ; pp203-210, Elsevier, Amsterdam.
- 2) 春見建一<sup>1</sup>), 岸田 浩, 川久保清<sup>2</sup>), 横田充弘<sup>3</sup>), 野原隆司<sup>4</sup>) (<sup>1</sup>昭和大学藤が丘病院, <sup>2</sup>東京大学医学部保健科学, <sup>3</sup>名古屋大学医学部臨床検査医学, <sup>4</sup>京都大学医学研究科循環病態学) : [監訳] "Exercise Standards 運動負荷基準 : AHA による医療従事者への提言" (Gerald F. Fletcher, et al. eds), 1996 ; Excerpta Medica.
- 3) 岸田 浩 : [分担] 無症候性心筋虚血 - 診断・予後・治療 -. "虚血性心疾患カレント内科 No. 5" (谷口興一編), 1996 ; pp110-115, 金原出版.
- 4) 早川弘一 : [分担] 心房期外収縮. "循環器疾患 最新の治療'96-'97" (杉本恒明, 篠山重威編), 1996 ; pp316-318, 南江堂.
- 5) 酒井 紀<sup>1</sup>), 早川弘一, 西崎 統<sup>2</sup>), 小林祥泰<sup>3</sup>), 福井次矢<sup>4</sup>) (<sup>1</sup>東京慈恵会医科大学, <sup>2</sup>聖路加国際病院, <sup>3</sup>島根医科大学, <sup>4</sup>京都大学医学部) : [監修] 認定医・専門医のための内科学レビュー'96 - 最新主要文献と解説 -. 1996 ; 総合医学社.
- 6) 加藤貴雄, 宮内靖史, 小林義典 : [分担] 2. 循環器 2. 不整脈 "認定医・専門医のための内科学レビュー'96 - 最新主要文献と解説-" (酒井 紀, 早川弘一, 西崎 統, 小林祥泰, 福井次矢監修), 1996 ; pp34-39, 総合医学社.
- 7) 清野精彦 : [分担] 2. 循環器 6. 大動脈・末梢血管疾患. "認定医・専門医のための内科学レビュー'96 - 最新主要文献と解説-" (酒井 紀, 早川弘一, 西崎 統, 小林祥泰, 福井次矢監修), 1996 ; pp59-64, 総合医学社.
- 8) 平 則夫<sup>1</sup>), 早川弘一 (<sup>1</sup>東北大学) : [共著] 循環器ポケットマニュアル, 1996 ; 中山書店.
- 9) 斎藤寛和 : [分担] 不整脈 洞性頻脈, 発作性上室性頻拍, 心房頻拍, 心房粗動. "循環器ポケットマニュアル" (平 則夫, 早川弘一編), 1996 ; pp3-9, 中山書店.
- 10) 早川弘一 : [分担] 心房細動. "循環器ポケットマニュアル" (平 則夫, 早川弘一編), 1996 ; pp10-12, 中山書店.
- 11) 新 博次, 遠藤康実 : [分担] 心房期外収縮, 心室期外収縮, 非持続性心室頻拍, 持続性心室頻拍. "循環器ポケットマニュアル" (平 則夫, 早川弘一編), 1996 ; pp12-19, 中山書店.
- 12) 井野 威 : [分担] 心室細動(予防), QT 延長症候群, 洞不全症候群, 房室ブロック. "循環器ポケットマニュアル" (平 則夫, 早川弘一編), 1996 ; pp19-26, 中山書店.
- 13) 宗像一雄, 佐野純子 : [分担] 心内膜炎. "循環器ポケットマニュアル" (平 則夫, 早川弘一編), 1996 ; pp61-65, 中山書店.
- 14) 岸田 浩 : [分担] 心筋症. "循環器ポケットマニュアル" (平 則夫, 早川弘一編), 1996 ; pp71-76, 中山書店.
- 15) 岸田 浩 : [分担] 肺血栓塞栓症. "循環器ポケットマニュアル" (平 則夫, 早川弘一編), 1996 ; pp107-109, 中山書店.
- 16) 岸田 浩 : [分担] 慢性肺性心. "循環器ポケットマニュアル" (平 則夫, 早川弘一編), 1996 ; pp109-111, 中山書店.
- 17) 早川弘一 : [分担] 抗不整脈薬. "循環器ポケットマニュアル" (平 則夫, 早川弘一編), 1996 ; pp131, 中山書店.

- 18) 新 博次, 早川弘一:〔分担〕抗不整脈薬: Ia 群, Ib 群. “循環器ポケットマニュアル”(平 則夫, 早川弘一編), 1996; pp132-135, 中山書店.
- 19) 早川弘一:〔分担〕抗不整脈薬: Ic 群. “循環器ポケットマニュアル”(平 則夫, 早川弘一編), 1996; pp135-137, 中山書店.
- 20) 新 博次, 早川弘一:〔分担〕抗不整脈薬: II 群, III 群, IV 群. “循環器ポケットマニュアル”(平 則夫, 早川弘一編), 1996; pp137-141, 中山書店.
- 21) 加藤貴雄, 早川弘一:〔分担〕抗不整脈薬の副作用. “頻拍症”(杉本恒明監修, 相澤義房, 井上 博編), 1996; pp521-533, 西村書店.
- 22) 加藤貴雄:〔分担〕循環器疾患 期外収縮. “180 専門家による私の処方”(高橋隆一編), 1996; pp146-151, 日本医事新報社.
- 23) 早川弘一:〔監訳〕心電図ポケットガイド. 1996; 総合医学社.
- 24) 井野 威, 斎藤寛和:〔訳〕心電図ポケットガイド. 1996; 総合医学社.
- 25) 岸田 浩:〔分担〕心筋虚血発作の日内変動は. “循環器 NOW NO. 14 狭心症—最新の治療と病態の解明”(矢崎義雄編), 1996; pp87-89, 南江堂.
- 26) 清野精彦:〔分担〕胸痛, 背部痛. “チャートによる内科診断学”(寺本民生, 秋葉 隆, 大内尉義, 押味和夫, 清水輝夫, 中川武正, 貫和敏博, 林 茂樹編), 1996; pp76-77, 中外医学社.
- 27) 井上 博<sup>1)</sup>, 麻野井英次<sup>1)</sup>, 早野順一郎<sup>2)</sup>, 斎藤寛和, 藤木 明<sup>1)</sup>, 水牧功一<sup>1)</sup>, 高田重男<sup>3)</sup> (<sup>1)</sup>富山医科薬科大学, <sup>2)</sup>名古屋市立大学, <sup>3)</sup>金沢大学):〔共著〕循環器疾患と自律神経機能. (井上 博編), 1996, 医学書院.
- 28) 加藤貴雄:〔分担〕頻脈性不整脈. “薬剤師のための服薬指導ガイド”(和田 攻, 朝長文弥編), 1996; pp314-320, 文光堂.
- 29) 清野精彦:〔分担〕急性心筋梗塞. “疾患・症状別 今日の治療と看護—ナース・看護学生へ贈る専門医からのメッセージ”(水島 裕監修), 1996; pp165-170, 南江堂.
- 30) 岸田 浩:〔分担〕無症候性心筋虚血. “今日の治療指針1997年版 (Volume39)”(日野原重明, 阿部正和監修), 1997; pp338-339, 医学書院.
- 31) 岸田 浩:〔分担〕無症候性心筋虚血. “今日の治療指針1997年版 (ポケット判)”(日野原重明, 阿部正和監修), 1997; pp338-339, 医学書院.
- 32) 新 博次:〔分担〕心房細動と塞栓症. “Annual Review 循環器 1997”(杉本恒明, 松本昭彦, 杉下靖郎, 門間和夫編), 1997; pp101-107, 中外医学社.
- 33) 加藤貴雄:〔分担〕遅延電位(LP). “循環器研修医ノート”(永井良三, 岡部英男, 三田村秀雄, 川名正敏, 長谷川昭編), 1997; pp231-233, 診断と治療社.
- 34) 斎藤寛和, 新 博次:〔分担〕洞不全症候群. “循環器研修医ノート”(永井良三, 岡部英男, 三田村秀雄, 川名正敏, 長谷川昭編), 1997; pp500-503, 診断と治療社.

## 学会発表

### (1) 特別講演:

- 1) Hayawaka H: Holter Monitoring of Sick Sinus Syndrome (Ambulatory Monitoring & Prognosis of Arrhythmia), 7th International Congress on Ambulatory Monitoring (Maihama), 1996. 5.

### (2) 教育講演:

- 1) 新 博次: 臨床薬理学的特徴による抗不整脈薬の使用法. 第18回日本麻酔・薬理学会総会, 1996. 6.

### (3) シンポジウム:

- 1) 安武正弘, 岸田 浩, Avkiran M<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>Cardiovascular Research, St. Thomas' Hospital): 再灌流性不整脈の発生機序—PKC を介する Na/H 交換活性亢進の役割—(虚血再灌流不整脈のメカニズムと対策). 第13回日本心電

学会学術集会, 1996. 10.

- 1) 清野精彦, 草間芳樹, 本間 博, 佐野純子, 鈴木郁代, 岸田 浩, 早川弘一, 高野照夫<sup>1)</sup>, 汲田伸一郎<sup>2)</sup>, 隈崎達夫<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>集中治療室, <sup>2)</sup>放射線科): 虚血性心疾患の病態とその評価 (心疾患患者の術前評価と麻酔計画). 第16回日本臨床麻酔学会総会, 1996. 11.

(3) パネルディスカッション:

- 1) 新 博次: 薬物療法の適応とその使い分け—抗不整脈薬, 抗凝固療法, 抗血小板療法を中心に—(心房粗細動の管理; QOLと生命予後をどう改善するか). 第61回日本循環器学会学術集会, 1997. 3.

(4) ファイアーサイドカンファレンス:

- 1) 岸田 浩: 発症の日内変動にどんな意味があるか; 発症の引き金から予防法まで(「時間」がらみの冠動脈疾患). 第61回日本循環器学会学術集会, 1997. 3.
- 2) 加藤貴雄: 心室性期外収縮; 治療すべきか否か (抗不整脈薬療法の新しい潮流—Sicilian Gambitを含めて—). 第61回日本循環器学会学術集会, 1997. 3.

(5) ワークショップ:

- 1) Saitoh H:  $\alpha$ -Adrenergic Vascular Response in the Patients with Bradyarrhythmia (Bradyarrhythmia). 7th International Congress on Ambulatory Monitoring (Maihama), 1996. 5.
- 2) 太田眞夫, 杉木雄治, 高野照夫<sup>1)</sup>, 大竹 稔, 荒牧琢己, 早川弘一(<sup>1)</sup>集中治療室): 糖尿病における Late Potential の検出と心室頻拍の発生頻度 (糖尿病と心臓電気・収縮異常). 第13回日本心電学会学術集会, 1996. 10.
- 3) 斎藤寛和, 野村敦宣, 大坂元久, 佐々部典子, 高野照夫<sup>1)</sup>, 早川弘一 (<sup>1)</sup>集中治療室): 心拍変動周波数解析の限界と可能性—不整脈症例での自律神経活動の推定— (心拍変動モニタリングの現状と展望). 第8回日本臨床モニタリング学会総会, 1997. 3.

(6) セミナー:

- 1) 新 博次: 心房細動の内科的治療(心房細動—メカニズムと治療—). 第11回犬山不整脈カンファレンス, 1996. 8.
- 2) 福間長知: 血圧からどこまでみえるか—術前評価と麻酔管理. 第16回日本臨床麻酔学会総会, 1996. 11.

(7) 一般講演:

- 1) Matsuda H, Fukuma N, Tetsuo Y, Tada Y, Mabuchi K, Tomimura M, Hanashi A, Sano J, Saitoh T, Munakata K, Kishida H, Hayakawa H: Relationship Between Low Frequency Component of Heart Rate Variability and Hemodynamic Parameters. 7th International Congress on Ambulatory Monitoring (Maihama), 1996. 5.
- 2) Ohara T, Miyauchi Y, Kawaguchi N, Wu X, Ohmura K, Ohara K, Kim EM, Kobayashi Y, Ino T, Katoh T, Hayakawa H: Partial Pre-excitation Remains Concealed Even After Successful Ablation for WPW Syndrome. 7th International Congress on Ambulatory Monitoring (Maihama), 1996. 5.
- 3) Ono T, Saitoh H, Ohno N, Matusmoto S, Nomura A, Sasabe N, Honma H, Atarashi H, Katoh T, Kishida H, Hayakawa H: The Possible Contribution of Abnormal  $\alpha$ -adrenergic Response to Neurally Mediated Syncope. 7th International Congress on Ambulatory Monitoring (Maihama), 1996. 5.
- 4) Nomura A, Saitoh H, Mizukami H<sup>1)</sup>, Yashima M, Atarashi H, Kishida H, Hayakawa H (<sup>1)</sup>Medical Imaging System Division, Nippon Polaroid K.K.): Detection of Alternans in Monophasic Action Potential (MAP) by Tracking Methods. 7th International Congress on Ambulatory Monitoring (Maihama), 1996. 5.
- 5) Osaka M, Saitoh H, Someya T, Hayakawa H, Cohen RJ<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>Harvard-MIT Division of Health Sciences and Technology, MIT): Mutual Information Provides a Measure of Temporal Patterns of Ventricular Premature Beats. 7th International Congress on Ambulatory Monitoring (Maihama), 1996. 5.
- 6) Fukuma N, Tetsuo Y, Tada Y, Mabuchi K, Matsuda H, Kasagami Y, Tomimura M, Hanashi A, Sano J,

- Saitoh T, Munakata K, Kishida H, Hayakawa H : Modulation of Relationship Between Heart Rate and Blood Pressure Variability by Baroreflex. 7th International Congress on Ambulatory Monitoring (Maihama), 1996. 5.
- 7) Ogura H, Katoh T, Ohara T, Wu X, Ohara K, Ohmura K, Kim EM, Kuroki S, Hayakawa H : A New ECG Demonstration of Anterograde Concealed Conduction in Concealed WPW Syndrome. 7th International Congress on Ambulatory Monitoring (Maihama), 1996. 5.
- 8) Hata N<sup>1)</sup>, Kishida H, Kunimi T<sup>1)</sup>, Miyagawa H<sup>1)</sup>, Yoshida K<sup>2)</sup>, Umeno Y<sup>2)</sup> (<sup>1</sup>Cardiology, National Yokosuka Hospital, <sup>2</sup>Taiho Pharm.) : Antianginal Effects of Arandipine at a Single Dose on Exertional Angina Patients (A Randomized Cross-over Study in Comparison with Placebo), 6th World Conference on Clinical Pharmacology and Therapeutics (Buenos Aires, Argentina), 1996. 8.
- 9) Hoshino K, Sano J, Homma H, Takano M, Seimiya Y, Tomita Y, Kusama Y, Takayama M, Munakata K, Kishida H : Mismatch between myocardial uptake of <sup>201</sup>Thallium and <sup>123</sup>I- $\beta$ -Methyliodophenyl pentadecanoic acid -Indicator of ischemic event and viable but dysfunctional myocardium-. 18th Congress of European Society of Cardiology (Birmingham), 1996. 8.
- 10) Sano J, Saitoh T, Mabuchi K, Kasagami Y, Matsuda H, Hanashi A, Tada Y, Fukuma N, Kishida H : Active coronary vasoreactivity to autonomic stimulation by exogenous insulin load and intra-coronary acetylcholine in patients with variant angina. 18th Congress of European Society of Cardiology (Birmingham), 1996. 8.
- 11) Katsuta Y, Zhang XJ, Seimiya K, Nagano T, Komeichi H, Ohsuga M, Terada H, Sekiyama T, Satomura K, Aramaki T : Hemodynamic Characteristics of Responders to Pharmacological Portal Decompression in Cirrhotics with Portal Hypertension. 10th Asian-Pacific Congress of Gastroenterology, 7th Asian-Pacific Congress of Digestive Endoscopy (Yokohama), 1996. 9.
- 12) Sekiyama T, Komeichi H, Terada H, Takeda J, Zhang XJ, Ohsuga M, Satomura K, Katsuta Y, Aramaki T : Effect of  $\alpha,\beta$ -Blocking Agent, Carvedilol, on Hepatic and Systemic Hemodynamics in Patients with Portal Hypertension Due to Cirrhosis. 10th Asian-Pacific Congress of Gastroenterology, 7th Asian-Pacific Congress of Digestive Endoscopy (Yokohama), 1996. 9.
- 13) Ohsuga M, Zhang XJ, Seimiya Y, Nagano T, Komeichi H, Terada H, Sekiyama T, Satomura K, Katsuta Y, Aramaki T : Clinicopathological Features of Nonalcoholic Steatohepatitis in Female. 10th Asian-Pacific Congress of Gastroenterology, 7th Asian-Pacific Congress of Digestive Endoscopy (Yokohama), 1996. 9.
- 14) Osaka M, Saitoh H, Yokoshima T, Kishida H, Hayakawa H, Cohen RJ<sup>1)</sup> (<sup>1</sup>MIT) : Nonlinear Pattern Analysis of Ventricular Premature Beats by Mutual Information. 2nd IMIA-IFMBE Workshop on Biosignal Interpretation (Yokohama), 1996. 9.
- 15) Wu X : Changes of High Frequency Components of QRS Complex by Class I Antiarrhythmic Drugs. The 96' Symposium of International Chinese Heart Health Network (Beijing), 1996. 10.
- 16) Ohsuga M, Homma H, Zhang XJ, Nagano T, Komeichi H, Terada H, Sekiyama T, Satomura K, Katsuta Y, Aramaki T : Pulmonary Circulation Time in Patients with Chronic Liver Disease. 5th United European Gastroenterology Week (Paris), 1996. 11.
- 17) Atarashi H, Inoue H<sup>1)</sup>, Hiejima K<sup>2)</sup>, Hayakawa H (<sup>1</sup>Toyama Medical & Pharmaceutical Univ. <sup>2</sup>Tokyo Medical & Dental Univ) : Rapid Conversion of Recent-onset Atrial Fibrillation by a Single Oral Dose of Pilsicainide ; Pilsicainide Suppression Trial on Atrial Fibrillation. American Heart Association the 69th Scientific Sessions (New Orleans), 1996. 11.
- 18) Kitayama H, Kiuchi K, Kobayashi Y, Honma H, Nejima J, Endo T, Takano T, Hayakawa H : The

- Potential role for cardiac ultrafast computed tomography for detecting right atrial thrombi in patients with atrial fibrillation. American Heart Association the 69th Scientific Sessions (New Orleans), 1996. 11.
- 19) Tamai H, Katou K, Hayakawa H, Yamaguchi T, Kanmatsuse K, Haze K, Aizawa T, Nakanishi N, Suzuki S, Suzuki T, Takase S, Nishikawa H (TREAT-2 study investigators) : The Impact of Tranilast on Restenosis Following Coronary Angioplasty : the Second Tranilast Restenosis Following Angioplasty Trial (TREAT-2). American Heart Association the 69th Scientific Sessions (New Orleans), 1996. 11.
  - 20) Takayama M, Imaizumi T, Aoki S, Nejima J, Tomita Y, Kusama Y, Munakata K, Takano T, Hayakawa H : Favorable progress on coronary stent implantation as an early treatment in patients with acute myocardial infarction. American Heart Association the 69th Scientific Sessions (New Orleans), 1996. 11.
  - 21) Nagano T : Noradrenaline Augments Inward BA2+ Currents in Isolated Guinea Pig Hepatocytes. 41st Annual Meeting of the Biophysical Society (New Orleans), 1997. 3.
  - 22) Tomita Y, He Y, Uemura R, Takano H, Hoshino K, Kusama Y, Takayama M, Munakata K, Kishida H, Hayakawa H : A Mechanism of Elevated Circulating Level of Basic FGF in Patients With Unstable Angina. American College of Cardiology 46th Annual Scientific Session (Anaheim), 1997. 3.
  - 23) Setsuta K, Seino Y, Takano T, Takahashi N, Kishida H, Hayakawa H, Harada A<sup>1)</sup>, Sasaki K<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>Ebina General Hospital) : Clinical Significance of Elevated Levels of Cardiac Troponin T Detected by Second Generation Assay in Patients with Congestive Heart Failure. American College of Cardiology 46th Annual Scientific Session (Anaheim), 1997. 3.
  - 24) Uchida T, Katoh T, Hayakawa H : Mechanisms of Termination of Functional Reentry in Isolated Right Ventricle. 61 Annual Scientific Meeting of Japanese Circulation Society (Tokyo), 1997. 3.
  - 25) Ogura H, Katoh T, Kasanuki H, Iinuma H, Ozawa Y, Majima S, Hayakawa H : Recent Therapeutic Strategy for Sustained Ventricular Tachycardia in Japan. 61 Annual Scientific Meeting of Japanese Circulation Society (Tokyo), 1997. 3.
  - 26) 斎藤寛和, 野村敦宣, 大坂元久, 佐々部典子, 宮内靖史, 八島正明, 小林義典, 井野 威, 新 博次, 加藤貴雄, 岸田 浩, 早川弘一 : 心拍変動周波数解析の問題点. 第93回日本内科学会講演会, 1996. 4.
  - 27) 清野精彦, 富田喜文, 星野公彦, 子島 潤, 高野照夫, 岸田 浩, 早川弘一, 説田浩一<sup>1)</sup>, 高橋直人<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>海老名総合病院) : 血液生化学的マーカーによる心筋傷害の病態の分析 : 特に心筋 Troponin T 測定系について. 第93回日本内科学会講演会, 1996. 4.
  - 28) 寺田秀人, 清宮康嗣, 長野具雄, 古明地弘和, 大須賀勝, 関山達也, 里村克章, 勝田悌実, 荒牧琢己 : 肝硬変の成因による血行動態の異同. 第93回日本内科学会講演会, 1996. 4.
  - 29) 高木 元, 草間芳樹, 本間 博, 酒井俊太, 佐野純子, 哲翁弥生, 多田祐美子, 宗像一雄, 岸田 浩, 早川弘一 : ドプタミン負荷心エコー (DSE) の心筋梗塞例における残存心筋虚血検出能 運動負荷タリウム心筋シンチグラフィとの比較. 第93回日本内科学会講演会, 1996. 4.
  - 30) 福間長知, 岸田 浩, 馬淵浩輔, 松田裕之, 富村正登, 葉梨亜矢, 多田祐美子, 佐野純子, 斉藤 勉, 草間芳樹, 宗像一雄, 早川弘一 : 運動負荷時心室性期外収縮出現と圧受容体反射機能異常との関係. 第93回日本内科学会講演会, 1996. 4.
  - 31) 櫛方美文, 清野精彦, 島井新一郎, 笹川 新, 松本 真, 高野照夫, 岸田 浩, 荒牧琢己, 早川弘一, 熊谷和浩<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>福生病院透析室) : 慢性腎透析症例に対する第二世代心筋トロポニン T 測定系の有用性について. 第93回日本内科学会講演会, 1996. 4.
  - 32) 大國眞一<sup>1)</sup>, 横山真也<sup>1)</sup>, 山本 剛<sup>1)</sup>, 上村竜太<sup>1)</sup>, 小林利行<sup>1)</sup>, 水野杏一<sup>1)</sup>, 北村克弘<sup>2)</sup>, 荒川 宏<sup>2)</sup>, 里村公生<sup>2)</sup>, 渋谷利雄<sup>2)</sup>, 栗田 明<sup>2)</sup>, 中村治雄<sup>2)</sup>, 早川弘一 (<sup>1)</sup>千葉北総病院内科, <sup>2)</sup>防衛医科大学校第一内科) : 経皮的冠動脈形成術 (PTCA) 後の再狭窄のメカニズム-血管内視鏡による検討. 第93回日本内科学会講演会, 1996. 4.

- 33) 勝田悌実, 本間 博, 張 雪君, 古明地弘和, 大須賀勝, 寺田秀人, 関山達也, 里村克章, 荒牧琢己: 慢性肝疾患における低酸素血症と肺循環異常. 第4回肝病態生理研究会, 1996. 4.
- 34) 小野卓哉, 斎藤寛和, 大野則彦, 松本 真, 川口直美, 野村敦宣, 小林義典, 新 博次, 加藤貴雄, 早川弘一: 約17秒の心停止を呈した心抑制型神経調節性失神における自律神経活動の特色と治療. 第10回東京不整脈フォーラム, 1996. 4.
- 35) 松田裕之, 佐藤良一<sup>1)</sup>, 長野具雄, 荒牧琢己<sup>(1)</sup>近畿大学第一内科): モルモット肝細胞膜における Ca<sup>2+</sup>流入機構について. 第32回日本肝臓学会総会, 1996. 4.
- 36) 長野具雄, 佐藤良一<sup>1)</sup>, 松田裕之, 荒牧琢己<sup>(1)</sup>近畿大学第一内科): 肝細胞膜 K<sup>+</sup>channel の分類の試み. 第32回日本肝臓学会総会, 1996. 4.
- 37) 金子晴生, 古明地弘和, 草間芳樹, 井野 威, 荒牧琢己, 早川弘一, 三枝義人<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>三枝産婦人科医院): HELLP 症候群回復早期に肝生検施行し, フィブリン血栓を同定し得た1例. 第445回日本内科学会関東地方会, 1996. 5.
- 38) 太田眞夫, 藤田進彦, 富田喜文, 清野精彦, 橋本英洋, 高野照夫, 荒牧琢己, 大竹 稔, 早川弘一: 非虚血性心疾患糖尿病症例における心筋逸脱酵素の測定. 第39回日本糖尿病学会年次学術集会, 1996. 5.
- 39) 野村敦宣, 斎藤寛和, 坏 宏一, 大野則彦, 横島友子, 佐々部典子, 新 博次, 加藤貴雄, 早川弘一: 体表心電図より求めた RT dispersion の有用性. 第35回日本ME学会大会, 1996. 5.
- 40) 坏 宏一, 斎藤寛和, 横島友子, 小野卓哉, 野村敦宣, 佐々部典子, 新 博次, 加藤貴雄, 早川弘一: 12誘導心電図における ARI 自動計測システムの有用性. 第35回日本ME学会大会, 1996. 5.
- 41) 高山英男, 加藤貴雄, 金 應文, 小原俊彦, 大村和子, 早川弘一, 永田正夫<sup>1)</sup>, 井上典之<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>日本物性): 新しい三次元カラー表示ウェーブレット変換による心電図微小成分の解析. 第35回日本ME学会大会, 1996. 5.
- 42) 小野卓哉, 斎藤寛和, 大野則彦, 川口直美, 野村敦宣, 本間 博, 新 博次, 加藤貴雄, 岸田 浩, 早川弘一: Head-up tilt 試験による失神の診断及び治療. 日本医科大学医学会第89回例会, 1996. 5.
- 43) 大須賀勝, 張 雪君, 清宮康嗣, 長野具雄, 古明地弘和, 寺田秀人, 関山達也, 里村克章, 勝田悌実, 荒牧琢己: HBs 抗原持続陽性者における種々の HBV マーカーとの病態. 日本医科大学医学会第89回例会, 1996. 5.
- 44) 清宮康嗣, 関山達也, 古明地弘和, 寺田秀人, 勝田悌実, 里村克章, 荒牧琢己: 肝不全を呈した虚血性肝炎の二剖検例. 第239回日本消化器病学会関東支部例会, 1996. 5.
- 45) 小林義典, 宮内靖史, 清水秀一, 坏 宏一, 北山浩気, 川口直美, 小倉宏道, 小原俊彦, 野村敦宣, 田寺 長, 八島正明, 斎藤寛和, 井野 威, 新 博次, 加藤貴雄, 早川弘一: 潜在性 WPW 症候群においてアブレーションカテーテル先端で記録される洞調律時 Pre-Potential の意義. 第26回臨床心臓電気生理研究会, 1996. 5.
- 46) 小野卓哉, 斎藤寛和, 大野則彦, 坏 宏一, 松本 真, 野村敦宣, 小林義典, 本間 博, 新 博次, 加藤貴雄, 早川弘一: 失神誘発後に血圧低下が遅延した血管迷走神経性失神の1例. 第11回日本心臓ペースング・電気生理学会学術集会, 1996. 5.
- 47) 小原俊彦, 呉 小怡, 宮内靖史, 川口直美, 小倉宏道, 大村和子, 金 應文, 小林義典, 井野 威, 加藤貴雄, 早川弘一: カテーテル・アブレーション後も副伝導路に潜伏順行伝導が一部残存する. 第11回日本心臓ペースング・電気生理学会学術集会, 1996. 5.
- 48) 小原俊彦, 呉 小怡, 小倉宏道, 大村和子, 小原啓子, 金 應文, 加藤貴雄, 早川弘一: 高分解能心電図を用いた副伝導路順行伝導特性の無侵襲評価. 第11回日本心臓ペースング・電気生理学会学術集会, 1996. 5.
- 49) 宮内靖史, 井野 威, 小林義典, 北山浩気, 川口直美, 小倉宏道, 大村和子, 小原俊彦, 八島正明, 新 博次, 早川弘一: 潜在性 WPW 症候群における局所逆行性 A 波の減高はアブレーション至適部位の指標となりうるか?. 第11回日本心臓ペースング・電気生理学会学術集会, 1996. 5.
- 50) 八島正明, 大野忠明, 北山浩気, 川口直美, 宮内靖史, 小倉宏道, 小林義典, 斎藤寛和, 井野 威, 新 博次, 早川弘一: Catheter ablation 通電部位による心筋傷害の差の検討-Troponin T 上昇率による評価一. 第11回

日本心臓ペースング・電気生理学会学術集会, 1996. 5.

- 51) 川口直美, 井野 威, 小林義典, 坪 宏一, 清水秀一, 北山浩気, 宮内靖史, 小倉宏道, 八島正明, 新 博次, 早川弘一: 房室結節リエントリー性頻拍に対する高周波カテーテルアブレーション時にみられる junctional rhythm 出現様式の検討. 第11回日本心臓ペースング・電気生理学会学術集会, 1996. 5.
- 52) 本間 博, 馬 煥煥, 宗像一雄, 荒牧琢己, 早川弘一, 松崎つや子<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>生理機能センター): 慢性肝疾患における肺内毛細血管異常の検出—5% Sonicated Albumine を用いて—. 日本超音波医学会第67回研究発表会, 1996. 6.
- 53) 長野具雄, 佐藤良一<sup>1)</sup>, 松田裕之, 荒牧琢己 (<sup>1)</sup>近畿大学第一内科): モルモット肝細胞膜における  $\alpha$ -レセプター刺激とイオンチャンネルの動態について. 第3回肝細胞研究会, 1996. 6.
- 54) 掃部弘行, 清宮康嗣, 松本 真, 小野卓哉, 富田喜文, 寺田秀人, 里村克章, 勝田悌実, 荒牧琢己: 肝細胞癌と胆管細胞癌の胃時性重複癌を合併したC型肝硬変の1例. 第446回日本内科学会関東地方会, 1996. 6.
- 55) 小倉宏道, 小林義典, 林 明聰, 坪 宏一, 清水秀一, 丸山光紀, 松本 真, 北山浩気, 川口直美, 宮内靖史, 大村和子, 小原俊彦, 野村敦宣, 斎藤寛和, 井野 威, 新 博次: ISP 投与により複数の foci が顕在化した特発性心室頻拍の1例. 湯島カンファレンス, 1996. 6.
- 56) 篠澤 功, 子島 潤, 高山守正, 青木 聡, 酒井俊太, 中西一浩, 竹田晋浩, 今泉孝敬, 高野照夫: 慢性骨髄性白血病に対するインターフェロン療法中に発症した急性心筋梗塞の2例. 日本循環器学会関東甲信越地方会第160回学術集会, 1996. 6.
- 57) 北山浩気, 大村和子, 小林義典, 富田喜文, 草間芳樹, 井野 威, 寺田秀人, 新 博次, 岸田 浩, 早川弘一: 心筋炎に伴う心不全のため抗不整脈薬を中止後頻発した PSVT に対し RF Ablation が奏功した1例. 日本循環器学会関東甲信越地方会第160回学術集会, 1996. 6.
- 58) 清宮康嗣<sup>1)</sup>, 丸山光紀<sup>1)</sup>, 笠神康平<sup>1)</sup>, 田中 隆<sup>1)</sup>, 田中啓治<sup>1)</sup>, 小林利行<sup>2)</sup>, 金子晴生<sup>2)</sup>, 大國真一<sup>2)</sup>, 水野杏一<sup>2)</sup>, 加藤貴雄, 早川弘一 (<sup>1)</sup>千葉北総病院集中治療部, <sup>2)</sup>同内科): PCPS 施行中の心原性ショックに伴う難治性心室性不整脈にカリウムチャンネル遮断薬 MS-551 が著功を示した1例. 日本循環器学会関東甲信越地方会第160回学術集会, 1996. 6.
- 59) 大坂元久: 心拍変動解析のアルゴリズム. 第31回理論心電図研究会, 1996. 7.
- 60) 今泉孝敬, 高山守正, 酒井俊太, 青木 聡, 関戸司久, 高野仁司, 星野公彦, 安武正弘, 雪吹周生, 富田喜文, 草間芳樹, 宗像一雄, 高野照夫, 早川弘一: 急性心筋梗塞に対する冠動脈内ステント治療における血栓溶解薬併用の有用性. 第5回日本心血管インターベンション学会, 1996. 7.
- 61) 雪吹周生, 酒井俊太, 清宮康嗣, 高山守正, 草間芳樹, 富田喜文, 今泉孝敬, 宗像一雄: Cutting balloon を用いた PTCA の初期成績. 第5回日本心血管インターベンション学会, 1996. 7.
- 62) 関戸司久, 草間芳樹, 酒井俊太, 安武正弘, 今泉孝敬, 雪吹周生, 富田喜文, 高山守正, 宗像一雄: ドプタミン負荷心エコー図法を用いた PTCA 後遠隔期の壁運動改善度予測. 第5回日本心血管インターベンション学会, 1996. 7.
- 63) 山本 剛, 高山守正, 青木 聡, 酒井俊太, 安武正弘, 雪吹周生, 今泉孝敬, 富田喜文, 草間芳樹, 宗像一雄, 高野照夫, 早川弘一: 冠再灌流療法後の残存病変への UK 持続静注の有用性について: QCA による検討. 第5回日本心血管インターベンション学会, 1996. 7.
- 64) 宮内靖史, 川口直美, 富田喜文, 草間芳樹, 寺田秀人, 荒牧琢己, 辰口篤史<sup>1)</sup>, 福田 悠<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>病理学第一): 肺高血圧症を伴ったC型肝硬変の1例. 第447回日本内科学会関東地方会, 1996. 7.
- 65) 寺田秀人, 高橋直人, 横山真也, 古明地弘和, 大須賀勝, 関山達也, 勝田悌実, 里村克章, 荒牧琢己: 副腎皮質ステロイドが奏効した成因不明の post-infantile giant cell hepatitis の1例. 第240回日本消化器病学会関東支部例会, 1996. 7.
- 66) 早川弘一, 加藤貴雄: 抗不整脈薬長期治療の在り方. 第7回心臓病学フォーラム, 1996. 8.

- 67) 関山達也, 長野具雄, 古明地弘和, 大須賀勝, 勝田悌実, 里村克章, 荒牧琢己: インターフェロン療法により HCV-RNA とともに HBs 抗原 (R-PHA 法) も陰性化した肝硬変の 1 例. 第21回臨床肝臓懇話会, 1996. 8.
- 68) 北山浩気, 新 博次, 遠藤康実, 斎藤寛和, 小林義典, 岸田 浩, 早川弘一: 12誘導心電図 QTc dispersion による心筋梗塞経過の臨床的評価. 第 4 回不整脈薬物療法研究会, 1996. 8.
- 69) 関山達也: 門脈圧亢進症における肺循環に関する検討. 第 3 回日本門脈圧亢進症食道静脈瘤学会, 1996. 9.
- 70) 清宮康嗣<sup>1)</sup>, 説田浩一<sup>1)</sup>, 小川 剛<sup>1)</sup>, 緒方憲一, 内田高浩, 高山守正<sup>(1)</sup>博慈会記念総合病院第三内科): 正常冠動脈で運動負荷試験陽性を示した症例の検討. 第15回合同医学集談会, 1996. 9.
- 71) 古明地弘和, 長野具雄, 張 雪君, 大須賀勝, 寺田秀人, 関山達也, 里村克章, 勝田悌実, 荒牧琢己: 最近当科で経験した急性 C 型肝炎における感染経路及び病態に関する検討. 第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 9.
- 72) 松崎つや子<sup>1)</sup>, 本間 博<sup>1)</sup>, 漆沢亜希<sup>1)</sup>, 佐藤淳子<sup>1)</sup>, 斎藤公一<sup>1)</sup>, 黒田 肇<sup>1)</sup>, 馬 煥煥, 伊藤恵子, 菅原博子, 草間芳樹, 宗像一雄, 岸田 浩, 荒牧琢己, 早川弘一<sup>(1)</sup>生理機能センター): Acoustic Quantification 法による心筋虚血時の左室拡張能の評価. 第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 9.
- 73) 佐藤淳子<sup>1)</sup>, 本間 博<sup>1)</sup>, 漆沢亜希<sup>1)</sup>, 松崎つや子<sup>1)</sup>, 永瀬 学<sup>1)</sup>, 中村利枝<sup>1)</sup>, 平野美子<sup>1)</sup>, 野原秀明<sup>1)</sup>, 斎藤公一<sup>1)</sup>, 黒田 肇<sup>1)</sup>, 岸田 浩, 荒牧琢己, 早川弘一, 福田 純<sup>(1)</sup>生理機能センター, <sup>(2)</sup>福田内科循環器科): 心室中隔と左室後壁運動異常の臨床的意義. 第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 9.
- 74) 葉梨亜矢, 斉藤 勉, 哲翁弥生, 多田祐美子, 宮武佳子, 佐野純子, 福間長知, 草間芳樹, 宗像一雄, 岸田 浩: 冠動脈疾患における心事故発生予知<sup>201</sup>TI 負荷心筋シンチグラムの限界<sup>1</sup>. 第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 9.
- 75) 張 雪君, 大須賀勝, 勝田悌実, 荒牧琢己, 秋元敏雄<sup>(1)</sup>実験動物管理室): 血管作動薬に対する門脈圧亢進症ラット大動脈の反応性. 第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 9.
- 76) 田辺浩子, 斉藤 勉, 古明地弘和, 寺田秀人, 荒牧琢己, 小原啓子<sup>(1)</sup>多摩永山病院内科): 原発性胆汁性肝硬変 mixed form に肝細胞癌を合併した高齢, 男性の 1 例. 第448回日本内科学会関東地方会, 1996. 9.
- 77) 高津圭介, 酒井俊太, 松本 真, 宮内靖史, 富田喜文, 子島 潤, 高山守正, 高野照夫, 岸田 浩, 早川弘一: 虚血性心疾患と partial atrial standstill を合併した高齢エプスタイン奇形の 1 例. 日本循環器学会関東甲信越地方会第161回学術集会, 1996. 9.
- 78) 松本 真, 長野具雄, 古明地弘和, 寺田秀人, 関山達也, 里村克章, 勝田悌実, 荒牧琢己: インターフェロン療法中に高中性脂肪血症を来した C 型慢性活動性肝炎の 1 例. 第241回日本消化器病学会関東支部例会, 1996. 9.
- 79) 清宮康嗣, 草間芳樹, 本間 博, 酒井俊太, 斉藤 勉, 宗像一雄, 岸田 浩: ドプタミン負荷心エコー図法による冠動脈病変の予測精度と問題点. 第44回日本心臓病学会学術集会, 1996. 9.
- 80) 北山浩気, 遠藤康実, 新 博次, 岸田 浩, 早川弘一: 心筋梗塞経過における QTc dispersion の意義. 第44回日本心臓病学会学術集会, 1996. 9.
- 81) 高山守正, 笠神康平, 青木 聡, 酒井俊太, 竹田晋浩, 中西一浩, 木内 要, 今泉孝敬, 子島 潤, 高野照夫: 高齢者の急性心筋梗塞に対する血栓溶解療法: TPA 少量投与法の安全性と有効性. 第44回日本心臓病学会学術集会, 1996. 9.
- 82) 坪 宏一<sup>1)</sup>, 子島 潤<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>1)</sup>, 高山守正<sup>1)</sup>, 早川弘一, 佐々木建志<sup>2)</sup>, 保坂浩希<sup>2)</sup>, 杉本忠彦<sup>2)</sup>, 落 雅美<sup>2)</sup>, 田中茂夫<sup>2)</sup> <sup>(1)</sup>集中治療室, <sup>(2)</sup>外科学第二): 急性大動脈解離160例のタイプ別予後とその急性期予後の規定因子. 第44回日本心臓病学会学術集会, 1996. 9.
- 83) 酒井俊太, 高山守正, 今泉孝敬, 青木 聡, 子島 潤, 富田喜文, 草間芳樹, 宗像一雄, 高野照夫, 早川弘一: 急性心筋梗塞の急性期インターベンションにおけるステント埋込術の有用性<sup>1</sup>—バルーン形成術との比較<sup>1</sup>—. 第44回日本心臓病学会学術集会, 1996. 9.
- 84) 横山真也<sup>1)</sup>, 大國眞一<sup>1)</sup>, 小林利行<sup>1)</sup>, 金子晴生<sup>1)</sup>, 水野杏一<sup>1)</sup>, 緒方憲一, 早川弘一<sup>(1)</sup>千葉北総病院内科): 抗血栓剤投与による接着分子の動向. 第44回日本心臓病学会学術集会, 1996. 9.



- 85) 葉梨亜矢, 斉藤 勉, 岸田 浩, 多田祐美子, 佐野純子, 福間長知, 草間芳樹, 早川弘一: 異型狭心症の心臓自律神経活性と血清脂質の vasoreactivity へ及ぼす影響. 第13回日本心電学会学術集会, 1996. 10.
- 86) 小野卓哉, 斎藤寛和, 林 明總, 松本 真, 川口直美, 野村敦宣, 小林義典, 本間 博, 新 博次, 加藤貴雄, 岸田 浩, 早川弘一: 神経調節性失神における病型別自律神経機能の特色 -  $\alpha$  交感神経機能を中心に -. 第13回日本心電学会学術集会, 1996. 10.
- 87) 小倉宏道, 加藤貴雄, 小原俊彦, 呉 小怡, 小原啓子, 大村和子, 金 應文, 小林義典, 早川弘一: 発作性上室性頻拍患者の非発作時無侵襲鑑別診断 - 加算平均心電図による検討. 第13回日本心電学会学術集会, 1996. 10.
- 88) 馬淵浩輔, 福間長知, 松田裕之, 富村正登, 多田祐美子, 佐野純子, 斉藤 勉, 宗像一雄, 岸田 浩, 早川弘一: 運動負荷時不整脈出現と自律神経機能指標との関係 - 圧受容体反射感受性と心拍周期変動の差異の検討 -. 第13回日本心電学会学術集会, 1996. 10.
- 89) 小原啓子<sup>1)</sup>, 後藤正道<sup>1)</sup>, 田寺 長<sup>1)</sup>, 木内 要, 井野 威<sup>1)</sup>, 長澤紘一<sup>1)</sup>, 早川弘一<sup>(1)</sup>多摩永山病院内科): Short-long-short ventricular sequence の検討. 第13回日本心電学会学術集会, 1996. 10.
- 90) 大野則彦<sup>1)</sup>, 斎藤寛和, 坪 宏一, 小野卓哉, 野村敦宣, 小林義典, 洪 基哲<sup>1)</sup>, 新 博次, 加藤貴雄, 早川弘一<sup>(1)</sup>稲田登戸病院循環器内科): III群抗不整脈薬の催不整脈作用と QT 間隔及び QT dispersion の変化. 第13回日本心電学会学術集会, 1996. 10.
- 91) 北山浩気, 新 博次, 遠藤康夫, 斎藤寛和, 小林義典, 岸田 浩, 早川弘一: 心筋梗塞臨床経過と12誘導心電図 QT<sub>c</sub> dispersion. 第13回日本心電学会学術集会, 1996. 10.
- 92) 藤田進彦<sup>1)</sup>, 桜井 薫<sup>1)</sup>, 小谷英太郎<sup>1)</sup>, 内田高浩<sup>1)</sup>, 田中邦夫<sup>1)</sup>, 長澤紘一<sup>1)</sup>, 大場崇芳, 高野仁司, 国見聡宏, 宗像一雄, 早川弘一<sup>(1)</sup>多摩永山病院内科): 冠血流予備能計測による心筋微小循環障害と運動負荷心電図所見の関係. 第13回日本心電学会学術集会, 1996. 10.
- 93) 金澤正樹<sup>1)</sup>, 染宮誠二<sup>1)</sup>, 清水 滋<sup>1)</sup>, 加藤貴雄, 早川弘一<sup>(1)</sup>NEC): 新しい診断論理による, 変行伝導を伴う上室性期外収縮の自動診断. 第13回日本心電学会学術集会, 1996. 10.
- 94) 斎藤寛和, 野村敦宣, 加藤貴雄, 大野則彦, 坪 宏一, 小野卓哉, 松本 真, 新 博次, 長澤紘一<sup>1)</sup>, 早川弘一<sup>(1)</sup>多摩永山病院内科): QT dispersion の inter-observer variation. 第13回日本心電学会学術集会, 1996. 10.
- 95) 雪吹周生, 丸山光紀, 関戸司久, 宗像一雄, 早川弘一: 心不全に伴う心室性不整脈重症度規定要因: 心機能か神経体液性因子か?. 第13回日本心電学会学術集会, 1996. 10.
- 96) 呉 小怡, 小原俊彦, 小倉宏道, 大村和子, 野村敦宣, 斎藤寛和, 加藤貴雄, 早川弘一: 心不全を伴う重症不整脈例の心電図に及ぼすアミオダロンの影響. 第13回日本心電学会学術集会, 1996. 10.
- 97) 清水秀一, 小林義典, 川口直美, 宮内靖史, 大村和子, 斎藤寛和, 井野 威, 新 博次, 加藤貴雄, 早川弘一: ヒト心室筋活動電位持続時間における単一期外刺激および二連続期外刺激の restitution kinetics の差異 - 単相性活動電位による検討 -. 第13回日本心電学会学術集会, 1996. 10.
- 98) 高山英男, 加藤貴雄, 小倉宏道, 小原俊彦, 金 應文, 早川弘一, 永田正夫<sup>1)</sup>, 井上典之<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>日本物性): 新しい3次元表示ウェーブレット変換法による心電図高周波微小成分の解析. 第13回日本心電学会学術集会, 1996. 10.
- 99) 佐野純子, 馬淵浩輔, 松田裕之, 葉梨亜矢, 福間長知, 斉藤 勉, 草間芳樹, 岸田 浩, 早川弘一: 一過性心筋虚血発作における発作間隔の ST 下降と心拍への影響. 第13回日本心電学会学術集会, 1996. 10.
- 100) 福間長知, 馬淵浩輔, 松田裕之, 葉梨亜矢, 多田祐美子, 佐野純子, 斉藤 勉, 宗像一雄, 岸田 浩, 早川弘一: 降圧に対する心拍反応(圧受容体反射感受性)について - Nitroglycerin と Phentolamine の差異の検討 -. 第13回日本心電学会学術集会, 1996. 10.
- 101) 小原俊彦, 加藤貴雄, 高山英男, 呉 小怡, 小倉宏道, 小原啓子, 大村和子, 金 應文, 早川弘一: 新しい簡易時間周波数解析を用いた高分解能心電図による致死性不整脈例の検討. 第13回日本心電学会学術集会, 1996. 10.
- 102) 松本 真, 野村敦宣, 坪 宏一, 大坂元久, 佐々部典子, 斎藤寛和, 伊藤高司<sup>1)</sup>, 新 博次, 加藤貴雄, 岸田 浩, 早川弘一<sup>(1)</sup>情報科学センター): 正常例における T 波 Alternans (TWA) の検討. 第13回日本心電学会学術集

- 会, 1996. 10.
- 103) 斉藤 勉, 岸田 浩, 馬淵浩輔, 松田裕之, 葉梨亜矢, 多田祐美子, 佐野純子, 福間長知, 草間芳樹, 早川弘一: 狭心症における心臓交感神経活性. 第13回日本心電学会学術集会, 1996. 10.
- 104) 田寺 長<sup>1)</sup>, 井野 威<sup>1)</sup>, 後藤正道<sup>1)</sup>, 菊竹晴子<sup>1)</sup>, 小原啓子<sup>1)</sup>, 内田高浩<sup>1)</sup>, 田中邦夫<sup>1)</sup>, 長澤紘一<sup>1)</sup>, 早川弘一<sup>1)</sup> (多摩永山病院内科): 頻拍中に逆行性ブロック及び多彩な逆行伝導を示す房室結節リエントリー頻拍に対する電気生理学的検討. 第13回日本心電学会学術集会, 1996. 10.
- 105) 小林利行<sup>1)</sup>, 横山真也<sup>1)</sup>, 大國真一<sup>1)</sup>, 水野杏一<sup>1)</sup>, 笠神康平<sup>2)</sup>, 田中 隆<sup>2)</sup>, 田中啓治<sup>2)</sup>, 早川弘一, 杉藪康憲<sup>3)</sup>, 里村公生<sup>3)</sup>, 悦田浩邦<sup>3)</sup>, 荒井恒憲<sup>3)</sup>, 菊地 真<sup>3)</sup>, 山懸俊彦<sup>3)</sup>, 溝口多聞<sup>3)</sup>, 竹内 清<sup>3)</sup>, 福井 勝<sup>3)</sup>, 内海 厚<sup>3)</sup> (1)千葉北総病院内科, (2)同集中治療部, (3)防衛医科大学第三内科): 回転性および斜視機能を持った新しい冠動脈血管内視鏡の開発. 第10回心臓血管内視鏡レーザー形成術研究会, 1996. 10.
- 106) 高橋 啓, 古明地弘和, 安武正弘, 斉藤 勉, 寺田秀人, 里村克章, 勝田悌実, 荒牧琢己: ステロイド抵抗性自己免疫性肝炎の1例. 第449回日本内科学会関東地方会, 1996. 10.
- 107) 北山浩気, 木内 要, 小林義典, 本間 博, 子島 潤, 高山守正, 遠藤孝雄, 高野照夫, 早川弘一, 塚本 浩<sup>1)</sup> (1)保谷厚生病院循環器内科): 高齢, 心房細動症例における心房血栓の診断法としての超高速CTの有用性と血栓危険因子. 第33回日本臨床生理学会総会, 1996. 10.
- 108) 松本 真: “T wave alternans”発生機序の検討(症例を中心に). 第12回循環器情報処理研究会, 1996. 10.
- 109) 小野卓哉, 松本 真, 新 博次, 野村敦宣, 加藤貴雄, 斎藤寛和, 本間 博, 早川弘一: 誘発にIsoproterenol投与を要する神経調節性失神の特色. 第49回日本自律神経学会総会, 1996. 10.
- 110) 大坂元久, 斎藤寛和, 新 博次, 加藤貴雄, 伊藤高司<sup>1)</sup>, 岸田 浩, 早川弘一 (1)情報科学センター): 心室期外収縮出現パターンと心拍変動の関係. 第12回時間循環器研究会, 1996. 10.
- 111) 佐野純子, 斉藤 勉, 葉梨亜矢, 多田祐美子, 福間長知, 岸田 浩: 一過性心筋虚血発作における発作間隔のST下降への影響. 第12回時間循環器研究会, 1996. 10.
- 112) 関山達也, 古明地弘和, 大須賀勝, 寺田秀人, 里村克章, 勝田悌実, 荒牧琢己: 肝硬変における $\alpha\beta$ -blocker, carvedilolの全身並びに肝血行動態に対する影響. 第17回日本臨床薬理学会, 1996. 11.
- 113) 小原俊彦, 呉 小怡, 小倉宏道, 大村和子, 野村敦宣, 斎藤寛和, 加藤貴雄, 早川弘一: 心不全を伴う重症不整脈例の心電図に及ぼすアミノグロンの影響の検討. 第17回日本臨床薬理学会, 1996. 11.
- 114) 寺田秀人, 掃部弘行, 清宮康嗣, 古明地弘和, 長野具雄, 大須賀勝, 関山達也, 里村克章, 勝田悌実, 荒牧琢己, 内藤善哉<sup>1)</sup> (1)病理学第二): 肝細胞癌と胆管細胞癌の重複癌を合併したC型肝硬変の1例. 第31回日本肝臓学会東部会, 1996. 11.
- 115) 古明地弘和, 長野具雄, 張 雪君, 大須賀勝, 寺田秀人, 関山達也, 里村克章, 勝田悌実, 荒牧琢己: 最近経験した急性C型肝炎における感染経路及び病態に関する検討. 第31回日本肝臓学会東部会, 1996. 11.
- 116) 金子晴生, 古明地弘和, 草間芳樹, 大須賀勝, 寺田秀人, 関山達也, 里村克章, 勝田悌実, 荒牧琢己: 肝生検によりフィブリン血栓を同定し得たHELLP症候群の1例. 第31回日本肝臓学会東部会, 1996. 11.
- 117) 張 雪君, 大須賀勝, 勝田悌実, 荒牧琢己, 秋元敏雄<sup>1)</sup> (1)実験動物管理室): 血管作動薬に対する門脈圧亢進症ラット大動脈の反応性. 第7回学校法人日本医科大学外国人留学者研究会, 1996. 11.
- 118) 賈 大林, 安武正弘, 草間芳樹, 岸田 浩: ATP感受性Kチャンネル開口薬KRN-2391の心筋梗塞サイズ縮小効果: dual perfusion cannulaを用いたラット低流量心筋虚血モデルによる検討. 第7回学校法人日本医科大学外国人留学者研究会, 1996. 11.
- 119) 小林義典: 副伝導路離断後に薬剤抵抗性の心房頻拍および非通常型心房粗動が頻発した潜在性WPW症候群の1例. 第11回東京不整脈フォーラム, 1996. 11.
- 120) 小倉宏道, 雪吹周生, 草間芳樹, 寺田秀人, 宗像一雄, 岸田 浩, 荒牧琢己, 渡辺 玲<sup>1)</sup>, 足立好司<sup>1)</sup>, 池田幸穂<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>1)</sup>, 増田 栄<sup>2)</sup>, 矢島敏己<sup>2)</sup>, 田中茂夫<sup>2)</sup> (1)脳神経外科, (2)外科学第二): 細菌性脳動脈瘤切除術, 大動脈

- 弁置換術等集学的治療を要した感染性心内膜炎の1例。日本医科大学医学会第90回例会，1996，11。
- 121) 網谷賢一<sup>1)</sup>、山口朋禎<sup>1)</sup>、掃部弘行<sup>1)</sup>、伊藤達也<sup>1)</sup>、雪吹周生<sup>1)</sup>、村澤恒男<sup>1)</sup>、上田征夫<sup>1)</sup>、原文男<sup>1)</sup>、朽方規喜<sup>2)</sup>、平野滋之<sup>2)</sup>、日置正文<sup>2)</sup>、及川恵子、上村竜太、草間芳樹<sup>(<sup>1</sup>第二病院内科，<sup>2</sup>同外科)</sup>：胸痛発作にて受診し複数科の協力を得て治療に成功した1例。日本医科大学医学会第90回例会，1996，11。
- 122) 大坂元久、斎藤寛和、横島友子、岸田 浩、早川弘一、伊藤高司<sup>(<sup>1</sup>情報科学センター)</sup>：相互情報量による生体信号のゆらぎ解析—心室期外収縮出現のパターン分類への応用。第11回生体・生理工学シンポジウム，1996，11。
- 123) 緒方憲一、佐藤丞子、古明地弘和、斉藤 勉、寺田秀人、里村克章、勝田悌実、関山達也、荒牧琢己：自己免疫性肝炎（AIH）と原発性胆汁性肝硬変（PBC）の母子例。第242回日本消化器病学会関東支部例会，1996，12。
- 124) 豊田隆志、星野公彦、内田拓実、草間芳樹、寺田秀人、宗像一雄、荒牧琢己、早川弘一：結核性アジソン病による副腎クリーゼの1例。第451回日本内科学会関東地方会，1996，12。
- 125) 及川恵子、木内 要、子島 潤、宮内靖史、酒井俊太、高山守正、高野照夫、石井健輔、斉藤 勉、加藤貴雄、岸田 浩、早川弘一：百日咳を起炎菌とする心筋炎の2例。日本循環器学会関東甲信越地方会第162回学術集会，1996，12。
- 126) 亀山幹彦、野村敦宣、大塚俊昭、松本 真、緒方憲一、小原俊彦、斉藤 勉、斎藤寛和、新 博次、加藤貴雄、岸田 浩、早川弘一：T-wave alternans (YWA) と心室頻拍の関連—アドリマイシン心筋症例での検討—。日本循環器学会関東甲信越地方会第162回学術集会，1996，12。
- 127) 大塚俊昭、本間 博、佐野純子、草間芳樹、宗像一雄、岸田 浩、早川弘一、汲田伸一郎<sup>1)</sup>、隈崎達夫<sup>1)</sup> (<sup>1</sup>放射線科)：高齢者におけるドブタミン負荷心エコー法の有用性と安全性。第31回日本成人病学会，1997，1。
- 128) 佐藤直樹、遠藤孝雄、木内 要、子島 潤、早川弘一、Vatner SF<sup>1)</sup>、Vatner DE<sup>1)</sup> (<sup>1</sup>Harvard Medical School)： $\beta$ -アドレナリン受容体系刺激薬の意識下雑種犬慣性心不全モデルにおける効果の比較—新しいカルシウムチャンネル刺激薬の効果も含めて—。第13回心不全研究会，1997，1。
- 129) 川口直美、小林義典、林 明總、清水秀一、松本 真、緒方憲一、小林利行、小倉宏道、宮内靖史、小原俊彦、大村和子、斎藤寛和、井野 威、新 博次、加藤貴雄、早川弘一：心房刺激において易誘発性を示し、誘発時の連結期に刺激頻度および時間依存性を認めた左室起源特発性心室性頻拍の1例。第9回臨床不整脈研究会，1997，1。
- 130) 関戸司久、岩崎雄樹、藤田進彦、田中古登子、富田喜文、太田眞夫、橋本英洋、大竹 稔、荒牧琢己：糖尿病性ケトアシドーシスに pyomyositis を伴って発症した IDDM の1例。日本糖尿病学会関東甲信越地方会第34回講演会，1997，1。
- 131) 緒方憲一、斉藤 勉、寺田秀人、岸田 浩、荒牧琢己、早川弘一、木内 要<sup>1)</sup>、高山守正<sup>1)</sup>、高野照夫<sup>1)</sup> (<sup>1</sup>集中治療室)：Warfarin 抵抗性を示した反復性肺血栓塞栓症の1例。第452回日本内科学会関東地方会，1997，2。
- 132) 清宮康嗣<sup>1)</sup>、説田浩一<sup>1)</sup>、小川 剛<sup>1)</sup>、緒方憲一、内田高浩、高山守正<sup>(<sup>1</sup>博慈会記念総合病院)</sup>：正常冠動脈で運動負荷試験陽性を示した症例の検討。第12回足立区医学会，1997，2。
- 133) 小倉宏道、古明地弘和、草間芳樹、寺田秀人、関山達也、里村克章、勝田悌実、荒牧琢己：C型肝炎ウイルス及びモクロマトーシスによる肝硬変に合併した肝細胞癌の1例。第243回日本消化器病学会関東支部例会，1997，2。
- 134) 小林利行、小林義典、本間 博、草間芳樹、関山達也、宗像一雄、岸田 浩、荒牧琢己、柳 健<sup>1)</sup>、丸山 弘<sup>1)</sup>、吉村和泰<sup>1)</sup>、田中宣威<sup>(<sup>1</sup>外科学第一)</sup>：大腸癌術前検査により判明した無症候性左冠動脈主幹部狭窄の1例。日本医科大学医学会第91回例会，1997，2。
- 135) 大須賀勝、森田典成、清水秀一、多田祐美子、勝田悌実、荒牧琢己、杉崎祐一<sup>1)</sup>、山中宣昭<sup>(<sup>1</sup>病理学第一)</sup>：インターフェロン治療を行った糸球体腎炎を伴うC型肝炎肝硬変の2例。日本医科大学医学会第91回例会，1997，2。
- 136) 小原俊彦、加藤貴雄、林 明總、高山英男、松本 真、呉 小怡、大村和子、野村敦宣、小林義典、斎藤寛和、

- 早川弘一：致死性不整脈患者における QRS 内高周波成分の特性－簡易時間周波数解析法を用いた検討－。第 7 回体表心臓微小電位研究会，1997。2。
- 137) 小川晃生，小林義典，小野卓哉，小林利行，川口直美，遠藤康実，草間芳樹，斎藤寛和，新 博次，加藤貴雄，岸田 浩，早川弘一：肥大型心筋症に異型早期興奮症候群を合併した 2 例。日本循環器学会関東甲信越地方会第 163 回学術集会，1997。2。
- 138) 岸田 浩：心疾患と冠攣縮について－日本循環器学会関東甲信越地方会報告から。日本循環器学会関東甲信越地方会第 163 回学術集会，1997。2。
- 139) 高木啓倫，木内 要，子島 潤，宮内靖史，酒井俊太，高山守正，高野照夫，岸田 浩，早川弘一，栗山秀樹<sup>1)</sup>，澤倫太郎<sup>1)</sup>，荒木 勤<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>産婦人科)：妊娠に合併した重症心筋炎の 1 例。日本循環器学会関東甲信越地方会第 163 回学術集会，1997。2。
- 140) 古明地弘和，長戸孝道，長野具雄，大須賀勝，寺田秀人，関山達也，勝田悌実，里村克章，荒牧琢己：劇症化した HBV キャリアの 2 剖検例。第 22 回臨床肝臓懇話会，1997。3。
- 141) 田辺浩子，古明地弘和，斉藤 勉，関山達也，荒牧琢己，千賀康弘<sup>1)</sup>，吉田和弘<sup>1)</sup>，北村博司<sup>2)</sup>，山中宣昭<sup>2)</sup>，橋本政子<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>泌尿器科，<sup>2)</sup>病理学，<sup>3)</sup>中央検査室)：臨床的に溶血性尿毒症症候群が疑われた，リファンピシンによる急性腎不全の 1 例。第 453 回日本内科学会関東地方会，1997。3。
- 142) 坪 宏一，子島 潤，高山守正，今泉孝敬，高野照夫，早川弘一，佐々木建志<sup>1)</sup>，落 雅美<sup>1)</sup>，田中茂夫<sup>1)</sup>，田中啓治<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第二，<sup>2)</sup>千葉北総病院集中治療部)：Stanford B 型急性大動脈解離において持続する解離腔閉存例の自然経過と治療方針。第 61 回日本循環器学会学術集会，1997。3。
- 143) 星野公彦，草間芳樹，本間 博，富田喜文，佐野純子，宗像一雄，岸田 浩，酒井俊太<sup>1)</sup>，高山守正<sup>1)</sup>，高野照夫<sup>1)</sup>，汲田伸一郎<sup>2)</sup>，隈崎達夫<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>集中治療室，<sup>2)</sup>放射線科)：心筋梗塞領域での<sup>201</sup>TlCl と<sup>123</sup>I-BMIPP の mismatch は心事故，壁運動変化を予知する－初回心筋梗塞左前下行枝 1 枝病変例での検討－。第 61 回日本循環器学会学術集会，1997。3。
- 144) 清野精彦，子島 潤，高山守正，高野照夫，Tokyo Trop-T Trial (4T) 研究会代表 大林完二：心筋 Troponin T 迅速判定法による急性心筋梗塞，重症不安定狭心症の診断と短・中期予後の分析－Tokyo Trop-T Traial (4 T)。第 61 回日本循環器学会学術集会，1997。3。
- 145) 大坂元久，Leeman DE<sup>1)</sup>，Shubrooks SJ<sup>1)</sup>，Albrecht P<sup>2)</sup>，Cohen RJ<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>Deaconess Hospital，<sup>2)</sup>MIT)：体表面ラブラシアン心電図の虚血部位検出のための有用性－経皮的冠動脈形成術施行中における検討－。第 61 回日本循環器学会学術集会，1997。3。
- 146) 酒井俊太，高山守正，雪吹周生，青木 聡，関戸司久，今泉孝敬，上村竜太，高野仁司，星野公彦，安武正弘，富田喜文，草間芳樹，宗像一雄，高野照夫，岸田 浩，早川弘一，瀧本晃司<sup>1)</sup>，李 武志<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>八潮循環器病院)：Cutting Balloon 単回拡張による冠解離発現の規定因子に関する検討。第 61 回日本循環器学会学術集会，1997。3。
- 147) 川口直美，小林義典，清水秀一，松本 真，小林利行，小倉宏道，宮内靖史，大村和子，小原俊彦，井野 威，早川弘一：房室結節回帰性頻拍に対するアブレーションにおいて通電終了後に残存する接合部調律の臨床的意義。第 61 回日本循環器学会学術集会，1997。3。
- 148) 斉藤 勉，葉梨亜矢，岸田 浩，多田祐美子，佐野純子，安武正弘，福間長知，草間芳樹，宗像一雄，早川弘一：異型狭心症における vasoreactivity 心臓自律神経活動。第 61 回日本循環器学会学術集会，1997。3。
- 149) 関戸司久，岸田 浩，福間長知，本間 博，富田喜文，草間芳樹，高山守正，宗像一雄，早川弘一：ドプタミン負荷心エコー図法 (DSE) による心筋虚血カスケードおよび super silent ischemia の検討。第 61 回日本循環器学会学術集会，1997。3。
- 150) 高山英男，加藤貴雄，呉 小怡，小倉宏道，野村敦宣，小原俊彦，大村和子，斎藤寛和，早川弘一：任意の一心拍を用いた Wavelet 変換法による心電図 QRS 成分の時間周波数解析の再現性と臨床的意義。第 61 回日本循環器

学会学術集会, 1997. 3.

- 151) 柏木陸美, 清野精彦, 国見聡宏, 塚本 浩, 岸田 浩, 早川弘一, 高野照夫<sup>1)</sup>, 滝田孝之<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>集中治療室, <sup>2)</sup>三菱重工横浜健康管理室): 冠動脈疾患に合併する下肢および頸動脈狭窄症の長期予後規定因子としての重要性. 第61回日本循環器学会学術集会, 1997. 3.
- 152) 小林義典, 新 博次, 井野 威, 野村敦宣, 大村和子, 八島正明, 斎藤寛和, 岸田 浩, 早川弘一: III群薬, dofetilideの発作性上室性頻拍における電気生理学的効果. 第61回日本循環器学会学術集会, 1997. 3.
- 153) 佐野純子, 金子晴生, 葉梨亜矢, 多田祐美子, 福間長知, 斉藤 勉, 本間 博, 草間芳樹, 宗像一雄, 岸田 浩, 早川弘一, 汲田伸一郎<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線科): 心電図同期併用の運動負荷心筋シンチグラフィ1回撮像法—安静時<sup>210</sup>Tl/負荷時<sup>99m</sup>Tc-Tetrofosmin 2核種同時心筋SPECT データ収集法による心筋虚血ならびに左室収縮機能評価. 第61回日本循環器学会学術集会, 1997. 3.
- 154) 多田祐美子, 福間長知, 馬淵浩輔, 松田裕之, 葉梨亜矢, 佐野純子, 斉藤 勉, 草間芳樹, 宗像一雄, 岸田 浩, 早川弘一: 虚血性心疾患における圧受容体反射機能障害をきたす因子の検討. 第61回日本循環器学会学術集会, 1997. 3.
- 155) 佐野純子, 葉梨亜矢, 多田祐美子, 福間長知, 斉藤 勉, 草間芳樹, 岸田 浩, 早川弘一: 狭心症自然発作時における虚血耐性効果—虚血閾値と重症度による検討. 第61回日本循環器学会学術集会, 1997. 3.
- 156) 小野卓哉, 斎藤寛和, 林 明總, 松本 真, 川口直美, 野村敦宣, 大坂元久, 小林義典, 本間 博, 新 博次, 加藤貴雄, 岸田 浩, 早川弘一: 血管抑制型神経調節性失神はいわゆる Neurally mediated syncope に含むべきか?—自律神経学的特徴及び薬効効果を通して—. 第61回日本循環器学会学術集会, 1997. 3.
- 157) 福間長知, 馬淵浩輔, 松田裕之, 葉梨亜矢, 多田祐美子, 佐野純子, 斉藤 勉, 宗像一雄, 岸田 浩, 早川弘一: 動脈圧受容体反射と心肺圧受容体反射の心拍周期変動に対する影響の差異. 第61回日本循環器学会学術集会, 1997. 3.
- 158) 清宮康嗣, 草間芳樹, 本間 博, 酒井俊太, 斉藤 勉, 福間長知, 宗像一雄, 岸田 浩, 早川弘一: ドプタミン負荷心エコーによる冠動脈病変予測の問題点—運動負荷試験陽性例での検討—. 第61回日本循環器学会学術集会, 1997. 3.
- 159) 福間長知, 岸田 浩, 馬淵浩輔, 松田裕之, 多田祐美子, 佐野純子, 斉藤 勉, 草間芳樹, 宗像一雄, 早川弘一: Syndrome X 症例における nitrate 無効の機序. 第61回日本循環器学会学術集会, 1997. 3.
- 160) 松本 真, 野村敦宣, 清水秀一, 坪 宏一, 緒方憲一, 小倉宏道, 大坂元久, 小林義典, 斎藤寛和, 新 博次, 加藤貴雄, 岸田 浩, 早川弘一: T波周波数解析により検出された T wave alternans (TWA) の意義. 第61回日本循環器学会学術集会, 1997. 3.
- 161) 説田浩一<sup>1)</sup>, 清宮康嗣<sup>1)</sup>, 小川 剛<sup>1)</sup>, 佐々木建志<sup>2)</sup>, 原田 厚<sup>2)</sup>, 清野精彦, 富田喜文, 高野照夫, 高橋直人, 岸田 浩, 早川弘一 (<sup>1)</sup>博慈会記念総合病院循環器科, <sup>2)</sup>海老名総合病院循環器センター): 慢性心不全症例における第二世代心筋 Troponin T (TnT) 測定値上昇と短・中期予後との関連について. 第61回日本循環器学会学術集会, 1997. 3.
- 162) 佐々部典子<sup>1)</sup>, 浅井隆二<sup>1)</sup>, 田村静夫<sup>1)</sup>, 斎藤寛和, 野村敦宣, 新 博次, 早川弘一, 大坂元久<sup>2)</sup>, 伊東高司<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>NTT 東京中央健康管理センター, <sup>2)</sup>情報科学センター): 慢性心房細動の自然歴—企業検診29000例の検討—. 第61回日本循環器学会学術集会, 1997. 3.
- 163) 木内 要, 子島 潤, 高山守正, 遠藤孝雄, 高野照夫, 早川弘一: 冠動脈閉塞時間がヒト心筋梗塞サイズと左心機能に及ぼす影響. 第61回日本循環器学会学術集会, 1997. 3.
- 164) 宮内靖史, 子島 潤, 木内 要, 青木 聡, 関戸司久, 酒井俊太, 今泉孝敬, 高山守正, 加藤貴雄, 高野照夫, 早川弘一: 積極的再灌流療法が急性心筋梗塞に伴う心室頻拍発生に及ぼす効果. 第61回日本循環器学会学術集会, 1997. 3.
- 165) 大村和子, 小林義典, 林 明總, 清水秀一, 小林利行, 緒方憲一, 松本 真, 川口直美, 小倉宏道, 宮内靖史,

- 小原俊彦, 遠藤康実, 斎藤寛和, 新 博次, 加藤貴雄, 早川弘一: I 群抗不整脈薬により心筋粗動に移行した心房細動例の臨床的特徴. 第61回日本循環器学会学術集会, 1997. 3.
- 166) 林 明總, 小林義典, 緒方憲一, 松本 真, 小林利行, 小倉宏道, 川口直美, 宮内靖史, 小原俊彦, 大村和子, 野村敦宣, 斎藤寛和, 新 博次, 加藤貴雄, 岸田 浩, 早川弘一, 別所竜倉<sup>1)</sup>, 田中茂夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第二): 新世代の植え込み型除細動器による非侵襲的電気生理学的検査の経験. 第61回日本循環器学会学術集会, 1997. 3.
- 167) 櫛方美文, 清野精彦, 島井新一郎, 岸田 浩, 早川弘一, 高野照夫<sup>1)</sup>, 熊谷和浩<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>集中治療室, <sup>2)</sup>福生病院内科): 慢性腎透析症例における第II世代心筋 Troponin 検出の臨床的意義. 第61回日本循環器学会学術集会, 1997. 3.
- 168) 藤田進彦, 高野仁司, 大場崇芳, 国見聡宏, 安武正弘, 富田喜文, 草間芳樹, 宗像一雄, 岸田 浩, 早川弘一, 小谷英太郎<sup>1)</sup>, 田中邦夫<sup>1)</sup>, 長澤紘一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院内科): 冠動脈非狭窄の運動負荷試験 ST 低下例における血管内皮障害と心筋微小循環障害の検討. 第61回日本循環器学会学術集会, 1997. 3.
- 169) 酒井俊太, 高山守正, 今泉孝敬, 青木 聡, 関戸司久, 宮内靖史, 木内 要, 高野仁司, 安武正弘, 富田喜文, 子島 潤, 草間芳樹, 宗像一雄, 高野照夫, 岸田 浩, 早川弘一: 急性心筋梗塞に対するステント治療の有用性と問題点. 第61回日本循環器学会学術集会, 1997. 3.
- 170) 齊藤 勉, 岸田 浩, 梨葉亜矢, 多田祐美子, 哲翁弥生, 佐野純子, 福間長知, 草間芳樹, 早川弘一: 血管増殖性因子と心臓自律神経活動. 第61回日本循環器学会学術集会, 1997. 3.
- 171) 水野杏一<sup>1)</sup>, (MICBA Study Group) 高山守正, 桜田真己, 勝木孝明, 永井知雄, 李 武志, 宮本 明, 里村公生, 大國眞一, 草間芳樹, 田中邦夫(<sup>1)</sup>千葉北総病院内科): Cutting Balloon の他施設共同試験—Multi Institutional Cutting Balloon Angioplasty (MICBA Study) の初期成績. 第61回日本循環器学会学術集会, 1997. 3.

## [付属病院老人科]

### 研究概要

老年者の糖尿病, 動脈硬化, 脂質代謝異常および肥満に関する臨床的研究を行った。

糖尿病に関して, 1) 血糖日内変動の検討から, 老年者におけるスルホニル尿素薬の至適投与法の検討を行った。2) 糖尿病における大血管障害と細小血管障害との相互関連を明らかにするとともに, 両者の発症に及ぼす各種リスクファクターの影響の大きさを比較検討した。3) 微量アルブミン尿および尿中 NAG 指数をはじめとした各種糖尿病性腎症の指標について老年糖尿病患者における測定意義を明らかにした。4) 糖尿病患者に見られる高フェリチン血症の臨床的意義をその亜分画から検討し, 糖尿病性網膜症との密接な関連を明らかにした。

脂質代謝に関しては, 1) 高 Lp (a) 血症と糖尿病患者における大血管障害および細小血管症との関連を検討し, その臨床的意義を明らかにした。2) 老年者の各種疾患患者について血清レムナント様リポ蛋白測定を行い, その臨床的意義を検討した。3) 日本脂質介入試験 (J-LIT) の臨床知見の中間報告を行った。

肥満に関しては, 1) 老年者の超音波法にて測定した脂肪分布と動脈硬化促進因子との相互関連を検討した。2) 老年糖尿病患者における肥満因子が大血管障害に及ぼす影響を検討した。3) 自覚的健康者における人間ドックでの脂肪肝の頻度を明らかにし, 肥満因子を含めた各種臨床所見との関連を検討した。

### 研究業績

#### 論文

(1) 原著:

- 1) Zhang J-B<sup>1)</sup>, Metori S (<sup>1)</sup>the first clinical college of China Medical University): The study on the relationship between the control state of blood glucose and countertransference system of cholesterol in patients with NIDDM. J China Medical University 1995; 24: 587-595.

- 2) Zhang J-B<sup>1)</sup>, Metori S (<sup>1)</sup>the first clinical college of China Medical University) : The relationship between high density lipoprotein and serum triglyceride level in non-insulin dependent diabetic patients. Chinese J Arterioscl 1995 ; 3 : 236-239.
  - 3) Matsuura Y, Ohba K, Ajiro Y, Sato S, Suzuki T, Sasai K, Nakano H, Metori S : Daily blood glucose profiles in type 2 (Non-insulin-dependent) elderly diabetic patients on oral hypoglycemic agents : Importance of blood glucose monitoring. Hong Kong J Gerontology 1996 ; 10(Suppl) : 233-236.
  - 4) Nakano H, Ajiro Y, Matsuura Y, Suzuki T, Sasai K, Ohba K, Metori S : Diabetes mellitus and psychological state in the elderly-Assessing by the depressive and hypochondriacal scale-. Hong Kong J Gerontology 1996 ; 10(Suppl) : 224-228.
  - 5) Ohba K, Igawa M, Nakano H, Kigawa Y, Sato S, Sasai K, Metori S : Risk factors for atherosclerosis of the aorta, carotid artery and tibial artery in non-insulin-dependent diabetes mellitus. Hong Kong J Gerontology 1996 ; 10(Suppl) : 334-337.
  - 6) 大庭建三, 南 順文, 中野博司, 妻鳥昌平 : オーラノフィン服用中にミオパチーをきたし, CK 結合性免疫グロブリンの出現をみた 1 例(特集:副作用症例データベース, 医薬品情報提示の新しい試み). 診断と治療 1996 ; 84(増刊号) : 75.
  - 7) 佐藤周三, 春山 勝, 中野博司, 大庭建三, 妻鳥昌平 : 著明な染色体異常を認め G-CSF の使用後に急性骨髄性白血病を併発した多発性骨髄腫の 1 例 (特集:副作用症例データベース, 医薬品情報提示の新しい試み). 診断と治療 1996 ; 84(増刊号) : 470.
  - 8) 春山 勝, 笹井恵子, 中野博司, 大庭建三, 妻鳥昌平 : リファンピシン, イソニアジドの両剤による発熱の 1 例 (特集:副作用症例データベース, 医薬品情報提示の新しい試み). 診断と治療 1996 ; 84(増刊号) : 470.
  - 9) 網代由美子, 笹井恵子, 犬塚有紀, 井川宗彦, 佐藤周三, 仲地紀勝, 鈴木達也, 平井眞明, 瀧上正章, 中野博司, 大庭建三, 妻鳥昌平 : 体格指数の年齢面からの検討ー内臓脂肪の指標としての有用性の面より. 第16回日本肥満学会記録 1996 ; 88-89.
  - 10) 山下直博, 大庭建三, 中野博司, 妻鳥昌平 : 血清フェリチン, 糖化フェリチンおよび非糖化フェリチンの加齢変化. 日老医学会誌 1996 ; 33 : 754-760.
- (2) 総説 :
- 1) 佐藤周三, 中野博司 : 高齢者肥満の特徴と対応 (特集:肥満症ー最新のアプローチ). 診断と治療 1996 ; 84 : 1106-1109.
  - 2) 大庭建三, 中野博司, 松浦良樹 : 老年期糖尿病における経口血糖降下薬の使い方(特集:最近の老年糖尿病の治療). Geriatric Medicine 1996 ; 34 : 869-873.
  - 3) 大庭建三, 中野博司, 岡崎恭次 : 高齢者における耐糖能異常(境界型) (特集:耐糖能異常ー境界型を中心にー). 日本臨床 1996 ; 54 : 2773-2778.
  - 4) 中野博司, 佐藤周三 : 成人の肥満. 日医大誌 1996 ; 63 : 431-435.
  - 5) 中野博司, 妻鳥昌平 : 老年者診療のコツ: 振戦. 老化と疾患 1996 ; 9 : 1572-1573.
  - 6) 大庭建三, 中野博司, 岡崎恭次 : 糖代謝と脳動脈硬化 (特集:神経系と糖代謝). Clinical Neuroscience 1996 ; 14 : 1373-1375.
- (3) 研究報告書 :
- 1) 大庭建三 : 老年糖尿病患者の経口血糖降下剤療法ー血糖コントロールの安全性と管理上の問題点. 厚生省厚生科学研究補助金長寿科学総合研究, 平成 7 年度研究報告 Vol. 3, 1996 ; pp328-334.

## 著 書

- 1) 妻鳥昌平 : [分担] 老人の糖尿病. “180 専門家による私の処方” (高橋隆一編), 1996 ; pp472-475, 医事新報社.

## 学会発表

### (1) 特別講演：

- 1) 妻鳥昌平：日常臨床でみる老人の痛みと転倒。市川市医師会講演会，1997。 2。

### (2) 教育講演：

- 1) 中野博司：加齢と糖尿病。平成8年度文京区市民教育講座，1996。 8。
- 2) 妻鳥昌平：老年者の転倒と感染。第29回感染症防止研究会，1996。 9。
- 3) 妻鳥昌平：老年病予防のすべて－転倒と骨折予防－痛み。老年医学市民公開講演会，1996。 10。

### (3) シンポジウム：

- 1) 網代由美子，犬塚有紀，笹井恵子，岡崎恭次，鈴木達也，中野博司，大庭建三，妻鳥昌平：老年者の脂肪分布と動脈硬化促進因子との関係。The 3rd International Symposium on Primary Prevention of Atherosclerotic and Thrombotic Vascular Diseases by Integration of Traditional and Modern Medicine (北京)，1996。 9。

### (4) ワークショップ：

- 1) 大庭建三，笹井恵子，鈴木達也，中野博司，妻鳥昌平，板垣晃之<sup>1)</sup>，早川道夫<sup>1)</sup>，大友英一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>浴風会病院)：老年者の軽度耐糖能異常と動脈硬化性疾患(糖負荷試験判定基準('82年)境界型の取り扱い)。第39回日本糖尿病学会年次学術集会，1996。 5。

### (5) 一般講演：

- 1) Okazaki K, Kigawa Y, Nakano H, Suzuki T, Sasai K, Ohba K, Metori S : Non-insulin dependent diabetes mellitus and elevated serum ferritin level. 3rd International Diabetes Federation Western Pacific Regional Congress (Honkong), 1996。 9。
- 2) Kigawa Y, Nakano H, Okazaki K, Suzuki T, Sasai K, Ohba K, Metori S : Pulse wave velocity, carotid blood flow, and retinopathy in non-insulin-dependent diabetes mellitus. 3rd International Diabetes Federation Western Pacific Regional Congress (Honkong), 1996。 9。
- 3) 大庭建三，木川好章，岡崎恭次，松浦良樹，笹井恵子，鈴木達也，中野博司，妻鳥昌平：老年者の経口血糖降下剤療法－血糖日内変動よりの検討－。第93回日本内科学会講演会，1996。 4。
- 4) 大庭建三，松浦良樹，松村典昭，猪狩吉雅，矢野 誠，犬塚有紀，鈴木達也，笹井恵子，中野博司，妻鳥昌平：老年者の経口血糖降下剤療法－血糖日内変動よりみた薬剤選択および投与法の検討。第39回日本糖尿病学会年次学術集会，1996。 5。
- 5) 中野博司，木川好章，網代由美子，岡崎恭次，松浦良樹，佐藤周三，井川宗彦，笹井恵子，大庭建三，妻鳥昌平：インスリン非依存糖尿病の大血管障害に関する検討(第3報)－細小血管症との関連の面より－。第39回日本糖尿病学会年次学術集会，1996。 5。
- 6) 鈴木達也，中野博司，渡辺健太郎，山口 祐，木川好章，岡崎恭次，仲地紀勝，井川宗彦，大庭建三，妻鳥昌平：インスリン非依存糖尿病の血清 Lp (a) に関する検討－大血管障害の指標としての有用性の検討－。第39回日本糖尿病学会年次学術集会，1996。 5。
- 7) 佐藤周三，中野博司，都宮 伸，木川好章，草野宏和，仲地紀勝，井川宗彦，永井信也，大庭建三，妻鳥昌平：インスリン非依存糖尿病の腎障害の指標の比較検討－大血管障害の影響の面より－。第39回日本糖尿病学会年次学術集会，1996。 5。
- 8) 渡辺健太郎，猪狩吉雅，松村典昭，木川好章，網代由美子，井川宗彦，鈴木達也，中野博司，大庭建三，妻鳥昌平：レムナント様リポ蛋白コレステロール (RLP-C) 測定の臨床的有用性に関する検討。日本医科大学医学会第89回例会，1996。 5。
- 9) 笹井恵子，犬塚有紀，井川宗彦，網代由美子，佐藤周三，仲地紀勝，鈴木達也，中野博司，大庭建三，妻鳥昌平：老年者の脂肪分布と動脈硬化促進因子との関係－超音波法による検討－。第38回日本老年医学会学術集会，1996。



6.

- 10) 中野博司, 木川好章, 井川宗彦, 渡辺威之, 猪狩吉雅, 松村典昭, 渡辺健太郎, 岡崎恭次, 大庭建三, 妻鳥昌平: 老年者糖尿病の臨床像に関する検討—細小血管症と大血管障害の関連の面より—. 第38回日本老年医学会学術集会, 1996. 6.
- 11) 大庭建三, 松浦良樹, 山口 祐, 矢野 誠, 都宮 伸, 草野宏和, 鈴木達也, 笹井恵子, 中野博司, 妻鳥昌平: 老年糖尿病患者の経口血糖降下剤療法に関する研究—血糖日内変動の若壮年者との比較よりの検討—. 第38回日本老年医学会学術集会, 1996. 6.
- 12) 平井真明, 大庭建三, 仲地紀勝, 永井信也, 安室尚樹, 淵上正章, 中野博司, 妻鳥昌平: 老年糖尿病患者の尿中NAG 指数の測定意義—アルブミン指数との比較—. 第38回日本老年医学会学術集会, 1996. 6.
- 13) 平井真明, 妻鳥昌平, J-LIT 研究会: 日本脂質介入試験 (J-LIT) についての調査報告 (第3報)—登録された高脂血症患者5万例の2年間追跡結果分析. 第28回日本動脈硬化学会総会, 1996. 6.
- 14) 永井信也<sup>1)</sup>, 安室尚樹<sup>1)</sup>, 荒井誠一<sup>2)</sup>, 鈴木久美<sup>2)</sup>, 越谷美由紀<sup>2)</sup>, 山賀節子<sup>2)</sup>, 玉手ひさ子<sup>2)</sup>, 池野広幸<sup>2)</sup>, 原文男<sup>2)</sup>, 笹井恵子, 中野博司, 大庭建三, 妻鳥昌平 (<sup>1)</sup>健康管理科, <sup>2)</sup>第二病院中央検査室): 人間ドックにおける脂肪肝の診断. 第37回日本人間ドック学会, 1996. 8.
- 15) 鯉淵 仁, 山口 祐, 都宮 伸, 木川好章, 井川宗彦, 鈴木達也, 平井真明, 中野博司, 大庭建三, 妻鳥昌平: 糖尿病患者にける脳血管障害に対する血清 Lp(a) の臨床的意義に関する検討. 第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 9.
- 16) 渡邊健太郎, 木川好章, 犬塚有紀, 矢野 誠, 岡崎恭次, 鈴木達也, 笹井恵子, 淵上正章, 中野博司, 大庭建三, 妻鳥昌平: 高齢者脾腫瘍の1例. 第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 9.
- 17) 猪狩吉雅, 松村典昭, 渡辺威之, 岡崎恭次, 網代由美子, 仲地紀勝, 佐藤周三, 笹井恵子, 中野博司, 大庭建三, 妻鳥昌平, 杉崎祐一<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>病理部): 老年者原発性胆汁性肝硬変 (PBC) の2例. 第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 9.
- 18) 伊藤正秀<sup>1)</sup>, 角田誠之<sup>1)</sup>, 田崎達也<sup>1)</sup>, 小山雅章<sup>1)</sup>, 安室尚樹, 永井信也, 馬越正道<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>第二病院消化器病センター): 職域における成人病, その最近の動向. 第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 9.
- 19) 猪狩吉雅, 松村典昭, 渡辺威之, 佐藤周三, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三, 妻鳥昌平, 杉崎祐一<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>病理部): 軽度の肝障害で発見された老年者無症候性原発性胆汁性肝硬変 (a-PBC) の1例. 第24回日本老年医学会関東甲信越地方会, 1996. 9.
- 20) 都宮 伸, 中野博司, 鯉淵 仁, 松村典昭, 山口 祐, 網代由美子, 仲地紀勝, 鈴木達也, 大庭建三, 妻鳥昌平: 老年インスリン非依存糖尿病の大血管障害と肥満因子の関係. 第17回日本肥満学会, 1996. 11.
- 21) 笹井恵子, 犬塚有紀, 井川宗彦, 網代由美子, 佐藤周三, 仲地紀勝, 鈴木達也, 中野博司, 大庭建三, 妻鳥昌平: 老年者の脂肪分布と動脈硬化促進因子との関係—超音波法による検討—. 第17回日本肥満学会, 1996. 11.
- 22) 井川宗彦, 中野博司, 猪狩吉雅, 矢野 誠, 渡辺威之, 草野宏和, 岡崎恭次, 井川宗彦, 大庭建三, 妻鳥昌平: 動脈硬化に及ぼす老年期の肥満の影響—動脈硬化の定量的指標を用いて—. 第17回日本肥満学会, 1996. 11.
- 23) 中野博司, 渡邊健太郎, 都宮 伸, 木川好章, 岡崎恭次, 佐藤周三, 大庭建三, 妻鳥昌平: インスリン非依存糖尿病の動脈硬化に及ぼす Lp (a) の影響—細小血管症の重症度の面からの検討—. 平成8年度日本動脈硬化学会冬季大会, 1996. 11.
- 24) 中野博司, 木川好章, 井川宗彦, 仲地紀勝, 鈴木達也, 笹井恵子, 大庭建三, 妻鳥昌平: Nilvadipine の大動脈脈波伝導速度, 総頸動脈血流量および下肢血流に及ぼす影響に関する検討. 平成8年度日本動脈硬化学会冬季大会, 1996. 11.
- 25) 永井信也, 安室尚樹, 菊池真理<sup>1)</sup>, 佐藤雅史<sup>1)</sup>, 渡部英之<sup>1)</sup>, 田中賢助<sup>2)</sup>, 小山雅章<sup>2)</sup>, 角田誠之<sup>2)</sup>, 伊藤正秀<sup>2)</sup>, 馬越正道<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>第二病院放射線科, <sup>2)</sup>第二病院消化器病センター): 当院の人間ドックにおける消化器検査の現状. 日本医科大学医学会第90回例会, 1996. 11.

- 26) 渡辺健太郎, 犬塚有紀, 岡崎恭次, 佐藤周三, 笹井恵子, 中野博司, 大庭建三, 妻鳥昌平: 老年者脾原発性悪性リンパ腫の1例. 第25回日本老年医学会関東甲信越地方会, 1997. 3.

## [第二病院内科]

### 研究概要

当科では虚血性心疾患, 人工透析時の循環器系に及ぼす変化など循環器を中心に研究を行っている。

- ① 糖尿病患者の無症候性心筋虚血について, 負荷心筋シンチグラフィ, トレッドミルテスト, 自律神経機能, ホルター心電図等を用いて研究を行っている。
- ② 更年期障害みる多彩な心臓症状(動悸, いきぎれ等)につき, ホルター心電図, 負荷心電図, 自律神経機能, 各種血中ホルモンの測定等より更年期の心機能異常の有無につき研究を引き続き行っている。
- ③ 安定期慢性人工透析患者の透析前後のLPの変化につき加算平均心電図を用いて研究を行った。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著:

- 1) 伊藤達也, 山口朋禎, 立石淳一, 増田康文, 上田征夫, 原文男, 伊藤正秀<sup>1)</sup>, 角田誠之<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院消化器病センター): 坐剤多用が誘因と考えられた直腸粘膜脱症候群の1例. 川崎医師会医会誌 1996; 第13回別冊: 14-21.
- 2) 堺 則康<sup>1)</sup>, 鈴木かやの<sup>1)</sup>, 八代加奈<sup>1)</sup>, 遠藤祐理子<sup>1)</sup>, 横山 泉<sup>1)</sup>, 伊東文行<sup>1)</sup>, 加藤欽也, 原文男(<sup>1)</sup>第二病院皮膚科): 成人 Still 病の1例. 皮膚科の臨床 1997; 39: 129-128.
- 3) 廣田 淳, 雪吹周生, 山口朋禎, 掃部弘行, 伊藤達也, 村澤恒男, 上田征夫, 原文男, 朽方則喜<sup>1)</sup>, 日置正文<sup>1)</sup>, 柳沢信子<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院外科, <sup>2)</sup>山出内科医院): 左主幹部狭窄を含む冠動脈3枝病変を認め緊急CABG準備中に心停止をきたした若年高度肥満者の1例. セラピューティック・リサーチ 1997; 18: 232-236.

##### (2) 綜説:

- 1) 原文男: 循環器疾患と妊娠, 分娩. 日医大誌 1997; 64: 180-183.

### 学会発表

#### 一般講演:

- 1) Murasawa T, Yamaguchi T, Katoh K, Nishigaki T, Matsumoto S, Itoh T, Masuda Y, Suzuki O, Ueda Y, Hara F: CHANGES IN SIGNAL-AVERAGED ELECTROCARDIOGRAM AFTER HEMODIALYSIS IN STABLE CHRONIC DIALYSIS PATIENTS-WITH SPECIAL REFERENCE TO FILTERED QRS AND FILTERED P-. 2nd International Congress on Dialysis (Singapore), 1996. 10.
- 2) 鈴木憲康<sup>1)</sup>, 板倉剛志<sup>1)</sup>, 菅原 通<sup>1)</sup>, 池野廣幸<sup>1)</sup>, 原文男(<sup>1)</sup>第二病院中央検査室): 手術室内環境清浄度の変動について: 簡易空気清浄装置を使用して. 第45回神奈川県臨床衛生検査学会, 1996. 4.
- 3) 板倉剛志<sup>1)</sup>, 鈴木憲康<sup>1)</sup>, 菅原 通<sup>1)</sup>, 池野廣幸<sup>1)</sup>, 原文男(<sup>1)</sup>第二病院中央検査室): 各種保存状態における強酸性電解酸性水の性能に関する検討. 第45回神奈川県臨床衛生検査学会, 1996. 4.
- 4) 大竹佳世子<sup>1)</sup>, 寺尾幸重<sup>1)</sup>, 吉岡美香<sup>1)</sup>, 津金香代子<sup>1)</sup>, 野本恵子<sup>1)</sup>, 池野廣幸<sup>1)</sup>, 原文男(<sup>1)</sup>第二病院中央検査室): 全自動血液凝固線溶測定装置 BCT の使用経験. 第45回神奈川県臨床衛生検査学会, 1996. 4.
- 5) 渡部紀子<sup>1)</sup>, 小伊藤保雄<sup>1)</sup>, 畑 哲<sup>1)</sup>, 吉田美和<sup>1)</sup>, 井上雅則<sup>1)</sup>, 池野廣幸<sup>1)</sup>, 原文男(<sup>1)</sup>第二病院中央検査室): CRP 測定における改良免疫比濁法試薬の有用性. 第45回神奈川県臨床衛生検査学会, 1996. 4.
- 6) 増田康文, 川口直美, 西垣朝裕, 松本茂之, 鈴木 攻, 村澤恒男, 上田征夫, 原文男, 北村純一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院

- リハビリテーションセンター)：急性腎不全で発症し ARDS を合併した Wegener 肉芽腫 (WG) の 1 例。第 445 回日本内科学会関東地方会，1996。5。
- 7) 新岡明子<sup>1)</sup>，成定昌昭<sup>1)</sup>，菊地英子<sup>1)</sup>，池野廣幸<sup>1)</sup>，原 文男<sup>(1)第二病院中央検査室</sup>)：自動分析装置による尿沈渣の信頼性。日本医科大学医学会第 89 回例会，1996。5。
  - 8) 伊藤達也，増田康文，上田征夫，原 文男，伊藤正秀<sup>1)</sup>，角田誠之<sup>1)</sup>(<sup>(1)第二病院消化器病センター内視鏡室</sup>)：内視鏡的に長期観察しえた直腸粘膜脱症候群の治癒過程像。第 62 回日本消化器内視鏡学会関東地方会，1996。6。
  - 9) 榎方美文，中村俊彦，網谷賢一，増田康文，村澤恒男，上田征夫，原 文男：肝腎不全を来した巨大肝嚢胞と多発嚢胞腎の合併例。第 447 回日本内科学会関東地方会，1996。7。
  - 10) 村澤恒男，山口朋禎，加藤欽也，西垣朝裕，松本茂之，伊藤達也，増田康文，鈴木 攻，上田征夫，原 文男：加算平均心電図の血液透析に伴う変動—特に f-QRS RMS40ms，f-P duration について。第 41 回日本透析医学会総会，1996。7。
  - 11) 永井信也<sup>1)</sup>，安室尚樹<sup>1)</sup>，荒井誠一<sup>2)</sup>，鈴木久美<sup>2)</sup>，越谷美由紀<sup>2)</sup>，山賀節子<sup>2)</sup>，玉手ひさ子<sup>2)</sup>，池野廣幸<sup>2)</sup>，原 文男<sup>(1)第二病院健康管理科，2)同中央検査室</sup>)：人間ドックにおける脂肪肝の診断。日本人間ドック学会，1996。8。
  - 12) 網谷賢一，川口祥子<sup>1)</sup>，坪 宏一<sup>1)</sup>，笠神康平<sup>1)</sup>，田中 隆<sup>1)</sup>，田中敬治<sup>1)</sup>，金子晴生<sup>2)</sup>，大國真一<sup>2)</sup>，水野杏一<sup>2)</sup>，田島なつき<sup>3)</sup>(<sup>(1)千葉北総病院集中治療室，2)同内科，3)同放射線科</sup>)：MR Venography が骨盤内深部静脈血栓の診断に有用であった肺梗塞の 1 例。日本循環器学会関東甲信越地方会第 161 回学術集会，1996。9。
  - 13) 廣田 淳，雪吹周生，山口朋禎，掃部弘行，伊藤達也，村澤恒男，上田征夫，原 文男，朽方則喜<sup>1)</sup>，日置正文<sup>1)</sup>，柳沢信子<sup>2)</sup>(<sup>(1)第二病院外科，2)山出内科医院</sup>)：左主幹部狭窄を含む冠動脈 3 枝病変を認め，緊急 CABG と PTCA。第 14 回心疾患リスクファクター研究会，1996。9。
  - 14) 加藤欽也，中村俊彦，伊藤達也，増田康文，雪吹周生，村澤恒男，上田征夫，原 文男：甲状腺機能低下症に心タンポナーデ，腹膜炎，横隔膜下膿瘍を合併した 1 例。第 448 回日本内科学会関東地方会，1996。9。
  - 15) 榎方美文，中村俊彦，雪吹周生，村澤恒男，上田征夫，原 文男：最近内科において経験した腎嚢胞の 2 例。第 64 回日本医科大学医学会総会，1996。9。
  - 16) 菅原 通<sup>1)</sup>，坂倉剛志<sup>1)</sup>，鈴木憲康<sup>1)</sup>，池野廣幸<sup>1)</sup>，原 文男，島田洋一<sup>2)</sup>(<sup>(1)第二病院中央検査室，2)同麻酔科</sup>)：簡易浮遊探知機の有用性について。第 64 回日本医科大学医学会総会，1996。9。
  - 17) 吉田美和<sup>1)</sup>，渡部紀子<sup>1)</sup>，小伊藤保雄<sup>1)</sup>，畑 哲<sup>1)</sup>，菅原 通<sup>1)</sup>，池野廣幸<sup>1)</sup>，原 文男<sup>(1)第二病院中央検査室</sup>)：生化学自動分析装置による HbA1C 測定試薬の評価。第 64 回日本医科大学医学会総会，1996。9。
  - 18) 渡部紀子，吉田美和，小伊藤保雄<sup>1)</sup>，畑 哲<sup>1)</sup>，菅原 通<sup>1)</sup>，池野廣幸<sup>1)</sup>，原 文男<sup>(1)第二病院中央検査室</sup>)：1, 5AG 測定試薬「ラナ 1, 5AG オート」の基礎的検討。第 64 回日本医科大学医学会総会，1996。9。
  - 19) 井上政則<sup>1)</sup>，井梅和美<sup>1)</sup>，隠岐和美<sup>1)</sup>，田村朋美<sup>1)</sup>，野本恵子<sup>1)</sup>，池野廣幸<sup>1)</sup>，原 文男<sup>(1)第二病院中央検査室</sup>)：ベーリングネフェロメータ II による血清蛋白測定の有用性。第 64 回日本医科大学医学会総会，1996。9。
  - 20) 成定昌昭<sup>1)</sup>，菊地英子<sup>1)</sup>，新岡明子<sup>1)</sup>，池野廣幸<sup>1)</sup>，原 文男<sup>(1)第二病院中央検査室</sup>)：過酸化水素電極法による血糖測定装置「アントセンス II」の有用性。第 64 回日本医科大学医学会総会，1996。9。
  - 21) 吉岡美香<sup>1)</sup>，野本恵子<sup>1)</sup>，津金香代子<sup>1)</sup>，中島由美子<sup>1)</sup>，大竹佳世子<sup>1)</sup>，池野廣幸<sup>1)</sup>，原 文男<sup>(1)第二病院中央検査室</sup>)：総合血液学検査装置 H・3 の基礎的検討。第 64 回日本医科大学医学会総会，1996。9。
  - 22) 吉岡美香<sup>1)</sup>，野本恵子<sup>1)</sup>，津金香代子<sup>1)</sup>，中島由美子<sup>1)</sup>，大竹佳世子<sup>1)</sup>，池野廣幸<sup>1)</sup>，原 文男<sup>(1)第二病院中央検査室</sup>)：総合血液学検査装置 H・3 のエラー情報についての検討。第 64 回日本医科大学医学会総会，1996。9。
  - 23) 鈴木憲康<sup>1)</sup>，坂倉剛志<sup>1)</sup>，菅原 通<sup>1)</sup>，池野廣幸<sup>1)</sup>，原 文男<sup>(1)第二病院中央検査室</sup>)：MRSA 院内感染対策における感染情報レポートについて。第 64 回日本医科大学医学会総会，1996。9。
  - 24) 坂倉剛志<sup>1)</sup>，鈴木憲康<sup>1)</sup>，菅原 通<sup>1)</sup>，池野廣幸<sup>1)</sup>，原 文男<sup>(1)第二病院中央検査室</sup>)：当検査室における *Helicobacter pylori* の分離培養について。第 64 回日本医科大学医学会総会，1996。9。

- 25) 菊地英子<sup>1)</sup>, 成定昌昭<sup>1)</sup>, 新潟明子<sup>1)</sup>, 池野廣幸<sup>1)</sup>, 原 文男<sup>(1)第二病院中央検査室</sup>): ガストログラフィンにて駆虫を試みた2例. 第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 9.
- 26) 鈴木久美, 荒井誠一<sup>1)</sup>, 越谷美由紀<sup>1)</sup>, 山賀節子<sup>1)</sup>, 玉手ひさ子<sup>1)</sup>, 池野廣幸<sup>1)</sup>, 原 文男<sup>(1)第二病院中央検査室</sup>): 更年期障害患者・維持透析患者の心室遅延電位(LP: late potential)陽性について. 第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 9.
- 27) 榎方美文, 中村俊彦, 雪吹周生, 村澤恒男, 上田征夫, 原 文男: 最近内科において経験した腎嚢胞の2例. 第57回神奈川県内科医学会, 1996. 10.
- 28) 網谷賢一, 山口朋禎, 掃部弘行, 伊藤達也, 雪吹周生, 村澤恒男, 上田征夫, 原 文男, 朽方則喜<sup>1)</sup>, 平野滋之<sup>1)</sup>, 日置正文<sup>1)</sup>, 及川恵子<sup>2)</sup>, 上村竜太<sup>2)</sup>, 草間芳樹<sup>2)</sup>(<sup>1)第二病院外科, 2)付属病院第一内科</sup>): PTCA 施行困難で複数科の協力を得て治療に成功した梗塞後狭心症の1例. 日本医科大学医学会第90回例会, 1996. 11.
- 29) 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 駒崎敏昭<sup>1)</sup>, 山口裕史<sup>1)</sup>, 田崎達也<sup>1)</sup>, 原 一朗<sup>1)</sup>, 伊藤正秀<sup>1)</sup>, 馬越正通<sup>1)</sup>, 村澤恒男, 原 文男, 広瀬始之<sup>2)</sup>, 富田 勝<sup>2)</sup>(<sup>1)第二病院消化器病センター, 2)同泌尿器科</sup>): 胃癌術後, 後腹膜再発による閉塞性腎不全に対する複数科治療2症例の検討. 日本医科大学医学会第90回例会, 1996. 11.
- 30) 吉野雅則<sup>1)</sup>, 平野文也<sup>1)</sup>, 原 一郎<sup>1)</sup>, 馬越正通<sup>1)</sup>, 増田康文, 村澤恒男, 原 文男, 広瀬始之<sup>2)</sup>, 富田 勝<sup>2)</sup>(<sup>1)第二病院消化器病センター, 2)同泌尿器科</sup>): 直腸癌術後急性腎不全に対し人工透析が有効であった1例. 日本医科大学医学会第90回例会, 1996. 11.
- 31) 小峰 修<sup>1)</sup>, 吉野雅則<sup>1)</sup>, 水谷 聡<sup>1)</sup>, 内藤英二<sup>1)</sup>, 田崎達也<sup>1)</sup>, 伊藤正秀<sup>1)</sup>, 馬越正通<sup>1)</sup>, 菅原 通<sup>2)</sup>, 鈴木憲康<sup>2)</sup>, 池野廣幸<sup>2)</sup>, 原 文男<sup>(1)第二病院消化器病センター, 2)同中央検査室</sup>): 当科における消化管術後のMRSA感染症についての検討. 日本医科大学医学会第90回例会, 1996. 11.
- 32) 中村俊彦, 網谷賢一, 川口祥子<sup>1)</sup>, 坪 宏一<sup>1)</sup>, 星野公彦<sup>1)</sup>, 田中 隆<sup>1)</sup>, 田中敬治<sup>1)</sup>(<sup>1)千葉北総病院集中治療室</sup>): 新しいホスホジエステラーゼ(PDE)阻害薬MS857のうっ血性心不全に対する効果. 第5回日本集中治療医学会関東甲信越地方会, 1996. 12.
- 33) 山口朋禎, 中村俊彦, 榎方美文, 雪吹周生, 村澤恒男, 上田征夫, 原 文男, 川並汪一<sup>1)</sup>, 黒木伸一<sup>2)</sup>, 吉田裕三<sup>2)</sup>(<sup>1)第二病院病理部, 2)日本電気玉川健康管理センター</sup>): 急性心筋梗塞様心電図を呈した経過中に突然死をきたした肥大型心筋症の1例. 日本循環器学会関東甲信越地方会第162回学術集会, 1996. 12.
- 34) 中村俊彦, 坪 宏一<sup>1)</sup>, 星野公彦<sup>1)</sup>, 田中 隆<sup>1)</sup>, 田中敬治<sup>1)</sup>, 金子晴生<sup>2)</sup>, 高野正充<sup>2)</sup>, 富村正登<sup>2)</sup>, 大國真一<sup>2)</sup>, 水野杏一<sup>2)</sup>, 大秋美治<sup>3)</sup>(<sup>1)千葉北総病院集中治療室, 2)同内科, 3)同病理部</sup>): 全身のMRSA感染症に伴い心内膜および心筋内に多発性小膿瘍を形成した難治性心不全の1例. 日本循環器学会関東甲信越地方会第162回学術集会, 1996. 12.
- 35) 山口朋禎, 廣田 淳, 掃部弘行, 伊藤達也, 雪吹周生, 村澤恒男, 上田征夫, 原 文男: 著しい血小板減少を伴った抗リン脂質抗体症候群の治療中に肺アスペルギルス症を合併した1例. 第451回日本内科学会関東地方会, 1996. 12.
- 36) 八代加奈<sup>1)</sup>, 岩崎容子<sup>1)</sup>, 堺 則康<sup>1)</sup>, 遠藤祐理子<sup>1)</sup>, 伊東文行<sup>1)</sup>, 村澤恒男, 原 文男<sup>(1)第二病院皮膚科</sup>): 糖尿病を合併した尋常性天疱瘡患者に対する治療について. 日本医科大学医学会第91回例会, 1997. 2.
- 37) 平野滋之<sup>1)</sup>, 朽方則喜<sup>1)</sup>, 増田 栄<sup>1)</sup>, 山岸茂樹<sup>1)</sup>, 山下康夫<sup>1)</sup>, 平田知己<sup>1)</sup>, 久吉隆郎<sup>1)</sup>, 日置正文<sup>1)</sup>, 雪吹周生, 原 文男, 赤羽日出夫<sup>2)</sup>, 島田洋一<sup>2)</sup>, 田中茂夫<sup>2)</sup>(<sup>1)第二病院外科, 2)同麻酔科</sup>): 黄疸を呈した収縮性心外膜炎の1例. 第101日本胸部外科学会関東甲信越地方会, 1997. 2.
- 38) 網谷賢一, 中村俊彦, 川口祥子<sup>1)</sup>, 坪 宏一<sup>1)</sup>, 星野公彦<sup>1)</sup>, 田中 隆<sup>1)</sup>, 田中敬治<sup>1)</sup>(<sup>1)千葉北総病院集中治療室</sup>): バイオ, インピーダンス・スペクトラム法を用いた健常人および腎不全患者における細胞内・外水分量の測定. 日本医工学治療学会第9回学術大会, 1997. 2.
- 39) 中村俊彦, 網谷賢一, 山口朋禎, 伊藤達也, 榎方美文, 雪吹周生, 村澤恒男, 上田征夫, 原 文男, 増田 栄<sup>1)</sup>, 朽方則喜<sup>1)</sup>, 日置正文<sup>1)</sup>(<sup>1)第二病院外科</sup>): 肝機能異常が診断の糸口となり, 心房中隔欠損の合併が疑われた収縮

- 性心外膜炎の1例。日本循環器学会関東甲信越地方会第163回学術集会, 1997. 2.
- 40) 東海林智子, 網谷賢一, 中村俊彦, 坪 宏<sup>1)</sup>, 星野公彦<sup>1)</sup>, 田中 隆<sup>1)</sup>, 田中敬治<sup>1)</sup>, 高野正充<sup>2)</sup>, 大國真一<sup>2)</sup>, 水野杏一<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>千葉北総病院集中治療室, <sup>2)</sup>同内科): Bioimpedance spectrum 法による心不全患者の細胞内および細胞外水分量の測定。日本循環器学会関東甲信越地方会第163回学術集会, 1997. 2.
- 41) 伊藤達也, 山口朋禎, 立石淳一, 増田康文, 上田征夫, 原 文男, 伊藤正秀<sup>1)</sup>, 角田誠之<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>第二病院消化器病センター): 坐剤多用が誘因と考えられた直腸粘膜脱症候群の1例。第13回川崎市医師会医学会, 1997. 2.

## [多摩永山病院内科]

### 研究概要

当科では, 虚血性心疾患, 不整脈, 高血圧症, 低血圧症, うっ血性心不全などの循環器疾患を中心に, 肝疾患, 糖尿病, 気管支喘息についても臨床研究を行っている。

循環器病学では, 虚血性心疾患に関して, 1) 薬剤および運動負荷試験による RI を用いた心筋梗塞患者の心筋 viability の検討, 2) 心筋虚血の新しい評価法として doppler flow wire を用いての冠血流予備能の検討を行っている。不整脈に関する研究として, 1) 電気生理学的アプローチによる各種不整脈発生機序の検討, 2) 各種不整脈に対するカテーテルアブレーション治療の応用, 3) 抗不整脈の薬理学的効果の検討を行っている。また, 24時間携帯型血圧計, 24時間ホルター心電図を用い, 心拍変動パワースペクトル解析による高血圧の病態の研究も行っている。

肝臓病学では, C型慢性肝炎に対するインターフェロン療法について研究を行っている。

気管支喘息については, 治療面からの検討をはじめ, 季節変動その他の因子から発生機序の検討を行っている。また, 薬剤科との共同研究として, 1) より安全な治療法確立のため気管支拡張薬, 抗不整脈薬などの使用にあたり TDM (Therapeutic Drug Monitoring) を臨床に取り入れ, 治療薬剤の選択と患者のフォローアップのシステム化, 2) 糖尿病薬 (スルフォニル尿素系製剤,  $\alpha$ -グルコシダーゼ阻害剤など) の病態による選択と服薬指導を行っている。

### 研究業績

#### 論文

(1) 原著:

- 1) Koumi S, Sato R<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>First Department of Medicine, Kinki University School of Medicine, The Department Molecular Pharmacology and Biological Chemistry, Northwestern University Medical School): On the mechanism of  $\alpha$ 1-adrenergic modulation of the inwardly-potassium channel gating in the human heart. J Nippon Med Sch 1996; 63: 87-90.
- 2) Satou R<sup>1)</sup>, Koumi S (<sup>1)</sup>First Department of Medicine, Kinki University School of Medicine, The Department Molecular Pharmacology and Biological Chemistry, Northwestern University Medical School): Modulation of the delayed rectifier potassium channel gating in guinea-pig ventricular myocytes by intracellular acidification. J Nippon Med Sch 1997; 64: 71-73.
- 3) Nakahara Y<sup>1)</sup>, Murata M<sup>1)</sup>, Suzuki T, Ohtsu F, Nagasawa K (<sup>1)</sup>Department of Pharmacy Services, Tama Nagayama Hospital): Significance of the therapeutic range of serum theophylline concentration in the treatment of an attack of bronchial asthma. Biol Phrma Bull 1996; 19: 710-715.
- 4) 長澤紘一: 低血圧の治療。血圧 1996; 3: 341-345.
- 5) 長澤紘一: 低血圧症の生活指導と薬物療法。心身医療 1996; 8: 1015-1018.
- 6) 柴田明佳<sup>1)</sup>, 飯野幸永<sup>1)</sup>, 鈴木 健 (<sup>1)</sup>多摩永山病院中央検査室): 手術室を中心とした環境調査: 3つの方法の比較。手術医学 1996; 17: 129-133.
- 7) 柴田明佳<sup>1)</sup>, 飯野幸永<sup>1)</sup>, 鈴木 健 (<sup>1)</sup>多摩永山病院中央検査室): 当院における院内環境調査: 手術室について。

手術医学 1996 ; 17 : 323-327.

- 8) 高野照夫<sup>1)</sup>, 今泉孝敬<sup>1)</sup>, 田寺 長, 竹田晋浩<sup>1)</sup>, 子島 潤<sup>1)</sup>, 高山守正<sup>1)</sup>: (1)付属病院第1内科): 急性期心不全の治療指針. Medical practice, 1996 ; 13 : 1099-1105.
- 9) 中原保裕<sup>1)</sup>, 村田正弘<sup>1)</sup>, 鈴木 健, 大津文雄, 長澤紘一<sup>(1)</sup>多摩永山病院薬剤科): 成人気管支喘息患者の発作期における経口徐放性 theophylline 製剤の体内動態の検討. 日本救急医学会誌 1997 ; 8 : 43-50.
- 10) 中原保裕<sup>1)</sup>, 村田正弘<sup>1)</sup>, 鈴木 健, 大津文雄, 長澤紘一<sup>(1)</sup>多摩永山病院薬剤科): 生体リズムにあわせた theophylline 投与法と Round-The-Clock 療法の臨床効果の比較. 臨床薬理 1997 ; 28 : 15-23.

## 著 書

- 1) 長澤紘一: [分担] 低血圧症, “180専門家による私の処方” (総編集 高橋 隆一) 1996 ; pp204-205, 日本医事新報.
- 2) 鈴木 健, 長野具雄, 長澤紘一: [分担] 時系列解析法による気管支喘息発作の季節変動と気象因子の関係 “生体時系列データ解析の新展開” (細田嵯一監修, 笠貫 宏, 大友詔雄編集) 1996 ; pp791-801, 北海道大学図書刊行会.
- 3) 長澤紘一: [分担] 低血圧症の生活指導と薬物療法, “低血圧者のマネージメント” (心身医療研究会編) 1997 ; pp52-58, 医薬ジャーナル社.

## 学会発表

### (1) 一般講演

- 1) Ohara K, Suzuki T, Otsu F, Takeda S, Kunimi T, Yamanaka H, Tanaka K, Nagasawa K : Influence of autonomic nervous system on exercise cardiac function in patients with myocardial infarction. 7th International Congress on Ambulatory Monitoring. (Chiba) 1996. 5.
- 2) Ohba T, Takano H, Kunimi T, Fujita N, Kotani E, Tanaka K, Nagasawa K : A usefulness of adenosine triphosphate disodium (ATP)-stress thallium myocardial SPECT image. 7th International Congress on Ambulatory Monitoring. (Chiba) 1996. 5.
- 3) 鈴木 健, 小原啓子, 大場崇芳, 多田祐美子, 後藤正道, 田中邦夫, 大津文雄, 長澤紘一: パルスジェネレーター組み込み型ホルター心電計の有用性: 狭心症および心房細動での検討. 第93回日本内科学会, 1996. 4.
- 4) 大場崇芳, 高野仁司, 国見聡宏, 藤田進彦, 小谷英太郎, 田中邦夫, 長澤紘一, 玉井 仁<sup>1)</sup>, 山本 鼎<sup>1)</sup> (1)多摩永山病院放射線科): 同一症例における運動負荷および ATP 負荷 thallium-201心筋シンチングラム所見の差異. 第17回心臓核医学研究会, 1996. 5.
- 5) 小谷英太郎, 国見聡宏, 高野仁司, 大場崇芳, 藤田進彦, 田中邦夫, 鈴木 健, 長澤紘一: 心筋虚血発生における微小循環障害の意義: Doppler flow wire を用いた検討. 日本医科大学医学会第89回例会, 1996. 5.
- 6) 小谷英太郎, 国見聡宏, 高野仁司, 大場崇芳, 藤田進彦, 田中邦夫, 鈴木 健, 長澤紘一: 心筋虚血発生における冠血流予備能の測定意義. 第4回多摩地区虚血性心疾患研究会, 1996. 6.
- 7) 藤田進彦, 鈴木 健, 小原啓子, 多田祐美子, 後藤正道, 田中邦夫, 大津文雄, 長澤紘一: パルスジェネレーター組み込みホルター心電計による高齢者慢性心房細動例の体動と心拍数の関係. 第38回日本老年医学会, 1996. 6.
- 8) 山本 実<sup>1)</sup>, 大荷満生<sup>1)</sup>, 北本 清<sup>2)</sup>, 長澤紘一, 森 皎佑<sup>3)</sup>, 長澤俊彦<sup>2)</sup>, 秦 葭哉<sup>1)</sup> (1)杏林大学高齢医学, 2)杏林大学第1内科, 3)国保福生病院): 降圧薬使用中の高齢者高コレステロール血症に対するプラバスタチンの効果について. 第38回日本老年医学会, 1996. 6.
- 9) 鈴木摩理<sup>1)</sup>, 河村理馨子<sup>1)</sup>, 手島浩恵<sup>1)</sup>, 久保田稔<sup>1)</sup>, 鈴木直美<sup>1)</sup>, 飯野幸永<sup>1)</sup>, 鈴木 健 (1)多摩永山病院中央検査室): パネルジェネレーター組み込みホルター心電計による日内活動の評価: 患者行動日誌との比較検討. 第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 9.

- 10) 柴田明佳<sup>1)</sup>, 坂爪百合子<sup>1)</sup>, 田所久子<sup>1)</sup>, 佐藤知枝<sup>1)</sup>, 飯野幸永<sup>1)</sup>, 鈴木 健, 三田俊二<sup>2)</sup>, 佐々木茂<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>多摩永山病院中央検査室, <sup>2)</sup>同産婦人科): 婦人科領域における酵母様真菌分離培地 CHROM ager Candida の有用性. 第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 9.
- 11) 福田節子<sup>1)</sup>, 千葉逸子<sup>1)</sup>, 相澤 正<sup>1)</sup>, 浅井信治<sup>1)</sup>, 井上 淳<sup>1)</sup>, 飯野幸永<sup>1)</sup>, 鈴木 健(<sup>1)</sup>多摩永山病院中央検査室): ラテックス凝集法によるヘモグロビン A1c 測定の有用性. 第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 9.
- 12) 田所久子<sup>1)</sup>, 坂爪百合子<sup>1)</sup>, 柴田明佳<sup>1)</sup>, 佐藤知枝<sup>1)</sup>, 飯野幸永<sup>1)</sup>, 鈴木 健(<sup>1)</sup>多摩永山病院中央検査室): 当院過去3年間における血液培養分離菌の検出状況. 第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 9.
- 13) 浅井信治<sup>1)</sup>, 相沢 正<sup>1)</sup>, 千葉逸子<sup>1)</sup>, 井上 淳<sup>1)</sup>, 福田節子<sup>1)</sup>, 飯野幸永<sup>1)</sup>, 鈴木 健(<sup>1)</sup>多摩永山病院中央検査室): イオン化 Mg 測定機器 AVL988-4 の試用. 第64回日本医科大学医学会, 1996. 9.
- 14) 飯野幸永<sup>1)</sup>, 佐藤知枝<sup>1)</sup>, 千葉逸子<sup>1)</sup>, 北村誠一<sup>2)</sup>, 村田正弘<sup>3)</sup>, 鹿田あき子<sup>2)</sup>, 森本千秋<sup>2)</sup>, 遠藤三代子<sup>2)</sup>, 政次富美子<sup>2)</sup>, 宮本由起夫<sup>2)</sup>, 柏木邦彦<sup>2)</sup>, 鈴木 健, 沖濱裕司<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院中央検査室, <sup>2)</sup>同衛生委員会, <sup>3)</sup>同薬剤科, <sup>4)</sup>同消化器科): 当院における過去4年間の針刺し事故の集計. 第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 9.
- 15) 細根 勝<sup>1)</sup>, 前田昭太郎<sup>1)</sup>, 片山博徳<sup>1)</sup>, 小林みどり, 長澤紘一, 浅野伍朗<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院病理部, <sup>2)</sup>病理第2): 非ホジキンリンパ腫加療後に発生した EB ウイルス関連ホジキン病の1例. 第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 9.
- 16) 宮本新次郎, 井野 威, 小谷英太郎, 田寺 長, 小原啓子, 後藤正道, 藤田信輔, 田中邦夫, 鈴木 健, 長澤紘一: 興味ある臨床経過を示した incessant 型房室回帰性頻拍の1例. 第161回日本循環器学会地方会, 1996. 9.
- 17) 田辺浩子<sup>1)</sup>, 斉藤 勉<sup>1)</sup>, 古明地弘和<sup>1)</sup>, 寺田秀人<sup>1)</sup>, 荒巻琢巳<sup>1)</sup>, 小原啓子(<sup>1)</sup>付属病院第1内科): 原発性胆汁性肝硬変 mixed form に肝細胞癌を合併した高齢, 男性の1例. 第448回日本内科学会関東地方会, 1996. 9.
- 18) 鈴木 健, 藤田進彦, 小谷英太郎, 多田祐美子, 藤田信輔, 田中邦夫, 井野 威, 長澤紘一: 労作狭心症における有症候性発作間隔と虚血耐性発現の関係. 第44回日本心臓病学会, 1996. 9.
- 19) 内田高浩, 鈴木 健, 藤田進彦, 多田祐美子, 藤田信輔, 田中邦夫, 長澤紘一: 心筋梗塞例における運動負荷試験中止理由と心血行動態の関係. 第13回日本心電学会, 1996. 10.
- 20) 藤田進彦, 桜井 薫, 小谷英太郎, 内田高浩, 田中邦夫, 長澤紘一, 大場崇芳<sup>1)</sup>, 高野仁司<sup>1)</sup>, 国見聡宏<sup>1)</sup>, 宗像一雄<sup>1)</sup>, 早川弘一<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>付属病院第1内科): 冠血流予備能計測による心筋微小循環障害と運動負荷心電図所見の関係. 第13回日本心電学会, 1996. 10.
- 21) 田寺 長, 井野 威, 後藤正道, 菊竹晴子, 小原啓子, 内田高浩, 田中邦夫, 長澤紘一, 早川弘一<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>付属病院第1内科): 頻拍中に逆行伝導を示す房室結節リエントリー頻拍に対する電気生理学的検討. 第13回日本心電学会, 1996. 10.
- 22) 小原啓子, 後藤正道, 長澤紘一: Short-long-short ventricular sequence の検討. 第13回日本心電学会, 1996. 10.
- 23) 斉藤寛和<sup>1)</sup>, 野村敦宣<sup>1)</sup>, 加藤貴雄<sup>1)</sup>, 大野規彦<sup>1)</sup>, 坪 宏一<sup>1)</sup>, 小野卓哉<sup>1)</sup>, 松本 真<sup>1)</sup>, 新 博次<sup>1)</sup>, 長澤紘一, 早川弘一<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>付属病院第1内科): QT dispersion の inter-observer variation. 第13回日本心電学会, 1996. 10.
- 24) 名知仁子, 鈴木 健, 長澤紘一: レートレスパルスジェネレーター組込み型ホルター心電計の心拍コントロール評価に対する有用性: 慢性心房細動での検討. 第17回日本臨床薬理学会, 1996. 11.
- 25) 佐々木聡<sup>1)</sup>, 村田正弘<sup>1)</sup>, 後藤正道, 井野 威, 長澤紘一(<sup>1)</sup>多摩永山病院薬剤科): メキシレチン投与量の検討. 第17回日本臨床薬理学会, 1996. 11.
- 26) 小谷英太郎, 鈴木 健, 藤田進彦, 田中邦夫, 長澤紘一: 狭心症例における運動負荷時心血行動態連続測定とその有用性. 第37回日本脈管学会, 1996. 11.
- 27) 小谷英太郎, 桜井 薫, 内田高浩, 田中邦夫, 鈴木 健, 長澤紘一: Doppler flow wire を用いた冠血流予備能測定の意味. 第31回日本成人病学会, 1997. 1.
- 28) 宮本新次郎, 井野 威, 田寺 長, 馬淵浩輔, 小谷英太郎, 小原啓子, 後藤正道, 長澤紘一, 川越 栄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>日本

電気府中健康センター)：順行性 Kent 束アブレーション後に incessant 型 AVRT を呈した WPW 症候群の 1 例。第 9 回臨床不整脈研究会，1997. 1.

- 29) 佐藤知枝<sup>1)</sup>，田所久子<sup>1)</sup>，柴田明佳<sup>1)</sup>，飯野幸永<sup>1)</sup>，畝本賜男<sup>2)</sup>，椎野元裕<sup>2)</sup>，村田正弘<sup>2)</sup>，鈴木 健<sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院中央検査室，<sup>2)</sup>同薬剤科)</sup>：当院過去 3 年間における血液培養分離菌の検出と抗生剤使用状況：グラム陽性球菌について。第 12 回環境感染学会，1997. 2.
- 30) 谷合信彦<sup>1)</sup>，江上 格<sup>1)</sup>，岡崎滋樹<sup>1)</sup>，和田雅世<sup>1)</sup>，源河敦史<sup>1)</sup>，小林 匡<sup>1)</sup>，水谷 崇<sup>1)</sup>，中村 孝<sup>1)</sup>，佐々部一<sup>1)</sup>，廣井 信<sup>1)</sup>，吉岡正智<sup>1)</sup>，上田哲史，長澤紘一<sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科)</sup>：自己免疫性肝炎に合併したファータ乳頭癌肝転移の 1 例。日本医科大学医学会第 91 回例会，1997. 2.

## [千葉北総病院内科]

### 研究概要

内科 4 教室から医局員の派遣を受け臨床的研究を積極的に行っている。そのため研究も心臓，肝臓，神経，腎臓，消化器，および呼吸器疾患とほぼ内科領域全般を網羅している。

心臓では，虚血性心疾患が中心に心臓カテーテル検査による冠動脈形成術や New Device を研究。冠動脈血管内視鏡，血管内超音波による動脈硬化や血管内血栓の評価，再狭窄の機序を研究中である。

肝臓では，肝機能障害の患者に対し各肝炎ウイルスマーカーの測定，画像診断および肝生検を実施。組織学的に慢性活動性肝炎と診断された症例にインターフェロン療法による治療効果の検討を行っている。

神経では，CT，MRI 検査による各種筋疾患の経時変化，治療効果の検討，および電気生理検査による中枢，末梢神経疾患の定量的評価，検討を行っている。

腎臓では，蛋白尿から急性，慢性腎不全まで腎生検を含め幅広く診断，医療を行っている。特に，慢性腎不全の人工透析だけでなく他疾患の体外循環治療も積極的に行っている。

消化器では，食道蠕動異常と胸部症状との関連，ヘリコバクターピロリ除菌による胃，十二指腸潰瘍再発予防効果の検討を行っている。

呼吸器では，肺癌に対する併用療法，および各種間質性肺炎での気管支肺泡洗浄液中の細胞成分とサイトカインの解析，検討を行っている。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Mizuno K : Clinical application of angioscopy. Asian Med J 1996 ; 39 : 300-307.
- 2) Arai T, Miyake T, Sakurada M, Miyamoto A, Mizuno K, Kikuchi M, Nakamura H, Utsumi A, Takeuchi K : Parametric study for the laser hot balloon angioplasty to suppress chronic restenosis : Animal experiment SPIE—The international society for optical engineering, 1996 ; 2671 : 36-39.
- 3) Miyake T, Sakurada M, Arai T, Kikuchi M, Yasunori S, Nakamura H, Miyamoto A, Mizuno K, Utsumi A, Takeuchi K : Evaluation of optimal heating condition of laser-heated thermal balloon angioplasty—in vitro experiments—. Cardioangiography and Laser Cardioangioplasty 1996 ; 4 : 17.
- 4) Takase B, Maruyama T, Kurita A, Uehata A, Nishioka T, Mizuno K, Nakamura H, Katsura K, Kanda Y : Arachidonic acid metabolites in acute myocardial infarction. Angiology 1996 ; 47 : 649-661.
- 5) Arakawa K, Mizuno K, Shibuya T, Etsuda H, Tabata H, Nagayoshi H, Satomura K, Isojima K, Kurita A, Nakamura H : Angioscopic coronary macromorphology after thrombolysis in acute myocardial infarction. Am J Cardiol 1997 ; 79 : 197-202.



- 6) Kitamura K, Mizuno K, Miyamoto A, Nakamura H : Serum lipid profiles and the presence of yellow plaque in coronary lesions in vivo. *Am J Cardiol* 1997 ; 79 : 676-679.
  - 7) 水野杏一：血管内視鏡より分かる動脈硬化の退縮と抵抗性。 *Prog Med* 1996 ; 16 : 1254-1257.
  - 8) 加藤律史, 里村公生, 中尾伸二, 三宅隆之, 高山英一, 杉藪康憲, 福田正浩, 荒川 宏, 渋谷利雄, 栗田 明, 中村治雄, 水野杏一：Acute coronary syndrome における PTCA 後再狭窄の要因—血管内視鏡による検討—。 *Jpn J Interv Cardiol* 1996 ; 11 : 239-242.
  - 9) 永井知雄, 里村公生, 北村克弘, 疋田浩之, 林 克己, 悦田浩邦, 高瀬凡平, 上畑昭美, 渋谷利雄, 荒川 宏, 五十嶋一成, 栗田 明, 中村治雄, 水野杏一：冠動脈造影所見の冠血管内視鏡による検討。 *日独医報* 1996 ; 41 : 366-391.
  - 10) 上畑昭美, 栗田 明, 水野杏一, 中村治雄, Yeung AC, Ganz P : 冠動脈径計測における Caliper 法の精度 : quantitative angiography 法との比較。 *日独医報* 1996 ; 41 : 402-405.
  - 11) 大國眞一, 笠神康平, 横山真也, 小林利行, 水野杏一：冠動脈造影が正常であったにもかかわらず血管内視鏡で黄色粥腫を認めた家族性高コレステロール血症の1例。 *日独医報* 1996 ; 41 : 428-431.
  - 12) 小林利行, 横山真也, 笠神康平, 大國眞一, 水野杏一：Cutting balloon による PTCA 後の冠動脈内膜変化 : 血管内視鏡を用いた観察。 *Jpn J Interv Cardiol* 1996 ; 11(supple II) : 20-24.
  - 13) 草野浩平, 里村公生, 西澤健也, 浜部 晃, 磯田菊生, 亀澤康裕, 福田正浩, 杉藪康憲, 疋田浩之, 荒川 宏, 渋谷利雄, 栗田 明, 中村治雄, 水野杏一：糖尿病例における冠動脈内腔所見 : 血管内視鏡による検討。 *Jpn J Interv Cardiol* 1996 ; 11(supple II) : 56-61.
  - 14) 吉川美弥, 荒井恒憲, 菊地 真, 三宅隆之, 桜田真己, 宮本 明, 水野杏一, 内海 厚, 竹内 清：ドックグデリバリー治療へのレーザーホットバルーンの適用 : in vitro での基礎的検討。 *日本レーザー医学会論文集* 1996 ; 17 : 419-422.
  - 15) 田島なつき, 田島廣之, 岡田 進, 伊藤公一郎, 保坂純郎, 趙 圭一, 隈崎達夫, 加藤丈司, 桜井 実, 浅野哲雄, 水野杏一, 田中啓治：深部静脈血栓症の MR venography。 *日磁医誌* 1997 ; 17 : 20-27.
- (2) 総説 :
- 1) 水野杏一：虚血性心臓病。 *城西大学薬学部生涯教育講座集* 1996 ; 16 : 8-14.
  - 2) 水野杏一：心内膜炎の診断と治療。 *ドクターサロン* 1996 ; 40 : 579-583.
  - 3) 水野杏一：PTCA 後の薬物療法 : 狭心症の薬物治療のポイントシリーズ (労作性狭心症にどう対処するか)。 1996 ; 2 : 10-11.
  - 4) 水野杏一：冠動脈内視鏡でみた梗塞。 *Cardiac Practice* 1996 ; 7 : 335-338.
  - 5) 山本 剛, 水野杏一：冠動脈疾患。臨床画像 (Clinical Imagiology) 1996 ; 12 : 427-433.
  - 6) 水野杏一：冠動脈形成術後の再狭窄病変の治療法。 *Circulation news letter* 1996 ; 3 : 4-5.
  - 7) 水野杏一：冠動脈内視鏡でみたアテロームの破綻。 *BIO Clinica* 1996 ; 11 : 744-747.
  - 8) 水野杏一：血管内視鏡による診断。 *総合臨床* 1996 ; 45 : 2120-2123.
  - 9) 水野杏一：急性冠動脈疾患の抗血栓療法。 *CCU と ICU* 1996 ; 20 : 655-661.
  - 10) 横山真也, 水野杏一：一時的ペースメーカー。 *救急医学* 1996 ; 20 : 1252-1257.
  - 11) 金子晴生, 高野雅充, 富村正登, 大國眞一, 水野杏一：transluminal extraction catheter (TEC) の有用性。 *循環器科* 1996 ; 40 : 459-464.
  - 12) 水野杏一：プラーク破綻とはなにか。 *心臓病 NEWS & VIEWS* 1996 ; 1-10.
  - 13) 水野杏一：プラークの安定化に対する治療。 *Mebio* 1996 ; 14 : 94-99.
  - 14) 水野杏一：遺伝子治療応用への可能性 : 冠動脈血管内視鏡。 *Molecular Medicine* 1997 ; 34(2) : 237-238.
  - 15) 水野杏一：心臓血管内視鏡。 *Coronary* 1997 ; 13 : 225-230.
  - 16) 北村克弘, 水野杏一：血管内視鏡による動脈硬化 : 粥腫と血栓の観察。 *カレントセラピー* 1997 ; 15 : 75-79.

- 17) 金子晴生, 高野雅充, 富村正登, 佐野純子, 大国眞一, 水野杏一: 薬物治療と二次予防. *Progress in Medicine* 1997; 17: 342-347.
- 18) 水野杏一: 血管内視鏡検査. *日内会誌* 1997; 86: 237-241.
- 19) 大国眞一, 水野杏一: 血管内視鏡でどこまでわかるか. *Cardiologist* 1997; 2: 27-31.
- 20) 水野杏一: 血管内視鏡からみた plaque rupture の成因・病態. *循環器 Today* 1997; 1: 409-412.
- 21) 葉山修陽: 薬剤による代謝性アシドーシス. *臨床と薬物治療* 1996; 15: 751-754.

## 著書

- 1) 水野杏一: Vulnerable plaque. Controversies in Angina & Hypertension. 1997; pp8-11, *Excepta Medica News-Plus Series*.
- 2) 水野杏一: Thrombosis and Restenosis After Acute Vascular Injury (Plenary Session IX) AHA96' Highlight 1997; pp108-111 *メディカルジャーナル*, ファイザー.
- 3) 水野杏一: [分担] 冠動脈内視鏡でみた不安定狭心症. *Handbook of Coronary Artery Disease 目でみる冠動脈疾患の病態生理: 治療に直結する新知見.* (平盛勝彦 監修), 1996; pp127-130, *メジカルビュー社*.
- 4) 水野杏一: [分担] Acute coronary syndrome の病態と対策. 狭心症 最新の治療と病態の解明 (循環器 NOW No. 14). (矢崎義雄, 山口 徹, 島田和幸, 竹下 彰 編集). 1996; 南江堂.
- 5) 水野杏一: [分担] 冠動脈血管内視鏡の適応と限界. *循環器画像診断の進歩—適応と限界.* (竹越 襄 編集). 1996; pp109-112, *医歯薬出版*.
- 6) 水野杏一: [分担] 血管内視鏡 1. 原理と装置, 取り扱い. *心血管内イメージング—血管内エコーと血管内視鏡—*. (山口 徹 編集, 斉藤 顕, 水野杏一, 出川敏行 編集協力). 1996; pp150-166, *医学書院*.
- 7) 水野杏一: [分担] 血管内視鏡 2. 血管内視鏡で何が見えるか. *心血管内イメージング—血管内エコーと血管内視鏡—*. (山口 徹 編集, 斉藤 顕, 水野杏一, 出川敏行 編集協力). 1996; pp182-186, *医学書院*.
- 8) 水野杏一: [分担] 血管内視鏡 3. 冠動脈硬化症と血管内視鏡. *心血管内イメージング—血管内エコーと血管内視鏡—*. (山口 徹 編集, 斉藤 顕, 水野杏一, 出川敏行 編集協力). 1996; pp174-181, *医学書院*.
- 9) 水野杏一: [分担] 血管内視鏡 5. 不安定狭心症, 急性心筋梗塞と血管内視鏡. *心血管内イメージング—血管内エコーと血管内視鏡—*. (山口 徹 編集, 斉藤 顕, 水野杏一, 出川敏行 編集協力). 1996; pp187-194, *医学書院*.
- 10) 水野杏一: [分担] 血管内視鏡による冠動脈疾患の評価. *虚血性心疾患をめぐる話題.* (泰江弘文 編). 1996; pp6-7, *日本アクセルシュプリンガー出版*.

## 学会発表

### (1) 特別講演:

- 1) 水野杏一: 血管内視鏡の現状と展望. 第13回岐阜心不全研究会 (岐阜), 1996. 7.
- 2) 水野杏一: 冠動脈血管内視鏡の現状と将来. 九州心臓フォーラム21 (福岡), 1996. 9.
- 3) 水野杏一: 血管内視鏡で観察された冠動脈黄色プラークの意義. 11回 Pros & Cons in Cardiology (名古屋), 1996. 9.

### (2) 学術講演:

- 1) 水野杏一: 血管内視鏡による冠動脈疾患の評価: 虚血性心疾患をめぐる話題 (東京), 1996. 6.
- 2) 水野杏一: 循環器疾患の薬物療法—大規模試験が我々に教えるもの. 第32回印旛郡内科小児科医会 (佐倉), 1996. 10.

### (3) シンポジウム:

- 1) Enomoto T, Kawanami O, Satoh M, Kaneko Y, Azuma A, Kudoh S: Diagnostic Value of Bronchoalveolar

Lavage for the Diagnosis of Langerhans cell Granulomatosis : (Theme ; SARCOIDOSIS). AMERICAN LUNG ASSOCIATION/AMERICAN THORACIC SOCIETY INTERNATIONAL CONFERENCE (New Orleans), 1996. 5.

- 2) 水野杏一：冠動脈血管内視鏡(主題：動脈疾患における治療指針としての画像診断)。第16回日本画像医学会(東京), 1997. 3.
  - 3) 大國眞一：冠動脈疾患の診断(主題：冠動脈疾患の診断と治療の最前線)：血管内視鏡を中心に。第3回循環器シンポジウム in Chiba (千葉), 1996. 12.
  - 4) 荒井恒憲, 吉川美弥, 菊地 眞, 三宅隆之, 桜田真己, 水野杏一, 内海 厚, 竹内 清：レーザーホットバルーンカテーテル(主題：レーザー工学と医療の接点)：短時間加温が可能な新しい血管形成術用デバイス。第17回日本レーザー医学会大会(神戸), 1996. 11.
- (4) パネルディスカッション：
- 1) 水野杏一：心臓血管内視鏡(主題：プロに聴く：心疾患診断法の現状とその限界)。第32回臨床心臓病談話会(東京), 1996. 9.
  - 2) 大國眞一, 横山真也, 山本 剛, 上村竜太, 小林利行, 金子晴生, 北村克弘, 水野杏一, 笠神康平, 田中 隆, 田中啓治：新しいPTCAバルンによる内膜変化：血管内視鏡を用いた検討(主題：血管病変のEndovascular Interventionと画像診断)。第2回日本血管内治療学会(奈良), 1996. 7.
  - 3) 桜田真己, 菊池 正, 香川 昇, 三宅隆之, 水野杏一：DispatchTMカテーテルのLipo-PGE1の冠動脈内局所投与による再狭窄予防(主題：Experimental and Clinical Focuses on Restenosis)。第10回日本冠疾患学会(横浜), 1996. 12.
- (5) セミナー：
- 1) 桜田正己, 菊池 正, 香川 昇, 三宅隆之, 水野杏一：Dispatch Catheterを用いLipo PGE1冠動脈局所投与による再狭窄の予防。第28回六甲カルディアックセミナー(神戸), 1996. 8.
  - 2) 水野杏一：虚血性心疾患の新しい診断法：血管内視鏡。第11回循環器病セミナー(柏), 1996. 9.
  - 3) 須賀 優, 葉山修陽, 金子朋広, 水野杏一, 飯野靖彦, 赫 彰郎：血液透析患者における下腿糖尿病性壊疽, 閉塞性動脈硬化の症例について。第16回千葉県動脈硬化セミナー(幕張), 1997. 2.
  - 4) 水野杏一：Acute coronary syndromeの病因・病態とプロブコールによる予防の可能性について(主題：冠動脈疾患の予防と治療におけるプロブコールの役割)。平成8年度日本動脈硬化学会冬期大会(金沢), 1996. 11.
- (6) 一般講演：
- 1) Sano J, Saitoh T, Mabuchi K, Kasagami Y, Matsuda H, Hanashi A, Tada Y, Fukuma N, Kishida H : Active coronary vasoreactivity to autonomic stimulation by exogenous insulin load and intracoronary acetylcholine in patients with variant angina. 18th Congress of the European Society of Cardiology (London), 1996. 8.
  - 2) Enomoto T, Azuma A, Hashimono Y, Takahashi T, Murata A, Kudoh S : Involvement of Neutrophil Elastase in Acute Lung Injury. The 4th Congress of the Asian Pacific Society of Respiriology (Beijing), 1996. 10.
  - 3) Ito E, Jinno S, Nomura K, Yamada K, Kida K : Correlation Between Maximal Voluntary Ventilation (MVV) and 6 minutes Walking Distance (6MD) in Elderly Patients with COPD. AMERICAN LUNG ASSOCIATION/AMERICAN THORACIC SOCIETY INTERNATIONAL CONFERENCE (New Orleans), 1996. 5.
  - 4) Hino M, Kudoh S, Furuse K, Hasegawa K, Takada M, Ichinose Y, Sugiura T, Niitani H, S-1 co-operative study group : Early phase II study of new oral fluoropyrimidine, S-1, for non-small cell lung cancer (Austria), 1996. 11.

- 5) 水野杏一：冠動脈疾患の病態解析における冠動脈内視鏡の役割。第39回 CHC (Coronary Hart Club) 例会 (大阪), 1996. 7.
- 6) 北村克弘, 水野杏一：血管内視鏡により認められる黄色プラークと血清脂質値の関係。第39回 HCH (Coronary Hart Club) 例会 (大阪), 1996. 7.
- 7) 小林利行, 横山真也, 大國眞一, 水野杏一, 笠神康平, 田中 隆, 田中啓治, 早川弘一, 杉藪康憲, 里村公生, 悦田浩邦, 荒井恒憲, 菊地 真, 山縣俊彦, 溝口多聞, 竹内 清, 福井 勝, 内海 厚：回転性および斜視機能を持った新しい冠動脈血管内視鏡の開発。第10回心臓血管内視鏡レーザー形成術研究会 (大阪), 1996. 10.
- 8) 三宅隆之, 桜田真巳, 吉川美弥, 荒井康憲, 宮本 明, 水野杏一, 内海 厚, 竹内 清：Laser-heated Thermal Balloon Angioplasty (LTBA) の Drug Delivery Therapy への応用：in vitro の検討。第10回心臓血管内視鏡レーザー形成術研究会 (大阪), 1996. 10.
- 9) 大國眞一, 高野雅充, 富村正登, 金子晴生, 北村克弘, 水野杏一, 永井知雄, 里村公生, 荒川 宏, 渋谷利雄, 荒井恒憲：血管造影と血管内視鏡の比較。特に haziness について。第10回心臓血管内視鏡レーザー形成術研究会 (大阪), 1996. 10.
- 10) 水野杏一：冠動脈の新しい治療法。第12回循環器情報処理研究会 (東京), 1996. 10.
- 11) 佐野純子, 斉藤 勉, 葉梨亜矢, 多田祐美子, 福間長知, 岸田 浩：一過性心筋虚血発作における発作間隔の ST 下降への影響。第12回時間循環器研究会 (東京), 1996. 10.
- 12) 富村正登, 高野雅充, 金子晴生, 佐野純子, 星野公彦, 大國眞一, 水野杏一：冠動脈 Paradoxical Remodeling について (IVUS での検討)。第 4 回心臓血管内イメージング研究会 (大阪), 1996. 12.
- 13) 金子晴生, 水野杏一：正常心筋での NO の役割。第40回 CHC 例会 (東京), 1997. 2.
- 14) 高野雅充, 富村正登, 金子晴生, 佐野純子, 大國眞一, 水野杏一, 坪 宏一, 星野公彦, 田中 隆, 田中啓治：ステント後急性冠閉塞に IABP と urokinase が著効した 1 例。第80回日本シネアンジオ研究会 (東京), 1997. 2.
- 15) 葉山修陽, 須賀 優, 水野杏一, 飯野靖彦, 赫 彰郎, 竹内正至, 栗原 怜：糖尿病腎症を原因疾患とする維持血液透析患者における凝固, 線溶系について。第93回日本内科学会講演会 (横浜), 1996. 4.
- 16) 大國眞一, 横山真也, 山本 剛, 上村竜太, 小林利行, 水野杏一, 北村克弘, 荒川 宏, 里村公生, 渋谷利雄, 栗田 明, 中村治雄, 早川弘一：経皮的冠動脈形成術 (PTCA) 後の再狭窄のメカニズム—血管内視鏡による検討。第93回日本内科学会講演会 (横浜), 1996. 4.
- 17) 田中啓治, 高野雅充, 笠神康平, 田中 隆, 大國眞一, 水野杏一：急性心筋梗塞および不安定狭心症における脂肪負荷試験 (冠動脈造影所見との対比)。第93回日本内科学会講演会 (横浜), 1996. 4.
- 18) 杉浦敏昭, 琴寄 誠, 名知志子, 佐藤 順, 大國眞一, 渡 淳, 水野杏一, 山田久木, 中川義也, 岩切勝彦, 小林正文：非心臓性胸痛打患者の食道内圧検査所見。第93回日本内科学会講演会 (横浜), 1996. 4.
- 19) 笠神康平, 横山真也, 山本 剛, 上村竜太, 小林利行, 北村克弘, 大國眞一, 田中 隆, 田中啓治, 水野杏一：血管内超音波所見により高度屈曲病変に cutting balloon を安全に使用し得た 1 例。第 8 回日本心臓血管インターベンション学会関東甲信越地方会 (東京), 1996. 4.
- 20) 山根吉人, 横山真也, 小林利行, 金子晴生, 大國眞一, 水野杏一, 清宮康嗣, 笠神康平, 田中 隆, 田中啓治：右冠動脈近位部, 起始部に対する Wiktor ステントの使用経験。第160回循環器学会関東甲信越地方会 (東京), 1996. 6.
- 21) 清宮康嗣, 丸山光紀, 笠神康平, 田中 隆, 田中啓治, 小林利行, 金子晴生, 大國眞一, 水野杏一, 加藤貴雄, 早川弘一：PCPS 施行中の心原性ショックに伴う難治性心室性不整脈にカリウムチャンネル遮断薬 MS-551 が著効を示した 1 例。第160回循環器学会関東甲信越地方会 (東京), 1996. 6.
- 22) 杉本忠彦, 浅野哲雄, 山田研一, 大國眞一, 水野杏一, 原田 厚：虚血性心疾患に合併した心房細動に対する手術治療。第160回循環器学会関東甲信越地方会 (東京), 1996. 6.

- 23) 疋田浩之, 里村公生, 亀沢康裕, 磯田菊生, 浜部 晃, 草野浩幸, 西沢健也, 杉藪康憲, 福田正浩, 荒川 宏, 渋谷利雄, 栗田 明, 中村治雄, 水野杏一: Acute coronary syndrome における血栓形成におよぼす糖尿病の影響. 第5回日本心血管インターベンション学会 (広島), 1996. 7.
- 24) 杉藪康憲, 里村公生, 草野浩幸, 西沢健也, 浜部 晃, 亀沢康裕, 磯田菊生, 福田正浩, 疋田浩之, 荒川 宏, 渋谷利雄, 栗田 明, 中村治雄, 水野杏一: PTCA 後の冠動脈壁の変化. 第5回日本心血管インターベンション学会 (広島), 1996. 7.
- 25) 大國眞一, 横山真也, 北村克弘, 山本 剛, 松田裕之, 小林利行, 水野杏一, 丸山光紀, 笠神康平, 田中 隆, 田中啓治: 血管超音波で anti-Glagov remodeling を確認したが, Balloon size を血管造影の reference にあわせてため, PTCA 後合併症を生じた1例. 第5回日本心血管インターベンション学会 (広島), 1996. 7.
- 26) 田島なつき, 趙 圭一, 保坂純郎, 伊藤公一郎, 岡田 進, 加藤丈司, 浅野哲雄, 水野杏一, 田中啓治, 田島広之, 隈崎達夫: 深部静脈血栓症の MR Venography. 第24回日本磁気共鳴医学会大会 (大磯), 1996. 9.
- 27) 本田治久, 赫 彰郎, 於保倫之助, 水野杏一, 山田政枝: 高圧酸素療法で著明な改善を認めた非間歇型一酸化炭素中毒後遺症の1症例. 第64回日本医科大学医学会総会 (東京), 1996. 9.
- 28) 染谷紀子, 目黒真喜子, 柳下照子, 亀山雅哉, 野本剛史, 水野杏一: 当院における病原性大腸菌 O-157. 第64回日本医科大学医学会総会 (東京), 1996. 9.
- 29) 網谷賢一, 川口祥子, 坏 宏一, 笠神康平, 田中 隆, 田中啓治, 金子晴生, 大國眞一, 水野杏一, 田島なつき: MR Venography が骨盤内中心部静脈血栓の診断に有用であった肺梗塞の1例. 第161回日本循環器学会関東甲信越地方会 (東京), 1996. 9.
- 30) 長戸孝道, 北見聡章, 金子晴生, 内山史生, 高野雅充, 富村正登, 大國眞一, 水野杏一, 川口祥子, 網谷賢一, 坏 宏一, 田中 隆, 田中啓治: 多発性心室性期外収縮を呈した甲状腺中毒症で, Carvidiol が有効であった1例. 第161回日本循環器学会関東甲信越地方会 (東京), 1996. 9.
- 31) 笠神康平, 横山真也, 金子晴生, 小林利行, 大國眞一, 田中 隆, 田中啓治, 水野杏一: Cutting balloon の再狭窄減少の機序: Elastic recoil について. 第44回日本心臓病学会 (東京), 1996. 9.
- 32) 横山真也, 大國眞一, 小林利行, 金子晴生, 水野杏一, 緒方憲一, 早川弘一: 高脂血症剤投与による接着因子の動向. 第44回日本心臓病学会 (東京), 1996. 9.
- 33) 富村正登, 長戸孝道, 高野雅充, 金子晴生, 北村克弘, 大國眞一, 水野杏一, 坏 宏一, 田中 隆, 田中啓治: FH に血管内視鏡と血管内超音波を施行した1例. 第9回日本心血管インターベンション学会関東甲信越地方会 (東京), 1996. 10.
- 34) 吉川美弥, 荒井恒憲, 菊地 眞, 三宅隆之, 桜田真巳, 宮本 明, 水野杏一, 内海 厚, 竹内 清: ドラッグデリバリー治療へのレーザーホットバルーンの適用: in vitro の基礎検討. 第17回日本レーザー医学会大会 (神戸), 1996. 11.
- 35) 富村正登, 長門孝道, 高野雅充, 坏 宏一, 金子晴生, 北村克弘, 大國眞一, 水野杏一: 冠動脈 Paradoxical Remodeling について—IVUS での検討. 第10回日本冠疾患学会 (横浜), 1996. 12.
- 36) 高野雅充, 笠神康平, 長戸孝道, 富村正登, 金子晴生, 坏 宏一, 大國眞一, 水野杏一: Cutting balloon による semi early elastic recoil の成績. 第10回日本冠疾患学会 (横浜), 1996. 12.
- 37) 岡松健太郎, 稲見茂信, 高野雅充, 富村正登, 佐野純子, 大國眞一, 水野杏一, 中村俊彦, 坏 宏一, 星野公彦, 田中 隆, 田中啓治: スtent 後急性冠閉塞に IABP が有効であった2症例. 第162回日本循環器関東甲信越地方会 (大宮), 1996. 12.
- 38) 中村俊彦, 坏 宏一, 星野公彦, 田中 隆, 田中啓治, 金子晴生, 高野雅充, 富村正登, 佐野純子, 大國眞一, 水野杏一, 大秋美治: 全身の MRSA 感染症に伴い心内膜および心筋内に多発性小膿瘍を形成した難治性心不全の1例. 第162回日本循環器関東甲信越地方会 (大宮), 1996. 12.
- 39) 小俣雅稔, 日野光紀, 林原賢治, 古田知行, 榎本達治, 伊藤永喜, 田中恵美, 於保倫之助, 市堰 肇, 新井裕至,

- 水野杏一：RFP（リファンピシン）による薬剤性肝障害のため、治療に難渋した多発性脳内結核腫を伴う粟粒結核の1症例。日本医科大学医学会第92回例会（多摩），1997．2．
- 40) 東海林智子，網谷賢一，中村俊彦，坪 宏一，星野公彦，田中 隆，田中啓治，高野雅充，大國眞一，水野杏一：バイオ・インピーダンス・スペクトラム法による心不全患者の細胞内および細胞外水分量の測定。第163回日本循環器学会関東甲信越地方会（東京），1997．2．
- 41) 高野雅充，稲見茂信，富村正登，佐野純子，北村克弘，大國眞一，水野杏一，坪 宏一，星野公彦，田中啓治：PTCA 後長期間長い冠動脈解離が存在した1例。第163回日本循環器学会関東甲信越地方会（東京），1997．2．
- 42) 西川健一郎，里村公生，西沢健也，草野浩幸，浜部 晃，磯田菊生，亀沢康裕，高山英一，疋田浩之，悦田浩邦，荒川 宏，渋谷利雄，栗田 明，中村治雄，水野杏一：PTCA 後再狭窄に及ぼすアテローム性状の差異。第61回日本循環器学会（東京），1997．3．
- 43) 北村克弘，水野杏一，大國眞一，坪 宏一，高野雅充，金子晴生，荒川 宏，里村公生，栗田 明，中村治雄：急性冠動脈疾患において血管内視鏡にて認められる冠動脈内血栓と粥腫の関連。第61回日本循環器学会（東京），1997．3．
- 44) 大國眞一，水野杏一，高野雅充，横山真也，富村正登，小林利行，金子晴生，坪 宏一，星野公彦，田中 隆，田中啓治，山岸 正，悦田浩邦，里村公生，荒川 宏，渋谷利雄：冠攣縮性狭心症ではどうして急性心筋梗塞発症が少ないのか？：冠動脈内視鏡による検討。第61回日本循環器学会（東京），1997．3．
- 45) 水野杏一，小林利行，大國眞一，高野雅充，荒井恒憲，吉川美弥，悦田浩邦，里村公生，山懸俊彦，溝口多聞，福井 勝，内海 厚：トルクコントロールと斜視機能を持った新しい冠動脈血管内視鏡の開発。第61回日本循環器学会（東京），1997．3．
- 46) 横山真也，富村正登，小林利行，金子晴生，大國眞一，水野杏一：高脂血症剤投与による心事故減少の機序：細胞接着因子による検討。第61回日本循環器学会（東京），1997．3．
- 47) 磯田菊生，里村公生，亀沢康裕，疋田浩之，草野浩幸，西沢健也，浜部 晃，渋谷利雄，荒川 宏，中村治雄，栗田 明，水野杏一：血管内視鏡における黄色粥腫と白色粥腫の病理学的比較。第61回日本循環器学会（東京），1997．3．
- 48) 秋間 崇，里村公生，西川健一郎，浜部 晃，西沢健也，草野浩幸，亀沢康裕，磯田菊生，高山英一，疋田浩之，荒川 宏，渋谷利雄，中村治雄，栗田 明，水野杏一：軽～中等度冠動脈病変における黄色プラーク n 背景因子について。第61回日本循環器学会（東京），1997．3．
- 49) 水野杏一，高山守正，桜田真己，勝木孝明，永井知雄，李 武志，宮本 明，里村公生，大國眞一，草間芳樹，田中邦夫：Cutting Balloon の多施設共同試験：Multi Institutional Cutting Balloon Angioplasty (MICBA Study) の初期成績。第61回日本循環器学会（東京），1997．3．
- 50) 高野雅充，笠神康平，富村正登，金子晴生，大國眞一，水野杏一：Cutting balloon による semi early elastic recoil の成績。第61回日本循環器学会（東京），1997．3．
- 51) 富村正登，高野雅充，坪 宏一，金子晴生，北村克弘，大國眞一，水野杏一：冠動脈 Paradoxical Remodeling について：IVUS での検討。第61回日本循環器学会（東京），1997．3．
- 52) 西川健一郎，里村公生，疋田浩之，荒川 宏，渋谷利雄，栗田 明，中村治雄，水野杏一：急性心筋梗塞の急性期治療と冠動脈残存血栓の頻度について：血管内視鏡による検討。第61回日本循環器学会（東京），1997．3．
- 53) 葉山修陽，須賀 優，水野杏一：血液透析期間と血小板活性化，血管内皮細胞障害マーカーとの関連について。第39回日本腎臓学会学術総会，1996．5．
- 54) 須賀 優，葉山修陽：左冠動脈主幹部狭窄および左内頸動脈閉塞を合併した慢性腎不全に1例。第41回日本透析医学会総会，1996．7．
- 55) 葉山修陽，須賀 優：長期間の無尿期を経て血液透析を離脱し得た Thrombotic Microangiopathy の1症例。第26回日本腎臓学会東部学術大会，1996．11．

- 56) 須賀 優, 葉山修陽: 間質病変を伴った FSGS の1症例. 第26回日本腎臓学会東部学術大会, 1996. 11.
- 57) 葉山修陽, 須賀 優, 水野 杏一: 血液浄化期間と血小板, 血管内皮細胞マーカーとの関連について. 第94回日本内科学会講演会, 1997. 4.
- 58) 榎本達治, 川並汪一<sup>1)</sup>, 金子泰之, 佐藤雅史<sup>2)</sup>, 吾妻安良太, 工藤翔二 (<sup>1)</sup>第二病院病理部, <sup>2)</sup>同放射線科): 気管支肺胞洗浄法による肺ランゲルハンス細胞性肉芽腫症の診断. 第36回日本胸部疾患学会総会, 1996. 4.
- 59) 榎本達治, 吾妻安良太, 村田 朗, 谷口泰之, 中広一善, 橋元泰士, 金子泰之, 阿部信二, 工藤翔二, 判治直人<sup>1)</sup>, 吉野慎一<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>第一病院リウマチ科): 慢性関節リウマチにおける肺病変の解析. 第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 9.
- 60) 伊藤永喜, 山田花世, 山田浩一, 野村弘一郎, 神野 悟, 木田厚瑞: 老年者の慢性閉塞性肺疾患における6分間歩行と最大換気量に関する研究. 第36回日本胸部疾患学会総会, 1996. 4.
- 61) 伊藤永喜, 山田花世, 山田浩一, 野村弘一郎, 神野 悟, 木田厚瑞: 慢性閉塞性肺疾患 (COPD) における睡眠時呼吸障害の検討. 第36回日本胸部疾患学会総会, 1996. 4.
- 62) 伊藤永喜, 山田花世, 山田浩一, 野村弘一郎, 神野 悟, 木田厚瑞: FISCHER344ラットを用いた胸膜炎モデルの検討. 第36回日本胸部疾患学会総会, 1996. 4.
- 63) 日野光紀, 榎本達治, 高橋卓夫, 渋谷昌彦, 工藤翔二, 山田 隆, 五味聖二, 長谷川節雄, 檀 和夫, 持丸 博, 福田 悠, 金子泰之, 川並王一: リンパ球系血液疾患に併発したびまん性肺病変の検討. 第36回日本胸部疾患学会総会, 1996. 4.
- 64) 橋元恭士, 日野光紀, 林原賢治, 古田知行, 伊藤永喜, 小俣雅稔, 稲見茂信, 奈良道哉, 水野杏一, 五味潤誠, 大秋美治: 胸膜直下の小結節影を経過観察中, 3ヵ月後に胸膜播種性転移で発症した肺小細胞癌の1例. 第二回東葛肺癌研究会, 1996.
- 65) 小俣雅念, 日野光紀, 林原賢治, 古田知行, 榎本達治, 橋元喬士, 伊藤永喜, 田中恵美, 奈良道哉, 於保倫之助, 市堰 肇, 新井裕至, 水野杏一: 治療に難渋した多発性脳結核腫をともなう粟粒結核の1例. 日本医科大学医学会第91回例会, 1996. 3.
- 66) 安藤 哲, 清水秀樹, 三枝順子, 小黒辰夫, 森 修, 大秋美治, 日野光紀, 横田裕行, 川並王一, 浅野伍朗: 呼吸器感染症における気管支肺胞洗浄液 (BAL) の有用性と検体処理時の注意点について. 日本医科大学医学会第91回例会, 1996. 11.
- 67) 大國眞一, 高野雅充, 富村正登, 佐野純子, 水野杏一: 当院における回転立体 DSA について. 第10回循環器合同カンファランス (成田), 1996. 11.
- 68) 木全心一, Chatterjee K, 高野照夫, 片桐 敬, 上松瀬勝男, 嶽山陽一, 堀 正二, 水野杏一, 三田村秀雄, 本宮武司, 山口 徹: 急性心不全離脱時の患者管理: 強心薬の適応および離脱方法の留意点「急性心不全離脱時の患者管理: 強心薬の適応および離脱方法の留意点」. Round-Table Discussion 1996. 10.

## 2. 内科学第二講座

### [第一病院内科・付属病院第2内科]

#### 研究概要

内科学第二講座は神経内科学を主たる診療科目としており、主要研究テーマは脳血管障害の病態解明および治療である。研究にあたっては動物実験に基づく基礎的なアプローチと、実際の診断・治療に基づく臨床的なアプローチの両面から取り組んでいる。

実験的研究：脳虚血急性期の病態および治療の研究では各種の脳虚血モデルを作成してオートラジオグラフィ法やマイクロアッセイ法およびMRI (MRS) を用いて局所の脳循環代謝を測定して行っている。また、免疫組織化学や *in situ* hybridization 法を用いてストレス蛋白や遺伝子の発現についても研究を進めている。遅発性神経細胞死、虚血耐性現象や慢性脳循環不全の病態も重要な研究課題の一つである。その他、興奮性アミノ酸拮抗薬、Ca<sup>2+</sup>拮抗薬等の各種の治療薬剤の効果についても検討を行っている。

臨床的研究：痴呆性疾患に対し、PET・MRI・SPECT等の画像診断機器を利用した研究が行われ、また脳卒中急性期の症例に対する新しい治療法の試みがなされている。さらに脊髄小脳変性症等の変性疾患における歩行時の脳循環代謝の変動についての検討も行われている。また、厚生省の無症候性脳梗塞ならびに長寿科学総合研究班の一員として無症候性脳梗塞の臨床的意義と老年期痴呆性疾患の病態生理・生化学的研究を行っている。

その他、脳血管障害の重要な基礎疾患である高血圧症、高脂血症に対する研究が疫学的ならびに動物実験による細胞・組織学的な面より行われている。疫学的研究は多年にわたる八丈島の町民検診に基づくものであり、その疫学調査は多方面から評価されている。

また、当教室では第一病院人工透析室を核として腎臓グループがあり、従来から行われてきた透析を中心とした研究に加え、糸球体腎炎に対するサイトカインの役割についても研究を進めており、さらに厚生省の腎傷害研究班の一員として多嚢胞腎の調査研究も行っている。また、平成元年度より開始された腎移植は現在症例数も増加し、その内容も充実しつつある。

平成6年2月より附属病院に神経内科、腎臓内科が第二内科として開設され、17名の医局員が臨床、研究活動を第一病院と連携して行っている。

以上、当教室には四つの研究グループがあり、国内外の関係学会において幅広く活発な活動を行い、多くの論文を発表している。

#### 研究業績

##### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Ohyama M, Senda M<sup>1)</sup>, Kitamura S, Ishii K<sup>1)</sup>, Mishina M, Terashi A (<sup>1)</sup>Positron Medical Center, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology) : Role of the nondominant hemisphere and undamaged area during word repetition in poststroke aphasic: A PET activation study. *Stroke* 1996 ; 27 : 897-903.
- 2) Katayama Y, Muramatsu H, Kamiya T, McKee A, Terashi A : Ischemic tolerance phenomenon from an approach of energy metabolism and the mitochondrial enzyme activity of pyruvate dehydrogenase in gerbils. *Brain Research* 1997 ; 746 : 126-132.
- 3) Ohmura N, Fukuo Y, Akimoto T<sup>1)</sup>, Watanabe H<sup>2)</sup>, Terashi A (<sup>1)</sup>Division of Laboratory Animal Science, <sup>2)</sup>Dept. of Immunology, Niigata University School of Medicine) : Accelerated expansion of extrathymic T cell in the liver and other atherosclerotic lesions in mice fed with atherogenic diets. *Biomedical Research*



1996 ; 17 : 265-270.

- 4) Yamazaki M, Nakano I<sup>1)</sup>, Imazu O, Kaieda R, Terashi, A. (<sup>1)</sup>Department of Neuropathology, Tokyo Metropolitan Institute for Neuroscience) : Astrocytic straight tubules in the brain of a patient with Pick's disease. *Acta. Neuropathol* 1994 ; 88 : 587-591.
- 5) Komaba Y, Kitamura S, Terashi A, Tamotsu M, Nakatani Y<sup>1)</sup>, Hara A<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>The Department of Ophthalmology) : Human T-cell lymphotropic virus type-I associated myelopathy complicated by optic neuritis. *J Nippon Med Sch* 1996 ; 63 : 414-418.
- 6) Fukuo Y, Kitami T, Nomoto T, Terashi A : A lipid lowering drug (Bezafibrate) has a favorable effect on liver enzymes (Al-P and  $\gamma$ -GTP). *J Nippon Med Sch* 1996 ; 63 : 110-116.
- 7) 上田雅之, 浜本 真, 長尾毅彦, 宮崎徳蔵, 赫 彰郎 : 高齢脳梗塞患者における<sup>99m</sup>Tc-HMPAO SPECT を用いた超急性期病型別診断—超急性期治療選択の観点から—. *脳卒中* 1996 ; 18 : 93-97.
- 8) 上田雅之, 浜本 真, 長尾毅彦, 宮崎徳蔵, 赫 彰郎 : 高齢脳血栓症急性期に対するオザグレール, ヘパリン併用療法の検討. *脳卒中* 1996 ; 18 : 118-123.
- 9) 片山泰朗, 神谷達司, 村松浩美, 臼田和弘, 於保倫之助, 赫 彰郎 : Eicosapentaenoic acid (EPA) の脳血管障害の予防および治療に関する研究—第1報, SHRSP を用いた EPA の脳血流代謝に及ぼす影響—. *Progress in Medicine* 1996 ; 16 : 1055-1061.
- 10) 神谷達司, 片山泰朗, 赫 彰郎, TS Nowak Jr.<sup>1)</sup>, WA Pulsinelli<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Dept. of Neurology, Univ. of Tennessee, Memphis) : ラット局所脳虚血モデルにおける MK-801 の脳血流に対する影響. *Brain Hypoxia* 1996 ; 10 : 69-76.
- 11) 臼田和弘, 稲村憲治, 片山泰朗, 赫 彰郎 : 脳虚血後の超急性期における神経細胞傷害—高血糖モデル・正常血糖モデルでの検討—. *日医大誌* 1996 ; 63 : 460-472.
- 12) 浜本 真<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>東京都多摩老人医療センター神経内科) : Hemodynamic ischemia—特に watershed infarction を中心に—. *Medical Practice* 1996 ; 13 : 555-560.
- 13) 赫 彰郎, 吉田洋二<sup>1)</sup>, 大友英一<sup>2)</sup>, 平山俊策<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>山梨医科大学第一病理, <sup>2)</sup>浴風会病院, <sup>3)</sup>群馬大学神経内科) : 脳の動脈硬化から脳血管性痴呆へ. *現代医療* 1996 ; 28 : 1249-1270.
- 14) 越 泰彦, 北村 伸, 小宮山佐, 酒寄 修, 駒場祐一, 大山雅史, 津金沢俊和, 三品雅洋, 石渡明子, 増谷祐之, 中沢 勝, 赫 彰郎 : IMP-SPECT によるアルツハイマー型痴呆患者の局所脳血流量についての定量的検討—IMP ARG 法の臨床応用—. *核医学* 1996 ; 33 : 991-998.
- 15) 河辺満彦, 柏木哲也, 金子朋広, 小原功裕, 布施 環, 橋本和政, 青木 宏, 清水光義, 葉山修陽, 飯野靖彦, 赫 彰郎 : 至適腹膜透析指標としての%lean body mass の経時的変化の検討. *腹膜透析* 1996 ; 96 : 90-93.
- 16) 上田雅之, 神谷達司, 大山雅史, 片山泰朗, 赫 彰郎 : 家族性裂脳症の2同胞例—自験例と文献例における臨床的特徴と神経放射線学的所見—. *臨床神経学* 1996 ; 36 : 774-779.
- 17) 上田雅之, 浜本 真<sup>1)</sup>, 大坪孝一, 宮崎徳蔵<sup>1)</sup>, 赫 彰郎(<sup>1)</sup>東京都多摩老人医療センター神経内科) : 中枢内モノアミン不均衡を示し悪性症候群様状態を繰り返した Shy-Drager 症候群の1例. *臨床神経学* 1996 ; 36 : 696-698.
- 18) 越 泰彦, 北村 伸, 永積 惇, 津金沢俊和, 赫 彰郎 : 無症候性脳梗塞における局所脳血流量と脳室周囲高信号域—MID との比較—. *臨床神経学* 1996 ; 36 : 746-751.
- 19) 酒寄 修, 北村 伸, 赫 彰郎 : 老年期痴呆と白質病変—脳循環代謝面からみた多発梗塞性痴呆とアルツハイマー型老年期痴呆における脳室周囲高信号域の臨床的意義について—. *老年期痴呆研究会誌* 1996 ; 9 : 9-14.
- 20) 須賀 優, 栗原 怜<sup>1)</sup>, 飯野靖彦, 赫 彰郎 (<sup>1)</sup>春日部秀和病院) : ヒト・リコンビナントエリスロポエチン血行動態および血管作動性物質に及ぼす作用. *日腎誌* 1996 ; 38 : 634-639.
- 21) 福島 優, 小林陽二, 福生吉裕, 赫 彰郎 : 急性期脳卒中患者における血清 Lp(a) の変動と apo(a) phenotype についての研究. *日老医誌* 1996 ; 33 : 852-861.

- 22) 勝又俊弥, 片山泰朗, 於保倫之助, 村松浩美, 大鳥達雄, 赫 彰郎: Eicosapentaenoic acid (EPA) の脳血管障害の予防および治療に関する研究—第2報: ラット中大脳動脈閉塞モデルを使用した EPA の虚血後投与効果についての検討—. *Progress in Medicine* 1996; 16: 1411-1416.
- 23) 山崎峰雄: Wernicke-Korsakoff 症候群. *神経内科* 1996; 45: 288-295.
- 24) 福生吉裕: 単球・マクロファージの分化抑制の試みからの動脈硬化進展抑制のアプローチ. *Progress in Medicine* 1996; 16: 1219-1225.
- 25) 福生吉裕, 柳 富子, 松崎 中, 他: Pravastatin 治療3年間を目標とした長期使用成績調査の結果について. *動脈硬化* 1996; 24: 61-73.
- 26) 福生吉裕: Interleukin 15, IL-15, Information Up to date サイトカインの分子生物学. *動脈硬化* 1996; 17: 163-167.
- 27) 福生吉裕: Interleukin 15, IL-15, Information Up to date サイトカインの分子生物学. *動脈硬化* 1996; 17: 155-161.
- 28) 都島基夫, 赫 彰郎, 福生吉裕, 他: 精製大豆レシチンの高脂血症に対する有用性評価:  $\gamma$ -オリザノールを対照とした二重盲検比較試験. *Geriatric Medicine* 1996; 34: 381-414.
- 29) 長尾毅彦: 急性期脳血管障害の治療の実際—最近の進歩—. *Medical Practice* 1996; 3: 583-588.
- 30) 福生吉裕, 北見聡章, 野本達也, 赫 彰郎: 高脂血症剤 Bezafibrate の肝胆道系酵素に及ぼす効果について. *臨床成人病* 1996; 7: 11-17.
- 31) 石島路子, 今津 修, 北村 伸, 赫 彰郎: アルツハイマー型痴呆患者にみられる脳室周囲白質病変についての臨床的および病理学的検討. *日老医誌* 1996; 33: 744-753.
- 32) 赫 彰郎, 大友英一<sup>1)</sup>, 浅井昌弘<sup>2)</sup>, 荒木五郎<sup>3)</sup>, 他<sup>(<sup>1)</sup>浴風会病院, <sup>2)</sup>慶應義塾大学精神科, <sup>3)</sup>東海大学内科): 脳血管性痴呆に対する Nimodipine の効果. *Clinical Pharmacotherapy* 1997; 3: 60-89.</sup>
- 33) 越 泰彦, 北村 伸, 小宮山佐, 駒場祐一, 赫 彰郎: Single photon emission tomography によるアルツハイマー型痴呆の局所脳血流量についての定量的検討. *老人病研究所紀要* 1997; 6: 7-11.
- 34) 山崎峰雄, 中野今治<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>自治医科大学神経内科): 神経細胞のアポトーシス. *現代医療* 1997; 29: 93-98.
- 35) 上田雅之, 神谷達司, 坂本静樹, 片山泰朗, 赫 彰郎: 脳奇形における局所脳血流分布異常—SPECT を用いた検討—. *臨床神経学* 1996; 37: 99-105.
- 36) 上田雅之, 浜本 真<sup>1)</sup>, 大坪孝一<sup>1)</sup>, 長尾毅彦<sup>1)</sup>, 宮崎徳蔵<sup>1)</sup>, 赫 彰郎(<sup>1)</sup>東京都多摩老人医療センター神経内科): 高齢パーキンソン病患者における胃酸分泌能と L-DOPA 呼吸. *神経治療* 1997; 14: 155-160.
- (2) 総説:
- 1) 片山泰朗: 脳血管性痴呆, Alzheimer 病. *臨床医* 1996; 22: 1584-1585.
- 2) 福内靖男<sup>1)</sup>, 山口修平<sup>2)</sup>, 北村 伸, 高木 誠<sup>3)</sup> (<sup>1)</sup>慶應義塾大学神経内科, <sup>2)</sup>島根医科大学第三内科, <sup>3)</sup>東京都済生会中央病院内科): 脳卒中患者における脳循環代謝の把握と対応. *脳と循環* 1996; 1: 111-122.
- 3) 松本昌泰<sup>1)</sup>, 片山泰朗, 田中耕太郎<sup>2)</sup>, 木内博之<sup>3)</sup> (<sup>1)</sup>大阪大学第一内科, <sup>2)</sup>慶應義塾大学神経内科, <sup>3)</sup>東北大学脳神経外科・広南病院脳神経外科): 脳虚血基礎病態究明の意義. *臨床医* 1997; 23, 118-131.
- 4) 赫 彰郎, 山室 学: サアミオン/ケタス/セロクラール. *medicina* 1996; 33: 190-194.
- 5) 北村 伸: 脳画像診断検査. *Medical Technology* 1996; 24: 560-566.
- 6) 北村 伸: 画像診断. *現代医療* 1996; 11: 57-62.
- 7) 駒場祐一, 北村 伸, 赫 彰郎: Functional MRI と functional anatomy. *Clinical Neuroscience* 1996; 14: 87-88.
- 8) 三品雅洋, 北村 伸, 赫 彰郎: 4. 脳血管性痴呆の早期診断—neuroimaging から—. *クリニカ* 1996; 23: 48-53.
- 9) 片山泰朗, 神谷達司, 赫 彰郎: 脳保護の作用機序と効果—虚血耐性現象—. *脳と循環* 1996; 1: 33-39.

- 10) 赫 彰郎, 越 泰彦, 北村 伸: Silent lacuna は silent か?. 総合臨床 1996; 45: 884-887.
  - 11) 越 泰彦, 赫 彰郎: 脳血管障害. Geriatric Medicine 1996; 34: 433-438.
  - 12) 酒寄 修, 北村 伸, 赫 彰郎: 内分泌疾患と脳卒中. 循環科学 1996; 16: 458-460.
  - 13) 赫 彰郎, 山崎峰雄: 脳血管性痴呆. Clinical Neuroscience 1996; 14: 524-526.
  - 14) 赫 彰郎, 石渡明子: 脳梗塞. Clinical Neuroscience 1996; 14: 93-95.
  - 15) 山崎峰雄, 赫 彰郎: 血栓症・梗塞の診断. 周産期医学 1996; 26: 1507-1511.
  - 16) 赫 彰郎, 神田 直<sup>1)</sup>, 北村 伸<sup>1)</sup>(北里大学内科): 臨床病型別にみた脳梗塞の治療. ドクターサロン 1996; 40: 353-368.
  - 17) 永積 惇, 高橋真理子, 赫 彰郎: 脳卒中の予知はどこまで可能か. Modern Physician 1996; 16: 957-961.
  - 18) 永島幹夫, 福生吉裕: 動脈硬化におけるカテコラミンの役割. Progress in Medicine 1996; 16: 1249-1253.
  - 19) 福生吉裕: 第6回健康な体は健康な血液から. ストレスと胃の病気&and 誌 1996; 72: 16.
  - 20) 手塚博幸, 赫 彰郎: Chronic paroxysmal hemiparesis. 臨床医 1996; 22: 98.
  - 21) 赫 彰郎, 神谷達司: 脳梗塞急性期における IL-6 と IL-1 receptor antagonist 値の変動. Brain&Nerve 1996; 8: 5.
  - 22) 福生吉裕: 動脈硬化の進展抑制とは. Progress in Medicine 1996; 16.
  - 23) 福生吉裕: 未病とレシチン. Lavie 1996; 15: 3-22.
  - 24) 永積 惇: 無症候性脳梗塞—診断と基礎疾患・治療—. 日本医事新報 1996; 3784: 1-14.
  - 25) 五十嵐博中, 片山泰朗, 赫 彰郎: 合併症を伴う高血圧の治療のすすめかたと実際: 脳血管障害. Medical Practice 1997; 14: 119-122.
  - 26) 赫 彰郎, 上田雅之: 脳卒中急性期. 総合臨床 1997; 46: 85-91.
  - 27) 中沢 勝, 北村 伸, 赫 彰郎: 脳血管障害の病型分類と画像診断—X 線 CT から PET まで—. 循環器 1997; 41: 8-15.
  - 28) 福生吉裕, 藤巻正樹<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>藤巻クリニック): 高脂血症編. 医療経営情報 1997; 94: 44-47.
  - 29) 福生吉裕: 八丈島の疫学調査から (第4報). EPA 誌 1997; 12: 12-13.
  - 30) 福生吉裕: 未病思想を日本の医療対策に如何に活用していくか. 薬食同源誌 1997; 11: 24-25.
- (3) 研究報告書:
- 1) 片山泰朗: 脳エネルギー代謝からみた脳虚血耐性現象, 平成6—7年度科学研究費補助金 (一般研究 B) 研究成果報告書, 1996.
  - 2) 赫 彰郎: 無症候性脳血管障害の臨床的検討: リスクファクターと脳血流量について—. 平成7年度厚生省循環器病研究委託費研究報告集, 1996: p305.

## 著 書

- 1) 赫 彰郎: [分担] 頭蓋内圧異常の診かた, 臨床神経内科学, (平山恵造 編集), 1996; pp59-62.
- 2) 赫 彰郎: [分担] 危険因子と再発予防, 最新内科学大系, 神経・筋疾患, 脳血管障害, (井村裕夫, 尾形悦郎, 高久史麿, 垂井清一郎, 編集), 1996; pp315-324, 中山書店.
- 3) 片山泰朗, 赫 彰郎: [共著] 脳梗塞の分類と治療. 1996; Van Medical, 1996.
- 4) 北村 伸: [分担] 脳卒中の診断—CT・MRI/MRA—, カレント内科 No. 8脳血管障害, (中村重信編集), 1996; pp157-168, 金原出版.
- 5) 福生吉裕, 本田治久: [分担] 疾患別の臨床栄養 II, 脳神経疾患“脳血管障害”, ビジュアル臨床栄養 II, 第6巻, (岡田 正, 小越章平, 細谷憲政, 武藤泰敏, 監修), 1996; pp124-127, 小学館.
- 6) 越 泰彦, 北村 伸, 赫 彰郎: [分担] 脳血管障害患者の治療とケア: 脳血管障害の画像診断: 5. SPECT, PET, メディカルライブラリー 3 (金谷春之編集), 1997; pp132-138, メディカ出版.

## 学会発表

### (1) 特別講演：

- 1) 赫 彰郎：脳血管性痴呆の診断と治療。サープル学術講演会，1996。
- 2) 赫 彰郎：脳血管性痴呆の病態と治療。ドラガノン学術講演会，1996。
- 3) 赫 彰郎：脳血管性痴呆の病態と治療の試み。第1回世田谷地区脳卒中懇話会，1996。
- 4) 赫 彰郎：脳血管性痴呆をめぐって。スロノン記念講演会，1996。
- 5) 赫 彰郎：脳血管性痴呆の病態。サープル学術講演会，1996。
- 6) 赫 彰郎：痴呆性疾患の PET と SPECT。第5回北海道脳 SPECT 研究会，1996。
- 7) 福生吉裕：未病とはなにか。第55回伝統医学臨床評価研究会，1996。
- 8) 本田治久：粥状硬化形成における胸腺の役割。第11回 Lipid Artery 研究会，1997。

### (2) 記念講演：

- 1) 赫 彰郎：画像医学における脳血流測定の意義－痴呆－。IMP 記念講演会，1996。

### (3) 教育講演：

- 1) 北村 伸：神経疾患と脳循環代謝。日本神経学会関東地方会教育講演，1996。
- 2) 福生吉裕：第二世代を迎えた高脂血症剤の問題点とポイント。千葉県八千代市医師会学術講演会，1996。
- 3) 福生吉裕：もう一つの動脈硬化発症機序。胸腺の役割について。第5回 J-LIT 研究会，1997。

### (4) シンポジウム：

- 1) Fukuo Y: Atherosclerosis and Thymus function. 30th Anniversary symposium between Chiang Mai University and Nippon Medical School (Chiang Mai), 1996. 8.
- 2) Nagashima M, Fukuo Y, Matsui M<sup>1)</sup>, Terashi A (<sup>1</sup>理化学研究所分子機構): Structure and function of the macrophage scavenger receptor and related genes. 30th Anniversary symposium between Chiang Mai University and Nippon Medical School (Chiang Mai), 1996. 8.
- 3) 上田雅之, 神谷達司, 片山泰朗, 森 隆<sup>1)</sup>, 赫 彰郎 (<sup>1</sup>老人病研究所病理部門): ラット脳性脳循環不全モデル白質病変におけるグリア細胞の DNA 断片化。第8回日本脳循環代謝学会総会，1996. 11.
- 4) 飯野靖彦：“Na, 水分の異常”について。第39回日本腎臓学会総会，1996. 5.
- 5) 福生吉裕：日本の未病研究。第3回中西結合動脈硬化国際シンポジウム（中国），1996. 9.
- 6) 福生吉裕：レシチンとシンドローム X について。第一回日中レシチン研究会（中国），1996. 6.
- 7) 福生吉裕：未病について。第3回東京未病研究会（東京），1996. 11.

### (5) 海外留学者講演：

- 1) 萩原万里子, Julio H Garcia<sup>1)</sup> (<sup>1</sup>Department of Neuropathology, Henry Ford Hospital, USA): 中大脳動脈永久閉塞局所脳虚血モデルにおける神経病理像と臨床像について。第64回日本医科大学医学会総会，1996. 9.

### (6) 一般講演：

- 1) Katayama Y, Katsumata T, Muramatsu H, Usuda K, Terashi A: Effect of long term administration of EPA on Local Cerebral Blood Flow and Glucose Utilization in Stroke-Prone SHR. 3rd World Stroke Congress and 5th European Stroke Conference (Munich), 1996.
- 2) Kamiya T, Jacewicz M<sup>1)</sup>, Pulsinelli WA<sup>1)</sup>, Nowak TS Jr<sup>1)</sup> (<sup>1</sup>Dept. of Neurology, Univ. of Tennessee, Memphis): Effect of MK-801 on CBF threshold for mRNA and protein synthesis after focal ischemia in spontaneously hypertensive rats. 3rd World Stroke Congress and 5th European Stroke Conference (Munich), 1996.
- 3) Katsumata T, Yonemori F<sup>1)</sup>, Katayama Y, Ootori T, Muramatsu H, Yamada H<sup>1)</sup>, Terashi A (<sup>1</sup>Central Pharmaceutical Research Institute, Japan Tobacco Inc., Osaka, Japan): Effect of JTP-2942, a Novel TRH

- Analogue, on Cerebral Blood Flow and Glucose Utilization in Rats with Focal Cerebral Ischemia. 3rd World Stroke Congress and 5th European Stroke Conference (Munich), 1996.
- 4) Katsumata T, Yonemori F<sup>1)</sup>, Katayama Y, Yamada H<sup>1)</sup>, Ootori T, Muramatsu H, Terashi A (<sup>1)</sup>Central Pharmaceutic Research Institute, Japan Tobacco Inc., Osaka, Japan) : Lasting Effects of Repeated Administration of JTP-2942, a Novel TRH Analogue, on Cerebral Blood Flow and Glucose Utilization in Rats with Focal Cerebral Ischemia. 3rd World Stroke Congress and 5th European Stroke Conference (Munich), 1996.
  - 5) Muramatsu H<sup>1)</sup>, Katayama Y, Kamiya T, Mckee A<sup>1)</sup>, Terashi A (<sup>1)</sup>Central Institute of First Hospital, Nippon Medical School, Tokyo Japan) : Effect of Lubeluzole, a novel neuroprotective agent, on Metabolism and PDH activity in Ischemia. 3rd World Stroke Congress and 5th European Stroke Conference (Munich), 1996.
  - 6) Ootori T, Katsumata T, Kashiwagi F, Katayama Y, Terashi A : Measurement of regional cerebral blood flow and glucose utilization in rat brain under chronic hypoperfusion conditions following bilateral carotid artery occlusion. —analyzer by autoradiographical methods—. 3rd World Stroke Congress and 5th European Stroke Conference (Munich), 1996.
  - 7) Fukuchi T, Katayama Y, Ann Mckee, Terashi A : Effect of nicardipine on cerebral PDH activity and metabolism in ischemia. 3rd World Stroke Congress and 5th European Stroke Conference (Munich), 1996.
  - 8) Fukuchi T, Katayama Y, Ann Mckee, Terashi A : Effect of MK-801 on cerebral PDH activity and metabolism in ischemia. 3rd World Stroke Congress and 5th European Stroke Conference (Munich), 1996.
  - 9) Mishina M, Senda K, Ishii M, Ohyama M, Kitamura S, Terashi A : The activation induced by walking is decreased in pyramis of vermis in olivopontocerebellar atrophy. The 6th Asia & Oceania Congress of Nuclear Medicine And Biology In Conjunction with The 36th Annual Meeting Of The Japanese Society of Nuclear Medicine (Kyoto), 1996.
  - 10) Ohyama M, Senda K, Ishiwata K, Toyama K, Oda K, Mishina M, Kitamura S, Terashi A : Distribution of benzodiazepine receptor in Alzheimer type dementia using C-11 flumazenil and I-123 Iomazenil. The 6th Asia & Oceania Congress of Nuclear Medicine and Biology in Conjunction with The 36th Annual Meeting of The Japanese Society of Nuclear Medicine (Kyoto), 1996.
  - 11) Mishina M, Senda M, Ishii K, Ohyama M, Kitamura S, Terashi A : Abnormal regional cerebellar activation during bipedal walking in olivopontocerebellar artophy. Society for Neuroscience, 26th Annual Meeting (Washington D.C.), 1996.
  - 12) Fukuo Y, Nomoto T, Kitami T, Mori T, Terashi A : Bezafibrate lowers blood al-p and  $\gamma$ -GTP levels independtrly of its favolable effects on lipid metabolism. 66th Congress of the European Atherosclerosis Society (Italy), 1996.
  - 13) Nagashima M, Fukuo Y, Terashi A, Emi M<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>老人病研究所分子生物学) : Effect of epinephrine on serection of lipoprotein lipase in mouse macrophage cell lines. 66th Congress of the European Atherosclerosis Society (Italy), 1996.
  - 14) Koshi Y, Kitamura S, Komiyama T, Sakayori O, Tsuganesawa T, Terashi A : Benzodiazepine receptor imaging in aphasic patients with cerebral infarction using I-123-Iomazenil spect. International Symposium on Brain Mapping Oiso '96. (Oiso), 1996.
  - 15) Hisakane M, Katayama Y, Igarashi H, Terashi A : The usefulness of MRI with superparamagnetic iron oxide particles in superacute stage cerebral ischemia in rats. International Symposium on Brain Mapping spect. Oiso '96. (Oiso), 1996.

- 16) Tsuganesawa T, Igarashi H, Kitamura S, Katayama Y, Terashi A : Brain water diffusion coefficients and diffusion anisotropy in patients with leuko-araiosis. International Symposium on Brain Mapping spect. OISO '96 (Oiso), 1996.
- 17) Igarashi H, Tsuganesawa T, Yamamuro M, Katayama Y, Terashi A : Three dimensional anisotropy contrast magnetic resonance imaging of the human phramidal tract. International Symposium on Brain Mapping spect. OISO '96 (Oiso), 1996.
- 18) Koshi Y, Kitamura S, Nagazumi A, Sakayori O, Komiyama T, Komaba Y, Tauganesawa T, Terashi A : Regional cerebral blood flow and periventricular hyperintensity in silent cerebral infarction—Comparison with demented cases—. European Association of Nuclear Medicine Congress (Copenhagen), 1996.
- 19) 片山泰朗, 坂本静樹, 神谷達司, 勝又俊弥, 青山純夫, 赫 彰郎 : 広汎な脳血流低下をもつ閉塞性脳血管障害患者に対する TRH 療法の効果の検討. 第93回日本内科学会総会, 1996.
- 20) 神谷達司, 片山泰朗, 南澤宏明, 目々澤肇, 赫 彰郎 : Ischemic tolerance (虚血耐性) における蛋白代謝の変動—ストレス蛋白 (hsp 72) 発現と関連—. 第93回日本内科学会総会, 1996.
- 21) 越 泰彦, 北村 伸, 酒寄 修, 小宮山佐, 永積 惇, 赫 彰郎 : アルツハイマー型痴呆の症状の進行と局所脳血流量 : 初老期発症例と老年期発症例の比較. 第93回日本内科学会総会, 1996.
- 22) 酒寄 修, 越 泰彦, 北村 伸, 永積 惇, 赫 彰郎 : 無症候性脳梗塞における自覚症状の存在にどう対応するべきか? : 脳循環所見からのアプローチ. 第93回日本内科学会総会, 1996.
- 23) 米森文彦<sup>1)</sup>, 山田英喜<sup>1)</sup>, 勝又俊弥, 片山泰朗, 大鳥達雄, 村松浩美, 赫 彰郎 (<sup>1)</sup>日本たばこ産業(株), 医薬総研) : 新規 TRH アナログ, JTP-1942の反復投与による局所脳虚血ラットの脳血流およびグルコース利用率に対する持続的作用. 第21回日本脳卒中学会総会, 1996.
- 24) 勝又俊弥, 片山泰朗, 大鳥達雄, 村松浩美, 赫 彰郎, 米森文彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>日本たばこ産業(株), 医薬総研) : 新規 TRH アナログ, JTP-2942の局所脳虚血ラットの脳血流およびグルコース利用率に対する作用. 第21回日本脳卒中学会総会, 1996.
- 25) 山口 博<sup>1)</sup>, 五十嵐博中<sup>1)</sup>, 長尾毅彦<sup>1)</sup>, 卜部貴夫<sup>2)</sup>, 横地正之<sup>2)</sup>, 井田正博<sup>2)</sup>, 片山泰朗, 赫 彰郎 (<sup>1)</sup>都立荏原病院神経内科, <sup>2)</sup>同放射線科) : 虚血性脳血管障害に対する dynamic contrast enhanced perfusion MRI の臨床応用 (第1報). 第21回日本脳卒中学会総会, 1996.
- 26) 大鳥達雄, 勝又俊弥, 柏木史彦, 片山泰朗, 赫 彰郎 : 両側総頸動脈結紮を施したラットにおける慢性脳循環不全の病態の検討—脳循環代謝の測定—. 第21回日本脳卒中学会総会, 1996.
- 27) 津金沢俊和, 五十嵐博中, 北村 伸, 片山泰朗, 赫 彰郎, 大湾朝仁<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線科) : MRI 拡散強調画像による PVH の病態に関する考察 (第一報). 第21回日本脳卒中学会総会, 1996.
- 28) 桂研一郎, 片山泰朗, 赫 彰郎 : Acidosis の脳虚血細胞障害に対する影響 : Protein Kinase C activation への影響. 第21回日本脳卒中学会総会, 1996.
- 29) 酒寄 修, 増谷祐之, 石渡明子, 津金沢俊和, 越 泰彦, 駒場祐一, 北村 伸, 永積 惇, 赫 彰郎 : 無症候性脳梗塞における自覚症状の存在と脳循環代謝所見. 第21回日本脳卒中学会総会, 1996.
- 30) 神谷達司, 片山泰朗, 赫 彰郎, TS Nowak Jr<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>Dept. of Neurology, Univ. of Tennessee, Memphis) : Rat 局所脳虚血モデルにおける mRNA 及び蛋白合成に対する脳血流の閾値について—MK-801の及ぼす影響—. 第37回日本神経学会総会, 1996.
- 31) 大鳥達雄, 勝又俊弥, 柏木史彦, 片山泰朗, 赫 彰郎 : 両側総頸動脈結紮を施したラットにおける慢性脳循環不全の病態の検討—脳循環代謝の測定—. 第37回日本神経学会総会, 1996.
- 32) 桂研一郎, 片山泰朗, 赫 彰郎, NG Bazan<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>Louisiana State University Eye Center and Neuroscience Center, New Orleans, USA) : 脳虚血再開通後の刺激時における脂質及びカルシウム代謝の検討. 第37回日本神経学会総会, 1996.

- 33) 坂本静樹, 片山泰朗, 赫 彰郎: TRH 療法の各神経疾患への応用—脳循環と髄液神経伝達物質の変化—. 第37回日本神経学会総会, 1996.
- 34) 北村 伸, 越 泰彦, 小宮山佐, 酒寄 修, 赫 彰郎: 早期 Alzheimer 病患者における Benzodiazepine 受容体と脳血流量についての検討. 第37回日本神経学会総会, 1996.
- 35) 越 泰彦, 北村 伸, 小宮山佐, 駒場祐一, 赫 彰郎: 失語症状を呈する脳梗塞のベンゾジアゼピン受容体画像—123I-Iomazenil SPECT による検討—. 第37回日本神経学会総会, 1996.
- 36) 高橋真理子, 永積 惇, 赫 彰郎, 金内秀士<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>金内メディカルクリニック): 脳ドックにおける脳室周囲白質病変発現率について. 日本医科大学医学会第89回例会, 1996.
- 37) 飯野靖彦, 松信精一, 中村 正, 大沢弘和, 赫 彰郎: 多嚢胞腎の腎機能低下に対する ACE 阻害薬—enalapril の効果. 第39回日本腎臓学会総会, 1996.
- 38) 葉山修陽, 須賀 優, 飯野靖彦, 赫 彰郎, 内海甲一<sup>1)</sup>, 竹内正至<sup>1)</sup>, 栗原 怜<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>春日部秀和病院): 血液透析期間と血小板活性化, 血管内皮細胞障害マーカーとの関連について. 第39回日本腎臓学会総会, 1996.
- 39) 河辺満彦, 小原功裕, 金子朋広, 柏木哲也, 布施 環, 橋本和政, 青木 宏, 清水光義, 葉山修陽, 飯野靖彦, 赫 彰郎: 60歳未満, 60歳以上の患者2群間での腹膜透析指標の比較による検討. 第39回日本腎臓学会総会, 1996.
- 40) 柏木哲也, 中島敦夫, 河辺満彦, 葉山修陽, 飯野靖彦, 赫 彰郎, 奥村 安<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>順天堂大学): 腎不全における可溶性 Fas 抗原. 第39回日本腎臓学会総会, 1996.
- 41) 飯野靖彦, 松信精一, 中村 正, 大沢弘和, 赫 彰郎, 大森容子<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>岩本町腎クリニック): 高 P 血症の透析患者に対する低蛋白米飯の効果. 第39回日本腎臓学会総会, 1996.
- 42) 内海甲一<sup>1)</sup>, 栗原 怜<sup>1)</sup>, 竹内正至<sup>1)</sup>, 桜井祐成<sup>1)</sup>, 大和田一博<sup>1)</sup>, 斉藤 博<sup>2)</sup>, 山本正雅<sup>3)</sup>, 田上憲次郎<sup>3)</sup>, 飯野靖彦, 赫 彰郎(<sup>1</sup>春日部秀和病院, <sup>2</sup>都立駒込病院, <sup>3</sup>東京都臨床医学総合研究所): 各種腎疾患における尿中ビトロネクチン (VN) レセプター (インテグリン  $\alpha V\beta 3$ ) 排泄の臨床的検討. 第39回日本腎臓学会総会, 1996.
- 43) 戸村成男<sup>1)</sup>, 柳 久子<sup>1)</sup>, 山名 慶<sup>1)</sup>, 小林 圭<sup>1)</sup>, 田中真理<sup>1)</sup>, 川波公香<sup>1)</sup>, 細川美和<sup>1)</sup>, 土屋 滋<sup>1)</sup>, 安藤亮一<sup>2)</sup>, 千田佳子<sup>2)</sup>, 栗原 怜<sup>3)</sup>(<sup>1</sup>筑波大学, <sup>2</sup>中野総合病院, <sup>3</sup>春日部秀和病院): 血液透析患者における骨塩量とビタミン D 受容体 (VDR) 遺伝子多型性との関係. 第39回日本腎臓学会総会, 1996.
- 44) 大和田一博<sup>1)</sup>, 栗原 怜<sup>1)</sup>, 竹内正至<sup>1)</sup>, 桜井祐成<sup>1)</sup>, 大和田結実<sup>1)</sup>, 内海甲一<sup>1)</sup>, 米島秀夫<sup>1)</sup>, 秋葉 隆<sup>2)</sup>(<sup>1</sup>春日部秀和病院, <sup>2</sup>東京医科歯科大学): 透析患者における Calcitonin 負荷時の血清 Ca の変化. 第39回日本腎臓学会総会, 1996.
- 45) 栗原 怜<sup>1)</sup>, 大和田一博<sup>1)</sup>, 竹内正至<sup>1)</sup>, 桜井祐成<sup>1)</sup>, 内海甲一<sup>1)</sup>, 米島秀夫<sup>1)</sup>, 葉山修陽, 飯野靖彦, 秋葉 隆<sup>2)</sup>, 谷澤龍彦<sup>3)</sup>(<sup>1</sup>春日部秀和病院, <sup>2</sup>東京医科歯科大学, <sup>3</sup>新潟大学): 透析患者における無形成骨症の臨床的特徴について. 第39回日本腎臓学会総会, 1996.
- 46) 坂本静樹, 片山泰朗, 神谷達司, 勝又俊弥, 有井一正, 赫 彰郎: 一側半球に広汎な血流低下がみられた主幹動脈閉塞例に対する酒石酸プロチレリン療法による脳循環と髄液神経伝達物質の変化の検討. 第14回日本神経治療学会総会, 1996.
- 47) 北村 伸, 越 泰彦, 小宮山佐, 酒寄 修, 駒場祐一, 大山雅史, 津金沢俊和, 三品雅洋, 赫 彰郎: Alzheimer 病患者のベンゾジアゼピン受容体についての検討. 第11回日本老年精神医学会, 1996.
- 48) 上田雅之, 神谷達司, 坂本静樹, 大坪孝一, 山崎峰雄, 南澤宏明, 片山泰朗, 赫 彰郎, 浜本 真<sup>1)</sup>, 宮崎徳蔵<sup>1)</sup>, 長尾毅彦<sup>2)</sup>(<sup>1</sup>東京都多摩老人医療センター神経内科, <sup>2</sup>都立荏原病院神経内科): 神経疾患の内科的治療—画像診断と治療—. 循環器 IS 研究会定例会, 1996.
- 49) 加藤健吾, 福生吉裕, 駒場祐一, 大坪孝一, 赫 彰郎, 内田美香<sup>1)</sup>, 中村 洋<sup>2)</sup>(<sup>1</sup>第一病院皮膚科, <sup>2</sup>リウマチ科): d-penicillamine により尋常性白斑の改善が認められた慢性関節リウマチの1症例. 第447回日本内科学会関東地方会, 1996.
- 50) 永山 寛<sup>1)</sup>, 浜本 真<sup>1)</sup>, 宮崎徳蔵<sup>1)</sup>, 吉村正博<sup>2)</sup>, 赫 彰郎 (<sup>1</sup>多摩老人医療センター神経内科, <sup>2</sup>東京都監察医

- 務院病理)：123I-MIBG 心筋シンチで集積低下が認められたパーキンソン病の一部検例。第137回日本神経学会関東地方会，1996。
- 51) 駒場祐一，野本達也，平出智晴，北村 伸，赫 彰郎：ASD と congenial intrahepatic shunts を伴った persistent primitive hypoglossal artery の 1 症例。第137回日本神経学会関東地方会，1996。
- 52) 山室 学，五十嵐博中，津金沢俊和，片山泰朗，赫 彰郎：錐体路の Three dimensional anisotropy contrast magnetic resonance imaging (3DAC-MRI)。第64回日本医科大学医学会総会，1996。
- 53) 佐藤綾子<sup>1)</sup>，菅谷寿理<sup>1)</sup>，新宅孝征<sup>1)</sup>，永積 惇<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第一病院中央検査室)：FCM を用いた網赤血球 (Ret) 測定の有用性について。第64回日本医科大学医学会総会，1996。
- 54) 青山純夫，神谷達司，片山泰朗，赫 彰郎，村松浩美<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第一病院生理研究室)：ラット一過性脳虚血モデルにおける免疫抑制剤 FK506 の神経保護効果。第64回日本医科大学医学会総会，1996。
- 55) 山口 博<sup>1)</sup>，長尾毅彦<sup>1)</sup>，横地正之<sup>1)</sup>，井田正博<sup>2)</sup>，五十嵐博中，片山泰朗，赫 彰郎(<sup>1)</sup>都立荏原病院神経内科，<sup>2)</sup>同放射線科)：虚血性脳虚血障害に対する dynamic contrast enhanced perfusion MRI の臨床応用 (第1報)。第64回日本医科大学医学会総会，1996。
- 56) 西山 穰，坂本静樹，南澤宏明，片山泰朗，赫 彰郎：炎症性機序が考えられた限局性リポストロフィーの 1 例。第64回日本医科大学医学会総会，1996。
- 57) 雨宮志門，神谷達司，坂本静樹，片山泰朗，赫 彰郎：悪性症候群様の症状で顕在化した Sheehan 症候群の1例。第64回日本医科大学医学会総会，1996。
- 58) 北見聡章，坂本静樹，南澤宏明，片山泰朗，赫 彰郎：皮膚筋炎に SLE を合併し，ステロイド抵抗性のあった 1 例。第64回日本医科大学医学会総会，1996。
- 59) 永島幹夫，福生吉裕，松井 南<sup>1)</sup>，赫 彰郎(<sup>1)</sup>理化学研究所分子機構)：単球性株細胞 THP-1 の PDGF-A，B 鎖 mRNA 発現に及ぼす cAMP の影響について。第64回日本医科大学医学会総会，1996。
- 60) 本田治久，於保倫之助，水野杏一<sup>1)</sup>，山田政枝<sup>2)</sup>，赫 彰郎(<sup>1)</sup>千葉北総病院内科，<sup>2)</sup>同神経科)：高尿酸療法で著明な改善を認めた非間歇型一酸化炭素中毒後遺症の1症例。第64回日本医科大学医学会総会，1996。
- 61) 秋山しのぶ<sup>1)</sup>，福生吉裕，赤石治美，本田治久，永島幹夫，赫 彰郎(<sup>1)</sup>第一病院生化学研究室)：酸化 LDL から見たビタミン D3 の細胞特異性について。第64回日本医科大学医学会総会，1996。
- 62) 菅野由紀<sup>1)</sup>，中野一博<sup>1)</sup>，吉野早恵子<sup>1)</sup>，永積 惇，新宅孝征<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第一病院中央検査室)：当院における MSBOS，T&S 導入効果について。第64回日本医科大学医学会総会，1996。
- 63) 高橋真理子，永積 惇，赫 彰郎，金内秀士<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>金内メディカルクリニック)：無症候性脳梗塞発現率及び診断基準について。第64回日本医科大学医学会総会，1996。
- 64) 大塚美穂，大坪孝一，駒場祐一，岡田牧子，赫 彰郎：Parkinsonism に高度の痴呆を合併した1症例。第64回日本医科大学医学会総会，1996。
- 65) 石渡明子，増谷祐之，大坪孝一，駒場祐一，北村 伸，永積 惇，赫 彰郎，石原真木子<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院放射線科)：多発性硬化症と脳内寄生虫感染症との診断に苦慮した1症例。第64回日本医科大学医学会総会，1996。
- 66) 北見聡章，坂本静樹，南澤宏明，片山泰朗，赫 彰郎：皮膚筋炎に SLE を合併した，ステロイド抵抗性のあった1例。第64回日本医科大学医学会総会，1996。
- 67) 野本達也，福生吉裕，北見聡章，森 貴博，本田治久，永島幹夫，赤石治美，赫 彰郎，上野則之<sup>1)</sup>，松本光司<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>第一病院耳鼻咽喉科，<sup>2)</sup>同病理部)：AI-p， $\gamma$ -GTP の高値を呈したシェーグレン症候群における Bezafibrate の一使用経験。第64回日本医科大学医学会総会，1996。
- 68) 福生吉裕，野本達也，森 貴博，北見聡章，本田治久，永島幹夫，赤石治美，赫 彰郎：高脂血症剤(Bezafibrate) の新しい作用効果について一胆道系酵素改善作用についての検討。第64回日本医科大学医学会総会，1996。
- 69) 越 泰彦，北村 伸，小宮山佐，駒場祐一，柳沢正志，三品雅洋，赫 彰郎：脳梗塞を伴う失語症におけるベンゾジアゼピン受容体画像の有用性に関する検討。第20回日本神経心理学会総会，1996。



- 70) 小林克史, 北村 伸, 越 泰彦, 駒場祐一, 津金沢俊和, 酒寄 修, 赫 彰郎: 皮質下梗塞に伴う失語症における局所脳血流についての検討。第20回日本神経心理学会総会, 1996。
- 71) 雨宮志門, 神谷達司, 坂本静樹, 片山泰朗, 赫 彰郎: 横紋筋融解, 低ナトリウム血症, 低血糖にて顕在化した Sheehan 症候群の1例。第138回日本神経学会関東地方会, 1996。
- 72) 山室 学, 五十嵐博中, 津金沢俊和, 大坪孝一, 片山泰朗, 赫 彰郎: 急性脳梗塞の ADC 値の経時的変化。第24回日本核磁気共鳴医学会大会, 1996。
- 73) 大鳥達雄, 勝又俊弥, 柏木史彦, 片山泰朗, 赫 彰郎: 両側総頸動脈結紮を施したラットにおける慢性脳循環不全の病態の検討—脳循環代謝の測定—。第8回日本脳循環代謝学会総会, 1996。
- 74) 五十嵐博中, 津金沢俊和, 片山泰朗, 山室 学, 赫 彰郎, 中田 力<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>新潟大学脳研究所脳機能解析学): Magnetic Resonance Axonography (MRX) による脳神経線維走行の画像化: 基礎的検討および錐体路変性の評価。第8回日本脳循環代謝学会総会, 1996。
- 75) 越 泰彦, 北村 伸, 酒寄 修, 駒場祐一, 小宮山佐, 赫 彰郎: 脳梗塞後失語症における Iomazenil SPECT を用いたベンゾジアゼピン受容体画像の有用性に関する検討。第8回日本脳循環代謝学会総会, 1996。
- 76) 駒場祐一, 越 泰彦, 北村 伸, 酒寄 修, 小宮山佐, 赫 彰郎: プロスタグランジン製剤の慢性期脳梗塞患者の脳血流量に与える影響についての検討。第8回日本脳循環代謝学会総会, 1996。
- 77) 野本達也, 長尾毅彦, 平林久吾<sup>1)</sup>, 横地正之<sup>1)</sup>, 宮本和人<sup>2)</sup>(<sup>1</sup>都立荏原病院神経内科, <sup>2</sup>都立神経病院神経内科): 髄液蛋白の高度上昇を伴い水頭症を呈した Dejerine-Sottas disease の1例。第139回日本神経学会関東地方会, 1996。
- 78) 石渡明子, 大坪孝一, 駒場祐一, 北村 伸, 永積 惇, 赫 彰郎: 歩行障害で発症し, MRI 上脳内に多発性の嚢胞様病巣を認めた1症例。第139回日本神経学会関東地方会, 1996。
- 79) 永島幹夫, 福生吉裕, 江見 充<sup>1)</sup>, 赫 彰郎(<sup>1</sup>老人病研究所分子生物学): ネピネフリンによるヒト単球由来マクロファージの lipoprotein lipase 分泌抑制機構の解析。第28回日本動脈硬化学会総会, 1996。
- 80) 福生吉裕, 本田治久, 永島幹夫, 赤石治美, 赫 彰郎: ベザフィブラートの胆道系酵素への影響。第28回日本動脈硬化学会総会, 1996。
- 81) 山室 学, 五十嵐博中, 津金沢俊和, 大坪孝一, 片山泰朗, 赫 彰郎: 急性期脳梗塞の拡散強調画像の経時的変化。第22回日本脳卒中学会総会, 1997。
- 82) 青山純夫, 神谷達司, 片山泰朗, 赫 彰郎, 村松浩美<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>第一病院生理研究室): ラット一過性局所脳虚血モデルにおける免疫抑制剤 FK506 の神経保護効果。第22回日本脳卒中学会総会, 1997。
- 83) 上田雅之, 森 隆<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>老人病研究所病理部門): ラット慢性脳循環不全モデル白質病変成因に関する免疫組織化学的検討。第22回日本脳卒中学会総会, 1997。
- 84) 森 隆<sup>1)</sup>, 永田和哉<sup>2)</sup>, 村松浩美, 上田雅之, 神谷達司, 南澤宏明, 片山泰朗, 赫 彰郎(<sup>1</sup>老人病研究所病理部門, <sup>2</sup>公立昭和病院脳神経外科): 虚血性脳細胞障害の発生機序に於けるフリーラジカルの関与—ラット局所脳虚血・再灌流病態下での superoxide anion の経時的検出—。第22回日本脳卒中学会総会, 1997。
- 85) 村松浩美<sup>1)</sup>, 片山泰朗, 神谷達司, Ann Mckee<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>第一病院生理研究室): Lubeluzole の脳虚血における代謝および Pyruvate dehydrogenase (PDH) 活性に及ぼす効果の検討。第22回日本脳卒中学会総会, 1997。
- 86) 北村 伸, 酒寄 修, 津金沢俊和, 越 泰彦, 駒場祐一, 中沢 勝, 増谷祐之, 永積 惇, 赫 彰郎: 無症候性脳梗塞患者の脳血流量の変化についての検討。第22回日本脳卒中学会総会, 1997。
- 87) 永積 惇, 高橋真理子, 三品雅洋, 赫 彰郎: 無症候性脳梗塞の基礎患者と悪化率について。第22回日本脳卒中学会総会, 1997。
- 88) 越 泰彦, 北村 伸, 小林克史, 駒場祐一, 酒寄 修, 三品雅洋, 津金沢俊和, 永積 惇, 赫 彰郎: 脳梗塞後失語症におけるベンゾジアゼピン受容体画像の有用性についての検討。第22回日本脳卒中学会総会, 1997。
- 89) 小林克史, 北村 伸, 越 泰彦, 駒場祐一, 酒寄 修, 津金沢俊和, 石渡明子, 増谷祐之, 赫 彰郎: 皮質下梗

塞に伴う失語症における局所脳血流画像-IMP SPECT による検討。第22回日本脳卒中学会総会，1997。

90) 大久保誠二，上田雅之，神谷達司，片山泰朗，赫 彰郎，三品雅洋：脳梁菲薄化を伴う家族性痙性対麻痺の脳循環代謝。第140回日本神経学会関東地方会，1997。

91) 小林陽二<sup>1)</sup>，金川卓郎<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>佼成病院内科，<sup>2)</sup>田尻ヶ丘病院)：高齢者脳性小児麻痺患者の難治性腸管麻痺に対する大建中湯の効果。腸管機能研究会シンポジウム，1997。

## [第一病院リウマチ科]

### 研究概要

当科における研究課題は，関節リウマチ (RA) のトータルマネジメントと，滑膜組織および滑膜細胞を用いた基礎的研究並びに各種自己免疫疾患のリンパ球膜抗原などである。

より具体的に述べれば，臨床的研究としては，1) 根治的滑膜切除術 (RaMs) による RA の集学的治療法，2) より大きな可動域を追及した人工膝関節全置換術の開発，3) RA における，免疫系—神経系—内分泌系連関などについてである。

一方，基礎的研究としては，1) 滑膜組織における血管増殖因子 (bFGF, VEGF) の発現，2) 各種抗リウマチ剤の滑膜培養組織に対する増殖抑制作用，ならびにそのサイトカイン産生抑制作用，3) SLE の発症における細胞表面分子 (CD28/B27) とサイトカインの役割およびその制御，4) 自己免疫疾患における Fas/Fas リガンドを介したアポトーシスの関与，5) 細胞表面分子遺伝子導入による自己免疫現象の誘導，6) Th1 を介した自己免疫疾患における CD70/CD27 の関与，7) Th1/Th2 誘導の免疫学的分子機能の解析などである。

### 研究業績

#### 論文

[1995年度追加分]

原著：

- 1) Nakajima A, Azuma M<sup>1)</sup>, Kodera S<sup>2)</sup>, Nuriya S<sup>3)</sup>, Terashi A<sup>4)</sup>, Abe M<sup>2)</sup>, Hirose S<sup>2)</sup>, Shirai T<sup>2)</sup>, Yagita H<sup>3)</sup>, Okumura K<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup>国立小児医療センター，<sup>2)</sup>順天堂大病理，<sup>3)</sup>順天堂大免疫，<sup>4)</sup>内科学第2) )：Preferential dependence of autoantibody production in murine lupus on CD86 costimulatory molecule. Eur J Immunol 1995 ; 25 : 3060-3069.
- 2) 永島正一，吉野慎一，中村 洋，平石勝也<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>日本抗体研究所)：関節リウマチ滑膜組織におけるアポトーシス関連抗原の発現。炎症 1995 ; 15 : 233-239.
- 3) 永島正一，伊藤勝己<sup>1)</sup>，村山吉廣<sup>1)</sup>，竹山信成<sup>1)</sup>，小和田誠 ( <sup>1)</sup>湯河原厚生年金病院)：人工関節置換術後の大腿骨骨幹部骨折の1例。神奈川整・災誌 1995 ; 8 : 253-256.

(1) 原著：

- 1) Yoshino S, Fujimori J, Kohda M : Effects of Mirthful Laughter on Neuroendocrine and Immune Systems in Patients with Rheumatoid Arthritis. J Rheumatol 1996 ; 23 : 793-794.
- 2) Yoshino S, Nakamura H, Shiga H, Ishiuchi N : Recovery of full flexion after total knee replacement in rheumatoid arthritis-a follow up study. International Orthopaedics 1997 ; 21 : 98-100.
- 3) Nakamura H, Yoshino S, Ishiuchi N, Fujimori J, Kanai T<sup>1)</sup>, Nishimura Y<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Division of Immunogenetics, Department of Neuroscience and Immunology, Kumamoto University Graduate School of Medical Science) : Radical Multiple Synovectomy as a Novel Surgical Treatment for Refractory Rheumatoid Arthritis : Implication of HLA-DRB10405 in postoperative results. Clin Exp Rheumatol 1997 ; 14 : 53-57.
- 4) Hirohata S<sup>1)</sup>, Yanagida T<sup>1)</sup>, Ito K<sup>2)</sup>, Nakamura H, Yoshino S, Tomita T<sup>3)</sup>, Ochi T<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup>Teikyo University

School of Medicine, <sup>2)</sup>University of Tokyo School of Medicine, <sup>3)</sup>Osaka University Medical School) : Accelerated generation of CD14+ monocyte-lineage cells from the bone marrow of rheuma arthritis patients. *Arthritis Rheum* 1996 ; 39 : 836-843.

- 5) Matsumura R<sup>1)</sup>, Kagami M<sup>1)</sup>, Tomioka H<sup>1)</sup>, Tanaka E<sup>1)</sup>, Sugiyama T<sup>1)</sup>, Sueishi M<sup>1)</sup>, Nakajima A, Azuma M<sup>2)</sup>, Okumura K<sup>3)</sup> (<sup>1)</sup>東邦大佐倉病院, <sup>2)</sup>国立小児医療センター, <sup>3)</sup>順天堂大免疫) : Expression of ductal Fas antigen in sialoadenitis of Sjogren's syndrome. *Clin Exp Rheumatol* 1996 ; 14 : 309-311.
  - 6) Nakajima A, Hirose S<sup>1)</sup>, Yagita H<sup>2)</sup>, Okumura K<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>順天堂大病理, <sup>2)</sup>順天堂大免疫) : Roles of IL-4 and IL-12 in the development of lupus in NZB/W F1 mice. *J Immunol* 1997 ; 158 : 1466-1472.
  - 7) 梶野明英<sup>1)</sup>, 亀山三郎<sup>1)</sup>, 吉野榎一 (<sup>1)</sup>下谷病院) : Digital image processing method による骨折閾値の検討. *整形外科* 1996 ; 47 : 488-489.
  - 8) 亀山三郎<sup>1)</sup>, 梶野明英<sup>1)</sup>, 吉野榎一 (<sup>1)</sup>下谷病院) : 変形性膝関節症における関節内注入療法の効果. *関節の外科* 1996 ; 23 : 13-17.
  - 9) 黄田道信, 吉野榎一, 中村 洋, 浅野伍朗<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>病理学第2) : Interleukin-1 $\beta$  刺激下における関節リウマチ滑膜培養細胞の interleukin-1 $\beta$ , interleukin-6産生に対する各種疾患修飾性抗リウマチ剤 (DMARDs) の抑制効果. *日医大誌* 1996 ; 63 : 419-423.
  - 10) 中島敦夫 : T-B 細胞間における costimulatory 分子の役割. *臨床免疫* 1996 ; 28 : 991-997.
  - 11) 中島敦夫, 東みゆき<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>国立小児医療センター) : Th1/Th2 活性化における costimulation (CD80/CD86) の相違. *臨床免疫* 1996 ; 28 : 1105-1111.
  - 12) 中島敦夫, 東みゆき<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>国立小児医療センター) : CD80/CD86と CD28/CTLA4の相互作用とその制御. *Ann Rev* 1996 ; 127-138.
  - 13) 中島敦夫 : 細胞表面分子阻害による腎炎発症抑制. *現代医療* 1996 ; 28 : 2289-2292.
  - 14) 中島敦夫, 東みゆき<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>国立小児医療センター) : CD28/CTLA4を介した T 細胞-B 細胞間相互作用の活性化と制御. *医学のあゆみ* 1996 ; 177 : 473-477.
- (2) 総説 :
- 1) 志賀弘朗, 吉野榎一 : 人工関節の術後合併症と再置換術. *整形・災害外科* 1996 ; 39(増刊) : 477-483.
  - 2) 志賀弘朗, 吉野榎一, 藤森十郎 : 関節リウマチの外来診療. *都薬雑誌* 1996 ; 18 : 21-25.
  - 3) 志賀弘朗 : 関節リウマチの関節障害と治療—関節リウマチと膝関節障害—. *治療* 1996 ; 78 : 3633-3638.
  - 4) 志賀弘朗 : 質が問われる外来診療—医師・患者関係の築き方—. *治療* 1997 ; 79 : 13-18.

## 著 書

- 1) Niwa S, Yoshino S, Kurosaka M, Shino K, Yamamoto S : [編集] "Reconstruction of the knee Joint.", 1997 ; Springer-Verlag, Tokyo, Berlin, Heidelberg, New York.
- 2) Yoshino S, Koiwa M : [分担] A Newly Designed Total Knee System for Full Flexion "Reconstruction of the knee Joint." (Niwa S, Yoshino S, Kurosaka M, Shino K, Yamamoto S, 編), 1997 ; pp330-337, Springer-Verlag, Tokyo, Berlin, Heidelberg, New York.
- 3) 小岩政仁 : [分担] 関節リウマチ—その集学的治療のガイドライン—. "治療", 1996 ; pp103-107, 南山堂.
- 4) 吉野榎一 : [分担] 人工膝関節置換術, *整形外科クルズス*(津山直一, 黒川高秀編), 1996 ; pp502-506, 南山堂.

## 学会発表

[1995年度追加分]

シンポジウム :

- 1) 中島敦夫, 東みゆき<sup>1)</sup>, 渡辺直広<sup>2)</sup>, 広瀬幸子<sup>3)</sup>, 白井俊一<sup>3)</sup>, 八木田秀雄<sup>4)</sup>, 奥村 康<sup>4)</sup> (<sup>1)</sup>国立小児医療センター,

<sup>2</sup>慈恵医大熱帯医学, <sup>3</sup>順天堂大病理, <sup>4</sup>順天堂大免疫) : T-B 細胞間における CD28 costimulation の役割 : CD80 および CD86 の機能的役割の相違. 第25回日本免疫学会総会, 1995. 11.

一般講演 :

- 1) Nakajima A, Azuma M<sup>1)</sup>, Yagita H<sup>2)</sup>, Okumura K<sup>2)</sup>, Kodera S<sup>3)</sup>, Shirai T<sup>3)</sup>, Hirose S<sup>3)</sup> (<sup>1</sup>)国立小児医療センター, <sup>2</sup>順天堂大病理, <sup>3</sup>順天堂大免疫) : Successful treatment of autoimmunity in NZB/NZW F1 mice with monoclonal antibodies to CD80 (B7/BB1) and CD86 (B70/B7-2). The 9th International Congress of Immunology (San Francisco), 1995. 7.
- 2) 中島敦夫, 東みゆき<sup>1)</sup>, 小寺三喜<sup>2)</sup>, 阿部雅明<sup>2)</sup>, 広瀬幸子<sup>3)</sup>, 白井俊一<sup>3)</sup>, 八木田秀雄<sup>4)</sup>, 奥村 康<sup>4)</sup> (<sup>1</sup>)国立小児医療センター, <sup>2</sup>順天堂大病理, <sup>3</sup>順天堂大免疫) : SLE の自己抗体産生における CD86 を介した costimulation の重要性. 第25回日本免疫学会総会, 1995. 11.
- 3) 東みゆき<sup>1)</sup>, 中島敦夫, 渡辺直広<sup>2)</sup>, 八木田秀雄<sup>3)</sup>, 奥村 康<sup>3)</sup> (<sup>1</sup>)国立小児医療センター, <sup>2</sup>慈恵医大熱帯医学, <sup>3</sup>順天堂大免疫) : Th2細胞に対する CD80 および CD86 costimulatory 分子の機能的役割の相違. 第25回日本免疫学会総会, 1995. 11.

(1) 招待講演 :

- 1) Yoshino S : Factors of range of motion after total knee replacement. 30th Brazilian Orthopedic and Traumatology Congress (Curitiba), 1996. 7.

(2) 特別企画 :

- 1) 吉野 榎一 : 人工膝関節固定で骨セメント使用か, または非使用か? : 骨セメント使用の方がより良い. 第40回日本リウマチ学会総会, 1996. 5.

(3) 教育講演 :

- 1) 中村 洋 : 慢性関節リウマチに対する人工関節置換術の予後. 多摩リウマチ研究会, 1996. 11.

(4) 指定演題 :

- 1) 中村 洋 : RA におけるオピオイドペプチド. 第17回リウマチセンター連絡会, 1996. 7.

(5) シンポジウム :

- 1) Kato T<sup>1)</sup>, Masuko-Homgo K<sup>1)</sup>, Sekine T<sup>1)2)</sup>, Kurokawa M<sup>1)</sup>, Sasagawa H<sup>1)</sup>, Ueda S<sup>1)</sup>, Nakamura H, Yoshino S, Yamamoto K<sup>3)</sup>, Nishioka K<sup>1)</sup> (<sup>1</sup>)Int. Med. Sci., St. Marianna Univ., <sup>2</sup>MBC Inc., <sup>3</sup>Inst. Bioreg., Kyusyu Univ.) : Analysis of T cwlls that clonally accumulated in affected joints of patients with rheumatoid arthritis. 第26回日本免疫学会総会, 1996. 11.
- 2) Nakamura H, Yoshino S : Outcome of Radical Multiple Synovectomy. 4th Symposium German and Japanese Orthopedic Rheumatologists (Nagoya), 1996. 10.
- 3) 中村 洋, 吉野 榎一, 西村泰治<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>)熊本大・院医・免疫識別) : 根治的多関節滑膜切除術の術後成績と HLA-DRB1\*0405. 第11回日本臨床リウマチ学会, 1996. 11.
- 4) 中島敦夫, 広瀬幸子<sup>1)</sup>, 阿部雅明<sup>1)</sup>, 東みゆき<sup>2)</sup>, 八木田秀雄<sup>3)</sup>, 奥村 康<sup>3)</sup>, 白井俊一<sup>1)</sup> (<sup>1</sup>)順天堂大病理, <sup>2</sup>)国立小児医療センター, <sup>3</sup>)順天堂大免疫) : 自己免疫疾患発症におけるサイトカインと costimulatory 分子. 第26回日本免疫学会総会, 1996. 11.
- 5) 吉野 榎一, 中村 洋, 黄田道信, 金井隆幸<sup>1)</sup>, 西村泰治<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>)熊本大・院医・免疫識別) : RaMs の術後成績と HLA タイピングの関連について. 第40回日本リウマチ学会総会, 1996. 5.

(6) パネルディスカッション :

- 1) 志賀弘朗, 吉野 榎一, 中村 洋, 向井英一, 田中秀和 : 人工膝関節置換術後の各種合併症の頻度. 第24回日本リウマチ・関節外科学会, 1996. 10.

(7) プレナリー演題 :

- 1) 中島敦夫, 飯野靖彦<sup>1)</sup>, 小寺三喜<sup>2)</sup>, 広瀬幸子<sup>2)</sup>, 白井俊一<sup>2)</sup>, 奥村 康<sup>3)</sup> (<sup>1)</sup>内科学第2, <sup>2)</sup>順天堂大病理, <sup>3)</sup>順天堂大免疫): ループス腎炎発症における CD28/B7 constimulation の役割. 第39回日本腎臓学会学術総会, 1996. 5.
- (8) ワークショップ:
- 1) 田中秀和, 吉野楨一, 藤森十郎, 志賀弘朗, 西島 徹, 山本宗宏: 関節リウマチに対する bipolar 型人工股関節形成術の臨床成績. 第24回日本リウマチ・関節外科学会, 1996. 10.
- 2) 梶野明英<sup>1)</sup>, 吉野楨一, 藤森十郎, 志賀弘朗, 判治直人, 亀山三郎<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>下谷病院): MTX 抵抗性 RA に対する SASP の追加併用療法. 第40回日本リウマチ学会総会, 1996. 5.
- 3) 判治直人, 吉野楨一, 藤森十郎, 志賀弘朗, 黄田道信, 山本宗広: 顆粒球体外吸着療法 (G-1) の骨髄機能に対する作用. 第40回日本リウマチ学会総会, 1996. 5.
- 4) 藤森十郎, 吉野楨一, 小岩政仁, 中村 洋, 志賀弘朗, 吉岡太郎: RA におけるメトトレキサート (MTX) 長期投与例の検討 —各種 DMARDs 長期投与例との比較から—. 第40回日本リウマチ学会総会. 第40回日本リウマチ学会総会, 1996. 5.
- 5) 中村 洋, 吉野楨一, 黄田道信, 石内直樹, 平石勝也<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>日本抗体研究所): 早期 RA 関節滑膜の組織学的検討. 第40回日本リウマチ学会総会, 1996. 5.
- 6) 志賀弘朗, 吉野楨一, 藤森十郎, 向井英一, 判治直人, 丹野 亮: 寝たきり RA に対する人工膝関節置換術の長期成績. 第40回日本リウマチ学会総会, 1996. 5.
- 7) 水島 昇<sup>1)</sup>, 上阪 等<sup>2)</sup>, 中村 洋, 吉野楨一, 宮坂信之<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>東京医科歯科大学第1内科, <sup>2)</sup>同難治疾患研究所免疫疾患): セラミドによる慢性関節リウマチ滑膜細胞のアポトーシス誘導. 第40回日本リウマチ学会総会, 1996. 5.
- (9) 一般講演:
- 1) Nakamura H, Yosino S, Ishiuchi N, Yokoyama M<sup>1)</sup>, Hiraishi K<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>Dept of Pathology, <sup>2)</sup>Japan Immunoresearch Laboratory): Angiogenesis and angiogenic growth factors in the synovium of early rheumatoid arthritis. American College of Rheumatology. 60th National Science Meeting (Orland, Florida), 1996. 10.
- 2) Fujimori J, Yoshino S, Koiwa M, Nakamura H, Shiga H: Prognosis and Outcome of RA-10 To 16 Years of Anti-Rheumatic Therapy. 8th APLAR Congress of Rheumatology (Melbourne), 1996. 4.
- 3) Koda M: Effects of DMARDs of Cytokine Production by Cultured Synovial Cells. 8th APLAR Congress of Rheumatology (Melbourne), 1996. 4.
- 4) Shiga H, Yoshino S, Fujimori J: Clinical Results of Total Hip and Knee Arthroplasties in RA Patients with Arthritis Mutilans. 8th APLAR Congress of Rheumatology (Melbourne), 1996. 4.
- 5) 吉野楨一, 中村 洋, 志賀弘朗, 角本土幸, 宮本洋介: THR を行い術後20年以上経過した RA. 第27回日本人工関節学会, 1997. 1.
- 6) 竹田裕之<sup>1)</sup>, 川村晴也<sup>1)</sup>, 立原章年, 石井博泰<sup>1)</sup>, 小和田誠<sup>1)</sup>, 志賀弘朗 (<sup>1)</sup>白十字総合病院): RA 多関節置換術の検討. 第2回茨城リウマチ研究会, 1995.
- 7) 郡司直哉, 吉野楨一, 藤森十郎, 志賀弘朗, 向井英一: 人工膝関節置換術後, 両側大腿骨頸部疲労骨折を生じた RA の1例. 第11回日本臨床リウマチ学会, 1996. 11.
- 8) 判治直人, 吉野楨一, 藤森十郎, 志賀弘朗, 岩崎 栄<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>医療管理学教室): 関節リウマチの薬物療法の総費用に関する検討. 第11回日本臨床リウマチ学会, 1996. 11.
- 9) 中島敦夫, 広瀬幸子<sup>1)</sup>, 阿部雅明<sup>1)</sup>, 八木田秀雄<sup>2)</sup>, 奥村 康<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>順天堂大病理, <sup>2)</sup>順天堂大免疫): 全身性自己免疫疾患における IL-12 と IL-4 の役割. 第26回日本免疫学会総会, 1996. 11.
- 10) 金子博行<sup>1)</sup>, 中島敦夫, 橋本博史<sup>1)</sup>, 奥村 康<sup>2)</sup>, 香坂隆夫<sup>3)</sup>, 東みゆき<sup>3)</sup> (<sup>1)</sup>順天堂大病理, <sup>2)</sup>順天堂大免疫, <sup>3)</sup>国立小児医療センター): CD80 および CD86 stimulation による T 細胞機能発現における CD11a/18-CD54 経路

の関与。第26回日本免疫学会総会，1996。11。

- 11) 中島美知子<sup>1)</sup>，中島敦夫，東みゆき<sup>2)</sup>，榎垣伸彦<sup>3)</sup>，本田光芳<sup>1)</sup>，八木田秀雄<sup>3)</sup>，奥村 康<sup>3)</sup> (<sup>1)</sup>皮膚科，<sup>2)</sup>国立小児医療センター，<sup>3)</sup>順天堂大免疫)：LE 皮膚病変での Fas-Fas ligand の関与。第26回日本免疫学会総会，1996。11。
- 12) 関根太一<sup>1)2)</sup>，加藤智啓<sup>1)</sup>，増子佳世<sup>1)</sup>，小端哲二<sup>1)</sup>，笹川広子<sup>1)2)</sup>，中村 洋，吉野槇一，西岡久寿樹<sup>1)</sup>，山本一彦<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>聖マ医大・難治研・臨遺，<sup>2)</sup>三菱化学油化 BCL，<sup>3)</sup>九大・生医研・臨免)：慢性関節リウマチ患者関節内における II 型コラーゲン特異的な T 細胞の集積。第26回日本免疫学会総会，1996。11。
- 13) 向井英一，吉野槇一，藤森十郎，志賀弘朗，黄田道信，田中秀和：Fin 付き髓内釘による足関節固定術。第24回日本リウマチ・関節外科学会，1996。10。
- 14) 中島敦夫：ループスにおける CD28B constimulation の役割。第 2 回自己免疫研究会，1996。8。
- 15) 石内直樹，吉野槇一，中村 洋，田中秀和，和字慶晃一，横山宗伯<sup>1)</sup>，浅野伍朗<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>病理学第 2)：関節リウマチ滑膜各病期における eNOS 発現について。第17回日本炎症学会，1996。7。
- 16) 田中秀和，吉野槇一，藤森十郎，中村 洋，松本光司<sup>1)</sup>，山田宣孝<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>病理部)：多中心性細網組織球症の一例。第37回関東リウマチ研究会，1996。6。
- 17) 石内直樹，吉野槇一，中村 洋，横山宗伯<sup>1)</sup>，浅野伍朗<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>病理学第 2)：RA 滑膜における iNOS，eNOS の発現について。第40回日本リウマチ学会総会，1996。5。
- 18) 吉野槇一，藤森十郎，中村 洋，黄田道信，志賀弘朗，判治直人：楽しい笑いの抗リウマチ作用。第40回日本リウマチ学会総会，1996。5。
- 19) 中島敦夫，東みゆき<sup>1)</sup>，広瀬幸子<sup>2)</sup>，白井俊一<sup>2)</sup>，奥村 康<sup>3)</sup> (<sup>1)</sup>国立小児医療センター，<sup>2)</sup>順天堂大病理，<sup>3)</sup>順天堂大免疫)：SLE の自己抗体産性における CD28B constimulation の役割。第40回日本リウマチ学会総会，1996。5。
- 20) 柏木哲也<sup>1)</sup>，中島敦夫，河辺満彦<sup>1)</sup>，葉山修陽<sup>1)</sup>，飯野靖彦<sup>1)</sup>，赫 彰郎<sup>1)</sup>，奥村 康<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>内科第 2，<sup>2)</sup>順天堂大免疫)：腎不全における可溶性 Fas 抗原。第39回日本腎臓病学会総会，1996。5。
- 21) 中島美知子<sup>1)</sup>，中島敦夫，八木田秀雄<sup>2)</sup>，奥村 康<sup>2)</sup>，本田光芳<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>皮膚科，<sup>2)</sup>順天堂大免疫)：SLE 皮膚病変における Fas-Fas ligand の関与。第95回日本皮膚科学会総会，1996。5。
- 22) 広畑俊成<sup>1)</sup>，柳田たみ子<sup>1)</sup>，中村 洋，吉野槇一，富田哲也<sup>3)</sup>，越智隆弘<sup>3)</sup> (<sup>1)</sup>帝京大第 2 内科，<sup>2)</sup>大阪大整形外科)：慢性関節リウマチ骨髓由来網内系細胞による B 細胞の活性化：特に EB ウイルスの役割について。第40回日本リウマチ学会総会，1996。5。
- 23) 志賀弘朗，吉野槇一，藤森十郎，黄田道信，石内直樹，西島 徹：人工膝関節置換術後の可動域の低下について：正座症例との比較検討。第69回日本整形外科学会学術集会，1996。4。
- 24) 向井英一，吉野槇一，藤森十郎，中村 洋，志賀弘朗，石井博康，細井秀実：10年以上経過した関節リウマチに対するセメント使用人工股関節置換術の臨床成績。第69回日本整形外科学会学術集会，1996。4。

### 3. 内科学第三講座

#### [付属病院第3内科]

##### 研究概要

内分泌学領域の基礎的研究では、(1) 甲状腺腫瘍における FGF 受容体の発現、(2) 成長ホルモン、IGF-I、バゾプレッシンの免疫担当細胞に与える影響、(3) 成長ホルモンのフィードバック機構について、(4) 肥満遺伝子受容体の分布について、(5) ソマトスタチン、CRF による GH 分泌促進ペプチドの摂食促進作用の修飾、GH 分泌促進ペプチドの脳内カテコールアミンに与える影響について検討を行った。臨床面では厚生省特定疾患中枢性摂食異常症調査研究班に所属し、多施設共同研究に参加した。

血液学領域の基礎的研究では、(1) 骨髄異形成症候群の細胞生物学的解析、(2) 免疫能と加齢に関する研究、(3) 血球産生機構に関する検討、(4) 造血器腫瘍の分子生物学的解析などを重点的に行い、臨床的研究では、(5) 急性白血病の治療法に関する検討、(6) 造血幹細胞移植療法の治療成績に関する検討などを行い、また多施設共同研究に参加した。

消化器病学は、(1) 逆流性食道炎の病態生理と食道運動機能異常による病態の検討、(2) 上部消化管疾患に対する *Helicobacter pylori* (Hp) 感染の意義、免疫学的、臨床的検討、(3) Hp 除菌の臨床的意義、(4) 各種抗潰瘍薬の比較検討、(5) 慢性炎症性腸疾患の病態生理に関する検討、(6) 大腸腺腫、癌の病態に関する検討、(7) 大腸癌の診断法に関する検討、(8) 門脈圧亢進症に対する経頸静脈的肝内門脈大循環短絡術およびその全身に及ぼす影響に関する検討、(9) 慢性活動性 C 型肝炎の治療効果と免疫能、など臨床的課題を中心に昨年度に引き続き研究を進めた。

##### 研究業績

##### 論文

(1) 原著：

- 1) Ogata K, Tamura H, Yokose N, Dan K, Nomura T : CD4 lymphopenia and risk of infection in immunogerontologically healthy elderly people. Lancet 1996 ; 347 : 1408.
- 2) Kamegai J, Hasegawa O, Minami S, Sugihara H, Wakabayashi I : The growth hormone-releasing peptide KP-102 induces c-fos expression in the arcuate nucleus. Mol Brain Res 1996 ; 39 : 153-159.
- 3) Okada K, Ishii S, Minami S, Sugihara H, Shibasaki T, Wakabayashi I : Intracerebroventricular administration of the growth hormone-releasing peptide KP-102 increases food intake in free-feeding rats. Endocrinology 1996 ; 137 : 5155-5158.
- 4) Kamegai J, Minami S, Sugihara H, Hasegawa O, Higuchi H, Wakabayashi I : Growth hormone receptor gene is expressed in neuropeptide Y neurons in hypothalamic arcuate nucleus of rats. Endocrinology 1996 ; 137 : 2109-2112.
- 5) Suzuki N, Okada K, Minami S, Wakabayashi I : Inhibitory effect of neuropeptide Y on growth hormone secretion in rats is mediated by both Y1- and Y2-receptor subtypes and abolished after anterolateral deafferentation of the medial basal hypothalamus. Regul Pept 1996 ; 65 : 145-151.
- 6) Yamada K, Shibasaki T, Tsumori C, Imaki T, Hotta M, Wakabayashi I, Demura H : Neuropeptide Y reverses corticotropin-releasing hormone and psychological stress-caused shortening of sodium pentobarbital-induced sleep in rats. Brain Res 1996 ; 725 : 272-275.
- 7) Minami S, Sugihara H, Sato J, Tatsukuchi A, Sugisaki Y, Sasano H, Wakabayashi I : ACTH independent Cushing's syndrome occurring in siblings. Clin Endocrinol (Oxf) 1996 ; 44 : 483-488.

- 8) Shuto Y, Uchida D, Onda H, Arimura A : Ontogeny of pituitary adenylate cyclase activating polypeptide and its receptor mRNA in the mouse brain. *Regul Pept* 1996 ; 67 : 79-83.
- 9) Shuto Y, Somobyyvari-Vigh A, Wakabayashi I, Arimura A : Effect of pituitary adenylate cyclase-activating polypeptide on GH gene expression in rat pituitary cells. *Ann NY Acad Sci* 1996 ; 805 : 684-691.
- 10) Sugihara H, Emoto N, Shibasaki T, Minami S, Wakabayashi I : Increased pituitary growth hormone-releasing factor (GRF) receptor messenger ribonucleic acid expression in food-deprived rats. *Brain Res* 1996 ; 742 : 355-358.
- 11) Ogata K, Yokose N, An E, Kamikubo K, Tamura H, Dan K, Sakamaki H<sup>1)</sup>, Onozawa Y<sup>1)</sup>, Hamaguchi H<sup>2)</sup>, Nomura T ( <sup>1)</sup>Tokyo Metropolitan Komagome Hospital, <sup>2)</sup>Musashino Red Cross Hospital) : Plasma soluble interleukin-2 receptor level in patients with primary myelodysplastic syndromes-a relationship with disease subtype and clinical outcome. *Br J Haematol* 1996 ; 93 : 45-52.
- 12) Tajika K, Ikebuchi K, Dan K., Asano S : A role of GAGs in ECM on morphogenesis of megakaryocytes. *Br J Haematol* 1996 ; 94 : 34-39.
- 13) Iwakiri R, Inokuchi K, Dan K, Wakabayashi I : Evaluation of semiquantitative reverse transcriptase-polymerase chain reaction assay of PML/retinoic acid receptor  $\alpha$  mRNA and in vitro differentiation assay as prognostic prediction in acute promyelocytic leukemia treated with all-trans retinoic acid. *J Nippon Med Sch* 1996 ; 63 : 259-267.
- 14) Inokuchi K, Nakamura H, Tajika K, Hasegawa S, Dan K : Pure red cell aplasia occurring 12 years after thymectomy : Successful treatment with cyclosporine. *Am J Hematol* 1996 ; 53 : 141.
- 15) Futaki M, Inokuchi K, Hanawa H, Tanosaki S, Dan K, Nomura T : Possible transforming activity of interferon regulatory factor 2 in tumorigenicity assay of NIH3T3 cells transfected with DNA from chronic myelogenous leukemia patients. *Leukemia Res* 1996 ; 20 : 601-605.
- 16) Ogata K, An E, Kamikubo K, Tamura H, Yokose N, Dan K, Nomura T : Cell cycle modulation by hematopoietic growth factors in myelodysplastic syndromes - analysis by three-color flow cytometry. *Exp Hematol* 1997 ; 25 : 8-19.
- 17) Hasegawa S, Nakayama K, Iwakiri K, An E, Gomi S, Dan K, Katsumata M, Minami M, Wakabayashi I : Herbal medicine associated lead intoxication. *Intern Med* 1997 ; 36 : 56-58.
- 18) Tsukui T, Hildesheim A<sup>1)</sup>, Schiffman MH<sup>1)</sup>, Lucci III J<sup>2)</sup>, Contois D<sup>3)</sup>, Lawler P<sup>4)</sup>, Rush BB<sup>4)</sup>, Lorincz AT<sup>5)</sup>, Corrigan A, Burk RD<sup>6)</sup>, Qu W<sup>6)</sup>, Marshall MA<sup>3)</sup>, Mann D<sup>7)</sup>, Carrington M<sup>7)</sup>, Clerici M<sup>8)</sup>, Shearer GM<sup>8)</sup>, Carbone DP<sup>2)</sup>, Scott DR<sup>4)</sup>, Houghten RA<sup>9)</sup>, Berzofsky JA<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup>Environmental Epidemiology Branch, <sup>2)</sup>University of Texas Southwestern Medical School, <sup>3)</sup>Metabolism Branch, and <sup>4)</sup>Kaiser Permanente, <sup>5)</sup>Digene Diagnostics, <sup>6)</sup>Albert Einstein College of Medicine, <sup>7)</sup>Labaratory of Viral Carcinogenesis and Intramural Support Program, Science Applications International Corporation, <sup>8)</sup>Experrimentary Immunology Branch, NCI, NIH, <sup>9)</sup>Torrey Pines Institute for Moleccular Studies) : Interleukin 2 production in vitro by peripheral lymphocytes in response to human papillomavirus-derived peptides : correlation with cervical pathology. *Cancer Res* 1996 ; 56 : 3967-3974.
- 19) Alexander Miller MA<sup>1)</sup>, Parker KC<sup>2)</sup>, Tsukui T, Pendleton CD<sup>1)</sup>, Coligan JE<sup>2)</sup>, Berzofsky JA<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Metabolism Branch, NCI and <sup>2)</sup>Labalatory of Molecular Structure, NIAID, NIH) : Molecular analysis of presentation by HLA-A2.1 of a promiscuously binding V3 loop peptide from the HIV-1 envelope protein to human cytotoxic T lymphocytes. *Int Immunol* 1996 ; 8 : 641-649.
- 20) Kishida T, Shinozawa I, Tanaka S, Hoshino T, Tatsuguchi A, Feng L, Sato J, Fujimori S, Tachikawa H, Yamakado S, Tamagawa Y, Taguchi F, Yoshida Y, Kobayashi M : Significance of serum iron and ferritin



in patients with colorectal adenomas. Scand J Gastroenterol 1997 ; 32 : 233-237.

- 21) Iwakiri K, Kobayashi M, Kotoyori M, Yamada H, Sugiura T, Nakagawa Y : Relationship between postprandial esophageal acid exposure and meal volume and fat content. Dig Dis Sci 1996 ; 4 : 926-930.
  - 22) 金沢秀典, 多田教彦, 松坂 聡, 長田祐二, 小泉信人, 間宮康貴, 吉本 均, 中塚雄久, 吉沢雅史, 斎藤 整, 黒田 肇, 小林正文 : 経頸静脈的肝内門脈大循環短絡術が食道静脈瘤へ及ぼす影響—門脈圧と内視鏡像の比較—. Gastroenterol Endosc 1996 ; 38 : 2603-2609.
  - 23) 中塚雄久, 金沢秀典, 間宮康貴, 長田祐二, 吉本 均, 斎藤 整, 星長春樹, 吉沢雅史, 多田教彦, 松坂 聡, 黒田 肇, 小林正文 : TIPS および術後短絡路狭窄による門脈圧変動が portal hypertensive gastropathy に及ぼす影響. Gastroenterol Endosc 1996 ; 38 : 1953-1960.
  - 24) 星長春樹, 中塚雄久, 名知志子, 間宮康貴, 長田祐二, 小泉信人, 吉本 均, 竹内 司, 斎藤 整, 吉沢雅史, 津久井拓, 多田教彦, 松坂 聡, 金沢秀典, 黒田 肇, 小林正文 : B 型急性肝炎の発症を期に診断された肝右葉形成不全症の1例. 消化器内視鏡の進歩 1996 ; 149 : 224-225.
  - 25) 末岡伸夫, 西垣 均, 岩切勝彦, 竹内 司, 斎藤 整, 沢田秀雄, 長谷川修, 青木正明<sup>1)</sup>, 小林正文, 笹島耕二<sup>2)</sup>, 山下精彦<sup>3)</sup>, 恩田昌彦<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>公立昭和病院, <sup>2)</sup>第1外科, <sup>3)</sup>千葉北総病院外科) : 逆流性食道炎による広範な Barrett 食道の1例. Gastroenterol Endosc 1996 ; 38 : 1057-1061.
  - 26) 石田 博, 平川恒久, 小林正文 : 反復性腹痛を伴った小児 nodular gastritis の1例. 消化器内視鏡の進歩 1996 ; 48 : 160-161.
  - 27) 伊月葉子, 辰口篤志, 藤森俊二, 立川裕理, 沢田秀雄, 山門 進, 田口文彦, 田口克司, 玉川恭士, 岸田輝幸, 吉田 豊, 小林正文 : Multiple lymphomatous polyposis を認めた全身性悪性リンパ種の1例. 消化器内視鏡の進歩 1996 ; 48 : 111-114.
  - 28) 山田久木, 岩切勝彦, 米澤真興, 琴寄 誠, 杉浦敏昭, 二神生爾, 中川義也, 吉沢雅史, 末岡伸夫, 香川隆男, 平川恒久, 川上明彦, 瀬底正彦, 小林正文 : びまん性食道痙攣からの移行が考えられた vigorous achalasia の1例. 消化器内視鏡の進歩 1996 ; 48 : 89-92.
  - 29) 岩切勝彦, 中川義也, 琴寄 誠, 山田久木, 杉浦敏昭, 二神生爾, 末岡伸夫, 川上明彦, 瀬底正彦, 香川隆男, 平川恒久, 小林正文 : 食道炎の重症度と胃液内総胆汁酸濃度・pH. 消化器内視鏡の進歩 1996 ; 48 : 48-49.
  - 30) 緒方清行, 山田 隆, 檀 和夫 : 少量化学療法. 臨床血液 1996 ; 37 : 777-781.
  - 31) 堀越 昇, 馬島 尚, 田中憲一, 森 清志, 佐々木常雄, 檀 和夫, 仁井谷久暢 : 各種抗悪性腫瘍剤による悪心、嘔吐に対するアザセトロン錠の臨床評価—オープン試験—. 臨床医薬 1996 ; 12 : 3113-3129.
  - 32) 杉原 仁, 若林一二 : 異所性 ACTH 症候群. 日医大誌 1997 ; 64 : 65-68.
- (2) 総説 :
- 1) 若林一二 : Growth Hormone-Releasing Peptide (GHRP). 内分泌・糖尿病科 1997 ; 4 : 266-274.
  - 2) 江本直也 : 下垂体腫瘍と成長因子. 内分泌・糖尿病科 1996 ; 3 : 389-394.
  - 3) 江本直也, 若林一二 : 性腺機能検査. 看護技術 1996 ; 42 : 61-63.
  - 4) 芝崎 保, 若林一二 : 下垂体機能検査. 看護技術 1996 ; 42 : 56-60.
  - 5) 芝崎 保, 若林一二 : ストレスと視床下部—下垂体—甲状腺系. 心身医療 1996 ; 8 : 27-30.
  - 6) 芝崎 保 : 摂食調節物質に関する最近の知見. 内分泌・糖尿病科 1997 ; 4 : 280-284.
  - 7) 若林一二 : 下垂体前葉ホルモン系 : ホルモンの基礎値 LH・FSH (黄体化ホルモン・卵胞刺激ホルモン). medicina 1996 ; 33 : 2254-2257.
  - 8) 檀 和夫 : 巨赤芽球性貧血 (特集 : ここまでわかってきた貧血—病態と治療方針—). Pharma Medica 1996 ; 14 : 25-29.
  - 9) 檀 和夫 : 巻頭言「古くて新しいテーマ“貧血”(特集 : 見落としてはいけない貧血). 治療 1996 ; 78 : 2712-2713.
  - 10) 檀 和夫 : グラビア「目で見る貧血」(特集 : 見落としてはいけない貧血). 治療 1996 ; 78 : 2710-2711.

- 11) 檀 和夫：特発性血小板減少性紫斑病の病態と治療。日医大誌 1996；63：319-326。
- 12) 檀 和夫：白血病合併妊娠（特集：周産期の血液疾患）。周産期医学 1996；26：1379-1382。
- 13) 長谷川節雄：臍帯血幹細胞移植（認定内科医のためのトピックシリーズ）。内科専門医会誌 1996；8：395-396。
- 14) 小林正文：胃食道逆流症（GERD）。老化と疾患 1996；8：1420-1421。
- 15) 小林正文：GEDR の発生機序。臨床消化器内科 1996；11：1539-1548。
- 16) 瀬底正彦：胃・十二指腸潰瘍が疑われたら一問診のコツと診断のポイント。治療 1996；78：41-46。

## 著書

- 1) 江本直也，對馬敏夫：〔分担〕無月経・乳汁分泌症候群。“内科治療ガイド'96”（Medical Practice 編集委員会編），1996；pp1067-1068，文光堂。
- 2) 芝崎 保：〔分担〕empty sella 症候群。“プライム臨床検査・診断指針”（大久保昭行ら編），1996；pp650-651，南光堂。
- 3) 檀 和夫：〔分担〕寒冷凝集反応。“症候・異常値診断マニュアル”（中井利昭編），1996；pp314-315，中外医学社。
- 4) 檀 和夫：〔分担〕巨赤芽球性貧血（悪性貧血）。“薬の正しい使い方”（日本医師会編），1996；pp213，医学書院。
- 5) 檀 和夫：〔分担〕自己免疫性血液疾患。“メディカル用語ライブラリー・免疫疾患—分子メカニズムから病態・診断・治療まで—”（小池隆夫編），1996；pp130-131，羊土社。
- 6) 檀 和夫：〔分担〕Schonlein-Henoch 紫斑病。“300疾患診療マニュアル第2版”（中井利昭編），1996；pp257，中外医学社。
- 7) 檀 和夫：〔分担〕特発性血小板減少性紫斑病。“300疾患診療マニュアル第2版”（中井利昭編），1996；pp258-259，中外医学社。
- 8) 檀 和夫：〔分担〕血栓性血小板減少性紫斑病。“300疾患診療マニュアル第2版”（中井利昭編），1996；pp260，中外医学社。
- 9) 石田 博，平川恒久，小林正文：〔分担〕小児 Nodular Gastritis。“続外来で知っておきたい消化器疾患”（神保勝一編），1996；pp50-52，ベクトルコア。
- 10) 小林正文，平川恒久：〔分担〕消化性潰瘍治療における攻撃因子抑制剤の役割。“消化性潰瘍—21世紀への道標—”（寺野 彰編），1996；pp181-188，国際医書出版。
- 11) 小林正文：〔分担〕急性腸炎・消化器疾患。“内科治療ガイド'96”（和田攻ほか編），1996；pp609-613，文光堂。
- 12) 瀬底正彦：〔分担〕妊娠中に発症した逆流性食道炎（胃食道逆流症 GERD）。“続外来で知っておきたい消化器疾患”（神保勝一編），1996；pp22-23，ベクトルコア。
- 13) 瀬底正彦：〔分担〕胃迷入腺 aberrant pancreas。“続外来で知っておきたい消化器疾患”（神保勝一編），1996；pp89-90，ベクトルコア。

## 学会発表

### (1) シンポジウム：

- 1) Minami S, Kamegai J, Sugihara H, Suzuki N, Wakabayashi I : Growth hormone inhibits its own secretion by acting on the hypothalamus through its receptor expressed on neuropeptide Y neurons in the arcuate nucleus and somatostatin neurons in the periventricular nucleus. The 9th Symposium on Growth Hormone and Related Factors (Kobe), 1997. 2.
- 2) 金沢秀典，隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線科)：TIPS の臨床的効果と問題点。第55回日本医学放射線学会学術発表会。1996. 4.
- 3) 猪口孝一：造血器腫瘍における DCC 癌抑制遺伝子の異常（造血器疾患の分子医学・最近の進歩）。第58回日本血

液学会総会, 1996. 4.

- 4) 杉原 仁, 芝崎 保: 免疫担当細胞におけるバゾプレッシンの意義 (神経内分泌系と免疫系のクロストーク). 第23回日本神経内分泌学会, 1996. 10.
- 5) 檀 和夫: 血液疾患の治療における G-CSF の役割 (造血因子療法の臨床). 第38回日本臨床血液学会総会, 1996. 11.

(2) パネルディスカッション:

- 1) 末岡伸夫, 小林正文: 24時間 pH モニタリングからみたロスアンゼルス内視鏡分類の検討 (逆流性食道炎の内視鏡的診断基準—ロスアンゼルス内視鏡分類をめぐって). 第51回日本消化器内視鏡学会総会, 1996. 4.

(3) ワークショップ:

- 1) 小泉信人, 金沢秀典, 多田教彦, 間宮康貴, 長田祐二, 中塚雄久, 吉本 均, 齊藤 整, 吉沢雅史, 松坂 聡, 黒田 肇, 小林正文: TIPS の食道静脈瘤に及ぼす効果. 第51回日本消化器内視鏡学会総会, 1996. 4.
- 2) 多田教彦, 金沢秀典: 経頸静脈的肝内門脈大循環短絡術 (TIPS) による門脈圧亢進症の治療. 第31回日本肝臓学会東部会, 1996. 11.

(4) 一般講演:

- 1) Ishii S, Okada K, Suzuki N, Sugihara H, Minami S, Shibasaki T, Wakabayashi I: Effect of growth hormone-releasing peptide (KP-102) on food intake in rats. 10th International Congress of Endocrinology (San Francisco), 1996. 6.
- 2) Emoto N, Sugihara H, Minami S, Wakabayashi I: Effect of growth factors on synthesis of extracellular proteoglycans by cultured rat smooth muscle cells. 10th International Congress of Endocrinology (San Francisco), 1996. 6.
- 3) Minami S, Suzuki N, Okada K, Sugihara H, Shibasaki T, Wakabayashi I: Effect of intrahypothalamic microinjection of rat growth hormone (GH) on blood GH secretory profile in rats. 10th International Congress of Endocrinology (San Francisco), 1996. 6.
- 4) Shibasaki T, Takeuchi K, Yamauchi N, Sugihara H, Emoto N, Minami S, Wakabayashi I: Glucocorticoids regulate stress- or depolarization-induced release of noradrenaline (NA) in the hypothalamic paraventricular nucleus (PVN). 10th International Congress of Endocrinology (San Francisco), 1996. 6.
- 5) Tanaka S, Shinozawa I, Hoshino T, Feng L, Tatsuguchi A, Sato J, Itsuki Y, Fujimori S, Tachikawa H, Tamagawa Y, Taguchi F, Kishida T, Yoshida Y, Kobayashi M: Clinical evaluation of 40 patients with ischemic colitis in our department for the past 10 years. 10th Asia-Pacific Congress of Gastroenterology, 7th Asia-Pacific Congress of Gastroenterological Endoscopy (Yokohama), 1996. 9.
- 6) Shinozawa I, Tanaka S, Hoshino T, Feng L, Tatsuguchi A, Sato J, Itsuki Y, Fujimori S, Tachikawa H, Tamagawa Y, Taguchi F, Kishida T, Yoshida Y, Kobayashi M: Evaluation of patients with colorectal polyp in our department for the past 5 years. 10th Asia-Pacific Congress of Gastroenterology, 7th Asia-Pacific Congress of Gastroenterological Endoscopy (Yokohama), 1996. 9.
- 7) Sato J, Hoshino T, Shinozawa I, Tanaka S, Feng L, Tatsuguchi A, Itsuki Y, Fujimori S, Tachikawa H, Tamagawa Y, Taguchi F, Kishida T, Yoshida Y, Kobayashi M: Clinical evaluation of 11 patients with acute hemorrhagic rectal ulcer. 10th Asia-Pacific Congress of Gastroenterology, 7th Asia-Pacific Congress of Gastroenterological Endoscopy (Yokohama), 1996. 9.
- 8) Hoshino T, Shinozawa I, Tanaka S, Feng L, Tatsuguchi A, Sato J, Itsuki Y, Fujimori S, Tachikawa H, Tamagawa Y, Taguchi F, Kishida T, Yoshida Y, Kobayashi M: The lower intestinal lesions and complications of leukemia. 10th Asia-Pacific Congress of Gastroenterology, 7th Asia-Pacific Congress of Gastroenterological Endoscopy (Yokohama), 1996. 9.

- 9) Yamakado S, Shibata Y, Yamate Y, Shinozawa I, Tanaka S, Hoshino T, Tatsuguchi A, Sato J, Fujimori S, Tachikawa H, Tamagawa Y, Taguchi F, Kishida T, Yoshida Y, Kobayashi M : The effect of cisapride in the colonic mucosal blood flow. 10th Asia-Pacific Congress of Gastroenterology, 7th Asia-Pacific Congress of Gastroenterological Endoscopy (Yokohama), 1996. 9.
- 10) Sueoka N, Nishigaki H, Aoki M, Kobayashi M : Development of "short Barrett" and Barrett's esophagus. 10th Asia-Pacific Congress of Gastroenterology, 7th Asia-Pacific Congress of Gastroenterological Endoscopy (Yokohama), 1996. 9.
- 11) Tsukui T, Hildesheim A<sup>1)</sup>, Schiffman MH<sup>1)</sup>, Lucci III J<sup>2)</sup>, Lorincz AT<sup>3)</sup>, Burk RD<sup>4)</sup>, Scott DR<sup>5)</sup>, Shearer GM<sup>6)</sup>, Houghten RA<sup>7)</sup>, Takahashi H<sup>8)</sup>, Yokomuro K<sup>8)</sup>, Berzofsky JA<sup>9)</sup> (<sup>1)</sup>Environmental Epidemiology Branch, <sup>8)</sup>Experimental Immunology Branch and <sup>9)</sup>Metabolism Branch, NCI, NIH, <sup>2)</sup>University of Texas Southwestern Medical School, <sup>3)</sup>Kaiser Permanente, <sup>4)</sup>Digene Diagnostics, <sup>5)</sup>Albert Einstein College of Medicine, <sup>7)</sup>Torrey Pines Institute for Molecular Studies, <sup>8)</sup>Department of Microbiology and Immunology, Nippon Medical school) : IL-2 response of peripheral lymphocytes to human papillomavirus-derived peptides among women of varying level of cervical pathology. 第26回日本免疫学会総会, 1996. 11.
- 12) 岡田憲明, 石井新哉, 鈴木信周, 杉原 仁, 南 史朗, 芝崎 保, 若林一三 : 成長ホルモン分泌促進ペプチド (GHRP ; KP-102) の摂食促進作用. 第93回日本内科学会講演会, 1996. 4.
- 13) 安 恵美, 緒方清行, 田村秀人, 横瀬紀夫, 中村恭子, 檀 和夫, 野村武夫 : フローサイトメトリー法による急性骨髄生白血病の微小残存病変解析 - CD15 + CD117 + 芽球に関する検討. 第93回日本内科学会講演会, 1996. 4.
- 14) 杉浦敏昭, 岩切勝彦, 琴寄 誠, 山田久木, 中川義也, 川上明彦, 小林正文, 大國真一<sup>1)</sup>, 渡 淳<sup>1)</sup>, 水野杏一<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>千葉北総病院内科) : 非心臓性胸痛患者の食道内圧検査所見. 第93回日本内科学会講演会, 1996. 4.
- 15) 岸田輝幸, 篠澤 功, 田中 周, 星野哲夫, 辰口篤志, 佐藤 順, 藤森俊二, 田口文彦, 玉川恭士, 吉田 豊, 小林正文 : 血液疾患における大腸腺腫・癌の合併頻度. 第93回日本内科学会講演会, 1996. 4.
- 16) 塙 秀樹, 猪口孝一, 山口博樹, 中村佳代, 田野崎栄, 岩切理歌, 二木真琴, 檀 和夫 : 慢性骨髄性白血病および骨髄異形成症候群における RT-PCR 法による c-mpl の発現の検討. 第58回日本血液学会総会, 1996. 4.
- 17) 二木真琴, 猪口孝一, 山口博樹, 塙 秀樹, 田野崎栄, 松岡弘樹, 岩切理歌, 三宅弘一, 檀 和夫, 野村武夫 : 慢性骨髄性白血病 (CML) の血小板増多と bcr-abl mRNA サブタイプとの関連 - 第二報 -. 第58回日本血液学会総会, 1996. 4.
- 18) 田野崎栄, 猪口孝一, 塙 秀樹, 岩切理歌, 二木真琴, 檀 和夫, 池島三代子, 島田 隆 : 急性白血病における human MSH3 と microsatellite instability, 染色体異常, DCC 発現異常との関連. 第58回日本血液学会総会, 1996. 4.
- 19) 田村秀人, 緒方清行, 横瀬紀夫, 安 恵美, 上久保圭子, 中村恭子, 檀 和夫, 野村武夫 : 急性骨髄生白血病 (AML) の生存期間および寛解 (CR) 持続に関連する因子の検討. 第58回日本血液学会総会, 1996. 4.
- 20) 山田 隆, 中村佳代, 中村恭子, 塙 秀樹, 田野崎栄, 山本 泰, 田村秀人, 岩切理歌, 横瀬紀夫, 二木真琴, 安 恵美, 田近賢二, 猪口孝一, 緒方清行, 五味聖二, 田辺義博, 大木一郎, 長谷川節雄, 檀 和夫, 野村武夫 : 当科における成人急性骨髄性白血病再発例の検討. 第58回日本血液学会総会, 1996. 4.
- 21) 岩切理歌, 猪口孝一, 二木真琴, 山口博樹, 塙 秀樹, 田野崎栄, 檀 和夫, 野村武夫 : Ph1陽性血小板増多症 (Ph1+ET) 様 CML の臨床像, 分子生物学的考察について. 第58回日本血液学会総会, 1996. 4.
- 22) 檀 和夫, 浅野茂隆, 尾山 淳, 太田和雄, rhG-CSF 悪性リンパ腫研究会 : 非ホジキンリンパ腫に対する G-CSF 併用 Biweekly CHOP 療法. 第58回日本血液学会総会, 1996. 4.
- 23) 緒方清行, 田村秀人, 横瀬紀夫, 安 恵美, 檀 和夫, 野村武夫 : 高齢者の免疫機能に関する検討 : インターロイキン 2 (IL-2) および IL-4産生能について. 第58回日本血液学会総会, 1996. 4.
- 24) 横瀬紀夫, 緒方清行, 安 恵美, 田村秀人, 二木真琴, 上久保圭子, 檀 和夫, 篠原多美子 : t(8;14) (q24 ; q32)

- 転座を有し、T細胞表面形質を示した非ホジキンリンパ腫。第58回日本血液学会総会，1996。4。
- 25) 田近賢二，檀 和夫，池淵研二，岡野 明，浅野茂隆：成熟に伴う巨核球細胞骨格の変化；第2報。第58回日本血液学会総会，1996。4。
- 26) 三宅弘一，鈴木紀子，松岡弘樹，玉寄謙治，島田 隆，田野崎栄，猪口孝一，檀 和夫，野村武夫：HIV ベクターによる ATL の遺伝子治療の検討。第58回日本血液学会総会，1996。4。
- 27) 山田久木，岩切勝彦，琴寄 誠，杉浦敏昭，二神生爾，中川義也，末岡伸夫，香川隆男，平川恒久，川上明彦，瀬底正彦，小林正文：健常者での体位の変化は食後の胃食道逆流に影響を与えるか？。第82回日本消化器病学会総会，1996。4。
- 28) 岩切勝彦，琴寄 誠，山田久木，杉浦敏昭，二神生爾，中川義也，末岡伸夫，香川隆男，平川恒久，川上明彦，瀬底正彦，小林正文：健常者における下部食道括約部（LES）圧，一過性 LES 弛緩頻度，一次蠕動波に及ぼす体位の影響。第82回日本消化器病学会総会，1996。4。
- 29) 琴寄 誠，岩切勝彦，山田久木，杉浦敏昭，二神生爾，中川義也，末岡伸夫，香川隆男，平川恒久，川上明彦，瀬底正彦，小林正文：食事中的『つかえ感』を訴える症例の食道内圧所見。第82回日本消化器病学会総会，1996。4。
- 30) 西垣 均，末岡伸夫，山田久木，岩切勝彦，青木正明，小林正文：Barret 食道の進展に関する検討。第51回日本消化器内視鏡学会総会，1996。4。
- 31) 伊月葉子，西垣 均，山田久木，二神生爾，広田 薫，丸山正明，香川隆男，平川恒久，小林正文：医療従事者における *Helicobacter Pylori* 陽性率の検討。第82回日本消化器病学会総会，1996。4。
- 32) 長田祐二，金沢秀典，間宮康貴，吉本 均，中塚雄久，小泉信人，竹内 司，星長春樹，斉藤 整，吉沢雅史，多田教彦，松坂 聡，黒田 肇，小林正文，川俣博志<sup>1)</sup>，大矢 徹<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>放射線科）：TIPS 後の肝性脳症（PSE）の発生に関する検討。第82回日本消化器病学会総会，1996。4。
- 33) 吉本 均，金沢秀典，斉藤 整，多田教彦，松坂 聡，黒田 肇，小林正文：経頸静脈の肝内門脈大循環短絡術（TIPS）後の Shunt dysfunction 例の予測には門脈本幹最高血流速度と短絡路内最高血流速度のどちらが有用か。第82回日本消化器病学会総会，1996。4。
- 34) 中塚雄久，高橋秀美<sup>1)</sup>，杉山弘高<sup>2)</sup>，中川洋子<sup>1)</sup>，金沢秀典，黒田 肇，小林正文，横室公三<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>微生物免疫学教室，<sup>2)</sup>National Jewish Center, USA）：肝細胞癌特異的キラー細胞の誘導とその免疫学的性状。第32回日本肝臓学会総会，1996。4。
- 35) 杉浦敏昭，琴寄 誠，山田久木，中川義也，二神生爾，岩切勝彦，小林正文，渡 淳<sup>1)</sup>，大國真一<sup>1)</sup>，水野杏一<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>千葉北総病院）：狭心症と Nutcracker esophagus の合併を認めた1例。第445回日本内科学会関東地方会，1996。5。
- 36) 中村弘之，山田久木，中村佳代，安 恵美，田近賢二，五味聖二，猪口孝一，長谷川節雄，檀 和夫：胸腺腫摘出後12年目に発症し，自然寛解を繰り返した赤芽球癆の1例。第126回日本臨床血液学会例会，1996。5。
- 37) 平塚哲郎，水木太郎，篠澤 功，田中 周，星野哲夫，辰口篤志，佐藤 順，藤森俊二，伊月葉子，安 恵美，岡田憲明，立川裕理，玉川恭士，田口文彦，岸田輝幸，吉田 豊，小林正文：大腸癌を合併した骨髄異形成症候群（MDS）の1例。第239回日本消化器病学会関東支部例会，1996。5。
- 38) 佐藤 順，田口文彦，岸田輝幸，小林正文，三石 卓<sup>1)</sup>，香取利一<sup>1)</sup>，桑名壮太郎<sup>1)</sup>，柴野 実<sup>2)</sup>，堤 強<sup>2)</sup>，篠田 哲<sup>2)</sup>，皿谷弘樹<sup>2)</sup>（<sup>1)</sup>三菱重工大倉山病院内科，<sup>2)</sup>三菱重工大倉山病院放射線科）：人間ドックにおける注腸造影検査の成績。第35回日本消化器集団検診学会総会，1996。5。
- 39) 星長春樹，中塚雄久，名知志子，間宮康貴，長田祐二，小泉信人，吉本 均，竹内 司，斉藤 整，吉沢雅史，津久井拓，多田教彦，松坂 聡，金沢秀典，黒田 肇，小林正文：B 型急性肝炎の発症を期に診断された肝右葉形成不全の1例。第62回日本消化器内視鏡学会関東地方会，1996。6。
- 40) 平川恒久，吉田 豊，香川隆男，丸山正明，伊月葉子，小林正文：スペシャルフォーラム内視鏡検査における感

- 染対策。第62回日本消化器内視鏡学会関東地方会，1996。6。
- 41) 杉浦敏昭，琴寄 誠，山田久木，中川義也，二神生爾，岩切勝彦，末岡伸夫，平川恒久，川上明彦，瀬底正彦，小林正文：食道微小平滑筋腫の1例。第62回消化器内視鏡学会関東地方会，1996。6。
  - 42) 山口博樹，中山一隆，永田和弘，中村佳代，安 恵美，田近賢二，五味聖二，長谷川節雄，檀 和夫：ATG，シクロスポリン，G-CSF，メチルプレドニゾロン併用療法を施行したC型慢性肝炎合併重症再生不良性貧血貧血の臨床経過。第446回日本内科学会関東地方会，1996。6。
  - 43) 岡田憲明，石井新哉，鈴木信周，小野瀬裕之，杉原 仁，南 史朗，江本直也，芝崎 保，若林一二：成長ホルモン分泌促進ペプチド（GHRP；KP-102）の摂食促進作用とNeuropeptide Y（NPY）の関係。第69回日本内分泌学会学術総会，1996。7。
  - 44) 江本直也，池川志郎<sup>1)</sup>，野添康子<sup>2)</sup>，對馬敏夫<sup>3)</sup>，鎮目和夫<sup>2)</sup>，若林一二（<sup>1)</sup>東大医科研，<sup>2)</sup>成長科学協会，<sup>3)</sup>東京女子医大）：FGF 受容体点変異を持つ軟骨発育不全症患者リンパ芽球のbasic FGFに対する増殖反応の検討。第69回日本内分泌学会学術総会，1996。7。
  - 45) 長谷川修，南 史朗，杉原 仁，小野瀬裕之，鈴木信周，芝崎 保，若林一二：視床下部と下垂体の成長ホルモン受容体遺伝子発現に対するグルココルチコイドの効果。第69回日本内分泌学会学術総会，1996。7。
  - 46) 周東祐仁，若林一二，有村 章<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>チューレン大学）：Pituitary adenylate cyclase activating polypeptide（PACAP）の成長ホルモン遺伝子発現に対する作用。第69回日本内分泌学会学術総会，1996。7。
  - 47) 安保賢一，杉原 仁，石井新哉，芝崎 保，長谷川修，周東祐仁，竹内香織，南 史朗，村上 尚<sup>1)</sup>，島 健二<sup>2)</sup>，若林一二（<sup>1)</sup>徳島大学検査部）：ラット肥満遺伝子（obese gene）発現に及ぼす加齢の影響。第69回日本内分泌学会学術総会，1996。7。
  - 48) 石井新哉，杉原 仁，南 史朗，笹野公伸<sup>1)</sup>，長谷川修，岡田憲明，江本直也，芝崎 保，若林一二（<sup>1)</sup>東北大第二病理）：原発性色素性副腎皮質結節性異形成（PPNAD）によるCushing症候群の家系。第69回日本内分泌学会学術総会，1996。7。
  - 49) 鈴木信周，芝崎 保，竹内香織，山内直子，杉原 仁，江本直也，南 史朗，若林一二：副腎摘除およびステロイドによる室傍核内ノルアドレナリン（NA）分泌への影響—マイクロダイアリシス法による検討。第69回日本内分泌学会学術総会，1996。7。
  - 50) 亀谷 純，南 史朗，長谷川修，小野瀬裕之，鈴木信周，杉原 仁，江本直也，芝崎 保，若林一二：成長ホルモン分泌促進ペプチドの視床下部における作用機序。第69回日本内分泌学会学術総会，1996。7。
  - 51) 杉原 仁，南 史朗，長谷川修，岡田憲明，小野瀬裕之，鈴木信周，石井新哉，江本直也，芝崎 保，若林一二：ラット下垂体GH-releasing factor（GRF）受容体遺伝子発現に及ぼす絶食の影響。第69回日本内分泌学会学術総会，1996。7。
  - 52) 南 史朗，鈴木信周，岡田憲明，亀谷 純，杉原 仁，江本直也，芝崎 保，若林一二：成長ホルモンの視床下部局所投与の効果。第69回日本内分泌学会学術総会，1996。7。
  - 53) 小野瀬裕之，南 史朗，杉原 仁，長谷川修，岡田憲明，鈴木信周，石井新哉，芝崎 保，若林一二：絶食ラットの視床下部ニューロペプチドY（NPY）遺伝子発現と栄養素の関係。第69回日本内分泌学会学術総会，1996。7。
  - 54) 田村秀樹，杉原 仁，南 史朗，江本直也，芝崎 保，若林一二，笹野公伸<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>東北大病理）：両側副腎腫瘍によるCushing症候群。第447回日本内科学会関東地方会，1996。7。
  - 55) 杉浦敏昭，琴寄 誠，山田久木，中川義也，二神生爾，岩切勝彦，津久井拓，末岡伸夫，川上明彦，平川恒久，小林正文：Ca拮抗薬が著効を示したHypertensive Lower Esophageal Sphincter（HLES）の1例。第240回日本消化器病学会関東支部例会，1996。7。
  - 56) 木村 祐，横瀬紀夫，田中 周，辰口篤志，佐藤 順，藤森俊二，岸田輝幸，吉田 豊，小林正文：大腸癌を合併した骨髄異形成症候群の3例。第448回日本内科学会関東地方会，1996。9。

- 57) 中川義也, 岩切勝彦, 琴寄 誠, 間宮康貴, 山田久木, 杉浦敏昭, 長田祐二, 吉本 均, 斉藤 整, 多田教彦, 松坂 聡, 金沢秀典, 川上明彦, 小林正文: 食道静脈瘤患者における TIPS 前後の食道運動機能. 第38回日本消化器病学会大会プレナリーセッション, 1996. 9.
- 58) 斎藤 整, 金沢秀典, 吉本 均, 檜原義之, 間宮康貴, 長田祐二, 小泉信人, 名知志子, 竹内 司, 星長春樹, 吉沢雅史, 多田教彦, 松坂 聡, 黒田 肇, 小林正文: 経頸静脈的肝内門脈大循環短絡術 (TIPS) 後の肝動脈血流の変化について—カラードブラ超音波検査による検討—. 第38回日本消化器病学会大会, 1996. 9.
- 59) 間宮康貴, 金沢秀典, 長田祐二, 吉本 均, 斉藤 整, 吉沢雅史, 多田教彦, 松坂 聡, 黒田 肇, 小林正文, 川俣博志<sup>1)</sup>, 大矢 徹<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>放射線科): 経頸静脈的肝内門脈大循環短絡術 (TIPS) 後合併症としての溶血に関する検討. 第38回日本消化器病学会大会, 1996. 9.
- 60) 長田祐二, 松坂 聡, 金沢秀典, 間宮康貴, 吉本 均, 星長春樹, 斉藤 整, 多田教彦, 黒田 肇, 小林正文, 川俣博志<sup>1)</sup>, 大矢 徹<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>放射線科): 経頸静脈的肝内門脈大循環短絡術 (TIPS) 後に遅発性胆道出血を生じた3例. 第38回日本消化器病学会大会, 1996. 9.
- 61) 三宅一昌, 金沢秀典, 長田祐二, 竹内 司, 星長春樹, 斉藤 整, 吉沢雅史, 多田教彦, 松坂 聡, 小林正文: EUS により評価した TIPS の胃静脈瘤に対する効果. 第52回日本消化器内視鏡学会総会, 1996. 9.
- 62) 中塚雄久, 金沢秀典, 間宮康貴, 長田祐二, 吉本 均, 小泉信人, 星長春樹, 斎藤 整, 吉沢雅史, 多田教彦, 松坂 聡, 黒田 肇, 小林正文: 経頸静脈的肝内門脈大循環短絡術 (TIPS) および術後の短絡路狭窄による門脈圧変動と portal hypertensive gastropathy (PHG) の変化. 第52回日本消化器内視鏡学会総会, 1996. 9.
- 63) 長田祐二, 金沢秀典, 間宮康貴, 吉本 均, 星長春樹, 斉藤 整, 多田教彦, 松坂 聡, 黒田 肇, 小林正文: 大量腹水に対する TIPS の初期臨床的効果. 第3回日本門脈圧亢進症食道静脈瘤学会, 1996. 9.
- 64) 間宮康貴, 金沢秀典, 竹内 司, 吉本 均, 斉藤 整, 多田教彦, 松坂 聡, 黒田 肇, 小林正文, 川俣博志<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>放射線科): TIPS の血小板に及ぼす影響. 第3回日本門脈圧亢進症食道静脈瘤学会, 1996. 9.
- 65) 吉本 均, 金沢秀典, 斉藤 整, 間宮康貴, 長田祐二, 中塚雄久, 星長春樹, 吉沢雅史, 多田教彦, 松坂 聡, 黒田 肇, 小林正文: TIPS 施行時における超音波誘導下門脈穿刺法の有効性の検討. 第3回日本門脈圧亢進症食道静脈瘤学会, 1996. 9.
- 66) 川俣博志<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>, 金沢秀典, 斉藤 整, 米谷 隆<sup>2)</sup>, 近藤栄作<sup>2)</sup>, 松崎浩司<sup>2)</sup>, 大塚幸雄<sup>3)</sup>, 稲森英明<sup>3)</sup>, 松橋信行<sup>3)</sup>, 石川 隆<sup>3)</sup>, 大西 誠<sup>3)</sup> (<sup>1)</sup>放射線科, <sup>2)</sup>東邦大学第1内科, <sup>3)</sup>東京大学第3内科): TIPS を用いた門脈血栓症の治療. 第3回日本門脈圧亢進症食道静脈瘤学会, 1996. 9.
- 67) 斎藤 整: TIPS 後の短絡路の評価としての超音波カラードブラ検査の有用性について. 第4回千葉県超音波カラードブラ検査研究会, 1996. 9.
- 68) 山口博樹, 中村弘之, 間宮康貴, 山本 泰, 田近賢二, 五味聖二, 杉原 仁, 芝崎 保, 檀 和夫, 若林一二: ACTH 単独欠損症の合併が疑われた急性リンパ性白血病の1例. 第449回日本内科学会関東地方会, 1996. 10.
- 69) 小野瀬裕之, 石井新哉, 鈴木信周, 周東祐仁, 長谷川修, 杉原 仁, 江本直也, 南 史朗, 芝崎 保, 若林一二: 経蝶形骨下垂体腺腫摘除後, 長期間の寛解を経て再発した Cushing 病. 第69回日本内分泌学会秋季学術大会, 1996. 10.
- 70) 鈴木信周, 周東祐仁, 小野瀬裕之, 岡田憲明, 杉原 仁, 江本直也, 南 史朗, 芝崎 保, 若林一二: SIADH, 高プロラクチン血症, 無月経と頑固な食欲不振を伴った急性特発性汎自律神経失調症 (AIPD). 第69回日本内分泌学会秋季学術大会, 1996. 10.
- 71) 石井新哉, 芝崎 保, 杉原 仁, 長谷川修, 南 史朗, 飯田 満<sup>1)</sup>, 村上 尚<sup>1)</sup>, 島 健二<sup>1)</sup>, 若林一二 (<sup>1)</sup>徳島大臨床検査医学): ラットレプチンのラット中枢神経系内投与による摂食および視床下部内 neuropeptide Y (NPY) 遺伝子発現に対する作用の検討. 第23回日本神経内分泌学会, 1996. 10.
- 72) 南 史朗, 鈴木信周, 岡田憲明, 杉原 仁, 芝崎 保, 若林一二: 成長ホルモンによる自己分泌調節機構. 第23回日本神経内分泌学会, 1996. 10.

- 73) 竹内香織, 芝崎 保, 山内直子, 杉原 仁, 南 史朗, 若林一二: Interleukin (IL) -1 $\alpha$  および IL-1 $\beta$  の脳室内投与による体温と室傍核 (PVN) 内ノルアドレナリン (N) 分泌への影響. 第23回日本神経内分泌学会, 1996. 10.
- 74) 江本直也, 小野瀬裕之, 南 史朗, 若林一二: FRTL-5ラット甲状腺細胞における細胞表面へパランサルフェイトの代謝率の検討. 第39回日本甲状腺学会, 1996. 10.
- 75) 小野瀬裕之, 橋本充弘, 竹内 司, 長谷川修, 杉原 仁, 南 史朗, 芝崎 保, 若林一二, 田口 克<sup>1)</sup>, 須磨先亮<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>東戸塚記念病院, <sup>2)</sup>筑波大学小児科): 慢性活動性 EB ウイルス感染症の1例. 第450回日本内科学会関東地方会, 1996. 11.
- 76) 長谷川節雄, 五味聖二, 田近賢二, 檀 和夫: 造血因子と免疫抑制剤を用いた臍帯血幹細胞の ex vivo expansion. 第38回日本臨床血液学会総会, 1996. 11.
- 77) 猪口孝一, 檀 和夫: 急性骨髄性白血病より樹立したサイトカイン依存性および非依存性細胞株の性状. 第38回日本臨床血液学会総会, 1996. 11.
- 78) 緒方清行, 田村秀人, 檀 和夫, 野村武夫, 村井一範, 槍澤大樹, 成ヶ澤靖, 宮入泰郎, 石田陽治, 厨信一郎: シタラビン, エトポシド併用少量化学療法 (ara-C/VP-16療法) の分化誘導効果. 第38回日本臨床血液学会総会, 1996. 11.
- 79) 五味聖二, 中村弘之, 中山一隆, 埴 秀樹, 山本 泰, 田近賢二, 山田 隆, 大木一郎, 長谷川節雄, 檀 和夫: 再発および高悪性度悪性リンパ腫に対する ICE regimen 変法を用いた末梢血幹細胞移植. 第38回日本臨床血液学会総会, 1996. 11.
- 80) 横瀬紀夫, 緒方清行, 安 恵美, 田村秀人, 上久保圭子, 中村恭子, 檀 和夫, 野村武夫: 顆粒球コロニー刺激因子 (G-CSF) 併用化学療法施行中の薬剤性間質性肺炎 (IP) に関する検討. 第38回日本臨床血液学会総会, 1996. 11.
- 81) 安 恵美, 緒方清行, 横瀬紀夫, 田村秀人, 中村恭子, 檀 和夫, 杉崎裕一, 森 茂郎: CD7, CD20, CD30 (Ki-1) CD33, CD34陽性非ホジキンリンパ腫 (NHL). 第38回日本臨床血液学会総会, 1996. 11.
- 82) 岩切理歌, 猪口孝一, 檀 和夫, 野村武夫: 急性前骨髄球性白血病における Multidrug resistance 1 (MDR1) gene の発現と ATRA による治療反応性についての検討. 第38回日本臨床血液学会総会, 1996. 11.
- 83) 田村秀人, 緒方清行, 安 恵美, 田近賢二, 上久保圭子, 横瀬紀夫, 檀 和夫, 杉崎裕一: 鼻腔外原発 CD56陽性非ホジキンリンパ腫 (NHL) の2例. 第38回日本臨床血液学会総会, 1996. 11.
- 84) 中村恭子, 安 恵美, 緒方清行, 上久保圭子, 田村秀人, 横瀬紀夫, 檀 和夫, 野村武夫: フローサイトメトリー法による急性骨髄性白血病 (AML) の微小残存病変 (MRD) 解析 (続報). 第38回日本臨床血液学会総会, 1996. 11.
- 85) 中村佳代, 猪口孝一, 山口博樹, 埴 秀樹, 田野崎栄, 岩切理歌, 松岡弘樹, 三宅弘一, 野村武夫, 檀 和夫: 脾摘後 CHOP 療法を施行し長期寛解を得た Splenic lymphoma with villous lymphocytes (SLVL) の1症例. 第38回日本臨床血液学会総会, 1996. 11.
- 86) 中塚雄久, 高橋秀実<sup>1)</sup>, 杉山弘高<sup>2)</sup>, 中川洋子<sup>1)</sup>, 野呂瀬嘉彦<sup>1)</sup>, 横室公三<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>微生物免疫学教室, <sup>2)</sup>National Jewish Center, USA): B7-1 transfectant による肝細胞癌特異的 CTL 誘導及びその in vitro における効果. 第26回日本免疫学会総会, 1996. 11.
- 87) 松坂 聡, 金沢秀典, 檀原義之, 間宮康貴, 長田祐二, 吉本 均, 斉藤 整, 多田教彦, 黒田 肇, 小林正文: Hypereosinophilic Syndrome (HES) によると考えられた慢性活動性肝炎の1例. 第31回日本肝臓学会東部会, 1996. 11.
- 88) 名知志子, 渡 淳<sup>1)</sup>, 長田祐二, 琴寄 誠, 藤森俊二, 水野杏一<sup>1)</sup>, 大秋美治<sup>2)</sup>, 杉浦敏昭, 佐藤 順, 多田教彦, 松坂 聡, 黒田 肇 (<sup>1)</sup>千葉北総病院内科, <sup>2)</sup>同病理): 肝生検により確定診断された HELP syndrome の1例. 第31回日本肝臓学会東部会, 1996. 11.



- 89) 竹内 司, 末岡伸夫, 西垣 均, 足澤美樹, 山田久木, 齊藤 整, 岩切勝彦, 津久井拓, 長谷川修, 小林正文: エタノール局注による内視鏡治療が奏功した胃幽門前庭部 vascular ectasia の1例. 第63回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 1996. 11.
- 90) 津久井拓, 末岡伸夫, 三宅一昌, 吉本 均, 平川恒久, 小林正文, 田中元子<sup>1)</sup>, 加藤俊二<sup>1)</sup>, 徳永 昭<sup>1)</sup>, 恩田昌彦<sup>1)</sup>, 内藤善哉<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>第1外科, <sup>2)</sup>病理第2): 壁外性有茎性発育を呈した胃平滑筋肉腫の1例. 第63回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 1996. 11.
- 91) 西垣 均, 末岡伸夫, 林 良樹, 石井新哉, 竹内 司, 岩切勝彦, 長谷川修, 青木正明<sup>1)</sup>, 香川隆男, 小林正文 (<sup>1)</sup>公立昭和病院健康管理科): PPI 投与により低蛋白血症の改善を認めた蛋白漏出胃腸症の1例. 第63回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 1996. 11.
- 92) 名知志子, 星長春樹, 竹内 司, 安保賢一, 山田久木, 平川恒久, 小林正文, 吉行俊郎<sup>1)</sup>, 徳永 昭<sup>1)</sup>, 恩田昌彦<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>第1外科): 内視鏡的診断が困難であった表層拡大型早期胃癌の1例. 第63回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 1996. 11.
- 93) 李 峰, 佐藤 順, 柴田喜明, 篠沢 功, 田中 周, 星野哲夫, 辰口篤志, 伊月葉子, 藤森俊二, 立川裕理, 玉川恭士, 田口文彦, 岸田輝幸, 吉田 豊, 小林正文: 大腸に多発性の mucosal tag, mucosal bridge を伴った直腸癌の1例. 第63回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 1996. 11.
- 94) 篠澤 功, 田中 周, 星野哲夫, 李 峰, 辰口篤志, 佐藤 順, 伊月葉子, 藤森俊二, 田口文彦, 玉川恭士, 吉田 豊, 岸田輝幸, 小林正文: 過去5年間の大腸ポリペクトミーの成績. 第14回大腸検査法研究会総会, 1996. 11.
- 95) 田中 周, 篠澤 功, 星野哲夫, 李 峰, 辰口篤志, 佐藤 順, 伊月葉子, 藤森俊二, 田口文彦, 玉川恭士, 吉田 豊, 岸田輝幸, 小林正文: 当科における虚血性大腸炎の臨床的検討-10年間40症例のまとめ. 第14回大腸検査法研究会総会, 1996. 11.
- 96) 佐藤 順, 田中 周, 篠澤 功, 星野哲夫, 李 峰, 辰口篤志, 伊月葉子, 藤森俊二, 田口文彦, 玉川恭士, 吉田 豊, 岸田輝幸, 小林正文: 当科における急性出血性直腸潰瘍11例の臨床的検討. 第14回大腸検査法研究会総会, 1996. 11.
- 97) 岩切勝彦: 食事・体位の胃食道逆流に及ぼす影響. GERD 研究会第1回学術集会, 1996. 11.
- 98) 三井啓吾, 佐藤 順, 柴田喜明, 篠澤 功, 田中 周, 星野哲夫, 辰口篤志, 藤森俊二, 伊月葉子, 岸田輝幸, 吉田 豊, 小林正文: 虚血性大腸炎の経過中に発症した真菌性敗血症の1例. 第242回日本消化器病学会関東支部例会, 1996. 12.
- 99) 山田久木, 岩切勝彦, 琴寄 誠, 杉浦敏昭, 二神生爾, 中川義也, 末岡伸夫, 香川隆男, 平川恒久, 川上明彦, 瀬底正彦, 小林正文: 食道アカラシア症として経過観察されていた非特異的食道運動機能異常症の1例. 第243回日本消化器病学会関東支部例会, 1997. 2.
- 100) 篠木 啓, 星田有人<sup>1)</sup>, 山手祐一郎, 竹内 司, 山門 進<sup>1)</sup>, 永井俊彦<sup>1)</sup> (東京都多摩老人医療センター): 閉塞性黄疸をきたした肝細胞癌の1例. 第243回日本消化器病学会関東支部例会, 1997. 2.
- 101) 山口博樹, 猪口孝一, 中村佳代, 埴 秀樹, 田野崎栄, 岩切理歌, 山田 隆, 長谷川節雄, 檀 和夫: Major BCR-ABL の再構成を検出しえなかった髄外急性転化で発症した慢性骨髄性白血病(CML). 第128回日本臨床血液学会例会, 1997. 2.
- 102) 鈴木信周, 小野瀬裕之, 周東祐仁, 岡田憲明, 杉原 仁, 江本直也, 南 史朗, 芝崎 保, 若林一二: SIADH, 高プロラクチン血症, 無月経と著明な食欲不振・体重減少を伴った急性特発性自律神経失調症(AIPD). 第7回日本間脳下垂体腫瘍研究会, 1997. 2.
- 103) 長谷川節雄, 五味聖二, 田近賢二, 山田 隆, 猪口孝一, 緒方清行, 大木一郎, 檀 和夫, 野村武夫: 再生不良性貧血に対する ATG の臨床検討. 第59回日本血液学会総会, 1997. 3.
- 104) 猪口孝一, 山口博樹, 埴 秀樹, 田野崎栄, 岩切理歌, 松岡弘樹, 三宅弘一, 二木真琴, 野村武夫, 檀 和夫:

Variant Ph1を有する細胞株の t (X;12)/t (2;3) により関与すると推測される TEL, EVI-1遺伝子異常と悪性進展の分子機構。第59回日本血液学会総会, 1997. 3.

- 105) 横瀬紀夫, 羅 善順, 緒方清行, 安 恵美, 上久保圭子, 中村恭子, 田村秀人, 檀 和夫: 急性骨髄性白血病(AML)の細胞増殖能に関する検討。第59回日本血液学会総会, 1997. 3.
- 106) 中村佳代, 猪口孝一, 山口博樹, 埴 秀樹, 田野崎栄, 岩切理歌, 松岡弘樹, 三宅弘一, 二木真琴, 野村武夫, 檀 和夫: 慢性骨髄性白血病(CML)における血小板数と c-mpl mRNA 発現の検討。第59回日本血液学会総会, 1997. 3.
- 107) 安 恵美, 緒方清行, 田村秀人, 横瀬紀夫, 上久保圭子, 田近賢二, 五味聖二, 山田 隆, 檀 和夫, 野村武夫: 急性骨髄性白血病 (AML) に対する顆粒球コロニー刺激因子 (G-CSF) 併用化学療法。第59回日本血液学会総会, 1997. 3.
- 108) 山口博樹, 猪口孝一, 中村佳代, 埴 秀樹, 田野崎栄, 岩切理歌, 松岡弘樹, 三宅弘一, 野村武夫, 檀 和夫: minor bcr-abl の発現を認め髄外性急性転化で発症した慢性骨髄性白血病 (CML)。第59回日本血液学会総会, 1997. 3.
- 109) 田村秀人, 横瀬紀夫, 緒方清行, 安 恵美, 上久保圭子, 中村恭子, 檀 和夫, 野村武夫: 顆粒球コロニー刺激因子 (G-CSF) 併用 CHOP 療法中に薬剤性間質性肺炎 (IP) を発症した非ホジキンリンパ腫 (NHL) の検討。第59回日本血液学会総会, 1997. 3.
- 110) 田近賢二, 長谷川節雄, 五味聖二, 猪口孝一, 檀 和夫: 巨核球成熟における各種サイトカインの役割。第59回日本血液学会総会, 1997. 3.
- 111) 緒方清行, 田村秀人, 羅 善順, 横瀬紀夫, 檀 和夫, 野村武夫, 浜口裕之, 坂巻 寿, 小野沢康輔, 吉田弥太郎, 加藤尚志, 田原知幸: 骨髄異形成症候群患者の血中トロンボポエチン濃度。第59回日本血液学会総会, 1997. 3.

## 4. 内科学第四講座

### [付属病院第4内科]

#### 研究概要

内科学第四講座では呼吸器疾患を対象に、平成8年度以下の臨床的、基礎的研究を展開した。

臨床研究として、①マクロイドの放射線肺臓炎に対する予防効果および各種呼吸器疾患に対する有効性の検討、②汎細気管支炎 (DPB) の予後調査、③慢性関節リウマチ患者の肺臓炎に関する臨床的研究、④無線聴診器の臨床的評価、⑤肺音および咳嗽の音響学解析、⑥日常労作 (入浴等) の慢性閉塞性肺疾患患者の肺機能に及ぼす影響、⑦肺癌化学療法の臨床研究 [非小細胞癌: CDDP+UFT vs CDDP+CBDCA, CDDP+CPT-11 vs CDDP+VDS (phase III), CDDP+UFT (phase II), 新規抗癌剤 (phase I, II), 小細胞癌: CDDP+CBDCA+VP-16 (phase I, II)], ⑧各種制吐剤の臨床試験等を行った。

基礎的研究としては、①プレオマイシンにより誘発されるマウス肺臓炎に対するマクロライドの予防効果とその機序、②慢性気道炎症の発症機序ならびにそれに対するマクロライドの効果発現機序、③シリカ投与ラット肺におけるマクロライドの作用、④急性肺傷害の発症における活性酸素および好中球エラスターゼの役割、⑤DPBに関する遺伝子の解析、⑥ヒト肺腺癌株 (PC-9) の高転移株の樹立とその細胞生物学的特徴、⑦Laminin-1 peptide (AC-Y16, AG-73) の腫瘍増殖、実験的転移に及ぼす効果と発現機序、⑧マクロライドの実験的肺転移抑制効果の機序、⑨新規抗癌剤 (taxotere) を用いた併用療法のマウスにおける基礎的検討、⑩サルコイドーシスにおける Apoptosis 抑制因子の関与、⑪癌遺伝子治療の基礎的研究、⑫癌発生母地としての肺線維症の分子生物学研究、等の研究を推進した。

#### 研究業績

##### 論文

(1) 原著:

- 1) Yasuda J, Kashiwabara H, Kawakami K, Uematsu K, Sugano K, Perucho M, Sekiya T (<sup>1</sup>Oncogene Division, National Cancer Center Research Institute, <sup>2</sup>Division of Clinical Laboratory, National Cancer Center Hospital, <sup>3</sup>The Burnham Institute Detection of Microsatellite Instability in Cancers by Arbitrarily): Primed-PCR Fingerprinting Using a Fluorescently Labeled Primer (FAP-PCR) Biological Chemistry 1996; 377: 563-570.
- 2) Tomita Y, Hashimoto S, Shimizu T, Son K, Azuma A, Kudoh S, Horie S: Restriction Fragment Length Polymorphism (RFLP) Analysis in the HLA Class III Genes of Patients with Diffuse Panbronchiolitis (DPB). JaP J Int Med 1996; 35: 693-697.
- 3) Azuma A, Soma T, Yoshimori K, Hino M, Shikawa K, Kudoh S: Anti-centromere antibody that reacts with Mycobacterium bovis BCG in a patient with mycobacterial lymphadenitis. Clinical Infectious Disease 1996; 23: 1325-1326.
- 4) Takenoshita S, Hagiwara K, Nagashima M, Gemma A, William PB, Curtis CH<sup>1)</sup> (<sup>1</sup>Laboratory of Human Carcinogenesis, Division of Basic Sciences, National Cancer Institute, National Institutes of Health): The Genomic Structure of the Gene Encoding the Human Transforming Growth Factor  $\beta$  Type II Receptor (TGF- $\beta$  RII). Genomics 1996; 36: 341-344.
- 5) Gemma A, Takenoshita S<sup>1)</sup>, Hagiwara K<sup>1)</sup>, Okamoto A<sup>1)</sup>, Elisa AS<sup>1)</sup>, Mary GM<sup>1)</sup>, Hussain SP<sup>1)</sup>, Forrester K<sup>1)</sup>, Zariwala M<sup>2)</sup>, Xiong Y, Curtis CH<sup>1)2)</sup> (<sup>1</sup>Laboratory of Human Carcinogenesis, Division of Basic Sciences, National Cancer Institute, National Institutes of Health, <sup>2</sup>Department of Biochemistry and

- Biophysics, Lineberger Comprehensive Cancer Center, Program in Molecular Biology and Biotechnology, University of North Carolina) : Molecular Analysis of The Cyclin-Dependent Kinase Inhibitor Genes p15 INK4b/MTS2, p16INK4/MTS1, p18 AND p19 In Human Cancer Cell Lines. Int J Cancer 1996 ; 68 : 605-611.
- 6) Taniguchi Y, Gemma A, Takeda Y, Takenaka K, Niitani H, Kudoh S, Shimada T : Stability of p53 tumorsuppressor gene mutations during the process of metastasis and during chemotherapy. Lung Cancer 1996 ; 14 : 219-228.
- 7) 谷口泰之, 村田 朗, 工藤翔二, 渋谷惇夫<sup>1)</sup>, 中島慎男<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>日本女子大学家政学部, <sup>2)</sup>ケンツメディコ) : 新しい肺音計の試作. Therapeutic Research 1996 ; 17 : 3103-3105.
- 8) 谷口泰之, 村田 朗, 渡 潤<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>2)</sup>, 中島慎男<sup>3)</sup>, 渋谷惇夫<sup>2)</sup>, 工藤翔二 ( <sup>1)</sup>日本医科大学放射線科, <sup>2)</sup>日本女子大学家政学部, <sup>3)</sup>ケンツメディコ) : 気管内ステント挿入による肺音変化の検討. Therapeutic Research 1996 ; 17 : 3074-3081.
- 9) 村田 朗, 谷口泰之, 工藤翔二, 渋谷惇夫<sup>1)</sup>, 中島慎男<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>日本女子大学家政学, <sup>2)</sup>ケンツメディコ) : ワイヤレス聴診器の聴診教育における有用性—第3報—. Therapeutic Research 1996 ; 17 : 3123-3127.
- 10) 忽滑谷直孝, 小林国彦<sup>1)</sup>, 石原陽子<sup>2)</sup>, 米田修一<sup>3)</sup>, 松田 保<sup>4)</sup>, 薬師寺道明<sup>5)</sup>, 山木戸道郎<sup>6)</sup>, 福岡正博<sup>7)</sup>, 仁井谷久暢, 古江 尚<sup>8)</sup> ( <sup>1)</sup>国立国際医療センター呼吸器科, <sup>2)</sup>東京女子医大衛生学公衆衛生学第一, <sup>3)</sup>埼玉県立がんセンター呼吸器科, <sup>4)</sup>金沢医大医学部産婦人科, <sup>5)</sup>久留米大学医学部産婦人科, <sup>6)</sup>広島大学第二内科, <sup>7)</sup>大阪市立総合医療センター呼吸器内科, <sup>8)</sup>帝京大学医学部第四内科) : 癌化学療法による遅延性悪心・嘔吐の際の患者のQOLに及ぼす Tropisetron カプセル剤の影響. 癌と化学療法 1996 ; 23 : 757-771.
- 11) 石原陽子<sup>1)</sup>, 忽滑谷直孝<sup>8)</sup>, 小林国彦<sup>2)</sup>, 米田修一<sup>3)</sup>, 松田 保<sup>4)</sup>, 薬師寺道明<sup>5)</sup>, 山木戸道郎<sup>6)</sup>, 福岡正博<sup>7)</sup>, 仁井谷久暢, 古江 尚<sup>8)</sup> ( <sup>1)</sup>東京女子医大衛生学公衆衛生学第一, <sup>2)</sup>国立国際医療センター呼吸器科, <sup>3)</sup>埼玉県立がんセンター呼吸器科, <sup>4)</sup>金沢医大医学部産婦人科, <sup>5)</sup>久留米大学医学部産婦人科, <sup>6)</sup>広島大学第二内科, <sup>7)</sup>大阪市立総合医療センター呼吸器内科, <sup>8)</sup>帝京大学医学部第四内科) : 癌化学療法時の制吐剤用 QOL 調査書の開発—信頼性と妥当性の検討—. 癌と化学療法 1996 ; 23 : 745-755.
- 12) 真村瑞子, 森川哲行, 平澤 晃, 木村 緑, 古家 仁, 福村基之, 武内浩一郎, 西川哲男, 若林芳久, 千葉県三 : 保存的治療により治癒した異物誤飲による食道気管支瘻の1例. 気管支学 1996 ; 18 : 84-89.
- 13) 村田 朗, 工藤翔二, 谷口泰之, 早川弘一, 吉田 豊, 中島慎男 : 聴診教育におけるワイヤレス聴診器の有用性. 呼吸 1996 ; 15 : 543-548.
- 14) 竹中 圭, 村田 朗, 小久保豊, 吾妻安良太, 渋谷昌彦, 工藤翔二 : Ebstein-Barr Virus の関連が示唆された慢性結核性膿胸に合併した悪性リンパ腫の1例. 肺癌 1996 ; 36 : 75-80.
- 15) 持丸 博, 高橋卓夫, 久勝章司, 河内重人, 日野光紀, 福田 悠, 川並汪一, 工藤翔二 : 急性好酸球性肺炎の臨床病理学的検討. 日胸疾会誌 1997 ; 35 : 22-29.
- 16) 木村 緑<sup>1)</sup>, 森川哲行<sup>1)</sup>, 武内浩一郎<sup>1)</sup>, 古家 仁<sup>1)</sup>, 福村基之<sup>1)</sup>, 三上理一郎<sup>1)</sup>, 河村俊治<sup>2)</sup>, 角田幸雄<sup>2)</sup>, 田代征夫<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>横浜労災病院呼吸器科, <sup>2)</sup>同病理部) : 乳び腹水に対して腹腔頸静脈シャント術を施行したリンパ脈管筋腫症の1剖検例. 日胸疾患会誌 1996 ; 34 : 557-562.
- (2) 総説 :
- 1) 工藤翔二 : マクロライドの抗炎症作用. 感染・炎症・免疫 1996 ; 26 : 62-70.
- 2) 工藤翔二 : 医科系大学“研究者名簿”が語るもの. 呼吸と循環 1996 ; 44.
- 3) 工藤翔二 : びまん性肺疾患とはいかなる症候群か. 内科 1996 ; 77 : 594-595.
- 4) 工藤翔二 : マクロライドの新しい作用. Biomedical News 1996 ; 21 : 5.
- 5) 吾妻安良太, 渋谷昌彦, 工藤翔二 : 抗体工学と癌治療 : 双特異的抗体. Biotherapy 1996 ; 10 : 128-137.

- 6) 工藤翔二：マクロライド少量長期療法の発端と現状—DPB をめぐって—。JHONS 1996；12：207.
  - 7) 渋谷昌彦，植松和嗣：肺癌の新しい腫瘍マーカー：シフラ21-1。Lab Clin Pract 1996；14：20-23.
  - 8) 忽滑谷直孝，工藤翔二：緩和ケア—人生のエピローグの演出—。Medical Practice 1996；13：1285-1290.
  - 9) 吉村明修，工藤翔二：肺癌の症状と診断の進め方。内科 1996；78：819.
  - 10) 工藤翔二，日野光紀：内科医に必要な救急医療：咯血。内科 1996；77：321-323.
  - 11) 川並汪一，榎本達治：肺好酸球生肉芽腫症の最近の考え方。内科 1996；77：689-692.
  - 12) 吾妻安良太，工藤翔二：気道上皮と接着分子。分子呼吸器病（先端医学社）1997.
  - 13) 村田 朗：間質性肺疾患における fine crackle の診断的意義。日医大誌 1996；63：404-408.
  - 14) 小林国彦：肺癌。日本病院薬剤師会雑誌 1996；32：17-22.
  - 15) 工藤翔二，吉村明修：老年者悪性腫瘍の早期診断とその対応。老化と疾患 1996；9：1217.
  - 16) 村田 朗，工藤翔二：呼吸音・肺音。喘息 1996；19：71-75.
  - 17) 清家正博<sup>1)</sup>，安藤真弘<sup>1)</sup>，栗本太嗣<sup>1)</sup>，渡辺秀一<sup>1)</sup>，河原田保佑<sup>1)</sup>，長谷川浩一<sup>1)</sup>，左近司光明<sup>1)</sup>，坪井栄孝<sup>1)</sup>，工藤翔二（<sup>1)</sup>慈山会医学研究所附属坪井病院）：抗好中球細胞質抗体が陽性でびまん性肺泡出血を伴った顕微鏡的多発動脈炎の一例。日本胸部臨床 1997；56：246-251.
  - 18) 工藤翔二：びまん性汎細気管支炎・気管支拡張症 実験。治療 1997；646：100-101.
  - 19) 工藤翔二：DPB の予後の改善とマクロライド療法。日本医師会雑誌 1997；117：330-331.
  - 20) 工藤翔二：びまん性汎細気管支炎の遺伝背景。分子呼吸器病 1997；1：212-213.
  - 21) 渋谷昌彦：知っておきたい薬物治療の知識：抗癌剤。J Clin Rehabilitation 1997；6：184-188.
  - 22) 村田 朗：音響解析による湿性咳嗽と乾性咳嗽の識別。ドクターサロン 1997；41：860-861.
  - 23) 吾妻安良太，工藤翔二：（特集：抗菌薬の使い方）22：びまん性汎細気管支炎。内科 1997；79：304-309.
  - 24) 村田 朗：呼吸不全患者と入浴。日本医師会雑誌 1997；117：699.
  - 25) 植松和嗣，弦間昭彦，工藤翔二：びまん性汎細気管支炎の人種特異性と遺伝性因子。Modern Physician 1994；14：131-134.
  - 26) 工藤翔二：マクロライドの新しい作用。Biomedical News 1996；21：5.
  - 27) 工藤翔二，福田 悠：公開シンポジウム「間質性肺疾患の病態と診断」。日医大誌 1996；63：378.
- (3) 研究報告書：
- 1) 工藤翔二，村田 朗，中広一善，谷口泰之，大山裕子，千葉弘子，岡村 樹，後藤 元，上村鈴子，斉藤いし：高齢患者に対する症状把握，日常生活の行動の程度の把握に基づくケアの指標化の検討 公害健康被害補償予防協会委託業務報告書 9，1996.

## 著 書

- 1) 忽滑谷直孝，渋谷昌彦，工藤翔二：〔分担〕脱毛・嘔気・口内炎 臨床腫瘍学。有吉 寛，西條長宏，佐々木康綱，福岡正博，渡辺 亨 1996；pp1291-1302. 癌と化学療法社.
- 2) 村田 朗，工藤翔二：〔分担〕胸水 臨床検査ガイド'96. 和田 攻，大久保昭行，永田直一，矢崎義雄 1996；pp971-974. 文光堂.
- 3) 村田 朗，工藤翔二：〔分担〕胸水 臨床検査ガイド'97. 和田 攻，大久保昭行，永田直一，矢崎義雄 1997；pp987-990. 文光堂.
- 4) 忽滑谷直孝：〔翻訳〕QOL 改善に貢献した医療：二次的資料に基づいた項目 J.P. Bunker QOL，その概念から応用まで I. Guggenmoos-Holzmann, P.H.K. Bloomfield, M.H. Brenner, U. Flick 監修，漆崎一郎，栗原 稔 1996；pp201-216. シュプリンガー・フェアラーク，東京.
- 5) 村田 朗，工藤翔二：〔分担〕在宅酸素療法とその管理 医師のための在宅ケアと在宅治療ガイド最良の QOL とその実践のために。Medical Practice 臨時増刊 1996；pp93-199. 文光堂.

- 6) 村田 朗, 工藤翔二:〔分担〕肺音分析法. 日本臨床 1997; (別冊).
- 7) 工藤翔二, 忽滑谷直孝:〔分担〕動脈血 O<sub>2</sub>分圧, オキシメーター臨床検査ガイド'97. 和田 攻, 大久保昭行, 永田直一, 矢崎義雄, 内村英正, 吉野谷定美 1997; pp320-321. 文光堂.
- 8) 中広一善:〔分担〕呼吸不全患者の入浴時の注意事項 THE LUNG perspectives (特集:在宅酸素療法の現状と将来). 川上義和 1997; pp98-99. メディカルレビュー社.
- 9) 渋谷昌彦, 工藤翔二:〔分担〕肺癌 内科治療ガイド'96. 和田 攻, 大久保昭行, 永田直一, 矢崎義雄 1996; pp286-289. 文光堂.
- 10) 小久保豊, 工藤翔二:〔分担〕かぜ 薬剤師のための服薬指導ガイド. 和田 攻, 朝永文彌 1996; pp222-226. 文光堂.
- 11) 吾妻安良太, 工藤翔二:〔分担〕細気管支炎(びまん性細気管支炎を含む)「臨床医の処方と注射」臨床医 1996; 22: pp220-221. 中外医学社.
- 12) 吾妻安良太:〔分担〕プレオマイシン肺障害と肺線維症. 炎症・免疫とマクロライド up to date (清水喜八郎, 大村智 監修) 1996; pp194-198. 医薬ジャーナル社.
- 13) 吾妻安良太, 村田 朗, 工藤翔二:〔分担〕9) 肺障害とその対策 がん化学療法の副作用対策 (吉田清一監修) 1996; pp247-251. 先端医学社.
- 14) 吾妻安良太, 工藤翔二:〔分担〕びまん性汎細気管支炎:気管支喘息の周辺疾患. 宮本昭正 1996; pp91-98. 現代医療社.
- 15) 工藤翔二, 日野光紀, 今村顕史, 後藤 元:(2)呼吸器疾患 癌患者の感染症対策. 林 泉, 塚越 茂 1996; pp24-30. メジカルレビュー社.
- 16) 工藤翔二, 忽滑谷直孝:動脈血 O<sub>2</sub>分圧, オキシメーター臨床検査ガイド'97. Medical Practice 編集委員会 1997; pp320-321. 文光堂.
- 17) 工藤翔二:びまん性汎細気管支炎/びまん性気管支拡張症. 今日の治療指針 1997; pp294-296. 医学書院.
- 18) 工藤翔二:慢性気管支炎:300疾患治療マニュアル. 中井利昭 1997; 15. 中外医学社.
- 19) 工藤翔二:びまん性汎細気管支炎300疾患診療マニュアル. 中井利昭 1997; pp20-21. 中外医学社.
- 20) 工藤翔二:気管支拡張症・喘息治療薬:治療薬マニュアル. 高久史磨, 鴨下重彦 1997; pp413-433. 医学書院.
- 21) 工藤翔二:鎮咳剤:治療薬マニュアル. 高久史磨, 鴨下重彦 1997; pp436-443. 医学書院.
- 22) 工藤翔二:去痰薬:治療薬マニュアル. 高久史磨, 鴨下重彦 1997; pp445-448. 医学書院.
- 23) 谷口泰之, 工藤翔二:〔分担〕呼吸困難 今日の救急治療指針. 前川和彦, 相川直樹 1996; pp61-68. 医学書院.
- 24) 谷口泰之, 工藤翔二:〔分担〕呼吸音の異常 最新内科学大系, 第3巻主要症候一症候から診断へ. 井村裕夫, 尾形悦郎, 高久史磨, 垂井清一郎 1996; pp209-212. 中山書店.
- 25) 吾妻安良太, 工藤翔二:6. アポトーシス Annual Review. 呼吸器 1996; pp51-59.

## 学会発表

### 〔1993年度追加分〕

#### 一般講演:

- 1) 植松和嗣, 谷口泰之, 吉村明修, 弦間昭彦, 吉森浩三, 林原賢治, 工藤翔二, 仁井谷久暢:初回治療に CDDP 又は CDDP 誘導体を含む化学療法を施行された非小細胞肺癌症例での予後因子の検討. 第31回日本癌治療学会総会, 1993, 10.

### 〔1995年度追加分〕

#### 一般講演:

- 1) 植松和嗣, 関根暉彬<sup>2)</sup>, 安田 純<sup>1)</sup>, 菅野康吉<sup>3)</sup>, 工藤翔二, 関谷剛男<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>国立がんセンター研究所腫瘍遺伝子研究部, <sup>2)</sup>国立がんセンター研究所 RI 共通実験室, <sup>3)</sup>国立がんセンター中央病院臨床検査):がん多発家系における

末梢血中6-チオグアニン耐性リンパ球出現頻度の測定。第54回日本癌学会総会，1995，10。

- 2) 植松和嗣，安田 純<sup>1)</sup>，関根暉彬<sup>2)</sup>，菅野康吉<sup>3)</sup>，関谷剛男<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>国立がんセンター研究所腫瘍遺伝子研究部，<sup>2)</sup>国立がんセンター研究所 RI 共通実験室，<sup>3)</sup>国立がんセンター中央病院臨床検査)：HPRT 遺伝子変異 T リンパ球の新しい選択および培養法。第18回日本分子生物学会年会，1995，12。

(1) 特別講演：

- 1) 工藤翔二：副鼻腔気管支炎の病因・病態と治療の最新の考え方。日本気管食道科学会総会および学術講演会，1996，11。

(2) シンポジウム：

- 1) Enomoto T, Kawanami O, Satoh M, Kaneko Y, Azuma A, Kudoh S : 1996/5 Diagnostic Value of Bronchoalveolar Lavage for the Diagnosis of Langerhans cell Granulomatosis (Theme ; Sarcoidosis). American Lung Association/American Thracic Society International Conference. (New Orleans), 1996. 5.
- 2) 坂倉康夫，工藤翔二：マクロライドと気道防御機能。第47回日本気管食道科学会総会および学術講演会，1996，11。
- 3) 村田 朗：間質性肺疾患の病態と診断：間質性肺疾患における fine crackle の診断的意義。日本医科大学医学会第6回公開「シンポジウム」，1996。 6。
- 4) 倉根修二，工藤翔二：サイトカイン遺伝子導入癌細胞により誘導されるリンパ球を用いた養子免疫療法。白布シンポジウム，1996。 7。
- 5) 倉根修二，渋谷昌彦，工藤翔二：腺癌に対する標的遺伝子治療。天城シンポジウム，1996。 8。

(3) ワークショップ：

- 1) 小久保豊，渋谷昌彦，日野光紀，忽滑谷直孝，竹中 圭，篠田欣也，工藤翔二：クラリスロマイシンの実験的肺転移に及ぼす影響。第9回日本 BRM 学会学術集会総会，1996。 9。

(4) 一般講演：

- 1) Shibuya M, Kudoh S, Yamada Y : Expression of  $\alpha 2\beta 1$  integrin in cisplatin-resistant human small cell lung cancer cells enhances adherence to laminin and type IV collagen. 87th Annual Meeting of the American Association for Cancer Research. (Washington, DC, USA), 1996.
- 2) Kawanami O<sup>1)</sup>, Kaneko Y<sup>1)</sup>, Kudoh S, Takemura T<sup>2)</sup>, Hayashi T<sup>3)</sup>, Travis WD<sup>3)</sup>, Ferrans VJ<sup>4)</sup> (<sup>1)</sup>Pathology & Clinical Research Laboratory, <sup>2)</sup>Japan Red Cross Medical Center, <sup>3)</sup>Pulmonary and Mediastinal Pathology, <sup>4)</sup>FIP, <sup>5)</sup>Pathology Section) : NHLBI, NIH, MD vascular sprouts in areas of intraalveolar fibrosis : comparative analysis of angiogenesis in various types of interstitial lung diseases. ATS (New Orleans) , 1996. 5.
- 3) Ito E, Jinno S, Nomura K, Yamada K, Kida K : Correlation Between Maximal Voluntary Ventilation (MVV) and 6 minutes Walking Distance (6MD) in Elderly Patients with COPD (Theme ; Mesurement Of Qolity Of Life And Outcomes Of Care) American Lung Association/American Thracic Society International Conference (New Orleans), 1996. 5.
- 4) Murata A, Kudoh S, Taniguchi Y, Shibuya A<sup>1)</sup>, Mori M<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>Japan Wemen's University, <sup>2)</sup>Tokyo National Chest Hospital) : Discrimination of productive cough and non-productive cough by sound analysis. The 21th International Conference on Lung Sounds, 1996. 9.
- 5) Nakahiro K, Murata A, Kudoh S : Desaturation of COPD Patients on Daily Efforts. European Respiratory Society Annual Congress, 1996. 9.
- 6) Kokubo Y, Shibuya M, Hino M, Nukariya N, Takenaka K, Shinoda K, Murata A, Azuma A, Kudoh S : The Effect of Clarithromycin on Experimental Lung Metastasis. The 4th Congress of the Asian Pacific

- Society of Respiriology (Beijing, China) 1996, 10.
- 7) Enomoto T, Azuma A, Hashimono Y, Takahashi T, Murata A, Kudoh S : 1996/10 Involvement of Neutrophil Elastase in Acute Lung Injury. The 4th Congress of the Asian Pacific Society of Respiriology (Beijing), 1996, 10.
  - 8) Hino M, Kudoh S, Furuse K, Hasegawa K, Takada M, Ichinose Y, Sugiura T, Niitani H : S-1 co-operative study group 11/2-11/5 1996 Early phase II study of new oral fluoropyrimidine, S-1, for non-small cell lung cancer. The 21th congress of European Society for Medical Oncology. (Austria), 1996, 11.
  - 9) Kurane S, Krauss JC<sup>1)</sup>, Bielinska AU<sup>1)</sup>, Kukouska-Latallo, JF<sup>2)</sup>, Cameron MJ<sup>1)</sup>, Baker JR<sup>1)</sup>, Chang EA<sup>1)</sup> : (<sup>1)</sup>Dept. of General Surgery and Internal Medicine, University of Michigan) : Ann Arbor, MI 48109, Cleveland Clinic Foundation, Cleveland, OH. Nippon Medical School Targeting gene therapy for colon cancer. 87th Annual Meeting of the American Association for Cancer Research. (Washington, DC, USA), 1997, 4.
  - 10) Kudoh S, Azuma A, Yamamoto M, Izumi T, Tamura M, Ando M : Distinguished Improvement of Survival Times of The Patients with Diffuse Panbronchiolitis (DPB) Treated with 14-Membered-Ring Macrolides (14-MM). International Conference of American Thoracic Society (New Orleans, USA) 1996, 5.
  - 11) Hashimoto Y, Azuma A, Enomoto T, Takahashi T, Murata A, Kudoh S : Involvement of Neutrophil Elastase in Acute Lung Injury Induced by Bleomycin. International Conference of American Thoracic Society (New Orleans, USA), 1996, 5.
  - 12) Enomoto T, Kawanami O, Sato M, Kaneko Y, Azuma A, Kudoh S : Diagnostic Value of Bronchioalveolar Lavage for the Diagnosis of Langerhans Cell Granulomatosis (Mini Symposium). International Conference of American Thoracic Society (New Orleans, USA), 1996, 5.
  - 13) Murata A, Kudoh S, Taniguchi Y, Yoshida Y<sup>1)</sup>, Hayakawa K<sup>2)</sup>, Nakajima M<sup>2)</sup>, Shibuya A<sup>4)</sup> (<sup>1)</sup>Dept. Pediatrics, <sup>2)</sup>1st Dept. Intern. Med., Nippon Medical School, Tokyo, Japan, <sup>3)</sup>Kenz Medico Co. Ltd., <sup>4)</sup>Nippon Women's University) : Efficacy Of Wireless Stethoscope For Auscultatory Education (Second). European Respiratory Society (Stockholm, Sweden), 1996, 9.
  - 14) Mochimaru H, Takahashi T, Kawanami O, Kawamoto M, Fukuda Y, Kudoh S : Characteristics of acute eosinophilic pneumonia. 1996 Int Conf Am Thoracic Society, 1996.
  - 15) 谷口泰之, 村田 朗, 橋元恭士, 工藤翔二 : 音響解析による湿性咳嗽と乾性咳嗽の識別. 第64回日本医科大学医学会総会 1996, 9.
  - 16) 篠田欣也, 竹中 圭, 日比野俊, 忽滑谷直孝, 小林国彦, 倉根修二, 日野光紀, 吉村明修, 渋谷昌彦, 工藤翔二, 仁井谷久暢, 新原礼子<sup>1)</sup>, 工藤宏一郎<sup>1)</sup>, 長谷川浩一<sup>2)</sup>, 坪井栄孝<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>国立国際医療センター, <sup>2)</sup>慈山会医学研究所附属坪井病院) : 小細胞肺癌に対する double platinum と Etoposide (ETP) の併用療法第 I 相臨床試験. 第64回日本医科大学医学会総会, 1996, 9.
  - 17) 持丸 博<sup>1)</sup>, 福田 悠<sup>1)</sup>, 福島光浩<sup>1)</sup>, 山中宣昭<sup>1)</sup>, 神尾孝一郎, 田中庸介, 谷口泰之, 村田 朗, 工藤翔二, 秋山博彦<sup>2)</sup>, 原口秀司<sup>2)</sup>, 小泉 潔<sup>2)</sup>, 杉崎祐一<sup>3)</sup> (<sup>1)</sup>日本医科大学第一病理, <sup>2)</sup>同第二外科, <sup>3)</sup>付属病院病理部) : 腫瘍間質にIV型コラーゲンを認めた肺の類上皮様血管内皮腫の1例. 第64回日本医科大学医学会総会, 1996, 9.
  - 18) 日比野俊, 小林国彦, 篠田欣也, 竹中 圭, 忽滑谷直孝, 倉根修二, 吉村明修, 新原礼子, 工藤宏一郎, 渋谷昌彦, 工藤翔二 : Weekly 分割投与によるシスプラチン (CDDP) とイリノテカン (CPT-11) の併用の第 I 相試験. 日本肺癌学会総会, 1996, 11.
  - 19) 村田 朗, 工藤翔二, 谷口泰之, 早川弘一<sup>1)</sup>, 吉田 豊<sup>2)</sup>, 中島慎男<sup>3)</sup> (<sup>1)</sup>付属病院第一内科, <sup>2)</sup>多摩永山病院小児科, <sup>3)</sup>ケンツメディコ) : ワイヤレス聴診器の聴診教育における有用性(第2報). 第63回日本医科大学医学会総会, 1995, 9.



- 20) 篠田欣也, 小林国彦, 安藤真弘, 竹中 圭, 日比野俊, 忽滑谷直孝, 日野光紀, 吉村明修, 渋谷昌彦, 工藤翔二, 坪井栄孝, 新原礼子, 工藤宏一郎: 非小細胞肺癌に対する double platinum と etoposide の併用第1相臨床試験. 日本肺癌学会総会, 1996. 11.
- 21) 岡村 樹<sup>1)</sup>, 後藤 元<sup>1)</sup>, 上村鈴子<sup>2)</sup>, 斉藤いし<sup>2)</sup>, 村井容子<sup>3)</sup>, 工藤翔二<sup>4)</sup> (<sup>1)</sup>東京都立駒込病院呼吸器科, <sup>2)</sup>同訪問看護室, <sup>3)</sup>東京都多摩老人医療センター呼吸器科): 在宅酸素療法日誌は有用か?: アンケート調査下からの検討. 第6回日本呼吸管理学会学術集会, 1996.
- 22) 渋谷昌彦, 忽滑谷直孝, 竹中 圭, 篠田欣也, 小野 靖, 武市朗子, 工藤翔二: Cisplatin 耐性肺小細胞癌株の接着能と integrin 分子発現. 第55回日本癌学会総会, 1996. 10.
- 23) 村田 朗, 谷口泰之, 工藤翔二, 早川弘一<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>日本医科大学第一内科): 集団聴診教育におけるワイヤレス聴診器の有用性の検討 (第3報). 第36回日本胸部疾患学会, 1996. 4.
- 24) 金子泰之<sup>1)</sup>, 川並汪一<sup>1)</sup>, 工藤翔二, 武村民子<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>日本医科大学第二病院病理部, <sup>2)</sup>日本赤十字医療センター病理部): 各種間質性肺疾患における肺胞腔内線維化とその病巣中への血管新生. 第36回日本胸部疾患学会総会, 1996. 4.
- 25) 伊藤永喜<sup>1)</sup>, 山田花世<sup>1)</sup>, 山田浩一, 野村浩一郎, 神野 悟<sup>1)</sup>, 木田厚瑞<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>東京都老人医療センター呼吸器科): 老年者の慢性閉塞性肺疾患における6分間歩行と最大換気量に関する研究. 第36回日本胸部疾患学会総会, 1996. 4.
- 26) 中広一善, 村田 朗, 谷口泰之, 工藤翔二, 岡村 樹<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>都立駒込病院): 肺気腫患者の在宅における日常労作時の SpO<sub>2</sub>低下についての検討. 第36回日本胸部疾患学会総会, 1996. 4.
- 27) 橋元恭士, 吾妻安良太, 榎本達治<sup>1)</sup>, 高橋卓夫<sup>1)</sup>, 村田 朗, 工藤翔二 (<sup>1)</sup>都立駒込病院): プレオマイシン(BLM) 肺臓炎におけるにおける好中球エラストラーゼの関与についての検討. 第36回日本胸部疾患学会総会, 1996. 4.
- 28) 伊藤永喜<sup>1)</sup>, 山田花世<sup>1)</sup>, 山田浩一, 野村浩一郎, 神野 悟<sup>1)</sup>, 木田厚瑞 (<sup>1)</sup>東京都老人医療センター呼吸器科): FISCHER344ラットを用いた胸膜炎モデルの検討. 第36回日本胸部疾患学会総会, 1996. 4.
- 29) 日野光紀, 榎本達治, 高橋卓夫, 渋谷昌彦, 工藤翔二, 山田 隆, 五味聖二, 長谷川節雄, 檀 和夫, 持丸 博, 福田 悠, 金子泰之, 川並汪一: リンパ球系血液疾患に併発したびまん性肺病変の検討. 第36回日本胸部疾患学会総会, 1996. 4.
- 30) 高橋卓夫, 古田知行, 奥村昌夫, 木村和義, 村田 朗, 工藤翔二, 豊田雅基, 八木聰明<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>耳鼻科): 扁桃周囲炎から血行性多発性肺膿瘍を呈した Lemierre 症候群の1例. 第120回日本胸部疾患学会関東地方会, 1996. 7.
- 31) 田中庸介, 古家 仁, 森川哲行, 武内浩一郎, 三上理一郎, 安西俊巳, 平澤 晃, 河村俊治, 角田幸雄, 田代征夫 (横浜労災病院呼吸器内科, 内科, 病理部): 経気管支肺生検にて肉芽腫変化を呈した AIDS 合併カリニ肺炎の1例. 第120回日本胸部疾患学会関東地方会, 1996. 7.
- 32) 笠井昭吾, 徳田 均, 里見和浩: 間質性肺炎を合併した MPO-ANCA 陽性血管炎症候群の1例. 第120回日本胸部疾患学会関東地方会, 1996. 7.
- 33) 渡 潤<sup>1)</sup>, 田島寛之<sup>1)</sup>, 本多一義<sup>1)</sup>, 山田 明<sup>1)</sup>, 内山菜知子<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>, 日野光紀, 吉村明修, 村田 朗, 工藤翔二, 五味潤誠<sup>2)</sup>, 田中茂夫<sup>2)</sup>, 矢野 侃<sup>3)</sup> (<sup>1)</sup>附属病院放射線科, <sup>2)</sup>第二外科, <sup>3)</sup>荒川がん予防センター): 肺癌検診比較システムの開発とその臨床応用. 第64回日本医科大学学会総会 1996. 9.
- 34) 榎本達治, 吾妻安良太, 村田 朗, 谷口泰之, 中広一善, 高橋卓夫, 橋元恭士, 金子泰之, 阿部信二, 工藤翔二, 判治直人<sup>1)</sup>, 吉野楨一<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>第一病院リウマチ科): 慢性関節リウマチ患者における肺病変の解析. 第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 9.
- 35) 倉根修二: サイトカイン遺伝子導入癌細胞により誘導されるリンパ球を用いた養子免疫療法. 第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 9.
- 36) 倉根修二, Krauss J C<sup>1)</sup>, Chang A E<sup>1)</sup>, 工藤翔二 (<sup>1)</sup>Cleveland Clinic Foundation, University of Michigan): CEA 特異的プロモーターと抗 Lewis Y モノクローナル抗体を併用した腺癌に対する標的遺伝子治療. 第9回日

本 BRM 学会学術集会総会, 1996. 9.

- 37) 竹中 圭, 竹田雄一郎, 忽滑谷直孝, 渋谷昌彦, 工藤翔二: ヒト肺癌高転移株の樹立とその性状. 第55回日本癌学会総会, 1996. 10.
- 38) 倉根修二, 渡理英二, Krauss J C<sup>1)</sup>, 工藤翔二, Chang A E<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>Cleveland Clinic Foundation, University of Michigan): サイトカイン遺伝子導入癌細胞により誘導される腫瘍反応性リンパ球を用いた養子免疫療法. 第55回日本癌学会総会, 1996. 10.
- 39) 植松和嗣<sup>1)</sup>, 村上善則<sup>1)</sup>, 工藤翔二<sup>2)</sup>, 関谷剛男<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>国立がんセンター研究所腫瘍遺伝子研究部): 肺がんにおける Transforming growth factor  $\beta$  受容体II型 (TGF $\beta$  RII) 遺伝子の異常. 第55回日本癌学会総会, 1996. 10.
- 40) 清家正博<sup>1)</sup>, 栗本太嗣<sup>1)</sup>, 安藤真弘<sup>1)</sup>, 山本和男<sup>1)</sup>, 長谷川浩一<sup>1)</sup>, 左近司光明<sup>1)</sup>, 仁井谷久暢<sup>1)</sup>, 坪井栄孝<sup>1)</sup>, 工藤翔二 (<sup>1</sup>慈恵会医学研究所附属坪井病院): 初回治療が奏効した小細胞肺癌例における再発部位と予後に関する検討. 第37回日本肺癌学会総会, 1996. 10.
- 41) 安藤真弘, 長谷川浩一<sup>1)</sup>, 清家正博, 栗本太嗣, 山本和男<sup>1)</sup>, 渡辺秀一<sup>1)</sup>, 左近司光明<sup>1)</sup>, 仁井谷久暢<sup>1)</sup>, 坪井栄孝<sup>1)</sup>, 工藤翔二 (<sup>1</sup>坪井病院): 非小細胞肺癌に対する CDDP+UFT の少量連日併用化学療法の検討. 第37回日本肺癌学会総会, 1996. 10.
- 42) 安藤真弘, 小林国彦<sup>2)</sup>, 長谷川浩一<sup>1)</sup>, 左近司光明<sup>1)</sup>, 坪井栄孝<sup>1)</sup>, 武田文和<sup>2)</sup>(<sup>1</sup>坪井病院, <sup>2)</sup>がん患者の緩和ケアに関する研究班): がん療養生活の満足度を規定する要因: 厚生省がん克服戦略研究事業「がん患者の緩和ケアに関する研究」班 QOL 調査書「ケアノート」の開発. 第34回日本癌治療学会, 1996. 11.
- 43) 倉根修二, Krauss J C<sup>1)</sup>, Chang A E<sup>1)</sup>, 工藤翔二(<sup>1</sup>Cleveland Clinic Foundation, University of Michigan): 組織特異的プロモーターを用いた標的遺伝子治療の基礎的検討. 第34回日本癌治療学会 1996. 11.
- 44) 村田 朗, 谷口泰之, 金子泰之, 橋元恭士, 工藤翔二: 咳嗽音の音響学的解析. 第20回関東喀痰研究会, 1996. 11.
- 45) 高橋卓夫, 麻生定光, 吾妻安良太, 金子泰之, 橋元恭士, 榎本達治, 村田 朗, 若尾りか, 工藤翔二, 太田成男 (<sup>1</sup>老人病研究所生化学部門): サルコイドーシス患者の BALF 細胞におけるアポトーシス抑制因子 Bcl-2, Bcl-xL 蛋白質量の検討. 第16回日本サルコイドーシス学会総会, 1997. 10.
- 46) 橋元恭士, 村田 朗, 吾妻安良太, 工藤翔二: 音響解析による湿性咳嗽の識別. 気道分泌研究会(函館), 1996. 6.
- 47) 谷口泰之<sup>1)</sup>, 村田 朗<sup>1)</sup>, 工藤翔二<sup>1)</sup>, 中嶋楨男<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>ケンツメディコ): 気管内ステント挿入による肺音変化の検討. 第20回肺音(呼吸音)研究会, 1996. 11.
- 48) 中広一善: 慢性呼吸不全 (HOP) 患者における入浴負荷と入浴時の指導について. 第4回東京在宅ケア研究会, 1997. 3.
- 49) 榎本達治, 川並汪一, 金子泰之, 佐藤雅史, 吾妻安良太, 工藤翔二: 気管支肺胞洗浄法による肺ランゲルハンス細胞性肉芽腫症の診断. 第36回日本胸部疾患学会総会, 1996. 4.
- 50) 袖山信幸, 石田和之, 和田義明, 古川哲雄, 吾妻安良太: HuD の Deletion fragment を用いた抗 Hu 抗体の epitope の検討 (第2報). 第37回日本神経学会総会, 1996. 5.
- 51) 吾妻安良太: 接着分子: E-selectin (CD62E) 遺伝子導入マウスにおける BLM 誘発肺線維症に対する効果. 第6回広島肺線維症セミナー, 1997. 2.
- 52) 工藤翔二, 吾妻安良太: E-selectin (CD62E) 遺伝子導入マウスにおける BLM 誘発肺線維症に対する効果. 厚生省びまん性肺疾患分科会, 1997. 1.
- 53) 金子泰之, 川並汪一<sup>1)</sup>, 榎本達治, 持丸 博, 工藤翔二 (<sup>1</sup>第二病院病理部): ヒトの呼吸器疾患における肺毛細血管の修復. 第63回日本医科大学医学会総会, 1995. 9.
- 54) 持丸 博, 高橋卓夫, 久勝章司, 河内重人, 日野光紀, 福田 悠, 川並汪一, 工藤翔二: 急性好酸球性肺炎の臨床病理学的検討. 第36回日本胸部疾患学会総会, 1996.

- 55) 持丸 博, 福田 悠, 福島光浩, 杉崎祐一, 山中宣昭, 神尾孝一郎, 田中傭介, 谷口泰之, 村田 朗, 工藤翔二, 秋山弘博彦, 原口秀司, 小泉 潔: 腫瘍間質にIV型コラーゲンを認めた肺の上皮様血管内皮腫の一例. 第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 9.
- 56) 持丸 博, 金子泰之, 竹中 圭, 工藤翔二, 小泉 潔, 原口秀司, 秋山博彦, 福島光浩, 逸見しのぶ, 川本雅司, 福田 悠: び慢性肺疾患における胸腔鏡下肺生検. 日本医科大学医学会第90回例会, 1996.
- 57) 伊藤永喜<sup>1)</sup>, 山田花世<sup>1)</sup>, 山田浩一, 野村浩一郎, 神野 悟<sup>1)</sup>, 木田厚瑞<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東京都老人医療センター呼吸器科): 慢性閉塞性肺疾患 (COPD) における睡眠時呼吸障害の検討. 第36回日本胸部疾患学会総会, 1996. 4.
- 58) 金子泰之<sup>1)</sup>, 村田 朗<sup>1)</sup>, 谷口泰之<sup>1)</sup>, 工藤翔二<sup>1)</sup>, 渋谷惇夫<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>日本女子大家政学部): 咳嗽音の音響学的解析. 第21回肺音研究会, 1996. 11.

## 5. 精神医学講座

### [付属病院神経科・第一病院神経科・千葉北総病院神経科]

#### 研究概要

例年のごとく当教室では、精神生理学、時間生物学、脳画像などの生物学的研究をはじめ、コンサルテーション・リエゾン精神医学、精神科救急、社会精神医学、バセドウ精神障害、セネストパシー、心身症、その他の臨床研究、力動精神医学、臨床薬理学的研究などが行われた。

精神生理学的研究では、従来の気分障害や催眠現象のほか、ストレス負荷に対する香りの影響につき定量脳波分析、事象関連電位を用いて研究が行われたが、本年はこれらの研究にフラクタル解析を導入した。自発脳波とは異なり、P300などうつ病の事象関連電位では state-dependent なトポグラフィ的特徴を見いだしている。時間生物学領域では、うつ病の概日リズムや抗うつ薬の及ぼす影響について PSG や MSLT のほか OSA 睡眠調査票を用いた詳細な検討が加えられ、また、睡眠・覚醒リズム障害の臨床像、Vit.B12や高照度光療法の効果も研究された。

コンサルテーション・リエゾン精神医学においては、ICU 症候群、精神科救急ケア、CCM より転送された精神科入院自殺患者の実態などが研究され、さらに、整形外科と共同で脊椎手術患者の精神的側面の研究も開始した、またアイオワ大学との共同研究で従来の poststroke depression に加え、脊椎損傷患者の自殺の問題についての成績が発表された。

その他、バセドウ病偽神経症や未治療バセドウ病の長期経過が研究され、また、分裂病に移行した摂食障害例の検討などの心身医学的研究、二次的自己愛とマゾキズムや不登校治療におけるエディプス・コンプレックスについての力動精神医学的研究が行われた。臨床精神薬理領域では主として SSRIs が検討された。

#### 研究業績

##### 論文

[1995年度追加分]

原著：

- 1) 村崎光邦, 森 温理, 浅井昌弘, 上島国利, 長谷川和夫, 山下 格, 山内俊雄, 融 道男, 遠藤俊吉, 三浦四郎衛, 広瀬徹也, 北西憲二, 假谷哲彦, 山口成良, 野村総一郎: 選択的セロトニン再吸収阻害薬 SME3100 (fluvoxamine meleate) のうつ病, うつ状態に対する前期臨床第II相試験。神経精神著理, 1996; 18: 191-204.
- 2) 中嶋照夫, 工藤義雄, 山下 格, 浅井昌弘, 上島国利, 村崎光邦, 山口成良, 斎藤正己, 山脇成人, 西園昌久, 菱川泰夫, 町山幸輝, 山内俊雄, 守屋直樹, 融 道男, 広瀬徹也, 小島卓也, 清水宗夫, 田村敦子, 遠藤俊吉ほか: 選択的セロトニン再吸収阻害薬 Fluvoxamine Meleate (SME31100)の強迫性障害に対する後期臨床第II相試験—プラセボ対照二重盲検試験による用量ならびに有効性の検証—。臨床医薬, 1996; 12: 409-437.
- 3) 村崎光邦, 森 温理, 山下 格, 浅井昌弘, 上島国利, 長谷川和夫, 工藤義雄, 斎藤正己, 渡辺昌祐, 小椋 力, 小林義庚, 大森健一, 山内俊雄, 広瀬徹也, 遠藤俊吉ほか: 選択的セロトニン再吸収阻害薬 SME3100 (fluvoxamine meleate) のうつ病, うつ状態に対する後期臨床第II相試験—塩酸イミプラミンを対照とした用量範囲の検討。臨床医薬, 1996; 12: 439-470.

(1) 原著：

- 1) Urata J, Uchiyama M, Iyo M, Enomoto T, Hayakawa T, Tomiyama M, Nakajima T, Sasaki H, Shirakawa S, Wada K, Fukui S, Yamadera H, Okawa M: Effects of a small dose of triazolam on P300 and resting EEG. Psychopharmacology 1996; 125: 179-184.

- 2) Yamadera H, Takahashi K, Okawa M : A multicenter study of sleep-wake rhythm disorders : Clinical features of sleep-wake rhythm disorders. *Psychiatry and Clinical Neurosciences* 1996 ; 50 : 195-201.
  - 3) Yamadera H, Takahashi K, Okawa M : A multicenter study of sleep-wake rhythm disorders : Therapeutic effects of vitamin B12, bright light therapy, chronotherapy and hypnotics. *Psychiatry and Clinical Neurosciences* 1996 ; 50 : 203-209.
  - 4) Yamadera H, Tsukahara Y, Kato M, Okuma T : Zopiclone pharmacodynamics : By monitoring event-related potentials and psychometric scores. *Japanese Journal of Psychopharmacology* 1996 ; 16 : 145-149.
  - 5) Kishi Y<sup>1)2)</sup>, Robinson RG<sup>1)</sup>, Kosier JT<sup>1)</sup> (<sup>1</sup>Department of Psychiatry, University of Iowa Hospital and Clinics, <sup>2</sup>Department of Neuropsychiatry, Nippon Medical School) : Validity of observed depression as a criteria for mood disorders in patients with acute stroke. *J Affect Disord* 1996 ; 40 : 53-60.
  - 6) Kishi Y<sup>1)2)</sup>, Kosier JT<sup>1)</sup>, Robinson RG<sup>1)</sup> (<sup>1</sup>Department of Psychiatry, University of Iowa Hospital and Clinics, <sup>2</sup>Department of Neuropsychiatry, Nippon Medical School) : Suicidal plans in patients with acute stroke. *J Nerv Ment Dis* 1996 ; 184 : 274-280.
  - 7) Kishi Y<sup>1)2)</sup>, Robinson RG<sup>1)</sup> (<sup>1</sup>Department of Psychiatry, University of Iowa Hospital and Clinics, <sup>2</sup>Department of Neuropsychiatry, Nippon Medical School) : Suicidal plans following spinal cord injury : A six month study. *J Neuropsychiatry Clin Neurosci* 1996 ; 8 : 442-445.
  - 8) Kishi Y<sup>1)2)</sup>, Kosier JT<sup>1)</sup>, Robinson RG<sup>1)</sup> (<sup>1</sup>Department of Psychiatry, University of Iowa Hospital and Clinics, <sup>2</sup>Department of Neuropsychiatry, Nippon Medical School) : Suicidal plans in patients with stroke : comparison between acute-onset and delayed-onset suicidal plans. *Int Psychogeriatr* 1996 ; 8 : 623-634.
  - 9) Kishi Y, Kurosawa H, Iwasaki Y, Hirayama R, Endo S : Access to the emergency psychiatry system in Japan. *Gen Hosp Psychiatry* 1997 ; 19 : 130-137.
  - 10) 木村真人, 鈴木博子, 中村秀一, 鈴木英朗, 葉田道雄, 小宅理佳子, 森 隆夫, 遠藤俊吉 : 向精神薬投与による口渇に対する柴苓湯エキス細粒の効果の検討。 *精神科治療学* 1996 ; 11 : 499-505.
  - 11) 木村真人, 鈴木博子, 森 隆夫, 河野貴美子, 葉田道雄, 今井理子, 金井京子, 館野 周, 遠藤俊吉 : ストレス負荷に対する香りの精神生理学的研究—定量脳波分析と事象関連電位 (ERPs) を用いた検討—。 *催眠と科学* 1996 ; 11 : 19-26.
  - 12) 鈴木博子, 森 隆夫, 木村真人, 遠藤俊吉 : 脳波定量分析によるうつ病の研究—病相期と寛解期における特徴—。 *精神神経誌* 1996 ; 98 : 363-377.
  - 13) 計見一雄, 長谷川朝穂, 平田豊明 : 精神科医療における「急性期」定義の試み—精神穂県指定医1000名を対象とした意識調査の結果から—。 *精神神経誌* 1997 ; 99 : 159-169.
  - 14) 山寺博史, 中村秀一, 鈴木英朗, 遠藤俊吉 : 季節性感情障害 (冬季うつ病) に対する alprazolam の効果—1 自験例と文献的考察—。 *日医大誌* 1997 ; 64 : 53-56.
- (2) 総説 :
- 1) 山寺博史 : 躁うつ病神経生理学—うつ病の事象関連電位, うつ病と ERP. *Clinical Neuroscience* 1996 ; 14 : 429-431.
  - 2) 山寺博史 : サーカディアンリズムと同調。 *神経精神薬理* 1996 ; 18 : 622.
  - 3) 山寺博史 : メラトニン。 *神経精神薬理* 1996 ; 18 : 622.
  - 4) 山寺博史, 鈴木英朗 : 睡眠覚醒リズム障害の治療。 *神経精神薬理* 1996 ; 18 : 697-702.
  - 5) 渡辺信夫<sup>1)</sup>, 黒澤 尚 (<sup>1</sup>救急医学教室) : 急性アルコール中毒 (特集 : アルコール障害の治療)。 *今月の治療* 1996 ; 4 : 548-550.
  - 6) 黒澤 尚 : 術後精神障害の考え方 (併存疾患・合併症管理のてびき)。 *医学のあゆみ (別冊)* 1996 ; 8 : 103-107.
  - 7) 黒澤 尚 : ‘いわゆるICU症候群’を考え直そう (ICU症候群へのアプローチ)。 *ICUとCCU* 1996 ; 20 :

727-731.

- 8) 木村真人：症状精神病（内科医がよく遭遇する状態像）：Modern Physician 1996；16：1205-1208.
- 9) 黒澤 尚：ICU 症候群。臨床医 1996；22：2342-2343.
- 10) 黒澤 尚：再考 ICU シンドローム。メンタルケアナーシング 1996；2：43-49.
- 11) 黒澤 尚：医師のマナー（特集：'質'が問われる外来医療）。治療 1997；79：9-12.
- 12) 葉田道雄：向精神薬の随伴症状とその対策：集中治療 1996；8：1223-1227.
- 13) 鈴木英朗：向精神薬の種類と使い方：集中治療 1996；8：1377-1381.
- 14) 岸 泰宏：不安の予防と対応：集中治療 1996；9：221-224.
- 15) 岸 泰宏：うつ病の予防と対応：集中治療 1996；9：349-353.
- 16) 岸 泰宏：AIDS (HIV 感染) と精神障害：Psychiatry today 1996；15：7.
- 17) 岸 泰宏, 黒澤 尚：救急看護における精神的ケア。日救急医学会関東誌 1996；17：468-475.
- 18) 岸 泰宏, 黒澤 尚：心因性疼痛（疼痛コントロールの実際）。医学のあゆみ(別冊) 1997；2：71-75.
- 19) 岸 泰宏：せん妄の予防と対応：集中治療 1997；9：95-99.
- 20) 岸 泰宏, 黒澤 尚：人工呼吸中に認められやすい精神障害。集中治療 1996；8：949-955.
- 21) 藤波茂忠：さまよえる患者診断 Q & A（ケース 4）。Dental Diamond 1996；21(279)：172-173.
- 22) 藤波茂忠：さまよえる患者診断 Q & A（ケース 6）。Dental Diamond 1996；21(282)：168-169.
- 23) 藤波茂忠：さまよえる患者診断 Q & A（ケース 8）。Dental Diamond 1996；21(284)：160-161.
- 24) 藤波茂忠：さまよえる患者診断 Q & A（ケース 12）。Dental Diamond 1996；21(290)：156-157.
- 25) 長谷川朝穂：精神科医療と自殺 救急医療ジャーナル 1996；4：23-26.
- 26) 山寺博史：脳波トポグラフィ。特別号「現代臨床機能検査」。日本臨床 1997；361-364.
- 27) 守谷直樹, 生田顕生, 遠藤彦彦, 柴田恵理子, 柴田滋文, 山科 満：神経症の精神分析的な精神療法—どのような知識と技術が必要か—。精神科治療学 1997；12：127-133.

(3) 研究報告書：

- 1) 兼子 直, 関 亨, 和田丸一, 千葉丈司, 村中秀樹, 丹羽真一, 管るみ子, 小野常夫, 大沼悌一, 後藤雄一, 橋本大彦, 福田正人, 中村祐輔, 磯村 実, 子穴康功, 小国弘量, 山寺博史, 橋本 清, 前澤真理子, 辻 省次, 田中 一, 長谷川精一, 後藤耕太郎, 小西 徹, 前田郷子, 渡辺一功, 麻生幸三郎, 武田明夫, 河合逸雄, 大谷和正, 山磨康子, 安田 雄, 久郷敏明, 佐野 輝, 森本武彦, 南 武嗣, 満留昭久, 廣瀬伸一：てんかん・熱性けいれん遺伝（子）解析に関する多施設共同研究—家系調査：予報—。てんかん治療研究振興財団研究年報 1996；8：80-90.

著 書

- 1) Hada M, Kito S, Kimura M, Suzuki H, Mori T, Yamadera H, Endo S：〔分担〕 Lateralization of N100 and P300 components of event-related potentials in depression. Recent advances in event-related brain potential research. (C. Ogura, Y. Koga and M. Shimokochi eds.) 1996；pp1015-1018, Elsevier Science B.V.
- 2) 遠藤俊吉, 森 隆夫：〔共著〕 専門医が語るよくわかる心の病気 1996；成美堂出版.
- 3) 遠藤俊吉：心身症。(和田 功他編) 内科治療ガイド'96. 治療戦略の立て方と病態に応じた治療の戦略 1996；pp217-222, 文光堂.
- 4) 黒澤 尚, 市橋秀夫<sup>1)</sup>, 皆川邦直<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>市橋クリニック, <sup>2)</sup>東京都精神医学研究所)：〔編集〕 コンサルテーション・リエゾン精神医学。精神科プラクティス第 4 巻, 1996；星和書店.
- 5) 黒澤 尚, 保坂 隆<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>東海大学精神医学教室)：〔分担〕 コンサルテーション・リエゾン精神医学の定義。“コンサルテーション・リエゾン精神医学”, 精神科プラクティス第 4 巻, 1996；pp3-11, 星和書店.
- 6) 黒澤 尚：〔分担〕 救命救急センターに収容された自殺未遂者への対応。“コンサルテーション・リエゾン精神医

学”，精神科プラクティス第4巻，1996；pp97-104，星和書店。

- 7) 黒澤 尚，渡辺信夫：〔分担〕アルコールと救急医療。アルコール（メデイコピア）1997；pp221-225，富士レビオ，東京。
- 8) 黒澤 尚，葉田道雄：〔分担〕ホームレス，救急隊必携救急マニュアル 1997；pp284-285，ぎょうせい。
- 9) 黒澤 尚，鈴木英朗：〔分担〕精神疾患，救急隊必携救急マニュアル1997；pp286-288，ぎょうせい。
- 10) 森 隆夫：〔分担〕神経系治療薬—抗不安薬。“治療薬ガイド'97”（Medical Practice 編集委員会編）1997；pp31-43，文光堂。

## その他

(学会印象記)

遠藤俊吉：「第92回日本精神神経学会総会」印象記。精神医学 1996；38：1008-1009。

(Proc.)

Yamadera H, Kobayashi K, Sasaki M, Sugai K, Suda H：Epilepsy and Ring 20 Syndrome. Epilepsia 1996；37(Suppl. 3)：70。

## 学会発表

(1) 特別講演：

1) 黒澤 尚：いわゆるICU症候群を考え直そう。第14回日本集中学会中国四国地方会，1997。2。

(2) 教育講演：

1) 岸 泰宏，黒澤 尚：救急看護における精神的ケア。第41回日本救急医学会関東地方会，1996。6。

2) 岸 泰宏：精神疾患患者との良好なコミュニケーションの取り方。第12回救命救急学術研究会，1996。12。

(3) 一般講演：

1) Paradiso S<sup>1)</sup>, Robinson RG<sup>1)</sup>, Kishi Y<sup>1)2)</sup>, (<sup>1)</sup>Department of Psychiatry, University of Iowa Hospital and Clinics, <sup>2)</sup>Department of Neuropsychiatry, Nippon Medical School)：Suicidal plans in patients with stroke：Comparison between acute-onset and delayed-onset plans. 149th American Psychiatric Association annual meeting, New York, 1996. 5。

2) Kishi Y<sup>1)2)</sup>, Robinson RG<sup>1)</sup>, Kosier JT<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>Department of Psychiatry, University of Iowa Hospital and Clinics, <sup>2)</sup>Department of Neuropsychiatry, Nippon Medical School)：Comparison of patients with suicidal plans during the acute or chronic post-stroke period. 149th American Psychiatric Association annual meeting, New York, 1996. 5。

3) Shimoda K<sup>1)2)</sup>, Ohkubo T, Robinson RG<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>Department of Psychiatry, University of Iowa Hospital and Clinics, <sup>2)</sup>Department of Neuropsychiatry, Nippon Medical School)：Changes in specificity of symptoms for depression over the first two years after stroke. 149th American Psychiatric Association annual meeting, New York, 1996. 5。

4) Suzuki H, Mori T, Kimura M, Hada M, Yamadera H, Endo S：Quantitative EEG characteristics of depressive state and remission in major Depression. X World Congress of Psychiatry, 1996. 8。

5) Kurosawa H, Kishi Y, Endo S：Current status and problems of general hospital psychiatry. Xth World Psychiatric Association, Madrid 1996. 8。

6) Yamadera H, Nakamura S, Suzuki H, Endo S：Effects of Trazodone hydrochloride and Imipramine on polysomnographic data in Healthy Volunteers：Neuropharmacological Mechanisms in the Aspects of Neurophysiology. 9th Biennial Symposium of the International pharmaco-EEG society (IPEG), Prague, Czech Republic, 1996. 9。

- 7) Kishi Y, Iizuka K, Nakamura S, Kurosawa H : Are Beta-blockers effective in polydipsia ? Annual Meeting of the Association of Medicine and Psychiatry, San Antonio, Texas, 1996. 11.
- 8) Kishi Y<sup>1)2)</sup>, Cooney J<sup>1)</sup>, Kathol RG<sup>1)</sup>, Mckay S<sup>1)</sup>, Alderman K<sup>1)</sup>, Barry-Walker J<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>Department of Psychiatry, University of Iowa Hospital and Clinics, <sup>2)</sup>Department of Neuropsychitry, Nippon Medical School) : The characteristics of the type IV medical psychiatric unit. 第9回総合病院精神医学会, 東京, 1996. 12.
- 9) Shimoda K<sup>1)2)</sup>, Robinson RG<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>Department of Psychiatry, University of Iowa Hospital and Clinics, <sup>2)</sup>Department of Neuropsychiatry, Nippon Medical School) : Relationship between poststroke depression and lesion location in long-term follow-up. 8th American Neuropsychiatric Association annual meeting, Orlando, 1997. 2 .
- 10) Tateno A, Hada M, Kimura M, Mori T, Suzuki H, Endo S : P300 Topography and <sup>123</sup>I-IMP SPECT Characteristics of Patients with Major Depression in Depressed and Remitted Phases. III Pan-pacific Conference on Brain Topography (Chiba), 1997. 4.
- 11) 伊藤敬雄, 平山理津子, 鈴木英朗, 葉田道雄, 木村真人, 遠藤俊吉, 佐藤忠宏 : 摂食障害から分裂病が顕在化した症例一両疾患の関連性について一. 第92回日本精神神経学会総会, (札幌), 1996. 5.
- 12) 岸 泰宏, 黒澤 尚, 遠藤俊吉 : 救命救急センターで精神科救急を. 第92回日本精神神経学会総会, 1996. 5.
- 13) 渡辺信夫<sup>1)</sup>, 黒澤 尚 (<sup>1)</sup>救急医学教室) : 精神病院の多い地域の救命救急センターの役割. 第92回日本精神神経学会総会, 1996. 5.
- 14) 飯塚弘一, 岸 泰宏, 黒澤 尚, 遠藤俊吉 : 救命救急センターに収容後, 精神科病棟に転科した自殺未遂者の実態. 第92回日本精神神経学会総会, 1996. 5.
- 15) 藤波茂忠, 吉川栄省, 中村美帆, 鈴木雅博, 松井康絵, 野村重友, 高木宏昌 : 類バセドウ病性偽神経症 Based-owoide Pseudoneurose (Frankle VE 1956) の今日的意義. 第92回日本精神神経学会総会, 1996. 5.
- 16) 長谷川朝穂 : 急性期精神病患者の長期在院に関する要因. 第92回日本精神神経学会総会, 1996. 5.
- 17) 藤波茂忠, 吉川栄省, 中村美帆, 鈴木雅博, 松井康絵, 野村重友, 高木宏昌 : 神経症尺度 FNI(Fifty-item Neurotic Index) による未治療バセドウ病の10年経過. 第37回日本心身医学会総会, 1996. 6.
- 18) 飯塚弘一, 岸 泰宏, 益子邦洋<sup>1)</sup>, 黒澤 尚, 遠藤俊吉 (<sup>1)</sup>救急医学教室) : 日本医科大学高度救命救急センターに収容された自殺未遂者の身体的重症度とその後の転医先一最近の20症例の実態. 第41回日本救急医学会関東地方会, 1996. 6.
- 19) 中村秀一, 山寺博史, 鈴木英朗, 木村真人, 森 隆夫, 遠藤俊吉, 白川修一郎<sup>1)</sup>, 内山 真<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>国立精神・神経センター精神保健研究所) : 塩酸トラゾドンとイミプラミンの概日リズムに対する影響(第4報). 第6回日本薬物脳波研究会, (大阪) 1996. 6.
- 20) 村田雄一, 佐藤忠宏, 笹尾 純, 遠藤俊吉, 伊藤敬雄 : 重度痴呆患者デイケア退所者の動向. 第11回日本老年精神医学会, (東京), 1996. 6.
- 21) 飯塚弘一, 岸 泰宏, 益子邦洋<sup>1)</sup>, 黒澤 尚, 遠藤俊吉 (<sup>1)</sup>救急医学教室) : 日本医科大学高度救命救急センターに収容された自殺未遂者の実態一過去10年間の比較. 第24回日本救急医学会総会, 1996. 10.
- 22) 黒澤 尚 : 人工呼吸患者の精神ケア. 第3回日本呼吸療法医学会セミナー, 1996. 11.
- 23) 中村秀一, 山寺博史, 鈴木英朗, 伊藤敬雄, 木村真人, 森 隆夫, 遠藤俊吉, 白川修一郎<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>国立精神・神経センター精神保健研究所) : 塩酸トラゾドンとイミプラミンの概日リズムに及ぼす影響 (1) 終夜睡眠ポリグラフについて. 第26回日本脳波・筋電図学会学術大会, (新潟), 1996. 10.
- 24) 鈴木英朗, 山寺博史, 中村秀一, 伊藤敬雄, 木村真人, 森 隆夫, 遠藤俊吉, 白川修一郎<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>国立精神・神経センター精神保健研究所) : 塩酸トラゾドンとイミプラミンの概日リズムに及ぼす影響 (2) Sleep Propensity Test について. 第26回日本脳波・筋電図学会学術大会, (新潟), 1996. 10.
- 25) 村田雄一, 山寺博史, 中村秀一, 鈴木英朗, 木村真人, 森 隆夫, 遠藤俊吉, 白川修一郎<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>国立精神・神経セ



- ンター精神保健研究所)：塩酸トラゾドンとイミプラミンの概日リズムに及ぼす影響(3) OSA 睡眠調査表について。第26回日本脳波・筋電図学会学術大会，(新潟)，1996。10。
- 26) 竹澤健司，森 隆夫，木村真人，鬼頭 諭，鈴木博子，葉田道雄，遠藤俊吉，渡辺 昇：精神作業負荷前後における精神生理学的変化について—フラクタル次元解析を用いた検討—。第26回日本脳波・筋電図学会学術大会，(新潟)，1996。10。
- 27) 木村真人，鈴木博子，森 隆夫，葉田道雄，今井理子，館野 周，遠藤俊吉：精神作業負荷前後における精神生理学的変化について—脳波パワーと事象関連電位を用いた検討—。第26回日本脳波・筋電図学会学術大会，(新潟)，1996。10。
- 28) 鬼頭 諭，森 隆夫，木村真人，竹澤健司，葉田道雄，遠藤俊吉，渡辺 昇：フラクタル次元解析からみた確率過程とした脳波。第26回日本脳波・筋電図学会学術大会，(新潟)，1996。10。
- 29) 小泉幸子，岸 泰宏，黒澤 尚，遠藤俊吉，藤波茂忠，元文芳和<sup>1)</sup>，宮本雅史<sup>1)</sup>，白井康正<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>整形外科)：脊椎手術患者の精神面の評価。日本医科大学医学会第90回例会，1996。11。
- 30) 田川一郎，木村真人，岸 泰宏，黒澤 尚，遠藤俊吉：大学病院における精神科コンサルテーションの実態。日本医科大学医学会第90回例会，1996。11。
- 31) 遠藤幸彦：二次的自己愛の障害とマゾキズムの病理。第42回日本精神分析学会，1996。11。
- 32) 田川一郎，木村真人，岸 泰宏，黒澤 尚，遠藤俊吉：大学病院における精神科コンサルテーションの実態—CCM と他の診療科との比較を中心として—。第9回日本総合病院精神医学会総会，1996。12。
- 33) 長谷川朝穂：持続的鎮静による海外への患者搬送について。第9回日本総合病院精神医学会総会，1996。12。
- 34) 今井理子，木村真人，鈴木博子，森 隆夫，葉田道雄，金井京子，館野 周，遠藤俊吉：ストレス負荷後に対する香りの精神生理学的研究—一定量脳波と事象関連電位を用いた検討—。(大阪) 1997。3。
- 35) 遠藤幸彦：不登校生徒の精神療法とエディプスコンプレックス。第10回日本思春期青年期精神医学会，1997。4。

## 6. 小児科学講座

### [付属病院小児科・第二病院小児科・多摩永山病院小児科・千葉北総病院小児科]

#### 研究概要

付属病院では血液・腫瘍性疾患，膠原病・免疫性疾患，内分泌・代謝性疾患，循環器疾患，腎・泌尿器疾患を，第二病院では神経・筋疾患，新生児・未熟児を，多摩永山病院ではアレルギー疾患・呼吸器疾患を，千葉北総病院では腎・泌尿器疾患，小児保健を主な研究対象としており，それぞれの病院の小児科の特色をだしている。

なお，付属病院では今年度より，産科および生化学第二との協力のもとに遺伝子診断部門を開設した。いずれにしても小児科学教室は付属4病院が常に有機的連携を保ち，なによりも患者サイドにたった臨床的研究を心がけている。業績は4病院一括して報告する。

血液・悪性腫瘍：白血病をはじめとした小児悪性腫瘍の予後因子の解析，治療法の改善，晩期障害の検討。鉄欠乏性貧血の病態解析，思春期貧血のマススクリーニングの実施に伴う諸条件の検討。

膠原病・免疫：自己免疫性疾患における自己抗体産出機序の検討と出現自己抗体の分子生物学的解析。不定愁訴をもつ学童生徒における自己抗体出現の機序と臨床的意義。

内分泌・代謝：小児糖尿病の合併症併発諸因子の検討。肥満児の病態解析と治療法の開発。小人症の治療と随伴する微量の代謝。先天性代謝異常児の遺伝子解析。

循環器：薬剤負荷体表面電位図を用いた心筋虚血病変の検討。Late potentialの臨床的意味付け。川崎病をはじめとした心血管病変におけるエンドセリンの関与。抗腫瘍剤による心機能に及ぼす影響の因子解析。

神経・筋：けいれん性疾患脳波学的解析。各種神経疾患におけるSPECTによる脳血流の解析。筋変性疾患の病理組織学的検討と遺伝子解析。

腎・泌尿器：各種腎疾患の病理組織学的検討と免疫学的背景の臨床的検討。腎・尿路疾患のマススクリーニング陽性者の解析。乳児期腎臓超音波マススクリーニング検査の臨床的意味付け。

アレルギー：アトピー性疾患病態に関する基礎的・臨床的検討。喘息患児におけるテオフィリン系薬剤の血行動態と臨床像諸因子との関連性。食餌性アレルギーをもつ乳児の腸管各種免疫グロブリンの解析と蛋白透過性の検討。

呼吸器：新生児～学童の呼吸音の音響学的変化解析。小児期適応肺機能検査法の改善と評価。各種疾患における気管支洗浄液の免疫学的，細胞学的検討。

#### 研究業績

##### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Takenaka T<sup>1)2)</sup>, Sakuraba H<sup>1)</sup>, Hashimoto K, Fujino O, Fujita T, Tanaka H<sup>2)</sup>, Suzuki Y ( <sup>1)</sup>Department of Clinical Genetics, The Tokyo Metropolitan Institute of Medical Science, <sup>2)</sup>The First Department of Internal Medicine, Faculty of Medicine, Kagoshima University) : Coexistence of genemutations causing Fabry disease and Duchenne muscular dystrophy in a Japanese boy. Clin Genet 1996 ; 49 : 255-260.
- 2) Ferrie CD<sup>1)</sup>, Beaumanoir A<sup>2)</sup>, Guerrini R<sup>3)</sup>, Kivity S<sup>4)</sup>, Vigeveno F<sup>5)</sup>, Takaishi Y, Watanabe K<sup>6)</sup>, Mira L<sup>7)</sup>, Capizzi G<sup>8)</sup>, Costa G<sup>9)</sup>, Valseriati D<sup>10)</sup>, Grioni D<sup>11)</sup>, Lerman P<sup>4)</sup>, Ricci S<sup>5)</sup>, Vigliano P<sup>8)</sup>, Goumas-Kartalas A<sup>11)</sup>, Hashimoto K, Robinson RO<sup>1)</sup>, Panayiotopoulos CP<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>London UK, <sup>2)</sup>Mirano Italy, <sup>3)</sup>Pisa Italy, <sup>4)</sup>Petach Tikva, Israel, <sup>5)</sup>Rome, Italy, <sup>6)</sup>Nagoya, Japan, <sup>7)</sup>Trino, Italy, <sup>8)</sup>Sondrio, Italy, <sup>9)</sup>Brescia, Italy, <sup>10)</sup>Monza, Italy,

- <sup>11)</sup>Athens, Greece) : Early-Onset Benign Occipital Seizure Susceptibility Syndrome. *Epilepsia*, 1997 ; 38 : 285-293.
- 3) Jimbo O, Zhang J, Seki T, Ogawa S : Criteria for Evaluating Abnormal Signal-Averaged Electrocardiogram in Children Classified by Age, Body Surface Area and Height. *Jpn Circ J* 1996 ; 60 : 228-238.
  - 4) Ogawa S, Nagai Y, Zhang J, Yuge K, Hino Y, Jimbo O, Fukazawa R, Hayashi R, Kamisago M, Seki T, Ohkubo T, Takechi N, Yamamoto M : Evaluation of Myocardial Ischemia and Infarction by Signal-Averaged Electrocardiographic Late Potentials in Children with Kawasaki Disease. *Am J Cardiol* 1996 ; 78 : 175-181.
  - 5) Murakami M : Urine screening at school and management of positive children. *Asia Med J* 1996 ; 39 : 455-464.
  - 6) Asano T, Fukuda Y, Katsube Y, Fukunaga Y, Sugisaki Y, Yamanaka N, Yamamoto M : Infantile acute monocyte leukemia with tumor formation expressing adhesion molecules. *Leuke Lymphoma*, 1996 ; 23 : 173-179.
  - 7) Asano T, Yamamoto M : Acute lymphoblastic leukemia in Ehlers-Danlos syndrome. *Int J Hematol* 1996 ; 64 : 283-287, 1996.
  - 8) Ueda T, Fukunaga Y, Migita M, Watanabe A, Kaneko K, Morita T<sup>1)</sup>, Yamamoto M (<sup>1)</sup>National Tohsei Hospital, Shizuoka) : Improvement of bone disease with increased dose of glucocerebrosidase in a Gaucher disease patient who had a bone lesion presenting during low-dose enzyme replacement therapy. *Acta Paediatrica Japonica*, 1996 ; 38 : 260-264.
  - 9) Ferrie CD, Beaumanoir A, Guerrini R, Kivity S, Vigevano F, Takaishi Y, Watanabe K, Mira L, Cappizi G, Costa P, Valseriate D, Grioni D, Lerman P, Ricci S, Vigliano P, Goumas-Kartalas, Hashimoto K, Robinson RO, Panayiotopoulos : Early-onset benign occipital seizure susceptibility syndrome. *Epilepsia* 1997 ; 39 : 285-293.
  - 10) 岸 恵, 大木由加志, 折茂裕美, 入江 学, 山本正生 : 小児成人病検診における早朝空腹時採血と食後採血の比較. *小児保健研究* 1996 ; 55 : 675-679.
  - 11) 中野起久恵, 松岡和彦, 太田耕造, 藤田武久, 神保 修, 西澤善樹, 橋本 清, 高間都志<sup>1)</sup>, 小俣 香<sup>1)</sup>, 高橋政之<sup>1)</sup>, 渡辺英之<sup>1)</sup>, 佐伯守洋<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>日本医大第二病院放射線科, <sup>2)</sup>国立小児病院外科) : 肝末分化肉腫の1例. *小児科臨床* 1996 ; 49 : 2109-2113.
  - 12) 藤野 修, 橋本 清, 榎戸 久, 小松崎英樹, 藤田武久, 高石康子, 釜泡 敏, 平山恒憲, 桑原健太郎, 藤松真理子 : 複雑部分発作をもつ小児てんかん症例の検討. *小児科臨床* 1996 ; 49 : 2413-2416.
  - 13) 土居寿子, 福永慶隆 : フローサイトメトリーによる好中球 DCFH-oxidation の測定. *日医大誌*, 1996 ; 63 : 192-201.
  - 14) 川上康彦, 福永慶隆, 橋本 清 : 小児期髄膜炎患者における髄液および血清中ネオプテリンの変動について. *脳と発達* 1996 ; 28 : 23-29.
  - 15) 岸 恵, 大木由加志, 折茂裕美, 入江 学, 山本正生 : 小児成人病検診における早朝空腹時採血と食後採血の比較. 第16回日本肥満学会記録 1996 ; 16 : 118-119.
  - 16) 宗像恵美子, 立麻典子, 継 仁, 安保和俊, 土屋正己, 村上睦美, 山本正生 : Nutcracker 現象のおよぼす上腸間膜動脈の解剖学的特徴と肥満の影響—腹部超音波による検討—. *日児誌* 1996 ; 100 : 1372-1379.
  - 17) 村上睦美 : 小児における血尿をどう取り扱うか—chance hematuria を中心に—. *山形県小児科医学会会報* 1997 ; 29 : 7-12.
  - 18) 村上睦美 : 小児保健的見地からみた腎尿路異常マス・スクリーニングの意義. *日児誌* 1997 ; 101 : 571-574.
  - 19) 岡部俊成, 渋谷正則<sup>1)</sup>, 飛田正俊, 竹田幸代, 村上由加里, 丸山和男, 向後俊昭(<sup>1)</sup>日本医大付属多摩永山病院薬

- 剂科)：気管支喘息児に対するネオフィリン徐放性シロップ剤のディスペンサーを用いた安全な投与法の検討。小児科臨床 1997；50：p317-325。
- 20) 前田美穂, 小川俊一, 山本正生：アントラサイクリン系薬剤の慢性心毒性により拡張性心筋症を呈した急性骨髄性白血病の1小児例：副作用症例データベース。診断と治療 1996；84：649。
  - 21) 前田美穂, 植田高弘, 山本正生：L-アスパラギナーゼにより脾炎を併発した急性リンパ性白血病の1例：副作用症例データベース。診断と治療 1996；84：650。
  - 22) 前田美穂, 野呂恵子, 山本正生：非ホジキンリンパ腫の治療終了3年後にエトポシドとの関係が疑われる二次性白血病を呈した1小児例：副作用データベース。診断と治療 1996；84：651。
  - 23) 入江 学, 五十嵐徹, 今井丈英, 安保和俊, 折茂裕美, 立麻典子, 岸 恵, 大木由加志, 山本正生：Propylthiouracil 内服中に半月体形成性腎炎と脳出血を合併した甲状腺機能亢進症の16歳女児例。ホルモンと臨床 1996；44(増刊号)：121-124。
  - 24) 立麻典子, 土屋正己, 吉田順子, 大橋隆治, 継 仁, 安保和俊, 宗像恵美子：プロピルチオウラシルによる好中球細胞質抗体 (ANCA) 関連糸球体腎炎の1例。Seminars in Pediatric Nephrology 1996；12：22-27。
  - 25) 継 仁, 土屋正己, 村上睦美, 山本正生：学校検尿で発見された蛋白尿を有する症例に関する前方視的研究。日児誌 1997；101：61-66。
  - 26) 稲葉八興, 城田和彦, 今井大洋, 高瀬真人, 吉田 豊, 工藤翔二<sup>1)</sup>, 渋谷惇夫<sup>2)</sup>：<sup>1)</sup>日本医大第四内科, <sup>2)</sup>日本女子大学政学部)：気管支喘息発作の治療によるラ音の音響学的変化—第3報—。The Rapetic Research 1996；17：215-219。
  - 27) 城田和彦, 稲葉八興, 今井大洋, 高瀬真人, 吉田 豊, 工藤翔二<sup>1)</sup>, 渋谷惇夫<sup>2)</sup>：<sup>1)</sup>日本医大第四内科, <sup>2)</sup>日本女子大学政学部)：新生児呼吸音の音響学的解析—呼吸適応時期における経時的変化—。Therapeutic Research 1996；17：274-278。
  - 28) 千葉 隆, 土居寿子, 前田美穂, 松岡和彦, 吉田 豊, 山本正生：初発症状が開口障害であった鼻咽頭癌の1男児例。日小児呼吸器会誌 1996；7：85-87。
  - 29) 千葉 隆：小児における気管支肺胞洗浄検査 (BAL) の適応と方法。小児科 1997；38：261-266。
  - 30) 飛田正俊, 岡部俊成, 吉田 豊：テオフィリン過量服用により意識障害をきたした1例。診断と治療：副作用データベース。1996；84(増刊号)：343。
  - 31) 藤野 修, 橋本 清, 榎戸 久, 小松崎英樹, 藤田武久, 高石康子, 平山恒憲：てんかん性めまいをきたした1男子例。脳と発達 1996；28：515-519
  - 32) 立麻典子, 土屋正己, 村上睦美：副作用症例データベース：柴苓湯投薬中に好酸球性膀胱炎をきたした1例。診断と治療 1996；84(増刊)：864。
- (2) 総説：
- 1) 小川俊一：川崎病の心筋虚血の評価法。Annual Review 循環器 1997；167-172。
  - 2) 福永慶隆：急性白血病における多剤耐性。小児科 1996；37：809-815。
  - 3) 福永慶隆：伝染性膿痂疹。Modern Physician 1996；16：777-778。
  - 4) 福永慶隆：小児の臨床検査指針；抗好中球細胞性抗体。小児科診療 1996；59(増刊号)：396-397。
  - 5) 福永慶隆：私の処方；伝導性膿痂疹。Modern Physician, 1996；16：1055。
  - 6) 福永慶隆, 山本正生：症例から考える診療の進め方：血小板減少に伴う紫斑。小児科 1997；38(1)：83-86。
  - 7) 福永慶隆：小児の出血斑。Modern Physian 1996；16：1169。
  - 8) 山本正生, 前田美穂：小児の急性白血病患児の晩期障害。日小児血液会誌 1996；10：145-155。
  - 9) 山本正生, 野呂恵子, 右田 真, 前田美穂：学校保健；(IV)健康観察上での問題点と対応；6. 思春期貧血について。小児科診療 1996；49(増刊)：1449-1462。
  - 10) 藤田武久, 橋本 清：SLE 脳症。小児内科 1997；28：1070-1075。

- 11) 向後俊昭, 吉田 豊: てんかん: 呼吸の功罪 (特集: 鼻呼吸と口呼吸). JOHNS 1996; 12: 683-685.
- 12) 伊藤彦彦: 新生児ループスの発症機序と Ro52. 日本リウマチ学会雑誌 1996; 36: 884-890.
- 13) 前田美穂, 山本正生: トロンボテスト(TT), ヘパプラスチンテスト(HPT). 小児科診療 1996; 59: 47-50.
- 14) 前田美穂, 山本正生: 不安定ヘモグロビン症. 日本臨床 1996; 54: 138-143.
- 15) 前田美穂, 山本正生: 小児白血病の晩期障害. 小児内科 1997; 29: 326-331.
- 16) 前田美穂: 貧血: 学校保健校医の注意すべき疾患. 薬の知識 1997; 48: 64.
- 17) 大木由加志, 折茂裕美: グルカゴン (小児の臨床検査指針). 小児科診療 1996; 59(増刊号): 304-306.
- 18) 折茂裕美, 大木由加志: NIDDM の薬物療法 (小児の糖尿病一病態と管理). 小児内科 1996; 28: 834-837.
- 19) 村上睦美: アルポート症候群. 腎と透析 1996; 41(増刊): 267-268.
- 20) 村上睦美, 芦田光則<sup>1)</sup> (勝楽堂病院小児科): [小児27] 尿路感染症. 臨床医, 1996; 41(増刊): 1735-1737.
- 21) 村上睦美: 症例から考える診療の進め方 [感冒後の歩行障害]. 小児科 1996; 37: 385-388.
- 22) 村上睦美, 土屋正己: 尿中白血球検査用試験紙を用いた尿路感染症スクリーニング. 医学の歩み 1996; 177: 546-547.
- 23) 継 仁, 村上睦美: 腎機能. 小児科 1996; 37: 553-556.
- 24) 村上睦美, 安保和俊: 尿検査. 小児科 1996; 37: 660-662.
- 25) 継 仁, 村上睦美: 腎生検. 小児科 1996; 37: 733-735.
- 26) 村上睦美, 土屋正己, 安保和俊: 検尿情報と異常 (1)腎疾患. 小児科臨床 1996; 1311-1317.
- 27) 村上睦美, 飯野靖彦<sup>1)</sup>, 杉崎徹三<sup>2)</sup>, 柴崎敏昭<sup>3)</sup> (<sup>1)</sup>日本医大第二内科, <sup>2)</sup>昭和大学腎臓内科, <sup>3)</sup>慈恵医大臨床検査講座): 薬物性腎障害. 腎臓 1996; 19: 27-37.
- 28) 村上睦美: どうする尿潜血, 尿蛋白「小児保健の立場から」. 健康管理 1996; 9: 22-28.
- 29) 村上睦美, 土屋正己, 安保和俊: 小児における薬剤性水・電解質異常. 臨床と薬物療法 1996; 15: 761-765.
- 30) 土屋正己, 村上睦美: 腎臓病の診断・検査シリーズ「10. 急性腎炎症候群」. 腎と透析 1996; 41: 434-437.
- 31) 村上睦美: 質疑応答「尿路感染症疑い症例の診断」. 日本医事新報 1996; 3779: 91-92.
- 32) 村上睦美, 土屋正己: 学校保健: 校医の注意すべき疾患「腎疾患」. 薬の知識 1997; 48: 56-57.
- 33) 岡部俊成: テオフィリン up date—副作用への配慮—薬物濃度測定と服用指導. ASTHMA 1997; 10. 1: 49-53.
- 34) 岡部俊成: アレルギー外来でのテオフィリン使用法について: 私の治療指針. アレルギーの臨床 1997; 17: 215.
- 35) 飛田正俊, 吉田 豊: 咳嗽, 喘鳴. 臨床医の処方と注射, 臨床医 1996; 22(増刊号): 1672-1674.
- 36) 橋本 清: 全身性無汗無痛症. 日本医事新報 1996; (3721): 143.

## 著 書

- 1) 山本正生: [分担] 悪性固形腫瘍患児の晩期障害: 患者の Quality of life 管理, 小児期の悪性固形腫瘍 (山本正生編), 1996; pp 329-338, 永井書店.
- 2) 山本正生: [分担] わが国における小児期悪性固形腫瘍概観小児期の悪性固形腫瘍 (山本正生編). 1996; pp 1-12, 永井書店.
- 3) 村上睦美, 浅井利夫<sup>1)</sup>, 大国真彦<sup>2)</sup>, 北川照男<sup>3)</sup>, 酒井 糾<sup>4)</sup>, 長嶋正実<sup>5)</sup>, 本田 憲<sup>6)</sup>, 松浦信夫<sup>7)</sup>, 山内邦昭<sup>8)</sup> (<sup>1)</sup>東京女子医大小児科, <sup>2)</sup>日本大学小児科, <sup>3)</sup>国際学院埼玉短期大学, <sup>4)</sup>北里大学泌尿器科, <sup>5)</sup>名古屋大学小児科, <sup>6)</sup>福岡市こども病院, <sup>7)</sup>北里大学小児科, <sup>8)</sup>東京都予防医学協会): [分担] 腎臓手帳「2版」. 1996. 財団法人日本学校保健協会.
- 4) 村上睦美: [分担] 尿検査. 健康教育ビジュアル実践講座; 第2巻 新しい健康観の形成と子どもの病気—健康の自己管理能力を育てる毎日の指導—. 健康教育ビジュアル実践講座刊行会. 1996; pp 85-89, ニチブン.

- 5) 村上睦美：〔分担〕泌尿・生殖器疾患。健康ビジュアル実践講座；第2巻 新しい健康観の形成と子どもの病気—健康の自己管理能力を育てる毎日の指導—。教育健康ビジュアル実践講座刊行会，1996；pp 140-143，ニチブン。
- 6) 村上睦美，浅井利夫<sup>1)</sup>，大国真彦<sup>2)</sup>，北川照男<sup>3)</sup>，酒井 糾<sup>4)</sup>，長嶋正実<sup>5)</sup>，本田 憲<sup>6)</sup>，松浦信夫<sup>7)</sup>，山内邦昭<sup>8)</sup>（<sup>1)</sup>東京女子医大小児科，<sup>2)</sup>日本大学小児科，<sup>3)</sup>国際学院埼玉短期大学，<sup>4)</sup>北里大学泌尿器科，<sup>5)</sup>名古屋大学小児科，<sup>6)</sup>福岡市こども病院，<sup>7)</sup>北里大学小児科，<sup>8)</sup>東京都予防医学協会）：〔分担〕心臓手帳「2版」。1996；財団法人日本学校保健会。
- 7) 村上睦美：〔分担〕泌尿器と性器の病気。（中尾喜久，植村恭夫，高久史磨，鈴木章夫編），家庭医学大全科，1996；PP 276-281，法研。
- 8) 村上睦美：〔分担〕血尿・浮腫・排尿痛・頻尿—小児の腎・尿路感染—，救急現場の救急医療（山中昭栄，山本保博編），1996；PP 98-106，荘道社。
- 9) 村上睦美：〔分担〕泌尿器疾患。Text 小児科学。柳澤正義，阿部敏明，多田 裕編，1996；pp 431-462，南山堂。
- 10) 渡辺 淳，山本正生：〔分担〕Ewing肉腫，Primitive Neuroectodermal tumor。小児期の悪性固形腫瘍（山本正生編），1996；pp 192-211，永井書店。
- 11) 深沢隆治，山本正生：〔分担〕小児の救急医療の特殊性。救急現場の救急医療，小児・新生児救急と産科・婦人科救急（山中昭栄，山本保博編），1996；pp 14-20，荘道社。
- 12) 小川俊一：〔分担〕小児によくみられる症状と疾患，E. チアノーゼ，不整脈，胸痛，失神—小児の心臓・循環器疾患—。救急現場の救急医療，小児・新生児救急と産科・婦人科救急（山中昭栄，山本保博編），1996；pp 89-98，荘道社。
- 13) 吉田 豊，千葉 隆，高瀬真人：〔分担〕気管支造影。アレルギー検査法（宮本昭正，石川 哮，飯倉洋治編），1996；PP 47-51，医薬ジャーナル。
- 14) 前田美穂：〔分担〕血液の疾病。健康ビジュアル実践講座；第5巻 子供の栄養・食生活（健康教育ビジュアル実践講座刊行会編），1996；pp 112-115，ニチブン。
- 15) 前田美穂：〔分担〕貧血。出血傾向—小児の血液疾患；救急現場の救急医療（弓削邦夫，川村 堯編），1996；PP 106-113，荘道社。
- 16) 松岡和彦：〔分担〕嘔吐，吐血，腹痛，下痢，下血—小児の消化器疾患—。救急現場の救急医療，小児・新生児救急と産科・婦人科救急（山中昭栄，山本保博編），1996；荘道社。
- 17) 飛田正俊，吉田 豊：〔分担〕小児の呼吸器疾患。救急現場の救急医療，小児・新生児救急と産科・婦人科救急（山中昭栄，山本保博編），1996；pp 68-76，荘道社。
- 18) 藤野 修：〔分担〕痙攣，頭痛，意識障害，運動麻痺・歩行障害—小児の脳神経疾患。救急現場の救急医療，小児・新生児救急と産科・婦人科救急（山中昭栄，山本保博，弓削邦夫，河村 堯編），1996；荘道社。
- 19) 山本正生：〔分担〕赤血球の疾患。小児科学（前川喜平，白木和夫編），1997；pp 1080-1087，医学書院。
- 20) 大木由加志：〔分担〕インスリン非依存性糖尿病。今日の小児治療指針 第11版。1997；P206，医学書院。
- 21) 村上睦美：〔分担〕学校における腎疾患学童生徒の管理（日野原重明編），今日の治療指針，1997；pp 790-792，医学書院。
- 22) 村上睦美，小山哲夫：子どもの検尿，おとなの検尿。ヘルス・ケア45，1997；財団法人予防医学事業中央会。
- 23) 村上睦美：〔分担〕膜性腎炎。今日の小児治療指針 第11版（矢田純一，柳澤正義，山口規容子編），1997；pp 396-397，医学書院。
- 24) 村上睦美：〔分担〕腎疾患，小児疾患生活指導マニュアル—改訂版2版—（村田光載，浅井利夫編），1997；pp 197-219，南江堂。
- 25) 山本正生：〔分担〕好酸球性肺炎（PIE症候群），今日の小児治療指針第11版（矢田純一，柳澤正義，山口規容

- 子編), 1997; p. 284, 医学書院.
- 26) 福永慶隆:〔分担〕血清診断(腫瘍マーカー), Primitive Neuroectodermal tumor, 小児期の悪性固形腫瘍(山本正生編), 1996; pp 48-54, 永井書店.
- 27) 山本正生:〔分担〕溶血性貧血, 今日の小児治療指針 第11版(矢田純一, 柳澤正義, 山口規容子編), 1997; P 357, 医学書院.
- 28) 松岡和彦:〔共著〕症例から見た小児の診断学. 小児科臨床増刊号, 1997; 60: pp 61-63.
- 29) 穴戸美津子, 橋本 清:てんかん児のIQLD研究. 1996.

## 学会発表

### 〔1992年度分追加〕

#### 一般講演:

- 1) 植田高弘, 右田 真, 渡辺 淳, 福永慶隆, 山本正生, 守田利貞<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>国立東静岡病院小児科): Gaucher 病に対する酵素補充療法—臨床経過と至適投与量に対する考察. 第423回日本小児科学会東京都地方会(東京), 1993. 7.
- 2) 植田高弘, 伊藤保彦, 金子清志, 福永慶隆, 山本正生: 骨 Caffey 病様の特異的な変化と高アルカリフォスファターゼ血症ならびに骨髄の線維化を呈し4ヵ月後に急性骨髄白血病(M1)を発症した1乳児例. 第35回日本小児血液学会, 1993. 7.

### 〔1995年度分追加〕

#### 一般講演:

- 1) 千葉 隆, 大橋隆治, 今井丈英, 竹田幸代, 大久保隆志, 小松崎英樹, 藤田武久, 安田 正<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>大宮総合病院小児科): メチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)による新生児股関節炎, 髄膜炎, 敗血症の1例. 第30回大宮医学会総会(大宮), 1996. 3.

#### (1) 教育講演:

- 1) 村上睦美: 最近の腎炎・ネフローゼ症候群の治療. 葛飾区医師会懇話会(東京), 1996. 5.
- 2) 橋本 清: 小児神経の診かた. 第38回日本小児神経学会(東京), 1996. 7.

#### (2) 特別講演:

- 1) 村上睦美: 小児における血尿をどう取り扱うか. 山形県小児科医会講演会(山形), 1996. 6.
- 2) 村上睦美: 小児保健における腎尿路異常のマス・スクリーニングの意義. 第64回日本医大医学会総会(東京), 1996. 9.
- 3) 村上睦美: 血尿の子どもをどう取り扱うか. 千葉県小児科医懇話会(千葉), 1997. 1.

#### (3) パネルディスカッション:

- 1) 村上睦美: 学校検診総合化は可能か—各項目別検診から総合化の可能性を探る—: 尿検査(腎臓病検診)に立場から. 第12回循環器情報処理研究会, 1996. 10.
- 2) 伊藤保彦, 渡辺言夫: 小児膠原病の診断基準(1). 第6回日本小児リウマチ研究会(東京), 1996. 10.

#### (4) シンポジウム:

- 1) 宗像恵美子, 村上睦美: 新しい視点から集団検尿を考える—スクリーニングからフォロー—: 試験紙法による低比重尿スクリーニングの試み. 第31回日本小児腎臓病学会(前橋), 1996. 7.
- 2) 千葉 隆: 喘息における気管支内視鏡, 気管支肺胞洗浄液検査の有用性. 第29回日本小児呼吸器疾患学会(宇都宮), 1996. 10.

#### (5) 一般講演:

- 1) Seki T, Ogawa S, Zhang J, Genma Y, Yuge K, Ninomiya K, Hino Y, Jimbo O, Nagai Y, Fukazawa R,

- Kamisago M, Ohkubo T, Takechi N, Yamamoto M : Non-invasive Estimation of Myocardial Ischemia by Dobutamin Stress Body Surface Mapping in Kawasaki Disease. 7th International Congress on Ambulatory Monitoring (Chiba), 1996. 5.
- 2) Maeda M, Hamada H, Noro K, Ueda T, Doi H, Asano T, Kaneko K, Fukunaga Y, Yamamoto M : Production of cytokines from cultured monocytes in neutropenia. 26th Congress of the International Society of Haematology (Singapore), 1996. 8.
  - 3) Itoh Y, Hamada H, Igarashi T, Fukunaga Y, Yamamoto M : Antinuclear antibodies in children with chronic nonspecific complaints. American College of Rheumatology. 60th Annual Scientific Meeting (Orlando, U.S.A.), 1996. 10.
  - 4) Fukazawa R, Ogawa S, Hino Y, Jimbo O, Nagai Y, Kamisago M, Seki T, Ohkubo T, Takechi N, Yamamoto M : Assessment of myocardial ischemia before and after percutaneous transluminal coronary angioplasty by dobutamine stressed <sup>99m</sup>Tc myocardial scintigraphy, body surface mapping and late potentials to the children with Kawasaki disease. American Heart Association 69th Scientific Sessions. (New Orleans, U.S.A), 1996. 11.
  - 5) Ohki Y, Kishi M, Orimo H, Irie M, Yamamoto M : Study of growth hormone deficient (GHD) children whose allergic symptoms were improved during human growth hormone (hGH) substitution therapy. The 7th hGH symposium. (Madorid, Spain), 1996. 6.
  - 6) Ohki Y, Kishi M, Orimo H, Irie M, Yamamoto M : The Efficiency of diet therapy with short-term hospitalization by the combination therapy of very low calorie diet (VLCD) and low calorie diet (LCD) in obese adolescents. The 22th Annual meeting of International study group of diabetes in children and adolescents. (Pittsburgh, U.S.A.), 1996. 7.
  - 7) Maeda M, Nakano K, Hamada H, Noro K, Migita M, Asano T, Kaneko K, Yamamoto K<sup>1)</sup>, Okada Y<sup>1)</sup>, Yamauchi K<sup>1)</sup>, Yamamoto M : Screening for anemia in adolescence-in our 30-years experience. 9th Asian Congress Paediatrics. Hong kong. 1997. 3.
  - 8) 岡部俊成, 渋谷正則<sup>1)</sup>, 飛田正俊, 竹田幸代, 村上由加里, 向後俊昭 (<sup>1)</sup>日本医大多摩永山病院薬剤科) : 気管支喘息児に対するテオフィリン・シロップ剤のディスペンサーを用いた安全な投与方法についての検討. 第8回日本アレルギー学会春期臨床大会 (横浜), 1996. 4.
  - 9) 土屋正己, 吉田順子, 立麻典子, 宗像恵美子, 宮保和俊, 芦田光則, 山本博章, 村上睦美, 岡田義治, 山内邦昭<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>東京都予防医学協会) : 小・中学生に対する尿路感染症スクリーニング方式の検討. 第99回日本小児科学会 (熊本), 1996. 4.
  - 10) 岸 恵, 大木由加志, 折茂裕美, 入江 学, 山本正生 : GH 補充療法中にアレルギー症状が改善した成長ホルモン分泌不全性低身長症児の検討. 第99回日本小児科学会 (熊本), 1996. 4.
  - 11) 城田和彦, 高瀬真人, 稲葉八興, 今井大洋, 飛田正俊, 向後俊昭, 吉田 豊 : 新生児呼吸音の音響学的解析 ; 呼吸適応時における経時的变化. 第99回日本小児科学会 (熊本), 1996. 4.
  - 12) 藤野 修, 橋本 清, 藤田武久, 榎戸 久, 高石康子, 小松崎英樹, 平山恒憲, 桑原健太郎, 藤松真理子, 山本正生 : 小児てんかんの臨床的・脳波的検討—10~15歳で発症した症例について. 第99回日本小児科学会 (熊本), 1996. 4.
  - 13) 浅野 健, 山本正生, Kleinerman ES<sup>1)</sup>, Zwelling, LA<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>Texas University) : アデノウイルス・ベクターを用いたトポソメラーゼ II 遺伝子導入によるエトポシド耐性脳腫瘍への感受性増加の試み. 第98回日本小児科学会 (熊本), 1996. 4.
  - 14) 前田美穂, 金子清志, 山本正生, 土田昌宏, 豊田泰徳, 外松 学, 設楽利二, 木下明利, 恒松由起子, 石土谷尚子, 真部 淳, 矢部はるみ, 和田恵美子, 杉田憲一, 金子 隆, 賀来秀文, 鳥越克己, 斉藤友博, 中沢真平 (東



- 京小児がん研究グループ)：小児白血病における pirarubicin の心毒性の検討。第99回日本小児科学会学術集会(熊本)，1996。4。
- 15) 大木由加志，岸 恵，折茂裕美，入江 学，山本正生：思春期肥満児における超低カロリー食と通常低カロリー食との組み合わせによる短期入院療法の有用性。第39回日本糖尿病学会(福岡)，1996。5。
  - 16) 松浦信夫，佐々木 望，雨宮 伸，大木由加志，他インスリン治療研究会：小児インスリン治療研究会—その目的と登録患者背景。第39回日本糖尿病学会(福岡)，1996。5。
  - 17) 雨宮 伸，佐々木望，松浦信夫，大木由加志，他インスリン治療研究会：多施設間のグリコヘモグロビン測定標準化の検討—その成果と問題点—。第39回日本糖尿病学会(福岡)，1996。5。
  - 18) 伊藤保彦，濱田久光，五十嵐 徹，福永慶隆，山本正生：抗核抗体陽性慢性的不定愁訴患児と慢性疲労症候群との関係について。第40回日本リウマチ学会(福島)，1996。5。
  - 19) 藤松真理子，松岡和彦，藤田武久，橋本 清：ゼラチンアレルギーの1例。日本医大医学会第89回例会(東京)，1996。5。
  - 20) 倉持雪穂，五十嵐徹，永井雄一，藤田武久，橋本 清，山本正生，伊達裕昭<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>千葉こども病院脳神経外科)：頭部 CT 上両側視床部に低吸収域を認めた肺炎球菌性髄膜炎の1症例。日本小児科学会茨城地方会(筑波)，1996。5。
  - 21) 土屋正己，大橋隆治，立麻典子，継 仁，安保和俊，宗像恵美子，山本博章，村上睦美：1カ月の乳児における腎超音波計測値に関する検討：先天性腎尿路異常のスクリーニングの基準設定の試み。第39回日本腎臓病学会(倉敷)，1996。6。
  - 22) 前田美穂，野呂恵子，山本正生，岡田義治<sup>1)</sup>，山内邦昭<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東京都予防医学協会)：貧血検診で発見された $\beta$ -サラセミアの1例。第449回日本小児科学会東京都地方会(東京)，1996。6。
  - 23) 城田和彦，高瀬真人，稲葉八興，細部千晴，飛田正俊，向後俊昭，吉田 豊，山本正生：大気汚染障害者認定審査会に提出された胸部 X 線写真(過去10年間の検討)。第32回日本小児放射線学会(所沢)，1996。6。
  - 24) 千葉 隆，大橋隆治，竹田幸代，大久保隆志，小松崎英樹，安保和俊，藤田武久，安田 正<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>大宮総合病院小児科)：腹部単純 X 線撮影で診断に苦慮した腹部腫瘤の3例。第30回日本小児放射線学会(埼玉)，1996。6。
  - 25) 千葉 隆，今井丈英，大橋隆治，竹田幸代，大久保隆志，小松崎英樹，安保和俊，藤田武久，安田 正<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>大宮総合病院小児科)：腹部単純 X 線撮影で診断に苦慮した腹部腫瘤の3例。第32回日本小児放射線学会(所沢)，1996。6。
  - 26) 上砂光裕，小川俊一，弓削邦夫，二宮恵子，日野佳昭，神保 修，永井雄一，深沢隆治，林 毅陸，関 隆志，弦間優紀子，大久保隆志，武智信幸，張 家昆，平山恒夫，山本正生，木島鉄仁<sup>1)</sup>，汲田伸一郎<sup>1)</sup>，隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>日本医大放射線科)：DOB <sup>99m</sup>Tc-tetrofosmin 心筋シンチによる川崎病患児の心筋灌流および心機能の評価。第32回日本小児循環器学会(大阪)，1996。7。
  - 27) 神保 修，小川俊一，弓削邦夫，二宮恵子，日野佳昭，永井雄一，深沢隆治，林 毅陸，上砂光裕，関 隆志，弦間優紀子，大久保隆志，武智信幸，張 家昆，平山恒夫，山本正生：川崎病急性期における加算平均心電図より得られるいわゆる心室遅延電位による心筋障害(急性心筋炎?)の評価。第32回日本小児循環器学会(大阪)，1996。7。
  - 28) 武智信幸，小川俊一，弓削邦夫，二宮恵子，日野佳昭，神保 修，永井雄一，深沢隆治，林 毅陸，上砂光裕，関 隆志，弦間優紀子，大久保隆志，張 家昆，平山恒夫，山本正生：DOB <sup>99m</sup>TC-Tetrofosmin 心筋シンチ，心室遅延電位，体表面マッピングにて心筋虚血を推定し PTCA 施行によりその消失をみた川崎病既往児の1例。第32回日本小児循環器学会(大阪)，1996。7。
  - 29) 大久保隆志，小川俊一，弓削邦夫，二宮恵子，日野佳昭，永井雄一，神保 修，深沢隆治，林 毅陸，上砂光裕，関 隆志，弦間優紀子，武智信幸，張 家昆，前田美穂，平山恒夫，山本正生：いわゆる心室遅延電位に基づく急性白血病児の Anthracycline 系薬剤による心毒性の評価。第32回日本小児循環器学会(大阪)，1996。7。

- 30) 榎戸 久, 藤野 修, 橋本 清, 藤田武久, 高石康子, 釜沼 敏, 小松崎英樹, 平山恒憲, 小泉要介, 桑原健太郎, 藤松真理子: 10~15歳で発症したてんかん症例の検討. 第38回日本小児神経学会 (東京), 1996. 7.
- 31) 高石康子, 橋本 清, 藤野 修, 藤田武久, 榎戸 久, 小松崎英樹, 平山恒憲, 桑原健太郎, 藤松真理子: 自律神経症状, 行動異常, 精神症状などを呈するてんかん患者の検討. 第38回日本小児神経学会 (東京), 1996. 7.
- 32) 小松崎英樹, 平山恒憲, 藤松真理子, 藤田武久, 松岡和彦, 橋本 清: Campomelic dysplasia の1症例. 第18回神奈川小児神経懇話会, 1996. 7.
- 33) 西澤善樹, 藤松真理子, 藤田武久, 松岡和彦, 橋本 清: いわゆる新生児感染症における各種因子の検討 (抗生剤投与開始基準について). 第32回日本新生児学会学術総会 (香川), 1996. 7.
- 34) 立麻典子, 大橋隆治, 継 仁, 安保和俊, 宗像恵美子, 山本博章<sup>1)</sup>, 村上睦美 (<sup>1</sup>川崎共同病院小児科): 乳幼児期発症糸球体腎炎の臨床ならびに病理組織学的検討. 第31回日本小児腎臓病学会 (前橋), 1996. 7.
- 35) 日野佳昭, 小川俊一, 弓削邦夫, 二宮恵子, 神保 修, 永井雄一, 深沢隆治, 林 毅陸, 上砂光裕, 関 隆志, 弦間優紀子, 大久保隆志, 武智信幸, 張 家昆, 平山恒夫, 山本正生: 冠動脈病変を有する川崎病既往児の DOB 負荷および冠循環における血管作動性物質, 乳酸・ピルリルビン酸の変動について. 第32回日本小児循環器学会 (大阪), 1996. 7.
- 36) 上砂光裕, 小川俊一, 弓削邦夫, 二宮恵子, 日野佳昭, 神保 修, 永井雄一, 深沢隆治, 林 毅陸, 関 隆志, 弦間優紀子, 大久保隆志, 武智信幸, 張 家昆, 平山恒夫, 山本正生, 木島鉄仁<sup>1)</sup>, 汲田伸一郎<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup> (<sup>1</sup>日本医大付属病院放射線科): DOB 負荷<sup>99m</sup>Tc-tetrofosmin 心筋シンチによる川崎病患児の心筋灌流および心機能の評価. 第32回日本小児循環器学会 (大阪), 1996. 7.
- 37) 土屋正己, 大橋隆治, 立麻典子, 継 仁, 安保和俊, 宗像恵美子, 芦田光則<sup>1)</sup>, 山本博章<sup>2)</sup>, 村上睦美 (<sup>1</sup>勝楽堂病院小児科, <sup>2</sup>川崎共同病院小児科): 集団検尿 3 次検診における抗核抗体測定の有用性の検討. 第31回日本小児腎臓病学会 (前橋), 1996. 7.
- 38) 弦間優紀子, 小川俊一, 張 家昆, 日野佳昭, 神保 修, 深沢隆治, 大久保隆志, 武智信幸, 山本正生: 加算平均心電図初期心室遅延電位検討のための小児期の判定基準. 第44回日本心臓病学会 (東京), 1996. 9.
- 39) 大久保隆志, 前田美穂, 山本正生: 特発性肺ヘモデロースの1例. 第451回日本小児科学会東京都地方会 (東京), 1996. 9.
- 40) 前田美穂, 野呂恵子, 俄 紅君, 山本正生: 乳児期鉄代謝にかかわる 2, 3 の検討 (第2報) —鉄欠乏症と発達について—. 第41回日本小児保健学会 (横浜), 1996. 9.
- 41) 土屋正己, 吉田順子, 大橋隆治, 立麻典子, 継 仁, 安保和俊, 宗像恵美子, 芦田光則<sup>1)</sup>, 山本博章<sup>2)</sup>, 村上睦美, 山本正生 (<sup>1</sup>勝楽堂病院小児科, <sup>2</sup>川崎協同病院小児科): 就学前に発見された糸球体腎炎に関する臨床および組織学的検討. 第43回日本小児保健学会 (横浜), 1996. 9.
- 42) 西澤善樹, 五島利佳子, 藤松真理子, 平山恒憲, 小松崎英樹, 永井雄一, 神保 修, 藤田武久, 松岡和彦, 橋本清: 当院 NICU で発生した新生児の原因不明の発疹症について. 第64回日本医大医学会総会 (東京), 1996. 9.
- 43) 濱田久光, 野呂恵子, 浅野 健, 金子清志, 前田美穂, 山本正生: 急性リンパ性白血病の化学療法中に抗けいれん剤 (CBZ) 血中濃度の異常上昇をきたした1例. 第38回日本小児血液学会 (三重), 1996. 9.
- 44) 野呂恵子, 五島利佳子, 伊藤保彦, 金子清志, 前田美穂, 山本正生: Recombinant interferon alph-2a 療法が奏効した頸部 Hemangioendothelioma の1女児例. 第38回日本小児血液学会 (三重), 1996. 9.
- 45) 前田美穂, 植田高弘, 野呂恵子, 金子清志, 継 仁, 大久保隆志, 山本正生: All-trans-retinoic acid (ATRA) 治療中の前骨髄球形白血病 (ALP) 母体により出生した新生児の1例. 第38回日本小児血液学会 (三重), 1996. 9.
- 46) 山田丈士<sup>1)</sup>, 汲田伸一郎<sup>1)</sup>, 水村 直<sup>1)</sup>, 石原真紀子<sup>1)</sup>, 趙 圭一<sup>1)</sup>, 木島鉄人<sup>1)</sup>, 鳥羽正宏, 隈崎達夫<sup>1)</sup>, 高石康子, 藤野 修, 橋本 清 (<sup>1</sup>日本医大付属病院放射線科): 小児てんかん焦点の検出—<sup>99m</sup>Tc-HMPAO 脳血流 SPECT における Lassen の補正の有効性について—. 第64回日本医大医学会総会 (東京), 1996. 9.

- 47) 平山恒憲, 江見 充<sup>1)</sup>, 八巻恵美<sup>1)</sup>, 橋本 清, 山本正生<sup>(<sup>1</sup>老人病研究所分子生物学部門)</sup>: 遺伝子スクリーニングによる IIa 型高脂血症患者の解析. 第64回日本医大医学会総会 (東京), 1996. 9.
- 48) 江見 充<sup>1)</sup>, 八巻恵美<sup>1)</sup>, 平山恒憲<sup>(<sup>1</sup>老人病研究所分子生物学部門)</sup>: PCR-SSCP 方による LDL 受容体遺伝子内 DNA 多方の同定. 第64回日本医大医学会総会 (東京), 1996. 9.
- 49) 八巻恵美<sup>1)</sup>, 平山恒憲, 江見 充<sup>1)</sup><sup>(<sup>1</sup>老人病研究所分子生物学部門)</sup>: 家族性高コレステロール血症家族系における LDL 受容体遺伝子異常. 第64回日本医大医学会総会 (東京), 1996. 9.
- 50) 藤松真理子, 藤田武久, 松岡和彦, 橋本 清, 山本正生: ゼラチンアレルギーの1例. 第43回日本小児保健学会 (横浜), 1996. 9.
- 51) 岸 恵, 大木由加志, 折茂裕美, 入江 学, 山本正生: 思春期肥満児における超低カロリー食と通常低カロリー食との組み合わせによる短期入院療法の有用性. 第64回日本医大医学会総会 (東京), 1996. 9.
- 52) 高石康子, 橋本 清, 藤野 修, 藤田武久, 釜蒔 敏, 榎戸 久, 小松崎英樹, 平山恒憲, 桑原健太郎, 藤松真理子: 精神症状, 自律神経症状, 行動異常などを呈するてんかん患者の検討. 第30回日本てんかん学会 (東京), 1996. 10.
- 53) 萩森玲子<sup>1)</sup>, 相馬千春<sup>2)</sup>, 大木由加志, 大川拓也, 折茂裕美, 岸 恵, 入江 学, 山本正生<sup>(<sup>1</sup>昭和女子大生活機構研究科, <sup>2</sup>目白第三病院栄養科)</sup>: IDDM 患児に対する栄養指導効果の縦断的検討. 第2回小児・思春期糖尿病研究会 (大阪), 1996. 10.
- 54) 北村純一<sup>1)</sup>, 穂山尚子<sup>1)</sup>, 大矢垂野<sup>1)</sup>, 矢部きのみ<sup>1)</sup>, 竹内孝仁<sup>1)</sup>, 榎本深雪<sup>1)</sup>, 西澤善樹, 藤田武久, 橋本 清<sup>(<sup>1</sup>日本医大第二病院リハビリテーション・センター)</sup>: 鰓弓症候群の2症例. 第1回日本リハビリテーション医学会関東地方会, 1996. 10.
- 55) 平山恒憲, 江見 充<sup>1)</sup>, 八巻恵美<sup>1)</sup>, 辻 昌宏<sup>2)</sup>, 羽田 明<sup>3)</sup><sup>(<sup>1</sup>老人病研究所分子生物学部門, <sup>2</sup>北海道社会保険中央病院内科, <sup>3</sup>北海道大学公衆衛生)</sup>: ホモ接合体例および3姉妹例を含む FH 家系における LDL 受容体遺伝子異常. 第41回日本人類遺伝子学会 (札幌), 1996. 10.
- 56) 弦間優紀子, 小川俊一, 張 家昆, 日野佳昭, 神保 修, 深沢隆治, 大久保隆志, 武智信幸, 山本正生: 加算平均心電図初期心室遅延電位検討のための小児期の判定基準. 第44回日本心臓病学会 (東京), 1996. 10.
- 57) 岡部俊成, 飛田正俊, 竹田幸代, 村上由加里, 向後俊昭, 野呂瀬嘉彦, 大国寿士<sup>2)</sup>, 小野塚春吉<sup>3)</sup><sup>(<sup>1</sup>日本医大微生物免疫学教室, <sup>2</sup>日本医大老研免疫部門, <sup>3</sup>都立衛生研究所)</sup>: アレルギー疾患児における亜鉛についての検討. 第46回日本アレルギー学会 (宇都宮), 1996. 10.
- 58) 大川拓也, 相馬千春<sup>1)</sup>, 大木由加志, 折茂裕美, 岸 恵, 入江 学, 山本正生<sup>(<sup>1</sup>目白第三病院栄養科)</sup>: 成長ホルモン分泌不全性低身長児 (GHD) および非内分泌性低身長児 (NESS) の栄養摂取状況について. 第30回日本小児内分泌学会 (大分), 1996. 10.
- 59) 雨宮 伸, 小林基章, 望月美恵, 大木由加志, 他インスリン治療研究会: 多施設共同研究におけるグリコヘモグロビン測定標準化—その成果と問題点—. 第30回日本小児内分泌学会 (大分), 1996. 10.
- 60) 浅野 健, 山本正生, Zwelling LA<sup>1)</sup>, Kleinerman ES<sup>1)</sup><sup>(<sup>1</sup>Texas University)</sup>: エトポシド耐性乳癌細胞へのヒト・トポソメラーゼ II 遺伝子導入による薬剤性克服の試み. 第55回日本癌学会 (京都), 1996. 10.
- 61) 城田和彦, 飛田正俊, 今井丈英, 竹田幸代, 稲葉八興, 村上由加里, 日野佳昭, 岡部俊成, 向後俊昭: 低身長, 反復感染を主訴に受診した Gatti-Lux syndrome の1例. 第452回日本小児科学会東京都地方会 (東京), 1996. 10.
- 62) 高瀬真人, 稲葉八興, 城田和彦, 吉田 豊, Hans Psterkamp<sup>1)</sup><sup>(<sup>1</sup>マニトバ大学)</sup>: 肺胞呼吸音スペクトル解析による軽度気道狭窄の検出. 第29回日本小児呼吸器疾患学会 (宇都宮), 1996. 11.
- 63) 城田和彦, 高瀬真人, 稲葉八興, 今井大洋, 千葉 隆, 飛田正俊, 向後俊昭, 吉田 豊: 新生児呼吸音の音響学的解析: 呼吸適応時期における経時的変化. 第29回日本小児呼吸器疾患学会 (宇都宮), 1996. 11.
- 64) 高瀬真人, Hnas Pasterkamp<sup>1)</sup><sup>(<sup>1</sup>マニトバ大学)</sup>: 肺胞呼吸音スペクトル解析による軽度気道狭窄の検出. 第21

- 回(呼吸音)研究会(東京), 1996, 11.
- 65) 城田和彦, 高瀬真人, 稲葉八興, 今井大洋, 吉田 豊, 工藤翔二<sup>1)</sup>, 渋谷惇夫<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>日本医大第四内科, <sup>2)</sup>日本女子大家政学部): 新生児呼吸音の音響学的解析—第2報—. 第21回肺音(呼吸音)研究会(東京), 1996, 11.
- 66) 西澤善樹, 藤松真理子, 藤田武久, 松岡和彦, 橋本 清: 二次 NICU からみた医療システムの地域化. 第41回日本未熟児新生児学会(静岡), 1996, 11.
- 67) 倉持雪穂, 小川俊一, 大久保隆志, 武智信幸, 山本正生: 左冠動脈領域の微小血管叢および早期に冠静脈への灌流を伴う異常血管群が認められた川崎病既往児の1例. 第16回日本川崎病研究会(山口), 1996, 11.
- 68) 武智信幸, 小川俊一, 二宮恵子, 日野佳昭, 神保 修, 永井雄一, 林 毅陸, 上砂光裕, 関 隆志, 弦間優紀子, 大久保隆志, 倉持雪穂, 山本正生: 川崎病既往児の心筋虚血の評価法—ドブタミン負荷<sup>99m</sup>Tc 心筋シンチ, 心室遅延電位, 体表面マッピングによる検討—. 第16回日本川崎病学会(山口), 1996, 11.
- 69) 大久保隆志, 小川俊一, 二宮恵子, 神保 修, 永井雄一, 林 毅陸, 上砂光裕, 関 隆志, 弦間優紀子, 武智信幸, 倉持雪穂, 山本正生: 川崎病既往児の無症候性, 心筋虚血に対する PTCA の効果と PTCA 後の虚血推移. 第16回日本川崎病研究会(山口), 1996, 11.
- 70) 竹田幸代, 村上由加里, 岡部俊成, 飛田正俊, 向後俊昭: 慢性活動性 EB ウイルス感染症の経過中に Hemophagocytic Syndrome (HPS) で発症した Tcell lymphoma の1症例. 第28回日本小児感染症学会(東京), 1996, 11.
- 71) 竹田幸代, 岡部俊成, 飛田正俊, 村上由加里, 丸山和男, 向後俊昭: 気管支喘息患児の血清 ECP 値についての検討. 第33回日本小児アレルギー学会(福岡), 1996, 11.
- 72) 村上由加里, 飛田正俊, 岡部俊成, 竹田幸代, 丸山和男, 向後俊昭: 小児アトピー性皮膚炎患者の血清 ECP 値に関する検討. 第33回日本小児アレルギー学会(福岡), 1996, 11.
- 73) 磯山恵一, 大川洋二, 沖本由理, 花田良二, 林 泰秀, 前田美穂, 齋藤友博, 土田昌宏(TCCSG): 乳児 ALL65 例の臨床検討. 第38回日本臨床血液学会(大宮), 1996, 11.
- 74) 濱田久光, 前田美穂, 大久保隆志, 金子清志, 浅野 健, 植田高弘, 野呂恵子, 津田晃男, 山本正生: ドブタミン(DOB)負荷心エコーによる Anthracycline 系薬剤治療後の心予備能の評価. 第38回日本臨床血液学会(大宮), 1996, 11.
- 75) 千葉 隆: 喘息における気管支内視鏡, 気管支肺胞洗浄検査の有用性. 第29回日本小児呼吸器疾患学会(宇都宮), 1996, 11.
- 76) 野呂恵子, 前田美穂, 山本正生: Hematofluorometer を用いた Zinc Protoporphyrin (ZPP) の測定の影響について. 第38回日本臨床血液学会(大宮), 1996, 11.
- 77) 大川拓也, 大木由加志, 折茂裕美, 岸 恵, 入江 学, 山本正生: 肥満児の栄養摂取状況について. 第17回日本肥満学会(大分), 1996, 11.
- 78) 今井大洋, 山本正生: 先天性横隔膜ヘルニア術後長期経過例における肺機能および気道過敏性についての検討. 第33回日本小児アレルギー学会(福岡), 1996, 11.
- 79) 倉持雪穂, 大久保隆志, 武智信幸, 平山恒夫, 山本正生, 片桐正雄<sup>1)</sup>, 浦 清<sup>2)</sup>, 岡田義治<sup>2)</sup>, 山内邦昭<sup>2)</sup>, 小川守<sup>3)</sup>, 七字稔博<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>大田区学校保健会心疾患委員会, <sup>2)</sup>東京都予防医学協会, <sup>3)</sup>茨城県総合検診協会): 学校における心疾患児の管理指導についての意識・実態の地域別経年的推移の検討. 関東甲信越静学童心臓病予防研究会(横浜), 1996, 12.
- 80) 野呂恵子, 五島利佳子, 濱田久光, 伊藤保彦, 金子清志, 前田美穂, 吉田 豊, 山本正生: 頸部 Hemangioendothelioma の1女児例. 第35回日本小児耳鼻咽喉科研究会(東京), 1996, 12.
- 81) 橋爪真弘, 大川拓也, 入江 学, 前田美穂, 大木由加志, 山本正生: GH 治療中に皮下気腫を起こし Munchausen 症候群が疑われた1例. 第453回日本小児科学会東京都地方会(東京), 1996, 12.
- 82) 千葉 隆, 土居寿子, 前田美穂, 山本正生, 吉田 豊: 初発症状が開口障害であった鼻咽頭癌の1男児例. 第35

回日本小児耳鼻咽喉科研究会（東京），1996．12．

- 83) 武智信幸，小川俊一，日野佳昭，神保 修，永井雄一，林 毅陸，上砂光裕，弦間優紀子，大久保隆志，倉持雪穂，山本正生：塩酸ドブタミン負荷による体表面マッピングを用いた小児心筋虚血の評価．第1回小児心電図学会（東京），1996．12．
- 84) 野呂恵子，北川英子，津田晃男，濱田久光，浅野 健，金子清志，前田美穂，山本正生：頭部腫瘤，眼球突出，頸部および腹部腫瘤で発症した急性骨髄単球性白血病（M4Eo）の1歳女児例．第12回日本小児がん学会，1996．12．
- 85) 武智信幸，小川俊一，日野佳昭，神保 修，勝部康弘，永井雄一，上砂光裕，大久保隆志，山本正生：無症候性心筋虚血および急性心筋梗塞が認められた川崎病既往児に対する PTCA の有用性の検討．第8回日本小児インターベンション学会（札幌），1997．1．
- 86) 倉持雪穂，小川俊一，上砂光裕，大久保隆志，武智信幸，大川拓也，山本正生，二宮淳一<sup>1)</sup>，山内仁紫<sup>1)</sup>，井村 肇<sup>1)</sup>，中嶋征子<sup>2)</sup>（<sup>1)</sup>日本医大第二外科，<sup>2)</sup>上尾中央総合病院小児科）：心雑音を契機に診断された左冠動脈肺動脈起始症（BWG 症候群）の1乳児例．第455回日本小児科学会東京都地方会（東京），1997．2．
- 87) 藤松真理子，西澤善樹，藤田武久，橋本 清：哺乳困難を認めず新生児期に診断し得た Prader-Willi 症候群の1例．第244回日本小児科学会神奈川県地方会，1997．2．
- 88) 濱田久光，橋爪真弘，藤野 修，前田美穂，山本正生：MRI（EPI-FLEAR）により早期に病変部を描出することが可能であった多発性硬化症（MS）の1例．第455回日本小児科学会東京都地方会，1997．2．
- 89) 福見大地，橋本 清，内木場庸子，藤田武久，小松崎英樹，藤松真理子，平山恒憲，高橋 弘<sup>1)</sup>，山口文雄<sup>1)</sup>，村井保夫<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>日本医大第二病院脳神経外科）：痙攣発作を初発症状とした脳腫瘍の1例．第26回日本小児神経学会関東地方会，1997．3．
- 90) 大久保隆志，小川俊一，武智信幸，日野佳昭，神保 修，勝部康弘，永井雄一，上砂光裕，弦間優紀子，倉持雪穂，平山恒夫，山本正生：ドブタミン負荷<sup>99m</sup>Tc 心筋シンチ，心室遅延電位，体表面マッピングによる川崎病既往児の無症候性心筋虚血の検討．第61回日本循環器学会（東京），1997．3．
- 91) 柳原 剛，安保和俊，村上睦美，山本正生，北川英子<sup>1)</sup>，川畑 勉<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>栃木県県南総合病院小児科）：特発性尿管性蛋白尿の1男児例．第456回日本小児科学会東京都地方会（東京），1997．3．
- 92) 千葉 隆，今井丈英，大橋隆治，竹田幸代，大久保隆志，小松崎英樹，安保和俊，藤田武久，安田 正<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>大宮総合病院小児科）：腹部単純 X 線撮影で診断に苦慮した腹部腫瘤の3例．第31回大宮医学会総会（大宮），1997．3．
- 93) 渋谷正則<sup>1)</sup>，村田正弘<sup>1)</sup>，岡部俊成，飛田正俊，村上由加里，向後俊昭（<sup>1)</sup>日本医大多摩永山病院薬剤科）：ディスペンサーを用いたテオドール・シロップの気管支喘息に対する安全な投与法の検討．日本薬学会（神奈川），1997．3．

## 7. 放射線医学講座

### [付属病院放射線科]

#### 研究概要

本年も臨床医学を中心に質の高い研究が継続されたが、特に新しいシステムの開発が行われた点が注目される。これらのシステムを中心とした研究は、国内外の各学会にて大きな評価を得た。

1) 核医学分野では世界にさきがけて新しい心機能解析ソフトの開発に成功した。これはすでに3検出器型ガンマカメラの標準装備として搭載され、国内外で臨床的有用性が確立された。これに加え、ADAC社製、Vertexの導入により将来的にPET対応も可能となった。<sup>201</sup>Tl-Clによる下肢虚血の評価法も完成され、閉塞性動脈硬化症の診断・治療に新知見をもたらした。脳血流SPECT表示の新しいマップの開発や、新しいサブストラクションRI法の開発に関する研究も順調に進められている。

2) 高速らせんCTを用いた3次元CT再構成に関する研究が完成の域に近づいた。教室で開発したボクセルトランスミッション法と血管内視法により、現行3次元CTの行き詰まりを乗り越えることができた。この両者の利点をいかしたCT顕微鏡も開発されつつある。優れた空間分析能を考慮すれば、今後3次元CT画像はこの方法が主役を演じると考えている。

3) 同じく教室で開発した回転デジタル血管撮影システムは、国内外に普及の兆しを見せているが、本年度はこのシステムからコーンビーム3次元CTの作成に成功した。画像再構成専用ワークステーションの改良により、血管内治療の新たな評価法として基礎的な検討を加えている。この新しい研究は次世代の3次元CTとなるとの評価が国内外で得られている。

4) 骨髄造血系、心臓血管系、中枢神経系の疾患を中心に、MRIの研究が目覚ましい速度で進んだ。2台目の超新鋭MRIの導入でこれらの研究はさらに加速度的に進みはじめ、現在、3次元MR血管造影法の新たなソフトの開発に力を注いでいる。

5) 実質臓器では、核医学やCTを使用した診断学の研究が進んでいる。とくにSPECTを利用した肺癌の診断や、肝静脈・門脈同時描出3次元CTによる肝臓癌の診断は、低侵襲的に診断能を向上させることが判明した。いわゆる早期肝癌・早期進行肝癌の病態把握に対するAngio-CTの研究も進行中である。

6) 放射線科における治療には放射線治療とIVRの2法があるが、とくにIVRでは血管内治療に関する研究が急速に進み、上下肢閉塞動脈硬化症に対するステント治療とその評価、肺血栓症に対する選択的血栓溶解療法、経静脈的肝内門脈大循環短絡術、鈍的腹部外傷による動脈損傷のカテーテル治療、婦人科悪性腫瘍に対するBOAIなどの研究が進んだ。さらに本年は呼吸器疾患に対するステント治療の研究にも見るべき成果を挙げつつある。また、高速CTによる鈍的肝外傷の評価は救急部門で注目された。

7) 造影剤の研究も一貫して続けられ、ヨード造影剤と肺循環・腎障害の基礎的研究、高分子ヒドロゲルによる新しい塞栓物質の開発、MRI造影剤と臨床的研究に関して興味ある展開が見られた。

8) 治療部門では、低線量照射による腫瘍抑制やケロイドの放射線治療に関する研究が地道ながら高い評価を受け続けている。画像診断モダリティを駆使した治療計画設定や治療の効果判定法は注目された。さらに放射線治療の新たな展開をはかるべく<sup>192</sup>Irによる高線量率治療システムを導入した。今後、気管支内、胆道内、血管内照射によるQOLを考慮した治療法の確立が期待される。

#### 研究業績

##### 論文

[1995年度追加分]

原著：

- 1) Kawata Y<sup>1)</sup>, Niki N<sup>1)</sup>, Kumazaki T (<sup>1)</sup>Dept of Information Science, Univ of Tokushima) : Quantitative

- Analysis of Blood Vessels Using Cone-Beam CT Images. *Computer Assisted Radiology* 1995 ; 222-227.
- 2) Niki N<sup>1)</sup>, Kawata Y<sup>1)</sup>, Kumazaki T ( <sup>1)</sup>Dept of Information Science, Univ of Tokushima ) : Quantitative Measurement of Blood Vessels Based on Cone-Beam CT Images. *Information Processing in Medical Imaging* 1995 ; 403-404.
  - 3) Kawata Y<sup>1)</sup>, Niki N<sup>2)</sup>, Kumazaki T ( <sup>1)</sup>Dept of Optical Science, Univ of Tokushima, <sup>2)</sup>Dept of Information Science, Univ of Tokushima ) : Characteristics Measurement for Blood Vessels Diseases Detection Based on Cone-Beam CT Images. *1995 IEEE Nuclear Science Symp, and Medical Imaging Conf* 1995 ; 3 : 222-227.
  - 4) Kawata Y<sup>1)</sup>, Niki N<sup>2)</sup>, Kumazaki T ( <sup>1)</sup>Dept of Optical Science, Univ of Tokushima, <sup>2)</sup>Dept of Information Science, Univ of Tokushima ) : An Approach for Detecting Blood Vessel Diseases from Cone-Beam CT Image. *IEEE Int. Conf on Image Processing* 1995 ; 2 : 500-503.
  - 5) Kawata Y<sup>1)</sup>, Niki N<sup>2)</sup>, Kumazaki T ( <sup>1)</sup>Dept of Optical Science, Univ of Tokushima, <sup>2)</sup>Dept of Information Science, Univ of Tokushima ) : Computer-Assisted Analysis and 3D Visualization of Blood Vessels Based on Cone-Beam CT Images. *Imaging Analysis Application and Computer Graphics* 1995 ; 355-362.
  - 6) Kawata Y<sup>1)</sup>, Niki N<sup>2)</sup>, Kumazaki T ( <sup>1)</sup>Dept of Optical Science, Univ of Tokushima, <sup>2)</sup>Dept of Information Science, Univ of Tokushima ) : 3-D Image Reconstruction with Veiling Glare Correction to Improve the Contrast of 3-D Reconstructed Vascular Images. *IEEE Transactions on Nuclear Science* 1996 ; 43(1).
- (1) 原著 :
- 1) Miyashita T, Mitsuhashi K<sup>1)</sup>, Hyakusoku H<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Dept of Plastic and Reconstructive Surgery ) : Long term follow-ups of keloids and hypertrophic scars with postoperative electron beam irradiations. *XXX World Congress of the International College of Surgeons* 1996 ; 1957-1959.
  - 2) Hayashi H, Wakabayashi H, Kumazaki T : Ultrafast Computed Tomography Diagnosis of an Epicardial Lipoma in the Pericardial Sac : The Split Pericardium Appearance. *Journal of Thoracic Imaging* 1996 ; 11 : 161-162.
  - 3) Amano Y, Kumazaki T : MR appearances of urinary bladder in amyloidosis associated with multiple myeloma. *Abdominal Imaging* 1996 ; 21 : 468-469.
  - 4) Amano Y, Kumazaki T : Serous atrophy of bone marrow and subcutaneous tissue enhancement associated with recurrent rectal carcinoma : MR Appearances. *Computerized Medical Imaging and Graphics* 1996 ; 20(3) : 183-185.
  - 5) Murakami R, Kumazaki T, Tajima H, Sugizaki K, Ichikawa K, Kobayashi Y, Yamamoto K : Transcatheter Arterial Embolization as Treatment for Life-Threatening Maxillofacial Injury. *Radiation Medicine* 1996 ; 14(4) : 197-199.
  - 6) Murakami R, Tajima H, Kumazaki T : Effect of iomeprol on renal function immediately after abdominal angiography. *Acta Radiologica* 1996 ; 37 : 962-965.
  - 7) Kawata Y<sup>1)</sup>, Niki N<sup>1)</sup>, Kumazaki T ( <sup>1)</sup>Dept of Optical Science, Univ of Tokushima ) : Feature Extraction of Convex Surfaces on Blood Vessels Using Cone-Beam CT Images. *IEEE Int. Conf. on Image Processing* 1996 ; 3 : 315-318.
  - 8) Amano Y, Amano M, Kumazaki T : Normal contrast enhancement of extraocular muscles : fat-suppressed MR findings. *Am J Neuroradiol* 1997 ; 18 : 161-164.
  - 9) Amano Y, Kumazaki T : Proton MR imaging and spectroscopy evaluation of aplastic anemia : three bone marrow patterns. *J Comput Assist Tomogr* 1997 ; 21 : 286-292.
  - 10) Uchiyama N, Ishikawa T, Miyakawa K, Iinuma G, Nakajima H, Ushio K, Yokota T, Akasu T, Shimoda

- T (1)National Cancer Center Hospital) : Abdominal actinomycosis : Barium enema and computed tomography findings. Journal of Gastroenterology 1997 ; 32 : 89-94.
- 11) 田島廣之, 村上隆介, 後藤慎介, 青山俊也<sup>1)</sup>, 貝津俊英<sup>2)</sup>, 市川太郎, 隈崎達夫, 恩田昌彦<sup>3)</sup> (1)大洗海岸病院放射線科, 2)駒込病院放射線科, 3)第一外科) : Iodixanol を用いた腹部血管造影直後における胆嚢への造影剤集積—CT を用いた検討—。臨床放射線 1996 ; 41 : 425-428.
  - 12) 天野康雄, 弦間和仁, 川俣博志, 榎 利夫, 土橋俊男, 隈崎達夫 : 脂肪抑制を併用した 3 次元造影 MR angiography による骨盤部動脈の描出。臨床放射線 1996 ; 41 : 429-433.
  - 13) 鳥羽正浩, 汲田伸一郎, 水村 直, 趙 圭一, 木島鉄仁, 高浜克也, 隈崎達夫 : <sup>99m</sup>Tc-MIBI 心拍同期心筋シンチグラフィを用いた左室拡張機能評価—1 スライス描出による簡便法の試み—。核医学 1996 ; 33 : 409-413.
  - 14) 田島廣之, 隈崎達夫, 村上隆介, 後藤慎介, 青山俊也<sup>1)</sup>, 川俣博志, 飯田英次<sup>2)</sup>, 弦間和仁, 恩田昌彦<sup>3)</sup>, 田尻 孝<sup>3)</sup>, 小嶋隆行<sup>3)</sup>, 松崎 栄<sup>3)</sup> (1)大洗海岸病院放射線科, 2)海老名総合病院放射線科, 3)第一外科) : 腹部血管造影における indixanol (DU-6807) の臨床的有用性—特に腎機能に及ぼす影響について—。医学と薬学 1996 ; 35 : 775-789.
  - 15) 中島康雄<sup>1)</sup>, 石川 徹<sup>1)</sup>, 隈崎達夫, 竹川鉦一<sup>2)</sup>, 林 邦昭<sup>3)</sup>, 山口昂一<sup>4)</sup>, 片山 仁<sup>5)</sup>, 小塚隆弘<sup>6)</sup>, 西垣 克<sup>7)</sup> : (1)聖マ・放, 2)弘前大・放, 3)長崎大・放, 4)山形大・放, 5)順天・放, 6)大阪羽曳野病院・放, 7)東大・国際保健計画学) : 四肢血管撮影における等浸透圧造影剤イオジキサノール (DU-6807) 320mg/ml の第Ⅲ相臨床試験。映像情報 MEDICAL 1996 ; 28 : 748-763.
  - 16) 天野康雄, 澤田名美枝, 天野真紀, 町田 幹, 隈崎達夫 : 頭部 MRI による血液疾患例の下顎骨の観察。臨床放射線 1996 ; 41 : 619-623.
  - 17) 町田 幹, 天野康雄, 高浜克也, 隈崎達夫 : MRI にて馬尾神経に造影効果を認めた脊髄梗塞の 1 例。臨床放射線 1996 ; 41 : 669-672.
  - 18) 汲田伸一郎, 水村 直, 趙 圭一, 木島鉄仁, 隈崎達夫, 哲翁弥生<sup>1)</sup>, 酒井俊太<sup>1)</sup>, 佐野純子<sup>1)</sup>, 草間芳樹<sup>1)</sup>, 宗像一雄<sup>1)</sup> (1)第一内科) : <sup>99m</sup>Tc-MIBI 心筋シンチグラフィを用いた右室梗塞評価—心電図同期法併用による右室機能評価を含めて—。核医学 1996 ; 33 : 635-639.
  - 19) 天野康雄, 弦間和仁, 榎 利夫<sup>1)</sup>, 土橋俊男<sup>1)</sup>, 隈崎達夫 (1)付属病院放射線科技師) : 大腿動脈の閉塞性動脈硬化症に対する造影 2 次元 subtraction MRA の有用性。日本磁気共鳴医学会雑誌 1996 ; 16 : 159-163.
  - 20) 内山菜智子<sup>1)</sup>, 市川太郎, 汲田伸一郎, 隈崎達夫 (1)国立がんセンター放射線診断部) : 造影 CT によるうっ血肝の評価—心プールシンチグラフィとの比較—。臨床放射線 1996 ; 41 : 765-770.
  - 21) 隈崎達夫 : (7) デジタル血管撮影の新しい展開—診断的有用性と将来展望—。脈管学 1996 ; 36 : 379-385.
  - 22) 天野康雄, 隈崎達夫, 天野真紀<sup>1)</sup> (1)癌研究会付属病院放射線科) : 再生不良性貧血における骨髓 MR imaging の形態分類と年齢的特徴。日本医学放射線学会誌 1996 ; 56 : 546-549.
  - 23) 高木 亮, 小林尚志, 林 宏光, 山田 明, 中條秀信, 中原 圓, 市川太郎, 隈崎達夫 : 脳動脈静脈奇形における新しい 3 次元 CT 画像再構成法—See-Through View (STV) 法の開発とその臨床的評価—。日本医学放射線学会誌 1996 ; 56 : 676-678.
  - 24) 月岡健雄<sup>1)</sup>, 川勝樹夫<sup>1)</sup>, 福永 淳<sup>1)</sup>, 笹川道三<sup>1)</sup>, 安藤二郎<sup>2)</sup> (1)栃木県立がんセンター画像診断部, 2)同外科) : 乳房温存療法に対する診断と治療。CT。臨床放射線 1996 ; 41 : 969-973.
  - 25) 青山俊也<sup>1)</sup>, 田島廣之, 朝戸健夫, 弦間和仁, 川俣博志, 飯田英次<sup>2)</sup>, 後藤慎介, 隈崎達夫, 原田尚重<sup>3)</sup>, 辺見 弘<sup>3)</sup> (1)大洗海岸病院放射線科, 2)海老名総合病院放射線科, 3)救急医学教室) : TAE により止血し得た外傷性上腕動脈分枝損傷の 1 例。日本血管造影 INTERVENTIONAL RADIOLOGY 学会誌 1996 ; 1 : 509-512.
  - 26) 中條秀信, 高木 亮, 林 宏光, 天野康雄, 山田 明, 小林尚志, 隈崎達夫 : 3D-CT angiography, MR angiography にて描出した中大脳動脈窓形成 (fenestration) の 1 例。臨床放射線 1996 ; 41 : 1101-1104.
  - 27) 林 宏光, 小林尚志, 隈崎達夫 : Virtual CT Endoscopy “Cruising Eye View”—血管性病変の 3 次元的計測への応用—。日本医学放射線学会雑誌 1996 ; 56 : 880-882.



- 28) 宮下次廣, 館野 温, 神代勝敏, 佐々木禎之, 大野治佳<sup>1)</sup>, 佐藤飯作<sup>2)</sup>, 隈崎達夫<sup>(1)第二病院放射線科, 2)多摩永山病院放射線科</sup>: 頭頸部照射における味覚障害を軽減する舌出し法の試み. 臨床放射線 1996; 41: 1545-1548.
- 29) 汲田伸一郎, 趙 圭一, 水村 直, 木島鉄仁, 鳥羽正浩, 山田丈士, 隈崎達夫, 佐野純子<sup>1)</sup>, 草間芳樹<sup>1)</sup>, 宗像一雄<sup>1)</sup> <sup>(1)第一内科</sup>: 心電図同期併用の<sup>201</sup>Tl/<sup>99m</sup>Tc-Tetrofosmin 2核種同時心筋 SPECT データ収集—運動負荷心筋シンチグラフィ 1回撮像法—. 核医学 1996; 33: 1189-1196.
- 30) 天野康雄, 弦間和仁, 榎 利夫<sup>1)</sup>, 川俣博志, 岡島雄史, 渡 潤, 土橋俊男<sup>1)</sup>, 隈崎達夫 <sup>(1)付属病院放射線科技師</sup>: 脂肪抑制併用造影 3次元 MR angiography による閉塞性動脈硬化症の診断と治療効果判定. 日本磁気共鳴医学会雑誌 1996; 16: 316-321.
- 31) 天野康雄, 岡島雄史, 弦間和仁, 隈崎達夫: 冠動脈用タンタルムステントの MRA 造影法に対する影響—in vitro での検討—. 日本磁気共鳴医学会雑誌 1996; 16: 346-350.
- 32) 隈崎達夫, 田島廣之, 松岡昭治<sup>1)</sup>, 佐々木康夫<sup>1)</sup>, 松井 修<sup>2)</sup>, 吉川 淳<sup>2)</sup>, 伊藤勝陽<sup>3)</sup>, 福岡治仁<sup>3)</sup>, 中西 敬<sup>4)</sup>, 田中隆雄<sup>4)</sup>, 高橋睦正<sup>5)</sup>, 西春泰司<sup>5)</sup> <sup>(1)岩手県中・放, 2)金沢大・放, 3)広島大・放, 4)山口大・放, 5)熊本大・放</sup>: イオジキサノールの DSA における臨床試験. 薬理と治療 1996; 24: 423-435.
- 33) 河野道雄<sup>1)</sup>, 平敷淳子<sup>2)</sup>, 朝日良一<sup>2)</sup>, 隈崎達夫, 田島廣之, 鈴木謙三<sup>3)</sup>, 田中淳司<sup>3)</sup>, 杉本幸司<sup>1)</sup>, 廣田省三<sup>1)</sup>, 坂本一夫<sup>4)</sup>, 小島芳夫<sup>4)</sup>, 梶原康正<sup>5)</sup>, 今井茂樹<sup>5)</sup>, 林 邦明<sup>6)</sup>, 坂本一郎<sup>6)</sup> <sup>(1)神戸大・放, 2)埼玉医大・放, 3)駒込病院・放, 4)姫路循環セ・放, 5)川崎医大・放, 6)長崎大・放</sup>: イオジキサノールの胸部血管撮影における臨床試験. 薬理と治療 1996; 24: 393-402.
- 34) 田尻 孝<sup>1)</sup>, 恩田宗彦<sup>1)</sup>, 山下精彦<sup>1)</sup>, 鳥羽昌仁<sup>1)</sup>, 梅原松臣<sup>1)</sup>, 吉田 寛<sup>1)</sup>, 隈崎達夫 <sup>(1)第一外科</sup>: 門脈圧亢進症の臨床・IVR の治療への応用. 経門脈的副血行路塞栓療法 (PTO, TIO). 肝胆膵 1996; 33: 1003-1008.
- 35) 汲田伸一郎, 趙 圭一, 水村 直, 木島鉄仁, 石原眞木子, 鳥羽正浩, 山田丈士, 隈崎達夫, 佐野純子<sup>1)</sup>, 草間芳樹<sup>1)</sup>, 宗像一雄<sup>1)</sup> <sup>(1)第一内科</sup>: 心電図同期併用の<sup>201</sup>Tl/<sup>99m</sup>Tc-Tetrofosmin dual SPECT による運動負荷心筋シンチグラフィ 1回撮像法—罹患冠動脈枝自動診断を含めて—. 臨床放射線 1997; 42: 181-186.
- 36) 天野康雄, 川俣博志, 弦間和仁, 榎 利夫<sup>1)</sup>, 土橋俊男<sup>1)</sup>, 隈崎達夫 <sup>(1)付属病院放射線科技師</sup>: MR angiography による閉塞性動脈硬化症の深腸骨回旋動脈の描出について. 臨床放射線 1997; 42: 315-319.
- 37) 渡 潤, 岡島雄史, 田島廣之, 隈崎達夫, 大井良之<sup>1)</sup>, 中村かんな<sup>1)</sup>, 小川 龍<sup>1)</sup> <sup>(1)麻酔科</sup>: パージャー病に対する CT 透視下腰部交換神経節ブロックの 1例. 日本血管造影インターベンショナルラジオロジー学会誌 1997; 12: 79-82.
- 38) 林 宏光, 小林尚志, 高木 亮, 隈崎達夫, 後藤良洋<sup>1)</sup>, 中村尚子<sup>1)</sup> <sup>(1)日立メディコ技術開発研究所</sup>: Virtual CT Endoscopy“Cruising Eye View”の画質改良のための非線形補間法の開発. 臨床放射線 1997; 42: 337-341.
- 39) 高木 亮, 林 宏光, 小林尚志, 石原眞木子, 水村 直, 山田 明, 隈崎達夫, 諫山和夫<sup>1)</sup>, 池田幸穂<sup>2)</sup>, 寺本 明<sup>2)</sup> <sup>(1)CCM、2)脳神経外科</sup>: 3次元 CT 血管造影法 (3D-CTA) による脳血管攣縮の評価. 日本医学放射線学会誌 1997; 57: 64-66.
- 40) 高橋修司, 川俣博志, 市川和雄, 弦間和仁, 田島廣之, 隈崎達夫, 益子邦洋<sup>1)</sup> <sup>(1)救命救急センター</sup>: 外傷性外傷骨動脈閉塞を伴った重症骨盤骨折の一例. 日本外傷学会雑誌 1997; 11: 24-28.
- 41) 市川和雄, 田島なつき<sup>1)</sup>, 田島廣之, 村上隆介<sup>2)</sup>, 岡田 進<sup>1)</sup>, 保坂純郎<sup>1)</sup>, 伊藤公一郎<sup>1)</sup>, 山本 鼎<sup>2)</sup>, 隈崎達夫, 増野智彦<sup>3)</sup>, 横田裕行<sup>3)</sup>, 牧野俊郎<sup>4)</sup> <sup>(1)千葉北総病院放射線科, 2)多摩永山病院放射線科, 3)千葉北総病院救命救急部, 4)日医大新東京国際空港クリニック</sup>: Body Packers の画像診断. 日本医学放射線学会誌 1997; 57: 89-93.
- 42) 天野真紀<sup>1)</sup>, 加藤友康<sup>2)</sup> <sup>(1)癌研病院放射線科, 2)癌研病院婦人科</sup>: MR imaging による子宮頸癌 neoadjuvant chemotherapy の治療効果判定と予測. 日本医学放射線学会雑誌 1997; 57: 176-181.
- 43) 木島鉄仁, 汲田伸一郎, 水村 直, 趙 圭一, 石原眞木子, 鳥羽正浩, 隈崎達夫, 高橋宗尊<sup>1)</sup> <sup>(1)島津製作所</sup>: トランスミッション・エミッションデータ同時収集法による吸収補正の有用性と問題点—健常成人例およびファ

ントムを用いた検討一. 核医学 1997; 34: 167-176.

- 44) 田島なつき<sup>1)</sup>, 田島廣之, 岡田 進<sup>1)</sup>, 伊藤公一郎<sup>1)</sup>, 保坂純郎<sup>1)</sup>, 趙 圭一<sup>1)</sup>, 隈崎達夫, 加藤丈司<sup>1)</sup>, 桜井 実<sup>1)</sup>, 浅野哲雄<sup>2)</sup>, 水野杏一<sup>3)</sup>, 田中啓治<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院放射線科, <sup>2)</sup>同胸部外科, <sup>3)</sup>同内科, <sup>4)</sup>同CCU): 深部静脈血栓症のMR venography. 日本磁気共鳴医学会誌 1997; 17: 20-27.

(2) 総説:

- 1) 高木 亮, 隈崎達夫, 林 宏光, 若林洋行, 市川太郎, 川俣博志, 岡島雄史, 飯田英次, 弦間和仁, 小林尚志: 鈍的腹部外傷の高速CT: Fast CT of Blunt Abdominal Trauma. 日獨医報 1996; 41: 93-105.
- 2) 弦間和仁, 林 宏光, 天野康雄, 木島鉄仁, 汲田伸一郎, 小林尚志, 隈崎達夫: 動脈閉塞症の画像診断—骨盤・四肢 閉塞性動脈硬化症を中心に—. 臨床画像 1996; 12: 442-449.
- 3) 弦間和仁, 隈崎達夫: Up Date 血管造影—診断および治療への応用—高速回転デジタル血管撮影. 現代医療 1996; 28: 497-500.
- 4) 弦間和仁, 小林尚志, 隈崎達夫: Interventional Radiology—基本と応用 Vascular IVR: 腹部—腫瘍塞栓術(肝細胞癌のTAE). カレントセラピー 1996; 14: 2151-2155.
- 5) 川俣博志, 隈崎達夫: Vascular Interventional Radiologyの手技. 外科治療 1996; 74: 606-614.
- 6) 川俣博志, 隈崎達夫: 血管系のInterventional Radiology 動脈塞栓術, 骨盤骨折に対する動脈塞栓術. Medicina 1996; 33: 1123-1127.
- 7) 川俣博志, 隈崎達夫: 腹部・骨盤部外傷における動脈塞栓術. Vita 1996; 13: 32-37.
- 8) 林 宏光, 小林尚志, 高木 亮, 若林洋行, 高浜克也, 石原真木子, 市川太郎, 飯田英次, 鴨下 亨<sup>1)</sup>, 隈崎達夫 (<sup>1)</sup>第一病院放射線科): Virtual CT Endoscopy “Cruising Eye View”による血管性病変の評価. 臨床画像 1996; 2: 690-697.
- 9) 飯田英次<sup>1)</sup>, 林 宏光, 小林尚志, 高橋修司, 隈崎達夫 (<sup>1)</sup>海老名総合病院放射線科): 3次元血管造影法による大動脈および分枝疾患の診断—骨盤・下肢動脈(Spiral CTによる診断)—. 臨床画像 1996; 12: 682-689.
- 10) 高木 亮, 小林尚志, 林 宏光, 中條秀信, 市川太郎, 隈崎達夫, 浜口雄慈<sup>1)</sup>, 町田和夫<sup>1)</sup>, 村木巖太郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院放射線科技師): CT最前線: 高速らせんCTを用いた3次元CTの臨床応用と今後の展望. Pharma Medica 1996; 14: 101-107.
- 11) 林 宏光, 小林尚志, 高木 亮, 石原真木子, 高浜克也, 若林洋行, 中條秀信, 市川太郎, 隈崎達夫: III心・大血管 3. Voxel Transmission法を用いた血管性病変の三次元CT血管造影. INNERVISION 1996; 11(6): 44-49.
- 12) 河田佳樹<sup>1)</sup>, 仁木 登<sup>1)</sup>, 隈崎達夫(<sup>1)</sup>徳島大学工学部): コーンビームCTの3次元血管像処理アルゴリズムについて. 電子情報通信学会論文誌 1996; J79-D-II(6): 1134-1145.
- 13) 小林尚志, 高木 亮, 林 宏光, 市川太郎, 隈崎達夫: ヨード造影剤の現状 臨床応用の実際—らせんCTを用いたspatial dynamic CT, 3D-CTを中心に—. INNERVISION 1996; 11(7): 9-15.
- 14) 小林尚志: 三次元CTによる画像診断とは. 日医大誌 1996; 63: 311.
- 15) 隈崎達夫, 田島廣之: 腎不全における薬の使い方. 非イオン性低浸透圧造影剤. 腎と透析 1996; 臨時増刊号: 897-898.
- 16) 林 宏光, 小林尚志, 隈崎達夫: 血管性病変のCT診断. 茨城県画像診断研究会雑誌 1996; 7: 1-7.
- 17) 市川太郎, 小林尚志, 林 宏光, 高木 亮, 隈崎達夫: 2腹部・肝. 三次元画像—原理と臨床応用—. 臨床放射線 1996; 41(臨時増刊号): 1295-1300.
- 18) 林 宏光, 小林尚志, 隈崎達夫: 骨盤・下肢血管性病変の三次元CT血管造影法. 三次元画像—原理と臨床応用—. 臨床放射線 1996; 41(臨時増刊号): 1365-1376.
- 19) 林 宏光, 小林尚志, 高木 亮, 高浜克也, 趙 圭一, 中條秀信, 隈崎達夫: Virtual CT Endoscopy “Cruising Eye View”開発に至る過程とその理論, ならびに臨床応用. 三次元画像—原理と臨床応用—. 臨床放射線臨時増

刊号 1996 ; 41 : 1392-1400.

- 20) 林 宏光, 小林尚志, 隈崎達夫: Virtual CT Endoscopy “Cruising Eye View” CT のデータから内視鏡のイメージを得る—開発に至る過程とその理論, ならびに臨床応用—. Medio 1996 ; 13(9) : 118-123.
- 21) 林 宏光, 高木 亮, 川俣博志, 若林洋行, 高浜克也, 石原眞木子, 市川太郎, 小林尚志, 隈崎達夫: 高速らせん CT による血管性病変の診断—検査法の実際から 3 次元 CT の現状まで—. 画像診断 1996 ; 6 : 1336-1347.
- 22) 林 宏光, 小林尚志, 隈崎達夫: Virtual CT Endoscopy “Cruising Eye View” CT のデータから内視鏡のイメージを得る. 日医大誌 1996 ; 63 : 490-494.
- 23) 石川 勉<sup>1)</sup>, 中嶋秀麿<sup>1)</sup>, 内山菜智子<sup>1)</sup>, 飯沼 元<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>国立がんセンター中央病院画像診断部): 下血とバリウム検査 (全消化管). Current Therapy 1996 ; 14(3) : 76-82.
- 24) 石川 勉<sup>1)</sup>, 内山菜智子<sup>1)</sup>, 中嶋秀麿<sup>1)</sup>, 飯沼 元<sup>1)</sup>, 宮川国久<sup>1)</sup>, 牛尾恭輔<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>国立がんセンター中央病院画像診断部): 臨床から見た“表層拡大腸腫瘍”の検討. 胃と腸 1996 ; 31 : 179-186.
- 25) 石川 勉<sup>1)</sup>, 牛尾恭輔<sup>1)</sup>, 内山菜智子<sup>1)</sup>, 中嶋秀麿<sup>1)</sup>, 飯沼 元<sup>1)</sup>, 宮川国久<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>国立がんセンター中央病院画像診断部): 回盲部病変の診断. 画像診断 1996 ; 16 : 285-293.
- 26) 牛尾恭輔<sup>1)</sup>, 石川 勉<sup>1)</sup>, 宮川国久<sup>1)</sup>, 飯沼 元<sup>1)</sup>, 山城正明<sup>1)</sup>, 内山菜智子<sup>1)</sup>, 落合淳志<sup>1)</sup>, 下田忠和<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>国立がんセンター中央病院画像診断部): X 線像による retrospective な検討からみた大腸腫瘍の自然史. 胃と腸 1996 ; 31 : 1553-1566.
- 27) 隈崎達夫: 回転デジタル撮影システムと円錐ビーム 3 次元 CT の開発—一次世代の 3 次元 CT 診断を目指す—. 日医大誌 1997 ; 64 : 57-60.
- 28) 隈崎達夫: 回転デジタル血管撮影. 画像診断 1997 ; 17 : 64-72.
- 29) 天野康雄, 隈崎達夫: MRI による血液疾患の骨髄の観察. 医学のあゆみ 1997 ; 180 : 454-455.
- 30) 川俣博志, 隈崎達夫, 小林尚志, 林 宏光, 市川太郎, 松枝 清<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>茨城県立中央病院放射線科): 特集・成人病の新しい検査法と診断, 腎疾患, 腎癌—高速らせん CT—. 臨床成人病 1997 ; 27 : 125-130.
- 31) 川俣博志, 隈崎達夫: 腹部・骨盤部外傷における経カテーテル的動脈塞栓術. MALLINCKRODT Report 1997 ; (創刊号) 1-8.
- 32) 篠原義智<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>多摩南部地域病院放射線科): 肺野微小病変の検出法—診断法の問題点と今後の変遷—. 日医大誌 1997 ; 64 : 93-94.

## 著 書

- 1) Rousseau H<sup>1)</sup>, Joffre F<sup>1)</sup>, Tregant P<sup>1)</sup>, Aziza R<sup>1)</sup>, Oya T<sup>2)</sup>, Blain F<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>C.H.U. Ranguel, Dept of Radiology, <sup>2)</sup>Nissan Tamagawa Hospital, Dept of Radiology): {共著} Endovascular Treatment for Iliac Disease. Handbook of Cardiovascular Interventions 1996 ; pp813-826. Churchill Livingstone, New York.
- 2) 市川太郎, 小林尚志, 隈崎達夫: {分担} 脾の画像診断—CT—. “消化器診療プラクティス13. 肝・胆・脾疾患の画像診断” (板井悠二編). 1996 ; pp107-110. 文光堂, 東京.
- 3) 市川太郎: {分担} 肝芽腫. “超音波消化器病学” (竹原靖明, 有山 襄編). 1996 ; pp102-105. 南江堂, 東京.
- 4) 高木 亮, 小林尚志, 林 宏光, 隈崎達夫, 雨宮隆太<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>茨城県立中央病院): {共著} 3 次元 CT 胸部—肺癌症例を中心として—. “癌の新しい画像診断” (中村仁信, 遠藤敬吾編) 1997 ; pp131-140. 医薬ジャーナル社, 東京.
- 5) 隈崎達夫, 小林尚志, 林 宏光, 高木 亮: Voxel Transmission 法による 3D-CT Angiography 及び Virtual CT Endoscopy “Cruising Eye View”. PharMedia Ltd. (ビデオライブラリー).

## 学会発表

(1) 特別講演:

- 1) 隈崎達夫: 腹部救急の血管造影と IVR. 第16回画像診断学術講演会 (神戸), 1996. 4.

- 2) 林 宏光：高速らせん CT—その基礎から最新の 3 次元画像まで—。鳥取県西部医師会臨床内科医会，1996. 7.
  - 3) 汲田伸一郎：新しい循環器核医学。第 7 回火の国 RI カンファレンス，1996. 7.
  - 4) 隈崎達夫：3 次元 CT 診断の最前線—高速らせん CT とコンビーム 3 次元画像を中心に—。函館放射線技師会，1996. 9.
  - 5) 林 宏光，隈崎達夫：血栓閉鎖型大動脈解離の画像診断—ULP の自然史と血栓化偽腔の解釈を中心に—。千駄木脈管カンファレンス，1996. 9.
  - 6) 林 宏光：3 次元 CT 血管造影法による血管性病変の画像診断。第 43 回臨床心臓勉強会，1996. 10.
  - 7) 林 宏光：3 次元 CT—最近の話題から—。第 3 回長野県 CT 研究会，1996. 10.
  - 8) 市川太郎：診断に最適な CT 画像とは。第 1 回フォーシーズンズ研究会（日本病院会），1996. 11.
  - 9) 林 宏光：3 次元 CT—最近の話題から—。第 2 回横三らせん CT 研究会，1996. 11.
  - 10) 林 宏光：高速らせん CT による血管性病変の 3 次元 CT 診断。第 15 回 Radiology Update 学術講演会，1996. 11.
  - 11) 林 宏光：3 次元 CT の臨床的応用。第 113 回東京通信病院学術講演会，1996. 12.
  - 12) 隈崎達夫：重症骨盤骨折に対する IVR—TAE の位置づけと問題点—。Twilight Conference in 滋賀特別講演，1997. 1.
  - 13) 隈崎達夫：血管疾患に関する 3 次元的画像診断の最前線。第 5 回抗血栓療法シンポジウム，1997. 3.
  - 14) 隈崎達夫：3 次元 CT 診断の最前線—高速らせん CT とコンビーム 3 次元画像を中心に—。画像診断学術講演会（高崎），1997. 3.
  - 15) 隈崎達夫：3 次元の血管造影法—高速回転デジタル血管撮影とコンビーム 3D・CT の開発をめぐる—。横三らせん CT 研究会（横須賀），1997. 3.
  - 16) 汲田伸一郎：新しい心臓核医学—Sestamibi を用いた新しい心機能解析を中心に—。第 5 回徳島核医学研究会，1997. 3.
- (2) 招待講演：
- 1) Kumita S, Cho K, Kumazaki T : Clinical application of ECG-gated myocardial SPECT with Tc-99m Sestamibi. Establishing the Clinical Value of Gated SPECT Technetium-99m Sestamibi Imaging—International Cardiolite Workshop— (KYOTO), 1996. 10.
  - 2) Ichikawa T, Kobayashi H, Kumazaki T : 3D-CT Imaging in digestive diseases. 1st Gastro-Surgical Meeting in Digestive Disease (PORTUGAL), 1997. 3.
  - 3) 汲田伸一郎，趙 圭一，水村 直，木島鉄仁，隈崎達夫，佐野純子<sup>1)</sup>，酒井俊太<sup>1)</sup>，草間芳樹<sup>1)</sup>，宗像一雄<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>第一内科）：心電図同期<sup>201</sup>Tl/<sup>99m</sup>Tc-Tetrofosmin dual SPECT を用いた運動負荷心筋シンチグラフィ 1 回撮像法。第 2 回東日本マイオビュー研究会，1996. 5.
  - 4) 市川太郎：肝腫瘍の画像診断と CT の最新動向。第 53 回医学画像研究会，1996. 9.
  - 5) 汲田伸一郎，趙 圭一，水村 直，木島鉄仁，石原真木子，鳥羽正浩，山田丈士，井上幸平，隈崎達夫，佐野純子<sup>1)</sup>，多田祐美子<sup>1)</sup>，哲翁弥生<sup>1)</sup>，酒井俊太<sup>1)</sup>，草間芳樹<sup>1)</sup>，宗像一雄<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>第一内科）：<sup>99m</sup>Tc-Tetrofosmin 心拍同期心筋シンチグラフィを用いた左室機能解析。第 22 回ニュータウンカンファレンス，1997. 2.
- (3) 教育講演：
- 1) 隈崎達夫：Cone-Beam 3D CT—次世代の 3 次元 CT 診断を目指す—。日本医師会生涯教育講座 平成 8 年度第 1 回医学講座「ここまで進歩した 3 次元 CT 診断」—新技術の開発とその臨床応用—。日本医科大学医師会 1996. 5.
  - 2) 林 宏光：直径 1mm までの血管内腔を自由に観察する—CT 内視法“Cruising Eye View”—。日本医師会生涯教育講座 平成 8 年度第 1 回医学講座「ここまで進歩した 3 次元 CT 診断」—新技術の開発とその臨床応用—。日本医科大学医師会，1996. 5.
  - 3) 隈崎達夫：3 次元 CT 診断の最前線—新技術の開発とその臨床応用—。豊島区医師会学術講演会，1996. 7.

- 4) 隈崎達夫：救急血管疾患の3次元画像診断—CTと血管造影を中心にして—。寿泉堂病院公開医学講座，1996。9。
  - 5) 市川太郎：肝胆膵外科をサポートする画像診断。第8回日本肝胆膵外科学会，1996。11。
  - 6) 隈崎達夫：救急血管疾患の3次元画像診断。日本医師会生涯教育講座，1996。12。
  - 7) 市川太郎：膵腫瘍性病変。日本医学放射線学会関東地方会セミナー，画像診断リフレッシャーコース，1997。2。
- (4) シンポジウム：
- 1) Kumazaki T：Development of rotational digital stereo-angiocardiology system and new cone-beam 3D CT. The Second Congress of the Asian Vascular Society (Seoul), 1996。6。
  - 2) Kumazaki T：Development of rotational digital stereo-angiocardiology system and new cone-beam 3D CT. 2nd Japan-Scandinavian Symposium Progress in Radiology 1996 (Stockholm), 1996。6。
  - 3) Tajima H, Hosaka J, Tajima N, Kumazaki T：Superselective Local Infusion Therapy with Tissueplasminogen Activator for Acute Massive Pulmonary Thromboembolism. 2nd Japan-Scandinavian Symposium Progress in Radiology 1996 (Stockholm), 1996。6。
  - 4) Tajima N, Hosaka J, Tajima H, Ito K, Okada S, Cho K, Kumazaki T：MR venography of varicose vein. 2nd Japan-Scandinavian Symposium Progress in Radiology 1996 (Stockholm), 1996。6。
  - 5) Tajima H, Kumazaki T, Gemma K, Kawamata H：Diagnostic Imaging of Abdominal Emergency. —Angiography and Interventional Radiology—. XXX World Congress of the International College of Surgeons (KYOTO), 1996。11。
  - 6) 田島廣之：救急放射線とIVR・胸部。第5回造影剤と放射線シンポジウム，1996。6。
  - 7) 高木 亮，小林尚志，林 宏光，山田 明，若林洋行，市川太郎，隈崎達夫，佐藤秀貴<sup>1)</sup>，諫山和男<sup>1)</sup>，池田幸穂<sup>2)</sup>，寺本 明<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>CCM，<sup>2)</sup>脳神経外科)：脳外科支援画像としての三次元CTの役割。第21回日本外科系連合学会学術集会，1996。6。
  - 8) 川俣博志，汲田伸一郎，隈崎達夫，大矢 徹，高橋修司，市川和雄，岡島雄史，弦間和仁，田島廣之，金沢秀典<sup>1)</sup>，小嶋隆行<sup>1)</sup>，松崎 栄<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>付属病院第3内科，<sup>2)</sup>付属病院第1外科)：経内頸静脈の肝内門脈体循環短絡術(TIPS)後の肝内および肝外血行動態の変化—核医学的解析による検討—。診療と研究のトピックス。第27回日本腹部救急医学会総会，1996。9。
  - 9) 林 宏光，小林尚志，高木 亮，若林洋行，市川太郎，川俣博志，弦間和仁，隈崎達夫：高速らせんCTによる血管性病変の3次元画像診断—Voxel Transmission法による3D-CT angiographyとVirtual CT Endoscopy “Cruising Eye View”—(主題：血管病変の画像診断)。第37回日本脈管学会総会，1996。11。
  - 10) 永尾朋洋<sup>1)</sup>，中村尚子<sup>1)</sup>，後藤良洋<sup>1)</sup>，高木 博<sup>1)</sup>，林 宏光，隈崎達夫 (<sup>1)</sup>日立メディコ技術開発研究所)：クルージング・アイ・ビューにおける計測手法の開発。第2回3次元CT研究会，1997。2。
  - 11) 市川太郎，小林尚志，隈崎達夫：経静脈性造影による門脈・肝静脈の回転3D-CTと肝血管腫の“4D”-CT(主題：門脈・胆道へのNEWアプローチ)。第5回クリニカルビデオフォーラム，1997。2。
  - 12) 天野康雄：タンタルムステントのMR angiography撮影法に対する影響。ウィクターステントシンポジウム(大阪)，1997。2。
  - 13) 天野康雄：タンタルムステントのMR angiography撮影法に対する影響。ウィクターステントシンポジウム(東京)，1997。3。
  - 14) 吉田 寛<sup>1)</sup>，恩田昌彦<sup>1)</sup>，田尻 孝<sup>1)</sup>，金 徳栄<sup>1)</sup>，梅原松臣<sup>1)</sup>，真々田裕宏<sup>1)</sup>，西久保秀紀<sup>1)</sup>，谷合信彦<sup>1)</sup>，松本智司<sup>1)</sup>，小嶋隆行<sup>1)</sup>，松崎 栄<sup>1)</sup>，山本一仁<sup>1)</sup>，広瀬洋一郎<sup>1)</sup>，金子昌裕<sup>1)</sup>，田島廣之，隈崎達夫 (<sup>1)</sup>第1外科)：原発性肝癌破裂の治療成績の検討。第28回日本腹部救急医学会総会(ワークショップ)，1997。3。
- (5) パネルディスカッション：
- 1) 林 宏光，小林尚志，弦間和仁，川俣博志，隈崎達夫：Virtual CT Endoscopy “Cruising Eye View”による

血管性病変の評価—Endovascular Intervention に対する有用性を中心に—(主題：血管病変の Endovascular Intervention と画像診断)。第2回日本血管内治療学会, 1996. 7.

- 2) 弦間和仁, 中條秀信, 岡島雄史, 高橋修司, 川俣博志, 林 宏光, 大矢 徹<sup>1)</sup>, 田島廣之, 隈崎達夫(<sup>1)</sup>日産玉川病院放射線科): 血管病変の Endovascular Intervention と画像診断—腸骨動脈閉塞性動脈硬化症の回転デジタル血管撮影—. 第2回日本血管内治療学会, 1996. 7.
- 3) 隈崎達夫: [特別発言] 大動脈病変に於ける3D-CT および CT 内視法—新しい技術の開発とその臨床応用について—. 第10回心臓血管内視鏡レーザー形成術研究会, 1996. 10.
- 4) 弦間和仁: 慢性閉塞性動脈硬化症 (ASO) をめぐって—放射線科 閉塞性動脈硬化症 (ASO) の画像診断と Interventional Radiology (IVR) について—. 第31回日本成人病学会, 1997. 1.
- 5) 渡 潤, 田島廣之, 徐 向英, 隈崎達夫, 工藤翔二<sup>1)</sup>, 吉村明修<sup>1)</sup>, 村田 朗<sup>1)</sup>, 松本満臣<sup>2)</sup>, 宮本忠昭<sup>3)</sup>, 松本徹<sup>3)</sup>, 矢野 侃<sup>4)</sup> (<sup>1)</sup>第4内科, <sup>2)</sup>都立医療短大, <sup>3)</sup>放医研, <sup>4)</sup>荒川がん予防セ): 肺癌一次検診におけるらせん CT の導入。第4回 CT 検診研究会 (ラウンドテーブルディスカッション), 1997. 2.

(6) 一般講演:

- 1) Kawamata H, Kobayashi H, Ichikawa T, Hayashi H, Oya T, Takagi R, Okajima Y, Iida E, Murakami R, Gemma K, Tajima H, Kumazaki T, Kanazawa H<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>Department of 3rd Internal Medicine): A Role of Spiral CT Angiography Prior to Transjugular Intrahepatic Portosystemic Shunts. The 6th International Symposium on Interventional Radiology and New Vascular Imaging. (Aomori), 1996. 4.
- 2) Kumita S, Mizumura S, Cho K, Kijima T, Ishihara M, Kumazaki T, Tetsuo Y<sup>1)</sup>, Kusama Y<sup>1)</sup>, Munakata K<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>1st Dept of Internal Medicine): ECG-gated myocardial SPECT with Tc-99m-MIBI and I-123-BMIPP in patients with ischemic heart disease. The 43rd Society of Nuclear Medicine (Denver), 1996. 6.
- 3) Kumita S, Cho K, Mizumura S, Kijima T, Ishihara M, Kumazaki T, Sano J<sup>1)</sup>, Kusama Y<sup>1)</sup>, Munakata K<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>1st Dept of Internal Medicine): ECG-gated dual-isotope myocardial SPECT with Tl-201 and Tc-99m-tetrofosmin: Simultaneous assessment of stress/rest myocardial perfusion and rest LV systolic function. The 43rd Society of Nuclear Medicine (Denver), 1996. 6.
- 4) Kumita S, Cho K, Mizumura S, Kijima T, Ishihara M, Toba M, Yamada T, Kumazaki T, Sano J<sup>1)</sup>, Kusama Y<sup>1)</sup>, Munakata K<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>1st Dept of Internal Medicine): ECG-Gated Dual-Isotope Myocardial Perfusion SPECT with Tl-201 and Tc-99m-Tetrofosmin. The 6th Asia & Oceania Congress of Nuclear Medicine and Biology (Kyoto), 1996. 10.
- 5) Mizumura S, Kumita S, Cho K, Ishihara M, Kijima T, Yamada T, Toba M, Kumazaki T: Analysis of Cerebellar Blood Flow and Distribution Volume for Presence of Crossed Cerebellar Diaschisis Using I-123-IMP Dynamic SPECT. The 6th Asia & Oceania Congress of Nuclear Medicine and Biology (Kyoto), 1996. 10.
- 6) Kijima T, Kumita S, Mizumura S, Cho K, Ishihara M, Yamada T, Toba M, Kumazaki T: Assessment of Leg Hyperemia in Patients with Arteriosclerosis Obliterans Using Dual Phased Tc-99m-Tetrofosmin Scintigraphy. The 6th Asia & Oceania Congress of Nuclear Medicine and Biology (Kyoto), 1996. 10.
- 7) Cho K, Kumita S, Kijima T, Tajima N, Hosaka J, Mizumura S, Ishihara M, Okada S, Kumazaki T: Discrepancy between Tc-99m-MAA and Tl-201 Leg Perfusion Scintigraphy. The 6th Asia & Oceania Congress of Nuclear Medicine and Biology (Kyoto), 1996. 10.
- 8) Ishihara M, Kumita S, Mizumura S, Cho K, Kijima T, Yamada T, Toba M, Kumazaki T: Correlation of Supratentorial Neuronal Impairment with Contralateral Cerebellar Blood Flow Reduction. The 6th Asia & Oceania Congress of Nuclear Medicine and Biology (Kyoto), 1996. 10.
- 9) Toba M, Kumita S, Mizumura S, Cho K, Ishihara M, Kijima T, Yamada T, Kumazaki T: Longitudinal

- study for myocardial viability with low-dose dobutamine stress Tc-99m-MIBI gated SPECT. The 6th Asia & Oceania Congress of Nuclear Medicine and Biology (Kyoto), 1996. 10.
- 10) Yamada T, Kumita S, Mizumura S, Ishihara M, Cho K, Kijima T, Toba M, Kumazaki T : Brain Perfusion SPECT in Migration Disorder with MRI Volume Correction. The 6th Asia & Oceania Congress of Nuclear Medicine and Biology (Kyoto), 1996. 10.
  - 11) Oshina T, Kumita S, Mizumura S, Cho K, Ishihara M, Kijima T, Kosugi Y, Kumazaki T : Which Isotope is Advantageous, Tl-201 or Tc-99m for Simultaneous Dual-Isotope SPECT Studies with In-111 ? . The 6th Asia & Oceania Congress of Nuclear Medicine and Biology, 1996. 10.
  - 12) Nakamura A, Kumita S, Cho K, Mizumura S, Ishihara M, Kijima T, Oshina T, Kosuge Y, Kawamura Y, Okada S, Kumazaki T : Double Collimator Technique if Simultaneous Dual-Isotope SPECT Studies. The 6th Asia & Oceania Congress of Nuclear Medicine and Biology (Kyoto), 1996. 10.
  - 13) Hayashi H, Kobayashi H, Takagi R, Amano Y, Gemma K, Kawamata H, Kumazaki T : Three-dimensional CT Angiography versus MR Angiography : Vying for Diagnostic Efficacy in the Evaluation of Complex Iliac Stenosis. 82nd Scientific Assembly and Annual Meeting, Radiological Society of North America (Chicago) , 1996. 12.
  - 14) Hayashi H, Kobayashi H, Takagi R, Cho K, Wakabayashi H, Kumazaki T : Virtual CT Endoscopy "Cruising Eye View" : New Trend in Vascular Imaging. 82nd Scientific Assembly and Annual Meeting, Radiological Society of North America (Chicago) , 1996. 12.
  - 15) Kaizu T<sup>1)</sup>, Karasawa K<sup>1)</sup>, Maebayashi K<sup>1)</sup>, Ishiwata J<sup>2)</sup>, Tanaka Y<sup>3)</sup>, Matsuda T<sup>4)</sup> (<sup>1)</sup>Tokyo Metropolitan Komagome Hospital, Dept of Radiology, <sup>2)</sup>Internal Medicine, <sup>3)</sup>Nihon Univ, Dept of Radiology, <sup>4)</sup>Tamananbu Regional Hospital, Dept of Radiology) : Thermochemoradiotherapy for Advanced Gallbladder Cancer. 1st Asian Society of Hyperthermic Oncology, 1996.
  - 16) Kumazaki T, Ichikawa K : A new cone-beam 3D imaging of cardiovascular system. European Congress of Radiology (Vienna), 1997. 3.
  - 17) Tajima H, Okajima Y, Goto S, Takahashi S, Kawamata H, Takagi R, Gemma K, Tajima N, Kumazaki T : Superselective local infusion therapy for acute massive pulmonary thromboembolism. European Congress of Radiology (Vienna), 1997. 3.
  - 18) Gemma K, Nakajo H, Ichikawa K, Okajima Y, Goto S, Takahashi S, Kawamata H, Takagi R, Hayashi H, Oya T, Tajima H, Kobayashi H, Kumazaki T : Fast Rotational Digital Angiography (FRDA) of iliac arterial atherosclerotic disease. European Congress of Radiology (Vienna), 1997. 3.
  - 19) Takagi R, Hayashi H, Kobayashi H, Nakajo H, Ishihara M, Okajima Y, Tajima H, Kumazaki T : Three-dimensional CT angiography for cerebral vasospasm following subarachnoidal hemorrhage. European Congress of Radiology (Vienna), 1997. 3.
  - 20) Kamoshita T, Yokokura T, Kumazaki T : Transrectal ultrasonography of the ejaculatory duct in prostatic cancer. European Congress of Radiology (Vienna), 1997. 3.
  - 21) 宮下次廣, 館野 温, 山田丈士, 小泉岐博, 堀内淳一, 貝津俊英, 隈崎達夫, 神代勝敏, 岡田 静<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院放射線科) : 味覚障害を軽減する頭頸部照射における「舌出し法」。第55回日本医学放射線学会総会, 1996. 4.
  - 22) 田島廣之, 村上隆介, 後藤慎介, 青山俊也, 岡島雄史, 貝津俊英, 飯田英次, 朝戸健夫, 阿部 豊, 吉川 晃, 清水康弘, 川俣博志, 弦間和仁, 隈崎達夫 : 等浸透圧造影剤 Iodixanol を用いた腹部血管造影直後における胆嚢への造影剤集積—CT を用いた検討—。第55回日本医学放射線学会総会, 1996. 4.
  - 23) 大矢 徹<sup>1)</sup>, 川俣博志, 飯田英次, 岡島雄史, 弦間和仁, 吉川 晃, 中條秀信, 小林尚志, 隈崎達夫(<sup>1)</sup>日産玉川病院放射線科) : 門脈圧亢進症に対する経内頸静脈的肝内門脈体循環短絡術 (TIPS) の中長期的成績。第55回日

本医学放射線学会総会, 1996. 4.

- 24) 汲田伸一郎, 水村 直, 趙 圭一, 木島鉄仁, 石原眞木子, 鳥羽正浩, 清水康弘, 中條秀信, 隈崎達夫: <sup>201</sup>Tl, <sup>99m</sup>Tc-tetrofosmin dual SPECT による運動負荷心筋シンチグラフィ 1 回撮像法—心電図同期法併用による局所壁運動評価を含めて—, 第55回日本医学放射線学会総会, 1996. 4.
- 25) 市川太郎, 小泉岐博, 鳥羽正浩, 若林洋行, 石原眞木子, 高木 亮, 天野康雄, 林 宏光, 小林尚志, 隈崎達夫: 高速らせん CT による“4D”-CT 診断. 第55回日本医学放射線学会総会, 1996. 4.
- 26) 弦間和仁, 岡島雄史, 川俣博志, 飯田英次, 中條秀信, 清水康弘, 大矢 徹<sup>1)</sup>, 田島廣之, 隈崎達夫(<sup>1</sup>日産玉川病院放射線科): 閉塞性動脈硬化症における回転デジタル血管撮影の有用性. 第55回日本医学放射線学会総会, 1996. 4.
- 27) 林 宏光, 小林尚志, 高木 亮, 市川太郎, 石原眞木子, 澤田名美枝, 山田丈士, 隈崎達夫: Virtual CT Endoscopy “Cruising Eye View” 理論ならびに臨床応用. 第55回日本医学放射線学会総会, 1996. 4.
- 28) 天野康雄, 渡 潤, 吉川 晃, 阿部 豊, 澤田名美枝, 町田 幹, 宮下次廣, 隈崎達夫, 新井宣行<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>GE 横河メディカル): H-1 MR Spectroscopy による脂肪髄の評価. 第55回日本医学放射線学会総会, 1996. 4.
- 29) 飯田英次, 大矢 徹<sup>1)</sup>, 弦間和仁, 川俣博志, 吉川 晃, 岡島雄史, 朝戸健夫, 阿部 豊, 山田 明, 田島廣之, 隈崎達夫(<sup>1</sup>日産玉川病院放射線科): 慢性閉塞性動脈硬化症 (ASO) に対する stent 留置術—長期成績を含めた臨床的検討—. 第55回日本医学放射線学会総会, 1996. 4.
- 30) 川俣博志, 大矢 徹<sup>1)</sup>, 飯田英次, 岡島雄史, 青山俊也<sup>2)</sup>, 吉川 晃, 中條秀信, 弦間和仁, 田島廣之, 小林尚志, 隈崎達夫(<sup>1</sup>日産玉川病院放射線科, <sup>2</sup>大洗海岸病院放射線科): TIPS 後の門脈造影所見および門脈圧と食道静脈瘤内視鏡所見との関連. 第55回日本医学放射線学会総会, 1996. 4.
- 31) 木島鉄仁, 汲田伸一郎, 水村 直, 趙 圭一, 石原眞木子, 鳥羽正浩, 古川一博, 小泉岐博, 隈崎達夫: Simultaneous Transmission Emission Protocol (STEP) による吸収補正の有用性と問題点. 第55回日本医学放射線学会総会, 1996. 4.
- 32) 若林洋行, 林 宏光, 小林尚志, 高木 亮, 石原眞木子, 趙 圭一, 渡 潤, 天野康雄, 町田 幹, 市川太郎, 隈崎達夫: 血管性病変の 3 次元 CT Angiography-Voxel Transmission 投影法による臨床評価—, 第55回日本医学放射線学会総会, 1996. 4.
- 33) 岡島雄史, 大矢 徹<sup>1)</sup>, 川俣博志, 青山俊也<sup>2)</sup>, 弦間和仁, 飯田英次, 阿部 豊, 中條秀信, 清水康弘, 隈崎達夫(<sup>1</sup>日産玉川病院放射線科, <sup>2</sup>大洗海岸病院放射線科): 経頸静脈の肝内門脈体循環短絡術 (TIPS) 後の短絡路狭窄に対する血管内超音波検査の有用性について. 第55回日本医学放射線学会総会, 1996. 4.
- 34) 天野真紀<sup>1)</sup>, 澤野誠志<sup>1)</sup>, 山田恵子<sup>1)</sup>, 小泉 満<sup>1)</sup>, 有賀明子<sup>1)</sup>, 山下 孝<sup>1)</sup>, 加藤友康<sup>2)</sup>, 岡田 進<sup>3)</sup>, 隈崎達夫(<sup>1</sup>癌研付属病院放射線科, <sup>2</sup>癌研付属病院婦人科, <sup>3</sup>千葉北総病院放射線科): 子宮頸癌全身化学療法における MRI の有用性—治療効果の判定と予測—. 第55回日本医学放射線学会総会, 1996. 4.
- 35) 石原眞木子, 市川太郎, 林 宏光, 高木 亮, 弦間和仁, 小泉岐博, 古川一博, 小林尚志, 隈崎達夫, 趙 圭一<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>千葉北総病院放射線科): 肝細胞癌自然破裂の CT 所見—破裂腫瘍形態及び血性腹水の特徴を中心として—. 第55回日本医学放射線学会総会, 1996. 4.
- 36) 山田 明, 高木 亮, 林 宏光, 小林尚志, 市川太郎, 若林洋行, 清水康弘, 鳥羽正浩, 隈崎達夫: 脳動静脈奇形における 3 次元 CT 血管造影法—See through View 法の有用性について—. 第55回日本医学放射線学会総会, 1996. 4.
- 37) 内山菜智子<sup>1)</sup>, 宮川国久<sup>1)</sup>, 村松幸男<sup>1)</sup>, 高安賢一<sup>1)</sup>, 若尾文彦<sup>1)</sup>, 牛尾恭輔<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>国立がんセンター中央病院放射線診断部): 子宮癌肉腫の画像所見. 第55回日本医学放射線学会総会, 1996. 4.
- 38) 中條秀信, 林 宏光, 市川太郎, 小林尚志, 隈崎達夫, 岡田 進<sup>1)</sup>, 田島なつき<sup>1)</sup>, 伊藤公一郎<sup>1)</sup>, 保坂純郎<sup>1)</sup>, 趙圭一<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>千葉北総病院放射線科): Dynamic CT による大動脈の経時的造影効果—造影剤持続注入法を用いた検討—. 第55回日本医学放射線学会総会, 1996. 4.



- 39) 市川和雄, 村上隆介<sup>1)</sup>, 山本 鼎<sup>1)</sup>, 田島なつき<sup>2)</sup>, 岡田 進<sup>2)</sup>, 保坂純郎<sup>2)</sup>, 伊藤公一郎<sup>2)</sup>, 田島廣之, 隈崎達夫 (1)多摩永山病院放射線科, 2)千葉北総病院放射線科): Body packers の画像所見. 第55回日本医学放射線学会総会, 1996. 4.
- 40) 鳥羽正浩, 汲田伸一郎, 水村 直, 木島鉄仁, 高浜克也, 小泉岐博, 山田丈士, 趙 圭一<sup>1)</sup>, 隈崎達夫 (1)千葉北総病院放射線科): <sup>99m</sup>Tc-MIBI 心拍同期心筋シンチグラフィを用いた拡張能評価—1 スライス描出による簡便法の試み—. 第55回日本医学放射線学会総会, 1996. 4.
- 41) 朝戸健夫, 田島廣之, 弦間和仁, 川俣博志, 飯田英次, 後藤慎介, 青山俊也<sup>1)</sup>, 片桐究代, 岡島雄史, 阿部 豊, 吉川 晃, 隈崎達夫 (1)大洗海岸病院放射線科): 原発性肝細胞癌の回転デジタル血管撮影. 第55回日本医学放射線学会総会, 1996. 4.
- 42) 月岡健雄<sup>1)</sup>, 川勝樹夫<sup>1)</sup>, 福永 淳<sup>1)</sup>, 笹川道三<sup>1)</sup> (1)栃木県立がんセンター画像診断部): 乳癌の乳管内進展におけるヘリカルCT所見. 第55回日本医学放射線学会総会, 1996. 4.
- 43) 青木祐子<sup>1)</sup>, 高木 博<sup>1)</sup>, 小林尚志, 林 宏光, 隈崎達夫 (1)日立メディコ): 血管径測定におよぼす3次元画像再構成法の影響. 第52回日本放射線技術学会総会学術大会, 1996. 4.
- 44) 中村尚子<sup>1)</sup>, 林 宏光, 小林尚志, 隈崎達夫 (1)日立メディコ技術研究所): クルーシングアイビューによる体内の巡航. 第52回日本放射線技術学会総会学術大会, 1996. 4.
- 45) 中原 圓, 市川太郎, 渡 潤, 高木 亮, 片桐究代, 隈崎達夫: 肝に認められた Reactive Lymphoid Hyperplasia の1例. 第10回腹部放射線研究会, 1996. 5.
- 46) 町田 幹, 天野康雄, 川俣博志, 市川太郎, 小林尚志, 隈崎達夫, 渡辺恵子<sup>1)</sup>, 山本正生<sup>1)</sup> (1)小児科): 胃原発未熟型奇形腫の1例. 第10回腹部放射線研究会, 1996. 5.
- 47) 山田 明, 高木 亮, 林 宏光, 小林尚志, 市川太郎, 中條秀信, 古川一博, 隈崎達夫: 3次元CT血管造影法を用いた See-Through View 法の開発—脳動静脈奇形における臨床的評価. 日本医科大学医学会第89回例会, 1996. 5.
- 48) 鴨下 亨<sup>1)</sup>, 小田福美<sup>1)</sup>, 伊藤 正<sup>2)</sup> (1)東京簡易保険総合健診センター, 2)第一病院放射線科): 経直腸的超音波断層法を用いた前立腺疾患の検討. 第68回日本超音波医学会, 1996. 5.
- 49) 川俣博志, 小林尚志, 市川太郎, 大矢 徹<sup>1)</sup>, 弦間和仁, 高橋修司, 岡島雄史, 隈崎達夫, 金沢秀典<sup>2)</sup> (1)日産玉川病院放射線科, 2)第3内科): TIPS 後の肝静脈部短絡路狭窄に伴って限局性のうっ血肝をきたした1例. 第2回肝血流動態イメージ研究会, 1996. 6.
- 50) 天野康雄, 弦間和仁, 榎 利夫, 土橋俊夫, 渡 潤, 隈崎達夫: 閉塞性動脈硬化症に対する大腿動脈2D MRA—従来法と multislice 造影法との比較—. 第4回 MR Angiograph 研究会, 1996. 6.
- 51) 清水康弘<sup>1)</sup>, 岡田 進<sup>1)</sup>, 趙 圭一<sup>1)</sup>, 保坂純郎<sup>1)</sup>, 伊藤公一郎<sup>1)</sup>, 田島なつき<sup>1)</sup>, 大秋美治<sup>2)</sup>, 横井公良<sup>3)</sup>, 森山雄吉<sup>3)</sup>, 隈崎達夫 (1)千葉北総病院放射線科, 2)同病理, 3)同外科): 一部に神経系への分布を示した直腸の Gastrointestinal Stromal Tumor の1例. 第409回日本医学放射線学会関東地方会, 1996. 6.
- 52) 川俣博志, 林 宏光, 弦間和仁, 高橋修司, 岡島雄史, 市川和雄, 隈崎達夫: Penetrating Atherosclerotic Ulcer より広範な偽腔開存型大動脈解離へ進展したと考えられる1例. 第43回心臓血管放射線研究会, 1996. 7.
- 53) 渡 潤, 岡島雄史, 田島廣之, 館野 温, 中條秀信, 隈崎達夫: CT透視による経皮的肺生検. 第8回関東 IVR 研究会, 1996. 7.
- 54) 市川和雄, 田島廣之, 弦間和仁, 川俣博志, 高橋修司, 岡島雄史, 朝戸健夫, 中條秀信, 村上隆介, 隈崎達夫, 鈴木康友<sup>1)</sup>, 長谷川潤<sup>1)</sup>, 秋元成太<sup>1)</sup> (1)泌尿器科): TAEにより治癒した“high-flow” priapism の1例. 第8回関東 IVR 研究会, 1996. 7.
- 55) 高橋修司, 川俣博志, 市川和雄, 岡島雄史, 中條秀信, 弦間和仁, 田島廣之, 隈崎達夫, 山本一仁<sup>1)</sup>, 小嶋隆行<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 恩田昌彦<sup>1)</sup> (1)第1外科): 治療に難渋した PTCD による仮性肝動脈瘤の1例. 第8回関東 IVR 研究会, 1996. 7.

- 56) 山田丈士, 汲田伸一郎, 水村 直, 石原眞木子, 木島鉄仁, 趙 圭一, 鳥羽正浩, 隈崎達夫: Tc-99m HMPAO SPECT を用いた小児てんかん焦点の検出—Lassen の補正の有効性について—. 第45回日本核医学会関東甲信越地方会, 1996. 7.
- 57) 永尾朋洋<sup>1)</sup>, 中村尚子<sup>1)</sup>, 後藤良洋<sup>1)</sup>, 林 宏光, 小林尚志, 隈崎達夫 (<sup>1)</sup>日立メディコ技術研究所): クルージングアイビューのためのボリュームレンダリング法の開発. 第15回日本医用画像工学会大会, 1996. 7.
- 58) 川俣博志, 隈崎達夫, 金沢秀典<sup>1)</sup>, 斎藤 西<sup>1)</sup>, 米谷 隆<sup>2)</sup>, 近藤栄作<sup>2)</sup>, 松崎浩司<sup>2)</sup>, 大塚幸雄<sup>2)</sup>, 稲森英明<sup>3)</sup>, 松崎信行<sup>3)</sup>, 石川 隆<sup>3)</sup>, 大西 誠<sup>3)</sup> (<sup>1)</sup>第3内科, <sup>2)</sup>東邦大学第1内科, <sup>3)</sup>東京大学第3内科): TIPS を用いた門脈血栓症の治療. 第3回日本門脈圧亢進症食道静脈瘤学会, 1996. 9.
- 59) 渡 潤, 田島廣之, 本多一義, 山田 明, 内山菜智子<sup>1)</sup>, 隈崎達夫, 日野光紀<sup>2)</sup>, 吉村明修<sup>2)</sup>, 村田 朗<sup>2)</sup>, 工藤翔二<sup>2)</sup>, 五味淵誠<sup>3)</sup>, 田中茂夫<sup>3)</sup>, 矢野 況<sup>4)</sup> (<sup>1)</sup>国立がんセンター中央病院放射線診断部, <sup>2)</sup>第4内科, <sup>3)</sup>第2外科): 肺癌健診比較読影システムの開発とその臨床応用. 第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 9.
- 60) 岡島雄史, 田島廣之, 渡 潤, 山田 明, 市川和雄, 井上幸平, 隈崎達夫: 再発食道癌に対するステント留置. 第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 9.
- 61) 弦間和仁, 中條秀信, 市川和雄, 岡島雄史, 朝戸健夫, 後藤慎介, 高橋修司, 川俣博志, 大矢 徹, 田島廣之, 隈崎達夫: Strecker stent 留置直後における腸骨動脈潰瘍様病変部の変化. 第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 9.
- 62) 山田丈士, 汲田伸一郎, 水村 直, 石原眞木子, 趙 圭一, 木島鉄仁, 鳥羽正浩, 隈崎達夫, 高石康子<sup>1)</sup>, 藤野修<sup>1)</sup>, 橋本 清<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>第二病院小児科): 小児てんかん焦点の検出—<sup>99m</sup>Tc-HMPAO 脳血流 SPECT における Lassen の補正の有効性について—. 第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 9.
- 63) 館野 温, 宮下次廣, 隈崎達夫: 頭頸部腫瘍放射線治療における PROTRUDING TONGUE METHOD の有用性. 第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 9.
- 64) 井上幸平, 市川太郎, 田島廣之, 館野 温, 中原 圓, 木島鉄仁, 岡島雄史, 吉川 晃, 市川和雄, 古川一博, 隈崎達夫: 新しいデジタル X 線テレビ装置の有用性. 第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 9.
- 65) 市川和雄, 田島廣之, 弦間和仁, 川俣博志, 高橋修司, 岡島雄史, 朝戸健夫, 中條秀信, 村上隆介, 隈崎達夫, 鈴木康友<sup>1)</sup>, 長谷川潤<sup>1)</sup>, 秋元成太<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>付属病院泌尿器科): TAE により治癒した high-flow priapism について. 第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 9.
- 66) 渥美生弘<sup>1)</sup>, 久志本成樹<sup>1)</sup>, 木村昭夫<sup>1)</sup>, 益子邦洋<sup>1)</sup>, 山本保博<sup>1)</sup>, 大塚敏文<sup>1)</sup>, 田島廣之, 渡 潤, 隈崎達夫 (<sup>1)</sup>救命救急センター): 人工肺補助下経皮的気管ステントにて救命し得た気道熱傷後高度気道狭窄の1例. 第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 9.
- 67) 天野康雄, 五味聖二<sup>1)</sup>, 前田美穂<sup>2)</sup>, 新井宣行<sup>3)</sup>, 榎 利夫<sup>4)</sup>, 土橋俊男<sup>4)</sup>, 天野真紀, 町田 幹, 壇 和夫<sup>1)</sup>, 山本正生<sup>2)</sup>, 隈崎達夫 (<sup>1)</sup>第3内科, <sup>2)</sup>小児科, <sup>3)</sup>GE 横河メディカルシステム, <sup>4)</sup>付属病院放射線科技師): 再生不良性貧血で認められた造血髄の1H MR Spectroscopy. 第24回日本磁気共鳴医学会大会, 1996. 9.
- 68) 石原眞木子, 天野康雄, 高木 亮, 中原 圓, 伊藤高司<sup>1)</sup>, 趙 圭一<sup>2)</sup>, 岡田 進<sup>1)</sup>, 隈崎達夫 (<sup>1)</sup>情報科学センター, <sup>2)</sup>千葉北総病院放射線科): EPI 高速撮像法による大脳白質病変の評価. 第24回日本磁気共鳴医学会大会, 1996. 9.
- 69) 趙 圭一<sup>1)</sup>, 岡田 進<sup>1)</sup>, 田島なつき<sup>1)</sup>, 伊藤公一郎<sup>1)</sup>, 保坂純郎<sup>1)</sup>, 伊藤高司<sup>2)</sup>, 石原眞木子, 天野康雄, 隈崎達夫 (<sup>1)</sup>千葉北総病院放射線科, <sup>2)</sup>情報科学センター): EPI perfusion study による脳循環動態の評価—平均通動時間及び局所脳血流量算出に関する基礎的検討. 第24回日本磁気共鳴医学会大会, 1996. 9.
- 70) 中原 圓, 天野康雄, 高木 亮, 石原眞木子, 隈崎達夫, 森 修<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>北総病院病理部): いわゆる Periventricular Cap の臨床的意義について. 第24回日本磁気共鳴医学会大会, 1996. 9.
- 71) 高橋修司, 川俣博志, 市川和雄, 弦間和仁, 田島廣之, 隈崎達夫: 外傷性外腸骨動脈閉塞を伴った骨盤骨折の1例. 第27回日本腹部救急医学会総会, 1996. 9.
- 72) 高浜克也, 高木 亮, 古川一博, 市川太郎, 小林尚志, 隈崎達夫, 饒波正博<sup>1)</sup>, 勝見 敦<sup>1)</sup>, 益子邦洋<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>救命救

急センター)：外傷性胆管損傷の1例—高速らせんCTを用いたDIC-CTの有用性について—。第27回日本腹部救急医学会総会，1996。9。

- 73) 渡 潤，田島廣之，岡島雄史，隈崎達夫，渥美生弘<sup>1)</sup>，久志本成樹<sup>1)</sup>，益子邦洋<sup>1)</sup> (高度救命救急センター)：金属ステント留置により救命し得た気道熱傷の1例。第12回 Metallic Stent 研究会，1996。10。
- 74) 岡島雄史，田島廣之，若林洋行，弦間和仁，川俣博志，高橋修司，市川和雄，市川太郎，渡 潤，井上幸平，隈崎達夫：Swan-Ganz catheter挿入に起因する肺仮性動脈瘤に対するTAE。第6回救急放射線研究会，1996。10。
- 75) 村上隆介<sup>1)</sup>，杉崎健一<sup>1)</sup>，市川和雄，小林由子<sup>1)</sup>，小倉順子<sup>1)</sup>，滝川崇弘<sup>1)</sup>，玉井 仁<sup>1)</sup>，篠原義智<sup>1)</sup>，山本 鼎<sup>1)</sup>，田島廣之，隈崎達夫，黒川 颯<sup>2)</sup> (多摩永山病院放射線科，<sup>2)</sup>多摩永山病院救命救急センター)：腸間膜損傷のCT。第6回救急放射線研究会，1996。10。
- 76) 鳥羽正浩，汲田伸一郎，水村 直，趙 圭一，木島鉄仁，井上幸平，隈崎達夫：<sup>99m</sup>Tc 標識心筋血流製剤を用いた心筋血流・心機能同時解析—心筋梗塞巣の viability 評価を主体として—。第7回医用デジタル動画像研究会，1996。10。
- 77) 弦間和仁，中條秀信，市川和雄，岡島雄史，朝戸健夫，後藤慎介，高橋修司，川俣博志，大矢 徹，田島廣之，隈崎達夫：腸骨動脈潰瘍様病変に対する Strecker Stent の効果—ステント留置直後の血管造影像から—。第7回医用デジタル動画像研究会，1996。10。
- 78) 高木 亮，林 宏光，小林尚志，山田 明，中條秀信，中原 圓，市川和雄，市川太郎，隈崎達夫：脳動静脈奇形の3D-CTA—See-Through View 法を用いた動画像表示—。第7回医用デジタル動画像研究会，1996。10。
- 79) 吉川 晃<sup>1)</sup>，山田丈士<sup>1)</sup>，澤野誠志<sup>1)</sup>，林 敏彦<sup>1)</sup>，堀田礼子<sup>1)</sup>，有賀明子<sup>1)</sup>，小泉 満<sup>1)</sup>，山田恵子<sup>1)</sup>，山下 孝<sup>1)</sup>，中川 健<sup>2)</sup> (癌研病院放射線科，<sup>2)</sup>癌研病院呼吸器外科)：肺腫瘍に対するCTガイド下細胞診(FNAC)の検討。第37回日本肺癌学会総会，1996。10。
- 80) 貝津俊英<sup>1)</sup>，唐澤克之<sup>1)</sup>，前林勝也<sup>1)</sup>，田中良明<sup>2)</sup> (都立駒込病院放射線科，<sup>2)</sup>日本大学放射線科)：Stage D2前立腺癌に対する局所照射の意義。第9回 JASTRO 学術大会，1996。10。
- 81) 弦間和仁，中條秀信，市川和雄，岡島雄史，高橋修司，川俣博志，林 宏光，大矢 徹<sup>1)</sup>，田島廣之，小林尚志，隈崎達夫 (日産玉川病院放射線科)：腸骨動脈閉塞性動脈硬化症のCone-beam Three Dimensional Computed Tomography。第37回日本脈管学会総会，1996。11。
- 82) 川俣博志，大矢 徹<sup>1)</sup>，高橋修司，弦間和仁，中條秀信，岡島雄史，市川和雄，林 宏光，田島廣之，小林尚志，隈崎達夫 (日産玉川病院放射線科)：回転デジタル血管撮影を用いた閉塞性動脈硬化症に対するアテレクトミー。第37回日本脈管学会総会，1996。11。
- 83) 町田 稔<sup>1)</sup>，亀山孝二<sup>1)</sup>，恩田宗彦<sup>1)</sup>，内藤善哉<sup>1)</sup>，浅野伍朗<sup>1)</sup> (第2病棟)：光感受性物質 hematoporphyrin による動脈硬化病変の検討。第37回日本脈管学会総会，1996。11。
- 84) 貝津俊英<sup>1)</sup>，唐澤克之<sup>1)</sup>，前林勝也<sup>1)</sup>，石渡惇一<sup>2)</sup>，田中良明<sup>3)</sup>，松田忠義<sup>4)</sup> (都立駒込病院放射線科，<sup>2)</sup>同消化器内科，<sup>3)</sup>日本大学放射線科，<sup>4)</sup>多摩南部地域病院放射線科)：進行期胆嚢癌に対する温熱療法併用外照射の有用性に関する検討。第29回放射線影響学会，1996。11。
- 85) 菊池真理<sup>1)</sup>，梶原景子<sup>1)</sup>，菊竹晴子<sup>1)</sup>，岡田 静<sup>1)</sup>，陽川春江<sup>1)</sup>，高間都支<sup>1)</sup>，山本 彰<sup>1)</sup>，佐藤雅史<sup>1)</sup>，山口裕史<sup>2)</sup>，原 一郎<sup>2)</sup>，馬越正通<sup>2)</sup>，山本博人<sup>3)</sup>，渡部英之<sup>4)</sup> (第2病院放射線科，<sup>2)</sup>同・消化器病センター，<sup>3)</sup>北村山公立病院放射線科，<sup>4)</sup>大宮共立病院)：メタリックステントと放射線照射で長期生存し得た胆管癌の1例。日本医科大学医学会第90回例会，1996。11。
- 86) 渡 潤，田島廣之，本多一義，隈崎達夫，日野光紀<sup>1)</sup>，工藤翔二<sup>1)</sup>，五味淵誠<sup>2)</sup>，田中茂夫<sup>2)</sup>，矢野 況<sup>3)</sup> (第4内科，<sup>2)</sup>第2外科，<sup>3)</sup>荒川区がん予防センター)：肺癌CR検診における比較読影システムの開発と臨床応用。第4回日本がん検診・診断学会，1996。12。
- 87) 渡 潤，田島廣之，徐 向英，隈崎達夫，工藤翔二<sup>1)</sup>，吉村明修<sup>1)</sup>，村田 朗<sup>1)</sup>，松本 満<sup>2)</sup>，宮本忠昭<sup>2)</sup>，矢野 況<sup>1)</sup> (第4内科，<sup>2)</sup>都立医療短大，<sup>3)</sup>放医研，<sup>4)</sup>荒川区がん予防センター)：肺癌一次検診への低線量らせんCTの

- 応用. 第410回日本医学放射線学会関東地方会, 1996. 12.
- 88) 古川一博, 田島廣之, 渡 潤, 岡島雄史, 川俣博志, 高橋修司, 後藤慎介, 市川和雄, 隈崎達夫, 松崎 栄<sup>1)</sup>, 橋元恭士<sup>2)</sup> (1)第1外科, 2)第4内科): 肺アスペルギローマに対する CT ガイド下カテーテル留置の1例. 第410回日本医学放射線学会関東地方会, 1996. 12.
- 89) 清水康弘<sup>1)</sup>, 石原聖久<sup>1)</sup>, 柳田直樹<sup>1)</sup>, 佐藤大志<sup>1)</sup>, 岡田 進<sup>2)</sup>, 隈崎達夫, 二階堂孝<sup>3)</sup>, 清水一雄<sup>4)</sup> (1)佼成病院放射線科, 2)千葉北総病院放射線科, 3)佼成病院病理学, 4)第2外科): 腎摘13年後に甲状腺転移をきたした腎細胞癌の1例. 第410回日本医学放射線学会関東地方会, 1996. 12.
- 90) 西條公勝<sup>1)</sup>, 西澤茂樹<sup>1)</sup>, 石川道郎<sup>1)</sup>, 松田健一<sup>1)</sup>, 今村吉彦<sup>1)</sup>, 大矢 徹<sup>2)</sup>, 山口 徹<sup>3)</sup> (1)日産玉川病院循環器内科, 2)同放射線科, 3)東邦大学大橋病院第3内科): 胸腹部大動脈瘤の重複と本態高ガンマグロブリン血症を合併した1例. 第162回日本循環器学会関東甲信越地方会, 1996. 12.
- 91) 内山菜智子<sup>1)</sup> (1)国立がんセンター中央病院放射線診断部): 造影 Helical CT による乳癌の画像診断. 第2回乳癌画像診断勉強会, 1996. 12.
- 92) 林 宏光, 高木 亮, 川俣博志, 若林洋行, 弦間和仁, 小林尚志, 隈崎達夫: Virtual CT Endoscopy“Cruising Eye View”血管病変の3次元的距離計測への応用. 第44回心臓血管放射線研究会, 1997. 1.
- 93) 田島廣之, 渡 潤, 徐 向英, 片桐究代, 隈崎達夫, 工藤翔二<sup>1)</sup>, 吉村明修<sup>1)</sup>, 村田 朗<sup>1)</sup>, 松本満巨<sup>2)</sup>, 宮本忠昭<sup>3)</sup>, 松本 徹<sup>3)</sup>, 矢野 況<sup>4)</sup> (1)第4内科, 2)都立医療短大, 3)放医研, 4)荒川区がん予防センター): らせん CT による肺癌一次検診—荒川区がん予防センターにおける初期経験—. 第2回 LSCT 研究会, 1997. 1.
- 94) 天野康雄: CT と MR にて非癌異常造影域を認めた肝硬変の1例. 第7回千駄木肝カンファレンス, 1997. 2.
- 95) 高木 亮, 林 宏光, 小林尚志, 中條秀信, 隈崎達夫, 足立好司<sup>1)</sup>, 野手洋治<sup>1)</sup>, 池田幸穂<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>1)</sup> (1)脳神経外科): 小脳橋角腫瘍における術前3次元 CT. 第20回日本脳神経 CI 研究会, 1997. 2.
- 96) 中條秀信<sup>1)</sup>, 高木 亮, 林 宏光, 天野康雄, 山田 明, 鎌田憲子<sup>1)</sup>, 小林尚志, 隈崎達夫 (1)駒込病院放射線診断部): 中大脳動脈窓形成の1例—3D-CTA および MRI の画像所見—. 第20回日本脳神経 CI 研究会, 1997. 2.
- 97) 高木 亮, 林 宏光, 小林尚志, 若林洋行, 中條秀信, 市川太郎, 隈崎達夫, 寺本 明<sup>1)</sup>, 池田幸穂<sup>1)</sup>, 高木 博<sup>2)</sup>, 青木祐子<sup>2)</sup> (1)脳神経外科, 2)日立メディコ技術開発研究所): 脳動脈瘤3次元 CT 診断における MARP 法の初期経験. 第2回3次元 CT 研究会, 1997. 2.
- 98) 市川和雄, 隈崎達夫, 田島廣之, 林 宏光, 市川太郎, 弦間和仁, 川俣博志, 後藤慎介, 高橋修司, 岡島雄史: 血管性病変におけるコーンビーム3次元 CT—初期臨床応用—. 第2回3次元 CT 研究会, 1997. 2.
- 99) 松丸和弘<sup>1)</sup>, 川村義彦<sup>1)</sup>, 趙 圭一<sup>2)</sup>, 保坂純郎<sup>2)</sup>, 岡田 進<sup>2)</sup>, 高木 亮, 林 宏光, 小林尚志, 隈崎達夫 (1)千葉北総病院中央画像検査室, 2)千葉北総病院放射線科): 3D-CTA において撮影条件が血管描出能に及ぼす影響. 第2回3次元 CT 研究会, 1997. 2.
- 100) 川俣博志, 金沢秀典<sup>1)</sup> (1)第3内科): 門脈血栓閉塞を伴う胃食道静脈瘤に対して TIPS が成功した原発性硬化性胆管炎の1例. 第9回東京・神奈川 TIPS 勉強会, 1997. 2.
- 101) 内田英二<sup>1)</sup>, 恩田昌彦<sup>1)</sup>, 中村慶春<sup>1)</sup>, 井上松広<sup>1)</sup>, 山村 進<sup>1)</sup>, 丸山 弘<sup>1)</sup>, 相本隆幸<sup>1)</sup>, 梅原松臣<sup>1)</sup>, 有馬保生<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 山下精彦<sup>1)</sup>, 田島廣之, 隈崎達夫 (1)第1外科): 重傷急性膵炎の動注療法症例の検討. 第49回日本消化器外科学会, 1997. 2.

## [第一病院放射線科]

### 研究概要

近年, metallic stent を用いた IVR の研究を続けてきたが, 今年度は non-vascular に限らず ASO に関する発表も行った.

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著：

- 1) 石王道人：メタリックステントについて。日医大誌，1996；63：438。

### 学会発表

#### (1) パネルディスカッション：

- 1) 弦間和仁：慢性閉塞性動脈硬化症 (ASO) をめぐって—放射線科—閉塞性動脈硬化症 (ASO) の画像診断と Interventional Radiology (IVR) について—。第31回日本成人病学会，1997。1。

#### (2) 一般講演：

- 1) Gemma K, Nakajo H<sup>1)</sup>, Ichikawa K<sup>1)</sup>, Okajima Y<sup>1)</sup>, Goto S<sup>1)</sup>, Takahashi S<sup>1)</sup>, Kawamata H<sup>1)</sup>, Takagi R<sup>1)</sup>, Hayashi H<sup>1)</sup>, Oya T<sup>2)</sup>, Tajima H<sup>1)</sup>, Kobayashi H<sup>1)</sup>, Kumazaki T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>付属病院放射線科, <sup>2)</sup>日産玉川病院放射線科) : Fast Rotational Digital Angiography (FRDA) of iliac arterial atherosclerotic disease. European Congress of Radiology (Vienna), 1997。3。
- 2) 渋谷哲男<sup>1)</sup>, 内山喜一郎<sup>1)</sup>, 小熊将之<sup>1)</sup>, 塩谷 猛<sup>1)</sup>, 酒井欣男<sup>1)</sup>, 山本英希<sup>1)</sup>, 菅野重人<sup>1)</sup>, 松島伸治<sup>1)</sup>, 田中茂夫<sup>1)</sup>, 植田侯平, 石王道人, 隈崎達夫<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>第2 外科, <sup>2)</sup>付属病院放射線科) : 食道癌術後吻合部狭窄に対し EMS を使用した 2 例。第58回日本臨床外科医学会総会，1996。10。
- 3) 弦間和仁, 中條秀信<sup>1)</sup>, 市川和雄<sup>1)</sup>, 岡島雄史<sup>1)</sup>, 高橋修司<sup>1)</sup>, 川俣博志<sup>1)</sup>, 林 宏光<sup>1)</sup>, 大矢 徹<sup>2)</sup>, 田島廣之<sup>1)</sup>, 小林尚志<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>付属病院放射線科, <sup>2)</sup>日産玉川病院放射線科) : 腸骨動脈閉塞性動脈硬化症の Cone-beam Three Dimensional Computed Tomography. 第37回日本脈管学会総会，1996。11。

## [第二病院放射線科]

### 研究概要

放射線診断学：1) 呼吸器疾患に対し，気管支鏡を用いた BAL, 肺生検を施行し，CT 画像と病理所見を比較検討し，画像診断の向上に力を注いでいる。

2) 川崎市民の胸部間接撮影による胸部疾患集団検診業務の中心的役割を果たし，結核，癌のみならず広く胸部疾患を取り上げている。肺癌の早期診断及び早期治療に胸部検診業務の重要性を啓蒙している。

3) 上部消化管の消化性潰瘍の X 線診断学において単に潰瘍のみの形態的診断に止まらず，潰瘍形成の背景となる攻撃因子(胃分泌機能)及び粘膜自体の防御因子等粘膜のもつ機能を画像に表現する，いわゆる Functional radiology に目標をおき，また *H. Pylori* の胃粘膜の胃粘膜変化についても研究中である。

4) 腸管微細粘膜像と生理機能との関係解明を研究中である。

5) 川崎市からの依頼により地域住民の胃癌計画検診業務に参画し，より効率の良い，より精度の高い集検体系の確立をめざし研究中である。

6) MRI を用いた婦人科，産科学的診断について研究中である。

Interventional radiology：1) 悪性胆道閉塞患者に対し，減黄及び QOL 向上を目的とし，ステント挿入及び放射線治療を施行している。さらにこの分野での研究にとり組んでいる。

2) 悪性肝臓腫瘍の治療として経動脈塞栓術，経皮的エタノール注入療法を集学的治療に組み込んでいる。

放射線治療学：1) 肺癌に対して，放射線治療を集学的治療の一つとして積極的にとり組んでいる。

核医学：1) 各種放射性医薬品を用いて虚血性心疾患の評価にとり組んでいる。

2) 脳腫瘍 SPECT を用いて腫瘍の局在等の検出率の評価にとり組んでいる。

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著：

- 1) Takebayashi S<sup>1)</sup>, Takama T, Okada S, Masuda G<sup>2)</sup>, Matsubara S<sup>3)</sup> (<sup>1)</sup>Dept. of Radiology, Yokohama City Kowan Hospital, <sup>2)</sup>Dept. of Oral Surgery and <sup>3)</sup>Dept. of Radiology, Yokohama City University School of Medicine) : MRI of the TMJ Disc with Intravenous Administration of Gadopentetate Dimeglumine. J Comput Assist Tomogr 1997 ; 21 : 209-215.
- 2) 菊竹晴子, 佐藤雅史, 梶原景子, 鈴木恵一郎, 小俣 香, 渡部英之, 難波 亨<sup>1)</sup>, 久吉隆郎<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>第二・外) : 特発性肺血腫と考えられた1例. 臨床放射線 1996 ; 41 : 685-688.

#### (2) 総説：

- 1) 佐藤雅史, 山本博人, 久吉隆郎<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>第二・外) : II. 症候別の画像診断のポイント, 咯血. 臨床画像 1996 ; 12 : 802-811.
- 2) 山本 彰, 佐藤雅史 : 胸部単純撮影 (特集: 肺結節性陰影の診断). 臨床画像 1996 ; 12 : 1280-1289.
- 3) 久吉隆郎<sup>1)</sup>, 日置正文<sup>1)</sup>, 平田知己<sup>1)</sup>, 山下康夫<sup>1)</sup>, 山岸茂樹<sup>1)</sup>, 佐藤雅史, 難波 亨<sup>2)</sup>, 田中茂夫<sup>3)</sup> (<sup>1)</sup>第二・外, <sup>2)</sup>黒河内病院・外, <sup>3)</sup>外科第2) : 外科医の立場から (特集: 肺結節性陰影の診断). 臨床画像 1996 ; 12 : 1326-1335.
- 4) 佐藤雅史 : 間質性肺疾患の画像所見. 日医大誌 96 ; 63 : 400-403.
- 5) 佐藤雅史 : 最近の胸部 CT でどこまで見えるか. 日医大誌 1996 ; 63 : 506-507.

### 著書

- 1) 佐藤雅史, 福田 悠<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>病理第1) : [分担] 間質性肺疾患, 胸部疾患の画像診断. “胸部画像診断” (宗近宏次編). 1996 ; pp81-91, メジカルビュー.
- 2) 佐藤雅史 : [分担] びまん性肺疾患. “すぐに身につく胸部 CT” (酒井文和編). 1996 ; pp94-121, 秀潤社.

### 学会発表

#### (1) 教育講演：

- 1) 佐藤雅史 : 胸部 X 線診断の基礎. 神奈川県放射線医学会第32回例会, 1996. 7.

#### (2) シンポジウム：

- 1) 佐藤雅史 : 間質性肺疾患の画像診断. 日本医科大学医学会第6回公開「シンポジウム」, 1996. 6.

#### (3) 一般講演：

- 1) 高間都支, 佐藤雅史, 梶原景子, 菊竹晴子, 鈴木恵一郎, 林 敏彦, 小俣 香, 久吉隆郎<sup>1)</sup>, 川並汪一<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>第二・外, <sup>2)</sup>同・病理) : リンパ球増殖性肺疾患の画像. 第55回日本医学放射線学会総会, 1996. 4.
- 2) 陽川春江, 山本 彰, 高橋政之<sup>1)</sup>, 岡田 静, 菊池真理, 山本博人, 渡部英之 (<sup>1)</sup>博慈会記念総合病院・放) : IVR における血中アルコール濃度の検討. 第55回日本医学放射線学会総会, 1996. 4.
- 3) 林 敏彦, 池田幸穂<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>1)</sup>, 桑名壮太郎<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>付属・脳外, <sup>2)</sup>三菱大倉山病院・内) : 脳ドック受診者における高速 Fluid Attenuated Inversion Recovery (FLAIR) 法の検討. 第21回日本脳卒中学会総会, 1996. 4.
- 4) 菊池真理, 渡部英之, 山本 彰, 梶原景子, 菊竹晴子, 鈴木恵一郎, 岡田 静, 陽川春江, 高間都支, 林 敏彦, 山本博人, 小俣 香, 佐藤雅史, 栗原雄司<sup>1)</sup>, 豊島 明<sup>1)</sup>, 馬越正通<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>第二・消セ) : 臍癌と鑑別を要した後腹膜に存在する腫瘍の2例. 第10回腹部放射線研究会, 1996. 5.
- 5) 梶原景子, 山本 彰, 菊竹晴子, 鈴木恵一郎, 岡田 静, 菊池真理, 陽川春江, 高間都支, 林 敏彦, 山本博人, 佐藤雅史, 小俣 香<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>鹿島診療所) : 粟粒結核の2例. 第15回胸部放射線研究会, 1996. 6.
- 6) 菊池真理, 鈴木恵一郎, 渡部英之, 山本 彰, 梶原景子, 菊竹晴子, 岡田 静, 陽川春江, 高間都支, 林 敏彦,

- 山本博人, 佐藤雅史, 小俣 香<sup>1)</sup>, 高橋政之<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>鹿島診療所, <sup>2)</sup>博慈会記念総合病院): *Helicobacter pylori* と胃粘膜. 第409回日本医学放射線学会関東地方会, 1996. 6.
- 7) 岡田 静: 直腸癌と鑑別を要した直腸病変一粘膜脱症候群と直腸カルチノイドの各1例一. 神奈川県放射線医学会第32回例会, 1996. 7.
  - 8) 菊地英子<sup>1)</sup>, 新岡明子<sup>1)</sup>, 成定昌昭<sup>1)</sup>, 池野廣幸<sup>1)</sup>, 原 文男<sup>1)</sup>, 中村俊彦<sup>2)</sup>, 高間都支 (<sup>1)</sup>第二・中検, <sup>2)</sup>同・内): ガストログラフィンにて駆虫を試みた2例. 第64回日本医科大学医学学会総会, 1996. 9.
  - 9) 久吉隆郎<sup>1)</sup>, 日置正文<sup>1)</sup>, 平田知己<sup>1)</sup>, 平野滋之<sup>1)</sup>, 山本真二<sup>1)</sup>, 増田 栄<sup>1)</sup>, 朽方規喜<sup>1)</sup>, 山下康夫<sup>1)</sup>, 山岸茂樹<sup>1)</sup>, 豊島 明<sup>1)</sup>, 佐藤雅史, 川並汪一<sup>2)</sup>, 田中茂夫<sup>3)</sup> (<sup>1)</sup>第二・外, <sup>2)</sup>同・病理, <sup>3)</sup>外科第2): 結節性肺病変切除例のうち良性疾患であった症例の検討. 第64回日本医科大学医学学会総会, 1996. 9.
  - 10) 陽川春江, 佐藤雅史, 梶原景子, 菊竹晴子, 鈴木恵一郎, 岡田 静, 菊池真理, 高間都支, 山本博人, 小俣 香, 山本 彰: 気管支閉鎖症の画像. 第64回日本医科大学医学学会総会, 1996. 9.
  - 11) 岡田 静, 佐藤雅史, 梶原景子, 菊竹晴子, 菊池真理, 陽川春江, 高間都支, 林 敏彦, 山本博人, 山本 彰: 他臓器癌に合併し経過観察された胸腺癌の2例. 第10回胸部放射線研究会, 1996. 10.
  - 12) 山下康夫<sup>1)</sup>, 久吉隆郎<sup>1)</sup>, 日置正文<sup>1)</sup>, 平田知己<sup>1)</sup>, 朽方規喜<sup>1)</sup>, 山岸茂樹<sup>1)</sup>, 佐藤雅史 (<sup>1)</sup>第二・外): 高度気腫性肺病変に合併した肺原発リンパ腫の1切除例. 第37回日本肺癌学会総会, 1996. 11.
  - 13) 久吉隆郎<sup>1)</sup>, 日置正文<sup>1)</sup>, 平田知己<sup>1)</sup>, 朽方規喜<sup>1)</sup>, 山下康夫<sup>1)</sup>, 山岸茂樹<sup>1)</sup>, 佐藤雅史 (<sup>1)</sup>第二・外): 良性結節性肺病変切除例の検討. 第37回日本肺癌学会総会, 1996. 11.
  - 14) 山岸茂樹<sup>1)</sup>, 久吉隆郎<sup>1)</sup>, 日置正文<sup>1)</sup>, 平田知己<sup>1)</sup>, 朽方規喜<sup>1)</sup>, 山下康夫<sup>1)</sup>, 佐藤雅史 (<sup>1)</sup>第二・外): 右胸心に合併した肺腺癌の1例. 第37回日本肺癌学会総会, 1996. 11.
  - 15) 平田知己<sup>1)</sup>, 久吉隆郎<sup>1)</sup>, 日置正文<sup>1)</sup>, 朽方規喜<sup>1)</sup>, 山下康夫<sup>1)</sup>, 山岸茂樹<sup>1)</sup>, 佐藤雅史 (<sup>1)</sup>第二・外): 胸郭形成術後に発生した肺癌の3例. 第37回日本肺癌学会総会, 1996. 11.
  - 16) 菊池真理, 梶原景子, 菊竹晴子, 岡田 静, 陽川春江, 高間都支, 山本 彰, 佐藤雅史, 山口裕史<sup>1)</sup>, 原 一郎<sup>1)</sup>, 馬越正通<sup>1)</sup>, 山本博人<sup>2)</sup>, 渡部英之<sup>3)</sup> (<sup>1)</sup>第二・消セ, <sup>2)</sup>北村山公立病院・放, <sup>3)</sup>大宮共立病院): メタリックステントと放射線外照射で長期生存し得た胆管癌の1例. 日本医科大学医学会第90回例会, 1996. 11.
  - 17) 永井信也<sup>1)</sup>, 安室尚樹<sup>1)</sup>, 菊池真理, 佐藤雅史, 渡部英之, 田中賢助<sup>2)</sup>, 小山雅章<sup>2)</sup>, 角田誠之<sup>2)</sup>, 伊藤正秀<sup>2)</sup>, 馬越正通<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>第二・健管, <sup>2)</sup>同・消セ): 当院の人間ドックにおける消化管検査の現状. 日本医科大学医学会第90回例会, 1996. 11.
  - 18) 山岸茂樹<sup>1)</sup>, 日置正文<sup>1)</sup>, 久吉隆郎<sup>1)</sup>, 平田知己<sup>1)</sup>, 平野滋之<sup>1)</sup>, 増田 栄<sup>1)</sup>, 朽方規喜<sup>1)</sup>, 山下康夫<sup>1)</sup>, 豊島 明<sup>1)</sup>, 佐藤雅史, 川並汪一<sup>2)</sup>, 田中茂夫<sup>3)</sup> (<sup>1)</sup>第二・外, <sup>2)</sup>同・病理, <sup>3)</sup>外科第2): 術前にポイントマーカ―標識を行い胸腔鏡下切除し得た微小肺病変の1例. 日本医科大学医学学会第90回例会, 1996. 11.
  - 19) 山本 彰, 佐藤雅史, 高間都支, 岡田 静, 菊池真理, 陽川春江, 梶原景子, 菊竹晴子: 粟粒結核として治療された肺野型サルコイドーシスの1例. 第16回胸部放射線研究会東京部会, 1996. 12.
  - 20) 山口朋禎<sup>1)</sup>, 雪吹周生<sup>1)</sup>, 原 文男<sup>1)</sup>, 上田征夫<sup>1)</sup>, 伊藤達也<sup>1)</sup>, 村沢恒男<sup>1)</sup>, 掃部弘行<sup>1)</sup>, 広田 淳<sup>1)</sup>, 佐藤雅史, 川並汪一<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>第二・内, <sup>2)</sup>同・病理): 著しい血小板減少を伴った抗リン脂質抗体症候群の治療中に肺アスペルギルス症を合併した1例. 第451回日本内科学会関東地方会, 1996. 12.
  - 21) 久吉隆郎<sup>1)</sup>, 日置正文<sup>1)</sup>, 平田知己<sup>1)</sup>, 増田 栄<sup>1)</sup>, 朽方規喜<sup>1)</sup>, 山下康夫<sup>1)</sup>, 山岸茂樹<sup>1)</sup>, 佐藤雅史, 田中茂夫<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>第二・外, <sup>2)</sup>外科第2): 右下葉IV期腺癌切除8年後に同側発生した扁平上皮癌の1切除例. 第117回日本肺癌学会関東部会, 1996. 12.

## [多摩永山病院放射線科]

### 研究概要

1. 当院, 救急救命センターと共同で頭部外傷, 胸, 腹部臓器損傷における MRI 診断の有用性について研究を続けている。
2. 高濃度バリウムによる食道, 胃 X 線診断, 特に集団検診における有用性につき検討を加えた。
3. 川崎市主催の住民検診を利用した肺癌の集団検診に参加し, 肺癌における集検の有用性の確立を目指している。
4. 胸部疾患における CT ガイド下肺生検の精度の向上と普及に努めている。さらに腹部臓器における CT ガイド下穿刺の有用性についても検討を加えている。
5. コンピューターを活用した医療画像処理の研究を続けている。
6. IVR に関しては、悪性腫瘍に対する動注を含めた集学的治療, 救急患者のカテーテル治療についての研究が行われている。
7. 細気管支肺胞上皮癌の自然史につき X 線診断学的に検討を続けている。
8. 婦人科, 整形外科領域における MRI 診断について研究、検討が行われている。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著:

- 1) Murakami R, Kumazaki T<sup>1)</sup>, Tajima H<sup>1)</sup>, Sugizaki K, Ichikawa K, Kobayashi Y, Yamamoto K (<sup>1)</sup>Department of Radiology, Nippon Medical School Hospital) : Transcatheter Arterial Embolization as Treatment for Life-Threatening Maxillofacial Injury. Radiation Medicine 1996 ; 14 : 197-199.
- 2) Murakami R, Tajima H<sup>1)</sup>, Kumazaki T<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>Department of Radiology, Nippon Medical School Hospital) : Effect of Iomeprol on Renal Function Immediately After Abdominal Angiography. Acta Radiologica 1996 ; 37 : 962-965.
- 3) 伊藤公一郎<sup>1)</sup>, 岡田 進<sup>1)</sup>, 田島なつき<sup>1)</sup>, 保坂純郎<sup>1)</sup>, 趙 圭一<sup>1)</sup>, 滝川崇弘, 加藤丈司<sup>2)</sup>, 隈崎達夫<sup>3)</sup> (<sup>1)</sup>千葉北総病院放射線科, <sup>2)</sup>同中央画像検査室, <sup>3)</sup>付属病院放射線科) : IR Fast SPGR による 3 D 造影 MR Angiography. 千葉 MR 研究会誌 1996 ; 7 : 14-17.
- 4) 田島廣之<sup>1)</sup>, 村上隆介, 後藤慎介<sup>1)</sup>, 青山俊也<sup>2)</sup>, 貝津俊英<sup>3)</sup>, 市川太郎<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>, 恩田昌彦<sup>4)</sup> (<sup>1)</sup>付属病院放射線科, <sup>2)</sup>大洗海岸病院放射線科, <sup>3)</sup>駒込病院放射線科, <sup>4)</sup>付属病院第 1 外科) : Iodixanol を用いた腹部血管造影直後における胆嚢への造影剤集積—CT を用いた検討—. 臨床放射線 1996 ; 41 : 425-428.
- 5) 田島廣之<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>, 村上隆介, 後藤慎介<sup>1)</sup>, 青山俊也<sup>2)</sup>, 川俣博志<sup>1)</sup>, 飯田英次<sup>3)</sup>, 弦間和仁<sup>1)</sup>, 恩田昌彦<sup>4)</sup>, 田尻 孝<sup>4)</sup>, 小嶋隆行<sup>4)</sup>, 松崎 栄<sup>4)</sup> (<sup>1)</sup>付属病院放射線科, <sup>2)</sup>大洗海岸病院放射線科, <sup>3)</sup>海老名総合病院放射線科, <sup>4)</sup>付属病院第 1 外科) : 腹部血管造影における Indixanol (DU-6807) の臨床有用性—特に腎機能に及ぼす影響について—. 医学と薬学 1996 ; 35 : 775-789.
- 6) 小林由子<sup>1)</sup>, 村上隆介, 杉崎健一, 山本 鼎, 田島なつき<sup>2)</sup>, 恩田宗彦<sup>3)</sup>, 隈崎達夫<sup>3)</sup>, 前田昭太郎<sup>4)</sup> (<sup>1)</sup>多摩南部地域病院放射線科, <sup>2)</sup>千葉北総病院放射線科, <sup>3)</sup>付属病院放射線科, <sup>4)</sup>多摩永山病院病理部) : MRI が診断に有用であった巨大子宮 cellular myoma の 1 例. 臨床放射線 1996 ; 41 : 591-594.
- 7) 篠原義智 : 経皮的針生検・細胞診—命中させるコツ—. Medical Practice 1996 ; 13 : 1241-1244.
- 8) 市川和雄<sup>1)</sup>, 田島なつき<sup>2)</sup>, 田島廣之<sup>1)</sup>, 村上隆介, 岡田 進<sup>2)</sup>, 保坂純郎<sup>2)</sup>, 伊藤公一郎<sup>2)</sup>, 山本 鼎, 隈崎達夫<sup>1)</sup>, 増野智彦<sup>3)</sup>, 横田裕行<sup>3)</sup>, 牧野俊郎<sup>4)</sup> (<sup>1)</sup>付属病院放射線科, <sup>2)</sup>千葉北総病院放射線科, <sup>3)</sup>千葉北総病院救命救急部, <sup>4)</sup>新東京国際空港クリニック) : Body Packers の画像診断. 日本医学放射線学会雑誌 1997 ; 57 : 5-9.



## 著 書

- 1) 篠原義智：CT ガイド下肺針生検とその応用手技の実際。1996；新興医学出版社。

## 学会発表

### (1) 特別講演：

- 1) 山本 鼎：細気管支肺胞上皮癌の X 線像—無気肺像を中心に—。日本医科大学医学会第92回例会，1997。 2。

### (2) 教育講演：

- 1) Shinohara Y：Mediastinum. The 3rd Fine Needle Aspiration Workshop, Ching Mai University (Thailand), 1996. 8.
- 2) Shinohara Y：CT-guided Interventional Radiology for Intraabdominal Lesions. The 3rd Fine Needle Aspiration Workshop, Ching Mai University (Thailand), 1996. 8.

### (3) シンポジウム：

- 1) Hosaka J<sup>1)</sup>, Takigawa T, Tajima H<sup>2)</sup>, Cho K<sup>1)</sup>, Ito K<sup>1)</sup>, Tajima N<sup>1)</sup>, Kumazaki T<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>Dept. of Radiology, Nippon Medical School Chiba Hokuso Hospital, <sup>2)</sup>Dept. of Nippon Medical School)：Effect of body position on lower limb venous blood flow. 5th Japan-Scandinavian Symposium, Progress in Radiology (Stockholm), 1996. 6.

### (4) 一般講演：

- 1) Kawamata H<sup>1)</sup>, Kobayashi H<sup>1)</sup>, Ichikawa T<sup>1)</sup>, Hayashi H<sup>1)</sup>, Oya T<sup>1)</sup>, Takagi R<sup>1)</sup>, Iida E<sup>1)</sup>, Murakami R, Gemma K<sup>1)</sup>, Tajima H<sup>1)</sup>, Kumazaki T<sup>1)</sup>, Kanazawa K<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>Department of Radiology, Nippon Medical School Hospital, <sup>2)</sup>Department of 3rd Internal Medicine)：A Role of Spiral CT Angiography Prior to Transjugular Intrahepatic Portosystemic Shunts. The 6th International Symposium on Interventional Radiology and New Vascular Imaging (Aomori), 1996. 4.
- 2) Shinohara Y, Sugizaki K, Murakami R, Takigawa T, Ichikawa K<sup>1)</sup>, Ogura J, Tamai J, Yamamoto K, Kumazaki T<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>Department of Radiology, Nippon Medical School Hospital)：A New Method of Thoracocentesis in Patients with Small Amount of Using CT Guidance. The 14th Asia Pacific Congress on Diseases of the Chest (Indonesia), 1996. 6.
- 3) 田島廣之<sup>1)</sup>, 村上隆介, 後藤慎介<sup>1)</sup>, 青山俊也<sup>2)</sup>, 岡島雄史<sup>1)</sup>, 貝津俊英<sup>1)</sup>, 飯田英次<sup>1)</sup>, 朝戸健夫<sup>1)</sup>, 阿部 豊<sup>1)</sup>, 吉川 晃<sup>1)</sup>, 清水康弘<sup>1)</sup>, 川俣博志<sup>1)</sup>, 弦間和仁<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>付属病院放射線科, <sup>2)</sup>大洗海岸病院放射線科)：等浸透圧造影剤 Iodixanol を用いた腹部血管造影直後における胆嚢への造影剤集積—CT を用いた検討—。第55回日本医学放射線学会総会，1996。 4。
- 4) 玉井 仁, 滝川崇弘, 市川和雄<sup>1)</sup>, 小倉順子, 杉崎健一, 村上隆介, 篠原義智, 山本 鼎, 隈崎達夫<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>付属病院放射線科)：パソコン GUI を用いた医用動画像表示。第55回日本医学放射線学会総会，1996。 4。
- 5) 小林由子<sup>1)</sup>, 村上隆介, 杉崎健一, 山本 鼎, 田島なつき<sup>2)</sup>, 茂古沼吉宗<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>3)</sup>, 間瀬泰克<sup>4)</sup> (<sup>1)</sup>多摩南部地域病院放射線科, <sup>2)</sup>千葉北総病院放射線科, <sup>3)</sup>付属病院放射線科, <sup>4)</sup>多摩永山病院整形外科)：膝関節損傷における Gd-DTPA 静注 MR 関節造影の有用性。第55回日本医学放射線学会総会，1996。 4。
- 6) 市川和雄<sup>1)</sup>, 村上隆介, 山本 鼎, 田島なつき<sup>2)</sup>, 岡田 進<sup>2)</sup>, 保坂純郎<sup>2)</sup>, 田島廣之<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>付属病院放射線科, <sup>2)</sup>千葉北総病院放射線科)：Body Packers の画像所見。第55回日本医学放射線学会総会，1996。 4。
- 7) 大場崇芳<sup>1)</sup>, 高野仁司<sup>1)</sup>, 国見聡宏<sup>1)</sup>, 藤田進彦<sup>1)</sup>, 小谷英太郎<sup>1)</sup>, 田中邦夫<sup>1)</sup>, 長澤紘一<sup>1)</sup>, 玉井 仁, 山本 鼎 (<sup>1)</sup>多摩永山病院内科)：同一症例における運動負荷および ATP 負荷 thallium-201心筋シンチグラム所見の差異の検討。第17回心臓核医学研究会，1996。 5。
- 8) 小林由子<sup>1)</sup>, 村上隆介, 杉崎健一, 小倉順子, 滝川崇弘, 市川和雄<sup>2)</sup>, 玉井 仁, 篠原義智, 山本 鼎, 佐々木茂<sup>3)</sup>, 前田昭太郎<sup>4)</sup>, 恩田宗彦<sup>2)</sup>, 隈崎達夫<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>多摩南部地域病院放射線科, <sup>2)</sup>付属病院放射線科, <sup>3)</sup>多摩永山病院産婦

- 人科，<sup>4</sup>多摩永山病院病理部）：卵巣平滑筋腫の1例。第10回腹部放射線研究会，1996。5。
- 9) 村上隆介，杉崎健一，小林由子<sup>1)</sup>，市川和雄<sup>2)</sup>，滝川崇弘，小倉順子，玉井 仁，篠原義智，山本 鼎，隈崎達夫<sup>2)</sup>（<sup>1</sup>多摩南部地域病院放射線科，<sup>2</sup>付属病院放射線科）：腸間膜神経鞘腫の1例。第409回日本医学放射線学会関東地方会，1996。6。
- 10) 山下照代<sup>1)</sup>，富岡譲二<sup>1)</sup>，小井戸雄一<sup>1)</sup>，直江直孝<sup>1)</sup>，辻井厚子<sup>1)</sup>，須崎紳一郎<sup>1)</sup>，黒川 顕<sup>1)</sup>，篠原義智，山本 鼎（<sup>1</sup>多摩永山病院救命救急センター）：CTガイド下穿刺法が有用であった縦隔膿瘍の1例。第41回日本救急医学会関東地方会，1996。6。
- 11) 玉井 仁，山本 鼎，隈崎達夫<sup>1)</sup>（<sup>1</sup>付属病院放射線科）：パソコン上の三次元ワークステーションは使えるか？。第15回日本医用画像工学会大会，1996。7。
- 12) 市川和雄<sup>1)</sup>，田島廣之<sup>1)</sup>，弦間和仁<sup>1)</sup>，川俣博志<sup>1)</sup>，高橋修司<sup>1)</sup>，岡島雄史<sup>1)</sup>，朝戸健夫<sup>1)</sup>，中條秀信<sup>1)</sup>，村上隆介，隈崎達夫<sup>1)</sup>，鈴木康友<sup>2)</sup>，長谷川潤<sup>2)</sup>，秋元成太<sup>2)</sup>（<sup>1</sup>付属病院放射線科，<sup>2</sup>同泌尿器科）：TAEにより治療した“high-flow” priapism の1例。第8回関東 IVR 研究会，1996。7。
- 13) 小林由子<sup>1)</sup>，滝川崇弘，小倉順子，杉崎健一，村上隆介，田島なつき<sup>2)</sup>，玉井 仁，篠原義智，山本 鼎，隈崎達夫<sup>3)</sup>，間瀬泰克<sup>4)</sup>（<sup>1</sup>多摩南部地域病院放射線科，<sup>2</sup>千葉北総病院放射線科，<sup>3</sup>付属病院放射線科，<sup>4</sup>多摩永山病院整形外科）：内側膝蓋滑膜ひだ（タナ）障害のMRI診断—生理食塩水関節内注入法の有用性—。第24回日本磁気共鳴医学会大会，1996。9。
- 14) 玉井 仁：パソコンGUI上でのMRIの三次元処理・パソコンはワークステーションに代わるか？ 第24回日本磁気共鳴医学会大会，1996。9。
- 15) 小倉順子，玉井 仁，滝川崇弘，杉崎健一，村上隆介，篠原義智，山本 鼎：デジタル血管撮影表示装置としてのパーソナルコンピュータ。第7回医用デジタル動画像研究会，1996。10。
- 16) 玉井 仁，滝川崇弘，小倉順子，杉崎健一，村上隆介，篠原義智，山本 鼎，隈崎達夫<sup>1)</sup>（<sup>1</sup>付属病院放射線科）：パソコンGUI上での医用画像三次元処理—動画作成を中心に—。第7回医用デジタル動画像研究会，1996。10。
- 17) 小倉順子，細根 勝<sup>1)</sup>，植松和嗣<sup>2)</sup>，滝川崇弘，杉崎健一，村上隆介，玉井 仁，篠原義智，山本 鼎，隈崎達夫<sup>3)</sup>（<sup>1</sup>多摩永山病院病理部，<sup>2</sup>同呼吸器科，<sup>3</sup>付属病院放射線科）：CTガイド下針生検による吸引で消失した肺内気管支囊胞の1例。第32回日本医学放射線学会秋季臨床大会，1996。10。
- 18) 村上隆介，杉崎健一，市川和雄<sup>1)</sup>，小林由子<sup>2)</sup>，小倉順子，滝川崇弘，玉井 仁，篠原義智，山本 鼎，田島廣之<sup>1)</sup>，隈崎達夫<sup>1)</sup>，黒川 顕<sup>3)</sup>（<sup>1</sup>付属病院放射線科，<sup>2</sup>多摩南部地域病院放射線科，<sup>3</sup>多摩永山病院救命救急センター）：腸間膜損傷のCT。第6回救急放射線研究会，1996。10。
- 19) 玉井 仁，小倉順子，滝川崇弘，杉崎健一，村上隆介，篠原義智，山本 鼎，隈崎達夫<sup>1)</sup>，村本政彦<sup>2)</sup>，藤井千蔵<sup>3)</sup>（<sup>1</sup>付属病院放射線科，<sup>2</sup>東芝メディカル，<sup>3</sup>東芝医療機器事業部）：デジタル血管撮影表示装置としてのパソコン。第410回日本医学放射線学会関東地方会，1996。12。

## [千葉北総病院放射線科]

### 研究概要

千葉北総病院での研究内容としては、MRI・核医学・インターベンショナルラジオロジーおよびCTに関するもの救命救急部・産婦人科・脳外科・内科などとの協同研究によるものなどがある。

MRIに関する研究：MR血管撮影法についての研究として、最も良い画像を得るための基礎的研究に関する検討、動脈閉塞性病変に関する検討、下肢の静脈瘤や静脈血栓症に関する検討、解離性動脈瘤についての検討などが行われている。中枢神経系については、脳外科や神経内科と協同で拡散強調像やperfusion studyにより脳梗塞の早期診断や脳血流・脳機能との関係について検討している。婦人科領域のものとして、子宮癌のMR画像と組織との検討やMTC法を用いた組織特異性についての検討を行っている。

核医学に関する研究：脳外科や神経内科と協同により脳機能についての解析を行っている。循環器内科とは心機能についての検討を行っている。救命救急部とは、ショック時の腹腔内の血流に関する先進的な研究を行って、新たな知見を得ている。

CTに関する研究：肝機能障害患者における腹部血流変化について、造影剤を急速注入後に高速でCTを繰り返し撮像し、正常例との肝血流の変化を調べ、肝機能障害の画像に及ぼす影響などについて調べている。

インターベンショナルラジオロジーに関する研究：下大静脈内フィルターについて、基礎的研究を行い、新しいフィルターの開発を行った。

その他：救命救急部との協同研究により海外からの麻薬密輸者（ボディーパーッカー）の放射線学的検討を本邦では初めての報告を行った。

## 研究業績

### 論文

〔1995年度追加分〕

原著：

- 1) 田島なつき, 平岡保紀<sup>1)</sup>, 田島廣之<sup>2)</sup>, 飯田英次<sup>2)</sup>, 小林由子<sup>3)</sup>, 杉崎健一<sup>4)</sup>, 山本 鼎<sup>1)</sup>, 岡田 進, 隈崎達夫<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院泌尿器科, <sup>2)</sup>付属病院放射線科, <sup>3)</sup>多摩南部地域病院放射線科, <sup>4)</sup>多摩永山病院放射線科)：前立腺肥大症に対する経尿道的前立腺剝離切除術後のMRI。臨床放射線科 1995；40：1455-1460。
- 1) Hosaka J, Roy S, Kvernebo K, Enge I, Laerum F：Induced Thrombosis in the Pig Inferior Vena Cava：A Model of Deep Venous Thrombosis. Journal of Vascular and Interventional Radiology 1996；7：395-400。
- 2) Ito K, Kato J, Okada S, Kumazaki T<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>Dept. of Radiology, Nippon Medical School) K-space filter effect in three-dimensional contrast MR angiography. Acta Radiologica 1997；38：173-175。
- 3) 加藤丈司<sup>1)</sup>, 川村義彦<sup>1)</sup>, 伊藤公一郎(<sup>1)</sup>千葉北総病院中央画像検査室)：高速 gradient echo 法を用いた Gd-DTPA 持続静注3D MR angiography の撮像パラメータの検討。日本放射線技術学会雑誌 1996；52：530-535。
- 4) 加藤丈司<sup>1)</sup>, 川村義彦<sup>1)</sup>, 伊藤公一郎 (<sup>1)</sup>千葉北総病院中央画像検査室)：IR preparation Fast SPGR を用いた Gd-DTPA 持続静注3D MR angiography の撮像パラメータの検討。日本放射線技術学会雑誌 1996；52：747-752。
- 5) 伊藤公一郎, 岡田 進, 田島なつき, 保坂純郎, 趙 圭一, 滝川崇弘<sup>1)</sup>, 加藤丈司<sup>2)</sup>, 隈崎達夫<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院放射線科, <sup>2)</sup>千葉北総病院中央画像検査室, <sup>3)</sup>付属病院放射線科)：IR-Fast SPGR による3D造影 MR Angiography。千葉 MR 研究会誌 1996；7：14-17。
- 6) 岡田 進, 趙 圭一, 天野康雄<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>, 加藤友康<sup>2)</sup>, 荷見勝彦<sup>2)</sup>, 澤野誠志<sup>3)</sup>, 山田恵子<sup>3)</sup>, 山下 孝<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院放射線科, <sup>2)</sup>癌研婦人科, <sup>3)</sup>癌研放射線科)：子宮頸癌の放射線治療後のMRI。日本医学放射線学会雑誌 1996；57：23-27。
- 7) 岡田 進, 趙 圭一, 保坂純郎, 伊藤公一郎, 田島なつき, 隈崎達夫<sup>1)</sup>, 久島英二<sup>2)</sup>, 田口雪江<sup>2)</sup>, 坪井成美<sup>3)</sup>, 横山博美<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院放射線科, <sup>2)</sup>千葉北総病院血液透視室, <sup>3)</sup>千葉北総病院泌尿器科, <sup>4)</sup>中村クリニック)：透析によるガドリニウム造影剤の除法についての基礎的検討。千葉 MR 研究会誌 1996；7：56-59。
- 8) 岡田 進, 加藤友康<sup>1)</sup>, 平井康夫<sup>1)</sup>, 荷見勝彦<sup>1)</sup>, 澤野誠志<sup>2)</sup>, 山田恵子<sup>2)</sup>, 山下 孝<sup>2)</sup>, 隈崎達夫<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>癌研婦人科, <sup>2)</sup>癌研放射線科, <sup>3)</sup>付属病院放射線科)：卵巣癌との鑑別が困難であった卵巣結核の1例。臨床放射線 1996；41：483-486。
- 9) 小林由子<sup>1)</sup>, 村上隆介<sup>2)</sup>, 杉崎健一<sup>2)</sup>, 山本 鼎<sup>2)</sup>, 田島なつき, 恩田宗彦<sup>3)</sup>, 隈崎達夫<sup>3)</sup>, 前田昭太郎<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>多摩南部地域病院放射線科, <sup>2)</sup>多摩永山病院放射線科, <sup>3)</sup>付属病院放射線科, <sup>4)</sup>多摩永山病院病理部)：MRI が診断に有用であった巨大子宮 cellular myoma の1例。臨床放射線 1996；41：591-594。

- 10) 伊藤公一郎, 岡田 進, 田島なつき, 保坂純郎, 趙 圭一, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院放射線科) : 腹部血管の MRI と MRA. 映像情報 M 1996 ; 27(25) : 78-84.
- 11) 汲野伸一郎<sup>1)</sup>, 趙 圭一, 水村 直<sup>1)</sup>, 木島鉄仁<sup>1)</sup>, 鳥羽正浩<sup>1)</sup>, 山田丈士<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>, 佐野純子<sup>2)</sup>, 草間芳樹<sup>2)</sup>, 宗像一雄<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院放射線科, <sup>2)</sup>付属病院第一内科) : 心電図同期併用の<sup>201</sup>Tl/<sup>99m</sup>Tc-Tetrofosmin 2 核種同時心筋 SPECT データ収集—運動負荷心筋シンチグラフィ 1 回撮像法—. 核医学 1996 ; 33 : 1189-1196.
- 12) 汲野伸一郎<sup>1)</sup>, 趙 圭一, 水村 直<sup>1)</sup>, 木島 鉄仁<sup>1)</sup>, 石原眞木子<sup>1)</sup>, 鳥羽正浩<sup>1)</sup>, 山田丈士<sup>1)</sup>, 井上幸平<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>, 佐野純子<sup>2)</sup>, 草間芳樹<sup>2)</sup>, 宗像一雄<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院放射線科, <sup>2)</sup>付属病院第一内科) : 心電図同期併用の<sup>201</sup>Tl/<sup>99m</sup>Tc-Tetrofosmin dual SPECT による運動負荷心筋シンチグラフィ 1 回撮像法—罹患冠動脈枝自動診断を含めて—. 臨床放射線 1997 ; 42 : 181-186.
- 13) 市川和雄<sup>1)</sup>, 田島なつき, 田島廣之<sup>1)</sup>, 村上隆介<sup>2)</sup>, 岡田 進, 保坂純郎, 伊藤公一郎, 山本 鼎<sup>2)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>, 増野智彦<sup>3)</sup>, 横田裕行<sup>3)</sup>, 牧野俊郎<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院放射線科, <sup>2)</sup>多摩永山病院放射線科, <sup>3)</sup>千葉北総病院救命救急, <sup>4)</sup>新東京国際空港クリニック) : Body Packers の画像診断. 日本医学放射線学会雑誌 1997 ; 57 : 89-93.
- 14) 加藤丈司<sup>1)</sup>, 川村義彦<sup>1)</sup>, 伊藤公一郎(<sup>1)</sup>千葉北総病院中央画像検査室) : クエン酸鉄アンモニウム製剤を用いた消化管信号除去の実験的検討. 日本放射線技術学会雑誌 1996 ; 52 : 1287-1291.
- 15) 田島なつき, 田島廣之<sup>1)</sup>, 岡田 進, 伊藤公一郎, 保坂純郎, 趙 圭一, 隈崎達夫<sup>1)</sup>, 加藤丈司<sup>2)</sup>, 桜井 実<sup>2)</sup>, 浅野哲雄<sup>3)</sup>, 水野杏一<sup>4)</sup>, 田中啓治<sup>5)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院放射線科, <sup>2)</sup>千葉北総病院中央画像検査室, <sup>3)</sup>千葉北総病院胸部外科, <sup>4)</sup>千葉北総病院内科, <sup>5)</sup>千葉北総病院集中治療室) : 深部静脈血栓症の MR venography. 日本磁気共鳴医学会誌 1997 ; 17 : 20-27.

## 学会発表

### (1) シンポジウム :

- 1) Tajima N, Hosaka J, Tajima H<sup>1)</sup>, Ito K, Cho K, Kumazaki T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Dept. of Radiology, Nippon Medical School) : MR venography of varicose vein. 5th Japan-Scandinavian Symposium, Progress in Radiology 1996 (Stockholm), 1996. 6.
- 2) Tajima H<sup>1)</sup>, Hosaka J, Tajima N, Kumazaki T<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Dept. of Radiology, Nippon Medical School) : Superselective Local Infusion Therapy with Tissueplasminogen Activator for Acute Massive Pulmonary Thromboembolism. 5th Japan-Scandinavian Symposium, Progress in Radiology 1996 (Stockholm), 1996. 6.
- 3) Hosaka J, Takigawa T<sup>1)</sup>, Cho K, Ito K, Tajima N, Kumazaki T<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>Dept. of Radiology, Nippon Medical School Tama Nagayama Hospital, <sup>2)</sup>Dept. of Radiology, Nippon Medical School) : Effect of body position on lower limb venous blood flow. 5th Japan-Scandinavian Symposium, Progress in Radiology 1996 (Stockholm), 1996. 6.
- 4) Hosaka J, Takigawa T<sup>1)</sup>, Cho K, Ito K, Tajima N, Okada S, Kumazaki T<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>Dept. of Radiology, Nippon Medical School Tama Nagayama Hospital, <sup>2)</sup>Dept. of Radiology, Nippon Medical School) : Effect of body position on lower limb venous blood flow. Cardiovascular and Interventional Radiology Society of Europe 1996 (Portugal), 1996. 6.

### (2) 一般講演 :

- 1) Kato K<sup>1)</sup>, Yokota H<sup>1)</sup>, Inutsuka S<sup>1)</sup>, Koike K<sup>1)</sup>, Ogawa S<sup>1)</sup>, Ishikawa N<sup>1)</sup>, Okada S, Tajima N, Ito K (<sup>1)</sup>Dept. of Critical Care and Traumatology, Chiba Hokusō Hosp.) : Severity of non-penetrating cervical injury and findings of magnetic resonance imaging (MRI). 57th Meeting, American Association for the Surgery of Trauma (Huston), 1996. 9.
- 2) Cho K, Kumita S<sup>1)</sup>, Kijima T<sup>1)</sup>, Tajima N, Hosaka J, Mizumura S<sup>1)</sup>, Ishihara M<sup>1)</sup>, Okada S, Kumazaki T<sup>1)</sup>

- (<sup>1</sup>Dept. of Radiology, Nippon Medical School) : Discrepancy between <sup>99m</sup>Tc MAA and <sup>201</sup>Tl Leg Perfusion Scintigraphy. The 6th Asia & Oceania Congress of Nuclear Medicine and Biology, 1996. 10.
- 3) Tajima H<sup>1)</sup>, Okajima Y<sup>1)</sup>, Goto S<sup>1)</sup>, Takahashi S<sup>1)</sup>, Kawamata H<sup>1)</sup>, Takagi R<sup>1)</sup>, Gemma K<sup>1)</sup>, Tajima N, Kumazaki T (<sup>1</sup>Dept. of Radiology, Nippon Medical School) : Superselective lobar infusion therapy for acute massive pulmonary thromboembolism. European Congress of Radiology (Vienna), 1997. 3.
  - 4) 岡田 進, 保坂純郎, 伊藤公一郎, 田島なつき, 趙 圭一, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>付属病院放射線科) : MTCによる腹水および卵巣嚢腫内容物の測定. 第55回日本医学放射線学会総会, 1996. 4.
  - 5) 伊藤公一郎, 岡田 進, 田島なつき, 保坂純郎, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>付属病院放射線科) : 3D IR-Fast SPGRによる造影 MR Angiography. 第55回日本医学放射線学会総会, 1996. 4.
  - 6) 趙 圭一, 岡田 進, 小泉岐博, 中條秀信<sup>1)</sup>, 石原眞木子<sup>1)</sup>, 市川太郎<sup>1)</sup>, 林 宏光<sup>1)</sup>, 汲田伸一郎<sup>1)</sup>, 小林尚志<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>付属病院放射線科) : 肝硬変症例の造影 CT—早期像における造影剤動態の検討—. 第55回日本医学放射線学会総会, 1996. 4.
  - 7) 天野真紀<sup>1)</sup>, 澤野誠志<sup>2)</sup>, 山田恵子<sup>2)</sup>, 小泉 満<sup>2)</sup>, 有賀明子<sup>2)</sup>, 山下 孝<sup>2)</sup>, 岡田 進, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>付属病院放射線科, <sup>2)</sup>癌研放射線科) : 子宮頸癌全身化学療法における MRI の有用性—治療効果の判定と予測—. 第55回日本医学放射線学会総会, 1996. 4.
  - 8) 中條秀信<sup>1)</sup>, 趙 圭一, 林 宏光<sup>1)</sup>, 市川太郎<sup>1)</sup>, 小林尚志<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>, 岡田 進, 田島なつき, 伊藤公一郎, 保坂純郎(<sup>1</sup>付属病院放射線科) : Dynamic CTによる大動脈の経時的造影効果—造影剤持続注入法を用いた検討—. 第55回日本医学放射線学会総会, 1996. 4.
  - 9) 市川和雄<sup>1)</sup>, 村上隆介<sup>2)</sup>, 山本 鼎<sup>2)</sup>, 田島なつき, 岡田 進, 保坂純郎, 伊藤公一郎, 田島廣之<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>, (<sup>1</sup>付属病院放射線科, <sup>2)</sup>多摩永山病院放射線科) : Body packers の画像所見. 第55回日本医学放射線学会総会, 1996. 4.
  - 10) 汲田伸一郎<sup>1)</sup>, 趙 圭一, 水村 直<sup>1)</sup>, 木島鉄仁<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>, 佐野純子<sup>2)</sup>, 酒井俊太<sup>2)</sup>, 草間芳樹<sup>2)</sup>, 宗像一雄<sup>2)</sup>(<sup>1</sup>付属病院放射線科, <sup>2)</sup>付属病院第一内科) : 心電図同期<sup>201</sup>Tl/<sup>99m</sup>Tc-Tetrofosmin dual SPECTを用いた運動負荷心筋シンチグラフィ1回撮像法. 第2東日本マイオビュー研究会, 1996. 5.
  - 11) 小池 薫<sup>1)</sup>, 趙 圭一, 小川理郎<sup>1)</sup>, 犬塚 祥<sup>1)</sup>, 加藤一良<sup>1)</sup>, 横田裕行<sup>1)</sup>, 田島なつき, 岡田 進 (<sup>1</sup>千葉北総病院救急部) : 腹腔内臓器の血流低下をもたらした重症急性膵炎の1例. 日本ショック学会, 1996. 5.
  - 12) 清水康弘<sup>1)</sup>, 岡田 進, 趙 圭一, 保坂純郎, 伊藤公一郎, 田島なつき, 大秋美治<sup>2)</sup>, 横井公良<sup>3)</sup>, 森山雄吉<sup>3)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>付属病院放射線科, <sup>2)</sup>千葉北総病院病理部, <sup>3)</sup>同外科) : 一部に神経系への分化を示した直腸の Gastrointestinal Stromal Tumor の1例. 第409回日本放射線学会関東地方会, 1996. 6.
  - 13) 岡田 進, 趙 圭一, 保坂純郎, 伊藤公一郎, 田島なつき, 隈崎達夫<sup>1)</sup>, 久島英二<sup>2)</sup>, 田口雪江<sup>2)</sup>, 坪井成美<sup>3)</sup>, 横山博美<sup>4)</sup>(<sup>1</sup>付属病院放射線科, <sup>2)</sup>千葉北総病院血液透視室, <sup>3)</sup>同泌尿器科, <sup>4)</sup>中村クリニック泌尿器科) : 透析によるガドリニウム造影剤の除去についての基礎的検討. 第14回千葉 MR 研究会, 1996. 6.
  - 14) 保坂純郎 : 下大静脈フィルターについて. 第34回東京ステント懇話会, 1996. 7.
  - 15) 岡田 進, 趙 圭一, 保坂純郎, 伊藤公一郎, 田島なつき, 久島英二<sup>1)</sup>, 田口雪江<sup>1)</sup>, 坪井成美<sup>2)</sup>, 隈崎達夫<sup>3)</sup>, 横山博美<sup>4)</sup>(<sup>1</sup>千葉北総病院血液透視室, <sup>2)</sup>同泌尿器科, <sup>3)</sup>付属病院放射線科, <sup>4)</sup>中村クリニック泌尿器科) : 透析による, ガドリニウム造影剤の除去—基礎的検討—. 第24回日本磁気共鳴医学会大会, 1996. 9.
  - 16) 田島なつき, 趙 圭一, 保坂純郎, 伊藤公一郎, 岡田 進, 加藤丈司<sup>1)</sup>, 浅野哲雄<sup>2)</sup>, 水野杏一<sup>3)</sup>, 田中啓治<sup>4)</sup>, 田島廣之<sup>5)</sup>, 隈崎達夫<sup>5)</sup>(<sup>1</sup>千葉北総病院中央画像検査室, <sup>2)</sup>同胸部外科, <sup>3)</sup>同内科, <sup>4)</sup>同集中治療室, <sup>5)</sup>付属病院放射線科) : 深部静脈血栓症の MR Venography. 第24回日本磁気共鳴医学会大会, 1996. 9.
  - 17) 伊藤公一郎, 岡田 進, 加藤丈司<sup>1)</sup>, 桜井 実<sup>1)</sup>, 斉藤晴美<sup>1)</sup>, 高岡慎市<sup>1)</sup>, 森谷浩人<sup>2)</sup>, 隈崎達夫<sup>3)</sup>(<sup>1</sup>千葉北総病院中央画像検査室, <sup>2)</sup>GE 横河メディカルシステム, <sup>3)</sup>付属病院放射線科) : Fastcard-STARによる頭部 MRA の検討. 第24回日本磁気共鳴医学会大会, 1996. 9.

- 18) 趙 圭一, 岡田 進, 田島なつき, 伊藤公一郎, 保坂純郎, 伊藤高司<sup>1)</sup>, 石原眞木子<sup>2)</sup>, 天野康雄<sup>2)</sup>, 隈崎達夫<sup>2)</sup>  
(<sup>1)</sup>情報科学センター, <sup>2)</sup>付属病院放射線科): EPI Perfusion Study による脳循環動態の評価—平均通過時間及び局所脳血流量算出に関する基礎的検討—. 第24回日本磁気共鳴医学会大会, 1996. 9.
- 19) 石原眞木子<sup>1)</sup>, 天野康雄<sup>1)</sup>, 高木 亮<sup>1)</sup>, 中原 圓<sup>1)</sup>, 伊藤高司<sup>2)</sup>, 趙 圭一, 岡田 進, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院放射線科, <sup>2)</sup>情報科学センター): EPI 高速撮像法による大脳白質病変の評価. 第24回日本磁気共鳴医学会大会, 1996. 9.
- 20) 小林由子<sup>1)</sup>, 滝川崇弘<sup>2)</sup>, 杉崎健一<sup>2)</sup>, 村上隆介<sup>2)</sup>, 田島なつき, 玉井 仁<sup>2)</sup>, 篠原義智<sup>2)</sup>, 山本 鼎<sup>2)</sup>, 隈崎達夫<sup>3)</sup>, 間瀬泰克<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>多摩南部地域病院放射線科, <sup>2)</sup>多摩永山病院放射線科, <sup>3)</sup>付属病院放射線科, <sup>4)</sup>多摩永山病院整形外科): 内側膝蓋滑膜ひだ(タナ)障害のMRI診断—生理食塩水関節内注入法の有用性—. 第24回日本磁気共鳴医学会大会, 1996. 9.
- 21) 加藤丈司<sup>1)</sup>, 川村義彦<sup>1)</sup>, 伊藤公一郎, 田島なつき, 岡田 進(<sup>1)</sup>千葉北総病院中央画像検査室): クエン酸鉄アンモニウム製剤を用いた消化管信号除去の実験的検討. 第24回日本磁気共鳴医学会大会, 1996. 9.
- 22) 清水康弘<sup>1)</sup>, 石原聖久<sup>2)</sup>, 柳田直樹<sup>2)</sup>, 佐藤太志<sup>2)</sup>, 岡崎 進, 隈崎達夫<sup>1)</sup>, 二階堂孝<sup>3)</sup>, 清水一雄<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院放射線科, <sup>2)</sup>佼成病院放射線科, <sup>3)</sup>佼成病院病理, <sup>4)</sup>付属病院第2外科): 腎摘13年後に甲状腺転移を来した腎細胞癌の1例. 第410回日本医学放射線学会関東地方会, 1996. 12.
- 23) 小池 薫<sup>1)</sup>, 趙 圭一, 小川理郎<sup>1)</sup>, 高橋幸道<sup>1)</sup>, 犬塚 祥<sup>1)</sup>, 加藤一良<sup>1)</sup>, 横田裕行<sup>1)</sup>, 田島なつき, 岡田 進(<sup>1)</sup>千葉北総病院救急部): 出血性ショック蘇生後も腹腔内臓器への血流分配低下は遅延することを示唆した1例—<sup>99m</sup>TcO<sub>4</sub>急速注入による腹部ファーストパス像を用いた検討—. 第9回日本外科感染症研究会, 1996. 12.
- 24) 網谷賢一<sup>1)</sup>, 川口祥子<sup>1)</sup>, あくつ宏一<sup>1)</sup>, 笠神康平<sup>1)</sup>, 田中 隆<sup>1)</sup>, 田中啓治<sup>1)</sup>, 金子晴生<sup>2)</sup>, 大國真一<sup>2)</sup>, 水野杏一<sup>2)</sup>, 田島なつき(<sup>1)</sup>千葉北総病院集中治療部, <sup>2)</sup>同内科): MR Venography が骨盤内深部静脈血栓症の診断に有用であった肺血栓栓症の1例. 第161回日本循環器学会関東甲信越地方会, 1996. 12.
- 25) 伊藤公一郎, 岡田 進, 桜井 実<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院中央画像検査室, <sup>2)</sup>付属病院放射線科): 3D IR-Fast SPGR による下肢動脈のGd造影MR angiography—特に2回造影法について—. 1st MR Contrast Media Forum, 1997. 1.
- 26) 伊藤公一郎, 岡田 進, 渡辺典男<sup>1)</sup>, 桜井 実<sup>1)</sup>, 加藤丈司<sup>1)</sup>, 斉藤晴美<sup>1)</sup>, 榎 利夫<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院中央画像検査室, <sup>2)</sup>付属病院放射線科): 腹部圧迫による骨盤部MRIの呼吸性アーチファクト抑制. 第15回千葉MR研究会, 1997. 2.
- 27) 加藤丈司<sup>1)</sup>, 斉藤晴美<sup>1)</sup>, 富里謙一<sup>1)</sup>, 桜井 実<sup>1)</sup>, 丸山智之<sup>1)</sup>, 渡辺典男<sup>1)</sup>, 川村義彦<sup>1)</sup>, 伊藤公一郎, 田島なつき, 岡田 進(<sup>1)</sup>千葉北総病院中央画像検査室): 超高速Echo planar T2強調画像における消化管信号除去の検討. 第15回千葉MR研究会 1997. 2.
- 28) 汲田伸一郎<sup>1)</sup>, 趙 圭一, 水村 直<sup>1)</sup>, 木島鉄仁<sup>1)</sup>, 石原眞木子<sup>1)</sup>, 鳥羽正浩<sup>1)</sup>, 山田丈士<sup>1)</sup>, 井上幸平<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>, 佐野純子<sup>2)</sup>, 多田祐美子<sup>2)</sup>, 哲翁弥生<sup>2)</sup>, 酒井俊太<sup>2)</sup>, 草間芳樹<sup>2)</sup>, 宗像一雄<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院放射線科, <sup>2)</sup>付属病院第1内科): <sup>99m</sup>Tc-Tetrofosmin 心拍同期心筋シンチグラフィを用いた左室機能解析. 第22回ニュータウンカンファレンス, 1997. 2.

## 8. 皮膚科学講座

### [付属病院皮膚科]

#### 研究概要

- 1) 薬疹, 接触皮膚炎: 貼布搔破試験, 皮内反応, challenge test などによる原因の確認とアレルギーカードの発行.
- 2) 尋常性天疱瘡, 類天疱瘡の診断, 治療および臨床統計.
- 3) 疥癬の診断, 治療および臨床統計.
- 4) 皮膚結核の診断, 治療および臨床統計.
- 5) 梅毒の診断, 治療および統計に関する研究: 分画 TPHA を指標とする治療効果の判定.
- 6) 皮膚腫瘍の臨床診断および病理学的研究: 特に電顕, 酵素抗体法を用いた研究.
- 7) 尋常性乾癬, アトピー性皮膚炎に対する PUVA 療法.

### [第一病院皮膚科]

#### 研究概要

- 1) 皮膚腫瘍の発生および診断に関する研究.
- 2) 組織内スピロヘータの証明に関する研究.
- 3) 皮膚疾患に対するサーモグラフィの応用.
- 4) ヒトメラノーマ細胞における isotope uptake による感受性試験に関する研究.
- 5) Contact hypersensitivity (UVB 照射後の遅延型過敏反応の抑制) についての研究.
- 6) GVHD の発現についての基礎的研究.
- 7) 薬疹および接触皮膚炎: patch scratch test, challenge test による原因物質の検索とアレルギーカードの発行.

### [第二病院皮膚科]

#### 研究概要

- 1) 皮膚腫瘍の臨床診断, 病理組織学的検索, 電顕, 酵素抗体法, 形成外科的治療.
- 2) モノクローナル抗体を用いた梅毒疹の特異的診断. HIV 感染と梅毒の併発による梅毒の進行や抗体価の異常などの検索. T.pallidum の cross reactivity を免疫学的に検討する.
- 3) 接触皮膚炎, 薬疹では国際的な方法で原因物質の検索をする. 同疾患におけるサイトカインネットワークや接着因子などの検索.
- 4) アトピー性皮膚炎の増悪因子としての黄色ブドウ球菌や M.furfur の果たす役割を特に成人型について検討する.

### [千葉北総病院皮膚科]

#### 研究概要

- 1) 薬疹, 接触皮膚炎: patch scratch test, challenge test による原因物質の確認と, アレルギーカードの発行.
- 2) 皮膚腫瘍の臨床診断および病理学的研究: 特に電顕, 酵素抗体法を用いた研究.
- 3) 培養表皮細胞および線維芽細胞を用いた基礎研究.

## [付属病院皮膚科]

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Omi T, Kawanami O<sup>1)</sup>, Matsuda K<sup>2)</sup>, Tsujii A<sup>2)</sup>, Kawai M<sup>2)</sup>, Henmi H<sup>2)</sup>, Ferrans VJ<sup>3)</sup>, (<sup>1)</sup>Pathology and Clinical Research Hospital, Second Hospital, <sup>2)</sup>Department of Emergency and Critical Care Medicine, <sup>3)</sup>Pathology Section, NIH) : Histological Characteristics of the healing process of frozen skin allograft used in the treatment of burns. Burns 1996 ; 22 : 206-211.
- 2) Hata M, Kondo H, Sasaki E, Fukumoto T, Honda M : Allergic contact dermatitis due to amcinonide. The Japanese Journal of Dermato Allergology 1996 ; 4 : 150-155.
- 3) Hata M, Sasaki E, Ota M, Fujimoto K, Yajima J, Shichida T, Honda M : Allergic contact dermatitis from curcumin (turmeric). Contact Dermatitis 1996 ; 36 : 107-108.
- 4) Sasaki E, Hata M, Yajima J, Honda M : Allergic contact dermatitis due to Diethyl Sebacate. Contact Dermatitis 1996 ; 36 : 192.
- 5) 川並汪一<sup>1)</sup>, 中島美知子, 久吉隆郎<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>第二病院病理部, <sup>2)</sup>第二病院外科) : 気道-肺胞構造の新しい側面. アレルギー科 1996 ; 2 : 277-284.
- 6) 橋本網子, 青木見佳子, 畑三恵子, 矢島 純, 本田光芳, 三橋 清<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup>, 熊川美代子<sup>2)</sup>, 中山滋章<sup>2)</sup>, 島田早苗<sup>3)</sup>, 前田昭太郎<sup>4)</sup> (<sup>1)</sup>形成外科, <sup>2)</sup>眼科, <sup>3)</sup>耳鼻咽喉科, <sup>4)</sup>多摩永山病院病理部) : マイボーム腺癌の1例. Skin Cancer 1996 ; 11 : 95-98.
- 7) 中島美知子, 川並汪一<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>第二病院病理部) : ヒト気道肺胞系上皮細胞におけるサイトケラチンとVII型コラーゲンの発現. 日本皮膚科学会雑誌 1996 ; 106 : 965-974.
- 8) 本田光芳 : 薬剤師ができるアトピー性皮膚炎患者への対応. 薬局 1996 ; 47 : 1109.
- 9) 栗原和久, 藤本和久, 新谷真理子, 新見やよい, 青木見佳子, 畑三恵子, 矢島 純, 服部怜美<sup>1)</sup>, 本田光芳 (<sup>1)</sup>千葉北総病院皮膚科) : アンピロキシカムによる光過敏型薬疹の1例. 皮膚科の臨床 1996 ; 38 : 1093-1096.
- 10) 山崎綾子, 新見やよい, 青木見佳子, 畑三恵子, 矢島 純, 本田光芳, 潮健司朗<sup>1)</sup>, 富山俊一<sup>1)</sup>, 橋本 隆<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>耳鼻咽喉科, <sup>2)</sup>久留米大学皮膚科) : 甲状腺癌患者に発症した落葉状天疱瘡の1例. 皮膚科の臨床 1996 ; 38 : 1401-1404.
- 11) 畑三恵子, 栗原和久, 藤本和久, 本田光芳 : アンピロキシカムによる光線過敏症の1例. 診断と治療 1996 ; 84増刊 : 58.
- 12) 矢島 純, 畑三恵子, 本田光芳, 佐々木りか子 : コミタールによる lupus erythematoses 型薬疹の1例. 診断と治療 1996 ; 84(増刊) : 142.
- 13) 土田由起子, 青木見佳子, 畑三恵子, 矢島 純, 本田光芳, 齊藤 裕<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>文京区) : 放射線照射部位に生じた基底細胞癌の1例. 皮膚科の臨床 1996 ; 38 : 1769-1771.
- 14) 米山英子 : イミダゾール系抗真菌外用剤によるアレルギー性接触皮膚炎 : 主剤の感作性および交叉感作について. 日医大誌 1996 ; 63 : 356-364.
- 15) 矢島 純, 本田光芳, 佐藤光治<sup>1)</sup>, 佐々木りか子 (<sup>1)</sup>足立区) : 塩酸テトラサイクリンによる結節性紅斑型薬疹の1例. 診断と治療 1996 ; 84(増刊) : 588.
- 16) 畑三恵子, 荒牧 純, 本田光芳, 佐々木りか子 : プデソニドによるアレルギー性接触皮膚炎の1例. 診断と治療 1996 ; 84(増刊) : 757.
- 17) 矢島 純, 加藤さき子, 七田俊彦, 本田光芳 : クロタミトンによるアレルギー性接触皮膚炎. 診断と治療 1996 ;



84(増刊)：758.

- 18) 矢島 純, 弓削真由美, 天野薫子, 本田光芳：アミノ安息香酸エチルによるアレルギー性接触皮膚炎の1例. 診断と治療 1996；84(増刊)：759.
  - 19) 矢島 純, 太田真琴, 天野薫子, 本田光芳：ウコン含有外用剤によるアレルギー性接触皮膚炎の1例. 診断と治療 1996；84(増刊)：760.
  - 20) 畑三恵子, 本田光芳, 内藤善哉<sup>1)</sup>, 浅野伍朗<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第二)：砒素が関与したと思われる重複癌の1例. 診断と治療 1996；84(増刊)：952.
  - 21) 太田真琴, 近藤裕美, 天野薫子, 米山英子, 藤本和久, 畑三恵子, 矢島 純, 七田俊彦, 本田光芳：A case of contact dermatitis due to curcuma longa (turmeric). Environmental Dermatology 1996；3：357-361.
  - 22) 矢島 純, 土田由起子, 本田光芳, 佐々木りか子<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>国立小児病院皮膚科)：クロラムフェニコールによるアレルギー性接触皮膚炎の1例. 診断と治療 1996；84(増刊)：764.
  - 23) 山村美和<sup>1)</sup>, 秋元正宇<sup>1)</sup>, 村上正洋<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup>, 青木見佳子(<sup>1)</sup>形成外科)：Venous switching を付加した distally based sural flap により再建を行った下腿皮膚悪性腫瘍の1例. Skin Cancer 1996；11：471-475.
  - 24) 東 直行<sup>1)</sup>, 金子勝美<sup>1)</sup>, 北原東一<sup>1)</sup>, 服部怜美<sup>1)</sup>, 本田光芳(<sup>1)</sup>千葉北総病院皮膚科)：スルファメトキサゾールによる小児の固定薬疹の1例. 日小児皮会誌 1996；15：209-213.
  - 25) 弓削真由美, 栗栖由美子, 新見やよい, 畑三恵子, 矢島 純, 服部怜美<sup>1)</sup>, 本田光芳(<sup>1)</sup>千葉北総病院皮膚科)：軟線維腫様外観を呈した石灰化上皮腫の1例. 日小児皮会誌 1996；15：134-137.
  - 26) 東 直行, 土田由起子, 藤本和久, 新谷眞理子, 新見やよい, 青木見佳子, 畑三恵子, 矢島 純, 服部怜美<sup>1)</sup>, 本田光芳(<sup>1)</sup>千葉北総病院皮膚科)：当科における小児アトピー性皮膚炎. 日小児皮会誌 1996；15：224-231.
  - 27) 山本一哉<sup>1)</sup>, 佐々木りか子(<sup>1)</sup>国立小児病院皮膚科)：アトピー性皮膚炎に対する SM-125の使用経験. 医学と薬学 1996；36：1014-1021.
  - 28) 中島知賀子, 新見やよい, 青木見佳子, 畑三恵子, 矢島 純, 本田光芳：Necrobiosis Lipoidica の1例. 皮膚科の臨床 1996；38：2061-2064.
  - 29) 沼野香世子, 藤本和久, 新谷眞理子, 畑三恵子, 矢島 純, 本田光芳：脱毛術による皮膚障害. Aesthetic Dermatology 1996；6：105-107.
  - 30) 荒牧 純, 米山英子, 藤本和久, 畑三恵子, 矢島 純, 本田光芳, 佐々木映子<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>山口県)：皮膚剝削術による皮膚障害. Aesthetic Dermatology 1996；6：109-112.
  - 31) 矢島 純：標準臨床検査ガイド'97；症状, 症候から検査をイメージする：皮膚掻痒感. 治療 1997；79(増刊)：129-131.
  - 32) 川並汪一<sup>1)</sup>, 中島美知子(<sup>1)</sup>第二病院病理部)：気道上皮細胞のケラチン発現とその意義. 治療 1997；79：193-198.
  - 33) 川並汪一<sup>1)</sup>, 中島美知子(<sup>1)</sup>第二病院病理部)：肺の創傷治癒における細胞外マトリックス—特に上皮細胞：内皮細胞との関連について—. 呼吸 1997；16：202-209.
- (2) 総説：
- 1) Yajima J, Honda M：Contact dermatitis in children：Recent topics. J. Pediat Dermatol 1996；15：199-207.
  - 2) 畑三恵子, 矢島 純, 本田光芳：皮膚科医から内科医へのアドバイス：薬疹の見方. Medicina 1996；33：648-650.
  - 3) 藤本和久：虫による皮膚炎. 調剤と情報 1996；2：502-506.
  - 4) 米山英子, 畑三恵子, 矢島 純, 本田光芳：抗真菌外用剤による接触皮膚炎. 調剤と情報 1996；2：628-631.
  - 5) 矢島 純, 畑三恵子, 本田光芳：副腎皮質ホルモン剤の副作用 (1) ステロイド皮膚症・離脱皮膚炎 1. 日本医事新報 1996；3763：33-36.
  - 6) 矢島 純, 畑三恵子, 本田光芳：副腎皮質ホルモン剤の副作用 (2) ステロイド皮膚症・離脱皮膚炎 2. 日本医

事新報 1996；3764：33-36.

- 7) 矢島 純, 畑三恵子, 本田光芳：副腎皮質ホルモン剤の副作用 (3) 皮膚感染症の誘発ないし増悪. 日本医事新報, 1996；3768：33-36.
- 8) 矢島 純, 畑三恵子, 本田光芳, 佐々木映子<sup>1)</sup>(山口県)：副腎皮質ホルモン剤の副作用(4) その他の皮膚障害. 日本医事新報, 1996；3769：33-36.
- 9) 矢島 純：皮膚粘膜眼症候群型薬疹・TEN 型薬疹の治療. 日本医事新報 1996；3765：93-94.
- 10) 畑三恵子, 本田光芳：副腎皮質ホルモン剤局注による皮膚萎縮. 日本医事新報 1996；3784：115-116.
- 11) 青木見佳子：プロポリスによる接触皮膚炎. 調剤と情報 1996；2：782-785.
- 12) 佐々木りか子：スキンケア製品とその使い方. 小児看護 1997；19：840-845.
- 13) 佐々木りか子：アトピー性皮膚炎とスキンケア. 薬局 1996；47：11-14.
- 14) 佐々木りか子：皮膚疾患に対するボディケア：子供のアトピー性皮膚炎を中心に. フレグランスジャーナル 1996；24：10-15.
- 15) 新見やよい：漢方薬による接触皮膚炎. 調剤と情報 1996；2：936-939.
- 16) 新見やよい：植物による接触皮膚炎. 調剤と情報 1996；2：1070-1073.
- 17) 天野薫子, 畑三恵子, 矢島 純, 本田光芳：局所麻酔剤による接触皮膚炎. 調剤と情報 1996；2：1226-1229.
- 18) 太田真琴, 畑三恵子, 矢島 純, 本田光芳：非ステロイド外用剤によるアレルギー性接触皮膚炎. 調剤と情報 1996；2：1354-1357.
- 19) 矢島 純：乳幼児期皮膚疾患の外用療法. 日小児皮会誌 1996；15：111-116.
- 20) 岸本秀一<sup>1)</sup>, 二石祐佳子<sup>1)</sup>, 多田 誠<sup>1)</sup>, 佐々木りか子, 中山博絵<sup>2)</sup>, 山本一哉<sup>3)</sup> (<sup>1)</sup>サンスター研究開発部スキンケア研究室, <sup>2)</sup>国立小児病院細菌検査室, <sup>3)</sup>愛育病院皮膚科)：乳幼児におけるアトピー性皮膚炎患者と健常児皮膚の Staphylococcus 属細菌叢の比較. 日小児皮会誌 1996；15：139-143.
- 21) 畑三恵子, 本田光芳：抗生剤によるアレルギー性接触皮膚炎. 調剤と情報 1996；2：1620-1623.
- 22) 青木順子, 矢島 純, 本田光芳：点眼薬によるアレルギー性接触皮膚炎. 調剤と情報 1997；3：14-17.
- 23) 畑三恵子, 本田光芳：日常生活指導とスキンケア療法. Progress in Medicine 1997；19：43-47.
- 24) 佐々木りか子：アトピー性皮膚炎. 検査と技術 1997；25：106-111.
- 25) 青木見佳子：金属によるアレルギー性接触皮膚炎. 調剤と情報 1997；3：156-159.
- 26) 畑三恵子, 本田光芳：化粧品によるアレルギー性接触皮膚炎. 調剤と治療 1997；3：274-277.

## 著 書

- 1) 矢島 純, 本田光芳：〔分担〕皮膚科疾患患者における薬物投与. 患者の病態・生理と薬物投与 (伊藤幸治, 伊賀立二編), 1997；pp258-270, 薬業時報社.
- 2) 新見やよい, 本田光芳：〔分担〕アトピー性皮膚炎. 専門医, 病院ガイド (松井宏夫監修), 1997；pp52-54, 法研.
- 3) 本田光芳：〔分担〕接触皮膚炎. 180人の専門家による私の処方 (高橋隆一編集), 1996；pp598, 日本医事新報社.

## 学会発表

### (1) 特別講演：

- 1) 矢島 純：乳幼児期皮膚疾患の外用療法. 第20回日本小児皮膚科学会総会学術大会, 1996. 6.

### (2) シンポジウム：

- 1) 中島美知子, 川並汪一<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>第二病院病理部)：気道粘膜における基底細胞型存在とその意義. 第8回気道病態シンポジウム 1996：97-101.

(3) 一般講演：

- 1) Nakajima M, Kawanami O<sup>1)</sup>, Honda M, Ferrans VJ<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>Pathology and Clinical Laboratory Nippon Medical School, <sup>2)</sup>NHLBI, NIH, Bethesda, MD.): IMMUNOHISTOCHEMICAL AND ULTRASTRUCTURAL STUDY OF THE DISTRIBUTION OF CYTOKERATINS AND TYPE VII COLLAGEN IN THE NORMAL HUMAN RESPIRATORY SYSTEM. AMERICAN LUNG ASSOCIATION AMERICAN THORATIC SOCIETY/INTERNATIONAL CONFERENCE, 1996. 5.
- 2) 中島美知子, 川並汪一<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>第二病院病理部): 気道粘膜における基底細胞型存在とその意義. 第85回日本病理学会総会, 1996. 4.
- 3) 中島美知子, 中島敦夫<sup>1)</sup>, 梶垣伸彦<sup>1)</sup>, 川村龍吉<sup>1)</sup>, 八木田秀雄<sup>1)</sup>, 奥村 康<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>順天堂大学免疫学), 本田光芳: LE 皮膚病変での Fas-FasLigand (FasL) の関与. 第27回日本皮膚科学会山梨地方会, 1996. 4.
- 4) 中島知賀子, 新見やよい, 青木見佳子, 畑三恵子, 矢島 純, 本田光芳: くるみアレルギーの1例. 第719回日本皮膚科学会東京地方会, 1996. 4.
- 5) 山村美和<sup>1)</sup>, 秋元正宇<sup>1)</sup>, 村上正洋<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup>, 青木見佳子 (<sup>1)</sup>形成外科): Venous switching を付加した distally based sural flap により再建を行った下腿皮膚悪性腫瘍の1例. 第12回日本皮膚腫瘍学会総会学術大会, 1996. 5.
- 6) 東 直行<sup>1)</sup>, 金子勝美<sup>1)</sup>, 北原東一<sup>1)</sup>, 服部怜美<sup>1)</sup>, 本田光芳 (<sup>1)</sup>千葉北総病院皮膚科): スルファメトキサゾールによる固定薬疹の1例. 第720回日本皮膚科学会東京地方会, 1996. 5.
- 7) 青木見佳子, 本田光芳, 嘉陽宗隆<sup>1)</sup>, 涌井史典<sup>2)</sup>, 森嶋隆文<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>形成外科, <sup>2)</sup>日本大学付属板橋病院皮膚科): 14歳女子の足縁に生じた黒色結節. 第12回日本皮膚悪性腫瘍学会学術大会総会, 1996. 5.
- 8) 山崎綾子, 新見やよい, 青木見佳子, 畑三恵子, 矢島 純, 本田光芳, 西野武士<sup>1)</sup>, 八島正明<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>生化学第一, <sup>2)</sup>内科学第一): 痛風結節の1例. 第95回日本皮膚科学会総会, 1996. 6.
- 9) 金子勝美<sup>1)</sup>, 北原東一<sup>1)</sup>, 関 正計<sup>1)</sup>, 服部怜美<sup>1)</sup>, 田村秀樹<sup>2)</sup>, 南 史郎<sup>2)</sup>, 本田光芳 (<sup>1)</sup>千葉北総病院皮膚科, <sup>2)</sup>千葉北総病院内科): 脛骨前粘液水腫の1例. 第95回日本皮膚科学会総会, 1996. 6.
- 10) 竹内淳子, 佐々木りか子, 新見やよい, 青木見佳子, 本田光芳, 北原東一<sup>1)</sup>, 五十嵐利一<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>千葉北総病院皮膚科, <sup>2)</sup>荒川区) Nerves sheath myxoma の1例. 第20回日本小児皮膚科学会, 1996. 6.
- 11) 山西貴仁, 中島美知子, 藤本和久, 青木見佳子, 畑三恵子, 矢島 純, 本田光芳: メフェナム酸(ポンタール®)シロップによる固定薬疹の1例. 第20回日本小児皮膚科学会, 1996. 6.
- 12) 野呂恵子<sup>1)</sup>, 浅野 健<sup>1)</sup>, 前田美穂<sup>1)</sup>, 山元正生<sup>1)</sup>, 中島知賀子, 橋本網子, 矢島 純, 本田光芳, 福田 悠<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>小児科, <sup>2)</sup>病理学第一): 間擦部に皮膚潰瘍を認めた1乳児例. 第20回日本小児皮膚科学会, 1996. 6.
- 13) 中島美知子, 中島敦夫<sup>1)</sup>, 八木田秀雄<sup>1)</sup>, 奥村 康<sup>1)</sup>, 本田光芳 (<sup>1)</sup>順天堂大学免疫学): SLE 皮膚病変における Fas-FasL の関与. 第95回日本皮膚科学会総会学術大会, 1996. 6.
- 14) 沼野香世子, 新谷真理子, 藤本和久, 青木見佳子, 畑三恵子, 矢島 純, 本田光芳: 眉毛癩痕性紅斑の1例. 第95回日本皮膚科学会総会学術大会, 1996. 6.
- 15) 高田香織, 藤本和久, 畑三恵子, 矢島 純, 本田光芳: レゾルシンによるアレルギー性接触皮膚炎の1例. 第26回日本皮膚アレルギー学会, 1996. 7.
- 16) 中島美知子, 中島敦夫<sup>1)</sup>, 梶垣伸彦<sup>1)</sup>, 奥村 康<sup>1)</sup>, 本田光芳 (<sup>1)</sup>順天堂大免疫学): LE 皮膚病変での Fas-FasLigand の関与. 第21回日本研究皮膚科学会, 1996. 7.
- 17) 山崎綾子, 新見やよい, 青木見佳子, 畑三恵子, 矢島 純, 本田光芳, 本田英世<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>文京区): 原因検索が困難であった食物アレルギーの1例. 第721回日本皮膚科学会東京地方会, 1996. 7.
- 18) 沼野香世子, 新谷真理子, 藤本和久, 畑三恵子, 矢島 純, 本田光芳: 脱毛術による皮膚障害. 第14回日本美容皮膚科学会学術大会, 1996. 8.
- 19) 沼野香世子, 新谷真理子, 藤本和久, 畑三恵子, 本田光芳: 脱毛術による皮膚障害. 第722回日本皮膚科学会東

- 京地方会, 1996. 9.
- 20) 東 直行<sup>1)</sup>, 金子勝美<sup>1)</sup>, 北原東一<sup>1)</sup>, 服部怜美<sup>1)</sup>, 大秋美治<sup>2)</sup>, 青木見佳子, 本田光芳 (<sup>1)</sup>千葉北総病院皮膚科, <sup>2)</sup>千葉北総病院病理部): Fibrous hamartoma of infancy の 1 例. 第722回日本皮膚科学会東京地方会, 1996. 9.
  - 21) 近藤裕美, 太田眞琴, 米山英子, 藤本和久, 畑三恵子, 矢島 純, 本田光芳, 福本寅雄<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>足立区): アムシノニドによるアレルギー性接触皮膚炎の 1 例. 第722回日本皮膚科学会東京地方会, 1996. 9.
  - 22) 沼野香世子, 新谷眞理子, 藤本和久, 青木見佳子, 畑三恵子, 矢島 純, 本田光芳: 眉毛癩痕性紅斑の 1 例. 第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 9.
  - 23) 川並汪一<sup>1)</sup>, 中島美知子 (<sup>1)</sup>第二病院病理部): 肺疾患における気道・肺胞基底膜異常. 第28回日本臨床電子顕微鏡学会, 1996. 10.
  - 24) 中島美知子, 中島敦夫<sup>1)</sup>, 東みゆき<sup>2)</sup>, 榎垣伸彦<sup>1)</sup>, 本田光芳, 八木田秀雄<sup>1)</sup>, 奥村 康<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>順天堂大免疫学, <sup>2)</sup>国立小児医療センター免疫): LE 皮膚病変での Fas-FasLigand の関与. 第26回日本免疫学会総会学術集会, 1996. 11.
  - 25) 中島美知子, 佐々木りか子, 永田正人<sup>1)</sup>, 立澤 幸<sup>1)</sup>, 山本一哉<sup>2)</sup>, 畑三恵子, 本田光芳 (<sup>1)</sup>国立小児病院感染科, <sup>2)</sup>愛育病院皮膚科): Hutchinson-Gilford progeria syndrome の 1 例. 第48回日本皮膚科学会西部支部学術大会, 1996. 11.
  - 26) 橋本網子, 青木見佳子, 本田光芳, 高木 修<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>浦和市): 有棘細胞癌を思わせた皮膚自傷症の 1 例. 第724回日本皮膚科学会東京地方会, 1996. 11.
  - 27) 土田由起子, 青木見佳子, 本田光芳, 大木更一郎<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>形成外科): 腋窩副乳の 1 例. 第724回日本皮膚科学会東京地方会, 1996. 11.
  - 28) 栗原和久, 土田由起子, 米山英子, 藤本和久, 畑三恵子, 矢島 純, 本田光芳: ラノコナゾールによる接触皮膚炎の 1 例. 第48回日本皮膚科学会西部支部学術大会, 1996. 11.
  - 29) 荒牧 純, 太田眞琴, 藤本和久, 畑三恵子, 矢島 純, 本田光芳: 顔面播種状粟粒性狼瘡の 1 例. 第48回日本皮膚科学会西部支部学術大会, 1996. 11.
  - 30) 沼野香世子, 新谷眞理子, 青木見佳子, 藤本和久, 畑三恵子, 矢島 純, 本田光芳: 多発性成人型黄色肉芽腫の 1 例. 第48回日本皮膚科学会西部支部学術大会, 1996. 11.
  - 31) 秋田政彦, 藤本和久, 畑三恵子, 矢島 純, 本田光芳: Eyelash curler による接触皮膚炎の 1 例. 第726回日本皮膚科学会東京地方会, 1997. 1.
  - 32) 森本健介, 米山英子, 藤本和久, 畑三恵子, 矢島 純, 本田光芳: 塩酸フェニルプロパノールアミンによる薬疹の 1 例. 第726回日本皮膚科学会東京地方会, 1997. 1.
  - 33) 竹内淳子, 丸山陽子, 新見やよい, 本田光芳: ロメフロキサシンによる蕁麻疹型薬疹の 1 例. 第726回日本皮膚科学会東京地方会, 1997. 1.
  - 34) 弓削真由美, 天野薫子, 新見やよい, 青木見佳子, 本田光芳, 斉藤 裕<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>文京区): 右第3指に生じた爪下外骨腫の 1 例. 第726回日本皮膚科学会東京地方会, 1997. 1.
  - 35) 荒牧 純, 栗原和久, 藤本和久, 畑三恵子, 矢島 純, 本田光芳: セバシン酸ジエチルによるアレルギー性接触皮膚炎の 1 例. 第726回日本皮膚科学会東京地方会, 1997. 1.
  - 36) 東 直行, 青木見佳子, 畑三恵子, 矢島 純, 本田光芳, 有吉雅徳<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>形成外科): BCG 接種後に生じた皮膚結核性肉芽腫の 1 例. 第726回日本皮膚科学会東京地方会, 1997. 1.
  - 37) 中島美知子, 佐々木りか子, 宮内 潤<sup>1)</sup>, 山本一哉<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>国立小児病院病理部, <sup>2)</sup>愛育病院皮膚科): 小児の肥満細胞症40例に関する検討. 第60回日本皮膚科学会東京支部学術大会, 1997. 2.
  - 38) 新見やよい, 本田光芳: 胸壁結核の 1 例. 第60回日本皮膚科学会東京支部学術大会, 1997. 2.
  - 39) 青木見佳子, 新見やよい, 本田光芳, 銅治英雄<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup>, 前田昭太郎<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>形成外科, <sup>2)</sup>多摩永山病院病理部):

頬部に生じた間葉系腫瘍の1例。第60回日本皮膚科学会東京支部学術大会，1997。2。

## [第一病院皮膚科]

### 研究業績

#### 論文

(1) 原著：

- 1) 並松茂樹<sup>1)</sup>，中村進一，服部康夫<sup>2)</sup>。(<sup>1)</sup>電顕室，<sup>2)</sup>耳鼻科)：腎生検を用いた腎糸球体基底膜のPAM 並松変法の染色性について。臨床電顕誌，1996；29，15-21。
- 2) 中村進一：化学療法薬。抗梅毒薬。JOHNS，1997；13，325-327。

#### 学会発表

(1) 一般講演：

- 1) 立原利江子，相良宗徳，中村進一：慢性関節リウマチを伴った角層下膿疱症の1例。第721回日本皮膚科学会東京地方会（合同臨床地方会），1996。7。
- 2) 濱松 優，立原利江子，金森幸男，中村進一：経皮感作成立における接触皮膚炎発現の必要性について。日本研究皮膚科学会第21回年次学術大会・総会，1996。7。
- 3) 並松茂樹<sup>1)</sup>，中村進一，服部康夫<sup>2)</sup>，温 敏<sup>3)</sup>。(<sup>1)</sup>電顕室，<sup>2)</sup>耳鼻科，<sup>3)</sup>病理部)：PAM 並松変法のブロック染色について。第64回日本医科大学医学会総会，1996。9。
- 4) 松本光司<sup>1)</sup>，温 敏<sup>2)</sup>，山本泰一，山田 宣孝<sup>1)</sup>。(<sup>1)</sup>病理部)：Ossifying fibromyxoid tumor of soft part 3例の免疫組織学的な検討および文献的考察。第64回日本医科大学医学会総会，1996。9。
- 5) 中村進一，西原 潔，相良宗徳，立原利江子，濱松 優，五十嵐司，並松茂樹<sup>1)</sup>。(<sup>1)</sup>電顕室)：タンニン酸染色による *Treponema pallidum* の電顕的観察。第64回日本医科大学医学会総会，1996。9。
- 6) 内田美香，豊田かおる，山本泰一，中村進一：基底細胞母斑症候群の1例。第723回日本皮膚科学会東京地方会，1996。10。
- 7) 豊田かおる，濱松 優，相良宗徳，山本泰一，中村進一：Angioleiomyoma の1例。第723回日本皮膚科学会東京地方会，1996。10。
- 8) 安原尚昭，立原利江子，中村進一，永嶋幹夫<sup>1)</sup>。(<sup>1)</sup>第二内科)：略全身に皮疹をみた皮膚アミロイドーシスの1例。第724回日本皮膚科学会東京地方会，1996。11。
- 9) 五十嵐司，立原利江子，山本泰一，中村進一，林 厚生<sup>1)</sup>。(<sup>1)</sup>国立市)：シェルツェマダニの1例。第726回日本皮膚科学会東京地方会，1997。1。
- 10) 濱松 優，恩田周太郎，三神 寛，中村進一，内田高浩<sup>1)</sup>，長澤紘一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院内科)：橋本病に皮膚筋炎と Sjören 症候群を合併した1例。第60回日本皮膚科学会東京支部学術大会，1997。2。

## [第二病院皮膚科]

### 研究業績

#### 論文

(1) 原著：

- 1) 堺 則康，遠藤祐理子，横山 泉，伊東文行，岩崎 隆<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>川崎市)：頬部に生じた Trichilemmal Cyst の1例と本邦報告例の統計的考察。皮膚科の臨床 1996；38：775-778。
- 2) 高橋 久<sup>1)</sup>，堺 則康，横山 泉，伊東文行(<sup>1)</sup>帝京大学医学部皮膚科学教室)：皮膚真菌症に対する Fluconazole

の臨床的検討。基礎と臨床 1996；30：1021-1039.

- 3) 矢代加奈, 堺 則康, 遠藤祐理子, 横山 泉, 伊東文行：先天性皮膚欠損症の姉妹例。皮膚科の臨床 1996；38：1447-1450.
- 4) 堺 則康, 遠藤祐理子, 矢代加奈, 横山 泉, 伊東文行：外陰部に生じた異所性子宮内膜症の1例。臨床皮膚科 1996；50：826-828.
- 5) 遠藤祐理子, 矢代加奈, 堺 則康, 横山 泉, 伊東文行：右腋窩に発生した異所性乳癌の1例。皮膚科の臨床 1996；38：1927-1930.
- 6) 堺 則康, 鈴木かやの, 矢代加奈, 遠藤祐理子, 横山 泉, 伊東文行, 加藤欽也<sup>1)</sup>, 原文男<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院内科)：成人 Still 病の1例。皮膚科の臨床 1997；39：125-128.
- 7) 清 佳浩<sup>1)</sup>, 滝内石夫<sup>1)</sup>, 渡辺晋一<sup>2)</sup>, 本田光芳<sup>3)</sup>, 伊東文行, 西川武二<sup>4)</sup>, 小川秀興<sup>5)</sup>, 原田敬之<sup>6)</sup>, 西山千秋<sup>7)</sup>, 加藤卓朗<sup>8)</sup>(<sup>1)</sup>昭和大学藤が丘病院皮膚科, <sup>2)</sup>帝京大学医学部皮膚科, <sup>3)</sup>付属病院皮膚科, <sup>4)</sup>慶應義塾大学医学部皮膚科, <sup>5)</sup>順天堂大学医学部皮膚科, <sup>6)</sup>東京女子医科大学附属第二病院皮膚科, 日本大学医学部付属練馬光が丘病院皮膚科, <sup>8)</sup>埼玉県済生会川口総合病院皮膚科)：フケ症に対する0.75%硝酸ミコナゾール配合シャンプーの有用性の検討。シャンプー基剤を対照とした二重盲検比較試験。日医真菌会誌 1996；38：87-97.
- 8) 岩崎容子, 矢代加奈, 堺 則康, 木村陽一, 遠藤祐理子, 横山 泉, 伊東文行：当科における石灰化上皮腫の統計。皮膚科の臨床 1997；39：302-303.

## 著 書

- 1) 伊東文行：〔分担〕STD “一人で対処する皮膚科診療” (宮地良樹編)。1996；pp155-159, 南江堂。
- 2) 伊東文行：〔分担〕STD “キーワードを読む皮膚科” (塩原哲夫、宮地良樹編)。1996；pp59, 医学書院。

## 学会発表

### (1) 一般講演：

- 1) 鈴木かやの, 矢代加奈, 堺 則康, 小林伸子, 伊東文行：足底に生じ石灰化を伴った血管平滑筋腫の1例。日本皮膚科学会第719回東京地方会, 1996. 4.
- 2) 福山圭子<sup>1)</sup>, 杉本真純<sup>1)</sup>, 水野 尚<sup>1)</sup>, 岡澤ひろみ<sup>1)</sup>, 松倉節子<sup>1)</sup>, 山本 聡<sup>1)</sup>, 早川広樹<sup>1)</sup>, 長谷哲男<sup>1)</sup>, 中嶋 弘<sup>1)</sup>, 小林伸子, 伊東文行 (<sup>1)</sup>横浜市大皮膚科)：Primary cutaneous CD30陽性 large cell lymphoma の1例。日本皮膚科学会第719回東京地方会, 1996. 4.
- 3) 堺 則康, 矢代加奈, 木村陽一, 遠藤祐理子, 横山 泉, 伊東文行：D-ペニシラミン内服中に生じた天疱瘡様皮膚病変。日本皮膚科学会第719回, 1996. 4.
- 4) 遠藤祐理子, 岩崎容子, 堺 則康, 矢代加奈, 横山 泉, 伊東文行：網状肢端色素沈着症 (北村) の1例。日本皮膚科学会第719回, 1996. 4.
- 5) 木村陽一, 岩崎容子, 矢代加奈, 遠藤祐理子, 伊東文行：Solitary trichoepithelioma の2例。日本皮膚科学会第720回東京地方会, 1996. 5.
- 6) 矢代加奈, 堺 則康, 鈴木かやの, 遠藤祐理子, 横山 泉, 伊東文行：遠心性環状紅斑を伴ったライム病の1例。日本皮膚科学会第720回東京地方会, 1996. 5.
- 7) 伊東文行, 鈴木かやの, 堺 則康, 矢代加奈, 遠藤祐理子, 栗原誠一<sup>1)</sup>, 矢部啓夫<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>平塚市, <sup>2)</sup>慶應義塾大学整形外科)：皮膚転移で発見された骨肉腫。第12回日本皮膚悪性腫瘍学会, 1996. 5.
- 8) 遠藤祐理子, 岩崎容子, 堺 則康, 矢代加奈, 横山 泉, 伊東文行：網状肢端色素沈着症 (北村) の1例。第95回日本皮膚科学会総会, 1996. 5.
- 9) 堺 則康, 矢代加奈, 鈴木かやの, 遠藤祐理子, 横山 泉, 伊東文行：D-ペニシラミン内服中に生じた疱瘡状天疱瘡様皮膚病変。第95回日本皮膚科学会総会, 1996. 5.

- 10) 木村陽一, 岩崎容子, 矢代加奈, 遠藤祐理子, 小林伸子, 伊東文行: Solitary trichoepithelioma の 2 例. 第95回日本皮膚科学会総会, 1996. 5.
- 11) 岩崎容子, 堺 則康, 木村陽一, 遠藤祐理子, 伊東文行, 森山まきみ<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>横浜市): Eccrine Hidrocystoma の 2 例. 第95回日本皮膚科学会総会, 1996. 5.
- 12) 鈴木かやの, 矢代加奈, 堺 則康, 小林伸子, 横山 泉, 伊東文行: 足底に生じ石灰化を伴った血管平滑筋腫の 1 例. 第95回日本皮膚科学会総会, 1996. 5.
- 13) 矢代加奈, 堺 則康, 鈴木かやの, 遠藤祐理子, 横山 泉, 伊東文行: 遠心性環状紅斑を伴ったライム病の 1 例. 第95回日本皮膚科学会総会, 1996. 5.
- 14) 榊原貴子, 堺 則康, 木村陽一, 遠藤祐理子, 伊東文行: 陰囊に生じた巨大懸垂性軟性線維腫の 1 例. 日本皮膚科学会第723回東京地方会, 1996. 10.
- 15) 森下宣明, 木村陽一, 堺 則康, 遠藤祐理子, 伊東文行: 若年発症の基底細胞上皮腫の 1 例. 日本皮膚科学会第723回東京地方会, 1996. 10.
- 16) 斎藤良明<sup>1)</sup>, 太田吉男<sup>1)</sup>, 大庭孝男<sup>1)</sup>, 川並汪一<sup>1)</sup>, 木村陽一, 伊東文行, 中島美知子<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>第二病院病理部, <sup>2)</sup>附属病院皮膚科): メルケル細胞癌との鑑別を要した無色素性悪性黒色腫の1例. 第35回日本臨床細胞学会秋期大会学術大会, 1996. 11.
- 17) 木村陽一, 鈴木かやの, 堺 則康, 遠藤祐理子, 伊東文行: パルピタールによる固定薬疹の 1 例. 日本皮膚科学会第724回東京地方会, 1996. 11.
- 18) 小坂祥子, 堺 則康, 矢代加奈, 木村陽一, 遠藤祐理子, 伊東文行: 陰囊に多発した Verruciform Xanthoma の 1 例. 日本皮膚科学会第724回東京地方会, 1996. 11.
- 19) 遠藤祐理子, 伊東文行: 再発性多発性軟骨炎の 1 例. 第 5 回川崎市皮膚科医会, 1996. 11.
- 20) 矢代加奈, 岩崎容子, 堺 則康, 遠藤祐理子, 伊東文行, 村澤恒男<sup>1)</sup>, 原文男<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>第二病院内科): 糖尿病を合併した尋常性天疱瘡患者に対する治療について. 日本医大会第91回例会, 1997. 2.

## [千葉北総病院皮膚科]

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著:

- 1) 東 直行, 金子勝美, 北原東一, 服部怜美, 本田光芳<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>付属病院皮膚科): スルファメトキサゾールによる小児の固定薬疹の 1 例. 日小皮会誌 1996; 15: 209-21
- 2) 弓削真由美<sup>1)</sup>, 栗栖由美子<sup>1)</sup>, 新見やよい<sup>1)</sup>, 畑三恵子<sup>1)</sup>, 矢島 純<sup>1)</sup>, 服部怜美, 本田光芳<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>付属病院皮膚科): 軟線維腫様外観を呈した石灰化上皮腫の 1 例. 日小皮会誌 1996; 15: 214-217.
- 3) 東 直行<sup>1)</sup>, 西村由起子<sup>1)</sup>, 藤本和久<sup>1)</sup>, 新谷真理子<sup>1)</sup>, 新見やよい<sup>1)</sup>, 青木見佳子<sup>1)</sup>, 畑三恵子<sup>1)</sup>, 矢島 純<sup>1)</sup>, 服部怜美, 本田光芳<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>付属病院皮膚科): 当科における小児アトピー性皮膚炎. 日小皮会誌 1996; 15: 224-231.

##### (2) 総説:

- 1) 服部怜美: 薬剤による中毒性表皮壊死症, “気をつけたい最近の副作用”. 日本薬剤師会雑誌 1997; 49: 33-38.
- 2) 服部怜美: 接触皮膚炎の薬物療法. 薬事新報 1997; 1934(3): 11-14.

#### 著書

- 1) 服部怜美: [分担] 手の湿疹. “今日の皮膚疾患治療指針” (池田重雄, 今村貞夫, 大城戸宗男, 荒田次郎編), 1996; pp13-14, 医学書院.
- 2) 服部怜美: [分担] 薬疹. “今日の皮膚疾患治療指針” (池田重雄, 今村貞夫, 大城戸宗男, 荒田次郎編), 1996;

## 学会発表

### (1) 一般講演：

- 1) 北原東一, 服部怜美, 青木見佳子<sup>1)</sup>, 本田光芳<sup>1)</sup>, 大秋美治<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院皮膚科, <sup>2)</sup>千葉北総病院病理部) : Bowen 病の病巣部に生じた Merkel 細胞癌の 1 例. 第12回日本皮膚悪性腫瘍学会総会, 1996. 5.
- 2) 東 直行, 金子勝美, 北原東一, 服部怜美, 本田光芳<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院皮膚科) : スルファメトキサゾールによる固定薬疹の 1 例. 日本皮膚科学会第720回東京地方会, 1996. 5.
- 3) 金子勝美, 北原東一, 関 正計, 服部怜美, 田村秀樹<sup>1)</sup>, 南 史朗<sup>1)</sup>, 本田光芳<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第 3, <sup>2)</sup>付属病院皮膚科) : 脛骨前粘液水腫の 1 例. 第95回日本皮膚科学会総会, 1996. 6.
- 4) 竹内淳子<sup>1)</sup>, 佐々木りか子<sup>1)</sup>, 新見やよい<sup>2)</sup>, 青木見佳子<sup>2)</sup>, 本田光芳<sup>2)</sup>, 北原東一, 五十嵐利一<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>国立病院皮膚科, <sup>2)</sup>付属病院皮膚科, <sup>3)</sup>荒川区) : Nerve sheath myxoma の 1 例. 第20回日本小児皮膚科学会 1996. 6.
- 5) 東 直行, 金子勝美, 北原東一, 服部怜美, 大秋美治<sup>1)</sup>, 青木見佳子<sup>2)</sup>, 本田光芳<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院病理部, <sup>2)</sup>付属病院皮膚科) : Fibrous hamartoma of infancy の 1 例. 日本皮膚科学会第723回東京地方会, 1996. 9.



## 9. 外科学第一講座

### [付属病院第1外科]

#### 研究概要

教室では消化器外科学，一般外科学，さらにその関連領域に関する以下のテーマについて臨床的，基礎的研究を進めており，その成果を積極的に学会ならびに学会誌および専門誌に発表し，着実な評価を得ている。

- 1) 創傷治癒，外科侵襲，外科感染症の基礎的研究を基に積極的に臨床応用を図っている。
  - 2) 急性腹症の病態の解析，とくにジッツマークを用いたイレウスの新しい診断と治療の選択法は，臨床上の有用性に対して内外で高い評価を得ている。
  - 3) 腹腔鏡下手術はその適応範囲を拡げ，胆嚢摘出術はもとより，胃・十二指腸潰瘍の穿孔性腹膜炎に対しても積極的に用い，さらに早期胃癌，早期大腸癌，門脈圧亢進症にも応用され，良好な成績を得ている。患者に対して侵襲の少ない手術として評価を得ている。
  - 4) 進行食道癌，胃癌，大腸癌に対する手術と化学療法との組み合わせにより，患者のQOLの向上を図っている。
  - 5) 肝硬変症，門脈圧亢進症に起因する食道静脈瘤に対する集学的治療により，病態に応じた治療法の選択が可能となり，良好な成績を上げている。
  - 6) 内視鏡下手術の進歩により，早期胃癌に対するEMR，また総胆管結石，膵石に対する内視鏡的摘出術，閉塞性黄疸に対する内視鏡的減黄術等，種々の内視鏡下手術に取り組んでいる。
  - 7) 遺伝子治療の研究にも取り組んでおり，胃癌における遺伝子治療もその基礎的研究が進行している。
  - 8) 食道癌，肝臓癌，膵臓癌に対する基礎的，臨床的研究が進められ，手術法の進歩とあいまって手術成績の向上が得られつつある。
  - 9) 乳癌手術に対して積極的に縮小手術を取り入れ良好な成績を上げており，さらに進行乳癌に対する動注化学療法，化学内分泌療法を組み合わせた治療法を採用し，患者のQOLの向上に努め良好な成績を得ている。
- 教授，助教授，講師の指導の下に，これらの各テーマに若手医局員が配属され，日夜熱心に研究が行われており，下記の如く内外の学会誌，専門誌に発表された。

#### 研究業績

##### 論文

[1995年度追加分]

原著：

- 1) Suzuki H, Noda Y, Paul S, Gao X-p, Rubinstein I : Encapsulation of asoactive intestinal peptide into liposomes : Effects on vasodilation in vivo. Life Sci 2995 ; 57 : 1451-1457.
- 2) Gao X-p, Suzuki H, Olopade CO, Rubinstein I : Short-term exposure to lipopolysaccharide is associated with microvascular contractile dysfunction in vivo. Life Sci 1995 ; 56 : 1243-1249.

(1) 原著：

- 1) Kato S, Onda M, Matsukura N, Tokunaga A, Matsuda N, Yamashita K, Shields PG : Genetic Polymorphisms of the cancer related gene and *Helicobacter pylori* infection in Japanese Gastric Cancer Patients : An age and gender matched case-control study. Cancer 1996 ; 77 : 1654-1661.
- 2) Blomeke B, Greenbelt MJ, Doan VD, Bowman ED, Murphy SE, Chen CC, Kato S, Shields PG : Distribution of 7-alkyl-2'-deoxyguanosine adduct levels in human lung. Carcinogenesis 1996 ; 17 : 741-748.

- 3) Sasajima K, Yoshida Y, Yamakado S, Miyashita M, Okawa K, Matsutani T, Onda M, Kawano E : Changes in urinary nitrate and nitrite during treatment of ulcerative colitis. *Digestion* 1996 ; 57 : 170-173, 1996.
- 4) Makino K<sup>1)2)</sup>, Ushijima T<sup>1)</sup>, Onda M<sup>2)</sup>, Nagao M<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>Carcinogenesis Division, National Cancer Center Research Institute, <sup>2)</sup>First Department of Surgery, Nippon Medical School) : p53 mutations in MeIQ-induced mouse forestomach tumors. *J Nippon Med Sch* 1997 ; 64 : 39-44.
- 5) Matsukura N, Onda M, Tokunaga A, Kato S, Hasegawa H, Yoshiyuki Y, Yamashita K : *Helicobacter pylori* clones in the stomach. *J Nippon Med Sch* 1997 ; 64 : 187-188.
- 6) Minamoto T<sup>1)2)</sup>, Yamashita N, Ochiai A<sup>3)</sup>, Mai M<sup>2)</sup>, Sugimura T<sup>3)</sup>, Ronai Z<sup>1)</sup>, Esumi H<sup>4)</sup> (<sup>1)</sup>American Health Foundation, Molecular Carcinogenesis Program, <sup>2)</sup>Kanazawa University, Cancer Research Institute, Dept. of Surgery, <sup>3)</sup>National Cancer Center, Research Institute, <sup>4)</sup>National Cancer Center, Research Institute, East) : Analysis of mutant K-ras in multiple sites of normal appearing mucosa of colorectal cancer patients. *Int J Oncol* 1996 ; 9 : 911-915.
- 7) Sejourne F, Rubinstein I, Suzuki H, Alkan-Onyuksel H : Development of a novel bioactive formulation of vasoactive intestinal peptide in sterically stabilized liposomes. *Pharm Res* 1997 ; 14 : 362-365.
- 8) Suzuki H, Gao X-p, Olopade CO, Jaffe HA, Pakhlevaniants S, Rubinstein I : Aqueous smokeless tobacco extract impairs endothelium-dependent vasodilation in the oral mucosa. *J Appl Physiol* 1996 ; 81 : 225-231.
- 9) Suzuki H, Gao X-p, Olopade CO, Rubinstein I : Neutral endopeptidase modulates vasoactive intestinal peptide-induced vasodilation in situ. *J Appl Physiol (Regulatory Integrative Comp. Physiol. 40)* 1996 ; 271 : R393-R397.
- 10) Suzuki H, Noda Y, Gao X-p, Sejourne F, Alkan-Onyuksel H, Paul S, Rubinstein I : Encapsulation of VIP into liposomes restores its vasorelaxant effects in hypertension in situ. *Am J Physiol (Heart Circ. Physiol. 40)* 1996 ; 271 : H282-287.
- 11) Teramoto T, Onda M, Tokunaga A, Asano G<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>Dept. of Pathology) : Inhibitory effect of anti-epidermal growth factor receptor antibody on a human gastric cancer. *Cancer* 1996 ; 77 : 1639-1645.
- 12) Tanaka N, Seya T, Onda M, Kanazawa Y, Naitoh Z, Asano G : Myoepithelial hamartoma of the small bowel : Report of a case. *Surg Today Jpn J Surg* 1996 ; 26 : 1010-1013.
- 13) Tokunaga A, Onda M, Oguri T, Takita M, Shirakawa T, Ikeda K, Hiramoto Y, Yoshiyuki T, Kiyama T, Matsukura N, Asano G<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>Dept. of Pathology) : Role of trefoil growth factor pS2, TGF- $\alpha$  and EGF receptor in human gastric carcinogenesis. *Recent Advances in Gastroenterol. Carcinogenesis* 1996 ; I : 399-403.
- 14) Oguri T, Onda M, Tokunaga A, Teramoto T, Takita M, Shirakawa T, Ikeda K, Hiramoto Y, Okuda T, Fujita I, Mizutani T, Yoshiyuki T, Kiyama T, Matsukura N, Asano G<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>Dept. of Pathology) : Expression of trefoil group antigen pS2 in human gastric cancer and duodenal ulcer. *Recent advances in gastroenterol. Carcinogenesis* 1996 ; I : 395-397.
- 15) Takita M, Onda M, Tokunaga A, Teramoto T, Oguri T, Ikeda K, Shirakawa T, Okuda T, Kiyama T, Yoshiyuki T, Matsukura N : Anti-EGF receptor MoAb targetting therapy against liver metastasis of gastric cancer. *Recent advances in gastroenterological. Carcinogenesis* 1996 ; 1 : 873-877.
- 16) Yoshida H, Egami K, Onda M, Tajiri T, Uchida E : Treatment of symptomatic hepatic cyst by injection of minocycline hydrochloride. *J Hep Bil Pancr Surg* 1996 ; 491-494.
- 17) 井上松広, 恩田昌彦, 内田英二 : ハムスター実験肝癌細胞株 (PGHAM-1) におけるヒト血液型関連 A 物質の意義 : 特に増殖との関連. *日医大誌* 1997 ; 64 : 30-38.
- 18) 加藤俊二, 恩田昌彦, 松倉則夫, 徳永 昭, 松田範子, 山下精彦 : 萎縮性胃炎, 腸上皮化生, 胃癌 SEQUENCE

における *Helicobacter pylori* 感染と遺伝子多型性分析. Therapeutic Research 1996; 17: 4232-4238.

- 19) 加藤俊二, 恩田昌彦, 徳永 昭, 吉行俊郎, 松倉則夫, 金 徳栄, 田尻 孝, 山下精彦: Mitomycin C-DNA 複合体の体内分布 (臓器分布) と経時的变化: ヒトおよびラット正常組織における Mitomycin C の影響. 癌と化学療法 1996; 23: 1031-1037.
- 20) 小栗 剛, 恩田昌彦, 徳永 昭, 浅野伍朗<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第2病理): 胃癌における trefoil グループ細胞増殖因子 pS2発現の意義. 日消誌 1996; 93: 707-716.
- 21) 樋口勝美, 恩田昌彦, 古川清憲, 美濃部かおり, 田中宣威, 有馬保生: Stage III 以上乳癌と炎症性乳癌に対する動注療法の検討. 癌と化学療法 1996; 23: 1533-1536.
- 22) 清水一雄<sup>1)</sup>, 高津圭介<sup>1)</sup>, 北村 裕<sup>1)</sup>, 田中茂夫<sup>1)</sup>, 杉原 仁<sup>2)</sup>, 南 史朗<sup>2)</sup>, 梅原松臣, 内田英二, 田尻 孝, 若林一二<sup>2)</sup>, 恩田昌彦 (<sup>1)</sup>2外, <sup>2)</sup>3内): 膵内分泌腫瘍における緊急手術: インスリノーマに対する有用性のある局在診断法の検討—巨大インスリノーマの一治験例報告を中心として. 内分泌外科 1997; 14: 37-43.
- 23) 田尻 孝, 恩田昌彦, 鳥羽昌仁, 梅原松臣, 吉田 寛, 金 徳栄, 山下精彦: 術式別: 術前患者管理の実際—内視鏡的食道—胃静脈瘤硬化療法(特集: 術前ワークアップマニュアル). 臨床外科 1996; 51(増刊号): 283-288.
- 24) 田島広之, 隈崎達夫, 村上隆介, 後藤慎介, 青山俊也, 川俣博志, 飯田英次, 弦間和仁, 恩田昌彦, 田尻 孝, 小嶋隆行, 松崎 栄: 腹部血管造影における iodixanol (DU-6807) の臨床的有用性—特に腎機能に及ぼす影響について—. 医学と薬学 1996; 35: 775-789.
- 25) 白川 毅, 恩田昌彦, 徳永 昭, 藤田逸郎, 寺本 忠, 瀧田雅仁, 小栗 剛, 奥田武志, 木山輝郎, 吉行俊郎, 加藤俊二, 宮下正夫, 内藤善哉<sup>1)</sup>, 松倉則夫, 山下精彦, 浅野伍朗<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第2病理): 胃癌手術における腹腔洗浄細胞診および漿膜面擦過細胞診の意義. 癌と化療 1996; 23: 1472-1475.
- 26) 横山 正, 恩田昌彦, 内田英二: ハムスター膵癌株化細胞 (PGHAM-1) を用いた短期同種膵内移植モデルの作製とその経時的变化. 膵臓 1996; 11: 411-420.
- 27) 横山滋彦, 小林 寛, 秋谷昭治, 秋谷行宏, 田中宣威, 恩田昌彦: 5-Fluorouracil/Cisplatin/Leucovorin 併用少量分割動注療法と UFT 経口投与が有効であった大腸癌肝転移の1例. 埼玉県医師会誌 1996; 560: 44-48.
- 28) 瀬谷知子, 田中宣威, 恩田昌彦, 金沢義一, 古川清憲, 鳥羽昌仁, 横山滋彦, 浅野伍朗, 内藤善哉, 森山雄吉, 横井公良, 大秋美治: Deplesion syndrome を呈した直腸絨毛腺腫の2例. 日本大腸肛門病学会雑誌 1996; 49: 327-334.
- 29) 石川紀行, 恩田昌彦, 古川清憲, 田尻 孝, 金 徳栄, 有馬保生, 樋口勝美, 鳥羽昌仁, 増森興治, 梅原松臣, 斎藤忠生, 鈴木英之, 丸山 弘, 小嶋隆行, 中村慶春, 松崎 栄, 秋谷行宏, 山本一仁, 田中宣威, 山下精彦: 当科で経験した赤痢アメーバ肝膿瘍4例の検討. 日本外科感染症研究 1996; 8: 217-222.
- 30) 木山輝郎, 恩田昌彦, 徳永 昭, 芦苺正幸, 有馬保生, 山下精彦: 蛋白漏出性胃腸症を呈した Borrmann I 型胃癌の1例. 癌の臨床 1996; 42: 583-587.
- 31) 中村慶春, 恩田昌彦, 内田英二, 井上松応, 山村 進, 松谷 毅, 丸山 弘, 横山滋彦, 石川紀行, 田尻 孝, 山下精彦: ニトログリセリン舌下投与による経口的膵管内視鏡検査. Gastroenterological Endoscopy 1996; 38: 2848-2852.
- 32) 飯田信也, 恩田昌彦, 徳永 昭, 奥田武志, 小栗 剛, 寺本 忠, 藤田逸郎, 木山輝郎, 吉行俊郎, 松倉則夫, 山下精彦, 沖浜裕司<sup>1)</sup>, 松田 健<sup>1)</sup>, 前田昭太郎<sup>2)</sup>, 片山博徳<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>付属多摩永山病院消化器科, <sup>2)</sup>同病理部): 胃潰瘍修復過程を創傷治癒機転と対応し解析する. Progress in Medicine 1996; 16: 2717-2718.
- 33) 増森興治, 恩田昌彦, 田尻 孝, 鳥羽昌仁, 山下精彦, 金 徳栄, 梅原松臣, 吉田 寛, 真々田裕宏, 西久保秀紀, 谷谷信彦, 松本智司, 小嶋隆行, 松崎 栄, 山本一仁, 廣瀬洋一郎: 食道静脈瘤破裂に対する内視鏡的静脈瘤密集結紮法の有用性. 日腹救誌 1996; 16: 1063-1067.

(2) 綜説:

- 1) 梅原松臣, 恩田昌彦, 田尻 孝, 有馬保生, 吉田 寛: 肝嚢胞の治療指針. 外科治療 1997; 76: 337-338.

- 2) 加藤俊二, 山下精彦: 宿主因子 (遺伝的素因) と病気: 遺伝子の多様性による宿主側の因子からみた癌や疾病の発生. 東京都医師会雑誌 1996; 49: 67-69.
- 3) 吉行俊郎, 恩田昌彦: 下腹部痛. 消化器外科 1996; 19: 704-705.
- 4) 松倉則夫, 恩田昌彦, 加藤俊二, 徳永 昭, 山下精彦: 潰瘍穿孔に対する *Helicobacter pylori* 感染の関与. 外科治療 1996; 74: 349-356.
- 5) 松倉則夫, 恩田昌彦: *Helicobacter pylori* 感染-胃癌との関連をどのようにとらえるのか? (特集: *Helicobacter pylori* 研究の最前線). Prog Med 1996; 16: 1560-1564.
- 6) 松本智司, 田尻 孝, 恩田昌彦, 江見 充: 肝細胞癌の遺伝子変化[小肝細胞癌]. 臨床化学 1996; 32: 1303-1308.
- 7) 田尻 孝, 恩田昌彦, 山下精彦, 鳥羽昌仁, 梅原松臣, 吉田 寛, 隈崎達夫: 門脈圧亢進症の臨床: IVR の治療への応用: 経門脈的副血行路塞栓療法 (PTO, TIO) (特集: 肝循環をめぐる最近のトピックス) 肝胆臓 1996; 33: 1003-1008.
- 8) 徳永 昭, 恩田昌彦, 奥田武志, 寺本 忠, 小栗 剛, 白川 毅, 瀧田雅仁: 増因子と癌転移. 外科 1996; 58: 575-580.
- 9) 田中宣威, 恩田昌彦, 高崎秀明, 吉村和泰, 横山滋彦, 佐々部一, 永嶋裕司: イレウスの原因と病態生理. 消化器外科 1996; 19: 1787-1792.
- 10) 山下精彦, 宮下正夫: 十二指腸憩室. 消化器外科 1996; 19: 828-829.
- 11) 梅原松臣, 恩田昌彦, 田尻 孝, 有馬保生, 吉田 寛: [分担] (日常診療の指針) 肝嚢胞の治療指針, 外科治療, 76, 337-338, 1997.
- 12) 古川清憲: 常習性便秘, 消化器疾患, 今日の治療食指針-I, 臨床栄養 1996; 89: 391-393.

## 著 書

### [1995年度追加分]

- 1) 市川太郎<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>, 田島広之<sup>1)</sup>, 渡 潤<sup>1)</sup>, 林 宏光<sup>1)</sup>, 高木 亮<sup>1)</sup>, 天野康雄<sup>1)</sup>, 田尻 孝, 内田英二, 内藤善哉<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>放射線科, <sup>2)</sup>第2病理): [分担] 非典型的画像所見を呈した脾 Solid Cystic tumor の1例. 腹部画像診断アトラスII (腹部放射線研究会編) 1995; pp 108-109. 日本シェーリング.
- 2) 市川太郎<sup>1)</sup>, 田島広之<sup>1)</sup>, 林 宏光<sup>1)</sup>, 渡 潤<sup>1)</sup>, 天野康雄<sup>1)</sup>, 高木 亮<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>, 田尻 孝, 金 徳栄, 浅野伍朗<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>放射線科, <sup>2)</sup>第2病理): [分担] 興味ある画像所見を呈した周囲環状に高分化な部分を伴う肝細胞癌の1例. 腹部画像診断アトラスII (腹部放射線研究会編) 1995; pp 32-33. 日本シェーリング.
- 1) Uchida E, Onda M, Inoue M, Yamamura S, Yokoyama T, Aimoto T, Kobayashi T, Yamanaka Y, Nakamura Y, Tajiri T, Egami K, Yamashita K, Naito Z, Asano G: [分担] Liver metastasis model of pancreatic cancer in hamster-Therapeutic experiment-. Recent Advances in Gastroenterological Carcinogenesis I. (Tahara, E, Sugimachi, K, Oohara, T. eds) 1996; pp 593-596, Monduzzi Editore, Bologna.
- 2) Okawa K, Onda M, Miyashita M, Matsutani T, Maruyama H, Akiya Y, Sasajima K, Takeda S, Ogawa R: [分担] Detection of cytokines in bronchoalveolar lavage (BAL) after major surgery. "4th International Congress on The Immune Consequences of Trauma, Shock and Sepsis." 1997; pp 571-574, Monduzzi Editore, Bologna.
- 3) Matsukura N, Onda M, Hasegawa H, Tokunaga A, Hoshino A<sup>1)4)</sup>, Igarashi T<sup>1)4)</sup>, Tanaka S<sup>1)</sup>, Iijima O<sup>2)</sup>, Akiyama K<sup>2)</sup>, Goto T<sup>2)</sup>, Takubo K<sup>3)</sup>, Suzuki S<sup>4)</sup>, Shimada T<sup>4)</sup> (<sup>1)</sup>2nd Dept. Surg, Nippon Medical School, <sup>2)</sup>Tsukuba Labo, Hisamitsu Farm. Co. Inc., <sup>3)</sup>Dept. of Pathol, Tokyo Metropolitan Inst. Gerontol, <sup>4)</sup>Dept. of Bioche. Molecul. Biol, Nippon Medical School): [分担] In situ gene therapy for canine gastric cancer

- induced by N-ethyl-N'-nitro-N-nitrosoguanidine. "Recent Advances in Gastroenterological Carcinogenes (Tahara, E, Sugimachi, K, and Oohara, T. eds.) 1996 ; pp 1201-1205, Monduzzi Editore, Bologna.
- 4) Matsukura N, Asano G : [分担] Anatomy, histology, ultrastructure, stomach, rat. Monograph on Pathology of Laboratory Animals. Digestive System ; 2nd edition 1996 ; pp 281-288, Springer-Verlag, New York.
  - 5) Matsukura N, Onda M, Hasegawa H, Tokunaga A, Hosino A<sup>1)2)</sup>, Igarashi T<sup>1)2)</sup>, Suzuki S<sup>2)</sup>, Shimada T<sup>2)</sup>, Iijima O<sup>3)</sup>, Akiyama K<sup>3)</sup>, Goto T<sup>3)</sup>, Takubo K<sup>4)</sup> (<sup>1)2nd Dept. Surg, <sup>2)Dept. of Biochem. Molecul. Biol, Nippon Medical School, <sup>3)Tsukuba Labo, Hisamitsu Farm. Co. Inc, <sup>4)Dept. of Pathol, Tokyo Metropolitan Inst. of Gerontol.</sup>) : [分担] Gene therapy for gastric cancer : In situ use of suicide gene for canine gastric cancer treatment. Progress in Gastric Cancer Research (Siewert, J. R, and Roder, J. D, eds.) 1997 ; pp 673-676, Monduzzi Editore, Bologna.</sup></sup></sup>
  - 6) Matsutani T, Onda M, Miyashita M, Okawa K, Furukawa K, Akiya Y, Maruyama H, Suzuki H, Yamashita K, Sasajima K : Soluble adhesion molecules and cytokines on the development of complications following major surgery. "4th international congress on the immune consequences of Trauma, shock and sepsis" (Faist, E. ed.) 1997 ; pp 443-447, Monduzzi Editore, Bologna.
  - 7) Miyashita M, Onda M, Sasajima K, Matsutani T, Akiya Y, Okawa K, Maruyama H, Nakamura T, Furukawa K, Yamashita K : Humoral mediators in surgical stress and multiple organ failure. "The immune consequences of traumam shockand sepsis : Mechanisms and therapeutic approaches" (Faist, E, Baue, AE, Schildberg, FW. eds) 1996 ; 256-261, Pabst.
  - 8) Kato S, Onda M, Matsukura N, Tokunaga A, Matsuda N, Yoshiyuki T, Miyashita M, Sasajima K, Yamashita K : Genetic polymorphisms of the cancer related-genes for gastric and esophageal carcinogenesis. Recent Advances in Gastroenterological Carcinogenesis I. (Tahara, E, Sugimachi, K, Oohara, T. eds.) 1996 ; pp 317-320, zMonduzzi Editore, Bologna.
  - 9) 恩田昌彦, 森山雄吉 : イレウスの手術. 消化器外科専門医への道—手術手技の要点とそのコツ—, pp161-172, 金原出版.
  - 10) 恩田昌彦, 森山雄吉 : 癒着剝離術. 消化器外科専門医への道—手術手技の要点とそのコツ—, pp161-172, 金原出版.
  - 11) 内田英二, 恩田昌彦 : [分担] 局限性腹膜炎・腹膜・後腹膜・腹間膜・大網・小網・横隔膜症候群 (恩田昌彦編) 別冊日本臨床 1996 ; pp26-29, 日本臨床社.
  - 12) 加藤俊二, 恩田昌彦 : [分担] 原発性腹膜炎 (primary peritonitis), 日本臨床 : 領域別症候群シリーズ11 : 腹膜, 後腹膜, 腸管膜, 大網, 小網, 横隔膜症候群 1996 ; pp 30-31. 日本臨床社.
  - 13) 横山滋彦, 恩田昌彦 : [分担] イレウス, 軸捻転 今日の救急治療指針 (前川和彦, 相川直樹 総編集) 1996 ; pp 245-248, 医学書院.
  - 14) 吉行俊郎, 恩田昌彦 : [分担] 消化管術後通過障害. 別冊医学のあゆみ, ベッドサイド管理シリーズ, 併存疾患・合併症管理の手引き (沖永功太編集) 1996 ; 医歯薬出版.
  - 15) 笹島耕二, 松谷 毅 : 日和見感染. イラストレイテッド外科ベーシックサイエンス, 1996 ; pp 128-131. 医学書院
  - 16) 松倉則夫, 恩田昌彦 : [分担] 消化性潰瘍の合併症と *Helicobacter pylori*. ヘリコバクター・ピロリ —最新知見からの報告— (原澤 茂, 高橋信一編), 1996 ; pp 261-268, 医薬ジャーナル社.
  - 17) 田尻 孝, 恩田昌彦, 有馬保生 : 急性胆嚢炎. 経静脈治療オーダーマニュアル ; (編集 : 和田孝雄, 小川 龍, 林田憲明) 1996 ; pp 83-86, 大阪メデイカルレビュー社.
  - 18) 田尻 孝, 恩田昌彦, 山下精彦 : [分担] 経門脈的静脈瘤塞栓術 (PTO-TIO)—集学的治療の一環としての順行性塞栓術の意義. 食道・胃静脈瘤 (監修 : 鈴木博昭), 1996 ; pp 220-226. 日本メデイカルセンター.

- 19) 田尻 孝, 恩田昌彦, 梅原松臣:〔分担〕経門脈的副血行路塞栓療法(PTO, TIO):食道・胃静脈瘤の病態と治療。(青木春夫, 小林迪夫 編), 1996; pp 218-223. 医学書院,
- 20) 徳永 昭, 恩田昌彦, 木山輝郎, 藤田逸郎:〔分担〕創傷治療とその分子機構。イラストレイテッド外科 1996; ベーシックサイエンス, 医学書院。
- 21) 古川清憲:〔分担〕乳房:患者のみかた, 身体(局所)の理学所見, 1996; pp 51-57.; Emergency Nursing 新春増刊, メチカ出版。
- 22) 古川清憲, 恩田昌彦:〔分担〕腹膜炎; 腹膜・後腹膜・腸管膜・大網・小網・横隔膜症候群—その他の関連疾患を含めて—, 1996; pp 68-71. 日本臨床。
- 23) 古川清憲, 恩田昌彦:〔分担〕術後合併症, 便秘と下痢:外科病棟医のための術前・術後管理, (菅原克彦監修, 小澤和恵, 杉町圭蔵, 松野正紀編集)。1996; pp 184-185. 金原出版。
- 24) 松倉則夫, 恩田昌彦, 内藤善哉:後腹膜血管周皮細胞腫(腹膜・後腹膜・腸間膜・大網・小網・横隔膜症候群—その他の関連疾患を含めて—)。領域別症候群シリーズ No.11, 1996; 別冊:105-107, 日本臨床。

## 学会発表

〔1995年度追加分〕

一般講演:

- 1) Iida S, Onda M, Okuda T, Takita M, Shirakawa T, Teramoto T, Oguri T, Fujita I, Kiyama T, Yoshiyuki T, Matsukura N, Tokunaga A, Yamashita K, Okihama Y<sup>1)</sup>, Maeda S<sup>2)</sup>, Katayama H<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>付属多摩永山病院消化器科, <sup>2)</sup>同病理部): Expression of epidermal growth factor receptor and pS-2 in healing of human gastric ulcer. 5th Annual Meeting of the European Tissue Repair Society (Padova), 1995. 8.
- 2) Gao X-p, Suzuki H, Jaffe HA, Olopade CO, Rubinstein I: Adenosine-induced plasma exudation in the buccal musosa. American Societies for Experimental Biology Annual meeting (Atlanta), 1995. 4.
- 3) Gao X-p, Suzuki H, Jaffe HA, Olopade CO, Swedler WI, Rubinstein I: Methotrexate potentiates bradykinin-induced plasma exudation in vivo. American Lung Association/American Thoracic Society International Conference (Seattle), 1995. 5.
- 4) Gao X-p, Suzuki H, Olopade CO, Rubinstein I, Jaffe HA: Regulation of arteriolar diameter during short-term exposure to lipopolysaccharide in vivo. American Lung Association/American Thoracic Society International Conference (Seattle), 1995. 5.
- 5) Gao X-p, Suzuki H, Jaffe HA, Olopade CO, Rubinstein I: Mechanism of tannic acid-induced plasma exudation in vivo. American Lung Association/American Thoracic Society International Conference (Seattle), 1995. 5.
- 6) Suzuki H, Gao X-p, Pakhlevaniants S, Olopade CO, Jaffe HA, Rubinstein I: Effect of lipopolysaccharide on agonist-induced plasma exudation in vivo. Federation of American Societies for Experimental Biology Annual meeting (Atlanta), 1995. 4.
- 7) Suzuki H, Paul S, Noda Y, Rubinstein I: Encapsulation of vasoactive intestinal peptide into liposomes potentiates its vasorelaxant effects in vivo. The 15th World Congress of the International Society for Heart Research (Prague, Czech Republic), 1995. 7.
- 8) Suzuki H, Gao X-p, Olopade CO, Jaffe HA, Pakhlevaniants S, Rubinstein I: Smokeless tobacco impairs endothelium-dependent vasodilation in vivo. 3rd International Congress on Heart Failure-Mechanism and Management (Geneva, Switzerland), 1995. 5.
- 9) Rubinstein I, Gao X-p, Olopade CO, Suzuki H, Pakhlevaniants S, Jaffe HA: Potentiation of smokeless tobacco-induced plasma exudation in vivo by neutral endopeptidase and angiotensin I-converting enzyme

inhibitors. American Societies for Experimental Biology Annual meeting (Atlanta), 1995. 4.

- 10) Olopade CO, Gao X-p, Suzuki H, Jaffe HA, Pakhlevanians S, Rubinstein I: Nitric oxide modulates smokeless tobacco-induced plasma exudation in the buccal mucosa. American Societies for Experimental Biology Annual meeting (Atlanta), 1995. 4.
- 11) 飯田信也, 恩田昌彦, 徳永 昭, 奥田武志, 小栗 剛, 寺本 忠, 藤田逸郎, 木山輝郎, 吉行俊郎, 松倉則夫, 山下精彦, 沖浜裕司<sup>1)</sup>, 松田 健<sup>1)</sup>, 前田昭太郎<sup>2)</sup>, 片山博徳<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>付属多摩永山病院消化器科, <sup>2)</sup>同病理部): 胃潰瘍修復過程を創傷治癒機転から解析する. 第25回創傷治癒研究会, 1995. 12.
- 12) 坂東功一, 恩田昌彦, 宮下正夫, 高橋由至, 瀧田雅仁, 松谷 毅, 大川敬一, 松田 健, 笹島耕二, 山下精彦, 氏原康之<sup>1)</sup>, 田久保海誉<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>館山病院外科, <sup>2)</sup>東京都老人医療センター病理): Neoadjuvant chemotherapy が著効した進行食道癌の1例. 第235回日本消化器病学会関東支部例会, 1995. 7.
- 13) 坂東功一, 恩田昌彦, 宮下正夫, 高橋由至, 瀧田雅仁, 松谷 毅, 大川敬一, 松田 健, 笹島耕二, 山下精彦, 氏原康之<sup>1)</sup>, 田久保海誉<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>館山病院外科, <sup>2)</sup>東京都老人医療センター病理): Neoadjuvant chemotherapy が著効した進行食道癌の1例. 第63回日本医科大学医学会総会, 1995. 9.
- 14) 山口敏和, 暉 暁青, 野村幸男, 内田英二, 中村慶春: 膵液での k-ras コドン12点突然変異解析の臨床的意義. 第55回日本癌学会総会, 1995. 4.
- 15) 長澤重直, 森山雄吉, 京野昭二, 横井公良, 小川芳雄, 木山輝郎, 瀬谷知子, 山下直行, 打越康信<sup>1)</sup>, 大秋美治<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学千葉北総病院外科, <sup>2)</sup>同病理部): 直腸 stromal tumor の一症例. 東葛大腸フォーラム, 1995. 11.
- 16) 渡 潤<sup>1)</sup>, 田島広之<sup>1)</sup>, 天野康雄<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>, 恩田宗彦<sup>2)</sup>, 原口秀司<sup>3)</sup>, 小泉 潔<sup>3)</sup>, 梅原松臣, 田尻 孝(<sup>1)</sup>放射線科, <sup>2)</sup>第2 病理, <sup>3)</sup>第2 外科): 前縦隔に発生した粘液嚢胞腺癌の1例. 第31回日本放射線学会秋季臨床大会胸部放射線研究会, 1995. 10.

(1) 特別講演:

- 1) 田尻 孝: シャント手術の変遷と成績. 第8回東京神奈川 TIPS 勉強会, 1996. 11.
- 2) 古川清憲: 急性腹症. 日本医師会生涯教育セミナー, 富岡・藤岡医師会, 1996.

(2) シンポジウム:

- 1) 高崎秀明, 恩田昌彦, 山田岳史, 秋谷行宏, 佐々部一, 金沢義一, 丸山 弘, 横山滋彦, 吉村和泰, 樋口勝美, 古川清憲, 田中宣威: 他科術後イレウス症例の検討. 第27回日本腹部救急医学会総会, 1996. 9.
- 2) 松倉則夫, 恩田昌彦, 星野有哉<sup>1)3)</sup>, 長谷川博一, 五十嵐健人<sup>1)3)</sup>, 田中茂夫<sup>1)</sup>, 飯島 修<sup>2)</sup>, 秋山勝彦<sup>2)</sup>, 後藤 武<sup>2)</sup>, 鈴木 聡<sup>3)</sup>, 島田 隆<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>第2 外科, <sup>2)</sup>久光製薬筑波研, <sup>3)</sup>第2 生化): 経内視鏡的 in situ 遺伝子導入によるイヌ実験胃癌の遺伝子治療 (主題: 消化器癌の遺伝子診断とその治療への展開). 第48回日本消化器外科学会総会, 1996. 7.
- 3) 田尻 孝, 恩田昌彦, 梅原松臣, 金 徳栄, 隈崎達夫: 門脈圧亢進症に対する外科治療とエンボリゼーション. 第55回日本医学放射線学会学術発表会, 1996. 4.
- 4) 内田英二, 恩田昌彦, 田尻 孝: 膵管内視鏡および k-ras 癌遺伝子による膵癌の診断. (肝・胆・膵疾患の内視鏡診断・治療の最近の動向). 第63回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 1996. 11.
- 5) 大川敬一, 恩田昌彦, 松倉則夫, 徳永 昭, 加藤俊二, 秋谷行宏, 白川 毅, 山下精彦: 輸送培地での *Helicobacter pylori* 検出感度の向上: 13C-呼吸試験, 胃液 PCR 法との比較. 第63回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 1996. 11.
- 6) 清水一雄<sup>1)</sup>, 高津圭介<sup>1)</sup>, 秋山博彦<sup>1)</sup>, 梅原松臣, 内田英二, 田尻 孝, 周東裕仁<sup>2)</sup>, 若林一二<sup>2)</sup>, 恩田昌彦, 田中茂夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第2 外科, <sup>2)</sup>第3 内科): 頻繁な意識消失発作を起こす巨大 pancreatic islet cell carcinoma に対して緊急手術を要した1治験例. 第8回日本内分泌外科学会総会, 1996. 4.

(3) ワークショップ：

- 1) 吉田 寛, 恩田昌彦, 田尻 孝, 金 徳栄, 梅原松臣, 真々田裕宏, 西久保秀紀, 谷合信彦, 松本智司, 小嶋隆行, 松崎 栄, 山本一仁, 廣瀬洋一郎, 金子昌裕, 田島廣之<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線科)：原発性肝癌破裂例の治療成績の検討。第28回日本腹部救急医学会総会, 1997. 3.
- 2) 松倉則夫, 恩田昌彦, 星野有哉<sup>1)3)</sup>, 五十嵐健人<sup>1)3)</sup>, 長谷川博一, 田中茂夫<sup>1)</sup>, 飯島 修<sup>2)</sup>, 秋山勝彦<sup>2)</sup>, 後藤 武<sup>2)</sup>, 田久保海誉<sup>3)</sup>, 鈴木 聡<sup>4)</sup>, 島田 隆<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>第2外科, <sup>2)</sup>久光製薬筑波研, <sup>3)</sup>都老人研病理, <sup>4)</sup>第2生化)：イヌ実験胃癌の遺伝子治療(主題：がんの遺伝子治療)。第55回日本癌学会総会, 1996. 10.
- 3) 松倉則夫, 恩田昌彦, 徳永 昭, 加藤俊二, 吉行俊郎, 木山輝郎, 山下精彦：十二指腸潰瘍穿孔に対する大網充填術の選択と術後の *Helicobacter pylori* 感染治療(主題：消化性潰瘍に対する治療の選択)。第21回日本外科系連合会学術集会, 1996. 6.
- 4) 松倉則夫, 恩田昌彦：消化性潰瘍外科治療後の内視鏡下採取胃液中 *H. pylori* の PCR 法による検索と除菌治療(主題：分子生物学と内視鏡)。第52回日本消化器内視鏡学会総会, 1996. 9.

(4) ビデオシンポジウム：

- 1) Tajiri T, Onda M, Arima Y, Higuchi K, Umehara M, Saitoh T, Maruyama H, Matsuzaki S, Kojima T, Yamamoto K, Kuroda H<sup>1)</sup>, Yamashita K (<sup>1)</sup>第3内科)：Laparoscopic splenectomy after Partial Splenic Artery Embolization (PSE). ELSA(Endoscopic and laparoscopic surgery in asia)-Thailand Endosurgery Congress. (Hua-Hin,Thailand), 1996. 10.

(5) パネルディスカッション：

- 1) 佐々部一, 恩田昌彦, 田中宣威, 山下精彦, 森山雄吉, 古川清憲, 横井公良, 高崎秀明, 吉村和泰, 横山滋彦, 丸山 弘, 金沢義一, 山田岳史, 秋谷行宏, 永嶋裕司：radiopaque marker および選択的小腸内圧測定による癒着性イレウスの診断。第27回日本腹部救急医学会総会, 1996. 9.

(6) ラウンドテーブルディスカッション：

- 1) 吉村和泰, 恩田昌彦, 田中宣威, 古川清憲, 横井公良, 高崎秀明, 樋口勝美, 横山滋彦, 瀬谷知子, 菅 隼人, 丸山 弘, 金沢義一, 佐々部一, 山田岳史, 秋谷行宏, 山下精彦：大腸癌によるイレウス症例の検討。第26回日本腹部救急医学会総会, 1996. 3.

(7) サージカルフォーラム：

- 1) 内田英二, 恩田昌彦, 井上松応, 中村慶春, 相本隆幸, 山中洋一郎, 小林 匡, 横山 正, 田尻 孝, 江上 格, 山下精彦, 内藤善哉<sup>1)</sup>, 浅野伍朗<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理)：ハムスター痔癌肝転移モデルを用いた肝転移抑制実験：移植痔腫瘍切除および血管新生阻害剤(TNP470)の効果。第96回日本外科学会総会, 1996. 4.

(8) 診療と研究のビューポイント：

- 1) 白川 毅, 恩田昌彦, 徳永 昭, 藤田逸郎, 瀧田雅仁：開腹術後免疫抑制に関する研究；局所浸出液中のサイトカインの影響。第28回日本腹部救急医学会総会, 1997. 3.

(9) 一般講演：

- 1) Hiramoto Y, Onda M, Tokunaga A, Oguri T, Ikeda K, Takita M, Shirakawa T, Teramoto T, Fujita I, Okuda T, Mizutani T, Kiyama T, Yoshiyuki T, Matsukura N, Asano G：Expression of trefoil group antigen pS2 in benign and malignant human gastric disease.The First International Conference on Gastroenterological Carcinogenesis, 1996. 10.
- 2) Iida S, Onda M, Tokunaga A, Okuda T, Takita M, Shirakawa T, Teramoto T, Oguri T, Fujita I, Kiyama T, Maeda S<sup>1)</sup>, Katayama H<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属多摩永山病院病理部)：Expression of epidermal growth factor receptor and transforming growth factor- $\alpha$  in healing of human gastric ulcer. 2nd Joint Meeting of The Wound Healing Society and The European Tissue Repair Society (Boston), 1996. 5.
- 3) Kato S, Onda M, Matsukura N, Tokunaga A, Matsuda N, Higuchi K, Furukawa K, Yamashita K, Shields



- PG : Cytochrome p450 1A1 (CYP1A1) and glutathione-S-transferase M1 (GSTM1) genetic polymorphisms for gastric and breast cancer risk. 87th American Association for Cancer Research Meeting (Washington DC), 1996. 4.
- 4) Maruyama H, Onda M, Furukawa K, Tanaka N, Tajiri T, Arima Y, Higuchi K, Miyashita M, Umehara M, Saito T, Suzuki H, Ishikawa N, Akiya Y, Yamashita K : A review of twenty-one cases of liver abscess. China, 1996. 10.
  - 5) Matsukura N, Onda M, Shirakawa T, Takita M, Akiya Y, Okawa K, Tokunaga A, Tomtitchong P, Yamada N<sup>1)</sup>, Motoyoshi M<sup>2)</sup> (<sup>1</sup>2nd Dept. Pathol, Nippon Medical School, <sup>2</sup>Kazusa memorial Hosp.) : *H. pylori* eradication with lansoprazole, amoxicillin and polaprezinc : Novel mucosal protective agent. International Workshop on *Helicobacter pylori* (Hong Kong), 1996. 12.
  - 6) Matsukura N, Onda M, Hoshino A<sup>1)2)</sup>, Igarashi T<sup>1)2)</sup>, Hasegawa H, Tomtitchong P, Tanaka S<sup>1)</sup>, Suzuki S<sup>2)</sup>, Shimada T<sup>2)</sup> (<sup>1</sup>2nd Dept. Surg, <sup>2</sup>Dept. of Biochem. Molecul. Biol, Nippon Medical School) : In situ gene therapy with endoscopy for experimental canine gastric cancer. ELSA-Thailand Endosurgery Congress (Hua-Hin), 1996. 10.
  - 7) Matsukura N, Onda M, Kato S, Tokunaga A, Yamashita K, Hayashi A<sup>1)</sup> (<sup>1</sup>Mitsubishi Kagaku BCL) : Strain diversity of *Helicobacter pylori* among gastric cancer, chronic gastritis and peptic ulcer in Japan. 87th American Association for Cancer Research Meeting (Washington DC), 1996. 4.
  - 8) Matsukura N, Onda M, Kato S, Tokunaga A, Yamashita K : Positivity and strain diversity of *Helicobacter pylori* DNA in the gastric juice of patients with superficial gastritis, chronic atrophic gastritis or gastric cancer. 第2回日本消化器 *Helicobacter pylori* 研究会, 1996. 4.
  - 9) Matsukura N, Onda M, Shirakawa T, Takita M, Akiya Y, Okawa K, Yoshiyuki T, Hasegawa H, Kato S, Tokunaga A, Yamahatsu J, Yamashita K : High eradication rate of *Helicobacter pylori* with lansoprazole+amoxicillin+ecabet sodium : New triple therapy with novel mucosal protective agent for the treatment of peptic ulcer. Digestive Disease Week (San Francisco), 1996. 5.
  - 10) Matsukura N, Onda M, Tokunaga A, Kato S, Hasegawa H, Okawa K, Akiya Y, Shirakawa T, Takita M, Yamahatsu J : Positivity of *Helicobacter pylori* DNA and cytotoxin genes in the gastric juice of patients with superficial gastritis, chronic atrophic gastritis or gastric cancer. 10th Asian-Pacific Congress of Gastroenterology and 7th Asian-Pacific Congress of Digestive Endoscopy (Yokohama), 1996. 9.
  - 11) Matsukura N, Onda M, Tokunaga A, Kato S, Yoshiyuki T, Hasegawa H, Yamashita K, Tomtitchong P : Role of *Helicobacter pylori* infection in perforation of peptic ulcer : An age and gender matched case-control study. Taisho International Symposium on Gastroenterology (Shimoda), 1996. 4.
  - 12) Matsutani T, Onda M, Miyashita M, Okawa K, Furukawa K, Akiya Y, Maruyama H, Suzuki H, Yamashita K, Sasajima K : The role of adhesion molecules on the development of complications following major surgical stress. 4th international congress on the immune consequences of trauma, shock and sepsis, mechanisms and therapeutic approaches (Munich, Germany), 1997. 3.
  - 13) Miyashita M, Onda M, Okawa K, Mori M, Sasajima K, Matsutani T, Takubo K, Yamashita K : Distribution of glutathione S-transferase (GST-pi) in normal and malignant esophageal cells. Proc Ameri Assoc Cancer Res (Washington DC, USA), 1996. 4.
  - 14) Tanaka N, Onda M, Seya T, Kanazawa Y, Furukawa K, Higuchi K, Takasaki H, Yoshimura K, Yokoyama S, Kan H, Maruyama H, Sasabe H, Yamada T, Naito Z, Asano G : Effect of octreotide acetate and 5-fluorouracil on the human rectal neuroendocrin carcinoma (adenocarcinoid) xenograft in nude mice. 5th United European Gastroenterology Week (Paris), 1996. 11.

- 15) Nakamura Y, Onda M, Uchida E, Inoue M, Yamamura S, Matsutani T, Maruyama H, Yokoyama S, Ishikawa N, Tajiri T, Yamashita K, Yamaguchi T : Peroral transpapillary pancreatoscopy under the administration of sub-lingual nitroglycerin. 10th Asian-Pacific Congress of Gastroenterology (APCGE), 7th Asian-Pacific Congress of Digestive Endoscopy (APCDE) (Yokohama), 1996. 9.
- 16) Nakamura Y, Onda M, Uchida E, Inoue M, Yamamura S, Matsutani T, Maruyama H, Yokoyama S, Ishikawa N, Tajiri T, Yamashita K, Yamaguchi T : Peroral transpapillary pancreatoscopy under the administration of sub-lingual nitroglycerin. 7th Asian-Pacific Congress of Digestive Endoscopy (APCDE) (Yokohama), 1996. 9.
- 17) Seya T, Tanaka N, Onda M, Kanazawa Y, Furukawa K, Takasaki H, Yoshimura K, Kan H, Maruyama H, Sasabe H, Yamada T, Naito Z, Asano G, Takizawa T, Ide Y : Expression of the transforming growth factor alpha, epidermal growth factor and epidermal growth factor Receptor, in colorectal cancer and Its liver Metastasis. 5th United European Gastroenterology Week (Paris), 1996. 11.
- 18) Takita M, Onda M, Tokunaga A, Teramoto T, Oguri T, Ikeda K, Shirakawa T, Okuda T, Kiyama T, Yoshiyuki T, Matsukura N : Putative TGF- $\alpha$ /EGF receptor loop is frequently expressed in liver metastatic gastric Cancer. 12th INTERNATIONAL SEMINAR and 6th GENERAL ASSEMBLY of WHO-CC-GC (Seoul), 1996. 9.
- 19) Yamada T, Onda M, Tanaka N, Seya T, Kanazawa Y, Furukawa K, Higuchi K, Takasaki H, Yoshimura K, Yokoyama S, Kan H, Maruyama H, Sasabe H : Establishment and characterization of a new human hectal neuroendocrine carcinoma cell Line : 5th United European Gastroenterology Week (Paris), 1996. 11.
- 20) Kato S, Onda M, Matsukura N, Tokunaga A, Matsuda N, Miyashita M, Sasajima K, Yamashita K, Shields PG : GENETIC POLYMORPHISMS OF THE CANCER RELATED GENE FOR THE GASTRIC AND ESOPHAGEAL CARCINOGENESIS. The First International Conference on Gastroenterological Carcinogenesis (Hiroshima), 1996. 10.
- 21) Kiyama T, Onda M, Tokunaga A, Shirakawa T, Takita M, Oguri T, Teramoto T, Fujita I, Iida S, Matsukura N, Yamashita K, Sugisaki Y<sup>1)</sup>, Todome Y<sup>2)</sup>, Ohkuni H<sup>2)</sup> (<sup>1</sup>)Dept. of Pathology, <sup>2</sup>Institute of Gerontol) : EXPRESSION OF HEAT SHOCK PROTEIN 70 IN THE HEALING PROCESS OF PEPTIC ULCER. 2nd Joint Meeting of The Wound Healing Society and The European Tissue Repair Society (Boston, U.S.A.), 1996. 5.
- 22) Oguri T, Onda M, Tokunaga A, Teramoto T, Takita M, Shirakawa T, Ikeda K, Hiramoto Y, Okuda T, Fujita I, Mizutani T, Yoshiyuki T, Kiyama T, Matsukura N, Asano G<sup>1)</sup> (<sup>1</sup>)Dept. of Pathology) : Expression of trefoil group antigen pS2 in benign and malignant human gastric diseases. The First International Conference on Gastroenterological Carcinogenesis, (Hiroshima), 1996. 10.
- 23) Okawa K, Onda M, Miyashita M, Matsutani T, Maruyama H, Akiya Y, Sasajima K, Takeda S, Ogawa R : Detection of cytokines in bronchoalveolar lavage (BAL) after major surgery. 4th International Congress on The Immune Consequences of Trauma, Shock and Sepsis (Munich), 1997. 3.
- 24) Okawa K, Onda M, Miyashita M, Matsutani T, Maruyama H, Akiya Y, Sasajima K, Takeda S, Ogawa R : The role of adhesion molecules on the development of complications following major surgical stress. 4th International Congress on The Immune Consequences of Trauma, Shock and Sepsis, Mechanisms and Therapeutic Approaches (Munich, Germany), 1997. 3.
- 25) Shirakawa T, Onda M, Tokunaga A, Fujita I, Teramoto T, Takita M, Furukawa K, Higuchi K, Kiyama T, Yoshiyuki T, Matsukura N, Yamashita K : Possible Immunosuppressive activity of PGE2 and TGF- $\beta$ in

- Peritoneal and Wound Fluids Surgery. 2nd Joint Meeting of The Wound Healing Society and The European Tissue Repair Society (Boston, U.S.A.), 1996. 5.
- 26) Shirakawa T, Onda M, Tokunaga A, Fujita I, Teramoto T, Takita M, Hiramoto Y, Oguri T, Okuda T, Kiyama T, Yoshiyuki T, Kato S, Miyashita M, Matsukura N, Yamashita K : Role of peritoneal lavage smears and gastric wall brushing smears in gastric cancer surgery. 12th International Seminar and 6th General Assembly of WHO-CC-GC (Seoul, Korea), 1996. 9.
  - 27) Suzuki H, Rubinstein I, Gao X-p : Pseudomonas aeruginosa lipopolysaccharide elicits immediate vasodilation in situ. Federation of American Societies for Experimental Biology Annual meeting (Washington, D. C.), 1996. 4.
  - 28) Suzuki H, Gao X-p, Alkan HO, Sejourne F, Rubinstein I : Neutral endopeptidase modulates vasoactive intestinal peptide-induced vasodilation in the oral mucosa. American Lung Association/American Thoracic Society International Conference (New Orleans), 1996. 5.
  - 29) Suzuki H, Rubinstein I, Gao X-p : Immediate biphasic vasomotor response to E. coli lipopolysaccharide in the spinotrapezius muscle in situ. American Lung Association/American Thoracic Society International Conference (New Orleans), 1996. 5.
  - 30) Suzuki H, Sejourne F, Alkan-Onyulsel H, Gao X-p, Rubinstein I : Effects of vasoactive intestinal peptide encapsulated into liposomes on hypertension. 4th World Congress on Heart Failure -Mechanism and Treatment (Jerusalem, Israel), 1996. 5.
  - 31) Sejourne F, Alkan-Onyulsel H, Suzuki H, Rubinstein I : Development of a bioactive formulation of vasoactive intestinal peptide in sterically stabilized liposomes. American Federation for Clinical Research (Chicago), 1996. 9.
  - 32) Sejourne F, Rubinstein I, Suzuki H, Alkan-Onyuksel H : Development of a bioactive formulation of vasoactive intestinal peptide in sterically stabilized liposomes. American Association of Pharmaceutical Scientists (Seattle), 1996. 11.
  - 33) Tokunaga A, Onda M, Oguri T, Takita M, Shirakawa T, Ikeda K, Hiramoto Y, Yoshiyuki T, Kiyama T, Matsukura N : Role of Trefoil growth factor pS2, TGF- $\alpha$  and EGF receptor in human gastric carcinogenesis. The First International Conference on Gastroenterological Carcinogenesis, (Hiroshima), 1996. 10.
  - 34) Tokunaga A, Onda M, Oguri T, Okuda T, Takita M, Shirakawa T, Fujita I, Mizutani T, Kiyama T, Yoshiyuki T, Matsukura N, Yamashita K, Asano G<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>Dept of Pathology) : Gastric phenotypic epithelium of duodenal ulcer healing revealed by pS2 immunohistochemistry. 10th Asian-Pacific Congress of Gastroenterology (Seoul), 1996. 9.
  - 35) Tomtitchong P, Onda M, Matsukura N, Tokunaga A, Yamada N<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>2nd Dept. Pathol, Nippon Medical School) : *H. pylori* infection in the gastric remnant after gastrectomy for gastric cancer or peptic ulcer. International Workshop on *Helicobacter pylori* (Hong Kong), 1996. 12.
  - 36) Uchida E, Onda M, Inoue M, Yamamura S, Yokoyama T, Aimoto T, Kobayashi T, Yamanaka Y, Nakamura Y, Aida M, Tajiri T, Egami K, Yamashita K, Naito Z<sup>1)</sup>, Asano G<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>2nd Dept. Pathol) : The effect of primary pancreatic tumor on induction of liver metastasis in intrapancreatic transplantation model in hamster. First combined meeting of the European Pancreatic Club and International Association of Pancreatology (Mannheim, Germany), 1996. 6.
  - 37) Uchida E, Onda M, Inoue M, Yamamura S, Yokoyama T, Aimoto T, Kobayashi T, Yamanaka Y, Nakamura Y, Tajiri T, Egami K, Yamashita K, Naito Z, Asano G : Liver metastasis model of pancreatic

- cancer in hamster-Therapeutic experiment-. The First International Conference on Gastroenterological Carcinogenesis (Hiroshima), 1996. 10.
- 38) Yoshimura K, Onda M, Tanaka N, Takasaki H, Furukawa K, Higuchi K, Seya T, Yokoyama S, Kan H, Maruyama H, Sasabe H, Yamada T : Long-term outcome following surgery for malignant large bowel obstruction. 5th United European Gastroenterology Week (Paris), 1997. 11.
- 39) Yamashita N, Onda M, Minamoto T<sup>1)</sup>, Tanaka N, Arimura Y<sup>2)</sup>, Ochiai A<sup>3)</sup>, Moriyama Y<sup>4)</sup>, Kyohno S<sup>4)</sup>, Yokoi K<sup>4)</sup>, Yamashita K<sup>4)</sup>, Mai M<sup>1)</sup>, Esumi H<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>Kanazawa University, Cancer Research Institute, Dept. of Surgery, <sup>2)</sup>National Cancer Center, Research Institute, East, Investigative Treatment Div, <sup>3)</sup>National Cancer Center, Research Institute, Pathol. Div, <sup>4)</sup>Nippon Med. Sch, Chiba-Hokusoh Hosp, Dept. of Surg.) : Low Incidence of aberrant crypt foci (ACF) in hereditary non-polyposis colorectal cancer (HNPCC) patients. First International Conference of Gastrointestinal Carcinogenesis (Hiroshima), 1996. 10.
- 40) Yoshiyuki T, Onda M, Tokunaga A, Shirakawa T, Takita M, Fujita I, Teramoto T, Oguri T, Kiyama T, Kato S, Miyashita M, Matsukura N, Yamashita K : EVALUATION OF PREOPERATIVE CHEMOTHERAPY FOR ADVANCED GASTRIC CANCER. WHO collaborating center for gastric cancer. 12th international seminar, 6th general assembly (Seoul), 1996. 9.
- 41) Artwohl JE, Suzuki H, Gao X-p, Rubinstein I : Initial characterization of hamsters with spontaneous hypertension. Federation of American Societies for Experimental Biology Annual meeting (Washington, D. C.), 1996. 4.
- 42) Esumi H<sup>1)</sup>, Sugiyama K<sup>1)</sup>, Ohtori K<sup>1)</sup>, Yamashita N, Arimura Y<sup>1)</sup>, Oda Y<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>National Cancer Center, Research Institute, East, Investigative Treatment Div.) : Molecular histogenesis of early colon tumor. First International Conference of Gastrointestinal Carcinogenesis (Hiroshima), 1996. 10.
- 43) 井上松広<sup>1)</sup>, 滝沢隆雄<sup>1)</sup>, 三島雅辰<sup>1)</sup>, 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 会田邦晴<sup>1)</sup>, 井出裕雄<sup>1)</sup>, 斎藤了一<sup>2)</sup>, 阿部 豊<sup>2)</sup>, 恩田昌彦<sup>3)</sup>, 田尻 孝<sup>3)</sup>, 内田英二<sup>3)</sup>, 有馬保生<sup>3)</sup>, 美濃部かおり<sup>3)</sup>, 中村慶春<sup>3)</sup>, 内藤善哉<sup>3)</sup> (<sup>1)</sup>下谷病院外科, <sup>2)</sup>下谷病院放射線科, <sup>3)</sup>日本医科大学第1外科) : 粘液産生を契機に発見された早期胆管癌 (m 癌) の 1 例. 第49回日本消化器外科学会総会, 1997. 2.
- 44) 永嶋裕司, 恩田昌彦, 田中宣威, 山下精彦, 森山雄吉, 古川清憲, 横井公良, 樋口勝美, 高崎秀明, 吉村和泰, 横山滋彦, 丸山 弘, 佐々部一, 金沢義一, 山田岳史, 秋谷行宏, 前澤勝美 : S 状結腸捻転に小腸捻転陥入を合併した 1 例. 第27回日本腹部救急医学会総会, 1996. 9.
- 45) 峯田 章, 恩田昌彦, 田中宣威, 古川清憲, 樋口勝美, 高崎秀明, 吉村和泰, 横山滋彦, 丸山 弘, 金沢義一, 山田岳史, 金子昌裕, 永嶋裕司, 山下精彦 : 横行結腸間膜より発生した腹腔内デスマイド腫瘍の 1 例. 第242回日本消化器病学会関東支部会, 1996. 12.
- 46) 岡崎滋樹, 恩田昌彦, 江上 格, 田尻 孝, 内田英二, 和田雅世, 横室茂樹 : ERCP から見た十二指腸傍乳頭憩室の検討. 第48回日本消化器外科学会総会, 1996. 7.
- 47) 加藤俊二, 恩田昌彦, 松田範子, 梅原松臣, 松倉則夫, 金 徳栄, 田尻 孝, 山下精彦 : 肝硬変症例の肝癌発症における宿主側の因子 : 発癌物質の代謝に関与するチトクローム P4502E1 (CYP2E1), CYP1A1, Glutathione-S-transferase M1 および L-myc, p53 遺伝子の多型性分析による危険度予測. 第32回日本肝臓学会, 1996. 4.
- 48) 加藤俊二, 恩田昌彦, 徳永 昭, 梅原松臣, 松倉則夫, 金 徳栄, 田尻 孝, 山下精彦 : アルコール代謝酵素の個体差による肝硬変発症の危険性 : alcohol dehydrogenase 2 (ADH2), cytochrome p450 (CYP) 2E1 および glutathione-S-transferase (GST) 遺伝子の多様性からみた解析. 第38回日本消化器病学会, 1996. 9.
- 49) 加藤俊二, 恩田昌彦, 松倉則夫, 松田範子, 樋口勝美, 古川清憲, 徳永 昭, 山下精彦 : 胃癌, 乳癌の発生における宿主側の因子 : 発癌物質の代謝活性化や解毒に関与する酵素およびビタミン D 受容体遺伝子の多様性と発癌感受性. 第55回日本癌学会総会, 1996. 10.

- 50) 加藤俊二, 恩田昌彦, 田尻 孝, 松田範子, 梅原松臣, 松倉則夫, 金 徳栄, 徳永 昭, 山下精彦: 術後肝障害の発生に關与する宿主側の因子: C 型肝炎の感染と glutathione-S-transferase M1 (GSTM1) 遺伝子多型による薬物解毒酵素の欠損. 第31回日本肝臓学会東部会, 1996. 11.
- 51) 加藤俊二, 恩田昌彦, 徳永 昭, 吉行俊郎, 松倉則夫, 山下精彦: 胃癌手術後の肝障害の発生に対する手術術式の影響と解毒酵素である glutathione-S-transferase M1 (GSTM1) 遺伝子の関与. 第48回日本消化器外科学会, 1996. 7.
- 52) 加藤俊二, 恩田昌彦, 徳永 昭, 吉行俊郎, 松倉則夫, 山下精彦: 胃癌手術後の高度肝障害発生の予測: 多変量解析による危険因子の判定と相対危険度による評価. 第49回日本消化器外科学会, 1997. 2.
- 53) 加藤俊二, 恩田昌彦, 徳永 昭, 松倉則夫, 山下精彦: 胃癌手術症例における術後肝障害の発生と C 型肝炎の感染および Glutathione S-transferase (GST) 酵素, チトクローム p450 (CYP450) 酵素の遺伝子多型性分析による宿主因子の関与. 第96回日本外科学会総会, 1996. 4.
- 54) 加藤俊二, 恩田昌彦, 徳永 昭, 木山輝郎, 吉行俊郎, 宮下正夫, 松倉則夫, 笹島耕二, 山下精彦: 胃癌術後症例における骨粗鬆症発症予測の試み: Vitamin D レセプター遺伝子の多型性と骨粗鬆症素因の關係. 第9回胃癌術後障害研究会, 1996. 11.
- 55) 丸山 弘, 恩田昌彦, 古川清憲, 田中宣威, 樋口勝美, 高崎秀明, 吉村和泰, 斎藤忠生, 鈴木英之, 横山滋彦, 金沢義一, 秋谷行宏, 芦苺正幸, 前澤勝美, 山下精彦: 非穿孔性急性虫垂炎の術後感染の発症要因と対策. 第9回日本外科感染症研究会, 1996. 12.
- 56) 吉行俊郎, 恩田昌彦, 徳永 昭, 瀧田雅仁, 白川 毅, 寺本 忠, 小栗 剛, 木山輝郎, 斎藤忠生, 加藤俊二, 宮下正夫, 有馬保生, 松倉則夫, 山下精彦<sup>1)</sup>, 田中茂夫<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>千葉北総病院外科, <sup>2)</sup>第2外科): 重症心疾患を有する胃癌患者の手術例の検討. 第58回日本臨床外科医学会総会, 1996. 10.
- 57) 吉行俊郎, 恩田昌彦, 徳永 昭, 平本義浩, 池田研吾, 瀧田雅仁, 白川 毅, 長谷川博一, 加藤俊二, 宮下正夫, 松倉則夫, 山下精彦<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>千葉北総病院外科): 重症心疾患を有する胃癌患者の術前心機能評価の検討. 第26回胃外科研究会, 1997. 3.
- 58) 吉行俊郎, 恩田昌彦, 徳永 昭, 木山輝郎, 白川 毅, 瀧田雅仁, 加藤俊二, 宮下正夫, 有馬保生, 松倉則夫, 田尻 孝: 胃切除後胃排他能および胃全摘後の腸管運動の検討. 第9回胃癌術後障害研究会, 1996. 11.
- 59) 吉行俊郎, 恩田昌彦, 徳永 昭, 瀧田雅仁, 白川 毅, 寺本 忠, 小栗 剛, 木山輝郎, 宮下正夫, 松倉則夫, 山下精彦: UFT, CDDP 併用術前化学療法の効果: 5-FU, CDDP 療法との比較. 第48回日本消化器外科学会総会, 1996. 7.
- 60) 吉行俊郎, 恩田昌彦, 徳永 昭, 瀧田雅仁, 白川 毅, 小栗 剛, 木山輝郎, 加藤俊二, 宮下正夫, 松倉則夫, 山下精彦<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>千葉北総病院外科): 進行胃癌に対する UFT・CDDP 併用化学療法の効果: 5-FU・CDDP 療法との比較. 第34回日本癌治療学会総会, 1996. 11.
- 61) 吉行俊郎, 恩田昌彦, 徳永 昭, 瀧田雅仁, 白川 毅, 寺本 忠, 小栗 剛, 藤田逸郎, 木山輝郎, 加藤俊二, 宮下正夫, 松倉則夫, 山下精彦: 残胃の癌の手術例の検討—残胃の癌発見における術後定期的胃内視鏡検査の意義. 第82回日本消化器病学会総会, 1996. 4.
- 62) 吉村和泰, 恩田昌彦, 田中宣威, 古川清憲, 横井公良, 樋口勝美, 高崎秀明, 瀬谷知子, 横山滋彦, 菅 隼人, 丸山 弘, 金沢義一, 佐々部一, 秋谷行宏, 山田岳史, 高橋由至, 杉浦 篤: 直腸癌局所切除後追加切除・再発症例の検討. 第46回大腸癌研究会, 1997. 1.
- 63) 吉村和泰, 恩田昌彦, 田中宣威, 古川清憲, 樋口勝美, 高崎秀明, 瀬谷知子, 横山滋彦, 丸山 弘, 菅 隼人, 金沢義一, 佐々部一, 山田岳史, 永嶋裕司: 当教室における大腸癌手術症例の臨床病理学的検討. 第58回日本臨床外科医学会総会, 1996. 10.
- 64) 吉田 寛, 恩田昌彦, 田尻 孝, 金 徳栄, 鳥羽昌仁, 梅原松臣, 真々田裕宏, 西久保秀紀, 谷合信彦, 松本智司, 小嶋隆行, 松崎 栄, 山本一仁, 廣瀬洋一郎, 金子昌裕, 山下精彦: 遠位脾腎静脈吻合術 (DSRS) と経腹

- の食道離断術 (ET) の長期成績の比較検討. 第49回日本消化器外科学会総会, 1997. 2.
- 65) 吉田 寛, 恩田昌彦, 田尻 孝, 金 徳栄, 鳥羽昌仁, 梅原松臣, 真々田裕宏, 西久保秀紀, 谷合信彦, 松本智司, 小嶋隆行, 松崎 栄, 山本一仁, 廣瀬洋一郎, 金子昌裕, 山下精彦: 遠位脾腎静脈吻合術と経腹的食道離断術の治療成績の比較検討. 第31回日本肝臓学会東部会, 1996. 11.
- 66) 吉田 寛, 恩田昌彦, 田尻 孝, 鳥羽昌仁, 梅原松臣, 真々田裕宏, 谷合信彦, 西久保秀紀, 松崎 栄, 小嶋隆行, 松本智司, 山本一仁, 廣瀬洋一郎, 金 徳栄, 山下精彦: 遠位脾腎静脈吻合術 (DSRS) の長期成績. 第3回日本門脈圧亢進症食道静脈瘤学会大会, 1996. 9.
- 67) 吉田 寛, 恩田昌彦, 田尻 孝, 鳥羽昌仁, 梅原松臣, 真々田裕宏, 谷合信彦, 西久保秀紀, 松崎 栄, 小嶋隆行, 松本智司, 山本一仁, 廣瀬洋一郎, 金子昌裕, 金 徳栄, 山下精彦: 胃静脈瘤に対する予防的治療は必要か? 第38回日本消化器病学会大会, 1996. 9.
- 68) 吉田 寛, 恩田昌彦, 田尻 孝, 鳥羽昌仁, 梅原松臣, 真々田裕宏, 谷合信彦, 西久保秀紀, 松本智司, 松崎 栄, 小嶋隆行, 山本一仁, 廣瀬洋一郎, 金子昌裕, 金 徳栄, 山下精彦: 食道静脈瘤手術後再発に対する追加治療例の検討. 第4回内視鏡的食道胃静脈瘤造影研究会, 1996. 9.
- 69) 宮下正夫, 恩田昌彦, 笹島耕二, 松谷 毅, 大川敬一, 高橋由至, 坂東功一, 丸山 弘, 吉行俊郎, 山下精彦, 田久保海誉: 食道癌術前化学療法の効果と臨床的問題点. 第48回日本消化器外科学会総会, 1996. 7.
- 70) 宮下正夫, 恩田昌彦, 松谷 毅, 大川敬一, 萩原信敏, 土屋喜一, 丸山 弘, 吉行俊郎, 笹島耕二, 京野昭二, 山下精彦: 自動吻合器による食道再建術後の吻合部狭窄に対する内視鏡的拡張術とステロイド局注併用療法. 第49回日本消化器外科学会総会, 1997. 2.
- 71) 高橋修司<sup>1)</sup>, 川俣博志<sup>1)</sup>, 市川和雄<sup>1)</sup>, 岡島雄史<sup>1)</sup>, 中条秀信<sup>1)</sup>, 弦間和仁<sup>1)</sup>, 田島広之<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>, 山本一仁, 小嶋隆行, 田尻 孝, 恩田昌彦 (<sup>1)</sup>放射線科): 治療に難渋した PTCD による仮性肝動脈瘤の1例. 第8回関東IVR研究会, 1996. 7.
- 72) 笹島耕二, 恩田昌彦, 宮下正夫, 山下精彦, 大川敬一, 松谷 毅, 秋谷行宏: 細胞死からみた食道癌手術侵襲と術後合併症. 第96回日本外科学会総会, 1996. 4.
- 73) 山下直行, 源 利成<sup>1)</sup>, 恩田昌彦, 田中宣威, 大鳥和彦<sup>2)</sup>, 落合淳志<sup>3)</sup>, 磨伊正義<sup>1)</sup>, 森山雄吉<sup>4)</sup>, 京野昭二<sup>4)</sup>, 横井公良<sup>4)</sup>, 杉崎祐一<sup>5)</sup>, 江角浩安<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>金沢大学がん研究所外科, <sup>2)</sup>国立がんセンター研究所支所がん治療開発部, <sup>3)</sup>国立がんセンター研究所病理部, <sup>4)</sup>千葉北総病院外科, <sup>5)</sup>病理部): Hereditary non-polyposis colorectal cancer (HNPCC) における大腸 aberrant crypt foci (ACF) の検討. 第83回日本消化器病学会総会, 1996. 4.
- 74) 山下直行, 恩田昌彦, 源 利成<sup>1)</sup>, 田中宣威, 有村佳昭<sup>2)</sup>, 落合淳志<sup>3)</sup>, 森山雄吉<sup>4)</sup>, 京野昭二<sup>4)</sup>, 横井公良<sup>4)</sup>, 山下精彦<sup>4)</sup>, 磨伊正義<sup>1)</sup>, 江角浩安<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>金沢大学がん研究所外科, <sup>2)</sup>国立がんセンター研究所支所がん治療開発部, <sup>3)</sup>国立がんセンター研究所病理部, <sup>4)</sup>千葉北総病院外科): Hereditary non-polyposis colorectal cancer (HNPCC) における大腸 aberrant crypt foci (ACF) の検討. 第55回日本癌学会総会, 1996. 10.
- 75) 山村 進, 恩田昌彦, 内田英二, 井上松応, 中村慶春, 横山 正, 相本隆幸, 小林 匡, 山中洋一郎, 会田邦晴, 笹島耕二, 田尻 孝, 江上 格, 山下精彦, 内藤善哉<sup>1)</sup>, 浅野伍朗<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>第2病理): 膵癌の局所療法に関する実験的研究—エタノール局注の効果—. 第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 9.
- 76) 山本一仁, 恩田昌彦, 田尻 孝, 金 徳栄, 鳥羽昌仁, 梅原松臣, 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷合信彦, 西久保秀紀, 松本智司, 松崎 栄, 小嶋隆行, 廣瀬洋一郎, 金子昌裕, 隈崎達夫<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>放射線科): Endoscopic Sclero-ligation (ESL) 前後の血行動態について. 第3回日本門脈圧亢進症食道静脈瘤学会, 1996. 9.
- 77) 山本一仁, 恩田昌彦, 田尻 孝, 金 徳栄, 鳥羽昌仁, 梅原松臣, 吉田 寛, 真々田裕宏, 谷合信彦, 西久保秀紀, 松本智司, 松崎 栄, 小嶋隆行, 廣瀬洋一郎, 金子昌裕, 山下精彦: 肝細胞癌術後患者の予後予測因子についての検討. 第58回日本臨床外科医学会総会, 1996. 10.
- 78) 山田岳史, 恩田昌彦, 田中宣威, 高崎秀明, 瀬谷知子, 金沢義一, 古川清憲, 樋口勝美, 吉村和泰, 横山滋彦, 丸山 弘, 高橋由至, 杉浦 篤: 大腸 Neuroendocrine carcinoma 細胞株の樹立と腫瘍マーカー及び hormonal

- peptide の産生に関する検討。第49回日本消化器外科学会総会，1997。 2。
- 79) 山田岳史，恩田昌彦，田中宣威，高崎秀明，瀬谷知子，金沢義一，古川清憲，樋口勝美，吉村和泰，横山滋彦，菅 隼人，丸山 弘，佐々部一：Neuroendocrine carcinoma 細胞株の樹立とその性状。第55回日本癌学会総会，1996。 10。
- 80) 秋谷行宏，恩田昌彦，古川清憲，田中宣威，樋口勝美，高崎秀明，吉村和泰，横山滋彦，丸山 弘，金沢義一，佐々部一，山田岳史，芦苺正幸，前澤勝美，山下精彦：大腸疾患手術症例における術後感染症の検討。第51回日本大腸肛門病学会総会，1996。 10。
- 81) 秋谷行宏，恩田昌彦，古川清憲，田中宣威，田尻 孝，徳永 昭，笹島耕二，金 徳栄，有馬保生，内田英二，樋口勝美，高崎秀明，吉村和泰，鈴木英之，斎藤忠生，丸山 弘，芦苺正幸，前澤勝美，山下精彦，石川紀行：術後 IVH カテーテル感染症の発症要因と対策。第49回日本消化器外科学会総会，1997。 2。
- 82) 小栗 剛，恩田昌彦，徳永 昭，白川 毅，瀧田雅仁，寺本 忠，藤田逸郎，奥田武志，木山輝郎，吉行俊郎，松倉則夫，浅野伍朗<sup>1)</sup> (第2 病理)：十二指腸潰瘍修復における細胞増殖因子様蛋白 pS2発現の意義。第38回日本消化器病学会大会，1996。 9。
- 83) 小栗 剛，恩田昌彦，徳永 昭，平本義浩，白川 毅，瀧田雅仁，藤田逸郎，水谷 崇，奥田武志，木山輝郎，吉行俊郎，松倉則夫，浅野伍朗<sup>1)</sup> (第2 病理)：胃癌および消化管潰瘍修復における細胞増殖因子様蛋白 pS2発現の意義。第55回日本癌学会総会，1996。 10。
- 84) 小嶋隆行，恩田昌彦，田尻 孝，金 徳栄，鳥羽昌仁，増森興治，梅原松臣，吉田 寛，真々田裕宏，谷合信彦，西久保秀紀，松本智司，松崎 栄，広瀬洋一郎，山本一仁，山下精彦，隈崎達夫<sup>1)</sup>，田島広之<sup>1)</sup>，弦間和仁<sup>1)</sup>，渡田伸一郎<sup>1)</sup> (放射線科)：SMANCS 投与前後での99-Tc-PMT 肝胆道シンチグラフィによる肝摂取排泄動態の検討。第48回日本消化器外科学会総会，1996。 7。
- 85) 小嶋隆行，恩田昌彦，田尻 孝，金 徳栄，鳥羽昌仁，増森興治，梅原松臣，吉田 寛，真々田裕宏，谷合信彦，西久保秀紀，松崎 栄，山本一仁，隈崎達夫<sup>1)</sup> (放射線)：SMANCS 動注による肝摂取排泄動態への影響—99 m-Tc-PMT 肝胆道シンチグラフィによる検討。第38回日本消化器病学会大会，1996。 9。
- 86) 松下 晃，恩田昌彦，田中宣威，吉村和泰，金沢義一，古川清憲，樋口勝美，高崎秀明，瀬谷知子，横山滋彦，佐々部一，山田岳史，横井公良，山下精彦：大腸癌腸重積症の臨床病理学的検討。第51回日本大腸肛門病学会総会，1996。 10。
- 87) 松倉則夫，恩田昌彦，Tomtitchong P，白川 毅，瀧田雅仁，秋谷行宏，大川敬一，加藤俊二，吉行俊郎，徳永昭，山下精彦：残胃と *Helicobacter pylori* 感染。第49回日本消化器外科学会総会，1997。 2。
- 88) 松倉則夫，恩田昌彦，加藤俊二，吉行俊郎，Tomtitchong P，白川 毅，瀧田雅仁，徳永 昭，山下精彦：消化性潰瘍穿孔に対する *Helicobacter pylori* 感染の関与。潰瘍病態研究会第5 回フォーラム，1996。 9。
- 89) 松倉則夫，恩田昌彦，星野有哉<sup>1)</sup>，長谷川博一，五十嵐健人<sup>1)</sup>，田中茂夫<sup>1)</sup>，飯島 修<sup>2)</sup>，秋山勝彦<sup>2)</sup>，後藤 武<sup>2)</sup>，鈴木 聡<sup>3)</sup>，島田 隆<sup>3)</sup> (第2 外科，<sup>2)</sup>久光製薬筑波研，<sup>3)</sup>第2 生化)：ヒト胃癌のモデルとしてのイヌ実験胃癌に対する経内視鏡的 in situ 遺伝子導入：ヒト胃癌遺伝子治療を目指して。第96回日本外科学会総会，1996。 4。
- 90) 松倉則夫，恩田昌彦，徳永 昭，加藤俊二，長谷川博一，山下精彦：*Helicobacter pylori* 感染と胃粘膜萎縮。第38回日本消化器病学会大会，1996。 9。
- 91) 松谷 毅，恩田昌彦，笹島耕二，宮下正夫，大川敬一，山下精彦：食道癌手術における凝固線溶系の検討。第96回日本外科学会総会，1996。 4。
- 92) 松谷 毅，恩田昌彦，笹島耕二，宮下正夫，大川敬一，萩原信敏，土屋喜一，山下精彦：食道癌手術におけるサイトカインと接着因子の変動。第48回日本消化器外科学会総会，1996。 7。
- 93) 松谷 毅，恩田昌彦，笹島耕二，宮下正夫，大川敬一，萩原信敏，土屋喜一，山下精彦：食道癌手術における接着分子の発現と術前ステロイド投与の効果。第49回日本消化器外科学会総会，1997。 2。
- 94) 松田範子，恩田昌彦，加藤俊二，梅原松臣，松倉則夫，金 徳栄，徳永 昭，田尻 孝，山下精彦：アルコール

- 代謝に関与する alcohol dehydrogenase 2 (ADH2), cytochrome p450 (CYP) 2E1, および解毒酵素 glutathione-S-transferase M1 (GSTM1) 遺伝子の多型性分析による肝硬変, 肝癌発症の危険度評価. 第55回日本癌学会総会, 1996. 10.
- 95) 松田範子, 恩田昌彦, 加藤俊二, 梅原松臣, 松倉則夫, 金 徳栄, 徳永 昭, 田尻 孝, 山下精彦: チトクローム p4502E1 (CYP2E1) 酵素の遺伝子多型性による酵素活性の多様性と肝硬変, 肝癌の発生. 第31回日本肝臓学会東部会, 1996. 11.
- 96) 松田範子, 恩田昌彦, 森山雄吉, 徳永 昭, 金 徳栄, 松倉則夫, 吉村成子<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>吉村せいこクリニック): 減圧症罹患リスクの検討. 第31回日本高気圧環境医学会総会, 1996. 10.
- 97) 松本智司, 江見 充<sup>1)</sup>, 古川清憲, 田尻 孝, 恩田昌彦<sup>(1)</sup>老研): 乳癌におけるヘテロ接合性の消失と術後予後の検討. 第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 9.
- 98) 瀬谷知子, 森山雄吉, 京野昭二, 横井公良, 小川芳雄, 野村 務, 大秋美治, 小黒辰夫, 清水秀樹, 三枝順子, 恩田昌彦, 田中宣威, 古川清憲, 樋口勝美, 美濃部かおり: 乳腺紡錘細胞癌の1例. 第4回日本乳癌学会総会, 1996. 6.
- 99) 石塚明樹, 佐々木博己<sup>1)</sup>, 根津雅彦<sup>1)</sup>, 林 愛子<sup>2)</sup>, 斎藤深美子<sup>2)</sup>, 池内達郎<sup>2)</sup>, 恩田昌彦, 杉村 隆<sup>1)</sup>, 寺田雅昭<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>国立がんセンター研究所分子腫瘍, <sup>2)</sup>東京医科歯科大学難治研・細胞遺伝): がんにおける増幅ユニットの詳細な遺伝子地図の作成. 第55回日本癌学会総会, 1996. 10.
- 100) 前澤勝美, 恩田昌彦, 田中宣威, 古川清憲, 高崎秀明, 吉村和泰, 横山滋彦, 金沢義一, 丸山 弘, 永嶋裕司, 松下 晃, 山下精彦: 妊娠時検査により指摘された巨大仙骨前面 Neurilemmoma の1例. 第764回外科集談会, 1996. 12.
- 101) 相本隆幸, 恩田昌彦, 吉田初雄, 湖山信篤, 二瓶光博, 左近司光明, 坪井栄孝: Granulocyte colony-stimulating factor (G-CSF) 産生を認めた進行胃癌の1例. 第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 9.
- 102) 相本隆幸, 恩田昌彦, 吉田初雄, 湖山信篤, 二瓶光博, 左近司光明, 坪井栄孝: Granulocyte colony-stimulating factor (G-CSF) 産生胃癌の1例. 第48回日本消化器外科学会総会, 1996. 7.
- 103) 相本隆幸, 恩田昌彦, 吉田初雄, 湖山信篤, 二瓶光博, 左近司光明, 坪井栄孝: 食道癌肉腫3例の検討. 第131回東北外科集談会, 1996. 6.
- 104) 大川敬一, 恩田昌彦, 宮下正夫, 笹島耕二, 松谷 毅, 土屋喜一, 萩原信敏, 山下精彦, 竹田晋浩, 小川 龍: 食道癌術後の気管支肺胞洗浄 (BAL) 中の回収細胞の分画と TNF- $\alpha$ , IL-6と IL-8の発現. 第48回日本消化器外科学会総会, 1996. 7.
- 105) 瀧田雅仁, 恩田昌彦, 徳永 昭, 高橋英正, 池田研吾, 白川 毅, 寺本 忠, 小栗 剛, 藤田逸郎, 奥田武志: 胃癌原発巣および転移巣におけるオートクリン・パラクリン増殖と治療実験. 第55回日本癌学会総会, 1996. 10.
- 106) 瀧田雅仁, 恩田昌彦, 徳永 昭, 池田研吾, 平本義浩, 白川 毅, 寺本 忠, 小栗 剛, 藤田逸郎, 奥田武志, 木山輝郎, 吉行俊郎, 松倉則夫, 山下精彦: 肝転移胃癌原発巣と肝転移巣における TGF- $\alpha$ /EGFR オートクリン増殖と, 血管新生因子 VEGF・dThd Pase の発現の意義. 第49回日本消化器外科学会総会, 1997. 2.
- 107) 瀧田雅仁, 恩田昌彦, 徳永 昭, 池田研吾, 平本義浩, 白川 毅, 寺本 忠, 小栗 剛, 藤田逸郎, 奥田武志, 水谷 崇, 木山輝郎, 吉行俊郎, 松倉則夫, 山下精彦: 胃癌肝転移巣における TGF- $\alpha$ /EGFR オートクリン増殖と血管新生因子 VEGF・dThd Pase の発現. 第68回胃癌研究会, 1997. 1.
- 108) 瀧田雅仁, 恩田昌彦, 徳永 昭, 池田研吾, 平本義浩, 白川 毅, 寺本 忠, 小栗 剛, 藤田逸郎, 奥田武志, 水谷 崇, 木山輝郎, 吉行俊郎, 加藤俊二, 宮下正夫, 松倉則夫, 山下精彦: sm 胃癌再発症例の検討とその対策. 第67回胃癌研究会, 1996. 7.
- 109) 瀧田雅仁, 恩田昌彦, 徳永 昭, 木山輝郎, 寺本 忠, 小栗 剛, 白川 毅, 吉行俊郎, 松倉則夫: 肝転移巣に対し免疫化学療法 (レンチナン+5'-DFUR) が有効であった胃癌肝転移の1例. 第34回日本癌治療学会総会, 1996. 9.



- 110) 谷田貝茂雄, 恩田昌彦, 田近栄四郎<sup>1)</sup> (1)国立栃木病院外科): Levofloxacin の呼吸器領域 (喀痰及び肺組織) への移行について. 第9回日本外科感染症研究会, 1996. 12.
- 111) 仲村賢一, 田久保海誉, 田中洋一, 真船健一, 笹島耕二, 山下精彦: 食道癌とテロメラーゼ活性. 第50回日本食道疾患研究会, 1996. 6.
- 112) 池田研吾, 恩田昌彦, 徳永 昭, 瀧田雅仁, 白川 毅, 平本義浩, 小栗 剛, 寺本 忠, 木山輝郎, 吉行俊郎, 加藤俊二, 宮下正夫, 松倉則夫, 山下精彦: 胃内視鏡生検材料を用いた胃癌 Neoadjuvant Chemotherapy 効果予知の試み. 第49回日本消化器外科学会総会, 1997. 2.
- 113) 中村慶春, 恩田昌彦, 内田英二, 山村 進, 井上松応, 丸山 弘, 横山滋彦, 相本隆幸, 田尻 孝, 山下精彦: 膵癌診断における膵液中の K-ras 癌遺伝子 Codon-12点突然変異の解析. 第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 9.
- 114) 中村慶春, 恩田昌彦, 内田英二, 山村 進, 井上松応, 丸山 弘, 横山滋彦, 相本隆幸, 吉田 寛, 梅原松臣, 有馬保生, 金 徳栄, 田尻 孝, 山下精彦, 内藤善哉: 膵腸吻合の縫合不全における膵切除断端の線維化と残存膵の外分泌能. 第49回日本消化器外科学会総会, 1997. 2.
- 115) 中村慶春, 恩田昌彦, 内田英二, 李 栄浩, 杉浦 篤, 丸山 弘, 横山滋彦, 斎藤忠生, 梅原松臣, 有馬保生, 金 徳栄, 田尻 孝, 山下精彦: 膵原発の小細胞癌の1例. 第58回日本臨床外科医学会総会, 1996. 10.
- 116) 田中宣威, 恩田昌彦, 古川清憲, 樋口勝美, 高崎秀明, 吉村和泰, 瀬谷知子, 横山滋彦, 丸山 弘, 菅 隼人, 金沢義一, 佐々部一, 山田岳史, 永嶋裕司: 教室における大腸癌手術症例の臨床病理学的検討. 第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 9.
- 117) 田中宣威, 恩田昌彦, 瀬谷知子, 金沢義一, 古川清憲, 樋口勝美, 高崎秀明, 吉村和泰, 横山滋彦, 菅 隼人, 丸山 弘, 佐々部一, 山田岳史: ノードマウス可移植性ヒト直腸 Neuroendocrine carcinoma (Adenocarcinoid) に対する Octreotide acetate (Sandostatin), 5-Fu の抗腫瘍効果. 第55回日本癌学会総会. 1996. 10.
- 118) 徳永 昭, 恩田昌彦, 小栗 剛, 白川 毅, 瀧田雅仁, 池田研吾, 平本義浩, 寺本 忠, 藤田逸郎, 奥田武志, 飯田信也, 水谷 崇, 木山輝郎, 吉行俊郎, 松倉則夫, 山下精彦, 浅野伍朗<sup>1)</sup> (1)第2病理): 創傷治癒機転からみた十二指腸潰瘍修復過程の検討. 潰瘍病態研究会 第5回フォーラム, 1996. 9.
- 119) 徳永 昭, 恩田昌彦, 瀧田雅仁, 白川 毅, 池田研吾, 平本義浩, 吉行俊郎, 木山輝郎, 浅野伍朗<sup>1)</sup> (1)第2病理): 胃癌の進展における細胞増殖因子発現の意義—pS2および TGF- $\alpha$  をマーカーとして. 第55回日本癌学会総会, 1996. 10.
- 120) 徳永 昭, 恩田昌彦, 藤田逸郎, 白川 毅, 瀧田雅仁, 寺本 忠, 小栗 剛, 木山輝郎, 吉行俊郎, 松倉則夫, 山下精彦: 術後の免疫抑制に関する研究—腹腔浸出液および創液の検索. 第21回日本外科系連合学会学術集会, 1996. 6.
- 121) 徳永 昭, 恩田昌彦, 白川 毅, 瀧田雅仁, 寺本 忠, 藤田逸郎, 奥田武志, 水谷 崇, 木山輝郎, 梅原松臣, 吉行俊郎, 加藤俊二, 松倉則夫, 田尻 孝, 山下精彦: 同時性肝転移を有する胃癌手術症例の検討—原発巣切除後の肝転移巣の動態. 第48回日本消化器外科学会総会, 1996. 7.
- 122) 内田英二, 恩田昌彦, 井上松応, 山村 進, 山中洋一郎, 小林 匡, 相本隆幸, 横山 正, 中村慶春, 会田邦晴, 田尻 孝, 樋口勝美, 山下精彦, 江上 格, 内藤善哉<sup>1)</sup>, 浅野伍朗<sup>1)</sup> (1)第2病理): ハムスター膵癌膵内移植モデルによる肝転移の特性の検討. 第27回日本膵臓学会大会 (DDW-Japan 1996), 1996. 4.
- 123) 内田英二, 恩田昌彦, 中村慶春, 井上松応, 山村 進, 丸山 弘, 横山滋彦, 梅原松臣, 有馬保生, 金 徳栄, 田尻 孝, 江上 格, 内藤善哉<sup>1)</sup>, 浅野伍朗<sup>1)</sup> (1)第2病理): 膵腸吻合縫合不全におよぼす残存膵の線維化および残存膵機能の影響. 第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 9.
- 124) 内田英二, 恩田昌彦, 中村慶春, 井上松応, 山村 進, 丸山 弘, 横山滋彦, 石川紀行, 斎藤忠生, 梅原松臣, 小川芳雄, 有馬保生, 金 徳栄, 田尻 孝, 江上 格, 内藤善哉<sup>1)</sup> (1)第2病理): 残存膵の線維化からみた膵頭十二指腸切除術における膵腸吻合の危険度. 第48回日本消化器外科学会総会, 1996. 7.

- 125) 内田英二, 恩田昌彦, 中村慶春, 井上松応, 山村 進, 梅原松臣, 丸山 弘, 横山滋彦, 樋口勝美, 有馬保生, 金 徳栄, 田尻 孝, 江上 格, 山下精彦, 内藤善哉<sup>1)</sup> (第2病理): 臍頭十二指腸切除術における臍断端からみた残存臍機能評価. 第58回日本臨床外科医学会総会, 1996. 10.
- 126) 内田英二, 恩田昌彦, 中村慶春, 井上松応, 山村 進, 丸山 弘, 相本隆幸, 梅原松臣, 有馬保生, 田尻 孝, 江上 格, 山下精彦, 田島廣之<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup> (放射線科): 重症臍炎の動注療法の検討. 第49回日本消化器外科学会総会, 1997. 2.
- 127) 内田英二, 恩田昌彦, 中村慶春, 井上松応, 山村 進, 丸山 弘, 横山滋彦, 吉田 寛, 梅原松臣, 小川芳雄, 金 徳栄, 有馬保生, 田尻 孝, 江上 格, 山下精彦, 内藤善哉, 浅野伍朗: 臍頭領域癌における非癌部臍組織の線維化の評価. 第55回日本癌学会総会, 1996. 10.
- 128) 梅原松臣, 恩田昌彦, 田尻 孝, 鳥羽昌仁, 金 徳栄, 吉田 寛, 松本智司, 小嶋隆行, 松崎 栄, 山本一仁, 廣瀬洋一郎, 金子昌裕, 山下精彦: 胃静脈瘤に対する予防的治療は必要か? 第3回日本門脈圧亢進症食道静脈瘤学会, 1996. 9.
- 129) 梅原松臣, 恩田昌彦, 田尻 孝, 鳥羽昌仁, 金 徳栄, 吉田 寛, 松本智司, 小嶋隆行, 松崎 栄, 山本一仁, 廣瀬洋一郎, 山下精彦: 食道静脈瘤に対する内視鏡的静脈瘤硬化・結紮術. 第52回日本消化器内視鏡学会総会, 1996. 9.
- 130) 萩原信敏, 恩田昌彦, 笹島耕二, 宮下正夫, 大川敬一, 松谷 毅, 土屋喜一, 山下精彦: 食道癌術後合併症と SIRS (systemic inflammatory response syndrome). 第9回日本外科感染症研究会, 1996. 12.
- 131) 萩原信敏, 恩田昌彦, 笹島耕二, 宮下正夫, 吉田 寛, 鈴木英之, 大川敬一, 松谷 毅, 土屋喜一, 山下精彦, 田久保海誉: 食道原発粘表皮癌の2例. 第49回日本消化器外科学会総会, 1997. 2.
- 132) 白川 毅, 恩田昌彦, 徳永 昭, 瀧田雅仁, 寺本 忠, 藤田逸郎, 松本智司, 奥田武志, 水谷 崇, 木山輝郎, 吉行俊郎, 加藤俊二, 樋口勝美, 古川清憲, 松倉則夫, 山下精彦, 江上 格: 悪性腫瘍手術後, 早期肝転移顕性化例の検討—原発巣の免疫組織化学的検索. 第48回日本消化器外科学会総会, 1996. 7.
- 133) 白川 毅, 恩田昌彦, 徳永 昭, 藤田逸郎, 寺本 忠, 瀧田雅仁, 小栗 剛, 奥田武志, 木山輝郎, 吉行俊郎, 加藤俊二, 宮下正夫, 松倉則夫, 山下精彦: 胃癌手術における腹腔洗浄細胞診および漿膜面擦過細胞診の意義. 第18回癌局所療法研究会総会, 1996. 6.
- 134) 白川 毅, 恩田昌彦, 徳永 昭, 藤田逸郎, 瀧田雅仁, 寺本 忠, 小栗 剛, 木山輝郎, 吉行俊郎, 樋口勝美, 古川清憲, 松倉則夫, 山下精彦: 癌手術後, 局所浸出液中のサイトカインによる免疫抑制作用. 第55回日本癌学会総会, 1996. 10.
- 135) 白川 毅, 恩田昌彦, 徳永 昭, 藤田逸郎, 瀧田雅仁, 寺本 忠, 木山輝郎, 吉行俊郎, 樋口勝美, 古川清憲, 松倉則夫, 山下精彦: 胃癌術後腹腔浸出液中および乳癌術後創液中のサイトカイン産生と推移. 第96回日本外科学会総会, 1996. 4.
- 136) 李 栄浩, 恩田昌彦, 徳永 昭, 吉行俊郎, 瀧田雅仁, 白川 毅, 藤田逸郎, 吉田 寛, 木山輝郎, 美濃部かおり, 松倉則夫, 山下精彦: 初診時 Virchow 転移を伴う胃癌3例の検討. 第58回日本臨床外科学会総会, 1996. 11.
- 137) 樋口勝美, 恩田昌彦, 古川清憲, 美濃部かおり, 田中宣威, 有馬保生: Stage III 以上乳癌と炎症性乳癌に対する動注療法の検討. 第18回日本癌局所療法研究会, 1996. 6.
- 138) 樋口勝美, 恩田昌彦, 古川清憲, 美濃部かおり, 田中宣威, 有馬保生, 長谷川博一, 丸山 弘: 教室における乳房温存療法の成績. 第4回日本乳癌学会総会, 1996. 6.
- 139) 美濃部かおり, 恩田昌彦, 古川清憲, 田中宣威, 有馬保生, 樋口勝美: 教室における乳癌局所動注療法について. 東京乳腺研究会, 1996. 11.
- 140) 美濃部かおり, 恩田昌彦, 古川清憲, 田中宣威, 田尻 孝, 金 徳栄, 有馬保生, 樋口勝美, 長谷川博一, 梅原松臣: 乳癌の肝転移症例の検討. 第4回日本乳癌学会総会, 1996. 6.

- 141) 美濃部かおり, 黒瀬圭輔<sup>1)</sup>, 飯田有俊<sup>1)</sup>, 江見 充<sup>1)</sup>, 秋元成太<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>老研分子生物, <sup>2)</sup>泌尿器科): 膀胱癌における第9番染色体長腕欠失の解析. 第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 9.
- 142) 平本義浩, 恩田昌彦, 徳永 昭, 池田研吾, 瀧田雅仁, 白川 毅, 木山輝郎, 吉田 寛, 吉行俊郎, 加藤俊二, 松倉則夫, 田尻 孝, 内藤善哉, 浅野伍朗: 胃内分泌細胞癌の3例. 第49回日本消化器外科学会総会, 1997. 2.
- 143) 牧野浩司, 森山雄吉, 京野昭二, 横井公良, 小川芳雄, 野村 務, 横山 正, 長沢重直, 打越康信, 山下精彦<sup>1)</sup>, 大秋美治<sup>2)</sup>, 恩田昌彦 (<sup>1)</sup>千葉北総病院外科, <sup>2)</sup>同病理,): 直腸における神経内分泌癌の1症例. 第241回日本消化器病学会関東支部例会, 1996. 9.
- 144) 木山輝郎, 恩田昌彦, 徳永 昭, 寺本 忠, 小栗 剛, 白川 毅, 瀧田雅仁, 吉行俊郎, 松倉則夫, 山下精彦, 小川芳雄, 横井公良, 京野昭二, 森山雄吉: 消化性胃潰瘍の修復過程におけるストレス蛋白 (HSP70) の発現. 第82回日本消化器病学会総会, 1996. 4.
- 145) 有馬保生, 恩田昌彦, 田尻 孝, 金 徳栄, 内田英二, 梅原松臣, 吉田 寛, 斎藤忠生, 相本隆幸, 横山滋彦, 丸山 弘: 手術不能な閉塞性黄疸症例に対する Expandable Metallic Stent 留置術の経験. 第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 9.
- 146) 有馬保生, 恩田昌彦, 山下精彦, 田尻 孝, 金 徳栄, 伊藤誠二, 樋口勝美, 小川芳雄, 梅原松臣, 斎藤忠生, 吉田 寛, 丸山 弘, 横山滋彦, 中村慶春, 黒田 肇<sup>1)</sup>, 小林正文<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>第3内科): 術前に脾動脈塞栓術 (PSE) を施行した腹腔鏡下脾臓摘出術の1例. 第9回日本内視鏡外科学会総会, 1996. 12.
- 147) 古川清憲, 恩田昌彦, 田中宣威, 樋口勝美, 高崎秀明, 吉村和泰, 鈴木英之, 斎藤忠生, 丸山 弘, 秋谷行宏, 芦荊正幸, 前澤勝美, 山下精彦: 大腸疾患手術における術前化学的腸管処置法と予防的抗菌剤の選択. 第49回日本消化器外科学会総会, 1997. 2.
- 148) 古川清憲, 恩田昌彦, 樋口勝美, 美濃部かおり, 田中宣威, 有馬保生, 長谷川博一: 腋窩リンパ節転移陽性10個以上の乳癌症例の検討. 第4回日本乳癌学会総会, 1996. 6.
- 149) 鈴木英之, 恩田昌彦, 田中宣威, 古川清憲, 斎藤忠生, 丸山 弘, 秋谷行宏, 芦荊正幸, 前澤勝美: エンドトキシシンショック時における骨格筋微小循環の変化について. 第2回日本エンドトキシン研究会, 1996. 10.
- 150) 鈴木英之, 恩田昌彦, 田中宣威, 古川清憲, 樋口勝美, 斎藤忠生, 丸山 弘, 秋谷行宏, 山下精彦: 細菌性腹膜炎における循環動態の実験的検討. 第28回日本腹部救急医学会総会, 1997. 3.
- 151) 鈴木英之: エンドトキシシンショック時における骨格筋微小循環の変化について. 第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 9.

## [多摩永山病院外科]

### 研究概要

おもに消化器外科領域で臨床的研究を中心にして, 治療成績の向上をめざしている。また, 多摩地区の学会や研究会において, 地域の基幹病院としての役割を果たしている。

- 1) 中心的研究課題である肝・胆・膵疾患に関する研究が継続的に行われている。悪性疾患に対しては外科的治療を中心とした集学的治療をおこない, 治療成績の向上をめざしている。
- 2) 腹腔鏡下外科手術は胆石症, 大腸, 胃腫瘍などに対して広く実施しており, 症例数は年々増加している。
- 3) 乳腺外来は地域住民の好評を得て患者数の増加も著しく, 病理部と提携し迅速穿刺吸引細胞診をおこない, 乳癌の早期診断および治療成績の向上に努力している。
- 4) 小児外科領域については外傷, 消化管異物等の臨床的研究が進められている。

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著：

- 1) 小栗 剛, 恩田昌彦<sup>1)</sup>, 徳永 昭<sup>1)</sup>, 浅野伍朗<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>外科学第1, <sup>2)</sup>第2病理)：胃癌における trefoil グループ細胞増殖因子動態の変化. 日消病会誌, 93, 707-716, 1996.

### 学会発表

#### [1995年度追加分]

#### パネルディスカッション：

- 1) 松田 健<sup>1)</sup>, 沖浜裕司<sup>1)</sup>, 中島米治郎<sup>1)</sup>, 宮本昌之<sup>1)</sup>, 牧野浩司<sup>1)</sup>, 江上 格, 岡崎滋樹, 谷口善郎, 和田雅世, 吉岡正智, 山下精彦<sup>2)</sup>, 恩田昌彦<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>多摩永山病院消化器科, <sup>2)</sup>外科学第1)：上部消化管出血の検討—当科における最近の上部消化管出血症例を中心として—. 第26回日本腹部救急医学会総会, 1996. 3.

#### (1) 卒後教育セミナー：

- 1) 吉岡正智：急性虫垂炎の治療は変わったか？ 第96回日本外科学会総会, 1996. 4.

#### (2) 一般講演：

- 1) 和田雅世, 江上 格, 岡崎滋樹, 谷口善郎, 会田邦晴, 吉岡正智, 松田 健<sup>1)</sup>, 沖浜裕司<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>多摩永山病院消化器科)：肝門部胆管癌の治療成績と問題点. 第32回日本胆道学会, 1996. 4.
- 2) 横室茂樹, 江上 格, 岡崎滋樹, 谷口善郎, 和田雅世, 会田邦晴, 横山 正, 吉岡正智, 松田 健<sup>1)</sup>, 沖浜裕司<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>多摩永山病院消化器科)：肝切除を施行した肝門部胆管癌の治療成績と問題点. 第25回日本胆道外科研究会, 1996. 5.
- 3) 岡崎滋樹, 恩田昌彦<sup>1)</sup>, 江上 格, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 内田英二<sup>1)</sup>, 和田雅世, 横室茂樹 (<sup>1)</sup>外科学第1)：ERCP から見た十二指腸傍乳頭憩室の検討. 第48回日本消化器外科学会総会, 1996. 7.
- 4) 谷合信彦, 江上 格, 岡崎滋樹, 和田雅世, 横室茂樹, 小林 匡, 藤田逸郎, 吉岡正智, 前田昭太郎<sup>1)</sup>, 恩田昌彦<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>多摩永山病院病理, <sup>2)</sup>外科学第1)：胆囊原発平滑筋肉腫の1切除例. 第762回外科集談会, 1996. 9.
- 5) 谷合信彦, 江上 格, 岡崎滋樹, 和田雅世, 横室茂樹, 源河敦史, 小林 匡, 中村 孝, 藤田逸郎, 佐々部一, 廣井 信, 吉岡正智, 恩田昌彦<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>外科学第1)：大腸癌の肝転移症例の臨床的検討. 第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 9.
- 6) 松田 健<sup>1)</sup>, 沖浜裕司<sup>1)</sup>, 山中洋一郎<sup>1)</sup>, 渡辺 学<sup>1)</sup>, 松崎 栄<sup>1)</sup>, 小栗 剛, 中島米治郎<sup>1)</sup>, 江上 格, 岡崎滋樹, 和田雅世, 吉岡正智, 山下精彦<sup>2)</sup>, 恩田昌彦<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>多摩永山病院消化器科, <sup>2)</sup>外科学第1)：上部消化管出血の臨床的検討(第2報)：とくに救急症例を中心として. 第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 9.
- 7) 藤田逸郎, 江上 格, 岡崎滋樹, 和田雅世, 横室茂樹, 会田邦晴, 小林 匡, 谷合信彦, 鶴田宏之, 服部千秋, 加藤圭介, 吉岡正智, 松田 健<sup>1)</sup>, 沖浜裕司<sup>1)</sup>, 前田昭太郎<sup>2)</sup>, 山下精彦<sup>3)</sup>, 恩田昌彦<sup>3)</sup> (<sup>1)</sup>多摩永山病院消化器科, <sup>2)</sup>同病理, <sup>3)</sup>外科学第1)：術前診断が困難であった巨大胃平滑筋肉腫の1例. 第241回日本消化器病学会, 1996. 9.
- 8) 小林 匡, 江上 格, 岡崎滋樹, 和田雅世, 横室茂樹, 源河敦史, 谷合信彦, 中村 孝, 藤田逸郎, 佐々部一, 廣井 信, 吉岡正智：大量下血を呈した巨大胃平滑筋肉腫の1例. 第53回城西外科研究会, 1996. 9.
- 9) 小栗 剛, 沖浜裕司<sup>1)</sup>, 松田 健<sup>1)</sup>, 松崎 栄<sup>1)</sup>, 中島米治郎<sup>1)</sup>, 山下精彦<sup>2)</sup>, 恩田昌彦<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>多摩永山病院消化器科, <sup>2)</sup>外科学第1)：下行結腸リンパ管腫の1内視鏡的切除例. 第63回日本消化器内視鏡学会, 1996. 11.
- 10) 廣井 信, 江上 格, 岡崎滋樹, 和田雅世, 横室茂樹, 源河敦史, 吉岡正智：痔頭部腫瘍を合併した腓体尾部形成不全症の1例. 第16回多摩消化器シンポジウム, 1997. 1.
- 11) 松田 健<sup>1)</sup>, 沖浜裕司<sup>1)</sup>, 相本隆幸<sup>1)</sup>, 松崎 栄<sup>1)</sup>, 小栗 剛, 中島米治郎<sup>1)</sup>, 江上 格, 岡崎滋樹, 和田雅世, 吉

岡正智, 山下精彦<sup>2)</sup>, 恩田昌彦<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>多摩永山病院消化器科, <sup>2)</sup>外科学第1 ) : 膵の solid and cystic tumor—自験例と本邦報告例についての文献的考察—, 第16回多摩消化器シンポジウム, 1997. 1.

12) 谷合信彦, 江上 格, 岡崎滋樹, 和田雅世, 源河敦史, 小林 匡, 水谷 崇, 中村 孝, 佐々部一, 廣井 信, 吉岡正智, 上田哲史<sup>1)</sup>, 長澤紘一<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>多摩永山病院内科 ) : 自己免疫性肝炎に合併したファータ乳頭癌肝転移の1症例. 日本医科大学医学会第91回例会, 1997. 2.

13) 中村 孝, 江上 格, 岡崎滋樹, 和田雅世, 源河敦史, 横室茂樹, 小林 匡, 水谷 崇, 谷合信彦, 佐々部一, 廣井 信, 吉岡正智 : 食道癌化学療法中に合併した食道穿孔, 縦隔膿瘍に対し, 食道カバードステント挿入および経皮的縦隔ドレナージを施行した1例. 日本医科大学医学会第91回例会, 1997. 2.

14) 松田 健<sup>1)</sup>, 沖浜裕司<sup>1)</sup>, 谷合信彦<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 松崎 栄<sup>1)</sup>, 小栗 剛, 中島米治郎<sup>1)</sup>, 山下精彦<sup>2)</sup>, 恩田昌彦<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>多摩永山病院消化器科, <sup>2)</sup>外科学第1 ) : 最近経験した大腸リンパ管腫の2内視鏡的切除例. 第243回日本消化器病学会, 1997. 2.

15) 小嶋隆行, 江上 格, 岡崎滋樹, 和田雅世, 源河敦史, 水谷 崇, 中村 孝, 佐々部一, 寺本 忠, 小栗 剛, 廣井 信, 吉岡正智 : 破裂肝臓の3例. 第54回城西外科研究会, 1997. 3.

16) 中村 孝, 江上 格, 岡崎滋樹, 和田雅世, 源河敦史, 水谷 崇, 佐々部一, 寺本 忠, 小嶋隆行, 小栗 剛, 廣井 信, 吉岡正智 : 腹腔鏡下胆石手術の術中損傷例の検討. 第54回城西外科研究会, 1997. 3.

## [多摩永山病院消化器科]

### 研究概要

当科は消化管全般(食道, 胃・十二指腸, 小腸, 大腸, 肛門), 肝・胆・膵, 脾を含む消化器に関する全ての内科的・外科的疾患を診療の対象とし, それらに関する研究と, 幅広い視野・能力を有する臨床医の養成を目指している. 現在, 開設後6年を経てその基盤を整えつつあるが, 地域の中核病院として以下のような診療ならびに研究活動を続けている.

1) 患者数の増加に伴って上部および下部消化管の内視鏡検査件数も増え続けているが, それらの検査診断技術の向上に努めている.

2) 各種消化器疾患の内視鏡的治療および内視鏡下手術について臨床研究を行っている. 早期癌の内視鏡的治療, 総胆管結石の内視鏡的処置, 胆石症などに対する腹腔鏡下手術などは外科との共同で研究および治療成績の向上に努力している.

3) 炎症性腸疾患の診断と治療については, とくに潰瘍性大腸炎の薬物療法を中心とした臨床研究を継続している.

4) イレウス, 腹膜炎を中心とする急性腹症の病態と治療について, 引き続き研究を続けている.

5) 肝硬変症, 門脈圧亢進症に起因する食道静脈瘤に対する集学的治療と病態に応じた治療法の選択により, 放射線科・外科との共同で良好な治療成績を得ている.

6) C型慢性活動性肝炎に対するインターフェロン療法, 肝細胞癌に対するPEITなどの治療についても, 症例の蓄積を続けている.

7) 人間ドックを含む消化器検診についても, 現在検討中である.

なお, 最近の日常活動については, 日本消化器内視鏡学会雑誌(Gastroenterol Endosc, 37, 2107-2108, 1995.)に概略が紹介されている.

### 研究業績

#### 論文

(1) 原著 :

1) 沖浜裕司, 田中洋介, 松田 健, 奥田武志, 小川美保, 中島米治郎, 和田雅世<sup>1)</sup>, 谷口善郎<sup>1)</sup>, 岡崎滋樹<sup>1)</sup>, 江上

格<sup>1)</sup>, 吉岡正智<sup>1)</sup>, 山下精彦<sup>2)</sup>, 恩田昌彦<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>外科学第1): 当科における上部消化管出血症例の検討. 多摩消化器シンポ誌 1996; 10: 29-33.

2) 小栗 剛, 恩田昌彦<sup>1)</sup>, 徳永 昭<sup>1)</sup>, 浅野伍朗<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1, <sup>2)</sup>病理学第2): 胃癌における trefoil グループ細胞増殖因子動態の変化. 日消病会誌 1996; 93: 707-716.

3) 岡崎滋樹<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 谷口善郎<sup>1)</sup>, 和田雅世<sup>1)</sup>, 会田邦晴<sup>1)</sup>, 松田 健, 沖浜裕司, 吉岡正智<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科): 腹腔鏡下胆嚢別出術中に遭遇した偶発症の検討. 多摩消化器シンポ誌 1996; 10: 102-105.

(2) 綜説:

1) 松田 健, 沖浜裕司: 上部消化管出血の臨床的検討: 当科における最近3年間の救急症例を中心として. 日医大誌 1997; 64: 61-64.

学会発表

(1) 一般講演:

1) 飯田信也, 恩田昌彦<sup>1)</sup>, 徳永 昭<sup>1)</sup>, 小栗 剛, 奥田武志<sup>1)</sup>, 白川 毅<sup>1)</sup>, 瀧田雅仁<sup>1)</sup>, 寺本 忠<sup>1)</sup>, 藤田逸郎<sup>1)</sup>, 木山輝郎<sup>1)</sup>, 吉行俊郎<sup>1)</sup>, 松倉則夫<sup>1)</sup>, 山下精彦<sup>1)</sup>, 沖浜裕司, 松田 健, 前田昭太郎<sup>2)</sup>, 細根 勝<sup>2)</sup>, 片山博徳<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1, <sup>2)</sup>多摩永山病院病理部): 胃潰瘍修復過程を創傷治癒機転と対応して解析する. 第82回日本消化器病学会春季大会, 1996. 4.

2) 和田雅世<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 岡崎滋樹<sup>1)</sup>, 谷口善郎<sup>1)</sup>, 会田邦晴<sup>1)</sup>, 吉岡正智<sup>1)</sup>, 松田 健, 沖浜裕司(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科): 肝門部胆管癌の治療成績と問題点. 第32回日本胆道学会, 1996. 4.

3) 吉行俊郎<sup>1)</sup>, 恩田昌彦<sup>1)</sup>, 徳永 昭<sup>1)</sup>, 瀧田雅仁<sup>1)</sup>, 白川 毅<sup>1)</sup>, 寺本 忠<sup>1)</sup>, 小栗 剛, 木山輝郎<sup>1)</sup>, 加藤俊二<sup>1)</sup>, 宮下正夫<sup>1)</sup>, 松倉則夫<sup>1)</sup>, 山下精彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1): UFT, CDDP 併用術前化学療法の有効性と安全性: 5-FU, CDDP 療法との比較. 第48回日本消化器外科学会総会, 1996. 7.

4) 小嶋隆行<sup>1)</sup>, 恩田昌彦<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 金 徳栄<sup>1)</sup>, 鳥羽昌仁<sup>1)</sup>, 増森興治<sup>1)</sup>, 梅原松臣<sup>1)</sup>, 吉田 寛<sup>1)</sup>, 真々田裕宏<sup>1)</sup>, 谷合信彦, 西久保秀紀<sup>1)</sup>, 松本智司<sup>1)</sup>, 松崎 栄, 広瀬洋一郎<sup>1)</sup>, 山本一仁<sup>1)</sup>, 山下精彦<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>2)</sup>, 田島廣之<sup>2)</sup>, 弦間和仁<sup>2)</sup>, 汲田伸一郎<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1, <sup>2)</sup>放射線科): SMANCS 投与前後での<sup>99m</sup>Tc-PMT 肝胆道シンチグラフィによる肝摂取排泄動態の検討. 第48回日本消化器外科学会総会, 1996. 7.

5) 松田 健, 沖浜裕司, 山中洋一郎, 渡辺 学, 松崎 栄, 小栗 剛, 中島米治郎, 江上 格<sup>1)</sup>, 岡崎滋樹<sup>1)</sup>, 和田雅世<sup>1)</sup>, 吉岡正智<sup>1)</sup>, 山下精彦<sup>2)</sup>, 恩田昌彦<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>外科学第1): 上部消化管出血の臨床的検討(第2報): とくに救急症例を中心として. 第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 9.

6) 小栗 剛, 沖浜裕司, 松田 健, 松崎 栄, 中島米治郎, 山下精彦<sup>1)</sup>, 恩田昌彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1): 下行結腸リンパ管腫の1内視鏡的切除例. 第63回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 1996. 11.

7) 松田 健, 沖浜裕司, 相本隆幸, 松崎 栄, 小栗 剛, 中島米治郎, 江上 格<sup>1)</sup>, 岡崎滋樹<sup>1)</sup>, 和田雅世<sup>1)</sup>, 吉岡正智<sup>1)</sup>, 山下精彦<sup>2)</sup>, 恩田昌彦<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>外科学第1): 臍の solid and cystic tumor: 自験例と本邦報告例についての文献的考察. 第16回多摩消化器シンポジウム, 1997. 1.

8) 松田 健, 沖浜裕司, 谷合信彦, 横山 正, 小栗 剛, 松崎 栄, 中島米治郎, 山下精彦, 恩田昌彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>外科学第1): 最近経験した大腸リンパ管腫の2内視鏡的切除例. 第243回日本消化器病学会関東支部例会, 1997. 2.

9) 横山 正, 沖浜裕司, 松田 健, 谷合信彦: 結腸リンパ管腫の2例. 日本医科大学医学会第91回例会, 1997. 2.

10) 谷合信彦, 江上 格<sup>1)</sup>, 岡崎滋樹<sup>1)</sup>, 和田雅世<sup>1)</sup>, 源河敦史<sup>1)</sup>, 小林 匡<sup>1)</sup>, 水谷 崇<sup>1)</sup>, 中村 孝<sup>1)</sup>, 佐々部一<sup>1)</sup>, 廣井 信<sup>1)</sup>, 吉岡正智<sup>1)</sup>, 上田哲史<sup>2)</sup>, 長澤紘一<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>同内科): 自己免疫性肝炎に合併したファーター乳頭癌肝転移の1例. 日本医科大学医学会第91回例会, 1997. 2.

11) 遠藤哲治<sup>1)</sup>, 中山滋章<sup>1)</sup>, 塚本佐知子<sup>1)</sup>, 長松淳一<sup>1)</sup>, 横山 正, 江上 格<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院眼科, <sup>2)</sup>同外科): 転移性脈絡膜腫瘍の1例. 日本医科大学医学会第91回例会, 1997. 2.

## [千葉北総病院外科]

### 研究概要

消化器外科ならびに一般外科疾患を対象として診療・研究・教育を行っている。

開設後わずか3年余りであるが、すでに、1500例を越える外科手術を経験し、その臨床的研究、治療成績を中心に各種学会・研究会に報告している。

とくに食道・胃、肝・胆・膵、結腸・直腸などの消化器癌に乳癌・甲状腺癌などを加えると、これら悪性腫瘍手術が約4割ほどあり、癌治療のより高度で専門的な診療・研究体制を整えつつある。

また、虫垂炎、胆石症（鏡下）、ヘルニア、肛門疾患など一般外科領域の疾患も多く積極的に新しい手技・手法を取り入れ、その治療成績を向上させている。さらに院内において内科(消化器)、放射線科、病理部との合同カンファレンスを定期的に行ない、集学的・臨床的検討を深めており、千葉県内・外における学会・研究会においても能動的に活躍している。

### 研究業績

#### 論文

(1) 原著：

- 1) 菅 隼人, 恩田昌彦, 田中宣威, 古川清憲：1, 2-Dimethylhydrazine (DMH) 誘発ラット大腸癌に対する緑茶ポリフェノールの影響。日医大誌, 1996；63：106-116。
- 2) 石川紀行, 恩田昌彦, 古川清憲, 田尻 孝, 金 徳栄, 有馬保生, 樋口勝美, 鳥羽昌仁, 増森興治, 梅原松臣, 斎藤忠生, 鈴木英之, 丸山 弘, 小嶋隆行, 中村慶春, 松崎 栄, 秋谷行宏, 山本一仁, 田中宣威, 山下精彦：当科で経験した赤痢アメーバ肝膿瘍4例の検討。日本外科感染症研究 1996；8：217-222。

#### 著書

- 1) 恩田昌彦, 森山雄吉：〔分担〕イレウスの手術。消化器外科専門医への道—手術手技の要点とそのコツ—。1996；pp 161-172, 金原出版。
- 2) 恩田昌彦, 森山雄吉：〔分担〕癒着剝離術。消化器外科専門医への道—手術手技の要点とそのコツ—。1996；pp 161-172, 金原出版。

#### 学会発表

(1) 一般講演：

- 1) 小川芳雄, 森山雄吉, 京野昭二, 横井公良, 石川紀行, 野村 務, 牧野浩司, 横山 正, 鶴田宏之, 工藤秀徳, 高島良樹, 山下精彦：経過観察中に癌化を来たした胃線腫の1例。第63回日本内視鏡学会関東地方会, 1996, 11。
- 2) 工藤秀徳, 森山雄吉, 京野昭二, 横井公良, 小川芳雄, 石川紀行, 野村 務, 牧野浩司, 横山 正, 鶴田宏之, 山下精彦：潰瘍性大腸炎に合併した直腸癌の1例。第2回東葛大腸フォーラム, 1996, 11。
- 3) 石川紀行, 森山雄吉, 京野昭二, 横井公良, 小川芳雄, 鶴田宏之, 工藤秀徳：血友病Aに合併したファーター乳頭部癌の1例。第31回千葉県外科医会中央集会, 1997, 3。
- 4) 京野昭二, 森山雄吉：血清ペプシノーゲン高値を契機として発見された早期胃癌の1例。第2回胃病理生理研究会, 1996, 10。
- 5) 吉行俊郎, 恩田昌彦, 徳永 昭, 瀧田雅仁, 白川 毅, 寺本 忠, 小栗 剛, 木山輝郎, 斎藤忠生, 加藤俊二, 宮下正夫, 有馬保生, 松倉則夫, 山下精彦, 田中茂夫<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>第2外科)：重症心疾患を有する胃癌患者の手術例の検討。第58回日本臨床外科医学会総会, 1996, 10。
- 6) 吉行俊郎, 恩田昌彦, 徳永 昭, 平本義浩, 池田研吾, 瀧田雅仁, 白川 毅, 長谷川博一, 加藤俊二, 宮下正夫,

- 松倉則夫，山下精彦：重症心疾患を有する胃癌患者の術前心機能評価の検討。第26回胃外科研究会，1997。3。
- 7) 吉行俊郎，恩田昌彦，徳永 昭，瀧田雅仁，白川 毅，小栗 剛，木山輝郎，加藤俊二，宮下正夫，松倉則夫，山下精彦：進行胃癌に対する UFT・CDDP 併用化学療法の効果：5-FU・CDDP 療法との比較。第34回日本癌治療学会総会，1996。11。
- 8) 牧野浩司，森山雄吉，京野昭二，横井公良，小川芳雄，野村 務，横山 正，長澤重直，打越康信，山下精彦，大秋美治<sup>1)</sup>，恩田昌彦<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院病理部，<sup>2)</sup>付属病院第1外科)直腸における神経内分泌癌の1症例。第241回日本消化器病学会関東支部例会，1996。9。



## 10. 外科学第二講座

### [付属病院第2外科・第一病院外科]

#### 研究概要

外科学第二講座は付属病院，第二病院，千葉北総病院では主に心臓血管外科，呼吸器外科，内分泌外科を第一病院においてはすべての外科疾患を取り扱い，以下に述べる項目を重点的に研究している。

平成8年度の研究概要としては：

- 1) 心臓血管外科では虚血性心疾患に関する研究が多く，特に自家動脈利用のバイパス手術の成績がよいところから，その利用法について検索が行われている。また，不整脈の外科治療に関する研究は教室の特に力を注ぐところであり，除脈，頻脈の治療に関する発表が多い。
- 2) 大動脈瘤に対する手術は年々増加しており，補助循環法の研究が行われている。
- 3) 呼吸器疾患としては肺癌症例の増加は著しく，手術を中心としての集学的治療の研究が続けられている。
- 4) 胸腺・乳腺に対する臨床，研究も積極的に行っている。
- 5) 消化器疾患の研究では大腸癌，肝癌が主であり，低位前方切除の適応，肝切除に関する耐術スコアの研究が主である。
- 6) 内分泌外科の業績は年と共に増加し，特に甲状腺，副甲状腺，副腎の内分泌疾患で受診する患者が多いので，それらに関する研究が目立つ。
- 7) 移植外科については海外留学より帰国した研究者も加え，研究グループも多人数となり，実験的には同種生体腎移植などの研究がすすめられている。肝臓移植に関しては基礎的研究が継続的に行われている。臨床的には ABO 型不適合間移植もすすめられている。
- 8) 乳癌外科は他学との共同研究に加わり，手術＋化学療法またはホルモン療法の成績を検討している。
- 9) 小児外科は珍しい症例の報告が今のところ主であるが，小児循環器外科は積極的に行われている。

### [付属病院第2外科]

#### 研究業績

##### 論文

(1) 原著：

- 1) Ochi M, Yamauchi S, Yajima T, Kutsukata N, Bessho R, Tanaka S : Aortic dissection extending from the left coronary artery during percutaneous coronary angioplasty. *Ann Thorac Surg* 1996 ; 62 : 1180-1182.
- 2) Shimizu K, Nagahama M, Kitamura Y, Igarashi T, Aida N, Tanaka S : Study on the Improvement of thyroid function after autotransplantation of cryopreserved thyroid tissues in rats : Clinical application of the procedure to patients with persistent hypothyroid Graves' disease after thyroidectomy. *Thyroidol Clin Exp* 1996 ; 8 : 55-62.
- 3) Shimizu K, Kitamura Y, Nagahama M, Akasu H, Kitagawa W, Aida N, Igarashi T, Tanaka S : Surgical indication in Hashimoto's thyroiditis. *Thyroidol Clin Exp* 1996 ; 8 : 95-101.
- 4) Shimizu K, Nagahama M, Kitamura Y, Jasmi, AY<sup>1)</sup>, Tanaka S (<sup>1)</sup>マレーシア国民大学) : Autotransplantation of cryopreserved thyroid tissue for the treatment of irreversible postoperative hypothyroid Graves' disease report of the first case. *Thyroidol Clin Exp* 1997 ; 9 : 23-26.
- 5) Ninomiya J, Yamauchi h, Hosaka H, Ishii Y, Terada K, Sugimoto T, Yamauchi S, Yajima T, Bessho R,

- Fujii M, Hinokiyama K, Tanaka S : Continuous transoesophageal echocardiography monitoring during weaning from cardiopulmonary bypass in children. *Cardiovascular Surgery* 1997 ; 5 : 129-133.
- 6) Yamauchi S, Ochi M, Nitta T, Yajima T, Bessho R, Imura H, Yamada K, Ninomiya J, Ikeshita M, Tanaka S : Considerations for the timing of surgical intervention and type of infecting microorganism. *J Nippon Med Sch* 1997 ; 64 : 16-21.
- 7) Ochi M, Yamauchi S, Yajima T, Bessho R, Tanaka S : Limb-salvage tibiotibial bypass using the inferior epigastric artery. *J Vasc Surg* 1997 ; 25 : 591-592.
- 8) 小平祐造<sup>1)</sup>, 馬淵綾子<sup>1)</sup>, 北島真澄<sup>1)</sup>, 田中茂夫, 宮崎純一<sup>2)</sup>, 生田宏一<sup>2)</sup>, 横室公三<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>微生物学免疫学, <sup>2)</sup>東京大学医学部疾患遺伝子制御サンド講座) : N 配列挿入による肝内  $\gamma\delta$ T 細胞分化, 多様性の解析. 肝類洞壁細胞研究の進歩 1996 ; 8 : 149-151.
- 9) 松井 聡<sup>1)</sup>, 馬淵綾子<sup>1)</sup>, 高橋めぐみ<sup>1)</sup>, 林 晃一, 田中茂夫, 横室公三<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>微生物学免疫学) : スーパー抗原 SEB による局所寛容の誘導肝内リンパ細胞に起こる寛容の特性. 肝類洞壁細胞研究の進歩 1996 ; 8 : 208-210.
- 10) 小平祐造<sup>1)</sup>, 生田宏一<sup>2)</sup>, 馬淵綾子<sup>1)</sup>, 田中茂夫, 横室公三<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>微生物学免疫学, <sup>2)</sup>東京大学医学部疾患遺伝子制御サンド講座) : 肝に分布する  $\gamma\delta$ T 細胞の heterogeneity の解析. 肝類洞壁細胞研究の進歩 1996 ; 9 : 123-125.
- 11) 原口秀司, 小泉 潔, 五味洸誠, 松島伸治, 真崎義隆, 秋山博彦, 三上 巖, 福島光浩, 飯田竹美, 田中茂夫 : 肺癌に対する腸切除後気管支断の危険因子に関する検討. *日胸外会誌* 1996 : 1835-1839. 4.
- 12) 小泉 潔, 田中茂夫, 原口秀司, 秋山博彦, 三上 巖, 福島光浩, 佐藤泰雄 : 胸椎体を部分合併切除した Pancoast 型肺癌の 1 例. *肺癌手術手技* 1996 ; 9 : 169-176.
- 13) 宇都宮英敏, 軽部美穂<sup>1)</sup>, 飯田竹美, 見城正剛, 家所良夫, 日置正文, 田中茂夫 (<sup>1)</sup>白河病院循環器科) : 59歳で根治術を行った Fallot 四徴症の 1 治験例高齢者の特徴と注意点. *胸部外科* 1996 ; 5 : 395-399.
- 14) 倉 禎二<sup>1)</sup>, 熊木敏郎<sup>1)</sup>, 松久威史<sup>2)</sup>, 田中茂夫 (<sup>1)</sup>社会保険葛飾検診センター, <sup>2)</sup>第一病院内視鏡科) : 検診における発見胃癌の検討. *日医大誌* 1996 ; 63 : 202-214.
- 15) 北村 裕, 清水一雄, 田中茂夫 : 内分泌外科シリーズ第 6 報甲状腺髄様癌の RET 遺伝子異常と臨床応用—遺伝子診断による遺伝性甲状腺髄様癌 screening—. *日医大誌* 1996 ; 63 : 228-232.
- 16) 佐々木建志 : リング付人工血管を用いた大動脈解離の外科治療—残存解離腔と遠隔成績からみた問題点—. *日胸外会誌* 1996 ; 44 : 923-935.
- 17) 田中啓治<sup>1)</sup>, 杉本忠彦<sup>1)</sup>, 三上 巖<sup>1)</sup>, 高山守正<sup>2)</sup>, 高野照夫<sup>2)</sup>, 師田哲朗, 矢島俊巳, 二宮淳一 (<sup>1)</sup>千葉北総病院集中治療室, <sup>2)</sup>集中治療室) : IABP 無効の心原性ショックに対する経皮的心肺補助法 (PCPS) の併用. *循環器科* 1996 ; 40 : 93-94.
- 18) 小泉 潔, 田中茂夫, 原口秀司, 秋山博彦, 三上 巖 : 間質性肺疾患の診断における胸腔鏡下肺生検. *日医大誌* 1996 ; 63 : 409-413.
- 19) 秋山博彦, 五味洸誠, 田中茂夫 : 肺切除後の換気効率の変化と運動制限因子について. *日胸外会誌* 1996 ; 44 : 2040-2049.
- 20) 新田 隆, 落 雅美, 山内茂生, 矢島俊巳, 別所竜蔵, 井村 肇, 桧山和弘, 佐地嘉章, 田中茂夫 : 虚血性心室性不整脈の手術療法. *日本冠疾患学会雑誌* 1996 ; 2 : 23-26.
- 21) 二宮淳一 : 未熟心筋保護の strategy と問題点. *日小児循環器会誌* 1996 ; 12 : 747-748.
- 22) 別所竜蔵, 新田 隆, 落 雅美, 山内茂生, 矢島俊巳, 井村 肇, 山田研一, 藤井正大, 二宮淳一, 池下正敏, 田中茂夫 : Upper limit of vulnerability と除細動閾値との関係について. *心臓ペースング* 1996 ; 315-320.
- 23) 藤井正大, 佐藤泰雄, 別所竜蔵, 山内仁紫, 矢島俊巳, 山内茂生, 落 雅美, 二宮淳一, 田中茂夫 : 無輸血開心術達成のための諸因子の臨床的検討. *日白血会誌* 1996 ; 9 : 221-224.
- 24) 笹井 巧, 真崎義隆, 石井庸介 : 金属ステント挿入後の再狭窄に対して Dumon ステントを留置した外傷性気管

狭窄の1例。日呼外会誌 1997；11：49-54。

- 25) 原口秀司, 小泉 潔, 秋山博彦, 三上 巖, 福島光浩, 飯田竹美, 藤井正大, 佐藤泰雄, 鈴木世考, 田中茂夫：肺ノカルジア症の合併が疑われた気管支結石症の1手術例。日呼外会誌 1997；11：95-99。
- 26) 田中茂夫, 早川弘一<sup>1)</sup>, 三井利夫<sup>2)</sup>, 山口 巖<sup>3)</sup>, 小柳 仁<sup>4)</sup>, 細田瑳一<sup>5)</sup>, 笠貫 宏<sup>5)</sup>, 川島康生<sup>6)</sup>, 小坂井嘉夫<sup>6)</sup>, 下村克朗<sup>7)</sup>, 栗田隆志<sup>7)</sup>, 川田志明<sup>8)</sup>, 小川 聡<sup>9)</sup>, 三崎拓郎<sup>10)</sup>, 井上 博<sup>11)</sup>, 松田 暉<sup>12)</sup>, 堀 正二<sup>13)</sup>, 松浦雄一郎<sup>14)</sup>, 梶山悟朗<sup>15)</sup>, 安井久喬<sup>16)</sup>, 樗木晶子<sup>17)</sup>, 安田慶秀<sup>18)</sup>, 桜井正之<sup>19)</sup> (1)内科学第一, 2)筑波大学臨床医学系外科, 3)筑波大学臨床医学系内科, 4)東京女子医科大学循環器外科, 5)東京女子医科大学循環器内科, 6)国立循環器病センター心臓血管外科, 7)国立循環器病センター心臓内科, 8)慶応義塾大学医学部外科, 9)慶応義塾大学医学部呼吸循環器内科, 10)富山医科薬科大学医学部第一外科, 11)富山医科薬科大学医学部第二内科, 12)大阪大学医学部第一外科, 13)大阪大学医学部第一内科, 14)広島大学医学部第一外科, 15)広島大学医学部第一内科, 16)九州大学医学部心臓血管研究施設外科, 17)九州大学医学部心臓血管研究施設内科, 18)北海道大学医学部循環器外科, 19)北海道大学医学部循環器内科)：致死性不整脈に対する植込み型除細動器：VENTAK-PRx II 植込み型除細動器の効果と安全性。心臓ペースング 1997；13：16-26。
- 27) 長浜充二, 清水一雄, 北村 裕, 五十嵐健人, 渋谷哲男, 田中茂夫：“成人に発生した甲状腺奇形腫の1例”日臨外医会誌 1997；58：72-75。
- 28) 二宮淳一, 保坂浩希, 松山和弘, 佐藤泰雄, 藤井正大, 佐地嘉章, 石井庸介, 井村 肇, 別所竜蔵, 杉本忠彦, 山内仁紫, 矢島俊巳, 山内茂生, 落 雅美, 田中茂夫, 高野照夫<sup>1)</sup> (1)集中治療室)：開心術後の心不全に対する圧補助の効果と限界。循環器科 1997；41：213-214。

## (2) 総説：

- 1) 田中茂夫：トピックス植込み型除細動器。BIO Clinica 1996；11：280-284。
- 2) 田中茂夫：Topics 植込み型除細動器。CARDIAC PRACTICE 1996；2：241-243。
- 3) 田中茂夫：心臓血管外科学会。日本医事新報 1996；3759：46-48。
- 4) 田中茂夫：(特集：不整脈最前線) 植込み型除細動器 (ICD)。循環学 1996；16；(6)：558-561。
- 5) 北村 裕, 清水一雄, 田中茂夫：内分泌外科シリーズ：第6報一甲状腺髄様癌のRET 遺伝子異常と臨床応用。日医大誌 1996；63：228-232。
- 6) 田中茂夫：ペースメーカーとICDの現状と将来。医学のあゆみ 1996；178：126-127。
- 7) 田中茂夫：突然死一危険なサインを見落とさないためにトピック“植込み型除細動器”。治療 1996；78：2933-2937。
- 8) 清水一雄：マレーシアにおける内分泌外科の経験。内分泌外科 1996；13：321-326。
- 9) 清水一雄, 長浜充二, 北川 亘, 赤須東樹<sup>1)</sup>, 三村 孝, 伊藤國彦<sup>1)</sup>, 田中茂夫 (1)伊藤病院)：嚢胞造影が外科的治療に有効であった再発性正中頸嚢胞の2例。日臨外医会誌 1997；58：67-71。
- 10) 小坂真一<sup>1)</sup>, 本田次郎<sup>1)</sup>, 大沢 肇<sup>1)</sup>, 斎藤寛文<sup>1)</sup>, 三原純司<sup>1)</sup>, 石川康朗<sup>1)</sup>, 道場信孝<sup>1)</sup>, 山内仁紫, 田中茂夫 (1)帝京大学医学部付属市原病院心臓血管センター)：下腹壁動脈グラフトの功罪。Coronary 1997；14：21-25。
- 11) 北村 裕, 三村 孝<sup>1)</sup> (1)伊藤病院)：頭頸部腫瘍と高カルシウム血症。CLINICAL CALCIUM 1997；7：502-505。

## 著書

- 1) 矢島俊巳, 田中茂夫：〔分担〕循環器疾患最新の治療'96-'97 “心臓ペースメーカーの選択と植込み患者の管理” (安田寿一監修, 杉本恒明, 篠山重威編), 1996；pp 355-358, 南江堂。
- 2) 落 雅美, 草場 昭, 井島 宏, 岩井武尚, 佐久間まこと, 他：〔分担〕切迫壊疽一救肢の臨床“重症虚血肢に対し下腹壁動脈を用いて血行再建を行った一治療例” 1996；pp 164-165, へるす出版。
- 3) 清水一雄：〔分担〕第90回医師国家試験問題解説書。1996；pp 159-161, 医学評論社。

- 4) 清水一雄：〔分担〕経静脈治療オーダーマニュアル“7内分泌疾患，クッシング症候群”（和田孝雄，小川 龍，林田憲明編）1996；pp 276-280，メディカルビュー。
- 5) 矢島俊巳，田中茂夫：〔分担〕ペースメーカーの進歩“植込み型除細動器”Clinical Engineering, 1997；pp 16-21，秀潤社。

## 学会発表

### (1) シンポジウム：

- 1) Tanaka S：Non-ischaeamic VT. First Asian Advanced Pacing and Electrophysiology Seminar for Cradiology Trainees (Hong Kong), 1996. 12.
- 2) 清水一雄，高津圭介，秋山博彦，梅原松臣<sup>1)</sup>，内田英二<sup>1)</sup>，田尻 孝<sup>1)</sup>，周東裕仁<sup>2)</sup>，若林一二<sup>2)</sup>，恩田昌彦<sup>1)</sup>，田中茂夫（<sup>1)</sup>外科学第一，<sup>2)</sup>内科学第三）：頻繁な意識消失発作を起こす巨大 pancreatic islet cell carcinoma に対して緊急手術を要した1 治験例。第8回日本内分泌外科学会総会，1996. 4.
- 3) 矢島俊巳，山内茂生，別所竜蔵，山内仁紫，井村 肇，田中茂夫：シングルパスリードの信頼性について。第11回日本心臓ペースング電気生理学会学術大会，1996. 6.
- 4) 小泉 潔，三上 巖，秋山博彦，原口秀司，田中茂夫：間質性肺疾患の診断における胸腔鏡下肺生検。日本医科大学医学会第6回公開シンポジウム，1996. 6.
- 5) 別所竜蔵，田中茂夫：植込み型除細動器（ICD）を誰がどのように植え込むか。第13回日本心電学会学術集会，1996. 10.

### (2) セミナー：

- 1) 田中茂夫：ICDの現状と将来（第3世代から第4世代へ）。第11回日本心臓ペースング・電気生理学会学術大会，1996. 6.
- 2) 田中茂夫：ペースメーカー・植込み型除細動器による不整脈の治療。日本人工臓器学会：1996年度セミナー人工臓器，1996. 7.

### (3) ワークショップ：

- 1) Tanaka S：Implantable cardioverter defibrillator experience in Japan. 7th International Congress on Ambulatory Monitoring (Maihama), 1996. 5.
- 2) Ochi M, Yamauchi S, Yajima T, Kutsukata N, Bessho R, Ninomiya J, Tanaka S：Simultaneous subclavian artery reconstruction in patients undergoing coronary artery bypass grafting-Aorto-axillary bypass transpleural approach. Annual World Congress International college of Angiology (Cologne), 1996. 6.

### (4) 一般講演：

- 1) Nitta T, Yamauchi S, Yajima T, Hosaka H, Imura H, Bessho R, Tanaka S：Distribution mapping of the time intervals after entrainment：A new mapping method in ventricular tachycardia surgery. North American Society of Pacing and Electrophysiology, 17th Annual Scientific Sessions (Seattle), 1996. 5.
- 2) Fukushima M, Fukuda Y<sup>1)</sup>, Kawamoto M<sup>1)</sup>, Haraguchi S, Koizumi K, Tanaka S（<sup>1)</sup>Dept. Pathology）：Elastosis of lung carcinoma. American Lung Association American Thoracic Society 1996 International Conference (New Orleans), 1996. 5.
- 3) Kawamoto M<sup>1)</sup>, Fukushima M, Fukuda Y<sup>1)</sup>, Koizumi K, Yamanaka N<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>Dept. Pathology）：Immunohistochemical localization of thymidine phosphorylase in primary lung cancer. American Lung Association American Thoracic Society 1996 International conference (New Orleans), 1996. 5.
- 4) Nitta T, Yamauchi S, Yajima T, Hosaka H, Imura H, Bessho R, Tanaka S：Are the right artial incisions of the maze procedure necessary to cure atrial fibrillation in patients with isolated mitral valve disease? Cardiostim, 10th International Congress (Nice), 1996. 6.

- 5) Nitta T, Yamauchi S, Yajima T, Hosaka H, Imura H, Bessho R, Tanaka S : Distribution mapping of the time intervals after entrainment : A new mapping method in ventricular tachycardia surgery. *Cardiostim*, 10th International Congress (Nice), 1996. 6.
- 6) Shimizu K, Nagahama H, Kitamura Y, Chin k, Kitagawa W, Tanaka S : Autotransplantation of cryo-preserved thyroid tissue for permanent postoperative hypothyroidism in patient with Grave's disease report of the first case. 10th International Congress of Endocrinology (San Francisco), 1996. 6.
- 7) Ochi M, Yamauchi S, Yajima T, Bessho R, Ninomiya J, Tanaka S : Optimal timing of surgical revascularization for severe unstable angina with or without acute myocardial infarction requiring IABP support. VIth World congress of the international society of cardio-thoracic surgeons (ISCTS) (Hiroshima), 1996. 7.
- 8) Koizumi K, Haraguchi S, Akiyama H, Mikami I, Fukushima M, Tanaka S, Kawamoto M<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>Dept. Pathology) : Thoracoscopic enucleation of bronchogenic cyst of the esophagus report two cases. VIth World congress of the international society of cardio-thoracic surgeons (ISCTS) (Hiroshima), 1996. 7.
- 9) Yamauchi S, Tanaka S, Nitta T, Yajima T, Bessho R, Imura H, Ochi M, Asano T, Hioki M, Ninomiya J : Surgical Treatment for Atrial Fibrillation-Are Extensive Atrial Incisions Necessary to Ablate Atrial Fibrillation? The Centenary of Cardiac Surgery 1896-1996, VIth World Congress of the International Society of Cardio-Thoracic Surgenons (ISCTS) and IXth Annual Meeting of the ISCTS-Japan Chapter (Hiroshima), 1996. 7.
- 10) Bessho R, Nitta S, Yamauchi S, Yajima T, Imura H, Yamada K, Ochi M, Ninomiya J, Tanaka S : Measurement of upper limit of vulnerability substitutes for the measurement of defibrillation threshold at the time of defibrillator implantation. XXIII European Society For Artificial Organs (ESAIO) Congress (Warsaw), 1996. 10.
- 11) Ninomiya J, Tanaka S, Takano T<sup>1)</sup>, Asano T, Ochi M, Yamauchi S, Yamauchi H (<sup>1)</sup>Dept. ICU) : Long term results of surgical repair for postinfarctional ventricular free wall rupture and/or septal perforation. XXX World Congress of the International College of Surgeons (Kyoto), 1996. 11.
- 12) Nagahama M, Shimizu K, Kanno S, Aida N, Kitamura Y, Kitagawa W, Shibuya T, Tanaka S : A case of tertiary hyperparathyroidism. XXX World Congress of the International College of Surgeons (Kyoto), 1996. 11.
- 13) Shimizu K, Kitamura Y, Nagahama H, Kitagawa W, Akasu H<sup>1)</sup>, Tanaka S (<sup>1)</sup>Ito Hospital) : New Strategy for Treatment of Permanent Postoperative Hypothyroidism in Patient with Grave's Disease-Autotransplantation of Cryopreserved Thyroid Tissue. 10th Asian and Pacific Endocrine Conference (Pusan), 1997. 3.
- 14) Kitamura Y, Shimizu K, Nagahama M, Kitagawa W, Akasu K<sup>1)</sup>, Tanaka S (<sup>1)</sup>Ito Hospital) : Analysis of RET Proto-oncogene in Patients with Clinically Sporadic Medullary Thyroid Carcinoma. 10th Asian and Pacific Endocrine Conference (Pusan), 1997. 3.
- 15) Nagahama M, Shimizu K, Kitamura Y, Kitagawa W, Akasu H<sup>1)</sup>, Aida N, Tanaka S (<sup>1)</sup>Ito Hospital) : A case of traumatic intranodular hemorrhage of the thyroid with dyspnea. 10th Meeting of Asian-Pacific Endocrine Conference (Pusan), 1997. 3.
- 16) Takatsu K, Shimizu K, Kitamura Y, Nagahama M, Kitagawa W, Tanaka S : Clear cell carcinoma metastasis to the thyroid. 10th Meeting of Asian-Pacific Endocrine Conference (Pusan), 1997. 3.
- 17) 小泉 潔, 原口秀司, 秋山博彦, 三上 巖, 福島光浩, 藤井正大, 桧山和弘, 佐地嘉章, 佐藤泰雄, 五味潤誠, 松島伸治, 川本雅司<sup>1)</sup>, 宮下広次<sup>2)</sup>, 日野光紀<sup>3)</sup>, 田中茂夫(<sup>1)</sup>病理学第一, <sup>2)</sup>放射線医学, <sup>3)</sup>内科学第四) : 胸腔鏡

- 下手術を併用した肺癌の縮小手術，胸腔内照射，化学療法による集学的治療の試み。第36回日本胸部疾患学会総会，1996。4。
- 18) 秋山博彦，佐地嘉章，桧山和弘，藤井正大，佐藤泰雄，福島光浩，三上 巖，原口秀司，小泉 潔，五味洸誠，田中茂夫，川本雅司<sup>1)</sup> (1)病理学第一)：当科における胸腔鏡下手術症例の検討。第36回日本胸部疾患学会総会，1996。4。
  - 19) 川本雅司<sup>1)</sup>，福島光浩，福田 悠<sup>1)</sup> (1)病理学第一)：原発性肺癌における Thymidine Phosphorylase の免疫組織学的局在。第36回日本胸部疾患学会総会，1996。4。
  - 20) 福島光浩，福田 悠<sup>1)</sup>，川本雅司<sup>1)</sup>，原口秀司，小泉 潔，田中茂夫，山中宣昭<sup>1)</sup> (1)病理学第一)：肺癌の弾性線維症。第36回日本胸部疾患学会総会，1996。4。
  - 21) 小泉 潔，秋山博彦，原口秀司，田中茂夫：肺癌に対する胸腔鏡下手術を応用した集学的治療の試み。第96回日本外科学会総会，1996。4。
  - 22) 長浜充二，清水一雄，山下浩二，加藤秀和，北川 亘，相田成隆，渋谷哲男，田中茂夫：対側リンパ節領域から再発，未分化転化を来し急速な経過で死亡した甲状腺乳頭癌の1例。第8回日本内分泌外科学会総会，1996。4。
  - 23) 秋山博彦，小泉 潔，五味洸誠，原口秀司，真崎義隆，三上 巖，福島光浩，佐藤泰雄，藤井正大，佐地嘉章，桧山和弘，田中茂夫：教室における肺癌に対する縮小手術としての気管支形成術の評価。第13回日本呼吸器外科学会総会，1996。5。
  - 24) 藤井正大，佐藤泰雄，佐地嘉章，桧山和弘，福島光浩，三上 巖，秋山博彦，原口秀司，小泉 潔，田中茂夫，川本雅司<sup>1)</sup> (1)病理学第一)：当教室における縦隔腫瘍に対する胸腔鏡下手術の経験。第13回日本呼吸器外科学会総会，1996。5。
  - 25) 別所竜蔵，矢島俊巳，山内茂生，山内仁紫，井村 肇，秋山博彦，新田 隆，落 雅美，田中茂夫：ペースメーカー植込み症例における慢性心房細動の発生について。第11回日本心臓ペースング学会総会，1996。5。
  - 26) 井村 肇，山内茂生，矢島俊巳，別所竜蔵，田中茂夫：ペースメーカー植込み患者の遠隔期ペースング状況ペースメーカー適応基準の妥当性の検討。第11回日本心臓ペースング学会総会，1996。5。
  - 27) 若林武雄，藤井正大，岩城秀行，古川良弥<sup>1)</sup> (1)国立療養所福島病院外科)：腸悪性リンパ腫と肺癌の重複悪性腫瘍の1例。第57回日本胸部外科学会東北地方会，1996。6。
  - 28) 佐々木建志，原田 厚，福島孝男，岩原信一郎，高橋直人，井村 肇，田中茂夫，武井 裕：上行大動脈解離を合併した真性弓部大動脈瘤に対する上行弓部置換術。第98回日本胸部外科学会関東甲信越地方会，1996。6。
  - 29) 山内仁紫，二宮淳一，井村 肇，桧山和弘，佐藤泰雄，藤井正大，佐地嘉章，田中茂夫：自己心房壁ロールによる Total cavopulmonary connection 2 治験例。第98回日本胸部外科学会関東甲信越地方会，1996。6。
  - 30) 藤井正大，若林武雄，岩城秀行，古川良弥<sup>1)</sup> (1)国立療養所福島病院外科)：開腹手術を選択した胃 Inflammatory pseudo tumor の1例。第131回東北外科集談会，1996。6。
  - 31) 落 雅美，山内茂生，矢島俊巳，朽方規喜，別所竜蔵，井村 肇，佐藤泰雄，藤井正大，佐地嘉章，桧山和弘，二宮淳一，田中茂夫：鎖骨下動脈と冠動脈の同時血行再建：経胸腔経路による大動脈一腋窩動脈バイパスの経験。第24回日本血管外科学会総会，1996。6。
  - 32) 矢島俊巳，別所竜蔵，井村 肇，藤井正大，桧山和弘，山内茂生，落 雅美，田中茂夫：無症候性大動脈解離の検討。第24回日本血管外科学会総会，1996。6。
  - 33) 別所竜蔵，落 雅美，山内茂生，矢島俊巳，山内仁紫，井村 肇，山田研一，藤井正大，岡田大輔，二宮淳一，田中茂夫：A型大動脈解離手術症例の術前合併症と手術成績について。第24回日本血管外科学会総会，1996。6。
  - 34) 井村 肇，山内茂生，矢島俊巳，別所竜蔵，田中茂夫：弓部大動脈瘤パッチ閉鎖術再発例の検討。第24回日本血管外科学会総会，1996。6。
  - 35) 藤井正大，佐藤泰雄，佐地嘉章，別所竜蔵，井村 肇，矢島俊巳，山内茂生，落 雅美，二宮淳一，田中茂夫，田村浩一<sup>1)</sup> (1)病理学第一)：腎性高血圧を呈した炎症性右腎動脈瘤の一手術治験例。第24回日本血管外科学会総

- 会, 1996. 6.
- 36) 窪倉浩俊, 西村仁志<sup>1)</sup>, 山本光伸<sup>1)</sup>, 出雲俊之<sup>1)</sup>, 土屋永寿<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>埼玉がんセンター胸部外科): Biphasic Pulmonary Blastoma の 1 症例. 第116回日本肺癌学会関東部会, 1996. 6.
- 37) 山内仁紫, 二宮淳一, 井村 肇, 石井庸介, 藤井正大, 桧山和弘, 佐藤泰雄, 田中茂夫, 上砂光裕<sup>1)</sup>, 小川俊一<sup>1)</sup>, 山本正生<sup>1)</sup>, 田村浩一<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>小児科, <sup>2)</sup>病理学第一): 小児期発症 Annulo-aortic ectasia 3 手術例の病理所見と上行大動脈径の経年変化. 第32回日本小児循環器学会総会, 1996. 7.
- 38) 落 雅美, 山内茂生, 矢島俊巳, 朽方規喜, 別所竜蔵, 井村 肇, 山田研一, 二宮淳一, 田中茂夫: 重症不安定狭心症に対する CABG の時期. 第 1 回日本冠動脈外科学会, 1996. 7.
- 39) 若林武雄: HCFU が有効であった肺癌の 1 例. 第35回肺癌学会東北支部会, 1996. 8.
- 40) 原口秀司, 小泉 潔, 秋山博彦, 福島光浩, 飯田竹美, 川島徹生, 田中茂夫: 診断に苦慮した胸囲結核の 1 切除例. 第762回外科集談会, 1996. 8.
- 41) 清水一雄, 長浜充二, 田中茂夫, Jasmi Ali Yaakub<sup>1)</sup>, Freda M. Meah<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>マレーシア国民大学): マレーシアにおける内分泌外科疾患の経験. 第64回日本医科大学医学総会, 1996. 9.
- 42) 長浜充二, 清水一雄, 北村 裕, 北川 亘, 相田成隆, 渋谷哲男, 田中茂夫: バセドウ病の外科治療手術適応を中心として. 第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 9.
- 43) 桧山和弘, 二宮淳一, 山内仁紫, 井村 肇, 岩城秀行, 別所竜蔵, 矢島俊巳, 山内茂生, 落 雅美, 田中茂夫, 武智信幸<sup>1)</sup>, 大久保隆志<sup>1)</sup>, 上砂光裕<sup>1)</sup>, 深澤隆治<sup>1)</sup>, 小川俊一<sup>1)</sup>, 山本正生<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>小児科): 動脈管開存症に対する胸腔鏡下結紮術. 第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 9.
- 44) 若林武雄, 藤井正大, 古川良弥<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>国立療養所福島病院外科): 心臓ペースメーカー植え込み術後に出現した心嚢炎の 1 例. 第58回日本胸部外科学会東北地方会, 1996. 9.
- 45) 藤井正大, 若林武雄, 古川良弥<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>国立療養所福島病院外科): 腸悪性リンパ腫を合併した腸回転異常症の 1 例. 第132回東北外科集談会, 1996. 9.
- 46) 高津圭介, 酒井俊太<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>1)</sup>, 岸田 浩<sup>2)</sup>, 早川弘一<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>集中治療室, <sup>2)</sup>内科学第一): 虚血性心疾患と partial atrial standstill を合併した高齢エプスタイン奇形の 1 例. 第161回日本循環器学会関東甲信越地方会, 1996. 9.
- 47) 長浜充二, 清水一雄, 北村 裕, 北川 亘, 相田成隆, 渋谷哲男, 田中茂夫, 岩崎博幸<sup>1)</sup>, 三村 孝<sup>1)</sup>, 伊藤國彦<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>伊藤病院): 頸部神経鞘腫を合併した甲状腺乳頭癌の 1 例. 第29回甲状腺外科検討会, 1996. 9.
- 48) 井村 肇, 山内茂生, 矢島俊巳, 別所竜蔵, 田中茂夫: 心房細動手術における周術期心筋梗塞, 心電図を中心にした検討. 第13回日本心電学会学術集会, 1996. 10.
- 49) 別所竜蔵, 新田 隆, 山内茂生, 矢島俊巳, 二宮淳一, 田中茂夫: single lead system を用いた非開胸法による植込み型除細動器手術の検討. 第34回日本人工臓器学会, 1996. 10.
- 50) 落 雅美, 山内茂生, 矢島俊巳, 朽方規喜, 別所竜蔵, 井村 肇, 山田研一, 二宮淳一, 田中茂夫: 多枝再建例でのグラフトの選択: 有茎動脈グラフトによる sequential バイパスの重要性. 第49回日本胸部外科学会総会, 1996. 10.
- 51) 小泉 潔, 桧山和弘, 佐地嘉章, 佐藤泰雄, 窪倉浩俊, 福島光浩, 三上 巖, 秋山博彦, 原口秀司, 二宮淳一, 五味潤誠, 松島伸治, 田中茂夫: 胸部疾患に対する胸鏡下手術の応用: その利点と欠点. 第49回日本胸部外科学会総会, 1996. 10.
- 52) 山内茂生, 新田 隆, 矢島俊巳, 別所竜蔵, 井村 肇, 山田研一, 杉本忠彦, 落 雅美, 二宮淳一, 田中茂夫: Maze 手術改変の可能性についての検討: 術中マッピングによる心房細動の解析より. 第49回日本胸部外科学会総会, 1996. 10.
- 53) 山内仁紫, 二宮淳一, 井村 肇, 桧山和弘, 佐藤泰雄, 藤井正大, 佐地嘉章, 矢島俊巳, 田中茂夫, 隈崎達夫<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>放射線医学): 回転デジタル血管造影法による自己心房壁ロール TCPC の術後評価. 第49回日本胸部外科学会総会, 1996. 10.

- 54) 井村 肇, 山内茂生, 矢島俊巳, 別所竜蔵, 田中茂夫: 心房細動手術における周術期心筋梗塞とその予防法の検討. 第49回日本胸部外科学会総会, 1996. 10.
- 55) 秋山博彦, 小泉 潔, 原口秀司, 三上 巖, 福島光浩, 窪倉浩俊, 田中茂夫: VATS 肺葉切除術の術後慢性期肺機能からみた評価. 第49回日本胸部外科学会総会, 1996. 10.
- 56) 若林武雄, 藤井正大, 古川良弥<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>国立療養所福島病院外科): リザーバー植え込みが有効であった肺癌術後の癌性心囊炎の1例. 第51回国立療養所総合医学会, 1996. 10.
- 57) 落 雅美, 山内茂生, 矢島俊巳, 朽方規喜, 別所竜蔵, 井村 肇, 山田研一, 二宮淳一, 田中茂夫: 重症3枝病変に対する積極的多血行再建の妥当性. 第37回日本脈管学会総会, 1996. 11.
- 58) 桧山和弘, 別所竜蔵, 山内茂生, 二宮淳一, 落 雅美, 田中茂夫: 植込み型除細動器手術症例における心室頻拍と心室細動の発症と時間的要因について. 第3回日本時間生物学会学術大会, 196. 11.
- 59) 林 晃一, 寺部正記<sup>1)</sup>, 松井 聡<sup>1)</sup>, 馬淵綾子<sup>1)</sup>, 田中茂夫, 横室公三<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>微生物学免疫学): 細菌性スーパー抗原(SEB)の経口投与により誘導される肝関連リンパ球(IHL), 脾細胞(SPC), 腸管膜リンパ節細胞(mLNC), パイエル板細胞(PP)の寛容の特性. 第26回日本免疫学会総会1996. 11.
- 60) 岡田大輔, 小泉 潔, 原口秀司, 秋山博彦, 川島徹生, 田中茂夫, 工藤翔二<sup>1)</sup>, 宮下次廣<sup>2)</sup>, 隈崎達夫<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>内科学第四, <sup>2)</sup>放射線医学): 原発性肺癌に対する新しい集学的治療の試み. 日本医科大学医学会第90回例会, 1996. 11.
- 61) 林 晃一, 寺部正記<sup>1)</sup>, 松井 聡<sup>1)</sup>, 馬淵綾子<sup>1)</sup>, 田中茂夫, 横室公三<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>微生物学免疫学): 細菌性スーパー抗原(SEB)の経口投与により誘導される肝内リンパ球(IHL)脾細胞(SPC), 腸管膜リンパ節細胞(mLNC), パイエル板細胞(PP)の寛容の特性. 第10回肝類洞壁細胞研究会, 1996. 12.
- 62) 小泉 潔, 原口秀司, 秋山博彦, 三上 巖, 福島光浩, 窪倉浩俊, 藤井正大, 佐地嘉章, 佐藤泰雄, 田中茂夫: 肺癌に対する胸腔鏡下手術の応用利点を生かすためにはどうすべきか. 第9回日本内視鏡外科学会総会, 1996. 12.
- 63) 秋山博彦, 福島光浩, 三上 巖, 原口秀司, 小泉 潔, 田中茂夫: 胸壁腫瘍に対する胸腔鏡下手術の検討. 第9回日本内視鏡外科学会総会, 1996. 12.
- 64) 窪倉浩俊, 西村仁志<sup>1)</sup>, 山本光伸<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>埼玉がんセンター胸部外科): 気管支鏡を経胸腔的に用いて診断のついた肺大細胞癌の1症例. 第14回埼玉県外科集談会, 1996. 12.
- 65) 星野 健<sup>1)</sup>, 金 徹<sup>1)</sup>, 小川 龍<sup>1)</sup>, 中西一浩<sup>2)</sup>, 竹田晋浩<sup>2)</sup>, 高野照夫<sup>2)</sup>, 田中茂夫 (<sup>1)</sup>麻酔科学, <sup>2)</sup>集中治療室): 体外循環下開心術におけるサイトカインの変動が心肺機能に与える影響. 第3回手術侵襲とサイトカイン研究会, 1996. 12.
- 66) 別所竜蔵, 落 雅美, 山内茂生, 矢島俊巳, 井村 肇, 山田研一, 二宮淳一, 田中茂夫: 弓部大動脈手術症例の検討: 特に心筋保護と脳保護法について. 第27回日本心臓血管外科学会総会, 1997. 2.
- 67) 井村 肇, 山内茂生, 矢島俊巳, 別所竜蔵, 田中茂夫: 心房細動手術後心筋虚血の予防法とその効果についての検討. 第27回日本心臓血管外科学会総会, 1997. 2.
- 68) 山内茂生, 別所竜蔵, 井村 肇, 山田研一, 矢島俊巳, 田中茂夫: 先天性心疾患と心房細動の一期的手術. 第11回不整脈外科研究会, 1997. 2.
- 69) 原口秀司, 小泉 潔, 秋山博彦, 福島光浩, 飯田竹美, 鈴木世考, 榎本 豊, 田中茂夫: 良性嚢胞状中皮腫の1切除例. 第101回日本胸部外科学会関東甲信越地方会, 1997. 2.
- 70) 菅野重人, 山内茂生, 山内仁紫, 家所良夫, 井村 肇, 二宮淳一, 田中茂夫: 成人例不完全心内膜欠損症(ECD)にImpure Flutterを合併した奨励の一期的手術. 第101回日本胸部外科学会関東甲信越地方会, 1997. 2.
- 71) 岡田大輔, 落 雅美, 山内茂生, 矢島俊巳, 別所竜蔵, 井村 肇, 二宮淳一, 田中茂夫: 左内胸動脈と右胃大網動脈により6枝バイパスを行った重症多枝病変の1症例. 第101回日本胸部外科学会関東甲信越地方会, 1996. 2.
- 72) 長浜充二, 久喜邦康<sup>1)</sup>, 久喜まき子<sup>1)</sup>, 豊島宏二<sup>2)</sup>, 清水一雄, 渋谷哲男, 田中茂夫 (<sup>1)</sup>久喜医院, <sup>2)</sup>慶友): 開業医



- における甲状腺外来開設後2年間の診療成績。第34回埼玉医学総会，1997。2。
- 73) 窪倉浩俊，西村仁志<sup>1)</sup>，山本光伸<sup>1)</sup>，出雲俊之<sup>1)</sup>，土屋永寿<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>埼玉がんセンター胸部外科)：Spindle cell carcinoma の component を有した肺腺癌の1症例。第118回日本肺癌学会関東部会，1997。3。

## [第一病院外科]

### 研究業績

#### 論文

[1995年度追加分]

原著：

- 1) 平井恭二，松島伸治，渋谷哲男，田中茂夫，山田宣孝：神経内分泌的性格が不明瞭な肺小細胞癌の1例。日本呼吸器外科学会雑誌 1996；10：57-61。

(1) 原著：

- 1) Yano M, Naito Z<sup>1)</sup>, Tanaka S, Asano G<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>Department of Pathology)：Expression and Roles of Heat Shock Proteins in Human Breast Cancer. Jpn J Cancer Res 1996；87：908-915。
- 2) Seiji S, Tenjin T, Shibuya T, Tanaka S：Chromosome 17 copy numbers and incidence of p53 gene deletion in gastric cancer cells-Dual color fluorescence in situ hybridization analysis. J Nippon Med Sch 1997；64：22-29。

(2) 総説：

- 1) 天神敏博，小熊将之，鈴木成治，酒井欣男，名取稷治，渡辺秀裕，内山喜一郎，松島伸治，渋谷哲男，田中茂夫：Two Color Fluorescence in Situ Hybridization 法を用いた大腸癌培養細胞における染色体数的異常の相関関係。癌と化学療法 1997；24：119-122，1997。

### 学会発表

(1) ワークショップ：

- 1) 天神敏博，酒井欣男，渡辺秀裕，松島伸治，渋谷哲男，田中茂夫：Multi color FISH 法を利用した大腸癌染色体異常の解析，第55回日本癌学会総会，1996。10。
- 2) 北川 亘，伊藤國彦<sup>1)</sup>，三村 孝<sup>1)</sup>，尾崎修武<sup>1)</sup>，杉野公則<sup>1)</sup>，伊藤公一<sup>1)</sup>，筒井英光<sup>1)</sup>，清水一雄，田中茂夫(<sup>1)</sup>伊藤病院)：当院における甲状腺未分化癌治療の現況。第58回日本臨床外科医学会総会，1996。10

(2) 一般講演：

- 1) Uchiyama K, Rossi S, Ferguson M, Ruger JK, Walp LA, Hanto DW：The administration of an anti- $\alpha\beta$  T cell receptor monoclonal antibody in mice leads to T cell-depletion, inhibition of, allorresponses, and anergy. Amerikan Society of Transplant Physicians 15th Annual Meeting. (Dallas, Texas, USA.), 1996。5。
- 2) Akimaru K：Cytology of body fluids. The 3rd Cytology Seminar at Chiangmai University (Chaingmai, thai), 1996。8。
- 3) Hirai K, Yokoyama M, Yano M, Naito Z, Asano G, Shibuya T, Tanaka S：Expression of Cathepsin B and Cathepsin B Inhibitor in Colorectal Carcinoma. 13th Asia Pacific Cancer Conference (Malaysia), 1996。11。
- 4) Yano M, Naito Z<sup>1)</sup>, Hirai K, Yokoyama M<sup>1)</sup>, Asano G<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>Department of Pathology)：Expression and Roles of Heat Shock Proteins in Human Breast Cancer. 13th Asia Pacific Cancer Conference, 1996。11。

- 5) Kitagawa W, Simizu K, Emoto N<sup>1)</sup>, Nagahama M, Kitamura Y, Akasu H, Mimura<sup>2)</sup> Itou K<sup>2)</sup>, Tanaka S<sup>1)</sup>(Third Department of Internal Medicine, Nippon Medical School, <sup>2)</sup>Itou Hospital) : Autonomously functioning thyroid nodule (AFTN) developed 29 years after surgery of adenomatous goiter. 10th Meeting of Asian-Pacific Endocrine Conference (Pusan, Korea), 1997. 3.
- 6) 北川 亘<sup>1)</sup>, 三村 孝<sup>1)</sup>, 尾崎修武<sup>1)</sup>, 杉野公則<sup>1)</sup>, 伊藤公一<sup>1)</sup>, 筒井英光<sup>1)</sup>, 矢吹由香里<sup>1)</sup>, 石 晴也<sup>2)</sup>, 清水一雄, 田中茂夫, 伊藤國彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>伊藤病院, <sup>2)</sup>都立大塚病院外科) : 中毒症状を呈した完全型縦隔内甲状腺腫の1例. 第8回日本内分泌外科学会総会, 1996. 4.
- 7) 平井恭二<sup>1)</sup>, 渋谷哲男, 山本英希, 内山喜一郎 (<sup>1)</sup>第2病理) : 大腸癌における隆起型・潰瘍型病変についての増殖能および浸潤能の関する免疫組織化学的検討—PCNA, カテプシン B での比較検討—. 大腸癌研究会, 1996. 4.
- 8) 相田成隆, 山田宣孝<sup>1)</sup>, 松本光司<sup>1)</sup>, 浅野伍朗<sup>2)</sup>, 長浜充二, 渋谷哲男, 清水一雄, 田中茂夫 (<sup>1)</sup>第一病院病理部, <sup>2)</sup>第二病理) : 甲状腺濾胞性病変における血管の三次元的再構築による観察, 第96回日本外科学会総会, 1996. 4.
- 9) 矢野正雄, 尾形昌男, 内藤善哉<sup>1)</sup>, 石渡俊行<sup>1)</sup>, 工藤光洋<sup>1)</sup>, 浅野伍朗<sup>1)</sup>, 渋谷哲男, 田中茂夫 (<sup>1)</sup>第2病理) : ヒト乳癌組織における熱ショック蛋白発現とその役割. 第96回日本外科学会総会, 1996. 4.
- 10) 平井恭二, 石渡俊行<sup>1)</sup>, 浅野伍朗<sup>1)</sup>, 渋谷哲男<sup>2)</sup>, 田中茂夫<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>第2病理) : 大腸癌におけるカテプシン B の局在とカテプシン BmRNA の発現の検討. 第96回日本外科学会総会, 1996. 4.
- 11) 平井恭二, 横山宗伯<sup>1)</sup>, 浅野伍朗<sup>1)</sup>, 渋谷哲男, 田中茂夫 (<sup>1)</sup>第2病理) : 大腸癌におけるカテプシン B の局在とカテプシン BmRNA の発現の検討. 日本病理学会総会, 1996. 4.
- 12) 小熊将之, 渋谷哲男, 内山喜一郎, 天神敏博, 山下浩二, 山本英希, 大坂信太郎, 有田 淳, 織井恒安, 原田智浩, 田中茂夫 : 消化器外科手術における自己血輸血の試み. 日本医科大学医学会第89回例会, 1996. 5.
- 13) 長浜充二, 清水一雄, 北村 裕, 北川 亘, 相田成隆, 渋谷哲男, 田中茂夫 : パセドウ病の外科治療 : 手術適応を中心として. 第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 5.
- 14) 鈴木成治, 天神敏博, 渡辺秀裕, 名取稷治, 菅野重人, 山本英希, 長浜充二, 酒井欣男, 小熊将之, 家所良夫, 内山喜一郎, 松島伸治, 渋谷哲男, 田中茂夫 : Multi color FISH 法を用いた胃癌組織の分子細胞遺伝学的検討. 第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 5.
- 15) 天神敏博, 小熊将之, 酒井欣男, 渡辺秀裕, 松島伸治, 渋谷哲男, 田中茂夫 : Multi color FISH 法を用いた大腸癌の染色体異常の相関異常の観察. 第6回日本サイトメトリー学会, 1996. 6.
- 16) 天神敏博, 鈴木成治, 小熊将之, 渡辺秀裕, 松島伸治, 渋谷哲男, 田中茂夫 : Dual Color FISH を用いた大腸癌における c-mycgene 増加率の測定. 第7回日本サイトメトリー学会総会, 1996. 6.
- 17) 小熊将之, 渋谷哲男, 内山喜一郎, 渡辺秀裕, 天神敏博, 酒井欣男, 山下浩二, 山本英希, 中山弘道, 田中茂夫 : 食道早期腺様嚢胞癌の1例. 第21回日本外科系連合学会, 1996. 6.
- 18) 平井恭二, 横山宗伯<sup>1)</sup>, 浅野伍朗<sup>1)</sup>, 渋谷哲男, 田中茂夫 (<sup>1)</sup>第2病理) : 大腸癌におけるカテプシン B とカテプシン B インヒビターの発現の検討. 日本消化器外科学会. 1996. 6.
- 19) 中山弘道, 須田雍夫<sup>1)</sup>, 田中洋一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>埼玉県立がんセンター腹部外科) : Bouen 病の治療経過観察中に発見された食道胃接合部類扁平上皮癌の1例. 第761回外科集談会, 1996. 6.
- 20) 山村行夫<sup>1)</sup>, 清水英佑<sup>2)</sup>, 縣 俊彦<sup>2)</sup>, 小川 泰<sup>2)</sup>, 中島興治<sup>3)</sup>, 中島信子<sup>3)</sup>, 野口昭二<sup>3)</sup>, 松崎一枝<sup>3)</sup>, 渡辺秀裕, 松信精一<sup>3)</sup>, 近藤恭一<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>労研, <sup>2)</sup>慈恵医大・環境保険医, <sup>3)</sup>中島クリニック) : 地下鉄サリン事件被害者の自覚症状と血清コレステラーゼとの関係. 第18回日本中毒学会総会, 1996. 7.
- 21) 北川 亘<sup>1)</sup>, 三村 孝<sup>1)</sup>, 尾崎修武<sup>1)</sup>, 杉野公則<sup>1)</sup>, 伊藤公一<sup>1)</sup>, 筒井英光<sup>1)</sup>, 清水一雄, 田中茂夫, 伊藤國彦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>伊藤病院) : 甲状腺機能性結節の臨床的検討. 第29回甲状腺外科検討会, 1996. 9.
- 22) 岩村太郎, 清水一雄, 赤須東樹, 北川 亘, 長浜充二, 相田成隆, 田中茂夫, 三村 孝, 伊藤國彦<sup>1)</sup>, 川並汪一<sup>2)</sup>

- (<sup>1</sup>伊藤病院, <sup>2</sup>第二病院病理部)：各種副甲状腺病態におけるマスト細胞も形態学的特徴と組織内ヒスタミン含有量：マスト細胞はヒト副甲状腺においてホルモン産生に関与しているか。第29回甲状腺外科検討会, 1996. 9.
- 23) 長浜充二, 清水一雄, 北村 裕, 北川 亘, 相田成隆, 渋谷哲男, 田中茂夫, 岩崎博幸<sup>1</sup>, 三村 孝<sup>1</sup>, 伊藤國彦<sup>1</sup> (<sup>1</sup>伊藤病院)：頸部神経鞘腫を合併した甲状腺乳頭癌の1例。第29回甲状腺外科検討会, 1996. 9.
- 24) 松島伸治, 天神敏博, 菅野重人, 秋山博彦, 三上 巖, 小泉 潔, 田中茂夫：転移性肺腫瘍に対する p53癌抑制遺伝子の検討：PCNA との対比を含めて。第37回日本肺癌学会総会, 1996. 10.
- 25) 平井恭二, 横山宗伯<sup>1</sup>, 浅野伍朗<sup>1</sup>, 渋谷哲男, 田中茂夫 (<sup>1</sup>第2病理)：大腸癌におけるカテプシン B とカテプシン B インヒビターの発現の検討。第55回日本癌学会総会, 1996. 10.
- 26) 五十嵐健人, 鈴木 聡<sup>1</sup>, 星野有哉, 遠山 隆<sup>1</sup>, 島田 隆<sup>1</sup> (<sup>1</sup>第2生化)：Adenovirus vector を用いた癌性腹膜炎に対する遺伝子治療の検討。第55回日本癌学会総会, 1996. 10.
- 27) 長江 康, 前田昭太郎<sup>2</sup>, 細根 勝<sup>2</sup>, 片山博徳<sup>2</sup>, 矢野正雄, 亀山孝二<sup>1</sup>, 横山宗伯<sup>1</sup>, 内藤善哉<sup>1</sup>, 浅野伍朗<sup>1</sup> (<sup>1</sup>第2病理, <sup>2</sup>多摩永山病院病理部)：乳癌におけるカドヘリンの発現と細胞増殖能との関連性。第55回日本癌学会総会, 1996. 10.
- 28) 工藤光洋<sup>1</sup>, 内藤善哉<sup>1</sup>, 下村隆保<sup>1</sup>, 矢野正雄, 尾形昌男, 有田 淳, 石渡俊行<sup>1</sup>, 横山宗伯<sup>1</sup>, 浅野伍朗<sup>1</sup> (<sup>1</sup>第2病理)：熱ショック及びケルセチン, カテキンの胆管細胞癌 (HuCCT-1) への影響。第55回日本癌学会総会, 1996. 10.
- 29) 秋丸琥甫, 加藤修志, 岩間 裕：胃切除後の空調パウチ間置による再建術。第58回日本臨床外科医学会総会, 1996. 11.
- 30) 加藤修志, 秋丸琥甫, 岩間 裕：嚥下困難に対して metal-mesh stent が有用であった食道癌術後局所再発による狭窄の1例。第58回日本臨床外科医学会総会, 1996. 11.
- 31) 岩間 裕, 加藤修志, 秋丸琥甫：腹鏡下胆嚢摘出術における気腹による気管分岐部の挙上。第58回日本臨床外科医学会総会, 1996. 11.
- 32) 渋谷哲男, 内山喜一郎, 小熊将之, 塩谷 猛, 酒井欣男, 山本英希, 菅野重人, 松島伸治, 田中茂夫, 植田候平<sup>1</sup>, 石王道人<sup>1</sup>, 隈崎達夫<sup>1</sup> (<sup>1</sup>放射線科)：食道癌術後吻合部狭窄に対し EMS を使用した2例。第58回日本臨床外科学会総会, 1996.
- 33) 内山喜一郎, 渋谷哲男, 渡辺秀裕, 天神敏博, 小熊将之, 酒井欣男, 菅野重人, 名取穰治, 田中茂夫：特異な形態を呈した胆嚢の乳頭状腺腫の1例。第58回日本臨床外科医学会総会, 1996.
- 34) 渡辺秀裕, 酒井欣男, 山本英希, 鈴木成治, 小平祐造, 名取穰治, 江連 司, 天神敏博, 渋谷哲男, 田中茂夫：血行性転移からみた胃癌の検討と対策。第58回日本臨床外科医学会総会, 1996. 11.
- 35) 小熊将之, 渋谷哲男, 内山喜一郎, 渡辺秀裕, 天神敏博, 酒井欣男, 山本英希, 菅野重人, 名取穰治, 江連 司, 平井恭治, 田中茂夫：早期食道類基底細胞癌と胃癌の同時性重複癌の1切除例。第58回日本臨床外科医学会総会, 1996.
- 36) 中山弘道, 須田雍夫<sup>1</sup> (<sup>1</sup>埼玉県立がんセンター腹部外科)：胃悪性神経鞘腫自験7例と本邦報告40例の検討。第58回日本臨床外科学会総会, 1996. 11.
- 37) 渡辺善正, 渋谷哲男, 内山喜一郎, 家所良夫, 小熊将之, 渡辺秀裕, 菅野重人, 松島伸治, 田中茂夫：胃癌と心疾患を合併した2症例の外科的治療。第58回日本臨床外科医学会総会, 1996.
- 38) 中山弘道, 須田雍夫<sup>1</sup> (<sup>1</sup>埼玉県立がんセンター腹部外科)：多発性内分泌腫瘍症。(MEN I型)の1例。第14回埼玉県外科集談会, 1996. 12.
- 39) 加藤修志, 秋丸琥甫：長期中心静脈カテーテル留置による鎖骨下静脈閉血栓症の1例。リザーバー研究会グアムセミナー, 1997. 1.
- 40) 小熊将之, 渋谷哲男, 内山喜一郎, 天神敏博, 山下浩二, 山本英希, 有田 淳, 原田智浩, 田中茂夫：食道癌手術における事故血輸血の検討。第49回日本消化器外科学会総会, 1997. 2.

- 41) 鈴木成治, 天神敏博, 渡辺秀裕, 南部弘太郎, 名取禎治, 菅野重人, 山本英希, 長浜充二, 酒井欣男, 小熊将之, 内山喜一郎, 渋谷哲男, 田中茂夫: Dual calor FISH 法を用いた胃癌細胞の分子細胞遺伝学的検討. 第49回日本消化器病外科学会総会, 1997. 2.
- 42) 加藤修志, 秋丸琥甫: 転移性肝癌と鑑別困難出会った肝内胆肝癌の1切除例. 第15回胆癌症例検討会, 1997. 4.

## [第一病院内視鏡科]

### 研究概要

当内視鏡科では、消化管全般にわたり幅広い研究を行っている。消化管機能に関する研究はもとより、第一病院病理科との共同研究テーマであるヘリコバクター・ピロリ感染についてはすでに3,000例を超した。タイ、中国におけるヘリコバクター・ピロリ感染、萎縮性胃炎を始めとする上部消化管疾患の特徴については、現地で多数例の内視鏡検査を行い有意義な成果が得られた。

- 1) ヘリコバクター・ピロリ感染についての研究成果をタイ、中国で計6題のシンポジウム講演を行った。
- 2) 胃内逆流胆汁酸とヘリコバクター・ピロリ感染の関係を胃切除後残胃例において検討した。また、ヘリコバクター・ピロリ感染と血清ペプシノゲンの関係についても背景胃粘膜との関連、除菌後の変化を含めて報告した。
- 3) 胃ポリープ、十二指腸潰瘍症例におけるヘリコバクター・ピロリ感染の特徴についても発表した。
- 4) 胃の運動機能に関しては、新しい見地より胃電図を用いた研究発表を行った。
- 5) 下部消化管の稀な疾患についても症例報告を行った。

### 論文

#### (1) 原著:

- 1) 松久威史, 草間 泉, 山田宣孝: *Helicobacter pylori* 感染からみた幽門側切除後残胃: 胃内逆流胆汁酸との関連を含めて. 消化器内視鏡の進歩 1996; 48: 142-143.
- 2) 松久威史, 出光豊明: 画像解析により測定した消化性潰瘍の胃粘膜ヘモグロビン濃度測定. 消化器内視鏡の進歩 1996; 48: 144-145.
- 3) 草間 泉, 飯田章太郎, 松久威史: 内視鏡的に切除した巨大胃ポリープの3例. 消化器内視鏡の進歩 1996; 48: 168-169.
- 4) 吉原一郎, 遠藤まゆみ, 飯田章太郎, 松久威史: エタノール局注の併用により内視鏡的に切除しえた巨大十二指腸球部ポリープの1例. 消化器内視鏡の進歩 1996; 48: 188-189.
- 5) 倉 禎二<sup>1)</sup>, 熊木敏郎<sup>1)</sup>, 松久威史, 田中茂夫<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>葛飾健診センター, <sup>2)</sup>第2外科): 健診における発見胃癌の検討. 日医大誌 1996; 63: 202-214.
- 6) 松久威史: 幽門螺旋菌感染萎縮性胃炎关系的内鏡特徴. 現代消化病及内鏡杂志 1996; 1: 85-89.
- 7) 飯田章太郎, 出光豊明, 松久威史: 緊満感のある巨大孤立性食道静脈瘤. 消化器内視鏡 1996; 8: 974-975.
- 8) 松久威史, 井上泰夫, 羽山享宏, 山田宣孝<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>第一病院病理科): 内視鏡的胃粘膜性状からみた血清ペプシノゲン: *Helicobacter pylori* 感染との関連を含めて. 消化器内視鏡の進歩 1996; 49: 150-151.

### 著書

- 1) 松久威史: [分担] 続・外来で知っておきたい消化器疾患.” 抗生物質に起因する急性出血性大腸炎” (神保勝一編著), 1996; pp110-113, ベクトル・コア.

## 学会発表

### (1) シンポジウム：

- 1) Matsuhisa, T. : Diagnosis of *Helicobacter pylori* infection in Japan. Symposium of NMS and CMU (Thailand, Chiang Mai), 1996.8.
- 2) Matsuhisa, T., Yamada, N.<sup>1)</sup>, Miki, M.<sup>2)</sup>, Eiumtrakul, CS<sup>3)</sup> (<sup>1)</sup>第一病院病理部, <sup>2)</sup>日本医科大学, <sup>3)</sup>Kawila Hospital, Chiang Mai, Thailand) : Endoscopic study of *Helicobacter pylori* infection in Japan in comparison to that of Thailand. Symposium of NMS and CMU (Thailand, Chiang Mai), 1996.8.
- 3) Matsuhisa, T., Yamada, N.<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>第一病院病理部) : Eradication of *Helicobacter pylori* infection in Japan. Symposium of NMS and CMU (Thailand, Chiang Mai), 1996.8.
- 4) 松久威史 : *Helicobacter pylori* 感染胃粘膜の内視鏡の特徴. 中日 *Helicobacter pylori* Symposium (中国, 廣州), 1996.5.
- 5) 松久威史 : 在日本有关的幽门螺旋菌感染状况. 第2回中日友好 *Helicobacter pylori* 与胃・十二指腸疾患 Symposium (中国, 北京), 1996.10..
- 6) 松久威史 : 萎縮性胃炎の内視鏡診断. 第2回中日友好 *Helicobacter pylori* 与胃・十二指腸疾患 Symposium (中国, 北京), 1996.10.

### (2) 一般講演：

- 1) Matsuhisa, T. : An endoscopic observation of gastric mucosa in digestive ulcer in relation to pepsinogen and *Helicobacter pylori* infection. 7th Asian-Pacific Congress of Digestive Endoscopy (Yokohama), 1996. 9.
- 2) 松久威史, 草間 泉, 山田宣孝<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>第一病院病理部) : 幽門側切除後残胃における *Helicobacter pylori* 感染と胃内逆流胆汁酸. 第51回日本消化器内視鏡学会総会, 1996. 4.
- 3) 松久威史, 吉原一郎, 羽山享宏, 温 敏<sup>1)</sup>, 山田宣孝<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>第一病院病理部) : 当内視鏡科における *Helicobacter pylori* 感染例の除菌経験. 日本医科大学医学会第89回例会, 1996. 5.
- 4) 草間 泉, 羽山享宏, 井上泰夫, 吉原一郎, 松久威史, 山田宣孝<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>第一病院病理部) : 胃ポリープ症例における *Helicobacter pylori* 感染 : 病理組織型別検討を含めて. 日本医科大学医学会第89回例会, 1996. 5.
- 5) 遠藤まゆみ, 羽山享宏, 井上泰夫, 松久威史, 山田宣孝<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>第一病院病理部) : 十二指腸潰瘍における *Helicobacter pylori* 感染 : 背景胃粘膜との関連性. 日本医科大学医学会第89回例会, 1996. 5.
- 6) 山田宣孝<sup>1)</sup>, 相田成隆<sup>1)</sup>, 松本光司<sup>1)</sup>, 温 敏<sup>1)</sup>, 松久威史 (<sup>1)</sup>第一病院病理部) : ”内視鏡的正常例”に胃生検は必要か. 日本医科大学医学会第89回例会, 1996. 5.
- 7) 温 敏<sup>1)</sup>, 松本光司<sup>1)</sup>, 山田宣孝<sup>1)</sup>, 松久威史 (<sup>1)</sup>第一病院病理部) : 病理からみた *Helicobacter pylori* 感染胃粘膜除菌判定の問題点. 日本医科大学医学会第89回例会, 1996. 5.
- 8) 松久威史, 井上泰夫, 羽山享宏, 山田宣孝<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>第一病院病理部) : 内視鏡的胃粘膜性状からみた血清ペプシノーゲン : *Helicobacter pylori* 感染との関連を含めて. 第61回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 1996. 6.
- 9) 松久威史, 井上泰夫, 羽山享宏, 山田宣孝<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>第一病院病理部) : 老年者胃十二指腸疾患における *Helicobacter pylori* 感染 : 内視鏡的胃粘膜性状との関連も含めて. 第38回日本老年医学会総会, 1996. 6.
- 10) 飯田章太郎, 森 洋, 松久威史 : 胃運動機能に対する胃電図測定の試み. 第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 9.
- 11) プラカシュ・ジャドウ<sup>1)</sup>, 山田宣孝<sup>1)</sup>, 相田成隆<sup>1)</sup>, 松本光司<sup>1)</sup>, 温 敏<sup>1)</sup>, 大塚俊司<sup>1)</sup>, 佐藤春明<sup>1)</sup>, 村瀬幸宏<sup>1)</sup>, 相田昌子<sup>1)</sup>, 早澤久美<sup>1)</sup>, 松久威史 (<sup>1)</sup>第一病院病理部) : 日本人とタイ人における胃炎像の病理組織学的比較 (第1報) : *Helicobacter pylori* 感染と胃炎の関係を中心として. 第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 9.
- 12) 温 敏<sup>1)</sup>, 相田成隆<sup>1)</sup>, 松本光司<sup>1)</sup>, 山田宣孝<sup>1)</sup>, 松久威史, 並松茂樹<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>第一病院病理部, <sup>2)</sup>同中央研究室) : *Helicobacter pylori* の除菌結果及び問題例についての検討. 第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 9.

- 13) 松久威史, 飯田章太郎, 井上泰夫, 羽山享宏, 山田宣孝<sup>1)</sup> (1)第一病院病理部) : 血清ペプシノーゲンからみた *Helicobacter pylori* 感染 : 背景胃粘膜との関連を含めて. 第64回日本医科大学医学学会総会, 1996. 9.
- 14) 草間 泉, 羽山享宏, 井上泰夫, 吉原一郎, 松久威史, 山田宣孝<sup>1)</sup> (1)第一病院病理部) : 局在部位別にみた胃ポリープの *Helicobacter pylori* 感染. 第64回日本医科大学医学学会総会, 1996. 9.
- 15) 遠藤まゆみ, 羽山享宏, 井上泰夫, 松久威史, 山田宣孝<sup>1)</sup> (1)第一病院病理部) : 十二指腸潰瘍例における背景胃粘膜 : *Helicobacter pylori* 感染の観点より. 第64回日本医科大学医学学会総会, 1996. 9.
- 16) 井上泰夫, 飯田章太郎, 松久威史, 判治直人<sup>1)</sup>, 吉野楨一<sup>1)</sup>, 山田宣孝<sup>2)</sup> (1)第一病院リウマチ科, 2)第一病院病理部) : 大腸潰瘍性病変を認めた Churg-Strauss 症候群の1例. 第64回日本医科大学医学学会総会, 1996. 9.
- 17) 松久威史, 山田宣孝<sup>1)</sup> (1)第一病院病理部) : 消化性潰瘍における内視鏡的胃粘膜性状 : 血清ペプシノーゲン, *Helicobacter pylori* 感染との関連性. 第52回日本消化器内視鏡学会総会, 1996. 9.
- 18) 松久威史, 山田宣孝<sup>1)</sup> (1)第一病院病理部) : *Helicobacter pylori* 除菌療法の評価. 第63回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 1996. 11.
- 19) 松久威史, 草間 泉, 羽山享宏, 井上泰夫, 吉原一郎, 山田宣孝<sup>1)</sup> (1)第一病院病理部) : 胃ポリープ症例における *Helicobacter pylori* 感染の局在部位別および病理組織型別検討. 第63回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 1996. 11.
- 20) 遠藤まゆみ, 羽山享宏, 井上泰夫, 松久威史, 山田宣孝<sup>1)</sup> (1)第一病院病理部) : 十二指腸潰瘍と *Helicobacter pylori* 感染 : 背景胃粘膜の観察を含めて. 第63回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 1996. 11.
- 21) 井上泰夫, 飯田章太郎, 松久威史, 判治直人<sup>1)</sup>, 吉野楨一<sup>1)</sup>, 山田宣孝<sup>2)</sup> (1)第一病院リウマチ科, 2)同病理部) : Churg-Strauss 症候群に大腸潰瘍性病変を伴った1例. 第242回日本消化器病学会関東支部例会, 1996. 12.
- 22) 森 洋, 松久威史, 山田宣孝<sup>1)</sup> (1)第一病院病理部) : *Helicobacter pylori* 除菌後に再発した胃潰瘍の2例. 第243回日本消化器病学会関東支部例会, 1997. 2.

## [第二病院外科]

### 研究概要

当外科は腹部外科から研究がはじまり, 乳線や呼吸器外科等が追加発展してきたが, その後消化器系疾患は消化器病センターで扱われるようになり, 平成 9年 4月より心血管外科の開設とともに研究の中心は胸部外科領域に移った. 臨床研究を主体とし, 肺癌の外科的治療, 胸腔鏡手術, 悪性腫瘍に対する集学的治療, その他の呼吸器外科疾患等広く研究を行っており, 特に胸壁腫瘍切除再建に関する詳細な検討がある. 心臓疾患では, minimally invasive cardiac surgery についての適応, 手術法の開発及び改良等の臨床的研究を行っている. 血管外科では高齢化社会に向かい高齢者大血管手術の適応と手術成績の向上を目指した臨床研究に主眼をおいている. また, 心筋保護についても良い心筋保護法の確立のための基礎的臨床的な研究を始めている.

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著 :

- 1) Ochi M<sup>1)</sup>, Yamauchi S<sup>1)</sup>, Yajima Y<sup>1)</sup>, Kutsukata N, Bessho R<sup>1)</sup>, Tanaka S<sup>1)</sup> : (1)Second Department of Surgery) ; Aortic Dissection Extending From the Left Coronary Artery During Percutaneous Coronary Angioplasty. *Ann Thorac Surg.* 1996 ; 62 : 1180-1182.
- 2) 久吉隆郎, 天野純治, 難波 亨, 平田知己, 木本洋一郎, 平野滋之, 山下康夫, 山岸茂樹, 赤岩 順<sup>1)</sup> (1)育生会横浜病院外科) : (特集 : 再発乳癌の治療) 胸壁再発乳癌に対する外科的切除の適応と限界. *日臨外医会誌*, 1996 ; 57 : 2603-2605.

- 3) 川並汪一<sup>1)</sup>, 中島美知子<sup>2)</sup>, 久吉隆郎<sup>(<sup>1)</sup>第二病院病理部, <sup>2)</sup>第二病院皮膚科)</sup>: (特集: 気道上皮細胞とアレルギー) 気道-肺胞構造の新しい側面. アレルギー科, 1996; 2: 277-284.
- 4) 菊竹晴子<sup>1)</sup>, 佐藤雅史<sup>1)</sup>, 梶原景子<sup>1)</sup>, 鈴木恵一郎<sup>1)</sup>, 小俣 香<sup>1)</sup>, 渡部英之<sup>1)</sup>, 難波 亨, 久吉隆郎<sup>(<sup>1)</sup>第二病院放射線科)</sup>: 特発性肺血腫と考えられた1例. 臨床放射線, 1996; 41: 685-688.
- 5) 大場英己<sup>1)</sup>, 増田 栄, 酒井欣男<sup>1)</sup>, 鈴木章一<sup>1)</sup>, 渋谷哲男<sup>1)</sup>, 平井恭二<sup>1)</sup>, 田中茂夫<sup>1)</sup>, 山田宣孝<sup>2)</sup><sup>(<sup>1)</sup>第2外科, <sup>2)</sup>第2病理)</sup>: 総胆管に発生した乳頭状腺腫の1例. 消化器外科 1996; 19: 1625-1630.

(2) 総説:

- 1) 久吉隆郎, 日置正文, 平田知己, 山下康夫, 山岸茂樹, 佐藤雅史<sup>1)</sup>, 難波 亨<sup>2)</sup>, 田中茂夫<sup>3)</sup><sup>(<sup>1)</sup>第二病院放射線科, <sup>2)</sup>黒河内病院, <sup>3)</sup>第2外科)</sup>: (特集: 肺結節性陰影の診断) 外科医の立場から; ビデオ胸腔鏡下肺部分切除術による肺結節性陰影の診断と治療. 臨床画像, 1996; 12: 1326-1335.
- 2) 佐藤雅史<sup>1)</sup>, 山本博人<sup>1)</sup>, 久吉隆郎<sup>(<sup>1)</sup>第二病院放射線科)</sup>: (特集: 胸部救急疾患の画像診断) 症候別の画像診断のポイント; 咯血. 臨床画像, 1996; 12: 802-811.

学会発表

(1) ワークショップ:

- 1) 的場康德<sup>1)</sup>, 久吉隆郎, 松林富士男<sup>2)</sup>, 片山博徳<sup>3)</sup>, 馬越正通<sup>1)</sup><sup>(<sup>1)</sup>第二病院消化器病センター, <sup>2)</sup>プラザ記念病院, <sup>3)</sup>多摩永山病院病理部)</sup>: 穿孔性胃・十二指腸潰瘍に対する Omental implantation の意義 (主題: 消化性潰瘍に対する治療の選択). 第21回日本外科系連合学会学術集会, 1996. 6.

(2) ビデオセッション:

- 1) 日置正文, 家所良夫, 吉野直之<sup>1)</sup>, 小笠原秀継<sup>1)</sup>, 織井恒安, 増田 栄, 菅野重人<sup>1)</sup>, 松島伸治<sup>1)</sup>, 田中茂夫<sup>1)</sup><sup>(<sup>1)</sup>第一病院外科)</sup>: 僧帽弁一弁下組織温存による僧帽弁換術+modified MAZE 手術 (主題: 心・大血管). 第58回日本臨床外科医学会総会, 1996. 10.

(3) 一般講演:

- 1) Matoba Y, Hisayoshi T, Matsubayashi F, Umakoshi M: Omental Implantation For Perforated Gastric Cancer As Closure Operation. XXX World Congress of The International College of Surgeons (Kyoto), 1996. 11.
- 2) 久吉隆郎, 難波 亨, 平田知己, 的場康德<sup>1)</sup>, 山岸茂樹, 山下康夫<sup>(<sup>1)</sup>第二病院消化器病センター)</sup>: 胸壁腫瘍切除再建症例の検討. 第13回日本呼吸器外科学会総会, 1996. 5.
- 3) 山下康夫, 平田知己, 山岸茂樹, 久吉隆郎, 難波 亨, 的場康德<sup>1)</sup><sup>(<sup>1)</sup>第二病院消化器病センター)</sup>: 前胸腹壁に発生し急速な発育傾向を示した横紋筋肉種の1切除例. 1996. 5.
- 4) 平田知己, 久吉隆郎, 難波 亨, 的場康德<sup>1)</sup>, 山岸茂樹, 山下康夫<sup>(<sup>1)</sup>第二病院消化器病センター)</sup>: 肺癌と胃癌の重複癌症例の検討. 第13回日本呼吸器外科学会総会, 1996. 5.
- 5) 山岸茂樹, 平田知己, 久吉隆郎, 難波 亨, 的場康德<sup>1)</sup>, 山下康夫: 胸腔鏡観察を行なった胸壁 desmoid の1切除例. 第13回日本呼吸器外科学会総会, 1996. 5.
- 6) 朽方規喜, 佐地嘉章<sup>1)</sup>, 檜山和弘, 保坂浩希<sup>1)</sup>, 山内茂夫<sup>1)</sup>, 落 雅美<sup>1)</sup>, 田中茂夫<sup>1)</sup>, 寺田功一<sup>2)</sup><sup>(<sup>1)</sup>第2外科, <sup>2)</sup>総合会津中央病院循環器科)</sup>: PTCA 用小口径バルーンを用いた膝窩動脈以下に対する経皮的血管形成術. 第24回日本血管外科学会総会, 1996. 6.
- 7) 廣田 淳<sup>1)</sup>, 雪吹周生<sup>1)</sup>, 山口朋禎<sup>1)</sup>, 掃部弘行<sup>1)</sup>, 伊藤達也<sup>1)</sup>, 村澤恒男<sup>1)</sup>, 上田征夫<sup>1)</sup>, 原文男<sup>1)</sup>, 日置正文, 柳沢信子<sup>2)</sup><sup>(<sup>1)</sup>第二病院内科, <sup>2)</sup>山出内科医院)</sup>: 左主幹部狭窄を含む冠動脈3枝病変を認め, 緊急CABG準備中に心停止を来した若年者高度肥満症の1例. 第14回心疾患リスクファクター研究会, 1997. 9.
- 8) 久吉隆郎, 日置正文, 平田知己, 平野滋之, 山本眞二, 増田 栄, 朽方規喜, 山下康夫, 山岸茂樹, 豊島明: 結節性肺病変切除例のうち良性疾患であった症例の検討. 第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 9.

- 9) 増田 栄, 日置正文, 朽方規喜, 久吉隆郎, 平田知己, 平野滋之, 山本眞二, 山下康夫, 山岸茂樹, 豊島 明 : 高齢者腹部大動脈瘤の臨床的検討. 第64回日本医科大学医学学会総会, 1996. 9.
- 10) 朽方規喜, 山下康夫, 山岸茂樹, 豊島 明, 平野滋之, 増田 栄, 平田知己, 久吉隆郎, 日置正文, 田中茂夫<sup>1)</sup> (1)第二外科) : Cardiac cachexia を伴った重症連合弁膜症の1例. 第64回日本医科大学医学学会総会, 1996. 9.
- 11) 平田知己, 久吉隆郎, 日置正文, 平野滋之, 山本眞二, 増田 栄, 朽方規喜, 山岸茂樹, 山下康夫, 豊島 明 : 肺と胃重複癌症例の検討. 第64回日本医科大学医学学会総会, 1996. 9.
- 12) 山岸茂樹, 久吉隆郎, 日置正文, 平田知己, 平野滋之, 増田 栄, 朽方規喜, 山本眞二, 山下康夫, 豊島 明 : 胸壁胸腔側に発生した desmoid の1例. 第64回日本医科大学医学学会総会, 1996. 9.
- 13) 山下康夫, 久吉隆郎, 日置正文, 平田知己, 平野滋之, 山本眞二, 増田 栄, 朽方規喜, 山岸茂樹, 豊島 明, 田中茂夫<sup>1)</sup> (1)外科第二) : 前胸腹壁発生横紋筋肉種の1切除例. 第64回日本医科大学医学学会総会, 1996. 9.
- 14) 横田 隆<sup>1)</sup>, 江見 充<sup>1)</sup>, 久吉隆郎, 日置正文 (1)老人病研究所分子生物学部門) : 8p21-p22領域の乳癌における高頻度のヘテロ接合性の消失. 第64回日本医科大学医学学会総会, 1996. 9.
- 15) 朽方規喜, 別所竜蔵<sup>1)</sup>, 井村 肇<sup>1)</sup>, 山内仁紫<sup>1)</sup>, 矢島俊巳<sup>1)</sup>, 山内茂生<sup>1)</sup>, 落 雅美<sup>1)</sup>, 二宮淳一<sup>1)</sup>, 日置正文, 田中茂夫<sup>1)</sup>, 南 正康<sup>2)</sup> (1)第二外科, 2)公衆衛生学教室) : Björk-Shiley 弁の遠隔成績 - 相対生存率と共分散分析法からみた予後の検討 -. 第49回日本胸部外科学会総会, 1996. 10.
- 16) 増田 栄, 日置正文, 小笠原英継<sup>1)</sup>, 織井恒安<sup>1)</sup>, 菅野重人<sup>1)</sup>, 家所良夫<sup>1)</sup>, 松島伸治<sup>1)</sup>, 田中茂夫<sup>1)</sup> (1)第一病院外科) : 人工弁置換術後ワーファリン長期投与例における骨密度についての臨床的検討. 第49回日本胸部外科学会総会, 1996. 10.
- 17) 落 雅美<sup>1)</sup>, 山内茂夫<sup>1)</sup>, 矢島俊巳<sup>1)</sup>, 朽方規喜, 別所竜蔵<sup>1)</sup>, 井村 肇<sup>1)</sup>, 山田研一<sup>1)</sup>, 二宮淳一<sup>1)</sup>, 田中茂夫<sup>1)</sup> (1)第二外科) : 多枝再建例でのグラフトの選択 : 有茎動脈グラフトによる sequential バイパスの重要性. 第49回日本胸部外科学会総会, 1996. 10.
- 18) 久吉隆郎, 日置正文, 平田知己, 山本眞二, 平野滋之, 豊島 明, 朽方規喜, 山下康夫, 山岸茂樹 : 良性限局性肺病変に対する切除症例の検討. 第58回日本臨床外科医学学会総会, 1996. 10.
- 19) 豊島 明, 日置正文, 久吉隆郎, 平田知己, 朽方規喜, 山本眞二, 平野滋之, 山下康夫, 山岸茂樹 : 胸腔鏡観察を併用した胸壁神経鞘腫の1切除例. 第58回日本臨床外科学会総会, 1996. 10.
- 20) 平田知己, 日置正文, 久吉隆郎, 山本眞二, 平野滋之, 豊島 明, 朽方規喜, 山下康夫, 山岸茂樹 : 胸壁再々建症例の検討. 第58回日本臨床外科医学学会総会, 1996. 10.
- 21) 平田知己, 久吉隆郎, 日置正文, 朽方規喜, 山下康夫, 山岸茂樹, 佐藤雅史<sup>1)</sup> (1)第二病院放射線科) : 胸郭形成術後に発生した肺癌の3例. 第37回日本肺癌学会総会, 1996. 10.
- 22) 山下康夫, 久吉隆郎, 日置正文, 平田知己, 朽方規喜, 山岸茂樹, 佐藤雅史<sup>1)</sup> (1)第二病院放射線科) : 高度気腫性肺病変に合併したリンパ腫の1切除例. 第37回日本肺癌学会総会, 1996. 10.
- 23) 久吉隆郎, 日置正文, 平田知己, 朽方規喜, 山下康夫, 山岸茂樹, 佐藤雅史<sup>1)</sup> (1)第二病院放射線科) : 良性結節性肺病変切除例の検討. 第37回日本肺癌学会総会, 1996. 10.
- 24) 山岸茂樹, 久吉隆郎, 日置正文, 平田知己, 朽方規喜, 山下康夫, 佐藤雅史<sup>1)</sup> (1)第二病院放射線科) : 右胸心に合併した肺線癌の1例. 第37回日本肺癌学会総会, 1996. 10.
- 25) 山岸茂樹, 日置正文, 久吉隆郎, 平田知己, 平野滋之, 増田 栄, 朽方規喜, 山下康夫, 豊島 明, 佐藤雅史<sup>1)</sup>, 川並汪一<sup>2)</sup>, 田中茂夫<sup>3)</sup> (1)第二病院放射線科, 2)第二病院病理部, 3)第二外科) : 術前ポイントマーカー標識を行い胸腔鏡下切除し得た微小肺病変の1例. 日本医科大学医学学会第90回例会, 1996. 11.
- 26) 久吉隆郎, 日置正文, 平田知己, 増田 栄, 朽方規喜, 山下康夫, 山岸茂樹, 佐藤雅史<sup>1)</sup>, 田中茂夫<sup>2)</sup> (1)第二病院放射線科, 2)第二外科) : 右下葉IV期腺癌切除 8年後に同側発生した扁平上皮癌の1切除例. 第117回日本肺癌学会関東部会, 1996. 12.
- 27) 朽方規喜, 日置正文, 北村純一<sup>1)</sup>, 穂山尚子<sup>1)</sup>, 大矢亜野<sup>1)</sup>, 矢部きのみ<sup>1)</sup>, 竹内孝仁<sup>1)</sup> (1)第二病院リハビリテー



ションセンター)：慢性末梢動脈硬化症により腓骨神経麻痺をきたした 1 症例。第 1 回関東地方リハビリテーション医学会，1996。12。

- 28) 渡辺昌則<sup>1)</sup>，平田知己，原 一郎<sup>1)</sup>，伊藤正秀<sup>1)</sup>，馬越正通<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院消化器病センター)：胃癌間質における筋線維芽細胞増殖の意義。第11回神奈川胃癌治療研究会，1996。12。
- 29) 平田知己，久吉隆郎，日置正文，平野滋之，朽方規喜，増田 栄，山下康夫，山岸茂樹，田中茂夫<sup>1)</sup>，渡辺昌則<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>第二外科，<sup>2)</sup>第二病院消化器病センター)：肺癌を合併した Carney 症候群の 1 症例。第11回神奈川胃癌治療研究会，1996。12。
- 30) 増田 栄，日置正文，朽方規喜，久吉隆郎，平田知己，平野滋之，山下康夫，山岸茂樹，豊島 明，家所良夫，田中茂夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第二外科)：高齢者腹部大動脈瘤手術の検討。第27回日本心臓血管外科学会総会，1997。2。
- 31) 平野滋之，朽方規喜，増田 栄，山岸茂樹，山下康夫，平田知己，久吉隆郎，日置正文，雪吹周生<sup>1)</sup>，原文男<sup>1)</sup>，赤羽日出夫<sup>2)</sup>，島田洋一<sup>2)</sup>，田中茂夫<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院内科，<sup>2)</sup>第二病院麻酔科，<sup>3)</sup>第二外科)：黄疸を呈した収縮性心外膜炎の 1 例。第101回日本胸部外科学会関東甲信越地方会，1997。2。
- 32) 豊島 明，久吉隆郎，増田 栄，朽方規喜，平田知己，日置正文，田中茂夫<sup>1)</sup>，黒崎貞行<sup>2)</sup>，松本光司<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>第二外科，<sup>2)</sup>第二病院耳鼻咽喉科，<sup>3)</sup>第二病院病理部)：多発性空洞形成を示した頭頸部扁平上皮癌による転移性肺腫瘍の 1 切除例。第76 4 回外科集談会，1997。3。

## [千葉北総病院胸部外科・呼吸器外科]

### 研究概要

開院して 3 年目の本年度では従来 of 症例を中心とした臨床研究に加えて，術後の QOL に関する研究が行えるようになってきており術後症例数の増加に伴い，この傾向は続くと思われる。さらに本年度に入り胸腔鏡を用いての手術が可能になり，呼吸器系の手術例数が専門医の着任とも相まって飛躍的に増加し今後この分野での研究が盛んになると考えられる。

心疾患における教室主題の「不整脈の外科」として心表面マッピングの研究，また「虚血性心疾患の外科」として心室中隔孔に対する新しい手術手技の研究が行われており臨床面でも成果をあげてきている。

血管系においては，当院放射線科との共同研究による MRA を用いての診断法が静脈系においては既に確立しているが，これを動脈系特に CABG 術後のグラフトの評価に応用する研究を今後予定している。

肺・縦隔系では昨年度からの術前後の心肺機能評価に関する研究が継続中である。

### 研究業績

#### 論文

(1) 原著：

- 1) 秋山博彦，五味淵誠，田中茂夫：肺切除後の換気効率の変化と運動制限因子について。日胸外科会誌1996；47；11：2040-2049。
- 2) 田島なつき<sup>1)</sup>，田島廣之<sup>1)</sup>，岡田 進<sup>1)</sup>，伊藤公一郎<sup>1)</sup>，保坂純郎<sup>1)</sup>，趙 圭一<sup>1)</sup>，隈崎達夫<sup>1)</sup>，加藤文司<sup>1)</sup>，桜井 実<sup>1)</sup>，浅野哲雄，水野杏一<sup>2)</sup>，田中啓治<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院放射線科，<sup>2)</sup>同内科，<sup>3)</sup>同集中治療室)：深部静脈血栓症の MR Venography。日磁気共鳴医学会誌，997；17：20-27。

#### 著書

- 1) 浅野哲雄：[分担] 循環器研修医ノート“心臓手術後の不整脈”(永井良三編)，1997；pp992-994，診断と治療社。
- 2) 浅野哲雄：[分担] 循環器研修医ノート“心臓手術後の日常生活指導”(永井良三編)，1997；pp1003-1005，診

断と治療社.

- 3) 五味洵誠：[分担] Annual Review 呼吸器1997“肺切除における術前心肺機能評価”(工藤翔二，土屋了介編) 1997；pp177-184，中外医学社.

## 学会発表

### (1) シンポジウム：

- 1) 浅野哲雄，杉本忠彦，石井庸介，三上 巖，五味洵誠，田中茂夫：左室形成法による心室中隔穿孔手術の問題点. 外科系 VTR シンポジウム(Surgical Treatment for Cardiac Rupture)第10回日本冠疾患学会学術大会，1996. 12.

### (2) 一般講演：

- 1) 五味洵誠，真崎義隆，杉本忠彦，高津圭介，桧山和弘，藤井正大，三上 巖，秋山博彦，原口秀司，小泉 潔，浅野哲雄，田中茂夫：呼吸器外科手術症例の急性期死亡の誘因と対策. 第13回日本呼吸器外科学会総会，1996. 5.
- 2) 三上 巖，山本光伸<sup>1)</sup>，西村仁志<sup>1)</sup>，福島光浩，秋山博彦，真崎義隆，原口秀司，小泉 潔，松島伸治，五味洵誠，田中茂夫<sup>(<sup>1)</sup>病理学第一)</sup>：中葉原発性肺癌手術症例の検討. 第13回日本呼吸器外科学会総会，1996. 5.
- 3) 渡 潤<sup>1)</sup>，田島廣之<sup>1)</sup>，本多一義<sup>1)</sup>，山田 明<sup>1)</sup>，内山菜知子<sup>1)</sup>，隈崎達夫<sup>1)</sup>，日野光紀<sup>2)</sup>，吉村明修<sup>2)</sup>，村田 朗<sup>2)</sup>，工藤翔二<sup>2)</sup>，五味洵誠，田中茂夫，矢野侃<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院放射線科，<sup>2)</sup>内科学第4，<sup>3)</sup>荒川区がん予防センター)：肺癌検診比較読影システムの開発とその臨床応用. 第64回日本医科大学医学会総会，1996. 9.
- 4) 田島なつき<sup>1)</sup>，趙圭一<sup>1)</sup>，保坂純朗<sup>1)</sup>，伊藤公一郎<sup>1)</sup>，岡田 進<sup>1)</sup>，加藤丈司<sup>2)</sup>，浅野哲雄，水野杏一<sup>3)</sup>，田中啓治<sup>4)</sup>，田島廣之<sup>5)</sup>，隈崎達夫<sup>5)</sup>(<sup>1)</sup>北総病院放射線科，<sup>2)</sup>同中央画像検査室，<sup>3)</sup>同内科，<sup>4)</sup>同集中治療室，<sup>5)</sup>付属病院放射線科)：深部静脈血栓症の MR Venography. 第24回日本磁気共鳴医学会，1996. 9.
- 5) 橋元恭士<sup>1)</sup>，日野光紀<sup>1)</sup>，林原賢治<sup>1)</sup>，古田知行<sup>1)</sup>，伊藤永喜<sup>1)</sup>，小俣雅捻<sup>1)</sup>，稲見茂信<sup>1)</sup>，奈良直哉<sup>1)</sup>，水野杏一<sup>1)</sup>，五味洵誠，大秋美治<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>北総病院内科，<sup>2)</sup>同病理部)：胸膜直下の小結節を経過観察中，3ヵ月後に胸膜播種性転移で発症した肺小細胞癌の1例. 東葛肺癌研究会，1996. 11.
- 6) 桧山和弘，落 雅美，山内茂生，矢島俊巳，山内仁紫，別所竜蔵，井村 肇，山田研一，二宮淳一，田中茂夫：著明な出血傾向に難渋した慢性解離性大動脈瘤(Marfan syndrome)の1例. 日本医科大学医学会第91回例会，1997. 2.
- 7) 小俣雅捻<sup>1)</sup>，日野光紀<sup>1)</sup>，林原賢治<sup>1)</sup>，古田知行<sup>1)</sup>，榎本達治<sup>1)</sup>，橋元恭士<sup>1)</sup>，伊藤永喜<sup>1)</sup>，田中恵美<sup>1)</sup>，奈良直哉<sup>1)</sup>，水野杏一<sup>1)</sup>，五味洵誠，大秋美治<sup>2)</sup>，工藤翔二<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>北総病院内科，<sup>2)</sup>同病理部)：若年女性に発生した縦隔原発卵黄嚢腫瘍の1例. 第118回日本肺癌学会関東部会，1997. 3.
- 8) 大森裕也，清水一雄，北村 裕，長浜充二，北川 亘，原口秀司，Jasmi AY<sup>1)</sup>，岡崎恭次<sup>2)</sup>，田中茂夫(<sup>1)</sup>マレーシア国民大学，<sup>2)</sup>老人科)：遺伝子診断によるスクリーニングが有用であった MEN2A の一家系. 第10回アジア・太平洋内分泌会議，1997. 3.

## 11. 脳神経外科学講座

### [付属病院脳神経外科]

#### 研究概要

教室では下記の主要テーマについて臨床的及び基礎的研究を進めており、その成果を積極的に学会ならびに論文に発表している。また、各研究グループのカンファレンスが毎月開催され、各付属病院及び関連病院の統一した治療指針が検討され、有機的連携が確立されつつある。

1) 間脳下垂体腫瘍に関する臨床的および基礎的研究：豊富な手術症例に基づいた臨床的研究が行なわれており、本邦における指導的役割を果たしている。基礎的研究は本学第3内科及び東海大学病理学教室との共同研究が成果を挙げている。さらに、「日本医大内分泌研究会」、「付属病院内分泌カンファレンス」が設けられ、関連各科との共同研究の基礎作りがなされている。また、日本脳神経外科学会の分科会である「日本間脳下垂体腫瘍研究会」の事務局を当教室が運営している。

2) 脳腫瘍に関する臨床的および基礎的研究：「脳腫瘍カンファレンス」及び「脳腫瘍病理カンファレンス」が設けられ、臨床的および基礎的研究が着実に推し進められている。また、治療に難渋する頭蓋底部腫瘍に対してQOLを重視した新しい外科的治療の開発が行なわれている。

3) 脳血管障害に関する臨床的および基礎的研究：「脳血管障害カンファレンス」が設けられ、臨床データの集積がなされている。脳血管内手術も積極的に施行されている。また、脳虚血に関する基礎的研究が微小透析法や電子共鳴スピンをを用いて行なわれている。

4) 頭部外傷に関する臨床的および基礎的研究：「頭部外傷カンファレンス」が発足し、救命救急センターと密に連絡をとりながら、特に低体温療法に関する臨床データが集積されつつある。また、基礎的研究も着実に進められている。

5) 神経内視鏡、ニューロナビゲータ、3D-CTなど less invasive neurosurgery, functional neurosurgery を意図した新しい診断・治療法を積極的に臨床の場に取り入れている。

#### 研究業績

##### 論文

###### (1) 原著：

- 1) Matsuno A, Utsunomiya H, Ohsugi Y, Takekoshi S, Sanno N, Teramoto A, Osamura RY : Simultaneous ultrastructural identification of growth hormone and its messenger ribonucleic acid using combined immunohistochemistry and non-radioisotopic in situ hybridization : A technical note. Histochem J 1996 ; 28, 703-707.
- 2) Teramoto A : Recent management of pituitary adenomas. J Nippon Med Sch 1996 ; 63 : 255-258.
- 3) Sanno N, Teramoto A, Matsuno A, Itoh J, Takekoshi S, Osamura RY : In situ hybridization analysis of Pit-1 mRNA and hormonal production in human pituitary adenomas : Acta Neuropathol 1996 ; 91 : 263-268,
- 4) Sanno N, Teramoto A, Osamura RY : Clinical and cytofunctional classification of pituitary adenomas. Acta Neurochir(Wien) 1996 ; 138 : 1186-1192,
- 5) Sanno N, Teramoto A, Matsuno A, Osamura RY : Expression of human Pit-1 product in the human pituitary and pituitary adenomas. Arch Pathol Lab Med 1996 ; 120 : 73-77.
- 6) Sanno N, Teramoto A, Sugiyama M, Osamura RY : Application of catalyzed signal amplification in immunoprecipitation of gonadotropin subunits in clinically nonfunctioning pituitary adenomas. Am J Clin

- Pathol 1996 ; 106 : 16-21.
- 7) Sanno N, Matsuno A, Itoh J, Kakimoto K, Teramoto A, Osamura RY : Combined non-isotopic in the rat pituitary gland. *J Clin Pathol Mol Pathol* 1996 ; 49 : M57-M60.
  - 8) Matsuno A, Sasaki T, Mochizuki T, Teramoto A, et al. : A case of pituitary somatotroph adenoma with concomitant secretion of growth hormone, prolactin and adrenocorticotrophic hormone - An adenoma derived from primordial stem cell, studied by immunohistochemistry, in situ hybridization and cell culture. *Acta Neurochir(Wien)* 1996 ; 138 : 1002-1007.
  - 9) Yamada S, Takada K, Tsuchida S, Teramoto A, Shishiba Y : A study of anterior pituitary hormones secretion in patients with glioma receiving interferon-beta treatment. *Endocrine Journal* 1996 ; 43 : 335-338.
  - 10) Sanno N, Teramoto A, Matsuno A, Takekoshi S, Osamura RY : Expression of Pit-1 and estrogen receptor messenger RNA in prolactin-producing pituitary adenomas. *Mod Pathol* 1996 ; 9 : 526-533.
  - 11) Takano K, Takei T, Teramoto A, Yamashita N : GHRH activates a nonselective action current in human GH-secreting adenoma cells. *Am J Physiol* 1996 ; 270 : E1050-E1027.
  - 12) Takano K, Takano JY, Teramoto A, Fujita T : Corticotropin-releasing hormone excites adrenocorticotrophin-secreting human pituitary adenoma cells by activating a nonselective cation Current. *J Clin Invest* 1996 ; 98 : 2033-2041.
  - 13) Ikeda Y, Teramoto A, Nakagawa Y, Ishibashi Y, Yoshii T : Protective effect of arginine vasopressin release inhibitor RU51599 on cryogenic induced brain edema. *Advance in Neurotrauma Res* 1995 ; 7 : 72-78.
  - 14) Hoshino S, Kobayashi S, Nakazawa S : Prolonged and extensive IgG immunoreactivity after severe fluid-percussion injury in rat brain. *Brain Res* 1996 ; 711 : 73-83.
  - 15) Shimura T<sup>1)</sup>, Teramoto A, Nakazawa S, Aihara K<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>Department of Neurosurgery Tamagayama Hospital Nippon Medical School, <sup>2)</sup>Central Institute for Electron Microscopic Researches) : A clinicopathological study of malignant glioma done after local administration of chemotherapeutic agents. *Clinical Neuropathology*, 1996 ; 15 : 119-124.
  - 16) Yoshida D, Piepmeier JM, Teramoto A : In vivo inhibition of cell proliferation, viability, and invasiveness in U87MG human glioblastoma cells by estramustine phosphate. *Neurosurgery* 1996 ; 39 : 360-366.
  - 17) Murai Y, Yoshida D, Ikeda Y, Teramoto A, Kojima T, Ikakura K : Spontaneous intraventricular hemorrhage caused by lateral ventricular meningioma. *Neurologia medico-chirurgica* 1996 ; 36 : 586-589.
  - 18) Kominami S, Liu Y, Alvarez H, Rodesch G, Coubes P, Lasjaunias P : A case of Vertebrovertebral Arteriovenous Fistula presenting with Subarachnoid Haemorrhage A case report. *Neuroradiologic Vasculaire, C.H.U. de Bicetre, Le Kremlin-Bicetre : France, Neurochirurgie B, C.H.U. de Montpellier : Cedex, France, Interventional Neuroradiology* 1996 ; 2 : 229-233.
  - 19) Yoshida D, Ikeda Y, Chen M, Teramoto A : Biological significance of copper in tumor angiogenesis. *J Kosei General Hospital*, 1996 ; 20 : 6-18.
  - 20) Bergenheim AT, Henriksson R, Piepmeier JM, Yoshida D : Estramustine in glioma. *J Neuro-oncology* 1996 ; 30 : 81-89.
  - 21) Piepmeier JM, Pedersen PE, Yoshida D : Greer C. Targeting microtubule-associated proteins in glioblastoma. A new strategy for selective therapy. *Ann Surg Oncol* 1996 ; 3136 : 543-549.
  - 22) Yoshida D, Piepmeier, JM, Teramoto A : Estramustine phosphate inhibits matrix metalloproteinase-mediated cell invasion of U87MG human glioblastoma cells. *Journal Neuro-oncology* 1996 ; 30 : 104.
  - 23) Yoshida D, Ikeda Y, Teramoto A : Suppression of tumor growth in experimental 9L gliosarcoma model by

- copper chelation (A Letter to the Editor). *Neurologia Medico-Chirurgica* (Tokyo) 1996 ; 36 : 115-116.
- 24) Shiraishi K : A new non NMDA antagonist modifies the local cerebral glucose utilization in kainate-induced generalized seizure. *J UOEH* 1997 ; 19 : 1-12.
  - 25) Shiraishi K : Enhanced acetylcholinesterase in chronic subdural hematomas Nagoya. *J Med Sci* 1997 ; 60 : 43-48.
  - 26) Yoshida D, Ikeda Y, Chen M, Teramoto A : Biological significance of copper in tumor angiogenesis. *J Kosei General Hospital* 1996 ; 20 : 6-18.
  - 27) Takano K, Takano JY, Teramoto A, Fujita T : Corticotropin-releasing hormone excites adrenocorticotropin-secreting human pituitary adenoma cells by activating a nonselective cation current. *J Clin Invest* 1996 ; 95 : 2033-2041.
  - 28) 寺本 明 : 症候群—Forbes-Albright 症候群. *Clin Neurosci* 1996 ; 14(6) : 111.
  - 29) 寺本 明 : 下垂体腺腫の診断と治療—最近の動向—. *Neurological Science* 1996 ; 4(1) : 3-5.
  - 30) 山王なほ子, 長村義之, 寺本 明 : 下垂体腺腫の新分類: 臨床・細胞機能の分類の提唱, 間脳下垂体腺腫 V. ホルモンと臨床 1996 ; '96春季増刊号 : 56-61.
  - 31) 山王なほ子, 寺本 明 : 加齢に伴う下垂体腺腫. *ホルモンと臨床* 1996 ; 64, 1095-1100.
  - 32) 寺本 明 : トルコ鞍の不思議. *脳神経外科* 1996 ; 24 : 303-304.
  - 33) 寺本 明 : 経蝶形骨下垂体手術後の髄液鼻漏防止におけるフィブリンのり (ペリプラスト P R) の有用性. *Biomedical Perspectives* 1996 ; 5 : 101-104.
  - 34) 山田正三, 高田浩次, 寺本 明 : 先端肥大症—治療成績よりみた治療方針の選択—ホルモンと臨床 1996 ; 96春季増刊号. 56-61.
  - 35) 野手洋治, 寺本 明 : 鞍上部に大量の出血を呈した下垂体卒中の 1 例. *脳神経外科* 1996 ; 6 : 19-33.
  - 36) 星野 茂<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 布施 明<sup>2)</sup>, 白石一也<sup>1)</sup>, 志村俊郎<sup>2)</sup>, 中澤省三 : (<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経外科, <sup>2)</sup>救急医学, <sup>3)</sup>多摩永山病院脳神経外科) : ラットの severe fluid-percussion brain injury 後の遷延性およびびまん性 IgG 免疫発現. *神経外傷* 1995 ; 18 : 173-177.
  - 37) 村井保夫, 小林士郎<sup>1)</sup>, 戸田茂樹, 佐々木光由, 中澤省三 : (<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経外科) : 両側内頸動脈閉塞症の診断において magnetic resonance angiography が有用であった治験例. *救急医学* 1996 ; 20 : 119-122.
  - 38) 杉山 誠, 太組一朗, 寺本 明, 山王なほ子, 長村義之, Willie Vale : インヒビンとアクチビン. *病理と臨床* 1996 ; 12 : 1547-1549.
  - 39) 野手洋治, 寺本 明 : 臨床解剖と神経症状, 外傷性脳神経損傷. *救急医学* 1996 ; 20 : 631-637.
  - 40) 村井保夫, 水成隆之, 小林士郎, 寺本 明 : 破裂脳動脈瘤を伴った神経線維腫症の 1 例. *脳神経外科ジャーナル* 1996 ; 5 : 296-300.
  - 41) 向井敏二<sup>1)</sup>, 遠藤任彦<sup>1)</sup>, 志村俊郎 (<sup>1)</sup>東京医科大学法医学) : 銃創—基礎的事項と臨床上の留意点—. *日医新報* 1996 ; 3749.
  - 42) 玉置智規, 諫山和男, 寺本 明 : くも膜下出血急性期における動脈血中ケトン体比(AKBR)の変動. *脳神経* 1996 ; 48 : 161-167.
  - 43) 山田昌興, Bruner JM, Berger MS, Morris RS : ヒト星細胞腫における fibroblast growth factor receptors (FGFRs) mRNA の発現様式. *脳神経* 1996 ; 48 : 363-370.
  - 44) 玉置智規, 諫山和男, 横田裕行, 益子邦洋, 辺見 弘, 小林士郎, 寺本 明 : 両側性急性硬膜外血腫, 急性硬膜下血腫の臨床的検討. *日外傷会誌* 1996 ; 10 : 220-225.
  - 45) 恵 答美, 高橋 弘, 大上千鶴子, 足立好司, 寺本 明 : マウス同系悪性腫瘍 203-glioma 細胞に対する免疫賦活剤 ubenimex の抗腫瘍効果. *Biotherapy* 1996 ; 10 : 1187-1192.
  - 46) 林 伸吉, 寺本 明, 諫山和男, 横田裕行, 佐藤秀貴, 益子邦洋, 大塚敏文 : 脳低温療法患者における温度モニ

タリング. 集中治療 1996 ; 8 : 1279-1280

- 47) 杉山 誠<sup>1)</sup>, 太組一朗<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>1)</sup>, 山王なほ子<sup>1)</sup>, 長村義之<sup>1)</sup>, Wylie Vale<sup>2)</sup>, (<sup>1)</sup>東海大学医学部病態診断系病理学, <sup>2)</sup>The Clayton Foundation Laboratories for Peptide Biology, The Salk Institute, USA.) : 下垂体腺腫における inhibin $\alpha$ ,  $\beta A$  の免疫組織学的検討. ホルモンと臨床 '97臨時増刊号「間脳下垂体腫瘍VI」1997 ; 47-50.
- 48) 池田幸穂, 戸田茂樹, 川本俊樹, 寺本 明 : 虚血性脳浮腫に対する arginine vasopressin 分泌抑制剤の抗脳浮腫効果. Cyto-protection & Biology 1996 ; 14 : 71-74.
- 49) 高木 亮<sup>1)</sup>, 林 宏光<sup>1)</sup>, 小林尚志<sup>1)</sup>, 石原真木子<sup>1)</sup>, 水村 直<sup>1)</sup>, 山田 明<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>, 諫山和男<sup>1)</sup>, 池田幸穂, 寺本 明 (<sup>1)</sup>放射線科, <sup>2)</sup>救急医学) : 3次元 CT 血管造影法 (3D-CTA) による脳血管攣縮の評価. 日医放射会誌 1997 ; 57 : 64-66.
- 50) 池田幸穂, 戸田茂樹, 川本俊樹, 渡辺 玲, 寺本 明 : 虚血再灌流後脳浮腫に対する arginine vasopressin 分泌抑制剤の抗脳浮腫効果. 老人病研究所紀要 1997 ; 6 : 3-6.
- 51) 野手洋治, 寺本 明, 高橋 弘 (<sup>1)</sup>付属第二病院脳神経外科) : 高齢者髄膜腫の臨床的特徴と治療方針. Neuro-Oncology 1996 ; 6 : 32-23.
- 52) 野手洋治, 寺本 明 : 鞍結節部髄膜腫の2例. 第1回脳神経外科集中ケースカンファレンス. 1997 ; 64-72.
- 53) 寺本 明 : Cushing 病の診断 ; 最近の動向. Neurol. Surg 1997 ; 25 : 7-16.
- 54) 寺本 明 : 高齢者下垂体腫瘍に対する経蝶形骨手術. Geriatric Neurosurgery 1997 ; 9 : 37-40.
- 55) 太組一朗, 杉山 誠, 寺本 明, 山王なほ子, 長村義之 : 下垂体腺腫の免疫組織化学と応用. 内分泌・糖尿病科 1997 ; 4 : 302-309.
- 56) 太組一朗, 喜多村孝幸, 池田幸穂, 渡辺 明, 山口文雄, 野手洋治, 高橋 弘, 寺本 明, 今津 修, 浅野伍朗 : Wernicke 脳症の MRI 所見 - 自験例と文献的考察 -. CI 研究 1996 ; 18 : 277-280.

## 著 書

- 1) Yamaguchi F, Morrison RS, Saya H, Bruner JM, Takahashi H, Nakazawa S : {分担} Differential expression of FGF-Receptor 2 is associated with malignant progression of gliomas "Brain Tumor Research and Therapy" (Nagai, M.), 1996 ; pp221-232, Springer-Verlag, Tokyo.
- 2) Yoshida D, Plepmeier JM : {分担} The Practice of Neurosurgery (Tindall G, Barrow D, and Cooper P, ed.) chapter 65 : Surgery of posterior fossa intra-axial tumors. 1996 ; pp985-994. Williams & Wilkins Publications.
- 3) Byrne T, Piepmeier JM, Yoshida D : The Practice of Neurosurgery (Tindall G. Barrow D, and Cooper P, ed.) chapter 44 : Imaging and clinical features of gliomas. 1996 ; pp637-647, Williams & Wilkins Publications.
- 4) Sano T, Seki Y, Umezu H, Aiba T, Teramoto A, Takemori S : Follow-up results of preserved hearing after radical removal of acoustic neuromas. Acoustic Neuromas and Skull Base Surgery.(edited by JM Sterkers, et al.) 1996 ; pp297-301. Kugler Publications, Amsterdam.
- 5) Sano T, Seki Y, Aiba T, Teramoto A, Takemori S : Recurrent acoustic neuromas-clinical and pathological characteristics-Acoustic Neuromas and Skull Base Surgery (edited by JM Sterkers, et al.) 1996 ; pp181-183. Kugler Publications, Amsterdam.
- 6) 寺本 明 : 経蝶形骨下垂体手術の術式と留意点. 顕微鏡下手術のための脳神経外科解剖, VII, (吉本智信編), 1996 ; pp157-162, サイメッドパブリケーションズ (東京).
- 7) 寺本 明 : 下垂体腺腫等, 脳神経外科学, (戸谷重雄編), 1996 ; pp176-197, 南山堂, 東京.
- 8) 寺本 明 : 類上皮腫等. 脳神経外科学 (戸谷重雄編), 1996 ; pp201-207, 南山堂, 東京.
- 9) 寺本 明 : 先端巨大症. 内科治療ガイド'96. (和田攻ら編), 1996 ; pp1038-1040, 文光堂, 東京.

- 10) 寺本 明：下垂体腺腫。今日の治療指針1996，(日野原重明，阿部正和監修)，1996；pp216-217，医学書院，東京。
- 11) 寺本 明：間脳下垂体腫瘍の臨床。現代の神経内分泌学，1996；pp449-456，メディカル・サイエンス・インターナショナル，東京。
- 12) 寺本 明：〔9-8〕下垂体腺腫。最新脳神経外科学，1996；pp534-542，朝倉書店，東京。
- 13) 寺本 明：末端肥大症。チャートによる内科診断学，(寺本民生他編) 1996；pp244-245。
- 14) 寺本 明：Sellar and parasellar lesions. 脳神経外科レビュー4，1996；pp38-45，三輪書店，東京。
- 15) 寺本 明：脳のホルモンとその異常。知っておきたい脳・神経の病気，(高倉公朋編)，1996；日本脳神経財団，東京。
- 16) 野手洋治，寺本 明：〔分担〕図説脳神経外科 New Approach 2；頭蓋底。“トルコ鞍・斜台；手術に必要な機能・解剖学”(斎藤 勇編)，1997；pp104-113，ミジカルビュー社。
- 17) 太組一朗，長村義之：PC1/3，PC2. 病理学キーワード，1997；p129，文光堂，東京。

## 学会発表

### (1) 特別講演：

- 1) Teramoto A：Transsphenoidal surgery for pituitary microadenomas. 5th Meeting of Pusan & Hyong Nam Neurosurgical Society, 1996. 6.
- 2) 寺本 明：下垂体腺腫治療の現況。蘭州医学会特別講演会，1995. 5.
- 3) 寺本 明：脳下垂体のトピックス。第2回日本医大医師会講座，1996. 7.
- 4) 寺本 明：脳下垂体腫瘍の診断と治療—最近の動向—。第2回北陸間脳下垂体腫瘍研究会，1996. 9.
- 5) 寺本 明：脳下垂体腫瘍における経蝶形骨手術。第84回和歌山県脳神経外科集談会，1996. 12.

### (2) 宿題講演：

- 1) 野手洋治：頭蓋底病変に対するノーハウ。第1回脳神経外科集中ケースカンファレンス，1996. 9.

### (3) 教育講演：

- 1) 寺本 明：下垂体腫瘍。第14回日本脳腫瘍病理研究会，1996. 4.
- 2) 寺本 明：内分泌疾患における最近のトピックスについて—外科医の立場から—。平成8年度第2回日本医学会生涯教育医学講座，1996. 7.
- 3) 寺本 明：下垂体腺腫の治療—外科医の立場から—。第55回日本脳神経外科学会総会，1996. 10.

### (4) シンポジウム：

- 1) 寺本 明：下垂体腫瘍の手術療法—その適応と成績。第69回日本内分泌学会学術総会，1996. 7.
- 2) 野手洋治，寺本 明：前頭側頭開頭術後骨欠損に対する Hydroxyapatite Ceramics を用いた頭蓋形成術。第5回脳神経外科手術と機器学会，1996. 7.
- 3) 横田裕行<sup>1)</sup>，布施 明<sup>1)</sup>，二宮宣文<sup>1)</sup>，諫山和男<sup>1)</sup>，小関一英<sup>1)</sup>，黒川 顕<sup>1)</sup>，大塚敏文<sup>1)</sup>，林 伸吉，小林士郎，寺本 明：( <sup>1)</sup>救急医学)：重症頭部外傷に対する低体温療法時の集学的治療。第55回日本脳神経外科学会総会，1996. 10.
- 4) 布施 明<sup>1)</sup>，横田裕行<sup>1)</sup>，諫山和男<sup>1)</sup>，村上 守<sup>1)</sup>，佐藤秀貴<sup>1)</sup>，小関一英<sup>1)</sup>，黒川 顕<sup>1)</sup>，益子邦洋<sup>1)</sup>，山本保博<sup>1)</sup>，大塚敏文<sup>1)</sup>，林 伸吉，池田幸穂，小林士郎，寺本 明 ( <sup>1)</sup>救急医学)：重症頭部外傷に対する低体温療法時の問題点。第20回日本神経外傷研究会，1997. 2.
- 5) 杉山 誠<sup>1)</sup>，太組一朗<sup>1)</sup>，野手洋治<sup>1)</sup>，寺本 明<sup>1)</sup>，山王なほ子<sup>2)</sup>，長村義之<sup>2)</sup>，( <sup>1)</sup> 日本医科大学神経外科，<sup>2)</sup>東海大学医学部病態診断系病理学)：同一腫瘍内にプロラクチン産生腺腫と Germinoma が混在した稀な1症例。第7回日本間脳下垂体腫瘍研究会，シンポジウムII：特異な下垂体病変。(京都)，1992. 2.
- 6) 野手洋治，寺本 明，林 靖人：高齢者髄膜腫の臨床的特徴。第10回日本老年脳神経外科学会，1997. 2.

(5) パネルディスカッション：

- 1) 諫山和男, 佐藤秀貴, 林 伸吉, 饒波正博, 荒木 尚, 村上 守, 寺本 明, 高木 亮, 益子邦洋, 大塚敏文：  
くも膜下出血後3D-CT angiography の有用性—脳血管攣縮を評価できるか—。第24回日本救急医学会総会，  
1996. 10.

(6) 一般講演：

- 1) Teramoto A, Manaka S, Takakura K : Radiotherapy is effective for craniopharyngiomas follow-up study of 125 patients for more than 30 years-21st. International Symposium Growth Hormone and Growth Factors in Endocrinology and Metabolism. Vanice (Italy), 1996.4.
- 2) Ikeda Y, Teramoto A, Nakagawa Y, Ishibashi Y, Yoshii T : Attenuation of cryogenic-induced brain edema by arginine vasopressin inhibitor RU51599. The 64th Annual Meeting The American Association of Neurological Surgeons. (Minnesota), 1996.4.
- 3) Takahashi H, Hoshino S, Shimura T, Teramoto A : High serum levels of cathecholamine suggest a rare brain tumor of melanotic neuroectodermal tumor of infancy in the skull. 14th Annual Meeting of the International Society for Pediatric Neurosurgery (Ottawa, Canada), 1996.7.
- 4) Sugiyama M, Takumi I, Teramoto A, Sanno N, Osamura RY, Wylie Vale : Immunohistochemical expression of inhibin  $\alpha$   $\beta$ A in human normal pituitary glands and hormone secreting pituitary adenomas. 10th International Congress of Histochemistry and Cytochemistry (Kyoto), 1996.8.
- 5) Sugiyama M, Takumi I, Sanno N, Osamura Y, Teramoto A : Intra and suprasellar germinoma combined with prolactin producing pituitary adenoma. -A case report -. 4th China-Japan-France Friendship Neurosurgical Symposium (Beijing), 1996.8.
- 6) Node Y, Teramoto A : Clinical examination of MR imaging in patients with asymptomatic cerebral infarction. 4th China-Japan-France Friendship Neurosurgical Symposium (Beijing), 1996.8.
- 7) Shimura T<sup>1)</sup>, Teramoto A<sup>1)</sup>, Node Y<sup>1)</sup>, Fukino K<sup>1)</sup>, Kawamoto M<sup>2)</sup>, Abe S<sup>3)</sup>, (<sup>1)</sup>Department of Neurosurgery, <sup>2)</sup>Department of Pathology, Nippon Medical School, <sup>3)</sup>Department of Molecular Neuropathology, Brain Research Institute, Niigata University) : A naplastic large cell Ki-1 lymphoma in the central nervous system - Case report and review of the literature -. 4th China-Japan-France Friendship Neurosurgical Symposium (Beijing), 1996.8.
- 8) Tahara S, Ikeda Y, Node Y, Teramoto A, Isayama K<sup>1)</sup>, Takagi R<sup>2)</sup>, Kumazaki T<sup>2)</sup>, (<sup>1)</sup>Departments of Neurosurgery, Advanced Life Saving Emergency Service Center, <sup>2)</sup>Department of Radiology) : Postoperative three-dimensional CT angiography (3D-CTA) in evaluation of proximal clipping for ruptured vertebral aneurysms. 4th China-Japan-France Friendship Neurosurgical Symposium (Beijing), 1996.8.
- 9) Takahashi H, Adachi K, Yamaguchi F, Teramoto A : A study of chemo-immunotherapy of brain stem glioma in children. 4th China-Japan-France Friendship Neurosurgical Symposium (Beijing), 1996.8.
- 10) Adachi K, Takahashi H, Teramoto A : Brain tumor animal model for active immunotherapy. 4th China-Japan-France Friendship Neurosurgical Symposium, 1996.8.
- 11) Yoshida D, Piepmeyer JM, Teramoto A : Estramustine Phosphate Inhibits Matrix Metalloproteinase-Mediated Cell Invasion of U87MG, Human Glioblastoma Cells : An In Vitro Study. Second Meeting of European Association of Neuro-Oncology (Wurtzburg, Germany), 1996.10.
- 12) Kobayashi S, Teramoto A, Tsai FY : Direct thrombolytic treatment for acute intracranial dural sinus thrombosis. 第55回日本脳神経外科学会総会，1996. 10.
- 13) Takahashi H, Adachi K, Yamaguchi F, Teramoto A : Evaluation of chemoimmunotherapy against pontine glioma. 2nd Joint Meeting of the Japan Neurosurgical Society and Deutsche Gesellschaft für Neurochirurgie.



gie, 1996.10.

- 14) 猪鹿倉恭子, 直江康孝, 布施 明, 石之神小織, 黒川 颯, 小南修史, 松本正博, 志村俊郎, 諫山和男, 横田裕行, 寺本 明: 脳血管攣縮に対する塩酸パパペリン選択的動注療法の効果と問題点. 第25回日本脳卒中の外科研究会, 1996. 4.
- 15) 諫山和男, 佐藤秀貴, 寺本 明: 脳底動脈動脈瘤に対する tranepetrosal approach. 第25回日本脳卒中の外科研究会, 1996. 4.
- 16) 池田幸穂, 戸田茂樹, 川本俊樹, 寺本 明: ラット前脳虚血後脳浮腫に対する Arginine Vasopressin (AVP) 分泌抑制剤 RU51599 の効果. 第21回日本脳卒中学会総会, 1996. 4.
- 17) 野手洋治, 寺本 明, 志村俊郎: MR アンジオグラフィーと transcranial Doppler との比較検討. 第21回日本脳卒中学会総会, 1996. 4.
- 18) 諫山和男, 佐藤秀貴, 林 伸吉, 饒波正博, 池田幸穂, 寺本 明, 高木 亮, 益子邦洋, 大塚敏文: くも膜下出血術後3D-CT angiography の有用性について—脳血管攣縮の発現とモニターできるか—. 第21回日本脳卒中学会総会, 1996. 4.
- 19) 田原重志, 池田幸穂, 野手洋治, 寺本 明, 諫山和男, 高木 亮, 隈崎達夫: 破裂椎骨動脈瘤に対する proximal ligation 術後評価における3D-CTA の有用性. 第21回日本脳卒中学会総会, 1994. 4.
- 20) 渡辺 玲, 池田幸穂, 寺本 明: 高齢者脳動静脈奇形の検討. 第21回日本脳卒中学会総会, 1996. 4.
- 21) 林 敏彦, 池田幸穂, 寺本 明, 渡部英之, 桑名壮太郎: 脳ドック受診者における高速 Fluid Attenuated Inversion Recovery (FLAIR)法の検討. 第21回日本脳卒中学会総会, 1996. 4.
- 22) 金 景成, 喜多村孝幸, 野手洋治, 寺本 明: 鞍上部に大量の出血を呈した下垂体卒中の1例. 第21回日本脳卒中学会総会, 1996. 4.
- 23) 高橋 弘, 足立好司, 山下陽一, 山口文雄, 草薨博昭, 吉田大蔵, 志村俊郎, 寺本 明: 当科における悪性グリオーマに対する化学療法について. 第11回ニューロ・オンコロジーの会, 1996. 4.
- 24) 志村俊郎, 川本雅司, 寺本 明, 杉崎祐一, 高橋 弘, 野手洋治, 太組一朗, 吹野晃一: 頭蓋内原発悪性リンパ腫におけるT細胞の関与に関する免疫組織学的検討. 第14回日本脳腫瘍病理研究会, 1996. 4.
- 25) 粟屋 栄, 古川哲也, 星野 茂, 水成隆之, 小林士郎, 寺本 明: 腫瘍内出血にて発症した髄芽腫の1例. 第24回日本小児脳神経外科学研究会, 1996. 5.
- 26) 高橋 弘, 小松原清光, 浜田 浩, 石郷岡聡, 寺本 明: 小児脳幹部グリオーマに対する化学・免疫療法について. 第24回日本小児脳神経外科学研究会, 1996. 5.
- 27) 金 景成: 神経内視鏡が極めて有用であった松果体部腫瘍の1例. 日本医科大学医学会第89回例会, 1996. 5.
- 28) 鈴木紀成, 松本正博, 戸田茂樹, 志村俊郎, 寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>多摩永山病院脳神経外科): Fisher 症候群の1例. 日本医科大学医学会第89回例会, 1996. 5.
- 29) 村松 光<sup>1)</sup>, 佐藤誠太郎<sup>1)</sup>, 村田憲一<sup>1)</sup>, 中村 雄<sup>2)</sup>, 橋田 薫<sup>2)</sup>, 井口恭一<sup>2)</sup>, 志村俊郎, 松本正博, 諫山和男<sup>2)</sup>, 寺本 明<sup>4)</sup>, (<sup>1</sup>春日居温泉病院内科, <sup>2</sup>春日居温泉病院リハビリテーション科, <sup>3</sup>日本医科大学救急医学, <sup>4</sup>付属病院脳神経外科): 脳血管障害発症7ヶ月以後でも, 脳外科治療後に片麻痺のGrade とADL の著明な改善がみられた症例の検討. 第33回日本リハビリテーション医学会学術集会, 1996. 5.
- 30) 星野 茂, 小林士郎, 寺本 明: 実験的頭部外傷慢性期におけるタウ蛋白の発現について: 血液脳関門の破壊, 68kD neurofilament 免疫染色との対比. 第37回日本神経病理学会総会学術研究会, 1996. 5.
- 31) 饒波正博, 諫山和男, 玉置智規, 小林士郎, 池田幸穂, 横田裕行, 益子邦洋, 大塚敏文: 外傷性大脳基底核出血—びまん性脳損傷との関連から—. 第10回日本外傷学会, 1996. 5.
- 32) 鈴木紀成, 戸田茂樹, 松本正博, 志村俊郎, 寺本 明: 硬膜へ伸展した Eosinophilic granuloma の1例. 第62回日本脳神経外科学会関東地方会, 1996. 6.
- 33) 齊藤寛浩, 野手洋治, 田原重志, 寺本 明: Meningioma en plaque の1例. 第62回日本脳神経外科学会関東

地方会, 1996. 6.

- 34) 石郷岡聡, 小松原清光, 浜田 浩, 高橋 弘, 寺本 明: 小脳虫部病変により cerebellar muteness を呈した 2 症例. 第62回日本脳神経外科学会関東地方会, 1996. 6.
- 35) 古川哲也, 星野 茂, 水成隆之, 小林士郎, 寺本 明: Rendu-Oeler-Weber 症候群における難治性鼻出血に対し人口塞栓術が有効であった 1 例. 第62回日本脳神経外科学会関東地方会, 1996. 6.
- 36) 林 伸吉, 寺本 明, 諫山和男, 佐藤秀貴, 益子邦洋, 大塚敏文, 横田裕行: 脳低温療法患者における温度モニタリング. 第 2 回脳代謝モニタリング研究会, 1996. 6.
- 37) 山口文雄<sup>1)</sup>, 高橋 弘<sup>1)</sup>, 寺本 明 (<sup>1)</sup>第二病院脳神経外科): グリオーマにおける telomerase mRNA の発現と遺伝子治療への応用. 第 4 回脳腫瘍遺伝子療法懇話会, 1996. 6.
- 38) 荒木 尚, 諫山和男, 林 伸吉, 饒波正博, 佐藤秀貴, 村上 守, 西 和紀, 益子邦洋, 大塚敏文: 低体温療法が有用と考えられた重症クモ膜下出血症例. 第41回日本救急医学会関東地方会, 1996. 6.
- 39) 山田昌興, Morrison RS, 山口文雄, 高橋 弘, 寺本 明: 星細胞腫の悪性度の進行に伴う fibroblast growth factor receptors mRNA の発現様式の変化. 第 9 回「脳と免疫」研究会, 1996. 6.
- 40) 寺本 明: 下垂体腫瘍と臨床内分泌. 第13回脳神経外科専門医教育研修会. 1996. 6.
- 41) 寺本 明: 脳下垂体腫瘍に関する最近の話題. 第18回群馬脳腫瘍研究会, 1996. 7.
- 42) 諫山和男, 永田和哉, 平川 亘, 寺本 明: 新しい自在脳べら固定器“バナナアーム (Jアーム改良型)”の開発. 第 5 回脳神経外科手術と機器学会, 1996. 7.
- 43) 林 伸吉, 寺本 明, 諫山和男, 益子邦洋, 大塚敏文: 脳低温療法時の下垂体前葉機能. 第 9 回脳死・脳蘇生研究会, 1996. 7.
- 44) 杉山 誠, 太組一朗, 寺本 明, 山王なほ子, 長村義之, Vale W: 正常下垂体及び下垂体腺腫における inhibin  $\alpha$ ,  $\beta A$  の免疫組織化学的検討. 第69回日本内分泌学会, 1996. 7.
- 45) 杉山 誠, 太組一朗, 寺本 明, 山王なほ子, 長村義之, Vale W: 正常下垂体及び下垂体腺腫における inhibin  $\alpha$ ,  $\beta A$  の免疫組織化学的検討. 第 2 回日本医科大学内分泌懇話会, 1996. 7.
- 46) 松居 徹, 神野哲夫, 太田富雄, 上田守三, 大平貴之, 片山容一, 塩貝敏之, 高橋 弘, 竹内栄一, 藤原 悟, 横山哲也: 慢性期意識障害スコアリング小委員会報告. 第 5 回意識障害の治療研究会, 1996. 8.
- 47) 寺本 明: 脳下垂体腫瘍の診断と治療—最近の話題—. 第46回高知県神経疾患研究会, 1996. 8.
- 48) 林 伸吉, 寺本 明, 諫山和男, 益子邦洋, 大塚敏文: 重症頭部外傷患者における低体温療法時の下垂体前葉機能. 第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 9.
- 49) 村松 光, 志村俊郎, 松本正博, 寺本 明, 諫山和男: 脳血管障害慢性期における機能・能力障害の回復—脳外科治療後に認められた片麻痺 Grade と ADL の著明な改善—. 第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 9.
- 50) 戸田茂樹, 鈴木紀成, 河原 清, 松本正博, 志村俊郎, 前田昭太郎, 寺本 明: 頭蓋骨に原発し硬膜に進展した好酸球肉芽腫の 1 治験例. 第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 9.
- 51) 大山健一, 野手洋治, 小島豊之, 山田昌興, 寺本 明: 高血圧性脳内出血後に脳梗塞を呈した 1 例. 第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 9.
- 52) 梅岡克哉, 林 伸吉, 喜多村孝幸, 寺本 明: 特異な画像を呈した原発巣不明の転移性脳腫瘍の 1 例. 第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 9.
- 53) 鈴木紀成, 山下陽一, 寺本 明: 脳内出血を合併した器質化慢性硬膜下血腫の 1 例. 第15回博慈会記念病院合同医学集談会, 1996. 9.
- 54) 野手洋治, 林 靖人, 高橋 弘, 寺本 明: 高齢者髄膜腫症例の検討. 第 1 回脳腫瘍の外科学研究会, 1996. 9.
- 55) 林 靖人, 野手洋治, 志村俊郎, 寺本 明: 悪性髄膜腫症例の臨床的検討. 第 1 回脳腫瘍の外科学研究会, 1996. 9.
- 56) 野手洋治, 寺本 明: Parasellar meningioma の 2 例. 第 1 回脳神経外科集中ケースカンファレンス, 1996.

9.

- 57) 斉藤寛治, 星野 茂, 水成隆之, 小林士郎, 寺本 明: Marginal sinus dural AVF の1例. 第63回日本脳神経外科学会関東地方会, 1996. 9.
- 58) 吹野晃一, 喜多村孝幸, 野手洋治, 寺本 明: 小児脳静脈奇形の1例. 第63回日本脳神経外科学会関東地方会, 1996. 9.
- 59) 田原重志, 野手洋治, 杉山 誠, 太組一朗, 寺本 明, 山王なほ子, 長村義之: 鞍上部に大量の出血を呈した下垂体卒中の1例. 第69回日本内分泌学会秋学術大会, 1996. 9.
- 60) 杉山 誠, 太組一朗, 寺本 明, 山王なほ子<sup>1)</sup>, 長村義之<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>東海大学医学部病態診断系病理学): プロラクチン産生腺腫に Germinoma を合併した稀な1例. 日本内分泌学会, 1996. 10.
- 61) 寺本 明: 脳下垂体腫瘍の診断と治療—外科医の立場から—. 第8回青森県内分泌研究会, 1996. 10.
- 62) 横田裕行, 小池 薫, 加藤一良, 諫山和男, 益子邦洋, 黒川 顕, 山本保博, 大塚敏文, 粟屋 栄, 星野 茂, 水成隆之, 小林士郎, 寺本 明: 頭部外傷における Xe-CT の意義. 第24回日本救急医学会総会, 1996. 10.
- 63) 畷本恭子, 布施 明, 直江康孝, 黒川 顕, 諫山和男, 横田裕行, 山本保博, 大塚敏文, 寺本 明: 重症くも膜下出血周術期における脳低体温療法の検討. 第24回日本救急医学会総会, 1996. 10.
- 64) 荒木 尚, 諫山和男, 佐藤秀貴, 饒波正博, 林 伸吉, 益子邦洋, 大塚敏文: 慢性腎不全を合併する破裂脳動脈瘤患者の血液透析法の選択について. 第24回日本救急医学会総会, 1996. 10.
- 65) 村井保夫, 池田幸穂, 寺本 明, 辻 之英, 横田裕行: 高血圧性脳内出血急性期造影 MRI の臨床的意義—脳血管撮影との相関性に関する考察—. 第55回日本脳神経外科学会総会, 1996. 10.
- 66) 山田昌興, 山田文雄, Morrison RS, 高橋 弘, 寺本 明: Fibroblast growth factor receptor 1 (FGFR1) に対する antisense oligonucleotides を用いたヒト膠芽腫細胞の成長抑制. 第55回日本脳神経外科学会総会, 1996. 10.
- 67) 野手洋治, 寺本 明, 青木 亘, 小島豊之: 下垂体腺腫における視覚誘発電位および短潜時視覚誘発電位の検討. 第55回日本脳神経外科学会総会, 1996. 10.
- 68) 太組一朗, 山王なほ子, 杉山 誠, 長村義之, Steiner DF, 寺本 明: 下垂体腺腫における PC (prohormone convertase) 発現の病理学的解析. 第55回日本脳神経外科学会総会, 1996. 10.
- 69) 山王なほ子, 寺本 明, 杉山 誠, 太組一朗, 長村義之: 下垂体腺腫における Retinoid Receptor isoform と Pit-1 の発現—Combined ISH-IHC 法による解析—. 第55回日本脳神経外科学会総会, 1996. 10.
- 70) 杉山 誠, 太組一朗, 寺本 明, 山王なほ子, 長村義之, Vale W: 正常下垂体及び下垂体腺腫における Inhibin  $\alpha$ ,  $\beta A$  の免疫組織化学的検討. 第55回日本脳神経外科学会総会, 1996. 10.
- 71) 川本俊樹, 池田幸穂, 戸田茂樹, 寺本 明: 一過性前脳虚血時における L-histidine (singlet oxygen scavenger) の細胞外 Glutamate 濃度上昇抑制効果. 第55回日本脳神経外科学会総会, 1996. 10.
- 72) 玉置智規, 諫山和男, 柴田泰史, 小池 薫, 木村昭夫, 益子邦洋, 池田幸穂, 寺本 明: くも膜下出血急性期における動脈血中ケトン体 CC(AKBR)の変動. 第55回日本脳神経外科学会総会, 1996. 10.
- 73) 池田幸穂, 戸田茂樹, 川本俊樹, 寺本 明: 虚血性脳浮腫に対する Arginine Vasopressin (AVP) 分泌抑制の効果. 第55回日本脳神経外科学会総会, 1996. 10.
- 74) 浜田 浩, 高橋 弘, 寺本 明, 石橋良徳, 中川 豊, 吉井利郎: Arginine Vasopressin (AVP) 分泌抑制剤の腫瘍性脳浮腫抑制効果について. 第55回日本脳神経外科学会総会, 1996. 10.
- 75) 志村俊郎, 川本雅司, 寺本 明, 阿部 聡, 熊西敏郎, 高橋 弘, 野手洋治, 松本正博: 頭蓋内原発性悪性リンパ腫における非腫瘍性T細胞の関与についての臨床病理学的検討. 第55回日本脳神経外科学会総会, 1996. 10.
- 76) 野手洋治, 寺本 明, 林 靖人: 高齢者髄膜腫の臨床的検討. 第55回日本脳神経外科学会総会, 1996. 10.
- 77) 足立好司, 高橋 弘, 寺本 明: 脳腫瘍モデルでのインターロイキン12の抗腫瘍活性. 第55回日本脳神経外科学会総会, 1996. 10.

- 78) 田原重志, 池田幸穂, 野手洋治, 寺本 明, 諫山和男, 高木 亮, 隈崎達夫: 破裂椎骨動脈瘤に対する proximal clipping 術後評価における 3D-CTA の検討. 第55回日本脳神経外科学会総会, 1996. 10.
- 79) 高橋 弘, 足立好司, 吉田大蔵, 山口文雄, 志村俊郎, 寺本 明: BMR 製剤を積極的に併用した外来通院化学療法による悪性グリオーマの維持療法. 第55回日本脳神経外科学会総会, 1996. 10.
- 80) 池田幸穂, 林 敏彦, 寺本 明, 桑名壮太郎: 脳ドックの現状と将来—高速 Fluid Attenuated Inversion Recovery (FLAIR)法の応用を中心として—. 第55回日本脳神経外科学会総会, 1996. 10.
- 81) 諫山和男, 佐藤秀貴, 荒木 尚, 饒波正博, 高木 亮, 林 伸吉, 玉置智規, 池田幸穂, 寺本 明: くも膜下出血後 3D-CTA による脳血管攣縮の評価—症候性脳血管攣縮の治療に対して有用か—. 第55回日本脳神経外科学会総会, 1996. 10.
- 82) 星野 茂, 小林士郎, 志村俊郎, 寺本 明: 実験的頭部外傷慢性期におけるタウ蛋白の発現について, 血液脳関門の破壊, 68kD neurofilament 免疫染色との対比. 第55回日本脳神経外科学会総会, 1996. 10.
- 83) 林 伸吉, 玉置智規, 饒波正博, 寺本 明, 諫山和男, 益子邦洋, 大塚敏文: 重症頭部外傷に対する脳低温療法の効果 (focal brain injury と diffuse brain injury の予後の比較). 第55回日本脳神経外科学会総会, 1996. 10.
- 84) 小林士郎, 金 景成, 斉藤寛浩, 小暮一成, 古川哲也, 栗屋 栄, 星野 茂, 水成隆之, 横田裕行, 寺本 明: 小児重症頭部外傷にみられる diffuse cerebral swelling に対する集学的治療. 第55回日本脳神経外科学会総会, 1996. 10.
- 85) 布施 明, 横田裕行, 諫山和男, 中林基明, 益子邦洋, 黒川 顕, 山本保博, 大塚敏文, 小林士郎, 寺本 明: 重症頭部外傷後の各種治療による脳循環代謝への影響—外減圧術, 過換気療法, マニトール, 脳室ドレナージ術, 低体温療法の検討—. 第55回日本脳神経外科学会総会, 1996. 10.
- 86) 横田裕行, 小川理郎, 布施 明, 佐藤秀貴, 諫山和男, 黒川 顕, 大塚敏文, 小林士郎, 寺本 明: び慢性脳損傷軽症, 中等症例の機能回復と後遺症. 第55回日本脳神経外科学会総会, 1996. 10.
- 87) 寺本 明: 脳下垂体腫瘍の診断と治療—最近の知見より—. 第10回ニューロサイエンス, 1996. 10.
- 88) 足立好司, 高橋 弘, 寺本 明: ノードマウス移植脳腫瘍モデルでのインターロイチン12の抗腫瘍活性. 第5回日本脳腫瘍カンファランス, 1996. 11.
- 89) 山口文雄, 山田昌興, 吹野晃一, Morrison RS, 佐谷秀行, 高橋 弘, 寺本 明: Astrocytoma の悪性度と FGF receptor 1 の発現様式の変化. 第5回日本脳腫瘍カンファランス, 1996. 11.
- 90) 山田昌興, 山口文雄, Morrison RS, 高橋 弘, 寺本 明: ヒト星細胞腫の悪性化の進行に伴う fibroblast growth factor receptore (FGFRs) の発現様式と変化. 第5回日本脳腫瘍カンファランス, 1996. 11.
- 91) 村上 守, 諫山和男, 布施 明, 佐藤秀貴, 饒波正博, 荒木 尚, 渡辺国広, 渥美生広, 益子邦洋, 大塚敏文: 初診時すでに delayed spasm をきたしている重症くも膜下出血の治療—特に術前後低体温療法の有用性について—. 第10回日本神経救急研究会, 1996. 11.
- 92) 饒波正博, 諫山和男, 益子邦洋, 勝又聖夫, 南 正康, 寺本 明: 笑気法による集中治療室内での脳血流代謝測定ガスクロマトグラス, ヘッドスペース法を用いた血中笑気濃度測定. 第8回日本脳循環代謝学会総会, 1996. 11.
- 93) 小南修史, Rodesch G, Lasjaunias P: くも膜下出血に発症した椎骨動脈動静脈瘤の1例. 第12回日本脳神経血管内手術研究会, 1996. 11.
- 94) 吉田陽一, 小南修史, 小林士郎, 寺本 明, 根本 繁: 外傷性および single orifice 頸動脈海綿静脈洞瘤に対する塞栓術の検討. 第12回日本脳神経血管内手術研究会, 1996. 11.
- 95) 金 景成, 喜多村孝幸, 吹野晃一, 寺本 明, 山川健太: 神経内視鏡が極めて有用であった松果体部悪性神経膠腫の1例. 第3回日本神経内視鏡研究会, 1996. 11.
- 96) 石郷岡聡, 高橋 弘, 村井保夫, 小井戸隆, 寺本 明: 手術で治癒せしめた脳幹部海綿状血管腫の1例. 第64回日本脳神経外科学会関東地方会, 1996. 11.

- 97) 梅岡克哉, 喜多村孝幸, 林 伸吉, 野手洋治, 寺本 明: 興味ある画像を呈し鑑別診断が困難であった移転性脳腫瘍の1例. 第64回日本脳神経外科学会関東地方会, 1996. 11.
- 98) 直江康孝, 星野 茂, 水成隆之, 小林士郎, 寺本 明: 小児 tectum glioma の1例. 第64回日本脳神経外科学会関東地方会, 1996. 11.
- 99) 田原重志: クッシング症候群診断における海綿静脈洞採血の意義. 第3回日本医科大学内分泌懇話会, 1996. 11.
- 100) 小倉宏道, 雪吹周生, 草間芳樹, 寺田秀人, 宗像一雄, 岸田 浩, 荒牧琢己, 渡辺 玲, 足立好司, 池田幸穂, 寺本 明, 増田 栄, 矢島敏己, 田中茂夫: 細菌性脳動脈瘤切除術, 大動脈弁置換術等集学的治療を要した感染性心内膜炎の1例. 日本医科大学医学会第90回例会, 1996. 11.
- 101) 尾形さやか, 滝沢 康, 百束比古, 中溝宗永, 富山俊一, 池田幸穂, 寺本 明, 秋元正宇: 頭頸部腫瘍における形成外科の役割について. 日本医科大学医学会第90回例会. 1996. 11.
- 102) 黒田周一, 山本 達, 秋元正宇, 水成隆之, 小林士郎: 頭蓋骨形成術における tissue expander の有用性について. 日本医科大学医学会第90回例会, 1996. 11.
- 103) 志村俊郎<sup>1)</sup>, 松本正博<sup>1)</sup>, 喜多村孝幸, 寺本 明, (<sup>1)</sup>多摩永山病院脳神経外科): 緊張型および混合型頭痛患者における塩酸チザニジンの使用経験-頭痛日記による自覚症状の週間変動を中心に-. 第24回頭痛研究会, 1996. 11.
- 104) 川本俊樹, 池田幸穂, 戸田茂樹, 寺本 明: ラット一過性前脳虚血時における L-histidine (singlet oxygen scanenger) の影響. 第8回神経損傷の基礎シンポジウム. 1996. 12.
- 105) 野手洋治, 寺本 明, 高橋 弘: 高齢者髄膜腫の臨床的特徴と治療方針. 第12回ニューロ・オンコロジーの会, 1996. 12.
- 106) 川本俊樹, 池田幸穂, 戸田茂樹, 渡辺 玲, 寺本 明: ラット一過性前脳虚血時における L-histidine (singlet oxygen scanenger) の脳保護効果. 第11回生体フリーラジカル研究会, 1996. 12.
- 107) 寺本 明, 杉山 誠, 太組一朗, 山王なほ子, 長村義之: 正常下垂体及び下垂体腺腫における Inhibin, activin subunit  $\alpha$ ,  $\beta A$  の局在と機能発現についての検討. 厚生省特定疾患間脳下垂体機能障害調査研究班平成8年度第2回班会議, 1996. 12.
- 108) 志村俊郎: 脳原発悪性リンパ腫における非腫瘍性T細胞の関与. 第9回新分子病理研究会, 1996. 12.
- 109) 水谷暢秀, 足立好司, 池田幸穂, 寺本 明, 高木 亮<sup>1)</sup>, (<sup>1)</sup>放射線科): 内側後脈絡動脈末梢部に発生した破裂脳動脈瘤の1例. 第20回日本脳神経 CI 研究会, 1997. 1.
- 110) 高木 亮<sup>1)</sup>, 林 宏光<sup>1)</sup>, 小林尚志<sup>1)</sup>, 中条秀信<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>, 足立好司, 野手洋治, 池田幸穂, 寺本 明 (<sup>1)</sup>放射線科): 小脳橋角腫瘍における術前3次元CT. 第20回日本脳神経 CI 研究会, 1997. 1.
- 111) 玉置智規, 喜多村孝幸, 野手洋治, 寺本 明: 下垂体結石を伴ったGH産生腫瘍の1例. 第20回 CI 研究会, 1997. 1.
- 112) 吉田陽一, 杉山 誠, 野手洋治, 寺本 明, 高木 亮<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>付属病院放射線科): 微小下垂体腺腫に対する Dynamic MRI の有用性と限界について. 第20回 CI 研究会. 1991. 1.
- 113) 玉置智規, 諫山和男<sup>1)</sup>, 林 伸吉, 益子邦洋<sup>2)</sup>, 辺見 弘<sup>2)</sup>, 寺本 明 (<sup>1)</sup>目白病院脳神経外科, <sup>2)</sup>高度救命救急センター): 重症頭部外傷における生命予後決定因子の検討, 受傷から手術までの間に生命予後を予測できるか. 第20回神経外傷研究会. 1997. 2.
- 114) 渡辺 玲, 戸田茂樹, 松本正博, 志村俊郎, 源河敦史<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 村松 光<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>付属多摩永山病院外科, <sup>2)</sup>春日居リハビリテーション病院内科): 脳室-腹腔シャント後に胸水貯留を来した1症例. 日本医科大学医学会第91回例会, 1997. 2.
- 115) 内木場庸子<sup>1)</sup>, 村上由加理<sup>1)</sup>, 向後俊昭<sup>1)</sup>, 戸田茂樹, 松本正博, 志村俊郎, 島田早苗<sup>2)</sup>, 山本 鼎<sup>3)</sup> (<sup>1)</sup>付属多摩永山病院小児科, <sup>2)</sup>付属多摩永山病院耳鼻咽喉科, <sup>3)</sup>付属多摩永山病院放射線科): 腹鼻腔炎に続発した化膿性髄膜炎・硬膜下膿瘍の1例. 日本医科大学医学会第91回例会, 1997. 2.

- 116) 田原重志, 杉山 誠, 太組一朗, 山王なほ子, 寺本 明, 長村義之<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>東海大学病態診断系病理学): 下垂体腺腫における Synaptophysin, Chromogranin A,B の免疫組織化学的検討。第7回日本間脳下垂体腫瘍研究会, 1997. 2.
- 117) 太組一朗, 杉山 誠, 田原重志, 寺本 明, 山王なほ子, 長村義之: Bromocriptine (BC)投与により血中 PRL 値が正常化したにもかかわらず増大した PRL 産生腺腫の1例。第7回日本間脳下垂体腫瘍研究会, 1997. 2.
- 118) 川本俊樹, 池田幸穂, 寺本 明: 一過性前脳虚血時における L-histidine (singlet oxygen scavenger) 細胞外 Glutamate 濃度および遅発性神経細胞壊死に対する影響。第22回日本脳卒中学会総会, 1997. 3.
- 119) 玉置智規, 木村昭夫<sup>1)</sup>, 池田幸穂, 諫山和男<sup>1)</sup>, 益子邦洋<sup>1)</sup>, 大塚敏文<sup>1)</sup>, 林 伸吉, 寺本 明(<sup>1)</sup>救急医学): くも膜下出血, 高血圧性脳内出血急性期における動脈血中ケトン体比 (AKBR) の変動。第22回日本脳卒中学会総会, 1997. 3.
- 120) 村井保夫, 池田幸穂, 寺本 明, 辻 之英<sup>1)</sup>, 横田裕行<sup>2)</sup>, (<sup>1)</sup>目白第2病院, <sup>2)</sup>救急医学): 高血圧性脳内出血急性期造影 MRI の有用性。第22回日本脳卒中学会総会, 1997. 3.
- 121) 水谷暢秀, 諫山和男<sup>1)</sup>, 足立好司, 野手洋治, 池田幸穂, 寺本 明 (<sup>1)</sup>救急医学): 脳室内出血を伴った後大脳動脈系末梢部の破裂脳動脈瘤の2例。第22回日本脳卒中学会総会, 1997. 3.
- 122) 玉置智規, 諫山和男<sup>1)</sup>, 益子邦洋<sup>1)</sup>, 辺見 弘<sup>2)</sup>, 寺本 明 (<sup>1)</sup>目白病院脳神経外科, <sup>2)</sup>高度救命救急センター): くも膜下出血と脳内出血急性期における動脈血中ケトン体比(AKBR)の変動。第22回日本脳卒中学会総会, 1997. 3.
- 123) 渡辺 玲, 戸田茂樹, 松本正博, 志村俊郎, 山下陽一<sup>1)</sup>, (<sup>1)</sup>目白第3病院脳神経外科): くも膜嚢胞に慢性硬膜下出血を合併した2症例。第65回日本脳神経外科学会関東地方会, 1997. 3.
- 124) 渡辺国博, 山口文雄, 佐々木光由, 高橋 弘, 寺本 明: 術前診断が困難であった鞍上部嚢胞性星細胞腫の1例。第65回日本脳神経外科関東地方会, 1997. 3.
- 125) 太組一朗, 杉山 誠, 田原重志, 寺本 明, 山王なほ子, 長村義之: ラット下垂体に於ける PC2 の 7B2 による発現調節—免疫組織化学的考察—。第8回 CRH/ACTH 研究会, 1997. 3.

## [第二病院脳神経外科]

### 研究概要

第二病院脳神経外科は、付属病院脳神経外科と密接な連携を保ちながら脳腫瘍、脳血管障害、神経外傷、中枢神経奇形などあらゆる脳神経疾患の外科的治療を対象として臨床的、基礎的研究を行っている。

特に悪性脳腫瘍に関しては、文部省科学研究費補助金の援助を受けながら積極的な基礎的研究を行い、その結果に基づいて腫瘍抗原に対するヒト型モノクローナル抗体を用いた特異的免疫療法と各種の Biological Response Modifier (BRM) 製剤を用いた非特異的免疫療法を臨床的に応用し、確実な効果をあげてきている。

また、分子生物学的基礎的研究も盛んで、将来の遺伝子治療をめざして脳腫瘍の悪性度に従って発現が異なる成長因子受容体を遺伝子レベルで解析する研究や、複数の癌抑制遺伝子を用いた遺伝子カクテル療法の基礎研究も文部省科学研究費補助金の援助を受けながら行われている。

一方、臨床的には従来摘出困難と思われていた頭蓋底などの腫瘍に関しては手術療法を用い、悪性脳腫瘍に対しては新しい化学免疫療法を試み、良好な結果をおさめてきている。

脳血管障害や頭部外傷に関しては、超音波ドップラーや SPECT を用いて脳循環を詳細に測定することにより、非観血的に正確な病態把握を行う臨床的研究が盛んである。また、同様の方法により遷延性意識障害患者の病態を詳細に把握して遷延性意識障害のレベルを分類する研究も積極的に行っている。

小児疾患に関しても、中枢神経奇形についてばかりでなく、頭蓋・顔面奇形などに対して形成外科と協力しながら積極的に治療に取り組んでいる。

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著：

- 1) 恵 答美<sup>1)</sup>, 高橋 弘, 大上千鶴子<sup>1)</sup>, 足立好司<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>付属病院脳神経外科)：マウス同系悪性腫瘍 203-glioma 細胞に対する免疫賦活剤 ubenimex の抗腫瘍効果. *Biotherapy*, 1996; 10: 1187-1192.
- 2) 山田昌興<sup>1)</sup>, Morrison, R<sup>2)</sup>, 山口文雄, 高橋 弘, 寺本 明<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>付属病院脳神経外科, <sup>2)</sup>ワシントン大学脳神経外科)：星細胞腫の悪性度に伴う fibroblast growth factor receptors mRNA の発現様式の変化. *神経免疫研究*, 1996; 9: 190-194.

#### (2) 総説：

- 1) 高橋 弘：ひきつけ (痙攣). *Brain* 1996; 44: 2-3.

### 著書

- 1) 高橋 弘：[分担] Dandy-Walker 症候群。“最新脳神経外科学”，(坪川孝志, 高倉公朋, 菊池晴彦編), 1996; pp628-631, 朝倉書店.
- 2) 高橋 弘, 中澤省三<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>付属病院脳神経外科)：[分担] 脳腫瘍。“小児期の悪性固形腫瘍”，(山本正生編), 1996; pp143-160, 永井書店.

### 学会発表

#### (1) 特別講演：

- 1) 高橋 弘：悪性脳腫瘍と漢方療法. 第13回日本小児東洋医学研究会, 1996. 4.
- 2) 高橋 弘：脳腫瘍と漢方療法. 第1回「脳外科と漢方」研究会, 1996. 6.

#### (2) 一般講演：

- 1) Takahashi H, Hoshino S<sup>1)</sup>, Shimura T<sup>2)</sup>, Teramoto A<sup>3)</sup> (<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経外科, <sup>2)</sup>多摩永山病院脳神経外科, <sup>3)</sup>付属病院脳神経外科)：High serum levels of catecholamine suggest a rare brain tumor of melanotic neuroectodermal tumor of infancy in the skull. 14th Annual Meeting of the International Society for Pediatric Neurosurgery (Ottawa, Canada), 1996. 7.
- 2) Takahashi H, Adachi K<sup>1)</sup>, Yamaguchi F, Teramoto A<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>付属病院脳神経外科)：A study of chemotherapeutic of brain stem glioma in children. 3rd China-Japan-France Friendship Neurosurgical Symposium (Beijin, China), 1996. 8.
- 3) Adachi K<sup>1)</sup>, Takahashi H, Teramoto A<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>付属病院脳神経外科)：Brain tumor animal model for active immunotherapy. 3rd China-Japan-France Friendship Neurosurgical Symposium (Beijin, China), 1996. 8.
- 4) Takahashi H, Adachi K<sup>1)</sup>, Yamaguchi F, Teramoto A<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>付属病院脳神経外科)：Evaluation of chemotherapeutic against pontine glioma. 2nd Joint Meeting of the Japan Neurosurgical Society and Deutsche Gesellschaft für Neurochirurgie, 1996. 10.
- 5) 山口文雄, 高橋 弘, 寺本 明<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>付属病院脳神経外科)：グリオーマにおける Fibroblast Growth Factor Receptors (FGFRs) の発現変化を利用した悪性度診断と遺伝子治療への応用. 日本医科大学医学会第88回例会, 1996. 2.
- 6) 小松原清光, 浜田 浩, 石郷岡聡, 高橋 弘, 寺本 明<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>付属病院脳神経外科)：転移性脳腫瘍との鑑別が困難であった頭蓋内原発悪性リンパ腫の1例. 第61回日本脳神経外科学会関東地方会, 1996. 3.
- 7) 高橋 弘, 足立好司<sup>1)</sup>, 山下陽一<sup>1)</sup>, 山口文雄, 草薮博昭<sup>1)</sup>, 吉田大蔵<sup>1)</sup>, 志村俊郎<sup>2)</sup>, 寺本 明<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>付属病院脳神

- 経外科, <sup>2)</sup>多摩永山病院脳神経外科) : 当科における悪性グリオーマに対する化学療法について. 第11回ニューロ・オンコロジーの会, 1996. 4.
- 8) 志村俊郎<sup>1)</sup>, 川本雅司<sup>2)</sup>, 寺本 明<sup>3)</sup>, 杉崎祐一<sup>2)</sup>, 高橋 弘, 野手洋治<sup>3)</sup>, 太組一朗<sup>3)</sup>, 吹野晃一<sup>3)</sup> (<sup>1)</sup>多摩永山病院脳神経外科, <sup>2)</sup>付属病院病理部, <sup>3)</sup>付属病院脳神経外科) : 頭蓋内原発悪性リンパ腫における T 細胞の関与に関する免疫組織学的検討. 第14回日本脳腫瘍病理研究会, 1996. 4.
  - 9) 高橋 弘, 小松原清光, 浜田 浩, 石郷岡聡, 寺本 明<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>付属病院脳神経外科) : 小児脳幹部グリオーマに対する化学・免疫療法について. 第24回日本小児神経外科学研究会, 1996. 5.
  - 10) 石郷岡聡, 小松原清光, 浜田 浩, 高橋 弘, 寺本 明<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>付属病院脳神経外科) : 小脳虫部病変により Cerebellar Muteness を呈した2症例. 第62回日本脳神経外科学会関東地方会, 1996. 6.
  - 11) 山田昌興<sup>1)</sup>, Morrison RS<sup>2)</sup>, 山口文雄, 高橋 弘, 寺本 明<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>付属病院脳神経外科, <sup>2)</sup>ワシントン大学脳神経外科) : 星細胞腫の悪性度の進行に伴う fibroblast growth factor receptors mRNA の発現様式の変化. 第9回「脳と免疫」研究会, 1996. 6.
  - 12) 山口文雄, 高橋 弘, 寺本 明<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>付属病院脳神経外科) : グリオーマにおける telomerase mRNA の発現と遺伝子治療への応用. 第4回脳腫瘍遺伝子療法懇話会, 1996. 6.
  - 13) 松居 徹<sup>1)</sup>, 神野哲夫<sup>1)</sup>, 太田富雄<sup>1)</sup>, 上田守三<sup>1)</sup>, 大平貴之<sup>1)</sup>, 片山容一<sup>1)</sup>, 塩貝敏之<sup>1)</sup>, 高橋 弘, 竹内栄一<sup>1)</sup>, 藤原 悟<sup>1)</sup>, 横山哲也<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>慢性期意識障害スコアリング委員会) : 慢性期意識障害スコアリング小委員会報告. 第5回意識障害の治療研究会, 1996. 8.
  - 14) 植松正樹, 石郷岡聡, 村井保夫, 高橋 弘, 大久保正智<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>第二病院形成外科, <sup>2)</sup>付属病院形成外科) : Fronto-orbital fibrous dysplasia に対する自家骨を用いた頭蓋骨形成の1手術例. 第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 9.
  - 15) 野手洋治<sup>1)</sup>, 林 靖人<sup>1)</sup>, 高橋 弘, 寺本 明<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>付属病院脳神経外科) : 高齢者髄膜腫症例の検討. 第1回脳腫瘍の外科研究会, 1996. 9.
  - 16) 山田昌興<sup>1)</sup>, 山口文雄, Morrison RS<sup>2)</sup>, 高橋 弘, 寺本 明<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>付属病院脳神経外科, <sup>2)</sup>ワシントン大学脳神経外科) : Fibroblast growth factor receptor 1 (FGFR 1) に対する antisense oligonucleotides を用いたヒト膠芽腫細胞の成長抑制. 第55回日本脳神経外科学会総会, 1996. 10.
  - 17) 浜田 浩, 高橋 弘, 寺本 明<sup>1)</sup>, 石橋良徳<sup>2)</sup>, 中川 豊<sup>2)</sup>, 吉井利郎<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>付属病院脳神経外科, <sup>2)</sup>実生研) : Arginine Vasopressin (AVP) 分泌抑制剤の腫瘍性脳浮腫抑制効果について. 第55回日本脳神経外科学会総会, 1996. 10.
  - 18) 志村俊郎<sup>1)</sup>, 川本雅司<sup>2)</sup>, 寺本 明<sup>3)</sup>, 阿部 聡<sup>4)</sup>, 熊西敏郎<sup>4)</sup>, 高橋 弘, 野手洋治<sup>3)</sup>, 松本正博<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>多摩永山病院脳神経外科, <sup>2)</sup>付属病院病理部, <sup>3)</sup>付属病院脳神経外科, <sup>4)</sup>新潟大学脳研究所分子神経病理) : 頭蓋内原発性悪性リンパ腫における非腫瘍性 T 細胞の関与について. 第55回日本脳神経外科学会総会, 1996. 10.
  - 19) 足立好司<sup>1)</sup>, 高橋 弘, 寺本 明<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>付属病院脳神経外科) : 脳腫瘍モデルでのインターロイキン12の抗腫瘍活性. 第55回日本脳神経外科学会総会, 1996. 10.
  - 20) 高橋 弘, 足立好司<sup>1)</sup>, 吉田大蔵<sup>1)</sup>, 山口文雄, 志村俊郎<sup>2)</sup>, 寺本 明<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>付属病院脳神経外科, <sup>2)</sup>多摩永山病院脳神経外科) : BRM 製剤を積極的に併用した外来通院化学療法による悪性グリオーマの維持療法. 第55回日本脳神経外科学会総会, 1996. 10.
  - 21) 足立好司<sup>1)</sup>, 高橋 弘, 寺本 明<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>付属病院脳神経外科) : ノードマウス移植脳腫瘍モデルでのインターロイキン12の抗腫瘍活性. 第5回日本脳腫瘍カンファランス, 1996. 11.
  - 22) 山口文雄, 山田昌興<sup>1)</sup>, 吹野晃一<sup>1)</sup>, Morrison RS<sup>2)</sup>, 佐谷秀行<sup>3)</sup>, 高橋 弘, 寺本 明<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>付属病院脳神経外科, <sup>2)</sup>ワシントン大学脳神経外科, <sup>3)</sup>熊本大学分子生物学) : Astrocytoma の悪性度と FGF receptor 1 の発現様式の変化. 第5回日本脳腫瘍カンファランス, 1996. 11.
  - 23) 山田昌興<sup>1)</sup>, 山口文雄, Morrison RS<sup>2)</sup>, 高橋 弘, 寺本 明<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>付属病院脳神経外科, <sup>2)</sup>ワシントン大学脳神経外科) : ヒト星細胞腫の悪性化の進行に伴う fibroblast growth factor receptors (FGFRs) の発現様式の変化.



第5回日本脳腫瘍カンファレンス, 1996. 11.

- 24) 石郷岡聡, 高橋 弘, 村井保夫, 小井戸隆, 寺本 明<sup>1)</sup> (1)付属病院脳神経外科): 手術で治癒せしめた脳幹部海綿状血管腫の1例. 第64回日本脳神経外科学会関東地方会, 1996. 11.
- 25) 野手洋治<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>1)</sup>, 高橋 弘 (1)付属病院脳神経外科): 高齢者髄膜腫の臨床的特徴と治療方針. 第12回ニューロ・オンコロジーの会, 1996. 12.
- 26) 渡辺国博, 山口文雄, 佐々木光由, 高橋 弘, 寺本 明<sup>1)</sup> (1)付属病院脳神経外科): 術前診断が困難であった鞍上部嚢胞性星細胞腫の1例. 第65回日本脳神経外科学会関東地方会, 1997. 3.

## [多摩永山病院脳神経外科]

### 研究概要

多摩永山病院脳神経外科は, 日本脳神経外科学会専門医訓練施設として, 診療, 教育, 研究を付属病院脳神経外科学教室の指導の下に行っている。

当科の第1の研究テーマは, 主として外傷性びまん性脳損傷の症例において, 持続頭蓋内圧測定(光センサー硬膜下法), 脳血流測定(超音波ドップラー法), 電気生理学的検査(聴性脳幹反応, 体性感覚誘発電位), MRI・MRA等の多くの諸検査により経時的な測定をすることによりその軸索損傷の病態解明を行っている。

第2のテーマは頭痛患者外来において筋弛緩剤塩酸チザニジン投与による頭痛日記と皮膚血流増加効果をサーモグラフィで, また Transcranial ドップラーによる脳血流測定をおこなうことによりその臨床薬理学的効果を正常人例と対比し検討する。

第3のテーマは小脳血管芽腫の分子神経病理学的研究を行っている。

### 研究業績

#### 学会発表

##### (1) 特別講演:

- 1) 志村俊郎: 高齢者の脳卒中 その予防と対策. 前立腺肥大症平岡式手術法普及の会, 第4回健康セミナー1996. 6.

##### (2) 一般講演:

- 1) Takahashi H<sup>1)</sup>, Hoshino S<sup>1)</sup>, Shimura T, Teramoto A<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>Department of Neurosurgery, Nippon Medical School): High serum levels of catecholamine suggest a rare brain tumor of melanotic neuroectodermal tumor of infancy in the skull. 14th Annual Meeting of the International Society for Pediatric Neurosurgery(Ottawa Canada), 1996.7.
- 2) Shimura T, Teramoto A<sup>1)</sup>, Node Y<sup>1)</sup>, Fukino K<sup>1)</sup>, Kawamoto M<sup>2)</sup>, Abe S<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>Department of Neurosurgery, <sup>2)</sup>Department of Pathology, Nippon Medical School, <sup>3)</sup>Department of Molecular Neuropathology, Brain Research Institute, Niigata University): Anaplastic large cell Ki-1 lymphoma in the central nervous system —Case report and review of the literature—. 4th China-Japan-France Friendship Neurosurgical Symposium, 1996.8.
- 3) 野手洋治<sup>1)</sup>, 志村俊郎, 寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院脳神経外科): MR アンジオグラフィと transcranial Doppler との比較検討. 第21回日本脳卒中学会総会, 1996. 4.
- 4) 猪鹿倉恭子<sup>1)</sup>, 直江康孝<sup>1)</sup>, 布施 明<sup>1)</sup>, 石之神小織<sup>1)</sup>, 黒川 顕<sup>1)</sup>, 小南修史, 松本正博, 志村俊郎, 諫山和男<sup>1)</sup>, 横田裕行<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>救命救急センター, <sup>2)</sup>付属病院脳神経外科): 脳血管攣縮に対する塩酸パパペリン選択的動注療法の効果と問題点. 第25回日本脳卒中の外科研究会, 1996. 4.
- 5) 志村俊郎, 川本雅司<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>2)</sup>, 杉崎祐一<sup>1)</sup>, 高橋 弘<sup>3)</sup>, 野手洋治<sup>2)</sup>, 太組一朗<sup>2)</sup>, 吹野晃一<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院病

- 理部,<sup>2)</sup>付属病院脳神経外科,<sup>3)</sup>付属第二病院脳神経外科):頭蓋内原発悪性リンパ腫におけるT細胞の関与に関する免疫組織学的検討.第14回日本脳腫瘍病理研究会,1996.4.
- 6) 鈴木紀成,松本正博,戸田茂樹,志村俊郎,寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院脳神経外科):Fisher 症候群の1例.日本医科大学医学会第89回例会,1996.5.
- 7) 村松 光<sup>1)</sup>,佐藤誠太郎<sup>1)</sup>,村田憲一<sup>1)</sup>,中村 雄<sup>2)</sup>,橋田 薫<sup>2)</sup>,井口恭一<sup>2)</sup>,志村俊郎,松本正博,諫山和男<sup>3)</sup>,寺本 明<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>春日居温泉病院内科,<sup>2)</sup>春日居温泉病院リハビリテーション科,<sup>3)</sup>日本医科大学救急医学,<sup>4)</sup>付属病院脳神経外科):脳血管障害発症7ヶ月以後でも,脳外科治療後に片麻痺のGradeとADLの著明な改善がみられた症例の検討.第33回日本リハビリテーション医学会学術集会,1996.5.
- 8) 鈴木紀成,戸田茂樹,松本正博,志村俊郎,寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院脳神経外科):硬膜へ伸展したEosinophilic granulomaの1例.第62回日本脳神経外科学会関東地方会,1996.6.
- 9) 戸田茂樹,鈴木紀成,河原 清,松本正博,志村俊郎,前田昭太郎<sup>1)</sup>,寺本 明<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>付属多摩永山病院病理部,<sup>2)</sup>付属病院脳神経外科):頭蓋骨に原発し硬膜に伸展した好酸球肉芽腫の1治験例.第64回日本医科大学医学会総会,1996.9.
- 10) 村松 光<sup>1)</sup>,志村俊郎,松本正博,寺本 明<sup>2)</sup>,諫山和男<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>春日居リハビリテーション病院内科,<sup>2)</sup>付属病院脳神経外科,<sup>3)</sup>救急医学):脳血管障害慢性期における機能・能力障害の回復—脳外科治療後に認められた片麻痺GradeとADLの著明な改善—.第64回日本医科大学医学会総会,1996.9.
- 11) 片山博徳<sup>1)</sup>,前田昭太郎<sup>1)</sup>,細根 勝<sup>1)</sup>,磯部宏明<sup>1)</sup>,河原 清,志村俊郎(<sup>1)</sup>付属多摩永山病院病理部):術中診断に迅速免疫染色が有用であったGlioblastomaの1例.第64回日本医科大学医学会総会,1996.9.
- 12) 林 靖人<sup>1)</sup>,野手洋治<sup>1)</sup>,志村俊郎,寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院脳神経外科):悪性髄膜腫症例の臨床的検討.第1回脳腫瘍の外科研究会,1996.9.
- 13) 志村俊郎,川本雅司<sup>2)</sup>,寺本 明<sup>1)</sup>,阿部 聰<sup>3)</sup>,熊西敏郎<sup>3)</sup>,高橋 弘<sup>1)</sup>,野手洋治<sup>1)</sup>,松本正博(<sup>1)</sup>付属病院脳神経外科,<sup>2)</sup>付属病院病理部,<sup>3)</sup>新潟大学脳研究所分子神経病理):頭蓋内原発性悪性リンパ腫における非腫瘍性T細胞の関与についての臨床病理学的検討.第55回日本脳神経外科学会総会,1996.10.
- 14) 高橋 弘<sup>1)</sup>,足立好司<sup>1)</sup>,吉田大蔵<sup>1)</sup>,山口文雄<sup>1)</sup>,志村俊郎,寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院脳神経外科):BRM製剤を積極的に併用した外来通院化学療法による悪性グリオーマの維持療法.第55回日本脳神経外科学会総会,1996.10.
- 15) 星野 茂<sup>1)</sup>,小林士郎<sup>1)</sup>,志村俊郎,寺本 明<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>付属千葉北総病院脳神経外科,<sup>2)</sup>付属病院脳神経外科):実験的頭部外傷慢性期におけるタウ蛋白の発現について.血管脳関門の破壊,68KD neurofilament 免疫染色との対比.第55回日本脳神経外科学会総会,1996.10.
- 16) 志村俊郎,松本正博,喜多村孝幸<sup>1)</sup>,寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院脳神経外科):緊張型および混合型頭痛患者における塩酸チザニジンの使用経験—頭痛日記による自覚症状の週間変動を中心に—.第24回頭痛研究会,1996.11.
- 17) 志村俊郎:脳原発悪性リンパ腫における非腫瘍性T細胞の関与.第9回新潟分子病理研究会,1996.12.
- 18) 渡辺 玲,戸田茂樹,松本正博,志村俊郎,源河敦史<sup>1)</sup>,江上 格<sup>1)</sup>,村松 光<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>付属多摩永山病院外科,<sup>2)</sup>春日居リハビリテーション病院内科):脳室—腹腔シャント後に胸水貯留を来した1症例.日本医科大学医学会第91回例会,1997.2.
- 19) 内木場庸子<sup>1)</sup>,村上由加里<sup>1)</sup>,向後俊昭<sup>1)</sup>,戸田茂樹,松本正博,志村俊郎,島田早苗<sup>2)</sup>,山本 鼎<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>付属多摩永山病院小児科,<sup>2)</sup>付属多摩永山病院耳鼻咽喉科,<sup>3)</sup>付属多摩永山病院放射線科):腹鼻腔炎に続発した化膿性髄膜炎・硬膜下膿瘍の1例.日本医科大学医学会第91回例会,1997.2.
- 20) 渡辺 玲,戸田茂樹,松本正博,志村俊郎,山下陽一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>目白第3病院脳神経外科):くも膜嚢胞に慢性硬膜下出血腫を合併した2症例.第65回日本脳神経外科学会関東地方会,1997.3.

# [千葉北総病院脳神経外科]

## 研究概要

開設後3年が経過した千葉北総病院脳神経外科は、付属病院脳神経外科と綿密な関係を保ちながら脳血管障害、頭部外傷、脳腫瘍を中心とした臨床のおよび基礎的研究を行った。

1) 脳血管障害：クモ膜下出血の永年の研究課題である脳血管攣縮の病態解明のため、TCDによる脳血流速度、Xe-CTによる脳血流量の経時的測定dateの集積を行い、塩酸パパリンの動注療法の有効性を確認するとともに、かかる療法前後におけるTCDの変化を集計した。前交通動脈瘤に対して新しい手術法であるorbito-cranial approachを導入し、その有用性について報告した。

虚血性脳血管障害に関しては、急性期超選択的血栓溶解療法 of 症例の蓄積を行った。

2) 頭部外傷：fluid percussion (PF) 法を用いたラット実験頭部外傷モデルを使用してその慢性期における早期アルツハイマー病様脳障害を証明した。臨床例では、Xe-CTによる経時的検討を行い、頭部外傷後の脳血流障害の変化を報告した。

3) 脳腫瘍：種々の出血性脳腫瘍例に対する術前の人工塞栓術の有効性を確認した。新に導入した骨メス (Maidas Rex) を使用して行う頭蓋底外科の内、anterior-petrosal approach の検討を行った。

## 研究業績

### 論文

(1) 原著：

- 1) 村井保夫<sup>1)</sup>, 水成隆之, 小林士郎, 寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院脳神経外科)：破裂脳動脈瘤を伴った神経線維腫症例の1例。脳神経外科ジャーナル 1996；5：296-300。

### 著書

- 1) 小林士郎：〔分担〕意識障害。救急現場の救急医療：小児・新生児救急と産科・婦人科救急 (山中昭栄, 山本保博編集), 1996；pp44-51, 荘道社。
- 2) 小林士郎：〔編集：分担〕症状・症候の特殊性。小児頭部外傷 (重森 稔, 片山容一, 小林士郎編集), 1996；pp25-32, 医学書院。

### 学会発表

(1) 特別講演：

- 1) 小林士郎：虚血性脳血管障害の最近の話題。佐倉・四街道地区医師会勉強会, 1996. 11。
- 2) 小林士郎：脳ドックを含めた虚血性脳血管障害。第6回佐原CPC, 1997. 3。

(2) シンポジウム：

- 1) 横田裕行<sup>1)</sup>, 布施 明<sup>2)</sup>, 二宮宣之<sup>2)</sup>, 諫山和男<sup>2)</sup>, 小関一英<sup>2)</sup>, 黒川 顕<sup>2)</sup>, 大塚敏文<sup>2)</sup>, 林 伸吉<sup>3)</sup>, 小林士郎, 寺本 明<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院救急部, <sup>2)</sup>救急医学, <sup>3)</sup>付属病院脳神経外科)：重症頭部外傷に対する低体温療法時の集学的治療。第55回日本脳神経外科学会総会, 1996. 10。
- 2) 横田裕行<sup>1)</sup>, 小川理郎<sup>1)</sup>, 布施 明<sup>2)</sup>, 佐藤秀貴<sup>2)</sup>, 諫山和男<sup>2)</sup>, 益子邦洋<sup>2)</sup>, 山本保博<sup>2)</sup>, 大塚敏文<sup>2)</sup>, 星野 茂, 小林士郎, 寺本 明<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院救急部, <sup>2)</sup>救急医学, <sup>3)</sup>付属病院脳神経外科)：頭部外傷後の脳血流障害—Xe-CTによる経時的検討。第20回日本神経外傷研究会, 1997. 2。
- 3) 布施 明<sup>1)</sup>, 横田裕行<sup>2)</sup>, 諫山和男<sup>1)</sup>, 村上 守<sup>2)</sup>, 佐藤秀貴<sup>1)</sup>, 小関一英<sup>1)</sup>, 黒川 顕<sup>1)</sup>, 益子邦洋<sup>1)</sup>, 山本保博<sup>1)</sup>, 大塚敏文<sup>1)</sup>, 林 伸吉<sup>3)</sup>, 池田幸穂<sup>3)</sup>, 小林士郎, 寺本 明<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>救急医学, <sup>2)</sup>千葉北総病院救急部, <sup>3)</sup>付属病院脳神経外科)：重症頭部外傷例に対する低体温療法中の問題点。第20回日本神経外傷研究会, 1997. 2。

- 4) 横田裕行<sup>1)</sup>, 中林基明<sup>2)</sup>, 布施 明<sup>2)</sup>, 佐藤秀貴<sup>2)</sup>, 本間正人<sup>2)</sup>, 池田幸穂<sup>2)</sup>, 山本保博<sup>2)</sup>, 大塚敏文<sup>2)</sup>, 小林士郎, 寺本 明<sup>3)</sup> (<sup>1)</sup>千葉北総病院救急部, <sup>2)</sup>救急医学, <sup>3)</sup>付属病院脳神経外科): 重症脳脊髄損傷の治療: 頭部外傷. 第17回脳神経外科コンgres, 1997. 3.
- (3) 座長講演:
- 1) 小林士郎: 頭部外傷の病態生理と治療. 第10回日本神経救急研究会, 1996. 11.
- (4) 一般講演:
- 1) Kobayashi S, Teramoto A<sup>1)</sup>, Tsai FY<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>付属病院脳神経外科, <sup>2)</sup>ミズーリ大学カンザスシティ校放射線科): Direct thrombolytic treatment for acute intracranial dural sinus thrombosis. 第55回日本脳神経外科学会総会, 1996. 10.
- 2) 粟屋 栄, 古川哲也, 星野 茂, 水成隆之, 小林士郎, 寺本 明<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>付属病院脳神経外科): 腫瘍内出血にて発症した髄芽腫の1例. 第24回日本小児脳神経外科学研究会, 1996. 5.
- 3) 饒波正博<sup>1)</sup>, 諫山和男<sup>2)</sup>, 横田裕行<sup>3)</sup>, 益子邦洋<sup>2)</sup>, 小林士郎, 寺本 明<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>付属病院脳神経外科, <sup>2)</sup>救急医学, <sup>3)</sup>千葉北総病院救急部): 外傷性大脳基底核部出血: 瀰漫性脳損傷との関連から. 第10回日本外傷学会, 1996. 5.
- 4) 布施 明<sup>1)</sup>, 黒川 顕<sup>1)</sup>, 諫山和男<sup>1)</sup>, 横田裕行<sup>2)</sup>, 益子邦洋<sup>1)</sup>, 山本保博<sup>1)</sup>, 大塚敏文<sup>1)</sup>, 小林士郎, 寺本 明<sup>3)</sup> (<sup>1)</sup>救急医学, <sup>2)</sup>千葉北総病院救急部, <sup>3)</sup>付属病院脳神経外科): 頭部打創の5症例. 第10回日本外傷学会, 1996. 5.
- 5) 星野 茂, 小林士郎, 古川哲也, 志村俊郎<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>2)</sup>, 小黒辰夫<sup>3)</sup>, 森 修<sup>3)</sup>, 大秋美治<sup>3)</sup> (<sup>1)</sup>多摩永山病院脳神経外科, <sup>2)</sup>付属病院脳神経外科, <sup>3)</sup>千葉北総病院病理部): 実験的頭部外傷慢性期における早期アルツハイマー病様脳障害. 第37回日本神経病理学会総会学術研究会, 1996. 5.
- 6) 古川哲也, 星野 茂, 水成隆之, 小林士郎, 寺本 明<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>付属病院脳神経外科): Rendu-Osler-Weber 症候群における難治性鼻出血に対し人工塞栓術が有効であった1例. 第62回日本脳神経外科学会関東地方会, 1996. 6.
- 7) 斉藤寛浩, 星野 茂, 小林士郎, 寺本 明<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>付属病院脳神経外科): 治療に難渋した dural AVF の1例. 第25回東葛地区脳神経外科研究会, 1996. 6.
- 8) 斉藤寛浩, 星野 茂, 水成隆之, 小林士郎, 寺本 明<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>付属病院脳神経外科): Marginal sinus dural AVF の1例. 第63回日本脳神経外科学会関東地方会, 1996. 9.
- 9) 横田裕行<sup>1)</sup>, 小池 薫<sup>1)</sup>, 加藤一良<sup>1)</sup>, 諫山和男<sup>2)</sup>, 益子邦洋<sup>2)</sup>, 黒川 顕<sup>2)</sup>, 山本保博<sup>2)</sup>, 大塚敏文<sup>2)</sup>, 粟屋 栄, 星野 茂, 水成隆之, 小林士郎, 寺本 明<sup>3)</sup> (<sup>1)</sup>千葉北総病院救急部, <sup>2)</sup>救急医学, <sup>3)</sup>付属病院脳神経外科): 頭部外傷における Xe-CT の意義. 第24回日本救急医学会総会, 1996. 10.
- 10) 小林士郎, 金 景成, 斉藤寛浩, 小暮一成, 古川哲也, 粟屋 栄, 星野 茂, 水成隆之, 横田裕行<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>千葉北総病院救急部, <sup>2)</sup>付属病院脳神経外科): 小児重症頭部外傷にみられる diffuse cerebral swelling に対する集学的治療. 第55回日本脳神経外科学会総会, 1996. 10.
- 11) 星野 茂, 小林士郎, 志村俊郎<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>多摩永山病院脳神経外科, <sup>2)</sup>付属病院脳神経外科): 実験的頭部外傷慢性期におけるタウ蛋白の発現について—血液脳関門の破壊, 68kD neurofilament 免疫染色との対比. 第55回日本脳神経外科学会総会, 1996. 10.
- 12) 布施 明<sup>1)</sup>, 横田裕行<sup>2)</sup>, 諫山和男<sup>1)</sup>, 中林基明<sup>1)</sup>, 益子邦洋<sup>1)</sup>, 黒川 顕<sup>1)</sup>, 山本保博<sup>1)</sup>, 大塚敏文<sup>1)</sup>, 小林士郎, 寺本 明<sup>3)</sup> (<sup>1)</sup>救急医学, <sup>2)</sup>千葉北総病院救急部, <sup>3)</sup>付属病院脳神経外科): 重症頭部外傷後の各種治療による脳代謝への影響—外減圧術, 過換気療法, マニトール, 脳室ドレナージ, 低体温療法の検討. 第55回日本脳神経外科学会総会, 1996. 10.
- 13) 横田裕行<sup>1)</sup>, 小川理郎<sup>1)</sup>, 布施 明<sup>2)</sup>, 佐藤秀貴<sup>2)</sup>, 諫山和男<sup>2)</sup>, 黒川 顕<sup>2)</sup>, 大塚敏文<sup>2)</sup>, 小林士郎, 寺本 明<sup>3)</sup> (<sup>1)</sup>千葉北総病院救急部, <sup>2)</sup>救急医学, <sup>3)</sup>付属病院脳神経外科): 瀰漫性脳損傷軽症・中等症の機能回復と後遺症. 第55回日本脳神経外科学会総会, 1996. 10.

- 14) 吉田陽一<sup>1)</sup>, 小南修史<sup>1)</sup>, 小林士郎, 寺本 明<sup>1)</sup>, 根本 繁<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院脳神経外科, <sup>2)</sup>東京警察病院脳神経外科): 外傷性および single orifice の頸動脈海綿静脈洞瘻に対する塞栓術の検討. 第12回日本脳神経血管内手術研究会, 1996. 11.
- 15) 黒田周一<sup>1)</sup>, 山本 達<sup>1)</sup>, 秋元正宇<sup>1)</sup>, 水成隆之, 小林士郎(<sup>1)</sup>千葉北総病院形成外科): 頭蓋骨形成術における tissue expander の有用性について. 日本医科大学医学会第90回例会, 1996. 11.
- 16) 直江康孝, 星野 茂, 水成隆之, 小林士郎, 寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院脳神経外科): 小児 tectum glioma の1例. 第64回日本脳神経外科学会関東地方会, 1996. 11.
- 17) 吹野晃一, 大山健一, 梅岡克哉, 鈴木紀成, 直江康孝, 粟屋 栄, 星野 茂, 水成隆之, 小林士郎, 横田裕行<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>2)</sup>, 村上正洋<sup>3)</sup>, 百束比古<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院救急部, <sup>2)</sup>付属病院脳神経外科, <sup>3)</sup>付属病院形成外科): 遊離腹直筋皮弁にて再建した頭頂部開放性陥没骨折に伴う広範囲骨軟部組織欠損の1例. 第20回日本神経外傷研究会, 1997. 2.
- 18) 鈴木紀成, 星野 茂, 古川哲也, 小林士郎, 横田隆之<sup>1)</sup>, 松丸 宏<sup>2)</sup>, 寺本 明<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院救急部, <sup>2)</sup>千葉北総病院放射線科, <sup>3)</sup>付属病院脳神経外科.): Xe-CT を用いた小児頭部外傷例の脳血流測定. 第20回日本神経外傷研究会, 1997. 2.
- 19) 水成隆之, 小林士郎, 粟屋 栄, 星野 茂, 寺本 明<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院脳神経外科): 前交通動脈瘤のクリッピングにおける orbito-cranial approach の有用性. 第26回日本脳卒中の外科研究会, 1997. 3.

## 12. 整形外科科学講座

### [付属病院整形外科・第一病院整形外科・第二病院整形外科・多摩永山病院整形外科・千葉北総病院整形外科]

#### 研究概要

現代の整形外科科学の研究範囲は膨大な範囲に涉っているので、そのすべてを網羅することは到底不可能であるが、出来るだけ広範囲にしかも深く研究するのが教室の使命であると考えている。

研究項目は：

- 1) 電気生理学；脊髄電位，神経電位，交感神経電位，筋電図，電気刺激および電磁場刺激による骨・軟骨・神経の再生。
- 2) Biomechanics；脊椎，膝関節，股関節，仙腸関節，肩関節などのBiomechanics。
- 3) 軟骨再生と移植；将来には骨銀行のみでなく軟骨銀行をめざしている。
- 4) 人工関節，人工靭帯，人工骨の開発実験および関節（主として股・膝関節）の同種移植。
- 5) 脊椎管内血管の解剖学。
- 6) 脊髄馬尾の解剖学。
- 7) 手根骨の動態。
- 8) 職業性腰痛の疫学・予防対策。
- 9) Back School の実施。
- 10) 交感神経電気活動状況。
- 11) レーザー治療による除痛効果の基礎研究。
- 12) 臨床的研究；伝統的に脊髄・脊髄疾患に対する治療例が圧倒的に多く，その手術法の開発と予後の検索を行っている。また，現代の流れで，交通事故の外傷，老人の人工関節置換術や，骨粗鬆症，若者のスポーツ医学や近年急増している骨・軟部悪性腫瘍等に関して先進的かつ独自の治療法を試みている。

#### 研究業績

##### 論文

(1) 原著：

- 1) Erim Z<sup>1)</sup>, Deluca CJ<sup>1)</sup>, Mineo K<sup>1)</sup>, Aoki T ( <sup>1)</sup>Neuro Muscular Research Center, Boston University ) : Rank-ordered regulation of motor units. Muscle and Nerve 1996 ; 19 : 563-573.
- 2) Nakayama Y, Shirai Y, Narita T : Long-term Follow-up Study of Anterior Cruciate Ligament Reconstruction Using Patellar Tendon Augmented with Woven Polyester. Jpn J Rheum Joint Surg 1996 ; 15 : 5-14.
- 3) Matsuzawa I, Shirai Y, Kuriyama N : Contracture of the toes in Dupuytren's disease. The Foot 1996 ; 6 : 94-96.
- 4) Ide K, Shirai Y, Ito H, Ito, H<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>Dept of Anatomy Nippon Medical School ) : Sensory nerve supply in the human subacromial bursa. J Shoulder and Elbow Surg 1996 ; 5 : 371-382.
- 5) Nakayama Y, Shirai Y, Narita T, Aoki T, Yoshihara K, Koike T : Graft isometry in anterior cruciate ligament reconstruction. Jpn J Orthop Sports Med 1996 ; 16 : 41-48.
- 6) Nakayama Y, Shirai Y, Narita T, Aoki T, Yoshihara K, Koike T : Osteoarthritic changes in the patellofemoral joint after anterior cruciate ligament reconstruction. Jpn J Orthop Sports Med 1996 ; 16 :

- 7) Narita T, Shirai Y, Nakayama Y, Iizawa N, Takeda T, Banzai Y : Effect of Plyometric jump training for female volleyball players. Jpn J Orthop Sports Med 1996 ; 16 : 348-355.
- 8) Ito H, Shirai Y, Shibasaki T, Takayama A : A new radiographic projection for the posterolateral notch in cases of recurrent dislocation of the shoulder. J Nippon Medi Sch 1996 ; 63 : 499-501.
- 9) Ito H, Shirai Y, Narita T : An electrton microscopic study of peripheral nerve regeneration with pulsing electromagnetic fields. J Nippon Medi Sch 1997 ; 64 : 37-39.
- 10) 間瀬泰克, 白井康正, 渡辺 誠, 南 和文: 滑膜ヒダの画像診断. 膝 1995 ; 21 : 93-96.
- 11) 小林由子<sup>1)</sup>, 杉崎健一<sup>1)</sup>, 村上隆介<sup>1)</sup>, 山本 鼎<sup>1)</sup>, 田島なつき<sup>2)</sup>, 田島廣之<sup>3)</sup>, 隈崎達夫<sup>3)</sup>, 間瀬泰克 ( <sup>1)</sup>日本医科大学多摩永山病院放射線科, <sup>2)</sup>千葉北総病院放射線科, <sup>3)</sup>付属病院放射線科): 膝関節損傷の MR 関節造影: 単純 MRI との比較. 臨床放射線 Japanese Journal of Clinical Radiology 1995 ; 40 : 911-916.
- 12) 家田俊也, 橋口 宏: アキレス腱皮下断裂に対する Quadri looped Suture 法の経験. 東北整形災害外科紀要 1995 ; 39 : 211-214.
- 13) 南野光彦, 白井康正: 頸椎間歇的介達牽引: 頸部傍脊柱筋の血流および筋電図学的検討. 骨・関節・靭帯 1996 ; 9 : 417-426.
- 14) 南野光彦, 白井康正, 今野俊介: 牽引療法: 頸椎牽引の基礎的知見. 骨・関節・靭帯 1996 ; 6 : 685-690.
- 15) 宮本雅史: 自殺企図により生じた多発骨折の治療上の問題点. 骨・関節・靭帯 1996 ; 9 : 733-740.
- 16) 柴崎 徹, 伊藤博元, 高山景範, 水江史樹: Weaver-Dunn 法による肩鎖関節脱臼の治療成績. 骨・関節・靭帯 1996 ; 9(10) : 1105-1109.
- 17) 中山義人, 白井康正, 成田哲也, 青木孝文, 小池竜哉, 吉原 潔: 前十字靭帯再建術における骨孔の isometry と術後膝安定性について. 整形外科 1996 ; 47 : 801-805.
- 18) 玉井健介, 白井康正, 武内俊次, 藤井信人: 外傷性股関節脱臼に伴った大腿骨頭骨折の治療成績. Hip Joint 1996 ; 22 : 222-225.
- 19) 進藤久夫, 白井康正, 伊藤博元, 宮本雅史, 伊藤博信<sup>1)</sup>, 田沼久美子<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学第二解剖学教室): 神経分布形態からみた腰部多裂筋の解剖. 脊椎脊椎ジャーナル 1996 ; 9 : 867-873.
- 20) 宮本雅史, 白井康正, 武内俊次, 元文芳和, 金田和容, 大野達朗: 化学工業グループにおける職業性腰痛の疫学的検討. 日本腰痛研究会誌 1996 ; 2 : 12-16.
- 21) 金田和容, 白井康正, 武内俊次, 宮本雅史, 元文芳和: 看護職員の腰痛調査・事務職員との比較: 看護婦の腰痛の危険因子について. 腰痛研究会誌 1996 ; 2 : 17-21.
- 22) 南野光彦, 金田琴恵: マレット指の治療について. 印刷局医報 1996 ; 42 : 135-140.
- 23) 千葉由雄, 白井康正, 伊藤博元, 松沢 勲: 下腿骨骨幹部骨折に対する創外固定法: 髓内釘法の比較検討. 東日本臨床整形外科学会誌 1996 ; 8 : 574-578.
- 24) 伊藤博元, 白井康正, 柴崎 徹, 高山景範, 水江史樹, 丸山晴久: 肩胛板断裂における computed radiography 関節二重造影法の検討. 関東震災誌 1996 ; 27 : 296-299.
- 25) 成田哲也, 白井康正, 森 淳, 飯沢典茂: 四肢の外固定・牽引. 外科治療, 74, 715-722, 1996.
- 26) 成田哲也, 白井康正, 中山義人, 森 淳, 八百板仁志, 飯沢典茂, 林 英俊: 新鮮前十字靭帯損傷における選択的 ACL 造影の検討. 東京膝関節学会誌 1996 ; 17 : 38-41.
- 27) 沢泉卓哉, 白井康正, 成田哲也, 金田琴恵, 栗山直之, 金 竜: スポーツによる母指 MP 関節尺側副靭帯損傷の治療経験. 日本整形外科学会誌 1996 ; 16 : 19-24.
- 28) 沢泉卓哉, 白井康正, 肥留川道雄, 深井靖雄, 金田琴恵: 橈骨遠位端骨折に対する創外固定: 単独使用例と併用手術例の比較. 日本創外固定研究会誌 1996 ; 7 : 55-56.
- 29) 金田琴恵: 腰痛疾患における感覚異常と交感神経の関与に関する微小神経電図学的検討. 日医大誌, 63, 286-293,

1996.

- 30) 角田 隆：悪性線維性組織球腫の組織発生に関する免疫組織化学的検討。日医大誌 1996；63：51-63.
- 31) 大野達朗, 白井康正, 武内俊次, 深井靖雄, 金田琴恵, 栗山直之：腰痛患者における低出力レーザー照射による治療効果の検討。理学診療 1996；7：262-265.
- 32) 南 和文, 間瀬泰克, 小林明雄, 吉川 昇, 掛川裕治, 大場俊二<sup>1)</sup>, 館岡儀秋<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>大場整形外科クリニック, <sup>2)</sup>駒沢大学)：成長期の脊椎分離症の発生とスポーツとの関係。第18回日本健康増進学会誌 1997；75-76.
- 33) 掛川裕治, 南 和文, 小林明雄, 吉川 昇：腰痛を主訴とする中高年女性の骨密度。第18回日本健康増進学会誌 1997；167-168.
- 34) 飯沢典茂, 白井康正, 沢泉卓哉, 大野達朗, 南部昭彦：手関節三角線維軟骨複合体損傷に対する装具療法。運動療法と物理療法 1997；8：38-41.
- 35) 森 淳, 白井康正, 中山義人, 成田哲也, 飯沢典茂, 林 英俊：当施設における膝前十字靭帯再建後スポーツリハビリテーションの筋力改善効果の検討。運動療法と物理療法 1997；8：76-80.
- 36) 大野達朗, 白井康正, 武内俊次, 藤井信人, 金田琴恵, 栗山直之：低出力半導体レーザー照射におけるラット後根神経節内サブスタンス P の変化。運動療法と物理療法 1997；8：118-120.
- 37) 上坂真司, 中山義人, 藤井信人, 橋田雅美, 吉原 潔, 小池竜哉, 梶原浩嗣, 田中功一, 白井康正：変形性膝関節症における血中および関節液中ヒアルロン酸濃度。関節外科 1997；23：130-135.
- 38) 成田哲也, 白井康正, 中山義人, 森 淳, 服部幹彦：脛骨近位部骨端線損傷。骨・関節・靭帯 1997；10：309-316.
- 39) 丸山晴久, 白井康正, 沢泉卓哉, 藤井信人, 金田琴恵, 浅野伍朗<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第二)：内軟骨腫に起因する深指屈筋腱停止部剥離骨折の1症例。骨・関節・靭帯 1997；10：359-362.
- 40) 萬歳祐子, 白井康正, 沢泉卓哉, 飯沢典茂, 大野達朗, 中原義人：SKI POLE による母指靭帯損傷 (Skier's thumb)。日本スキー学会誌 1997；7：205-210.
- 41) 間瀬泰克, 白井康正, 渡辺 誠, 南 和文, 肥沼正明, 梶本陽司, 奥秋裕一<sup>1)</sup>, 水江史樹(<sup>1)</sup>オクアキ整形外科)：アキレス腱断裂後の経時的変化：手術例と保存例のMRIによる比較。臨床スポーツ医学 (第六回日本臨床スポーツ医学会学術集会選定論文) 1997；14：442-446.
- 42) 沢泉卓哉, 他：Rolando 骨折に対する治療成績：特に創外固定の有用性について。骨折 1997；19：782-786.
- 43) 沢泉卓哉, 他：小児上腕骨顆上骨折に対する簡便な経皮的整復法。骨折 1997；19：667-671.
- 44) 橋口 宏, 家田俊也：大腿骨転子部骨折に対する Intramedullary Hip Screw (IMHS)の使用経験。東北整形災害外科紀要 1995；39：192-195.
- 45) 高山景範, 白井康正, 伊藤博元, 柴崎 徹, 橋口 宏, 井出勝彦, 水江史樹, 丸山晴久：鎖骨遠位端骨融解の1例。臨整外 1996；31：303-306.
- 46) 橋口 宏, 家田俊也：肘部管症候群に対する Stabilized Subcutaneous Transposition 法の小経験。東北整形災害外科紀要 1996；40：156-158.
- 47) 橋口 宏, 家田俊也：小骨用 Interlocking Nail System, Stainless Steel Taper (SST) Nail の使用経験。東北整形災害外科紀要 1996；40：163-166.
- 48) 家田俊也, 橋口 宏：鎖骨重複骨折の3例。東北整形災害外科紀要 1996；40：23-26.
- 49) 井出勝彦, 白井康正, 伊藤博元, 高山景範, 藤井信人, 小林 薫：ガングリオンによる絞扼性肩甲上神経障害の1例。東日本臨床整形外科学会誌 1996；8：276-279.
- 50) 橋口 宏, 家田俊也：Floating Shoulder 3例の治療経験。東日本整形災害外科学会誌 1997；9：40-44.
- 51) 飯沢典茂, 白井康正, 沢泉卓哉, 大野達朗, 南部昭彦：手関節三角線維軟骨複合体損傷に対する装具療法。運動療法と物理療法 1997；8：38-41.
- 52) 丸山晴久, 白井康正, 沢泉卓哉, 藤井信人, 金田琴恵, 浅野伍朗<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第二)：内軟骨腫に起因する深指屈筋腱剥離骨折の1症例。骨・関節・靭帯 1997；10：359-362.



## (2) 総説：

- 1) 白井康正：牽引療法：頸椎牽引の基礎的知見。骨・関節・靭帯 1996；9：685-690.
- 2) 白井康正：痛みの解明と筋力増強。理学診療医学会雑誌 1996；7：1.
- 3) 伊藤博元：肩鎖関節脱臼，胸鎖関節脱臼（四肢・骨盤外傷）。救急医学 1996；20：771-776.
- 4) 中山義人：膝関節靭帯損傷。救急医学 1996；20：837-842.
- 5) 木村哲彦：重症外傷のリハビリテーション。救急医学 1996；20：863-868.
- 6) 中山義人：膝前十字靭帯損傷。日本医事新報 1996；3778：19-24.
- 7) 木村哲彦：福祉機器の現状と将来。Geronology 1996；8：8-26.
- 8) 木村哲彦：福祉用具プランナーとハウスアダプテーション。住宅総合研究財団機関誌 1996；24：5-6.
- 9) 大井淑雄，伊勢亀富士朗，星野雄一，竹谷内宏明，伊藤博元<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>日本医科大学整形外科），浜田良樹：カイロプラクティックを探る。骨・関節・靭帯 1996；9：1015-1036.
- 10) 宮本雅史，白井康正：腰痛疾患の診察法。骨・関節・靭帯 1996；9：1285-1291.
- 11) 伊藤博元：鎖骨骨折，整復困難症例の治療。日本医事新報 1997；3794：143-144.
- 12) 伊藤博元：身体の理学所見，骨・関節。Emergency Nursing 1997；新春増刊：78-83.
- 13) 伊藤博元：大腿骨頸部骨折，診断と治療。日医ニュース，Medical Scope 1997；854.
- 14) 藤井信人，白井康正，成田哲也：大腿骨骨幹部骨折に対する Brooker-Wills nail の成績と限界。Monthly Book Orthopaedics 1997；10：9-15.

## 著 書

- 1) 白井康正：整形外科外傷マニュアル（第2版）。1996；メディカル・サイエンス。
- 2) 白井康正，玉井健介，武内俊次（シン・J・オー著：白井康正監訳）：筋電図実践マニュアル。1996；医学書院 MYW.
- 3) 間瀬泰克：[分担] トレーナーへの道。フィジーク，1996；pp8-9，サニーサイドアップ。
- 4) 木村哲彦：[共著] 障害者自転車競技。障害者スポーツ リハビリテーション医学会（編）。1996；pp91-94。医学書院。
- 5) 木村哲彦，山口 昇<sup>1)</sup>，山田拓美<sup>1)</sup>，他（<sup>1)</sup>国立診療所東京病院）：Grieve's Modern Manual Therapy . グリープの最新徒手医学，1996；pp1-479，エンタプライズ社。
- 6) 宮本雅史，白井康正：[分担] 頸椎の牽引と固定（Halo vest について）。救急処置基本手技アトラス。1996；pp1378-1385，へるす出版。
- 7) 井伊京一郎：交通外傷・四肢外傷，ぎっくり腰。こんなときどうする外科系急患，1997。pp47-53，pp251-254，中外医学社。

## 学会発表

### (1) 教育講演：

- 1) Shirai Y：Ergonomics-Occupational Low Back Pain. Sponsored by Malaysian Health Ministry and Labor Ministry at Kuala Lumpur, 1997. 6.
- 2) 白井康正：腰痛とは何か。中央労働災害防止協会腰痛予防対策，1996. 2.
- 3) 白井康正：腰痛の概念。陸上貨物輸送災害防止協会腰痛予防対策労働衛生，1996. 3.
- 4) 白井康正：腰痛理解の為の一般概念。建設業災害防止協会腰痛予防対策労働衛生，1996. 3.
- 5) 白井康正：職業性腰痛とその予防対策。警視庁労働衛生，1996. 5.
- 6) 中山義人：若年者の膝疾患について。富士宮医師会講演会，1996. 5
- 7) 伊藤博元：小児期スポーツ障害。東京都養護教諭研究会，1996. 6.

- 8) 白井康正：頸椎牽引の基礎と臨床。愛媛大学医学部教育研修講演，1996. 9.
  - 9) 白井康正：骨・関節外傷について。建設業災害防止協会，1997. 3.
  - 10) 白井康正：頸椎牽引の基礎と臨床；筋電図検査。久留米大学教育研修，1997. 4.
  - 11) 白井康正：職業性腰痛の疫学と基礎。労働省労働研修所，1997. 6
- (2) シンポジウム：
- 1) Shirai Y： Association of abnormal sensation and increased microneurographic muscle sympathetic nerve activity of the peroneal nerve in patients with lumbar spinal problems. The 6th Sino-Japanese Orthopaedic Symposium, 1996. 5.
  - 2) Nakayama Y： Significance of patellar replacement in total knee arthroplasty. The 6th Sino-Japanese Orthopaedic Symposium, 1996. 5.
  - 3) Shirai Y： Pain attenuation of low reactive level Laser therapy： A quantitative analysis of substance P in the rat spinal dorsal root ganglion. The 7th Sino-Japanese Orthopaedic Symposium, 1997. 5.
- (3) パネルディスカッション：
- 1) 宮本雅史，白井康正：運搬用大型車両運転手の腰痛に関する調査研究。第69回日本整形外科学会学術集会，1996. 4.
  - 2) 森 淳，白井康正，中山義人，成田哲也，飯沢典茂，林 英俊：当施設における膝前十字靭帯再建後スポーツリハビリテーションの筋力改善効果の検討。第8回日本理学診療医学会，1996. 7.
- (4) 一般講演：
- 1) Nakayama Y, Shirai Y, Narita T, Koike T, Yoshihara K： A rationale of the isometric placement of graft for anterior cruciate ligament reconstruction. The 4th Japan-Korea Joint Meeting of Orthopaedic Sports Medicine, 1996. 5.
  - 2) Narita T, Shirai Y, Nakayama Y, Mori A, Kitsuda M, Kobayashi K, Yaoita H, Iizawa N, Hayashi H： Sports activities after anterior cruciate reconstruction： A study of Immature cases arthroscopically. The 4th Japan-Korea Joint Meeting of Orthopaedic Sports Medicine, 1996. 5.
  - 3) 玉井健介，白井康正，渡辺 誠，武内俊次，藤井信人，中嶋隆夫，中井文彦：両側大腿骨頸部骨折例の検討。第69回日本整形外科学会学術集会，1996. 4.
  - 4) 間瀬泰克，白井康正，渡辺 誠，南 和文，杉崎健一<sup>1)</sup>，村上隆一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線科)：滑膜ヒダの画像診断。第69回日本整形外科学会学術集会，1996. 4.
  - 5) 橋口 宏，家田俊也：肘部管症候群に対する Stabilized Subcutaneous Transposition 法の小経験。第87回東北整形災害外科学会，1996. 4.
  - 6) 橋口 宏，家田俊也：小骨用 Interlocking Nail System, Stainless Steel Taper (SST) nail の使用経験。第87回東北整形災害外科学会，1996. 4.
  - 7) 家田俊也，橋口 宏：鎖骨重複骨折の3例。第87回東北整形災害外科学会，1996. 4.
  - 8) 高野雅彦，田沼久美子<sup>1)</sup>，伊藤博信<sup>1)</sup>，白井康正，宮本雅史(<sup>1)</sup>解剖学第二)：腰部脊髄神経節に分布する静脈。第101回日本解剖学会全国学術集会，1996. 4.
  - 9) 井伊京一郎，城 武俊，小野寺剛，吉田恒丸：嚙下困難をきたした頸椎前方骨化の1例。第32回関東整形災害外科学会，1996. 5.
  - 10) 藤井信人，白井康正，武内俊次，今野俊介，栗山直之，金 竜：外傷性頸部症候群における C-response の検討。第32回関東整形災害外科学会，1996. 5.
  - 11) 飯沢典茂，白井康正，中山義人，成田哲也，森 淳，井上真治，八百板仁志，林 英俊：吸収性人工素材を使用した家兎膝前十字靭帯再建実験の分子生物学的検討。第32回関東整形災害外科学会，1996. 5.
  - 12) 熊坂庸恵，白井康正，武内俊次，中嶋隆夫，井出勝彦：長野県佐久町における橈骨遠位部骨密度の検討。第32回

関東整形災害外科学会, 1996, 5.

- 13) 中嶋隆夫：大洗町における骨粗鬆症検診 第81回茨城整形外科集談会, 1996, 5.
- 14) 宮本雅史, 白井康正, 元文芳和, 今野俊介, 金田和容, 大野達朗：骨傷のない頸髄損傷の治療成績。第25回日本脊椎外科学会, 1996, 6.
- 15) 今野俊介, 白井康正, 宮本雅史, 元文芳和, 清水要吉, 金田和容：脊柱管拡大術後の頸椎可動域変化と日常生活動作障害。第25回日本脊椎外科学会, 1996, 6.
- 16) 六郷知行, 白井康正, 伊藤博元, 大塚敏文<sup>1)</sup>, 益子邦洋<sup>1)</sup>, 川井 真<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>高度救急救命センター)：ショック症状を呈した軽微な骨盤骨折の1例。第574回整形外科集談会東京地方会, 1996, 6.
- 17) 成田哲也, 白井康正, 中山義人, 森 淳, 武田知通, 萬歳祐子：実業団女子バレーボール選手におけるプライオメトリックジャンプトレーニングおよび高速スクアットトレーニングの効果。第8回日本理学診療医学会, 1996, 7.
- 18) 大野達朗, 白井康正, 武内俊次, 藤井信人, 金田琴恵, 栗山直之：低出力半導体レーザー照射におけるラット後根神経節内サブスタンス P の変化。第8回日本理学診療医学会, 1996, 7.
- 19) 飯沢典茂, 白井康正, 沢泉卓哉, 大野達朗, 南部昭彦：手関節三角線維軟骨複合体損傷に体する装具療法。第8回日本理学診療医学会, 1996, 7.
- 20) 沢泉卓哉, 白井康正, 伊藤博元, 飯沢典茂, 栗山直之, 南部昭彦：上腕骨顆上骨折に対する簡便な経皮的整復法。第22回日本骨折治療学会, 1996, 7.
- 21) 沢泉卓哉, 白井康正, 金田和容, 金田琴恵, 中原義人, 六郷知行：Roland 骨折に対する治療経験：特に創外固定の有用性について。第22回日本骨折治療学会, 1996, 7.
- 22) 橋口 宏, 家田俊也：大腿骨転子部骨折に対する Intramedullary Hip Screw (IMHS) の術後成績。第22回日本骨折治療学会, 1996, 7.
- 23) 小野寺剛, 井伊京一郎, 城 武俊, 吉田恒丸：小児大腿骨頸部骨折の1例。第22回日本骨折治療学会, 1996, 7.
- 24) 青木孝文, 中山義人, 柴崎 徹, 小池竜哉, 吉原 潔, 上坂真司, 柏木俊治, 田中功一, 梶原浩嗣, 白井康正, 川並汪一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院病理部)：成人弾撥指における腱鞘の病理組織像について。第97回神奈川整形災害外科医学会, 1996, 7.
- 25) 北川泰之, 村田修二：頸部リンパ節腫脹を伴った小児頸椎椎間板石灰化症の1例。第106回静岡県整形外科医会集談会, 1996, 7.
- 26) 大野達朗, 白井康正, 武内俊次, 藤井信人, 栗山直之, 南部昭彦：末梢神経に対する低出力半導体レーザー照射の影響について。第8回日本レーザー治療学会, 1996, 7.
- 27) 丸山晴久, 白井康正, 前田昭太郎<sup>1)</sup>, 浅野伍朗<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第二)：原発性骨腫瘍における Osteocalcin Osteonectin I 型コラーゲンの局在について。第29回日本整形外科学会骨軟部腫瘍学術集会, 1996, 7.
- 28) 中原義人, 白井康正, 沢泉卓哉, 元文芳和, 服部幹彦：第4・5手根中手関節脱臼を伴った有鉤骨前額面骨折の1例。第575回関東整形災害外科学会月例会, 1996, 7.
- 29) 成田哲也, 白井康正, 中山義人, 森 淳, 飯沢典茂, 林 英俊：膝前十字靭帯再建術における術後関節鏡評価とスポーツ活動の関連性；関節鏡的未成熟例の検討。第22回日本整形外科スポーツ医学会学術集会, 1996, 8.
- 30) 森 淳, 白井康正, 中山義人, 成田哲也, 飯沢典茂, 林 英俊：術後スポーツ活動における再建膝前十字靭帯の機能評価；KT2000による検討。第22回日本整形外科スポーツ医学会学術集会, 1996, 8.
- 31) 上坂真司, 白井康正, 中山義人, 藤井信人, 橘田雅美, 吉原 潔, 小池竜哉, 梶原浩嗣, 田中功一：変形性膝関節症における血中および関節液中ヒアルロン酸濃度。第25回リウマチの外科研究会, 1996, 8.
- 32) 橘田雅美, 白井康正, 中山義人, 藤井信人, 小池竜哉, 吉原 潔, 上坂真司, 柏木俊二, 田中功一, 梶原浩嗣, 柴崎 徹：上腕骨頸に発生した化膿性骨髓炎の1例。第23回神奈川関節外科研究会, 1996, 9.
- 33) 北川泰之, 菊地 崇：鼠径部血腫を生じた恥骨 insufficiency fracture の1例。第107回静岡県整形外科医会集

- 談会, 1996. 9.
- 34) 丸山晴久, 浅野伍朗<sup>1)</sup>, 前田昭太郎<sup>1)</sup>, 白井康正<sup>(<sup>1</sup>病理学第二)</sup>: 穿刺吸引細胞診で診断しえた小細胞型骨肉腫. 第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 9.
  - 35) 玉井健介, 白井康正, 武内俊次, 藤井信人, 深井靖雄: いわゆる一次性股関節症の検討. 第23回日本股関節学会, 1996. 10.
  - 36) 玉井健介, 白井康正, 武内俊次, 池田龍二, 村田修二: MRIによる大腿骨頭部内側骨折後の Late Segmental Collapse の予知. 第23回日本股関節学会, 1996. 10.
  - 37) 高山景範, 白井康正, 伊藤博元, 橋口 宏, 井出勝彦, 水江史樹, 丸山晴久, 南部昭彦: 上腕骨近位端骨折, 脱臼骨折に対する人工骨頭置換術の治療成績. 第23回日本肩関節学会, 1996. 10.
  - 38) 水江史樹, 白井康正, 伊藤博元, 高山景範, 丸山晴久: 鎖骨骨折を合併した肩鎖関節後方脱臼の1例. 第23回日本肩関節学会, 1996. 10.
  - 39) 元文芳和, 白井康正, 宮本雅史, 金田和容, 服部幹彦: 脊椎手術患者の術前後における精神状態の検討. 第45回東日本臨床整形外科学会, 1996. 10.
  - 40) 青木孝文, 白井康正, 中山義人, 小池竜哉, 吉原 潔, 川並汪一<sup>1)</sup> (<sup>1</sup>第二病院病理部): 成人弾撥指における腱鞘の病理組織像について. 第45回東日本臨床整形外科学会, 1996. 10.
  - 41) 栗山直之, 白井康正, 武内俊次, 藤井信人, 金田琴恵, 大野達朗: 腰痛者における傍脊柱筋の筋電図学的検討. 第45回東日本臨床整形外科学会, 1996. 10.
  - 42) 家田俊也, 橋口 宏: アキレス腱皮下断裂に対する Qnadriloed Suture 法の術後成績: 超音波画像による検討. 第45回東日本臨床整形外科学会, 1996. 10.
  - 43) 飯沢典茂, 白井康正, 中山義人, 成田哲也, 森 淳, 井上真治, 八百板仁志, 林 英俊: 家兎膝前十字靭帯再建実験の組織学的, 分子生物学的検討. 第11回日本整形外科学会基礎学術集会, 1996. 10.
  - 44) 大野達朗, 白井康正, 武内俊次, 藤井信人, 栗山直之, 南部昭彦: 低出力半導体レーザー照射におけるラット後根神経節内サブスタンス P の変化. 第11回日本整形外科学会基礎学術集会, 1996. 10.
  - 45) 沢泉卓哉, 白井康正, 青木孝文, 大野達朗: 尺骨 minus variant によると考えられる手関節痛の1例. 第2回神奈川手・肘の外科研究会, 1996. 10.
  - 46) 藤井信人, 白井康正, 武内俊次, 青木孝文, 今野俊介, 栗山直之, 金 竜, 南部昭彦: 外傷性頸部症候群における電気生理学的検討. 第26回日本脳波・筋電図学会学術大会, 1996. 10.
  - 47) 橋口 宏, 家田俊也: 腰椎椎間板ヘルニアに対する顕微鏡下椎間板摘出術の治療成績. 第88回東北整形災害外科学会, 1996. 10.
  - 48) 橋口 宏, 家田俊也: Floating shoulder 3例の治療経験. 第45回東日本臨床整形外科学会, 1996. 10.
  - 49) 山田哲士, 田中英城<sup>1)</sup>, 清水誠英<sup>1)</sup>, 宮武昭三<sup>1)</sup> (<sup>1</sup>香川医科大学整形外科): 上肢の外傷・疾患に対する創外固定の応用. 第87回中部日本整形災害外科学会, 1996. 10.
  - 50) 萬歳祐子, 白井康正, 沢泉卓哉, 飯沢典茂, 大野達朗, 中原義人: SKI POLE による母指靭帯損傷; Skier's Thumb . 第7回日本スキー学会, 1996. 10.
  - 51) 南 和文, 間瀬泰克, 小林明雄, 吉川 昇, 掛川裕治, 大場俊二<sup>1)</sup>, 館岡儀秋<sup>2)</sup> (<sup>1</sup>大場整形外科クリニック, <sup>2</sup>駒沢大学): 成長期の脊椎分離症の発生とスポーツとの関係. 第18回健康増進学会, 1996. 11.
  - 52) 掛川裕治, 南 和文, 小林明雄, 吉川 昇: 腰痛を主訴とする中高年女性の骨密度. 第18回健康増進学会, 1996. 11.
  - 53) 角田 隆, 白井康正, 北川泰之, 丸山晴久, 前田昭太郎<sup>1)</sup> (<sup>1</sup>多摩永山病院病理部): 坐骨神経原発と考えられる脂肪肉腫の1例. 第33回関東整形災害外科学会, 1996. 11.
  - 54) 高松 真, 城 武俊, 井伊京一郎, 吉田恒丸: 母指末節骨に生じた緑膿菌による骨髓炎の1例. 第33回関東整形災害外科学会, 1996. 11.

- 55) 村田修二, 白井康正, 玉井健介, 内山真紀, 六郷知行: 成人に発生した頸骨粗面裂離骨折の1例. 第33回関東整形災害外科学会, 1996. 11.
- 56) 南野光彦, 金田琴恵: 橈骨骨密度 (DXA 法) と骨折について. 第43回印刷局医学研究発表会, 1996. 11.
- 57) 金田琴恵, 南野光彦: 大腿骨頸部骨折の MRI 像. 第43回印刷局医学研究発表会, 1996. 11.
- 58) 小泉幸子<sup>1)</sup>, 岸 泰宏<sup>1)</sup>, 黒沢 尚<sup>1)</sup>, 遠藤俊吉<sup>1)</sup>, 藤波茂忠<sup>1)</sup>, 元文芳和, 宮本雅史, 白井康正<sup>(<sup>1</sup>神経科)</sup>: 脊椎手術患者の精神面の評価. 日本医科大学医学会第90回例会, 1996. 11.
- 59) 北川泰之, 菊地 崇, 井村 洋<sup>1)</sup>, 園田紀夫<sup>2)</sup> (<sup>1</sup>国立熱海病院内科, <sup>2</sup>国立熱海病院外科): 転移性脊椎腫瘍が疑われた血清 CEA, CA19-9 高値甲状腺機能低下症の1例. 第108回静岡県整形外科医会集談会, 1996. 11.
- 60) 小笠原浩明, 白井康正, 渡理英二<sup>1)</sup>, 横室公三<sup>1)</sup> (<sup>1</sup>微生物学・免疫学教室): コラーゲン関節炎におけるトレランスの誘導; 抗原の門脈内投与による検討. 第26回日本免疫学会総会, 1996. 11.
- 61) 梶本陽司, 白井康正, 渡辺 誠, 水野伸一, 水江史樹: Endo button を用いた鏡視下膝後十字靭帯の1症例. 第577回整形外科集談会東京地方会, 1996. 11.
- 62) 林 英俊: 膝蓋腱と吸収性人工素材を用いた家兎膝前十字靭帯再建実験の動力学的検討. 第23回日本臨床バイオメカニクス学会, 1996. 11.
- 63) 小池竜哉, 中山義人, 藤井信人, 橘田雅美, 吉原 潔, 上坂真司, 柏木俊二, 梶原浩嗣, 田中功一, 中嶋隆夫: 人工骨頭置換術の術後感染により発生した Fournier 症候群の1例. 第98回神奈川整形災害外科学会, 1996. 11.
- 64) 宮本雅史, 白井康正, 武内俊次, 元文芳和, 金田和容, 大野達朗: 当院における看護職員を対象とした腰痛教室 (第1報). 第4回日本腰痛研究会, 1996. 12.
- 65) 吉原 潔, 中山義人, 藤井信人, 橘田雅美, 小池竜哉, 上坂真司, 田中功一, 白井康正, 青木孝文, 川並汪一<sup>1)</sup> (<sup>1</sup>第二病院病理部): 腰部多裂筋の組織科学的検討. 第4回日本腰痛研究会, 1996. 12.
- 66) 高野雅彦, 白井康正, 宮本雅史, 元文芳和, 伊藤博信<sup>1)</sup>, 田沼久美子<sup>1)</sup> (<sup>1</sup>解剖学第二): 腰部脊髄神経節に分布する静脈の解剖学的検討. 第4回日本腰痛研究会, 1996. 12.
- 67) 間瀬泰克, 白井康正, 渡辺 誠, 南 和文, 梶本陽司: ACL 二重束再建における骨孔間距離の測定. 第32回日本膝関節研究会, 1996. 12.
- 68) 小林俊之, 白井康正, 宮本雅史, 元文芳和: 脊椎硬膜外膿瘍に関する原因と臨床的検討. 第9回日本外科感染症研究会, 1996. 12.
- 69) 太田信孝, 白井康正, 成田哲也, 森 淳, 今野俊介: 深膝蓋下滑液包に発生したと思われる Osteochondromatosis の1例. 第578回関東整形外科集談会東京地方会, 1996. 12.
- 70) 大場俊二<sup>1)</sup>, 高司博美<sup>1)</sup>, 羽田野誠也<sup>1)</sup>, 佐藤 健<sup>1)</sup>, 南 和文 (<sup>1</sup>大場整形外科クリニック): 青少年期サッカー選手の腰椎分離症. 第9回九州スポーツ医・科学学会, 1996. 12.
- 71) 服部幹彦, 白井康正, 成田哲也, 青木孝文, 森 淳, 飯沢典茂: 半月板損傷を伴った脛骨裂離骨折の2例. 第579回関東整形災害外科学会月例会, 1997. 1.
- 72) 今成嘉美<sup>1)</sup>, 細見 睦<sup>1)</sup>, 前烏静顕<sup>1)</sup>, 沢泉卓哉 (<sup>1</sup>蓮田病院): 三角骨剝離骨折を伴った月状骨掌側脱臼の1例. 第34回埼玉医学会総会, 1997. 2.
- 73) 森 淳, 白井康正, 中山義人, 成田哲也, 飯沢典茂, 林 英俊, 杉山 修: 3D-FE 法 MRI による膝前十字靭帯損傷形態診断の検討: 部分損傷と完全損傷について. 第18回東京膝関節学会, 1997. 2.
- 74) 間瀬泰克, 白井康正, 渡辺 誠, 南 和文, 梶本陽司: 膝半月板損傷における MR 関節造影の有用性. 第18回東京膝関節学会, 1997. 2.
- 75) 上坂真司, 中山義人, 藤井信人, 橘田雅美, 吉原 潔, 小池竜哉, 梶原浩嗣, 田中功一, 白井康正: 変形性膝関節症におけるヒアルロン酸ナトリウム関節内注入療法による関節液性常の変化. 第18回東京膝関節学会, 1997. 2.
- 76) 田中功一, 白井康正, 中山義人, 藤井信人, 橘田雅美, 小池竜哉, 吉原 潔, 上坂真司, 沢泉卓哉, 玉井健介,

渡辺 誠：橈骨遠位端骨折の短期治療成績。第24回神奈川関節外科学研究会，1997. 2.

- 77) 木村哲彦：VR. パラレルメカニズムを導入した生馬シミュレータの開発。精密工学会，1997. 3.
- 78) 橘田雅美，中山義人，藤井信人，吉原 潔，小池竜哉，上坂真司，田中功一，梶原浩嗣，白井康正：腰椎椎間板ヘルニアのMRI 所見；臨床所見との関連について。第99回神奈川整形災害外科学会，1997. 3.
- 79) 吉原 潔，中山義人，藤井信人，橘田雅美，小池竜哉，上坂真司，梶原浩嗣，田中功一，白井康正：腰椎椎間板ヘルニアにおける多裂筋の病態：組織科学的ならびに筋電図学的検討。第99回神奈川整形災害外科学会，1997. 3.
- 80) 小笠原浩明，白井康正，沢泉卓哉，栗山直之：ゴルフによる尺側手伸筋腱脱臼の1例。第581回関東整形災害外科学会東京地方会，1997. 3.

## 13. 産婦人科学講座

### [付属病院産婦人科]

#### 研究概要

当教室の主な研究テーマは以下の如くである。(1) 周産期医学：胎児疾病に関する基礎的、臨床的研究、(2) 婦人科：癌化学療法に関する基礎的、臨床的研究、女性尿失禁に関する研究、(3) 不妊症：受精着床に関する研究、内視鏡における診断、利用に関する臨床的研究で、産婦人科領域を多岐にわたって網羅する研究活動を行っている。(1) 周産期に関しては胎児脳障害発生の mechanism を解明するため、adenosine や free radical と胎児脳障害発生との関係を中心においた検討を、ヤギ胎児および、ヒト胎児発育遅延児などを対象として行ってきた。本年度は胎児体温の関連性が新たに検討項目に加わった。(2) 産婦人科領域においては卵巣癌発現における Tn, STn 抗原の役割や、HPV の子宮頸癌における発生機転などについて新知見を発表してきた。また、臨床的には婦人科進行癌の治療および更年期婦人の排尿障害の治療を精力的に検討してきた。(3) 不妊症では Laparoscopy の診断的、治療的価値を臨床的追及し多くの知見を発表した。

#### 研究業績

##### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Ogawa H, Ghazizadeh M, Araki T : Tn and Sialyl-Tn Antigens as Potential Prognostic Markers in human Ovarian Carcinoma. *Gynecol Obstet Invest* 1996 ; 41 : 278-283.
- 2) Ishikawa H, Sugimoto K<sup>1)</sup>, Yamashita K<sup>1)</sup>, Araki T (<sup>1)</sup>Department of Anatomy) : Shear stress modulates cell shape and stress fiber expression in the rat umbilical vessel endothelial cells. *Biomedical Res* 1996 ; 17 : 241-249.
- 3) Orimo H, Nakajima E, Hayashi Z, Kijima K, Watanabe A, Tenjin H, Araki T, Shimada T : First-trimester Prenatal Molecular Diagnosis of Infantile Hypophosphatemia in Japanese Family. *Perinatal Diagnosis* 1996 ; 16 : 556-553.
- 4) Takada H, Yoneyama Y, Power GG, Araki T : Plasma Endothelin-1 Level during Asphyxia in the Fetal Goat. *Gynecol Obstet Invest* 1996 ; 42 : 217-221.
- 5) Ishikawa M, Yoneyama Y, Power GG, Araki T : Maternal Theophylline Administration and Breathing Movements in Late-Gestation Human Fetuses. *Obstet Gynecology* 1996 ; 88 : 973-978.
- 6) Kato H, Yoneyama Y, Araki T : Fetal Plasma Lipid Peroxide Levels in Pregnancies Complicated by Preeclampsia. *Gynecol Obstet Invest* 1997 ; 43 : 158-161.
- 7) 太田雄治郎<sup>1)</sup>, 石原珠紀<sup>1)</sup>, 小西英喜, 鴨井青龍<sup>1)</sup>, 内藤善哉<sup>2)</sup>, 浅野伍朗<sup>2)</sup>, 荒木 勤<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>産婦人科, <sup>2)</sup>第二病理) : 左卵巣と対側卵管に同時発生した類内膜癌の1例. *産婦の実際* 1996 ; 45 : 487-491.
- 8) 鴨井青龍, 川本雅司, 太田雄治郎, 高橋英彦, 荒木 勤 : 子宮頸癌および子宮内膜癌患者における局所の Thymidine Phosphorylase の活性と免疫組織学的局在. *癌と化学* 1996 ; 23 : 801-804.
- 9) 加藤寛彦, 米山芳雄, 澤倫太郎, 鈴木俊治, 進 純郎, 荒木 勤 : 妊娠中毒症における胎児血漿過酸化脂質濃度の検討. *日産婦新生児血会誌* 1996 ; 6 : 25-26.
- 10) 山口 暁, 峯 伸也, 都甲明子, 岩崎卓爾, 河村 堯, 荒木 勤 : 悪性眼球突出症を合併した妊娠の1例. *日産婦会誌* 1997 ; 49 : 133-135.
- 11) 進 純郎, 荒木 勤 : 遂娩手術一吸引か, 鉗子か, その選択基準と効果の違い一. *産婦の実際* 1996 ; 45 :

1575-1578.

- 12) 高田秀一, 澤倫太郎, 石井 洋, 荏原弘光, 進 純郎, 荒木 勤, 浅野 健, 山本正生: ITP 合併妊娠の産科学的特徴および新生児の検討. 日産婦東京会誌 1996; 45: 351-354.
- 13) 関谷隆夫, 根本芳広, 吉松和彦, 石原楷輔, 菊地三郎, 荒木 勤: 流早産と頸管所見—頸管腺領域像と早産との関連を中心に—. 産婦の実際 1996; 145: 1823-1830.
- 14) 山中温子, 栗山秀樹, 品川寿弥, 小川秀臣, 明楽重夫, 進 純郎, 荒木 勤: 子宮内操作後に腸管の子宮筋層内陥入を認めた1例. 日産婦東京会誌 1996; 45: 480-483.
- 15) 米山剛一, 八田充子, 石川博臣, 岡野匡雄<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>東部地方病院検査科): 腺扁平上皮癌を呈した卵巣成熟嚢胞性奇形腫悪性転化の1症例. 日産婦東京会誌 1996; 45: 537-540.
- 16) 石原珠紀<sup>1)</sup>, 松下径広<sup>1)</sup>, 飯田 啓<sup>1)</sup>, 高梨安弘, 濱谷次郎, 内田勝次, 大坪保雄<sup>1)</sup>, 斎藤友巳 (<sup>1)</sup>付属病院産婦人科): 妊娠に合併した子宮筋腫茎捻転の1例. 日産婦神奈川会誌 1997; 33: 108-110.
- 17) 石川みづえ, 高橋英彦, 宮川 昇, 岡田 清, 小泉 潔<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>日医大第二外科): 経口避妊薬内服中に子宮外妊娠破裂で発症し肺転移巣切除後経過良好な絨毛癌の1例. 日産婦東京会誌 1996; 45: 371-375.

(2) 総説:

- 1) 可世木久幸, 大井良之, 石井 洋, 小川 龍, 荒木 勤: 産婦人科内視鏡手術の術前, 中, 後の管理. 産婦治療 1996; 72: 389-396.
- 2) 可世木久幸, 明楽重夫, 石井 洋, 荏原弘光, 荒木 勤: 産婦人科内視鏡の現状と将来. 産婦治療 1996; 72: 557-564.
- 3) 明楽重夫, 村田知昭, 荏原弘光, 可世木久幸, 荒木 勤: 子宮外妊娠の卵管保存療法. 産婦の実際 1996; 45: 423-428.
- 4) 鈴木俊治, 進 純郎, 荒木 勤: 双胎妊娠—一児死亡例の検討と取り扱い方について. 産婦の実際 1996; 45: 473-478.
- 5) 米山芳雄, 山中温子, 荒木 勤: 羊水の産生機構と生理的意義. Perinatal Care 1996; 15: 7-12.
- 6) 可世木久幸, 峯 伸也, 荏原弘光, 明楽重夫, 荒木 勤: 卵管機能検査. 産婦治療 1996; 73: 99-106.
- 7) 進 純郎, 大坪保雄, 荒木 勤: 子宮筋腫合併妊娠と帝王切開. 周産期医 1996; 26: 951-955.
- 8) 進 純郎, 小西英喜, 荒木 勤: 妊娠. 産褥期の排尿障害と尿失禁. 産婦の実際 1996; 45: 951-955.
- 9) 進 純郎, 荒木 勤: 自己免疫疾患と胎児新生児, エリテマトーデス. 臨産婦 1996; 50: 810-811.
- 10) 荒木 勤: 尿失禁. 産婦の実際 1996; 45: 1093-1103.
- 11) 澤倫太郎, 進 純郎, 荒木 勤: 母体と救急医療, 常位胎盤早期剝離. 産と婦 1996; 63: 1534-1536.
- 12) 進 純郎, 荒木 勤: 胎児外科手術の適応症. 小児科 1996; 37: 1403-1409.
- 13) 明楽重夫, 荒木 勤, 杉山四郎: クラミジア. 周産期医 1996; 26(増刊号): 122-123.
- 14) 高田秀一, 荒木 勤: 梅毒. 周産期医 1996; 26: 124-126.
- 15) 田中 彰, 荒木 勤: GBS. 周産期医 1996; 26: 127-129.
- 16) 澤倫太郎, 荒木 勤: 絨毛膜羊膜炎. 周産期医 1996; 26: 130-131.
- 17) 澤倫太郎, 進 純郎, 荒木 勤: high risk 妊娠, 分娩と集中治療, 母体死亡に至る high risk 妊娠. 分娩の予防と対策. ICUとCCU 1996; 20: 355-363.
- 18) 澤倫太郎, 進 純郎, 荒木 勤: 妊娠悪阻, 嘔吐. 産と婦 1996; 64: 254-255.
- 19) 澤倫太郎, 荒木 勤: 重症悪阻(ビタミン B1欠乏とウェルニッケ脳症). 臨床産科婦人科 1996; 51: 1090-1092.
- 20) 進 純郎, 荒木 勤: 遂娩手術—吸引か, 鉗子か, その選択基準と効果の違い—. 産婦実際 1996; 45: 1575-1578.
- 21) 進 純郎: 女性の尿失禁と排尿障害. 産婦治療 1997; 74: 119-124.
- 22) 進 純郎, 澤倫太郎, 荒木 勤: 胎児間輸血症候群. 産婦治療 1996; 45: 639-645.
- 23) 進 純郎: 仙骨形態: 骨産道と分娩進行. 助産婦誌 1996; 50: 368-371.



- 24) 進 純郎：肥満と妊娠。Neonatal Care 1996；9：740-742.
  - 25) 進 純郎：妊娠分娩のメカニズム：妊娠器官のあらまし。ペリネニタルケア 1996；185：58-59.
  - 26) 進 純郎：妊娠のしくみ。ペリネニタルケア。1996；185(夏季増刊号)：60-61.
  - 27) 進 純郎：妊娠のしくみ。ペリネニタルケア 1996；185(夏季増刊号)：63-65.
  - 28) 進 純郎：ハイリスク妊娠と胎児新生児，喫煙，飲酒と胎児合併症。Neonatal Care 1996；9：454-457.
  - 29) 進 純郎：妊娠中の高血圧，低血圧。Neonatal Care 1996；9：548-551.
  - 30) 進 純郎：母体貧血。Neonatal Care 1996；9：548-551.
  - 31) 進 純郎：日常診療 Q & A。Incontinence Care 1996；5：11.
  - 32) 進 純郎：日常診療 Q & A。Incontinence Care 1996；7：11.
- (3) 研究報告書：
- 1) 進 純郎，澤倫太郎：〔分担〕常位胎盤早期剝離の予知と対策。厚生省心身障害研究，妊産婦死亡の防止に関する研究。平成7年度研究報告書。1996；pp45-47.

## 著 書

- 1) 進 純郎，荒木 勤〔翻訳〕：Clinical symposia(37)-Urinary incontinence in women。1996；Chiba-Geigy.
- 2) 澤倫太郎，荒木 勤：〔分担〕授乳における栄養喪失とその補充，母児にすすめる栄養指導。1996；pp118-124，MEDICUS LIBRARY，メディカ出版。
- 3) 進 純郎：こうすれば治る尿失禁。性と健康(24)。1996；自由企画出版。
- 4) 進 純郎：〔分担〕産道損傷，今日の治療指針。1997；p733，医学書院。
- 5) 荒木 勤：〔分担〕分娩誘発・促進。今日の治療指針。1997年版。1997；pp731-732，医学書院。
- 6) 荒木 勤，越野立夫，石原楷輔，進 純郎，朝倉啓文，可世木久幸，米山芳雄：産褥の管理。1996；永井書店。

## 学会発表

### (1) 特別講演：

- 1) Akira S：Laparoscopic ovarian cystectomy during pregnancy. The meeting for celebrating Chang Gung Memorial Hospital 20th year Anniversary, 1996. 10.
- 2) 荒木 勤：双胎一児死亡の周産期管理。第59回徳島周産期症例検討会，1996. 6.
- 3) 荒木 勤：双胎一児死亡時の周産期管理。第52回山形県周産期地方部会集談会，1996. 7.
- 4) 荒木 勤：周産期の最近の話題：第2回練馬区産婦人科臨床研究会，1996. 7.
- 5) 荒木 勤：妊産婦死亡防止対策：症例から学ぶ。北海道道北産婦人科医会，1996. 8.
- 6) 明楽重夫：腹壁吊り上げ法を用いた腹腔鏡下卵巣嚢腫摘出術：より安全な腹腔鏡手術をめざして。下谷医師会，1996. 10.
- 7) 進 純郎：妊娠中期の IUGR の産科管理。第10回東母，東京地方部会合同研究会ならびに第301回東京地方部会，1996.
- 8) 進 純郎：女性の尿失禁，城東地区産婦人科医会，1995. 5.
- 9) 進 純郎：双胎の管理。岡山四水会，1996. 6.
- 10) 進 純郎：中高年女性の尿失禁。杉並区産婦人科医会，1996. 10.

### (2) ワークショップ：

- 1) 大坪保雄，堀 弘幸，澤倫太郎，進 純郎，西野武士，荒木 勤：妊娠ヒト胎盤の一酸化窒素合成酵素活性および isoform の検討。第20回日本産婦人科栄養代謝研究会，1996. 8.
- 2) 鈴木俊治，進 純郎，荒木 勤，兼子和彦：ハイリスク妊娠，分娩の取り扱い。多胎妊娠分娩の取り扱い：双胎妊娠の分娩至適時期の検討。日本産婦人科学会関東連合地方部会第300回記念例会，1996.

(3) シンポジウム：

- 1) Araki T : The physiological roles of plasma adenosine in growth-retarded fetuses : The 7th Fukuoka International Symposium on Perinatal Medicine, Sept. 1996.
- 2) 進 純郎：尿失禁と漢方療法。第6回女性排尿障害研究会, 1996. 5.
- 3) 荒木 勤：双胎一児死亡の周産期管理。第2回母子医療センター—多胎シンポジウム, 1996. 6.
- 4) 進 純郎：会陰切開縫合術。日本分娩体位懇話会, 1996. 10.
- 5) 明楽重夫：妊娠中における、腹壁吊り上げ法を用いた腹腔鏡下卵巢囊腫摘出術。第4回吊り上げ法手術研究会, 1996. 12.

(4) 一般講演：

- 1) Kubonoya K, Yoneyama Y, Sawa R, Araki T, Power GG : Fetal brain and metabolic responses during repeated cord occlusion with and without hypothermia in the fetal sheep. Society for gynecologic investigation. 44th annual meeting (Sandiego, California), 1997. 3.
- 2) Akira S, Ohmura H, Kaseki H, Araki T, Lin YC : Suppressive effect of gossypol on aromatase activity and steroidogenesis in cultured porcine granulosa cells. 5th World Congress on Endometriosis, 1996. 10.
- 3) Takeshita T, Takahashi H, Arisaka Y, Asakura H, Koshino T, Araki T : Increased NK cell activity and up-regulation of ICAM-1 expression on vascular endothelial cells in preeclampsia. 26th Annual meeting of The Japanese Society for Immunology, 1996. 11.
- 4) Konishi K, Matsumoto J, Hirata S, Takeuchi M, Kobayashi S, Sugiura K, Kikuchi S, Araki T : Psychologic aspect of endometriosis. Vth World congress on endometriosis, Oct. 1996.
- 5) Asakura H, Yokota A, Arisaka Y, Taniuchi Y, Oyama A, Araki T : Direct Mesurement of Nitric Oxide (NO) in Fetal Rat Brain. Third World Congress of Peritoneal Medicine, Oct. 1996.
- 6) Oya A, Asakura H, Taniuchi Y, Takahashi H, Koshino T, Araki T : The Relationship Between The Intilation of Nonshivering Thermogenesis (NST) and Umbilical Blood Gas Analysis. Third World Congress of Perinatal Medicine, Oct. 1996.
- 7) Sekiya T, Ishihara K, Yoshimatsu K, Nemoto Y, Konishi K, Kikuchi S, Araki T : Evaluation of transvaginal ultrasonographic cervical gland area as the predicting factor of the outcome of threatened preterm labor. The 6th World Congress of Perinatal Medicine, Oct. 1996.
- 8) Yoshimatsu K, Ishihara K, Sekiya T, Nemoto Y, Konishi K, Kikuchi S, Araki T : Evaluation of transvaginal ultrasonography cervical gland area in normal pregnancy. The 6th World Congress of Ultrasound in Obstetrics and Gynecology, Oct. 1996.
- 9) Nemoto Y, Yoshimatsu K, Sekiya T, Ishihara K, Kikuchi S, Araki T : Diagnosis of hemorrhagic ovarian cyst in acute abdomen by ultrasonography. The 6th World Congress of Ultrasound in Obstetrics and Gynecology, Oct. 1996.
- 10) Yoneyama Y, Sawa R, Suzuki S, Shin S, Konishi H, Kubonoya K, Power GG, Araki T : Cord plasma hypoxanthine concentration in growth-retarded fetuses before labor. 44th Annual meeting of society for gynecologic investigation, March. 1997.
- 11) 可世木久幸, 明楽重夫, 品川寿弥, 石井 洋, 荏原弘光, 荒木 勤：卵管鏡超音波検査法：新しい立体画像検査法による受精環境の形態的観察と診断。第48回日本産科婦人科学会総会, 1996. 4.
- 12) 澤倫太郎, 鈴木俊治, 大坪保雄, 小西英喜, 明楽重夫, 進 純郎, 荒木 勤, 竹内正人, 兼子和彦：常位胎盤早期剝離74例の統計的検討。第48回日本産科婦人科学会総会, 1996. 4.
- 13) 佐々木茂, 孔 北華, 田中 彰, 若月雅美, 磯崎太一, 家永 聡, 三田俊二, 武井麻紀, 島香恵子, 荒木 勤：IL-6 antisense oligonucleotide による絨毛癌 JEG-3細胞の増殖抑制効果。第48回日本産科婦人科学会総会, 1996.

4.

- 14) 吉松和彦, 根本芳広, 関谷隆夫, 石原楷輔, 菊地三郎, 荒木 勤: 経腔超音波画像による新しい子宮頸管熟化の評価法と切迫流早産への応用. 第48回日本産婦人科学会総会, 1996. 4.
- 15) 大坪保雄, 澤倫太郎, 進 純郎, 荒木 勤, 堀 弘幸, 西野武士: ヒト胎盤一酸化窒素合成酵素 (NOS) 活性の定量化の試み. 第48回日本産科婦人科学会総会, 1996. 4.
- 16) 大坪保雄, 澤倫太郎, 小川秀臣, 明楽重夫, 可世木久幸, 進 純郎, 荒木 勤: 子宮筋層内チョコレート嚢腫の3例. 第91回日本産科婦人科学会関東連合会地方部会総会, 1996. 6.
- 17) 大坪保雄, 堀 弘幸, 倉橋容子, 澤倫太郎, 進 純郎, 荒木 勤, 西野武士: 妊娠末期正常ヒト胎盤の一酸化窒素合成酵素 isoform の検討. 第69回日本生化学会, 1996. 8.
- 18) 窪谷 潔, 澤倫太郎, 米山芳雄, 進 純郎, Power GG, 荒木 勤: 繰り返し臍帯血流遮断に対する羊胎仔血清アデノシンの適応機構の破綻. 第48回日本産科婦人科学会, 1996. 4.
- 19) 進 純郎, 石野尚悟, 荒木 勤: 腹圧性尿失禁に対する葛根湯の有用性. 第47回東洋医学学会, 1996. 5.
- 20) 高田秀一, 澤倫太郎, 石井 洋, 荏原弘光, 進 純郎, 荒木 勤, 浅野 健, 山本正生: ITP 合併妊娠の産科的特徴および新生児の検討. 日本医大医学会第89回例会, 1996. 5.
- 21) 大下知子, 栗山秀樹, 澤倫太郎, 進 純郎, 荒木 勤: 重症妊娠悪阻とビタミン B1-Wernicke 脳症に至る背景因子. 日本医大医学会第89回例会, 1996. 5.
- 22) 澤倫太郎, 高田秀一, 鈴木俊治, 進 純郎, 荒木 勤, 加藤寛彦, 兼子和彦: 常位胎盤早期剝離74例の統計的検討. 第91回日産婦学会関東連合地方部会総会, 1996. 6.
- 23) 吉松和彦, 小田部徹, 根本芳広, 関谷隆夫, 石原楷輔, 菊池三郎, 荒木 勤: 切迫早産の超音波画像からみた頸管腺領域像の意義の検討. 第91回日産婦学会関東連合地方部会, 1996. 6.
- 24) 榎本真奈美, 横田明重, 有坂康子, 中井章人, 朝倉啓文, 越野立夫, 荒木 勤: 胎児消化管閉塞3例の臨床的検討. 第91回日産婦学会関東連合地方部会総会, 1996. 6.
- 25) 金 栄淳, 荏原弘光, 石原珠紀, 鈴木俊治, 澤倫太郎, 小西英喜, 進 純郎, 荒木 勤: 分娩前に胎内診断し得た Chorio-Amniotic Separation (CAS) の1例. 第91回日産婦学会関東連合地方部会, 1996. 6.
- 26) 大屋敦子, 中井章人, 三宅秀彦, 朝倉啓文, 越野立夫, 荒木 勤: 横隔膜ヘルニアにより羊水過多症を呈した mosaic tetrasomy 12p の1例. 第91回日産婦学会関東連合地方部会, 1996. 6.
- 27) 荏原弘光, 金 栄淳, 石原珠紀, 鈴木俊治, 澤倫太郎, 小西英喜, 進 純郎, 荒木 勤: 脳梗塞を発症した進行胃癌合併妊娠の1例. 第91回日産婦学会関東連合地方部会, 1996. 6.
- 28) 島香恵子, 田中 彰, 武井麻紀, 三田俊二, 家永 聡, 若月雅美, 佐々木茂, 荒木 勤: リンゴ病垂直感染症の1例. 第91回日産婦学会関東連合地方部会, 1996. 6.
- 29) 三田俊二, 島香恵子, 孔 北華, 武井麻紀, 家永 聡, 若月雅美, 田中 彰, 佐々木茂, 荒木 勤, 百束比古, 西島重信, 蒲生善久: 腹直筋皮弁により形成した外陰癌の2症例. 第91回日産婦学会関東連合地方部会, 1996. 6.
- 30) 加藤寛彦, 米山芳雄, 澤倫太郎, 鈴木俊治, 進 純郎, 荒木 勤: 妊娠中毒症における胎児血漿過酸化脂質濃度の検討. 第6回日本産婦人科新生児血液学会, 1996. 6.
- 31) 岩崎卓爾, 山口 暁, 進 純郎, 河村 堯, 荒本 勤: 各血流パラメータの心拍数補正必要性の有無について. 第32回日本新生児学会総会, 1996. 7.
- 32) 山中温子, 石井 洋, 鈴木俊治, 澤倫太郎, 進 純郎, 荒木 勤: 四肢短縮症の5例. 第32回日本新生児学会総会, 1996. 7.
- 33) 村田知昭, 澤倫太郎, 黒瀬圭輔, 小川博康, 荏原弘光, 高田秀一, 進 純郎, 荒木 勤: 出生前に診断し得た上顎体の2例. 第32回日本新生児学会総会, 1996. 7.
- 34) 鈴木俊治, 高田秀一, 澤倫太郎, 米山芳雄, 小西英喜, 進 純郎, 荒木 勤, 兼子和彦: 双胎妊娠における IUGR

の評価. 第32回日本新生児学会総会, 1996. 7.

- 35) 金 栄淳, 進 純郎, 澤倫太郎, 石原珠紀, 小西英喜, 明楽重夫, 鈴木俊治, 荒木 勤: Extra-amniotic pregnancy: late amniotic rupture sequence の特異な病型. 第32回日本新生児学会総会, 1996. 7.
- 36) 都甲明子, 岩崎卓爾, 外山和秀, 山口 暁, 河村 堯, 荒木 勤, 大秋美治, 山川義寛: パルボウイルス感染により胎児水腫をきたしたと考えられる双胎妊娠の1症例. 第32回日本新生児学会総会, 1996. 7.
- 37) 石井 洋, 可世木久幸, 明楽重夫, 荒木 勤: 内視鏡超音波法が診断に有効であった症候群の亜系. 第36回日本産婦人科内視鏡学会, 1996. 8.
- 38) 石井 洋, 荏原弘光, 可世木久幸, 明楽重夫, 荒木 勤, 小山敦史: 実験的卵管閉鎖モデル作成の試み. 第19回産婦人科マイクロサージャリー学会, 1996. 8.
- 39) 竹内久美, 朝倉啓文, 大屋敦子, 横田明重, 竹下俊行, 越野立夫, 荒木 勤, 佐々木静子: 重症妊娠悪阻の病態における褐色脂肪の熱産生. 第20回日本産婦人科栄養代謝研究会, 1996. 8.
- 40) 臼井文男, 朝倉啓文, 竹下俊行, 有坂康子, 横田明重, 越野立夫, 荒木 勤: 重症妊娠中毒症妊婦における帝王切開後の血小板数と endotheline の推移. 第17回日本妊娠中毒症学会総会, 1996. 9.
- 41) 鈴木俊治, 米山芳雄, 澤倫太郎, 山中温子, 進 純郎, 荒木 勤: 妊娠中毒症における子宮胎盤虚血症と臍帯静脈血漿プリン代謝物濃度の検討. 第17回日本妊娠中毒症学会総会, 1996. 9.
- 42) 里見操緒, 山中温子, 鈴木俊治, 澤倫太郎, 進 純郎, 荒木 勤: 四肢短縮症と出生前診断された5例の検討. 第64回日本医大医学会総会, 1996. 9.
- 43) 黒瀬圭輔, 飯田有俊, 美濃部かおり, 江見 充, 荒木 勤: ヒト乳癌における第7染色体欠失. 第64回日本医大医学会総会, 1996. 9.
- 44) 山中温子, 栗山秀樹, 品川寿弥, 小川秀臣, 明楽重夫, 進 純郎, 荒木 勤: 子宮腔内癒着剝離術後に腸管の子宮筋層内侵入を認めた1例. 第299回日本産婦人科東京地方部会例会, 1996. 8.
- 45) 谷内良成, 山口 稔, 臼井文男, 横田明重, 加藤久盛, 竹下俊行, 朝倉啓文, 越野立夫, 荒木 勤: 妊娠中に子宮頸部浸潤癌が疑われ妊娠継続に配慮が必要であった1症例. 第37回日本母性衛生学会総会, 1996. 9.
- 46) 内田裕美, 田澤篤枝, 花澤みどり, 島崎千尋, 岩崎卓爾, 山口 暁, 河村 堯, 荒木 勤: 重症陰血腫により敗血症を併発した褥婦の看護, 育児, 退院指導を通して. 第37回日本母性衛生学会総会, 1996. 9.
- 47) 山口 暁, 岩崎卓爾, 河村 堯, 荒木 勤, 内田裕美, 田澤篤枝, 花澤みどり: 急激な視力障害(悪性眼球突出症)を発症した甲状腺機能亢進症合併妊娠の1例. 第37回日本母性衛生学会総会, 1996. 9.
- 48) 黒瀬圭輔, 飯田有俊, 荒木 勤, 霞富士雄, 中村祐輔, 江見 充: 散発性乳癌における第22番染色体欠失図の作成. 第6回 Medical Genetics 研究会, 1996. 9.
- 49) 高野政志, 相田 浩, 上田宏之, 常木郁之輔, 田中憲一, 田中 一, 斎藤正明, 辻 省次, 高橋 威, 大西義孝, 波多江正紀, 朝野 晃, 高橋克幸, 園田隆彦, 西村隆一郎, 長谷川和男, 水沼秀樹, 陳 瑞 東, 豊田長康, 神保恒雄, 小幡憲郎, 渡辺明彦, 田中忠夫, 荒木 勤, 鳥居裕一, 斎藤憲康, 田中耕平, 薬師寺道明: 家族性上皮性卵巣癌家系における癌発症に対する BRCA1 の関与. 第55回日本癌学会総会, 1996. 10.
- 50) 小西公麿, 竹内正弥, 尾形永太郎, 石原楷輔, 菊池三郎, 荒木 勤: Guthman 法と尾骨突出の産科学的意義. 第92回日本産婦人科学会関東連合地方部会総会, 1996. 10.
- 51) 三田俊二, 藤井俊彦, 家永 聡, 磯崎太一, 若月雅美, 松本讓二, 佐々木茂, 荒木 勤: 子宮頸部に多生した疣状癌 (verrucous carcinoma) の1例. 第92回日本産婦人科学会関東連合地方部会総会, 1996. 10.
- 52) 平田昌二, 松本讓二, 竹内正弥, 小林三平, 三並伸二, 石田明彦, 菊池三郎, 荒木 勤: 腹膜神経膠腫症の1例. 第92回日本産婦人科学会関東連合地方部会総会, 1996. 10.
- 53) 市川雅男, 米山芳雄, 石川博臣, 進 純郎, 荒木 勤: 正期産分娩直後に発症した絨毛癌の1例. 第92回日本産婦人科学会関東連合地方部会総会, 1996. 10.
- 54) 竹内正弥, 松本讓二, 塚田克也, 小西公麿, 小林三平, 深見武彦, 斎藤 恵, 菊池三郎, 荒木 勤: 広範な脳転

- 移をきたした絨毛癌化学療法後妊娠の1例。第92回日本産婦人科学会関東連合地方部会総会，1996。10。
- 55) 有坂康子，海沢勝弘，朝倉啓文，越野立夫，荒木 勤：画像診断が有効であった右側腔閉鎖と同側腎無形成を合併した重複子宮の1例。第92回日本産婦人科学会関東連合地方部会総会，1996。10。
- 56) 根本芳広，吉松和彦，関谷隆夫，石原楷輔，菊地三郎，荒木 勤：卵巢出血性嚢胞の臨床的検討。第92回日本産婦人科学会関東連合地方部会総会，1996。10。
- 57) 大野明子，三浦 敦，明楽重夫，可世木久幸，荒木 勤：Gartner duct cyst に双角子宮と片側腎無形成を合併した1症例。第92回日本産婦人科学会関東連合地方部会総会，1996。10。
- 58) 林 隆，堤 千寿，明楽重夫，可世木久幸，進 純郎，荒木 勤：卵管摘出後同側の卵管間質部妊娠を来した1症例。第92回日本産婦人科学会関東連合地方部会総会，1996。10。
- 59) 大下知子，荏原弘光，高田秀一，鈴木俊治，澤倫太郎，米山芳雄，進 純郎，荒木 勤：出生前に一児に胎児脳内 Multiple cystic lesion と両側副腎石灰化を認めた stuck twin の1例。第92回日本産婦人科学会関東連合地方部会総会，1996。10。
- 60) 若月雅美，家永 聡，田中 彰，三田俊二，松本讓二，田中純也，佐々木茂，荒木 勤：甲状腺機能亢進症を合併した抗 E 抗体陽性妊婦の1例。第92回日本産婦人科学会関東連合地方部会総会，1996。10。
- 61) 松下径広，小西英喜，小川秀臣，太田雄治郎，荒木 勤：卵巢癌組織における CD4+ および CD8+ 腫瘍浸潤リンパ球に関連する HLA-ABC，HLA-DR，CA125 抗原の発現。日本癌治療学会，1996。11。
- 62) 荏原弘光，可世木久幸，明楽重夫，荒木 勤：実験的アッシャーマン症候群のモデル作成の試み。第41回日本不妊学会総会，1996。11。
- 63) 可世木久幸，荏原弘光，明楽重夫，荒木 勤：新しい手術用ヒステロファイバースコープの開発。第41回日本不妊学会総会，1996。11。
- 64) 竹内正也，松本讓二，小林三平，平田昌三，菊地三郎，荒木 勤：hMG-hCG 療法における凝固線溶系分子マーカー測定の意義。第41回日本不妊学会総会，1996。11。
- 65) 石川博臣，澤倫太郎，米山芳雄，進 純郎，杉本啓治，山下和雄，荒木 勤：ラット臍動静脈内皮細胞の形態変化およびストレスファイバー発現の意義。第4回日本臓胎盤研究会総会ならびに学術集会，1996。11。
- 66) 栗山秀樹，三浦 敦，鈴木俊治，澤倫太郎，米山芳雄，進 純郎，荒木 勤，伊月葉子，志賀俊哉，木内 要，高野照夫：重症妊娠悪阻に心筋炎を合併した双胎妊娠の1例。日本医科大学医学会第92回例会，1997。2。
- 67) 栗山秀樹，澤倫太郎，米山芳雄，鈴木俊治，三浦 敦，進 純郎，荒木 勤，伊月葉子，志賀俊哉，木内 要，高野照夫：重症妊娠悪阻に心筋炎を合併した双胎妊娠の1例。第301回日本産婦人科学会東京地方部会例会，1997。3。
- 68) 米山剛一，八田充子，石川博臣，岡野匡雄：腺扁平上皮癌を呈した卵巢成熟嚢胞性奇形腫悪性転化の1症例。日本産婦人科東京地方部会例会，1996。9。
- 69) 岡野匡雄，黒木須雅子，茂呂昇一，三原浩行，山本智子，本橋雅昭，弘田達哉，佐和田哲也，伊藤大介，楡井和重，豊田忠之，森脇 稔，米山剛一，八田充子：乳糜胸水より診断に至ったクルーケンベルグ腫瘍。第35回日本臨床細胞学会秋期大会学術集会，1996。11。
- 70) 明楽重夫，可世木久幸，石原珠紀，荏原弘光，荒木 勤：中隔・弓状子宮に対するレーザー子宮鏡による子宮肢形成術と臨床成績。第14回日本受精着床学会，1996。7。
- 71) 明楽重夫，村田知昭，荏原弘光，可世木久幸，荒木 勤：腹腔鏡超音波法を用いた卵管妊娠胎嚢内 MTX 注入法の試み。第36回日本産科婦人科内視鏡学会，1996。8。
- 72) 石川みずえ，高橋英彦，宮川 昇，岡田 清，小泉 潔<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>日医大第二外科)：経口避妊薬内服中に子宮外妊娠破裂で発症し肺転移巣切除後経過良好な絨毛癌の1例。第298回日本産婦人科学会東京地方部会例会，1996。5。
- 73) 石川博臣，杉本啓治<sup>1)</sup>，山下和雄<sup>1)</sup>，荒木 勤<sup>2)</sup> (解剖第1)：ラット胎仔の臍動静脈内皮細胞におけるストレスファイバー動態。第48回日本産婦人科学会学術講演会，1996。4。

- 74) 石川博臣, 澤倫太郎, 米山芳雄, 進 純郎, 荒木 勤, 杉本啓治<sup>1)</sup>, 山下和雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>解剖第1): ラット臍動静脈内皮細胞の形態変化およびストレスファイバー発現の意義. 第4回胎盤研究, 1996. 11.
- 75) 石川博臣, 米山剛一, 八田充子, 大野明子, 河合尚基, 岡野匡雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東部地域病院検査科): 卵巣癌を含む四重癌の1例および当院における重複癌の検討. 第301回日本産婦人科学会東京地方部会例会, 1997. 3.
- 76) 竹下俊行, 中井章人, 朝倉啓文, 越野立夫, 可世木久幸, 荒木 勤: 子宮鏡下逆行性 GIFT の有用性とその問題点. 第14回日本受精着床学会, 1996. 7.
- 77) 竹下俊行, 山口 稔, 横田明重, 可世木久幸, 朝倉啓文, 越野立夫, 荒木 勤: 子宮鏡下逆行性 GIFT の試み—その有用性と問題点—. 第36回日本産科婦人科内視鏡学会, 1996. 8.
- 78) 澤倫太郎, 米山芳雄, 窪谷 潔, 鈴木俊治, 進 純郎, Power GG, 荒木 勤: 脳虚血および低酸素症における胎仔温度調節, 代謝に及ぼす影響に関する検討. 第33回日本新生児学会, 1997. 7.
- 79) 土居大祐, 太田雄治郎, 小西英喜, 荒木 勤, 浅野伍朗<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第2病理): ヒト子宮内膜癌におけるテネインの局在と機能—エストロゲンレセプターと TGF $\beta$ 1との関連性を含めて. 第48回日本産科婦人科学会総会, 1996. 4.
- 80) 土居大祐, 小野瀬亮<sup>1)</sup>, 河合尚基, 中山裕樹<sup>1)</sup>, 岡島弘幸<sup>1)</sup>, 亀田陽一<sup>1)</sup>, 山口正直<sup>1)</sup>, 飯田萬一<sup>1)</sup>, 原田祐子<sup>1)</sup>, 岩撫成子<sup>1)</sup>, 中村満美子<sup>1)</sup>, 早淵洋子<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>神奈川県立がんセンター): 子宮, 膣転移性腫瘍の細胞診. 第37回日本臨床細胞学会総会, 1996. 5.
- 81) 中山裕樹<sup>1)</sup>, 土居大祐, 小野瀬亮<sup>1)</sup>, 河合尚基, 岡島弘幸<sup>1)</sup>, 亀田陽一<sup>1)</sup>, 山口正直<sup>1)</sup>, 飯田萬一<sup>1)</sup>, 原田祐子<sup>1)</sup>, 岩撫成子<sup>1)</sup>, 中村満美子<sup>1)</sup>, 早淵洋子<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>神奈川県立がんセンター): 胃癌症例の婦人科細胞診の検討. 第37回日本臨床細胞学会総会, 1996. 5.
- 82) 中山裕樹<sup>1)</sup>, 土居大祐, 小野瀬亮<sup>1)</sup>, 加藤久盛<sup>1)</sup>, 岡島弘幸<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>神奈川県立がんセンター): 膀胱腫瘍との鑑別に苦慮した子宮内膜症の1例: 第317回日本産科婦人科学会神奈川地方部会, 1996. 7.
- 83) 中山裕樹<sup>1)</sup>, 国村忠司<sup>1)</sup>, 土居大祐, 小野瀬亮<sup>1)</sup>, 加藤久盛<sup>1)</sup>, 岡島弘幸<sup>1)</sup>, 安本 茂<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>神奈川県立がんセンター): 子宮体癌, 頸癌, 異形成のテロメラーゼ活性. 第55回日本癌学会総会, 1996. 10.
- 84) 中山裕樹<sup>1)</sup>, 土居大祐, 小野瀬亮<sup>1)</sup>, 加藤久盛<sup>1)</sup>, 岡島弘幸<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>神奈川県立がんセンター): 早期体癌 (FIGO, IA期) の背景と診断. 第92回日本産科婦人科学会関東連合地方部会, 1996. 10.
- 85) 中山裕樹<sup>1)</sup>, 土居大祐, 小野瀬亮<sup>1)</sup>, 加藤久盛<sup>1)</sup>, 岡島弘幸<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>神奈川県立がんセンター): 初期体癌 (FIGO, IA期) 発見のための体癌検診とは. 第5回日本婦人科がん検診学会, 1996. 11.
- 86) 加藤久盛<sup>1)</sup>, 中山裕樹<sup>1)</sup>, 土居大祐, 小野瀬亮<sup>1)</sup>, 岡島弘幸<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>神奈川県立がんセンター): 頸癌検診における高次検診への誘導の実体調査. 第5回日本婦人科がん検診学会, 1996. 11.
- 87) 中山裕樹<sup>1)</sup>, 土居大祐, 小野瀬亮<sup>1)</sup>, 加藤久盛<sup>1)</sup>, 岡島弘幸<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>神奈川県立がんセンター): 初期頸部腺癌における細胞診. 第35回日本臨床細胞学会秋期大会, 1996. 11.
- 88) 加藤久盛<sup>1)</sup>, 土居大祐, 小野瀬亮<sup>1)</sup>, 中山裕樹<sup>1)</sup>, 岡島弘幸<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>神奈川県立がんセンター): 原発性卵管癌7症例の臨床細胞学的検討. 第35回日本臨床細胞学会秋期大会, 1996. 11.
- 89) 竹内正人, 加藤寛彦, 林 瑞成, 篠原継男, 栗田口康一, 山田恵三, 兼子和彦, 岩崎卓爾, 荒木 勤: 骨盤位胎児の血流動態の検討: 特に中大脳動脈血流の妊娠週数に伴う変化について. 第32回日本新生児学会, 1996. 7.
- 90) 竹内正人, 加藤寛彦, 林 瑞成, 篠原継男, 栗田口康一, 山田恵三, 兼子和彦: 骨盤位胎児の血流動態の検討. 関東連合地方部会, 1996. 11.
- 91) 竹内正人, 加藤寛彦, 林 瑞成, 篠原継男, 栗田口康一, 山田恵三, 兼子和彦: 産後46日に多発性肺梗塞をおこした抗リン脂質抗体症候群の1例. 江東, 千葉西産婦人科研修会, 1996. 11.
- 92) 峯 伸也, 都甲明子, 岩崎卓爾, 山口 暁, 田中 彰, 河村 堯, 荒木 勤: 最近経験した甲状腺機能亢進症合併妊娠の2例. 日本医科大学産婦人科同窓会第25回臨床研究会および印旛市郡医師会産婦人科医会, 1996. 6.
- 93) 林 瑞成, 加藤寛彦, 竹内正人, 篠原継男, 栗田口康一, 山田恵三, 兼子和彦: 当院における肩甲難産の統計的

検討。第298回日本産婦人科学会東京地方部会，1996。

- 94) 林 瑞成，加藤寛彦，竹内正人，篠原継男，粟田口康一，山田恵三，兼子和彦：肩甲難産症例における母体骨盤の形態的特徴。第32回日本赤十字社医学会総会，1996。
- 95) 石原珠紀<sup>1)</sup>，松下径広<sup>1)</sup>，飯田 啓<sup>1)</sup>，高梨安弘，濱谷次郎，内田勝次，大坪保雄<sup>1)</sup>，斎藤友巳<sup>(<sup>1)</sup>付属病院産婦人科)</sup>：妊娠に合併した子宮筋腫茎捻転の1例。第317回日本産婦人科学会神奈川地方部会，1996。7。

## [第一病院産婦人科]

### 研究概要

本年度の当教室の主な研究項目および内容につき述べる。

1) 妊娠とスポーツ：妊婦エアロビクスを施行している母体および胎児の血液循環動態を超音波ドップラー法を用いて解析している。

妊娠中のスポーツにおけるβ-エンドルフィンの変化，感情の変化の関連について感情調査（感情得点），β-エンドルフィン採血を行い検討している。

2) 胎児および新生児の熱産生に関する研究：出生直後の新生児の褐色脂肪による熱産生の状態を観察，解析した。

3) 胎児脳における一酸化窒素に関する研究：周産期における低酸素により生じる胎児脳障害と胎児脳の一酸化窒素の動態を解析している。

4) 妊娠中毒症の免疫学的解析：正常妊婦および妊娠中毒症妊婦の末梢血NK活性を比較検討し妊娠中毒症との関連を検討した。

5) IUGR, 不育症の免疫学的解析：IUGR 症例，不育症患者の末梢血NK活性を分析し，その免疫学的意義を検討している。

6) CIN (Cervical Intraepithelial Neoplasia：子宮頸部上皮内腫瘍) に対する子宮温存療法の検討：CO<sub>2</sub> レーザー蒸散法，LEEP (Loop Electro-surgical Excision Procedure) を用いた臨床成績の比較検討をした。

### 研究業績

#### 論文

(1) 原著：

- 1) 梅沢勝弘，加藤久盛，露木佳子，越野立夫，松本光司<sup>1)</sup>，山田宣孝<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>第一病院病理部)：子宮頸部に原発した Malignant Mullerian Mixed Tumor の1例。日産婦東京会誌 1996；45：213-216。
- 2) 山口 稔：母体運動中の胎児血行動態に関する検討。新生児誌 1996；32：435-441。
- 3) 谷内良成，山口 稔，榎本真奈美，臼井文男，横田明重，中井章人，加藤久盛，竹下俊行，朝倉啓文，越野立夫，山田宣孝<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>第一病院病理部)：子宮頸癌 Ia 期合併妊娠の1例。日産婦東京会誌 1996；45：343-345。
- 4) 臼井文男，朝倉啓文，竹下俊行，有坂康子，横田明重，越野立夫，荒木 勤：重症妊娠中毒症妊婦における帝王切開後の血小板と Endothelin の推移。妊中誌 1996；4：121-122。
- 5) 臼井文男，横田明重，谷内良成，高橋 肇，山口 稔，竹下俊行，朝倉啓文，越野立夫：卵巣チョコレート嚢胞エタノール注入療法後に clear cell adenocarcinoma を発症した1例。日産婦東京会誌 1996；45：437-441。

(2) 総説：

- 1) 山口 暁，竹内久美，越野立夫：産婦人科研修ノート：3. 妊娠悪阻 (G. 産科疾患の診断・治療・管理)。産と婦 1996；63：206-207。
- 2) 朝倉啓文：周産期における胎児，新生児の熱産生，体温調節。日医大誌 1996；63：171-172。
- 3) 中井章人，越野立夫：帝王切開の麻酔 (特集：最近の帝王切開を考える)。周産期医学 1996；26：989-993。
- 4) 越野立夫：マタニティブルー (特集：産婦人科医のための心身症)。産婦の実際 1996；46：189-193。

## 著 書

- 1) 越野立夫, 中井章人:〔分担〕I. 基本的な指導:妊産婦の生活指導とサポートの進めかた。“ナースのための患者とその家族の指導ガイド”(和田 攻編), 1996; pp43-52, 文光堂。
- 2) 越野立夫, 武藤芳照, 定本朋子:〔編集〕“女性のスポーツ医学”. 1996; 南光堂。
- 3) 中井章人:〔分担〕III. 妊娠とスポーツ:D. 妊婦スポーツが母児に与える影響。“女性のスポーツ医学”. (越野立夫, 武藤芳照, 定本朋子編), 1996; pp92-96, 南光堂。
- 4) 朝倉啓文:〔分担〕III. 妊娠とスポーツ:E. 妊婦スポーツの実際と注意:1. 妊婦水泳。“女性のスポーツ医学”. (越野立夫, 武藤芳照, 定本朋子編), 1996; pp97-101, 南光堂。
- 5) 越野立夫, 中井章人:〔分担〕Part VI 母子保健:妊婦とスポーツ。“周産期医学必修知識 4th Edition”. (周産期医学編集委員会編), 1996; pp681-682, 東京医学社。
- 6) 越野立夫, 横田明重:〔分担〕Part VI 母子保健:妊婦と肥満。“周産期医学必修知識 4th Edition”. (周産期医学編集委員会編), 1996; pp686-687, 東京医学社。
- 7) 朝倉啓文:〔分担〕第2章. 正常産褥の生活指導:I. 授乳指導, 乳房管理。“産褥の管理”. (荒木 勤編), 1997; pp11-16, 永井書店。
- 8) 朝倉啓文:〔分担〕第2章. 正常産褥の生活指導:II. 産褥期のウェイトコントロール。“産褥の管理”. (荒木 勤編), 1997; pp17-24, 永井書店。
- 9) 朝倉啓文:〔分担〕第2章. 正常産褥の生活指導:III. 母と子のスキンシップ。“産褥の管理”. (荒木 勤編), 1997; pp24-29, 永井書店。
- 10) 朝倉啓文:〔分担〕第4章. 産褥の感染症管理:I. 産褥熱の管理と処置。“産褥の管理”. (荒木 勤編), 1997; pp79-85, 永井書店。
- 11) 朝倉啓文:〔分担〕第4章. 産褥の感染症管理:II. 産褥血栓性静脈炎の管理。“産褥の管理”. (荒木 勤編), 1997; pp85-87, 永井書店。
- 12) 朝倉啓文:〔分担〕第4章. 産褥の感染症管理:III. 乳腺炎。“産褥の管理”. (荒木 勤編), 1997; pp87-90, 永井書店。
- 13) 朝倉啓文:〔分担〕第4章. 産褥の感染症管理:IV. 尿路感染症。“産褥の管理”. (荒木 勤編), 1997; pp90-92, 永井書店。
- 14) 朝倉啓文:〔分担〕第4章. 産褥の感染症管理:V. 帝王切開後の感染。“産褥の管理”. (荒木 勤編), 1997; pp92-99, 永井書店。
- 15) 越野立夫:〔分担〕第5章. 異常妊娠, 妊娠合併症産褥の管理:I. 妊娠中毒症の産褥管理。“産褥の管理”. (荒木 勤編), 1997; pp101-104, 永井書店。
- 16) 越野立夫:〔分担〕第5章. 異常妊娠, 妊娠合併症産褥の管理:II. 糖尿病合併妊娠, 妊娠糖尿病妊婦の産褥管理。“産褥の管理”. (荒木 勤編), 1997; pp105-109, 永井書店。
- 17) 越野立夫:〔分担〕第5章. 異常妊娠, 妊娠合併症産褥の管理:III. 腫瘍合併妊娠の産褥管理。“産褥の管理”. (荒木 勤編), 1997; pp109-113, 永井書店。
- 18) 越野立夫:〔分担〕第5章. 異常妊娠, 妊娠合併症産褥の管理:IV. 自己免疫疾患合併妊娠の産褥管理。“産褥の管理”. (荒木 勤編), 1997; pp113-123, 永井書店。
- 19) 越野立夫:〔分担〕第8章. 産褥期精神障害:I. マタニティブルーズ。“産褥の管理”. (荒木 勤編), 1997; pp151-153, 永井書店。
- 20) 越野立夫:〔分担〕第8章. 産褥期精神障害:II. 産褥期躁うつ病。“産褥の管理”. (荒木 勤編), 1997; pp153-154, 永井書店。
- 21) 越野立夫:〔分担〕第8章. 産褥期精神障害:III. 産褥期分裂病。“産褥の管理”. (荒木 勤編), 1997;



pp154-155, 永井書店.

- 22) 越野立夫：〔分担〕22. 女性性器・妊産婦疾患：妊娠悪阻。“〔1997今日の治療指針〕私はこう治療している”。(日野原重明, 阿部正和監修, 稲垣義明, 多賀須幸男, 尾形悦郎総編集). 1997; pp713-714, 医学書院.

## 学会発表

### (1) 教育セミナー：

- 1) 朝倉啓文：女性の身体とスポーツ：妊娠中のスポーツ。(スポーツインストラクターに必要な医学知識). 第8回女性スポーツ医学研究会教育セミナー, 1997. 2.

### (2) 研修講演：

- 1) 朝倉啓文：既往帝切妊婦の経膈分娩 (VBAC) の現状について. 江戸川区産婦人科医会研修会, 1997. 2.

### (3) 一般講演：

- 1) Oya A, Asakura H, Taniuchi Y, Takahashi H, Koshino T, Araki T : The relationship between the initiation of nonshivering thermogenesis (NST) and umbilical blood gas analysis a study with thermography. IIIrd World Congress of Perinatal Medicine. (San Francisco), 1996. 10.
- 2) Asakura H, Yokota A, Arisaka Y, Taniuchi Y, Ohya A, Takeshita T, Koshino T, Araki A : Direct measurement of nitric oxide (NO) in fetal rat brain during uteroplacental ischemia followed by reperfusion. IIIrd World Congress of Perinatal Medicine. (San Francisco), 1996. 10.
- 3) 朝倉啓文, 小川隆吉, 横田明重, 山口 暁, 露木佳子, 加藤久盛, 竹下俊行, 越野立夫, 荒木 勤：虚血, 再灌流時の胎児脳内一酸化窒素 (NO) の動態：ラット胎仔脳での経時的 NO 測定. 第48回日本産科婦人科学会学術講演会, 1996. 4.
- 4) 大屋敦子, 中井章人, 朝倉啓文, 越野立夫, 荒木 勤：正常妊娠ならびに妊娠高血圧における腎実質内の血流動態変化. 第48回日本産科婦人科学会学術講演会, 1996. 4.
- 5) 臼井文男, 横田明重, 谷内良成, 榎本真奈美, 高橋 肇, 梅沢勝弘, 大屋敦子, 中井章人, 竹下俊行, 朝倉啓文, 越野立夫：当科における卵巣チョコレート嚢胞に対するエタノール注入療法. 日本医科大学医学会第89回例会, 1996. 5.
- 5) 谷内良成, 山口 稔, 榎本真奈美, 臼井文男, 横田明重, 中井章人, 加藤久盛, 竹下俊行, 朝倉啓文, 越野立夫：子宮頸癌 Ia 期合併妊娠の 1 例. 第298回日本産科婦人科学会東京地方部会例会, 1996. 5.
- 7) 加藤久盛, 梅沢勝弘, 露木佳子, 越野立夫, 荒木 勤, 松本光司<sup>1)</sup>, 山田宣孝<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学病理部)：子宮頸部に原発した Malignant Mullerian Mixed Tumor の 1 例. 第37回日本臨床細胞学会総会, 1996. 5.
- 8) 大屋敦子, 中井章人, 三宅秀彦, 朝倉啓文, 越野立夫, 荒木 勤：横膈ヘルニアにより羊水過多症を呈した mosaic tetrasomy 12p の 1 例. 第91回日本産科婦人科学会関東連合地方部会総会, 1996. 6.
- 9) 榎本真奈美, 横田明重, 有坂康子, 中井章人, 朝倉啓文, 越野立夫, 荒木 勤：胎児消化管閉塞 3 例の臨床的検討. 第91回日本産科婦人科学会関東連合地方部会総会, 1996. 6.
- 10) 朝倉啓文, 清田明憲<sup>1)</sup>, 田中政信<sup>2)</sup>, 住吉好雄<sup>1)</sup>, 坂元正一<sup>1)</sup>, 平原史樹<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>日本母性保護産婦人科医会, <sup>2)</sup>横浜市立大学)：日本母性保護産婦人科医会外表奇形等調査の分析：胎児異常アンケートにおける妊娠早期超音波診断について. 第36回日本先天異常学会, 1996. 7.
- 11) 竹下俊行, 中井章人, 朝倉啓文, 越野立夫, 可世木久幸, 荒木 勤：子宮鏡下逆行生 GIFT の有用性とその問題点. 第14回日本受精着床学会学術講演会, 1996. 7.
- 12) 竹内久美, 朝倉啓文, 大屋敦子, 横田明重, 竹下俊行, 越野立夫, 荒木 勤, 佐々木静子<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>まつしま産婦人科小児科病院)：重症妊娠悪阻病態における褐色脂肪の熱産生. 第20回日本産婦人科栄養・代謝研究会, 1996. 8.
- 13) 臼井文男, 横田明重, 谷内良成, 高橋 肇, 山口 稔, 竹下俊行, 朝倉啓文, 越野立夫：卵巣チョコレート嚢胞エタノール注入療法後に clear cell adenocarcinoma を発症した 1 例. 第299回日本産科婦人科学会東京地方部

- 会例会, 1996. 9.
- 14) 三宅秀彦, 朝倉啓文, 竹下俊行, 若麻績佳樹, 越野立夫: 経膈超音波断層法による妊娠初期における胎児四肢骨の観察. 第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 9.
  - 15) 山口 稔, 朝倉啓文, 神戸 仁, 越野立夫: 妊婦エアロピクスによる感情変化と母体血中ベータエンドルフィンとの関係. 第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 9.
  - 16) 梅沢勝弘, 横田明重, 竹下俊行, 朝倉啓文, 越野立夫: 当科における腹腔鏡下手術の検討. 第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 9.
  - 17) 広瀬正典, 横田明重, 加藤久盛, 竹下俊行, 朝倉啓文, 越野立夫: 子宮頸部上皮内腫瘍 (CIN) に対する LEEP 式子宮頸部円錐切除の有用性. 第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 9.
  - 18) 臼井文男, 朝倉啓文, 竹下俊行, 有坂康子, 横田明重, 越野立夫, 荒木 勤: 重症妊娠中毒症妊婦における帝王切開後の血小板数と endothelin の推移. 第17回日本妊娠中毒症学会, 1996. 9.
  - 19) 神戸 仁, 横田明重, 大屋敦子, 有坂康子, 竹下俊行, 朝倉啓文, 越野立夫, 荒木 勤: 内外同時妊娠 3 例の検討. 第92回日本産科婦人科学会関東連合地方部会総会, 1996. 10.
  - 20) 有坂康子, 梅沢勝弘, 朝倉啓文, 越野立夫, 荒木 勤: 画像診断が有用であった右側膈閉鎖と同側腎無形成を合併した重複子宮の 1 例. 第92回日本産科婦人科学会関東連合地方部会総会, 1996. 10.
  - 21) 谷内良成, 山口 稔, 臼井文男, 横田明重, 加藤久盛, 竹下俊行, 朝倉啓文, 越野立夫, 荒木 勤: 妊娠中に子宮頸部浸潤癌が疑われ妊娠継続に配慮が必要であった 1 症例. 第37回日本母性衛生学会総会, 1996. 10.
  - 22) 高橋 肇, 横田明重, 有坂康子, 中井章人, 朝倉啓文, 越野立夫, 荒木 勤: 胎児消化管閉塞 3 例の臨床的検討. 第37回日本母性衛生学会総会, 1996. 10.
  - 23) 大屋敦子, 朝倉啓文, 山口 暁, 竹下俊行, 中井章人, 越野立夫, 荒木 勤: 沐浴が新生児の出生後体温調節機構に及ぼす影響. 第37回日本母性衛生学会総会, 1996. 10.
  - 24) 空閑郁子, 長崎千恵子, 岸田淳子, 江藤香織, 佐藤陽子, 林 加代, 加藤浩美, 河合尚基, 竹下俊行, 朝倉啓文, 越野立夫, 小川隆吉<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>小川クリニック): 産婦人科におけるミントの嗅覚刺激による制吐効果. 第37回日本母性衛生学会総会, 1996. 10.
  - 25) 谷内良成, 横田明重, 広瀬正典, 朝倉啓文, 越野立夫, 山田宣孝<sup>1)</sup>, 松本光司<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>第一病院病理部): 当院における卵巣腫瘍術中迅速病理診断の臨床的検討. 日本医科大学医学会第90回例会, 1996. 11.
  - 26) 高橋 肇, 横田明重, 谷内良成, 朝倉啓文, 越野立夫, 都甲明子<sup>1)</sup>, 岩崎卓爾<sup>1)</sup>, 山口 暁<sup>1)</sup>, 田中 彰<sup>1)</sup>, 河村 堯<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>千葉北総病院産婦人科): 最近経験した急性妊娠性脂肪肝 (acute fatty liver of pregnancy: AFLP) の 2 症例. 日本医科大学医学会第91回例会, 1997. 2.
  - 27) 谷内良成, 横田明重, 広瀬正典, 朝倉啓文, 越野立夫, 山田宣孝<sup>1)</sup>, 松本光司<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>日本医科大学第一病院病理部): 当科における卵巣腫瘍術中迅速病理診断の臨床的検討. 第10回東京産婦人科医会・日産婦東京地方部会合同研修会並びに第301回日産婦東京地方部会例会, 1997. 3.

## [第二病院産婦人科]

### 研究概要

本年度の研究項目と内容を示す。

#### 1) 超音波断層法を用いた画像診断の研究

超音波断層法に関する研究は当科における主要研究テーマでのひとつである。産科領域においては妊娠子宮の子宮頸管の評価, 特に頸管腺領域像を用いた切迫早産の診断と予後の予測の試みは, 近年新しい子宮頸部の評価の指標として注目されている。さらに現在では, 本所見と分娩経過および予後との関連についても研究を行っており, 良好な結果を得ている。また婦人科領域においては, 世界で最も多くの卵巣出血性嚢胞例を集積し, その診断と臨床所見に

ついて報告している。その他、高周波細径プローブによる体腔内超音波断層法の臨床応用に関する研究も盛んである。

## 2) 母体骨盤の基礎的研究

当科の長年のテーマである母体骨盤の問題は、現在では入口面のみを平面的な解析に加え、尾骨や仙骨を含めた立体的な解析を行っているが、さらに骨盤撮影における卵巣の放射線被曝量についても同時に検討している。

## 3) 卵巣に関する病理学的研究

不妊症等の病因解明を目的とした黄体の血管新生に関する研究を動物および人体にて行っている。具体的には新生血管の超微形態を電子顕微鏡的に観察し、同時に各種ホルモン値を測定して黄体の生理的機能を明らかにするための基礎的研究である。

## 4) その他、周産期や内分泌・不妊症、悪性腫瘍に関する臨床的研究など。

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著：

- 1) Tsukada K, Matsushima T, Yamanaka N : Neovascularization of the corpus luteum of rats during the estrus cycle. *Pathol Int* 1996 ; 46 : 408-416.
- 2) Matsushima T, Tsukada K, Fukuda Y, Yamanaka N : The extracellular matrices and vascularization of the developing corpus luteum in rat. *J Submicrosc Cytol Pathol* 1996 ; 28 : 441.
- 3) 関谷隆夫, 吉松和彦, 根本芳広, 平田昌二, 塚田克也, 石原楷輔, 菊池三郎 : 最近経験した carcinosarcoma の 1 例。日産婦神奈川会誌 1996 ; 33 : 36-40.
- 4) 木村昭裕<sup>1)</sup>, 柳沢和孝<sup>2)</sup>, 木挽貢慈<sup>3)</sup>, 日野 侃<sup>4)</sup>, 田島敏久<sup>5)</sup>, 高橋亨正<sup>6)</sup>, 五来逸雄<sup>7)</sup>, 斉藤 馨<sup>8)</sup>, 秦 宏樹<sup>9)</sup>, 篠塚孝男<sup>10)</sup>, 野口有生<sup>11)</sup>, 関谷隆夫, 雨宮 章<sup>8)</sup>, 中山裕樹<sup>12)</sup>, 岡島弘幸<sup>12)</sup> ( <sup>1)</sup>横浜市立市民病院, <sup>2)</sup>柳澤産婦人科医院, <sup>3)</sup>川崎市立川崎病院, <sup>4)</sup>横須賀市立市民病院, <sup>5)</sup>慈誠会病院産婦人科, <sup>6)</sup>秦野赤十字病院, <sup>7)</sup>横浜市大, <sup>8)</sup>聖マリアンナ医大, <sup>9)</sup>昭和大, <sup>10)</sup>東海大, <sup>11)</sup>昭和大学藤が丘病院, <sup>12)</sup>神奈川県立がんセンター) : 平成7年度神奈川産科婦人科医会 婦人科悪性腫瘍登録集計報告。日産婦神奈川会誌 1996 ; 33 : 96-100.
- 5) 関谷隆夫, 吉松和彦, 根本芳広, 石原楷輔, 菊池三郎 : 超音波画像からみた子宮頸部所見の関連の再評価。切迫早産および早産予測における頸管腺領域像の意義の検討。日超医第67回研究発表会抄録集 1996 ; 23(supplement) 1 : 225.
- 6) 石原楷輔, 根本芳広, 関谷隆夫, 菊池三郎 : 急性腹症と出血性卵巣嚢胞。産婦の実際 1996 ; 1831-1837.
- 7) 石原楷輔 : 超音波画像から見た切迫早産の子宮頸部所見。臨床婦人科産科 1996 ; 50 : 584-588.
- 8) 石原楷輔 : 経膈エコーの活用。日産婦東京地会誌 1996 ; 46 : 132-136.
- 9) 石原楷輔 : 経膈超音波診断におけるぴっとフォル。日産婦神奈川会誌 1997 ; 33 : 36.

#### (2) 総説：

- 1) 関谷隆夫, 吉松和彦, 根本芳広, 石原楷輔, 菊池三郎, 荒木 勤 : 流早産と頸管所見 : 頸管腺領域像と早産との関連を中心に (特集 : 経膈超音波一診断とその評価一)。産婦の実際 1996 ; 45 : 1823-1830.
- 2) 上坊敏子<sup>1)</sup>, 蔵本博行<sup>1)</sup>, 岡島弘之<sup>2)</sup>, 斎藤 馨<sup>3)</sup>, 篠塚孝雄<sup>4)</sup>, 関谷隆夫, 五来逸雄<sup>5)</sup>, 根本裕樹<sup>6)</sup>, 野田信之<sup>6)</sup> ( <sup>1)</sup>北里大, <sup>2)</sup>神奈川県立がんセンター, <sup>3)</sup>聖マリアンナ医大, <sup>4)</sup>東海大, <sup>5)</sup>横浜市大, <sup>6)</sup>神奈川県予防医学協会) : 車検診受診者を対象にしての子宮頸がんハイリスク要因の検討。予防医学 1996 ; 38 : 93-97.
- 3) 石原楷輔 : 骨盤内臓器の局所解剖と超音波像。臨床婦人科産科 1996 ; 50 : 404-416.
- 4) 石原楷輔 : 妊娠中期の超音波診断のチェックポイント。産婦治療 1996 ; 72 : 596-601.
- 5) 石原楷輔 : 経膈超音波による活用。日本母性保護区協会医報 1996 ; 48(7) : 11-12.

## 著 書

- 1) 石原楷輔：産褥の異常に対する管理。産褥の管理（編者：荒木 勤）。1997；pp47-77，永井書店，大阪。
- 2) 石原楷輔：新生児ケアの実際。産褥の管理（編者：荒木 勤）。1997；pp157-167，永井書店，大阪。

## 学会発表

### (1) パネルディスカッション：

- 1) 石原楷輔：経腔超音波の活用。第48回日本産科婦人科学会総会学術講演会。生涯研修プログラム(ミートザエキスパート)，1996。4。
- 2) 吉松和彦，根本芳広，関谷隆夫，石原楷輔，菊池三郎：切迫流産と頸管所見。第318回日本産科婦人科学会神奈川県地方部会，1996。9。

### (2) 一般講演：

- 1) Sekiya T, Yoshimatsu K, Nemoto Y, Konishi K, Ishihara K, Kikuchi S, Araki T : Vaginal Ultrasonographic Study of Cervical Gland Area in Preterm Labor. 6th World Congress on Ultrasound in Obstetrics and Gynecology (Rotteldam), 1996. 10.
- 2) Yoshimatsu K, Nemoto Y, Konishi K, Sekiya T, Ishihara K, Kikuchi S, Araki T : Vaginal Ultrasonographic Study of Cervical Gland Area in normal pregnancy. 6th World Congress on Ultrasound in Obstetrics and Gynecology (Rotteldam), 1996. 10.
- 3) Nemoto Y, Yoshimatsu K, Konishi K, Sekiya T, Ishihara K, Kikuchi S, Araki T : Diagnosis of hemorrhagic ovarian cyst in acute abdomen by ultrasonography : 6th World Congress on Ultrasound in Obstetrics and Gynecology (Rotteldam), 1996. 10.
- 4) 石原楷輔：超音波経腔走査法による画像診断の活用。大宮市日母・日産婦学術講演会，1996。4。
- 5) 石原楷輔：超音波経腔走査法による画像診断の活用。厚木地区産婦人科医会，1996。4。
- 6) 関谷隆夫：術後肺梗塞の予防と対策。日本医科大学産婦人科同窓会第25回臨床研究会，川崎市産婦人科医会研究会，1996。5。
- 7) 菊池三郎：出血性卵巣嚢腫。いわき市医師会産婦人科部会研究会，1996。5。
- 8) 根本芳広，吉松和彦，木下叫一，関谷隆夫，石原楷輔，菊池三郎，久保田繁<sup>1)</sup>，岩崎孝一<sup>1)</sup>，早田孝敬<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>久保田病院)：急性腹症における卵巣出血性嚢胞の超音波画像診断の有用性。日本医科大学医学会第89回例会，1996。5。
- 9) 深見武彦，根本芳広，小林三平，石田明彦，関谷隆夫，石原楷輔，菊池三郎：超音波画像により子宮頸管妊娠を強く疑った2例。日本医科大学医学会第89回例会，1996。5。
- 10) 深見武彦，関谷隆夫，石原楷輔，菊池三郎，荒木 勤：超音波検査にて頸管妊娠を疑った2例。第318回四水会，1996。6。
- 11) 谷 隆夫，吉松和彦，根本芳広，石原楷輔，菊池三郎：超音波画像から見た子宮頸部所見の関連の評価，一切迫早産および早産予測における頸管腺領域の意義の検討。日本超音波医学会第67回研究発表会，1996。6。
- 12) 根本芳広：出血性卵巣嚢胞（HOC）の臨床検討。日本医科大学産婦人科同窓会第25回臨床研究会，1996。6。
- 13) 吉松和彦，小田部徹，根本芳広，関谷隆夫，石原楷輔，菊池三郎，荒木 勤：切迫早産の超音波画像からみた頸管腺領域像の意義の検討。日本産科婦人科学会関東連合地方部会学術集会，1996。6。
- 14) 石原楷輔：超音波経腔走査法による画像診断の活用。宮城県日母・日産婦学術講演会，1996。6。
- 15) 石原楷輔：超音波診断の基礎と最近の動向(経腔超音波診断の動向とカラードップラー法の活用-)。千葉日母・日産婦学術講演会，1996。6。
- 16) 石原楷輔：超音波経腔走査法による画像診断の活用。静岡県西部地区産婦人科医会，1996。6。
- 17) 寺嶋真理子，根本芳広，小西公麿，松本讓二，菊池三郎，田口正男<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東府中病院)：問題のあるCTG。第7回

分娩監視研究会, 1996. 6.

- 18) 吉松和彦, 塚田克也, 関谷隆夫, 松本讓二, 石原楷輔, 菊池三郎: Clear cell Carcinoma の1例. 第317回日本産科婦人科学会神奈川地方部会, 1996. 7.
- 19) 小田部徹, 深見武彦, 根本芳広, 竹内正弥, 関谷隆夫, 石原楷輔, 菊池三郎: 妊娠初期に急性腹症をきたした卵巣出血性嚢胞の2症例. 第317回日本産科婦人科学会神奈川地方部会, 1996. 7.
- 20) 小西公麿, 関谷隆夫, 石原楷輔, 菊池三郎: Martius Guthman 撮影時の性腺被曝線量の測定. 第317回日本産科婦人科学会神奈川地方部会, 1996. 7.
- 21) 小西公麿, 島田洋一<sup>1)</sup>, (<sup>1)</sup>麻酔科): 機能性月経困難症に対する芍薬甘草湯と皮内針の併用効果について. 第35回神奈川県漢方臨床研究会, 1996. 7.
- 22) 石原楷輔: 超音波経腔走査法による画像診断の活用. 松江市産婦人科医会, 1996. 7.
- 23) 石原楷輔: 超音波経腔走査法による画像診断の活用. 上越市産婦人科医会, 1996. 8.
- 24) 松島 隆, 塚田克也, 菊池三郎, 福田 悠<sup>1)</sup>, 石崎正通<sup>1)</sup>, 山中宣昭<sup>1)</sup>, (<sup>1)</sup>第一病理学教室): ラット発育黄体における細胞外基質および血管形成. 第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 9.
- 25) 小田部徹, 深見武彦, 根本芳広, 吉松和彦, 竹内正弥, 関谷隆夫, 石原楷輔, 菊池三郎: 妊娠初期に急性腹症をきたした出血性卵巣嚢胞の2例. 第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 9.
- 26) 石原楷輔: 経腔超音波診断の活用. 北総産婦人科医会, 1996. 9.
- 27) 石原楷輔: 超音波経腔法による画像診断の活用. 日産婦佐賀地方部会学術講演会, 1996. 9.
- 28) 石原楷輔: 医療保険に関する問題. 第318回日本産科婦人科学会神奈川地方部会, 1996. 9.
- 29) 有坂康子, 梅沢勝弘, 朝倉啓文, 越野立夫, 荒木 勤: 画像診断が有用であった右側腎閉鎖と同側腎無形成を合併した重複子宮の1例. 第92回日本産婦人科学会関東連合地方部会総会, 1996. 10.
- 30) 小西公麿, 竹内正弥, 尾形永太郎<sup>1)</sup>, 石原楷輔, 菊池三郎, 荒木 勤 (<sup>1)</sup>尾形産婦人科): Guthmann 法と尾骨突出の産科学的意義. 第92回日本産婦人科学会関東連合地方部会総会, 1996. 10.
- 31) 平田昌二, 松本讓二, 竹内正弥, 小林三平, 三並伸二, 石田明彦, 菊池三郎, 荒木 勤: 腹膜神経膠腫の1例. 第92回日本産婦人科学会関東連合地方部会総会, 1996. 10.
- 32) 竹内正弥, 松本讓二, 塚田克也, 小西公麿, 小林三平, 深見武彦, 斎藤 恵, 菊池三郎, 荒木 勤: 広範な脳転移をきたした絨毛癌化学療法後妊娠の1例. 第92回日本産婦人科学会関東連合地方部会総会, 1996. 10.
- 33) 根本芳広, 吉松和彦, 関谷隆夫, 石原楷輔, 菊池三郎, 荒木 勤: 卵巣出血性嚢胞の臨床的検討. 第92回日本産婦人科学会関東連合地方部会総会, 1996. 10.
- 34) 竹内正弥, 松本讓二, 小林三平, 平田昌二, 菊池三郎, 荒木 勤: hMG-hCG 療法における凝固線溶系分子マーカー測定の意味. 第41回日本不妊学会学術講演会, 1996. 11.
- 35) 小西公麿, 関谷隆夫, 大野治佳<sup>1)</sup>, 石原楷輔, 菊池三郎, (<sup>1)</sup>放射線科): Martius 法 Guthman 法撮影時の性腺被曝線量の測定. 日本医科大学医学会第90回例会, 1996. 11.
- 36) 深見武彦, 小田部徹, 小西公麿, 塚田克也, 関谷隆夫, 石原楷輔, 菊池三郎: 分娩後無気肺を来した1例. 第319回日本産婦人科学会神奈川地方部会, 第38回神奈川医学会総会産婦人科分科会, 1996. 11.
- 37) 吉松和彦, 塚田克也, 関谷隆夫, 石原楷輔, 菊池三郎, 五十嵐寛<sup>1)</sup>, 木口一成<sup>2)</sup>, (<sup>1)</sup>いちょう台クリニック, <sup>2)</sup>聖マリアンナ医大): hCG 低値で SCC 高値を示した絨毛癌の1例. 第319回日本産婦人科学会神奈川地方部会, 第38回神奈川医学会総会産婦人科分科会, 1996. 11.
- 38) 石原楷輔: 産婦人科領域における経腔法による超音波診断. 世田谷区産婦人科医会, 1996. 11.
- 39) 石原楷輔: 経腔法による超音波画像診断. 鹿児島産婦人科医会学術講演会, 1996. 12.
- 40) 斎藤 恵, 三並伸二, 関谷隆夫, 菊池三郎, 雨宮 章<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>聖マリアンナ医大): 新生児の身長測定に関する意識調査—神奈川県の新生児関係の医療従事者を対象として—. 第17回神奈川県病院学会, 1996. 12.
- 41) 深見武彦, 小田部徹, 吉松和彦, 根本芳広, 関谷隆夫, 石原楷輔, 菊池三郎: 頸管腺領域像の消失と分娩予後の

- 関連. 第321回日本産科婦人科学会神奈川地方部会, 1996. 1.
- 42) 根本芳広, 関谷隆夫, 石原楷輔: 妊娠と HOC. 第8回日本超音波医学会関東甲信越地方部会学術講演会, 1996. 1.
- 43) 三並伸二, 有坂康子, 塚田克也, 関谷隆夫, 石原楷輔, 菊池三郎, 松本光司<sup>1)</sup> (1)付属第二病院病理部): X 線にて診断し得た骨形成不全症型の1例. 第322回日本産科婦人科学会神奈川地方部会, 1996. 2.
- 44) 石原楷輔: 更年期外来における経腔超音波の活用. 更年期 ME 研究会, 1997. 2.
- 45) 石原楷輔: 流早産管理. 広島日母・日産婦学術講演会, 1997. 3.
- 46) 斎藤 恵, 吉松和彦, 塚田克也, 関谷隆夫, 竹下俊行, 石原楷輔, 菊池三郎: 遺伝的素因が考えられた頸管無力症の2例. 第323回日本産科婦人科学会神奈川地方部会, 1996. 3.
- 47) 吉松和彦, 根本芳広, 関谷隆夫, 石原楷輔, 菊池三郎: 経腔超音波画像による新しい子宮頸管熟化の評価法と切迫流早産への応用. 第48回日本産科婦人科学会総会学術講演会, 1996. 4.
- 48) 根本芳広, 吉松和彦, 関谷隆夫, 石原楷輔, 荒木 勤: 出血性卵巣嚢胞の臨床的検討. 第68回日本超音波医学会研究発表会, 1996. 11.

## [多摩永山病院産婦人科]

### 研究概要

平成8年度の研究にはいくつかの見るべき成果を得ることが出来た。産科臨床においては助産婦とともに、新生児沐浴の際に自宅の浴槽を使用させる新しい試みについて、従来のベビーバス使用によるものとの比較を細菌学的検索を含めた感染症の立場から研究した。この結果は各家庭において一番風呂を使用すれば、大人が一人入浴したあとでも医学的にはなんら問題がないことが判明し、新たにベビーバスを購入するなどの必要もなく、従来の沐浴に新たな指導方針を付け加えることとなった。経済的な効果、住居内スペースの問題などもからめて読売新聞社の取材を受け、この研究成果は全国版の家庭欄で紹介された。この一年間に経験した貴重な臨床症例については、例年のごとくいくつかの症例報告としてまとめられた。臨床的研究としては今年度は、若月医師が精力的に超音波診断による研究を行い、また第二病院より配置替えとなった松本講師が婦人科内視鏡手術についての臨床研究を精力的に開始した。

基礎的な研究においては、米国エール大学に留学した磯崎医師が、妊婦尿中 hCG の  $\beta$ -core fragment を測定することが、ダウン症の出生前診断スクリーニングテストとして極めて有効であることを見だし、アムステルダム国際学会で発表した。本検査は、尿を用いることから妊婦に与える侵襲がなく、各国から注目され検査薬の業界誌に大きく報道されることとなった。その論文は欧文誌に accept された。従来から続けている絨毛癌細胞の増殖機構についての研究では、インターロイキン-6 が intracrine にその増殖を制御しているという事実を見出すことが出来た。この成果は欧文誌に accept され、さらに国際学会での招請講演として発表する機会が与えられた。そして国内においては研究会のワークショップで取り上げられた。日本人類遺伝学会臨床遺伝学認定医制度研修指導施設（指導医：佐々木茂助教授）として行っている出生前診断としての絨毛生検や羊水染色体検査に対して、研究的に FISH 法を採用し、中国からの留学生である王淑海客員研究員が検討して留学者研究会で発表した。染色体プローブ、遺伝子プローブとの hybridization に信頼性が獲得できれば、今後培養を待たずに臨床応用が期待されることである。

### 研究業績

#### 論文

(1) 原著:

- 1) Kong B, Isozaki T, Sasaki S: IL-6 Antisense-Mediated Growth Inhibition of a Choriocarcinoma Cell Line. An Autocrine Growth Mechanism. *Gynecologic Oncology*, 1996; 63: 78-84.
- 2) Cole LA, Isozaki T, Palomaki G, Canick J, Kellner L, Saller D, Cuckle H: Detection of  $\beta$ -core fragment

in second trimester Down's syndrome pregnancies. *Early Human Dev.* 1996 ; 47 : S47-49.

- 3) Isozaki T, Palomaki GE, Bahado-Singh RO, Cole LA : Screening for Down syndrome pregnancy using  $\beta$ -core fragment : prospective study. *Prenat Diagn* 1997 ; 17 : 407-413.
- 4) Cole LA, Keiiner LH, Isozaki T, Palomaki GE, Iles RK, Walker RP, Ozaki MP, Canick JA : Comparison of 12 assays for Detecting hCG and Related Molecules in Urine samples from Down syndrome pregnancies. *Prenat Diagn* 1997 ; 17 : in press.
- 5) 島香恵子, 若月雅美, 田中 彰, 武井麻紀, 三田俊二, 田中純也, 家永 聡, 佐々木茂 : 帝王切開後に反復発症した子宮内反症の1例. *日産婦東京会誌* 1996 ; 45 : 123-125.
- 6) 三田俊二, 島香恵子, 孔 北華, 武井麻紀, 家永 聡, 若月雅美, 田中 彰, 佐々木茂, 百束比古<sup>1)</sup>, 西島重信<sup>2)</sup>, 蒲生善久<sup>3)</sup> (<sup>1)</sup>付属病院形成外科, <sup>2)</sup>西島医院, <sup>3)</sup>がもうクリニック) : 有茎皮膚移植を用いて再建した外陰癌の2症例. *日産婦東京会誌* 1996 ; 45 : 204-208.
- 7) 佐々木茂 : 出生前診断について—我々の施設で行っている羊水穿刺の成績を中心に. *日産婦東京会誌* 1996 ; 45 : 277-283.
- 8) 田中 彰, 島香恵子, 武井麻紀, 三田俊二, 田中純也, 家永 聡, 若月雅美, 佐々木茂 : リンゴ病垂直感染の1例. *日産婦東京会誌* 1996 ; 45 : 304-307.
- 9) 家永 聡, 佐々木茂 : 妊婦と嗜好品. *周産期医学* 1996 ; 26(臨時増刊号) : 679-680.
- 10) 三田俊二, 藤井俊彦, 家永 聡, 磯崎太一, 若月雅美, 松本讓二, 佐々木茂 : 子宮頸部原発の疣状癌(verrucous carcinoma)の1例. *日産婦東京地方会誌* 1996 ; 45 : 564-566.
- 11) 松本讓二 : 習慣流産. *日医大誌* 1997 ; 64(1) : 91.
- 12) 高田みゆき<sup>1)</sup>, 樽見芳子<sup>1)</sup>, 谷川裕美<sup>1)</sup>, 田中美幸<sup>1)</sup>, 高崎幸子<sup>1)</sup>, 酒井和子<sup>1)</sup>, 家永 聡, 若月雅美, 田中 彰, 佐々木茂 (<sup>1)</sup>周産期病棟) : 沐浴指導の再検討. *東京母性衛生学会誌* 1997 ; 13 : 41-44.
- 13) 小西公磨, 松本讓二, 菊池三郎, 島田洋一<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>第二病院麻酔科) : 帝王切開後に類白血病反応を示した1例. *日産婦神奈川会誌* 1997 ; 33 : 218-220.

## 学会発表

[1995年度追加分]

一般講演 :

- 1) Hsu CD, Chung YK, Kardana A, Copel JA, Isozaki T, Lee IS, Cole LA : Elevated serum nicked and urinary beta-core fragment human chorionic gonadotropins in severe preeclampsia. *Society of Gynecologic Investigation 1996 Annual Meeting (Philadelphia)*, 1996. 3.
- 2) 小林由子<sup>1)</sup>, 村上隆介<sup>2)</sup>, 杉崎健一<sup>2)</sup>, 山本 鼎<sup>2)</sup>, 茂古沼吉宗<sup>1)</sup>, 隅崎達夫<sup>3)</sup>, 佐々木茂, 前田昭太郎<sup>4)</sup> (<sup>1)</sup>多摩南部地域病院放射線科, <sup>2)</sup>多摩永山病院放射線科, <sup>3)</sup>付属病院放射線科) : MRIが診断に有用であった子宮 cellular myomaの1例. 第408回日本医学放射線学会関東地方会, 1995. 12.
- 3) 三田俊二, 島香恵子, 孔 北華, 武井麻紀, 家永 聡, 若月雅美, 田中 彰, 佐々木茂, 百束比古<sup>1)</sup>, 西島重信<sup>2)</sup>, 蒲生善久<sup>3)</sup> (<sup>1)</sup>付属病院形成外科, <sup>2)</sup>西島医院限, <sup>3)</sup>がもうクリニック) : 有茎皮膚移植を用いて再建した外陰癌の2症例. 第297回日産婦東京地方部会例会ならびに第9回東京産婦人科医会, 日産婦東京地方部会合同研修会, 1996. 2.

(1) 招請講演 :

- 1) Sasaki S : IL-6 antisense oligonucleotides inhibit the growth of choriocarcinoma cells in vitro : A possible intra-cellular autocrine growth mechanism mediated by IL-6. *VIIIth World Congress on Gestational Trophoblastic Diseases (Seoul)*, Nov. 1996.

(2) ワークショップ：

- 1) 佐々木茂：IL-6 antisense による絨毛癌 JEG-3細胞の増殖抑制(絨毛，胎盤機能の分子生物学)．第4回日本胎盤研究会総会学術集会，1996．11．

(3) 一般講演：

- 1) Isozaki T, Palomaki GE, Bahado-Singh RO, Cole LA : Screening for Down syndrome pregnancy using beta-core fragment : prospective study. Recent Advances in Prenatal Diagnosis for Aneuploidy (Amsterdam), 1996. 5.
- 2) Isozaki T, Cole LA : Dissociation of hCG in pregnancy and trophoblastic Diseases. VIII World Congress on Gestational Trophoblastic Diseases (Seoul), Nov. 1996.
- 3) 佐々木茂，孔北華，田中 彰，若月雅美，磯崎太一，家永 聡，三田俊二，武井麻紀，島香恵子，荒木 勤：IL-6 antisense oligonucleotide による絨毛癌 JEG-3細胞の増殖抑制効果．第48回日本産婦人科学会総会，1996．4．
- 4) 村上正洋<sup>1)</sup>，百束比古<sup>1)</sup>，秋元正宇<sup>1)</sup>，佐々木茂<sup>(1)</sup>付属病院形成外科)：女性外陰部癌の有茎 DIEA 皮弁による再建術式の検討．第39回日本形成外科学会学術集会，1996．4．
- 5) 田中 彰，島香恵子，武井麻紀，三田俊二，田中純也，家永 聡，若月雅美，佐々木茂：リング病垂直感染症の1例．第298回日産婦東京地方部会例会，1996．5．
- 6) 宮坂正子<sup>1)</sup>，田中佳代<sup>1)</sup>，高塚麻由<sup>1)</sup>，坂本かおり<sup>1)</sup>，酒井和子<sup>1)</sup>，田中 彰，佐々木茂<sup>(1)</sup>周産期病棟)：本院における児の出生時体温と初回排便時間と哺乳力の関係．第14回東京母性衛生学会学術集会，1996．5．
- 7) 高田みゆき<sup>1)</sup>，樽見芳子<sup>1)</sup>，谷川裕美<sup>1)</sup>，田中美幸<sup>1)</sup>，高崎幸子<sup>1)</sup>，酒井和子<sup>1)</sup>，家永 聡，若月雅美，田中 彰，佐々木茂<sup>(1)</sup>周産期病棟)：沐浴指導の再検討．第14回東京母性衛生学会学術集会，1996．5．
- 8) 池谷登美枝<sup>1)</sup>，福岡イツ子<sup>1)</sup>，有馬千賀子<sup>1)</sup>，高杉誠子<sup>1)</sup>，遠藤三代子<sup>1)</sup>，島香恵子，三田俊二，田中 彰，佐々木茂<sup>(1)</sup>婦人科病棟)：外陰癌手術後の看護．第14回東京母性衛生学会学術集会，1996．5．
- 9) 島香恵子，田中 彰，武井麻紀，三田俊二，家永 聡，若月雅美，佐々木茂，荒木 勤：リング病垂直感染の1例．第91回日産婦関東連合地方部会総会，1996．6．
- 10) 三田俊二，島香恵子，孔北華，武井麻紀，家永 聡，若月雅美，田中 彰，佐々木茂，荒木 勤，百束比古<sup>1)</sup>，西島重信<sup>2)</sup>，蒲生善久<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院形成外科，<sup>2)</sup>西島医院，<sup>3)</sup>がもうクリニック)：腹直筋皮弁により形成した外陰癌の2症例．第91回日産婦関東連合地方部会総会，1996．6．
- 11) 吉松和彦，塚田克也，関谷隆夫，松本讓二，石原楷輔，菊池三郎：Clear cell carcinoma の1例．第314回日産婦神奈川地方部会，1996．7．
- 12) 三田俊二，藤井俊彦，家永 聡，磯崎太一，若月雅美，松本讓二，佐々木茂：まれな子宮頸部原発の疣状癌(verrucous carcinoma) の1例．第299回日産婦東京地方部会例会，1996．9．
- 13) 若月雅美，家永 聡，田中 彰，三田俊二，松本讓二，田中純也，佐々木茂，荒木 勤：甲状腺機能亢進症を合併した抗 E 抗体陽性妊娠の1例．第92回日産婦関東連合地方部会総会，1996．10．
- 14) 三田俊二，藤井俊彦，家永 聡，磯崎太一，若月雅美，松本讓二，佐々木茂，荒木 勤：子宮頸部に発生した疣状癌(verrucous carcinoma) の1例．第92回日産婦関東連合地方部会総会，1996．10．
- 15) 竹内正弥，松本讓二，塚田克也，小西公麿，小林三平，深見武彦，斉藤 恵，菊地三郎，荒木 勤：広汎な脳転移を来した絨毛癌化学療法後妊娠の1例．第92回日産婦関東連合地方部会，1996．10．
- 16) 竹本寿江<sup>1)</sup>，田端末美<sup>1)</sup>，斉藤由紀<sup>1)</sup>，酒井和子<sup>1)</sup>，家永 聡，田中 彰，佐々木茂<sup>(1)</sup>周産期病棟)：分娩時の言動に関連する因子．第37回日本母性衛生学会学術集会，1996．10．
- 17) 樽見芳子<sup>1)</sup>，高田みゆき<sup>1)</sup>，谷川裕美<sup>1)</sup>，田中美幸<sup>1)</sup>，酒井和子<sup>1)</sup>，家永 聡，田中 彰，佐々木茂<sup>(1)</sup>周産期病棟)：沐浴指導の再検討—清潔面から考える内風呂とペーパーバス—．第37回日本母性衛生学会学術集会，1996．10．
- 18) 池谷登美枝<sup>1)</sup>，福岡イツ子<sup>1)</sup>，有馬千賀子<sup>1)</sup>，高杉誠子<sup>1)</sup>，大園恵美<sup>1)</sup>，小林信子<sup>1)</sup>，遠藤三代子<sup>1)</sup>，島香恵子，三田



- 俊二, 田中 彰, 佐々木茂<sup>(1)</sup>婦人科病棟) : 外陰癌手術後の看護. 第37回日本母性衛生学会学術集会, 1996. 10.  
19) 王 淑 梅, 佐々木茂 : FISH 法による出生前診断の研究. 日本医科大学外国人留学者研究会, 1996. 11.

## [千葉北総病院産婦人科]

### 研究概要

当医局の特徴は、他の付属病院とは異なり、産婦人科と新生児管理（ハイリスク児を含めた）を切り離さず、母子センターとして総合的に機能させている点にある。周産期管理とそれに引き続く母児管理は、同施設内のGCUにおいて、当医局の医師と看護婦が引き続き行っている。現在、周産期管理の側からみた新生児管理と新生児管理の側からみた周産期管理の相互の観点から総合的な研究を始めている。

また、成田国際空港も近く、近隣地域の救命救急センターとして、“核（コア）”的存在ともなっており、他科と併診を余儀なくされる産科婦人科救命救急症例も多数存在し、産婦人科医としての救命救急医療についての研究も行っている。

一方、本院が開設されるまで近隣には総合的な病院施設が少なかったため、いまだに未診察・未治療の婦人科疾患症例が多数存在する。開院して3年が経過し、本院が当地に知られるようになって、それらの症例が当科を受診する機会が増えてきている。そのため、紹介患者でない完全な初診症例として、あまり経験できない非常に進行した悪性疾患や重症な合併症を有した産婦人科症例を経験する機会が多く、それら貴重な症例に対して十分な検討を行っている。

それぞれの研究項目についての成果は下記の業績に示す通りである。現在のところ、臨床的研究が主であるが、今後、基礎的研究にも発展させたいと考えている。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

- 1) 山口 暁, 峯 伸也, 都甲明子, 岩崎卓爾, 河村 堯, 荒木 勤 : 悪性眼球突出症を合併した妊娠の1例. 日産婦誌 1997 ; 49 : 133-135.
- 2) 余 紅, 森 修, 大秋美治, 河村 堯, 浅野伍朗 : 子宮に見られた adenomatoid tumor の3症例. 日医大誌 1996 ; 63 : 294-298.

##### (2) 総説：

- 1) 河村 堯, 荒木 勤 : 周産期の水, 電解質バランス : 羊水の代謝(羊水過多, 羊水過少). 周産期医 1997 ; 27 : 507-511.
- 2) 山口 暁, 竹内久美, 越野立夫 : 産婦人科研修ノート : 妊娠悪阻. 産と婦 1996 ; 63 : 206-207.
- 3) 田中 彰, 荒木 勤 : GBS. 周産期医 1996 ; 26 : 127-129.

#### 著書

- 1) 河村 堯 : [編集] 救急現場の救急医療. 小児, 新生児救急と産科, 婦人科救急. 1996 ; 荘道社 (東京).
- 2) 河村 堯 : 救急現場の救急医療. 小児, 新生児救急と産科, 婦人科救急 : 産科婦人科救急医療. 1996 ; pp185-202, 荘道社 (東京).
- 3) 田中 彰, 河村 堯 : 救急現場の救急医療 : 小児, 新生児救急と産科, 婦人科救急 : 高血圧, 痙攣を主訴とする産科疾患. 1996 ; pp251-254, 荘道社 (東京).
- 4) 田中 彰, 河村 堯 : 救急現場の救急医療 : 小児, 新生児救急と産科, 婦人科救急 : 破水を主訴とする産科疾患. 1996 ; pp256-259, 荘道社 (東京).

- 5) 山口 暁, 河村 堯: 救急現場の救急医療: 小児, 新生児救急と産科, 婦人科救急: 発熱腹痛を主訴とする婦人科疾患. 1996; pp334-339, 荘道社 (東京).
- 6) 山口 暁, 河村 堯: 救急現場の救急医療: 小児, 新生児救急と産科, 婦人科救急: 女性性器の外傷と救急処置. 1996; pp340-343, 荘道社 (東京).
- 7) 河村 堯: 疾患, 症状別: 今日の治療と看護: 妊娠悪阻. 1996; pp908-910, 南江堂 (東京).
- 8) 河村 堯: 疾患, 症状別: 今日の治療と看護: 前期破水. 1996; pp918-920, 南江堂 (東京).
- 9) 河村 堯: 患者のみかた: 身体 (局所) の理学的所見: 婦人科的理学的所見. Emergency Nursing 97春期増刊 1997; メディカ出版 (東京).

## 学会発表

### (1) 一般講演:

- 1) 山口 暁, 高橋 肇, 都甲明子, 岩崎卓爾, 田中 彰, 河村 堯: 血漿交換療法が有効であった急性妊娠脂肪肝の1例. 日産婦千葉地方部会平成8年度冬季学術講演会, 1997. 2.
- 2) 田中 彰, 谷内良成, 高橋 肇, 都甲明子, 岩崎卓爾, 山口 暁, 河村 堯: 双頸双角子宮の片側に発症した月経モリミナの1症例. 日産婦千葉地方部会平成8年度冬季学術講演会, 1997. 2.
- 3) 朝倉啓文, 小川隆吉, 横田明重, 山口 暁, 露木佳子, 加藤久盛, 竹下俊行, 越野立夫: 虚血, 再灌流時の胎児脳内一酸化窒素 (NO) の動態—ラット胎仔脳での経時的 NO 測定. 第48回日産婦学術講演会, 1996. 4.
- 4) 島香恵子, 田中 彰, 武井麻紀, 三田俊二, 家永 聡, 若月雅美, 佐々木茂, 荒木 勤: リンゴ病垂直感染症の1例. 第91回日産婦関東連合地方部会総会, 1996. 6.
- 5) 岩崎卓爾, 山口 暁, 進 純郎, 河村 堯, 荒木 勤: 各血液パラメーターの心拍数補正の必要性の有無について. 第32回新生児学会総会, 1996. 7.
- 6) 竹内正人, 加藤寛彦, 林 瑞成, 篠原継男, 粟田口康一, 山田恵三, 兼子和彦, 岩崎卓爾, 荒木 勤: 骨盤位胎児の血液動態の検討: 特に中大脳動脈血流の妊娠週数に伴う変化について. 第32回新生児学会総会, 1996. 7.
- 7) 都甲明子, 岩崎卓爾, 外山和秀, 山口 暁, 河村 堯, 荒木 勤, 大秋美治, 山川義寛: パルボウイルス感染により胎児水腫をきたしたと考えられる双胎妊娠の1例. 第32回新生児学会総会, 1996. 7.
- 8) 大屋敦子, 朝倉啓文, 山口 暁, 竹下俊行, 中井章人, 越野立夫, 荒木 勤: 沐浴が新生児の出生後体温調節機構に及ぼす影響. 第37回日本母性衛生学会総会, 1996. 10.
- 9) 内田裕美, 田沢篤枝, 花澤みどり, 島崎千壽, 岩崎卓爾, 山口 暁, 河村 堯, 荒木 勤: 分娩後陰血腫により敗血症を併発した産褥婦の看護 育児, 退院指導を通して. 第37回日本母性衛生学会総会, 1996. 10.
- 10) 岩崎卓爾, 山口 暁, 河村 堯, 荒木 勤, 内田裕美, 田沢篤枝, 花澤みどり, 島崎千壽: 重症陰血腫より後腹膜膿瘍, 敗血症を発症した1例. 第37回日本母性衛生学会総会, 1996. 10.
- 11) 山口 暁, 岩崎卓爾, 河村 堯, 荒木 勤, 内田裕美, 田沢篤枝, 花澤みどり, 島崎千壽: 急激な視力障害(悪性眼球突出症)を発症した甲状腺機能亢進症妊娠の1例. 第37回日本母性衛生学会総会, 1996. 10.
- 12) 若月雅美, 家永 聡, 田中 彰, 三田俊二, 松本穰二, 田中純也, 佐々木茂, 荒木 勤: 甲状腺機能亢進症を合併した抗E抗体陽性妊娠の1例. 第92回日産婦関東連合地方部会総会, 1996. 10.
- 13) 岩崎卓爾, 峯 伸也, 都甲明子, 外山和秀, 山口 暁, 河村 堯, 荒木 勤: 子宮動脈PIの周産期管理上の意義について. 第92回日産婦関東連合地方部会総会, 1996. 10.
- 14) 山口 暁, 峯 伸也, 都甲明子, 外山和秀, 岩崎卓爾, 河村 堯, 荒木 勤: 妊娠初期より経過を観察した無心体の1例. 第92回日産婦関東連合地方部会総会, 1996. 10.
- 15) 高橋 肇, 横田明重, 谷内良成, 朝倉啓文, 越野立夫, 都甲明子, 岩崎卓爾, 山口 暁, 田中 彰, 河村 堯: 最近経験した急性妊娠脂肪肝の2症例. 日本医大学会第91回例会, 1997. 2.

## 14. 耳鼻咽喉科学講座

### [付属病院耳鼻咽喉科]

#### 研究概要

教室の主研究テーマは、耳科学、聴覚学、平衡神経科学、免疫学、アレルギー学、頭頸部腫瘍学であるが、昨年度から音声言語学についての研究も始まり軌道にのりつつある。本年度から厚生省特定疾患前庭機能異常調査研究班の班長を八木聡明がつとめることになり、メニエール病や遅発性内リンパ水腫に関する研究が加速された。また、眼球運動の三次元解析に関する研究も、本年度は大きなソフトウェアの改良などの研究進歩があった。これらの研究の一部は、国際学会でも発表されている。聴覚学に関しては、耳鳴の発生機序とその治療に関する研究が大きな進歩をみせている。免疫学では、呼吸上皮の検討や内耳での免疫応答に関する研究が、一層の展開をみせている。また、アレルギー学ではその基礎と薬物治療に関する研究も引き続き積極的に行われており、厚生省長期慢性疾患総合研究事業アレルギー総合研究の班員として大久保公裕が研究にあつたている。また、文部省科学研究費の基盤研究や奨励研究を得て、それぞれの分野で研究が活発に行われている。

#### 研究業績

##### 論文

###### (1) 原著：

- 1) Yagi T, Ohyama Y : Three-dimensional analysis of nystagmus induced by neck vibration. *Acta Otolaryngol* 1996 ; 116 : 167-169.
- 2) Takahashi M<sup>1)</sup>, Tomiyama S (旭川医大耳鼻科) : Regeneration of the damaged endolymphatic sac epithelium. *Laryngoscope* 1996 ; 116 : 619-623.
- 3) Pawankar R, Okuda M, Suzuki K<sup>1)</sup>, Okumura K<sup>1)</sup>, Ra C<sup>1)</sup> (順天堂大免疫) : Phenotypic and molecular characteristics of nasal mucosal  $\gamma\delta$  T cells in allergic and infectious rhinitis. *Amer J Resp Crit Care Med* 1996 ; 153 : 1655-1665.
- 4) Nonaka M, Nonaka R, Jordana M<sup>1)</sup>, Dolovich J<sup>1)</sup> (MacMaster Univ Canada) : GM-CSF, IL-8, IL-1R, TNF- $\alpha$ R, and HLA-DR in nasal epithelial cells in allergic rhinitis. *Am J Respir Crit Care Med* 1996 ; 153 : 1675-1681.
- 5) Pawankar R, Ra C<sup>1)</sup> (順天堂大免疫) : Heterogeneity of mast cells and T cells in the nasal mucosa. *J Allergy Clin Immunol* 1996 ; 98 : 248-262.
- 6) Wu T<sup>1)</sup>, Ikezono T, Angus C W<sup>1)</sup>, Shelhamer J<sup>1)</sup> (NIH) : Tumor necrosis factors induces the 85kda cytosolic phospholipase A2 gene in human bronchial epithelial cells. *Biochimica et Biophysica Acta* 1996 ; 1310 : 175-184.
- 7) Jinnouchi K, Tomiyama S, Pawankar R, Ikezono T, Yagi T : Distribution of endothelin-1 like activity in the cochlea of normal guinea pigs. *Acta Otolaryngol* 1997 ; 117 : 41-45.
- 8) Ikezono T, Wu T<sup>1)</sup>, Yao X<sup>1)</sup>, Levine S<sup>1)</sup>, Angus C W<sup>1)</sup>, Shelhamer J H<sup>1)</sup> (NIH) : Leukemia inhibitory factor induces the 85kda cytosolic phospholipase A2 gene expression in cultured human bronchial epithelial cells. *Biochimica et Biophysica Acta* 1997 ; 1335 : 121-130.
- 9) Pawankar R, Okuda M, Yagi T, Azuma M<sup>1)</sup>, Okumura K<sup>1)</sup>, Ra C<sup>1)</sup> (順天堂大免疫) : Cytokine profile of  $\gamma\delta$  T cells in perennial allergic rhinitis and chronic rhinitis. *耳鼻免疫アレルギー* 1996 ; 14 : 92-93.
- 10) 陣内 賢, 石川富砂子, 野中 学, 池園弘美, 八木聡明 : 遺伝素因が疑われた完全型 Melkerson-Rosenthal 症候

- 群の1例。耳喉頭頸 1996；68：438-441.
- 11) 設楽明子, 大久保公裕, 相原康孝, 八木聰明：めまいを主訴とした異型 Fisher 症候群の1症例。耳喉頭頸 1996；68：968-970.
  - 12) 陣内 賢, 渡邊健一, 八木聰明, 波多野吟哉, 大河原大次：内頸静脈血栓症の1例。耳喉頭頸 1996；68：982-985.
  - 13) 馬場俊吉, 渡邊健一, 神尾友信, 相原康孝, 八木聰明：突発性難聴と基礎疾患。Audiol Jap 1996；39：323-324.
  - 14) 渡邊健一, 神尾友信, 馬場俊吉, 八木聰明：高度感音難聴と耳音響放射。Audiol Jap 1996；39：543-544.
  - 15) 神尾友信, 渡邊健一, 馬場俊吉, 八木聰明：バンドノイズマスクーによる耳鳴抑制と DPOAE の変化。Audiol Jap 1996；39：657-658.
  - 16) 波多野吟哉：前庭代償に関する頸部深部知覚の役割。日耳鼻 1996；99：1176-1184.
  - 17) 高橋久昭<sup>1)</sup>, 鎌田信悦<sup>1)</sup>, 川端一嘉<sup>1)</sup>, 中溝宗永, 内田正興<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>癌研頭頸科, <sup>2)</sup>内田耳鼻科)：上咽頭癌の補助化学療法の有効性。日耳鼻 1996；99：267-276.
  - 18) 苦瓜知彦<sup>1)</sup>, 鎌田信悦<sup>1)</sup>, 川端一嘉<sup>1)</sup>, 中溝宗永, 保喜克文<sup>1)</sup>, 永橋立望<sup>1)</sup>, 横島一彦, 吉本世一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>癌研頭頸科)：中咽頭側壁扁平上皮癌の予後を左右する因子の分析。日耳鼻 1996；99：1190-1199.
  - 19) 富山俊一, 原田 保<sup>1)</sup>, Pawankar R, 陣内 賢, 木下俊之, 高橋光明<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>阪大耳鼻科, <sup>2)</sup>旭川医大耳鼻科)：内耳免疫現象の基礎的研究：内リンパ嚢局所抗原刺激における内耳初期免疫動態。Otol Jpn 1996；6：163-169.
  - 20) 小坂和己, 野中玲子, 青木秀治, 八木聰明：Glomus tympanicum tumor の1例。Otol Jpn 1996；6：198-202.
  - 21) 奥田 稔, 八木聰明, 大久保公裕, 他68人：KW-4679 (Olopatadine hydrochloride) の通年性アレルギー性鼻炎に対する臨床後期第II相試験 多施設二重盲法による至適使用量の検討。耳鼻 1996；42：608-632.
  - 22) 奥田 稔, 八木聰明, 大久保公裕, 他91人：KW-4679 (Olopatadine hydrochloride) の通年性アレルギー性鼻炎に対する臨床評価 Oxatomide を対照薬とした二重盲検比較試験。耳鼻 1996；42：633-658.
  - 23) 富山俊一, Pawankar R, 陣内 賢, 池園哲郎：内リンパ嚢局所抗原刺激における内耳初期免疫動態。耳鼻免疫アレルギー 1996；14：104-105.
  - 24) 陣内 賢, 富山俊一, Pawankar R, 八木聰明：内リンパ嚢局所免疫反応動物におけるエンドセリン-1の内耳局在について。耳鼻免疫アレルギー 1996；14：106-107.
  - 25) 大久保公裕, 秋元利香, Pawankar R, 後藤 稔, 奥田 稔, 八木聰明：舌下口腔粘膜減感作療法の基礎：動物実験とヒト口腔粘膜での吸収率。耳鼻免疫アレルギー 1996；14：118-119.
  - 26) 野中 学, Pawankar R, 奥田 稔, 八木聰明：マクロライド抗生物質の線維芽細胞に対する影響について。耳鼻免疫アレルギー 1996；14：172-173.
  - 27) 山崎綾子<sup>1)</sup>, 新見やよい<sup>1)</sup>, 青木美佳子<sup>1)</sup>, 畑三恵子<sup>1)</sup>, 矢島 純<sup>1)</sup>, 本田光芳<sup>1)</sup>, 潮建司郎, 富山俊一(<sup>1)</sup>日医大皮膚科)：甲状腺患者に発生した落葉状天疱瘡の1例。皮膚臨床 1996；38：1401-1404.
  - 28) 三谷浩樹<sup>1)</sup>, 中溝宗永, 鎌田信悦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>癌研頭頸科)：耳下腺内神経原性腫瘍の3症例。耳展 1996；39：267-272.
  - 29) 三枝英人, 潮建司郎, 國友万由美, 新美成二<sup>1)</sup>, 八木聰明(<sup>1)</sup>東大音声研)：口蓋咽頭側面縫縮術：鼻咽腔閉鎖不全に対する新しいアプローチ。音声言語医学 1996；37：312-316.
  - 30) 三枝英人, 潮建司郎, 國友万由美, 新美成二<sup>1)</sup>, 八木聰明(<sup>1)</sup>東大音声研)：前方型披裂軟骨脱臼症の治療経験：甲状軟骨形成術の応用。気食 1996；47：539-544.
  - 31) 足立雅利<sup>1)</sup>, 鎌田信悦<sup>1)</sup>, 川端一嘉<sup>1)</sup>, 高橋久昭<sup>1)</sup>, 中溝宗永, 苦瓜知彦<sup>1)</sup>, 保喜克文(<sup>1)</sup>癌研頭頸科)：下顎再建術式と術後機能に関する検討。耳鼻頭頸 1997；69：9-13.
  - 32) 三枝英人, 秋元利香, 劉 愛民<sup>1)</sup>, 神尾友信, 渡邊健一, 富山俊一, 相原 薫<sup>1)</sup>, 八木聰明(<sup>1)</sup>中央電頭)：側頭骨原発悪性リンパ腫の1症例。耳喉頭頸 1997；69：233-238.
  - 33) 中溝宗永, 鎌田信悦<sup>1)</sup>, 川端一嘉<sup>1)</sup>, 苦瓜知彦<sup>1)</sup>, 保喜克文(<sup>1)</sup>癌研頭頸科)：咽頭全摘出術後の咽頭皮膚瘻。日耳鼻 1997；100：213-219.
  - 34) 奥田 稔, 八木聰明, 大西正樹, 大久保公裕, 横島一彦, 他85名：通年性アレルギー性鼻炎に対する TMK-688

- の臨床評価 至適投与量の検討. 耳鼻 1997; 43: 218-238.
- 35) 奥田 稔, 八木聡明, 大久保公裕, 滝沢竜太, 後藤 穰, 他85名: 通年性アレルギー性鼻炎に対する TMK-688 の臨床評価: 低用量での至適投与量の検討. 耳鼻 1997; 43: 239-260.
- 36) 後藤 穰, 滝沢竜太, Pawankar R, 大久保公裕, 八木聡明: 鼻粘膜上皮細胞のサイトカイン産生に対する塩酸アゼラスチンの効果. 耳鼻免疫アレルギー 1997; 15: 21-26.
- 37) 大久保公裕, 秋元利香, 奥田 稔, 八木聡明, 坂口雅弘, 井上 栄: スギ花粉症に対する舌下免疫療法の基礎 人口腔粘膜でのスギ major allergen 吸収率. 耳鼻免疫アレルギー 1997; 15: 35-38.
- 38) 野中 学, Pawankar R, 八木聡明: ロキソロマイシンの線維芽細胞に対する影響について. 耳鼻免疫アレルギー 1997; 15: 39-43.
- 39) 藤倉輝道, 秋元利香, 馬場俊吉: 深頸部感染症の5症例. 耳展 1997; 40: 180-185.
- 40) 川島 真<sup>1)</sup>, 中道 昇<sup>2)</sup>, 大久保公裕, 関野久之<sup>3)</sup>, 久保容子<sup>3)</sup>, 高橋直樹<sup>3)</sup>, 安田栄一<sup>3)</sup>, 熊倉博之<sup>3)</sup>, 西岡佳隆<sup>3)</sup>  
(<sup>1)</sup>女子医大皮膚科, <sup>2)</sup>慈恵医大薬理, <sup>3)</sup>関野研究所): ムピロシン軟膏の皮膚安全性試験. 薬理と臨床 1997; 24: 85-92.
- (2) 綜説:
- 1) 八木聡明: 診療の秘訣 耳鳴の診療. Modern Physician 1996; 16: 486.
- 2) 八木聡明: 私の処方 めまい. Modern Physician 1996; 16: 488.
- 3) 八木聡明: 耳手術における立体ビデオ画像. 耳鼻臨床 1996; 89: 546-547.
- 4) 八木聡明: めまい. Modern Physician 1996; 16: 642-645.
- 5) 八木聡明: 鼓室形成術とインフォームド・コンセント. JOHNS 1996; 12: 1069-1071.
- 6) 馬場俊吉: めまい, 立ちくらみ. 小児内科 1996; 28: 1442-1446.
- 7) 富山俊一: 自己免疫性内耳疾患. 日耳鼻専門医通信 1996; 49: 18-19.
- 8) 大西正樹: 特異的減感作療法に用いる抗原液でアナフィラキシーショックを呈した1例. 診断と治療 1996; 84(suppl): 744.
- 9) 大西正樹: アレルギー性鼻炎のステロイド治療. アレルギーの領域 1996; 3: 36-40.
- 10) 相原康孝: Common Drugs 350の投与戦略 神経・筋疾患治療薬: メリスロン, ドラマミン. medicina 1996; 33: 164-165.
- 11) 富山俊一: 耳鼻咽喉科薬物療法の実際 慢性(再発性)耳下腺炎. JOHNS 1997; 13: 470-471.
- 12) 大久保公裕: スギ花粉症の基礎と臨床一感作, 発症, 治療(減感作療法)一. 耳鼻免疫アレルギー 1996; 14: 30-31.
- 13) 大久保公裕: スギ花粉症に対する減感作療法. アレルギー科 1996; 1: 306-310.
- 14) 大久保公裕: 鼻アレルギーにおける鼻用ステロイド噴霧吸入薬について. アレルギーの臨床 1996; 16: 40-42.
- 15) 大久保公裕: 耳鼻咽喉科における disodium cromoglycate および nedocromil. アレルギーの領域 1996; 3: 54-57.
- 16) 大久保公裕: 抗アレルギー薬の季節前投与法. Modern Physician 1996; 16: 155-158.
- 17) 大久保公裕: 花粉症の減感作療法. からだの科学 1997; 193: 68-72.
- 18) 大久保公裕: 花粉症に対する薬物療法の実際. アレルギーの領域 1997; 4: 53-60.
- 19) 大久保公裕: 鼻粘膜の神経ペプチドとその分解酵素. 都耳鼻会報 1997; 94: 32-38.
- 20) 大久保公裕: 海外の花粉症. 治療 1997; 79: 12-16.
- 21) 大久保公裕: アレルギー性鼻炎(含花粉症)の治療. クリニカ 1997; 24: 69-73.
- 22) 大久保公裕: 吹き抜け骨折(特集: 外傷と耳鼻咽喉科). 耳喉頭頸 1997; 69: 66-70.
- 23) 大久保公裕: 副鼻腔炎(特集: 小児科医でもここまでできる境界領域). 小児科 1997; 38: 567-572.
- 24) 馬場俊吉: メニエール病. 臨床栄養 1997; 90: 418-420.

(3) 研究報告書：

- 1) 八木聰明, 陣内 賢, 富山俊一, Pawankar R, 池園哲郎：ラット蝸牛におけるエンドセリン-1とビッグエンドセリン-1の分布。厚生省特定疾患前庭機能異常調査班平成8年度研究報告書, 1997；pp27-29.
- 2) 八木聰明, 富山俊一, 池園哲郎, 陣内 賢, Pawankar R：内耳自己免疫病モデル作製の試み。厚生省特定疾患前庭機能異常調査班平成8年度研究報告書, 1997；pp60-62.
- 3) 八木聰明, 池園哲郎, 陣内 賢, 富山俊一, Pawankar R：交感性迷路炎動物モデルの聴力変化について。厚生省特定疾患前庭機能異常調査班平成8年度研究報告書, 1997；pp73-75.
- 4) 八木聰明, 大久保公裕, 小坂和己, 鈴鹿有子<sup>1)</sup>, 大谷真喜子<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>大阪北通信病院, <sup>2)</sup>済生会泉尾病院)：遅発性内リンパ水腫患者血清中とウシ内耳抗原との反応。厚生省特定疾患前庭機能異常調査班平成8年度研究報告書, 1997；pp76-78.
- 5) 大久保公裕, 奥田 稔：スギ花粉症の特異的免疫療法—現在の治療成績と今後の展開—。平成8年度厚生省長期慢性疾患総合研究事業 アレルギー総合研究 研究報告書 花粉症班, 1997；pp58-60.

著 書

- 1) Pawankar R, Ra C<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>順天堂大免疫)：Interleukin-13 and IL-13 Receptor. In：Allergy. (ed. K. Ito. & Ra. C) 1996；pp115-125, Kagaku Hyoronsha.
- 2) Ra C<sup>1)</sup>, Pawankar R, Nishiyama C<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>順天堂大免疫)：FcεRI and allergy. In：Medicina. 1997；34：341-345, Igakushoin, Tokyo.
- 3) 八木聰明：〔分担〕 良性発作性頭位眩暈症。“耳鼻咽喉科・頭頸部外科クリニカルトレンド” (野村恭也, 本庄 巖, 平出文久編集), 1996；pp108-110, 中山書店.
- 4) 八木聰明：〔分担〕 耳硬化症。“今日の治療と看護” (水島 裕監修), 1996；pp1121-1122, 南江堂.
- 5) 富山俊一：〔分担〕 内耳自己免疫病の免疫学的検査。図説耳鼻咽喉科 NEW APPROACH No. 3 耳鼻咽喉科疾患への免疫学的アプローチ。(茂木五郎編), 1996；pp24-28, メヂカルレビュー社.
- 6) 神尾友和, 杉浦和朗<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>東京労災病院脳外科)：〔翻訳〕 医療の質とサービス革命「患者満足」への挑戦。Service Quality Improvement. The Customer Satisfaction Strategy for Health Care. (Wendy Leebov and Gail Scott), 1996；日本医療企画.
- 7) 大久保公裕：アレルギー性鼻炎に対する減感作療法の意義と新しい試み。アレルギー疾患 Q & A (宮本昭正監修), 1996；pp192-193, 医薬ジャーナル社.
- 8) 大西正樹：〔分担〕 鼻 アレルギー「今日の治療指針」(日比原重明, 阿部正和監修), 1997；pp582-583, 医学書院.

学会発表

(1) シンポジウム：

- 1) Yagi T, Ishikawa N<sup>1)</sup>, Katayama K<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>日本光電, <sup>2)</sup>フライト)：Three-dimensional analysis of eye movements using a computer image recognition technique：update version of the system. XIXthe meeting of Barany Society (Sydney), 1996. 8.
- 2) Pawankar R：FcεRI+ cells in the nasal mucosa of perennial allergic rhinitics. 1st Asian Rhinology Society Research Symposium (Luncheon Seminar), 1996. 11.
- 3) Pawankar R：Cytokine profile in the nasal mucosa of perennial allergic rhinitics, especially with respect to mast cells. 第8回日本アレルギー春季臨床大会, 1996. 4.
- 4) Pawankar R：Heterogeneity of nasal mast cells in allergic and infective rhinitics. 第26回日本免疫学会, 1996. 11.

- 5) 高橋光明<sup>1)</sup>, 富山俊一<sup>(1)</sup>旭川医大耳鼻科): 免疫学的機序による内耳傷害. 第8回日本アレルギー学会春季臨床大会, 1996. 4.
  - 6) 大久保公裕, 奥田 稔: 鼻粘膜の Late Reaction (アレルギーターゲットとしての上気道). 第8回日本アレルギー学会春季臨床大会, 1996. 4.
  - 7) 大塚博邦, 大久保公裕, 奥田 稔: スギ花粉症に対する減感作療法の効果 (花粉症患者の動向と予防, 治療). 第8回日本アレルギー学会春季臨床大会, 1996. 4.
  - 8) 大久保公裕: アレルギー性鼻炎に対する減感作療法のインフォームドコンセント (インフォームドコンセントと医療問題). 日耳鼻東京都地方部会第22回教育パネル, 1996. 9.
  - 9) 大久保公裕, 後藤 稔: 花粉症患者鼻粘膜の腺組織, 血管の反応. 第46回日本アレルギー学会総会, 1996. 10.
  - 10) 大久保公裕: スギ花粉症に対する頓挫療法と特異的免疫療法. 第8回日光カンファレンス, 1997. 2.
- (2) パネルディスカッション:
- 1) 神尾友和: What's Hospitality. 東京ガス ホスピタリティフォーラム, 1996. 9.
- (3) 推薦講演:
- 1) 大久保公裕: 鼻粘膜のアンギオテンシン変換酵素 (耳鼻咽喉科, 頭頸部外科学の最先端). 第97回日本耳鼻咽喉科学会, 1996. 5.
  - 2) 大久保公裕: スギ花粉症の基礎と臨床. 第2回奈良県アレルギー性鼻炎研究会, 1997. 2.
- (4) 招待講演:
- 1) 八木聰明: メニエール病発作時眼振の特徴. 第2回東海メニエール病研究会, 1996. 10.
  - 2) 八木聰明: 鼓膜穿孔のない伝音難聴の取扱い. 西埼玉地区耳鼻咽喉科研究会, 1997. 1.
  - 3) 八木聰明: 鼓膜所見に異常のない伝音難聴の取扱い. SENT 会, 1997. 3.
  - 4) 大久保公裕: アレルギー性鼻炎治療のインフォームドコンセント. 柳川山門医師会, 小児科医会合同学術講演会, 1996. 12.
  - 5) 大久保公裕: アレルギー性鼻炎の基礎と臨床. 北多摩耳鼻咽喉科医会学術講演会, 1996. 12.
  - 6) 大久保公裕: 鼻粘膜の神経ペプチドとその分解酵素. 東京都耳鼻咽喉科医会学術講演会 1997. 1.
  - 7) 大久保公裕: アレルギー診療のインフォームドコンセント. 花巻市医師会生涯教育講座, 1997. 1.
  - 8) 大久保公裕: 花粉症治療の最前線. つくば市医会学術講演会 1997. 2.
  - 9) 大久保公裕: 花粉症の基礎と臨床. 千代田区医師会, 神田医師会合同学術講演会 1997. 2.
  - 10) 大久保公裕: 花粉症治療の最前線. 美作医会学術講演会 1997. 2.
  - 11) 大久保公裕: 花粉症治療の最前線. 東茨城郡, 那珂医師会学術講演会 1997. 2.
  - 12) 大久保公裕: 花粉症の最新治療. 中央耳鼻科会学術講演会 1997. 2.
  - 13) 大久保公裕: 花粉症治療の最前線. 八女筑後医師会学術講演会 1997. 2.
  - 14) 大久保公裕: 鼻アレルギー: 最近の話題. 尾張耳鼻咽喉科医会学術講演会 1997. 3.
  - 15) 大久保公裕: 花粉症治療の最前線. 郡山耳鼻咽喉科医会学術講演会 1997. 3.
  - 16) 大久保公裕: 花粉症治療の現状と展望. 泉区医師会学術講演会 1997. 3.
- (5) その他の講演:
- 1) 神尾友和: 医療法人制度の見直し. 保健・医療・福祉サービス研究会 1996. 7.
  - 2) 神尾友和: 病院機能評価と異形経営のあり方. MMPG 北陸定例研究会 1996. 7.
  - 3) 神尾友和: 医療改革のゆくえ. 保健・医療・福祉サービス研究会 1996. 11.
- (6) 一般講演:
- 1) Ikezono T, Liao X<sup>1)</sup>, Benfield T<sup>1)</sup>, Wu T<sup>1)</sup>, Levine S<sup>1)</sup>, Angus C W<sup>1)</sup>, Yagi T, Shelhamer J H<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>NIH): The effect of neutrophil elasetase on cytosolic PLA<sub>2</sub> enzyme induction in human bronchial epithelial cells. The international conference of The American Thoracic Society (St. Louis, Luisana), 1996. 5.

- 2) Wu T<sup>1)</sup>, Ikezono T, Angus C W<sup>1)</sup>, Shelhamer J H<sup>1)</sup> (<sup>1</sup>NIH) : Changes of cPLA2 expression alter p53 level in human airway epithelial cells. The international conference of The American Thoracic Society (St. Louis, Luisana), 1996. 5.
- 3) Yagi T, Hatano G, Ohyama Y, Ishikawa N<sup>1)</sup> (<sup>1</sup>日本光電) : Role of cervical proprioception in the precess of vestibular compensation. Satellite symposium on vestibular compensation of XIXth meeting of the Barany Society (Hamilton Island, Australia), 1996. 8.
- 4) Yagi T : Three dimensional analysis of nystagmus in peripheral vertigo. Collegium Oto-Rhino-Laryngologicum Amicitiae Sacrum-Conferance (Vancouver Canada), 1996. 9.
- 5) Tomiyama S, Pawankar R, Jinnouchi K, Ikezono T, Yagi T, Takahashi M<sup>1)</sup>, Harada T<sup>2)</sup> (<sup>1</sup>旭川医大耳鼻, <sup>2</sup>阪大耳鼻科) : Recruitment of immuno-competent cells for inner ear immune response. 33rd Workshop on Inner ear biology (Utrecht, Netherlands), 1996. 9.
- 6) Pawankar R, Okuda M, Yssel H<sup>1)</sup>, Okumura K<sup>2)</sup>, Yagi T, Ra C<sup>2)</sup> (<sup>1</sup>DNAX, <sup>2</sup>順天堂大免疫) : Nasal mast cells in perennial allergic rhinitics express increased levels of the FcεRI : IL-4 upregulates FcεRI expression in mast cells. 8th International Congress of Rhinology ( Ghent, Belgium), 1996. 9.
- 7) Nonaka M, Pawankar R, Okuda M, Yagi T : Effect of macrolide antibiotics on nasal polyp fibroblasts. 8th Congress of the International Rhinologic Society (Ghent, Belgium), 1996. 9.
- 8) Pawankar R, Okuda M, Yagi T, Okumura K<sup>1)</sup>, Ra C<sup>1)</sup> (<sup>1</sup>順天堂大免疫) : Nasal mast cells in perennial allergic rhinitics express increased levels of IL-4, IL-13, CD40L and FcεRI and can induce IgE synthesis in B cells. Joint Meeting of American Academy of Allergy, Asthma & Immunology, American Association of Immunology and Clinical Society of Immunology (San Francisco, CA), 1997. 2.
- 9) Kobayashi T<sup>1)</sup>, Okayama Y<sup>1)</sup>, Pawankar R, Ra C<sup>1)</sup> (<sup>1</sup>順天堂大免疫) : IL-13 expression and production by human lung mast cells. Symposium on Asthma (Sendai, Japan), 1997. 2.
- 10) 矢嶋裕徳, 森園徹志, 野中 学, 渡辺高弘<sup>1)</sup>, 矢島 洋<sup>1)</sup> (<sup>1</sup>静岡済生会病院) : 最近経験した鼻。副鼻腔腫瘍の検討。第48回日耳鼻静岡県地方部会, 1996. 4.
- 11) 渡辺高弘<sup>1)</sup>, 森園徹志, 野中 学, 矢嶋裕徳, 矢島 洋<sup>1)</sup> (<sup>1</sup>静岡済生会病院) : 咽頭潰瘍の2症例。第48回日耳鼻静岡県地方部会, 1996. 4.
- 12) 後藤 穰, 大久保公裕 : BK 誘発の ACE 阻害剤, NEP 阻害剤による変化。第8回日本アレルギー学会春期臨床大会, 1996. 4.
- 13) 三枝英人, 新美成二<sup>1)</sup>, 八木聡明 (<sup>1</sup>東大音声研) : フィーディングチューブを用いた嚥下のリハビリテーション。第5回耳鼻咽喉科リハビリテーション医学研究会, 1996. 4.
- 14) 三枝英人, 新美成二<sup>1)</sup>, 八木聡明 (<sup>1</sup>東大音声研) : 前方型破裂軟骨脱臼症に対する甲状軟骨形成術1型の応用。第8回日本喉頭科学会, 1996. 5.
- 15) 大山義雄, 八木聡明 : 頸部誘発眼振の三次元解析からみた前庭代償。第97回日本耳鼻咽喉科学会, 1996. 5.
- 16) 池園哲郎, T Wu<sup>1)</sup>, Shelhamer J H<sup>1)</sup>, 八木聡明 (<sup>1</sup>NIH) : 気道炎症におけるアラキドン酸代謝ー。好中球エラストラーゼの作用。第97回日本耳鼻咽喉科学会, 1996. 5.
- 17) 矢嶋裕徳, 森園徹志, 野中 学, 渡辺高弘<sup>1)</sup>, 矢島 洋<sup>1)</sup> (<sup>1</sup>静岡済生会病院) : 静岡市の平成8年度スギ。ヒノキ花粉飛散状況。第148回中部耳鼻科集談会, 1996. 6.
- 18) 野中 学, 野中玲子, 奥田 稔, 八木聡明, Dolovich J<sup>1)</sup>, Jordana M<sup>1)</sup> (<sup>1</sup>マックマスター大) : 鼻茸中好酸球からのインターロイキン4産生。第3回副鼻腔炎研究会, 1996. 6.
- 19) 小坂和己, 岩崎智治, 野中玲子, 梅澤葉子, 青木秀治 : 眼合併症を来した副鼻腔嚢胞の2症例。第43回日耳鼻千葉県地方部会, 1996. 6.
- 20) 森園徹志, 野中 学, 渡辺高弘<sup>1)</sup>, 矢嶋裕徳 (<sup>1</sup>静岡済生会病院) : 平成8年度スギ。ヒノキ科花粉の飛散状況。



- 第49回日耳鼻静岡県地方部会, 1996. 7.
- 21) 渡辺高弘<sup>1)</sup>, 森園徹志, 野中 学, 矢嶋裕徳<sup>1)</sup>(静岡済生会病院): 頸部に発生した巨大なデスモイドの1症例. 第49回日耳鼻静岡県地方部会, 1996. 7.
  - 22) 野中 学, Pawankar R, 八木聡明: 線維芽細胞に対するマクロライド抗生物質の影響. 第3回マクロライド新作用研究会, 1996. 7.
  - 23) 保喜克文<sup>1)</sup>, 川端一嘉<sup>1)</sup>, 中溝宗永, 苦瓜知彦<sup>1)</sup>, 三谷浩樹<sup>1)</sup>, 横島一彦, 永橋立望<sup>1)</sup>, 吉本世一<sup>1)</sup>, 高橋浩二<sup>1)</sup>, 鎌田信悦<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>癌研頭頸科): 1978年から1992年の15年間における下咽頭梨状陥凹癌108例の治療成績について. 第20回日本頭頸部腫瘍学会, 1996. 7.
  - 24) 川端一嘉<sup>1)</sup>, 鎌田信悦<sup>1)</sup>, 中溝宗永, 苦瓜知彦<sup>1)</sup>, 保喜克文<sup>1)</sup>, 三谷浩樹<sup>1)</sup>, 永橋立望<sup>1)</sup>, 横島一彦, 高橋浩二<sup>1)</sup>, 吉本世一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>癌研頭頸科): 下咽頭部分切除症例の経験. 第20回日本頭頸部腫瘍学会, 1996. 7.
  - 25) 苦瓜知彦<sup>1)</sup>, 鎌田信悦<sup>1)</sup>, 川端一嘉<sup>1)</sup>, 中溝宗永, 保喜克文<sup>1)</sup>, 三谷浩樹<sup>1)</sup>, 永橋立望<sup>1)</sup>, 横島一彦, 高橋浩二<sup>1)</sup>, 吉本世一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>癌研頭頸科): 下咽頭・食道重複癌治療上の問題点について. 第20回日本頭頸部腫瘍学会, 1996. 7.
  - 26) 豊田雅基, 三枝英人, 鈴木香代, 中溝宗永, 八木聡明: 急性扁桃炎から内頸静脈血栓症および肺塞栓をきたした1症例. 第116回日耳鼻東京都地方部会, 1996. 8.
  - 27) 馬場俊吉, 渡邊健一, 神尾友信, 相原康孝, 八木聡明: 突発性難聴と基礎疾患. 第41回日本聴覚医学会, 1996. 10.
  - 28) 渡邊健一, 神尾友信, 馬場俊吉, 八木聡明: 高度感音難聴と耳音響放射. 第41回日本聴覚医学会, 1996. 10.
  - 29) 神尾友信, 渡邊健一, 馬場俊吉, 八木聡明: バンドノイズマスカーによる耳鳴抑制とDPOAEの変化. 第41回日本聴覚医学会, 1996. 10.
  - 30) 富山俊一, 池園哲郎, 陣内 賢, Pawankar R, 小坂和己, 八木聡明: 実験的内耳自己免疫病(第1報)モデル作製の試み. 第6回日本耳科学会, 1996. 10.
  - 31) 陣内 賢, 富山俊一, 八木聡明: ビッグエンドセリン-1の内耳局在について. 第6回日本耳科学会, 1996. 10.
  - 32) 野中 学, Pawankar R, 奥田 稔, 八木聡明: 気道線維芽細胞の増殖能力の検討: 鼻腔と気管との比較. 第35回日本鼻科学会, 1996. 10.
  - 33) 後藤 稔, 大久保公裕: 塩酸エピナスチンのBK鼻粘膜誘発に対する影響. 第46回日本アレルギー学会, 1996. 10.
  - 34) 三枝英人, 豊田雅基, 新美成二<sup>1)</sup>, 八木聡明(<sup>1)</sup>東大音声研): 人工咽頭作成の試み. 第48回日本気管食道科学会 1996. 10.
  - 35) Matsuda H<sup>1)</sup>, Pawankar R, Sudo T<sup>1)</sup>, Ra C<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>順天堂大免疫): マウス高親和性IgEレセプター $\alpha$ 鎖モノクローナル抗体の樹立とマウスマスト細胞の解析. 第26回日本免疫学会, 1996. 11.
  - 36) Hasegawa S<sup>1)</sup>, Suzuki K<sup>1)</sup>, Pawankar R, Ra C<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>順天堂大免疫): ヒト血小板および巨核球におけるFc $\epsilon$ RIの発現および機能の検討. 第26回日本免疫学会, 1996. 11.
  - 37) 相原康孝, 佐久間文子, 八木聡明: 下肢, 体幹筋への振動刺激による重心動揺. 第55回日本平衡神経科学会, 1996. 11.
  - 38) 嘉村恵理子, 粉川隆行, 設楽明子, 鈴木香代, 大山義雄, 相原康孝, 八木聡明: OVARによる眼球運動の3次元解析. 第55回日本平衡神経科学会, 1996. 11.
  - 39) 三枝英人, 新美成二<sup>1)</sup>, 八木聡明(<sup>1)</sup>東大音声研): 後天性鼻咽腔閉鎖不全に対する口蓋咽頭側面縫縮術. 第41回日本音言語医学学会, 1996. 11.
  - 40) 大久保公裕, 後藤 稔, 山岸茂夫, 奥田 稔, 八木聡明: スギ花粉症に対する減感作療法. 第38回臨床アレルギー学会 1996. 11.
  - 41) 渡邊健一, 大山義雄, 波多野吟哉, 富山俊一, 八木聡明, 千葉 隆: OK-432局所注入による小児嚢胞状リンパ管腫治療の経験. 第35回小児耳鼻咽喉科研究会, 1996. 12.

- 42) 陣内 賢, 嘉村恵理子, 中溝宗永: 耳下腺癌再発例の拡大全摘手術の経験. 第7回頭頸部外科学会, 1997. 1.
- 43) 野中 学, Pawankar R, 八木聡明: 気道線維芽細胞に対するロキスロマイシンの影響について. 第9回気道病態シンポジウム, 1997. 1.
- 44) 中嶋博史, 三枝英人, 富山俊一, 八木聡明: 興味ある咽頭腔外異物の1症例. 第119回日耳鼻東京都地方部会, 1997. 1.
- 45) Pawankar R, Okuda M, Okumura K<sup>1)</sup>, Yagi T, Ra C<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>順天堂大免疫): FcεRI expression in nasal mast cells from perennial allergic and chronic infective rhinitis. 第15回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会, 1997. 3.
- 46) 山岸茂夫, 後藤 穰, 野中 学, 大久保公裕, 八木聡明, 奥田 稔: Hollister社製スギ抗原の減感作での治療効果: 鳥居薬品製との比較. 第2報. 第15回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会, 1997. 3.
- 47) 野中 学, Pawankar R, 佐地富砂子, 八木聡明: マクロライド抗生物質の線維芽細胞に対する影響について(第2報). 第15回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会, 1997. 3.
- 48) 富山俊一, Pawankar R, 陣内 賢, 池園哲郎, 野中 学: 内リンパ嚢局所免疫反応におけるIFN-γの動態. 第15回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会, 1997. 3.
- 49) 後藤 穰, 大久保公裕, 八木聡明: 塩酸エピナスチンのBK鼻粘膜誘発: 腺と血管に対する反応. 第15回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会, 1997. 3.
- 50) 大久保公裕, Pawankar R, 奥田 稔, 八木聡明: アレルギー性鼻炎鼻粘膜上皮層におけるエンドセリン発現: 抗原誘発との関係. 第15回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会, 1997. 3.
- 51) 三枝英人, 新見成二<sup>1)</sup>, 八木聡明 (<sup>1)</sup>東大音声研): アンギオテンシン変換酵素阻害剤服用が誘因と考えられた咽頭肉芽腫の1症例. 第9回日本喉頭科学会, 1997. 3.

## [第一病院耳鼻咽喉科]

### 研究概要

臨床的研究:

1. 鼻・副鼻腔乳頭腫の, 肉眼的所見と病理組織所見及び電顕的所見との関係, 手術法の選択について検討している.
2. 耳鳴と自律神経失調症, 神経症やうつ状態との関連性について, 診療内科的に研究している.

基礎的研究:

1. Immotile cilia syndromeを中心に各種気道疾患の鼻腔と気管支線毛を電顕的に観察し, 線毛の異常構造の検索を行っている.
2. 蒸留水注入による鼻粘膜の変化の形態学的観察.
3. 物理的気道粘膜損傷の再生についての免疫組織化学的観察.
4. 実験的糖尿動物の蝸牛管内微細構造変化.
5. ヒトと各種実験動物の鼓膜の電顕的ならびに免疫組織学的研究.

### 研究業績

#### 論文

[1992年度追加分]

原著:

Sakashita K, Yuge K, Hattori Y, Aida T : Etiology of epitympanic cholesteatoma. Cholesteatoma and Mastoid Surgery (Proceedings of the Fourth International Conference). Niigata Japan 1992 ; 12 : 387-393.

- 1) 川上雅彦<sup>1)</sup>, 服部康夫, 中村清一<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>都立広尾病院呼吸器科): Reflection of Structural Abnormality in the Axoneme of Respiratory Cilina in the Clinical Features of Immotile Cilia Syndrome. Internal Medicine 1996; 35: 617-623.
- 2) 上野則之, 松生愛彦, 服部康夫, 中村兼一, 弓削庫太: 慢性副鼻腔炎, アレルギー性鼻炎に伴う嗅覚障害におけるステロイド点鼻療法の治療効果—臨床的, 超微形態学的検討—. 新薬と臨床 1996; 45(別冊)
- 3) 並松茂樹, 中村進一, 服部康夫: 腎生検を用いた腎糸球体基底膜のPAM 並松変法の染色体について. 日本臨床電顕誌 1996; 29: 15-21.
- 4) 鄭 斯 馨, 喬 炎, 徐 光, 浅野伍朗, 柏戸 泉, 服部康夫, 弓削庫太: 豚鼠耳蝸和迷路動脈系統老化過程中的超微結構觀察. 中国眼耳鼻喉科雑誌 1996; 1: 85-87.

## 学会発表

### (1) 一般講演:

- 1) 上野則之: 嗅覚障害者の嗅上皮の形態学的検討. 第97回日本耳鼻咽喉科学会総会, 1996. 5.
- 2) 鈴木重剛: 蒸留水によるラット鼻粘膜傷害とその再生に関する実験的研究. 第35回日本鼻科学会, 1996. 10.

## [第二病院耳鼻咽喉科]

## 研究概要

平成8年度は当科研究テーマである鼻アレルギーの発症機序を中心いくつかの研究がなされた。中でも鼻粘膜には粘膜型肥満細胞と結合織型肥満細胞の亜型が存在するが、これら両者間に抗原によるヒスタミン遊離能、ロイコトリエン産生能に違いをみる事ができた。すなわち、鼻アレルギー発症にとって粘膜型肥満細胞がより重要であることを明らかにしたのであるが、この肥満細胞からの化学伝達物質遊離に対し、最近開発されたいくつかの鼻アレルギーの治療薬である抗アレルギー剤の抑制効果を解明した。また、鼻アレルギーの即時型反応に続く遅発相において、好塩基球細胞の浸潤が重要視されているが好塩基球活性因子の局在性について明らかにした。さらに現在鼻アレルギーの発症抗原の検査法として重要な位置にある試験管内IgE抗体の簡易システム法の開発を行った。

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著:

- 1) 大塚博邦, 調所廣之, 小山 守 他: 小児のかぜ症候群に対する K-CIT の臨床効果, Therapeutic Research 1996; 17: 329-338.
- 2) 藤倉輝道, 大塚博邦: 鼻粘膜における MCAF/MCP-1 産生細胞についての検討. 耳鼻咽喉科免疫アレルギー 1996; 14: 84-85.
- 3) 大塚博邦, 國友万由美: 鼻アレルギー鼻粘膜擦過片におけるダニ抗原惹起後のロイコトリエン産生に対する TMK-777 の抑制効果. 薬理と治療 1996; 24: 251-255.
- 4) 大塚博邦, 久野陽子, 小山 守: 下鼻甲介粘膜広範切除術. 頭頸部外科 1996; 6: 71-75.
- 5) 馬場駿吉<sup>1)</sup>, 大塚博邦, 黒崎貞行, 國友万由美, 後藤裕一 他(<sup>1)</sup>名古屋市立大学): ラマトロバンの鼻アレルギー臨床第Ⅲ相試験: テルフェナジンとの比較. 耳鼻臨床 1996; 87: 1-32.
- 6) 三枝英人, 潮建司朗<sup>1)</sup>, 國友万由美, 新美成二<sup>2)</sup>, 八木聰明(<sup>1)</sup>伊勢崎市民病院, <sup>2)</sup>東京大学音声言語医学研究施設): 口蓋咽頭側面縫縮術: 鼻咽腔閉鎖不全に対する新しいアプローチ. 音声言語医学 1996; 37: 312-316.
- 7) 大塚博邦: 鼻アレルギーの病態と治療について: 特集 第7回日光カンファレンス講演会. 新薬と臨床 1996; 9: 12-14.

- 8) 馬場駿吉<sup>1)</sup>, 國友万由美 他 (<sup>1)</sup>名古屋市立大学):新規トロンボキサン A<sub>2</sub>受容体拮抗薬ラマトロバン (BAY u 3405)の通年性鼻アレルギーに対する臨床的検討:用量設定後期第II相試験一.臨床医薬 1996;12:2561-2591.
- (2) 総説:
- 1) 大塚博邦:肥満細胞とトリプターゼ:免疫関連検査とその臨床的意義. Immunology Frontier 1996;6:41-44.
  - 2) 大塚博邦:ヒト粘膜型肥満細胞と結合組織型肥満細胞の役割:鼻粘膜組織を中心に. アレルギー科 1996;2:367-373.
  - 3) 大塚博邦:鼻アレルギーにおける最近のトピック. 都耳鼻会報 1997;94:26-31.
  - 4) 大塚博邦:スギ花粉症で行なわれる検査:[特集] スギ花粉症'97年診療ガイド一. 治療 1997;79:41-44.
  - 5) 大塚博邦:話題. 日医大誌 1997;64:106.

## 著 書

- 1) 大塚博邦:[分担]花粉症,鼻アレルギー.“内科治療ガイド'96”(和田 攻,大久保昭行,永田直一,矢崎義雄編),1996;pp1106-1111,文光堂.
- 2) 大塚博邦,黒崎貞行,小山 守,久野陽子:[分担]鼻検査:③鼻粘膜誘発試験.“アレルギー検査法”(宮本昭正,石川 喙,飯倉洋治編),1996;pp67-69,医薬ジャーナル社.
- 3) 大塚博邦:[分担]鼻の病気:急性副鼻腔炎,慢性副鼻腔炎(蓄膿症),歯性上顎洞炎,鼻茸,術後性上顎洞嚢胞,乾酪性副鼻腔炎,アレルギー性鼻炎,薬物性鼻炎,血管運動性鼻炎.“最新決定版家庭医学大全科”(中尾喜久,植村恭夫,高久史磨,鈴木章夫監),1996;pp746-771,法研.
- 4) 大塚博邦:[分担]鼻粘膜の肥満細胞の性質.“気道アレルギー'96”(牧野荘平,石川 喙監),1996;pp71-78,メディカルレビュー社.
- 5) 大塚博邦:[分担]花粉症の診断と検査.“花粉症:早めの対策と治療”(斎藤洋三編),1997;pp54-63,NHK 出版.
- 6) 大塚博邦:[分担]鼻粘膜肥満細胞分布とアレルギー反応への関与.“第一回那須ティーチン:アレルギー性鼻炎の臨床と発症機序”(奥田 稔編),1997;pp18-25,協和企画.

## 学会発表

### (1) 特別講演:

- 1) 大塚博邦:鼻アレルギーの最近のトピクス. 都耳鼻咽喉科医会,1996. 12.
- 2) 大塚博邦:鼻アレルギー発症機序. 静岡県医会講演会,1996. 6.

### (2) シンポジウム:

- 1) 大塚博邦,大久保公裕,奥田 稔:スギ花粉症に対する減感作療法の効果(シンポジウム9:花粉症患者の動向と予防,治療).第8回日本アレルギー学会春期臨床大会(横浜),1996. 4.
- 2) 大塚博邦:鼻粘膜肥満細胞に対する抗アレルギー薬の効果(シンポジウム12:非ステロイド性抗炎症薬).第46回日本アレルギー学会総会(宇都宮),1996. 11.

### (3) セミナー:

- 1) 大塚博邦:鼻アレルギーの発症機序,病態と治療.第10回日本アレルギー学会認定医教育セミナー(東京),1996. 9.

### (4) 一般講演:

- 1) 大塚博邦:鼻アレルギーの病態と治療について:アレルギー疾患における炎症と非ステロイド系抗炎症薬の役割.第7回日光カンファレンス,1996. 2.
- 2) 黒崎貞行,大塚博邦,滝沢竜太,小山 守,久野陽子,波多野吟哉<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>新松戸中央病院):アレルギー性真菌性副鼻腔炎の1症例.第37回臨床アレルギー研究会,1996. 6.

- 3) 大塚博邦：鼻粘膜肥満細胞分布とアレルギー反応への関与：アレルギー性鼻炎の臨床と発症機序。第1回那須テイーチン，1996。7。
- 4) 黒崎貞行，後藤裕一，國友万由美，小山 守，久野陽子，大塚博邦：アレルギー性真菌性副鼻腔炎症例。第97回神奈川県地方部会，1996。9。
- 5) 久野陽子，大塚博邦，黒崎貞行，後藤裕一，國友万由美，小山 守，川並汪一<sup>1)</sup>，本田伊克<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>第二病院病理，<sup>2)</sup>第二病院泌尿器科)：下顎部正中嚢胞の1症例。第97回神奈川県地方部会，1996。9。
- 6) 黒崎貞行，大塚博邦：アレルギー性鼻炎患者における Uni CAP system の臨床的有用性の検討。第46回日本アレルギー学会総会，1996。10。
- 7) 小山 守，大塚博邦，黒崎貞行：下咽頭梨状窩瘻の1症例。日本医科大学医学会第90回例会，1996。11。
- 8) 黒崎貞行，後藤裕一，國友万由美，小山 守，久野陽子，大塚博邦：鼻アレルギーにおける Uni CAP 100 の臨床的検討。第38回臨床アレルギー研究会，1996。11。
- 9) 久野陽子，後藤裕一，小山 守，國友万由美，黒崎貞行，大塚博邦，川並汪一<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>第二病院病理)：顎下腺 Oncocytoma の1症例。第98回神奈川県地方部会，1996。12。
- 10) 藤倉輝道，秋元利香，久野陽子，大塚博邦：上顎洞漿液性貯溜液中 IgE についての検討。第15回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会，1997。3。

## [多摩永山病院耳鼻咽喉科]

### 研究概要

頭頸部領域の穿刺吸引細胞診の有用性と応用についての検索。

扁桃の加齢による機能変化の研究。

鼻疾患の手術前後における呼吸動態についての研究。

### 研究業績

#### 学会発表

##### (1) 一般講演：

- 1) Yamada K<sup>1)</sup>, Saito T<sup>1)</sup>, Ohshima M<sup>1)</sup>, Shimada S (<sup>1)</sup>Dept. of Anesthesiology)：Additional posterior superior alveolar nerve block after neurolytic blockade of maxillary or infraorbital nerve. 8th World Congress on pain, Vancouver, BC, Canada, August 1996.
- 2) 添野眞一：中耳換気チューブ留置。第20回多摩耳鼻咽喉科臨床研究会，1997。3。
- 3) 添野眞一：花粉症（鼻炎）。アレルギー疾患講演会多摩保健所，1996。11。

## [千葉北総病院耳鼻咽喉科]

### 研究概要

内耳の免疫機構と疾患との関係および動物における末梢前庭障害の代償の前庭一次ニューロンの活動への影響についての研究を継続している。大学の基礎および基礎医学部門の印旛地区への移動が決定し，研究棟および中央図書館の建設が計画されているが，その時期は未定であり，依然として付属病院の研究施設を利用しての共同研究が大部分である。オリジナリティーのある研究のためには，その完成を待つより当座の研究施設が切望されている。

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著：

- 1) Nonaka M, Nonaka R, Jordana M<sup>1)</sup>, Dolovich J<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>McMaster Univ Canada) : GM-CSF, IL-8, IL-1R, TNF $\alpha$ R, and HLA-DR in nasal epithelial cells in allergic rhinitis. Am J Respir Crit Care Med 1996 ; 153 : 1675-1681.
- 2) Yagi T, Ohyama Y, Suzuki K, Kamura E, Kokawa T : 3D Anarysis of nystagmus in peripheral vertigo. Acta Otolaryngol (Stockh) 1997 ; 117 : 135-138.
- 3) 小坂和己, 野中玲子, 青木秀治, 八木聰明 : Glomus tympanicum tumor の 1 例. Otol Jpn 1996 ; 6 : 198-202.
- 4) 鈴木香代 : 前庭眼反射の三次元解析 : 頭位と眼球運動の関係について. 日耳鼻 1996 ; 99 : 1751-1757.
- 5) 小坂和己 : 感音難聴患者の内耳自己抗体に関する研究. 日耳鼻 1997 ; 100 : 205-212.

#### (2) 綜説：

- 1) 青木秀治 : 中耳の急性感染症 : 急性中耳炎に伴う内耳障害と反復性化膿性中耳炎. JOHNS 1996 ; 12 : 1473-1476.

### 学会発表

#### (1) 一般講演：

- 1) 中島智治, 小坂和己, 梅沢葉子, 野中玲子, 青木秀治 : 眼窩一角内合併症を生じた副鼻腔嚢胞の 2 症例. 第43回日耳鼻千葉県地方部会, 1996. 6.
- 2) 野中 学, 野中玲子, 奥田 稔, 八木聰明, Dolovich J<sup>1)</sup>, Jordana M<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>McMaster Univ Canada) : 鼻茸好酸球からのインターロイキン 4 産生. 第 3 回副鼻腔炎研究会, 1996. 6.
- 3) 富山俊一, 池園哲郎<sup>1)</sup>, 陣内 賢, Pawankar R, 小坂和己, 八木聰明 (<sup>1)</sup>伊勢崎市民病院) : 実験的内耳免疫病 : 第 1 報 : モデル動物作成の試み. 第 6 回日本耳科学会総会, 1996. 10.
- 4) 野中玲子, 小坂和己, 青木秀治 : 広範な上気道粘膜病変で初発した水泡性類天疱瘡の 1 例. 第44回日耳鼻千葉県地方部会, 1996. 11.
- 5) 青木秀治, 八木聰明 : 一側内耳破壊モルモットの対側外側半規管一次ニューロンの活動. 第55回日本平衡神経科学会総会, 1996. 11.
- 6) 粉川隆行, 嘉村恵理子, 鈴木香代, 大山義雄, 八木聰明 : ハイスピード CCD カメラを用いた眼球運動三次元解析. 第55回日本平衡神経科学会総会, 1996. 11.
- 7) 嘉村恵理子, 設楽明子, 鈴木香代, 大山義雄, 八木聰明 : OVAR による眼球運動の三次元解析. 第55回日本平衡神経科学会総会, 1996. 11.
- 8) 鈴木香代, 小坂和己, 野中玲子, 青木秀治 : 当科におけるめまい患者の統計的検討. 第45回日耳鼻千葉県地方部会, 1997. 2.

## 15. 泌尿器科学講座

### [付属病院泌尿器科]

#### 研究概要

付属5病院における主な研究領域は、泌尿器科腫瘍学、尿路結石学、尿路神経学、泌尿器内視鏡学、尿路炎症学、男性学 (Andrology)、腎移植学、婦人科的泌尿器科学などである。

付属病院泌尿器科における主な研究業績はつぎのものがあげられる。

1) 泌尿器腫瘍学：a) Cytokeratin 19 fragment の膀胱腫瘍における腫瘍マーカーとしての意義, b) ヒト泌尿器腫瘍細胞内におけるメタロチオネインの局在, c) ヒト泌尿器腫瘍の遺伝子治療のための基礎的研究, d) 上部尿路上皮内癌に対する経皮的 BCG 注入療法の有用性, e) 浸潤性尿路上皮癌に対する併用免疫化学療法。

2) 尿路結石学：a) 難治性上部尿路結石に対する ESWL 治療上の尿路感染症の評価, b) 経尿道的尿管結石砕石術におけるアレキサントリプターの効果。

3) 尿路神経学：a) 前立腺肥大症に対する塩酸タムスロシンの早期臨床効果, b) 排尿障害自覚症状スコアの各種排尿障害における有用性。

4) 泌尿器内視鏡学：a) 前立腺肥大症手術における改良型ループの意義, b) 極細尿管鏡による臨床上的有用性とジレンマ, c) 前立腺肥大症に対する電気蒸散術の効果。

5) 尿路炎症学：a) BCG 惹起肉芽腫性前立腺炎に対する経尿道的切除術, b) 血液浄化療法により救命しえた真菌性脳膿瘍, c) 敗血症に対する PMX 併用各種浄化療法の治療。

6) 腎移植学：ブタ腎のヒトへの異種移植における臨床的意義。

#### 研究業績

##### 論文

(1) 原著：

- 1) Senga Y, Kimura G<sup>1)</sup>, Hattori T, Yoshida K<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>Second Hospital of Nippon Medical School) : Clinical evaluation of soluble cytokeratin 19 fragments (CYFRA21-1) in serum and urine of patients with bladder cancer. *Urol* 1996 ; 48 : 703-710.
- 2) Woo ES<sup>1)</sup>, Kondo Y, Watkins SC<sup>1)</sup>, Hoyt DG<sup>1)</sup>, Lazo JS<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>Univ. of Pittsburgh) : Nucleophilic Distribution of Metallothionein in Human Tumor Cell. *Exp Cell Res* 1996 ; 224 : 365-371.
- 3) Yamada K, Seebach JD<sup>1)</sup>, DerSimonian H<sup>1)</sup>, Sachs DH<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>Transplantation Biology Research Center, Massachusetts General Hospital, Harvard Medical School) : Human anti-pig T-cell mediated cytotoxicity. *Xenotransplantation* 1996 ; 3 : 179-187.
- 4) Seebach JD<sup>1)</sup>, Yamada K, McMorrow IM<sup>1)</sup>, Sachs DH<sup>1)</sup>, DerSimonian HD<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>Transplantation Biology Research Center, Massachusetts General Hospital, Harvard Medical School) : Xenogenic human anti-pig cytotoxicity mediated by activated natural killer cells. *Xenotransplantation* 1996 ; 3 : 188-197.
- 5) Yamamoto S<sup>1)</sup>, Suzuki S<sup>2)</sup>, Hoshino A<sup>2)</sup>, Akimoto M, Shimada T<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>Second Hospital of Nippon Medical School, <sup>2)</sup>Biochemistry and Molecular Biology) : Herpes simplex virus thymidine kinase/ganciclovir mediated killing of tumor cells induces tumor-specific cytotoxic T cells in mice. *Cancer Gene Ther* 1997 ; 4 : 91-96.
- 6) 三浦剛史, 木村 剛<sup>1)</sup>, 赤坂修司<sup>1)</sup>, 長谷川潤, 秋元成太(<sup>1)</sup>付属第二病院泌尿器科) : 経尿道的前立腺切除術が奏功した BCG 療法後の肉芽腫性前立腺炎. *臨泌* 1996 ; 50 : 587-589.

(2) 総説：

- 1) 秋元成太, 清水宏之<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>付属第二病院泌尿器科)：血尿－泌尿器科からみた尿潜血反応陽性における診断のポイント。日本醫事新報 1996；No. 3777：23-28.
- 2) 堀内和孝, 秋元成太：特集：抗癌剤の特徴と効果的使い方, Adriamycin 膀胱癌, 癌と化学療法 1996；23：1916-1919.
- 3) 堀内和孝, 秋元成太：腎疾患治療マニュアル, 疾患別薬の使い方, 前立腺肥大症, 腎と透析 1996；41：335-337.
- 4) 山田和彦：異種移植の細胞性免疫－ヒト・ブタ間における T 細胞性免疫－. Organ Biology 1996；3：7-16.

著 書

- 1) 秋元成太：〔分担〕泌尿器内視鏡に関連する解剖, 腎と副腎。“泌尿器科内視鏡”(秋元成太, 三木 誠編), 1996；pp1-4, 医学書院.
- 2) 秋元成太：〔分担〕泌尿器内視鏡に関連する解剖, 尿管。“泌尿器科内視鏡”(秋元成太, 三木 誠編), 1996；pp4-5, 医学書院.
- 3) 秋元成太：〔分担〕泌尿器内視鏡に関連する解剖, 膀胱と前立腺。“泌尿器科内視鏡”(秋元成太, 三木 誠編), 1996；pp5-8, 医学書院.
- 4) 吉田和弘：〔分担〕泌尿器内視鏡検査の基本手技, 細径軟性鏡。“泌尿器科内視鏡”(秋元成太, 三木 誠編), 1996；pp48-55, 医学書院.
- 5) 西村泰司<sup>1)</sup>, 沖 守 (<sup>1)</sup>付属第一病院泌尿器科)：〔分担〕尿路結石－TUL を中心に。“泌尿器科内視鏡”(秋元成太, 三木 誠編), 1996；pp85-95, 医学書院.
- 6) 沖 守：〔分担〕泌尿器疾患と腹腔鏡, 膀胱疾患。“泌尿器科内視鏡”(秋元成太, 三木 誠編), 1996；pp263-265, 医学書院.
- 7) 沖 守：〔分担〕泌尿器疾患と腹腔鏡, その他。“泌尿器科内視鏡”(秋元成太, 三木 誠編), 1996；p266, 医学書院.
- 8) 小川秀彌：〔分担〕腎臓および泌尿器の病気。“ドクターズ・ファイル”(孫 秀 煥編), 1996；p475, 日本医療情報センター.
- 9) 小川秀彌：〔分担〕前立腺肥大症とはどんな病気か, ヒトのからだと病気の成り立ち。“看護学生”(小倉啓宏編), 1996；pp3~4, メヂカルフレンド社.
- 10) 小川秀彌：〔分担〕排尿困難。“看護学生”(小倉啓宏編), 1996；pp32~33, メヂカルフレンド社.
- 11) 小川秀彌：〔分担〕前立腺肥大症。“看護学生”(小倉啓宏編), 1996；pp36~37, メヂカルフレンド社.

学会発表

(1) 教育講演：

- 1) Yoshida K.：Thin Flexible Ureteronephroscopy-Technical Feasibility and Dilemma. 10th Congress of Japanese Society of Endourology and ESWL (Tokyo), 1996. 12.

(2) シンポジウム：

- 1) Kondo Y.：Complicated Stone Disease-its Problem and Prognosis, Treatment of upper urinary tract calculi with bacterial infection by extracorporeal shock wave lithotripsy (ESWL). 10th Congress of Japanese Society of Endourology and ESWL (Tokyo), 1996. 12.

(3) パネルディスカッション：

- 1) Horiuchi H, Oki M：Endoscopic Treatment for Benign Prostatic Hyperplasia, Transurethral resection of prostate (TURP) using a new electro-surgical resection device. 10th Congress of Japanese Society of Endourology and ESWL (Tokyo), 1996. 12.



(4) 一般講演：

- 1) Kondo Y, Rusnak JM<sup>1)</sup>, Hoyt DG<sup>1)</sup>, Settineri C<sup>1)</sup>, Woo E<sup>1)</sup>, Pitt BR<sup>1)</sup>, Lazo JS<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>Univ. of Pittsburgh) : Metallothionein protects against Apoptosis. 87th American Association of Cancer Research (Washington), 1996. 4.
- 2) Shimizu H, Suzuki S<sup>1)</sup>, Igarashi T<sup>1)</sup>, Akasaka S<sup>2)</sup>, Terashima Y, Akimoto M, Shimada T<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>Biochemistry and molecular biology, <sup>2)</sup>Second Hospital of Nippon Medical School) : Preferential gene transfer to bladder tumor by intravesical instillation of adenoviral vector. 91st American Urological Association (Florida), 1996. 5.
- 3) Yamada K, Gianello PR<sup>1)</sup>, Fishbein JM<sup>1)</sup>, Lorf T<sup>1)</sup>, Shimizu A<sup>1)</sup>, Colvin RB<sup>1)</sup>, Sachs DH<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>Transplantation Biology Research Center, Massachusetts General Hospital, Harvard Medical School) : Steroid administration interferes with the induction of transplant tolerance by cyclosporine. 15th Annual Meeting of American Society of Transplant Physicians (Dallas), 1996. 5.
- 4) Yamada K, Gianello PR<sup>1)</sup>, Fishbein JM<sup>1)</sup>, Lorf T<sup>1)</sup>, Shimizu A<sup>1)</sup>, Colvin RB<sup>1)</sup>, Sachs DH<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>Transplantation Biology Research Center, Massachusetts General Hospital, Harvard Medical School) : The influence of the thymus on transplantation tolerance in miniature swine. 15th Annual Meeting of American Society of Transplant Physicians (Dallas), 1996. 5.
- 5) Ierino FL<sup>1)</sup>, Yamada K, Lorf T<sup>1)</sup>, Sachs DH<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>Transplantation Biology Research Center, Massachusetts General Hospital, Harvard Medical School) : Mechanisms of tolerance to renal allograft in a miniature swine model. 15th Annual Meeting of American Society of Transplant Physicians (Dallas), 1996. 5.
- 6) Ierino FL<sup>1)</sup>, Yamada K, Hatch T<sup>1)</sup>, Sachs DH<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>Transplantation Biology Research Center, Massachusetts General Hospital, Harvard Medical School) : In-vitro evidence for regulatory cells in a miniature swine renal allograft model. 15th Annual Meeting of American Society of Transplant Physicians (Dallas), 1996. 5.
- 7) Kozlowski T<sup>1)</sup>, Fuchimoto, Y<sup>1)</sup>, Monroy R<sup>1)</sup>, Andrews D, Meehan S, Sablinski T, Yamada K, Sachs DH<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>Transplantation Biology Research Center, Massachusetts General Hospital, Harvard Medical School) : Removal of natural antibodies by multiple column perfusion to facilitate pig to baboon xenotransplantation. 15th Annual Meeting of American Society of Transplant Physicians (Dallas), 1996. 5.
- 8) Yamada K, Gianello PR<sup>1)</sup>, Fishbein JM<sup>1)</sup>, Lorf T<sup>1)</sup>, Shimizu A<sup>1)</sup>, Colvin RB<sup>1)</sup>, Sachs DH<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>Transplantation Biology Research Center, Massachusetts General Hospital, Harvard Medical School) : The influence of the thymus on transplantation tolerance in miniature swine. XVI World Congress of the Transplantation Society (Barcelona), 1996. 8.
- 9) Giangrande I<sup>1)</sup>, Yamada K, Germana S<sup>1)</sup>, Sachs DH<sup>1)</sup>, LeGuern C<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>Transplantation Biology Research Center, Massachusetts General Hospital, Harvard Medical School) : Tolerance cells infiltrating class I mismatched swine kidney grafts lack the CD4 single positive subset and down regulate TCR expression. XVI World Congress of the Transplantation Society (Barcelona), 1996. 8.
- 10) Yasumoto A<sup>1)</sup>, Yamada K, Sablinski T<sup>1)</sup>, LeGuern C<sup>1)</sup>, Sykes M<sup>1)</sup>, Sachs DH<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>Transplantation Biology Research Center, Massachusetts General Hospital, Harvard Medical School) : Mechanism of tolerance following class II transduction of autologous swine bone marrow. XVI World Congress of the Transplantation Society (Barcelona), 1996. 8.
- 11) Ierino FL<sup>1)</sup>, Yamada K, Hatch T<sup>1)</sup>, Sachs DH<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>Transplantation Biology Research Center, Massachusetts General Hospital, Harvard Medical School) : Preliminary in-vitro evidence for regulatory cells in a miniature swine allograft model. XVI World Congress of the Transplantation Society (Barcelona), 1996.

8.

- 12) Shimizu A<sup>1)</sup>, Yamada K, Meehan S<sup>1)</sup>, Sachs DH<sup>1)</sup>, Colvin RB<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>Transplantation Biology Research Center, Massachusetts General Hospital, Harvard Medical School) : Intra-graft cellular events associated with tolerance in pig allografts : The acceptance vs rejection. XVI World Congress of the Transplantation Society (Barcelona), 1996. 8.
- 13) Shimizu A<sup>1)</sup>, Yamada K, Meehan S<sup>1)</sup>, Sachs DH<sup>1)</sup>, Colvin RB<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>Transplantation Biology Research Center, Massachusetts General Hospital, Harvard Medical School) : Progressive allograft glomerulopathy arises in a modified tolerance induction protocol in inbred pigs. 29th Annual Meeting of American Society of Nephrology (New Orleans), 1996. 11.
- 14) Ogaki K, Horiuchi K, Nemoto K, Senga Y, Oki M, Hasegawa J, Yoshida K, Akimoto M : Transurethral electrovaporization of bladder cancer. 10th Congress of Japanese Society of Endourology and ESWL (Tokyo), 1996. 12.
- 15) Watanabe J<sup>1)</sup>, Tsuboi N<sup>1)</sup>, Osawa S<sup>1)</sup>, Yamamoto S<sup>2)</sup>, Amagai K<sup>3)</sup>, Horiuchi K, Oki M, Hasegawa J, Akimoto M (<sup>1)</sup>Dept of Urology, Nippon Medical School Chiba Hokusou Hospital, <sup>2)</sup>Dept. of Urology, Second Hospital of Nippon Medical School, <sup>3)</sup>Amagai Hospital) : Clinical Experience on Treatment for Ureteral Stones with TUL using Alexantriptor. 10th, Congress of Japanese Society of Endourology and ESWL (Tokyo), 1996. 12.
- 16) Osawa S<sup>1)</sup>, Tsuboi N<sup>1)</sup>, Watanabe J<sup>1)</sup>, Amagai K<sup>2)</sup>, Yoshida K, Akimoto M (<sup>1)</sup>Dept of Urology, Nippon Medical School Chiba Hokusou Hospital, <sup>2)</sup>Amagai Hospital) : A case of left upper urinary tract stones with anomalous renal unit treated by several methods. 10th. Congress of Japanese Society of Endourology and ESWL (Tokyo), 1996. 12.
- 17) Hori N, Ogawa H, Tanaka K<sup>1)</sup>, Kubota M<sup>1)</sup>, Kiriya I (<sup>1)</sup>Dept. of Urology, NTT Kantoteishin Hospital) : The necessity of transurethral resection of clinically benign prostatic hyperplasia for early detection of prostatic cancer (stage A). 10th Congress of Japanese Society of Endourology and ESWL (Tokyo), 1996. 12.
- 18) Horiuchi K, Hattori T, Akimoto M : The clinical effect of tamsulosin hydrochloride to benign prostatic hyperplasia at an early stage from one week after administration. 12th Symposium on prostate (Tokyo), 1996. 12.
- 19) 堀内和孝, 近藤幸尋, 木村 剛, 寺島保典, 沖 守, 長谷川潤, 吉田和弘, 秋元成太 : 表在性膀胱癌に対する再発予防 BCG 膀胱内注入療法の意義—再発予防効果および再発時の病理学的変化—. 第84回日本泌尿器科学会総会, 1996. 4.
- 20) 近藤幸尋, Lazo JS<sup>1)</sup>, 秋元成太 (<sup>1)</sup>Univ. of Pittsburgh) : 前立腺癌における核組織中のメタロチオネインとシスプラチン耐性. 第84回日本泌尿器科学会総会, 1996. 4.
- 21) 服部智任, 堀内和孝, 秋元成太 : 前立腺肥大症症状に対するタムスロシン並びにテラゾシンによる早期効果の比較. 第84回日本泌尿器科学会総会, 1996. 4.
- 22) 服部智任, 佐藤敬子<sup>1)</sup>, 田中穂積<sup>1)</sup>, 設楽紀子<sup>1)</sup>, 秋元成太 (<sup>1)</sup>北村山公立病院検査科) : 慢性前立腺炎にクラミジアトラコマチスは関係しているか?. 第84回日本泌尿器科学会総会, 1996. 4.
- 23) 千賀康弘, 木村 剛, 服部智任, 松沢一郎, 橋本義孝, 大垣憲司, 沖 守, 長谷川潤, 秋元成太 : 尿路上皮癌における血清中・尿中サイトケラチン19フラグメント測定 (シフラ21-1) の診断的意義 続報. 第84回日本泌尿器科学会総会, 1996. 4.
- 24) 佐藤三洋, 秋元成太, Lu ML<sup>1)</sup>, Richie JP<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>Brigham and Women's hospital, Harvard Medical School) : TNF $\alpha$  による前立腺癌培養細胞株 LNCaP のアポトーシスとプロテインキナーゼ. 第84回日本泌尿器科学会総

- 会, 1996. 4.
- 25) 清水宏之, 赤坂修治<sup>1)</sup>, 鈴木 聡<sup>2)</sup>, 五十嵐健人<sup>2)</sup>, 寺島保典, 秋元成太, 島田 隆<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>付属第二病院泌尿器科, <sup>2)</sup>生化学第2): アデノウィルスベクター膀胱内注入による BBN 誘発ラット膀胱癌の遺伝子治療の検討. 第84回日本泌尿器科学会総会, 1996. 4.
- 26) 濱崎 務, 大沢秀一<sup>1)</sup>, 堀内和孝, 鈴木康友, 沖 守, 長谷川潤, 吉田和弘, 秋元成太(<sup>1)</sup>付属千葉北総病院泌尿器科): 腎盂尿管腫瘍の臨床的検討. 第84回日本泌尿器科学会総会, 1996. 4.
- 27) 堀 夏樹, 小川秀彌, 桐山 功, 久保田正充<sup>1)</sup>, 田中求平<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>関東通信病院泌尿器科): 浸潤性膀胱癌に対する膀胱保存治療法の検討—動注療法を中心とした成績. 第84回日本泌尿器科学会総会, 1996. 4.
- 28) 桐山 功, 堀 夏樹, 久保田正充<sup>1)</sup>, 田中求平<sup>1)</sup>, 小川秀彌, 平岡保紀<sup>2)</sup>, 秋元成太 (<sup>1)</sup>関東通信病院泌尿器科, <sup>2)</sup>付属多摩永山病院泌尿器科): 前立腺癌の臨床統計的観察. 第84回日本泌尿器科学会総会, 1996. 4.
- 29) 丹羽直樹<sup>1)</sup>, 平岡保紀<sup>1)</sup>, 矢島勇臣<sup>1)</sup>, 岩本和夫<sup>1)</sup>, 高橋洋文<sup>1)</sup>, 沼沢和夫<sup>1)</sup>, 林 昭棟<sup>1)</sup>, 小川秀彌, 秋元成太(<sup>1)</sup>付属多摩永山病院泌尿器科): 前立腺癌全摘除術後の尿失禁. 第84回日本泌尿器科学会総会, 1996. 4.
- 30) 堀 夏樹, 小川秀彌, 桐山 功, 久保田正充<sup>1)</sup>, 田中求平<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>関東通信病院泌尿器科): Malignant fibrous histiocytoma の3例. 第47回通信医学協会総会, 1996. 4.
- 31) 清水宏之, 堀内和孝, 木村 剛<sup>1)</sup>, 濱崎 務, 秋元成太 (<sup>1)</sup>付属第二病院泌尿器科): 高齢者における浸潤性尿路上皮癌に対する多剤併用化学療法 of 検討. 第9回老年泌尿器科研究会, 1996. 5.
- 32) 鈴木康友, 堀内和孝, 服部智任, 近藤幸尋, 吉田和弘, 秋元成太: 前立腺肥大症に対する  $\alpha$ 1-blocker の有用性. 日本医科大学医学会第89回例会, 1996. 5.
- 33) 南雲久美子<sup>1)</sup>, 石原 武<sup>1)</sup>, 今泉 譲<sup>1)</sup>, 柳澤 紘<sup>1)</sup>, 石野尚吾<sup>1)</sup>, 久保田正充<sup>2)</sup>, 小川秀彌 (<sup>1)</sup>東京・北里研究所東洋医学総合研究所, <sup>2)</sup>関東通信病院泌尿器科): 難治性排尿障害に対する鍼治療効果の検討. 第47回日本東洋医学会学術総会, 1996. 5.
- 34) 大垣憲司, 根本 勺, 清水宏之, 寺島保典, 沖 守, 長谷川潤, 吉田和弘, 秋元成太: 経皮的 BCG 注入療法が奏功した膀胱全摘後の上部尿路上皮内癌. 第512回日本泌尿器科学会東京地方会, 1996. 6.
- 35) 村上正洋<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup>, 秋元正宇<sup>1)</sup>, 秋元成太, 長谷川潤, 荒木 勤<sup>2)</sup>, 澤倫太郎<sup>2)</sup>, 佐々木茂<sup>3)</sup>, 三田俊二<sup>3)</sup> (<sup>1)</sup>付属病院形成外科, <sup>2)</sup>付属病院産婦人科, <sup>3)</sup>付属多摩永山病院産婦人科): 有茎 DIEA 皮弁による外陰部組織欠損の再建. 第21回日本外科系連合学術集会, 1996. 6.
- 36) 近藤幸尋, 濱崎 務, 鈴木康友, 吉田 晃<sup>1)</sup>, 吉田和弘, 秋元成太 (<sup>1)</sup>付属病院人工透析室): 慢性腎不全とグルタチオン代謝. 第41回日本透析医学会総会, 1996. 7.
- 37) 木村 剛<sup>1)</sup>, 千賀康弘, 三浦剛史, 大垣憲司, 藤井克彦<sup>2)</sup>, 吉田 晃<sup>2)</sup>, 吉田和弘, 秋元成太(<sup>1)</sup>付属第二病院泌尿器科, <sup>2)</sup>付属病院人工透析室): 妊娠中期に発症した急速進行性糸球体腎炎による急性腎不全の1例. 第41回日本透析医学会総会, 1996. 7.
- 38) 大沢秀一<sup>1)</sup>, 長谷川潤, 杉澤 裕, 佐藤三洋<sup>2)</sup>, 藤井克彦<sup>3)</sup>, 吉田和弘, 秋元成太 (<sup>1)</sup>付属千葉北総病院泌尿器科, <sup>2)</sup>付属第二病院泌尿器科, <sup>3)</sup>付属病院人工透析室): 血液浄化療法により救命し得た多臓器不全を伴う真菌性脳膿瘍の1例. 第41回日本透析医学会総会, 1996. 7.
- 39) 藤井克彦<sup>1)</sup>, 吉田 晃<sup>1)</sup>, 沖 守, 堀内和孝, 清水宏之<sup>2)</sup>, 松沢一郎, 吉田和弘, 秋元成太(<sup>1)</sup>付属病院人工透析室, <sup>2)</sup>付属第二病院泌尿器科): 敗血症に対する PMX 併用各種浄化療法の治療成績. 第41回日本透析医学会総会, 1996. 7.
- 40) 内木場拓史, 千賀康弘, 木村 剛<sup>1)</sup>, 服部智任, 長谷川潤, 沖 守, 秋元成太 (<sup>1)</sup>付属第二病院泌尿器科): 膀胱癌における尿中シフラ21-1と尿細胞診のマーカーとしての有用性の比較. 第513回日本泌尿器科学会東京地方会, 1996. 7.
- 41) 吉田和弘: 前立腺癌骨転移総巢之 CT 診断. 第3回東京前立腺癌フォーラム, 1996. 9.
- 42) 三浦剛史, 堀内和孝, 寺島保典, 大垣憲司, 橋本義孝, 吉田和弘, 秋元成太: 排尿障害自覚症状スコアの年齢

- 及び性別の検討。第64回日本医科大学医学会総会，1996．9．
- 43) 内木場拓史，千賀康弘，木村 剛<sup>1)</sup>，服部智任，長谷川潤，沖 守，秋元成太，小川秀彌<sup>1)</sup>(付属第二病院泌尿器科)：膀胱癌診断における尿中シフラ21-1と尿細胞診の有用性の比較。第64回日本医科大学医学会総会，1996．9．
- 44) 根本 勺，濱崎 務，山本史郎<sup>1)</sup>，山形健治，鈴木 央，堀内和孝，秋元成太，小川秀彌<sup>1)</sup>(付属第二病院泌尿器科)：上部尿路上皮内癌に対する経皮的 BCG 注入療法。第64回日本医科大学医学会総会，1996．9．
- 45) 堀内和孝，近藤幸尋，木村 剛<sup>1)</sup>，寺島保典，沖 守，長谷川潤，吉田和弘，秋元成太：浸潤性膀胱癌に対する術前術後 CMV 療法。第61回日本泌尿器科学会東部総会，1996．9．
- 46) 近藤幸尋，木村 剛<sup>1)</sup>，堀内和孝，沖 守，長谷川潤，秋元成太，井村伸正<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>付属第二病院泌尿器科，<sup>2)</sup>北里大薬学部)：腎細胞癌および膀胱癌組織のメタロチオネイン量と金属濃度の検討。第61回日本泌尿器科学会東部総会，1996．9．
- 47) 服部智任，秋元成太：尿失禁に対するメチル硫酸アメジニウムの効果。第61回日本泌尿器科学会東部総会，1996．9．
- 48) 濱崎 務，木村 剛<sup>1)</sup>，服部智任，秋元成太 (<sup>1)</sup>付属第二病院泌尿器科)：ヒト膀胱癌細胞株における Matrix Metalloproteinase の発現。第61回日本泌尿器科学会東部総会，1996．9．
- 49) 高橋洋文<sup>1)</sup>，左 維<sup>1)</sup>，丹羽直樹<sup>1)</sup>，矢島勇臣<sup>1)</sup>，林 昭棟<sup>1)</sup>，沼沢和夫<sup>1)</sup>，平岡保紀<sup>1)</sup>，秋元成太 (<sup>1)</sup>付属多摩永山病院泌尿器科)：陰茎転移により priapism を呈した seminoma の1例。第61回日本泌尿器科学会東部総会，1996．9．
- 50) 岩本和夫<sup>1)</sup>，左 維<sup>1)</sup>，丹羽直樹<sup>1)</sup>，矢島勇臣<sup>1)</sup>，林 昭棟<sup>1)</sup>，沼沢和夫<sup>1)</sup>，平岡保紀<sup>1)</sup>，秋元成太 (<sup>1)</sup>付属多摩永山病院泌尿器科)：前立腺肥大症の大きさと術前術後の尿流率との関係。第61回日本泌尿器科学会東部総会，1996．9．
- 51) 近藤幸尋，Lazo JS<sup>1)</sup>，秋元成太，井村伸正<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>Univ. of Pittsburgh，<sup>2)</sup>北里大薬学部)：メタロチオネインはアポトーシスを抑制する。第55回日本癌学会総会，1996．10．
- 52) 赤坂修治<sup>1)</sup>，清水宏之<sup>1)</sup>，鈴木 聡<sup>2)</sup>，五十嵐健人<sup>2)</sup>，寺島保典，秋元成太，遠山 隆<sup>2)</sup>，島田 隆<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>付属第二病院泌尿器科，<sup>2)</sup>生化学第2)：HSV-tk 遺伝子組替え adeno virus vector の膀胱内注入によるラット膀胱癌に対する抗腫瘍効果の検討。第55回日本癌学会総会，1996．10．
- 53) 寺島保典，秋元成太：日本医大付属病院における腎細胞癌の臨床統計。第34回日本癌治療学会総会，1996．11．
- 54) 堀内和孝，長谷川潤，佐藤三洋<sup>1)</sup>，服部智任，木村 剛<sup>1)</sup>，寺島保典，秋元成太(<sup>1)</sup>付属第二病院泌尿器科)：浸潤性膀胱癌に対する術前術後 CMV 療法の臨床効果。第34回日本癌治療学会総会，1996．11．
- 55) 近藤幸尋，Lazo J S<sup>1)</sup>，秋元成太，井村伸正<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>Univ. of Pittsburgh，<sup>2)</sup>北里大薬学部)：アポトーシス抑制因子としてのメタロチオネイン。メタロチオネイン96，1996．11．
- 56) 桐山 功，堀 夏樹，田中求平<sup>1)</sup>，久保田正充<sup>1)</sup>，小川秀彌，平岡保紀<sup>2)</sup>，秋元成太 (<sup>1)</sup>関東通信病院泌尿器科，<sup>2)</sup>付属多摩永山病院泌尿器科)：前立腺癌に対する集学的療法の検討。第46回日本泌尿器科学会中部総会，1996．11．
- 57) 佐藤三洋<sup>1)</sup>，大場修司<sup>2)</sup>，阿部貴弥<sup>2)</sup>，秋元成太(<sup>1)</sup>付属第二病院泌尿器科，<sup>2)</sup>国立東静岡病院)：両側腎動脈瘤を伴った右腎細胞癌の1例。第515回日本泌尿器科学会東京地方会，1996．12．
- 58) 濱崎 務，服部智任，木村 剛<sup>1)</sup>，秋元成太 (<sup>1)</sup>付属第二病院泌尿器科)：膀胱癌株の浸潤能と TIMP-2発現の検討。第6回泌尿器科細胞解析研究会，1997．2．
- 59) 松沢一郎，服部智任，山本史郎<sup>1)</sup>，長谷川潤，沖 守，秋元成太，杉崎祐一<sup>2)</sup>，浅川一枝<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>付属第二病院泌尿器科，<sup>2)</sup>病理部)：尿管原発神経内分泌腫瘍と考えられた1例。第517回日本泌尿器科学会東京地方会，1997．2．
- 60) 松沢一郎，服部智任，鈴木 央，長谷川潤，秋元成太：病理学的診断に難渋した腎間葉系腫瘍。第518回日本泌尿器科学会東京地方会，1997．3．

## [第一病院泌尿器科]

### 研究概要

1) 泌尿器内視鏡学：前立腺肥大症に対する最もよい外科的治療法として経尿道的前立腺電気蒸散に関する本邦初の発表を行い，良好な結果を得て引き続き前立腺肥大症の中でも特に著しく大きい前立腺肥大症に対する有用性について臨床検討を行っている。

また，膀胱腫瘍に対する経尿道的切除例においては腫瘍の浸潤度が問題となるが，スネアーを用いた独自の方法を開発し検討中である。

2) 尿路感染症学：慢性化する尿路感染症の機序を解明する手掛かりとして，種々の尿路感染患者尿中のサイトカイン，とくに泌尿器科領域では研究されたことのない IL-1receptor antagonist (IL-1ra) に関する研究を行い，IL-1に対する IL-1ra が少ないことが前立腺炎の長期慢性化に関与することはないという結果を得た。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Nishimura T, Abe H, Ito H, Ikeda K, Oka F : Low levels of IL-1ra versus IL-1 levels in prostatic fluid are not a cause of prolongation of prostatitis. J Nippon Med Sch 1996 ; 63 : 502-503.
- 2) Nishimura T : Prostatitis : Especially concerning studies of leukocytosis in prostatic fluid and bacterial culture, and daily practice. J Nippon Med Sch 1997 ; 64 : 2-8.
- 3) 西村泰司, 阿部裕行, 伊藤 博, 池田一則, 岡 史篤：前立腺肥大症に対する経尿道的前立腺電気蒸散が普及する可能性について。日外科系連会誌 1996 ; 21 : 997-999.
- 4) 西村泰司, 小林京子：腎エコー上の軽度水腎症例における排尿後の腎エコー。臨泌 1997 ; 51 : 164-165.
- 5) 西村泰司, 阿部裕行, 伊藤 博, 池田一則, 岡 史篤：前立腺肥大症に対する経尿道的前立腺電気蒸散の有用性について。日外科系連会誌 1997 ; 21 : 997-999.

##### (2) 総説：

- 1) 西村泰司, 伊藤 博：膀胱前立腺炎。今月の医療 1997 ; 4 : 95-101.

#### 著書

- 1) 西村泰司, 沖 守：〔分担〕尿管結石：TUL を中心に。“泌尿器科内視鏡” (秋元 成太, 三木 誠編), 1996 ; pp85-95, 医学書院。

#### 学会発表

##### (1) 特別講演：

- 1) 西村泰司：日本医科大学泌尿器科が先駆者的立場をとれた尿路内視鏡関連の診断および治療法。第64回日本医大医学会総会, 1996. 9.

##### (2) シンポジウム：

- 1) 西村泰司, 阿部裕行, 伊藤 博, 池田一則, 岡 史篤：前立腺肥大症に対する経尿道的前立腺電気蒸散が普及する可能性について (前立腺肥大症の治療ー最近の進歩)。第21回日本外科系連合学会学術集会, 1996. 6.

##### (3) パネルディスカッション：

- 1) 西村泰司：経尿道的前立腺電気蒸散 (前立腺肥大症に対する新しい治療法)。第61回日本泌尿器科学会東部総会, 1996. 9.

(4)一般講演：

- 1) 西村泰司, 阿部裕行, 伊藤 博, 池田一則, 岡 史篤：Which electrode would you like to prefer when you apply transurethral electrovaporization of the prostate (TVP) to a large prostate? 第10回日本 Endourology and ESWL 学会総会, 1996. 11.
- 2) 西村泰司, 阿部裕行, 伊藤 博, 池田一則, 岡 史篤：尿路感染症における尿中 IL-1 と IL-1リセプターアンタゴニストのバランス. 第84回日本泌尿器科学会総会, 1996. 4.
- 3) 西村泰司, 阿部裕行, 伊藤 博, 池田一則, 岡 史篤：前立腺肥大症に対する経尿道的前立腺電気蒸散：特に普及, 教育, 経済性について. 第84回日本泌尿器科学会総会, 1996. 4.
- 4) 伊藤 博, 池田一則, 岡 史篤, 阿部裕行, 西村泰司：強皮症（進行性全身性硬化症）に起因した膀胱壁内尿管狭窄による両側水腎症の1例. 第514回日本泌尿器科学会東京地方会, 1996. 9.

## [第二病院泌尿器科]

### 研究概要

第二病院泌尿器科では, 尿路感染症, MRSA 感染症, 膀胱腫瘍一特に膀胱腔内注入療法など主に臨床的各研究を行っている。最近は男子不妊症, 尿失禁に関する臨床的研究にも力をいれている。

### 研究業績

#### 論文

(1) 原著：

- 1) Senga Y, Kimura G, Hattori T, Yoshida K: Clinical evaluation of soluble cytokeratin 19 fragments (CYFRA21-1) in serum and urine of patients with bladder cancer. *Urology* 1996; 48: 703-710.
- 2) Yamamoto S, Suzuki S<sup>1)</sup>, Hoshino A<sup>1)</sup>, Akimoto M, Shimada T<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>Dept. of Biochemistry and Molecular Biology): Herpes simplex virus thymidine kinase/ganciclovir-mediated killing of tumor cells induces tumor-specific cytotoxic T cells in mice. *Cancer Gene Therapy* 1997; 4(2): 91-96.

#### 学会発表

(1) ワークショップ：

- 1) 赤坂修治, 清水宏之, 鈴木 聡<sup>1)</sup>, 五十嵐健人<sup>1)</sup>, 寺島保典, 秋元成太, 遠山 隆<sup>1)</sup>, 島田 隆<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>第2生化学教室): HSV-tk 遺伝子組換え adeno virus vector の膀胱内注入によるラット膀胱癌に対する抗腫瘍効果の検討. 第55回日本癌学会総会, 1996. 10.

(2) 一般講演：

- 1) Shimizu H, Suzuki S<sup>1)</sup>, Igarashi T<sup>1)</sup>, Akasaka S, Terashima Y, Akimoto M, Shimada T<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>Dpt. of Biochemistry and Molecular Biology): Preferential gene transfer to bladder tumor by intravesical instillation of adenoviral vector. American Urological Association (Orlando Florida), 1996. 5.
- 2) 丹羽直樹, 平岡保紀, 矢島勇臣, 岩本和矢, 高橋洋文, 沼沢和夫, 林 昭棟, 小川秀弥, 秋元成太：前立腺全摘除術後の尿失禁. 第84回日本泌尿器科学会総会, 1996. 4.
- 3) 清水宏之, 赤坂修治, 鈴木 聡<sup>1)</sup>, 五十嵐健人<sup>1)</sup>, 寺島保典, 秋元成太, 島田 隆<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>第2生化学教室): アデノウイルスベクター膀胱内注入による BBN 誘発ラット膀胱癌の遺伝子治療の検討. 第84回日本泌尿器科学会総会, 1996. 4.
- 4) 堀内和孝, 近藤幸尋, 木村 剛, 寺島保典, 沖 守, 長谷川潤, 吉田和弘, 秋元成太：表在性膀胱癌に対する再発予防 BCG 膀胱内注入療法の意義－再発予防効果および再発時の病理学的変化－. 第84回日本泌尿器科学会

総会, 1996. 4.

- 5) 千賀康弘, 木村 剛, 服部智任, 松沢一郎, 橋本義孝, 大垣憲司, 沖 守, 長谷川潤, 秋元成太: 尿路上皮腫瘍における血清中・尿中サイトケラチン19フラグメント測定 (シフラ21-1) の診断意義 続報. 第84回日本泌尿器科学会総会, 1996. 4.
- 6) 清水宏之, 堀内和孝, 木村 剛, 濱崎 務, 秋元成太: 高齢者における浸潤性尿路上皮癌に対する多剤併用化学療法の検討. 第9回老人泌尿器科研究会, 1996. 5.
- 7) 木村 剛, 千賀康弘, 三浦剛史, 大垣憲司, 藤井克彦<sup>1)</sup>, 吉田 晃<sup>1)</sup>, 吉田和弘, 秋元成太<sup>(1)付属病院透析室</sup>: 妊娠中期に発症した急速進行性糸球体腎炎による急性腎不全の1例. 第41回日本透析医学会総会, 1996. 7.
- 8) 堀内和孝, 長谷川潤, 佐藤三洋, 服部智任, 木村 剛, 寺島保典, 秋元成太: 浸潤性膀胱癌に対する術前術後 CMV 療法の臨床効果. 第34回日本癌治療学会総会, 1996. 9.
- 9) 岩本和矢, 左 維, 高橋洋文, 丹羽直樹, 矢島勇臣, 林 昭棟, 沼沢和夫, 平岡保紀, 秋元成太: 前立腺肥大症の大きさとの術前術後の尿流量率との関係. 第61回日本泌尿器科学会東部総会, 1996. 9.
- 10) 高橋洋文, 左 維, 岩本和矢, 丹羽直樹, 矢島勇臣, 林 昭棟, 沼沢和夫, 平岡保紀: 陰茎転移により priapism を呈した seminoma の1例. 第61回日本泌尿器科学会東部総会, 1996. 9.
- 11) 近藤幸尋, 堀内和孝, 木村 剛, 沖 守, 長谷川潤, 秋元成太, 井村伸正: 腎細腫瘍および膀胱組織のメタロチオネイン量と金属濃度の検討. 第61回日本泌尿器科学会東部総会, 1996. 9.
- 12) 堀内和孝, 近藤幸尋, 木村 剛, 寺島保典, 沖 守, 長谷川潤, 吉田和弘, 秋元成太: 浸潤性膀胱癌に対する術前術後 CMV 療法. 第61回日本泌尿器科学会東部総会, 1996. 9.
- 13) 濱崎 務, 木村 剛, 秋元成太: ヒト膀胱癌細胞株における Matrix Metalloproteinase の発現. 第61回日本泌尿器科学会東部総会, 1996. 9.
- 14) 本橋 茂<sup>1)</sup>, 笠原 仁<sup>1)</sup>, 中嶋雅彦<sup>1)</sup>, 中本 安<sup>1)</sup>, 高梨勝男<sup>2)</sup>, 沼沢和夫<sup>(1)三鷹北口病院内科, 2)三鷹北口病院泌尿器科</sup>: 小柴胡湯で著明な偽アルドステロン症及び蛋白尿を呈した C 型慢性肝炎, 糖尿病の1症例. 第26回日本腎臓学会東部学術大会, 1996. 11.
- 15) 笠原 仁<sup>1)</sup>, 本橋 茂<sup>1)</sup>, 中嶋雅彦<sup>1)</sup>, 中本 安<sup>1)</sup>, 高梨勝男<sup>2)</sup>, 沼沢和夫<sup>(1)三鷹北口病院内科, 2)三鷹北口病院泌尿器科</sup>: 非溶連菌性急性糸球体腎炎より急性腎不全を合併した糖尿病性腎症の1例. 第26回日本腎臓学会東部学術大会, 1996. 11.

## [多摩永山病院泌尿器科]

### 研究概要

当科は開設して8年になるが研究業績の主なもの次のようなものである。

前立腺肥大症: 前立腺肥大症に対する平岡式経尿道的前立腺剝離切除術は1984年に開始して以来1,700例を超えている。本術式は安全に肥大腺腫を完全切除ができる唯一の内視鏡手術である。

前立腺癌: 平岡式経尿道的前立腺剝離切除術(剝離 TURP)は内腺と外腺とを確実に区別して組織が得られるという特徴がある。この特徴を生かして、内腺を完全切除したあと、外腺を生検切除する平岡式剝離 TURP 法を開発した。これにより前立腺偶発癌の見落としが一番少ない方法であり、外腺域内の癌の残存の有無までも知ることができるという新しい道を開いている。最近では早期前立腺癌に対して会陰性根治的前立腺全摘術を施行している。

膀胱癌: 進行性膀胱癌の微小転移の存在とその転移経路としては組織間隙性転移の発見を我々は行っている。最近、治療としては組織間隙内抗癌剤投与という新しい治療法の開発と CDDP と放射線照射との併用治療を行っている。

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著：

- 1) 平岡保紀：前立腺肥大症の新しい経尿道的前立腺切除術－平岡式－。日本医事新報 1996；3762：33-36。
- 2) 平岡保紀：経尿道的な前立腺切除術。臨床と研究 1997；74-2：54-57。

#### (2) 総説：

- 1) 平岡保紀：泌尿器科的理学所見。エマージェンシー・ナーシング，1997；65-70。

### 著書

- 1) 平岡保紀：〔分担〕経尿道的な前立腺剝離切除術（剝離 TUR-P）。泌尿器科内視鏡，1996；pp141-148，医学書院。
- 2) 平岡保紀：〔分担〕前立腺肥大症の治療。year note 1997，1996；pp627-635，医学情報科学研究所。

### 学会発表

#### (1) 一般講演：

- 1) 丹羽直樹，平岡保紀，矢島勇臣，岩本和矢，高橋洋文，沼沢和夫，林 昭棟，小川秀弥<sup>1)</sup>，秋元成太<sup>2)</sup>（<sup>1)</sup>関東逓信病院泌尿器科，<sup>2)</sup>附属病院泌尿器科）：前立腺全摘除術後の尿失禁。第84回日本泌尿器科学会総会，1996。4。
- 2) 左 維，平岡保紀，矢島勇臣，岩本和矢，丹羽直樹，高橋洋文：前立腺癌に対する会陰式前立腺全摘除術の臨床的検討。恥骨後式前立腺全摘除術との比較。日本医科大学医学会第89回例会，1996。5。
- 3) 高橋洋文，岩本和矢，左 維，丹羽直樹，矢島勇臣，林 昭棟，沼沢和夫，平岡保紀，秋元成太<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>附属病院泌尿器科）：陰茎転移により priapism を呈した Seminoma の1例。第61回日本泌尿器科学会東部総会，1996。9。
- 4) 岩本和矢，高橋洋文，左 維，丹羽直樹，矢島勇臣，林 昭棟，沼沢和夫，平岡保紀，秋元成太<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>附属病院泌尿器科）：前立腺肥大症の大きさと術前術後の尿流率との関係。第61回日本泌尿器科学会東部総会，1996。9。
- 5) 左 維，平岡保紀，矢島勇臣，岩本和矢，丹羽直樹，高橋洋文，清水有二：前立腺肥大症の大きさと術前術後の IPSS，尿流率，残尿量との関係。第7回学校法人日本医科大学外国人留学者研究会，1996。11。

## [千葉北総病院泌尿器科]

### 研究概要

開院後3年たち手術件数も年間約150件となった。ほとんどがいわゆる Endourology といわれる内視鏡手術であった。特に膀胱腫瘍にたいしては TUR-Bt と動注化学療法との併用により膀胱保存を試み良好な成績を納めつつある。尿管結石にたいしては積極的に TUL を行い，アレキサンドライト・レーザーを主に色々な碎石装置を用いて治療を行い，残石を出来る限り少なくしている。先天性奇形による水腎症にたいしては Nd-YAG レーザーを用いた内視鏡的腎盂形成術を行い Minimal Invasive Surgery を追求している。

### 研究業績

#### 学会発表

#### (1) 一般講演：

- 1) 大澤秀一，坪井成美，渡辺 潤，天谷健二<sup>1)</sup>，吉田和弘，秋元成太<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>天谷医院）：A Case of Left Upper Urinary Tract Stones with Anomalous Renal Unit Treated by Several Methods. 第10回日本 Endourology・ESWL 学会総会，1996。12。
- 2) 渡辺 潤，坪井成美，大澤秀一，山本史郎，天谷健二<sup>1)</sup>，堀内和孝，沖 守，長谷川潤，秋元成太<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>天谷医院）：Clinical Experience on Treatment for Ureteral Stones with TUL using Alexantriptor. 第10回日本 Endour-



ology・ESWL学会総会，1996. 12.

- 3) 濱崎 務，大澤秀一，堀内和孝，鈴木康友，沖 守，長谷川潤，吉田和弘，秋元成太：腎盂尿管腫瘍の臨床的検討。第84回日本泌尿器科学会総会，1996. 4.
- 4) 坪井成美，大澤秀一，渡辺 潤：先天性腎盂尿管移行部狭窄に Nd-YAG レーザーを用いた内視鏡的腎盂形成術の経験。第17回千葉県医師会泌尿器科医学会学術集会，1996. 6.
- 5) 大澤秀一，長谷川潤，杉澤 裕，佐藤三洋，藤井克彦<sup>1)</sup>，吉田和弘，秋元成太（<sup>1)</sup>附属病院血液透析室）：血液浄化療法により救命し得た多臓器不全を伴う真菌性脳膿瘍の1例。第41回日本透析医学会総会，1996. 7.
- 6) 大澤秀一，坪井成美，渡辺 潤：動注療法による膀胱保存の試み。第18回千葉県医師会泌尿器科医学会学術集会，1996. 12.

## 16. 眼科学講座

### [付属病院眼科・第一病院眼科・第二病院眼科・多摩永山病院眼科・千葉北総病院眼科]

#### 研究概要

平成8年8月から自治医科大学より茨木信博助教授，同10月から東京大学より鈴木康之講師が着任した。同10月より Harvard 大学眼研究所から高橋 浩講師が帰国し復帰した。第一病院の原 彰教授が退職し，8月から三浦雅博講師が第一病院眼科部長代理として転出し，付属病院の雑賀寿和教授が退職し兼任講師となった。瀬津直久，大久保彰，江口秀一郎，赤星隆幸，堀田一樹の各兼任講師が付属病院で臨床研究を行った。

#### 臨床研究：

大原教授を中心に，サルコイドーシスを中心としたぶどう膜炎の臨床研究を行った。臨床検査として超音波検査や ICG 造影法を導入し，第4内科工藤教授との共同研究で全身病変と眼病変との関連を研究した。茨木助教授は，特注のスペキュラーマイクロスコープにより水晶体上皮細胞形態研究を行った。高橋講師は，角結膜疾患の臨床研究を継続させた。鈴木講師は緑内障の臨床像と視野変化のデータ解析を行った。雑賀講師はアレルギー性角結膜疾患を対象に新薬の治験を主とした臨床研究を継続した。

#### 基礎研究：

大原教授，茨木助教授らはヒト水晶体上皮細胞や茨木助教授が樹立した不死化ヒト水晶体上皮細胞株を用いて，細胞接着に対するサイトカインの影響を検討した。高橋講師は，角膜上皮細胞のグルコーストランスポータに対する細胞生物学的研究を継続した。鈴木講師は，老人病研究所太田成男教授との共同研究で緑内障の遺伝子分析を行い，新たな関与遺伝子を発見した。下田研究生は角膜の創傷治癒における MMP と TIMP の発現を明らかにした。尾崎研究生は角膜血管新生におけるアポトーシスの発現について研究を継続した。

第二病院，多摩永山病院，千葉北総病院では清水暢夫助教授，中山滋章助教授，清水洋一助教授が各病院で臨床研究にあたった。

#### 研究業績

##### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Ibaraki N, Lin LR<sup>1)</sup>, Reddy VN<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>Oakland University) : A Study of growth factor receptors in human lens epithelial cells and their relationship to fiber differentiation. *Exp Eye Res* 1996 ; 63 : 683-692.
- 2) Ibaraki N, Lin LR<sup>1)</sup>, Dang L, Reddy VN<sup>1)</sup>, Singh DP, Sueno T, Chylack LT Jr, Shinohara T (<sup>1)</sup>Oakland University) : Anti-beta-crystallin antibodies (mouse) or sera from humans with age-related cataract are cytotoxic for lens epithelial cells in culture. *Exp Eye Res* 1997 ; 64 : 229-238.
- 3) Yamagami S<sup>1)</sup>, Suzuki Y, Tsuru T<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>東京大学) : Risk factors for graft failure in penetrating keratoplasty. *Acta Ophthalmol Scand* 1996 ; 74 : 584-588.
- 4) Aizu Y<sup>1)</sup>, Asakura T<sup>1)</sup>, Ogino K<sup>1)</sup>, Sugita T<sup>1)</sup>, Suzuki Y, Masuda K<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>東京大学) : Measurement of retinal blood flow using bio-speckles : experiments with glass capillaries and in the normal human retina. *SPIE (The International Society for Optical Engineering)* 1996 ; 2678 : 360-371.
- 5) Suzuki Y, Nakano T<sup>1)</sup>, Sears M<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>東京大学, <sup>2)</sup>Yale University) : Calcium signals from intact rabbit ciliary epithelium observed with confocal microscopy. *Cur Eye Res* 1997 ; 16 : 166-175.
- 6) Takahashi H, Kaminski AE<sup>1)</sup>, Zieske JD<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>Schepens Eye Research Institute, Harvard Medical School,

USA) : Glucose transporter 1 expression is enhanced during corneal epithelial wound repair. Exp Eye Res 1996 ; 63 : 649-659.

- 7) 今野泰宏<sup>1)</sup>, 沼賀二郎<sup>1)</sup>, 藤野雄次郎<sup>1)</sup>, イスラム SM モノワール<sup>1)</sup>, 増田寛次郎<sup>1)</sup>, 大久保彰<sup>2)</sup>, 佐々木洋<sup>2)</sup>, 大原國俊, 平田蘭子<sup>3)</sup>, 前田平生<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>東京大学, <sup>2)</sup>自治医科大学, <sup>3)</sup>埼玉医科大学) : 眼症状を有するサルコイドーシス患者の HLA と性差. 臨眼 1996 ; 50 : 1140-1144.
- 8) 三浦雅博, 出田秀尚<sup>1)</sup>, 竹中千昭<sup>1)</sup>, 山本親広<sup>1)</sup>, 齋木 裕<sup>1)</sup>, 嶋田伸宏<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>出田眼科病院) : 裂孔原性網膜剝離における Vitreous Haze と前房フレア値の関係, 眼紀 1996 ; 47 : 935-937.
- 9) 秋田恵子, 大原國俊, 杉崎祐一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第一病理) : 切除虹彩に類上皮細胞肉芽腫を認めたサルコイドーシス性ぶどう膜炎の 1 例. 日本サルコイドーシス学会雑誌 1997 ; 16 : 115-116.
- 10) 景山景子, 西山 譲<sup>1)</sup>, 下田真理子, 大原國俊(<sup>1)</sup>第二内科) : Sialidosis Type I の 1 例. 眼臨 1997 ; 91 : 766-768.
- 11) 国松志保, 田中住美<sup>1)</sup>, 出田秀尚<sup>2)</sup>, 嶋田伸宏<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>東京厚生年金病院, <sup>2)</sup>出田眼科病院) : 網膜剝離を合併した先天網膜分離症の 2 例. 眼科手術 1996 ; 9 : 86-90.
- 12) 国松志保, 田中住美<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東京厚生年金病院) : Snowflake degeneration の 1 家系. 眼臨 1996 ; 90 : 897-899.
- 13) 国松志保, 新家 真<sup>1)</sup>, 稲用和也<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>東京大学) : 毛様体嚢胞の超音波生体顕微鏡観察. 臨眼 1996 ; 50 : 1633-1638.
- 14) 橋本綱子<sup>1)</sup>, 青木見佳子<sup>1)</sup>, 畑三恵子<sup>1)</sup>, 矢島 純<sup>1)</sup>, 本多光芳<sup>1)</sup>, 三橋 清<sup>2)</sup>, 百束比古<sup>2)</sup>, 熊川美代子, 中山滋章, 島田早苗<sup>3)</sup>, 前田昭太郎<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>皮膚科, <sup>2)</sup>形成外科, <sup>3)</sup>耳鼻咽喉科, <sup>4)</sup>病理部) : マイボーム腺癌の 1 例. Skin Cancer 1996 ; 11 : 95-98.
- 15) 富川節子, 鈴木さや佳, 大原國俊 : 老年期痴呆患者の白内障手術. 眼臨 1996 ; 90 : 475-478.
- 16) 中村 弘, 小林博和, 井上洋一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>オリンピック・クリニック眼科) : 色素性緑内障の 1 例. 眼臨 1996 ; 90 : 1287-1289.
- 17) 八巻理恵, 中山滋章, 塚本佐知子, 小林博和, 長松淳一, 三浦雅博, 大原國俊 : 多発性後極部網膜色素上皮症の 1 症例. 眼臨 1996 ; 90 : 520.

(2) 総説 :

- 1) 大原國俊 : 臨床医の手引 角膜内皮検査. 日本の眼科 1996 ; 67 : 665.
- 2) 大原國俊 : 角膜内皮のスペキュラーマイクロスコーピー検査. 眼科診療 Q-A 検査・機械 1996 ; (No. 1364) 19 : 391512-391515.
- 3) 大原國俊 : 眼科診療に役立つ情報集'96~97 1. 診察治療基準 4. サルコイドーシス. 眼科 1996 ; 38(臨床増刊号) : 1131.
- 4) 富川節子 : 白内障. 老化と疾患 1997 ; 10 : 466-474.
- 5) 良田夕里子, 雑賀寿和 : 涙液の性状変化. 眼科診療 Q&A 1996 ; 17 : 90-91.

著 書

- 1) 中山滋昭 : [分担] 身体 (局所) の理学所見 2. 眼 Emergency Nursing 97年新春増刊 患者のみかた部位・症状別ナーズの理学所見 45 (黒川顕編) 1997 ; pp24-30. メディカ出版.

学会発表

(1) 特別講演 :

- 1) 大原國俊 : サルコイドーシス性ぶどう膜炎の臨床像—非典型例を中心に. 第41回山陰眼科集談会(米子市), 1996. 6.
- 2) 大原國俊 : スペキュラーマイクロスコーピーについて. 第44回東京女子医科大学第二病院眼科講習会(東京), 1996. 9.

- 3) 大原國俊：眼サルコイドーシスの臨床像（非典型例）。第23回さんたん眼科研究会（兵庫県日高市），1996. 9.
  - 4) 大原國俊：眼サルコイドーシスの非典型例。第8回郡山眼科おはなし会（郡山市），1997. 3.
- (2) 教育講演：
- 1) 大原國俊：眼サルコイドーシス非典型例の臨床像。埼玉県眼科医会教育講演会（浦和市），1997. 1.
- (3) シンポジウム：
- 1) Ohara K : Biomicroscopy of lens epithelial cell proliferation after cataract surgery. 16th Congress of ESCRS Clinical Research Symposia, Gothenburg (Sweden), 1996. 10.
  - 2) Ibaraki N : In vivo observation of human lens epithelial cells. Posterior Capsular Opacification Symposium in Joint European Research Meetings in Ophthalmology and Vision 96. Montpellier (France), 1996. 10.
  - 3) 大原国俊：シンポジウム白内障II。白内障手術の後囊混濁：水晶体上皮細胞の増殖。第100回日本眼科学会総会（京都），1996. 5.
  - 4) 竹田洋子<sup>1)</sup>，中村 弘，前田利根<sup>1)</sup>，井上洋一<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>オリンピア・クリニック眼科）：結膜下に脂肪ヘルニアを認めた甲状腺眼症。第11回眼窩疾患シンポジウム，1996. 11.
- (4) 一般講演：
- 1) Ohara K, Matsuda A<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>Meiseido Eye Clinic）：Effects of heparin surface-modification on the foreign body reaction to intraocular lens surface. 16th congress of ESCRS (Gothenburg, Sweden), 1996. 10.
  - 2) Ibaraki N, Lin LR<sup>1)</sup>, Reddy VN<sup>1)</sup>, Singh DP<sup>2)</sup>, Shinohara T<sup>1)</sup>, Chylack LT, Jr<sup>2)</sup>（<sup>1)</sup>Oakland University, <sup>2)</sup>Harvard Medical School）：Age-related cataract : antibody against beta-crystallin killed human lens epithelial cells in vitro. 1996 ARVO meeting. Ft. Lauderdale (Florida USA), 1996. 4.
  - 3) Lin LR<sup>1)</sup>, Y-S Ho, Ibaraki N, Giblin FJ<sup>1)</sup>, Reddy VN<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>Oakland University）：Elevated glutathione peroxidase activity in lenses of transgenic mice protects against H<sub>2</sub>O<sub>2</sub>-induced epithelial cell damage in vitro. 1996 ARVO meeting. Ft. Lauderdale (Florida, USA), 1996. 4.
  - 4) Shinohara T<sup>1)</sup>, Singh DP<sup>1)</sup>, Sueno T<sup>1)</sup>, Ibaraki N, Reddy VN<sup>2)</sup>, Shylack LT Jr<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>Harvard Medical School, <sup>2)</sup>Oakland University）：Age-related cataract : antibodies against lens antigens, plus inhibitory cytokine, killed mouse lens epithelial cells in vitro. 1996 ARVO meeting. Ft. Lauderdale (Florida, USA), 1996. 4.
  - 5) Ibaraki N, Oharazawa H, Ohara K : Non-contact specular microscopy of human lens epithelial cells in vivo. The 8th Japan-Korea Joint Meeting of Ophthalmology (Nagoya), 1996. 9.
  - 6) Ibaraki N, Chen SC<sup>1)</sup>, Lin LR<sup>1)</sup>, Reddy VN<sup>1)</sup>, Pipas JM<sup>2)</sup>（<sup>1)</sup>Oakland University, <sup>2)</sup>University of Pittsburgh）：Immortalization of human lens epithelial cells. First Asian Cataract Research Conference (Guangzhou, China), 1996. 9.
  - 7) Ibaraki N, Chen SC<sup>1)</sup>, Lin LR<sup>1)</sup>, Reddy VN<sup>1)</sup>, Pipas JM<sup>2)</sup>（<sup>1)</sup>Oakland University, <sup>2)</sup>University of Pittsburgh）：Immortalization of human lens epithelial cells. XII International Congress of Eye Research (Yokohama, Japan), 1996. 9.
  - 8) Shinohara T<sup>1)</sup>, Singh DP<sup>1)</sup>, Sueno T<sup>1)</sup>, Ibaraki N, Reddy VN<sup>2)</sup>, Chylack LT Jr<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>Harvard Medical School, <sup>2)</sup>Oakland University）：Antibodies against lens antigens with inhibitory cytokine induced apoptic cell death in stationary lens epithelial cells in vitro. XII International Congress of Eye Research (Yokohama, Japan), 1996. 9.
  - 9) Ibaraki N, Chen SC<sup>1)</sup>, Reddy VN<sup>1)</sup>, Pipas JM<sup>2)</sup>（<sup>1)</sup>Oakland University, <sup>2)</sup>Pittsburgh University）：Immortalization of human lens epithelial cells. Joint European Research Meetings in Ophthalmology and Vision 96 (Montpellier, France), 1996. 10.
  - 10) Suzuki Y, Chen S<sup>1)</sup>, Mead A, Sears ML<sup>2)</sup>（<sup>1)</sup>Brooklyn College of CUNY, <sup>2)</sup>Yale University）：Mobilization of free calcium ion in the intact rabbit ciliary epithelium. 1996 ARVO, Fort Lauderdale (Florida, USA),

1996. 4.

- 11) Chen S<sup>1)</sup>, Mead A, Suzuki Y, Sears M<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>Brooklyn College of CUNY, <sup>2)</sup>Yale University) : Basolateral membrane chloride channels I rabbit non-pigment ciliary epithelium. 1996 ARVO, Fort Lauderdale (Florida USA), 1996. 4.
- 12) Sears M<sup>1)</sup>, Sears J<sup>2)</sup>, Giovannelli A, Suzuki Y (<sup>1)</sup>Yale University, <sup>2)</sup>Emory University) : Studying controls for aqueous humor formation. The first International Symposium of Ophthalmology (Japan) (Kyoto, Japan), 1996. 5.
- 13) Sears ML<sup>1)</sup>, Suzuki Y, Giovannelli A (<sup>1)</sup>Yale University) : Spontaneous and evoked oscillations of cytosolic calcium in the freshly prepared ciliary epithelial bilayer of the rabbit eye. XII International Congress of Eye Research (Yokohama, Japan), 1996. 10.
- 14) Takahashi H, Kaminski AE<sup>1)</sup>, Zieske JD<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>Schepens Eye Research Institute, Harvard Medical School, USA) : Expression of glucose transporter 1 gene is enhanced after corneal epithelial debridement. Annual Meeting of The Association for Research in Vision and Ophthalmology (Florida, USA), 1996. 5.
- 15) Akita K, Ohara K, Imaizumi S<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>今泉眼科病院) : A case with severe vitreous hemorrhage in systemic lupus erythematosus. 第2回日台ジョイントミーティング (Taipei), 1996. 11.
- 16) Ozaki N, Ishizaki M<sup>1,2)</sup>, Saiga T, Ohara K, KAOW W-Y<sup>2)</sup>, Yamanaka N<sup>1)</sup> (日本医科大学第一病理, <sup>2)</sup>Dept of ophthalmology, University of Cincinnati) : Apoptosis mediates the decrease in cellularity during the healing process of arthus reaction in cornea. Joint European Research Meetings in Ophthalmology and Vision (Montpellier, France), 1996. 10.
- 17) Oharazawa H, Ibaraki N, Ohara K, Kaiya T<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>聖隷浜松病院) : Density of human lens epithelial cells in cataract patients. The 8th Japan-Korea Joint Meeting of ophthalmology (Nagoya), 1996. 9.
- 18) Kunimatsu S, Araie M<sup>1)</sup>, Ohara K (<sup>1)</sup>東京大学分院) : Ultrasound biomicroscopy of the cyst of the ciliary body. 第2回日台ジョイントミーティング (Taipei), 1996. 11.
- 19) Maeda T<sup>1)</sup>, Iijima T<sup>1)</sup>, Nakamura H, Inoue Y<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>Eye Division of Olympia Medical Clinic) : Optic disc topography in open angle glaucoma. ARVO, 1996. 4.
- 20) Nakamura H, Inoue Y<sup>1)</sup>, Yoshikawa K<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>Eye Division of Olympia Medical Clinic, <sup>2)</sup>Yoshikawa Eye Clinic) : Assessment of two classification systems for Goldmann perimetry-derived glaucomatous visual field defect. 第1回日米 joint meeting, 1996. 7.
- 21) 茨木信博, Reddy VN<sup>1)</sup>, Shingh DP<sup>2)</sup>, Shinohara T<sup>2)</sup>, Leo T, Chylack Jr<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>Oakland University, <sup>2)</sup>Harvard Medical School) : 白内障は自己免疫疾患か? : 抗ペータクリスタリン抗体, 白内障患者血清が培養ヒト水晶体上皮細胞に与える影響. 第35回日本白内障学会 (名古屋), 1996. 4.
- 22) 茨木信博, Chen SC<sup>1)</sup>, Lin LR<sup>1)</sup>, Reddy VN<sup>1)</sup>, Pipas JM<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>Oakland University, <sup>2)</sup>Pittsburgh University) : ヒト水晶体上皮細胞株の開発. 第100回日本眼科学会総会 (京都), 1996. 5.
- 23) 茨木信博, Reddy VN<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>Oakland University) : ヒト水晶体上皮細胞株の無血清培地での培養. 第23回水晶体研究会 (葉山), 1997. 1.
- 24) 清水洋一, 山口 貴, 中元兼二, 藤井博明 : 緑内障の白内障手術におけるレーザー治療. 第13回関東眼科学会 (千葉), 1996. 6.
- 25) 雑賀寿和 : 眼科から見た花粉症. 第8回日本アレルギー学会春季臨床大会 (横浜), 1996. 4.
- 26) 雑賀寿和 : アレルギー性結膜炎 (春季カタル) と免疫. 第100回日本眼科学会総会 (京都), 1996. 5.
- 27) 瀬津直久 : SRK/T 式の個別 A 定数の解析. 第50回日本臨床眼科学会 (京都), 1996. 10.
- 28) 秋田恵子, 今泉信一郎<sup>1)</sup>, 中西史憲, 秋庭幹生 (<sup>1)</sup>今泉眼科病院) : 私達のトラベクトミーの術後成績. 第7回日本緑内障学会 (名古屋), 1996. 9.

- 29) 秋田恵子, 大原國俊, 杉崎祐一<sup>1)</sup> (<sup>1</sup>第一病理): 切除虹彩に類上皮細胞肉芽腫を認めたサルコイドーシス性ぶどう膜炎の1例. 第16回日本サルコイドーシス学会総会(熊本), 1996. 10.
- 30) 秋田恵子, 今泉信一郎<sup>1)</sup>, 中西史憲, 秋庭幹男 (<sup>1</sup>今泉眼科病院): 老人保健法基本検診での緑内障所見の検出. 第50回日本臨床眼科学会(京都), 1996. 10.
- 31) 秋庭邦子, 良田夕里子, 清水暢夫, 大原國俊: 視神経乳頭陥凹を呈した Empty sella syndrome の1例. 第13回関東眼科学会(千葉), 1996. 6.
- 32) 秋庭邦子, 良田夕里子, 清水暢夫, 大原國俊: 複視にて発症した両側特発性頸動脈海綿静脈洞瘻の1例. 第692回東京都眼科集談会, 1997. 1.
- 33) 岩波美陽, 魚谷史子, 大原國俊: 前房レンズ挿入後水疱性角膜炎をきたした1症例. 第62回日本中部眼科学会(大阪), 1996. 10.
- 34) 鰐原 淳, 塚本佐知子, 中山滋章: 多発性硬化症の1例. 日本医科大学医学会第90回例会, 1996. 11.
- 35) 遠藤哲治, 中山滋章, 塚本佐知子, 大原國俊: Acute macular neuroretinopathy が疑われた1症例. 第50回日本臨床眼科学会(京都), 1996. 10.
- 36) 遠藤哲治, 塚本佐知子, 長松淳一, 横山 正<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>外科): 転移性脈絡膜腫瘍の1例. 日本医科大医学会第91回例会, 1997. 2.
- 37) 長松淳一, 小島孚允<sup>1)</sup>, 大原國俊(<sup>1</sup>大宮赤十字病院): 経強膜的腫瘍切除術を実施した脈絡膜悪性黒色腫の1例. 第14回眼腫瘍研究会(東京), 1996. 10.
- 38) 小原澤英彰, 松井洋法, 茨木信博, 大原國俊: スペキュラーマイクロスコープを用いた水晶体上皮細胞の観察. 第23回水晶体研究会(葉山), 1997. 1.
- 39) 景山景子, 西山 稔<sup>1)</sup>, 大原國俊(<sup>1</sup>第二内科): Sialidosis Type I の1症例. 第13回関東眼科学会(千葉), 1996. 6.
- 40) 国松志保, 新家 真<sup>1)</sup>, 稲用 和也<sup>2)</sup> (<sup>1</sup>東京大学分院, <sup>2</sup>旭中央病院): 毛様体嚢胞の超音波生体顕微鏡観察(第2報). 第100回日本眼科学会総会(京都), 1996. 5.
- 41) 高瀬一嘉<sup>1)</sup>, 稲用和也<sup>1)</sup>, 国松志保, 新家 真<sup>2)</sup> (<sup>1</sup>旭中央病院, <sup>2</sup>東京大学分院): 超音波バイオマイクロスコープ(UBM)による脈絡膜剝離の観察. 第13回関東眼科学会(千葉), 1996. 6.
- 42) 国松志保, 新家 真<sup>1)</sup>, 田中住見<sup>2)</sup>, 大槻マミ太郎<sup>3)</sup>, 浜田知久馬<sup>4)</sup> (<sup>1</sup>東京大学分院, <sup>2</sup>東京厚生年金病院, <sup>3</sup>東京大学皮膚科, <sup>4</sup>東京大学薬剤疫学研究室): アトピー性皮膚炎に合併する毛様体裂孔の発症関連因子の検討. 第50回日本臨床眼科学会(京都), 1996. 10.
- 43) 石井 清<sup>1)</sup>, 小島孚允<sup>1)</sup>, 国松志保(<sup>1</sup>大宮赤十字病院): 拡大傾向が強く悪性黒色腫を疑わせ, 摘出を行った虹彩黒色細胞腫の1例. 第20回日本眼科手術学会総会, 1997. 1.
- 44) 国松志保, 大原國俊: 糖尿病に合併した両眼性の乳頭浮腫の1例. 第3回日本糖尿病眼科学会総会(福岡), 1997. 3.
- 45) 下田真理子, 景山景子, 大原國俊: 特発性頸動脈海綿静脈洞瘻による網膜中心静脈閉塞症. 第50回日本臨床眼科学会(京都): 1996. 10.
- 46) 高橋真紀, 良田夕里子, 三浦雅博, 原 彰: 半導体レーザーによる経強膜毛様体光凝固の試み. 第13回関東眼科学会(千葉), 1996. 6.
- 47) 中西史憲, 今泉信一郎<sup>1)</sup>, 田沢 豊<sup>2)</sup>, 茨木信博, 鈴木一栄 (<sup>1</sup>今泉眼科病院, <sup>2</sup>岩手医科大学): 色光による水晶体核の硬度分類の検討. 第35回日本白内障学会(名古屋), 1996. 4.
- 48) 今泉信一郎<sup>1)</sup>, 中西史憲, 秋庭幹生, 秋田恵子 (<sup>1</sup>今泉眼科病院): 郡山市の老人保健法一般健康診査での緑内障所見. 第7回日本緑内障学会(名古屋), 1996. 9.
- 49) 今泉信一郎<sup>1)</sup>, 中西史憲, 秋庭幹生, 秋田恵子 (<sup>1</sup>今泉眼科病院): 翼状片に対する強膜露出法とプレオマイシン点眼. 第20回日本眼科手術学会(横浜), 1997. 1.

- 50) 中村 弘, 飯島建之<sup>1)</sup>, 前田利根<sup>1)</sup>, 井上洋一<sup>1)</sup> (1)オリンピア・クリニック眼科): 正常眼における網膜神経線維層厚測定. 第100回日本眼科学会 (京都), 1996. 5.
- 51) 中村 弘, 前田利根<sup>1)</sup>, 井上洋一<sup>1)</sup> (1)オリンピア・クリニック眼科): ゴールドマン視野計における緑内障病期分類の比較. 第13回関東眼科学会 (千葉): 1996. 6.
- 52) 中村 弘, 林 康司<sup>1)</sup>, 前田利根<sup>1)</sup>, 井上洋一<sup>1)</sup> (1)オリンピア・クリニック眼科): 開放隅角緑内障の視野と乳頭立体計測. 第7回日本緑内障学会 (名古屋), 1996. 9.
- 53) 林 康司<sup>1)</sup>, 中村 弘, 前田利根<sup>1)</sup>, 井上 洋一<sup>1)</sup> (1)オリンピア・クリニック眼科): 若年者の低眼圧緑内障. 第7回日本緑内障学会 (名古屋), 1996. 9.
- 54) 中村 弘, 林 康司<sup>1)</sup>, 前田利根<sup>1)</sup>, 井上洋一<sup>1)</sup> (1)オリンピア・クリニック眼科): Dysthyroid Optic Neuropathy に対する保存的療法. 第50回日本臨床眼科学会専門別研究会 (京都), 1996. 10.
- 55) 中村 弘, 林 康司<sup>1)</sup>, 前田利根<sup>1)</sup>, 井上洋一<sup>1)</sup> (1)オリンピア・クリニック眼科): 乳頭立体計測による正常眼と早期緑内障眼の比較. 第50回日本臨床眼科学会 (京都), 1996. 10.
- 56) 林 康司<sup>1)</sup>, 中村 弘, 前田利根<sup>1)</sup>, 井上洋一<sup>1)</sup> (1)オリンピア・クリニック眼科): 若年者における正常眼圧緑内障の経過. 第50回日本臨床眼科学会 (京都), 1996. 10.
- 57) 林 康司<sup>1)</sup>, 中村 弘, 前田利根<sup>1)</sup>, 井上洋一<sup>1)</sup> (1)オリンピア・クリニック眼科): 片眼性の正常眼圧緑内障における乳頭所見. 第50回日本臨床眼科学会専門別研究会/視神経 (京都), 1996. 10.
- 58) 中村 弘, 林 康司<sup>1)</sup> (1)オリンピア・クリニック眼科): HRT での正常眼の乳頭立体計測. 緑内障眼底画像勉強会, 1997. 1.
- 59) 中元兼二, 清水洋一, 山口 貴, 藤井博明, 大秋美治<sup>1)</sup> (1)千葉北総病院病理部): 急速に発育した結膜輪部腫瘍の1例. 第13回関東眼科学会 (千葉), 1996. 6.
- 60) 矢口智恵美, 秋田恵子, 山田幸永, 大原國俊: 硝子体出血からサルコイドーシスを疑った1例. 第50回日本臨床眼科学会専門別研究会/第30回日本ぶどう膜炎・眼免疫研究会 (京都), 1996. 10.
- 61) 矢口智恵美, 秋田恵子, 大久保彰, 川島秀俊<sup>1)</sup>, 大原國俊 (1)自治医科大学): サルコイドーシス性ぶどう膜炎の出血性硝子体網膜病変. 第50回日本臨床眼科学会 (京都), 1996. 10.
- 62) 山口 貴, 清水洋一, 中元兼二, 藤井博明: 続発性緑内障を生じた小児 Black ball hemorrhage の1例. 第13回関東眼科学会 (千葉), 1996. 6.
- 63) 山田幸永, 秋田恵子, 大原國俊: ステロイド治療に抵抗し, 眼圧上昇をきたしたヒトリンパ球向性ウイルス I 型関連ぶどう膜炎の1例. 第27回東京緑内障談話会 (東京), 1996. 7.
- 64) 山田幸永, 矢口智恵美, 大原國俊: 色素緑内障における調節時の虹彩形態変化. 第50回日本臨床眼科学会 (京都), 1996. 10.

## 17. 麻酔科学講座

### [付属病院麻酔科]

#### 研究概要

本年度は、教室のテーマの一つである手術侵襲を防御する麻酔管理のまとめともいえる第16回日本臨床麻酔学会総会ならびに第12回体液・代謝管理研究会が本教室の小川教授のもとで主催された。これに関連した基礎的・臨床的研究と共に、従来通り種々のテーマでの幅広い研究が行われた。以下に本年度の主な研究を示す。

手術侵襲に対する生体反応の評価とその対策、糖質・電解質を中心とした術中輸液の再検討、術中の体温調節機構、術後痛とペインクリニックにおける新たな治療法の検討、プロポフォルをはじめとする新しい麻酔薬の検討、経食道エコーによる循環管理、手術室運営と手術室内感染の問題等。

#### 研究業績

##### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Den SL : Glucose tolerance in elderly patients dose not deteriorate during anesthesia and surgical stress. J Anesth 1996 ; 10 : 115-119.
- 2) Adachi H : Hsevoflurane anesthesia maintains reflex tachycardia on position change from supine recumbent to head-up tilt. J Anesth 1996 ; 10 : 129-132.
- 3) Kamuro H<sup>1)</sup>, Kodaira H<sup>1)</sup>, Abe S<sup>1)</sup>, Ogawa R (<sup>1)</sup>Green Cross Corp.) : Experimental study of efficacy and optimal dose of intraoperative glucose in rabbits under general anesthesia. J Anesth 1996 ; 10 : 140-143.
- 4) Maruyama K, Nakajima Y, Hayashi Y, Ohnishi Y, Kuro M : A guide to preventing deep insertion of the cannulation needle during catheterization of the internal jugular vein. J Cardiothorac Vasc Anesth 1997 ; 11 : 192-194.
- 5) Shitara T, Wajima Z, Ogawa R : Dobutamine infusion modifies thermoregulation during general anesthesia. Anesth Analg 1996 ; 83 : 1154-59.
- 6) Wajima Z, Shitara T, Nakajima Y<sup>1)</sup>, Kim C, Kobayashi N, Kadotani H, Adachi H, Ishikawa G, Kaneko K, Inoue T<sup>2)</sup>, Ogawa R (<sup>1)</sup>CCU) : Continuous brachial plexus infusion of butorphanol-mepivacaine mixtures for analgesia after upper extremity surgery. Br J Anaesth 1997 ; 78 : 83-85.
- 7) Kobayashi N, Ogawa R, Sato S, Saihara K : Ktherapeutic effects of L-canavanine, a selective inhibitor of inducible nitric oxide synthase, during endotoxin shock lung in rats. J Jpn Med Soc Biol Interface 1996 ; 27 : 62-73.
- 8) 小川 龍：最近の周術期。体液代謝管理 1996 ; 12 : 20-30.
- 9) 岡田和夫, 並木昭義, 奥秋 晟, 宮尾秀樹, 小川 龍, 花岡一雄, 熊沢光生：新規酢酸リンゲル液 GA-1165の第II相臨床試験。臨床と研究 1996 ; 73 : 1867-1880.
- 10) 小川 龍：手術侵襲と SIRS および麻酔の影響。救急医学 1996 ; 20 : 1099-1104.
- 11) 小川 龍：今、なぜ“外科侵襲と麻酔”か？。臨床麻酔 1996 ; 17 : 1-6.
- 12) 小川 龍：術中の輸液管理。麻酔 1996 ; 45 : S199-207.
- 13) 遠藤正宏, 篁 武郎, 志賀俊哉, 小川 龍：低血圧麻酔中の輸液と腎機能に関する研究。麻酔 1996 ; 45 : 15-20.
- 14) 遠藤正宏, 松田昭夫：Combined spinal-epidural 麻酔後のブプレノルフィン硬膜外投与。麻酔 1996 ; 45 : 1396-1399.



- 15) 大井良之, 中村かんな, 坂本篤裕, 小川 龍, 渡 潤<sup>1)</sup>, 岡島雄史<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>放射線): ヘリカル CT スキャンを用いた腰部交感神経節ブロックの経験. 麻酔 1996; 45: 888-891.
  - 16) 北村 晶, 金 正, 結城禎一<sup>1)</sup>, 小川 龍 (<sup>1)</sup>東京都職員共済組合青山病院麻酔科): 手術室における環境殺菌作業と清浄度. 日本手術医学会誌 1996; 17: 115-119.
  - 17) 園田清次郎, 小川 龍: 開胸術における  $\beta$ -microglobulin 排泄率の変動と急性相反応との関連性. 臨床麻酔 1997; 17: 19-22.
- (2) 総説:
- 1) 加藤信也, 丸川征四郎<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>兵庫医科大学救急医学): オシヤレな酸素吸入は: 酸素信仰の復活か?. 救急医療ジャーナル 1996; 19: 56-58.
  - 2) 加藤信也, 加藤啓一<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>日本赤十字社医療センター麻酔科): 携帯用酸素の安全性と有効性. 臨床麻酔 1996; 11: 1645-1649.
  - 3) 坂本篤裕: 麻酔科領域における最近の医療機器. 学会新報 1996; 17: 7-10.

## 著 書

- 1) Ogawa R, Ogura A, Kim C, Yamaguchi M: [分担] Could intraoperative analgesia attenuate excessive neuro endocrine response in surgical patients: Surgical Technology International (Szabo Z, Zlewis JE, Fantini GA, Savalori ed), 1996; pp39-44, Universal Medical Press, San Francisco.
- 2) 小川 龍: ショックとステロイド. “救急医療の臨床” (龍村俊樹編), 1996; pp141-148, 医薬ジャーナル社.

## 学会発表

- (1) 会長講演:
  - 1) 小川 龍: 今なぜ“外科侵襲と麻酔”か?. 第16回日本臨床麻酔学会総会, 1996. 11.
  - 2) 小川 龍: 麻酔中の輸液-第3間隙は存在するか?. 第12回体液・代謝管理研究会, 1997. 1.
- (2) 教育講演:
  - 1) 小川 龍: 術中輸液管理. 第44回日本麻酔学会総会, 1996. 4.
- (3) 会長指名講演:
  - 1) 角谷仁司: Involvement of  $\alpha 1$  and  $\alpha 2$  receptors on moto neurons of newborn rats in adrenergic supersensitivity following cordotomy. 第16回日本臨床麻酔学会総会, 1996. 11.
- (4) シンポジウム:
  - 1) 大井良之, 小川 龍: 侵襲時・ショック時の輸液(麻酔・手術と体液代謝). 第16回日本臨床麻酔学会総会, 1996. 11.
  - 2) 中西一浩, 竹田晋浩, 金 徹, 坂本篤裕, 子島 潤<sup>1)</sup>, 高山守正<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>1)</sup>, 小川 龍(<sup>1)</sup>集中治療室): CABGにおけるウリナスタチンのサイトカイン, 顆粒球エラスターゼ, 臓器機能に与える影響(手術侵襲を防御する麻酔管理). 第16回日本臨床麻酔学会総会, 1996. 11.
  - 3) 竹田晋浩: 外科的侵襲に対するストレスホルモンの変動とその対策(外科侵襲と集中治療での対策). 第16回日本臨床麻酔学会総会, 1996. 11.
- (5) 一般講演:
  - 1) Maruyama K, Kaneko K, Amamoto H, Ishihara Y, Yamada K: Sacral analgesia with differing methods of lumbar epidural block: The levels and the success rates of the fifth sacral analgesia. International Anesthesia Research 71st. Clinical and Scientific Congress. (San Francisco), 1997. 3.
  - 2) Shiga T, Ikezaki H, Sakamoto A, Ogawa R: Thoracic epidural blockade preserving left ventricular diastolic function assessed using transesophageal echocardiography. 4Th America-Japan congress. (San

- Francisco), 1997. 3.
- 3) Terajima K, Kim C, Nakanishi K<sup>1)</sup>, Takeda S<sup>1)</sup>, Takano T<sup>1)</sup>, Miyashita M<sup>2)</sup>, Sasajima K<sup>2)</sup>, Onda M<sup>2)</sup>, Ogawa R ( <sup>1)</sup>CCU, <sup>2)</sup>First surg) : The effect of methylprednisolone on cytokine in the bronchoalveolar lavage fluid after esophageal operations. 4th International Congress on The immune Consequences of Trauma : Shock and Sepsis (Munich), 1997. 3.
  - 4) 志賀俊哉, 池崎弘之, 坂本篤裕, 小川 龍 : 胸部硬膜外麻酔の左心機能に対する影響 : 経食道心エコーを用いて. 第17回日本循環制御医学会総会, 1996. 5.
  - 5) 篁 武郎, 坂本篤裕, 小川 龍 : 局所麻酔薬と吸入麻酔薬のラット摘出心に対する影響. 第17回日本循環制御医学会総会, 1996. 5.
  - 6) 金 徹, 斉藤敏之, 北村 晶, 坂本篤裕, 小川 龍 : 硬膜外カテーテル留置により硬膜外血腫を生じた1症例. 第30回日本ペインクリニック学会総会, 1996. 7.
  - 7) 岸川洋昭, 輪島善一郎, 足立 仁, 小川 龍 : 脊椎麻酔直後に下肢に激痛を生じた症例 : ペンタゾジンが有効であった症例. 第30回日本ペインクリニック学会, 1996. 7.
  - 8) 阿部聖孝, 結城禎一<sup>1)</sup>, 斉藤美穂子<sup>1)</sup>, 大井つる<sup>1)</sup>, 金 正, 北村 晶, 小川 龍, 川島幸代<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>東京都共済組合青山病院麻酔科, <sup>2)</sup>日本トータルサニタリー社) : 手術部・ICU内設備工事後の清浄化方法. 第18回日本手術医学会総会, 1996. 9.
  - 9) 河原裕泰, 北村 晶, 坂本篤裕, 小川 龍 : 透析用内シャント作成のための上腕神経ブロックの成功率と問題点. 第36回日本麻酔学会関東甲信越地方会, 1996. 9.
  - 10) 鈴木規仁, 大井良之, 坂本篤裕, 小川 龍 : 無痙攣性修正電気痙攣療法に対するプロポフォール麻酔. 第36回日本麻酔学会地方会, 1996. 9.
  - 11) 四維東州, 小林正雄, 金 正, 坂本篤裕, 小川 龍 : 下垂体腫瘍の経蝶形骨洞腫瘍摘出術に対する麻酔管理. 第36回日本麻酔学会地方会, 1996. 9.
  - 12) 豊川秀樹, 星野 健, 金 徹, 坂本篤裕, 小川 龍 : 覚醒遅延し, 術後原因不明の著しい肝機能障害をきたした一症例. 第36回日本麻酔学会地方会, 1996. 9.
  - 13) 金 徹, 金 正, 輪島善一郎, 北村 晶, 中西一浩<sup>1)</sup>, 竹田晋浩<sup>1)</sup>, 小川 龍 ( <sup>1)</sup>集中治療室) : 第15回日本蘇生学会総会, 1996. 10.
  - 14) 遠藤正宏, 石川 源, 角田 健, 小川 龍 : Combined spinal-epidural 麻酔の硬膜外追加投与に関する検討. 第9回日本局所麻酔学会, 1996. 11.
  - 15) 角田 健, 藤田和明, 金子勝利, 天本治夫, 石原之法, 小川 龍 : プロポフォールを用いた Patient controlled sedation (P. C. S). 第16回日本臨床麻酔学会総会, 1996. 11.
  - 16) 金 徹, 坂本篤裕, 小川 龍 : 執刀時の皮切あるいは腹膜刺激による白血球の反応を麻酔は抑制できない. 第16回日本臨床麻酔学会総会, 1996. 11.
  - 17) 星野 健, 金 徹, 小川 龍, 中西一浩<sup>1)</sup>, 竹田晋浩<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>1)</sup>, 田中茂夫<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>集中治療室, <sup>2)</sup>外科第2) : 対外循環下開心術におけるサイトカインの変動が心肺機能に与える影響. 第3回手術侵襲とサイトカイン研究会, 1996. 12.

## [第一病院麻酔科]

### 研究概要

当教室は, 以下に記す継続的研究内容を持ち研究報告を行っている。

(1) 脊椎麻酔 : 主たる研究テーマであり, 本年は, 持続脊椎麻酔, 2%リドカインによる脊椎麻酔, 脊椎麻酔下での妊婦の仰臥位低血圧症候群リスク因子, 脊椎麻酔下の徐脈や不整脈などについて報告した。さらに, 下肢手術や婦

人科手術に対する脊椎・硬膜外麻酔併用法，大腿骨頸部骨折に対する脊椎麻酔の総説も報告した。

(2) 硬膜外麻酔：術後鎮痛，硬膜外造影，腹腔鏡下での硬膜外圧の変化について研究報告した。

(3) 低流量麻酔：低流量麻酔中の HbCO，低流量麻酔とプロポフォールについて研究報告をした。

(4) 慢性関節リウマチ患者の麻酔：両膝人工関節置換術に対する輸血のタイミング，呼吸不全を伴ったリウマチ患者の麻酔，慢性関節リウマチ患者の手術における麻酔管理の総説を報告した。

(5) 麻酔中の不整脈：脊椎麻酔下だけでなく局所麻酔や全身麻酔下での不整脈，ST 低下，VT，心筋梗塞についても報告した。

(6) 術後鎮痛：持続硬膜外麻酔による腹部手術の術後鎮痛について少量で安全に充分鎮痛があることを報告した。

(7) ペインクリニック：神経因性膀胱に対する選択的仙骨神経ブロック治療や腹腔神経叢ブロックの解剖学的検索などを報告した。

(8) プロポフォール：低流量麻酔との併用，脊椎麻酔や腕神経叢ブロック時の鎮静薬としての使用，プロポフォール麻酔下の不整脈，導入薬としてチオペンタールとの比較などを報告した。

(9) その他：巨大バセドウ病甲状腺腫，TUR-P 中の水中毒，妊娠継続希望の子宮内外同時妊娠，亜型悪性高熱症，術後発症の耳下腺炎，バルーンカテーテルによる大動脈遮断をした鈍的肝損傷等の症例報告をした。

## 研究業績

### 論文

〔1993～1995年度追加分〕

原著：

- 1) Yokoyama K, Masuda R : Spread of Spinal Anesthesia by Using Four Different Types of Spinal Needle. The International Monitor 1993 ; 5 : 22.
- 2) Yokoyama K, Kawata A : Combined spinal-epidural anesthesia with double interspace technique in rheumatoid orthopaedic surgery. The International Monitor 1994 ; 4 : 8.
- 3) Masuda R, Yokoyama K, Nakai A<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>Dept. of Obstetrics) : The risk factors of supine hypotensive syndrome in spinal anesthesia for cesarean section. The International Monitor 1994 ; 4 : 49.
- 4) Yokoyama K, Tamura T : Epidural Pressure During Anesthesia. The International Monitor 1995 ; 7(2) : 18.

(1) 原著：

- 1) Masuda R, Yokoyama K, Shiga M : Selective sacral nerve block therapy for spastic neurogenic bladder due to spina bifida. Management of Pain (A World Perspective II), 1996 ; 10 : 117-121.
- 2) Yokoyama K, Tamura T : Effect of Airway and Abdominal Pressure Changes on the Epidural Pressure, The International Monitor 1996 ; 8(2) : 94.
- 3) 横山和子：脊椎麻酔・硬膜外麻酔のコツ。日臨麻学会誌，1996；16：108-115.
- 4) 志賀麻記子，横山和子，清水一雄<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>第二外科学教室)：術前気管狭窄を呈した巨大バセドウ病甲状腺腫の1症例。臨麻，1996；20(6)：903-904.
- 5) 益田律子，横山和子，松尾千恵美：坐位脊椎穿刺中に低血圧発作を認めた3症例。麻酔，1996；45(7)：876-879.
- 6) 田村高子，近江禎子，横山和子：脊椎麻酔中のプロポフォールによる鎮静と呼吸抑制について。日本麻酔・薬理学会誌，1996；9(2)：135-137.
- 7) 松尾千恵美，横山和子：エピネフリン添加局麻酔薬により著明な ST 低下を来した1症例。日本麻酔・薬理学会誌，1996；9(2)：216-217.
- 8) 近江禎子，志賀麻記子，横山和子：老人における腕神経叢ブロック時のプロポフォールによる鎮静の試み。日本

麻酔・薬理学会誌, 1996; 9(2): 138-139.

- 9) 近江禎子, 横山和子, 吉岡秀康<sup>1)</sup>, 高橋敬一<sup>2)</sup>, 佐藤孝道<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>虎の門病院麻酔科, <sup>2)</sup>虎の門病院産婦人科): 超音波誘導経膈採卵術に対する2%比重リドカインによる脊椎麻酔. 麻酔, 1996; 45(12): 1507-1510.

(2) 総説:

- 1) 横山和子: 耳鼻咽喉科の麻酔. 耳鼻咽喉科展望, 1997; 40(1): 89-97.
- 2) 横山和子: (特集: 関節リウマチ) 関節リウマチの外科手術における麻酔管理. 治療, 1996; 78: 33-36.
- 3) 益田律子: 大腿骨頸部骨折の脊椎麻酔について. 臨麻, 1996; 20(5): 714-715.

## 著書

- 1) 横山和子: [分担] 下肢手術における脊椎・硬膜外麻酔併用法の利点: 婦人科における脊椎・硬膜外麻酔併用法の利点. 臨床麻酔のコツと落とし穴パート2 (花岡一雄編集) 2, 1996; pp156-157, pp202-203, 中山書店.
- 2) 横山和子: [分担] 脊椎麻酔. 専門医のための麻酔科学レビュー (天羽敬祐監修), 1996; pp117-121, 総合医学社.
- 3) 横山和子: [分担, 翻訳] 神経筋疾患を持つ患者の麻酔. 脳神経外科と麻酔ハンドブック (落合亮一監修), 1996; pp123-136, 医学書院.

## 学会発表

(1) 一般講演:

- 1) Yokoyama K, Tamura T: Epidural Pressures During Laparoscopy Under General Anesthesia. 11th World Congress of Anesthesiologists (Sydney), 1996. 4.
- 2) Masuda R, Yokoyama K, Tanuma K<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>The 2nd Dept. of Anatomy): Anatomical Study for Needle Placement in Cellac Plexus and Splanchnic Nerve Block to Avoid Ischemic Injury to the Spinal Cord. 8th World Congress on Pain. (Vancouver), 1996. 8.
- 3) Yokoyama K, Tamura T: Effect of Airway and Abdominal Pressure Changes on the Epidural Space Pressure. ESRA XV Annual Congress (Nice, France), 1996. 9.
- 4) Masuda R, Yokoyama K, Shiga M: Selective Sacral Nerve Block Therapy for Spastic Neurogenic Bladder Due to Spina Bifida. 7th International Symposium, The Pain Clinic, (Istanbul, Turkey), 1996. 10.
- 5) 志賀麻記子, 横山和子: 両側人工膝関節全置換術の周術期における輸血のタイミングについて. リウマチ学会, 1996. 5.
- 6) 佐藤英記, 鈴木高佳, 横山和子: プロポフォールによる導入中に自発運動と上室性不整脈を生じた1症例. 第17回循環制御学会, 1996. 5.
- 7) 松尾千恵美, 志賀麻記子, 横山和子: TUR-P 施行中水中毒を生じた1症例. 第17回循環制御学会, 1996. 5.
- 8) 近江禎子, 横山和子: 気管内挿管に伴う血圧心拍数変動のプロポフォールとチオペンタール麻酔導入時の比較. 日本医学会第89回例会, 1996. 5.
- 9) 田村高子, 横山和子: 脊椎麻酔中のプロポフォールによる鎮静と呼吸抑制について. 第18日本麻酔・薬理学会総会, 1996. 5.
- 10) 松尾千恵美, 横山和子: エピネフリン添加局麻酔薬により著明なST低下を来した1症例. 第18回日本麻酔・薬理学会総会, 1996. 5.
- 11) 近江禎子, 志賀麻記子, 横山和子: 老人における腕神経叢ブロック時のプロポフォールによる鎮静の試み. 第18回日本麻酔・薬理学会総会, 1996. 5.
- 12) 横山和子: 膀胱鏡中に発生した高度徐脈の2症例. 第21回日本外科系連合学会学術集会, 1996. 6.
- 13) 益田律子, 横山和子, 田沼久美子<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>解剖学第二教室): 内蔵神経, 腹腔神経叢ブロック時における穿刺針と脊

- 随動脈系との解剖学的位置関係について。第30回日本ペインクリニック学会総会，1996。7。
- 14) 鈴木高佳，佐藤英記，益田律子，横山和子：術中の血清酵素変動により心筋梗塞が疑われた前立腺摘出術の1症例。第36回日本麻酔学会関東甲信越地方会，1996。9。
  - 15) 柴崎敬乃，横山和子，近江禎子，森 秀樹<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>日下部病院)：硬膜外併用全身麻酔症例における0.125%プロピバカインとモルヒネによる術後鎮痛効果について。第36回日本麻酔学会関東甲信越地方会，1996。9。
  - 16) 南須原宏城，志賀麻記子，横山和子：妊娠継続を希望した子宮外同時妊娠症例での卵管破裂に対する麻酔。第36回日本麻酔学会関東甲信越地方会，1996。9。
  - 17) 飯野 治，石原 晋<sup>1)</sup>，他県立広島病院救命救急センター (<sup>1)</sup>県立広島病院救命救急センター)：バルーンカテーテルによる大動脈遮断が有効であった鈍的肝損傷 (III-b) の1救命例。日本麻酔学会中国・四国地方会，1996。9。
  - 18) 南須原宏城，佐藤英記，横山和子：術中心電図上 VT 出現し蘇生し得た1症例。第15日本蘇生学会総会，1996。10。
  - 19) 南須原宏城，横山和子：膀胱鏡開始初期にみられた高度徐脈の4症例。第16回日本臨床麻酔学会，1996。11。
  - 20) 松尾千恵美，横山和子：GOI 麻酔下における HbCO の経時的変化——ソーダライム，禁煙の影響を検討。第16回日本臨床麻酔学会，1996。11。
  - 21) 川田亜紀子，益田律子，横山和子：長時間側臥位手術後に発症した耳下腺炎の1症例。第16回日本臨床麻酔学会，1996。11。
  - 22) 近江禎子，志賀麻記子，横山和子：慢性関節リウマチで慢性呼吸不全を伴った患者の麻酔経験。第16回日本臨床麻酔学会，1996。11。
  - 23) 矢島嘉章，横山和子：膀胱鏡中に発生した高度徐脈6症例。第9回日本局所麻酔学会，1996。11。
  - 24) 鈴木高佳，近江禎子，横山和子：2%高比重ロカインによる脊椎麻酔。第9回日本局所麻酔学会，1996。11。
  - 25) 南須原宏城，近江禎子，横山和子：硬膜外麻酔にて持続脊麻となった6症例の検討。第9回日本局所麻酔学会，1996。11。
  - 26) 柴崎敬乃，益田律子，横山和子：片側硬膜外麻酔となった3症例。第9回日本局所麻酔学会，1996。11。
  - 27) 横山和子：低流量麻酔中の COHb について。第4回低流量麻酔研究会，1996。11。
  - 28) 佐藤英記，矢島嘉章，横山和子：分離肺換気による全身麻酔中に亜型悪性高熱症が疑われた1症例。第20回悪性高熱研究会，1996。11。

## [第二病院麻酔科]

### 研究概要

硬膜外麻酔の臨床的研究は，当麻酔科における重要な研究テーマの一つであり，長年に渡り多様な方面から研究を継続しているが，INVOS を用いた新しい試みとして下肢局所酸素飽和度の変動を報告した。また，妊婦における麻酔の研究，特に帝王切開術時の硬膜外麻酔あるいは脊椎麻酔における呼吸循環動態の変動は，非妊婦と比べ特異なものがあるが，安全な麻酔管理を行う上でも極めて重要であり，出血と輸液量の関係を引き続き研究発表した。鎮痛に関しては，手術患者の QOL を高める上で術後の対策が重要視されており，婦人科手術患者を対象として種々な薬物による術後鎮痛効果の検討を継続した。外来患者では東洋医学を今まで以上に試み，鍼や漢方薬あるいはレーザーでの「つば」刺激による効果を検討した。

本年は，海外における学会活動にも参加すべく，重炭酸ナトリウム投与後の PETCO<sub>2</sub> 変化の解析が，麻酔中の心拍出量の臨床的かつ非侵襲的指標として応用できる可能性の昨年度に続く研究をはじめ数題発表した。

臨床的発表に偏重しているが，人員的にも充実しつつ有り，今後は基礎的研究に努力したい。

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著：

- 1) 董 文毅<sup>1)</sup>, 島田洋一<sup>(1)中国医科大学付属第二病院</sup> : Pacemaker 植え込みによる不整脈治療患者の鍼治療による補助的効果. 東洋医学とペインクリニック研究会誌, 1996 ; 26(2) : 184-188.
- 2) 大島正行, 山本英明, 紙谷裕昭, 鈴木恵一郎, 杉本季久造, 島田洋一 : プロポフォールを用いた褐色細胞腫摘出術の麻酔経験. 臨床麻酔, 1997 ; 21(2) : 205-208.

### 学会発表

#### (1) 一般講演：

- 1) Oshima M, Kamitani H, Shimada Y, Ogawa R<sup>1)</sup> (<sup>1</sup>Dept. of Anesthesiology, Nippon Medical School) : Relationship Between Intravenous Infusion and Hemorrhaging during Cesarean Section. 11th World Congress of Anaesthesiologists (Sydney), 1996. 4.
- 2) Suzuki M, Kikutani T, Sugimoto K, Shimada Y : PETCO<sub>2</sub> Changes Following Sodium Bicarbonate Injection. 11th World Congress of Anaesthesiologists (Sydney), 1996. 4.
- 3) Kamitani H, Sugimoto K, Yamada K<sup>1)</sup>, Ogawa R<sup>2)</sup> (<sup>1</sup>Dept. of Anesthesiology, Nippon Medical School Tamanagayama Hospital, <sup>2</sup>Dept. of Anesthesiology, Nippon Medical School) : The efficacy of intravenous flurbiprofen for Postcesarean Analgesia. 11th World Congress of Anaesthesiologists (Sydney), 1996. 4.
- 4) Yamada K<sup>1)</sup>, Saito T<sup>1)</sup>, Oshima M, Shimada S<sup>2)</sup> (<sup>1</sup>Dept. of Anesthesiology, Nippon Medical School Tamanagayama Hospital, <sup>2</sup>Dept. of Otolaryngology, Nippon Medical School Tamanagayama Hospital) : Additional Posterior Superior Alveolar Nerve Block after Neurolytic Blockade of Maxillary or Infraorbital Nerve. 8th World Congress on Pain (Vancouver), 1996. 8.
- 5) 鈴木万三, 菊谷健彦, 赤羽日出男, 杉本季久造, 島田洋一 : 重炭酸ナトリウム投与後の呼気終末二酸化炭素濃度変化の解析. 第43回日本麻酔学会総会, 1996. 3.
- 6) 島田洋一, 小西公磨<sup>1)</sup> (<sup>1</sup>第二病院産婦人科) : 機能性月経困難症に対する芍薬甘草湯と皮内針の併用効果に対する検討. 第9回痛みと漢方研究会学術大会, 1996. 7.
- 7) 小西公磨<sup>1)</sup>, 島田洋一 (<sup>1</sup>第二病院産婦人科) : 機能性月経困難症に対する芍薬甘草湯の効果に対する検討. 第35回神奈川県漢方臨床研究会, 1996. 7.
- 8) 鈴木万三, 菊谷健彦, 赤羽日出男, 杉本季久造, 島田洋一 : 重炭素ナトリウム (8.4%メイロン) 投与後の呼気終末二酸化炭素濃度 (PETCO<sub>2</sub>) 変化の解析. 第16回日本臨床麻酔学会総会, 1996. 11.
- 9) 杉本季久造, 菊谷健彦, 大島正行, 赤羽日出男, 鈴木万三, 紙谷裕昭, 島田洋一 : 腰部硬膜外麻酔における下腿局所酸素飽和度の変動. 第16回日本臨床麻酔学会総会, 1996. 11.

## [多摩永山病院麻酔科]

### 研究概要

疼痛管理では、研究テーマである三叉神経末梢側ブロックの一環として、三叉神経痛パーマネントブロック後の残存痛に対する症例を検討した。従来の三叉神経ブロック療法に伴う皮膚感覚の異常を最小限にとどめるという目的により、当医局ではより末梢側でのブロック法を考案してきた。今回は、第二枝三叉神経痛パーマネントブロック後の残存痛に対し、後上歯槽神経ブロックをおこない、疼痛発作減少に有効との結論を得た。

硬膜外麻酔では、引き継ぎ仙骨部硬膜外腔における局所麻酔剤の広がりを調査した。Tuohy 針による局所麻酔剤の直接注入とカテーテル注入において、両者における差異を比較検討した。また、硬膜外麻酔の手技を用いた新しい麻

酔法として、胸部の一側広範囲麻酔による鼠径ヘルニアの症例を報告した。

全身麻酔では、静脈麻酔薬プロポフォールの静脈内投与速度と血中濃度、及び体内動態パラメータを検証し発表した。さらに硬膜外麻酔下でのプロポフォールによる Patient Controlled Sedation (PCS) をおこなった。プロポフォール投与量は持続法による場合よりも少なく、自覚的にも他覚的にもほぼ満足な鎮静を得られる事が実証された。

継続的研究として、前立腺全摘術における自律神経反射に関する解析を行っている。術中の血圧及び心拍数の低下に幾つかのパターンがみられ、そのひとつに自律神経反射が関与している可能性が示唆された。術前より術後にかけて、ホルター心電図を用いて連続モニターし、反射の関与を実証すべく症例を集め現在検討中である。

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著：

- 1) Saito T, Gallagher ET, Cutler S, Tanuma K, Yamada K, Saito N<sup>1)</sup>, Maruyama K, Carlsson C<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>Gunma University School of Medicine, <sup>2)</sup>Temple University Medical School) : Extended unilateral anesthesia : New Technique or paravertebral Anesthesia?. Regional Anesthesia 1996 ; 21 : 304-307.
- 2) Kobayashi N, Ogawa R, Sato S<sup>1)</sup>, Aihara K<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>日本医科大学中央電子顕微鏡研究施設) : Therapeutic Effect of L-Canavanine, a Selective Inhibitor of Inducible Nitric Oxide Synthase, during Endotoxin Shock Lung in Rats. 日本界面医学会雑誌, 1996 ; 27 : 62-73.
- 3) 川上康彦<sup>1)</sup>, 橋本 清<sup>1)</sup>, 頼 徳成<sup>2)</sup>, 島田早苗<sup>2)</sup>, 山田光輝 (<sup>1)</sup>日本医科大学第二病院小児科, <sup>2)</sup>日本医科大学多摩永山病院耳鼻咽喉科) : 先天性内耳奇形による耳性髄液漏に伴う反復性髄膜炎の1例. 小児科臨床, 1996 ; 49 : 1153-1157.

### 学会発表

#### (1) 一般講演：

- 1) Yamada K, Saito T, Ogawa R : A new unilateral analgesic technique applied to herniorrhaphy. 11th World Congress of Anaesthesiologists (Sydney, Australia), 1996. 4.
- 2) Yamada K, Saito T, Ohshima M, Shimada S<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>Dept of Otolaryngology) : Additional posterior superior alveolar nerve block after neurolytic blockade of maxillary or infraorbital nerve. 8th World Congress on Pain (Vancouver, BC, Canada), 1996. 8.
- 3) Maruyama K, Kaneko K, Amamoto H, Fujita K, Ishihara Y, Yamada K : No clinical benefit of the caudad Mepivacaine injection with Touhy Needle in the sacral spread of analgesia. The 47th Annual Meeting of American Society of Anesthesiologists (New Orleans), 1996. 10.
- 4) Maruyama K, Kaneko K, Amamoto H, Ishihara Y, Yamada K : Sacral analgesia with defering methods of lumbar epidural block. The levels and the success rates of the fifth sacral analgesia. The 71th Clinical and Scientific Congress of International Anesthesia Research Society (San Francisco, CA), 1997. 3.
- 5) 小林徳行, 蔡 明, 坂本篤裕, 小川 龍, 佐藤 茂<sup>1)</sup>, 相原 薫<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>日本医科大学中央電子顕微鏡研究施設) : ラットのエンドトキシン肺障害への L-canavanine の効果. 第11回日本 Shock 学会総会, 1996. 5.
- 6) 石原之法, 山田光輝, 天本治夫, 藤田和明 : 第2枝三叉神経痛パーマネントブロック後の残存痛に対する上歯槽神経ブロックの効果. 第64回日本医科大学医学会, 1996. 9.
- 7) 平田清貴<sup>1)</sup>, 村田正弘<sup>1)</sup>, 山田光輝, 松本宜明<sup>2)</sup>, 加藤 順<sup>2)</sup>, 内野智信<sup>2)</sup>, 松本光雄<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>日本医科大学多摩永山病院薬剤科, <sup>2)</sup>昭和薬科大学) : 静脈内投与速度 Propofol 体内動態パラメータの検証. 第11回日本薬物動態学会年会, 1996. 10.
- 8) 角田 健, 藤田和明, 天本治夫, 石原之法, 山田光輝, 小川 龍 : プロポフォールによる Patient Controlled

Sedation (PCS). 第16回日本臨床麻酔学会総会, 1996, 11.

- 9) 平田清貴<sup>1)</sup>, 村田正弘<sup>1)</sup>, 山田光輝, 松本宜明<sup>2)</sup>, 加藤 順<sup>2)</sup>, 内野智信<sup>2)</sup>, 松本光雄<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学多摩永山病院薬剤科, <sup>2)</sup>昭和薬科大学): Propofol の静脈内投与速度と血中濃度の関係. 日本薬学会第117年会, 1997, 3.

## [千葉北総病院麻酔科]

### 研究概要

「硬膜外麻酔による生理学的影響の解明」および「外科的侵襲に対する生体反応の調節・抑止を目指した麻酔法の探求」が当科の研究面での2大テーマである。前者は当講座開設以来の伝統的なもので、後者は小川龍主任教授主導のもと、付属病院との共通テーマである。

医局員の大半が付属病院からの出向者で占められており、各人の研究の継続を阻害せずに発展させるための環境作りが大切であると考えている。その中で当方において芽生えたオリジナリティーのある研究の芽を大切に育てることも大きな目標である。

硬膜外麻酔では、長期の留置に適したカテーテルの開発、用いる薬剤の組み合わせや投与法の試行を中心に研究を行っている。デザインの改良とともに、温度センサーを組み込んだ硬膜外カテーテルの開発も進めており、この面でのテーマも模索中である。内視鏡的な腹腔内手術での応用では、派生的に得られる硬膜外圧の変動やその意義に新たな知見を得つつある。

その他、止血用器材、温度センサー、気道管理器具などの臨床試用・治験、開発にも積極的に参画しているところである。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著:

- 1) Wajima, Z<sup>1)</sup>, Shitara T<sup>1)</sup>, Nakajima Y<sup>2)</sup>, Kim C<sup>1)</sup>, Kobayashi N<sup>1)</sup>, Kadotani H, Adachi H, Ishikawa G<sup>1)</sup>, Kaneko K<sup>1)</sup>, Inoue T, Ogawa R<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>付属病院麻酔科, <sup>2)</sup>北村山公立病院麻酔科): Continuous brachial plexus infusion of butorphanol-mepivacaine mixtures for analgesia after upper extremity surgery. *British Journal of Anaesthesia* 1997; 78: 83-85.
- 2) Takeda S<sup>1)</sup>, Nakanishi K<sup>1)</sup>, Inoue T, Ogawa R<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>付属病院集中治療室, <sup>2)</sup>付属病院麻酔科): Delayed elevation of plasma endothelin-1 during unilateral alveolar hypoxia without system hypoxemia in humans. *Acta Anaesthesiol Scand* 1997; 41: 274-280.
- 3) 輪嶋善一郎<sup>1)</sup>, 設楽敏朗<sup>1)</sup>, 井上哲夫, 小川 龍<sup>1)</sup>: 直線偏光型近赤外線治療器(スーパーライザー™による星状神経節近傍照射)の皮膚温, 皮膚血流量に及ぼす影響. *麻酔* 1996; 45: 433-438.

##### (2) 総説:

- 1) 井上哲夫, 小倉 明: 持続硬膜外麻酔と全身麻酔の併用による胃全摘術. *LiSA* 1996; 3: 788-791.
- 2) 井上哲夫: 麻酔教育における臨床経験の役割. *麻酔* 1996; 10: 1197.

#### 著書

- 1) 井上哲夫: [分担] 喉頭微細術の麻酔. 臨床麻酔のコツと落とし穴 Part 2 (花岡一雄編), 1996; pp44-46, 中山書店.
- 2) 井上哲夫: [分担] 全身麻酔の合併症とその処置および特殊麻酔法. わかりやすい歯科麻酔(福島和昭, 金子 讓編), 1996; pp181-197, 真興交易医書出版部.



## 学会発表

### (1) 教育講演：

- 1) 井上哲夫：気管内挿管困難の対策。第16回日本臨床麻酔学会総会（東京），1996. 11.

### (2) 一般講演：

- 1) Inoue T : A new kink-resistant epidural catheter. 11th World Congress of Anaesthesiologists (Sydney), 1996. 4.
- 2) Yoshikawa T, Inoue T, Ikeda K, Ogura A, Hongo T : Plasma lignocaine concentration during epidural administration by infusion pumps. 11th World Congress of Anaesthesiologists (Sydney), 1996. 4.
- 3) 吉河達祐, 小倉 明, 角谷仁司, 足立 仁, 小沢和紀, 池田健次, 井上哲夫：非典型的合併症を示した下顎神経ブロックの1例。第16回日本臨床麻酔学会総会。（東京），1996. 11.
- 4) 角谷仁司, 小沢和紀, 足立 仁, 吉河達祐, 池田健次, 井上哲夫：TUR-P 中胸痛発作のみを呈した希釈性低 Na血症の1例。第36回日本麻酔学会関東甲信地方会（東京），1996. 9.

## 18. 救急医学講座

### [付属病院高度救命救急センター・多摩永山病院救命救急センター・ 新東京国際空港クリニック]

#### 研究概要

本年度は、大塚敏文主任教授の定年退任に合わせ、全部で19編と多くの原著論文が掲載され、その多くが学位論文となった。特に久志本医員は、Critical Care Medicine に二つの原著論文が載るといふ、快挙を成し得ている。他にも7編の英文原著があり、また学会発表においても、評価の高い国際学会に多くの口演や展示がなされ、医局員の努力奮闘の跡が感じられる。山本保博主任教授は、就任演説において、今後はよりインパクトファクターの高い雑誌を目指すようにと号令をかけられた。新体制での医局員の学術的な活躍に、大いに期待するところである。

#### 研究業績

##### 論文

###### (1) 原著：

- 1) Kushimoto S, Okajima K, Okabe H, Binder BR : Role of granulocyte elastase in the formation of hemorrhagic shock-induced gastric mucosal lesions in the rat. Crit Care Med 1996 ; 24 : 1041-1046.
- 2) Kushimoto S, Okajima K, Uchiba M, Murakami K, Harada N, Okabe H, Takatsuki K : Role of granulocyte elastase in ischemia/reperfusion injury of rat liver. Crit Care Med 1996 ; 24 : 1908-1912.
- 3) Kimura A, Igarashi H, Ubukata K, Nakagami S, Yamane A : Genotypic Identification of staphylococcal enterotoxins and toxic shock syndrome toxin 1 by the enzymatic detection of polimerase chain reaction-amplified DNA. J Infect Chemother 1996 ; 2 : 90-93.
- 4) Kushimoto S, Okajima K, Uchiba M, Murakami K, Okabe H, Takatsuki K : Pulmonary vascular injury induced by hemorrhagic shock is mediated by P-selectin in rats. Thromb Res 1996 ; 82 : 97-106.
- 5) 小池 薫, Moore EE : Gut ischemia-reperfusion produces lung injury via a mechanism which involves xanthine oxidase and phospholipase A2. 日救医学会誌 1996 ; 7 : 700-708.
- 6) 小池 薫, Moore EE : Gut ischemia-reperfusion primes the neutrophil, the lung and the host. 日救医学会誌 1996 ; 7 : 1-10.
- 7) Koike K, Hemmi H, Yamamoto Y, Otsuka T, Peterson VM : Bone marrow myelopoiesis in a murine model of thermal injury.熱傷 1996 ; 22 : 145-151.
- 8) Omi T, Kawanami O, Matsuda K, Tsujii A, Kawai M, Henmi H, Ferrans J : Histological characteristics of the healing process of frozen skin allograft used in the treatment of burns. Burns 1996 ; 22 : 206-211.
- 9) Minami M, Mashiko K, Yamamoto Y : Organic Solvent Poisoning. Asian Med J 1997 ; 40 : 160-167.
- 10) Kato K, Mashiko K, Yokota H, Inuzuka S, Takahashi K, Ogawa S, Otsuka T : A retrospective evaluation of blunt cardiac trauma.International College of Surgeons. MONDUZZI EDITORE(Italy) 1996 ; 1771-1774.
- 11) Koike K, Yokota H, Kato K, Takahashi K, Ogawa S, Yamamoto Y, Otsuka T : An experimental study of susceptibility to infection after gut ischemia-reperfusion. International College of Surgeons. MONDUZZI EDITORE(Italy) 1996 ; 1771-1774.
- 12) Koike K, Yokota H, Kato K, Takahashi K, Ogawa S, Yamamoto Y, Otsuka T : CD-11b but not endotoxin is critical for lung injury following gut ischemia.International College of Surgeons. MONDUZZI EDITORE (Italy) 1996 ; 1771-1774.

- 13) Yokota H, Ninomia N, Yamamoto Y, Henmi H, Otsuka T : Magnetic resonance imaging in severe head injury, Further Aspects of Disaster Medicine. Proceedings of the Second Asian-Pacific on Disaster Medicine 1996.
- 14) Yokota H, Ogawa S, Takahashi K, Inuzuka S, Koike K, Sato H, Honma M, Isayama K, Mashiko K, Yamamoto Y, Otsuka T : Clinical studies of neuroimaging in diffuse axonal injury. XXX World Congress of the International College of Surgeons. MONDUZZI EDITORE(Italy) 1996 ; 1749-1752.
- 15) Kushimoto S, Okajima K, Harada N, Mashiko K, Yamamoto Y, Otsuka T : Role of microthrombus formation in ischemia/reperfusion injury of rat liver. The Immune Consequence of Trauma, Shock and Sepsis 1997 ; 495-502.
- 16) Otomo Y, Henmi H, Mashiko K, Yamamoto Y, Otsuka T : New Diagnostic Peritoneal Lavage (DPL) Criteria for Diagnosing Hollow-Viscus Injury. Critical Care 1997 ; 1(suppl 1) ; 74.
- 17) Homma M, Henmi H, Otomo Y, Inoue J, Mashiko K, Yamamoto Y, Otsuka T : Usefulness of near-infrared spectroscopy for monitoring a cerebral tissue oxygen saturation during cardio-pulmonary resuscitation (CPR). Critical Care 1991 ; (suppl 1) : 9.
- 18) 池田幸穂, 戸田茂樹, 川本俊樹, 寺本 明 : 虚血性脳浮腫に対する arginine vasopression 分泌抑制剤の抗脳浮腫効果. Cyto-protection & biology 1996 ; 14 : 71-74.
- 19) 玉置智規, 諫山和男, 横田裕行, 益子邦洋, 辺見 弘, 小林士郎, 寺本 明 : 両側性急性硬膜外血腫, 急性硬膜下血腫の臨床的検討. 日外傷会誌 1996 ; 10 : 220-225.
- 20) 木村昭夫, 益子邦洋, 加藤一良, 川井 真, 久志本成樹 : 鈍的四肢動脈損傷に対する血行再建施行例の検討. 日外傷会誌 1996 ; 10 : 284-289.
- 21) 布施 明 : 実験頭部外傷におけるプリン代謝に関する研究. 日救医学会誌 1996 ; 7 : 180-190.
- 22) 本間正人, 須崎紳一郎, 黒川 颯, 大友 康, 益子邦洋, 辺見 弘, 大塚敏文 : 重症急性膵炎(1990年厚生省基準)における重症度評価の意義と早期手術の効果の検討. 日救急医学会誌 1996 ; 7 : 641-648.
- 23) 犬塚 祥, 林田真喜子, 仁平 信, 大野曜吉, 益子邦洋, 山本保博, 大塚敏文 : 救急施設における薬物スクリーニングとしての EMIT 法の有用性. 日救医学会誌 1996 ; 7 : 741-748.
- 24) 玉置智規, 諫山和男, 寺本 明 : くも膜下出血急性期における動脈血中ケトン酸 (AKBR) の変動. 脳と神経 1996 ; 48 : 167-167.
- 25) 高橋修司, 川俣博志, 市川和雄, 弦間和仁, 田島廣之, 隈崎達夫, 益子邦洋 : 外傷性外腸骨動脈閉塞を伴った重症骨盤骨折の1例. 日外傷会誌 1997 ; 11 : 24-28.
- 26) 大友康裕, 辺見 弘, 益子邦洋, 山本保博, 大塚敏文 : 腎損傷の手術適応に関する臨床的研究—とくに腎温存手術のための早期開腹適応について—. 日外傷会誌 1997 ; 11 : 7-13.
- 27) 池田幸穂, 戸田茂樹, 川本俊樹, 渡辺 玲, 寺本 明 : 虚血再灌流後脳浮腫に対する arginine vasopression 分泌抑制剤の抗脳浮腫効果. 老人病研究会紀要 1997 ; 6 : 3-6.
- 28) 木村昭夫, 柴田泰史, 西沢健司, 大國寿士, 留目優子 : 全身炎症反応症候群における免疫グロブリン製剤投与意義の検討. 日救医学会誌 1996 ; 7 : 307-308.
- 29) 加地正人, 勝見 敦, 木村昭夫, 川井 真, 益子邦洋 : 三肢離断, 骨盤骨折より重篤な Crush 症候群を呈した1救命例 research. Therapeutic 1996 ; 17 : 328-334.
- 30) 本間正人, 大友康裕, 原口義座, 辺見 弘, 黒川 颯 : 心肺蘇生後に生じた非閉塞性腸管壊死の成因の考察. 日本救命医療会誌 1996 ; 10 : 91-96.
- 31) 二宮宣文, 横田裕行, 小関一英, 安田和弘, 益子邦洋, 黒川 颯, 辺見 弘, 山本保博, 大塚敏文 : The Activities of Nippon Medical School Emergency and Critical Care Medical Center. Further Aspects of Disaster Medicine 1996 ; 139-142.

- 32) 倉田 潔, 木村昭夫, 西沢健司, 青砥泰二, 柴田泰史: 当施設の患者喀痰より分離された緑膿菌の新しい抗菌剤感受性についての検討. 日本外科感染症誌 1996; 8: 45-48.
- 33) 望月 徹, 木村昭夫, 辺見 弘, 山本保博, 大塚敏文, 柴田泰史: 当施設におけるメチシリン耐性黄色ブドウ球菌に対する, バンコマイシン, アルベカシン, ST 合剤の最小発育阻止濃度最小殺菌濃度の比較検討. 日本外科感染症誌 1996; 8: 87-91.
- 34) 小池 薫, 山本保博, 大塚敏文: 侵襲が食細胞増殖能・細菌感染に及ぼす影響—小腸虚血・再灌流モデルを用いた検討—. 日本外科感染症誌 1996; 8: 1-5.
- 35) 西澤健司, 菅谷量俊<sup>1)</sup>, 木村昭夫<sup>2)</sup>, 柴田泰史<sup>3)</sup>, 平野公晟<sup>1)</sup>, 益子邦洋, 辺見 弘, 大塚敏文<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>付属病院薬剤部, <sup>2)</sup>救急医学科, <sup>3)</sup>付属病院中央検査部): Methicillin-resistant Staphylococcus aureus (MRSA) 感染症に対するバンコマイシン (VCM) 持続投与の検討. 日本外科感染症誌 1996; 8: 75-79.
- 36) 延原弘明, 犬塚 祥, 木村昭夫, 国保昌紀, 吉田竜介: 日本医科大学高度救命救急センターにおける過去5年間: prehospital CPA の検討. 日本救命医療会誌 1996; 10: 27-32.
- 37) 横田裕行, 山本保博, 加藤一良, 小池 薫, 高橋幸道, 小川理郎, 諫山和男, 益子邦洋, 大塚敏文: 頭部外傷を伴う多発外傷死亡例の検討. 日本救命医療会誌 1996; 10: 141-146.
- 38) 大友康裕, 原口義座, 辺見弘, 西 法正, 山本保博: ガス系消火剤の安全確認試験—低酸素環境の人体に与える影響について—. 日本救命医療会誌 1996; 10: 105-110.
- 39) 住田 亮, 木村昭夫, 松本 尚, 吉田竜介, 益子邦洋, 大塚敏文: 重症急性膵炎の治療と予後—凝固系変動を中心に—. バイオメディカル 1996; 6: 69-77.
- 40) 益子邦洋, 犬塚 祥, 大塚敏文, 南 正康: サリン事件の検証と救急災害医療の在り方. 青森県医師会報 1996; 410号付録3: 1-10.
- 41) 柴田泰史, 木村昭夫, 西沢健司, 益子邦洋, 大塚敏文: 免疫グロブリン製剤投与によるサイトカインの変動. 日本外科感染症誌 1996; 8: 19-24.
- (2) 総説:
- 1) 川井 真: 骨盤骨折に伴う合併損傷と対策 (整形外科医のための救急医学). 整形外科 1996; 47: 1089-1095.
  - 2) 吉田竜介: 急性中毒治療のテクニック. JIM 1996; 6 (9): 784-787.
  - 3) 吉田竜介: 救命救急医療のプレホスピタルを取り巻く諸問題. 医学のあゆみ 1996; 176 (12): 766-767.
  - 4) 益子邦洋, 新井正徳, 木村昭夫, 勝見 敦: 心破裂自験例の分析からみた治療: 限界への挑戦. 救急医 1996; 20: 1771-1775.
  - 5) 横田裕行, 小川理郎, 小池 薫, 加藤一良, 益子邦洋, 黒川 顕, 山本保博, 大塚敏文: 意識障害患者のCTの見方と危険所見. 救急医 1996; 20: 648-653.
  - 6) 横田裕行, 山本保博, 加藤一良, 小池 薫: 膀胱穿刺ドレナージ. 救急医 1996; 20: 413-415.
  - 7) 吉田竜介, 益子邦洋: EGTA. 救急医 1996; 20: 1162-1168.
  - 8) 久志本成樹, 益子邦洋: 多発外傷患者の鎮痛・鎮静法. 救急医 1996; 20: 1525-1529.
  - 9) 住田 亮, 益子邦洋: 胸腔穿刺, 胸腔ドレナージ. 救急医 1996; 20: 1267-1272.
  - 10) 川井 真, 原 義明, 加藤 宏, 望月 徹, 大塚敏文: 開放性骨盤骨折 (治療限界への挑戦). 救急医 1996; 20: 1793-1796.
  - 11) 大泉 旭, 川井 真, 益子邦洋: 骨盤損傷. 救急医 1996; 20: 349-351.
  - 12) 大友康裕: 救急処置基本手技アトラス—腹腔穿刺と腹腔洗浄—. 救急医 1996; 20: 1342-1350.
  - 13) 滝口雅博, 飛鳥田一郎, 安藤秀樹, 益子邦洋: 航空機内で使用可能な医療機器について. 救急医 1996; 20: 974-975.
  - 14) 木村昭夫, 益子邦洋: 開胸心マッサージ. 救急医 1996; 20: 385-387.
  - 15) 木村昭夫, 鈴木 勇, 益子邦洋, 大塚敏文, 田中栄一: 救急医学教育用マルチメディア (CD-ROM) 教材. 救急

医 1996;20:967-970.

- 16) 益子邦洋, 望月 徹, 大塚敏文: 交通外傷の救急医療—システムと実態. 公衆衛生 1996;60:455-459.
- 17) 大塚敏文, 益子邦洋: 救急医療の課題. 厚生 1996;51:4-15.
- 18) 吉田竜介, 益子邦洋: 開胸式心マッサージの変遷. 集中治療 1996;8:257-263.
- 19) 高見和孝, 小池 薫, 山本保博: 急性虫垂炎の臨床的特徴: 診断と手術適応. 消化器外科 1996;19:417-423.
- 20) 大友康裕, 辺見 弘: 外傷による腹腔内出血の診断と治療—特集整形外科医のための救急医学—. 整形外科 1996;47:1008-1014.
- 21) 大友康裕, 辺見 弘, 益子邦洋, 山本保博, 大塚敏文: 重度多発外傷における診断・治療のプライオリティー—手術手技シリーズ—. 日本外科系連合学会フィルムライブラリー 1996;96-14.
- 22) 川井 真: 四肢軟部組織損傷における初期治療戦略. 医学のあゆみ 1996;177-180.
- 23) 益子邦洋: アナフィラキシーショック. 臨床医 1996;22:846-847.
- 24) 犬塚 祥, 大塚敏文: アルコールと救急医療. からだの科学 1997;192:56-58.
- 25) 布施 明, 横田裕行, 益子邦洋, 黒川 顕, 山本保博, 大塚敏文: 痙攣. 救急医 1997;21:379-400.
- 26) 久志本成樹: 外傷による呼吸不全に対する救急処置のポイント. 救急医療ジャーナル 1997;23:16-21.
- 27) 益子邦洋: 災害救急医療とトリアージ. 港区医師会報 1997;75:4-7.
- 28) 横田裕行, 小川理郎, 犬塚 祥, 小池 薫, 加藤一良, 佐藤秀貴, 布施 明, 益子邦洋, 黒川 顕, 山本保博, 大塚敏文: 重症患者と意識障害 頭部外傷. 集中治療 1997;9(4):399-407.
- 29) 横田裕行, 小川理郎, 佐藤秀貴, 布施 明, 黒川 顕, 山本保博, 大塚敏文: 知っておくべき救急疾患100頭部外傷. 診断と治療 1997;85:537-545.
- 30) 市川和雄, 田島なつき, 田島広之, 村上隆介, 岡田 進, 保坂純郎, 山本 鼎, 大塚敏文, 隈崎達夫, 増野智彦, 横田裕行, 牧野俊郎: Body packer の画像診断医. 日本放射線学会雑誌 1997;57:89-93.
- 31) 川井 真: 四肢・骨盤外傷 (ここが知りたい診断・治療・予後), 救急医学 1996;20:753.

### (3) 研究報告書:

- 1) 横田裕行<sup>1)</sup>, 加藤一良<sup>1)</sup>, 大塚敏文<sup>2)</sup>, 有賀 徹<sup>3)</sup>, 佐藤 章<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学千葉北総病院救命救急部, <sup>2)</sup>日本医科大学高度救命救急センター, <sup>3)</sup>昭和大学救急医学, <sup>4)</sup>千葉県救急医療センター): 臓器提供施設のあり方に関する研究. 厚生省: 平成7年度臓器技術臨床研究開発事業, 臓器移植の社会的問題に関する研究班(B班), 1996.
- 2) 横田裕行, 加藤一良, 大塚敏文, 有賀 徹<sup>2)</sup>, 佐藤 章<sup>3)</sup>, (<sup>2)</sup>昭和大学救急医学, <sup>3)</sup>千葉県救急医療センター): 臓器提供施設のあり方に関する研究. 厚生省: 平成8年度臓器技術臨床研究開発事業, 臓器移植の社会的問題に関する研究班(B班), 1996.

### 著書 (CD-ROM も含む)

- 1) 山本保博: [編集] 薬の適用法. 救急現場の救急医療: 薬理学・生化学・栄養学 (山中昭栄, 山本保博総編集), 1997;p3, 荘道社.
- 2) 木村昭夫: [分担] 軟部組織の外傷: 経静脈治療オーダーマニュアル (和田孝雄, 小川 龍, 林田憲明 編集), 1996;メヂカルレビュー.
- 3) 益子邦洋: [分担] 心・大血管損傷, 今日の救急治療指針 (前川和彦, 相川直樹編集), 1996;pp312-313, 医学書院.
- 4) 益子邦洋: [分担]: 心タンポナーデ, 今日の救急治療指針 (前川和彦, 相川直樹編集), 1996;pp209-211, 医学書院.
- 5) 諫山和男: [分担] 慢性期の治療. 小児頭部外傷 (重森 稔, 片山容一, 小林士郎編集), 1996;pp213-217, 医学書院.
- 6) 益子邦洋: [分担] 病態の評価と救命処置, 救急外傷—初期治療の実際 (相川直樹編集), 1996;pp12-17, 医歯

葉出版。

- 7) 木村昭夫, 辺見 弘, 望月 徹, 倉田 潔, 西沢健司:〔分担〕重症熱傷症例における緑膿菌感染の現状と対策: 緑膿菌の今日的意味(斎藤 厚, 山口恵三 編集), 1996; 医薬ジャーナル。
- 8) 川井 真:〔分担〕関節穿刺法。今日の救急治療指針, 1996; pp606-607, 医学書院。
- 9) 川井 真:〔分担〕創外固定法。今日の救急治療指針, 1996; pp600-601, 医学書院。
- 10) 川井 真:〔分担〕ショックパンツ。1997 今日の治療指針, 1997; p97, 医学書院。
- 11) 益子邦洋:〔分担〕胸部外傷に対する開胸術の適応, 今日の治療指針1997(日野原重明, 阿部正和監修), 1997; pp27-28, 医学書院。
- 12) 大塚敏文:〔監訳〕クリティカルケア薬物療法ハンドブック, 1997; 医学書院。
- 13) 大塚敏文, 益子邦洋, 木村昭夫:〔CD-ROM〕救急医学への道, 1997; 3, K.K 旭化成情報システム。

## 学会発表

### (1) 特別講演:

- 1) Mashiko K: Prehospital Care for the Trauma Patient in Japan. 第10回日本外傷学会評議員セミナー, 1996. 5.
- 2) 益子邦洋:災害時におけるトリアージの実務について, 東京都, 医師等研修会, 1996.
- 3) 益子邦洋:地下鉄サリン事件と救急災害医療。平成8年度第2回青森県医師会救急医療講座, 1996.
- 4) 横田裕行, 中林基明, 布施 明, 佐藤秀貴, 本間正人, 池田幸穂, 山本保博, 大塚敏文, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>1)</sup>  
(<sup>1)</sup>脳神経外科):重症脳脊髄損傷の治療:頭部外傷。第17回日本脳神経外科コンgres, 1997. 3.

### (2) 教育講演:

- 1) 益子邦洋:緊急検査データの評価。医師救急医療業務実地修練合同研修セミナー, 1996.
- 2) 益子邦洋:災害時救急医療活動とトリアージ。港区医師会学術講演会, 1996.
- 3) 益子邦洋:救急災害医療とトリアージ。板橋区救急医療教育講演会, 1996.
- 4) 益子邦洋:外傷の初期治療とピットフォール。静岡県労災保険指定病院診療所協会, 1997.
- 5) 益子邦洋:産業医に必要な救命救急の知識。東京都医師会産業医講習会, 1997.
- 6) 益子邦洋:高度救命救急の現状。日本病院会第26回放射線技師監督者セミナー, 1997.

### (3) シンポジウム:

- 1) Otomo Y, Henmi H, Mashiko K, Yamamoto Y, Otsuka T: NEW DIAGNOSTIC PERITONEAL LAVAGE (DPL) CRITERIA FOR DIAGNOSING INTESTINAL INJURY Symposium (Abdominal Trauma). 30th World Congress of the International College of Surgeons, 1996. 11.
- 2) 住田 亮, 木村昭夫, 益子邦洋, 山本保博, 大塚敏文:集中治療における血液浄化法の役割 どのような症例に, いつ, 何を導入すべきか。第58回日本臨床外科医学会総会, 1996.
- 3) 木村昭夫, 柴田泰史:抗サイトカイン療法としての免疫グロブリン投与の検討—熱傷症例を中心に—。第22回日本熱傷学会総会学術集会, 1996. 5.
- 4) 加地正人, 勝見 敦, 久志本成樹, 吉田竜介, 木村昭夫, 山本保博, 大塚敏文:三次救急医療施設における腹部救急医療の現況:特に腹部外傷について。第27回日本腹部救急医学会総会, 1996. 9.
- 5) 横田裕行, 布施 明, 二宮宣文, 諫山和男, 小関一英, 黒川 顕, 大塚敏文, 林 伸吉<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>1)</sup>  
(<sup>1)</sup>脳神経外科):重症頭部外傷にたいする低体温療法時の集学的治療。第55回日本脳神経外科学会総会, 1996. 10.
- 6) 小川理郎, 横田裕行, 小池 薫, 加藤一良, 犬塚 祥, 高橋幸道, 田中啓治<sup>1)</sup>, 大友康裕, 益子邦洋, 黒川 顕, 山本保博, 大塚敏文 (<sup>1)</sup>集中治療部):脳血流・脳酸素代謝からみた各種心肺脳蘇生法の再評価。第24回日本救急医学会総会, 1996. 10.

- 7) 大友康裕, 本間正人, 井上潤一, 加藤 宏, 望月 徹, 小関一英, 辺見 弘: 横隔膜損傷の術前診断の試みとその意義—シンポジウム—鈍的胸部外傷の診断と治療の進歩. 第24回日本救急医学会総会, 1996. 10.
  - 8) 木村昭夫, 益子邦洋: 鈍的胸部外傷に対するビデオ胸腔鏡下診断治療の意義. 第24回日本救急医学会総会, 1996. 10.
  - 9) 久志本成樹, 益子邦洋, 山本保博, 大塚敏文: 肝虚血再灌流障害の病態—活性化白血球と微小血栓の関与—. 第12回体液代謝管理研究会, 1997. 1.
  - 10) 布施 明, 横田裕行, 諫山和男, 池田幸穂, 村上 守, 佐藤秀貴, 小関一英, 黒川 顕, 益子邦洋, 山本保博, 大塚敏文, 林 伸吉, 小林士郎, 寺本 明: 重症頭部外傷例に対する低体温療法時の問題点. 第20回日本神経外傷研究会, 1997. 2.
  - 11) 久志本成樹, 中村京太, 木村昭夫, 益子邦洋, 山本保博, 大塚敏文: 大腸穿孔による腹膜炎症例における臓器不全の検討. 第8回急性臓器不全懇話会, 1997. 2.
- (4) パネルディスカッション:
- 1) Kimura A, Mochizuki T, Nisizawa K, Mashiko K, Yamamoto Y: Methicillin-resistant Staphylococcus aureus (MRSA) Pneumonia in Severely Burned Patients: Chemotherapy and Prophylaxis. 31th World Congress of the International College of Surgeons, 1996. 11.
  - 2) 川井 真, 勝見 敦, 益子邦洋, 辺見 弘, 大塚敏文: 重症熱傷患者における凍結同種植皮の現状. 第21回外科学系連合学会, 1996.
  - 3) 木村昭夫, 大塚敏文, 益子邦洋, 諫山和男, 川井 真: 多発外傷における救命後の Quality of Life の検討. 第96回日本外科学会総会, 1996. 4.
  - 4) 望月 徹, 木村昭夫, 川井 真, 益子邦洋, 山本保博, 大塚敏文<sup>1)</sup>, 柴田泰史, 青砥泰二<sup>2)</sup>, 西澤健司<sup>3)</sup>, (<sup>1)</sup>救急医学科, <sup>2)</sup>付属病院中央検査部, <sup>3)</sup>付属病院薬剤部): 熱傷症例におけるメチシリン耐性黄色ブドウ球菌肺炎に対する抗菌化学療法. 第22回日本熱傷学会総会, 1996. 5.
  - 5) 川井 真, 原 義明, 大泉 旭, 益子邦洋, 山本保博, 大塚敏文: 救命センターにおける労働災害症例の現状. 第44回日本災害医学会, 1996. 10.
- (5) ワークショップ:
- 1) 小池 薫, 小川理郎, 高橋幸道, 加藤一良, 横田裕行, 山本保博, 大塚敏文: 好中球のプライミングと遠隔臓器障害—小腸虚血再灌流モデルにおける検討. 第96回日本外科学会総会, 1996. 4.
  - 2) 二宮宣文, 山本保博, 鶴飼 卓, 杉本勝彦, 甲斐達朗, 山崎達枝, 小井土雄一, 小関一英, 大塚敏文: わが国の災害医療研修の研修内容と今後の問題点. 第24回日本救急医学会総会, 1996. 10.
  - 3) 高橋幸道, 横田裕行, 加藤一良, 小池 薫, 犬塚 祥, 小川理郎, 牧野俊郎, 山本保博, 大塚敏文: 大災害訓練時に認められたトリアージタッグのピットフォール. 第24回日本救急医学会総会, 1996. 10.
- (6) 一般講演:
- 1) Kato K, Inutsuka S, Takahashi K, Ishikawa N, Yokota H, Koike K, Ogawa S, Otsuka T: Endoscopic treatment for hemorrhagic gastroduodenal ulcer with active arterial bleeding or with visible vessels done by emergency physicians: results of thirty-three cases prospectively treated by emergency physicians in an emergency center. The 3rd Asia-Pacific Conference on Emergency and Disaster Medicine (Bali, Indonesia), 1996. 10.
  - 2) Ikeda Y, Teramoto A, Nakagawa Y, Ishibashi Y, Yoshii T: Attenuation of cryogenic-induced brain edema by arginine vasopressin release inhibitor RU51599. The 64th Annual Meeting, The American Association of Neurological Surgeons, (U.S.A.) 1996. 4.
  - 3) Kimura A, Ohkuni H, Todome Y, Shibata Y, Nishizawa K.: Intravenous immunoglobulin for Patients with Systemic Inflammatory Response Syndrome and High Plasma Interleukin-6 Concentration. The 56th

Annual Meeting of the American Association for The Surgery of Trauma, 1996. 9.

- 4) Kato K, Yokota H, Otomo Y, Koike K, Takahashi K, Ogawa S, Takami K, Otsuka T, Okada S : FINDINGS OF MAGNETIC RESONANCE IMAGING (MRI) IN MILD TO MODERATE NONPENETRATING CERVICAL INJURY. The 56th annual meeting of the AAST, (Houston Tx), 1996. 9.
- 5) Koike K, Yokota H, Kato K, Takahashi K, Ogawa S, Yamamoto Y, Otsuka T : CD11B but not endotoxin is critical for lung injury following gut ischemia. The 12th annual meeting and International conference of the Academy of Surgical Research, Muenster, (Germany), 1996. 10.
- 6) Koike K, Yamamoto Y, Otsuka T : Susceptibility to infection after gut ischemia-reperfusion. The 1st Sino-Japanese international symposium on surgical infection, (Chongqing, China), 1996. 10.
- 7) Sato H, Yamamoto Y, Otsuka T, Isayama K, Arai T, Yokota H : MRI APPEARANCE OF ACUTE DIFFUSE AXONAL INJURY. The Third Asia-Pacific Conference on Emergency and Disaster Medicine (Bali, Indonesia), 1996. 10.
- 8) Ninomiya N, Maekawa K, Ukai T, Kai T, Yamamoto Y : Problems of disaster management in Japan. The Third Asia-Pacific Conference on Emergency and Disaster Medicine and The National Congress of the Indonesian Society of Critical Care Medicine (Bali, Indonesia), 1996. 10.
- 9) Arai T, Yamamoto Y, Otsuka T, Isayama K, Sato H, Yokota H : MILD HYPOTHERMIA FOR PATIENTS WITH SEVERE SUBARACHNOID HEMORRHAGE : CORRELATION BETWEEN INTRACRANIAL PRESSURE AND COMPUTED TOMOGRAPHIC FINDINGS. The Third Asia-Pacific Conference on Emergency and Disaster Medicine (Bali, Indonesia), 1996. 10.
- 10) Kato K, Yokota H, Koike K, Inutsuka S, Takahashi K, Ogawa S, Takami K, Tanimoto S, Otsuka T : SPONTANEOUS SPLENIC SUBCAPSULAR HEMORRHAGE OCCURRED IN A PATIENT OF SICKLE CELL DISEASE: AN UNUSUAL COMPLICATION. The 14th International congress for Tropical Medicine and Malaria, (Nagasaki), Japan, 1996. 11.
- 11) Yokota H, Ogawa S, Takahashi K, Inuzuka S, Koike K, Kato K, Honma M, Isayama K, Mashiko K, Yamamoto Y, Otsuka T : Clinical Studies of Neuroimaging in Diffuse Axonal Injury. 30th World Congress of the international College of Surgeons (Kyoto), 1996. 11.
- 12) Kato K, Mashiko K, Yokota H, Inutsuka S, Takahashi K, Ogawa S, Otsuka T : A RETROSPECTIVE EVALUATION OF BLUNT CARDIAC TRAUMA. The 30th world congress of the International College of Surgeons, (Kyoto, Japan), 1996. 11.
- 13) Koike K, Yokota H, Kato K, Takahashi K, Ogawa S, Yamamoto Y, Otsuka T : An experimental study of susceptibility to infection after Gut Ischemia-Reperfusion. The 30th world congress of the International College of Surgeons, (Kyoto, Japan), 1996. 11.
- 14) Yokota H, Ogawa S, Takahashi K, Inutsuka S, Koike K, Kato K, Sato H, Honma M, Isayama K, Mashiko K, Yamamoto Y, Otsuka T : Clinical studies of neuroimaging in diffuse axonal injury. The 30th world congress of the International College of Surgeons, (Kyoto, Japan), 1996. 11.
- 15) Koido Y, Aiboshi J, Taniguchi T, Yamashita Y, Tomioka J, Suzaki S, Kurokawa A, Mashiko K, Otsuka T : The Effect of Hemorrhagic Shock on IL-10. XXX World Congress of the International College of Surgeons, 1996. 11.
- 16) Koike K, Yokota H, Kato K, Takahashi K, Ogawa S, Yamamoto Y, Otsuka T : An experimental study of susceptibility to infection after gut ischemia-reperfusion. XXX world congress of the International College of Surgeons, 1996. 11.
- 17) Koike K, Yokota H, Kato K, Takahashi K, Ogawa S, Yamamoto Y, Otsuka T : CD11B but not endotoxin



is critical for lung injury following gut ischemia. XXX world congress of the International College of Surgeons. 1996. 11.

- 18) Kushimoto S, Okajima K, Harada N, Mashiko K, Yamamoto Y, Otsuka T: Role of microthrombus formation in ischemia/reperfusion injury of rat liver. 4th International Congress on the Immune Consequence of Trauma, Shock and Sepsis-Mechanisms and Therapeutic Approaches (Munich, Germany), 1997. 3.
- 19) Homma M, Henmi H, Otomo Y, Inoue J, Mashiko K, Yamamoto Y, Otsuka T: Usefulness of near-infrared spectroscopy for monitoring a cerebral tissue oxygen saturation during cardio-pulmonary resuscitation (CPR). 17th International Symposium on Intensive Care and Emergency Medicine, 1997. 3.
- 20) Otomo Y, Henmi H, Mashiko K, Yamamoto Y, Otsuka T: New Diagnostic Peritoneal Lavage (DPL) Criteria for Diagnosing Hollow-viscus Injury. 17th International Symposium on Intensive Care and Emergency Medicine, 1997. 3.
- 21) Koido Y, Aiboshi J, Taniguchi T, Yamashita T, Tomioka J, Suzaki S, Kurokawa A, Mashiko K, Otsuka T: THE EFFECT OF HEMORRAGIC SHOCK ON IL-10. 17th International Symposium on Intensive Care and Emergency Medicine, 1997. 3.
- 22) 村上 守, 諫山和男, 布施 明, 佐藤秀貴, 饒波正博, 荒木 尚, 渡辺国広, 益子邦洋, 大塚敏文: 初診時すでに delayed spasm をきたしている重症くも膜下出血の治療. 第10回日本神経救急研究会, 1996.
- 23) 宮内雅人, 木村昭夫, 益子邦洋, 山本保博, 大塚敏文: 長期予後からみた CPA 症例の検討. 第11回日本救命医療研究会, 1996.
- 24) 吉田竜介, 木村昭夫, 益子邦洋: 当院における麻薬, 覚醒剤中毒の現況. 第2回日本鑑識科学技術学会, 1996.
- 25) 谷本佐理名, 北垣 毅, 高見和孝, 小川理郎, 高橋幸道, 小池 薫, 加藤一良, 横田裕行, 山本保博: 椎骨動脈閉塞を来した頸髄損傷の1例. 第22回外傷症例検討会, 1996.
- 26) 諫山和男, 永田和哉, 平川 恒, 寺本 明: 新しい自在脳べら固定器: パナナム (J アーム改良型) の開発. 第5回脳神経外科手術と機器学会 (CNTT), 1996.
- 27) 諫山和男, 佐藤秀貴, 荒木 尚, 饒波正博, 高木 亮, 林 伸吉, 玉置智規, 池田幸穂, 寺本 明: くも膜下出血後3D-CTA による脳血管攣縮の評価: 症候性血管攣縮の治療に対して有用か. 第54回日本神経外科学会総会, 1996.
- 28) 吉田竜介, 益子邦洋, 大塚敏文: 当センターにおける消化器疾患以外の急性腹症の検討. 第58回日本臨床外科医学会総会, 1996.
- 29) 本間正人, 大友康裕, 辺見 弘, 益子邦洋, 山本保博, 大塚敏文: 重症急性膵炎における重症度評価の意義と早期手術の効果の検討. 第58回日本臨床外科医学会総会, 1996.
- 30) 饒波正博, 諫山和男, 益子邦洋, 勝又聖夫, 南 正康, 寺本 明: 笑気法による集中治療室内での脳血流代謝測定ガスクロマトグラフ, ヘッドスペース法を用いた血中笑気濃度測定. 第8回日本脳循環代謝学会総会, 1996.
- 31) 荒木 尚, 諫山和男, 益子邦洋, 大塚敏文, 寺本 明: 診断が困難であった前下小脳動脈末梢部破裂動脈瘤の1例. 第9回日本神経救急研究会, 1996.
- 32) 北垣 毅, 横田裕行, 加藤一良, 小池 薫, 高橋幸道, 小川理郎, 増野智彦, 山本保博, 大塚敏文: 進行性化骨性筋炎を伴った広範囲熱傷の1例. 第4回熱傷学会関東地方会, 1996.
- 33) 諫山和男, 佐藤秀貴, 寺本 明: 脳底動脈瘤に対する transpetrosal approach. 第25回日本脳卒中の外科研究会, 1996.
- 34) 小野寺謙吾, 犬塚 祥, 横田裕行, 加藤一良, 小池 薫, 高橋幸道, 小川理郎, 山本保博, 大塚敏文: 上部消化管穿孔を伴った有機リン中毒の1例. 第17回過大侵襲研究会, 1996. 4.
- 35) 池田幸穂, 戸田茂樹, 川本俊樹, 寺本 明: ラット前脳虚血後脳浮腫に対する Arginine Vasopressin (AVP)

- 分泌抑制剤 RU51599の効果。第21回日本脳卒中学会総会，1996。4。
- 36) 諫山和男，佐藤秀貴，林 伸吉，饒波正博，池田幸穂，玉置智規，寺本 明，高木 亮，益子邦洋，大塚敏文：くも膜下出血術後3D-CT angiographyの有用性について：脳血管攣縮の発現をモニターできるか。第21回日本脳卒中学会総会，1996。4。
- 37) 大友康裕，辺見 弘，西 法正，望月 徹，小関一英，加藤一良，山本保博，益子邦洋，大塚敏文：右血胸中トランスアミンナーゼ値による右横隔膜損傷診断。第96回日本外科学会総会，1996。4。
- 38) 井上潤一，大友康裕，本間正人，原口義座，辺見 弘，倉本憲明<sup>1)</sup>，加藤一良，横田裕行，山本保博，益子邦洋，大塚敏文<sup>(1)同放射線科</sup>：肝損傷後胆汁性腹膜炎の早期診断に診断学的腹腔穿刺ドレナージおよびDIC-CTが有用であった2症例。第10回日本外傷学会，1996。5。
- 39) 久志本成樹，益子邦洋，山本保博，大塚敏文，岡嶋研二：出血性ショックによる胃粘膜病変形成機序とAT IIIによるその制御。第10回日本外傷学会，1996。5。
- 40) 犬塚 祥，林田真喜子<sup>1)</sup>，仁平 信<sup>1)</sup>，益子邦洋，山本保博，大塚敏文<sup>(1)法医学教室</sup>：外傷患者におけるアルコール／薬物スクリーニングの意義。第10回日本外傷学会，1996。5。
- 41) 国保昌紀，大友康裕，木村昭夫，益子邦洋，大塚敏文：穿通性腎損傷に対する腎温存手術の可能性と限界。第10回日本外傷学会，1996。5。
- 42) 小井土雄一，相星淳一，辻井厚子，須崎紳一郎，黒川 颯，本間正人，辺見 弘，益子邦洋，大塚敏文：腹腔内タオルパッキングを要した外傷症例の検討。第10回日本外傷学会，1996。5。
- 43) 小川理郎，田島なつき<sup>1)</sup>，横田裕行，加藤一良，小池 薫，高橋幸道，山本保博，川井 真，益子邦洋，大塚敏文，大友康裕，辺見 弘<sup>(1)放射線科</sup>：骨盤骨折における3D-CT，3D-CTA，MRAの有用性と問題点。第10回日本外傷学会，1996。5。
- 44) 小池 薫，谷本佐理名，小川理郎，高橋幸道，加藤一良，横田裕行，山本保博，大塚敏文：小腸虚血・再灌流が骨髄における食細胞増殖能に及ぼす影響—エンドトキシンとその比較検討。第10回日本外傷学会，1996。5。
- 45) 松本 尚，木村昭夫，益子邦洋，山本保博，大塚敏文，小関一英，大友康裕，辺見 弘：穿通性腹部外傷診断における最近5年間の現状と診断的腹腔洗浄法の有用性。第10回日本外傷学会，1996。5。
- 46) 大泉 旭，山本保博，益子邦洋，川井 真，角田 隆，加藤 宏，大塚敏文：当施設におけるGustilo Type III開放骨折の治療についての検討。第10回日本外傷学会，1996。5。
- 47) 大友康裕，辺見 弘，望月 徹，小関一英，加藤一良，山本保博，益子邦洋，大塚敏文：右血胸中トランスアミンナーゼ値による右横隔膜損傷診断。第10回日本外傷学会，1996。5。
- 48) 辻井厚子，黒川 颯，須崎紳一郎，小井土雄一，畝本恭子，富岡譲二，相星淳一，布施 明，直江康孝，山下照代，大畑賀央，大塚敏文：肋骨・肋軟骨骨折に続発した膿胸の2症例。第10回日本外傷学会，1996。5。
- 49) 布施 明，黒川 颯，諫山和男，横田裕行，益子邦洋，山本保博，大塚敏文，小林士郎<sup>1)</sup>，寺本 明<sup>1)</sup><sup>(1)脳神経外科</sup>：頭部代創の5症例。第10回日本外傷学会，1996。5。
- 50) 本間正人，井上潤一，加藤 宏，大友康裕，辺見 弘，益子邦洋，山本保博，大塚敏文：出血に伴う血管外凝固が凝固線溶系に及ぼす影響についての検討。第10回日本外傷学会，1996。5。
- 51) 饒波正博，諫山和男，横田裕行，益子邦洋，小林士郎，寺本 明：外傷性大脳基底核出血—瀰漫性脳損傷との関連から。第10回日本外傷学会，1996。5。
- 52) 饒波正博，諫山和男，玉置智規，小林士郎，池田幸穂，横田裕行，益子邦洋，大塚敏文：外傷性大脳基底核出血。第10回日本外傷学会，1996。5。
- 53) 住田 亮，川井 真，勝見 敦，益子邦洋，辺見 弘，大塚敏文：小児熱傷症例の検討。第22回日本熱傷学会学術集会，1996。5。
- 54) 小池 薫，山本保博，大塚敏文，Peterson VM：マウス熱傷モデルにおける骨髄外細胞増殖能の検討。第22回日本熱傷学会総会，1996。5。

- 55) 荒木 尚, 諫山和男, 林 伸吉, 饒波正博, 佐藤秀貴, 村上 守, 西 和紀, 益子邦洋, 大塚敏文: 低体温療法が有効と考えられた重症クモ膜下出血症例. 第41回日本救急医学会関東地方会, 1996. 6.
- 56) 佐藤格夫, 松田 潔, 倉田 潔, 志賀尚子, 新井正徳, 千葉成宏: 横紋筋融解を伴った非ケトン性高浸透圧性糖尿尿病性昏睡の1例. 第41回日本救急医学会関東地方会, 1996. 6.
- 57) 小野寺謙吾, 谷本佐理名, 小川理郎, 高橋幸道, 小池 薫, 加藤一良, 横田裕行, 大塚敏文: 広汎な腹腔内臓器壊死を来した2症例. 第41回日本救急医学会関東地方会, 1996. 6.
- 58) 柴田泰史<sup>1)</sup>, 青山昭徳<sup>1)</sup>, 里村克章<sup>1)</sup>, 木村昭夫, 久志本成樹, 益子邦洋, 西澤健司<sup>2)</sup>, (<sup>1)</sup>付属病院中央検査部, <sup>2)</sup>付属病院薬剤部): AT-III 製剤投与による血中メディエーターの変動. 第41回日本救急医学会関東地方会, 1996. 6.
- 59) 西澤健司<sup>1)</sup>, 酒井紀美子<sup>1)</sup>, 平野公晟<sup>1)</sup>, 木村昭夫, 望月 徹, 益子邦洋, 大塚敏文, 柴田泰史<sup>2)</sup>, 青砥泰二<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>付属病院薬剤部, <sup>2)</sup>付属病院中央検査部): 当施設の患者喀痰より分離された緑膿菌に対する抗菌薬の最小発育阻止濃度と最小殺菌濃度の検討. 第41回日本救急医学会関東地方会, 1996. 6.
- 60) 青砥泰二<sup>1)</sup>, 柴田泰史<sup>1)</sup>, 青山昭徳<sup>1)</sup>, 里村克章<sup>1)</sup>, 西澤健司<sup>2)</sup>, 木村昭夫, 益子邦洋, (<sup>1)</sup>付属病院中央検査部, <sup>2)</sup>付属病院薬剤部): 緑膿菌における抗菌薬の使用状況と薬剤耐性化についての検討. 第41回日本救急医学会関東地方会, 1996. 6.
- 61) 谷本佐理名, 横田裕行, 加藤一良, 小池 薫, 犬塚 祥, 高橋幸道, 小川理郎, 佐藤秀貴, 牧野俊郎, 山本保博, 大塚敏文: 新東京国際空港からの救急患者の特殊性と問題点. 第41回日本救急医学会関東地方会, 1996. 6.
- 62) 林 伸吉, 諫山和男, 玉置智規, 横田裕行, 寺本 明, 益子邦洋, 大塚敏文: 脳低体温療法患者における温度モニタリング. 第41回日本救急医学会関東地方会, 1996. 6.
- 63) 柴田泰史<sup>1)</sup>, 犬塚 祥, 西澤健司<sup>2)</sup>, 青山昭徳<sup>1)</sup>, 里村克章<sup>1)</sup>, 益子邦洋, 大塚敏文, 林田眞喜子<sup>3)</sup>, 仁平 信<sup>3)</sup>, 大野曜吉<sup>3)</sup>, (<sup>1)</sup>付属病院中央検査部, <sup>2)</sup>付属病院薬剤部, <sup>3)</sup>法医): Triageイおよび REMEDI-HSイによる薬物スクリーニングの検討. 第18回日本中毒学会総会, 1996. 7.
- 64) 林 伸吉, 諫山和男, 寺本 明, 益子邦洋, 大塚敏文: 脳低体温療法時の下垂体機能. 第9回脳死・脳蘇生研究会, 1996. 7.
- 65) 石川尚子, 小野寺謙吾, 谷本佐理名, 小川理郎, 高橋幸道, 犬塚 祥, 小池 薫, 加藤一良, 横田裕行, 大塚敏文: 救命救急医療における高齢者救急の問題点. 第10回千葉県重症患者管理研究会, 1996. 9.
- 66) 吉田竜介, 加地正人, 勝見 敦, 益子邦洋, 大塚敏文: 腹部腫瘤にて開腹し胆嚢癌穿孔腹膜炎と診断された1例. 第27回日本腹部救急医学会総会, 1996. 9.
- 67) 小野寺謙吾, 犬塚 祥, 横田裕行, 加藤一良, 小池 薫, 高橋幸道, 小川理郎, 佐藤秀貴, 谷本佐理名, 大塚敏文: 来院時心肺停止で搬送された消化管穿孔の2症例. 第27回日本腹部救急医学会総会, 1996. 9.
- 68) 小野寺謙吾, 横田裕行, 加藤一良, 小池 薫, 犬塚 祥, 高橋幸道, 小川理郎, 牧野俊郎, 山本保博, 大塚敏文, 大秋美治<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>病理部): 重篤な呼吸不全にて緊急入院となった後天性免疫不全症候群の1例. 第64回日本医科大学医学部総会, 1996. 9.
- 69) 小池 薫, 山本保博: 小腸虚血再灌流が感染症に及ぼす影響. 第26回日本腹部救急医学会総会, 1996. 9.
- 70) 益子邦洋, 大塚敏文: 救命救急センターにおける後方病院の確保と人的資源の適正な配置についての研究. 第24回日本救急医学会総会, 1996. 10.
- 71) 横田裕行, 小池 薫, 加藤一良, 諫山和男, 益子邦洋, 黒川 顕, 山本保博, 大塚敏文, 粟屋 栄<sup>1)</sup>, 星野 茂<sup>1)</sup>, 水成隆之<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>脳神経外科): 頭部外傷における Xe-CT の意義. 第24回日本救急医学会総会, 1996. 10.
- 72) 吉田竜介, 犬塚 祥, 益子邦洋, 大塚敏文: 当院高度救命救急センターにおける中毒治療の問題点. 第24回日本救急医学会総会, 1996. 10.
- 73) 久志本成樹, 益子邦洋, 山本保博, 大塚敏文, 岡嶋研二, 原田直明: 肝虚血再灌流障害の発生機序: 活性化白血

- 球と微小血栓の関与。第24回日本救急医学会総会，1996。10。
- 74) 犬塚 祥，横田裕行，益子邦洋，山本保博，大塚敏文，柴田泰史<sup>1)</sup>，林田眞喜子<sup>2)</sup>，仁平 信<sup>2)</sup>，大野曜吉<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>付属病院中央検査部，<sup>2)</sup>法医学教室)：救急患者における薬物スクリーニング：薬物使用の実体と各種検査法の比較検討。第24回日本救急医学会総会，1996。10。
- 75) 高橋 聡，富岡譲二，辻井厚子，小井土雄一，須崎紳一郎，黒川 顕，川井 真，山本保博，大塚敏文：ポリミキシン B 固定化繊維からなる創傷被覆材の開発・検討—in vitro および in vivo での評価。第24回日本救急医学会総会，1996。10。
- 76) 黒川 顕，須崎紳一郎，小井土雄一，富岡譲二，畝本恭子，辻井厚子，布施 明，山本保博，大塚敏文：救急医療の Futility における Informed consent の重要性。第24回日本救急医学会総会，1996。10。
- 77) 佐藤秀貴，諫山和男，益子邦洋，山本保博，大塚敏文，布施 明，本間正人，猪鹿倉恭子，犬塚 祥，小池 薫，加藤一良，横田裕行，黒川 顕：頭部外傷急性期における MRI の有用正と限界。第24回日本救急医学会総会，1996。10。
- 78) 小井土雄一，小関一英，有賀 徹，菊野隆明，坂本哲也，杉田 学，佐々木勝，針田 哲，高柳和江，益子邦洋：多施設合同研究による外傷治療の質の評価—Preventable trauma death の頻度と原因—。第24回日本救急医学会総会，1996。10。
- 79) 上嶋権兵衛，斉藤 徹，益子邦洋，行岡哲男：卒後救急医療のカリキュラムについて，第24回日本救急医学会総会，1996。10。
- 80) 須崎紳一郎，富岡譲二，黒川 顕，平田清貴，村田正弘，犬塚 祥，山本保博：蛍光偏光抗体法による急性ベンゾジアゼピン中毒迅速分析の意義と可能性。第24回日本救急医学会総会，1996。10。
- 81) 富岡譲二，平田清貴，布施理美，須崎紳一郎，黒川 顕，山本保博，大塚敏文：急性中毒患者は三次救急医療の対象か？—三次救急医療施設に搬入された急性中毒患者のアンケート調査から—。第24回日本救急医学会総会，1996。10。
- 82) 牧野俊郎，前田容子，高橋幸道，小池 薫，横田裕行，益子邦洋，黒川 顕，山本保博，大塚敏文：大災害時の救援システムと成田空港の役割。第24回日本救急医学会総会，1996。10。
- 83) 本間正人，辺見 弘，横田裕行，諫山和男，益子邦洋，黒川 顕，山本保博，大塚敏文：頭部外傷を伴った多発外傷の治療戦略と問題点：1280例の検討から。第24回日本救急医学会総会，1996。10。
- 84) 國保昌紀<sup>1)</sup>，大國寿士<sup>1)</sup>，留目優子<sup>1)</sup>，木村昭夫，益子邦洋，山本保博，大塚敏文，柴田泰史<sup>2)</sup>，(<sup>1)</sup>老人研究所，<sup>2)</sup>付属病院中央検査部)：熱傷患者血清中の抗熱ショック蛋白-70抗体の検出。第24回日本救急医学会総会，1996。10。
- 85) 諫山和男，佐藤秀貴，林 伸吉：くも膜下出血術後3D-CT angiography の有用性について：脳血管攣縮を評価できるか。第24回日本救急医学会総会，1996。10。
- 86) 吉田竜介，益子邦洋，山本保博，須崎紳一郎，辺見 弘，大塚敏文：当センター過去6年間における air rescue 症例の検討。第3回日本エアレスキュー研究会，1996。10。
- 87) 富岡譲二，須崎紳一郎，吉田竜介，益子邦洋，山本保博，大塚敏文：オーストラリアのエアレスキューを経験して。第3回日本エアレスキュー研究会，1996。10。
- 88) 横田裕行，加藤一良，益子邦洋，黒川 顕，山本保博，大塚敏文：救命救急医療の立場からみた臓器提供システムの問題点。第32回日本移植学会総会，1996。10。
- 89) 横田裕行，小川理郎，布施 明，佐藤秀貴，諫山和男，黒川 顕，大塚敏文，小林士郎，寺本 明<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>脳神経外科)：瀰漫性脳損傷軽症・中等症例の機能回復と後遺症。第55回日本脳神経外科学会総会，1996。10。
- 90) 池田幸穂，戸田茂樹，川本俊樹，寺本 明：虚血性脳浮腫に対する Arginine vasopressin (AVP) 分泌抑制剤の効果。第55回日本脳神経外科学会総会，1996。10。
- 91) 池田幸穂，林 敏彦，寺本 明，桑名壮太郎：脳ドッグの現状と将来：高速 Fluid Attenuated Inversion Recov-

- ery (FLAIR) 法の応用を中心として、第55回日本脳神経外科学会総会、1996、10。
- 92) 布施 明, 横田裕行, 諫山和男, 中林基明, 益子邦洋, 黒川 颯, 山本保博, 大塚敏文, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>1)</sup> (脳神経外科) : 重症頭部外傷後の各種治療による脳代謝への影響—外減圧術, 過換気療法, マニトール, 脳室ドレナージ術, 低体温療法の検討。第55回日本脳神経外科学会総会、1996、10。
- 93) 加藤一良, 横田裕行, 小池 薫, 犬塚 祥, 高橋幸道, 小川理郎, 佐藤秀貴, 谷本佐理名, 小野寺謙吾, 大塚敏文 : 旅行者にみられた救急疾患 : 成田空港よりの転送患者の分析から。第24回日本救急医学会総会、1996、10。
- 94) 荒木 尚, 諫山和男, 佐藤秀貴, 饒波正博, 林 伸吉, 益子邦洋, 大塚敏文 : 慢性腎不全を合併する破裂脳動脈瘤患者の血液透析法の選択について。第24回日本救急医学会総会、1996、10。
- 95) 小池 薫, Peigang Yin, 嶋村文彦, 木村昭夫, 横田裕行, 益子邦洋, 山本保博, 大塚敏文 : 大量輸液と合併症—上部消化管出血症例における検討。第24回日本救急医学会総会、1996、10。
- 96) 松本 尚, 益子邦洋, 勝見 敦, 住田 亮, 木村昭夫, 山本保博, 大塚敏文 : 最近5年間の特殊感染症の治療成績と問題点。第24回日本救急医学会総会、1996、10。
- 97) 畷本恭子, 布施 明, 直江康孝, 黒川 颯, 諫山和男, 横田裕行, 山本保博, 大塚敏文, 寺本 明<sup>1)</sup> (脳神経外科) : 重症クモ膜下出血周期における脳低体温療法の検討。第24回日本救急医学会総会、1996、10。
- 98) 大泉 旭, 川井 真, 角田 隆, 加藤 宏, 原 義明, 高野研一郎, 野崎正太郎, 益子邦洋, 大塚敏文 : 後方骨盤輪骨折における低侵襲経皮的スクリュー固定法の有用性について。第24回日本救急医学会総会、1996、10。
- 99) 谷本佐理名, 小野寺謙吾, 小川理郎, 高橋幸道, 犬塚 祥, 小池 薫, 加藤一良, 横田裕行, 大塚敏文, 高柳和江, 岩崎 栄 : ICU入室中におけるストレスの定量化 : 入室ボランティアの結果から。第24回日本救急医学会総会、1996、10。
- 100) 谷本佐理名, 小野寺謙吾, 小川理郎, 高橋幸道, 犬塚 祥, 小池 薫, 加藤一良, 横田裕行, 木村昭夫, 大塚敏文, 今中雄一<sup>1)</sup>, 岩崎 栄<sup>1)</sup> (医療管理学教室) : 救命救急センター退院患者のQOL調査。第24回日本救急医学会総会、1996、10。
- 101) 直江康孝, 猪鹿倉恭子, 布施 明, 黒川 颯, 諫山和男, 横田裕行, 山本保博, 益子邦洋, 大塚敏文 : 重症頭蓋内疾患患者に対する脳表組織内pH測定の意義。第24回日本救急医学会総会、1996、10。
- 102) 飯塚弘一, 岸 泰宏, 益子邦洋, 黒沢 尚, 遠藤俊吉 : 日本医科大学高度救命救急センターに収容された自殺未遂者の実態—過去10年間における比較—。第24回日本救急医学会総会、1996、10。
- 103) 布施理美, 黒川 颯, 平田清貴, 富岡譲二, 小井土雄一, 須崎紳一郎, 益子邦洋, 黒沢 尚, 山本保博, 大塚敏文 : 急性中毒と自殺—全国3次救急医療施設における急性中毒患者のアンケート調査から—。第24回日本救急医学会総会、1996、10。
- 104) 望月 徹, 木村昭夫, 川井 真, 益子邦洋, 山本保博, 大塚敏文, 柴田泰史<sup>1)</sup>, 青砥泰二<sup>1)</sup>, 西澤健司<sup>2)</sup>, ( <sup>1)</sup> 付属病院中央検査部, <sup>2)</sup> 付属病院薬剤部) : メチシリン耐性黄色ブドウ球菌肺炎に対するバンコマイシンとSulfamethoxazole-Trimethoprim 合剤の抗菌作用ろ喀痰内抗菌薬濃度測定の意義について。第24回日本救急医学会総会、1996、10。
- 105) 玉置智規, 諫山和男, 柴田泰史, 小池 薫, 木村昭夫, 益子邦洋, 池田幸穂, 大塚敏文, 寺本 明 : くも膜下出血急性期における動脈血中ケトン体 (AKBR) の変動。第55回日本脳神経外科学会総会、1996、10。
- 106) 大友康裕, 辺見 弘, 益子邦洋, 山本保博, 大塚敏文 : 腹部外傷における観血的治療法の進歩と効果—クリニカル&リサーチフォーラム—指定討論者—。第24回日本救急医学会総会、1996、10。
- 107) 二宮宣文, 前川和彦, 鶴飼 卓, 甲斐達朗, 山本保博 : 災害訓練のあり方について—マレーシアと日本の災害訓練比較—。2回日本集団災害医療研究会、1996、11。
- 108) 石川尚子, 横田裕行, 小柳正雄, 近藤久禎, 谷本佐理名, 小川理郎, 高橋幸道, 犬塚 祥, 小池 薫, 加藤一良, 大塚敏文 : 治療に難渋した脾損傷の1例。第18回過大侵襲研究会、1996、11。
- 109) 久志本成樹, 岡嶋研二, 原田直明, 内場光浩, 村上和憲, 岡部紘明, 高月 清 : 肝虚血再灌流障害における微小

- 血栓の関与。第18回日本血栓止血学会総会，1996。11。
- 110) 大友康裕，加藤 宏，井上潤一，本間正人，原口義座，辺見 弘，藤本幸宏，小島由子，倉本憲明，友保洋三：災害時における放射線撮影システムの工夫。第2回日本集団災害医療研究会，1996。11。
- 111) 本間正人，加藤 宏，井上潤一，雅楽川聡，大友康裕，原口義座，辺見 弘：東京多摩地区における救急ヘリコプター搬送の現状—受け入れ病院の立場から。第2回日本集団災害医療研究会，1996。11。
- 112) 谷本佐理名，高柳和江，今中健一，岩崎 栄，佐藤秀貴，小池 薫，加藤一良，横田裕行，田中啓治，大塚敏文：重症病棟の療養環境評価。第152回日本病院管理学会例会，1996。12。
- 113) 小井土雄一：小関一英，有賀 徹，菊野隆明，坂本哲也，杉田 学，佐々木勝，針田 哲，高柳和江，益子邦洋：多施設合同研究による Preventable trauma death の頻度と原因の検討。第5回麻酔科・救急医療研究会，1996。12。
- 114) 柴田泰史<sup>1)</sup>，木村昭夫，西澤健司<sup>2)</sup>，里村克章<sup>1)</sup>，久志本成樹，益子邦洋，山本保博，大塚敏文<sup>(1)付属病院中央検査部，<sup>2)</sup>付属病院薬剤部)</sup>：AT-III 製剤投与による血中メディアエーターの変動：抗炎症性サイトカインを中心に。第7回バイオメディカルフォーラム，1996。12。
- 115) 谷本佐理名，高見和孝，小川理郎，高橋幸道，小池 薫，加藤一良，横田裕行，山本保博，牧野俊郎：航空機内救急症例の検討。第7回千葉 Critical Care Medicine 研究会，1996。12。
- 116) 小川理郎，横田裕行，加藤一良，小池 薫，犬塚 祥，高橋幸道，谷本佐理名，石川尚子，小柳正雄，大塚敏文：脳血流・脳酸素代謝からみた ACD-CPR の有用性。第8回千葉 Critical Care Medicine 研究会，1996。12。
- 117) 西澤健司，酒井紀美子，平野公晟<sup>1)</sup>，木村昭夫，望月 徹，益子邦洋，山本保博，大塚敏文，柴田泰史<sup>2)</sup> <sup>(1)付属病院薬剤部，<sup>2)</sup>付属病院中央検査部)</sup>：臨床分離緑膿菌株に対する注射用セフェム薬およびカルバペネム系抗菌薬の最小発育阻止濃度 (MIC) と最小殺菌濃度 (MBC) の検討。第9回日本外科感染症研究会，1996。12。
- 118) 望月 徹，木村昭夫，川井 真，益子邦洋，山本保博，大塚敏文，柴田泰史<sup>1)</sup>，青砥泰二<sup>1)</sup>，西澤健司<sup>2)</sup> <sup>(1)付属病院中央検査部，<sup>2)</sup>付属病院薬剤部)</sup>：メチシリン耐性黄色ブドウ球菌肺炎に対する vancomycin と sulfamethoxazole-trimethoprim 合剤の血中・喀痰内抗菌薬濃度測定の意義。第9回日本外科感染症研究会，1996。12。
- 119) 富岡讓二，須崎紳一郎，黒川 顕，山本保博，大塚敏文，根本香代<sup>1)</sup>，岡村忠夫<sup>(1)薬理学教室)</sup>：モルモット回腸の収縮反応に及ぼす paraquat の抑制作用。第70回日本薬理学会年会，1997。
- 120) 宮内雅人，相星淳一，須崎紳一郎，木村昭夫，益子邦洋，黒川 顕，山本保博，大塚敏文：エンドトキシン吸着療法 (PMX) におけるサイトカインの変動。第1回エンドトキシン血症治療研究会学術集会，1997。2。
- 121) 小林秀幸，井上潤一，本間正人，雅楽川聡，加藤 宏，大友康裕，原口義座，辺見 弘：昇汞 (塩化第2水銀) 中毒の1例。第11回日本中毒学会東日本部会，1997。2。
- 122) 富岡讓二，須崎紳一郎，黒川 顕，山本保博，大塚敏文，根本香代，岡村忠夫：パラコートが腸管運動に与える影響とその機序。第11回日本中毒学会東日本部会，1997。2。
- 123) 村上 守，諫山和男，布施 明，佐藤秀貴，柴田泰史<sup>1)</sup>，益子邦洋，大塚敏文 <sup>(1)付属病院中央検査部)</sup>：重傷頭部外傷者に対する低体温療法時の栄養管理。第20回日本神経外傷研究会，1997。2。
- 124) 小柳正雄，横田裕行，加藤一良，小池 薫，犬塚 祥，高橋幸道，小川理郎，谷本佐理名，石川尚子，近藤久禎，大塚敏文：長期に停滞した消化管異物 (ボールペン) による穿孔性腹膜炎の1例。第42回日本救急医学会関東地方会，1997。2。
- 125) 松浦有里子，石川尚子，横田裕行，加藤一良，小池 薫，犬塚 祥，高橋幸道，小川理郎，谷本佐理名，近藤久禎，小柳正雄，大塚敏文：急激な臨床経過を呈した好酸球性肺炎の1例。第42回日本救急医学会関東地方会，1997。2。
- 126) 島田 靖，久志本成樹，木村昭夫，益子邦洋，山本保博，大塚敏文，柴田泰史<sup>1)</sup> <sup>(1)付属病院中央検査部)</sup>：全自動血液ガス分析装置 AVL OPTI 1 の使用経験。第42回日本救急医学会関東地方会，1997。2。

- 127) 本間正人, 大友康裕, 井上潤一, 加藤 宏, 小野寺謙吾, 原口義座, 辺見 弘, 益子邦洋, 大塚敏文: 重症急性膵炎死亡例の検討. 第42回日本救急医学会関東地方会, 1997. 2.
- 128) 小川理郎, 横田裕行, 加藤一良, 小池 薫, 高橋幸道, 山本保博, 益子邦洋, 大塚敏文: 病態の把握に Xe-CT, MRI が有用であった一酸化中毒の2症例. 第11回日本中毒学会東日本部会, 1997. 2.
- 129) 加地正人, 益子邦洋, 木村昭夫, 吉田竜介, 久志本成樹, 勝見 敦, 新井正徳, 山本保博, 大塚敏文: 腹部大血管に伴う他臓器合併損傷の検討. 第28回日本腹部救急医学会総会, 1997. 3.
- 130) 玉置智規, 木村昭夫, 池田幸穂, 諫山和男, 益子邦洋, 大塚敏文, 林 伸吉, 寺本 明: くも膜下出血 高血圧脳内出血急性期における動脈血中ケトン体比 (AKBR) の変動. 第22回日本脳卒中学会総会, 1997. 3.

## [多摩永山病院救命救急センター]

### 研究業績

#### 論 文

##### (1)原著:

- 1) Koido Y, Kato K, Shimizu-Suganuma M, Shichinohe K: Nafamostat mesilate, a synthetic protease inhibitor, attenuated hypercoagulability in a canine model of hemorrhagic shock. J Nippon Med Sch 64(1) 9-15, 1997.
- 2) 黒川 顕, 相星淳一, 小井土雄一, 辻井厚子, 布施 明, 畝本恭子, 須崎紳一郎: Sepsis DIC における Protein C の変動. バイオメディカル 1996; 6: 25-29.
- 3) 黒川 顕, 須崎紳一郎, 小井土雄一, 畝本恭子, 富岡譲二, 辻井厚子, 相星淳一: 救急医療における Futility とそれへの疑問. 日本救命医療研究会誌 1996; 10: 195-199.
- 4) 相星淳一, 小井土雄一, 富岡譲二, 辻井厚子, 布施 明, 畝本恭子, 須崎紳一郎, 黒川 顕: Septic DIC における Protein C の変動. バイオメディカル 1996; 6: 25-29.
- 5) 本間正人, 須崎紳一郎, 黒川 顕, 大友康裕, 益子邦洋, 辺見 弘, 大塚敏文: 重症急性膵炎(1990年厚生省基準) における重症度評価の意義と早期手術の効果の検討. 日救急医学会誌 1996; 7(10): 641-648.
- 6) 直江康孝, 須崎紳一郎, 小井土雄一, 高橋 聡, 富岡譲二, 辻井厚子, 相星淳一, 本間正人, 猪鹿倉恭子, 中 朗, 黒川 顕, 大塚敏文: 外傷による肺全摘後の気管支瘻膿胸の1例. 日救急医学会関東誌, 1996; 16(2): 558-560.
- 7) 相星淳一, 小井土雄一, 富岡譲二, 辻井厚子, 谷口 巧, 須崎紳一郎, 黒川 顕: PMX-20R による血液吸着のサイトカインに及ぼす影響. 集中治療 1996; 8: 29.
- 8) 直江康孝, 須崎紳一郎, 小井土雄一, 高橋 聡, 富岡譲二, 辻井厚子, 相星淳一, 本間正人, 畝本恭子, 中 朗, 黒川 顕: 外傷による肺全摘後の気管支瘻膿胸の1例. Therapeutic Research 1996; 17(9): 276-280.
- 9) 谷口 巧, 小井土雄一, 布施 明, 畝本恭子, 直江康孝, 大畑賀央, 須崎紳一郎, 黒川 顕: 重症頭部外傷に対しバルビツレート療法と低体温療法を行い, 重症感染症を引き起こした1例. Therapeutic Research 1996; 17(9): 293-296.
- 10) 松浦有里子, 小井土雄一, 谷口 巧, 山下照代, 布施 明, 辻井厚子, 富岡譲二, 猪鹿倉恭子, 須崎紳一郎, 黒川 顕: 穿孔性腹膜炎を呈したクローン病の1例. 日救急医学会関東誌 1996; 17(2): 548-549.
- 11) 山下照代, 富岡譲二, 小井土雄一, 直江康孝, 辻井厚子, 須崎紳一郎, 黒川 顕, 篠原義智, 杉崎健一, 山本 鼎: CT ガイド下穿刺法が有効であった縦隔膿瘍の1例. 日救急医学会関東誌 1996; 17(2): 560-561.
- 12) 相星淳一, 小井土雄一, 富岡譲二, 辻井厚子, 布施 明, 畝本恭子, 須崎紳一郎, 黒川 顕: Septic DIC における Protein C の変動. バイオメディカル 1996; 6: 25-29.
- 13) 大畑賀央, 黒川 顕, 須崎紳一郎, 小井土雄一, 畝本恭子, 富岡譲二, 辻井厚子, 相星淳一, 布施 明, 直江康孝, 山下照代, 谷口 巧, 石之神小織: 鈍的外傷による非妊娠至急断裂の1例. 日本救急医学会関東誌 1996;

- 17(1) : 140-141.
- 14) 相星淳一, 石之神小織, 直江康孝, 谷口 巧, 布施 明, 小井土雄一, 須崎紳一郎, 黒川 顕 : Duodenal varices の 1 例. 日本救急医学会関東誌 1996 ; 17(1) : 204-205.
  - 15) 直江康孝, 須崎紳一郎, 小井土雄一, 高橋 聡, 辻井厚子, 富岡譲二, 相星淳一, 本間正人, 畝本恭子, 中 朗, 黒川 顕 : 外傷による肺全摘後の気管支瘦膿胸の 1 例. Therapeutic Research 1996 ; 17(9) : 3596-3600.
  - 16) 谷口 巧, 小井土雄一, 布施 明, 畝本恭子, 直江康孝, 大畑賀央, 須崎紳一郎, 黒川 顕 : 重傷頭部外傷患者に対しバルビツレート療法と低体温療法を行い重症感染症を引き起こした 1 例. Therapeutic Research 1996 ; 17(9) : 3613-3616.
  - 17) 相星淳一, 小関一英, 二宮宣文, 土佐亮一, 松園幸雅, 金 史英, 黒川 顕, 須崎紳一郎, 小井土雄一 : Abdominal apoplexy の 2 例. 日本救急医学会関東誌 1996 ; 17(2) : 528-529.
  - 18) 松浦有里子, 小井土雄一, 辻井厚子, 谷口 巧, 山下照代, 布施 明, 辻井厚子, 富岡譲二, 猪鹿倉恭子, 須崎紳一郎, 黒川 顕 : 穿孔性腹膜炎を呈したクローン病の 1 例. 日本救急医学会関東誌 1996 ; 17(2) : 548-549.
  - 19) 山下照代, 富岡譲二, 小井土雄一, 直江康孝, 辻井厚子, 須崎紳一郎, 黒川 顕, 篠原義智<sup>1)</sup>, 山本 鼎<sup>1)</sup> (多摩永山病院放射線科) : CT ガイド下穿刺が有効であった縦隔膿瘍の 1 例. 日本救急医学会関東誌 1996 ; 17(2) : 560-561.
- (2) 総説 :
- 1) 黒川 顕 : 救急医療における DNR : 救急医療や ICU における DNR とその問題点. エマージェンシー・ナーシング 1996 ; 19 : 15-19.
  - 2) 黒川 顕 : 臨床医の処方と注射 : 精神神経用剤・興奮剤・覚醒剤中毒. 臨床医 1996 ; 22 : 882-883.
  - 3) 黒川 顕 : 中毒 : 動物毒. 小児内科 1996 ; 28(増刊) : 1250-1251.
  - 4) 黒川 顕 : 中毒の診断・治療 : アルカリ. 救急医学 1996 ; 20 : 1662-1663.
  - 5) 黒川 顕 : 胸部の診察 : 視診, 触診, 打診, 聴診. 治療 1997 ; 79 : 79-83.
  - 6) 須崎紳一郎 : 除細動器 : Defib, first and foremost. LiSA (Life Support and Anesthesia) 1996 ; 3(6) : 562-565.
  - 7) 須崎紳一郎, 犬塚 祥 : サリン. 救急医学 1996 ; 20(12) : 1680-1682.
  - 8) 須崎紳一郎 : ショック : 各症状をもつ症例の初診時の理学所見<sup>1)</sup>. Emergency Nursing 1997 ; 10(増刊号) : 241-248.
  - 9) 須崎紳一郎, 富岡譲二, 黒川 顕, 犬塚 祥, 山本保博, 林田真喜子, 仁平 信 : 向精神薬中毒(薬物中毒の診断と集中治療). ICU と CCU 1997 ; 21(2) : 113-122.
  - 10) 富岡譲二 : 患者家族と ICU よりよき「死」のために. Life Support and Anesthesia 1996 ; 3 : 610-611.
  - 11) 富岡譲二 : 肺動脈カテーテル. ハートナーシング 1996 ; 9(5) : 480-490.
  - 12) 富岡譲二 : ナースのためのコンピュータ通信講座. エマージェンシー・ナーシング 1996 ; 9(10) : 915-924.
  - 13) 富岡譲二 : 私のインフォームドコンセント某救命センターでの一週間. Life Support and Anesthesia 1996 ; 3(9) : 854-856.
  - 14) 富岡譲二 : 一般家庭用品による中毒. JIM 1996 ; 6(9) : 809.
  - 15) 富岡譲二 : 救急処置 基本手技アトラス コンピチュープ. 救急医学 1996 ; 20(9) : 1169-1174.
  - 16) 富岡譲二 : 患者の見かた : ナースの理学所見<sup>45</sup> : 爪・口臭. エマージェンシー・ナーシング. 1997 ; 84-90.
  - 17) 畝本恭子 : 患者の見かた : 反射の検査. エマージェンシー・ナーシング 1997 ; 新春増刊 : 136~145.

## 著 書

- 1) 富岡譲二, 稲田英一他 : [翻訳] 麻酔科学ベーシック. 救急医学. 1996. へるす出版.
- 2) 山本保博, 黒川 顕, 須崎紳一郎, 牧野俊郎 : [共著] 第 9 回救急救命士国家試験問題解答解説集. 1996 ; 9 :



pp67-100. へるす出版。

- 3) 山本保博, 黒川 顕, 須崎紳一郎, 牧野俊郎:〔共著〕救急救命士国家試験問題解答解説集(合本第I集). 1996; p1. へるす出版.
- 4) 須崎紳一郎:〔分担〕抗精神・抗うつ・抗てんかん薬中毒. 今日の救急治療指針(前川和彦, 相川直樹総編集) 1996; 1: pp371-375. 医学書院.
- 5) 山本保博, 黒川 顕, 須崎紳一郎, 牧野俊郎:〔共著〕第10回救急救命士国家試験問題解答解説集. 1996; 10: pp62-93, へるす出版.
- 6) 黒川 顕:〔分担〕第9回救急救命士国家試験問題解答・解説集. 1996; 9: pp27-45. へるす出版.
- 7) 黒川 顕:〔分担〕救急救命士国家試験問題解答・解説集(合本第I集). 1996; p1. へるす出版.
- 8) 黒川 顕:〔分担〕救急医療・ICU; WIBA'96. 1996: pp254-255. 日本医療企画.
- 9) 黒川 顕:〔分担〕第10回救急救命士国家試験問題解答解説集. 1996; 10: pp23-40. へるす出版.
- 10) 黒川 顕:〔分担〕肺挫傷:今日の治療指針. 1997; p26. 医学書院.
- 11) 黒川 顕:〔分担〕ショックに用いる薬剤:救急現場の救急医療 薬理学・生化学・栄養学. 1997; pp13-20. 荘道社.
- 12) 須崎紳一郎:〔分担〕催眠・鎮静剤中毒(中毒性疾患). 今日の治療指針1997(日野原重明, 阿部正和監修) 1997; 39: pp115-116. 医学書院.
- 13) 須崎紳一郎:〔分担〕自然気胸. 救急隊必携救急マニュアル(消防庁救急救助課監修) 1997; pp80-83. ぎょうせい.
- 14) 須崎紳一郎:〔分担〕喘息. 救急隊必携救急マニュアル(消防庁救急救助課監修) 1997; pp84-87. ぎょうせい.
- 15) 須崎紳一郎:〔分担〕挫滅症候群. 救急隊必携救急マニュアル(消防庁救急救助課監修) 1997; pp160-163. ぎょうせい.
- 16) 小井土雄一:〔分担執筆〕偶発性低体温. 救急隊必携救急マニュアル 1997; pp154-156. ぎょうせい.
- 17) 小井土雄一:〔分担執筆〕泥酔者. 救急隊必携救急マニュアル 1997; pp289-291. ぎょうせい.
- 18) 小井土雄一:〔分担執筆〕気道異物・消化管異物. 救急隊必携救急マニュアル 1997; pp149-151. ぎょうせい.
- 19) 小井土雄一:〔分担執筆〕けいれん. 今日の治療指針 1997; pp11-12. 医学書院.

## 学会発表

### (1) 教育講演:

- 1) 富岡譲二:患者の情報を得るための監視装置・治療のための医療機器. 第3回救急隊員の発展向上をめざすセミナー, 1997. 3.

### (2) 招待講演:

- 1) 小井土雄一, 小関一英, 有賀 徹, 菊野隆明, 坂本哲也, 杉田 学, 佐々木勝, 針田 哲, 高柳和江, 益子邦洋:多施設合同研究による Preventable trauma death の頻度と原因の検討. 第5回麻酔科・救急医療研究会, 1996. 12.

### (3) シンポジウム:

- 1) 富岡譲二:救命救急センターと救急隊との円滑な情報交換. 第42回日本救急医学会関東地方会救急隊員部会, 1997. 2.
- 2) 小井土雄一, 相星淳一, 山下照代, 辻井厚子, 富岡譲二, 須崎紳一郎, 黒川 顕:肝破裂に対する Perihepatic packing の適応と限界. 第28回日本腹部救急医学会総会, 1997. 3.

### (4) ワークショップ:

- 1) 小井土雄一, 相星淳一, 山下照代, 辻井厚子, 富岡譲二, 須崎紳一郎, 黒川 顕:肝破裂に対する Perihepatic

packing の適応と限界。第28回日本腹部救急医学会総会 1997. 3.

(5) 一般講演：

- 1) Tomioka J, Suzaki S, Kurokawa A: The Present Status of International Repatriation Service in Japan. ADAC World Congress Aeromedical Service AIRMED 1996 (Munich, Germany), 1996. 6.
- 2) Suzaki S, Tomioka J, Kurokawa A: Cost Profiles of International Repatriation to Japan with Commercial Airlines. ADAC World Congress Aeromedical Service AIRMED 1996 (Munich, Germany), 1996. 6.
- 3) Koido Y, Aiboshi J, Taniguchi T, Yamashita T, Tomioka J, Suzaki S, Kurokawa A, Mashiko K, Otsuka T: The Effect of Hemorrhagic Shock on IL-10. XXX World Congress of the International College of Surgeons, 1996. 11.
- 4) Koido Y, Aiboshi J, Taniguchi T, Yamashita T, Tomioka J, Suzaki S, Kurokawa A, Mashiko K, Ohtsuka T: THE EFFECT OF HEMORRAGIC SHOCK ON IL-10. XXX World Congress of the International College of Surgeons, 1996. 11.
- 5) Koido Y, Aiboshi J, Taniguchi T, Yamashita T, Tomioka J, Suzaki S, Kurokawa A, Mashiko K, Ohtsuka T.: THE EFFECT OF HEMORRAGIC SHOCK ON IL-10. 17th International Symposium on Intensive Care and Emergency Medicine. 1997. 3.
- 6) 松浦有里子, 黒川 颯, 須崎紳一郎, 小井土雄一, 辻井厚子, 直江康孝, 布施 明: 長期臥床患者に発生した術後絞扼性イレウスの1例。第17回過大侵襲研究会, 1996. 4.
- 7) 猪鹿倉恭子, 直江康孝, 布施 明, 石之神小織, 黒川 颯, 小南修史, 松本正博, 志村俊郎, 諫山和男, 横田裕行, 寺本 明(日本医科大学付属多摩永山病院救命救急センター, 同脳神経外科, 日本医科大学付属病院高度救命救急センター, 同脳神経外科, 日本医科大学千葉北総病院救命救急部): 脳血管攣縮に対する塩酸パペペリン選択的動注療法の効果と問題点。第25回日本脳卒中の外科研究会, 1996. 4.
- 8) 小井土雄一, 相星淳一, 辻井厚子, 須崎紳一郎, 黒川 颯, 本間正人, 辺見 弘, 益子邦洋, 大塚敏文: 腹腔内タオルパッキングを要した外傷症例の検討。第10回日本外傷学会。1996.5.
- 9) 小井土雄一, 辻井厚子, 黒川 颯, 須崎紳一郎, 畝本恭子, 富岡譲二, 相星淳一, 布施 明, 直江康孝, 山下照代, 大畑賀史, 大塚敏文: 肋骨・肋軟骨骨折に続発した膿胸の2症例。第10回日本外傷学会, 1996. 5.
- 10) 相星淳一, 黒川 颯, 須崎紳一郎, 小井土雄一, 畝本恭子, 富岡譲二, 辻井厚子, 布施 明, 谷口 巧, 直江康孝: 出血性ショックにおける IL-10の変動。第10回日本外傷学会, 1996. 5.
- 11) 富岡譲二, 須崎紳一郎, 布施 明, 小井土雄一, 黒川 颯: 外傷患者の International Repatriation の検討。第10回日本外傷学会, 1996. 5.
- 12) 辻井厚子, 黒川 颯, 須崎紳一郎, 小井土雄一, 畝本恭子, 富岡譲二, 相星淳一, 布施 明, 直江康孝, 山下照代, 大畑賀史, 大塚敏文: 肋骨・肋軟骨骨折に続発した膿胸の2症例。第10回日本外傷学会, 1996. 5.
- 13) 辻井厚子, 辺見 弘, 黒川 颯, 川井 真, 勝見 敦, 後藤真弓, 大塚敏文: 広範囲熱傷の羅病期間の検討。第22回日本熱傷学会, 1996. 5.
- 14) 松浦有里子, 小井土雄一, 辻井厚子, 谷口 巧, 布施 明, 猪鹿倉恭子, 須崎紳一郎, 黒川 颯: 穿孔性腹膜炎を呈したクローン病の1例。第41回日本救急医学会関東地方会, 1996. 6.
- 15) 山下照代, 富岡譲二, 小井土雄一, 直江康孝, 辻井厚子, 須崎紳一郎, 黒川 颯, 篠原義智<sup>1)</sup>, 山本 鼎<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>日本医科大学多摩永山病院放射線科): CTガイド下穿刺が有効であった縦隔膿瘍の1例。第41回日本救急医学会関東地方会, 1996. 6.
- 16) 黒川 颯, 須崎紳一郎, 小井土雄一, 畝本恭子, 富岡譲二, 布施 明, 直江康孝: 脳死に至る過程における medical futility. 第9回脳死脳蘇生研究会, 1996. 6.
- 17) 黒川 颯, 須崎紳一郎, 富岡譲二, 平田清貴: 救命救急センターにおける中毒患者: 急性中毒は3次対応?。第18回日本中毒学会総会, 1996. 7.

- 18) 黒川 顕, 須崎紳一郎, 小井土雄一, 畝本恭子, 富岡譲二, 布施 明, 直江康孝: 脳死に至る過程における medical futility. 第9回脳死・脳蘇生研究会, 1996. 7.
- 19) 平田清貴, 村田正弘, 須崎紳一郎, 富岡譲二, 黒川 顕, 松本宣明, 松本光雄: 急性中毒における血中ベンゾジアゼピン系薬物の定量分析 第2報. 第18回日本中毒学会総会, 1996. 7.
- 20) 黒川 顕, 富岡譲二, 布施理美, 小井土雄一, 須崎紳一郎, 平田清貴: 急性中毒死亡例の検討—3次救急医療施設へのアンケート調査をもとに. 第24回日本救急医学会総会, 1996. 10.
- 21) 富岡譲二, 平田清貴, 布施理美, 須崎紳一郎, 黒川 顕, 山本保博, 大塚敏文: 急性中毒患者は三次救急医療の対象か: 三次救急医療施設に搬入された急性中毒患者のアンケート調査から. 第24回日本救急医学会総会, 1996. 10.
- 22) 高橋 聡, 富岡譲二, 辻井厚子, 小井土雄一, 須崎紳一郎, 黒川 顕, 川井 真<sup>1)</sup>, 山本保博<sup>1)</sup>, 大塚敏文<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学救急医学科): ポリミキシン B 固定化繊維からなる創傷被覆材の開発・検討: in vitro 及び in vivo での評価. 第24回日本救急医学会総会 1996. 10.
- 23) 須崎紳一郎, 富岡譲二, 黒川 顕, 平田清貴, 村田正弘, 犬塚 祥, 山本保博: 蛍光偏光抗体法による急性ベンゾジアゼピン中毒迅速分析の意義と可能性. 第24回日本救急医学会総会, 1996. 10.
- 24) 須崎紳一郎, 富岡譲二, 黒川 顕: 国際航空患者搬送における呼吸管理の諸問題—特に酸素投与をめぐる—. 第3回日本エアレスキュー研究会, 1996. 10.
- 25) 富岡譲二, 須崎紳一郎, 吉田竜介, 益子邦洋, 山本保博, 大塚敏文: オールトラリアのエアレスキューを体験して. 第3回日本エアレスキュー学会, 1996. 10.
- 26) 吉田竜介, 益子邦洋, 山本保博, 須崎紳一郎, 辺見 弘, 大塚敏文: 当センター過去6年間における air rescue 症例の検討. 第3回日本エアレスキュー研究会, 1996. 10.
- 27) 小井土雄一, 小関一英, 有賀 徹, 菊野隆明, 坂本哲也, 杉田 学, 佐々木勝, 針田 哲, 高柳和江, 益子邦洋: (若手研究者リーダーの主張) 多施設共同研究による外傷治療の質的評価—Preventable trauma death の頻度と原因—. 第24回日本救急医学会総会, 1996. 10.
- 28) 黒川 顕, 須崎紳一郎, 小井土雄一, 富岡譲二, 畝本恭子, 辻井厚子, 布施 明, 山本保博, 大塚敏文: 救急医療の Futility における Informed consent の重要性. 第24回日本救急医学会総会 1996. 10.
- 29) 直江康孝, 猪鹿倉恭子, 布施 明, 黒川 顕, 諫山和男<sup>1)</sup>, 横田裕行<sup>2)</sup>, 山本保博<sup>1)</sup>, 益子邦洋<sup>1)</sup>, 大塚敏文<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学付属病院高度救命救急センター): 重症頭蓋内疾患患者に対する脳表組織内 pH 測定の意義. 第24回日本救急医学会総会, 1996. 10.
- 30) 畝本恭子, 布施 明, 直江康孝, 黒川 顕, 諫山和男, 横田裕行, 山本保博, 大塚敏文, 寺本 明(日本医科大学多摩永山病院救命救急センター, 日本医科大学救急医学教室, 日本医科大学脳神経外科): 重症くも膜下出血周術期における脳低温療法の検討. 第24回日本救急医学会総会, 1996. 10.
- 31) 富岡譲二, 越智元郎<sup>1)</sup>, 伊藤成治<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>愛媛大学医学部救急医学教室, <sup>2)</sup>東大阪市消防局): Internet の救急医療への応用: メーリングリストの構築を通して. 第24回日本救急医学会総会, 1996. 10.
- 32) 布施理美, 黒川 顕, 平田清貴<sup>1)</sup>, 富岡譲二, 小井土雄一, 須崎紳一郎, 益子邦洋<sup>2)</sup>, 黒沢 尚<sup>3)</sup>, 山本保博<sup>2)</sup>, 大塚敏文<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学多摩永山病院薬剤部, <sup>2)</sup>日本医科大学付属病院高度救命救急センター, <sup>3)</sup>同精神医学教室): 急性中毒と自殺: 全国3次救急医療施設における急性中毒患者のアンケート調査から. 第24回日本救急医学会総会 1996. 10.
- 33) 辻井厚子, 黒川 顕, 川井 真, 小井土雄一, 勝見 敦, 高橋 聡, 大塚敏文: 熱傷患者の重症度評価における死亡率の検討. 第24回日本救急医学会総会, 1996. 10.
- 34) 小井土雄一, 金田正樹, 山本保博, 鶴飼 卓, 杉本勝彦, 二宮宣文, 甲斐達郎, 山口孝治, 浅利 靖, 山崎達枝: 「集団災害における医療調整について」(JMTDR の経験から), 第2回日本集団災害医療研究会, 1996. 11.
- 35) 宮内雅人, 相星淳一, 須崎紳一郎, 木村昭夫, 益子邦洋, 黒川 顕, 山本保博, 大塚敏文: エンドトキシン吸着

- 療法 (PMX) におけるサイトカインの変動。第1回エンドトキシン血症治療研究会学術集会, 1997, 1.
- 36) 富岡譲二, 須崎紳一郎, 黒川 颯, 山本保博, 大塚敏文, 根本香代<sup>1)</sup>, 岡村忠夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学薬理学教室); パラコートが腸管運動に与える影響とその機序。第11回日本中毒学会東日本部会, 1997, 2.
- 37) 平田清貴, 畝本賜男, 村田正弘, 須崎紳一郎, 富岡譲二, 黒川 颯, 松本宣明, 猪熊朋子, 松本光雄: 急性ベンゾジアゼピン系薬物中毒の薬物動態。第11回日本中毒学会東日本部会, 1997, 2.
- 38) 畝本恭子, 辻井厚子, 山下照代, 中林基明, 富岡譲二, 小井土雄一, 須崎紳一郎, 黒川 颯: 急性散在性脳脊髄炎 (ADEM) を疑わせた出産後内分泌異常の1例。第42回日本救急医学会関東地方会, 1997, 2.
- 39) 布施 明, 中林基明, 畝本恭子, 山下照代, 辻井厚子, 富岡譲二, 小井土雄一, 須崎紳一郎, 黒川 颯: 頭部外傷後内頸動脈偽性動脈瘤のため大量鼻出血を来した1例。日本医科大学医学会第92回例会, 1997, 2.
- 40) 富岡譲二, 山下照代, 中林基明, 辻井厚子, 畝本恭子, 小井土雄一, 須崎紳一郎, 黒川 颯, 平田清貴<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院薬剤部): 重篤な不整脈を呈した四環系抗うつ薬中毒の1例。日本医科大学医学会第91回例会, 1997, 2.
- 41) 辻井厚子, 佐藤格夫, 畝本恭子, 小井土雄一, 山下照代, 中林基明, 富岡譲二, 須崎紳一郎, 黒川 颯, 加地正人<sup>1)</sup>, 益子邦洋<sup>1)</sup>, 大塚敏文<sup>1)</sup>, 山内茂生<sup>2)</sup>, 田中茂夫<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学付属病院高度救命センター, <sup>2)</sup>日本医科大学付属病院胸部外科): 多摩永山病院と千駄木付属病院の連携で救命し得た重症胸部外傷の1例。日本医科大学医学会第91回例会, 1997, 2.
- 42) 畝本恭子, 辻井厚子, 山下照代, 中林基明, 富岡譲二, 小井土雄一, 須崎紳一郎, 黒川 颯: 診断に難渋した thyroid crisis の1例。日本医科大学医学会第92回例会, 1997, 2.
- 43) 山下照代, 富岡譲二, 小井土雄一, 中林基明, 畝本恭子, 辻井厚子, 須崎紳一郎, 黒川 颯, 田中純也, 前田昭太郎: 保存的治療にて救命しえなかった重症急性膵炎の1例。日本医科大学医学会第92回例会, 1997, 2.
- 44) 富岡譲二, 須崎紳一郎, 黒川 颯, 山本保博, 大塚敏文, 根本香代<sup>1)</sup>, 岡村忠夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学薬理学教室); モルモット回腸の収縮反応に及ぼす paraquat の抑制作用。第70回日本薬理学会年会, 1997, 3.

## [千葉北総病院救命救急部]

### 研究概要

日本医科大学付属千葉北総病院救命救急部は平成6年1月の病院開設とともにその活動が開始し, 平成8年には救急医学会認定施設, さらに平成9年1月には千葉県唯一の救急医学会指導施設として認可された。また, 当院が平成8年11月に千葉県災害拠点幹幹病院として認可されたこともあり, 災害医学という新たな学問体系を構築すべく活動をしている。研究活動も極めて活発で, 文部省科学研究費3件, 厚生省科学研究費1件のほか各種補助金を獲得し研究を行っている。その内容は動物実験を主体とした基礎的なものから, 千葉北総病院の高度先進医療機器を駆使した臨床的なものまで様々である。その成果は国内はもちろん, 国際学会でも注目を集めた。今後はこれからの研究をさらに発展させ, 災害医療や医療・療養環境問題といった新しい分野にも積極的に関与していきたいと考えている。

### 研究業績

#### 論文

##### (1)原著:

- 1) 小池 薫, Moore EE: Gut ischemia-reperfusion produces lung injury via a mechanism which involves xanthine oxidase and phospholipase A2. 日救医会誌 1996; 7: 700-708.
- 2) 小池 薫, Moore EE: Gut ischemia-reperfusion primes the neutrophil, the lung and the host. 日救医会誌 1996; 1-10.
- 3) Koike K, Hemmi H, Yamamoto Y, Otsuka T, Peterson VM: Bone marrow myelopoiesis in a murine model

of thermal injury. 熱傷 1996 ; 22 : 145-151.

- 4) Kato K, Mashiko K, Yokota H, Inuzuka S, Takahashi K, Ogawa S, Otsuka T : A retrospective evaluation of blunt cardiac trauma. International College of Surgeons. MONDUZZI EDITORE (Italy) 1996 ; 1771-1774.
- 5) Koike K, Yokota H, Kato K, Takahashi K, Ogawa S, Yamamoto Y, Otsuka T : An experimental study of susceptibility to infection after gut ischemia-reperfusion. International College of Surgeons. MONDUZZI EDITORE (Italy) 1996 ; 1771-1774.
- 6) Koike K, Yokota H, Kato K, Takahashi K, Ogawa S, Yamamoto Y, Otsuka T : CD-11b but not endotoxin is critical for lung injury following gut ischemia. International College of Surgeons. MONDUZZI EDITORE (Italy) 1996 ; 1771-1774.
- 7) Yokota H, Ninomia N, Yamamoto Y, Henmi H, Otsuka T : Magnetic resonance imaging in severe head injury, Further Aspects of Disaster Medicine. Proceedings of the Second Asian-Pacific on Disaster Medicine 1996 ;
- 8) Yokota H, Ogawa S, Takahashi K, Inuzuka S, Koike K, Sato H, Honma M, Isayama K, Mashiko K, Yamamoto Y, Otsuka T : Clinical studies of neuroimaging in diffuse axonal injury, XXX World Congress of the International College of Surgeons. MONDUZZI EDITORE (Italy) 1996 ; 1749-1752.
- 9) 犬塚 祥, 林田真喜子, 仁平 信, 大野曜吉, 益子邦洋, 山本保博, 大塚敏文 : 救急施設における薬物スクリーニングとしての EMIT 法の有用性. 日救医学会誌 1996 ; 7 : 741-748.
- 10) 林田真喜子<sup>1)</sup>, 大野曜吉<sup>1)</sup>, 仁平 信<sup>1)</sup>, 犬塚 祥, 野口貴史<sup>2)</sup>, 真砂佳代<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>法医学, <sup>2)</sup>東京大学医学部医学科) : 交通外傷における重症度指標と入室時血中アルコール濃度. 法医学の実際と研究 1996 ; 39 : 307-316.
- 11) 横田裕行 : 頭部外傷の画像診断とモニタリングー特に瀰漫性軸索損傷について. 麻酔と蘇生 1996 ; 32 : 33-35.
- 12) 小池 薫, 山本保博, 大塚敏文 : 侵襲が食細胞増殖能・細菌感染に及ぼす影響. 一小腸虚血・再灌流モデルを用いた検討一. 日本外科感染症誌 1996 ; 8 : 1-5.
- 13) 横田裕行, 山本保博, 加藤一良, 小池 薫, 高橋幸道, 小川理郎, 諫山和男, 益子邦洋, 大塚敏文 : 頭部外傷を伴う多発外傷死亡例の検討. 日本救命医療研究会雑誌 1996 ; 10 : 141-146.

(2) 研究報告書 :

- 1) 横田裕行, 加藤一良, 大塚敏文<sup>1)</sup>, 有賀 徹<sup>2)</sup>, 佐藤 章<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学高度救命救急センター, <sup>2)</sup>昭和大学救急医学, <sup>3)</sup>千葉県救急医療センター) : 臓器提供施設のあり方に関する研究. 厚生省平成7年度臓器技術臨床研究開発事業, 臓器移植の社会的問題に関する研究班 (B班), 1996.
- 2) 横田裕行, 加藤一良, 大塚敏文, 有賀 徹<sup>1)</sup>, 佐藤 章<sup>2)</sup>, (<sup>1)</sup>昭和大学救急医学, <sup>2)</sup>千葉県救急医療センター) : 臓器提供施設のあり方に関する研究. 厚生省平成8年度臓器技術臨床研究開発事業, 臓器移植の社会的問題に関する研究班 (B班), 1996.
- 3) 横田裕行, 加藤一良, 大塚敏文, 有賀 徹<sup>1)</sup>, 佐藤 章<sup>2)</sup>, (<sup>1)</sup>昭和大学救急医学, <sup>2)</sup>千葉県救急医療センター) : 臓器提供施設マニュアル. 厚生省平成8年度臓器技術臨床研究開発事業, 臓器移植の社会的問題に関する研究班 (B班), 1996.
- 4) 工藤一郎<sup>1)</sup>, 田上清一<sup>2)</sup>, 本田善一郎<sup>3)</sup>, 小池 薫, 新井洋由<sup>4)</sup>, 阿部正義<sup>5)</sup>(<sup>1)</sup>昭和大学薬学部, <sup>2)</sup>北海道大学医学部, <sup>3)</sup>東京大学保健管理センター, <sup>4)</sup>東京大学薬学部, <sup>5)</sup>福岡大学医学部) : 「ホスホリパーゼ A2 の異常発現とヒト疾患」. 文部省科学研究費補助金総合研究, 1997. 3.

(3) 総説 :

- 1) 横田裕行, 小川理郎, 小池 薫, 加藤一良, 益子邦洋, 黒川 顕, 山本保博, 大塚敏文 : 意識障害患者の CT の見方と危険所見. 救急医 1996 ; 20 : 648-653.
- 2) 横田裕行, 山本保博, 加藤一良, 小池 薫 : 膀胱穿刺ドレナージ. 救急医 1996 ; 20 : 413-415.
- 3) 小池 薫, 横田裕行 : 日本医科大学付属千葉北総病院における救急医療活動. 日本病院会雑誌 1996 ; 43 :

1875-1876.

- 4) 高田雅史, 横田裕行: サリン中毒. 臨床医 1996; 22: 874-875.
- 5) 吉田裕彦, 横田順一郎, 小池 薫: 蘇生による脳再灌流障害. LISA, 1997; 4: 30-34.
- 6) 犬塚 祥, 大塚敏文: アルコールと救急医療. からだの科学 1997; 192: 56-58.
- 7) 小川理郎, 横田裕行: 頭部軟部組織の外傷. 救急医 1997; 21: 146-150.
- 8) 横田裕行, 小川理郎, 犬塚 祥, 小池 薫, 加藤一良, 佐藤秀貴, 布施 明, 益子邦洋, 黒川 颯, 山本保博, 大塚敏文: 重症患者と意識障害 頭部外傷. 集中治療 1997; 9(4): 399-407.
- 9) 横田裕行, 小川理郎, 佐藤秀貴, 布施 明, 黒川 颯, 山本保博, 大塚敏文: 知っておくべき救急疾患100 頭部外傷. 診断と治療 1997; 85: 537-545.
- 10) 市川和雄, 田島なつき, 田島広之, 村上隆介, 岡田 進, 保坂純郎, 山本 鼎, 大塚敏文, 隈崎達夫, 増野智彦, 横田裕行, 牧野俊郎: Body packer の画像診断医. 日本放射線学会雑誌, 1997; 57: 89-93.

## 著 書

- 1) 横田裕行, 片山容一<sup>1)</sup>, 小川武希<sup>2)</sup>, 塩貝敏之<sup>3)</sup> (<sup>1)</sup>日本大学脳神経外科, <sup>2)</sup>東京慈恵会医科大学脳神経外科, <sup>3)</sup>杏林大学脳神経外科) [編集]: 頸静脈球酸素飽和度測定マニュアル, 1996; 新興出版.
- 2) 横田裕行 [分担]: 頭・神経・脊椎・脊髄のけが 健康教育ビジュアル実践講座 第3巻 かただのしくみと応急処置. 1996; pp70-75, ニチブン.
- 3) 横田裕行 [分担]: ICU 管理 小児頭部外傷. 1996; pp176-192, 医学書院.
- 4) 横田裕行 [分担]: 脳蘇生法 日野原重明, 阿部正和監修, 今日の治療指針, 1996; p44, 医学書院.
- 5) 横田裕行 [分担]: 脳蘇生法 日野原重明, 阿部正和監修, 今日の治療指針 (ポケット版), 1996; p44, 医学書院.
- 6) 横田裕行 [分担]: 脳死 頸静脈球酸素飽和度測定マニュアル. 1996; pp64-68, 新興出版.
- 7) 横田裕行 [分担]: 脳代謝との関係 頸静脈球酸素飽和度測定マニュアル. 1996; pp60-63, 新興出版.
- 8) 横田裕行 [分担]: 突然の意識障害 日野原重明, 阿部正和監修, 今日の治療指針 (ポケット版), 1997; pp5-6, 医学書院.
- 9) 横田裕行 [分担]: 突然の意識障害 日野原重明, 阿部正和監修, 今日の治療指針, 1997; pp5-6, 医学書院.

## 学会発表

### (1) 教育講演:

- 1) 横田裕行: 最近経験した興味ある救急症例. 第4回佐原CPC (橘桜会佐原), 1996.
- 2) 横田裕行, 中林基明, 布施 明, 佐藤秀貴, 本間正人, 池田幸穂, 山本保博, 大塚敏文, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>脳神経外科): 重症脳脊髄損傷の治療: 頭部外傷. 第17回日本脳神経外科コンgres, 1997. 3.
- 3) 横田裕行: 一時救命処置の再評価: 効果的心肺蘇生法の研究から. 第4回全国救急隊員シンポジウム, 1997.

### (2) シンポジウム:

- 1) 諫山和男, 玉置智規, 佐藤秀貴, 林 伸吉, 饒波正博, 前川正義, 荒木 尚, 横田裕行, 益子邦洋, 大塚敏文, 寺本 明: 両側性頭蓋内血腫の検討. 第19回日本神経外傷研究会, 1996.
- 2) 林 伸吉, 寺本 明, 諫山和男, 佐藤秀貴, 益子邦洋, 大塚敏文, 横田裕行: 脳低体温療法時における温度モニタリング. 第2回脳代謝モニタリング研究会, 1996. 6.
- 3) 直江康孝, 猪鹿倉恭子, 布施 明, 黒川 颯, 諫山和男, 横田裕行: 脳表組織内PHの測定. 第2回脳代謝モニタリング研究会, 1996. 6.
- 4) 横田裕行, 加藤一良, 益子邦洋, 黒川 颯, 山本保博, 大塚敏文: 救命救急医療の立場からみた臓器提供システムの問題点. 第32回日本移植学会総会, 1996. 10.

- 5) 横田裕行, 布施 明, 二宮宣文, 諫山和男, 小関一英, 黒川 顕, 大塚敏文, 林 伸吉, 小林士郎, 寺本 明 : 重症頭部外傷に対する低体温療法の集学的治療. 第55回日本脳神経外科学会総会 1996. 10.
  - 6) 小川理郎, 横田裕行, 小池 薫, 加藤一良, 犬塚 祥, 高橋幸道, 田中啓治<sup>1)</sup>, 大友康裕, 益子邦洋, 黒川 顕, 山本保博, 大塚敏文 (<sup>1)</sup>集中治療部) : 脳血流・脳酸素代謝からみた各種心肺脳蘇生法の再評価. 第24回日本救急医学会総会, 1996. 10.
  - 7) 布施 明, 横田裕行, 諫山和男, 池田幸穂, 村上 守, 佐藤秀貴, 小関一英, 黒川 顕, 益子邦洋, 山本保博, 大塚敏文, 林 伸吉, 小林士郎, 寺本 明 : 重症頭部外傷例に対する低体温療法時の問題点. 第20回日本神経外傷研究会, 1997. 2.
  - 8) 横田裕行, 小川理郎, 布施 明, 佐藤秀貴, 諫山和男, 益子邦洋, 山本保博, 大塚敏文, 星野 茂, 小林士郎, 寺本 明 : 頭部外傷後の脳血流障害 : Xe-CT による経時的検討. 第20回日本神経外傷研究会, 1997. 2.
- (3) ワークショップ :
- 1) 小池 薫, 小川理郎, 高橋幸道, 加藤一良, 横田裕行, 山本保博, 大塚敏文 : 好中球のプライミングと遠隔臓器障害—小腸虚血再灌流モデルにおける検討. 第96回日本外科学会総会, 1996. 4.
  - 2) 高橋幸道, 横田裕行, 加藤一良, 小池 薫, 犬塚 祥, 小川理郎, 牧野俊郎, 山本保博, 大塚敏文 : 大災害訓練時に認められたトリアージタッグのピットフォール. 第24回日本救急医学会総会, 1996. 10.
- (4) 一般講演 :
- 1) Kato K, Yokota H, Otomo Y, Koike K, Takahashi K, Ogawa S, Takami K, Otsuka T, Okada S : FINDINGS OF MAGNETIC RESONANCE IMAGING (MRI) IN MILD TO MODERATE NONPENETRATING CERVICAL INJURY. The 56th annual meeting of the AAST (Houston Tx), 1996.
  - 2) Kato K, Inutsuka S, Takahashi K, Ishikawa N, Yokota H, Koike K, Ogawa S, Otsuka T : Endoscopic treatment for hemorrhagic gastroduodenal ulcer with active arterial bleeding or with visible vessels done by emergency physicians : results of thirty-three cases prospectively treated by emergency physicians in an emergency center. The 3rd Asia-Pacific conference on emergency and disaster medicine, Bali (Indonesia), 1996. 10.
  - 3) Koike K, Yokota H, Kato K, Takahashi K, Ogawa S, Yamamoto Y, Otsuka T : CD11B but not endotoxin is critical for lung injury following gut ischemia. The 12th annual meeting and International conference of the Academy of Surgical Research (Muenster, Germany), 1996. 10.
  - 4) Koike K, Yamamoto Y, Otsuka T : Susceptibility to infection after gut ischemia-reperfusion. The 1st Sino-Japanese international symposium on surgical infection (Chongqing, China), 1996. 10.
  - 5) Sato H, Yamamoto Y, Otsuka T, Isayama K, Arai T, Yokota H : MRI APPEARANCE OF ACUTE DIFFUSE AXONAL INJURY. The Third Asia-Pacific Conference on Emergency and Disaster Medicine (Bali, Indonesia), 1996. 10.
  - 6) Arai T, Yamamoto Y, Otsuka T, Isayama K, Sato H, Yokota H : MILD HYPOTHERMIA FOR PATIENTS WITH SEVERE SUBARACHNOID HEMORRHAGE : CORRELATION BETWEEN INTRACRANIAL PRESSURE AND COMPUTED TOMOGRAPHIC FINDINGS. The Third Asia-Pacific Conference on Emergency and Disaster Medicine (Bali, Indonesia), 1996. 10.
  - 7) Yokota H, Ogawa S, Takahashi K, Inuzuka S, Koike K, Kato K, Honma M, Isayama K, Mashiko K, Yamamoto Y, Otsuka T : Clinical Studies of Neuroimaging in Diffuse Axonal Injury. 30th World Congress of the international College of Surgeons (Kyoto), 1996. 11.
  - 8) Kato K, Mashiko K, Yokota H, Inutsuka S, Takahashi K, Ogawa S, Otsuka T : A RETROSPECTIVE EVALUATION OF BLUNT CARDIAC TRAUMA. The 30th world congress of the International College of Surgeons (Kyoto, Japan), 1996. 11.

- 9) Koike K, Yokota H, Kato K, Takahashi K, Ogawa S, Yamamoto Y, Otsuka T : An experimental study of susceptibility to infection after Gut Ischemia-Reperfusion. The 30th world congress of the International College of Surgeons (Kyoto, Japan), 1996. 11.
- 10) Koike K, Yokota H, Kato K, Takahashi K, Ogawa S, Yamamoto Y, Otsuka T. : CD11 but not Endotoxin is Critical for Lung Injury Following Gut Ischemia. The 30th world congress of the International College of Surgeons, (Kyoto, Japan), 1996. 11.
- 11) Kato K, Yokota H, Koike K, Inutsuka S, Takahashi K, Ogawa S, Takami K, Tanimoto S, Otsuka T : SPONTANEOUS SPLENIC SUBCAPSULAR HEMORRHAGE OCCURRED IN A PATIENT OF SICKLE CELL DISEASE: AN UNUSUAL COMPLICATION. The 14th International congress for Tropical Medicine and Malaria (Nagasaki, Japan), 1996. 10.
- 12) 谷本佐理名, 北垣 毅, 高見和孝, 小川理郎, 高橋幸道, 小池 薫, 加藤一良, 横田裕行, 山本保博 : 椎骨動脈閉塞を来した頸髄損傷の1例. 第22回外傷症例検討会, 1996.
- 13) 小野寺謙吾, 犬塚 祥, 横田裕行, 加藤一良, 小池 薫, 高橋幸道, 小川理郎, 山本保博, 大塚敏文 : 上部消化管穿孔を伴った有機リン中毒の1例. 第17回過大侵襲研究会, 1996. 4.
- 14) 北垣 毅, 横田裕行, 加藤一良, 小池 薫, 高橋幸道, 小川理郎, 増野智彦, 山本保博, 大塚敏文 : 進行性化骨性筋炎を伴った広範囲熱傷の1例. 第4回熱傷学会関東地方会, 1996. 4.
- 15) 大友康裕, 辺見 弘, 西法 正, 望月 徹, 小関一英, 加藤一良, 山本保博, 益子邦洋, 大塚敏文 : 右血胸中トランスアミナーゼ値による右横隔膜損傷診断. 第96回日本外科学会総会, 1996. 4.
- 16) 井上潤一, 大友康裕, 本間正人, 原口義座, 辺見 弘, 倉本憲明<sup>1)</sup>, 加藤一良, 横田裕行, 山本保博, 益子邦洋, 大塚敏文 (<sup>1)</sup>同放射線科) : 肝損傷後胆汁性腹膜炎の早期診断に診断学的腹腔穿刺ドレナージおよびDIC-CTが有用であった2症例. 第10回日本外傷学会, 1996. 5.
- 17) 犬塚 祥, 林田真喜子<sup>1)</sup>, 仁平 信<sup>1)</sup>, 益子邦洋, 山本保博, 大塚敏文 (<sup>1)</sup>法医学教室) : 外傷患者におけるアルコール/薬物スクリーニングの意義. 第10回日本外傷学会, 1996. 5.
- 18) 小川理郎, <sup>1)</sup>田島なつき, 横田裕行, 加藤一良, 小池 薫, 高橋幸道, 山本保博, 川井 真, 益子邦洋, 大塚敏文, 大友康裕, 辺見 弘 (<sup>1)</sup>同放射線科) : 骨盤骨折における3D-CT, 3D-CTA, MRAの有用性と問題点. 第10回日本外傷学会, 1996. 5.
- 19) 小池 薫, 谷本佐理名, 小川理郎, 高橋幸道, 加藤一良, 横田裕行, 山本保博, 大塚敏文 : 小腸虚血・再灌流が骨髄における食細胞増殖能に及ぼす影響—エンドトキシンとその比較検討. 第10回日本外傷学会, 1996. 5.
- 20) 大友康裕, 辺見 弘, 望月 徹, 小関一英, 加藤一良, 山本保博, 益子邦洋, 大塚敏文 : 右血胸中トランスアミナーゼ値による右横隔膜損傷診断. 第10回日本外傷学会, 1996. 5.
- 21) 布施 明, 黒川 颯, 諫山和男, 横田裕行, 益子邦洋, 山本保博, 大塚敏文, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>脳神経外科) : 頭部杖創の5症例. 第10回日本外傷学会. 1996. 5.
- 22) 饒波正博, 諫山和男, 横田裕行, 益子邦洋, 小林士郎, 寺本 明 : 外傷性大脳基底核出血—瀰漫性脳損傷との関連から. 第10回日本外傷学会, 1996. 5.
- 23) 饒波正博, 諫山和男, 玉置智規, 小林士郎, 池田幸穂, 横田裕行, 益子邦洋, 大塚敏文 : 外傷性大脳基底核出血. 第10回日本外傷学会, 1996. 5.
- 24) 谷本佐理名, 横田裕行, 加藤一良, 小池 薫, 犬塚 祥, 高橋幸道, 小川理郎, 佐藤秀貴, 牧野俊郎, 山本保博, 大塚敏文 : 新東京国際空港からの救急患者の特殊性と問題点. 第41回日本救急医学会関東地方会, 1996. 6.
- 25) 林 伸吉, 諫山和男, 玉置智規, 横田裕行, 寺本 明, 益子邦洋, 大塚敏文 : 脳低温療法患者における温度モニタリング. 第41回日本救急医学会関東地方会, 1996. 6.
- 26) 小野寺謙吾, 谷本佐理名, 小川理郎, 高橋幸道, 小池 薫, 加藤一良, 横田裕行, 大塚敏文 : 広汎な腹腔内臓器壊死を来した2症例. 第41回日本救急医学会関東地方会, 1996. 6.



- 27) 安藤 哲<sup>1)</sup>, 清水秀樹<sup>1)</sup>, 三枝順子<sup>1)</sup>, 小黒辰夫<sup>1)</sup>, 森 修<sup>1)</sup>, 大秋美治<sup>1)</sup>, 日野光紀<sup>2)</sup>, 横田裕行, 川並汪一<sup>3)</sup>, 浅野伍朗<sup>3)</sup> (<sup>1)</sup>日本医科大学千葉北総病院病理部, <sup>2)</sup>内科, <sup>3)</sup>第二病理学教室): 呼吸器感染症における気管支肺泡洗浄法 (BAL) の有用性と検体処理時の注意点について—特に AIDS 症例に見られた Pneumocystis Carinii を中心に. 第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 9.
- 28) 石川尚子, 小野寺謙吾, 谷本佐理名, 小川理郎, 高橋幸道, 犬塚 祥, 小池 薫, 加藤一良, 横田裕行, 大塚敏文: 救命救急医療における高齢者救急の問題点. 第10回千葉県重症患者管理研究会, 1996. 9.
- 29) 小野寺謙吾, 犬塚 祥, 横田裕行, 加藤一良, 小池 薫, 高橋幸道, 小川理郎, 佐藤秀貴, 谷本佐理名, 大塚敏文: 来院時心肺停止で搬送された消化管穿孔の2症例. 第27回日本腹部救急医学会総会, 1996. 9.
- 30) 小池 薫, 山本保博: 小腸虚血再灌流が感染症に及ぼす影響. 第26回日本腹部救急医学会総会, 1996. 9.
- 31) 小林士郎<sup>1)</sup>, 金 景成<sup>1)</sup>, 斉藤寛浩<sup>1)</sup>, 小暮一成<sup>1)</sup>, 古川哲也<sup>1)</sup>, 粟屋 栄<sup>1)</sup>, 星野 茂<sup>1)</sup>, 水成隆之<sup>1)</sup>, 横田裕行, 寺本 明<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>脳神経外科): 小児重症頭部外傷にみられる diffuse cerebral swelling に対する集学的治療. 第55回日本脳神経外科学会総会, 1996. 10.
- 32) 横田裕行, 小川理郎, 布施 明, 佐藤秀貴, 諫山和男, 黒川 顕, 大塚敏文, 小林士郎, 寺本 明: びまん性脳損傷軽症, 中等症例の機能回復と後遺症. 第55回日本脳神経外科学会総会, 1996. 10.
- 33) 横田裕行, 小池 薫, 加藤一良, 諫山和男, 益子邦洋, 黒川 顕, 山本保博, 大塚敏文, 粟屋 栄<sup>1)</sup>, 星野 茂<sup>1)</sup>, 水成隆之<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>脳神経外科): 頭部外傷における Xe-CT の意義. 第24回日本救急医学会総会, 1996. 10.
- 34) 犬塚 祥, 横田裕行, 益子邦洋, 山本保博, 大塚敏文<sup>1)</sup>, 柴田泰史<sup>2)</sup>, 林田眞喜子, 仁平 信, 大野曜吉<sup>3)</sup>, (<sup>1)</sup>救急医学科, <sup>2)</sup>付属病院中央検査部, <sup>3)</sup>法医学教室): 救急患者における薬物スクリーニング: 薬物使用の実体と各種検査法の比較検討. 第24回日本救急医学会総会, 1996. 10.
- 35) 佐藤秀貴, 諫山和男, 益子邦洋, 山本保博, 大塚敏文, 布施 明, 本間正人, 猪鹿倉恭子, 犬塚 祥, 小池 薫, 加藤一良, 横田裕行, 黒川 顕: 頭部外傷急性期における MRI の有用正と限界. 第24回日本救急医学会総会 1996. 10.
- 36) 牧野俊郎, 前田容子, 高橋幸道, 小池 薫, 横田裕行, 益子邦洋, 黒川 顕, 山本保博, 大塚敏文: 大災害時の救援システムと成田空港の役割. 第24回日本救急医学会総会, 1996. 10.
- 37) 本間正人, 辺見 弘, 横田裕行<sup>3)</sup>, 諫山和男<sup>1)</sup>, 益子邦洋<sup>1)</sup>, 黒川 顕<sup>2)</sup>, 山本保博<sup>1)</sup>, 大塚敏文<sup>1)</sup>: 頭部外傷を伴った多発外傷の治療戦略と問題点—1280例の検討から. 第24回日本救急医学会総会, 1996. 10.
- 38) 布施 明, 横田裕行, 諫山和男, 中林基明, 益子邦洋, 黒川 顕, 山本保博, 大塚敏文, 小林士郎<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>脳神経外科): 重症頭部外傷後の各種治療による脳代謝への影響—外減圧術, 過換気療法, マニトール, 脳室ドレナージ術, 低体温療法の検討. 第55回日本脳神経外科学会総会, 1996. 10.
- 39) 谷本佐理名<sup>1)</sup>, 高柳和江<sup>1)</sup>, 横田裕行, 岩崎 栄<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>医療管理学教室): 重傷病棟の療養環境評価—入院体験より. 日本病院管理学会学術総会, 1996. 10.
- 40) 加藤一良, 横田裕行, 小池 薫, 犬塚 祥, 高橋幸道, 小川理郎, 佐藤秀貴, 谷本佐理名, 小野寺謙吾, 大塚敏文: 旅行者にみられた救急疾患: 成田空港よりの転送患者の分析から. 第24回日本救急医学会総会, 1996. 10.
- 41) 小池 薫, Peigang Yin, 嶋村文彦, 木村昭夫, 横田裕行, 益子邦洋, 山本保博, 大塚敏文: 大量輸液と合併症—上部消化管出血症例における検討. 第24回日本救急医学会総会, 1996. 10.
- 42) 畝本恭子, 布施 明, 直江康孝, 黒川 顕, 諫山和男, 横田裕行, 山本保博, 大塚敏文, 寺本 明<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>脳神経外科): 重症クモ膜下出血周術期における脳低体温療法の検討. 第24回日本救急医学会総会, 1996. 10.
- 43) 谷本佐理名, 小野寺謙吾, 小川理郎, 高橋幸道, 犬塚 祥, 小池 薫, 加藤一良, 横田裕行, 大塚敏文, 高柳和江, 岩崎 栄: ICU 入室中におけるストレスの定量化: 入室ボランティアの結果から. 第24回日本救急医学会総会, 1996. 10.
- 44) 谷本佐理名, 小野寺謙吾, 小川理郎, 高橋幸道, 犬塚 祥, 小池 薫, 加藤一良, 横田裕行, 木村昭夫, 大塚敏

- 文, 今中雄一<sup>1)</sup>, 岩崎 栄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>医療管理学教室): 救命救急センター退院患者の QOL 調査. 第24回日本救急医学会総会, 1996. 10.
- 45) 直江康孝, 猪鹿倉恭子, 布施 明, 黒川 颯, 諫山和男, 横田裕行, 山本保博, 益子邦洋, 大塚敏文: 重症頭蓋内疾患患者に対する脳表組織内 pH 測定の意義. 第24回日本救急医学会総会, 1996. 10.
- 46) 玉置智規, 諫山和男, 柴田泰史, 小池 薫, 木村昭夫, 益子邦洋, 池田幸穂, 大塚敏文, 寺本 明: くも膜下出血急性期における動脈血中ケトン体 (AKBR) の変動. 第55回日本脳神経外科学会総会, 1996. 10.
- 47) 石川尚子, 横田裕行, 小柳正雄, 近藤久禎, 谷本佐理名, 小川理郎, 高橋幸道, 犬塚 祥, 小池 薫, 加藤一良, 大塚敏文: 治療に難渋した脾損傷の1例. 第18回過大侵襲研究会, 1996. 11.
- 48) 谷本佐理名, 高柳和江, 今中健一, 岩崎 栄, 佐藤秀貴, 小池 薫, 加藤一良, 横田裕行, 田中啓治, 大塚敏文: 重症病棟の療養環境評価. 第152回日本病院管理学会例会, 1996. 12.
- 49) 小池 薫, 趙 圭一, 小川理郎, 高橋幸道, 犬塚 祥, 加藤一良, 横田裕行, 田島なつき, 岡田 進: 出血性ショック蘇生後も腹腔内臓器への血流分配低下は遷延することを示唆した1例: -99mTcO<sub>4</sub>-急速注入による腹部ファーストパス像を用いた検討-. 第9回日本外科感染症研究会, 1996. 12.
- 50) 谷本佐理名, 高見和孝, 小川理郎, 高橋幸道, 小池 薫, 加藤一良, 横田裕行, 山本保博, 牧野俊郎: 航空機内救急症例の検討. 第7回千葉 Critical Care Medicine 研究会, 1996. 12.
- 51) 小川理郎, 横田裕行, 加藤一良, 小池 薫, 犬塚 祥, 高橋幸道, 谷本佐理名, 石川尚子, 小柳正雄, 大塚敏文: 脳血流・脳酸素代謝からみた ACD-CPR の有用性. 第8回千葉 Critical Care Medicine 研究会, 1996. 12.
- 52) 小柳正雄, 横田裕行, 加藤一良, 小池 薫, 犬塚 祥, 高橋幸道, 小川理郎, 谷本佐理名, 石川尚子, 近藤久禎, 大塚敏文: 長期に停滞した消化管異物 (ボールペン) による穿孔性腹膜炎の1例. 第42回日本救急医学会関東地方会, 1997. 2.
- 53) 松浦有里子, 石川尚子, 横田裕行, 加藤一良, 小池 薫, 犬塚 祥, 高橋幸道, 小川理郎, 谷本佐理名, 近藤久禎, 小柳正雄, 大塚敏文: 急激な臨床経過を呈した好酸球性肺炎の1例. 第42回日本救急医学会関東地方会, 1997. 2.
- 54) 小川理郎, 横田裕行, 加藤一良, 小池 薫, 高橋幸道, 山本保博, 益子邦洋, 大塚敏文: 病態の把握に Xe-CT, MRI が有用であった一酸化中毒の2症例. 第11回日本中毒学会東日本部会, 1997. 2.
- 55) 吹野晃一<sup>1)</sup>, 大山健一<sup>1)</sup>, 梅岡克哉<sup>1)</sup>, 鈴木紀成<sup>1)</sup>, 直江康孝<sup>1)</sup>, 栗屋 栄<sup>1)</sup>, 星野 茂<sup>1)</sup>, 水成隆之<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 横田裕行, 寺本 明<sup>2)</sup>, 村上正洋<sup>3)</sup>, 百束比古<sup>3)</sup> (<sup>1)</sup>日本医科大学千葉北総病院脳神経外科, <sup>2)</sup>脳神経外科, <sup>3)</sup>形成外科): 遊離腹直筋皮弁にて再建した頭頂部開放性陥没骨折に伴う広範囲骨軟部組織欠損の1例. 第20回日本神経外傷研究会, 1997. 2.
- 56) 鈴木紀成<sup>1)</sup>, 星野 茂<sup>1)</sup>, 古川哲也<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 横田裕行, 松丸 宏<sup>2)</sup>, 寺本 明<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>日本医科大学千葉北総病院脳神経外科, <sup>2)</sup>日本医科大学千葉北総病院放射線部, <sup>3)</sup>脳神経外科): Xe-CT を用いた小児頭部外傷症例の脳血流測定. 第20回日本神経外傷研究会, 1997. 2.

## 19. 形成外科学講座

### [付属病院形成外科]

#### 研究概要

昨年に引き続き中国広州第一軍医大学との共同研究である真皮下血管網皮弁の臨床と研究を中心に業績を残した。また、血管束移植により二次的に作成する prefabricated flap (secondary vascularized flap) の実験的研究において、教室の平井および大木が世界で初めて同種血管束の移植に成功した。本研究は Pennsylvania 州立大学との共同研究であり、その成果は英文誌に発表され、世界的に普く知られるところとなった。今後の発展が期待される。

さらに皮膚悪性腫瘍の治療、顔面骨折の治療そして乳房再建術の分野で独自の方法を開発し報告した。また、引き続きケロイドの電子線療法、コンピューターシュミレーション外科の成果等が内外の著書に分担執筆を依頼された。

#### 研究業績

##### 論文

###### (1) 原著：

- 1) Hirai T, Manders EK<sup>1)</sup>, Nagamoto K<sup>1)</sup>, Sagers GC<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>Pennsylvania State University(PA)): Ultrasonic Observation of Facial Bone Fractures. Oral and Maxillofacial Surgery 1996 ; 54 : 776-779.
- 2) Hirai T, Manders EK<sup>1)</sup>, Huges K<sup>1)</sup>, Oki K, Hyakusoku H (<sup>1)</sup>Pennsylvania State University(PA)): Experimental study of allogeneically vascularized prefabricated flaps. Annals of Plastic Surgery 1996 ; 37 : 394-399.
- 3) 村上正洋, 嘉陽宗隆<sup>2)</sup>, 井上幸彦<sup>3)</sup>, 百束比古, 鴨井青龍<sup>1)</sup>, 荒木 勤<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>産婦人科, <sup>2)</sup>北村山公立病院形成外科, <sup>3)</sup>総合会津中央病院形成外科): 外陰部 Paget 病の腹直筋皮弁による再建. Skin Cancer 1996 ; 11 (1) : 63-66.
- 4) 村上正洋, 銅冶英雄, 百束比古, 小林士郎<sup>1)</sup>, 水城隆之<sup>1)</sup>, 吹野晃一<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>付属千葉北総病院脳神経外科): 自傷行為による頭頂部骨軟部組織欠損の1再建例. 形成外科 1996 ; 39(5) : 497-501.
- 5) 百束比古, 村上正洋: 四肢新鮮損傷の処置. 形成外科 1996 ; 39(増刊号) : 209-216.
- 6) 橋本網子<sup>1)</sup>, 青木見佳子<sup>1)</sup>, 畑三恵子<sup>1)</sup>, 矢島 純<sup>1)</sup>, 本田光芳<sup>1)</sup>, 三橋 清, 百束比古, 熊川美代子<sup>2)</sup>, 中山慈章<sup>2)</sup>, 嶋田早苗<sup>3)</sup>, 前田昭太郎<sup>4)</sup> (<sup>1)</sup>皮膚科, <sup>2)</sup>眼科, <sup>3)</sup>耳鼻咽喉科, <sup>4)</sup>病理学): マイボーム腺癌の1例. Skin Cancer 1996 ; 11 (1) : 95-98.
- 7) 百束比古, 高 建華, 村上正洋, 佐藤真美子: 真皮下血管網(超薄)皮弁の血行と臨床—supercharging version を中心に—. 形成外科 1996 ; 39 : 993-1002.
- 8) 大木更一郎, 三橋 清<sup>1)</sup>, 井上幸彦<sup>2)</sup>, 嘉陽宗隆<sup>3)</sup>, 秋元正宇, 百束比古 (<sup>1)</sup>東戸塚記念病院形成外科, <sup>2)</sup>総合会津中央病院形成外科, <sup>3)</sup>北村山公立病院形成外科): 最近経験した陰茎注入異物後遺症とその社会的問題点について. 日本美容外科学会会報 1996 ; 18(3) : 95-101.
- 9) 山村美和, 秋元正宇, 村上正洋, 百束比古, 青木見佳子<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>皮膚科): Venous switching を付加した distally based sural flap により再建を行った下腿皮膚悪性腫瘍の1例. Skin Cancer 1996 ; 11 (3) : 471-475.

###### (2) 綜説：

- 1) 秋元正宇, 百束比古: 顎骨骨折の治療指針. 整形外科, 1996 ; 47 : 1113-1119.

##### 著書

- 1) Akimoto M<sup>1)</sup>, Hyakusoku H, Murakami M, Takizawa Y, Gao J-H<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>Chiba Hokusoh Hospital, <sup>2)</sup>Nan-Fang Hospital, The First Military Medical University, (Guangzhou, China)): [分担] Reconstructive burn surgery of head and neck using the microvascular augmented subdermal vascular network flaps. 30th World

- Congress of The International College of Surgeons (Abe O Ed.), 1996 ; pp1619-1623, Monduzzi Editore, Bologna.
- 2) Akimoto M<sup>1)</sup>, Hyakusoku H, Takizawa Y, Aoki R<sup>2)</sup>, Pennington DG<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>Chiba Hokusoh Hospital, <sup>2)</sup>Royal Prince Alfred Hospital Sydney, Australia) : [分担] Versatility of deep inferior epigastric artery (DIEA) flaps and vascular bundle in reconstructive microsurgery. 30th World Congress of The International College of Surgeons (Abe O Ed.), 1996 ; pp1625-1628, Monduzzi Editore, Bologna.
  - 3) Mitsuhashi K<sup>1)</sup>, Hyakusoku H, Miyashita T<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>Higashitotsuka Memorial Hospital, <sup>2)</sup>Department of Radiology) : Long term follow-ups of keioids and hypertrophic scars with postoperative electron beam irradiations. 30th World Congress of The International College of Surgeons (Abe O Ed.), 1996 ; pp1657-1659.
  - 4) Kreider JW<sup>1)</sup>, Hughes KC<sup>1)</sup>, Smeal D<sup>1)</sup>, Hirai T<sup>1)</sup>, Manders EK<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>Pennsylvania State University PA) : [分担] Obesity. Clinics in Plastic Surgery. 23-Body Contouring (Grazer F.M.), 1996 ; pp671-680, Sanders, Atlanta.
  - 5) 秋元正宇 : [分担] 有限要素法による局所皮弁の解析. コンピュータシュミレーション外科(藤野豊美編), 1996 ; pp51-62, 南山堂.

## 学会発表

### (1) 教育講演 :

- 1) 村上正洋 : 救急外傷患者の形成外科的処置. 日本医科大学千駄木臨床研究会, 1996. 5.
- 2) 滝沢 康 : 皮膚腫瘍, 皮膚癌の診断と治療. 日本医科大学千駄木臨床研究会, 1996. 5.
- 3) 百束比古 : 顔面軟部損傷(熱傷を含む). 第5回日本形成外科学会基礎学術集会(インストラクショナルコース), 1996. 10.

### (2) シンポジウム :

- 1) Akimoto M<sup>1)</sup>, Hyakusoku H, Takizawa Y, Aoki R<sup>2)</sup>, Pennington DG<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>Chiba Hokusoh Hospital, <sup>2)</sup>Royal Prince Alfred Hospital, Sydney, Australia) : Versatility of deep inferior epigastric artery (DIEA) flaps and vascular bundle in reconstructive microsurgery. 30th World Congress of The International College of Surgeons (Kyoto), 1996. 11.
- 2) Akimoto M<sup>1)</sup>, Hyakusoku H, Murakami M, Takizawa Y, Gao J-H<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>Chiba Hokusoh Hospital, <sup>2)</sup>Nan-Fang Hospital, The First Military Medical University, Guangzhou, China) : Reconstructive burn surgery of head and neck using the microvascular augmented subdermal vascular network flaps. 30th World Congress of The International College of Surgeons(Kyoto), 1996. 11.
- 3) Mitsuhashi K<sup>1)</sup>, Hyakusoku H, Miyashita T<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>Higashitotsuka Memorial Hospital, <sup>2)</sup>Department of Radiology) : Long term follow-ups of keioids and hypertrophic scars with postoperative electron beam irradiations. 30th World Congress of The International College of Surgeons (Kyoto), 1996. 11.
- 4) 百束比古, 山村美和 : 生理食塩水バッグプロテアーゼの画像診断と化学分析 (他のプロテアーゼとの比較). 第19回日本美容外科学会総会, 1996. 10.
- 5) 百束比古, 村上正洋, 秋元正宇<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>千葉北総病院形成外科) : 顔面重度熱傷瘢痕拘縮ならびに組織欠損の再建術. 第14回日本頭蓋顎顔面外科学会学術集会, 1996. 11.

### (3) パネルディスカッション :

- 1) Yamamura M, Itoi Y, Hyakusoku H, Kanno K<sup>1)</sup>, Hirakawa K<sup>2)</sup>, Uekusa K<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>Nishiarai Skin and Hair Clinic, <sup>2)</sup>Department of Forensic Medicine) : Chemical analytic study of the Hydrogel Bag Prosthesis. 5th International Congress of Oriental Aesthetic Plastic Surgery (Taipei). 1996. 12.

- 2) Hyakusoku H : Late complication and social problems of the foreign body injection for cosmetic purposes in Japan. 5th International Congress of Oriental Aesthetic Plastic Surgery (Taipei), 1996. 12.
  - 3) 村上正洋, 益子邦洋<sup>1)</sup>, 大塚敏文<sup>1)</sup>, 秋元正字<sup>2)</sup>, 千明美保, 百束比古 (<sup>1)</sup>高度救命救急センター, <sup>2)</sup>千葉北総病院形成外科) : 顔面骨折治療における Bi-Temporal approach の経験と適応. 第44回日本災害医学会, 1996. 10.
  - 4) 大久保正智<sup>1)</sup>, 百束比古 (<sup>1)</sup>第二病院形成外科) : 臀部, 会陰部, さらに外陰部の再建法 (皮弁の適用を中心に). 第21回日本外科系連合学術集会, 1996. 6.
  - 5) 秋元正字<sup>1)</sup>, 百束比古, 滝沢 康 (<sup>1)</sup>千葉北総病院形成外科) : Free or microvascularly augmented DIEA flaps. 第23回日本マイクロサージャリー学会, 1996. 11.
- (4) 一般講演 :
- 1) Hughes KC<sup>1)</sup>, Banducci DR<sup>1)</sup>, Hirai T (<sup>1)</sup>Pennsylvania State University PA) : Nipple areolar reconstruction- Long term results-. 42nd Annual meeting of Robert H. Ivy Society of Plastic and Reconstructive Surgery (Pittsburgh), 1996. 3.
  - 2) Murakami M, Hyakusoku H, Takizawa Y, Gao J-H<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>Nan-Fang Hospital, The First Military Medical University, Guangzhou, China) : Microvascularly augmented subdermal vascular network flap for burn reconstructive surgery in head and neck. 3rd Japan-Korea Congress of Plastic and Reconstructive Surgery (Kumamoto), 1996. 5.
  - 3) Hyakusoku H, Inoue S<sup>1)</sup>, Yamamura M, Oki K (<sup>1)</sup>Aizu Central Hospital) : Salvage operation of the patients with silicone granulomas of the breasts using bilaterally divided TRAM flaps. 3rd Japan-Korea Congress of Plastic and Reconstructive Surgery (Kumamoto), 1996. 5.
  - 4) Kanno K<sup>1)</sup>, Yamamura M, Hyakusoku H (<sup>1)</sup>Nishiarai Skin and Hair Clinic) : Chemical analytic study of the hydrogel bag prothesis. 3rd Japan-Korea Congress of Plastic and Reconstructive Surgery (Kumamoto), 1996. 5.
  - 5) Hyakusoku H, Oki K, Hirai T : Secondary vascularized flaps : Experimental study of allogeneically vascularized secondary flaps. 3rd Japan-Korea Congress of Plastic and Reconstructive Surgery (Kumamoto), 1996. 5.
  - 6) Hirai T, Manders E.K<sup>1)</sup>, Nagamoto K<sup>1)</sup>, Oki K, Hyakusoku H (<sup>1)</sup>Pennsylvania State University, PA) : Experimental study of allogeneically vascularized prefabricated flaps. 13th Congress of the Internatinal Microsurgical Society (Montreal), 1996. 6.
  - 7) Akimoto M<sup>1)</sup>, Hyakusoku H, Takizawa Y, Oki K (<sup>1)</sup>Chiba Hokusoh Hospital) : Versatility of the free deep inferior epigastric artery (DIEA) flaps vascular bundle in reconstructive microsurgery. 13th Congress of the Internatinal Microsurgical Society (Montreal), 1996. 6.
  - 8) Akimoto M<sup>1)</sup>, Hyakusoku H, Tosa M (<sup>1)</sup>Chiba Hokusoh Hospital) : Computerized blood circulation monitoring system for free flap transplantation. 13th Congress of the Internatinal Microsurgical Society (Montreal), 1996. 6.
  - 9) Akimoto M<sup>1)</sup>, Hyakusoku H, Gao J-H<sup>2)</sup>, Takizawa Y, Murakami M (<sup>1)</sup>Chiba Hokusoh Hospital, <sup>2)</sup>Nan-Fang Hospital, The First Military Medical University, Guangzhou, China) : Microvascularly augmented pedicled subdermal vascular network (SVN) flaps. 13th Congress of the Internatinal Microsurgical Society (Montreal), 1996. 6.
  - 10) Tonegawa H, Hyakusoku H, Akimoto M<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>Chiba Hokusoh Hospital) : Versatility and anatomical study of distally based flaps including LSV-Switched flap in reconstruction of the foot. 13th Congress of the Internatinal Microsurgical Society (Montreal), 1996. 6.
  - 11) Manders EK<sup>1)</sup>, Hirai T, Sagers GC<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>Pennsylvania State University, PA) : Stretching the skin. Congress

- of American College of Surgeons (San Francisco), 1996. 10.
- 12) Hirai T, Nagamoto K<sup>1)</sup>, Oki K, Hyakusoku H (<sup>1</sup>Pennsylvania State University (PA)): Experimental study of allogeneically vascularized prefabricated flaps, 7th Congress of Chinese-Japanese Plastic Surgery Meeting (Guanzhou), 1996. 10.
  - 13) 北原東一<sup>1)</sup>, 青木見佳子<sup>1)</sup>, 服部怜美<sup>2)</sup>, 本田光芳<sup>1)</sup>, 嘉陽宗隆<sup>3)</sup>, 百束比古, 大秋美治<sup>4)</sup> (<sup>1</sup>皮膚科, <sup>2</sup>千葉北総病院皮膚科, <sup>3</sup>北村山公立病院形成外科, <sup>4</sup>千葉北総病院病理部): 鼻根部腫瘍の1例. 第11回日本皮膚病理組織学会, 1995.
  - 14) 山村美和, 百束比古, 井上幸彦<sup>1)</sup>, 秋元正字<sup>2)</sup>, 大木更一郎 (<sup>1</sup>総合会津中央病院形成外科, <sup>2</sup>千葉北総病院形成外科): 生食バッグと Hydrogel Bag を含めた体内埋入異物の画像診断と化学分析の結果について. 第39回日本形成外科学会学術集会, 1996. 4.
  - 15) 秋元正字<sup>1)</sup>, 百束比古, 佐藤真美子, 村上正洋 (<sup>1</sup>千葉北総病院形成外科): 正方弁法による各種形態の耳垂裂形成術とその力学的解析. 第39回日本形成外科学会学術集会, 1996. 4.
  - 16) 三橋 清<sup>1)</sup>, 百束比古 (<sup>1</sup>東戸塚記念病院形成外科): 難治性ケロイドに対する切除後電子線照射療法の有用性. 第39回日本形成外科学会学術集会, 1996. 4.
  - 17) 秋元正字<sup>1)</sup>, 佐藤真美子, 大木更一郎, 百束比古 (<sup>1</sup>千葉北総病院形成外科): われわれの開発した簡便, 安価な皮弁血流集中管理システムについて. 第39回日本形成外科学会学術集会, 1996. 4.
  - 18) 井上幸彦<sup>1)</sup>, 百束比古, 三橋 清<sup>2)</sup>, 嘉陽宗隆<sup>3)</sup>, 村上正洋, 山村美和, 銅冶英雄 (<sup>1</sup>総合会津中央病院形成外科, <sup>2</sup>東戸塚記念病院形成外科, <sup>3</sup>北村山公立病院形成外科): 自家組織による埋入異物摘出後即時再建法と問題点. 第39回日本形成外科学会学術集会, 1996. 4.
  - 19) 利根川均, 百束比古, 秋元正字<sup>1)</sup>, 滝沢 康, 山村美和 (<sup>1</sup>千葉北総病院形成外科): Distally based sural flap の経験と解剖学的検討. 第39回日本形成外科学会学術集会, 1996. 4.
  - 20) 村上正洋, 百束比古, 秋元正字<sup>1)</sup>, 佐々木茂<sup>2)</sup> (<sup>1</sup>千葉北総病院形成外科, <sup>2</sup>多摩永山病院産婦人科): 女性外陰部癌の有茎 DIEA 皮弁による再建術の検討. 第39回日本形成外科学会学術集会, 1996. 4.
  - 21) 秋元正字<sup>1)</sup>, 土佐真美子, 百束比古 (<sup>1</sup>千葉北総病院形成外科): Laser doppler imager の使用経験. 第195回日本形成外科学会東京地方会, 1996. 5.
  - 22) 村上正洋, 百束比古, 秋元正字<sup>1)</sup>, 平井 隆 (<sup>1</sup>千葉北総病院形成外科): ワイアフレーム外固定を用いた植皮術の顔面熱傷再建における応用. 第22回日本熱傷学会総会, 1996. 5.
  - 23) 岩切 致, 百束比古, 大木更一郎, 嘉陽宗隆<sup>1)</sup>, 三橋 清<sup>2)</sup>, 宮下次廣<sup>3)</sup> (<sup>1</sup>北村山公立病院形成外科, <sup>2</sup>東戸塚記念病院形成外科, <sup>3</sup>放射線科): 熱傷後肥厚性瘢痕に対する術後早期電子線照射療法の結果. 第22回日本熱傷学会総会, 1996. 5.
  - 24) 青木見佳子<sup>1)</sup>, 本田光芳<sup>1)</sup>, 嘉陽宗隆, 涌井史典<sup>2)</sup>, 森嶋隆文<sup>2)</sup> (<sup>1</sup>皮膚科, <sup>2</sup>日本大学): 14歳女子の足縁に生じた黒色結節. 第12回日本皮膚悪性腫瘍学会総会・学術集会, 1996. 5.
  - 25) 山村美和, 秋元正字<sup>1)</sup>, 村上正洋, 百束比古, 青木見佳子<sup>2)</sup> (<sup>1</sup>千葉北総病院形成外科, <sup>2</sup>皮膚科): Venous switching を付加した distally based sural flap により再建を行った下腿皮膚悪性腫瘍の1例. 第12回日本皮膚悪性腫瘍学会総会・学術集会, 1996. 5.
  - 26) 大木更一郎, 百束比古, 平井 隆: 冷凍同種血管束移植による皮弁作成の試みと臨床応用の可能性について. 日本医科大学学会第89回例会, 1996. 5.
  - 27) 村上正洋, 秋元正字, 百束比古: Bi-Temporal incision による下顎骨関節突起骨折の整復術. 第21会日本外科系連合学術集会, 1996. 6.
  - 28) 村上正洋, 百束比古, 秋元正字<sup>1)</sup>, 秋元成太<sup>2)</sup>, 長谷川潤<sup>2)</sup>, 荒木 勤<sup>3)</sup>, 澤倫太郎<sup>3)</sup>, 佐々木茂<sup>4)</sup>, 三田俊二<sup>4)</sup> (<sup>1</sup>千葉北総病院形成外科, <sup>2</sup>泌尿器科, <sup>3</sup>産婦人科, <sup>4</sup>多摩永山病院産婦人科): 有茎 DIEA 皮弁による外陰部組織欠損の再建. 第21回日本外科系連合学術集会, 1996. 6.

- 29) 山村美和, 百束比古, 秋元正宇<sup>1)</sup>, 村上正洋, 大木更一郎, 三橋 清<sup>2)</sup>, 井上幸彦<sup>3)</sup> (<sup>1)</sup>千葉北総病院形成外科, <sup>2)</sup>東戸塚記念病院形成外科, <sup>3)</sup>総合会津中央病院形成外科): われわれの乳房異物摘出後の一次的両側乳房再建法. 第21回日本外科系連合学術集会, 1996. 6.
- 30) 山村美和, 百束比古, 岡 敏行, 平川慶子<sup>1)</sup>, 植草協子<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>法医学): Hydrogel bag prothesis の検討 (第2報). 第66回日本美容外科学会地方会, 1996. 7.
- 31) 銅冶英雄, 百束比古, 山村美和, 岡 敏行, 井上幸彦<sup>1)</sup>, 大久保正智<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>総合会津中央病院形成外科, <sup>2)</sup>第二病院形成外科): 乳房埋入異物患者の自己抗体の検討: 特に異物摘出による変化について. 第66回日本美容外科学会地方会, 1996. 7.
- 32) 銅冶英雄, 山村美和, 滝沢 康, 百束比古, 秋元正宇<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>千葉北総病院形成外科): 下顎部に発生した平滑筋肉腫の1例. 第196回日本形成外科学会東京地方会, 1996. 7.
- 33) 村上正洋, 高野研一郎<sup>1)</sup>, 益子邦洋<sup>1)</sup>, 滝沢 康, 百束比古 (<sup>1)</sup>高度救命救急センター): 皮膚穿通枝を用いた遠隔皮弁による軟部組織欠損の再建. 第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 9.
- 34) 大久保正智, 百束比古: Q-switched ruby laser による皮膚色素異常症の治療経験. 第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 9.
- 35) 銅冶英雄, 百束比古, 滝沢 康, 糸井由里恵: 真皮欠損用グラフト (人工真皮) の使用経験. 第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 9.
- 36) 岩切 致, 大木更一郎, 山村美和, 百束比古, 嘉陽宗隆: tissue expander 法を用いた組織再建法. 第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 9.
- 37) 大木更一郎, 土佐眞美子, 糸井由里恵, 百束比古: 真皮下血管網皮弁と graft-phenomenon に関する実験的研究—ラット真皮下血管網皮弁モデルにおける皮弁生着課程について—. 第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 9.
- 38) 佐野和史, 大木更一郎, 岡 敏行, 百束比古: 遊離肩甲下動脈皮弁を用いた脛骨骨髓炎治療経験. 第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 9.
- 39) 百束比古: 私の乳房異物摘出後即時再建術: 遊離分割型腹直筋皮膚脂肪弁による. 第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 9.
- 40) 山村美和, 百束比古, 平川慶子<sup>1)</sup>, 植草協子<sup>1)</sup>, 大野曜吉<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>法医学): 乳房形成用各インプラントについての画像と分析. 第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 9.
- 41) 銅冶英雄, 百束比古, 岡 敏行, 糸井由里恵, 岩切 致, 佐野和史, 山村美和, 大木更一郎, 滝沢 康, 村上正洋: 手術創閉鎖における Sure-Closure の使用経験. 第197回日本形成外科学会東京地方会, 1996. 9.
- 42) 佐野和史, 滝沢 康, 百束比古: 腹直筋の Supercharging version による心臓バイパス術後前縦隔炎の治療. 第7回日中形成外科交流学術集会 (広州), 1996. 10.
- 43) 王 春梅, 百束比古: 内視鏡の試み. 第7回日中形成外科交流学術集会 (広州), 1996. 10.
- 44) 百束比古, 村上正洋, 滝沢 康, 王 春梅: 微小血管束付加真皮下血管網皮弁-microvascularly augmented subdermal vascular network flaps. 第7回日中形成外科交流学術集会 (広州), 1996. 10.
- 45) 大久保正智<sup>1)</sup>, 滝沢 康, 百束比古, 秋元正宇, 村上正洋, 大木更一郎, 嘉陽宗隆<sup>2)</sup>, 尾形さやか (<sup>1)</sup>第二病院形成外科, <sup>2)</sup>北村山公立病院形成外科): 内胸動静脈助間穿通枝を用いて microvascular augmentation を行った真皮下血管網皮弁. 第7回日中形成外科交流学術集会 (広州), 1996. 10.
- 46) 三橋 清<sup>1)</sup>, 百束比古, 青木 律 (<sup>1)</sup>東戸塚記念病院形成外科): free bilaterally devided TRAM flaps による異物摘出後乳房の即時再建術の適応と新たな工夫. 第19回日本美容外科学会総会, 1996. 10.
- 47) 土佐眞美子, 大木更一郎, 百束比古: 真皮下血管網皮弁と graft-phenomenon に関する実験的研究. 第5回日本形成外科学会基礎学術集会, 1996. 10.
- 48) 銅冶英雄, 百束比古: 頬部に生じた骨外性骨肉腫の1例. 第198回日本形成外科学会東京地方会, 1996. 10.
- 49) 平川慶子<sup>1)</sup>, 植草協子<sup>1)</sup>, 山村美和, 仁平 信<sup>1)</sup>, 百束比古, 大野曜吉<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>法医学): 固体高分解能 NMR 法によ

- る体内埋入異物の分析。第81回日本法医学会総会，1996。11。
- 50) 千明美保，百束比古，大木更一郎，山村美和，佐野和史，有吉雅徳，尾形さやか，岡 敏行：皮膚悪性腫瘍の治療における皮膚科と形成外科の協力について。第90回日本医科大学医学会例会，1996。11。
- 51) 尾形さやか，滝沢 康，百束比古，秋元正字<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>千葉北総病院形成外科)：頭頸部腫瘍における形成外科の役割について。日本医科大学医学会第90回例会，1996。11。
- 52) 王 春梅，百束比古，大木更一郎，銅冶英雄：Prefabricated(secondary) cartilage grafted flap による欠損耳介の再建。第14回日本頭蓋顎顔面外科学会学術集会，1996。11。
- 53) 山村美和，百束比古，大木更一郎：Endoscopy-aided free DIEA implantaion flap による頬部限局性強皮症の再建例。第14回日本頭蓋顎顔面外科学会学術集会，1996。11。
- 54) 佐野和史，大木更一郎，百束比古，銅冶英雄，村上正洋：対側の肩甲回旋血管による微小血管付加を行った有茎動脈 (SCA) 真皮下血管網皮弁の経験。第23回マイクロサージャリー学会，1996。11。
- 55) 百束比古，滝沢 康，村上正洋：Microvascularly augmented：Pedicled subdermal vascular network (SVN) flap。第23回マイクロサージャリー学会，1996。11。
- 56) 佐野和史，百束比古，岡 敏行，大木更一郎：両側遊離広背筋肩甲皮弁 (人工的キメラ型) により患肢温存し得た3度熱傷後両下腿骨髄炎の1例。第5回熱傷学会関東地方会，1997。2。
- 57) 山村美和，百束比古，王 春梅，銅冶英雄：当科における内視鏡の経験—とくに遊離軟部組織移植における利用—。第2回形成外科内視鏡手術研究会，1997。3。
- 58) 尾形さやか，百束比古，平井 隆，銅冶英雄：耳介裂様形態を呈した折れ耳の1例。第201回日本形成外科学会東京地方会，1997。3。

## [第二病院形成外科]

### 研究業績

#### 学会発表

##### (1) パネルディスカッション：

- 1) 大久保正智，百束比古<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>付属病院形成外科)：臀部，会陰部，さらに外陰部の再建法 (皮弁の適応を中心に)。第21回外科系連合学術集会，1996。6。

##### (2) 一般講演：

- 1) 大久保正智，百束比古<sup>1)</sup>，秋元正字<sup>2)</sup>，大木更一郎<sup>1)</sup>，嘉陽宗隆<sup>3)</sup>，尾形さやか<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>付属病院形成外科，<sup>2)</sup>北総病院形成外科，<sup>3)</sup>北村山公立病院形成外科)：内胸動静脈肋間穿通枝を用いて microvascular augmentation を行った真皮下血管網皮弁。第7回日中形成外科交流学術集会 (広州)，1996。10。

## [千葉北総病院形成外科]

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

- 1) 山村美和<sup>1)</sup>，秋元正字，村上正洋<sup>1)</sup>，百束比古<sup>1)</sup>，青木見佳子<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>付属病院形成外科，<sup>2)</sup>付属病院皮膚科)：Venous switching を付加した distally based sural flap により再建を行った下腿皮膚悪性腫瘍の1例。Skin Cancer 1996；11：471-475。

##### (2) 綜説：

- 1) 秋元正字，百束比古<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>付属病院形成外科)：顎骨骨折の治療指針。整形外科 1996；47：1113-1119。



## 著書

- 1) Akimoto M, Hyakusoku H<sup>1)</sup>, Murakami M<sup>1)</sup>, Takizawa Y<sup>1)</sup>, Gao J-H<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>付属病院形成外科, <sup>2)</sup>Nan-Fang Hospital, The First Military Medical University, Guangzhou, China) : [分担] Reconstructive burn surgery of head and neck using the microvascular augmented subdermal vascular network flaps. 30th World Congress of The International College of Surgeons (Abe O Ed.), 1996 ; pp1619-1623, Monduzzi Editore, Bologna.
- 2) Akimoto M, Hyakusoku H<sup>1)</sup>, Takizawa Y<sup>1)</sup>, Aoki R<sup>2)</sup>, Pennington DG<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>付属病院形成外科, <sup>2)</sup>Royal Prince Alfred Hospital, Sydney, Australia) : [分担] Versatility of deep inferior epigastric artery (DIEA) flaps and vascular bundle in reconstructive microsurgery. 30th World Congress of The International College of Surgeons (Abe O Ed.), 1996 ; pp1625-1628, Monduzzi Editore, Bologna.
- 3) 秋元正宇 : [分担] 有限要素法による局所皮弁の解析. コンピュータシミュレーション外科(藤野豊美編), 1996 ; pp51-62 ; 南山堂.

## 学会発表

### (1) シンポジウム :

- 1) Akimoto M, Hyakusoku H<sup>1)</sup>, Takizawa Y<sup>1)</sup>, Aoki R<sup>2)</sup>, Pennington DG<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>付属病院形成外科, <sup>2)</sup>Royal Prince Alfred Hospital, Sydney, Australia) : Versatility of deep inferior epigastric artery (DIEA) flaps and vascular bundle in reconstructive microsurgery (Theme : Modern Microsurgery for Reconstructive Surgery). 30th World Congress of The International College of Surgeons (Kyoto), 1996. 11.
- 2) Akimoto M, Hyakusoku H<sup>1)</sup>, Murakami M<sup>1)</sup>, Takizawa Y<sup>1)</sup>, Gao J-H<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>付属病院形成外科, <sup>2)</sup>Nan-Fang Hospital, The First Military Medical University, Guangzhou, China) : Reconstructive burn surgery of head and neck using the microvascular augmented subdermal vascular network flaps (Theme : Modern Microsurgery for Reconstructive Surgery). 30th World Congress of The International College of Surgeons (Kyoto), 1996. 11.
- 3) 秋元正宇, 百束比古<sup>1)</sup>, 滝沢 康<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>付属病院形成外科) : Free or microvascular augmented DIEA flap. 第23回日本マイクロサージャリー学会, 1996. 11.

### (2) パネルディスカッション :

- 1) 村上正洋<sup>1)</sup>, 益子邦洋<sup>2)</sup>, 大塚敏文<sup>2)</sup>, 秋元正宇, 千明美保<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>付属病院形成外科, <sup>2)</sup>付属病院高度救命救急センター) : 顔面骨骨折における Bi-Temporal approach の経験と適応. 第44回日本災害医学会, 1996. 10.

### (3) 一般講演 :

- 1) Akimoto M, Hyakusoku H<sup>1)</sup>, Takizawa Y<sup>1)</sup>, Ohki K<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>付属病院形成外科) : Versatility of the free deep inferior epigastric artery (DIEA) flaps vascular bundle in reconstructive microsurgery. The 13th International Congress of Microsurgery (Montreal), 1996. 6.
- 2) Akimoto M, Hyakusoku H<sup>1)</sup>, Tosa M<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>付属病院形成外科) : Computerized blood circulation monitoring system for free flap transplantation. The 13th International Congress of Microsurgery (Montreal), 1996. 6.
- 3) Akimoto M, Hyakusoku H<sup>1)</sup>, Gao J-H<sup>2)</sup>, Takizawa Y<sup>1)</sup>, Murakami M<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>付属病院形成外科, <sup>2)</sup>Nan-Fang Hospital, The First Military Medical University, Guangzhou, China) : Microvascular augmented pedicled subdermal vascular network (SVN) flaps. The 13th International Congress of Microsurgery (Montreal), 1996. 6.

- 4) Tonegawa T<sup>1)</sup>, Hyakusoku H<sup>1)</sup>, Akimoto M ( <sup>1)</sup>付属病院形成外科): Versatility and anatomical study of distally based flaps including LSV-Switched flap in reconstruction of the foot. The 13th International Congress of Microsurgery (Montreal), 1996. 6.
- 5) 秋元正字, 佐藤真美子<sup>1)</sup>, 大木更一郎<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>付属病院形成外科): われわれの開発した簡便, 安価な皮弁血流集中管理システムについて. 第39回日本形成外科学会学術集会, 1996. 4.
- 6) 秋元正字, 百束比古<sup>1)</sup>, 佐藤真美子<sup>1)</sup>, 村上正洋<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>付属病院形成外科): 正方弁法による各種形態の耳垂裂形成術とその力学的解析, 第39回日本形成外科学会学術集会, 1996. 4.
- 7) 山村美和<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup>, 井上幸彦<sup>1)</sup>, 秋元正字, 大木更一郎<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>付属病院形成外科): 生食バッグと Hydrogel Bag を含めた体内埋入異物の画像診断と化学分析の結果について. 第39回日本形成外科学会学術集会, 1996. 4.
- 8) 利根川均<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup>, 秋元正字, 滝沢 康<sup>1)</sup>, 山村美和<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>付属病院形成外科): distally based sural flap の経験と解剖学的検討. 第39回日本形成外科学会学術集会, 1996. 4.
- 9) 村上正洋<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup>, 秋元正字, 佐々木茂<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>付属病院形成外科, <sup>2)</sup>多摩永山病院産婦人科): 女性外陰部癌の有茎 DIEA 皮弁による再建術の検討. 第39回日本形成外科学会学術集会, 1996. 4.
- 10) 村上正洋<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup>, 秋元正字, 平井 隆<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>付属病院形成外科): ワイアフレーム外固定を用いた植皮術の顔面熱傷再建における応用. 第22回日本熱傷学会総会, 1996. 5.
- 11) 山村美和<sup>1)</sup>, 秋元正字, 村上正洋<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup>, 青木見佳子<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>付属病院形成外科, <sup>2)</sup>付属病院皮膚科): Venous switching を付加した distally based sural flap により再建を行った下腿皮膚悪性腫瘍の1例. 第12回日本皮膚悪性腫瘍学会総会・学術集会, 1996. 5.
- 12) 秋元正字, 土佐真美子<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>付属病院形成外科): Laser doppler imager の使用経験. 第195回日本形成外科学会東京地方会, 1996. 5.
- 13) 村上正洋<sup>1)</sup>, 秋元正字, 百束比古<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>付属病院形成外科): Bi-Temporal incision による下顎骨関節突起骨折の整復術. 第21回日本外科系連合学術集会, 1996. 6.
- 14) 村上正洋<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup>, 秋元正字, 秋元成太<sup>2)</sup>, 長谷川潤<sup>2)</sup>, 荒木 勤<sup>3)</sup>, 沢倫太郎<sup>3)</sup>, 佐々木茂<sup>4)</sup>, 三田俊二<sup>4)</sup> ( <sup>1)</sup>付属病院形成外科, <sup>2)</sup>付属病院泌尿器科, <sup>3)</sup>付属病院産婦人科, <sup>4)</sup>多摩永山病院産婦人科): 有茎 DIEA 皮弁による外陰部組織欠損の再建. 第21回日本外科系連合学術集会, 1996. 6.
- 15) 山村美和<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup>, 秋元正字, 村上正洋<sup>1)</sup>, 大木更一郎<sup>1)</sup>, 三橋 清<sup>2)</sup>, 井上幸彦<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>付属病院形成外科, <sup>2)</sup>東戸塚記念病院形成外科): われわれの乳房異物摘出後の一期的両側乳房再建術. 第21回日本外科系連合学術集会, 1996. 6.
- 16) 銅冶英雄<sup>1)</sup>, 山村美和<sup>1)</sup>, 滝沢 康<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup>, 秋元正字 ( <sup>1)</sup>付属病院形成外科): 下顎部に発生した平滑筋肉腫の1例. 第169回日本形成外科学会東京地方会, 1996. 7.
- 17) 滝沢 康<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup>, 秋元正字, 村上正洋<sup>1)</sup>, 大木更一郎<sup>1)</sup>, 嘉陽宗隆<sup>1)</sup>, 尾形さやか<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>付属病院形成外科): 内胸動静脈肋間穿通枝を用いて microvascular augmentation を行った真皮下血管網皮弁. 第7回日中形成外科交流学術集会 (広州), 1996. 10.
- 18) 黒田周一, 山本 達, 秋元正字, 水成隆之<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経外科): 頭蓋骨形成術における Tissue Expander の有用性について. 日本医科大学医学会第90回例会, 1996. 11.
- 19) 尾形さやか<sup>1)</sup>, 滝沢 康<sup>1)</sup>, 百束比古<sup>1)</sup>, 秋元正字 ( <sup>1)</sup>付属病院形成外科): 頭頸部腫瘍における形成外科の役割について. 日本医科大学医学会第90回例会, 1996. 11.

## 20. 付属病院付置施設等

### [付属病院集中治療室]

#### 研究概要

集中治療室は都内21施設よりなる東京都CCUネットワークの事務局としてその中心的役割を果たし、その豊富な症例を背景に、心肺血管緊急症の臨床に即した病態、診断、治療あるいは疫学、社会学に関する研究を継続する一方、新しい診断治療法についても研究を進めた。

急性心筋梗塞の課題は早期収容、早期診断、早期治療、ポンプ不全の救命、発症予防である。東京都CCUネットワークを通じて集積されたデータをもとに疫学的社会的観点から循環器救急疾患を総括、年次報告として発表し、体制改善のための基礎資料を提供した。早期診断では全国に先駆け導入したトロポニンT測定の意義やトロポニンT迅速判定法の実地臨床における有用性を示した。治療では専用の緊急心血管造影診断治療室を活用、積極的に経皮的冠血管形成術(PTCA)やステント、DCAなどのインターベンションを実施し、心筋梗塞急性期ステント療法やcutting balloonの成績を検討し、発表した。また、新世代の血栓溶解薬、抗凝固薬、抗血小板薬の全国的治験の中心施設として活動するとともに、高齢者における血栓溶解療法の効果を検討し指針を示した。発症予防に関しては長期にわたる積極的血清脂質低下療法の研究(Coronary Lipid Study)を継続、他の因子特に女性ホルモン(Coronary And Sex Hormone (CASH) Study)やLupus Anticoagulantなどについてもデータを集積しているが、本年は女性ホルモンと急性期病態との関連につき発表した。加えて再灌流療法が心筋梗塞急性期の心室性不整脈発生様式に及ぼす効果についても発表した。また、虚血性心疾患とくに再梗塞の危険因子に関する全国調査にも資料を提供した。

心不全に対しては、厚生省の班研究の一環として、コンダクタンスカテーテルを用いた圧容積関係-Emax、あるいは神経体液性因子による心不全治療効果判定法につき研究を進めた。また、ヒト心房性利尿ホルモンと心不全の病態につき検討、治療薬としての用法や有用性につき発表した。また、フォルスコリン誘導体やフォスフォジエステラーゼ阻害薬など新たに開発された薬剤を評価した。重症呼吸不全では、当施設のテーマである各種基礎疾患にもとづくARDSの病態の解明と治療法に関する研究を継続、サイトカインやエンドセリンの関与、PDE阻害薬の効果、マスクCPAP及び体外式高頻度陰圧換気法(Hayek Oscillator)の有用性を検討し、さらに食道癌手術など術後呼吸不全を来しやすい疾患に対する予防的抗炎症薬投与の効果についても検討を加えた。

解離性大動脈瘤についても全国屈指の症例数を有するが、昨年度に引き続き病型別に予後を追跡調査し治療法選択の指針を示した。

#### 研究業績

##### 論文

(1) 原著:

- 1) Seino Y, Tomita Y, Hoshino K, Setsuta K, Takano T, Hayakawa H: Pathophysiological Analysis of Serum Troponin T Release Kinetics in Evolving Ischemic Myocardial Injury. Japanese Circulation Journal 1996; 60(5): 265-276.
- 2) Seino Y, Momomura S, Takano T, Hayakawa H, Katoh K, for the Japan Intravenous Milrinone Investigators: Multicenter, double-blind study of intravenous milrinone for patients with acute heart failure in Japan. Crit Care Med 1996; 24(9): 1490-1497.
- 3) Vatner DE, Sato N, Ishikawa Y, Kiuchi K, Shannon RP, Vatner SF: Beta-adrenoceptor desensitization during the development of canine pacing-induced heart failure. Clinical & Experimental Pharmacology & Physiology 1996; 23(8): 688-692.

- 4) Takeda S, Nakanishi K, Inoue T, Ogawa R : Delayed elevation of plasma endothelin-1 during unilateral alveolar hypoxia without systemic hypoxia without systemic hypoxemia in humans. *Acta Anaesthesiol Scand* 1997 ; 41 : 274-280.
- 5) 高野照夫, 清野精彦<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>内科第一) : Acute coronary syndrome の発症状況—東京都 CCU ネットワークの分析から—。 *CARDIAC PRACTICE* 1996 ; 7(3) : 275-280.
- 6) 高山守正, 高野照夫 : 東京都における急性心筋梗塞の入院状況—1994年度の全病院調査—。 *Therapeutic Research* 1996 ; 17(8) : 3154-3158.
- 7) 高野照夫, 高山守正, 子島 潤, 中西成元<sup>1)</sup>, 一色高明<sup>2)</sup>, 吉野秀朗<sup>3)</sup>, 内山隆史<sup>4)</sup>, 木村 満<sup>5)</sup>, 本宮武司<sup>6)</sup>, 小山雄次<sup>7)</sup>, 本江純子<sup>8)</sup>, 長尾 建<sup>9)</sup>, 上嶋権兵衛<sup>10)</sup>, 鈴木 紳<sup>11)</sup>, 山口 徹<sup>12)</sup>, 坂井 誠<sup>13)</sup>, 高橋早苗<sup>14)</sup>, 田村 勤<sup>15)</sup>, 林田憲明<sup>16)</sup>, 片桐 敬<sup>17)</sup>, 横井 尚<sup>18)</sup>, 内田達郎<sup>19)</sup>, 木村 佑介<sup>20)</sup>, 廣沢弘七郎<sup>21)</sup> ( <sup>1)</sup>虎の門病院, <sup>2)</sup>帝京大学医学部附属病院, <sup>3)</sup>杏林大学医学部第二内科, <sup>4)</sup>東京医科大学八王子医療センター, <sup>5)</sup>東京都済生会中央病院, <sup>6)</sup>東京都立広尾病院, <sup>7)</sup>西新井病院, <sup>8)</sup>日本大学医学部附属板橋病院, <sup>9)</sup>駿河台日大病院, <sup>10)</sup>東邦大学医学部附属大森病院, <sup>11)</sup>東京女子医科大学病院, <sup>12)</sup>東邦大学医学部付属大橋病院, <sup>13)</sup>東京都老人医療センター, <sup>14)</sup>立正佼成会附属佼成病院, <sup>15)</sup>三井記念病院, <sup>16)</sup>聖路加国際病院, <sup>17)</sup>昭和大学医学部付属病院, <sup>18)</sup>順天堂大学医学部付属順天堂医院, <sup>19)</sup>東京女子医科大学附属日本心臓血圧研究所, <sup>20)</sup>東京都医師会, <sup>21)</sup>榊原記念病院) : 東京都 CCU ネットワークの活動状況報告と心臓救急医療制度のあり方。 *Therapeutic Research* 1996 ; 17(8) : 3147-3153.
- 8) 河住 茂<sup>1)</sup>, 名知仁子<sup>2)</sup>, 三田村宏<sup>3)</sup>, 村中正治<sup>3)</sup>, 加藤貴雄<sup>4)</sup>, 高野照夫 ( <sup>1)</sup>河住内科循環器科, <sup>2)</sup>三菱重工大倉山病院, <sup>3)</sup>湯河原厚生年金病院内科, <sup>4)</sup>内科第一) : 高齢者 (76歳) Fallot 四徴症の病態と長期生存要因の考察。 *心臓* 1996 ; 28(10) : 802-807.
- 9) 高野照夫, 河合忠一<sup>1)</sup>, 飯塚昌彦<sup>2)</sup>, 細田磋一<sup>3)</sup>, 篠山重威<sup>4)</sup>, 久萬田俊明<sup>5)</sup>, 井上通敏<sup>6)</sup>, 児玉和久<sup>7)</sup> ( <sup>1)</sup>京都大学医学部第三内科, <sup>2)</sup>獨協医科大学第一内科, <sup>3)</sup>東京女子医科大学附属日本心臓血圧研究所循環器内科, <sup>4)</sup>富山医科薬科大学医学部第二内科, <sup>5)</sup>京都大学医学部第三内科, <sup>6)</sup>大阪大学医学部医療情報部, <sup>7)</sup>大阪警察病院) : 急性心不全および慢性心不全の急性増悪期に対する強心薬注射剤トポリノンの臨床効果と薬物動態の検討—単回静脈内投与, 8時間持続静脈内投与および単回静脈内投与に引き続く持続静脈内投与の3試験結果報告—。 *薬理と治療* 1996 ; 24(11) : 2419-2434.
- 10) 高野照夫, 河合忠一<sup>1)</sup>, 飯塚昌彦<sup>2)</sup>, 細田磋一<sup>3)</sup>, 篠山重威<sup>4)</sup>, 久萬田俊明<sup>4)</sup>, 井上通敏<sup>5)</sup>, 児玉和久<sup>6)</sup>, 中島光好<sup>7)</sup> ( <sup>1)</sup>京都大学医学部第三内科, <sup>2)</sup>獨協医科大学第一内科, <sup>3)</sup>東京女子医科大学附属日本心臓血圧研究所循環器内科, <sup>4)</sup>京都大学医学部第三内科, <sup>5)</sup>大阪大学医学部医療情報部, <sup>6)</sup>大阪警察病院循環器科, <sup>7)</sup>浜松医科大学薬理学教室) : 急性心不全に対する強心薬トポリノン (注射剤) の臨床的有用性の検討—アムリノンを対照とした多施設共同二重盲検比較試験 (第 III 相)。 *医学のあゆみ* 1997 ; 180(6) : 409-427.
- 11) 木全心一<sup>1)</sup>, 細田磋一<sup>2)</sup>, 田村光司<sup>2)</sup>, 平盛勝彦<sup>3)</sup>, 南野隆三<sup>4)</sup>, 高野照夫, 柴田淳一<sup>5)</sup>, 早崎和也<sup>6)</sup>, 高橋早苗<sup>7)</sup>, 小松行雄<sup>8)</sup>, 戸嶋裕徳<sup>9)</sup>, 柳沼淑夫<sup>10)</sup>, 中村元臣<sup>11)</sup> ( <sup>1)</sup>東京女子医科大学附属青山病院, <sup>2)</sup>東京女子医科大学附属日本心臓血圧研究所, <sup>3)</sup>国立循環器病センター, <sup>4)</sup>桜橋渡辺病院, <sup>5)</sup>旭川市民病院, <sup>6)</sup>済生会熊本病院, <sup>7)</sup>立正佼成会附属佼成病院, <sup>8)</sup>仙台循環器病センター, <sup>9)</sup>久留米大学, <sup>10)</sup>自治医科大学, <sup>11)</sup>九州大学) : 虚血性心疾患の危険因子, 心筋梗塞患者の 2, 653例の追跡調査中に発症した再梗塞とその危険因子の検討。 *心臓* 1997 ; 29(2) : 111-119.
- 12) 神原啓文, 河合忠一, 細野清士, 新谷博一, 梶原長雄, 栗田 明, 高野照夫, 内田康美, 山口 洋, 木全心全意, 片桐 敬, 山口 徹, 矢部喜正, 上松瀬勝男, 茅野真男, 加藤和三, 相澤忠範, 井上 清, 本宮武司, 半田俊之介, 阿部博幸, 西村重敬, 関口守衛, 滝澤明憲, 高橋正明, 篠山重威, 藤田正俊, 香取 瞭, 石川鉄司, 南野隆三, 児玉和久, 土師一夫, 鏝 寛之, 光藤和明, 佐藤 光, 延吉正清, 泰江弘文 : 急性心筋梗塞に関する治療法についての第 2 次アンケート調査。 *医学と薬学* 1997 ; 37(2) : 286-293.

(2) 綜説：

- 1) 子島 潤, 鈴木郁代<sup>1)</sup>, 高木 元<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科第一)：心不全の集中治療—病態把握から治療薬の評価まで—；新強心薬による急性心不全の集中治療。集中治療 1996；8(5)：545-553.
- 2) 野村敦宣<sup>1)</sup>, 高野照夫(<sup>1)</sup>内科第一)：救急処置：特集(冠動脈疾患の治療と諸問題—急性心筋梗塞の治療の実際)。臨床と研究 1996；73(9)：1994-1997.
- 3) 高野照夫：急性心不全治療薬：ミルリノン。カレントセラピー 1996；14(11)：2052-2055.
- 4) 高山守正：実地医家のための心肺蘇生術の知識：心肺蘇生実施の基本事項。循環科学 1996；16(10)：974-978.
- 5) 高野照夫：静注用強心薬からの離脱とその後の治療管理。循環専門医誌 1996；4(2)：56-59.
- 6) 高山守正：実地医家のための心肺蘇生術の知識：二次救命処置と突然死の原因への考察。循環科学 1996；16(11)：1080-1085.
- 7) 高山守正：実地医家のための心肺蘇生術の知識：心肺蘇生から社会復帰へ。循環科学 1996；16(12)：1180-1182.
- 8) 島井新一郎, 高野照夫：代謝性腎症候群。日本臨床 1996；15：469-471.
- 9) 高山守正, 高野照夫：海外における prospective clinical study の取り組み方：立案から成績の社会還元まで。冠疾患誌 1996；2：49-52.
- 10) 高野照夫, 今泉孝敬, 田寺 長, 竹田晋浩, 子島 潤, 高山守正：急性期心不全の治療指針。Medical Practice 1996；13(7)：1099-1105.
- 11) 笠神康平<sup>1)</sup>, 田中啓治<sup>1)</sup>, 丸山光紀<sup>1)</sup>, 田中 隆<sup>1)</sup>, 高野照夫, 高田加寿子<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>千葉北総病院集中治療部, <sup>2)</sup>下谷病院内科)：うっ血性心不全におけるヒト心房性ナトリウム利尿ペプチドの動態とカルペリチドの適応。ICU とCCU 1996；20(9)：
- 12) 高野照夫：high risk 妊娠：分娩と集中治療。ICU とCCU 1996；20(2)：353.
- 13) 関戸司久, 高野照夫：救急救命士活動が急性心筋梗塞の予後に与える影響と prehospital thrombolysis の功罪。救急医学 1997；21：57-63.
- 14) 宮内靖史, 高野照夫：虚血性心疾患の病態と予防：胸痛症候群。Modern Physician, 1997；17(1)：7-10.
- 15) 高野照夫, 木内 要, 青木 聡, 子島 潤：心不全治療の基本方針：急性心不全治療の進歩。内科 1996；79(1)：34-38.
- 16) 高山守正：動脈硬化と急性疾患：2. 急性心筋梗塞。症例から学ぶ臨床検査のポイント 1997；118-119.
- 17) 北山浩気<sup>1)</sup>, 木内 要, 高野照夫(<sup>1)</sup>内科第一)：急性心不全の治療の変遷と今後の展望。臨床医 1997；23(3)：304-306.
- 18) 高野照夫：急性心不全治療剤, ミルリノン。新しい治療薬のポイント 1997；6：25-27.
- 19) 高野照夫：あなたのお薬について, ミルリーラ注射液10mg。新しい治療のポイント 1997；6：37.
- 20) 高野照夫, 大林完二<sup>1)</sup>, 斎藤 徹<sup>2)</sup>, 長尾 建<sup>3)</sup> (<sup>1)</sup>大林内科医院院長, <sup>2)</sup>東邦大学医学部附属大森病院, <sup>3)</sup>日本大学医学部附属駿河台病院)：循環器疾患救急の診断と治療の know-how。循環科学 1996；16(4)：354-367.
- 21) 高野照夫：急性心筋梗塞の合併症とその対策—心不全, ショッカー。カンレト内科, 5 虚血性心疾患, 1996；168-172.
- 22) 富田喜文<sup>1)</sup>, 高野照夫 (<sup>1)</sup>内科第一)：強心薬による心不全治療の臨床経験, カテコラミンの功罪。強心薬—現状と将来への展望—, 1996；141-146.
- 23) 青木 聡, 島井新一郎, 高野照夫：合併症を伴う心不全の管理と治療, 腎機能障害。medicina 1996；33(5)：965-967.
- 24) 富田喜文<sup>1)</sup>, 高野照夫 (<sup>1)</sup>内科第一)：血管造影, 心疾患。総合臨床 1996；45：1146-1154.
- 25) 清野精彦<sup>1)</sup>, 富田喜文<sup>1)</sup>, 星野公彦<sup>1)</sup>, 子島 潤, 高野照夫, 説田浩一<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>内科第一, <sup>2)</sup>海老名総合病院循環器センター)：心筋構造蛋白の臨床検査, トロポニン T。臨床検査 1996；40(5)：559-564.

- 26) 子島 潤：急性心不全。臨床医 1997；23(3)：377-379。
- 27) 高山守正，南都伸介<sup>1)</sup> (<sup>1</sup>関西労災病院循環器内科)：血栓溶解療法と心筋梗塞の機械的合併症；シンポジウムの主旨。医学と薬学 1997；37：294-295。
- 28) 酒井俊太，高野照夫：胸痛時心電図診断のポイント。救急医学 1996；20：525-533。

## 学会発表

### (1) 教育講演：

- 1) 高野照夫：静注用強心薬からの離脱とその後の治療・管理。第61回日本循環器学会学術集会，1997。3。

### (2) 一般講演：

- 1) Kitayama H, Kiuchi K, Kobayashi Y, Honma H, Nejima J, Endo T, Takano T, Hayakawa H: The potential role for cardiac ultrafast computed tomography for detecting right atrial thrombi in patients with atrial fibrillation. 69th Scientific Session of American Heart Association (New Orleans), 1996.
- 2) Sakai s, Takayama M, Imaizumi T, Aoki S, Nejima J, Yomita Y, Kusama Y, Munakata K, Takano T, Hayakawa H: Favorable progress on coronary stentimplantation as an early treatment in patients with acute myocardial infarction. 69th Scientific Session of American Heart Association (New Orleans), 1996.
- 3) Terajima K, Kim C, Nakanishi K, Takeda S, Takano T, Miyashita M, Sasajima K, Onda M, Ogawa R: The effect of methylprednisolone on cytokine in the bronchoalveolar lavage fluid after esophageal operation. Fourth International Congress on the Immune Consequences of Trauma (Germany), 1997。3。
- 4) 酒井俊太，青木 聡，今泉孝敬，高山守正，山根吉人<sup>1)</sup>，丸山光紀<sup>1)</sup>，清宮康嗣<sup>1)</sup>，小谷英太郎<sup>1)</sup>，関戸司久<sup>1)</sup>，星野公彦<sup>1)</sup>，安武正弘<sup>1)</sup>，雪吹周生<sup>1)</sup>，富田喜文<sup>1)</sup>，草間芳樹<sup>1)</sup>，宗像一雄<sup>1)</sup>，岸田 浩<sup>1)</sup>，高野照夫，早川弘一<sup>1)</sup>，別所竜蔵<sup>2)</sup>，落 雅美<sup>2)</sup>，田中茂夫<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>内科第一，<sup>2)</sup>胸部外科)：施行中に左主幹部の合併症を生じたステント留置を含む左前下行枝近位部へのPTCAの2例。第8回日本心血管インターベンション学会関東甲信越地方会，1996。4。
- 5) 本間 博<sup>1)</sup>，草間芳樹<sup>1)</sup>，酒井俊太，宗像一雄<sup>1)</sup>，岸田 浩<sup>1)</sup>，荒牧琢己<sup>1)</sup>，早川弘一<sup>1)</sup>，今泉孝敬，子島 潤，高山守正，高野照夫 (<sup>1)</sup>内科第一)：心臓以外の手術を受ける高齢者の術前評価—ドプタミン負荷心エコー方を用いて—。第93回内科学会，1997。3。
- 6) 高山守正：多摩地区の循環器救急医療の現状と問題点，および今後の展望；東京都多摩地区における急性心筋梗塞の入院状況。第4回多摩地区虚血性心疾患研究会，1996。6。
- 7) 篠澤 功，子島 潤，高山守正，青木 聡，酒井俊太，中西一浩，竹田晋浩，今泉孝敬，高野照夫：慢性骨髄性白血病に対するインターフェロン療法中に発症した急性心筋梗塞の2例。第160回日本循環器学会関東甲信越地方会，1996。6。
- 8) 関戸司久，草間芳樹<sup>1)</sup>，酒井俊太，安武正弘<sup>1)</sup>，今泉孝敬，雪吹周生<sup>1)</sup>，富田喜文<sup>1)</sup>，高山守正，宗像一雄<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>内科第一)：ドプタミン負荷心エコー図法を用いたPTCA後遠隔期の壁運動改善度予測。第5回日本心血管インターベンション学会学術集会，1996。6。
- 9) 山本 剛<sup>1)</sup>，高山守正，青木 聡，酒井俊太，安武正弘<sup>1)</sup>，雪吹周生<sup>1)</sup>，今泉孝敬，富田喜文<sup>1)</sup>，草間芳樹<sup>1)</sup>，宗像一雄<sup>1)</sup>，高野照夫，早川弘一<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>内科第一)：冠再灌流療法後の残存病変へのUK持続静注の有用性について：QCAによる検討。第5回日本心血管インターベンション学会学術集会，1996。6。
- 10) 雪吹周生<sup>1)</sup>，酒井俊太，清宮康嗣<sup>1)</sup>，高山守正，草間芳樹<sup>1)</sup>，富田喜文<sup>1)</sup>，今泉孝敬，宗像一雄<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>内科第一)：Cutting Balloonを用いたPTCAの初期成績。第5回日本心血管インターベンション学会学術集会，1996。6。
- 11) 酒井俊太，掃部弘行<sup>1)</sup>，小林義典<sup>1)</sup>，李 武志<sup>2)</sup>，雪吹周生<sup>1)</sup>，青木 聡，今泉孝敬，草間芳樹<sup>1)</sup>，高山守正，宗像一雄<sup>1)</sup>，早川弘一<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>内科第一，<sup>2)</sup>八潮循環器病院)：Cutting Balloonにおける冠動脈解離の規定因子に関する検討。第5回日本心血管インターベンション学会学術集会，1996。6。

- 12) 今泉孝敬, 高山守正, 酒井俊太, 青木 聡, 関戸司久, 高野仁司<sup>1)</sup>, 星野公彦<sup>1)</sup>, 安武正弘<sup>1)</sup>, 雪吹周生<sup>1)</sup>, 富田喜文<sup>1)</sup>, 草間芳樹<sup>1)</sup>, 宗像一雄<sup>1)</sup>, 高野照夫, 早川弘一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科第一): 急性心筋梗塞に対する冠動脈内ステント治療における血栓溶解薬併用の有用性. 第5回日本心血管インターベンション学会学術集会, 1996. 6.
- 13) 宮崎裕代, 木村清美, 吉沢綾子, 坂内元美, 高柳桃子, 太田久子, 青木 聡, 高山守正, 高野照夫: CCUにおける観血的動脈圧ライン留置例の看護の検討. 第5回日本心血管インターベンション学会学術集会, 1996. 6.
- 14) 高野照夫, 高山守正: 急性冠症候群の発症状況の検討と心臓突然死予防対策. 第16回心筋梗塞研究会, 1996. 7.
- 15) 高野照夫: 心不全治療の新展開とその実際. Refresher Course Lecture'96, 1996. 7.
- 16) 丸山光紀<sup>1)</sup>, 子島 潤, 木内 要, 高山守正, 高野照夫, 早川弘一<sup>1)</sup>, 田中啓治<sup>2)</sup>, 高木 元<sup>1)</sup>, 小海信一<sup>1)</sup>, 笠井源吾<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>内科第一, <sup>2)</sup>千葉北総病院集中治療部, <sup>3)</sup>波崎済生病院): 急性心不全におけるhANP投与からの離脱状況. HANP研究会, 1996.
- 17) 高野照夫, 高山守正: 病院にたどり着かずに死亡する心筋梗塞. 心筋梗塞研究会, 1996. 7.
- 18) 高津圭介, 酒井俊太, 松本 真<sup>1)</sup>, 宮内靖史, 富田喜文<sup>1)</sup>, 子島 潤, 高山守正, 高野照夫, 岸田 浩<sup>1)</sup>, 早川弘一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科第一): 虚血性心疾患とpartial atrial standstillを合併した高齢エプスタイン奇形の1例. 第161回日本循環器学会関東甲信越地方会, 1996. 9.
- 19) 高山守正: Cutting balloon使用に関する本音の部分, Cutting balloonによるPTCAの現況; より良い成績への工夫と検討. 第5回多摩地区虚血性心疾患研究会, 1996. 10.
- 20) 木内 要: 再灌流心筋における局所心機能と $\beta$ -adrenergic signal transduction. 第13回心機能研究会, 1996.
- 21) 清宮康嗣<sup>1)</sup>, 説田浩一<sup>1)</sup>, 小川 剛<sup>1)</sup>, 緒方憲一<sup>1)</sup>, 内田高浩<sup>1)</sup>, 高山守正(<sup>1)</sup>内科第一): 正常冠動脈で運動負荷試験陽性を示した症例の検討. 第15回合同医学集談会, 1996. 9.
- 22) 丸山光紀<sup>1)</sup>, 子島 潤, 木内 要, 高山守正, 高野照夫, 早川弘一<sup>1)</sup>, 田中啓治<sup>2)</sup>, 高木 元<sup>1)</sup>, 小海信一<sup>1)</sup>, 笠井源吾<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科第一, <sup>2)</sup>千葉北総病院集中治療部): 急性心不全におけるhANP投与からの離脱状況. 第1回ANP臨床研究会, 1996.
- 23) 太田眞夫<sup>1)</sup>, 杉木雄治<sup>1)</sup>, 高野照夫, 大竹 稔<sup>1)</sup>, 荒牧拓己<sup>1)</sup>, 早川弘一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科第一): 糖尿病におけるlate potentialの検出と心室頻拍の発生頻度一特に心筋梗塞との関連について一. 第13回日本心電学会学術集会, 1996. 10.
- 24) 小原啓子<sup>1)</sup>, 後藤正道<sup>1)</sup>, 田寺 長<sup>1)</sup>, 木内 要, 井野 威<sup>1)</sup>, 長澤紘一<sup>1)</sup>, 早川弘一<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院内科, <sup>2)</sup>内科第一): Short-long-short ventricular sequenceの検討. 第13回日本心電学会, 1996. 10.
- 25) 中西一浩, 竹田晋浩<sup>1)</sup>, 金 徹<sup>1)</sup>, 坂本篤裕<sup>1)</sup>, 子島 潤, 高山守正, 高野照夫, 小川 龍<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>麻酔科): CABGにおけるウリナスタチンのサイトカイン, 顆粒球エラストラーゼ, 臓器機能に与える影響. 第16回日本臨床麻酔学会総会, 1996. 10.
- 26) 木内 要, 北山浩気<sup>1)</sup>, 小林義典<sup>1)</sup>, 本間 博<sup>1)</sup>, 子島 潤, 高山守正, 遠藤孝雄<sup>1)</sup>, 高野照夫, 早川弘一<sup>1)</sup>, 塚本浩<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科第一): 高齢, 心房細動症例における心房血栓診断法としての超高速CTの有用性と血栓危険因子. 第33回日本臨床生理学会総会, 1996. 10.
- 27) 中西一浩, 竹田晋浩, 青木 聡, 山田研一, 酒井俊太, 木内 要, 今泉孝敬, 島井新一郎, 子島 潤, 高山守正, 高野照夫, 小川 龍<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>麻酔科): 呼吸不全に対する高頻度陰圧式人工呼吸の効果. 第33回日本臨床生理学会総会, 1996. 10.
- 28) 清野精彦<sup>1)</sup>, 大林完二<sup>2)</sup>, 子島 潤, 高山守正, 高野照夫(<sup>1)</sup>内科第一, <sup>2)</sup>大林医院): 心筋Troponin-T迅速判定法の有用性に関する検討 Tokyo TROP-T (4T): 実地医家との共同研究. 第44回日本心臓病学会学術集会, 1996. 10.
- 29) 酒井俊太, 高山守正, 今泉孝敬, 青木 聡, 子島 潤, 富田喜文<sup>1)</sup>, 草間芳樹<sup>1)</sup>, 宗像一雄<sup>1)</sup>, 高野照夫, 早川弘一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科第一): 急性心筋梗塞の急性期インターベンションにおけるステント埋込み術の有用性: バルーン形成術との比較. 第44回日本心臓病学会学術集会, 1996. 10.
- 30) 高山守正, 笠神康平<sup>1)</sup>, 青木 聡, 酒井俊太, 竹田晋浩, 中西一浩, 木内 要, 今泉孝敬, 子島 潤, 高野照夫

- (<sup>1</sup>内科第一)：高齢者の急性心筋梗塞に対する血栓溶解療法：TPA 少量投与法の安全性と有効性。第44回日本心臓病学会学術集会，1996. 10.
- 31) 朴 宏一<sup>1</sup>，子島 潤，高野照夫，高山守正，早川弘一<sup>1</sup>，佐々木建志<sup>2</sup>，保坂浩希<sup>3</sup>，杉本忠彦<sup>3</sup>，落 雅美<sup>3</sup>，田中茂夫<sup>3</sup>(<sup>1</sup>内科第一，<sup>2</sup>海老名総合病院，<sup>3</sup>胸部外科)：急性大動脈解離160例のタイプ別予後とその急性期予後の規定因子。第44回日本心臓病学会学術集会，1996. 10.
- 32) 高野照夫：多臓器疾患。第37回日本脈管学会総会，1996. 11.
- 33) 高野照夫，高山守正：急性冠症候群の発症状況の検討。第16回CCU研究会，1996. 11.
- 34) 青木 聡，小原俊彦<sup>1</sup>，石川 源，富田喜文<sup>1</sup>，高山守正，高野照夫，本江純子<sup>2</sup>，斎藤 穎<sup>2</sup>，上松瀬勝男<sup>2</sup>(<sup>1</sup>内科第一，<sup>2</sup>日本大学第二内科)：心肺蘇生法の成功によりプレホスピタルケアに多くを教示した1症例。第16回CCU研究会，1996. 11.
- 35) 岡松健太郎，木内 要，荏原弘光，篁 武郎，酒井俊太，島井新一郎，子島 潤，高山守正，遠藤孝雄<sup>1</sup>，加藤貴雄<sup>1</sup>，高野照夫，早川弘一<sup>1</sup>(<sup>1</sup>内科第一)：Salmonella enteritidis を起炎菌とする心膜炎による心タンポナーデの1例。第5回日本集中治療医学会関東甲信越地方会，1996. 12.
- 36) 及川恵子，木内 要，子島 潤，宮内靖史，酒井俊太，高山守正，高野照夫，石井健輔<sup>1</sup>，斎藤 勉<sup>1</sup>，加藤貴雄<sup>1</sup>，岸田 浩<sup>1</sup>，早川弘一<sup>1</sup>(<sup>1</sup>内科第一)：百日咳を起炎菌とする心筋炎の2例。第162回日本循環器学会関東甲信越地方会，1996. 12.
- 37) 酒井俊太，高山守正，今泉孝敬，青木 聡，関戸司久，高野照夫：心筋梗塞急性期におけるステント治療の有用性。第8回日本医科大学第二外科研究会，1996. 12.
- 38) 酒井俊太，高山守正，今泉孝敬，青木 聡，関戸司久，高野照夫：心筋梗塞急性期の冠動脈内視鏡像にて白色血栓優位であった2症例。第4回心血管内イメージング研究会，1996. 12.
- 39) 佐藤直樹<sup>1</sup>，遠藤孝雄<sup>1</sup>，木内 要，子島 潤，早川弘一<sup>1</sup>，Vatner SF Vatner DE (<sup>1</sup>内科第一)： $\beta$ -アドレナリン受容体系刺激薬の意識下雑種犬慣性心不全モデルにおける効果の比較—新しいカルシウムチャンネル刺激薬の効果も含めて—。第13回心不全研究会，1997.
- 40) 木内 要：冠動脈閉塞時間がヒト心筋梗塞サイズと左心機能に及ぼす影響。第14回心機能研究会，1997.
- 41) 関戸司久，高山守正，長戸孝道<sup>1</sup>，中山一隆，青木 聡，宮内靖史，酒井俊太，木内 要，今泉孝敬，子島 潤，草間芳樹<sup>1</sup>，宗像一雄<sup>1</sup>，岸田 浩<sup>1</sup>，高野照夫(<sup>1</sup>内科第一)：筋性左室憩室に合併した急性心筋梗塞の1例。第80回日本シネアンジオ研究会，1997.
- 42) 高木啓倫，木内 要，子島 潤，宮内靖史，酒井俊太，高山守正，高野照夫，岸田 浩<sup>1</sup>，早川弘一<sup>1</sup>，澤倫太郎<sup>2</sup>，荒木 勤<sup>2</sup>(<sup>1</sup>内科第一，<sup>2</sup>産婦人科)：妊娠に合併した重症心筋炎の1例。第163回日本循環器学会関東甲信越地方会，1997.
- 43) 栗山秀樹<sup>1</sup>，三浦 敦<sup>1</sup>，鈴木俊治<sup>1</sup>，澤倫太郎<sup>1</sup>，米山芳雄<sup>1</sup>，進 純郎<sup>1</sup>，荒木 勤<sup>1</sup>，伊月葉子，志賀俊哉，木内 要，高野照夫(<sup>1</sup>産婦人科)：重症妊娠悪阻に心筋炎を合併した双胎妊娠の1例。日本医科大学医学会第91回例会，1997.
- 44) 栗山秀樹，澤倫太郎<sup>1</sup>，米山芳雄<sup>1</sup>，鈴木俊治<sup>1</sup>，三浦 敦<sup>1</sup>，進 純郎<sup>1</sup>，荒木 勤<sup>1</sup>，伊月葉子，志賀俊哉，木内 要，高野照夫(<sup>1</sup>産婦人科)：重症妊娠悪阻に心筋炎を合併した1例。第10回東京産婦人科医会・日産婦東京地方部会合同研修会並びに第301回日産婦東京地方部会例会，1997.
- 45) 関戸司久，高山守正，酒井俊太，青木 聡，今泉孝敬，高野仁司<sup>1</sup>，桜井 薫<sup>1</sup>，上村竜太，富田喜文<sup>1</sup>，草間芳樹<sup>1</sup>，宗像一雄<sup>1</sup>，高野照夫(<sup>1</sup>内科第一)：冠動脈バイパスグラフト狭窄に対し cutting balloon angioplasty が有効であった3例。インターベンション学会ウインターミーティング，1997.
- 46) 関戸司久，高山守正，長戸孝道<sup>1</sup>，中山一隆，青木 聡，宮内靖史，酒井俊太，木内 要，今泉孝敬，子島 潤，草間芳樹<sup>1</sup>，宗像一雄<sup>1</sup>，岸田 浩<sup>1</sup>，高野照夫(<sup>1</sup>内科第一)：筋性左室憩室に合併した急性心筋梗塞の1例。シネアンジオ研究会，1997.



- 47) 酒井俊太, 高山守正, 雪吹周生<sup>1)</sup>, 青木 聡, 関戸司久, 今泉孝敬, 上村竜太<sup>1)</sup>, 高野仁司<sup>1)</sup>, 星野公彦<sup>1)</sup>, 安武正弘<sup>1)</sup>, 富田喜文<sup>1)</sup>, 草間芳樹<sup>1)</sup>, 宗像一雄<sup>1)</sup>, 高野照夫, 岸田 浩<sup>1)</sup>, 早川弘一<sup>1)</sup>, 淵本晃司<sup>2)</sup>, 李 武志<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>内科第一, <sup>2)</sup>八潮循環器病院): Cutting Balloon 単回拡張による冠離脱発現の規定因子に関する検討. 第61回日本循環器学会学術集会, 1997. 3.
- 48) 関戸司久, 岸田 浩<sup>1)</sup>, 福間長知<sup>1)</sup>, 本間 博<sup>1)</sup>, 富田喜文<sup>1)</sup>, 草間芳樹<sup>1)</sup>, 高山守正, 宗像一雄<sup>1)</sup>, 早川弘一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科第一): ドプタミン負荷心エコー図法 (DSE) による心筋虚血カスケードおよび super silent ischemia の検討. 第61回日本循環器学会学術集会, 1997. 3.
- 49) 柏木睦美<sup>1)</sup>, 清野精彦<sup>1)</sup>, 国見聡宏<sup>1)</sup>, 塚本 浩<sup>1)</sup>, 岸田 浩<sup>1)</sup>, 早川弘一<sup>1)</sup>, 高野照夫, 滝田孝之<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>内科第一, <sup>2)</sup>三菱重工横浜健康管理室): 冠動脈疾患に合併する下肢および頸動脈狭窄症の長期予後規定因子としての重要性. 第61回日本循環器学会学術集会, 1997. 3.
- 50) 坪 宏一<sup>1)</sup>, 子島 潤, 高山守正, 今泉孝敬, 高野照夫, 早川弘一<sup>1)</sup>, 佐々木健志<sup>2)</sup>, 落 雅美<sup>2)</sup>, 田中茂夫<sup>2)</sup>, 田中啓治<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>内科第一, <sup>2)</sup>胸部外科, <sup>3)</sup>千葉北総病院集中治療部): Stanford B 型急性大動脈解離において持続する解離腔開存例の自然経過と治療方針. 第61回日本循環器学会学術集会, 1997. 3.
- 51) 清野精彦<sup>1)</sup>, 子島 潤, 高山守正, 高野照夫, 大林完二<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>内科第一, <sup>2)</sup>Tokyo Trop-T Trial (4 T) 研究会代表): 心筋 Troponin T 迅速判定法による急性心筋梗塞, 重症不安定狭心症の診断と短・中期予後の分析-Tokyo Trop-T Trial (4 T)-. 第61回日本循環器学会学術集会, 1997. 3.
- 52) 子島 潤, 浅井邦也<sup>1)</sup>, 高野照夫, 酒井俊太, 青木 聡, 木内 要, 関戸司久, 宮内靖史, 今泉孝敬, 高山守正, 早川弘一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科第一): 冠疾患急性期における内因性エストラジオールと心行動態の関係. 第61回日本循環器学会学術集会, 1997. 3.
- 53) 星野公彦<sup>1)</sup>, 草間芳樹<sup>1)</sup>, 本間 博<sup>1)</sup>, 富田喜文<sup>1)</sup>, 佐野純子<sup>1)</sup>, 宗像一雄<sup>1)</sup>, 岸田 浩<sup>1)</sup>, 酒井俊太, 高山守正, 高野照夫, 汲田伸一郎<sup>2)</sup>, 隈崎達夫<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>内科第一, <sup>2)</sup>放射線科): 心筋梗塞領域での201TlCl123I-BMIPP の mismatch は心事故, 壁運動変化を予知する一初回心筋梗塞左前下行枝 1 枝病変例での検討. 第61回日本循環器学会学術集会, 1997. 3.
- 54) 水野杏一, 高山守正, 桜田真己, 勝木孝明, 永井知雄, 李 武志, 宮本 明, 里村公生, 大國眞一, 草間芳樹, 田中邦夫: Cutting Balloon の多施設共同試験-Multi institutional Cutting Balloon Angioplasty (MICBA Study) の初期成績. 第61回日本循環器学会学術集会, 1997. 3.
- 55) 説田浩一<sup>1)</sup>, 清宮康嗣<sup>1)</sup>, 小川 剛<sup>1)</sup>, 佐々木健志<sup>2)</sup>, 原田 厚<sup>2)</sup>, 清野精彦<sup>3)</sup>, 富田喜文<sup>3)</sup>, 高野照夫, 高橋直人<sup>3)</sup>, 岸田 浩<sup>3)</sup>, 早川弘一<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>博慈会記念総合病院循環器科, <sup>2)</sup>海老名総合病院循環器センター, <sup>3)</sup>内科第一): 慢性心不全症例における第二世代心筋 Troponin T (TnT) 測定値上昇と短・中期予後との関連について. 第61回日本循環器学会学術集会, 1997. 3.
- 56) 酒井俊太, 高山守正, 今泉孝敬, 青木 聡, 関戸司久, 宮内靖史, 木内 要, 高野仁司<sup>1)</sup>, 安武正弘<sup>1)</sup>, 富田喜文<sup>1)</sup>, 子島 潤, 草間芳樹<sup>1)</sup>, 宗像一雄<sup>1)</sup>, 高野照夫, 岸田 浩<sup>1)</sup>, 早川弘一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科第一): 急性心筋梗塞に対するステント治療の有用性と問題点. 第61回日本循環器学会学術集会, 1997. 3.
- 57) 田中啓治<sup>1)</sup>, 坪 宏一<sup>1)</sup>, 中村俊彦<sup>1)</sup>, 星野公彦<sup>1)</sup>, 田中 隆<sup>1)</sup>, 子島 潤, 高野照夫(<sup>1)</sup>千葉北総病院集中治療部): 高齢者における解離性大動脈瘤の特徴とその対策. 第61回日本循環器学会学術集会, 1997. 3.
- 58) 木内 要, 子島 潤, 高山守正, 遠藤孝雄<sup>1)</sup>, 高野照夫, 早川弘一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科第一): 冠動脈閉塞時間がヒト心筋梗塞サイズと左心機能に及ぼす影響. 第61回日本循環器学会学術集会, 1997. 3.
- 59) 宮内靖史, 子島 潤, 木内 要, 青木 聡, 関戸司久, 酒井俊太, 今泉孝敬, 高山守正, 加藤貴雄<sup>1)</sup>, 高野照夫, 早川弘一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科第一): 積極的再灌流療法が急性心筋梗塞に伴う心室頻拍発生に及ぼす効果. 第61回日本循環器学会学術集会, 1997. 3.
- 60) 櫛方美文<sup>1)</sup>, 清野精彦<sup>1)</sup>, 島井新一郎<sup>1)</sup>, 岸田 浩<sup>1)</sup>, 早川弘一<sup>1)</sup>, 高野照夫, 熊谷和浩<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>内科第一, <sup>2)</sup>福生病院内科): 慢性腎透析症例における第 II 世代心筋 Troponin T 検出の臨床的意義. 第61回日本循環器学会学術集

会, 1997. 3.

## [付属病院病理部]

### 研究概要

昨年、「病理部を核とした研究体制作りにも努力したい」と書いたが、第一病院との統廃合・感染対策など結果の伴わない日常業務の増加も加わって、研究体制作りは残念ながら遅れている。病理部にとって人体材料は宝の山と言うべきものであり、研究対象にしたいと思う組織が顕微鏡の向こう側に無数に転がっているのが、日常の診断業務の中に見える。しかし、残念ながら病理学教室・臨床各科との共同研究にまで発展する case はまだまだ限られており、病理部が単なる材料の提供機関に止まっていることが殆どである。

限られた人員（付属病院病理部の医師定員は2名、検査技師8人）では時間内に診断業務を消化するのにも困難な状況にあるが、このような環境下でも自主学习を契機として学会報告出来たことは、病理診断学を通じて医学研究を志す仲間を増やす意味で若干の希望を抱かせる。

研究テーマは例年の通りであるが、

腎臓に関しては、動物実験を含めた基礎的研究を病理学教室等の研究体制の中に加わることで継続しているが、今後も継続・発展させていきたい。

また、心血管系に関しても、病理学教室・米国 NIH との共同研究が継続中であるが、今後とも継続・発展させていく予定である。

技師を中心とした細胞診については症例報告のみであったが、今後は、第一病院との統廃合に伴う体制の改革を機に、より纏まった研究に発展させていけるようにしたいと考えている。

近年は、apoptosis, oncogene, proteinase 活性等の絡んだ生態の動態を解明するための、ハードをも含めた種類の tool が使えるようになってきている。例年の研究の流れの他に、造血管・皮膚等の病態に関しても何らかの研究の成果が得られるよう活動を開始したい。関心のある研究者の参加を期待する。

### 研究業績

#### 論文

[1995年度追加分]

原著：

- 1) 橋本綱子<sup>1)</sup>, 青木見佳子<sup>1)</sup>, 畑三恵子<sup>1)</sup>, 矢島 純<sup>1)</sup>, 本田光芳<sup>1)</sup>, 佐藤丞子<sup>1)</sup>, 早川弘一<sup>2)</sup>, 古川清憲<sup>3)</sup>, 恩田昌彦<sup>3)</sup>, 杉崎祐一 ( <sup>1)</sup>皮膚科, <sup>2)</sup>内科学第1, <sup>3)</sup>外科学第1 ) : 結腸癌に合併した皮膚筋炎の1例. 皮膚臨床 1995 ; 37 : 2013-2017.

(1) 原著：

- 1) Shimizu A<sup>1)</sup>, Masuda Y<sup>1)</sup>, Kitamura H<sup>1)</sup>, Ishizaki M<sup>1)</sup>, Sugisaki Y, Yamanaka N<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>病理学第一 ) : Apoptosis in progressive crescentic glomerulonephritis. 1996 ; 74 : 941-951.
- 2) Asano T<sup>1)</sup>, Fukuda Y<sup>2)</sup>, Katsube Y<sup>1)</sup>, Fukunaga Y<sup>1)</sup>, Yamamoto M<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>小児科, <sup>2)</sup>病理学第一 ) : Infantile acute monocytic leukemia with tumor formation expressing adhesion molecules. Leuk lymph 1996 ; 23 : 173-179.
- 3) 小川真紀<sup>1)</sup>, 杉崎祐一 ( <sup>1)</sup>東京警察病院病理部 ) : 上顎洞から頬部皮下・鼻腔におよぶ腫瘤状病変の1例. 病院病理 1996 ; 14 : 62
- 4) 松原美幸, 川本雅司, 田村浩一, 渡会泰彦, 前田昭太郎, 杉崎祐一 : 外陰部 Sebaceous carcinoma の1例. 日臨細胞会誌 1997 ; 36 : 25-29.
- 5) 王 若 皎, 内藤善哉, 浅野伍朗, 田村浩一, 鈴木恒道, 小山善哉 : ウイルス性多発性筋炎が疑われた1剖検例.

腫瘍と感染 1997; 9: 15-20.

6) 田村浩一: Workshop on specialized cardiac pathology に出席して. 日医大誌 1996; 63: 75.

(2) 総説:

- 1) 松倉則夫<sup>1)</sup>, 恩田昌彦<sup>1)</sup>, 内藤善哉<sup>2)</sup>, 杉崎祐一<sup>(<sup>1)</sup>外科学第1, <sup>(2)</sup>病理学第2)</sup>: 後腹膜血管周皮細胞腫(腹膜後腹膜・腸管膜・大網・小網・横隔膜症候群—その他の関連疾患を含めて—). 日本臨床(別冊) 1996; 105-107.
- 2) 前田昭太郎<sup>1)</sup>, 杉崎祐一, 浅野伍朗<sup>(<sup>1)</sup>付属多摩永山病院病理部, <sup>(2)</sup>病理学第2)</sup>: 運動器—軟部組織の細胞診(特集: 細胞診—癌診療における寄与と問題点) 癌の臨床 1996; 42: 1050-1059.

## 学会発表

[1995年度追加分]

パネルディスカッション:

- 1) 前田昭太郎<sup>1)</sup>, 片山博徳<sup>1)</sup>, 渡辺 誠<sup>2)</sup>, 松原美幸, 渡会泰彦, 杉崎祐一, 角田 隆<sup>3)</sup>, 白井康正<sup>3)</sup>, 細根 勝<sup>4)</sup>, 浅野伍朗<sup>(<sup>1)</sup>多摩永山病院病理部, <sup>(2)</sup>同整形外科, <sup>(3)</sup>整形外科, <sup>(4)</sup>病理学第2)</sup>: 骨・軟骨部腫瘍における細胞診の意義—穿刺細胞診と生検の関係. 第28回日本整形外科学会/骨・軟部腫瘍学術集会, 1995. 7.

(1) 一般講演:

- 1) 田村浩一, Liddicoat JR, Jones M, Hanly FL, 杉崎祐一, Ferrans VJ: 羊肺動脈弁位に植込んだ, 凍結保存肺動脈弁および大動脈弁の Allograft と Xenograft についての病理組織学的比較検討. 第85回日本病理学会総会, 1996. 4.
- 2) 志村俊郎<sup>1)</sup>, 川本雅司<sup>2)</sup>, 寺本 明<sup>1)</sup>, 杉崎祐一, 高橋 弘<sup>1)</sup>, 野手洋治<sup>1)</sup>, 太組一朗<sup>1)</sup>, 吹野晃一<sup>(<sup>1)</sup>脳神経外科学教室, <sup>(2)</sup>病理学第1)</sup>: 頭蓋内原発悪性リンパ腫に於ける T 細胞の関与に関する免疫組織化学的検討. 第14回脳腫瘍病理研究会, 1996. 4.
- 3) 山下直行<sup>1)</sup>, 源 利成<sup>2)</sup>, 恩田昌彦<sup>1)</sup>, 田中宣威<sup>1)</sup>, 大島和彦<sup>3)</sup>, 落合淳志<sup>4)</sup>, 磨伊昌義<sup>2)</sup>, 森山雄吉<sup>1)</sup>, 京野昭二<sup>1)</sup>, 横井公良<sup>1)</sup>, 杉崎祐一, 江角浩安<sup>(<sup>1)</sup>外科学第, <sup>(2)</sup>金沢大学がん研究所外科, <sup>(3)</sup>国立がんセンター研究所, <sup>(4)</sup>同病理部)</sup>: Hereditary non-polyposis colorectal cancer (HNPCC) における大腸 aberrant crypt foci (ACF) の検討. 第82回日本消化器病学会, 1996. 4.
- 4) 松原美幸, 渡会泰彦, 永井洋子, 田村浩一, 杉崎祐一, 川本雅司<sup>1)</sup>, 前田昭太郎<sup>(<sup>1)</sup>病理学第1, <sup>(2)</sup>多摩永山病院病理部)</sup>: 外陰部 Sebaceous carcinoma の1例. 第37回日本臨床細胞学会総会, 1996. 5.
- 5) 神長ちふみ<sup>1)</sup>, 益田幸成<sup>1)</sup>, 北村博司<sup>1)</sup>, 室賀一宏<sup>1)</sup>, 石崎正通<sup>1)</sup>, 杉崎祐一, 山中宣昭<sup>(<sup>1)</sup>病理学第1)</sup>: Thy 1 腎炎における Lypopolysaccharide 投与の影響. 第39回日本腎臓病学会総会, 1996. 5.
- 6) 益田幸成<sup>1)</sup>, 北村博司<sup>1)</sup>, 室賀一宏<sup>1)</sup>, 神長ちふみ<sup>1)</sup>, 石崎正通<sup>1)</sup>, 杉崎祐一, 山中宣昭<sup>(<sup>1)</sup>病理学第1)</sup>: Thy 1 腎炎における好中球浸潤の検討. 第39回日本腎臓病学会総会, 1996. 5.
- 7) Tamura K, Horiba K, Fukuda Y, Usuki J, Stetler-Stevenson WG, Liotta LA, Yamanaka N, Ferrans VJ: Expression of matrix metalloproteinases (MMPs) and their tissue inhibitors (TIMPs) in floppy mitral valves (FMV). 第28回日本結合組織学会学術大会, 1996. 6.
- 8) 山内仁紫, 二宮淳一, 井村 肇, 石井庸介, 藤井正大, 檜山和弘, 佐藤泰雄, 田中茂夫, 上砂光裕, 小川俊一, 山本正生, 田村浩一: 小児期発症 Annulo-aortic ectasia 3手術例の病理所見と上行大動脈径の経年変化. 第32回日本小児循環器学会総会, 1996. 7.
- 9) 丸山晴久<sup>1)</sup>, 白井康正<sup>1)</sup>, 前田昭太郎<sup>2)</sup>, 角田 隆<sup>1)</sup>, 北側泰之<sup>1)</sup>, 杉崎祐一, 浅野伍朗<sup>(<sup>1)</sup>整形外科, <sup>(2)</sup>多摩永山病院病理部, <sup>(3)</sup>病理学第2)</sup>: 原発性骨腫瘍における Osteocalcin osteonectin, I型コラーゲンの局在について. 第29回日本整形外科学会 骨・軟骨腫瘍学術集会, 1997. 7.
- 10) 持丸 博<sup>1)</sup>, 福田 悠<sup>1)</sup>, 福島光浩<sup>1)</sup>, 杉崎祐一, 山中宣昭<sup>1)</sup>, 神尾孝一郎<sup>2)</sup>, 田中庸介<sup>2)</sup>, 谷口泰之<sup>2)</sup>, 村田 朗<sup>2)</sup>,

工藤翔二<sup>2)</sup>, 秋山弘博<sup>3)</sup>, 原口秀司<sup>3)</sup>, 小泉 潔<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第1, <sup>2)</sup>内科学第4, <sup>3)</sup>外科学第2): 腫瘍間質にIVコラーゲンを認めた肺の類上皮様血管内皮腫の1例. 第64回日本医科大学総会, 1969. 9.

- 11) 猪狩吉雅<sup>1)</sup>, 松村典明<sup>1)</sup>, 渡辺威之<sup>1)</sup>, 岡崎恭次<sup>1)</sup>, 網代由美子<sup>1)</sup>, 仲地紀勝<sup>1)</sup>, 佐藤周三<sup>1)</sup>, 笹井恵子<sup>1)</sup>, 中野博司<sup>1)</sup>, 大庭健三<sup>1)</sup>, 妻島昌平<sup>1)</sup>, 杉崎祐一(<sup>1)</sup>老人科): 老年者原発性胆汁性肝硬変(PBC)の2例. 第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 9.
- 12) 酒井直之<sup>1)</sup>, 田中佐知<sup>1)</sup>, 樋戸律子<sup>1)</sup>, 森嶋慶子<sup>1)</sup>, 田村浩一, 杉崎祐一(<sup>1)</sup>自主学生): 感染性心内膜炎—自己弁感染手術例の臨床病理学的検討. 第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 9.
- 13) 森嶋慶子<sup>1)</sup>, 樋戸律子<sup>1)</sup>, 田中佐知<sup>1)</sup>, 酒井直之<sup>1)</sup>, 田村浩一, 杉崎祐一(<sup>1)</sup>自主学生): 当院における最近4年間の卵巣腫瘍の傾向と術中迅速診断の問題点. 第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 9.
- 14) 浅川一恵, 釜口晴美, 永井祥子, 野沢さくえ, 田村浩一, 杉崎祐一, 長谷川潤<sup>1)</sup>, 横山宗伯<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>泌尿器科, <sup>2)</sup>病理学第2): 尿中に異型細胞を見た後腹膜腫瘍の1例. 第35回日本臨床細胞学会秋期大会, 1996. 11.
- 15) 渡会泰彦, 永井祥子, 釜口晴美, 田村浩一, 杉崎祐一, 杉澤 裕<sup>1)</sup>, 根本 勺<sup>1)</sup>, 横山宗伯<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>泌尿器科, <sup>2)</sup>病理学第2): 代用膀胱の尿細胞診で発見された膀胱全摘後上部尿路再発癌の1例. 第35回日本臨床細胞学会秋期大会, 1996. 11.

## [付属病院中央検査部]

### 研究概要

昨年より検体検査システムの構築に着手し,これと並行しての研究活動という厳しい状況下において,①MRSAおよび緑膿菌の検出状況ならびに抗菌薬の有効性と耐性化の発現状況などの解析,②薬剤投与時の各種検査値の推移から見た使用効果の解析,③新規検査項目の臨床的有用性の評価,④新測定法の開発支援と評価,⑤新測定機器の性能評価などの分野において多岐にわたる活動を行い,測定法の改良を含めた測定値と臨床像との整合性にまで言及した質の高い成果が得られた.

今後は,各科への研究支援と共に,正確性を維持したうえでの検査のさらなる迅速化,各種検査結果の臨床像との整合性の追求,院内感染対策の中心的役割の担い手としての活動に重点を置きたい.

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著:

- 1) 青砥泰二, 柴田泰史, 青山昭徳, 山下精彦, 木村昭夫<sup>1)</sup>, 益子邦洋<sup>1)</sup>, 山本保博<sup>1)</sup>, 大塚敏文<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>救急医学科): 当院高度救命救急センターにおけるメチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)および緑膿菌の検出状況についての検討. 日本救急医学会関東地方会誌 1996; 17(1): 290-291.
- 2) 柴田泰史, 青砥泰二, 青山昭徳, 山下精彦, 木村昭夫<sup>1)</sup>, 益子邦洋<sup>1)</sup>, 大塚敏文<sup>1)</sup>, 西澤健司<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>救急医学科, <sup>2)</sup>付属病院薬剤部): 免疫グロブリン製剤投与による血清補体価の変動. 日本救急医学会関東地方会誌 1996; 17(1): 194-195.
- 3) 柴田泰史, 青山昭徳, 木村昭夫<sup>1)</sup>, 久志本成樹<sup>1)</sup>, 益子邦洋<sup>1)</sup>, 西澤健司<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>救急医学科, <sup>2)</sup>付属病院薬剤部): AT-III製剤投与による血中メディエーターの変動. 日本救急医学会関東地方会誌 1996; 17(2): 500-501.
- 4) 青砥泰二, 柴田泰史, 青山昭徳, 西澤健司<sup>1)</sup>, 木村昭夫<sup>2)</sup>, 益子邦洋<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院薬剤部, <sup>2)</sup>救急医学科): 緑膿菌における抗菌薬の使用状況と薬剤耐性化についての検討. 日本救急医学会関東地方会誌 1996; 17(2): 658-659.
- 5) 西澤健司<sup>1)</sup>, 平野公晟<sup>1)</sup>, 木村昭夫<sup>2)</sup>, 望月 徹<sup>2)</sup>, 益子邦洋<sup>2)</sup>, 大塚敏文<sup>2)</sup>, 柴田泰史, 青砥泰二(<sup>1)</sup>付属病院薬剤部, <sup>2)</sup>救急医学科): 当施設の患者喀痰より分離された緑膿菌に対する抗菌薬の最小発育阻止濃度と最小殺菌濃

度の検討。日本救急医学会関東地方会誌 1996；17(2)：660-661。

- 6) 倉田 潔<sup>1)</sup>，木村昭夫<sup>1)</sup>，西澤健司<sup>2)</sup>，青砥泰二，柴田泰史，益子邦洋<sup>1)</sup>，大塚敏文<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>救急医学科，<sup>2)</sup>付属病院薬剤部)：当施設の患者喀痰より分離された緑膿菌の新しい抗菌剤感受性についての検討。日本外科感染症研究誌 1996；8：45-48。
- 7) 望月 徹<sup>1)</sup>，木村昭夫<sup>1)</sup>，辺見 弘<sup>1)</sup>，山本保博<sup>1)</sup>，大塚敏文<sup>1)</sup>，柴田泰史，青砥泰二，西澤健司<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>救急医学科，<sup>2)</sup>付属病院薬剤部)：当施設におけるメチシリン耐性黄色ブドウ球菌に対するバンコマイシン，アルベカシン，ST 合剤の最小発育阻止濃度と最小殺菌濃度の比較検討。日本外科感染症研究誌 1996；8：87-91。
- 8) 西澤健司<sup>1)</sup>，菅谷量俊<sup>1)</sup>，木村昭夫<sup>2)</sup>，柴田泰史，平野公晟<sup>1)</sup>，益子邦洋<sup>2)</sup>，辺見 弘<sup>2)</sup>，大塚敏文<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院薬剤部，<sup>2)</sup>救急医学科)：Methicillin-resistant *Staphylococcus aureus* (MRSA)感染症に対するバンコマイシン (VCM) 持続投与の検討。日本外科感染症研究誌 1996；8：75-79。
- 9) 柴田泰史，木村昭夫<sup>1)</sup>，西澤健司<sup>2)</sup>，青山昭徳，山下精彦，益子邦洋<sup>1)</sup>，大塚敏文<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>救急医学科，<sup>2)</sup>付属病院薬剤部)：免疫グロブリン製剤投与によるサイトカインの変動。日本外科感染症研究誌 1996；8：19-24。
- 10) 木村昭夫<sup>1)</sup>，柴田泰史，西澤健司<sup>2)</sup>，大國寿士<sup>3)</sup>，留日優子<sup>3)</sup>，益子邦洋<sup>1)</sup>，大塚敏文<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>救急医学科，<sup>2)</sup>付属病院薬剤部，<sup>3)</sup>老人病研究所)：全身性炎症反応症候群における免疫グロブリン製剤投与意義の検討。日本救急医学会雑誌 1996；7(6)：307-308。

## 著 書

- 1) 木村昭夫<sup>1)</sup>，辺見 弘<sup>1)</sup>，望月 徹<sup>1)</sup>，倉田 潔<sup>1)</sup>，西澤健司<sup>2)</sup>，青砥泰二(<sup>1)</sup>救急医学科，<sup>2)</sup>付属病院薬剤部)：〔分担〕緑膿菌の今日的意味“熱傷”(斉藤 厚，山口恵三編)，1996；pp155-160，医薬ジャーナル社。

## 学会発表

### (1) シンポジウム：

- 1) 木村昭夫<sup>1)</sup>，柴田泰史，西澤健司<sup>2)</sup>，辺見 弘<sup>1)</sup>，益子邦洋<sup>1)</sup>，山本保博<sup>1)</sup>，大塚敏文<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>救急医学科，<sup>2)</sup>付属病院薬剤部)：抗サイトカイン療法としての免疫グロブリン投与の検討：熱傷症例を中心に。第22回日本熱傷学会総会，1996. 5。

### (2) パネルディスカッション：

- 1) 望月 徹<sup>1)</sup>，木村昭夫<sup>1)</sup>，川井 真<sup>1)</sup>，益子邦洋<sup>1)</sup>，山本保博<sup>1)</sup>，大塚敏文<sup>1)</sup>，柴田泰史，青砥泰二，西澤健司<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>救急医学科，<sup>2)</sup>付属病院薬剤部)：熱傷症例におけるメチシリン耐性黄色ブドウ球菌肺炎に対する抗菌化学療法。第22回日本熱傷学会総会，1996. 5。

### (3) 一般講演：

- 1) 日ノ澤進一郎，森本 進：G3-CNP を基質に用いたアミラーゼ測定試薬の検討。第45回日本臨床衛生検査学会，1996. 5。
- 2) 柴田泰史，青山昭徳，里村克章，木村昭夫<sup>1)</sup>，久志本成樹<sup>1)</sup>，益子邦洋<sup>1)</sup>，西澤健司<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>救急医学科，<sup>2)</sup>付属病院薬剤部)：AT-III製剤投与による血中メディエーターの変動。第41回日本救急医学会関東地方会，1996. 6。
- 3) 青砥泰二，柴田泰史，青山昭徳，里村克章，西澤健司<sup>1)</sup>，木村昭夫<sup>2)</sup>，益子邦洋<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院薬剤部，<sup>2)</sup>救急医学科)：緑膿菌における抗菌薬の使用状況と薬剤耐性化についての検討。第41回日本救急医学会関東地方会，1996. 6。
- 4) 西澤健司<sup>1)</sup>，酒井紀美子<sup>1)</sup>，平野公晟<sup>1)</sup>，木村昭夫<sup>2)</sup>，望月 徹<sup>2)</sup>，益子邦洋<sup>2)</sup>，大塚敏文<sup>2)</sup>，柴田泰史，青砥泰二(<sup>1)</sup>付属病院薬剤部，<sup>2)</sup>救急医学科)：当施設の患者喀痰より分離された緑膿菌に対する抗菌薬の最小発育阻止濃度と最小殺菌濃度の検討。第41回日本救急医学会関東地方会，1996. 6。
- 5) 柴田泰史，犬塚 祥<sup>1)</sup>，西澤健司<sup>2)</sup>，青山昭徳，里村克章，益子邦洋<sup>1)</sup>，大塚敏文<sup>1)</sup>，林田真喜子<sup>3)</sup>，仁平 信<sup>3)</sup>，大野曜吉<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>救急医学科，<sup>2)</sup>付属病院薬剤部，<sup>3)</sup>法医学)：Triage<sup>®</sup>および REMEDI-HS<sup>®</sup>による薬物スクリーニン

- グの検討。第18回日本中毒学会総会，1996. 7.
- 6) 水田晴代，園部一成，橋本政子，青山昭徳，里村克章：HCV 抗体検出試薬「アキシム HCV ダイナパック」の臨床的有用性についての評価。第33回関東甲信地区医学検査学会，1996. 9.
  - 7) 園部一成，水田晴代，橋本政子，青山昭徳，里村克章：HCV 感染診断におけるアンプリコア HCV モニターを用いた HCV-RNA 検出の有用性。第33回関東甲信地区医学検査学会，1996. 9.
  - 8) 細川祐三子，高木 豊，山本信也：日立7070自動分析機を用いた LASAY ミオグロビン オートの基礎的検討。第33回関東甲信地区医学検査学会，1996. 9.
  - 9) 園部一成，橋本政子，青山昭徳，里村克章：HCV 抗体検査の凝集法における感度の決定要因について。第64回日本医科大学医学会総会，1996. 9.
  - 10) 堤 章江，橋本政子，青山昭徳，里村克章：リコンビナント HIV 抗原を用いた HIV-1,2抗体検出用試薬の評価。第64回日本医科大学医学会総会，1996. 9.
  - 11) 篠山明宏，小相澤美香，友田尚子，田島克美，佐藤寛之，青山昭徳，里村克章：免疫学的便潜血定量検査(OC ヘモディアオート II) の基礎的検討と変性 Hb の測定について。第64回日本医科大学医学会総会，1996. 9.
  - 12) 犬塚 祥<sup>1)</sup>，横田裕行<sup>1)</sup>，益子邦洋<sup>1)</sup>，山本保博<sup>1)</sup>，大塚敏文<sup>1)</sup>，柴田泰史，林田眞喜子<sup>2)</sup>，仁平 信<sup>2)</sup>，大野曜吉<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>救急医学科，<sup>2)</sup>法医学)：救急患者における薬物スクリーニング：薬物使用の実態と各種検査法の比較。第24回日本救急医学会総会，1996. 10.
  - 13) 國保昌紀<sup>1)</sup>，大國寿士<sup>1)</sup>，留目優子<sup>1)</sup>，木村昭夫<sup>2)</sup>，益子邦弘<sup>2)</sup>，山本保博<sup>2)</sup>，大塚敏文<sup>2)</sup>，柴田泰史 (<sup>1)</sup>老人病研究所，<sup>2)</sup>救急医学科)：熱傷患者血清中の抗熱ショック蛋白-70抗体の検出。第24回日本救急医学会総会，1996.10.
  - 14) 望月 徹<sup>1)</sup>，木村昭夫<sup>1)</sup>，川井 真<sup>1)</sup>，益子邦洋<sup>1)</sup>，山本保博<sup>1)</sup>，大塚敏文<sup>1)</sup>，柴田泰史，青砥泰二，西澤健司<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>救急医学科，<sup>2)</sup>付属病院薬剤部)：メチシリン耐性黄色ブドウ球菌肺炎に対するバンコマイシンと Sulfamethoxazole-Trimethoprim 合剤の抗菌作用と喀痰内抗菌薬濃度測定の意義について。第24回日本救急医学会総会，1996. 10.
  - 15) 望月 徹<sup>1)</sup>，木村昭夫<sup>1)</sup>，川井 真<sup>1)</sup>，益子邦洋<sup>1)</sup>，山本保博<sup>1)</sup>，大塚敏文<sup>1)</sup>，柴田泰史，青砥泰二，西澤健司<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>救急医学科，<sup>2)</sup>付属病院薬剤部)：メチシリン耐性黄色ブドウ球菌肺炎に対する vancomycin と sulfamethoxazole-trimethoprim 合剤の血中・喀痰内抗菌薬濃度測定の意義。第9回日本外科感染症研究会，1996. 12.
  - 16) 西澤健司<sup>1)</sup>，酒井紀美子<sup>1)</sup>，平野公晟<sup>1)</sup>，木村昭夫<sup>2)</sup>，望月 徹<sup>2)</sup>，益子邦洋<sup>2)</sup>，山本保博<sup>2)</sup>，大塚敏文<sup>2)</sup>，柴田泰史 (<sup>1)</sup>付属病院薬剤部，<sup>2)</sup>救急医学科)：臨床分離緑膿菌株に対する注射用セフェム薬およびカルバペネム系抗菌薬の最小発育阻止濃度 (MIC) と最小殺菌濃度 (MBC) の検討。第9回日本外科感染症研究会，1996. 12.
  - 17) 柴田泰史，木村昭夫<sup>1)</sup>，西澤健司<sup>2)</sup>，里村克章，久志本成樹<sup>1)</sup>，益子邦洋<sup>1)</sup>，山本保博<sup>1)</sup>，大塚敏文<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>救急医学科，<sup>2)</sup>付属病院薬剤部)：AT-III製剤投与による血中メディエーターの変動：抗炎症性サイトカインを中心に。第7回バイオメディカルフォーラム，1996. 12.
  - 18) 島田 靖<sup>1)</sup>，久志本成樹<sup>1)</sup>，木村昭夫<sup>1)</sup>，益子邦洋<sup>1)</sup>，山本保博<sup>1)</sup>，大塚敏文<sup>1)</sup>，柴田泰史 (<sup>1)</sup>救急医学科)：全自動血液ガス分析装置 AVL OPTI 1の使用経験。第42回日本救急医学会関東地方会，1997. 2.
  - 19) 村上 守<sup>1)</sup>，諫山和男<sup>1)</sup>，布施 明<sup>1)</sup>，佐藤秀貴<sup>1)</sup>，柴田泰史，益子邦洋<sup>1)</sup>，大塚敏文<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>救急医学科)：重傷頭部外傷者に対する低体温療法時の栄養管理。第20回日本神経外傷研究会，1997. 2.

## [付属病院薬剤部]

### 研究概要

ソリブジン事件，AIDS 薬害訴訟などの事件を契機にして医薬品の適正使用のための法の整備が必要となり，薬事法，薬剤師法の一部改正案が平成8年6月の国会に提出され承認された。その結果，医薬品適正使用における薬剤師の責任は益々重くなった。

当薬剤部においては、今年度も医薬品の適正使用に関する研究が積極的に行われた。病棟業務の中からは、継続的な研究の対象としている感染症および癌疼痛治療におけるモルヒネ投与の問題、その他、高齢者のクレアチニンクリアランス算出計算式の問題、患者重症度と相関する因子の問題、重症口内炎治療薬剤に関する問題などについての研究結果を発表した。また、継続研究テーマの一つである輸液用バッグへのインスリン吸着の問題については、今年度はツインバッグ製剤についてまとめた。調剤室業務の中からは、中央検査室の協力により調剤時の情報として臨床検査値を取り入れた結果、調剤薬の投与量のチェックに大変有用であったこと、注射供給業務の中からは、注射処方箋中の疑義事項を、電話で問い合わせるのではなく病棟に行き直接指示医と会話することにより、より注射薬の適正使用に貢献できたことなどについて発表した。

また、今年度は、「クリティカルケア薬物療法ハンドブック」および「薬学生病院実習マニュアル」を分担翻訳、分担執筆し出版した。

医薬品の適正使用における薬剤師の役割は益々重くなった。今後も、薬学的観点から医薬品適正使用の問題に積極的に取り組み、患者の薬物療法に寄与して行きたいと考えている。

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著：

- 1) 片山志郎, 平野公晟：徐放性ニフェジピン細粒製剤 (KB-1712P) の血漿中濃度に及ぼす制酸剤の影響。病院薬学 1996；22：503-508.
- 2) 西澤健司, 菅谷量俊, 木村昭夫<sup>1)</sup>, 柴田泰史<sup>2)</sup>, 平野公晟, 益子邦洋<sup>1)</sup>, 大塚敏文<sup>1)</sup> (1)救急医学科, 2)中央検査部)：Methicillin resistant Staphylococcus aureus (MRSA) 感染症に対するバンコマイシン (VCM) 持続投与の検討。日本外科感染症研究会 1996；8：75-80.
- 3) 柴田泰史<sup>2)</sup>, 木村昭夫<sup>1)</sup>, 西澤健司, 山下精彦<sup>2)</sup>, 益子邦洋<sup>1)</sup>, 大塚敏文<sup>1)</sup> (1)救急医学科, 2)中央検査部)：免疫グロブリン製剤投与によるサイトカインの変動。日本外科感染症研究会 1996；8：19-24.
- 4) 倉田 潔<sup>1)</sup>, 木村昭夫<sup>1)</sup>, 西澤健司, 青砥泰二<sup>2)</sup>, 柴田泰史<sup>2)</sup>, 益子邦洋<sup>1)</sup>, 大塚敏文<sup>1)</sup> (1)救急医学科, 2)中央検査部)：当施設の患者喀痰より分離された緑膿菌の新しい抗菌剤感受性についての検討。日本外科感染症研究会 1996；8：45-49.
- 5) 望月 徹<sup>1)</sup>, 木村昭夫<sup>1)</sup>, 辺見 弘<sup>1)</sup>, 山本保博<sup>1)</sup>, 大塚敏文<sup>1)</sup>, 柴田泰史<sup>2)</sup>, 青砥泰二<sup>2)</sup>, 西澤健司 (1)救急医学科, 2)中央検査部)：当施設におけるメチシリン耐性黄色ブドウ球菌に対するバンコマイシン, アルベカシン, ST 合剤の最小発育阻止濃度と最小殺菌濃度の比較検討。日本外科感染症研究会 1996；8：87-92.
- 6) 西澤健司, 平野公晟, 木村昭夫<sup>1)</sup>, 望月 徹<sup>1)</sup>, 益子邦洋<sup>1)</sup>, 大塚敏文<sup>1)</sup>, 柴田泰史<sup>2)</sup>, 青砥泰二<sup>2)</sup> (1)救急医学科, 2)中央検査部)：アルベカシン, バンコマイシンの抗菌力と有効血中濃度についての検討。日本救急医学会関東地方会誌 1996；17：212-213.
- 7) 柴田泰史<sup>2)</sup>, 青山昭徳<sup>2)</sup>, 木村昭夫<sup>1)</sup>, 久志本茂樹<sup>1)</sup>, 益子邦洋<sup>1)</sup>, 西澤健司 (1)救急医学科, 2)中央検査部)：AT-III製剤投与による血中メディエーターの変動。日本救急医学会関東地方会誌 1996；17：52-53.
- 8) 青砥泰二<sup>2)</sup>, 柴田泰史<sup>2)</sup>, 青山昭徳<sup>2)</sup>, 西澤健司, 木村昭夫<sup>1)</sup>, 益子邦洋<sup>1)</sup> (1)救急医学科, 2)中央検査部)：緑膿菌における抗菌剤の使用状況と薬剤耐性化についての検討。日本救急医学会関東地方会誌 1996；17：210-211.

### 著書

- 1) 平野公晟, 西澤健司：〔翻訳・分担〕クリティカルケア薬物療法ハンドブック, 1997；pp1-11, 13-38, 医学書院.
- 2) 平野公晟, 片山志郎：〔分担〕薬学生病院実習マニュアル, 1997；pp10-15, 21-28, 薬業時報社.

## 学会発表

### (1) シンポジウム：

- 1) 木村昭夫<sup>1)</sup>, 柴田泰史<sup>2)</sup>, 西澤健司, 辺見 弘<sup>1)</sup>, 益子邦洋<sup>1)</sup>, 山本保博<sup>1)</sup>, 大塚敏文<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>救急医学科, <sup>2)</sup>中央検査部)：抗サイトカイン療法としての免疫グロブリン投与の検討—熱傷症例を中心に—。第22回日本熱傷学会(東京), 1996. 5.
- 2) 西澤健司, 平野公晟：救急医療と薬剤師の役割。第6回クリニカルファーマシーシンポジウム(長崎), 1996. 6.

### (2) パネルディスカッション：

- 1) 望月 徹<sup>1)</sup>, 木村昭夫<sup>1)</sup>, 川井 真<sup>1)</sup>, 益子邦洋<sup>1)</sup>, 大塚敏文<sup>1)</sup>, 山本保博<sup>1)</sup>, 西澤健司, 柴田泰史<sup>2)</sup>, 青砥泰二<sup>2)</sup>：熱傷症例におけるメチシリン耐性黄色ブドウ球菌肺炎に対する抗菌化学療法。第22回日本熱傷学会(東京), 1996. 5.

### (3) 一般講演：

- 1) 西澤健司, 酒井紀美子, 平野公晟, 木村昭夫<sup>1)</sup>, 望月 徹<sup>1)</sup>, 益子邦洋<sup>1)</sup>, 大塚敏文<sup>1)</sup>, 柴田泰史<sup>2)</sup>, 青砥泰二<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>救急医学科, <sup>2)</sup>中央検査部)：当施設の患者喀痰より分離された緑膿菌に対する抗菌薬の最小発育阻止濃度と最小殺菌濃度の検討。第41回日本救急医学会関東地方会, 1996. 6.
- 2) 青砥泰二<sup>2)</sup>, 柴田泰史<sup>2)</sup>, 西澤健司, 木村昭夫<sup>1)</sup>, 益子邦洋<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>救急医学科, <sup>2)</sup>中央検査部)：緑膿菌における抗菌薬の使用状況と薬剤耐性化についての検討。第41回日本救急医学会関東地方会, 1996. 6.
- 3) 片山志郎, 平野公晟, 益子邦洋<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>高度救命救急センター)：当院における院内感染防止対策と薬剤師の役割。第6回クリニカルファーマシーシンポジウム, 1996. 6.
- 4) 宮田広樹, 片山志郎, 平野公晟：癌疼痛治療中に経験した錐体外路症状とその対策—薬剤師の役割—。第6回クリニカルファーマシーシンポジウム, 1996. 6.
- 5) 中嶋基広, 西澤健司, 菅谷量俊, 村田和也, 平野公晟：高カロリー輸液バッグ・輸液ラインにおけるインスリン吸着抑制の検討。第33回日本外科代謝栄養学会, 1996. 7.
- 6) 柴田泰史<sup>2)</sup>, 犬塚 祥<sup>1)</sup>, 西澤健司, 青山昭徳<sup>2)</sup>, 益子邦洋<sup>1)</sup>, 大塚敏文<sup>1)</sup>, 林田真喜子<sup>3)</sup>, 仁平 信<sup>3)</sup>, 大野曜吉<sup>3)</sup> (<sup>1)</sup>救急医学科, <sup>2)</sup>中央検査部, <sup>3)</sup>法医学教室)：Triage および REMEDI-HS による薬物スクリーニングの検討。第18回日本中毒学会総会, 1996. 7.
- 7) 江口博美, 佐治名保子, 石原朋子, 宮田広樹, 中嶋基広, 赤木千世, 樺山 恵, 村田和也, 平野公晟：注射薬補給業務における薬剤師の役割(その4)—病棟業務への展開—。関東ブロック第26回学術大会, 1996. 8.
- 8) 菅谷量俊, 樺山 恵, 西澤健司, 平野公晟：小児病棟における薬剤師の役割。関東ブロック第26回学術大会, 1996. 8.
- 9) 中嶋基広, 村田和也, 西澤健司, 菅谷量俊, 平野公晟：ツインバッグ製剤における高カロリー輸液用混合ビタミン剤のインスリン吸着抑制の検討。第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 9.
- 10) 宮田広樹, 片山志郎, 平野公晟：癌疼痛の薬物療法—薬剤師による錐体外路症状の対策—。第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 9.
- 11) 菅谷量俊, 村田和也, 平野公晟：メチシリン耐性黄色ブドウ球菌および緑膿菌に対する arbekacin と cefozopran, cefepime の in vitro における併用効果の検討。第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 9.
- 12) 渋谷香奈子, 菅谷量俊, 片山志郎, 平野公晟：当院における DI 業務の検討：第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 9.
- 13) 本城和義, 濃沼政美, 片山志郎, 平野公晟, 石野美智男<sup>1)</sup>, 森本 進<sup>1)</sup>, 青山昭徳<sup>1)</sup>, 里村克章<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>中央検査部)：薬剤部における医薬品適正使用のための臨床検査データの活用。第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 9.
- 14) 西澤健司, 平野公晟：バングラデシュ竜巻災害緊急援助隊における薬剤師の役割。第6回日本病院薬学会年会, 1996. 9.



- 15) 大下順子, 菅谷量俊, 片山志郎, 平野公晟: 重症口内炎治療に対する薬剤師の役割. 第6回日本病院薬学会年会, 1996. 9.
- 16) 片山志郎, 平野公晟: モルヒネ投与中に経験した全身そう痒症とその対策—癌疼痛治療における薬剤師の役割(第2版)—. 第6回日本病院薬学会年会, 1996. 9.
- 17) 中嶋基広, 村田和也, 平野公晟: 注射薬供給業務の現状. 第17回東京都病院薬剤師会会員実務研究発表会, 1996, 9.
- 18) 菅谷量俊, 西澤健司, 平野公晟: 薬剤管理指導料の請求が困難な病棟における薬剤師の役割. 第74回関東私立医大病院薬剤部研究会, 1996. 11.
- 19) 西澤健司, 酒井紀美子, 平野公晟, 木村昭夫<sup>1)</sup>, 望月 徹<sup>1)</sup>, 益子邦洋<sup>1)</sup>, 山本保博<sup>1)</sup>, 大塚敏文<sup>1)</sup>, 柴田泰史<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>救急医学科, <sup>2)</sup>中央検査部): 臨床分離菌に対する注射用セフェム薬およびカルバペネム系抗菌薬のMICとMBCの検討. 第9回日本外科感染症研究会, 1996. 12.
- 20) 宮田広樹, 西澤健司, 平野公晟: 泌尿器科病棟業務における症例報告. 東京都病院薬剤師会第1回病棟業務研究会, 1997. 2.
- 21) 西澤健司, 平野公晟, 山村重雄<sup>2)</sup>, 百瀬弥寿徳<sup>2)</sup>, 木村昭夫<sup>1)</sup>, 益子邦洋<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>救急医学科, <sup>2)</sup>東邦大薬): アミノグリコシド系抗菌剤使用患者における患者重症度と相関する因子. 日本薬学会第117年会, 1997. 3.
- 22) 江口博美, 中嶋基広, 村田和也, 西澤健司, 平野公晟: 高齢者のクレアチニンクリアランスの検討. 日本薬学会第117年会, 1997. 3.
- 23) 濃沼政美, 本城和義, 片山志郎, 平野公晟, 石野美智男<sup>1)</sup>, 森本 進<sup>1)</sup>, 里村克章<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>中央検査部): 医薬品適正使用への取り組み—その1—中央検査部との共同業務. 日本薬学会第117年会, 1997. 3.

## [付属病院生理機能センター]

### 研究概要

当センターでは、循環器部門を中心に、研究を行ってきた。特にドプタミン負荷心エコーは年毎に成果を上げ、実を結びつつある。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著:

- 1) Kishida H<sup>1)</sup>, Kusama Y<sup>1)</sup>, Homma H (<sup>1)</sup>第一内科学): Dobutamine stress echocardiography for the detection of coronary artery disease and viable myocardium. Jpn Heart J 1997; 38(2): 151-161.
- 2) 岸田 浩<sup>1)</sup>, 草間芳樹<sup>1)</sup>, 本間 博, 斉藤 勉<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>第一内科学): 狭心症: 虚血性心疾患の薬物療法の実際: 診断と治療の進歩, 日本内科学会雑誌 1996; 86(2): 71-76.
- 3) 勝田悌実<sup>1)</sup>, 本間 博<sup>1)</sup>, 張 雪君<sup>1)</sup>, 古明池弘和<sup>1)</sup>, 大須賀勝<sup>1)</sup>, 寺田秀人<sup>1)</sup>, 関山達也<sup>1)</sup>, 里村克章<sup>1)</sup>, 荒牧琢己<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>第一内科学): 慢性肝炎患における低酸素血症と肺循環異常, 薬理と治療 1996; 24(Suppl.12): 145-151.
- 4) 西垣龍太郎<sup>1)</sup>, 亀山孝二<sup>1)</sup>, 内藤善哉<sup>1)</sup>, 福田 悠<sup>1)</sup>, 鈴木恒道<sup>1)</sup>, 浅野伍朗<sup>1)</sup>, 本間 博, 宗像一雄<sup>1)</sup>, 岸田 浩<sup>1)</sup>, 荒牧琢己<sup>1)</sup>, 早川弘一<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>第一内科学): 生前異型狭心症と診断され肺炎の合併がみられた1剖検例. 呼吸と循環 1996; 44(11): 1201-1205.

#### 著書

- 1) 本間 博: 負荷心エコー法の手技と評価法. 負荷心エコー法. 1996; pp33-54. 中山書店.
- 2) 本間 博, 草間芳樹<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>第一内科学): viability の評価における負荷心エコー法: ドプタミン負荷. 負荷心エコー

法. 1996 ; pp137-159. 中山書店.

## 学会発表

### 1. 一般講演 :

- 1) Kitayama H<sup>1)</sup>, Kiuchi K<sup>1)</sup>, Kobayashi Y<sup>1)</sup>, Honma H, Nejima J<sup>1)</sup>, Endo T<sup>1)</sup>, Takano T<sup>1)</sup>, Hayakawa H<sup>1)</sup>  
(<sup>1)</sup>第一内科学) : The potential role for cardiac ultrafast computed tomography for detecting right atrial  
through in patients with atrial fibrillation. Circulation 94, 1996.
- 2) 本間 博, 馬 煥煥<sup>1)</sup>, 宗像一雄<sup>1)</sup>, 荒牧琢己<sup>1)</sup>, 早川弘一<sup>1)</sup>, 松崎つや子(<sup>1)</sup>第一内科学). 慢性肝疾患における肺  
内毛細血管異常の検出—5 %sonicated albmine を用いて. 第67回日本超音波学会, 1996.
- 3) 佐藤淳子, 本間 博, 漆沢亜希, 松崎つや子, 水瀬 学, 中村利枝, 平野美子, 野原秀明, 斎藤公一, 黒田 肇,  
岸田 浩<sup>1)</sup>, 荒牧琢己<sup>1)</sup>, 早川弘一<sup>1)</sup>, 福田 純<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第一内科学) : 心室中隔と左室後壁運動異常の臨床的意義. 第  
64回日本医科大学医学部総会, 1996.
- 4) 松崎つや子, 本間 博, 漆沢亜希, 佐藤淳子, 斎藤公一, 黒田 肇, 馬 煥煥<sup>1)</sup>, 伊藤恵子<sup>1)</sup>, 菅原博子<sup>1)</sup>, 草間  
芳樹<sup>1)</sup>, 宗像一雄<sup>1)</sup>, 岸田 浩<sup>1)</sup>, 荒牧琢己<sup>1)</sup>, 早川弘一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第一内科学) : Acoustic quantification 法による心筋  
虚血時の左室拡張能の評価. 第64回日本医科大学医学部総会, 1996.
- 5) 清宮康嗣, 草間芳樹, 本間 博, 酒井俊太, 斎藤 勉, 宗像一雄, 岸田 浩 : ドプタミン負荷心エコー図法によ  
る冠動脈病変の予測精度と問題点. 第44回日本心臓病学会, 1996.
- 6) 小野卓哉<sup>1)</sup>, 斎藤寛和<sup>1)</sup>, 林 明聡<sup>1)</sup>, 松本 真<sup>1)</sup>, 川口直美<sup>1)</sup>, 野村敦宣<sup>1)</sup>, 小林義典<sup>1)</sup>, 本間 博, 新 博次<sup>1)</sup>,  
加藤貴雄<sup>1)</sup>, 岸田 浩<sup>1)</sup>, 早川 弘一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第一内科学) : 神経調節性失神における病型別自律神経機能の特色— $\alpha$  交  
感神経機能を中心に. 第13回日本心電図学会, 1996.
- 7) 関戸司久<sup>1)</sup>, 岸田 浩<sup>1)</sup>, 福間長知<sup>1)</sup>, 本間 博, 富田善文<sup>1)</sup>, 草間芳樹<sup>1)</sup>, 高山守正<sup>1)</sup>, 宗像一雄<sup>1)</sup>, 早川弘一<sup>1)</sup>  
(<sup>1)</sup>第一内科学) : ドプタミン負荷心エコー図法 (DSE) による心筋虚血カスケードおよび super silent ischemia  
の検討. 第61回日本循環器学会, 1997.
- 8) 佐野純子<sup>1)</sup>, 金子晴生<sup>1)</sup>, 葉梨亜矢<sup>1)</sup>, 多田祐美子<sup>1)</sup>, 福間長知<sup>1)</sup>, 斎藤 勉<sup>1)</sup>, 本間 博, 草間芳樹<sup>1)</sup>, 宗像一雄<sup>1)</sup>,  
岸田 浩<sup>1)</sup>, 早川弘一<sup>1)</sup>, 汲田伸一郎<sup>2)</sup>, 隈崎達夫<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>第一内科学, <sup>2)</sup>放射線科学) : 心電図同期併用の運動負荷心  
筋シンチグラフィ—1 回撮像法—安静時<sup>201</sup>Tl/負荷時<sup>99</sup>Tc-Tetrofosmin<sup>2</sup>核種同時心筋 SPECT データ収集法  
による心筋虚血ならびに左室収縮能評価. 第61回日本循環器学会, 1996.
- 9) 小野卓哉<sup>1)</sup>, 斎藤寛和<sup>1)</sup>, 林 明聡<sup>1)</sup>, 松本 真<sup>1)</sup>, 川口直美<sup>1)</sup>, 野村 敦宣<sup>1)</sup>, 大坂元久<sup>1)</sup>, 小林義典<sup>1)</sup>, 本間 博,  
新 博次<sup>1)</sup>, 加藤貴雄<sup>1)</sup>, 岸田 浩<sup>1)</sup>, 早川弘一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第一内科学) : 血管抑制型神経調節性失神はいわゆる Neurally  
mediated syncope に含むべきか?—自律神経学的特徴及び薬効評価を通して—. 第61回日本循環器学会, 1996.
- 10) 清宮康嗣<sup>1)</sup>, 草間芳樹<sup>1)</sup>, 本間 博, 酒井俊太<sup>1)</sup>, 斎藤 勉<sup>1)</sup>, 福間長知<sup>1)</sup>, 宗像一雄<sup>1)</sup>, 岸田 浩<sup>1)</sup>, 早川弘一<sup>1)</sup>  
(<sup>1)</sup>第一内科学) : ドプタミン負荷心エコーによる冠動脈病変予測の問題点—運動負荷試験陽性例での検討—. 第  
61回日本循環器学会, 1996.
- 11) 星野公彦<sup>1)</sup>, 草間芳樹<sup>1)</sup>, 本間 博<sup>1)</sup>, 富田喜文<sup>1)</sup>, 佐野純子<sup>1)</sup>, 宗像一雄<sup>1)</sup>, 岸田 浩<sup>1)</sup>, 酒井俊太<sup>1)</sup>, 高山守正<sup>1)</sup>,  
高野照男<sup>1)</sup>, 汲田伸一郎<sup>2)</sup>, 隈崎達夫<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>第一内科学, <sup>2)</sup>放射線科学) : 心筋梗塞領域での<sup>201</sup>TlCI と<sup>123</sup>I-BMIPP  
の mismatch は心事故, 壁運動変化を予知する—初回心筋梗塞左前下行枝 1 枝病変例での検討—. 第61回日本循  
環器学会, 1996.
- 12) 大塚俊昭<sup>1)</sup>, 本間 博, 佐野純子<sup>1)</sup>, 草間芳樹<sup>1)</sup>, 宗像一雄<sup>1)</sup>, 岸田 浩<sup>1)</sup>, 早川弘一<sup>1)</sup>, 汲田伸一郎<sup>2)</sup>, 隈崎達夫<sup>2)</sup>  
(<sup>1)</sup>第一内科学, <sup>2)</sup>放射線科学) : 高齢者におけるドプタミン負荷心エコー法の有用性と安全性. 第61回日本循環器  
学会, 1996.
- 13) 藤井克彦, 吉田 晃<sup>1)</sup>, 仲 守<sup>1)</sup>, 堀内和孝<sup>1)</sup>, 清水宏之<sup>1)</sup>, 松沢一郎<sup>1)</sup>, 吉田和弘<sup>1)</sup>, 秋元成太<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>泌尿器科学) :  
敗血症に対する PMX 併用各種浄化療法の治療成績. 第41回日本透析医学会総会, 1996.

14) 野手洋治<sup>1)</sup>, 寺本 明<sup>1)</sup>, 青木 亘, 小島豊之<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>脳神経外科学): 下垂体腺腫における視覚誘発電位および短潜時視覚誘発電位の検討. 第55回日本脳神経外科学会総会, 1996.

## [日本医科大学腎クリニック]

### 研究概要

当施設は, 付属病院(千駄木)の付置医療施設として, 平成9年2月に新設され, 付属病院腎臓内科(第二内科学教室)が診療・研究・教育を担当しております. 主たる診療の外來維持透析(血液透析, 腹膜透析)の他, 腎疾患外來〔予約制; 対象疾患は透析導入前(保存期)慢性腎不全, 慢性糸球体腎炎, 糖尿病性腎症, 嚢胞腎〕も行っております.

研究課題; ①腎性骨異常栄養症及び透析 amyloidosis の予防と治療を目的として, 保存期から長期維持透析期にまで, 骨密度, 各種骨マーカー, PTH,  $\beta$ 2MG, AGEs 及び空腹時血清 insulin 濃度測定などを経時的に行い, 活性型 vitaminD<sub>3</sub>, リン吸着薬, 透析 dialyzer 膜の影響などを検討し, 予防を中心に積極的な治療を行っている. ②糖尿病性腎症は, 各病期により治療法が異なり, 微量アルブミン尿の出現する早期腎症からの治療/予防が大切である. 蛋白制限食開始の時期, 各種 ACE 阻害薬の投与などでの腎血流量, 腎血漿流量, GFR, FFなどを測定し, hyperfiltration 状態の検討と腎機能の経過を把握し, 治療に積極的に応用している. ③脳出血, 心血管障害などは透析患者の重要死因であるが, その risk を高める高血圧患者は多い. また貧血に対する recombinant erythropoietin の副作用として, コントロール困難な高血圧がある. 透析中の一酸化窒素(NO), endothelin, PRA などの測定を行い, その病態を検討している. ④動脈硬化及び脂質代謝に関する遺伝子解析, ⑤体組成分析 (impedance 法) にて腎疾患, 特に蛋白異化亢進状態の慢性腎不全に対する栄養管理の検討を行っている. ⑥腹膜の three pore theory を応用した腹膜機能検査, peritoneal equilibrium test などによる腹膜管理と, 体組成分析 (impedance 法) により, 腹膜透析の処方透析, 適正透析の検討を行っている.

### 研究業績

#### 論文

##### 1. 原著:

- 1) 河邊満彦, 柏木哲也, 金子朋広, 小原功裕, 布施 環, 青木 宏, 橋本和政, 清水光義, 葉山修陽, 飯野靖彦, 赫 彰郎: 至適腹膜透析指標としての%lean body mass の経時的変化の検討. 腹膜透析 1996; 96: 90-93.
- 2) 秋葉 隆<sup>1)</sup>, 長澤俊彦<sup>2)</sup>, 北本 清<sup>2)</sup>, 岸本武利<sup>3)</sup>, 武本佳昭<sup>3)</sup>, 吉田和弘<sup>4)</sup>, 飯野靖彦, 河邊満彦, 篠田俊雄<sup>5)</sup>, 中本 安<sup>6)</sup>, 本橋 茂<sup>6)</sup>, 田中 寛<sup>7)</sup>, 井田 隆<sup>8)</sup>, 安藤亮一<sup>8)</sup>, 笹岡拓雄<sup>9)</sup>, 東海林隆雄<sup>9)</sup>, 末永松彦<sup>10)</sup>, 斎藤 博<sup>11)</sup>, 長井 徹<sup>11)</sup>, 千田佳子<sup>12)</sup>, 丸茂文昭<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>東京医歯大, <sup>2)</sup>杏林大, <sup>3)</sup>大阪市大, <sup>4)</sup>泌尿器科, <sup>5)</sup>武蔵野赤十字病院, <sup>6)</sup>三鷹北口病院, <sup>7)</sup>大野記念病院, <sup>8)</sup>中野総合病院, <sup>9)</sup>横須賀共済病院, <sup>10)</sup>都立墨東病院, <sup>11)</sup>都立駒込病院, <sup>12)</sup>中野クリニック): 血液透析時体外循環における低分子ヘパリン (LHN-1) の臨床評価—出血性病変あるいは出血傾向を有する透析患者を対象とした多施設共同第II相臨床試験—. 腎と透析 1996; 41: 877-886.
- 3) 秋葉 隆<sup>1)</sup>, 浅野 泰<sup>2)</sup>, 田部井薫<sup>3)</sup>, 栗原 怜<sup>4)</sup>, 飯野靖彦, 河邊満彦, 小笠原陽<sup>5)</sup>, 笹岡拓雄<sup>6)</sup>, 福留裕一郎<sup>6)</sup>, 塚本雄介<sup>7)</sup>, 野村幸範<sup>7)</sup>, 丸茂文昭<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>東京医歯大, <sup>2)</sup>自治医大, <sup>3)</sup>下館胃腸科医院, <sup>4)</sup>春日部秀和病院, <sup>5)</sup>小笠原クリニック, <sup>6)</sup>横須賀共済病院, <sup>7)</sup>森下記念病院), 慢性腎不全患者における透析液粉末製剤 NAS-901P の一般試験. 臨床透析 1996; 12: 1615-1628.

##### 2. 総説:

- 1) 河邊満彦, 飯野靖彦, 赫 彰郎: 血尿の原因疾患. 臨床成人病 1996; 26: 543-546.
- 2) 河邊満彦, 飯野靖彦, 赫 彰郎: CAPD の骨・カルシウム合併症. 臨床透析 199; 12: 1851-1857.
- 3) 柏木哲也, 河邊満彦, 飯野靖彦: 輸液療法の実際: どのようにおこなわれているか. 薬局 1996; 47: 13-17.

## 学会発表

〔1995年度追加分〕

一般講演：

- 1) Kawabe M, Hayama N, Iino Y, Terashi A : Prospective Effects of Lean Body Mass as an Adequate Index for Peritoneal Dialysis Patients. 17th Annual Conference on peritoneal dialysis. 1996. 2.

(1) 一般講演：

- 1) Hashimoto K, Iino Y, Ohsono E, Kawabe M, Kurihara S, Hayama N, Terashi A : Association analysis of angiotensin converting enzyme gene polymorphism with end stage renal disease. 29th Annual Meeting of the American Society of Nephrology (New Orleans) 1996. 11.
- 2) 河邊満彦, 小原功裕, 金子朋広, 柏木哲也, 布施 環, 橋本和政, 青木 宏, 清水光義, 葉山修陽, 飯野靖彦, 赫 彰郎 : 60歳未満, 60歳以上の患者 2 群間での腹膜透析指標の比較による検討。第39回日本腎臓学会総会, 1996. 10.
- 3) 河邊満彦, 小原功裕, 金子朋広, 柏木哲也, 布施 環, 橋本和政, 青木 宏, 清水光義, 葉山修陽, 飯野靖彦, 赫 彰郎 : 60歳未満・以上の腹膜透析患者各群での糖尿病の影響の相違の検討。第41回日本透析医学会総会, 1996. 7.
- 4) 飯野靖彦, 大菌英一, 橋本和政, 松信精一, 河邊満彦, 葉山修陽, 赫 彰郎 : ADPKD 患者におけるアンギオテンシン変換酵素の遺伝子多型。第 4 回嚢胞腎研究会, 1996. 9.
- 5) 橋本和政, 大菌英一, 松信精一, 河邊満彦, 葉山修陽, 飯野靖彦, 赫 彰郎 : 透析患者の総コレステロールと ACE 遺伝子多型性。第10回腎と脂質研究会, 1997. 2.
- 6) 柏木哲也, 中島敦夫, 河邊満彦, 葉山修陽, 飯野靖彦, 赫 彰郎 : 腎不全における可溶性 Fas 抗原。第39回日本腎臓学会総会, 1996. 10.
- 7) 柏木哲也, 金子朋広, 小原功裕, 布施 環, 青木 宏, 橋本和政, 清水光義, 河邊満彦, 葉山修陽, 飯野靖彦, 赫 彰郎 : 第41回日本透析医学会総会, 1996. 7.

## 21. 第一病院付置施設等

### [第一病院病理部]

#### 研究概要

平成元年に開設され、8年目を迎えた。初年度は、設備の整理、業務の着実な施行とパソコンを導入し業務の効率化とデータベースの作成を試み、2年度は甲状腺、大腸について腺腫と腺癌の鑑別について研究を開始、専門医により、皮膚病理、腎病理、神経病理を充実、3年度は、子宮頸部境界病変の診断基準の検討を開始、細胞診を用いたビタミンA欠乏症早期診断法の確立に取り組み、4年度は、腎生検材料及び腫瘍組織について、電顕を用いた診断と研究を開始し、5年度は、電顕診断学を発展、6年度は、ヘリコバクター・ピロリ感染と胃粘膜病変について内視鏡科との共同研究を開始。7年度は、日本人、中国人、タイ人の間の人種間胃病変の比較研究を行った。以下、8年度の研究概要を述べる。

- 1) 腎病理：馬杉名誉教授の指導により、病理所見を含めた研究発表が行われた。
- 2) 肝移植病理：松本講師が他大学の肝移植手術に病理医として参加した。
- 3) 神経病理：多数の症例について解剖、CPCにより詳細な検討を行った。筋生検材料について第2内科と協力して診断体制を整えた。
- 4) 甲状腺病理：濾胞性病変の、血管侵襲について三次元再構築法を用いた研究を継続。
- 5) 電顕診断学：腎生検材料及び腫瘍組織の他、ヘリコバクター・ピロリ菌感染胃粘膜について、電顕を用いた診断と研究が行われ、新しい除菌判定基準を提唱した。
- 6) ヘリコバクター・ピロリ菌感染と胃粘膜病変：胃炎、胃潰瘍、胃粘膜萎縮の組織像とヘリコバクター・ピロリ菌との関連について内視鏡科との共同研究をタイ、ラオス、中国にて行った。
- 7) 国際医療協力：中国第一軍医大学消化器病研究所において第2回日中ヘリコバクター・ピロリシンポジウムを開催した。
- 8) 中国第一軍医大学消化器病研究所から張垂歴先生を招き、日本人、中国人、タイ人の間の胃病変につき、人種間の比較共同研究を開始した。
- 9) 付属病院との統廃合計画に基づき、松本講師を第2病院に、技術員2名を付属病院、千葉北総病院に再配置した。

#### 研究業績

##### 論文

[1995年度追加分]

原著：

- 1) 田野俊平<sup>1)</sup>、臼井文男<sup>1)</sup>、高橋 肇<sup>1)</sup>、谷内良成<sup>1)</sup>、加藤久盛<sup>1)</sup>、竹下俊行<sup>1)</sup>、浅倉啓文<sup>1)</sup>、越野立夫<sup>1)</sup>、中山弘道<sup>2)</sup>、小熊将之<sup>2)</sup>、松本光司、山田宣孝<sup>(<sup>1)</sup>第一病院産婦人科、<sup>2)</sup>第2外科学)</sup>：卵巣癌と乳癌の重複癌の1例。日産婦東京地方会誌 1995；44：262-266。

(1) 原著：

- 1) Somsanguan Ausayakhun<sup>1)</sup>, Yamada N, Shimizu Y<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>Dept. of Ophthalmology, Faculty of Medicine, Chiang Mai University, <sup>2)</sup>Dept. of Ophthalmology, Nippon Medical School) : Conjunctival Impression Cytology (CIC) for Detection of Vitamin A Deficiency Progressed to the Advance in Cytology in Chiang Mai University. Thai J Ophthalmol 1996 ; July-December 10 (2) : 103-101.
- 2) Somsanguan Ausayakhun<sup>1)</sup>, Yamada N, Shimizu Y<sup>2)</sup>, Prapatsorn Patikulasila<sup>1)</sup>, Apinya Luxruji<sup>1)</sup>, Pipat

Aunchatrakul<sup>1)</sup> (<sup>1</sup>)Dept. of Ophthalmology, faculty of Medicine, Chiang Mai University, <sup>2</sup>)Dept. of Ophthalmology, Nippon Medical School) : Conjunctival Impression Cytology (CIC) to Detect Subclinical Vitamin A Deficiency : Comparison between Hilltribe and Urban Children. Thai J Ophthalmol, 1996 ; July-December 10(2) : 95-101.

- 3) 増澤幹男<sup>1)</sup>, 西山茂夫<sup>1)</sup>, 大塚俊司(<sup>1</sup>北里大学医学部皮膚科学教室) : 舌の病気, リンパ管腫 : マスト細胞反応性疾患か? . 皮膚病診療 3, 1996 ; 18(3) : 219-222.
- 4) 松久威史<sup>1)</sup>, 草間 泉<sup>1)</sup>, 山田宣孝(<sup>1</sup>第一病院内視鏡科) : *Helicobacter pylori* 感染からみた幽門側切除後残胃 : 胃内逆流胆汁酸との関連を含めて. Progress of Digestive Endoscopy 1996 ; 48 : 142-143.
- 5) 大塚俊司, 佐藤春明, 相田昌子 : ヘリコバクター・ピロリの胃生検標本における簡易染色法に関する研究. 医学検査雑誌 1996 ; 45 : 717-721.
- 6) 山田宣孝 : 幽門螺旋菌感染胃粘膜の内視和組織病理学的比較研究. J Modern Digest Dis Endosc 1996 ; 1 : 82-84.
- 7) 温 敏, 山田宣孝 : 幽門螺旋菌的存在与胃粘膜病変の電鏡研究. J Modern Digest Dis Endosc 1996 ; 1 : 38.

## 学会発表

[1995年度分追加]

一般講演 :

- 1) 平井恭二<sup>1)</sup>, 渋谷哲男<sup>1)</sup>, 内山喜一郎<sup>1)</sup>, 鈴木章一<sup>1)</sup>, 酒井欣男<sup>1)</sup>, 田中茂夫<sup>1)</sup>, 松本光司, 山田宣孝(<sup>1</sup>外科学第2) : 大腸 Villous tumor 58 病変における検討. 第43回大腸癌研究会, 1995. 7.
- 2) 相田成隆, 山田宣孝, 松本光司, 温 敏, 浅野伍朗<sup>1)</sup>, 清水一雄<sup>2)</sup>, 田中茂夫<sup>2)</sup>(<sup>1</sup>病理学第2, <sup>2</sup>外科学第2) : 甲状腺濾胞性病変における血管の三次元的再構築による観察. 第28回甲状腺外科検討会, 1995. 9.
- 3) 秋丸琥甫<sup>1)</sup>, 天神敏博<sup>1)</sup>, 吉川 晃<sup>1)</sup>, 相田成隆<sup>1)</sup>, 田中茂夫<sup>1)</sup>, 松本光司, 山田宣孝(<sup>1</sup>外科学第2) : 切除不能の肝癌と診断されていた空腸原発の類上皮平滑筋肉腫の肝転移症例. 第57回日臨外, 1995. 11.
- 4) 平井恭二<sup>1)</sup>, 渋谷哲男<sup>1)</sup>, 山本英希<sup>1)</sup>, 内山喜一郎<sup>1)</sup>, 田中茂夫<sup>1)</sup>, 松本光司, 山田宣孝(<sup>1</sup>外科学第2) : 大腸癌(高分化型腺癌)における隆起性および潰瘍性病変についての増殖能および浸潤像に関する免疫組織科学的検討 : PCNA, カテプシン B での比較検討. 第44回大腸癌研究会, 1996. 2.

(1) 特別講演 :

- 1) 山田宣孝 : 子宮頸部細胞診・組織診・診断不一致例の分析と対策. 第14回日本臨床細胞学会, 福井県支部総会, 1997. 3.

(2) シンポジウム :

- 1) Yamada N, Matsuhisa T<sup>1)</sup>, Miki M<sup>2)</sup>, Col Sakol Eiumtrakul<sup>3)</sup> (<sup>1</sup>第一病院内視鏡科, <sup>2</sup>日本医科大学, <sup>3</sup>Kawila Hospital, Chiang Mai, Thailand) : Comparative histological study of gastroduodenal disease between Japan and Thailand. Symposium of NMS and CMU (Chiang Mai, Thailand), 1996. 8.
- 2) Matsuhisa T<sup>1)</sup>, Yamada N, Miki M<sup>2)</sup>, Col Sakol Eiumtrakul<sup>3)</sup> (<sup>1</sup>第一病院内視鏡科, <sup>2</sup>日本医科大学, <sup>3</sup>Kawila Hospital, Chiang Mai, Thailand) : Endoscopic study of *Helicobacter pylori* infection in Japan in comparison to that of Thailand. Symposium of NMS and CMU (Chiang Mai, Thailand), 1996. 8.
- 3) Matsuhisa T<sup>1)</sup>, Yamada N (<sup>1</sup>第一病院内視鏡科) : Eradication of *Helicobacter pylori* infection in Japan. Symposium of NMS and CMU (Chiang Mai, Thailand), 1996. 8.
- 4) Yamada N, Somsanguan Ausayakhun<sup>1)</sup>, Shimizu Y<sup>2)</sup> (<sup>1</sup>Dept. of Ophthalmology, Faculty of Medicine, Chiang Mai University, <sup>2</sup>Dept. of Ophthalmology, Nippon Medical School) : Conjunctival Impression Cytology (CIC) for Detection of Vitamin A Deficiency Progresses to the Advance in Cytology in Chiang Mai

University.Symposium of NMS and CMU (Chiang Mai, Thailand), 1996. 8.

- 5) Yamada N, Somsanguan Ausayakhun<sup>1)</sup>, Shimizu Y<sup>2)</sup>, Prapatsorn Patikulsil<sup>1)</sup>, Apinya Luxruji<sup>1)</sup>, Pipat Aunchatrakul<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>Dept. of Ophthalmology, Faculty of Medicine, Chiang Mai University, <sup>2)</sup>Dept. of Ophthalmology, Nippon Medical School) : Conjunctival Impression Cytology (CIC) to Detect Subclinical Vitamin A Deficiency) : Comparison between Hilltribe and Urban Children. Symposium of NMS and CMU (Chiang Mai, Thailand), 1996. 8.
  - 6) 山田宣孝：関与 *Helicobacter pylori* 感染胃粘膜の病理変化的日本和泰国的比較研究。第2回日中 *Helicobacter pylori* 与胃・十二指腸疾患 Symposium (北京), 1996. 11.
- (3) 一般講演：
- 1) 松久威史<sup>1)</sup>, 吉原一郎<sup>1)</sup>, 葉山享宏<sup>1)</sup>, 温 敏, 山田宣孝(<sup>1)</sup>第一病院内視鏡科)：当内視鏡科における *Helicobacter pylori* 感染例の除菌経験。日本医科大学医学会第89回例会, 1996. 5.
  - 2) 草間 泉<sup>1)</sup>, 羽山享宏<sup>1)</sup>, 井上泰夫<sup>1)</sup>, 吉原一郎<sup>1)</sup>, 松久威史<sup>1)</sup>, 山田宣孝(<sup>1)</sup>第一病院内視鏡科)：胃ポリープ症例における *Helicobacter pylori* 感染：病理組織型別検討を含めて。日本医科大学医学会第89回例会, 1996. 5.
  - 3) 遠藤まゆみ<sup>1)</sup>, 羽山享宏<sup>1)</sup>, 井上泰夫<sup>1)</sup>, 松久威史<sup>1)</sup>, 山田宣孝 (<sup>1)</sup>第一病院内視鏡科)：十二指腸潰瘍における *Helicobacter pylori* 感染：背景胃粘膜との関連性。日本医科大学医学会第89回例会, 1996. 5.
  - 4) 山田宣孝, 相田成隆, 松本光司, 温 敏, 松久威史<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第一病院内視鏡科)：内視鏡正常例に胃生検は必要か。日本医科大学医学会第89回例会, 1996. 5.
  - 5) 温 敏, 松本光司, 山田宣孝：病理から見た *Helicobacter pylori* 感染胃粘膜除菌判定の問題点。日本医科大学医学会第89回例会, 1996. 5.
  - 6) 加藤久盛<sup>1)</sup>, 梅沢勝弘<sup>1)</sup>, 露木佳子<sup>1)</sup>, 越野立夫<sup>1)</sup>, 荒木 勤<sup>1)</sup>, 松本光司, 山田宣孝(<sup>1)</sup>第一病院産婦人科)：子宮頸部に原発した Malignant Mullerian Mixed Tumor の1例。第37回日本臨床細胞学会総会, 1996. 5.
  - 7) 松久威史<sup>1)</sup>, 井上泰夫<sup>1)</sup>, 羽山享宏<sup>1)</sup>, 山田宣孝 (<sup>1)</sup>第一病院内視鏡科)：内視鏡的胃粘膜性状からみた血清ペプシノーゲン：*Helicobacter pylori* 感染との関連を含めて。第62回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 1996. 6.
  - 8) プラカシュ ジャドウ, 山田宣孝, 相田成隆, 松本光司, 温 敏, 大塚俊司, 佐藤春明, 村瀬幸宏, 相田昌子, 早澤久美, 松久威史<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>第一病院内視鏡科)：日本人とタイ人における胃炎像の病理組織学的比較 (第1報)：*Helicobacter pylori* 感染と胃炎の関係を中心として。第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 9.
  - 9) 並松茂樹<sup>1)</sup>, 中村進一<sup>1)</sup>, 服部康夫<sup>1)</sup>, 温 敏 (<sup>1)</sup>第一病院中央研究室)：PAM 並松変法のプロック染色について。第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 9.
  - 10) 温 敏, 相田成隆, 松本光司, 山田宣孝, 松久威史<sup>1)</sup>, 並松茂樹<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>第一病院内視鏡科, <sup>2)</sup>第一病院中央研究室)：*Helicobacter pylori* 感染の除菌結果及び問題例についての検討。第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 9.
  - 11) 松久威史<sup>1)</sup>, 飯田章太郎<sup>1)</sup>, 井上泰夫<sup>1)</sup>, 羽山享宏<sup>1)</sup>, 山田宣孝(<sup>1)</sup>第一病院内視鏡科)：血清ペプシノーゲンからみた *Helicobacter pylori* 感染：背景胃粘膜との関連を含めて。第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 9.
  - 12) 草間 泉<sup>1)</sup>, 羽山享宏<sup>1)</sup>, 井上泰夫<sup>1)</sup>, 吉原一郎<sup>1)</sup>, 松久威史<sup>1)</sup>, 山田宣孝(<sup>1)</sup>第一病院内視鏡科)：局在部位別にみた胃ポリープの *Helicobacter pylori* 感染。第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 9.
  - 13) 遠藤まゆみ<sup>1)</sup>, 羽山享宏<sup>1)</sup>, 井上泰夫<sup>1)</sup>, 松久威史<sup>1)</sup>, 山田宣孝(<sup>1)</sup>第一病院内視鏡科)：十二指腸潰瘍における背景胃粘膜：*Helicobacter pylori* 感染の観点より。第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 9.
  - 14) 井上泰夫<sup>1)</sup>, 飯田章太郎<sup>1)</sup>, 松久威史<sup>1)</sup>, 判治直人<sup>2)</sup>, 吉野慎一<sup>2)</sup>, 山田宣孝(<sup>1)</sup>第一病院内視鏡科, <sup>2)</sup>第一病院リウマチ科)：大腸潰瘍性病変を認めた Churg-Straus 症候群の1例。第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 9.
  - 15) 松本光司, 温 敏, 山本泰一, 山田宣孝：Ossifying fibromyxoid tumor of soft part 3例の免疫組織学的な検討および文献的考察。第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 9.
  - 16) 野本達也<sup>1)</sup>, 福生吉裕<sup>1)</sup>, 北見聡章<sup>1)</sup>, 森貴 博<sup>1)</sup>, 本田治久<sup>1)</sup>, 永島幹夫<sup>1)</sup>, 赤石治美<sup>1)</sup>, 赫 彰郎<sup>1)</sup>, 上野則之<sup>2)</sup>,

松本光司<sup>(1)</sup>内科学第2,<sup>2)</sup>第一病院耳鼻咽喉科): Al-p,  $\gamma$ -GTP の高値を呈したシェーグレン症候群における Bezafibrate の一使用経験. 第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 9.

- 17) 谷内良成<sup>1)</sup>, 横田明重<sup>1)</sup>, 広瀬正典<sup>1)</sup>, 浅倉啓文<sup>1)</sup>, 越野立夫<sup>1)</sup>, 山田宣孝, 松本光司<sup>(1)</sup>第一病院産婦人科): 当院における卵巣腫瘍術中迅速病理診断の臨床的検討. 日本医科大学医学会第90回例会, 1996. 11.
- 18) 山田宣孝, 相田成隆, 松本光司, 温 敏: *Helicobacter pylori* 感染胃粘膜の内視鏡像と組織像の関連について. 第85回病理学会総会, 1996. 4.
- 19) 温 敏, 佐藤 茂<sup>1)</sup>, 松本光司, 山田宣孝<sup>(1)</sup>中央電顕施設): *Helicobacter pylori* 感染胃粘膜及び除菌治療後症例の電顕的検討. 第28回日本臨床電子顕微鏡学会総会, 1996. 10.
- 20) 相田成隆, 山田宣孝, 松本光司, 温 敏, 浅野伍朗<sup>(1)</sup>病理学第2): 血管の三次元再構築による甲状腺濾胞性病変の観察. 第85回病理学会総会, 1996. 4.

## [第一病院中央検査室]

### 研究概要

臨床検査の進歩に伴う新項目の導入と開発された新技術を用い, 日々迅速診断に対応すべく研究している。

血液検査部門では FCM (フローサイトメトリー) を用いた検査について研究発表した。

細菌検査部門では微量液体希釈法を用いた薬剤感受性結果の報告を1993年10月より実施し, 細菌の薬剤耐性動向に注意をしており, 今年度は肺炎球菌について報告した。

### 研究業績

#### 学会発表

(1) 一般講演:

- 1) 佐藤綾子, 菅谷寿理, 新宅孝征, 永積 惇<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第2): FCM を用いた網赤血球 (Ret) 測定の有用性について. 第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 9.
- 2) 菅谷寿理, 清水準平, 佐藤綾子, 新宅孝征, 永積 惇<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第2): FCM (フローサイトメトリー) を用いた網赤血球自動測定の基礎的検討. 第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 9.
- 3) 菅野由紀<sup>1)</sup>, 中野一博<sup>1)</sup>, 吉野早恵子<sup>1)</sup>, 新宅孝征, 永積 惇<sup>(1)</sup>第一病院血液センター): 当院における MSBOS, T & S 導入効果について. 第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 9.
- 4) 式田竜司, 前田良子, 手塚尚美, 新宅孝征, 永積 惇<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第2): ペニシリン耐性肺炎球菌の検出状況. 第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 9.

## [第一病院血液センター]

### 研究概要

血液製剤は特殊な性質を持つもので, 供給には限度があるため, 特に適正な使用が望まれる。

MSBOS, T & S は血液製剤の有効利用および検査の省力化を目的とした待機的手術時の血液準備システムであり, 当院では1994年6月より完全導入している。今年度は導入による効果を各種統計より検討した。

### 研究業績

#### 学会発表

(1) 一般講演:

- 1) 菅野由紀, 中野一博, 吉野早恵子, 新宅孝征<sup>1)</sup>, 永積 惇<sup>(1)</sup>第一病院中央検査室): 当院における MSBOS, T &



S 導入効果について、第64回日本医科大学医学会総会、1996. 9.

## [第一病院薬剤科]

### 研究概要

ターミナルケアにおける患者の Quality of life の向上を目的にモルヒネ経口ないしは坐剤により、十分な除痛効果が得られていない症例について、モルヒネ静脈持続注入用と疼痛時に追加投与できる1shot用(頓用)の2本のインフューザーを同時併用することにより、よりの確な薬剤投与とより効果的な疼痛管理が可能であることを報告した。従来より継続研究してきたMRSA感染局所治療剤(Gentian violet軟膏)をMRSA感染性褥瘡症例に使用し、その効果と使用法を総説として、まとめた。

### 研究業績

#### 論文

(1) 原著:

- 1) 佐治 守, 赫 彰郎<sup>1)</sup> (1)内科学第2): MRSA感染褥瘡の治療. Geriat Med 34:1039-1043. 1996.

#### 研究発表

- 1) 武野久美, 西澤光代, 風間桜子, 岩上正明, 佐治 守, 吉江郁雄: 癌性疼痛対策における薬剤師の役割. 日本病院薬剤師会第26回学術大会, 1996.

## [第一病院東洋医学センター]

### 研究概要

東洋医学の有用性の研究と東洋医学的病態概念の科学的実証, これが当センターの研究目標である。

本年度の有用性の研究実績: ①不明確であった漢方薬の副作用の実態を明確化した。②東洋医学の原点医書の解釈を現代的により深化させ, 中国で研究発表すると同時に書物として刊行した。③鍼灸と注射療法の結合による新治療方法を確立し書物として刊行した。④下記の如く種々の漢方方剤の応用を研究し発表した。⑤昨年に引き続き, 花粉症の新漢方薬療法を検討した。

病態概念の科学的実証研究: ①瘀血の臨床的病態像の研究。②これまで指摘のない瘀血盗汗の病態像の検討。

### 研究業績

#### 論文

(1) 原著:

- 1) 三浦於菟: 既往歴と他覚所見よりみた瘀血患者の臨床的検討. 東邦医学誌 1996; 43: 77-94.
- 2) 五十嵐美加<sup>1)</sup>, 筒井未春<sup>1)</sup>, 三浦於菟<sup>(1)東邦大学心身医学教室</sup>: 柴胡桂枝乾姜湯が奏功した過換気症候群の症例—ストレスとの関連から—。日本東洋心身医学研究 1996; 11: 87-90.
- 3) 三浦於菟: 当センターにおける漢方薬副作用の実態調査. 和漢医薬学雑誌 1996; 13: 506-507.
- 4) 岡田研吉, 郭 秀梅<sup>2)</sup> (2)北里研究所東洋医学総合研究所医史学研究部): 錢七当為錢上. 医古文知識 1996; 1: 42-43.
- 5) 岡田研吉, 郭 秀梅<sup>2)</sup> (2)北里研究所東洋医学総合研究所医史学研究部): 日本江戸医家訓積傷寒論之研究. 台湾中医薬雑誌 1996; 7: 229-235.
- 6) 岡田研吉, 郭 秀梅<sup>2)</sup> (2)北里研究所東洋医学総合研究所医史学研究部): 傷寒論の煎・熬に対する方言による解

釈. 日本医史学雑誌 1996; 42: 178-179.

(2) 綜説:

1) 三浦於菟: 花粉症の漢方治療. 診療研究 1997; 326: 24-28.

## 著書

1) 三浦於菟: 東洋医学を知っていますか—新潮選書—. 1996; 新潮社.

2) 渡辺 裕: ツボを知らなくてもできるツボ注射治療. 1996; 金芳堂.

3) 岡田研吉, 郭 秀梅<sup>2)</sup> (北里研究所東洋医学総合研究所医史学研究部): [共著] 日本医家傷寒論注解輯要. 1996; 人民衛生出版社, 北京.

4) 岡田研吉: [分担] 傷寒論初期の外治法. “中医薬文献研究論争”(銭 超 塵編), 1996; pp56-59, 北京中医古籍出版社.

## 学会発表

(1) 教育講演:

1) 三浦於菟: 中国医学の世界観について. ホリスティック医学会, 1996. 10.

(2) 一般講演:

1) 五十嵐美加<sup>1)</sup>, 筒井末春<sup>1)</sup>, 三浦於菟<sup>(1)</sup>東邦大学心身医学教室): 柴胡桂枝乾姜湯が奏功した過換気症候群の症例—ストレスとの関連から—. 第32回日本東洋心身医学研究会, 1996. 2.

2) 三浦於菟, 白石佳正, 赤池正博, 長屋 憲, 岡田研吉: 瘀血証にみられた盗汗. 第47回日本東洋医学会学術総会, 1996. 5.

3) 赤池正博, 白石佳正, 三浦於菟: 慢性下痢症に対する大建中湯の治験例. 第47回日本東洋医学会学術総会, 1996. 5.

4) 三浦於菟: 当センターにおける漢方薬副作用の実態調査. 第13回和漢医薬学会大会, 1996. 8.

5) 岡田研吉: 傷寒論外治法の研究. 首届海峽兩岸中医薬文献医古文及中医薬文化学術研討会 (北京), 1996. 8.

6) 三浦於菟, 興津 寛, 武島英人<sup>3)</sup>, 赤池正博, 白石佳正, 渡辺 裕: 清上防風湯との合方で軽快した花粉症の2例. 日本東洋医学会第53回関東高信越支部学術総会, 1996. 10.

7) 興津 寛, 武島英人<sup>3)</sup>, 赤池正博, 三浦於菟, 白石佳正, 渡辺 裕: 症例よりみた桂枝加芍薬湯と小建中湯との相違. 日本東洋医学会第53回関東高信越支部学術総会, 1996. 10.

8) 武島英人<sup>3)</sup>, 興津 寛, 赤池正博, 三浦於菟, 白石佳正, 渡辺 裕, 石橋 晃 (救世軍ブース記念病院内科): 抑肝散加陳皮半夏にて軽快しためまいの1例. 日本東洋医学会第53回関東高信越支部学術総会, 1996. 10.

9) 渡辺 裕: 癌末期患者疼痛に対するツボ注射療法. 第34回癌治療学会総会, 1996. 11.

## [第一病院中央研究室]

### 研究概要

第一病院中央研究室は、電子顕微鏡部門、生理研究部門、生化学研究部門 I、生化学研究部門 II、写真部門、病理研究部門、動物実験部門 I、動物実験部門 II、免疫組織培養研究部門の9つの部門より構成されている。第一病院における各臨床医の研究の発展向上に寄与することを目的としおり臨床の各研究者のために研究の場を提供している。

中央研究室で行われている主な研究テーマは以下のとおりである

1) 各動物実験および各臨床より提出された組織の超微形態学的な細胞変化の動向を電子顕微鏡を用いて検索が行われている。

また、電子顕微鏡鍍銀染色法 PAM 並松変法 (PATSC-GMS 染色法) を腎組織および胃生検のブロック染色に応用

し良好な結果を出している。

2) 脳虚血急性期の病態および治療,脳血管性痴呆と関連する遅発性神経細胞壊死のメカニズムの解明を動物実験モデルを用いて病理組織学,脳循環代謝,脳浮腫の面から検討が行われている。

3) 動脈硬化発症メカニズムの細胞生物学的研究を生化学分野と共同で電顕による形態変化を明らかにするため研究を行っている。特に胸腺から抽出精製された Thymosporin F のマクロファージの分化抑制の電顕的観察を行っている。また PTCA の再狭窄予防に関してカフ装着動物モデルを作製し,内膜肥厚制御の実験的病理観察を行っている。

4) 前立腺癌細胞株に対する温熱,化学療法の検討および,遺伝子の解析。またフローサイトメトリーを用いた癌細胞の細胞増殖の検討。Fluorescence in situ hybridization を利用した染色体の観察。関節リウマチ滑膜由来線維芽細胞活性及び IL-1, IL-6 産生に対する各種 DMARD の抑制効果の検討及び MMP-1, MMP-3, TIMP 産生抑制効果の検討。臨床より提出された組織の培養および抗癌剤感受性試験の検討。習慣性流産の免疫療法に関する研究また人工受精に関する研究。

5) 鼓膜,内耳,気管などのビタミン E 欠乏による形態学的変化を光顕,電顕より解析している。糖尿病マウスのエラストラーゼ投与における内耳の血管変化の形態的变化の光顕,電顕を用いての研究。

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著:

- 1) 並松茂樹,中村進一,服部康夫:腎生検を用いた腎系球体基底膜の PAM 並松変法の染色性について,日本臨床電子顕微鏡学会誌 1996;29:15-21.

### 学会発表

#### (1) 一般講演:

- 1) Muramatsu H, Katayama Y<sup>1)</sup>, Kamiya T<sup>1)</sup>, McKee A<sup>1)</sup>, Terashi A<sup>1)</sup> (第2内科): Effect of Lubeluzole, a novel neuroprotective agent, on Metabolism and PDH activity in Ischemia. 3rd World Stroke Congress and 5th European Stroke Conference 1996. 6.
- 2) 鈴木成治<sup>1)</sup>, 天神敏博<sup>1)</sup>, 渡辺秀裕<sup>1)</sup>, 名取穰治<sup>1)</sup>, 菅野重人<sup>1)</sup>, 山本英希<sup>1)</sup>, 長浜充二<sup>1)</sup>, 酒井欣男<sup>1)</sup>, 小熊将之<sup>1)</sup>, 家所良夫<sup>1)</sup>, 内山喜一郎<sup>1)</sup>, 松島申治<sup>1)</sup>, 渋谷哲男<sup>1)</sup>, 田中茂夫<sup>1)</sup>, 山本基子 (第2外科): Multi color FISH 法を用いた胃癌組織の分子細胞遺伝学的検討。第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 9.
- 3) 青山純夫<sup>1)</sup>, 神谷達司<sup>1)</sup>, 片山泰朗<sup>1)</sup>, 赫 彰郎<sup>1)</sup>, 村松浩美 (第2内科): ラット一過性局所脳虚血モデルにおける神経病理像と臨床像について。第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 9.
- 4) 秋山しのぶ, 福生吉裕<sup>1)</sup>, 赤石治美<sup>1)</sup>, 本田治久<sup>1)</sup>, 永島幹夫<sup>1)</sup>, 赫 彰郎<sup>1)</sup> (第2内科): 酸化 LDL から見たビタミン D3 の細胞特異性について。第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 9.
- 5) 並松茂樹, 中村進一, 服部康夫, 温 敏<sup>1)</sup> (第1病院病理部): PAM 並松変法のブロック染色について。第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 9.
- 6) 温 敏<sup>1)</sup>, 相田成隆<sup>1)</sup>, 松本光司<sup>1)</sup>, 山田宣孝<sup>1)</sup>, 松久威史<sup>2)</sup>, 並松茂樹 (第1病院病理部, 第1病院内視鏡科): *Helicobacter pylori* の除菌結果及び問題例についての検討。第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 9.
- 7) 中村進一<sup>1)</sup>, 西原 潔<sup>1)</sup>, 相良宗徳<sup>1)</sup>, 立原利江子<sup>1)</sup>, 濱松 優<sup>1)</sup>, 五十嵐司<sup>1)</sup>, 並松茂樹 (第1病院皮膚科): タンニン酸染色による *Treponema pallidum* の電顕的観察。第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 9.
- 8) 村松浩美, 片山泰朗<sup>1)</sup>, 神谷達司<sup>1)</sup>, Ann McKee, 赫 彰郎<sup>1)</sup> (第2内科): Lubeluzole の脳虚血における代謝および Pyruvate dehydrogenase (PDH) 活性に及ぼす効果の検討。第22回日本脳卒中学会総会, 1997. 3.

## 22. 第二病院付置施設等

### [第二病院消化器病センター]

#### 研究概要

消化器病センター発足後6年が経過し、消化器外科、消化器内科、内視鏡の各専門分野も充実した。外来、入院、手術件数ともに順調に増加し、ますます発展すべく診療研究に励んでいる。

1) 胆石胆汁の微量元素分析, 2) 閉塞性黄疸(切除不能悪性腫瘍)に対する減黄術と化学療法, 3) 肝の免疫機能, 4) イレウスの病態と治療, 5) 大腸癌の検診と集学的治療, 6) 消化器疾患の内視鏡的治療, 7) 消化器疾患の背景粘膜に対する病理組織, 免疫組織化学的研究, 8) 電子内視鏡画像処理と病理組織学的所見との比較, 9) 感染症, とくにMRSA腸炎について, 10) 胃・十二指腸疾患と *Helicobacter Pylori*, 11) 腹腔鏡下胆嚢摘出術, 12) 胃・十二指腸潰瘍穿孔に対する *Omental Implantation* の病理組織学的研究, 13) 消化管と微量元素および免疫, 14) 消化管癌と癌遺伝子, 15) 分類不能炎症性大腸炎の内視鏡像と病態生理, 16) Functional dyspepsia, 17) ヘパリチナーゼを用いた癌転移の血清学的診断と治療効果判定の臨床応用

#### 研究業績

##### 論文

(1) 原著:

- 1) Tsunoda S, Ito M, Fukuda T, Umakoshi M: Examination of Immunoglobulin A Immunoreactive Cell in the Mucosa with Benign Colonic Lesions. Therapeutic Research 1996; 17 (Suppl. 2): 218-224.
- 2) Tsunoda S, Ito M, Fukuda T, Umakoshi M, Kudo M<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>Second Department of Pathology, Tokyo Medical College): The in vitro Time Course Examinations on the Histological Artifacts of Colonic Polypectomy Specimens Due to Delay of Fixation. Therapeutic Research 1996; 17 (Suppl. 2): 359-363.
- 3) Matoba Y, Katayama H<sup>1)</sup>, Ohami H<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>Department of Pathology, Tamagayama Hospital, <sup>2)</sup>Research Institute of Gerontology): Evaluation of omental implantation for perforated gastric ulcer therapy: Findings in a rat model. Journal of Gastroenterology 1996; 31: 777-784.
- 4) 小山雅章, 伊藤正秀, 山口裕史, 角田誠之, 馬越正通: 有愁訴患者に対する免疫学的便潜血反応検査実施の意義. Therapeutic Research 1996; 17 (Suppl. 2): 201-204.
- 5) 豊島 明, 伊藤正秀, 角田誠之, 馬越正通: 胃内逆流胆汁酸中デオキシコール酸濃度と胃粘膜変化: タオリン抱合型デオキシコール酸 (TDC) とタオリン抱合型ケノデオキシコール酸 (TCDC) との比較において. 日医大誌 1996; 63 (4): 268-274.
- 6) 角田誠之, 伊藤正秀, 福田達也, 小山雅章, 佐藤薫隆, 馬越正通, 櫻井四郎<sup>1)</sup>, 湯川雅枝<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>大妻女子大学社会情報学部, <sup>2)</sup>国立放射線医学総合研究所環境衛生部): 大腸腺腫症例における大腸粘膜内微量元素の検討. Progress of Digestive Endoscopy 1996; 49: 166-167.
- 7) 渡辺昌則, 伊藤正秀, 原 一郎, 馬越正通: 内視鏡的逆行性拡張術により改善しえた術後癒痕性食道狭窄の1例. Progress of Digestive Endoscopy 1996; 49: 182-183.
- 8) 豊島 明, 伊藤正秀, 角田誠之, 馬越正通, 櫻井四郎<sup>1)</sup>, 湯川雅枝<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>大妻女子大学社会情報学部, <sup>2)</sup>国立放射線医学総合研究所環境衛生部): 消化性潰瘍における *Helicobacter pylori* と胃粘膜内微量元素, 逆流胆汁酸との関連. Progress of Digestive Endoscopy 1996; 49: 86-89.
- 9) 小山雅章, 伊藤正秀, 角田誠之, 田中賢助, 馬越正通: Functional dyspepsia の臨床的検討. Progress of Digestive Endoscopy 1996; 49: 162-163.

- 10) 坊 英樹, 伊藤正秀, 豊島 明, 角田誠之, 小山雅章, 田中賢助, 陸川秀智, 堀口 実, 河西 徹, 福田達弥, 吉森 勝, 井上直己, 馬越正通: *Helicobacter pylori* 陽性の背景胃粘膜における好中球浸潤と微量元素. *Progress of Digestive Endoscopy* 1996; 49: 152-153.
- 11) 伊藤正秀, 角田誠之, 豊島 明, 井上直己, 陸川秀智, 小山雅章, 渡辺昌則, 馬越正通: 蛋白漏出性胃腸症を伴った薬剤誘発性急性胃粘膜病変の1例. *川崎医師会医学会雑誌* 1996; 13:195-201.
- 12) 豊島 明, 伊藤正秀, 角田誠之, 小山雅章, 田中賢助, 馬越正通, 櫻井四郎<sup>1)</sup>, 湯川雅枝<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>大妻女子大学社会情報学部, <sup>2)</sup>国立放射線医学総合研究所環境衛生部): *Helicobacter Pylori* と胃粘膜内微量元素および逆流胆汁酸との関連. *川崎医師会医学会雑誌* 1996; 13: 22-25.

## 学会発表

### (1) 特別講演:

- 1) 豊島 明, 伊藤正秀: *H. Pylori* の臨床. 第18回伝染病検査技術講習会, 1996. 5.

### (2) ワークショップ:

- 1) 的場康徳, 久吉隆郎<sup>1)</sup>, 松林富士男<sup>2)</sup>, 片山博徳<sup>3)</sup>, 馬越正通 (<sup>1)</sup>第二病院外科, <sup>2)</sup>プラザ記念病院, <sup>3)</sup>多摩永山病院病理部): 穿孔性胃・十二指腸潰瘍に対する Omental Implantation の意義. 第21回日本外科学系連合学会学術集会, 1996. 6.
- 2) 的場康徳, 松林富士男<sup>1)</sup>, 栗原雄司, 内藤英二, 田崎達也, 原 一郎, 馬越正通 (<sup>1)</sup>プラザ記念病院): 胃・十二指腸潰瘍に対する Omental Implantation の選択. 第28回日本腹部救急医学会総会, 1997. 3.

### (3) 一般講演:

- 1) Matoba Y, Katayama H<sup>1)</sup>, Matsubayashi F<sup>2)</sup>, Umakoshi M (<sup>1)</sup>Department of Pathology, Tamanagayama Hospital, <sup>2)</sup>Plaza Memorial Hospital): Localization and quantification of basic fibroblast growth factor in perforated gastric ulcer treated by omental implantation. 15th World Congress of Collegium Internationale Chirurgiae Digestivae (Seoul Korea), 1996. 9.
- 2) Tsunoda S, Ito M, Koyama M, Fukuda F, Tanaka K, Inoue N, Sato N, Umakoshi M, Sakurai S<sup>1)</sup>, Yukawa M<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>Otsuma Women's University, <sup>2)</sup>National Institute of Radiological Sciences): An examination of intramucosal trace elements in colonic adenoma and cancer-by using P.I. X.E. analysis method-(P.I. X.E.; Particle Induced X-ray Emission). 10th Asian-Pacific Congress of Gastroenterology 7th Asian-Pacific Congress of Digestive Endoscopy (Yokohama Japan), 1996. 9.
- 3) Matoba Y, Katayama H<sup>1)</sup>, Hironaka H<sup>2)</sup>, Hatutori H<sup>2)</sup>, Ohishi H<sup>2)</sup>, Maeda. S<sup>1)</sup>, Umakoshi M (<sup>1)</sup>Department of Pathology, Tamanagayama Hospital, <sup>2)</sup>Research Laboratory, Kyodo Milk Production): Evaluation of heparitinase for serodiagnosis of metastasis. 10th Asian-Pacific Congress of Gastroenterology 7th Asian-Pacific Congress of Digestive Endoscopy (Yokohama Japan), 1996. 9.
- 4) Toyoshima A, Ito M, Tsunoda S, Umakoshi M, Sakurai S<sup>1)</sup>, Yukawa M<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>School of Information Studies Otsuma Womens's University, <sup>2)</sup>Division of Environmental Health National Institute of Radiological Sciences): *Helicobacter pylori* trace mineral and reflux bile acid in peptic ulcer patients. 10th Asian-Pacific Congress of Gastroenterology 7th Asian-Pacific Congress of Digestive Endoscopy (Yokohama Japan), 1996. 9.
- 5) Koyama M, Ito M, Tsunoda S, Tanaka K, Satoh k, Umakoshi M: Functional dyspepsia and its background. 10th Asian-Pacific Congress of Gastroenterology 7th Asian-Pacific Congress of Digestive Endoscopy (Yokohama Japan), 1996. 9.
- 6) Bou H, Ito M, Toyoshima A, Tsunoda S, Koyama M, Tanaka K, Rikukawa H, Saitou T, Horiguchi M, Kasai T, Fukuda T, Yoshimori M, Inoue N, Seki J, Umakoshi M: The relationship between neutrophil

- infiltration and trace minerals in the *Helicobacter pylori* positive gastric mucosa. 10th Asian-Pacific Congress of Gastroenterology 7th Asian-Pacific Congress of Digestive Endoscopy (Yokohama Japan), 1996, 9.
- 7) Tsunoda S, Ito M, Koyama M, Fukuda T, Tanaka K, Inoue N, Sato N, Umakoshi M, Sakurai S<sup>1)</sup>, Yukawa M<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>Otsuma Women's University, <sup>2)</sup>National Institute of Radiological Sciences) : A study of trace elements levels in the colonic mucosa using PIXE analysis (P.I.X.E. ; Particle Induced X-ray Emission). 13 th Asia Pacific CANCER Conference (Penang Malaysia), 1996. 11.
  - 8) Matoba Y, Hisayoshi T<sup>1)</sup>, Matsubayashi F<sup>2)</sup>, Umakoshi M (<sup>1)</sup>Department of Surgery, Second Hospital, <sup>2)</sup>Plaza Memorial Hospital) : Omental implantation for perforated gastric cancer as closure operation. 30 th World Congress of the International College of Surgeons (Kyoto Japan), 1996. 11.
  - 9) 的場康德, 片山博徳<sup>1)</sup>, 大網 弘<sup>2)</sup>, 渡辺昌則, 内藤英二, 平野文也, 馬越正通(<sup>1)</sup>多摩永山病院病理部, <sup>2)</sup>老人病研究所病理部門) : Omental Implantation と Omental Patch の実験的病理学的検討. 第96回日本外科学会総会, 1996. 4.
  - 10) 角田誠之, 伊藤正秀, 井上直巳, 福田達弥, 渡辺昌則, 小山雅章, 豊島 明, 馬越正通 : 下部消化管粘膜血流からみた背景粘膜の免疫組織化学的検討—下痢症例において—. 第51回日本消化器内視鏡学会総会, 1996. 4.
  - 11) 田中賢助, 伊藤正秀, 角田誠之, 小山雅章, 陸川秀智, 斉藤 勉, 堀口 実, 河西 徹, 福田達弥, 吉森 勝, 井上直巳, 関 純一, 馬越正通 : 当科における出血性大腸炎の検討. 第2回日中大腸肛門病学術交流会 (広州, 中国), 1996. 5.
  - 12) 赤岩 順<sup>1)</sup>, 大久保哲行<sup>1)</sup>, 三浦道夫<sup>1)</sup>, 久吉隆郎, 渡辺昌則, 馬越正通(<sup>1)</sup>育生会横浜病院, <sup>2)</sup>第二病院外科) : 全国集計からみた腸管悪性リンパ腫手術例の予後因子について. 第25回神奈川県消化器外科研究会, 1996. 5.
  - 13) 小山雅章, 伊藤正秀, 山口裕史, 角田誠之, 馬越正通 : 職域大腸癌検診との比較からみた外来受診者に対する免疫学的便潜血反応検査について. 第35回日本消化器集団検診学会総会, 1996. 5.
  - 14) 渡辺昌則, 原 一郎, 山口裕史, 駒崎敏昭, 豊島 明, 田崎達也, 伊藤正秀, 馬越正通, 黒崎貞行<sup>1)</sup>, 大塚博邦<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>第二病院耳鼻咽喉科) : 食道癌術後燕下障害に対する喉頭挙上術の経験. 日本医科大学医学会第89回例会, 1996. 5.
  - 15) 豊島 明, 伊藤正秀, 角田誠之, 小山雅章, 田中賢助, 河西 徹, 斉藤 勉, 陸川秀智, 堀口 実, 吉森 勝, 福田達弥, 関 純一, 井上直巳, 渡辺昌則, 馬越正通, 櫻井四郎<sup>1)</sup>, 湯川雅枝<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>大妻女子大学社会情報学部, <sup>2)</sup>国立放射線医学総合研究所環境衛生部) : 消化性潰瘍の背景胃粘膜における *Helicobacter pylori* と胃粘膜内微量元素, 逆流胆汁酸との関連 (第5報). 日本医科大学医学会第89回例会, 1996. 5.
  - 16) 小山雅章, 伊藤正秀, 角田誠之, 田中賢助, 陸川秀智, 斉藤 勉, 堀口 実, 河西 徹, 福田達弥, 吉森 勝, 井上直巳, 関 純一, 馬越正通 : Functional dyspepsia とその背景因子の検討. 日本医科大学医学会第89回例会, 1996. 5.
  - 17) 坊 英樹, 伊藤正秀, 豊島 明, 角田誠之, 小山雅章, 田中賢助, 陸川秀智, 斉藤 勉, 堀口 実, 河西 徹, 福田達弥, 吉森 勝, 井上直巳, 関 純一, 馬越正通 : ヘリコバクター・ピロリの背景胃粘膜における好中球浸潤, 微量元素と萎縮. 日本医科大学医学会第89回例会, 1996. 5.
  - 18) 陸川秀智, 伊藤正秀, 角田誠之, 小山雅章, 田中賢助, 斉藤 勉, 堀口 実, 河西 徹, 福田達弥, 吉森 勝, 井上直己, 関 純一, 馬越正通 : 下部消化管粘膜血流からみた背景粘膜の免疫組織化学的検討—便秘症例において—. 日本医科大学医学会第89回例会, 1996. 5.
  - 19) 角田誠之, 伊藤正秀, 小山雅章, 田中賢助, 陸川秀智, 斎藤 勉, 堀口 実, 河西 徹, 福田達弥, 吉森 勝, 井上直己, 関 純一, 馬越正通, 櫻井四郎<sup>1)</sup>, 湯川雅枝<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>大妻女子大学社会情報学部, <sup>2)</sup>国立放射線医学総合研究所環境衛生部) : 大腸腺腫症例における大腸粘膜内微量元素の検討—PIXE分析法を用いて—. 第62回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 1996. 6.

- 20) 角田誠之, 伊藤正秀, 小山雅章, 田中賢助, 陸川秀智, 斎藤 勉, 堀口 実, 河西 徹, 福田達弥, 吉森 勝, 井上直巳, 関 純一, 馬越正通: Familial polyposis 症例における腺腫内オルニチン脱炭酸酵素活性値の経時的検討—漢方製剤服用による変化—. 第62回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 1996. 6.
- 21) 渡辺昌則, 伊藤正秀, 原 一郎, 角田誠之, 山口裕史, 馬越正通: 食道癌術後吻合部狭窄に対する経胃瘻の逆行性拡張術の経験. 第62回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 1996. 6.
- 22) 的場康徳, 駒崎敏昭, 坊 英樹, 豊島 明, 渡辺昌則, 内藤英二, 平野文也, 原 一郎, 田中賢助, 小山雅章, 角田誠之, 伊藤正秀, 馬越正通: 上部消化管穿孔における緊急内視鏡検査の有用性. 第62回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 1996. 6.
- 23) 豊島 明, 伊藤正秀, 角田誠之, 渡辺昌則, 馬越正通, 櫻井四郎<sup>1)</sup>, 湯川雅枝<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>大妻女子大学社会情報学部, <sup>2)</sup>国立放射線医学総合研究所環境衛生部): 消化性潰瘍における H.P と胃粘膜内微量元素, 逆流胆汁酸との関連 (第4報). 第62回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 1996. 6.
- 24) 小山雅章, 伊藤正秀, 角田誠之, 田中賢助, 陸川秀智, 斎藤 勉, 堀口 実, 河西 徹, 福田達弥, 吉森 勝, 井上直巳, 関 純一, 馬越正通: Functional dyspepsia の臨床的検討. 第62回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 1996. 6.
- 25) 田中賢助, 伊藤正秀, 角田誠之, 小山雅章, 陸川秀智, 斎藤 勉, 堀口 実, 河西 徹, 福田達弥, 吉森 勝, 井上直巳, 関 純一, 馬越正通: 他科依頼の緊急内視鏡検査の検討. 第62回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 1996. 6.
- 26) 坊 英樹, 伊藤正秀, 角田誠之, 小山雅章, 田中賢助, 陸川秀智, 斎藤 勉, 堀口 実, 河西 徹, 福田達弥, 吉森 勝, 井上直巳, 関 純一, 豊島 明, 馬越正通: ヘリコバクター・ピロリの背景胃粘膜における好中球浸潤と微量元素. 第62回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 1996. 6.
- 27) 駒崎敏昭, 伊藤正秀, 山口裕史, 渡辺昌則, 原 一郎, 角田誠之, 小山雅章, 田中賢助, 陸川秀智, 斎藤 勉, 堀口 実, 河西 徹, 福田達弥, 吉森 勝, 井上直巳, 関 純一, 馬越正通: 緊急内視鏡検査により発見された, 出血性胃潰瘍併存胃癌の3例. 第62回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 1996. 6.
- 28) 伊藤達也<sup>1)</sup>, 伊藤正秀, 角田誠之, 増田家文<sup>1)</sup>, 上田征夫<sup>1)</sup>, 原文 男<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>第二病院内科): 内視鏡的に長期観察しえた直腸粘膜脱症候群の臨床経過像. 第62回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 1996. 6.
- 29) 斎藤 勉, 伊藤正秀, 角田誠之, 田中賢助, 小山雅章, 陸川秀智, 堀口 実, 河西 徹, 福田達弥, 吉森 勝, 井上直巳, 関 純一, 馬越正通: 出血性直腸炎難治例の内視鏡的臨床的検討. 第62回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 1996. 6.
- 30) 角田誠之, 伊藤正秀, 福田達弥, 馬越正通: 良性大腸疾患の背景粘膜における粘膜内免疫グロブリン A 含有細胞分布の検討. 第41回神奈川消化器病研究会, 1996. 6.
- 31) 坊 英樹, 伊藤正秀, 豊島 明, 角田誠之, 小山雅章, 田中賢助, 駒崎敏昭, 井上直巳, 馬越正通: ヘリコバクター・ピロリ感染胃粘膜における好中球浸潤と微量元素 (Cu). 第41回神奈川消化器病研究会, 1996. 6.
- 32) 伊藤正秀, 角田誠之, 田崎達也, 小山雅章, 馬越正通, 安室尚樹<sup>1)</sup>, 永井信也<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>第二病院健康管理科): 職域における成人病, その最近の動向. 第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 9.
- 33) 角田誠之, 伊藤正秀, 福田達弥, 小山雅章, 馬越正通, 櫻井四郎<sup>1)</sup>, 湯川雅枝<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>大妻女子大学社会情報学部, <sup>2)</sup>国立放射線医学総合研究所環境衛生部): 大腸粘膜内微量元素の検討—第2報—金属薄膜法による PIXE 分析の応用. 第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 9.
- 34) 渡辺昌則, 吉田 宏, 伊藤正秀, 水谷 聡, 小峰 修, 吉野雅則, 坊 英樹, 駒崎敏昭, 角田誠之, 山口裕史, 原 一郎, 馬越正通: Gardner 症候群の1例. 第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 9.
- 35) 的場康徳, 豊島 明, 内藤英二, 田崎達也, 原 一郎, 角田誠之, 伊藤正秀, 馬越正通: 消化管穿孔における術前上部消化管内視鏡検査の必要性. 第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 9.
- 36) 豊島 明, 伊藤正秀, 角田誠之, 馬越正通, 櫻井四郎<sup>1)</sup>, 湯川雅枝<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>大妻女子大学社会情報学部, <sup>2)</sup>国立放射線

- 医学総合研究所環境衛生部)：消化性潰瘍の背景胃粘膜における *Helicobacter pylori* と胃粘膜内微量元素 (Zn, Fe), 逆流胆汁酸 (TCDC) との関係 (第7報) 第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 9.
- 37) 小山雅章, 伊藤正秀, 角田誠之, 田中賢助, 陸川秀智, 斎藤 勉, 堀口 実, 河西 徹, 福田達弥, 吉森 勝, 井上直巳, 馬越正通: Functional dyspepsia および類似症例の検討. 第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 9.
- 38) 田中賢助, 伊藤正秀, 角田誠之, 斎藤 勉, 小山雅章, 陸川秀智, 堀口 実, 河西 徹, 福田達弥, 吉森 勝, 井上直巳, 馬越正通: 難治性出血性直腸炎の検討. 第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 9.
- 39) 駒崎敏昭, 伊藤正秀, 角田誠之, 渡辺昌則, 内藤英二, 山口裕史, 馬越正通: 吐血に対する緊急内視鏡検査により偶然発見された潰瘍併存胃癌の4症例. 第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 9.
- 40) 坊 英樹, 伊藤正秀, 豊島 明, 角田誠之, 小山雅章, 田中賢助, 馬越正通: *Helicobacter pylori* 感染胃粘膜における微量元素と好中球浸潤および慢性胃炎について. 第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 9.
- 41) 堀口 実, 伊藤正秀, 小山雅章, 角田誠之, 田中賢助, 陸川秀智, 斎藤 勉, 河西 徹, 福田達弥, 吉森 勝, 井上直巳, 山口裕史, 馬越正通: 免疫学的便潜血反応検査実施の意義—大腸癌検診と外来受診者との比較—. 第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 9.
- 42) 福田達弥, 角田誠之, 伊藤正秀, 馬越正通: 下部消化管粘膜内 IgA 含有細胞分布の検討—第5報—. 第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 9.
- 43) 的場康徳, 伊藤正秀, 角田誠之, 豊島 明, 内藤英二, 田崎達也, 原 一郎, 馬越正通: 消化管穿孔における術前上部消化管内視鏡検査の意義. 第52回日本消化器内視鏡学会総会, 1996. 9.
- 44) 原 一郎, 渡辺昌則, 山口裕史, 田崎達也, 馬越正通, 小俣 香<sup>1)</sup>, 渡部英之<sup>1)</sup>, 難波 亨<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>第二病院放射線科, <sup>2)</sup>黒河内病院): Marlex Mesh で再建した横隔膜合併切除肝癌の1例. 第58回日本臨床外科学会総会, 1996. 10.
- 45) 山口裕史, 渡辺昌則, 原 一郎, 駒崎敏昭, 豊島 明, 坊 英樹, 馬越正通: 腸閉塞と合併した腸管子宮内膜症の1手術例. 第58回日本臨床外科学会総会, 1996. 10.
- 46) 渡辺昌則, 原 一郎, 赤岩 順<sup>1)</sup>, 駒崎敏昭, 豊島 明, 山口裕史, 田崎達也, 馬越正通 (<sup>1)</sup>育生会横浜病院): 著明な脾内進展を示した脾尾部浸潤性脾管癌の1例. 第58回日本臨床外科学会総会, 1996. 10.
- 47) 的場康徳, 片山博徳<sup>1)</sup>, 原 一郎, 馬越正通 (<sup>1)</sup>多摩永山病院病理部): 穿孔性胃・十二指腸潰瘍に対する穿孔部閉鎖術式の選択. 第58回日本臨床外科学会総会, 1996. 10.
- 48) 鈴木和徳: 痔核根治手術における半閉鎖と全閉鎖の比較. 第51回日中大腸肛門病学会総会, 1996. 10.
- 49) 長谷川信吉<sup>1)</sup>, 鈴木和徳, 松島 誠<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>松島病院大腸肛門センター): 当院における内圧検査の実際. 第51回日中大腸肛門病学会総会, 1996. 10.
- 50) 松村奈緒美<sup>1)</sup>, 鈴木和徳, 松島 誠<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>松島病院大腸肛門センター): 術前深部痔瘻と診断された深肛門後隙 (courtney'space) の epidermoid cyst の症例. 第51回日中大腸肛門病学会総会, 1996. 10.
- 51) 渡辺昌則, 伊藤正秀, 吉田 宏, 角田誠之, 山口裕史, 原 一郎, 馬越正通: Gardner 症候群の1例. 第63回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 1996. 11.
- 52) 豊島 明, 伊藤正秀, 角田誠之, 馬越正通, 櫻井四郎<sup>1)</sup>, 湯川雅枝<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>大妻女子大学社会情報学部, <sup>2)</sup>国立放射線医学総合研究所環境衛生部): 消化性潰瘍の背景胃粘膜における *Helicobacter pylori* と胃粘膜内微量元素 (Zn, Fe), 逆流胆汁酸 (TCDC) との関係 (第8報). 第63回日本消化器内視鏡学会関東地方会, 1996. 11.
- 53) 角田誠之, 伊藤正秀, 福田達弥, 小山雅章, 馬越正通, 櫻井四郎<sup>1)</sup>, 湯川雅枝<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>大妻女子大学社会情報学部, <sup>2)</sup>国立放射線医学総合研究所環境衛生部): 大腸粘膜内微量元素の検討—第4報— 金属薄膜法による PIXE 分析の応用. 第14回大腸検査法研究総会, 1996. 11.
- 54) 小山雅章, 伊藤正秀, 角田誠之, 田中賢助, 馬越正通: 有愁訴外来受診者に対する免疫学的便潜血反応検査実施の意義—follow up 大腸検査の結果をあわせて—. 第14回大腸検査法研究総会, 1996. 11.
- 55) 豊島 明, 久吉隆郎<sup>1)</sup>, 平田知己<sup>1)</sup>, 日置正文<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>第二病院外科): 胸空鏡観察を併用した胸壁神経梢腫の1切除例. 第58回日本臨床外科学会総会, 1996. 10.



- 56) 渡辺昌則, 駒崎敏昭, 山口裕史, 田崎達也, 原 一郎, 伊藤正秀, 馬越正通, 村澤恒男<sup>1)</sup>, 原 文男<sup>1)</sup>, 廣瀬始之<sup>2)</sup>, 富田 勝<sup>2)</sup> (1)第二病院内科, 2)第二病院泌尿器科): 胃癌術後, 後腹膜再発による閉塞性腎不全に対する複数科治療 2 症例の検討. 日本医科大学医学会第90回例会, 1996. 11.
- 57) 豊島 明, 伊藤正秀, 角田誠之, 小山雅章, 田中賢助, 馬越正通: 消化性潰瘍における *Helicobacter pylori* 除菌の検討. 日本医科大学医学会第90回例会, 1996. 11.
- 58) 小山雅章, 伊藤正秀, 角田誠之, 田中賢助, 馬越正通: 有愁訴外来受診者に対する免疫学的便潜血反応検査実施の意義 (第 2 報). 日本医科大学医学会第90回例会, 1996. 11.
- 59) 田中賢助, 伊藤正秀, 角田誠之, 小山雅章, 陸川秀智, 堀口 実, 吉森 勝, 河西 徹, 斎藤 勉, 福田達弥, 井上直巳, 馬越正通: 下血に対する colonoscopy のタイミング. 日本医科大学医学会第90回例会, 1996. 11.
- 60) 小峯 修, 吉野雅則, 水谷 聡, 内藤英二, 渡辺昌則, 田崎達也, 原 一郎, 馬越正通, 菅原 通<sup>1)</sup>, 鈴木憲康<sup>1)</sup>, 池野廣幸<sup>1)</sup>, 原 文男<sup>1)</sup> (1)第二病院中央検査室): 当科における消化管術後の MRSA 感染症についての検討. 日本医科大学医学会第90回例会, 1996. 11.
- 61) 吉野雅則, 平野文也, 原 一郎, 馬越正通, 増田康文<sup>1)</sup>, 村澤恒男<sup>1)</sup>, 原 文男<sup>1)</sup>, 廣瀬始之<sup>2)</sup>, 富田 勝<sup>2)</sup> (1)第二病院内科, 2)第二病院泌尿器科): 直腸癌術後急性腎不全に対し人工透析が有効であった 1 症例. 日本医科大学医学会第90回例会, 1996. 11.
- 62) 永井信也<sup>1)</sup>, 安室尚樹<sup>1)</sup>, 菊池真理<sup>2)</sup>, 佐藤雅史<sup>2)</sup>, 渡部英之<sup>2)</sup>, 田中賢助, 小山雅章, 角田誠之, 伊藤正秀, 馬越正通 (1)第二病院健康管理科, 2)第二病院放射線科): 当院の人間ドックにおける消化管検査の現状. 日本医科大学医学会第90回例会, 1996. 11.
- 63) 水谷 聡, 渡辺昌則, 原 一郎, 田崎達也, 山口裕史, 駒崎敏昭, 伊藤正秀, 馬越正通: Neoajuvant chemotherapy が奏効いた進行食道癌の 1 例. 第76回日本外科集談会関東地方会, 1996. 12.
- 64) 渡辺昌則, 平田知己<sup>1)</sup>, 原 一郎, 伊藤正秀, 馬越正通 (1)第二病院外科): 胃癌間質における筋線維芽細胞増殖の意義. 第11回神奈川胃癌治療研究会, 1996. 12.
- 65) 的場康徳, 片山博徳<sup>1)</sup>, 大網 弘<sup>2)</sup> (1)多摩永山病院病理部, 2)観音台クリニック): 穿孔性酢酸潰瘍における大網の抗炎症作用と創傷治癒. 第24回日本実験潰瘍学会総会, 1996. 12.
- 66) 豊島 明, 伊藤正秀, 角田誠之, 馬越正通: 消化性潰瘍の背景胃粘膜における異型上皮と逆流胆汁酸, *Helicobacter Pylori* との関連. 第14回川崎市医師会医学会, 1997. 2.
- 67) 豊島 明, 久吉隆郎<sup>1)</sup>, 山下康夫<sup>1)</sup>, 平野滋之<sup>1)</sup>, 増田 栄<sup>1)</sup>, 朽方規喜<sup>1)</sup>, 平田知己<sup>1)</sup>, 日置正文<sup>1)</sup>, 田中茂夫<sup>2)</sup>, 黒崎貞行<sup>3)</sup> (1)第二病院外科, 2)第二外科, 3)第二病院耳鼻咽喉科): 典型的な肺転移像を示した頭頸部扁平上皮癌の 1 例. 第764回外科集談会. 1997. 3.
- 68) 原 一郎, 的場康徳, 渡辺昌則, 吉田 宏, 田崎達也, 馬越正通: 腫瘤形成性虫垂炎に対する保存的治療の検討. 第28回日本腹部救急医学会総会, 1997. 3.
- 69) 渡辺昌則, 原 一郎, 馬越正通: 食道癌術後多臓器不全に対し集学的治療が奏効した 1 症例. 第28回日本腹部救急医学会総会, 1997. 3.
- 70) 内藤英二, 栗原雄司, 的場康徳, 田崎達也, 原 一郎, 馬越正通, 内藤哲夫<sup>1)</sup> (1)内藤外科胃腸科医院): 鈍的腹部外傷後の遅発性大腸狭窄の 1 症例. 第28回日本腹部救急医学会総会, 1997. 3.
- 71) 栗原雄司, 内藤英二, 的場康徳, 田崎達也, 原 一郎, 馬越正通: Pseud Meigs 症候群を呈した下行結腸癌の 1 例. 第28回日本腹部救急医学会総会, 1997. 3.

## [第二病院リハビリテーションセンター]

### 研究概要

リハビリテーション科では脳外科, 神経内科, 整形外科, 小児科など臨床の各科の患者の治療にあたり, 患者層は

多彩であるとともに、スタッフも医師をはじめ理学療法士、作業療法士、言語療法士、ソーシャルワーカー、看護婦といわゆるメディカルとのチーム医療が実践されている。研究面にもこのことが反映され、各スタッフがそれぞれ関心ある領域の研究が行われている。

リハ医学の基礎的な分野では主として随意運動の電気生理学的研究が引き続き行われ、またリハビリテーションの科学的・理論的整理を行っている。

理学療法・作業療法分野では高次脳機能障害の臨床的研究および退院後の自立性維持のための家屋環境につき追跡調査を続けながら、その問題点等の検討を行っている。言語療法関係では言語の「意味」をめぐる様々な障害について引き続き臨床的な研究を行っている。ソーシャルワーカー分野では障害者の職場復帰等社会的援助について検討を行っている。

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著：

- 1) 小原真知子：中途障害者の職場復帰支援体制のあり方 ―医療機関からのアプローチを通して―。職リハネットワーク 1996；32：4-9。
- 2) 竹内孝仁：イギリスのケアマネジメント。リハビリテーション研究 1996；88：15-20。
- 3) 竹内孝仁：よりよいケアマネジメントのために ―そのいくつかの条件―。GP net 1996；11：10-13。
- 4) 竹内孝仁：自立支援のための地域リハビリテーション事業の具体的展開。地域保健 1996；27(7)：22-25。
- 5) 竹内孝仁：英国のケアマネジメントとハウスアダプテーション。高齢者のすまいづくり通信 24 1996：8-9。
- 6) 竹内孝仁：リハビリテーションにおける介護問題。RSW 研究会誌 1996；19：28-45。
- 7) 中川博文，北村純一，高橋 賞：光弾性手法による背臥位時の肩甲骨部周辺における接触圧分布解析。第27回応力・ひずみ測定シンポジウム講演論文集 1996；27：19-24。
- 8) 中川博文，北村純一，高橋 賞：光弾性手法による背臥位時の肩甲骨部周辺における接触圧分布解析。日本機械学会論文集 1997；62：269-272。

#### (2) 綜説：

- 1) 竹内孝仁：10周年記念対談 対遠藤尚志 お祭りの越し方・行く末―専門家の在り方を問う―。月刊ブリコラージュ 1996；8(4)：27-33。
- 2) 竹内孝仁：ケアマネジメントのプロセスと実際：'96トータルケアマネジメント創刊準備号 1996：11-17。
- 3) 竹内孝仁：看護基礎教育におけるリハビリテーション的思考。済生 1996；804：22-33。
- 4) 竹内孝仁：未だ病ならず ―変わる病のイメージ―。作業療法ジャーナル 1996；30(7)：563-570。
- 5) 竹内孝仁：ケアマネジメント概論。プライマリ・ケア 1996；19(3)：182-185。
- 6) 竹内孝仁：新しい介護体制の幕あけ。月刊福祉 1996；11：50-51。
- 7) 竹内孝仁：なぜ、いま「ケアマネジメント」なのか ニーズに基づくサービスの提供。APOLLONIA21 1996；35：50-54。
- 8) 竹内孝仁：医療モデルであることの限界。医療96 1996；12(11)：14-17。
- 9) 竹内孝仁：生活を援助する医療への途(1)医療は二重のコミュニケーションによって成り立っている。歯界展望 1997；89(1)：106-107。
- 10) 竹内孝仁：生活を援助する医療への途(2)医療と人 何が人を真に治しうるか。歯界展望 1997；89(2)：350-351。
- 11) 竹内孝仁：地域リハビリテーションの課題と展望(1)。戸山サンライズ情報 1997；2：2-4。
- 12) 竹内孝仁：寝たきりにさせないボランティア活動 ―寝たきりをつくらないボランティア―。精神保健シリーズ 1997；10：3-21。

- 13) 竹内孝仁：生活を援助する医療への途(3)老人医療は元気がキーワード。歯界展望 1997；89(3)：576-577.
- 14) 北村純一：脳卒中片麻痺の運動障害とその回復：総合リハ 1996；24：1063-1067.
- 15) 北村純一：脳卒中片麻痺の運動障害とリハビリテーション：人間の医学 1997；32：366-370.
- 16) 北村純一：実地医家が知っておくべきリハビリテーションの知識：日本醫事新報 1997；3803：27-32.

## 著 書

- 1) 竹内孝仁：TAKEUCHI 実践ケア学ケアマネジメント。1996；医歯薬出版。
- 2) 竹内孝仁：TAKEUCHI 実践ケア学通所ケア学。1996；医歯薬出版。

## 学会発表

### (1) 招待講演：

- 1) 北村純一：脳卒中片麻痺の運動回復とリハビリテーション—危険因子との関係も含めて—。第359回実地医家の会例会，1996。10。

### (2) 一般講演：

- 1) Kitamura J, Akiyama N, Oya A, Takeuchi T：Long loop reflex and functional recovery of paretic hand in hemiplegia. The Asian Symposium of Clinical Neurophysiology (Peking, China), 1996。9。
- 2) 増田康文<sup>1)</sup>，川口直美<sup>1)</sup>，西垣朝裕<sup>1)</sup>，松本茂之<sup>1)</sup>，鈴木 攻<sup>1)</sup>，村沢恒男<sup>1)</sup>，上田 征夫<sup>1)</sup>，原文男<sup>1)</sup>，北村純一<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>日本医大付属第二病院内科）：急性腎不全で発症し ARDS を合併した Wegener 肉芽腫 (WG) の 1 例。第 445 回日本内科学会関東地方会，1996。5。
- 3) 北村純一，田島圭輔，矢部きのみ，穂山尚子，大矢亜野，竹内孝仁：長ループ反射と体性感覚誘発電位による脳卒中片麻痺の麻痺側手指の機能回復の検討。第 37 回日本神経総会，1996。5。
- 4) 宮田光明，榎本雪絵，木村義徳，井上直子，丸山玲子，北村純一，竹内孝仁：脳卒中片麻痺患者移動 FIM6・7 における重心動揺検査パラメーターの比較・検討。第 31 回日本理学療法士学会，1996。5。
- 5) 木村義徳，宮田光明，榎本雪絵，井上直子，丸山玲子，勝又千鶴，大沢昌子，田中芳江，竹内孝仁：リハビリ教室継続参加者における FIM・運動能力パラメーターの検討。第 31 回日本理学療法士学会，1996。5。
- 6) 宗近眞理子，菊池和美，望月秀樹，小原眞知子，木村義徳，竹内孝仁：「Home re-evaluation」—4 年間の評価・調査から。第 30 回日本作業療法学会，1996。6。
- 7) 望月秀樹，宗近眞理子，菊池和美，木村義徳，井上直子，田島圭輔，竹内孝仁：クモ膜下出血後に劣位半球症状や性格の尖鋭化を呈し作業療法が難渋した 1 症例の報告。第 30 回日本作業療法学会，1996。6。
- 8) 菊池和美，宗近眞理子，望月秀樹，丸山玲子，木村義徳，矢部きのみ，竹内孝仁：右片麻痺に肺梗塞を併発した症例に対する作業療法の経験。第 30 回日本作業療法学会，1996。6。
- 9) 榎本雪絵，木村義徳，宮田光明，丸山玲子，井上直子，北村純一，竹内孝仁：Branchial arch Syndrome 2 症例の嚥下・呼吸訓練の経験。第 2 回日本摂食・嚥下リハビリテーション研究会，1996。9。
- 10) 北村純一，穂山尚子，大矢亜野，竹内孝仁，西澤善樹，藤田武久，橋本 清：鰓弓症候群の 2 症例。第 1 回関東地方リハビリテーション医学地方会，1996。10。
- 11) 北村純一，穂山尚子，大矢亜野，竹内孝仁：長ループ反射と体性感覚誘発電位による脳卒中片麻痺の麻痺側手指の機能回復の検討。第 26 回日本脳波・筋電図学術大会，1996。10。
- 12) 新貝尚子，竹内孝仁，金子真人<sup>1)</sup>，前川真紀<sup>2)</sup>，種村 純<sup>3)</sup>（<sup>1)</sup>都立松沢病院リハ科言語室，<sup>2)</sup>横浜総合病院リハ科言語室，<sup>3)</sup>川崎医療福祉大学感覚矯正学科）：視覚的に意味情報をアクセスしにくい失読症例—漢字単語の Lexical decision task による検討—。第 20 回日本失語症学会総会，1996。11。
- 13) 北村純一，穂山尚子，大矢亜野，矢部きのみ，竹内孝仁，朽方規喜<sup>1)</sup>，日置正文<sup>1)</sup>（<sup>1)</sup>日本医大付属第二病院外科）：慢性末梢動脈硬化症により腓骨神経麻痺をきたした 1 症例。第 2 回関東地方リハビリテーション医学会，1996。

## [第二病院健康管理科]

### 研究概要

健康管理科では人間ドックおよび川崎市の成人病健診および老人健診を行っておりドック、健診の成績より成人における生活習慣病の予防や老人の健康状態や管理指導における問題点について検討している。本年度は1)人間ドックの超音波検査による脂肪肝の診断について、診断の精度の向上のための脂肪肝スコアの導入の有用性について報告した。2)人間ドックにおける上部、下部消化管検査についての現状を分析し面接による人間ドック事後指導が2次検査の受診率を向上させるために重要であること、またスクリーニングとしての下部消化管検査の必要性について報告した。3)企業健診の結果からストレスが要因と思われる消化性潰瘍や高血圧が増加していることや大腸癌検診の1次検査としての免疫学的便潜血反応の重要性について報告した。

### 研究業績

#### 学会発表

##### (1) 一般講演：

- 1) 佐藤周三<sup>1)</sup>、中野博司<sup>1)</sup>、都宮 伸<sup>1)</sup>、木川好章<sup>1)</sup>、草野宏和<sup>1)</sup>、仲地紀勝<sup>1)</sup>、井川宗彦<sup>1)</sup>、永井信也、大庭建三<sup>1)</sup>、妻鳥昌平<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>付属病院老人科)：インスリン非依存型糖尿病の腎障害の指標の比較検討—大血管障害の影響の面より—。第39回日本糖尿病学会年次学術集会、1996。5。
- 2) 平井眞明<sup>1)</sup>、大庭健三<sup>1)</sup>、仲地紀勝<sup>1)</sup>、永井信也、安室尚樹、淵上正章<sup>1)</sup>、中野博司<sup>1)</sup>、妻鳥昌平<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>付属病院老人科)：老年者糖尿病患者の尿中 NAG 指数の測定意義—アルブミン指数との比較。第38回日本老年医学会学術集会、1996。6。
- 3) 永井信也、安室尚樹、荒井誠一<sup>1)</sup>、鈴木久美<sup>1)</sup>、越谷美由紀<sup>1)</sup>、山賀節子<sup>1)</sup>、玉手ひさ子<sup>1)</sup>、池野廣幸<sup>1)</sup>、原文男<sup>1)</sup>、笹井恵子<sup>2)</sup>、中野博司<sup>2)</sup>、大庭建三<sup>2)</sup>、妻鳥昌平<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>第二病院中央検査室、<sup>2)</sup>付属病院老人科)：人間ドックにおける脂肪肝の診断。第37回日本人間ドック学会、1996。8。
- 4) 伊藤正秀<sup>1)</sup>、角田誠之<sup>1)</sup>、山崎達也<sup>1)</sup>、小山雅章<sup>1)</sup>、安室尚樹、永井信也、馬越正通<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>第二病院消化器病センター)：職域における成人病、その最近の動向。第64回日本医科大学医学会総会、1996。9。
- 5) 永井信也、安室尚樹、菊池真理<sup>1)</sup>、佐藤雅史<sup>1)</sup>、渡部英之<sup>1)</sup>、田中賢助<sup>2)</sup>、小山雅章<sup>2)</sup>、角田誠之<sup>2)</sup>、伊藤正秀<sup>2)</sup>、馬越正通<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>第二病院放射線科、<sup>2)</sup>第二病院消化器病センター)：当院の人間ドックにおける消化管検査の現状。日本医科大学医学会第90回例会、1996。11。

## [第二病院病理部]

### 研究概要

この1年間は、主として気道上皮の反応でサイトケラチン発現に焦点を絞った。その内容は表皮細胞のサイトケラチン発現と興味ある対応を示した。今後この上皮系の反応が内皮系とどのように反応するか検討したい。病院病理部での仕事はこれで一応終了し、今後は松本新部長の下での発展を期待したい。(川並)

外科病理症例の積み重ねによるケース・スタディや診断の難解な症例の免疫組織学および電子顕微鏡的な検索と言った病院病理学業務に沿った研究が主体であるが、平成5年より続けている臓器移植の際の保存再灌流障害(肺、肝臓、小腸、心臓)に関する群馬大学との共同研究および平成7年より慶応大学で行われている生体肝移植症例の臨床病理学的検討に関する共同研究も継続中である。(松本)

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著：

- 1) 中島美知子<sup>1)</sup>, 川並汪一<sup>(1)皮膚科</sup>): ヒト気道肺胞系上皮細胞におけるサイトケラチンと VII 型コラーゲンの発現. 日皮学会誌 1996; 106: 965-974
- 2) 持丸 博<sup>1)</sup>, 高橋卓夫<sup>1)</sup>, 久勝章司<sup>1)</sup>, 河内重人<sup>1)</sup>, 日野光紀<sup>1)</sup>, 川並汪一<sup>(1)内科学第 4</sup>): 急性好酸球性肺炎の臨床病理学的検討. 日胸疾会誌 1997; 35: 22-29.
- 3) 上坂真司<sup>1)</sup>, 中山義人<sup>1)</sup>, 柴崎 徹<sup>1)</sup>, 青木孝文<sup>1)</sup>, 吉原 潔<sup>1)</sup>, 小池達哉<sup>1)</sup>, 柏木俊治<sup>1)</sup>, 梶原浩嗣<sup>1)</sup>, 田中功一<sup>1)</sup>, 柴田祐加子<sup>1)</sup>, 白井康正<sup>1)</sup>, 川並汪一<sup>(1)整形外科</sup>): 高齢者に発生した胸椎骨肉腫の 1 例. 神奈川整・災誌 1996: 9: 43-48.
- 4) 川並汪一, 中島美知子<sup>1)</sup> (<sup>1)皮膚科</sup>): 肺の創傷治癒における細胞外マトリックス—特に上皮細胞, 内皮細胞との関連について. 呼吸 1997; 16: 202-209.

#### (2) 総説：

- 1) 川並汪一, 榎本達治<sup>1)</sup> (<sup>1)内科学第 4</sup>): 肺好酸球性肉芽腫症の最近の考え方. (特集; びまん性肺疾患—病態解明と治療の進歩). 内科 1996; 77: 689-692.
- 2) 川並汪一: 気道上皮細胞の微細構造とケラチン表現型. (特集; アレルゲンの吸収と応答). アレルギーの領域 1996; 3: 1263-1267.
- 3) 川並汪一, 中島美知子<sup>1)</sup> (<sup>1)皮膚科</sup>): 気道上皮細胞のケラチン発現とその意義. 治療 1996; 79: 193-198.

### 著書

- 1) 川並汪一, 齋木茂樹: [分担] I 型, II 型肺胞上皮細胞 [keyword1996-'97呼吸器系] (編集: 小倉剛, 日和田邦男, 山木戸道郎) 1996; pp32-33, 先端医学社.
- 2) 川並汪一: [分担] 気道 [アレルギー分子メカニズムから病態・診断・治療まで] (編集: 羅智 靖, 大田 健, 河野陽一, 古江増隆) pp52-53, 実験医学別冊メヂカル用語ライブラリー.
- 3) 川並汪一: [分担] 肺胞蛋白症 [病理学キーワード'97] 1997; p253, 病理と臨床 (臨時増刊号).

### 学会発表

#### (1) 一般講演：

- 1) Mochimaru H<sup>1)</sup>, Takahashi T<sup>1)</sup>, Kwanami O, Kawamoto M<sup>2)</sup>, Fukuda Y<sup>2)</sup>, Kudo S<sup>1)</sup> (<sup>1)内科学第 4</sup>, <sup>2)病理学第 1</sup>): Characteristic of acute eosinophilic pneumonia. The 91th ALA/ATS International Meeting, (New Orleans, USA), 1996. 5.
- 2) Kawanami O, Kaneko Y<sup>1)</sup>, Kudoh S<sup>1)</sup>, Takemura T<sup>2)</sup>, Hayashi T<sup>1)</sup>, Travis WD<sup>3)</sup>, Ferrans VJ<sup>4)</sup> (<sup>1)内科学第 4</sup>, <sup>2)日赤医療センター病理部</sup>, <sup>3)AFIP 肺・縦隔病理部門</sup>, <sup>4)NHLB 病理部門</sup>): Vascular sprouts in areas of intraalveolar fibrosis: Comparative analysis of angiogenesis in various types of interstitial lung diseases. The 91th ALA/ATS International Meeting, (New Orleans, USA), 1996. 5.
- 3) Nakajima M<sup>1)</sup>, Kawanami O, Honda M<sup>1)</sup>, Ferrans VJ<sup>2)</sup> (<sup>1)皮膚科</sup>, <sup>2)NHLB 病理部門</sup>): Immunohistochemical and ultrastructural study of the distribution of cytokeratins and type VII collagen in the normal human respiratory system. The 91th ALA/ATS International Meeting, (New Orleans, USA), 1996. 5.
- 4) Enomoto T<sup>1)</sup>, Kawanami O, Sato M<sup>1)</sup>, Kaneko Y<sup>1)</sup>, Azuma A<sup>1)</sup>, Kudoh S<sup>1)</sup> (<sup>1)内科学第 4</sup>): Diagnostic value of bronchoalveolar lavage for the diagnosis of Langerhans cell granulomatosis. The 91th ALA/ATS International Meeting, (New Orleans, USA), 1996. 5.
- 5) Koyano T<sup>1)</sup>, Takahashi T<sup>1)</sup>, Takeyoshi I<sup>1)</sup>, Hasegawa Y<sup>1)</sup>, Sato Y<sup>1)</sup>, Kobayashi J<sup>1)</sup>, Murakami J<sup>1)</sup>, Yamagishi

- T<sup>1)</sup>, Ohshima T<sup>1)</sup>, Ishikawa S<sup>1)</sup>, Morishita Y<sup>1)</sup>, Matsumoto K, Muramoto M<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>群馬大学第2外科, <sup>2)</sup>藤沢薬品) : The effect of FR167653 on ischemia-reperfusion injury of the canine heart. The international society for heart and lung transplantation. 17th annual meeting and scientific sessions, 1997. 2.
- 6) 榎本達治<sup>1)</sup>, 川並汪一, 金子泰之<sup>1)</sup>, 吾妻安良太郎<sup>1)</sup>, 工藤翔二<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第4) : 気管支肺胞先洗浄法による肺ラングルハンス細胞性肉芽腫症の診断. 第36回日本胸部疾患学会総会 (宇都宮), 1996. 4.
- 7) 金子泰之<sup>1)</sup>, 川並汪一, 工藤翔二<sup>1)</sup>, 武村民子<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>内科学第4, <sup>2)</sup>日赤医療センター病理部) : 各種間質性肺疾患における肺胞腔内繊維化とその病巣中への血管新生. 第36回日本胸部疾患学会総会, 1996. 4.
- 8) 持丸 博<sup>1)</sup>, 高橋卓夫<sup>1)</sup>, 川本雅司<sup>2)</sup>, 福田 悠<sup>2)</sup>, 川並汪一(<sup>1)</sup>内科学第4, <sup>2)</sup>病理学第1) : 急性好酸球性肺炎の臨床病理学的特徴. 第36回日本胸部疾患学会総会, 1996. 4.
- 9) 相田成隆<sup>1)</sup>, 山田宣孝<sup>2)</sup>, 松本光司, 清水一雄<sup>3)</sup>, 田中茂夫<sup>3)</sup> (<sup>1)</sup>病理学第2, <sup>2)</sup>第一病院病理部, <sup>3)</sup>外科学第2) : 血管の三次元構築による甲状腺濾胞病変の観察. 第84回日本病理学会総会, 1996. 4.
- 10) 町田 稔<sup>1)</sup>, 内藤善哉<sup>1)</sup>, 松本光司, 山田宣孝<sup>2)</sup>, 前田昭太郎<sup>3)</sup>, 川並汪一, 大秋美治<sup>4)</sup>, 浅野伍朗<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第2, <sup>2)</sup>第一病院病理部, <sup>3)</sup>多摩永山病院病理部, <sup>4)</sup>千葉北総病院病理部) : 悪性類内膜腫瘍一特に悪性中胚葉混合腫瘍 (Malignant mesodermal mixed tumor) の臨床病理学的検討. 第84回日本病理学会総会, 1996. 4.
- 11) 松本光司, 温 敏<sup>1)</sup>, 山田宣孝<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>第一病院病理部) : 消化管 autonomic nerve tumor について. 第84回日本病理学会総会, 1996. 4.
- 12) 山田宣孝<sup>1)</sup>, 松本光司, 温 敏<sup>1)</sup>, 松久威史<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>第一病院病理部, <sup>2)</sup>外科学第2) : *Helicobacter pylori* 感染胃粘膜の内視鏡像と組織像の関連について. 第84回日本病理学会総会, 1996. 4.
- 13) 温 敏<sup>1)</sup>, 松本光司, 山田宣孝<sup>1)</sup>, 松久威史<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>第一病院病理部, <sup>2)</sup>外科学第2) : *Helicobacter pylori* 感染胃粘膜及び除菌治療後症例の電顕的検討. 第84回日本病理学会総会, 1996. 4.
- 14) 鴨下憲和<sup>1)</sup>, 竹吉 泉<sup>1)</sup>, 大和田 伸<sup>1)</sup>, 高橋 徹<sup>1)</sup>, 小林純哉<sup>1)</sup>, 富沢直樹<sup>1)</sup>, 佐藤泰史<sup>1)</sup>, 長谷川豊<sup>1)</sup>, 斉藤 燈<sup>1)</sup>, 岩波弘太郎<sup>1)</sup>, 小川哲史<sup>1)</sup>, 佐藤啓宏<sup>1)</sup>, 森下靖雄<sup>1)</sup>, 松本光司 (<sup>1)</sup>群馬大学第2外科) : 肺の虚血・再灌流障害に対するFR167653の有用性. 第96回日本外科学会総会, 1996. 4.
- 15) 加藤久盛<sup>1)</sup>, 梅沢勝弘<sup>1)</sup>, 露木佳子<sup>1)</sup>, 越野立夫<sup>1)</sup>, 荒木 勤<sup>1)</sup>, 松本光司, 山田宣孝<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>産婦人科, <sup>2)</sup>第一病院病理部) : 子宮頸部に原発した Malignant Mullerian Mixed Tumor の1例. 第37回日本臨床細胞学会総会, 1996. 5.
- 16) 田辺 稔<sup>1)</sup>, 島津元秀<sup>1)</sup>, 若林 剛<sup>1)</sup>, 遠藤昌夫<sup>1)</sup>, 伊川宏道<sup>1)</sup>, 渡辺宏治<sup>1)</sup>, 増山宏明<sup>1)</sup>, 北島政樹<sup>1)</sup>, 大熊 潔<sup>1)</sup>, 金子 剛<sup>1)</sup>, 星野 健<sup>1)</sup>, 倉持 茂<sup>2)</sup>, 松本光司, 田中紘一<sup>3)</sup> (<sup>1)</sup>慶応大学医学部外科, <sup>2)</sup>慶応大学医学部病理診断部, <sup>3)</sup>京都大学医学部外科学第2) : 生体部分肝移植後のグラフと血管合併症とその対策. 第14回肝移植研究会, 1996. 7.
- 17) 島津元秀<sup>1)</sup>, 若林 剛<sup>1)</sup>, 増山宏明<sup>1)</sup>, 遠藤昌夫<sup>1)</sup>, 伊川宏道<sup>1)</sup>, 横山穰太郎<sup>1)</sup>, 北島政樹<sup>1)</sup>, 星野 健<sup>1)</sup>, 田辺 稔<sup>1)</sup>, 倉持 茂<sup>2)</sup>, 渡辺清明<sup>1)</sup>, 松本光司, 田中紘一<sup>3)</sup> (<sup>1)</sup>慶応大学医学部外科, <sup>2)</sup>慶応大学医学部病理診断部, <sup>3)</sup>京都大学医学部外科学第2) : 生体肝移植後早期の免疫モニタリングとしての TAC の有用性について. 第14回肝移植研究会, 1996. 7.
- 18) 増山宏明<sup>1)</sup>, 島津元秀<sup>1)</sup>, 若林 剛<sup>1)</sup>, 遠藤昌夫<sup>1)</sup>, 伊川宏道<sup>1)</sup>, 横山穰太郎<sup>1)</sup>, 星野 健<sup>1)</sup>, 田辺 稔<sup>1)</sup>, 北島政樹<sup>1)</sup>, 大熊 潔<sup>1)</sup>, 金子 剛<sup>1)</sup>, 倉持 茂<sup>2)</sup>, 松本光司, 片野晴隆<sup>1)</sup>, 田中紘一<sup>3)</sup>, 森 茂郎<sup>4)</sup> (<sup>1)</sup>慶応大学医学部外科, <sup>2)</sup>慶応大学医学部病理診断部, <sup>3)</sup>京都大学医学部外科学第2, <sup>4)</sup>東京大学医科学研究所病理) : 生体肝移植後のグラフト肝に EB ウィルス関連悪性リンパ腫を発生した1例. 第14回肝移植研究会, 1996. 7.
- 19) 松本光司, 温 敏<sup>1)</sup>, 山田宣孝<sup>1)</sup>, 山本泰一<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>第一病院病理部) : Ossifying fibromyxoid tumor of soft part 3例の免疫組織学的な検討および文献の考察. 第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 9.
- 20) 野本達也<sup>1)</sup>, 福生吉裕<sup>1)</sup>, 北見聡章<sup>1)</sup>, 森 貴博<sup>1)</sup>, 本田治久<sup>1)</sup>, 永島幹夫<sup>1)</sup>, 赤石治美<sup>1)</sup>, 赫 彰郎<sup>1)</sup>, 上野則之<sup>2)</sup>, 松本光司 (<sup>1)</sup>内科学第2, <sup>2)</sup>耳鼻咽喉科) : Al-p,  $\gamma$ -GTP の高値を呈したシェーグレン症候群における Bezafi-

brate の一使用経験, 第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 9.

- 21) 温 敏<sup>1)</sup>, 相田成隆<sup>1)</sup>, 松本光司, 山田宣孝<sup>1)</sup>, 松久威史<sup>2)</sup>, 並松茂樹<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup>第一病院病理部, <sup>2)</sup>外科学第2, <sup>3)</sup>第一病院中央研究室): *Helicobacter pylori* の除菌効果および問題例についての検討. 第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 9.
- 22) 小林純哉<sup>1)</sup>, 竹吉 泉<sup>1)</sup>, 大和田進<sup>1)</sup>, 大矢敏裕<sup>1)</sup>, 富沢直樹<sup>1)</sup>, 鴨下憲和<sup>1)</sup>, 岩波弘太郎<sup>1)</sup>, 佐藤泰史<sup>1)</sup>, 長谷川豊<sup>1)</sup>, 松本光司, 森下靖雄<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>群馬大学第2外科): 肝温阻血・再灌流障害に対する FR167653 の有用性. 第32回日本移植学会総会, 1996. 10.
- 23) 小谷野哲也<sup>1)</sup>, 高橋 徹<sup>1)</sup>, 竹吉 泉<sup>1)</sup>, 長谷川豊<sup>1)</sup>, 佐藤泰史<sup>1)</sup>, 小林純哉<sup>1)</sup>, 松本光司, 森下靖雄<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>群馬大学第2外科): 再灌流障害に対する TNF と IL-1 産生阻害剤 FR167653 の効果: 保存心移植実験を通しての評価. 第32回日本移植学会総会, 1996. 10.
- 24) 岩波弘太郎<sup>1)</sup>, 竹吉 泉<sup>1)</sup>, 大和田進<sup>1)</sup>, 小林純哉<sup>1)</sup>, 鴨下憲和<sup>1)</sup>, 佐藤泰史<sup>1)</sup>, 長谷川豊<sup>1)</sup>, 斉藤 燈<sup>2)</sup>, 笠原群生<sup>1)</sup>, 松本光司, 森下靖雄<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>群馬大学第2外科): 小腸移植における温阻血時の腸管粘膜 pH モニタリングの有用性. 第32回日本移植学会総会, 1996. 10.
- 25) 星野 健<sup>1)</sup>, 島津元秀<sup>1)</sup>, 若林 剛<sup>1)</sup>, 田辺 稔<sup>1)</sup>, 増山宏明<sup>1)</sup>, 伊川廣道<sup>1)</sup>, 遠藤昌夫<sup>1)</sup>, 横山稔太郎<sup>1)</sup>, 倉持 茂<sup>2)</sup>, 渡辺清明<sup>1)</sup>, 松本光司, 田中紘一<sup>3)</sup>, Pichlmayr R<sup>4)</sup>, 北島政樹<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>慶応大学医学部外科, <sup>2)</sup>慶応大学医学部病理診断部, <sup>3)</sup>京都大学医学部外科学第2, <sup>4)</sup>ハノーファー大学外科): Transplant aspiration cytology を用いた肝移植後早期の免疫モニタリング法. 第32回日本移植学会総会, 1996. 10.
- 26) 島津元秀<sup>1)</sup>, 若林 剛<sup>1)</sup>, 田辺 稔<sup>1)</sup>, 白杉 望<sup>1)</sup>, 河内茂行<sup>1)</sup>, 隈元雄介<sup>1)</sup>, 唐橋 強<sup>1)</sup>, 吉田 昌<sup>1)</sup>, 増山宏明<sup>1)</sup>, 星野 健<sup>1)</sup>, 伊川廣道<sup>1)</sup>, 遠藤昌夫<sup>1)</sup>, 横山稔太郎<sup>1)</sup>, 大熊 潔<sup>1)</sup>, 金子 剛<sup>1)</sup>, 倉持 茂<sup>2)</sup>, 松本光司, 田中紘一<sup>3)</sup>, 北島政樹<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>慶応大学医学部外科, <sup>2)</sup>慶応大学医学部病理診断部, <sup>3)</sup>京都大学医学部外科学第2): 生体部分肝移植の初期臨床経験—血管合併症を中心に. 第32回日本移植学会総会, 1996. 10.
- 27) 竹吉 泉<sup>1)</sup>, 鴨下憲和<sup>1)</sup>, 大和田進<sup>1)</sup>, 高橋 徹<sup>1)</sup>, 富沢直樹<sup>1)</sup>, 小林純哉<sup>1)</sup>, 岩波弘太郎<sup>1)</sup>, 佐藤 泰<sup>1)</sup>, 長谷川豊<sup>1)</sup>, 小川哲史<sup>1)</sup>, 松本光司, 森下靖雄<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>群馬大学第2外科): 肺の虚血再灌流障害に対する IL-1 及び TNF $\alpha$  産生阻害剤 FR167653 の有用性. 第32回日本移植学会総会, 1996. 10.
- 28) 斉藤良明, 太田吉男, 大庭孝男, 川並汪一, 木村陽一<sup>1)</sup>, 伊東文行<sup>1)</sup>, 中島美智子<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>皮膚科): メルケル細胞癌との鑑別を要した無色素性悪性黒色腫の1例. 第35回日本臨床細胞学会秋期大会学術集会, 1996. 11.
- 29) 太田吉男, 大庭孝男, 斉藤良明, 新井 悟, 久吉隆郎<sup>1)</sup>, 山下康夫<sup>1)</sup>, 清水 一<sup>2)</sup>, 枝川聖子<sup>2)</sup>, 横田 隆<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>外科学第2, <sup>2)</sup>老人病研究所): 捺印細胞診による縦隔腫瘍の細胞所見について. 第35回日本臨床細胞学会秋期大会学術集会, 1996. 11.
- 30) 川並汪一, 松本光司, 新井 悟, 金 恩京: 肺泡領域の繊維化巣における気管支循環系毛細血管の関与. 第9回気道病態シンポジウム, 1997. 1.
- 31) 岩波弘太郎<sup>1)</sup>, 竹吉 泉<sup>1)</sup>, 大和田進<sup>1)</sup>, 小林純哉<sup>1)</sup>, 鴨下憲和<sup>1)</sup>, 長谷川豊<sup>1)</sup>, 斉藤 燈<sup>2)</sup>, 笠原群生<sup>1)</sup>, 松本光司, 森下靖雄<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>群馬大学第2外科): 小腸の虚血再灌流障害時における腸管粘膜 pH モニタリングの有用性. 第49回日本消化器外科学会総会, 1997. 2.

## [第二病院中央検査部]

### 研究概要

当検査室における研究の主な目的は, 臨床検査学の発展に伴う各種検査の精度管理, 検査方法および迅速性について, 日常, 臨床との関連と意義を考察し, 日々の検査をみつめ検査の質の向上と確立に主眼をおいている。

## 研究業績

### 論文

#### (1) 総説：

- 1) 池野廣幸：[特集] 腸管出血性大腸菌 (EHEC)。KAMERADEN, 1996；23：7-12.
- 2) 池野廣幸：腸管感染症と寄生虫。栄養士研修会テキスト, 1996；1-5.
- 3) 池野廣幸：志賀毒素産生性大腸菌 (Shigatoxin-producing Escherichiacoli) 栄養士研修会テキスト, 1996；1-3.

### 著書

- 1) 池野廣幸：臨床検査技師・学生のための臨床実習の心得 (改定第3版), 1996；p 8.

### 学会発表

#### (1) 一般講演：

- 1) 鈴木憲康, 坂倉剛志, 菅原 通, 池野廣幸, 原 文男：手術室内環境清浄度の変動について：簡易空気清浄装置を使用して, 第45回神奈川県臨床衛生検査学会, 1996. 4.
- 2) 坂倉剛志, 鈴木憲康, 菅原 通, 池野廣幸, 原 文男：各種保存状態における強酸性電解酸性水の性能に関する検討, 第45回神奈川県臨床衛生検査学会, 1996. 4.
- 3) 大竹佳世子, 寺尾幸重, 吉岡美香, 津金香代子, 野本恵子, 池野廣幸, 原 文男：全自動血液凝固線溶測定装置 BCT の使用経験, 第45回神奈川県臨床衛生検査学会, 1996. 4.
- 4) 渡部紀子, 小伊藤保雄, 畑 哲, 吉田美和, 井上雅則, 池野廣幸, 原 文男：CRP 測定における改良免疫比濁法試薬の有用性, 第45回神奈川県臨床衛生検査学会, 1994. 4.
- 5) 新潟明子, 成定昌昭, 菊地英子, 池野廣幸, 原 文男：自動分析装置による尿沈渣の信頼性, 日本医科大学医学会第89回例会, 1996. 5.
- 6) 永井信也<sup>1)</sup>, 安室尚樹<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院健康管理科)：荒井誠一, 鈴木久美, 越谷美由紀, 山賀節子, 玉手ひさ子, 池野廣幸, 原 文男：人間ドックにおける脂肪肝の診断, 日本人間ドック学会, 1996. 8.
- 7) 菅原 通, 坂倉剛志, 鈴木憲康, 池野廣幸, 原 文男, 島田洋一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院麻酔科)：簡易浮遊粉塵検知器の有用性について, 第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 9.
- 8) 吉田美和, 渡部紀子, 小伊藤保雄, 畑 哲, 菅原 通, 池野廣幸, 原 文男：生化学自動分析装置によるHbA1c測定試薬の評価, 第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 9.
- 9) 渡部紀子, 吉田美和, 小伊藤保雄, 畑 哲, 菅原 通, 池野廣幸, 原 文男：1, 5AG 測定試薬ラナ1, 5AG オートの基礎的検討, 第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 9.
- 10) 井上雅則, 井梅和美, 隠岐和美, 田村朋美, 野本恵子, 池野廣幸, 原 文男：ペーリングネフェロメーターII による血清蛋白測定の有用性, 第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 9.
- 11) 成定昌昭, 菊地英子, 新潟明子, 池野廣幸, 原 文男：過酸化水素電極法による血糖測定装置アントセンス II の有用性, 第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 9.
- 12) 吉岡美香, 野本恵子, 津金香代子, 中島由美子, 大竹佳世子, 池野廣幸, 原 文男：総合血液学検査装置 H3 の基礎的検討, 第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 9.
- 13) 吉岡美香, 野本恵子, 津金香代子, 中島由美子, 大竹佳世子, 池野廣幸, 原 文男, 総合血液学検査装置 H3 のエラー情報についての検討, 第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 9.
- 14) 鈴木憲康, 坂倉剛志, 菅原 通, 池野廣幸, 原 文男：MRSA 院内感染対策における感染情報レポートについて, 第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 9.
- 15) 坂倉剛志, 鈴木憲康, 菅原 通, 池野廣幸, 原 文男：当検査室における *Helicobacter pylori* の分離培養について, 第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 9.



- 16) 菊地英子, 新岡明子, 成定昌昭, 池野廣幸, 原 文男, 中村俊彦<sup>1)</sup>, 高間都支<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院内科, <sup>2)</sup>同放射線科) : ガストログラフィンにて駆虫を試みた 2 例. 第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 9.
- 17) 鈴木久美, 玉手ひさ子, 山賀節子, 越谷美由紀, 荒井誠一, 菊地英子, 池野廣幸, 原 文男 : 更年期障害患者, 維持透析患者の心室遅延電位 (LP : late potential) 陽性について. 第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 9.
- 18) 小峰 修<sup>1)</sup>, 吉野雅則<sup>1)</sup>, 水谷 聡<sup>1)</sup>, 内藤英二<sup>1)</sup>, 渡辺昌則<sup>1)</sup>, 田崎達也<sup>1)</sup>, 原 一郎<sup>1)</sup>, 馬越正通<sup>2)</sup>, 菅原 通, 鈴木憲康, 池野廣幸, 原 文男(<sup>1)</sup>第二病院消化器病センター, <sup>2)</sup>同院長) : 当科における消化管術後の MRSA 感染症についての検討. 日本医科大学医学会第90回例会. 1996. 11.
- 19) 菅原 通, 池野廣幸, 鈴木憲康, 坂倉剛志, 原 文男, 島田洋一<sup>1)</sup>, 大川共一<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>第二病院麻酔科, <sup>2)</sup>同前院長) : 病院内の環境調査 (第 1 報) 薬剤部における空中微粒子と諸問題. 第12回日本環境感染学会総会, 1997. 2.

## [第二病院薬剤科]

### 研究概要

「効率的な個々の薬物療法の実践」を目標に薬剤師職能を発揮すべく昨年から取り組んできたが、まだまだ満足な結果を得られるまでには至っていない。高齢化社会に伴う疾患の多様化とそれに付随する薬物療法、特に多剤併用による諸問題等、終点のないテーマが頻発している。本年度より薬剤師による薬剤情報提供の義務化が省令化され増々医療の担い手としての責務と、その実践が院内外における薬剤師評価の指標となるであろうことを考慮に入れるとその使命は重い。

やはり最終的に「良質な薬物療法の提供」の目的意志をもってあくなきテーマにチャレンジしていきたい。

### 研究業績

#### 学会発表

##### (1) シンポジウム :

- 1) 島田憲彦, 小坂好男, 菊池有道 : 外来服薬指導の実際. 日本病院薬剤師会私立医大実務者セミナー, 1996. 2.

##### (2) 一般講演 :

- 1) 小坂好男, 有馬貴子, 舟木陽子, 毛利多嘉江, 菊池有道, 村澤恒夫<sup>1)</sup>, 原 文男<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科) : 患者 QOL への薬剤師の関わり (第 III 報) スティーブンス・ジョンソン症候群. 第 6 回クリニカルファーマシーシンポジウム, 1996. 6.
- 2) 小坂好男 : ジゴキシンの TDM. 神奈川県病院薬剤師会第 2 回 TDM セミナー, 1996. 11.
- 3) 小坂好男 : ジゴキシンの TDM. 神奈川県病院薬剤師会第 3 回 TDM セミナー, 1997. 2.

## 23. 多摩永山病院付置施設等

### [多摩永山病院病理部]

#### 研究概要

組織培養，免疫組織化学，電子顕微鏡部門が充実し，病理学教室から大学院生が病理部に配属され，また臨床医の病理部での研究も行われるようになり，さらにタイ国病理学者の留学も今年で3年目となり，研究部門もさらに充実してきた。

現在の主な研究テーマは以下のとおりである。

#### 1) 乳腺腫瘍：

1. 穿刺吸引細胞診による迅速診断法の確立。
2. 乳癌における，ホルモンレセプターと細胞骨格および接着因子の関係について。
3. 乳癌のパラフィン切片による免疫組織化学的検索への応用（マイクロウェーブ処理法など）
4. 転移性乳癌の臨床病理学的研究（特に接着因子と基底膜分解酵素について）

#### 2) 骨軟部腫瘍：

1. 穿刺吸引細胞診による迅速診断法の確立（免疫組織化学，電顕的検索の併用）
2. 骨肉腫の鑑別診断に対するオステオカルチン，オステオネクチン，コラーゲンIの有用性について。

#### 3) 子宮癌：

1. 子宮頸癌の深達度と細胞内骨格，接着因子の関係について。
2. 子宮内膜癌の細胞診による診断の確立（免疫組織化学，電顕的検索の併用）：特にセルブロック法

#### 4) リンパ節病変：

1. リンパ節病変の迅速診断法の検索，免疫細胞学的アプローチ
  2. リンパ節病変の分子生物学的検索（特にウイルスとの関連病態）
- 5) 体腔液の細胞診断法の確立（免疫組織化学的，電顕的検索の併用）：特にセルブロック法

#### 研究業績

##### 論文

[1995年度追加分]

原著：

- 1) Yokose N<sup>1)</sup>, Tanabe Y<sup>1)</sup>, An E<sup>1)</sup>, Osamura Y<sup>1)</sup>, Sugiura T<sup>2)</sup>, Hosone M<sup>1)</sup>, Kobayasi M<sup>1)</sup> (1)the Third Department of Internal Medicine, 2)the Department of Pathology Tokai University School of Medicine) : Acute Gastric Mucosal Lesions Associated with Cytomegalovirus Infection in a Non-Immunocompromised Host. Internal Medicine 34, 883-885, 1995.
- 2) 石田明彦<sup>1)</sup>, 松本讓二<sup>1)</sup>, 小林三平<sup>1)</sup>, 菊地三郎<sup>1)</sup>, 原田雄一<sup>2)</sup>, 細根 勝, 川並汪一<sup>3)</sup>, 大網 弘<sup>4)</sup>, 荒木 勤<sup>1)</sup> (1)付属病院産婦人科, 2)付属病院内科, 3)第二病院病理部, 4)老人病研究所) : 妊娠悪阻治療中に発症した reactive hemophagocytic syndrome の1例. 日産婦関東連会報 1996 ; 33 : 51-54.
- 3) 清野精彦<sup>1)</sup>, 富田善文<sup>1)</sup>, 長野具雄<sup>1)</sup>, 細根 勝 (1)第1内科) : 抗悪性腫瘍剤による心筋症. 日本循環器学会専門医誌循環器専門医 1996 ; 4 : 337-342.
- 4) 丸山晴久<sup>1)</sup>, 白井康正<sup>2)</sup>, 沢泉卓哉<sup>2)</sup>, 藤井信人<sup>2)</sup>, 金田琴恵<sup>2)</sup>, 浅野伍朗<sup>1)</sup> (1)病理学第2, 2)整形外科) : 内軟骨腫に起因する深指屈筋腱停止部剥離骨折の症例. 骨. 関節. 靭帯 1996 ; 10(3) : 359-362.
- 5) 杉山 誠<sup>1)</sup>, 志村俊郎<sup>1)</sup>, 野手洋治<sup>1)</sup>, 佐々木光由<sup>1)</sup>, 林 伸吉<sup>1)</sup>, 古川哲也<sup>1)</sup>, 前田昭太郎, 中沢省三<sup>2)</sup> (1)多摩永

山病院脳神経外科,<sup>2)</sup>付属病院脳神経外科)：後頭蓋窩に著しい進展を示した頭蓋咽頭腫の1例。脳外誌 1996；4：296-302。

(1) 原著：

- 1) 小林由子<sup>1)</sup>，村上隆介<sup>1)</sup>，杉崎健一<sup>1)</sup>，山本 鼎<sup>1)</sup>，田島なつき<sup>2)</sup>，恩田宗彦<sup>3)</sup>，隈崎達夫<sup>3)</sup>，前田昭太郎 (<sup>1)</sup>多摩永山病院放射線科，<sup>2)</sup>千葉北総病院放射線科，<sup>3)</sup>附属病院放射線科)：MRI が診断に有用であった巨大子宮 cellular myoma の1例。臨床放射線 1996；41(5)：591-594。
- 2) 橋本網子<sup>1)</sup>，青木見佳子<sup>1)</sup>，畑三恵子<sup>1)</sup>，矢島 純<sup>1)</sup>，本田光芳<sup>1)</sup>，三橋 清<sup>2)</sup>，百束比古<sup>2)</sup>，熊川美代子<sup>3)</sup>，中山滋章<sup>3)</sup>，島田早苗<sup>4)</sup>，前田昭太郎 (<sup>1)</sup>付属病院皮膚科，<sup>2)</sup>付属病院形成外科，<sup>3)</sup>多摩永山病院眼科，<sup>4)</sup>多摩永山病院耳鼻咽喉科)：マイボーム腺癌の1例。Skin Cancer 1996；11(1)：95-98。
- 3) 稲葉八興<sup>1)</sup>，高瀬真人<sup>1)</sup>，飛田正俊<sup>1)</sup>，向後俊昭<sup>1)</sup>，江上 格<sup>2)</sup>，前田昭太郎 (<sup>1)</sup>多摩永山病院小児科，<sup>2)</sup>多摩永山病院外科)：6カ月健診を契機に発見された cellular congenital mesoblastic nephroma (CMN) の1女児例。小児科 1996；37：873-878。
- 4) 前田昭太郎，浅野伍朗<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>病理学第2)：転移性腫瘍。病理と臨床 1996；14：1041-1050。
- 5) 前田昭太郎，杉崎裕一<sup>1)</sup>，浅野伍朗<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>付属病院病理部，<sup>2)</sup>病理学第2)：運動器一軟部組織の細胞診。癌の臨床 1996；42：1050-1059。
- 6) 細根 勝，前田昭太郎，片山博徳，磯部宏昭，吉田知永<sup>1)</sup>，長江 康<sup>1)</sup>，向後俊昭<sup>2)</sup>，浅野伍朗<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>病理学第2，<sup>2)</sup>多摩永山病院小児科)：胸水穿刺吸引細胞診にて推定診断した非ホジキンリンパ腫。リンパ芽球型の1例。日本臨床細胞学会雑誌 1996；35：590-594。
- 7) 松原美幸<sup>1)</sup>，川本雅司<sup>2)</sup>，田村浩一<sup>1)</sup>，渡会泰彦<sup>1)</sup>，前田昭太郎，杉崎祐一<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>附属病院病理部，<sup>2)</sup>病理学第1)：外陰部 Sebaceous carcinoma の1例。日本臨床細胞学会雑誌 1997；36(1)：25-29。
- 8) 古谷能祥<sup>1)</sup>，山田和昭<sup>1)</sup>，田島紹吉<sup>2)</sup>，前田昭太郎 (<sup>1)</sup>国立病院東京災害医療センター-臨床検査科，<sup>2)</sup>国立療養所東京病院臨床検査科)：気管支肺胞洗浄液喀痰中に Pneumocystis carinii 原虫，糞線虫を認めたくすぶり型 T 細胞白血病の1例。日本臨床細胞学会雑誌 1997；36：(2)179-183。

著 書

- 1) 前田昭太郎：〔分担〕細胞診用語解説集 1996；医学書院。

学会発表

(1) 特別講演：

- 1) 前田昭太郎：乳腺の細胞診。日本臨床細胞学会静岡県支部秋期学術集会，1996。11。

(2) ワークショップ：

- 1) Maeda S：Cytology system and cancer screening program in japan. Workshop in Thailand and Japan, Chiang Mai, Thailand. August, 1996.
- 2) Maeda S：Cytopathology of body fluid Workshop in Thailand and Japan, Chiang Mai, Thailand. August, 1996. in Thailand and Japan, Chiang Mai, Thailand. August, 1996.
- 3) Katayama H, Maeda S：Urine cytology. Workshop in Thailand and Japan, Chiang Mai, Thailand. August, 1996.

(3) シンポジウム：

- 1) Maeda S：Collaboration between Nippon Medical School and Chiang Mai University, and our plan for the future. Symposium in Thailand and Japan, Chiang Mai, Thailand, August, 1996.

(4) 一般講演：

- 1) 長江 康<sup>1)</sup>, 前田昭太郎, 細根 勝, 片山博徳, 浅野伍朗<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>病理学第2)：乳癌におけるカドヘリンの発現様式と組織型, 転移との関連性. 第85回日本病理学会総会, 1996. 4.
- 2) 細根 勝, 前田昭太郎, 片山博徳, 小林みどり<sup>1)</sup>, 浅野伍朗<sup>2)</sup>(<sup>1</sup>多摩永山病院放射線科, <sup>2</sup>病理学第2)：非ホジキンリンパ腫寛解中に発生した EB ウイルス関連ホジキン病の1例. 第85回日本病理学会総会, 1996. 4.
- 3) 町田 稔<sup>1)</sup>, 内藤善哉<sup>1)</sup>, 横山宗伯<sup>1)</sup>, 松本光司<sup>2)</sup>, 山田宣孝<sup>2)</sup>, 前田昭太郎, 大秋美治<sup>3)</sup>, 川並旺一<sup>4)</sup>, 浅野伍朗<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>病理学第2, <sup>2</sup>第一病院病理部, <sup>3</sup>千葉北総病院病理部, <sup>4</sup>第二病院病理部)：悪性類内膜腫瘍—特に悪性中胚葉性混合腫瘍 (Malignant mesodermal mixed tumor) の臨床病理学的検討. 第85回日本病理学会総会, 1996. 4.
- 4) 古谷能祥<sup>1)</sup>, 青木貞男<sup>1)</sup>, 林 博隆<sup>1)</sup>, 山田和昭<sup>1)</sup>, 田島紹吉<sup>2)</sup>, 前田昭太郎 (<sup>1</sup>国立病院東京災害医療センター臨床検査科, <sup>2</sup>国立療養所東京病院臨床検査科)：気管支洗浄液, 喀痰細胞診でカリニ原虫, 糞線虫を認めた ATL 抗体陽性の1症例. 第37回日本臨床細胞学会総会, 1996. 5.
- 5) 細根 勝, 前田昭太郎, 中山滋章<sup>1)</sup>, 片山博徳, 磯部宏昭, 浅野伍朗<sup>2)</sup>(<sup>1</sup>多摩永山病院眼科, <sup>2</sup>病理学第2)：眼瞼結膜原発と考えられる低悪性度 B 細胞性粘膜炎連リンパ腫の1例. 第37回日本臨床細胞学会総会, 1996. 5.
- 6) 松原美幸<sup>1)</sup>, 川本雅司<sup>2)</sup>, 田村浩一<sup>1)</sup>, 渡会泰彦<sup>1)</sup>, 永井祥子<sup>1)</sup>, 前田昭太郎 (<sup>1</sup>附属病院病理部, <sup>2</sup>病理第1)：外陰部 Sebaceous carcinoma の1例. 第37回日本臨床細胞学会総会, 1996. 5.
- 7) 千葉井基泰<sup>1)</sup>, 北原慎太郎<sup>1)</sup>, 高橋文行<sup>1)</sup>, 安田栄一<sup>1)</sup>, 鈴木博昭<sup>2)</sup>, 前田昭太郎(<sup>1</sup>安田病院, <sup>2</sup>東京慈恵会医科大学内視鏡科)：超音波内視鏡所見を契機に腹腔鏡下胃部分切除を施行した胃 glomus 腫瘍の1例. 板橋区医師会医学会, 1996. 6.
- 8) 丸山晴久<sup>1)</sup>, 白井康正<sup>1)</sup>, 前田昭太郎, 浅野伍朗<sup>2)</sup>(<sup>1</sup>整形外科, <sup>2</sup>病理学第2)：原発性骨腫瘍における Osteocalcin, Osteonectin I 型コラーゲンの局在について. 第29回日整会. 骨軟部腫瘍学術集会, 1996. 7.
- 9) 細根 勝, 前田昭太郎：脊髄髄内腫瘍 malignant small round cell tumor. 東京脳腫瘍研究会第67回例会, 1996. 7.
- 10) 谷合信彦<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>, 岡崎滋樹<sup>1)</sup>, 和田雅世<sup>1)</sup>, 横室茂樹<sup>1)</sup>, 小林 匡<sup>1)</sup>, 藤田逸郎<sup>1)</sup>, 吉岡正智<sup>1)</sup>, 前田昭太郎, 恩田昌彦<sup>2)</sup>(<sup>1</sup>多摩永山病院外科, <sup>2</sup>外科第一)：胆嚢原発平滑筋肉腫の切除例. 第762回外科集談会, 1996. 8.
- 11) 日吾美栄子, 前田昭太郎, 細根 勝, 原 博, 片山博徳, 東 敬子, 磯部宏昭, 柳田裕美, 森川記代子, 阿部久美子, 小浜真澄, 田中純也, 長江 康, 丸山晴久：体腔液細胞診におけるセルブロック法の有用性について. 第64回日医大医学会総会, 1996. 9.
- 12) 片山博徳, 前田昭太郎, 細根 勝, 磯部宏昭, 河原 清, 志村俊郎<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>多摩永山病院脳神経外科)：術中診断に迅速免疫染色が有用であった Glioblastoma の1例. 第64回日医大医学会総会, 1996. 9.
- 13) 内田直也<sup>1)</sup>, 片山博徳, 前田昭太郎, 頼 徳成<sup>2)</sup>, 添野眞一<sup>2)</sup>, 島田早苗<sup>2)</sup>(<sup>1</sup>第4学年自主学生), <sup>2</sup>多摩永山病院耳鼻咽喉科)：喉頭腫瘍に対する迅速診断(圧座細胞診, 凍結切片組織診)の有用性. 第64回日医大医学会総会, 1996. 9.
- 14) 磯部宏昭, 前田昭太郎, 細根 勝, 片山博徳, 藤田逸郎<sup>1)</sup>, 江上 格<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>多摩永山病院外科)：Epithelioid leiomyosarcoma の2例. 第64回日医大医学会総会, 1996. 9.
- 15) 阿部久美子, 前田昭太郎, 細根 勝, 原 博, 片山博徳, 東 敬子, 磯部宏昭, 柳田裕美, 森川記代子, 日吾美栄子, 小浜真澄, 田中純也, 長江 康, 丸山晴久：子宮内膜細胞診におけるセルブロックの有用性について. 第64回日医大医学会総会, 1996. 9.
- 16) 細根 勝, 前田昭太郎, 片山博徳, 小林みどり<sup>1)</sup>, 長澤紘一<sup>1)</sup>, 浅野伍朗<sup>2)</sup>(<sup>1</sup>多摩永山病院内科, <sup>2</sup>病理学第2)：非ホジキンリンパ腫加療後に発生した EB ウイルス関連ホジキン病の1例. 第64回日医大医学会総会, 1996. 9.
- 17) 丸山晴久<sup>1)</sup>, 浅野伍朗<sup>1)</sup>, 前田昭太郎, 盛 淳<sup>2)</sup>, 白井康正<sup>2)</sup>(<sup>1</sup>病理学第2, <sup>2</sup>整形外科)：穿刺吸引細胞診で診断しえた小細胞型骨肉腫. 第64回日医大医学会総会, 1996. 9.

- 18) 長江 康<sup>1)</sup>, 亀山孝二<sup>1)</sup>, 横山宗伯<sup>1)</sup>, 内藤善哉<sup>1)</sup>, 浅野伍朗<sup>1)</sup>, 前田昭太郎, 細根 勝, 片山博徳<sup>(<sup>1</sup>病理学第2)</sup>) : 乳癌におけるカドヘリンの発現と腫瘍周囲間質の膠原繊維との関係. 第64回日医大医学会総会, 1996. 9.
- 19) 戸田茂樹<sup>1)</sup>, 鈴木紀成<sup>1)</sup>, 河原 清<sup>1)</sup>, 松本正博<sup>1)</sup>, 志村俊郎<sup>1)</sup>, 前田昭太郎, 寺本 明<sup>2)</sup>(<sup>1</sup>多摩永山病院脳神経外科, <sup>2</sup>付属病院脳神経外科) : 頭蓋骨に原発した硬膜に進展した好酸球肉芽腫の一治験例. 第64回日医大医学会総会, 1996. 9.
- 20) 長江 康<sup>1)</sup>, 前田昭太郎, 細根 勝, 片山博徳, 矢野正雄<sup>1)</sup>, 亀山孝二<sup>1)</sup>, 横山宗伯<sup>1)</sup>, 内藤善哉<sup>1)</sup>, 浅野伍朗<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>病理第2) : 乳癌におけるカドヘリンの発現と細胞増殖能との関連性. 第55回日本癌学会総会, 1996. 10.
- 21) 小倉順子<sup>1)</sup>, 細根 勝, 植松和嗣<sup>2)</sup>, 滝川崇宏<sup>1)</sup>, 杉崎健一<sup>1)</sup>, 村上隆介<sup>1)</sup>, 玉井 仁<sup>1)</sup>, 篠原義智<sup>1)</sup>, 山本 鼎<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>多摩永山病院放射線科, <sup>2</sup>多摩永山病院消化器科) : CT ガイド下針生検による吸引で消失した肺内気管支嚢胞の1例. 第32回日本放射線学会秋季臨床大会, 1996. 10.
- 22) 前田昭太郎, 森山昌樹<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>病理学第2) : 左上顎第2臼歯, 歯根の腫瘍の1例. 日本病理医協会関東支部第7回東京地区病理診断カンファレンス, 1996. 10.
- 23) 山下照代<sup>1)</sup>, 富岡譲二<sup>1)</sup>, 小井土雄一<sup>1)</sup>, 中林基明<sup>1)</sup>, 畝本恭子<sup>1)</sup>, 辻井厚子<sup>1)</sup>, 須崎紳一郎<sup>1)</sup>, 黒川 顯<sup>1)</sup>, 田中純也, 前田昭太郎(<sup>1</sup>多摩永山病院救命急救センター) : 保存的治療にて救命し得なかった重症急性膀胱炎の1例. 日医大医学会第92回例会, 1997. 2.

## [多摩永山病院中央検査室]

### 研究概要

当検査室では新しく開発された測定装置および試薬の有用性, 精度および迅速性について評価をおこなった。さらに近年注目されている院内住環境の向上を目的とし, 細菌環境調査を行いその成果を学会および学会誌に発表した。また, 臨床各科と協力した研究も進行中である。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著 :

- 1) 柴田明佳, 飯野幸永, 鈴木 健<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>多摩永山病院内科) : 手術室を中心とした環境調査 : 3つの方法の比較. 日本手術医学会誌, 1996 ; 17(2) : 129-132.
- 2) 柴田明佳, 飯野幸永, 鈴木 健<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>多摩永山病院内科) : 当院における院内環境調査 : 手術室について. 日本手術医学会誌, 1996 ; 17(3) : 323-326.

#### 学会発表

##### (1) 教育講演 :

- 1) 飯野幸永 : 各大学病院の治験の取り扱いについて. 第42回私立医科大学中央検査部技師長会研修会, 1996, 11.

##### (2) 一般講演 :

- 1) 鈴木摩理, 河村理馨子, 手嶋浩恵, 久保田稔, 鈴木直美, 飯野幸永, 鈴木 健<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>多摩永山病院内科) : パルスジェネレーター組込みホルター心電計による日内活動の評価 : 患者行動日誌との比較検討. 第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 9.
- 2) 福田節子, 千葉逸子, 相澤 正, 浅井信治, 井上 淳, 飯野幸永, 鈴木 健<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>多摩永山病院内科) : ラテックス凝集法によるヘモグロビンA1c測定の有用性. 第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 9.
- 3) 浅井信治, 相澤 正, 千葉逸子, 井上 淳, 福田節子, 飯野幸永, 鈴木 健<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>多摩永山病院内科) : イオン化Mg測定機器AVL-988-4の試用. 第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 9.

- 4) 柴田明佳, 坂爪百合子, 田所久子, 佐藤知枝, 飯野幸永, 鈴木 健<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>多摩永山病院内科): 婦人科領域における酵母様真菌分離培地 CHROM ager Candida の有用性. 第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 9.
- 5) 田所久子, 坂爪百合子, 柴田明佳, 佐藤知枝, 飯野幸永, 鈴木 健<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>多摩永山病院内科): 当院過去3年間における血液培養分離菌の検出状況. 第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 9.
- 6) 飯野幸永, 佐藤知枝, 千葉逸子, 北村誠一<sup>1)</sup>, 村田正弘<sup>2)</sup>, 鹿田あき子<sup>3)</sup>, 遠藤三代子<sup>3)</sup>, 政次富美子<sup>3)</sup>, 森本千秋<sup>4)</sup>, 宮本由紀夫<sup>5)</sup>, 柏木邦彦<sup>5)</sup>, 鈴木 健<sup>6)</sup>, 沖浜裕司<sup>7)</sup>(<sup>1</sup>多摩永山病院放射線科, <sup>2</sup>多摩永山病院薬剤科, <sup>3</sup>多摩永山病院看護部, <sup>4</sup>多摩永山病院栄養科, <sup>5</sup>多摩永山病院事務部, <sup>6</sup>多摩永山病院内科, <sup>7</sup>多摩永山病院消化器科): 当院における過去4年間の針刺し事故の集計. 第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 9.
- 7) 佐藤知枝, 田所久子, 飯野幸永, 鈴木 健<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>多摩永山病院内科): 当院過去3年間における血液培養分離菌の検出と抗生剤使用状況: グラム陽性球菌について. 第12回日本環境感染学会総会, 1997. 2.

## [多摩永山病院薬剤科]

### 研究概要

薬剤科が従来進めて来た研究は実務上生じる問題を多角的に検討し, そこから薬剤師の将来の医療活動につなげるテーマを見つけることであった. 薬剤師の臨床業務が試行の段階から実践として定着しつつある中で研究課題も医療の質の向上につながるものに集約している. 薬事法, 薬剤師法の改正により, 薬剤師の医療の中での責任分担が明確となり, 患者の退院時の服薬指導や外来患者への調剤薬の情報提供等の具体的な進め方を検討実践している. また, 薬学教育の改変に伴い, 薬系大学の大学院生教育を定着させた.

一方, 臨床各科と提携して, 中毒・過量投与時の薬物動態や循環器系, 呼吸器系, 糖尿病患者のファルマコキネティクス, ファルマコダイナミックのデータを解析し, 薬剤の安全な効果的投与法の開発につなげたい.

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著:

- 1) Nakahara Y, Murata M, Suzuki T<sup>1)</sup>, Ohtsu F, Nagasawa K<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>内科学1): Significance of the therapeutic range of serum theophylline concentration in the treatment on an attack of bronchial asthma. Biol Pharm Bull 1996; 19: 710-715.
- 2) 中原保裕, 村田正弘, 鈴木 健<sup>1)</sup>, 大津文雄<sup>1)</sup>, 長澤紘一<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>内科学1): 生体リズムにあわせた Theophylline 投与法と Round-The-Clock 療法の臨床効果の比較. 臨床薬理1997; 28: 15-23.
- 3) 中原保裕, 村田正弘, 鈴木 健<sup>1)</sup>, 大津文雄<sup>1)</sup>, 長澤紘一<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>内科学1): 成人気管支喘息患者の発作期における経口徐放性 theophylline 製剤の体内動態の検討. 日救急医学会誌 1997; 8: 43-50.
- 4) 平田清貴, 村田正弘, 黒川 顕<sup>1)</sup>, 松本宣明<sup>2)</sup>, 村松章子<sup>2)</sup>, 松本光雄<sup>2)</sup>(<sup>1</sup>救急医学, <sup>2</sup>昭和薬科大学): 急性中毒における血清中ベンゾジアゼピン系薬物の定量. 病院薬学 1996; 22: 572-578.
- 5) 畝本賜男, 加藤浩子, 村田正弘, 中村正明<sup>1)</sup>, 三留啓二郎<sup>1)</sup>, 新井貞男<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>(株)ナック): シメチジン細粒(タガメット細粒20%)と消化器官用剤との配合変化. 医薬品相互作用研究 1996; 20: 17-28.
- 6) 畝本賜男, 村田正弘, 川角 浩<sup>1)</sup>, 竹内良夫<sup>1)</sup>(<sup>1</sup>微生物免疫学): PCMX-エタノールゼリー (GOJO ASRIN) の実用性の検討. 基礎と臨床 1996; 30: 2353-2358.

##### (2) 綜説:

- 1) 村田正弘: インタビューフォームの見直しと今後の課題. 月刊薬事 1997; 39: 845-850.
- 2) 宿前貴子: アメリカでブームのメラトニンをめぐって. 都薬雑誌 1996; 18: (11)4-9.
- 3) 渋谷正則: 薬剤師のための情報管理学. 薬学系インターネット海外編—オクラホマ大学薬学サーバから始まる

ネットサーフィン都薬雑誌 1996；18(8)：41-47.

## 著書

- 1) 村田正弘：〔分担〕医薬品情報学‘医薬品の適正使用と医薬品情報’(山崎幹夫他編)，1996；pp22-32，東京大学出版会。
- 2) 村田正弘：〔分担〕臨床薬理学‘臨床薬理と健康保険’(日本臨床薬理学学会編集) 1996；pp449-455，医学書院。
- 3) 村田正弘：〔分担〕薬剤師のための服薬指導ガイド。血液疾患—出血傾向(和田攻他編)，1996；pp662-670，文光堂。
- 4) 平田清貴，牧野俊郎，田口吉子，山本保博：〔共著〕輸液・輸血・救急薬 TODAY，1996；メディカ出版。
- 5) 宿前貴子：〔分担〕医療薬学—病気と薬—(田中依子他編)，腎・泌尿器疾患 1996；pp119-138，肝癌 pp227-231，乳癌・子宮癌 pp323-330，主な抗悪性腫瘍薬 pp334-341，広川書店。

## 学会発表

### (1) 一般講演：

- 1) 岡部俊成<sup>1)</sup>，渋谷正則，飛田正俊<sup>1)</sup>，竹田幸代<sup>1)</sup>，村上由佳里<sup>1)</sup>，向後俊昭<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>小児科学)：気管支喘息児に対するテオフィリン・シロップ剤のディスペンサーを用いた安全な投与法についての検討。第8回日本アレルギー学会春季臨床大会，1996。4。
- 2) 畝本賜男，加藤浩子，村田正弘，中村正明，三留啓二郎，新井貞男<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>(株)ナック)：シメチジン細粒(タガメット細粒)の配合変化試験。第42回医薬品相互作用研究会，1996。5。
- 3) 黒川 顕<sup>1)</sup>，須崎伸一郎<sup>1)</sup>，富岡譲二<sup>1)</sup>，平田清貴(<sup>1)</sup>救急医学)：救命救急センターにおける中毒患者—急性中毒患者は三次対応？ 第18回日本中毒学会，1996。7。
- 4) 平田清貴，村田正弘，須崎伸一郎<sup>1)</sup>，富岡譲二<sup>1)</sup>，黒川 顕<sup>1)</sup>，松本宣明<sup>2)</sup>，松本光雄<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>救急医学，<sup>2)</sup>昭和薬科大学)：急性中毒における血中ベンゾジアゼピン系薬物の定量分析第2報。第18回日本中毒学会，1996。8。
- 5) 畝本賜男，伊藤淳雄，村田正弘：外来患者の薬物療法に対する認識—高血圧薬使用患者の実態。第26回日本病院薬剤師会関東ブロック学術大会，1996。8。
- 6) 富岡勝世，宿前貴子，平瀬美弥子，村田正弘：インタビューフォームによる医薬品の評価と問題点。第6回日本病院薬学会年会，1996。9。
- 7) 布施理美<sup>1)</sup>，黒川 顕<sup>1)</sup>，平田清貴，富岡譲二<sup>1)</sup>，小井土雄一<sup>1)</sup>，須崎伸一郎<sup>1)</sup>，益子邦洋<sup>1)</sup>，黒沢 尚<sup>1)</sup>，山本保博<sup>1)</sup>，大塚敏文<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>救急医学)：急性中毒と自殺—全国3次救急施設における急性中毒患者のアンケート調査から。第24回日本救急医学会総会，1996。10。
- 8) 黒川 顕<sup>1)</sup>，富岡譲二<sup>1)</sup>，布施理美<sup>1)</sup>，小井土雄一<sup>1)</sup>，須崎伸一郎<sup>1)</sup>，平田清貴(<sup>1)</sup>救急医学)：急性中毒の死亡例の検討—3次救急医療施設へのアンケート調査をもとに。第24回日本救急医学会総会，1996。10。
- 9) 富岡譲二<sup>1)</sup>，平田清貴，布施理美<sup>1)</sup>，須崎伸一郎<sup>1)</sup>，黒川 顕<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>救急医学)：急性中毒患者は3次救急医療の対象か？ 3次救急医療施設に搬入された急性中毒患者のアンケート調査から。第24回日本救急医学会総会，1996。10。
- 10) 須崎伸一郎<sup>1)</sup>，富岡譲二<sup>1)</sup>，黒川 顕<sup>1)</sup>，平田清貴，村田正弘，犬塚 祥<sup>1)</sup>，山本保博<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>救急医学)：蛍光偏光抗体法による急性ベンゾジアゼピン中毒迅速分析の意義と可能性。第24回日本救急医学会総会，1996。10。
- 11) 平田清貴，村田正弘，山田光輝<sup>1)</sup>，松本宣明<sup>2)</sup>，加藤 順<sup>2)</sup>，内野智信<sup>2)</sup>，松本光雄<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>麻酔科学，<sup>2)</sup>昭和薬科大学)：静脈内投与速度と propofol 体内動態のパラメータの検証。第11回日本薬物動態学会年会，1996。10。
- 12) 佐々木聡，村田正弘，後藤正道<sup>1)</sup>，井野 威<sup>1)</sup>，長澤紘一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科学)：メキシレチン投与量の検討。第17回日本臨床薬理学会，1996。11。
- 13) 平田清貴，畝本賜男，村田正弘，須崎伸一郎<sup>1)</sup>，富岡譲二<sup>1)</sup>，黒川 顕<sup>1)</sup>，松本宣明<sup>2)</sup>，猪熊朋子<sup>2)</sup>，松本光雄<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>救急医学，<sup>2)</sup>昭和薬科大学)：急性ベンゾジアゼピン系薬物中毒の薬物動態。第11回日本中毒学会東日本部会，

1997. 2.

- 14) 佐藤知枝<sup>1)</sup>, 田所久子<sup>1)</sup>, 柴田明佳<sup>1)</sup>, 飯野幸永<sup>1)</sup>, 畝本賜男, 椎野元裕, 村田正弘, 鈴木 健<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>多摩永山病院中央検査室, <sup>2)</sup>内科学): 当院過去3年間における血液培養分離菌の検出と抗生剤使用状況—グラム陽性球菌について. 第12回日本環境感染学会, 1997. 2.
- 15) 平田清貴, 村田正弘, 山田光輝<sup>1)</sup>, 松本宣明<sup>2)</sup>, 加藤 順<sup>2)</sup>, 内野智信<sup>2)</sup>, 松本光雄<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>麻酔科学, <sup>2)</sup>昭和薬科大学): Propofolの静脈内投与速度と血中濃度の関係. 日本薬学会第117年会, 1997. 3.
- 16) 佐々木聡, 村田正弘, 後藤正道<sup>1)</sup>, 井野 威<sup>1)</sup>, 長澤紘一<sup>1)</sup>, 櫻井榮一<sup>2)</sup>, 引地 登<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>内科学, <sup>2)</sup>東北薬科大学): プロパフェノン口腔粘膜吸収の基礎的検討. 日本薬学会第117年会, 1997. 3.
- 17) 伊藤敦雄, 佐々木聡, 木本陶子, 富岡勝世, 畝本賜男, 渋谷正則, 平田清貴, 村田正弘, 佐藤 晃<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>ビーライン(株)): 薬剤の処方特性を活用した処方せん情報入力システム(第3報)—プロトタイプからバージョンアップタイプへ. 日本薬学会第117年会, 1997. 3.
- 18) 渋谷正則, 村田正弘, 岡部俊成<sup>1)</sup>, 飛田正俊<sup>1)</sup>, 竹田幸代<sup>1)</sup>, 村上由佳里<sup>1)</sup>, 向後俊昭<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>小児科学): ディスペンサーを用いたテオドール・シロップの気管支喘息児に対する安全な投与方法の検討. 日本薬学会第117年会, 1997. 3.

## [多摩永山病院看護部]

### 研究概要

- 1) 様々な看護活動が実際に患者・家族のニーズを満たしているか調査し, インフォームドコンセントについて考察した.
- 2) 隣接する救命救急センターの機能停止により, 入室状況, 重症度などの変化の比較, 職員に及ぼす影響を調査した.
- 3) 産婦の分娩時の言動を分析し, 産婦個々が持つ背景により, 分娩に対する姿勢の個人差を考察した.
- 4) ベビーバスと家庭内風呂の細菌検査を実施し, 新生児の沐浴方法について考察を行なった.
- 5) 外陰癌の術後管理にフローチャートを用いて, 医師・看護婦の統一した治療・看護に役立たせることができた.
- 6) 前立腺肥大症術後の骨盤底筋群運動をより有効に行なうためのパンフレットの改善と患者のコンプライアンスを左右する要因の調査を行なった.
- 7) ターミナル患者を持つ家族は常にストレスフルな状態にあり, 患者の状況の変化によってもまた同様に変化していくことを考察した.
- 8) 看護計画を患者・家族に公開し共有することに関して, その時期, 利点, 欠点, 問題点を明らかにした.

### 研究業績

#### 学会発表

##### (1) 一般講演:

- 1) 藤崎加奈子, 本多広子, 愛沢百合子, 工藤久仁子, 坂本幸廣, 緋田雅美, 野口 素: インフォームドコンセントについて考える. 第41回日本救急医学会関東地方会, 1996. 6.
- 2) 塩津正巳, 石川秀一, 坂本幸廣, 工藤久仁子, 緋田雅美, 野口 素: 機能停止した隣接救命救急センターが与えた影響. 第24回日本救急医学会総会, 1996. 10.
- 3) 竹本寿江, 田畑末美, 斎藤由紀, 酒井和子, 家永 聡<sup>1)</sup>, 田中 彰<sup>1)</sup>, 佐々木茂<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>多摩永山病院産婦人科): 分娩時の言動に関する因子. 第37回日本母性衛生学会総会, 1996. 10.
- 4) 樽見芳子, 高田みゆき, 谷川裕美, 田中美幸, 酒井和子, 家永 聡<sup>1)</sup>, 田中 彰<sup>1)</sup>, 佐々木茂<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>多摩永山病院産婦人科): 沐浴指導の再検討. 第37回日本母性衛生学会総会, 1996. 10.



- 5) 池谷登美枝, 福岡イツ子, 有馬千賀子, 高杉栄子, 大園恵美, 小林信子, 遠藤三代子, 三田俊二<sup>1)</sup>, 田中 彰<sup>1)</sup>, 佐々木茂<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>多摩永山病院産婦人科): 外陰癌手術後の看護. 第37回日本母性衛生学会総会, 1996. 10.
- 6) 小池恵美, 荻沼規子, 土門 桂, 廣田美保: ターミナル患者, 家族への援助. 平成8年度東京都看護研究学会, 1996. 11.
- 7) 小林芸美代, 渡部多美: 前立腺手術後の腹圧性尿失禁患者に対する骨盤底筋群運動の指導の効果. 平成8年度東京都看護研究学会, 1996. 11.
- 8) 本多広子, 坂本幸廣, 工藤久仁子: 患者・家族に看護計画の公開を試みて. 第42回日本救急医学会関東地方会, 1997. 2.
- 9) 鹿田あき子, 遠藤三代子, 政次富美子, 飯野幸永<sup>1)</sup>, 佐藤知枝<sup>1)</sup>, 千葉逸子<sup>1)</sup>, 北村誠一<sup>2)</sup>, 村田正弘<sup>3)</sup>, 森本千晶<sup>4)</sup>, 宮本由紀夫<sup>5)</sup>, 柏木邦彦<sup>5)</sup>, 鈴木 健<sup>6)</sup>, 沖浜裕司<sup>7)</sup> (<sup>1)</sup>多摩永山病院中央検査室, <sup>2)</sup>同放射線科, <sup>3)</sup>同薬剤科, <sup>4)</sup>同栄養課, <sup>5)</sup>同事務部, <sup>6)</sup>同内科, <sup>7)</sup>同消化器科): 当院における過去4年間の針刺し事故の集計. 第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 9.

## 24. 千葉北総病院付置施設等

### [千葉北総病院集中治療部]

#### 研究概要

徐々にではあるが確実に症例は積み重ねられている。新たな研究に向かい邁進するとともに、今までの貴重な症例や臨床データの論文化が急務となった。

平成8年度の研究テーマは、急性心筋梗塞、不安定狭心症、うっ血性心不全、心原性ショック、大動脈解離などと言った従来からのものに加え、放射線科の協力をいただいて MR angiography(venography や aortography)を用いた検討が新たに加わり、さらにバイオ・インピーダンス・スペクトラム装置による心不全患者の細胞内および細胞外水分量の測定といったユニークな研究も軌道に乗り始めた。近年発展の著しい血液浄化法を心不全治療に取り入れた新しい治療法も開拓しており、すでに幾つかの知見が集積されている。

本年も数多くの新しい医薬品の臨床治験を行ってきたが、次年度からは GCP の改訂に伴い、これに対する認識を新たに取り組みなくてはならない。とくに高脂血症に対する薬物治験の中には、1年から5年と言った極めて長い観察期間を持つものが相次いでおり、根気強い対応が要求される。次年度の目標も『地道に根気強く』である。

#### 研究業績

##### 論文

###### (1) 原著：

- 1) 田中啓治, 矢島俊己<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>2)</sup>, 早川弘一<sup>3)</sup>, 鈴木 晃<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院第二外科, <sup>2)</sup>付属病院集中治療室, <sup>3)</sup>第1内科, <sup>4)</sup>アイシンヒューマンシステムズ)：急性心筋梗塞に伴う心原性ショックに対するカテ先血圧, 心電図センサー付き完全自動制御型 IABP. 循環器科 1996; 39: 485-486.
- 2) 田中啓治, 杉本忠彦, 三上 巖, 高山守正<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>1)</sup>, 師田哲郎<sup>2)</sup>, 矢島俊己<sup>2)</sup>, 二宮淳一<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院集中治療室, <sup>2)</sup>付属病院胸部外科)：IABP 無効の心原性ショックに対する経皮的肺補助法(PCPS)の併用. 循環器科 1996; 40: 93-94.
- 3) 笠神康平, 田中啓治, 丸山光紀, 田中 隆, 高野照夫<sup>1)</sup>, 高田加寿子<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院集中治療室, <sup>2)</sup>下谷病院内科)：うっ血性心不全におけるヒト心房性ナトリウム利尿ペプチドの動態とカルペリチドの適応. ICU と CCU 1996; 20: 759-766.
- 4) 田中 隆, 齊藤 均, 齊藤好信, 山本 剛, 笠神康平, 田中啓治, 子島 潤<sup>1)</sup>, 高山守正<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>1)</sup>, 早川弘一<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院集中治療室, <sup>2)</sup>第1内科)：うっ血性心不全に対する Nicorandil 1回大量静注法の効果. 臨床薬理 1996; 27: 263-234.
- 5) 田中 隆, 田中啓治, 笠神康平, 丸山光紀, 清宮康嗣, 高野雅充：うっ血性心不全に対する塩酸イミダプリルの急性効果. 臨床と研究 1997; 74: 236-240.
- 6) 田島なつき<sup>1)</sup>, 田島廣之<sup>2)</sup>, 岡田 進<sup>1)</sup>, 伊藤公一郎<sup>1)</sup>, 保坂純郎<sup>1)</sup>, 趙 圭一<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>2)</sup>, 加藤丈司<sup>1)</sup>, 桜井 実<sup>1)</sup>, 浅野哲雄<sup>3)</sup>, 水野杏一<sup>4)</sup>, 田中啓治(<sup>1)</sup>放射線科, <sup>2)</sup>付属病院放射線科, <sup>3)</sup>胸部外科, <sup>4)</sup>内科)：深部静脈血栓症の MR venography. 日本磁気共鳴医学会雑誌 1996; 17: 20-27.

###### (2) 総説：

- 1) 田中啓治, 坪 宏一, 杉本忠彦<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>胸部外科, <sup>2)</sup>付属病院集中治療室)：大動脈解離の治療方針. 臨床医 1996; 22: 126-128.
- 2) 田中啓治：CCU におけるバイタルサインの重要性. 循環器情報処理研究会雑誌 1996; 11: 179-189.
- 3) 田中啓治, 笠神康平：急性心不全の最新治療. 日医大誌 1996; 63: 59-63.

- 4) 田中啓治, 星野公彦: 心不全治療の実際; カテコールアミン剤. 臨床医 1997; 23: 65-67.
- 5) 田中啓治, 清宮康嗣: 術中術後の急性心筋梗塞. Life Support and Anesthesia 1996; 3: 798-802.

## 著 書

- 1) 田中啓治, 田中 隆: [分担] 心不全." 救急現場の救急医療, 心疾患と応急処置 (齊藤 徹編)" 1996; pp83-114, 荘道社.
- 2) 高野雅充, 田中啓治: [分担] 急性心筋炎." 循環器研修医ノート (永井良三編)" 1997; pp772-775, 診断と治療社.

## 学会発表

### (1) シンポジウム:

- 1) 田中啓治: ICU・CCUにおけるhANPの適応と有用性 (ランチョンセミナー; 急性心不全の新しい治療法). 第44回日本心臓病学会学術集会, 1996. 9.
- 2) 小川理郎<sup>1)</sup>, 横田裕行<sup>1)</sup>, 小池 薫<sup>1)</sup>, 加藤一良<sup>1)</sup>, 犬塚 祥<sup>1)</sup>, 高橋幸道<sup>1)</sup>, 田中啓治, 大友康裕<sup>2)</sup>, 益子邦洋<sup>2)</sup>, 黒川顕<sup>2)</sup>, 山本保博<sup>2)</sup>, 大塚敏文<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>救命救急部, <sup>2)</sup>付属病院救急医学): 脳血流・脳酸素代謝からみた各種心筋蘇生法の再評価 (主題: CPCPR (Cardio-Pulmonary-Cerebral Resuscitation)の動向). 第24回日本救急医学会総会, 1996. 10.

### (2) 一般講演:

- 1) 清宮康嗣, 田中啓治, 丸山光紀, 笠神康平, 田中 隆, 久島英二<sup>1)</sup>, 田口雪江<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>血液透析室): 心筋梗塞急性期に血液浄化法を要した17例の検討. 第16回心筋梗塞研究会, 1996. 7.
- 2) 清宮康嗣, 田中啓治, 丸山光紀, 笠神康平, 田中 隆, 久島英二<sup>1)</sup>, 田口雪江<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>血液透析室): 心筋梗塞急性期に血液浄化法を要した17例の検討. 第33回日本臨床生理学会総会, 1996. 10
- 3) 川口祥子, 坏 宏一, 網谷賢一, 清宮康嗣, 笠神康平, 田中 隆, 田中啓治: 心筋梗塞急性期に血液浄化法を要した17例の検討. 第10回千葉重症患者管理研究会, 1996. 9.
- 4) 網谷賢一, 田中啓治, 東海林智子, 中村俊彦, 坏 宏一, 星野公彦, 田中 隆: バイオ・インピーダンス・スペクトラム法を用いた健康人および腎不全患者における細胞内, 細胞外水分量の測定. 第9回日本医工学治療学会学術大会, 1997. 2.
- 5) 田島なつき<sup>1)</sup>, 趙 圭一<sup>1)</sup>, 保坂純郎<sup>1)</sup>, 伊藤公一郎<sup>1)</sup>, 岡田 進<sup>1)</sup>, 加藤丈司<sup>1)</sup>, 浅野哲雄<sup>2)</sup>, 水野杏一<sup>3)</sup>, 田中啓治, 田島広之<sup>4)</sup>, 隈崎達夫<sup>4)</sup> (<sup>1)</sup>放射線科, <sup>2)</sup>胸部外科, <sup>3)</sup>内科, <sup>4)</sup>付属病院放射線科): 深部静脈血栓症のMR Venography. 第24回日本磁気共鳴医学会大会, 1996. 9.
- 6) 坏 宏一, 網谷賢一, 川口祥子, 田中 隆, 田中啓治: 心筋梗塞急性期における ANP および BNP の頃日的検討. 第3回 Chiba Circulation Conference, 1996. 9.
- 7) 丸山光紀<sup>1)</sup>, 子島 潤<sup>1)</sup>, 木内 要<sup>1)</sup>, 高山守正<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>1)</sup>, 早川弘一<sup>2)</sup>, 田中啓治, 高木 元<sup>3)</sup>, 小海信一<sup>3)</sup>, 笠井源吾<sup>3)</sup> (<sup>1)</sup>付属病院集中治療室, <sup>2)</sup>第一内科, <sup>3)</sup>波崎済生病院内科): 急性心不全における hANP 投与からの離脱状況. 第1回 ANP 臨床研究会, 1996. 8.
- 8) 山根吉人<sup>1)</sup>, 横山真也<sup>1)</sup>, 小林利行<sup>1)</sup>, 金子晴生<sup>1)</sup>, 大國真一<sup>1)</sup>, 水野杏一<sup>1)</sup>, 清宮康嗣, 笠神康平, 田中 隆, 田中啓治 (<sup>1)</sup>内科): 右冠動脈近位部, 起始部に対する Wiktor ステントの使用経験. 日本循環器学会関東甲信越地方会第160回学術集会, 1996. 6.
- 9) 清宮康嗣, 丸山光紀, 笠神康平, 田中 隆, 田中啓治, 小林利行<sup>1)</sup>, 金子晴生<sup>1)</sup>, 大國真一<sup>1)</sup>, 水野杏一<sup>1)</sup>, 加藤貴雄<sup>2)</sup>, 早川弘一<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>内科, <sup>2)</sup>付属病院第一内科): PCPS 施行中の心原性ショックに伴う難治性心室性不整脈にカリウムチャンネル遮断薬 MS-551が著効を示した1例. 日本循環器学会関東甲信越地方会第160回学術集会, 1996. 6.

- 10) 網谷賢一, 川口祥子, 坪 宏一, 笠神康平, 田中 隆, 田中啓治, 金子晴生<sup>1)</sup>, 大國真一<sup>1)</sup>, 水野杏一<sup>1)</sup>, 田島なつき<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>内科, <sup>2)</sup>放射線科): MR venography が骨盤内深部静脈血栓の診断に有用であった肺梗塞の1例. 日本循環器学会関東甲信越地方会第161回学術集会, 1996. 9.
- 11) 長戸孝道<sup>1)</sup>, 北見聰章<sup>1)</sup>, 金子晴生<sup>1)</sup>, 山内史生<sup>1)</sup>, 高野雅充<sup>1)</sup>, 富村正登<sup>1)</sup>, 大國真一<sup>1)</sup>, 水野杏一<sup>1)</sup>, 川口祥子, 網谷賢一, 坪 宏一, 田中 隆, 田中啓治(<sup>1)</sup>内科): 多発性心室性期外収縮を呈した甲状腺中毒症で, Carvedilol が有効であった1例. 日本循環器学会関東甲信越地方会第161回学術集会, 1996. 9.
- 12) 中村俊彦, 坪 宏一, 川口祥子, 星野公彦, 田中 隆, 田中啓治, 金子晴生<sup>1)</sup>, 高野雅充<sup>1)</sup>, 富村正登<sup>1)</sup>, 大國真一<sup>1)</sup>, 水野杏一<sup>1)</sup>, 大秋美治<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>内科, <sup>2)</sup>病理部): 全身の MRSA 感染症に伴い心内膜および心筋内に多発性小膿瘍を形成した難治性心不全の1例. 日本循環器学会関東甲信越地方会第162回学術集会, 1996. 12.
- 13) 岡松健太郎<sup>1)</sup>, 稲見茂信<sup>1)</sup>, 高野雅充<sup>1)</sup>, 富村正登<sup>1)</sup>, 佐野純子<sup>1)</sup>, 大國真一<sup>1)</sup>, 水野杏一<sup>1)</sup>, 中村俊彦, 坪 宏一, 星野公彦, 田中 隆, 田中啓治(<sup>1)</sup>内科): スtent後急性冠閉塞に IABP が有効であった2例. 日本循環器学会関東甲信越地方会第162回学術集会, 1996. 12.
- 14) 高野雅充<sup>1)</sup>, 稲見茂信<sup>1)</sup>, 富村正登<sup>1)</sup>, 佐野純子<sup>1)</sup>, 北村克弘<sup>1)</sup>, 大國真一<sup>1)</sup>, 水野杏一<sup>1)</sup>, 坪 宏一, 星野公彦, 田中啓治(<sup>1)</sup>内科): PTCA 後長期間長い冠動脈解離が存在した1例. 日本循環器学会関東甲信越地方会第163回学術集会, 1997. 2.
- 15) 東海林智子, 網谷賢一, 中村俊彦, 坪 宏一, 星野公彦, 田中 隆, 田中啓治, 高野雅充<sup>1)</sup>, 富村正登<sup>1)</sup>, 大國真一<sup>1)</sup>, 水野杏一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科): バイオ・インピーダンス・スペクトラム法による心不全患者の細胞内および細胞外水分量の測定. 日本循環器学会関東甲信越地方会第163回学術集会, 1997. 2.
- 16) 中村俊彦, 網谷賢一, 坪 宏一, 川口祥子, 星野公彦, 田中 隆, 田中啓治: 新しいホスホジエステラーゼ(PDE)阻害薬 MS857のうっ血性心不全に対する効果. 第5回日本集中治療医学会関東甲信越地方会, 1996. 12.
- 17) 田中啓治, 清宮康嗣, 高木 元, 笠神康平, 田中 隆, 杉本忠彦<sup>1)</sup>, 浅野哲雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>胸部外科): 経皮的心肺補助法(PCPS)の効果判定における呼気終末炭酸ガス分圧(ETCO<sub>2</sub>)測定の有用性. 第44回日本心臓病学会学術集会, 1996. 9.
- 18) 笠神康平, 横山真也<sup>1)</sup>, 金子晴生<sup>1)</sup>, 小林利行<sup>1)</sup>, 大國真一<sup>1)</sup>, 田中 隆, 田中啓治, 水野杏一<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>内科): Cutting balloon の再狭窄減少の機序: elastic recoil について. 第44回日本心臓病学会学術集会, 1996. 9.
- 19) 清宮康嗣, 丸山光紀, 笠神康平, 田中 隆, 田中啓治: 急性大動脈解離における ANP, BNP の変動と交感神経およびレニン・アンギオテンシン系との関係. 第37回日本脈管学会総会, 1996. 11.
- 20) 大國真一<sup>1)</sup>, 水野杏一<sup>1)</sup>, 高野雅充<sup>1)</sup>, 横山真也<sup>1)</sup>, 富村正登<sup>1)</sup>, 小林利行<sup>1)</sup>, 金子晴生<sup>1)</sup>, 坪 宏一, 星野公彦, 田中 隆, 田中啓治, 山岸 正<sup>2)</sup>, 悦田浩邦<sup>2)</sup>, 里村公生<sup>2)</sup>, 荒川 宏<sup>2)</sup>, 渋谷利雄<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>内科, <sup>2)</sup>防衛医科大学校第一内科): 冠攣縮性狭心症ではどうして急性心筋梗塞発症が少ないのか?—冠動脈内視鏡による検討. 第61回日本循環器学会学術集会, 1997. 3.
- 21) 坪 宏一, 子島 潤<sup>1)</sup>, 高山守正<sup>1)</sup>, 今泉孝敬<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>1)</sup>, 早川弘一<sup>2)</sup>, 佐々木健志<sup>3)</sup>, 落 雅美<sup>3)</sup>, 田中茂夫<sup>3)</sup>, 田中啓治(<sup>1)</sup>付属病院集中治療室, <sup>2)</sup>第一内科, <sup>3)</sup>第二外科): Stanford B型急性大動脈解離において持続する解離腔開存例の自然経過と治療方針. 第61回日本循環器学会学術集会, 1997. 3.
- 22) 星野公彦, 田中啓治, 清宮康嗣, 高木 元, 中村俊彦, 田中 隆, 杉本忠彦<sup>1)</sup>, 浅野哲雄<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>胸部外科): 経皮的心肺補助法(PCPS)の効果判定における呼気終末炭酸ガス分圧(ETCO<sub>2</sub>)測定の有用性. 第61回日本循環器学会学術集会, 1997. 3.
- 23) 田中啓治, 坪 宏一, 中村俊彦, 星野公彦, 田中 隆, 子島 潤<sup>1)</sup>, 高野照夫<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>付属病院集中治療室): 高齢者における解離性大動脈瘤の特徴とその対策. 第61回日本循環器学会学術集会, 1997. 3.

## [千葉北総病院病理部]

### 研究概要

日常の病理診断業務の中で、診断に寄与する方法論の検討、開発を行ってきた。特に、小黒らによる電子顕微鏡診断学における従来の試料作成および観察法の欠点を大幅に改良した Film sheet epoxy resin embedding method (FSEM)、また、清水らによる細胞診標本における新しい免疫染色手法に基づく新たな解析方法については、それぞれ基礎的、外科病理学的な分野への応用の可能性を検討中である。さらに大腸癌症例を中心に、細胞周期に関連する各種因子や癌抑制遺伝子の発現の有無、様式につき、病理部に提出された手術検体を用いて検索を加え、予後因子の解析も現在進行中である。

### 研究業績

#### 論文

- 1) 余 紅, 森 修, 大秋美治, 河村 堯<sup>1)</sup>, 浅野伍朗<sup>2)</sup>, (<sup>1)</sup>千葉北総病院産婦人科, <sup>2)</sup>病理学第2:子宮の Adenomatoid tumor の3症例. 日医大誌 1996;63:294-298.
- 2) 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 田中宣威<sup>1)</sup>, 恩田昌彦<sup>1)</sup>, 金沢義一<sup>1)</sup>, 古川清憲<sup>1)</sup>, 鳥羽昌仁<sup>1)</sup>, 横山滋彦<sup>1)</sup>, 浅野伍朗<sup>2)</sup>, 内藤善哉<sup>2)</sup>, 森山雄吉<sup>3)</sup>, 横井公良<sup>3)</sup>, 大秋美治 (<sup>1)</sup>付属病院第1外科, <sup>2)</sup>病理学第2, <sup>3)</sup>千葉北総病院外科): Deletion syndrome を呈した直腸絨毛腺腫の2例. 日本大腸肛門病学会雑誌 1996;49:327-334.

#### 学会発表

##### [1995年度追加分]

##### 一般講演:

- 1) 山下直行<sup>1)</sup>, 森山雄吉<sup>1)</sup>, 京野昭二<sup>1)</sup>, 横井公良<sup>1)</sup>, 吉行俊郎<sup>1)</sup>, 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 恩田昌彦<sup>2)</sup>, 大秋美治, 渡 淳<sup>3)</sup>, 佐藤 順<sup>3)</sup> (<sup>1)</sup>千葉北総病院外科, <sup>2)</sup>付属病院第1外科, <sup>3)</sup>千葉北総病院内科): 大腸悪性リンパ腫の1例. 第758回外科集団会, 1995. 9.
- 2) 京野昭二<sup>1)</sup>, 森山雄吉<sup>1)</sup>, 横井公良<sup>1)</sup>, 吉行俊郎<sup>1)</sup>, 小川芳雄<sup>1)</sup>, 木山輝朗<sup>1)</sup>, 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 山下直行<sup>1)</sup>, 長沢重直<sup>1)</sup>, 打越康信<sup>1)</sup>, 大秋美治, 恩田昌彦<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>千葉北総病院外科, <sup>2)</sup>付属病院第1外科): 胃粘膜下腫瘍に対する外科的治療. 第28回千葉外科医会中央集会, 1995. 10.
- 3) 長沢重直<sup>1)</sup>, 森山雄吉<sup>1)</sup>, 京野昭二<sup>1)</sup>, 横井公良<sup>1)</sup>, 小川芳雄<sup>1)</sup>, 木山輝朗<sup>1)</sup>, 瀬谷知子<sup>1)</sup>, 山下直行<sup>1)</sup>, 打越康信<sup>1)</sup>, 大秋美治 (<sup>1)</sup>千葉北総病院外科): 直腸 stromal tumor の1症例. 第1回東葛大腸フォーラム, 1995. 11.
- 4) 高野雅充<sup>1)</sup>, 笠神康平<sup>1)</sup>, 掃部弘行<sup>1)</sup>, 田中庸介<sup>1)</sup>, 田中 隆<sup>1)</sup>, 田中啓治<sup>1)</sup>, 横山真也<sup>2)</sup>, 小林利行<sup>2)</sup>, 大國真一<sup>2)</sup>, 水野杏一<sup>2)</sup>, 大秋美治, 石綿清雄<sup>3)</sup>, 西山信一郎<sup>3)</sup> (<sup>1)</sup>千葉北総病院集中治療部, <sup>2)</sup>同内科): 八年間に三度発症した IgE の異常高値を伴う反復性心筋炎. 日本循環器学会関東甲信越地方会158回学術集会, 1995. 12.
- 5) 笠神康平<sup>1)</sup>, 高野雅充<sup>1)</sup>, 掃部弘行<sup>1)</sup>, 田中庸介<sup>1)</sup>, 田中 隆<sup>1)</sup>, 田中啓治<sup>1)</sup>, 大國真一<sup>2)</sup>, 水野杏一<sup>2)</sup>, 大秋美治 (<sup>1)</sup>千葉北総病院集中治療部, <sup>2)</sup>同内科): IgE の異常高値を伴った反復性心筋炎 (八年間に三度発症). 第4回日本集中治療医学会関東甲信越地方会, 1995. 12.
- 6) 高野雅充<sup>1)</sup>, 掃部弘行<sup>1)</sup>, 田中庸介<sup>1)</sup>, 山本 剛<sup>1)</sup>, 笠神康平<sup>1)</sup>, 田中 隆<sup>1)</sup>, 田中啓治<sup>1)</sup>, 服部怜美<sup>2)</sup>, 大秋美治 (<sup>1)</sup>千葉北総病院集中治療部, <sup>2)</sup>同皮膚科): 肺梗塞を伴った壊死性筋膜炎の1例. 第4回日本集中治療医学会関東甲信越地方会, 1995. 12.
- 7) 服部怜美<sup>1)</sup>, 金子勝美<sup>1)</sup>, 北原東一<sup>1)</sup>, 関 正計<sup>1)</sup>, 大秋美治, 青木見佳子<sup>2)</sup>, 本田光芳<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>千葉北総病院皮膚科, <sup>2)</sup>付属病院皮膚科): Necrobiotic xanthogranuloma?. 第59回日本皮膚科学会東京支部部会, 1996. 2.

(1) 一般講演：

- 1) 町田 稔<sup>1)</sup>, 内藤善哉<sup>1)</sup>, 横山宗伯<sup>1)</sup>, 松本光司<sup>2)</sup>, 山田宣孝<sup>2)</sup>, 前田昭太郎<sup>3)</sup>, 大秋美治, 川並汪一<sup>4)</sup>, 浅野伍朗<sup>1)</sup>  
(<sup>1)</sup>病理学第2, <sup>2)</sup>第一病院病理部, <sup>3)</sup>多摩永山病院病理部, <sup>4)</sup>第二病院病理部)：子宮内膜腫瘍：特に悪性中胚葉性混合腫瘍 (Malignant mesodermal mixed tumours) の臨床病理学的検討。第85回日本病理学会総会, 1996, 4.
- 2) 今津 修, 大秋美治, 粟屋 栄<sup>1)</sup>, 小林士郎<sup>1)</sup>, 浅野伍朗<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院脳神経外科, <sup>2)</sup>病理学第2)：脳室内出血で発症し, 巨大な石灰化と脈絡叢内脂肪腫を随伴した脳梁形成不全の1剖検例。第37回日本神経病理学会, 1996, 5.
- 3) 清水康弘<sup>1)</sup>, 岡田 進<sup>1)</sup>, 趙 圭一<sup>1)</sup>, 保坂純郎<sup>1)</sup>, 伊藤公一郎<sup>1)</sup>, 田島なつき<sup>1)</sup>, 大秋美治, 横井公良<sup>2)</sup>, 森山雄吉<sup>2)</sup>, 隈崎達夫<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院放射線科, <sup>2)</sup>同外科, <sup>3)</sup>付属病院放射線科)：一部に神経系への分化を示した直腸の Gastrointestinal Stromal Tumor の1例。第409回日本医学放射線学会関東地方会, 1996, 6.
- 4) 北原東一<sup>1)</sup>, 服部怜美<sup>1)</sup>, 青木見佳子<sup>2)</sup>, 本田光芳<sup>2)</sup>, 大秋美治(<sup>1)</sup>千葉北総病院皮膚科, <sup>2)</sup>付属病院皮膚科)：Bowen 病の病巣部に生じた Merkel 細胞癌の1例。第12回日本皮膚悪性腫瘍学会総会, 学術集会, 1996, 8.
- 5) 小黑辰夫, 清水秀樹, 三枝順子, 安藤 哲, 森 修, 大秋美治, 浅野伍朗<sup>1)</sup>, 佐々木喜広<sup>2)</sup>, モハマッド・ガジザデ<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>病理学第2, <sup>2)</sup>中央電顕施設)：Film sheet epoxy resin embedding method (FSEM) の開発について。第64回日本医科大学医学会総会, 1996, 9.
- 6) 安藤 哲, 清水秀樹, 三枝順子, 小黑辰夫, 森 修, 大秋美治, 日野光紀<sup>1)</sup>, 横田裕行<sup>2)</sup>, 川並汪一<sup>3)</sup>, 浅野伍朗<sup>4)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院内科, <sup>2)</sup>同救命救急部, <sup>3)</sup>第二病院病理部, <sup>4)</sup>病理学第2：呼吸器感染症における気管支肺胞洗浄法 (BAL) の有用性と検体処理時の注意点について：特に AIDS 症例に見られた Pneumocystis Carinii を中心に。第64回日本医科大学医学会総会, 1996, 9.
- 7) 小野寺謙吾<sup>1)</sup>, 横田俊行<sup>1)</sup>, 加藤一良<sup>1)</sup>, 小池 薫<sup>1)</sup>, 犬塚 祥<sup>1)</sup>, 高橋幸道<sup>1)</sup>, 小川理郎<sup>1)</sup>, 牧野俊郎<sup>2)</sup>, 山本保博<sup>3)</sup>, 大秋美治(<sup>1)</sup>千葉北総病院救命救急部, <sup>2)</sup>新東京国際空港クリニック, <sup>3)</sup>付属病院救急医学)：重篤な呼吸不全で緊急入院となった後天性免疫不全症候群の1例。第64回日本医科大学医学会総会, 1996, 9.
- 8) プラカシュジャドウ<sup>1)</sup>, 山田宣孝<sup>1)</sup>, 相田成隆<sup>1)</sup>, 松本光司<sup>1)</sup>, 温 敏<sup>1)</sup>, 大塚俊司<sup>1)</sup>, 佐藤春明<sup>1)</sup>, 村瀬幸宏<sup>1)</sup>, 相田昌子<sup>1)</sup>, 早澤久美, 松久威史<sup>2)</sup>(第一病院病理部, <sup>2)</sup>同内視鏡科)：日本人とタイ人における胃炎像の病理組織学的比較(第1報)：Helicobacter Pylori 感染と胃炎の関係を中心として。第64回日本医科大学医学会総会, 1996, 9.
- 9) 小黑辰夫, 大秋美治, モハマッド・ガジザデ<sup>1)</sup>, 浅野伍朗<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>中央電子顕微鏡研究施設, <sup>2)</sup>病理学第2)：Film sheet epoxy resin embedding method (FSEM) の開発について。第28回日本臨床電子顕微鏡学会総会, 1996, 10.
- 10) Ghaazizadhe M<sup>1)</sup>, Sasaki Y<sup>1)</sup>, Inoue K<sup>1)</sup>, Oguro T, Aihara K<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>中央電子顕微鏡研究施設)：Improved immunolabeling of routine epoxy resin tissue sections by antigen retrieval using microwave heating。第28回日本臨床電子顕微鏡学会総会, 1996, 10.
- 11) 清水 一<sup>1)</sup>, 枝川聖子<sup>1)</sup>, 小黑辰夫, 大国寿士<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>老人病研病理部門, <sup>2)</sup>老人病研免疫部門)：PC-12細胞の細胞分化に及ぼすアルミニウムの影響について。第35回日本臨床細胞学会秋期大会学術集会, 1996, 11.
- 12) 名知志子<sup>1)</sup>, 渡 淳<sup>1)</sup>, 長田祐二<sup>1)</sup>, 琴寄 誠<sup>1)</sup>, 藤森俊二<sup>1)</sup>, 水野杏一<sup>1)</sup>, 大秋美治, 杉浦敏昭<sup>2)</sup>, 佐藤 順<sup>3)</sup>, 多田教彦<sup>3)</sup>, 松坂 聡<sup>3)</sup>, 黒田 肇<sup>3)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院内科, <sup>2)</sup>付属病院第3内科)：肝生検により確定診断された HELLP syndrome の1例。日本肝臓学会東部地方会, 1996, 11.
- 13) 東 直行<sup>1)</sup>, 金子勝美<sup>1)</sup>, 北原東一<sup>1)</sup>, 服部怜美<sup>1)</sup>, 大秋美治, 青木見佳子<sup>2)</sup>, 本田光芳<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院皮膚科, <sup>2)</sup>付属病院皮膚科)：Fibrous hamartoma of infancy の1例。第723回日本皮膚科学会東京地方会, 1996, 9.
- 14) 牧野浩司<sup>1)</sup>, 森山雄吉<sup>1)</sup>, 京野昭二<sup>1)</sup>, 横井公良<sup>1)</sup>, 小川芳雄<sup>1)</sup>, 野村 務<sup>1)</sup>, 横山 正<sup>1)</sup>, 長沢重直<sup>1)</sup>, 打越康信<sup>1)</sup>, 山下精彦<sup>1)</sup>, 大秋美治, 恩田昌彦<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院外科, <sup>2)</sup>付属病院第1外科)：直腸における神経内分泌癌の1症例。第241回日本消化器病学会関東支部例会, 1996, 7.

## [千葉北総病院中央検査室]

### 研究概要

当室では安定した診療体勢を担う上で臨床と密着した対応を最も重要視し、各科への研究協力と共に院内感染対策委員会や衛生面に関する清浄度管理など数々の断続的な活動を実施した。なお平成8年度は千葉北総病院開院3年目を迎え、臨床面では各診療科の特長的な傾向を加味して、臨床検査分野の寄与を主体とした積極的な活動を行なった。

また、空港クリニックや各企業検診など年間の健康管理業務等を大幅に拡張し、予防医学的立場においても飛躍的な効果は極めて膨大なものである。その上で当検査室の充実とより一層の向上を目的として、学内外での幅広い学術活動と技術者教育に最大限尽力し、各分野にて更なる系統的研究を重ね着実な成果が得られつつある。本年度の主な研究成果は以下の通りである。①超音波での腹部エコーによる膵嚢胞腺癌等、稀少症例の解析評価と共に他臓器障害の確認と系統的検索、②重症病棟患者における血管性レニン濃度の推移と種々評価、③生理学的分野を中心としたトポグラフィーマッピング装置の施設利用効果、④院内の感染症患者を対象に多剤耐性菌(MRSA 含)の動向と、特異的傾向の推移や疾患別の模索に関する一連の調査報告、⑤輸血時の交差適合試験としての整合性と稀少症例の検索法とその対応、⑥血液製剤の利用法と廃血時に至る経緯を踏まえた現状の把握と有効利用向上への模索、⑦PCを利用した管理業務支援システムの構築と引用法の拡大を目的とした経験的效果と実際、⑧医療機関における臨床検査分野の経営収支に対する観念と、理想的なマネジメントに基づく波及効果について、⑨わが国では逸速い、O-157Vero 毒素の検出対応等、各科への研究協力と診療支援システムとして臨床に密着した研究検査に主眼を置き、今後は総合管理体制とより効果的なマネジメントを求めると共に、各分野毎に人材の育成など、極めて多岐に渡る分野に更なる充実を加え、広範囲における活動の推進により新たな成果が期待される。

### 研究業績

#### 著書

- 1) 野本剛史：〔分担〕私立医科大学病院でのランチの進行とそれへの対応。“技師の目シリーズIV”(榎本博光編) 1997；p211-216, Modern Media.
- 2) 野本剛史：〔分担〕第15回東京都衛生検査所精度管理事業報告書。1997；東京都衛生局。

#### 学会発表

##### (1) 教育講演：

- 1) 野本剛史：外注検査と院内検査に関する検討。全国臨床検査管理研究会，1996. 9.

##### (2) シンポジウム：

- 1) 野本剛史：社会問題フォーラム：実施施設の立場で見たランチの問題点。第33回関東甲信地区医学検査学会，1996. 9.

##### (3) 一般講演：

- 1) 町田幸雄，岡本直人，西村とき子，野本剛史：重症病床における活性型レニン定量値の分布。第45回日本臨床衛生検査学会，1996. 5.
- 2) 西村とき子，亀山雅弥，野本剛史：腹部エコーにおける膵嚢胞腺癌の1例。第45回日本臨床衛生検査学会，1996. 5.
- 3) 岡本直人，染谷紀子，野本剛史：交差適合試験主試験全てにおいて凝集が認められた2症例。第45回日本臨床衛生検査学会，1996. 5.
- 4) 町田幸雄，岡本直人，野本剛史：PCによる管理業務支援システムの構築。“市販アプリケーションを用いて”。第45回日本臨床衛生検査学会，1996. 5.
- 5) 石渡統夫，西村とき子，野本剛史：DAI(びまん性軸索損傷)患者に対してのトポグラフィーの有用性。第64回

- 日本医科大学医学会総会, 1996, 9.
- 6) 染谷紀子, 目黒真喜子, 柳下照子, 亀山雅弥, 野本剛史, 水野杏一: 当院における病原性大腸菌 O-157. 第64回日本医科大学医学会総会, 1996, 9.
  - 7) 西村とき子, 町田幸雄, 石渡統夫, 亀山雅弥, 野本剛史, 水野杏一: 主尿管拡張描出困難な膵嚢胞腺癌の1例. 第64回日本医科大学医学会総会, 1996, 9.
  - 8) 岡本直人, 町田幸雄, 井上一夫, 野本剛史: 血液製剤の院内廃棄理由について. 第64回日本医科大学医学会総会, 1996, 9.

## [千葉北総病院薬剤科]

### 研究概要

1997年4月に薬剤師法25条2が改正され, 副作用, 相互作用も含む患者への情報提供が法的にも義務付けられ, 医療における薬剤師の責任が益々重くなってきた. 今年度は, 新しく開発された高カロリー輸液製剤の有用性, 経腸栄養剤の配合変化に関する問題, 新しい即乾性アルコール消毒剤の除菌効果の検討など, 臨床の現場からの視点での研究を行った.

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著:

- 1) 浜田康次, 井口理恵, 吉原貴子, 原田光枝, 清水 哲, 片岡博邦: 高カロリー輸液用ワンバッグ型製剤ユニカリックLおよびNの医療経済性からみた有用性の検討. JJPEN 1996; 18(7): 557-565.

##### (2) 総説:

- 1) 浜田康次: 薬剤師のための情報管理学, 薬剤師とコンピュータ 都薬雑誌, 1996; 18(7): 17-23.
- 2) 浜田康次: 新薬情報, 新薬のプロファイル(17), 主任&中堅 1996; 5(6): 105-109.
- 3) 高田雅史<sup>1)</sup>, 片岡博邦<sup>1)</sup>, 小川理郎<sup>2)</sup>, 横田裕行<sup>2)</sup>, (<sup>1)</sup>千葉北総病院薬剤科, <sup>2)</sup>同救急部): 処置と薬物療法. エマージェンシー・ナーシング 1996; 9(8): 15-20.
- 4) 浜田康次: 老人医療でよく使用される薬の知識 8. パーキンソン病治療剤. 老人看護おらす介護 1996; 3(5): 90-97.
- 5) 高田雅史<sup>1)</sup>, 横田裕行<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>千葉北総病院薬剤科, <sup>2)</sup>同救急部): サリン中毒. 臨床医 1996; 22(増刊号): 874.
- 6) 浜田康次: 新薬情報, 新薬のプロファイル(18). 主任&中堅 1996; 6(1): 109-113.
- 7) 浜田康次: 老人医療でよく使用される薬の知識 9, 緑内障治療剤. 老人看護おらす介護 1996; 3(6): 120-125.
- 8) 浜田康次: 新薬情報, 新薬のプロファイル(19). 主任&中堅 1996; 6(2): 103-107.
- 9) 浜田康次: 老人医療でよく使用される薬の知識10, 睡眠導入剤. 老人看護おらす介護 1996; 4(1): 106-111.
- 10) 浜田康次: 服薬指導我意論, Pharmaceutical Care 1997; (11)13.
- 11) 浜田康次: 老人医療でよく使用される薬の知識11, 不整脈治療剤. 老人看護おらす介護 1997; 4(2): 92-99.
- 12) 浜田康次: 薬学と哲学. 薬局 1997; 48(3): 148-149.
- 13) 浜田康次: 医薬品の副作用. 薬局 1997; 48(4): 148-149.
- 14) 浜田康次: 老人医療でよく使用される薬の知識12, 制癌剤. 老人看護おらす介護 1997; 4(3): 128-132.
- 15) 浜田康次: 新薬情報, 新薬のプロファイル(20). 主任&中堅 1997; 6(4): 107-111.
- 16) 浜田康次: 抗生物質と耐性菌. 薬局 1997; 48(6): 146-147.



## 学会発表

### (1) 教育講演：

- 1) 浜田康次：DI 業務。第18回新任薬剤師研修会，1996。11。

### (2) 一般講演：

- 1) 井口理恵，三橋雅子，山内千亜紀，河口峰子，浜田康次，片岡博邦<sup>1)</sup>，山村重雄<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院薬剤科，<sup>2)</sup>東邦大学薬学部医療薬学教育センター)：経腸栄養剤と脳外科領域の粉碎薬剤との配合変化(第2報)，塩酸ピフェメランと蛋白成分の配合変化試験。日本病院薬剤師会関東ブロック第26回学術大会(群馬)，1996。8。
- 2) 吉原貴子，井口理恵，原田光枝，清水 哲，浜田康次，片岡博邦：高カロリー輸液用ワンバック製剤ユニカリックの有用性の検討(第1報) 経済面よりみた有用性。第6回日本病院薬学会(仙台)，1996。9。
- 3) 清水 哲，吉原貴子，浜田康次，片岡博邦：高カロリー輸液用ワンバック製剤ユニカリックの有用性の検討(第2報) 不溶性微粒子について。第29回日本薬剤師会学術大会(長崎)，1996。11。
- 4) 保坂洋二，中山 健，片岡博邦<sup>1)</sup>，柳下照子，野本剛史<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>千葉北総病院薬剤科，<sup>2)</sup>同検査室)：即乾性アルコール製剤アスリンの除菌効果の検討。第29回日本薬剤師会学術大会(長崎)，1996。11。

## [千葉北総病院中央画像検査室]

### 研究概要

画像診断技術の進歩はめざましく，さまざまな医療技術革新の中においても際立っていると言えよう。当検査室の研究テーマは放射線技術全般であり研究内容は多岐にわたる。例えばCTを含めた，X線撮影に関する研究等がそれであるが，今年度では特にMRIに関する研究が原著論文として採用されている。

これまでMRAは造影剤を使用する事なく血管像が得られ有効とされてきた。しかし，我々は体幹部，四肢等の広範囲の動脈撮像において，三次元撮像法のデータ収集中にGd-DTPAを静注しつつ撮像する方法が描出能，撮像範囲等の点において有用である事を報告した。さらにPreparation pulseに180度pulseを使用したT1強調型高速三次元撮像法3D IR preparation Fast SPGR法を用いたGd-DTPA持続静注3DMR Aの最適撮像パラメータの研究を行い，臨床において良好なMRA像が得られた事を報告した。又，MRAについてはFast card STARを用いた頭部MRAの研究も同時期に行われ，artifactを軽減した良好な画像が得られた事を報告している。その他には，経口消化管陽性造影剤(FerriSeltz)とFast inversion recovery法の併用により，T2強調画像上において消化管信号除去を目的に研究したものが論文として採用されている。この研究からFast IR法(TI150, 200ms)ではFerri SeltzをFast SE法の様に高濃度にする必要が無く，通常使用の濃度で信号の抑制が可能である事が解った。現時点において臨床上使用可能なMRI用消化管陰性造影剤が無く，本法は比較的簡便にT2強調画像上で消化管の信号を除去できる事からその有用性は高いと評価されたものである。中央画像検査室は今後も画像診断技術を駆使し，医療技術の向上につながる様に研鑽していきたい。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

- 1) 加藤丈司，川村義彦，伊藤公一郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線科)：高速 gradient echo法を用いたGd-DTPA持続静注3D MR angiographyの撮像パラメータ検討。日本放射線技術学会誌1996；52(4)，530-535。
- 2) 加藤丈司，川村義彦，伊藤公一郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線科)：IR preparation Fast SPGRを用いたGd-DTPA持続静注3D MR angiographyの撮像パラメータ検討。日本放射線技術学会誌1996；52(6)，747-752。
- 3) 加藤丈司，川村義彦，伊藤公一郎<sup>1)</sup>(<sup>1)</sup>放射線科)：クエン酸鉄アンモニウム製剤を用いた消化管信号除去の実験的検討。日本放射線技術学会誌 1996；52(10)：1287-1291。

## 学会発表

### (1) 一般講演

- 1) 中村亜矢, 汲田伸一郎<sup>2)</sup>, 趙 圭一<sup>1)</sup>, 水村 直<sup>2)</sup>, 石原真木子<sup>2)</sup>, 木島鉄仁<sup>2)</sup>, 尾科隆司<sup>2)</sup>, 小菅 豊<sup>2)</sup>, 川村義彦, 岡田 進<sup>1)</sup>, 隈崎達夫<sup>2)</sup> ( <sup>2)</sup>付属病院放射線科): DOUBLE COLLIMATOR TECHNIQUE IN SIMULTANEOUS DUAL-ISOTOPE SPECT STUDIES. 第36回日本核医学会総会, 1996. 10.
- 2) 加藤丈司, 斉藤晴美, 高岡慎市, 尾畑 円, 丸山智之, 川村義彦: IR preparation Fast SPGR を用いた Gd-DTPA 持続静注3D MR angiography の撮像パラメータ検討. 第52回日本放射線技術学会大会, 1996. 4.
- 3) 加藤丈司, 川村義彦, 伊藤公一郎<sup>1)</sup>, 田島なつき<sup>1)</sup>, 岡田 進<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>放射線科): クエン酸鉄アンモニウム製剤を用いた消化管信号除去の実験的検討. 第24回日本磁気共鳴医学会大会, 1996. 9.
- 4) 加藤丈司, 斉藤春美, 高岡慎市, 櫻井 実, 川村義彦: Fast Card STAR を用いた MR-Angiography の検討. 第24回日本放射線技術学会秋季学術大会, 1996. 10.
- 5) 加藤丈司, 斉藤春美, 川村義彦: 消化管信号除去を目的としたクエン酸鉄アンモニウム製剤の検討. 日本放射線技師会総合学術大会, 1996. 10.
- 6) 加藤丈司, 斉藤晴美, 富里謙一, 櫻井 実, 丸山智之, 渡辺典男, 川村義彦, 伊藤公一郎<sup>1)</sup>, 田島なつき<sup>1)</sup>, 岡田進<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>放射線科): 超高速 Echo Planar T2強調画像における消化管信号除去の実験的検討. 第15回千葉 MR 研究会, 1997. 1.
- 7) 加藤丈司, 川村義彦: Echo Planar T2強調画像におけるクエン酸鉄アンモニウム製剤を用いた消化管信号除去の実験的検討. 日本放射線技術学会, 第43回関東部会研究発表大会, 1997. 2.
- 8) 富里謙一, 土橋俊男<sup>1)</sup>, 榎 利夫<sup>1)</sup>, 鈴木 健<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>日本医科大学付属病院): 高速 SE 法の metal artifact について: 高速 SE 法と SE 法の比較. 日本放射線技術学会, 第19回東京部会秋期学術研究発表会, 1996. 11.
- 9) 渡辺典男, 小川 孝<sup>1)</sup>, 鈴木 健<sup>1)</sup>, 三浦靖則<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>日本医科大学付属病院, <sup>2)</sup>富士銀行健康管理センター): 胃前壁薄層法に於ける新圧迫技術の有用性. 第24回日本放射線技術学会秋期学術大会, 1996. 10.
- 10) 櫻井 実, 塩野純子, 川村義彦: Dual Energy X-ray absorptiometry 法による腰椎側面測定の精度向上について. 第24回日本放射線技術学会秋期学術大会, 1996. 10.
- 11) 松丸和弘, 櫻井 実, 川村義彦: 3次元 CT 画像の画質と撮影条件の関係について. 第24回日本放射線技術学会秋期学術大会, 1996. 10.
- 12) 松丸和弘, 川村義彦, 趙 圭一<sup>1)</sup>, 保坂純郎<sup>1)</sup>, 岡田 進<sup>1)</sup>, 高木 亮<sup>2)</sup>, 林 宏光<sup>2)</sup>, 小林尚志<sup>2)</sup>, 隈崎達夫<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>放射線科, <sup>2)</sup>日本医科大学付属病院放射線科): 頭部3D-CTA における撮影条件が血管描出能に及ぶ影響. 第2回3次元 CT 研究会, 1997. 2.
- 13) 有馬光一, 尾畑 円, 中村亜矢, 中野 徹, 櫻井 実, 丸山智之, 川村義彦, 飯田 昇<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>三田屋商事): 低格子比シングル・グリットの特性評価 (第3報): 並行型・集束型グリットの比較. 日本放射線技術学会, 第50回東京部会総会, 1996. 5.
- 14) 有馬光一, 丸山智之, 松丸和弘, 加藤丈司, 川村義彦, 岡田 進<sup>1)</sup>, 三枝紀雄<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>放射線科, <sup>2)</sup>イメージン): 乾式現像方式レーザー・イメージャの性能評価: 並行型・集束型グリットの比較. 日本放射線技術学会, 第52回日本放射線技術学会大会, 1996. 4.

## 〔4〕付置研究施設

# 1. 老人病研究所

## [病理部門]

### 研究概要

老年期痴呆の脳に認められる老人斑の形成機序の解明を目的として、研究が進められている。老人斑の形成機序は未だ明らかではないが、形態学的には  $\beta$ -protein が amyloid core として沈着を示すことで広く知られている。この蛋白はヘパラン硫酸と強く結合することによって脳内に沈着すると考えられることから、アルツハイマー型老年痴呆者脳と非痴呆老年者脳についてヒアルロン酸、ヘパラン硫酸、デルマトン硫酸、コンドロイチン硫酸の4種類のプロテオグリカンの定量を行った。総プロテオグリカン量はアルツハイマー型老年痴呆者脳で増量しており、中でも、ヘパラン硫酸プロテオグリカン量が顕著な増加を示した。抗ヘパラン硫酸プロテオグリカン抗体を用いて免疫組織化学的検索を行ってみると、毛細血管基底膜、老人斑のコアの一部と変性神経突起に局在が認められ、ヘパラン硫酸プロテオグリカンが  $\beta$ -protein と共に老人斑の構成成分であることを明らかにした。さらに老人斑の形成とミクログリア、アストログリアの関与について免疫組織化学的に検討すると、ミクログリアは老人斑の中心部のアミロイドコア内に観察され、アストログリアは老人斑周囲に認められた。このアストログリア細胞に GFAP と  $\beta$ -protein の免疫二重染色を行なうと、Amyloid angiopathy を示す血管壁周囲のアストログリア線維も  $\beta$ -protein に陽性を示すことが分かった。免疫電顕による観察でミクログリアの細胞質へのアミロイドの貪食が見られ、アストログリア、ミクログリアが老人斑の沈着と消失に関与していることが明らかになった。

遅発性脳血管攣縮の病理発生に活性酸素が関与する可能性を明らかにする目的で、本病態下で産生していると推察されてきた活性酸素、特に superoxide anion ( $O_2^{\cdot-}$ ) に着目した。遅発性脳血管攣縮を誘発した犬クモ膜下出血モデルを作製し、開発した組織化学的手法 (Mn++/DAB 混合溶液が  $O_2^{\cdot-}$  と特異的に反応し osmiophilic polymer を形成するフリーラジカル検出法) を用い、攣縮血管周囲の  $O_2^{\cdot-}$  の局在及び出現時期を検討した。その結果、自家血注入後2日目、そして7日目に、クモ膜下腔に注入された変性赤血球の周囲と、クモ膜下腔に浸潤しているマクロファージ/好中球の細胞質内及び隣接部位に茶褐色微細顆粒状の  $O_2^{\cdot-}$  反応産物を光顕的及び電顕的に検出し得た。この本病態下での  $O_2^{\cdot-}$  産生に関して、in situ での可視化に証明できたことは病理発生に関するフリーラジカルの関与をあらためて支持するデータとなった。

### 研究業績

#### 論文

(1) 原著：

- 1) Nagata K<sup>1)</sup>, Sasaki T<sup>2)</sup>, Mori T, Nikaido H<sup>2)</sup>, Kobayashi E<sup>3)</sup>, Kim P<sup>2)</sup>, Kirino T<sup>2)</sup> (1)公立昭和病院・脳外, 2)東大・医・脳外, 3)千葉県・救命救急セ・脳外) : Cisternal talc injection in dog can induce delayed and prolonged arterial constriction resembling cerebral vasospasm morphologically and pharmacologically. Surg Neurol 1996 ; 45 : 442-447.
- 2) Asoh S, Mori T, Hayashi J-I<sup>1)</sup>, Ohta S (1)筑波大・生物科学) : Expression of the apoptosis-mediator Fas is enhanced by dysfunctional mitochondria. J Biochem 1996 ; 120 : 600-607.
- 3) 清水 一, 佐藤 茂<sup>1)</sup>, 大石一二三<sup>3)</sup>, 森 修<sup>2)</sup>, 森 隆, 大網 弘 (1)中央電顕, 2)千葉北総病院病理部, 3)協同乳業研究所) : アルツハイマー型老年痴呆におけるプロテオグリカンの動態. 日老医誌 1997 ; 34 : 461-467.

## 学会発表

### (1) シンポジウム：

- 1) 永田和哉<sup>1)</sup>, 森 隆, 五十嵐理慧<sup>2)</sup>, 水島 裕<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>公立昭和病院・脳外, <sup>2)</sup>聖マリアンナ医大・難治研・DDS 部門)：レシチン化 SOD 大槽内投与の脳血管攣縮に及ぼす効果：イヌ two-hemorrhage model による検討。第12回スパズムシンポジウム, 1996. 7.
- 2) 上田雅之<sup>1)</sup>, 神谷達司<sup>1)</sup>, 片山泰朗<sup>1)</sup>, 森 隆, 赫 彰郎<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>第一病院・第2内科)：ラット慢性脳循環不全モデル白質病変におけるグリア細胞の DNA 断片化。第8回日本脳循環代謝学会総会, 1996. 12.

### (2) 一般講演：

- 1) Nagata K<sup>1)</sup>, Mori T<sup>2)</sup>, Asano T<sup>3)</sup>, Kikuchi T<sup>4)</sup>, Uwahodo Y<sup>3)</sup>, Nakai M<sup>3)</sup> (<sup>1)</sup>公立昭和病院・脳外, <sup>2)</sup>埼玉医療セ・脳外, <sup>3)</sup>大塚製薬(株)・新薬第3研)：Role of superoxide anion in the pathogenesis of cerebral vasospasm after aneurysmal subarachnoid hemorrhage. Oxidative Stress and Redox Regulation (Paris), 1996. 5.
- 2) Mori T, Nagata K<sup>1)</sup>, Asano T<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>公立昭和病院・脳外, <sup>2)</sup>埼玉医療セ・脳外)：Superoxide anion production in the subarachnoid space during cerebral vasospasm, detected by a new histochemical approach. Oxidative Stress and Redox Regulation (Paris), 1996. 5.
- 3) Nagata K<sup>1)</sup>, Mori T, Asano T<sup>2)</sup>, Kikuchi T<sup>3)</sup>, Uwahodo Y<sup>3)</sup>, Nakai M<sup>3)</sup> (<sup>1)</sup>公立昭和病院・脳外, <sup>2)</sup>埼玉医療セ・脳外, <sup>3)</sup>大塚製薬(株)・新薬第3研)：Effects of OPC-14117, a novel superoxide anion scavenger, on chronic cerebral vasospasm in dogs. 3rd World Stroke Congress and 5th European Stroke Conference (Munich), 1996. 9.
- 4) 永田和哉<sup>1)</sup>, 森 隆, 菊池哲朗<sup>2)</sup>, 上程康文<sup>2)</sup>, 中井正三<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>公立昭和病院・脳外, <sup>2)</sup>大塚製薬・新薬第3研)：新しい free radical scavenger OPC-14117の脳血管攣縮予防効果：イヌ two-hemorrhage model による検討。第21回日本脳卒中学会総会, 1996. 4.
- 5) 森 隆, 永田和哉<sup>1)</sup>, 大網 弘 (<sup>1)</sup>公立昭和病院・脳外)：脳血管攣縮病態下でのクモ膜下腔 superoxide anion の経時的検出：大槽内 Mn++-DAB 混合溶液持続灌流法。第85回日本病理学会総会, 1996. 4.
- 6) 清水 一, 森 隆, 枝川聖子, 佐藤 茂<sup>1)</sup>, 大網 弘, 大國寿士 (<sup>1)</sup>中央電頭)：アルツハイマー型老年痴呆における老人斑形成の免疫組織学的検討。第64回日本医科大医学会総会, 1996. 9.
- 7) 清水 一, 森 隆, 枝川聖子, 佐藤 茂<sup>1)</sup>, 大石一二三<sup>2)</sup>, 大網 弘 (<sup>1)</sup>中央電頭, <sup>2)</sup>協同乳業研)：アルツハイマー型老年痴呆における老人斑形成の免疫組織学的検討。第42回日本病理学会秋季特別総会, 1996. 11.
- 8) 清水 一, 枝川聖子, 小黒辰夫<sup>1)</sup>, 大國寿士 (<sup>1)</sup>北総病院・病理)：PC-12細胞の細胞分化に及ぼすアルミニウムの影響について。第35回日本臨床細胞学会秋季大会, 1996. 11.
- 9) 清水 一, 佐藤 茂<sup>1)</sup>, 大石一二三<sup>2)</sup>, 森 隆, 枝川聖子, 大國寿士 (<sup>1)</sup>中央電頭, <sup>2)</sup>協同乳業研)：アルツハイマー型老年痴呆における老人斑形成の免疫組織化学的検討。第1回グリア研究会, 1996. 11.
- 10) 森 隆, 永田和哉<sup>1)</sup>, 村松浩美<sup>2)</sup>, 神谷達司<sup>2)</sup>, 南澤宏明<sup>2)</sup>, 片山泰朗<sup>2)</sup>, 赫 彰郎<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>公立昭和・脳外, <sup>2)</sup>第一病院・第2内科)：虚血性脳細胞障害に於けるフリーラジカルの関与—ラット局所脳虚血・再灌流病態下での superoxide anion の経時的検出。第22回日本脳卒中学会総会, 1997. 3.

## [生化学部門]

### 研究概要

新しい研究室の体制になって2年が経過した。研究室のシステム作りも一段落し、研究も効率よく行われるようになり、成果も顕著にあがっている。

アポトーシスは遺伝子にくみこまれた能動的細胞死である。Bcl-2ファミリーにはアポトーシスを抑制する因子と促

進する因子があり、これらはアポトーシスの制御に中心的な役割を果たしている。共同研究の X 線結晶解析でアポトーシス抑制因子ラット Bcl-x の立体構造を明らかにし、アポトーシス促進因子 Bax の立体構造を推定した。Bax は 0.01% 程度の発現によってバクテリアをも死に至らしめることを昨年明らかにしたが、原因として活性酸素が関与することを明らかにした。また、Bax の遺伝子操作によって、アポトーシスを誘導し、そのアポトーシスは Bcl-2 に抑制されない変異 Bax を作成したので、Bax がアポトーシスを誘導し、Bcl-2 や Bcl-x が Bax の活性を抑制することでアポトーシスを二次的に抑制することを明らかにした。また、アポトーシスへのミトコンドリアの関与を明らかにしたので今後ミトコンドリアとアポトーシスの関連を中心に研究を進める予定である。

孤発性アルツハイマー病では 14% の患者に、あるミトコンドリア蛋白の遺伝子の遺伝子型と相関があることを明らかにした。しかも、それは劣性遺伝するので、既知の遺伝子の寄与とは全く異なるものである。この結果によってアルツハイマー病の 14% は予測可能になったので、社会的にも大きなインパクトを与える研究成果である。

ミトコンドリア病の遺伝子治療法に関しては、変異ミトコンドリア DNA が蓄積した細胞を死滅させ、除去する方法を開発しようと試みている。その目的を達成するためにミトコンドリア機能低下によって誘導されるプロモーターが存在することを発見した。また、ミトコンドリア脳筋症を引き起こす変異ミトコンドリア DNA は大部分の健常人もわずかながら持っており、ただその比率は少ないだけであることを発見した。この結果は従来のミトコンドリア遺伝子の概念を根本からくつがえすものである。

眼科との共同研究では緑内障の新しい原因遺伝子変異を同定した。

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著：

- 1) Takase C<sup>1)</sup>, Nakano K<sup>1)</sup>, Ohta S, Nakagawa S<sup>2)</sup>, Matuda S<sup>3)</sup> (<sup>1)</sup>鹿児島女子短大・生化, <sup>2)</sup>鹿児島大・医・解剖, <sup>3)</sup>鹿屋体育大・生物) : Different Distribution of Dihydroliipoamide Succinyltransferase, Dihydroliipoamide Acetyltransferase and ATP Synthase  $\beta$ -subunit in Monkey Brain. IN VIVO 1996 ; 10 : 495-502.
- 2) Mizuguchi M<sup>1)</sup>, Sohma O<sup>1)</sup>, Takashima S<sup>1)</sup>, Ikeda K<sup>2)</sup>, Yamada M<sup>3)</sup>, Siraiwa N<sup>4)</sup>, Ohta S (<sup>1)</sup>国立神経セ, <sup>2)</sup>都精神総合研, <sup>3)</sup>新潟脳研, <sup>4)</sup>自治医大) : Immunochemical and Immunohistochemical localization of Bcl-x protein in the rat central nervous system. Brain Res 1996 ; 712 : 281-286.
- 3) Shiraiwa N<sup>1)</sup>, Inohara N, Okada S<sup>1)</sup>, Yuzaki M<sup>1)</sup>, Shoji S-<sup>2)</sup>, Ohta S (<sup>1)</sup>自治医大生化, <sup>2)</sup>筑波大) : An additional form of rat Bcl-x, Bcl-x $\beta$ , generated by an unspliced RNA, promotes apoptosis in promyeloid cells. J Biol Chem 1996 ; 271(22) : 13258-13265.
- 4) Sohma O<sup>1)</sup>, Mizuguchi M<sup>1)</sup>, Takashima S<sup>1)</sup>, Yamada M<sup>2)</sup>, Ikeda K<sup>3)</sup>, Ohta S (<sup>1)</sup>国立神経セ, <sup>2)</sup>新潟脳研, <sup>3)</sup>都精神総合研) : High expression of Bcl-x protein in the developing human cerebellar cortex. J Neurosci Res 1996 ; 43(2) : 175-182.
- 5) Uenaka R, Kuwajima M<sup>1)2)</sup>, Ono A<sup>1)</sup>, Matsuzawa Y<sup>1)</sup>, Hayakawa J-I<sup>3)</sup>, Inohara N, Kagawa Y<sup>4)</sup>, Ohta S (<sup>1)</sup>阪大, <sup>2)</sup>徳島医大, <sup>3)</sup>金沢医大, <sup>4)</sup>自治医大) : Increased Expression of Carnitine Palmitoyltransferase I Gene is Repressed by Administering L-Carnitine in the hearts of Carnitine-Deficient Juvenile Visceral Steatosis Mice. J Biochem 1996 ; 119 : 533-540.
- 6) Asoh S, Mori T, Hayashi J-I<sup>1)</sup>, Ohta S (<sup>1)</sup>筑波大・生物科学) : Expression of an Apoptosis-Mediator, Fas is Enhanced by Dysfunctional Mitochondria. J Biochem 1996 ; 120 : 600-607.

#### (2) 総説：

- 1) 太田成男, 猪原直弘：アポトーシス制御の分子機構と関連疾患。日医大誌 1996 ; 63(2) : 17-27.
- 2) 太田成男：ミトコンドリア脳筋症（特集：病理診断と分子生物学・遺伝学）。病理と臨床（臨時増刊号） 1996 ;

14:22-25.

- 3) 若尾りか, 太田成男: アポトーシスとレドックス調節. 神経研究の進歩 1996; 40(2): 248-256.
- (3) 研究報告書:
- 1) 太田成男: アポトーシス制御因子 Bcl-x の機能とその分布. (財)細胞科学研究財団助成研究報告集: 細胞科学 1996; 7: 70-79.

## 著書

- 1) 太田成男: [分担] bcl-x. "Bio Science 用語ライブラリーアポトーシス" (三浦正幸, 山田 武編), 1996; pp90-91, 羊土社.
- 2) 太田成男: [分担] bak, bad, bik, その他の bcl-2ファミリー遺伝子. "Bio Science 用語ライブラリーアポトーシス" (三浦正幸, 山田 武編), 1996; pp92-93, 羊土社.

## 学会発表

- (1) シンポジウム:
- 1) 太田成男: 酸素ラジカルによるアポトーシス研究のモデルシステム (神経変性疾患とアポトーシス). 大阪大学蛋白質研究所セミナー, 1996. 3.
- 2) 太田成男: アポトーシスの役割と Bcl-2ファミリーによる制御. 第4回バイオ・メディカルサイエンス・セミナー, 1996. 7.
- 3) 太田成男: ミトコンドリア tRNA 遺伝子変異によるミトコンドリア病の特徴. 公開シンポジウム「RNA 機能構造研究の新視点」, 1996. 9.
- 4) 太田成男: ミトコンドリア DNA の変異と疾患 (非メンデル遺伝子の分子機構). 「遺伝子診断/情報」公開講演会, 1997. 2.
- (2) 一般講演:
- 1) 若尾りか, 麻生定光, 西槇貴代美, 石橋佳朋, 太田成男: 大腸菌パラコート耐性株はアポトーシス促進因子ヒト Bax の大腸菌致死作用を抑制する. 第69回日本生化学会大会・第19回日本分子生物学会年会 合同年会, 1996. 8.
- 2) 麻生定光, 西槇貴代美, 若尾りか, 石橋佳朋, 太田成男: アポトーシス促進因子ヒト Bax 蛋白による大腸菌の酸素ストレスの上昇. 第69回日本生化学会大会・第19回日本分子生物学会年会 合同年会, 1996. 8.
- 3) 西槇貴代美, 麻生定光, 石橋佳朋, 若尾りか, 太田成男: アポトーシス促進因子ヒト Bax 蛋白による大腸菌の致死作用とその作用領域の同定. 第69回日本生化学会大会・第19回日本分子生物学会年会 合同年会, 1996. 8.
- 4) 石橋佳朋, 若尾りか, 西槇貴代美, 麻生定光, 太田成男: アポトーシス促進因子 Bax のアポトーシス促進領域. 第69回日本生化学会大会・第19回日本分子生物学会年会 合同年会, 1996. 8.
- 5) 高瀬千義<sup>1)</sup>, 中野恭子<sup>1)</sup>, 児玉潤子<sup>2)</sup>, 中河志朗<sup>3)</sup>, 太田成男, 松田貞幸<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>鹿児島女子短大・生化, <sup>2)</sup>鹿屋体育大・生物, <sup>3)</sup>鹿児島大・医・解剖): ジヒドロリポアミド・サクシニル転移酵素遺伝子プロモーター領域の解析. 第69回日本生化学会大会・第19回日本分子生物学会年会 合同年会, 1996. 8.
- 6) 中野恭子<sup>1)</sup>, 児玉潤子<sup>2)</sup>, 高瀬千義<sup>1)</sup>, 合志徳久<sup>2)</sup>, 中河志朗<sup>3)</sup>, 太田成男, 松田貞幸<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>鹿児島女子短大・生化, <sup>2)</sup>鹿屋体育大・生物, <sup>3)</sup>鹿児島大・医・解剖): ミトコンドリア・タンパクであるジヒドロリポアミド・サクシニル転移酵素の細胞内局在化の違方性. 第69回日本生化学会大会・第19回日本分子生物学会年会 合同年会, 1996. 8.
- 7) 松田貞幸<sup>1)</sup>, 児玉潤子<sup>1)</sup>, 高瀬千義<sup>2)</sup>, 合志徳久<sup>1)</sup>, 中河志朗<sup>3)</sup>, 太田成男, 中野恭子<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>鹿屋体育大・生物, <sup>2)</sup>鹿児島女子短大・生化, <sup>3)</sup>鹿児島大・医・解剖): ラット, ニワトリの軟骨細胞におけるミトコンドリアタンパクの異常発現とアポトーシス. 第69回日本生化学会大会・第19回日本分子生物学会年会 合同年会, 1996. 8.

- 8) 張 培 滄<sup>1)</sup>, Tambuhan J<sup>1)</sup>, 小川賢吾<sup>1)</sup>, 太田成男, 名取正彦<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>日大・生物資源科学) : カイコ由来の Bcl-x 相同タンパク質に関する研究. 第69回日本生化学会大会・第19回日本分子生物学会年会 合同年会, 1996. 8.
- 9) 石橋佳朋, 若尾りか, 西槇貴代美, 麻生定光, 太田成男 : アポトーシス促進因子 Bax におけるアポトーシス促進領域と分子機構. 第64回日本医科大医学会総会, 1996. 9.
- 10) 麻生定光, 西槇貴代美, 若尾りか, 石橋佳朋, 太田成男 : アポトーシス促進因子とヒト Bax 蛋白の発現により大腸菌は活性酸素 (スーパーオキシド) を発生する. 第5回アポトーシス研究会研究集談会, 1996. 9.
- 11) 高橋卓夫<sup>1)</sup>, 麻生定光, 吾妻安良太<sup>1)</sup>, 金子泰之<sup>1)</sup>, 橋元恭士<sup>1)</sup>, 榎本達治<sup>1)</sup>, 村田 朗<sup>1)</sup>, 若尾りか, 工藤翔二<sup>1)</sup>, 太田成男 (<sup>1)</sup>付属病院・第4内科) : サルコイドーシス患者の BALF 細胞におけるアポトーシス抑制因子 Bcl-2, Bcl-xL の蛋白量の検討. 第16回日本サルコイドーシス学会総会, 1996. 10.
- 12) 太田成男, 麻生定光, 若尾りか, 西槇貴代美, 石橋佳朋 : アポトーシス (プログラム死) 誘導因子 Bax による酸素消費の上昇. 生体エネルギー研究会 第22会討論会, 1996. 12.

## [免疫部門]

### 研究概要

川崎病の病因を明らかにして行く過程で, 緑色レンサ球菌の一つである *Streptococcus mitis* の一部の菌株の代謝物質中に, ヒト血小板を凝集する因子の存在することを見出し, 本因子の精製を試み, 得られた精製標品から N-末端アミノ酸配列を15残基まで決定した. これを基にプライマーを作製し, Cassette-PCR 法を用いて, この凝集因子の塩基配列をほぼ決定することが出来た.

上記の凝集因子による血小板凝集反応を阻害する物質を血中に持つヒトがいることが明らかにされ, その阻害因子は分子量約55kDa,  $\alpha$  から  $\beta$  グロブリンにかけての易動度をもつ, 糖蛋白であることを明らかにした. 現在, N-末端のアミノ酸配列が検討されている.

ジーゼルエンジン排気ガス粒子中に含まれるピレン, アントラセン, フルオランセン等が IgE 抗体産生に対しアジュバンド活性を持つことを明らかにし, 且つこれら物質が単球に作用して,  $O_2^-$ , IL-1の産生を誘導することも併せて報告した. 現在, これら化学物質自体が直接組織障害作用を持つか否かを, マウス鼻粘膜に作用させて, その病理組織学的変化を検討をしている.

培養した血管内皮細胞に対する菌体成分ないしは菌体代謝産物の作用について, 特に NF- $\kappa$ B の活性化を中心に検討を開始している.

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著 :

- 1) Matsushita K<sup>1)</sup>, Sugiyama A<sup>1)</sup>, Uchiyama T<sup>2)</sup>, Igarashi H<sup>3)</sup>, Ohkuni H, Nagaoka S<sup>4)</sup>, Kotani S<sup>5)</sup>, Takada H<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>鹿児島大・歯・口腔細菌, <sup>2)</sup>東京女子医大・微生物免疫, <sup>3)</sup>都衛研・微生物, <sup>4)</sup>鹿児島大・歯・保存, <sup>5)</sup>大阪医療技術) : Induction of lymphocytes cytotoxic to oral epithelial cells by *Streptococcus mitis* superantigen. J Dent Res 1996 ; 75 : 927-934.
- 2) Sakurada S, Kato T<sup>1)</sup>, Okamoto T<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>名市大・医・分子遺伝) : Induction of cytokines and ICAM-1 by proinflammatory cytokines in primary rheumatoid synovial fibroblasts and inhibition by N-acetyl-L-cysteine and aspirin. Int Immunol 1996 ; 8 : 1483-1493.
- 3) Sakurada S, Kato T<sup>1)</sup>, Mashiba K<sup>1)</sup>, Mori S<sup>2)</sup>, Okamoto T<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>名市大・医・分子遺伝, <sup>2)</sup>東大医科研・病理) : Involvement of vascular endothelial growth factor in Kaposi's sarcoma associated with acquired immunodeficiency syndrome. Jpn J Cancer Res 1996 ; 87 : 1143-1152.



- 4) Kanoh T<sup>1)</sup>, Suzuki T<sup>2)</sup>, Ishimori M<sup>3)</sup>, Ikeda S<sup>2)</sup>, Ohasawa M<sup>2)</sup>, Ohkuni H, Tunetoshi Y<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>宮崎医大, <sup>2)</sup>都衛研, <sup>3)</sup>文化短期大) : Adjuvant activities of pyrene, anthracene, fluoranthene and benzo(a)pyrene in production of anti-IgE antibody to Japanese cedar pollen allergen in mice. J Clin Lab Immunol 1996 ; 48 : 133-147.
  - 5) Ohkuni H, Todome Y, Okibayashi F, Watanabe Y, Ohtani N<sup>1)</sup>, Ishikawa T<sup>2)</sup>, Asano G<sup>1)</sup>, Kotani S<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup>病理第二, <sup>2)</sup>外科第一, <sup>3)</sup>大阪医療技術) : Purification and partial characterization of a novel human platelet aggregation factor in the extracellular products of *Streptococcus mitis*, strain Nm-65. FEMS Immunol Med Microbiol 1997 ; 17 : 121-129.
  - 6) 林立 飛<sup>1)</sup>, 宮尾洋子<sup>1)</sup>, 三田哲子<sup>1)</sup>, 原田 卓<sup>1)</sup>, 李 偉<sup>1)</sup>, 宮永嘉隆<sup>1)</sup>, 大国寿士, 留目優子 ( <sup>1)</sup>東京女子医大・眼科) : 眼科医療材料のバイオフィルム形成。あたらしい眼科 1996 ; 13 : 1885-1889.
- (2) 総説 :
- 1) 大国寿士, 留目優子, 渡辺ユキノ : レンサ球菌性毒素性ショック症候群。(特集 : 甦る感染症). 歯界展望 1996 ; 88 : 420-427.
  - 2) 大国寿士 : A 群レンサ球菌と自己免疫—細胞壁 M 蛋白と組織間の molecular mimicry—. リウマチ 1997 ; 36 : 874-883.
- (3) 研究報告書 :
- 1) 大国寿士 : デイゼル排気ガス粒子成分のアジュバント活性因子の同定とその性状に関する研究。(財)交通予防医学研究財団(第7回)平成9年度助成事業研究報告書, 1996 ; pp21-31.

## 学会発表

- (1) 特別講演 :
- 1) 大国寿士 : 感染症における迅速診断法。第9回外科感染症研究会, 1996. 12.
- (2) シンポジウム :
- 1) Ohkuni H, Todome Y, Watanabe Y, Kotani S<sup>1)</sup>, Kimura Y<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>大阪医療技術, <sup>2)</sup>微生物免疫) : Purification and partial characterization of a novel human platelet aggregation factor in the extracellular products of *Streptococcus mitis*, strain Nm-65. XIIIth Lancefield International Symposium on *Streptococci* and Streptococcal Diseases (Paris), 1996.9.
  - 2) Matsushita K<sup>1)</sup>, Uchiyama T<sup>2)</sup>, Igarashi H<sup>3)</sup>, Ohkuni H, Nagaoka S<sup>1)</sup>, Kotani S<sup>4)</sup>, Takada H<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>鹿児島大・歯, <sup>2)</sup>東京女子医大, <sup>3)</sup>都衛研, <sup>4)</sup>大阪医療技術) : Possible pathogenic effect of *Streptococcus mitis* superantigen on oral epithelial cells. XIIIth Lancefield International Symposium on *Streptococci* and *Streptococcal* Desiases (Paris), 1996. 9.
  - 3) Sakurada S, Kato T<sup>1)</sup>, Mashiba K<sup>1)</sup>, Okamoto T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>名市大・医・分子遺伝) : Inhibition of cytokines and ICAM-1 induction in rheumatoid synovial fibroblasts by anti-NF- $\kappa$ B reagents (Conference on Oxygen Homeostasis and Its Dynamics). Keio University International Symposium for Life Sciences and Medicine 1996 (Tokyo), 1996.12.
- (3) 一般講演 :
- 1) 留目優子, 渡辺ユキノ, 大国寿士 : 緑色レンサ球菌群代謝物質由来血小板凝集因子の反応を抑制する血漿成分について。第70回日本感染症学会総会, 1996. 4.
  - 2) 渡辺ユキノ, 留目優子, 大国寿士 : *Streptococcus mitis* の代謝物質中に存在するヒト血小板凝集因子の塩基配列の解析。第70回日本感染症学会総会, 1996. 4.
  - 3) 林立 飛<sup>1)</sup>, 宮尾洋子<sup>1)</sup>, 三田哲子<sup>1)</sup>, 原田 卓<sup>1)</sup>, 李 偉<sup>1)</sup>, 宮永嘉隆<sup>1)</sup>, 大国寿士, 留目優子 ( <sup>1)</sup>東京女子医大・眼科) : 眼科医療材料のバイオフィルム形成について。第33回日本眼感染症学会総会, 1996. 4.

- 4) 渡辺ユキノ, 留目優子, 桜田紳策, 大国寿士: *Streptococcus mitis* の産生する血小板凝集因子の遺伝子クローニング. 第5回レンサ球菌談話会, 1996. 6.
- 5) 大藪英一<sup>1)</sup>, 大和田一博<sup>2)</sup>, 栗原 怜<sup>2)</sup>, 桜井祐成<sup>2)</sup>, 竹内正至<sup>2)</sup>, 内海甲一<sup>2)</sup>, 北村博司<sup>3)</sup>, 飯野靖彦<sup>3)</sup>, 葉山修陽<sup>3)</sup>, 米島秀夫<sup>2)</sup>, 大国寿士 (<sup>1)</sup>微生物免疫, <sup>2)</sup>春日部秀和病院, <sup>3)</sup>内科第二): 血液透析患者のメチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)の感染源に関する検討. 第41回日本透析医学会総会, 1996. 7.
- 6) 大藪英一<sup>1)</sup>, 佐治 守<sup>2)</sup>, 大和田一博<sup>3)</sup>, 栗原 怜<sup>3)</sup>, 葉山修陽<sup>4)</sup>, 米島秀夫<sup>3)</sup>, 式田竜司<sup>5)</sup>, 高橋めぐみ<sup>1)</sup>, 大国寿士 (<sup>1)</sup>微生物免疫, <sup>2)</sup>第一病院薬剤科, <sup>3)</sup>春日部秀和病院, <sup>4)</sup>内科第二, <sup>5)</sup>第一病院検査科): 特殊医療施設(血液透析室)内の Methicillin resistant *Staphylococcus aureus* (MRSA)感染防止策の効果. 第41回ブドウ球菌研究会, 1996. 9.
- 7) 国保昌紀<sup>1)</sup>, 木村昭夫<sup>1)</sup>, 益子邦洋<sup>1)</sup>, 山本保博<sup>1)</sup>, 大塚敏文<sup>1)</sup>, 大国寿士, 留目優子 (<sup>1)</sup>救急医学): 熱傷患者血清中の熱ショック蛋白70に対する抗体の検出. 第64回日本医大医学会総会, 1996. 9.
- 8) 清水 一, 森 隆, 枝川聖子, 佐藤 茂<sup>1)</sup>, 大網 弘, 大国寿士 (<sup>1)</sup>中央電頭): アルツハイマー型老年痴呆における老人斑形成の免疫組織化学的検討. 第64回日本医科大医学会総会, 1996. 9.
- 9) 渡辺ユキノ, 桜田紳策, 留目優子, 大国寿士, 麻生定光, 太田成男: *Streptococcus mitis* のヒト血小板凝集因子の塩基配列の解析. 第64回日本医科大医学会総会, 1996. 9.
- 10) 岡部俊成<sup>1)</sup>, 飛田正俊<sup>1)</sup>, 竹田幸代<sup>1)</sup>, 村上由加里<sup>1)</sup>, 向後俊昭<sup>1)</sup>, 野呂瀬嘉彦<sup>2)</sup>, 大国寿士, 小野塚春吉<sup>3)</sup> (<sup>1)</sup>多摩永山病院小児科, <sup>2)</sup>微生物免疫, <sup>3)</sup>都衛研): アレルギー疾患患児における亜鉛について. 第46回日本アレルギー学会総会, 1996. 10.
- 11) 国保昌紀<sup>1)</sup>, 木村昭夫<sup>1)</sup>, 益子邦洋<sup>1)</sup>, 山本保博<sup>1)</sup>, 大塚敏文<sup>1)</sup>, 大国寿士, 留目優子 (<sup>1)</sup>救急医学): 熱傷患者血清中の抗熱ショック蛋白-70抗体の検出. 第24回日本救急医学会総会, 1996. 10.
- 12) 清水 一, 佐藤 茂<sup>1)</sup>, 大石一二三<sup>2)</sup>, 森 隆, 枝川聖子, 大国寿士 (<sup>1)</sup>中央電頭, <sup>2)</sup>協同乳業): アルツハイマー型老年痴呆における老人斑形成の免疫組織化学的検討. 第一回グリア研究会, 1996, 11.
- 13) 桜田紳策, 渡辺ユキノ, 留目優子, 大国寿士: 慢性関節リウマチ (RA) 滑膜細胞における NF- $\kappa$ B の活性化とその阻害の試み. 第76回日本細菌学会関東支部総会, 1996. 11.
- 14) 留目優子, 渡辺ユキノ, 桜田紳策, 大国寿士: *Streptococcus mitis* 代謝産物由来血小板凝集因子の反応を抑制する血漿成分について. 第16回川崎病研究会, 1996. 4.
- 15) 渡辺ユキノ, 留目優子, 桜田紳策, 大国寿士: *Streptococcus mitis* の産生するヒト血小板凝集因子の塩基配列の解析. 第16回日本川崎病研究会, 1996. 11.
- 16) 桜田紳策, 渡辺ユキノ, 留目優子, 大国寿士, 岡本 尚<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>名市大・医・分子遺伝): Kaposi 肉腫 (KS) 紡錘細胞における転写因子 NF- $\kappa$ B 活性化についての検討. 第26回日本免疫学会総会, 1996. 11.
- 17) 留目優子, 渡辺ユキノ, 桜田紳策, 大国寿士: *Streptococcus mitis* の産生するヒト血小板凝集因子の反応を抑制する血漿成分の検討. 第70回日本細菌学会総会, 1997. 3.
- 18) 渡辺ユキノ, 留目優子, 桜田紳策, 大国寿士: *Streptococcus mitis*, Nm-65株の代謝物質中に存在する血小板凝集因子の遺伝子クローニング. 第70回日本細菌学会総会, 1997. 3.

## [疫学部門]

### 研究概要

B型肝炎ウイルス (HBV) 及びC型肝炎ウイルス (HCV) の流行に曝された山間部の町で, その後発生した肝機能異常が, HBV ではなく HCV に起因することを明らかにしてきたが, さらに, 住民の保存ペア血清 (7年間隔) を用い, HCV が高頻度に長期にわたり持続感染していることを明らかにした。また, 多くが既に慢性肝炎・肝硬変に移行していることから, 集団健診の際に癌マーカーを検査した。これらの結果は, 同町健康管理センターを通じて, 町営

病院に提供され、受診した住民の健康管理データ（健康管理システム）として用いられた。

わが国では、毎年冬に多くの人インフルエンザウイルスに罹患する。しかし、夏期にこのウイルスの分離を試みても、ウイルスは分離できない。では何処にウイルスは潜んでいるのであろうか。この問いに対して一つの仮説がある。それは、熱帯地域にウイルスが温存されているという説である。我々はこの仮説に基づき、長年にわたりタイ国チェンマイ地域でウイルス採取を試み、既に他地域では分離されない株が分離されること、また、わが国で分離される1年半前に新しい抗原性のウイルス株が分離できたことから、この地域が新旧ウイルスの流行を許す環境にあり、このことがこの地域を新しい抗原変異株を生むダムの役割を演じさせているのではないかという仮説に至った。現在分離株の遺伝子の比較を検討中である。

## 研究業績

### 論文

(1) 原著：

- 1) Yamazi Y, Hasegawa A<sup>1)</sup>, Suzuki H, Inoue S<sup>1)</sup>, Supawadee J<sup>2)</sup>, Suprasert S<sup>2)</sup>, Rangsiyanond P<sup>2)</sup>, Pongprot B<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>予研, <sup>2)</sup>チェンマイ大) : Two-year follow up from birth of Thai children for Rotavirus infection : Serotypes and electropherotypes. Jpn J Trop Med Hyg 1996 ; 24 : 215-220.

### 学会発表

(1) 一般講演：

- 1) Suzuki H, Takahashi M : Follow up study of Hepatitis epidemics in a Japanese mountain town. 7th International Congress for Infectious Diseases (Hong Kong), 1996. 6.
- 2) Suzuki H, Eiumtrakul S<sup>1)</sup>, Supawadee J<sup>2)</sup>, Maneekarn N<sup>2)</sup>, Supraser S<sup>2)</sup>, Takahashi M (<sup>1)</sup> Kawila Royal Thai Army Hosp., <sup>2)</sup>Chiang Mai University) : Antigenic analysis of influenza viruses isolated in Thailand between 1991 and 1995. XIV International Congress for Tropical Medicine and Malaria (Nagasaki), 1996. 11.
- 3) 西尾 治<sup>1)</sup>, 岡 知宏<sup>1)</sup>, 斎藤邦宏<sup>1)</sup>, 松井清彦<sup>1)</sup>, 鈴木 博, 山地幸雄, 牛島廣治<sup>2)</sup>, 長谷川斐子<sup>3)</sup>, 井上 栄<sup>3)</sup> (<sup>1)</sup>国立公衆衛生院, <sup>2)</sup>東大医母子保健, <sup>3)</sup>予研) : タイ国乳幼児のアストロウイルス感染と糞便中の特異 IgA 抗体の消長. 第44回日本ウイルス学会総会, 1996. 10.
- 4) 宮原英樹, 尾沢ますみ, 勝又晴美, 黒沢純夫, 鈴木 博, 高橋修和 : タイ国チェンマイ地区住民のエイズに関する意識調査. 第55回日本公衆衛生学会総会, 1996. 10.
- 5) 黒沢純夫, 尾沢ますみ, 勝又晴美, 宮原英樹, 高橋修和 : 中学高校生の体脂肪率に関する調査報告. その1 : BMI との関連. 第55回日本公衆衛生学会総会, 1996. 10.
- 6) 尾沢ますみ, 黒沢純夫, 勝又晴美, 宮原英樹, 高橋修和 : 中学高校生の体脂肪率に関する調査報告. その2 : アンケート調査との関連. 第55回日本公衆衛生学会総会, 1996. 10.

## [分子生物学部門]

### 研究概要

現在、院生、研究生を含め13名の研究者が成人期並びに老年期疾患の遺伝子レベルでの病因解明と診断法の開発に取り組んでいる。

1) ヒト癌における高精度ゲノム欠失地図の作製と癌抑制遺伝子の研究(文部省ゲノムサイエンス重点研究1, 神奈川県科学技術アカデミー研究助成金) 乳癌, 膀胱癌の検体を用いて広範なヒトゲノム領域を対象に各染色体上の欠失・増幅・再構成の有無を調べ、高頻度な異常を見出した染色体について高精度ゲノム欠失地図を作製し、多数の癌にお

いて共通して欠失する領域の限局化から、これら癌の発生進展に関わる癌抑制遺伝子の同定を目指している。すでに、1p,3p,8p,11p,13q,16q,22qなどで40~67%の癌症例が欠失を示す共通欠失領域を2~10cMにしぼり、癌抑制遺伝子の存在部位を限局化している。

2) 乳癌の遺伝子診断の研究(文部省がん重点研究2, 厚生省がん研究助成)1992年以来, 東大医科研, 癌研外科と協同で行っており, 乳癌の悪性度, 転移, 再発, 生命予後に関わる遺伝的変化の特定と臨床応用を試みている。

3) 乳癌における家族性乳癌遺伝子異常と発症前診断(文部省基盤研究B)日本人乳癌について同遺伝子領域をスクリーニングし, 家族性乳癌の25%にBRCA1遺伝子異常を, 他の25%にBRCA2遺伝子の異常を同定した。

4) 甲状腺癌における遺伝子異常の解明。腫瘍に見られる染色体相互転座を指標に転座点において再構成, 活性化をきたす遺伝子のクローニングを試みており, 最近, 甲状腺癌において染色体の相互転座に伴い, 再構成をきたした新しい癌遺伝子をクローニングした。

5) 骨粗鬆症の遺伝的素因の解明(厚生省長寿科学研究)骨代謝に関わる様々な因子の候補遺伝子について多型性マーカーを単離し, 大規模な老年人口における解析から各遺伝子座の遺伝的多様性と骨代謝に関わる様々の表現型間の関係を検討している。

6) 高脂血症発症におけるリポタンパク関連遺伝子間の遺伝子相互作用の解析を北大, ユタ大との協同研究の下, 疾患家系の分析から進めている。

## 研究業績

### 論文

#### (1) 原著:

- 1) Tsukamoto K, Ito N, Yoshimoto M<sup>1)</sup>, Iwase T<sup>1)</sup>, Tada T<sup>1)</sup>, Kasumi F<sup>1)</sup>, Nakamura Y<sup>2)</sup>, Emi M ( <sup>1)</sup>癌研・外科, <sup>2)</sup>東大・医科研): Two distinct commonly deleted regions on chromosome 13q suggest involvement of BRCA2 and retinoblastoma genes in sporadic breast carcinomas. *Cancer* 1996; 78: 1929-1934.
- 2) Suzuki H<sup>1)</sup>, Komiya A<sup>1)</sup>, Emi M, Kuramochi H<sup>1)</sup>, Shiraishi T<sup>2)</sup>, Yatani R<sup>2)</sup>, Shimazaki J<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>千葉大・泌尿器, <sup>2)</sup>三重大・病理): Three distinct commonly deleted regions of chromosome arm 16q in human primary and metastatic prostate cancers. *Genes Chrom Cancer* 1996; 17, 225-233.
- 3) Matsuda S<sup>1)</sup>, Kawamura J<sup>1)</sup>, Ohsugi M<sup>1)</sup>, Yoshida M<sup>1)</sup>, Emi M, Nakamura Y<sup>1)</sup>, Onda M<sup>1)</sup>, Yoshida Y<sup>1)</sup>, Nishiyama A<sup>1)</sup>, Yamamoto T<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>東大・医科研): Tob, a novel protein that interacts with p185erbB2, is associated with anti-proliferative activity. *Oncogene* 1996; 12: 705-713.
- 4) Yokota T, Ishizaki R, Ohishi H<sup>1)</sup>, Suzuki T<sup>2)</sup> ( <sup>1)</sup>協同牛乳研, <sup>2)</sup>福島医大): Hyaluronic acid synthesis by the malignant fibrous histiocyoma cell line NMSC 10 in vitro and its localization. *Pathobiology* 1996; 64: 67-72.
- 5) Komiya A<sup>1)</sup>, Suzuki H<sup>1)</sup>, Ueda T<sup>1)</sup>, Yatani R<sup>2)</sup>, Emi M, Ito H<sup>1)</sup>, Shimazaki J<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>千葉大・泌尿器, <sup>2)</sup>三重大・病理): Allelic losses at loci on chromosome 10 are associated with metastasis and progression of human prostate cancer. *Genes Chrom Cancer* 1996; 17: 245-253.
- 6) Yokota T, Hattori T<sup>1)</sup>, Ohishi H<sup>1)</sup>, Hasegawa K<sup>2)</sup>, Watanabe K<sup>3)</sup> ( <sup>1)</sup>協同牛乳研, <sup>2)</sup>筑波大, <sup>3)</sup>岐阜大): The effect of antioxidant-containing fraction from fermented soybean food on atherosclerosis development in cholesterol-fed rabbits. *Lebensm -Wiss u -Technol* 1996; 29: 751-755.
- 7) Iida A, Isobe R, Yoshimoto M<sup>1)</sup>, Kasumi F<sup>1)</sup>, Nakamura Y<sup>2)</sup>, Emi M ( <sup>1)</sup>癌研・外科, <sup>2)</sup>東大・医科研): Localization of a breast cancer tumor-suppressor gene to a 3-cM interval within chromosomal region16q22. *Brit J Cancer* 1997; 75(2): 264-267.
- 8) Soejima H<sup>1)</sup>, Fujimoto M<sup>1)</sup>, Tsukamoto K, Matsumoto N<sup>1)</sup>, Yoshiura K<sup>1)</sup>, Fukushima Y<sup>2)</sup>, Jinno Y<sup>1)</sup>, Niikawa N<sup>1)</sup> ( <sup>1)</sup>長崎大・原研遺伝, <sup>2)</sup>埼玉小児医療セ): Three novel PAX3 mutations observed in patients

with Waardenburg syndrome type 1. Hum Mutation 1997; 9: 177-180.

- 9) Ueda T<sup>1)</sup>, Komiya A<sup>1)</sup>, Emi M, Suzuki H<sup>1)</sup>, Shiraishi T<sup>2)</sup>, Yatani R<sup>3)</sup>, Shimazaki J<sup>1)</sup>, Ito H<sup>1)</sup> (1)千葉大・泌尿器, 2)三重大・病理): Allelic losses on 18q21 are associated with progression and metastasis in human prostate cancer. Genes Chrom Cancer 1997; 20: 140-147.
- 10) Komiya A<sup>1)</sup>, Suzuki H<sup>1)</sup>, Ueda T<sup>1)</sup>, Aida S<sup>1)</sup>, Ito N<sup>1)</sup>, Shiraishi T<sup>2)</sup>, Yatani R<sup>2)</sup>, Emi M, Shimazaki J<sup>1)</sup>, Ito H<sup>1)</sup> (1)千葉大・泌尿器, 2)三重大・病理): PRLTS gene alterations in human prostate cancer. Jpn J Cancer Res 1997; 88: 389-393.

(2) 総説:

- 1) 飯田有俊, 江見 充: 乳癌の遺伝子異常とエストロゲン反応 (特集: ステロイドホルモン-増殖因子-癌遺伝子). ホルモンと臨床 1996; 44(7): 691-697.
- 2) 松本智司, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 恩田昌彦<sup>1)</sup>, 江見 充 (1)外科学第一): 肝細胞癌の遺伝子変化 (特集: 小肝細胞癌). 臨床科学 1996; 32(10): 1303-1308.
- 3) 松本智司, 江見 充, 霞富士雄<sup>1)</sup>, 中村祐輔<sup>2)</sup> (1)癌研, 2)東大・医科研): 乳癌の遺伝子診断. 日本外科学会誌 1996; 97(5): 375-380.
- 4) 江見 充: 乳癌における遺伝子異常. 信州大学医学部雑誌 1996; 44: 151-152.
- 5) 江見 充, 飯田有俊, 霞富士雄<sup>1)</sup>, 中村祐輔<sup>2)</sup> (1)癌研, 2)東大・医科研): 家族性および散発性乳癌における遺伝子異常 (特集: 分子生物学と乳癌). 癌と化学療法 1996; 23: 80-83.
- 6) 塚元和弘, 江見 充, 中村祐輔<sup>1)</sup> (1)東大・医科研): 乳癌の染色体異常・遺伝子変異と遺伝子診断への応用. 日本臨床 1996; 54(12): 3389-3397.
- 7) 江見 充, 中村祐輔<sup>1)</sup> (1)東大・医科研): ヒト遺伝性腫瘍の遺伝子診断. 医学のあゆみ 1996; 178(4): 683-685.
- 8) 江見 充: 癌関連遺伝子と遺伝子診断の試み (特集: 癌遺伝子-臨床への応用). 癌の臨床 1996; 42(13): 1533-1535.
- 9) 飯田有俊, 江見 充: 癌抑制遺伝子とその不活化 (特集: 癌遺伝子-臨床への応用). 癌の臨床 1996; 42: 1543-1551.
- 10) 塚元和弘, 江見 充, 霞富士雄<sup>1)</sup>, 坂本吾偉<sup>2)</sup>, 中村祐輔<sup>3)</sup> (1)癌研・外科, 2)癌研・病理, 3)東大・医科研): 乳癌 (特集: 癌遺伝子-臨床への応用). 癌の臨床 1996; 42: 1637-1642.
- 11) 飯田有俊, 江見 充: 乳癌の分子機構. 血液・腫瘍科 1997; 34(1): 72-77.
- 12) 黒瀬圭輔, 飯田有俊, 江見 充: 乳癌の家族性発癌と BRCA1, BRCA2. Breast Cancer Today 1997; 13: 2-7.

著 書

- 1) 江見 充: [分担] BRCA1変異による日本人家族性乳癌の特徴. “家族性乳癌” (土屋敦雄 編集) 1996; pp133-139, 篠原出版.
- 2) 塚元和弘: [分担] X連鎖性劣性腎結石症. “遺伝子病” (中村祐輔 編集), 1996; pp144-145, 羊土社.
- 3) 飯田有俊: [分担] 遺伝性球状赤血球症. “遺伝子病” (中村祐輔 編集), 1996; pp146-147, 羊土社.
- 4) 平山恒憲, 江見 充: [分担] Albright 遺伝性骨異常栄養症. “遺伝子病” (中村祐輔 編集), 1996; pp168-169, 羊土社.
- 5) 横田 隆, 江見 充: [分担] BRCA1・BRCA2遺伝子. “癌” (垣添忠生, 関谷剛男 編集), 1996; pp44-45, 羊土社.
- 6) 江見 充, 中村祐輔<sup>1)</sup> (1)東大・医科研): [分担] 乳癌の遺伝子診断. “遺伝子診療96” (森 徹 編集), 1996; pp52-53, 医学書院.
- 7) 江見 充, 中村祐輔<sup>1)</sup> (1)東大・医科研): [分担] 乳癌の遺伝子診断による悪性度の評価. “第24回日本医学会総

会誌” (和田義郎 編集), 1996; pp57-58, 日本医学会総会記録委員会.

## 学会発表

### (1) 教育講演:

- 1) 江見 充: 加齢とコレステロール高値. 平成 8 年文京区日本医科大学公開講座, 1996. 9.
- 2) 江見 充: 癌の遺伝学. 第 6 回人類遺伝学会 遺伝医学セミナー, 1996. 9.

### (2) シンポジウム:

- 1) Emi M, Matsushima M<sup>1)</sup>, Katagiri T<sup>1)</sup>, Kasumi F<sup>2)</sup>, Nakamura Y<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>東大・医科研, <sup>2)</sup>癌研): 2-3% Japanese breast cancer is attributable to BRCA1 mutation: multiplex mutation screening of the BRCA1 Gene in 1000 Japanese breast cancers. Annual Meeting of American Society of Human Genetics (San Francisco), 1996. 10.
- 2) 江見 充, 三木義男<sup>1)</sup>, 中村祐輔<sup>2)</sup>(<sup>1)</sup>癌研, <sup>2)</sup>東大・医科研): 乳癌の遺伝子異常と診断への応用 (Common diseases の遺伝と対策への応用). 日本人類遺伝学会第41回大会 (札幌), 1996. 10.
- 3) 江見 充: 臨床での癌診断と腫瘍マーカー (化学発癌の評価・分子機構・阻止). 第18回日本学術会議毒科学研究連絡シンポジウム (大阪), 1996. 11.

### (3) 一般講演:

- 1) Nagashima M<sup>1)</sup>, Fukuoka Y<sup>1)</sup>, Terashi A<sup>1)</sup>, Emi M (<sup>1)</sup>内科学第二): Effect of epinephrine on the secretion of lipoprotein lipase in mouse macrophage cell lines. ヨーロッパ動脈硬化学会 (Italy), 1996. 7.
- 2) Iida A, Isobe R, Yoshimoto M<sup>1)</sup>, Kasumi F<sup>1)</sup>, Nakamura Y<sup>2)</sup>, Emi M (<sup>1)</sup>癌研, <sup>2)</sup>東大・医科研): Localization of a breast cancer tumor-suppressor gene to a 3-cM interval within chromosomal region 16 q22. Annual Meeting of American Society of Human Genetics (San Francisco), 1996. 10.
- 3) 塚元和弘, 伊東紀子, 江見 充, 中村祐輔<sup>1)</sup>, 多田隆士<sup>2)</sup>, 岩瀬拓士<sup>2)</sup>, 吉本賢隆<sup>2)</sup>, 霞富士雄<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>東大・医科研, <sup>2)</sup>癌研): BRCA2遺伝子欠失と乳癌臨床病理因子の関連性. 第 4 回日本乳癌学会総会, 1996. 5.
- 4) 松本智司, 塚元和弘, 江見 充, 中村祐輔<sup>1)</sup>, 恩田昌彦<sup>2)</sup>, 多田隆士<sup>3)</sup>, 岩瀬拓士<sup>3)</sup>, 吉本賢隆<sup>3)</sup>, 霞富士雄<sup>3)</sup> (<sup>1)</sup>東大・医科研, <sup>2)</sup>外科学第一, <sup>3)</sup>癌研): 乳癌における第 3 染色体短腕の染色体欠失地図作製. 第 4 回日本乳癌学会総会, 1996. 5.
- 5) 飯田有俊, 磯部理映, 江見 充, 中村祐輔<sup>1)</sup>, 多田隆士<sup>2)</sup>, 岩瀬拓士<sup>2)</sup>, 吉本賢隆<sup>2)</sup>, 霞富士雄<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>東大・医科研, <sup>2)</sup>癌研): 一般乳癌に於ける第16番染色体欠失と臨床病理学的因子の関連性. 第 4 回日本乳癌学会総会, 1996. 5.
- 6) 宮尾益理子<sup>1)</sup>, 細井孝之<sup>1)</sup>, 塚元和弘, 江見 充, 星野真二郎<sup>1)</sup>, 井上 聡<sup>1)</sup>, 白木正孝<sup>1)</sup>, 折茂 肇<sup>2)</sup>, 大内尉義<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>東大・老年医学, <sup>2)</sup>大蔵省東京病院): インターロイキン $1\beta$  遺伝子多形と骨密度の相関. 日本骨代謝学会, 1996. 5.
- 7) 江見 充, 八巻恵美, 平山恒憲: PCR-SSCP 法による LDL 受容体遺伝子内 DNA 多型の同定. 第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 7.
- 8) 塚元和弘, 伊東紀子, 江見 充: リンパ節転移と悪性度に関わる第 1 番染色体短腕上の乳癌抑制遺伝子のマッピング. 第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 7.
- 9) 飯田有俊, 黒瀬圭輔, 江見 充: 第22番染色体上の新たな乳癌抑制遺伝子存在領域の同定. 第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 7.
- 10) 松本智司, 江見 充, 古川清憲<sup>1)</sup>, 田尻 孝<sup>1)</sup>, 恩田昌彦<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>外科学第一): 乳癌におけるヘテロ接合性の消失と術後予後の検討. 第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 7.
- 11) 黒瀬圭輔, 飯田有俊, 美濃部かおり, 江見 充, 荒木 勤<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>産婦人科学): ヒト乳癌における第 7 染色体欠失. 第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 7.

- 12) 平山恒憲, 江見 充, 八巻恵美, 橋本 清<sup>1)</sup>, 山本正生<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>第二病院・小児科, <sup>2)</sup>付属病院・小児科): 遺伝子スクリーニングによる a 型高脂血症患者の解析. 第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 7.
- 13) 中田朋子, 江見 充, 清水一雄<sup>1)</sup>, 田中茂夫<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>外科学第二): 甲状腺乳頭状腺癌における遺伝子異常. 第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 7.
- 14) 美濃部かおり, 黒瀬圭輔, 飯田有俊, 江見 充, 秋元成太<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>泌尿器科学): 膀胱癌における第9番染色体長腕欠失の解析. 第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 7.
- 15) 横田 隆, 江見 充, 久吉隆郎<sup>1)</sup>, 日置正文<sup>1)</sup>, 川並汪一<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>第二病院・外科, <sup>2)</sup>同病理部): 8p21-p22領域の乳癌における高頻度のヘテロ接合性の消失. 第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 7.
- 16) 春田 健, 塚元和弘, 江見 充: 人工 P1染色体を用いた骨粗鬆症遺伝子マーカーの単離. 第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 7.
- 17) 八巻恵美, 平山恒憲, 江見 充: 家族性高コレステロール血症家系における LDL 受容体遺伝子異常. 第64回日本医科大学医学会総会, 1996. 7.
- 18) 横田 隆, 松本智司, 吉本賢隆<sup>1)</sup>, 霞富士雄<sup>1)</sup>, 中村祐輔<sup>2)</sup>, 江見 充 (<sup>1)</sup>癌研, <sup>2)</sup>東大・医科研): ヒト乳癌における第18番染色体欠失地図の作成. 日本分子生物学会, 1996. 9.
- 19) 中田朋子, 多田隆士<sup>1)</sup>, 霞富士雄<sup>1)</sup>, 中村祐輔<sup>2)</sup>, 江見 充 (<sup>1)</sup>癌研, <sup>2)</sup>東大・医科研): ヒト乳癌の第11染色体短腕欠失地図の作成. 日本分子生物学会, 1996. 9.
- 20) 黒瀬圭輔, 飯田有俊, 荒木 勤<sup>1)</sup>, 霞富士雄<sup>2)</sup>, 中村祐輔<sup>3)</sup>, 江見 充 (<sup>1)</sup>産婦人科学, <sup>2)</sup>癌研, <sup>3)</sup>東大・医科研): 散発性乳癌における第22番染色体欠失地図の作製. 第6回 Medical Genetics 研究会, 1996. 9.
- 21) 平山恒憲, 江見 充, 八巻恵美, 辻 昌宏<sup>1)</sup>, 太田八千雄<sup>2)</sup>, 羽田 明<sup>3)</sup> (<sup>1)</sup>社会保険中央病院, <sup>2)</sup>聖母会天使病院, <sup>3)</sup>北大・公衆衛生): a 型高コレステロール血症における LDL 受容体の遺伝子変異と DNA 多型の同定. 第6回 Medical Genetics 研究会, 1996. 9.
- 22) 塚元和弘, 伊東紀子, 多田隆士<sup>1)</sup>, 霞富士雄<sup>1)</sup>, 中村祐輔<sup>2)</sup>, 江見 充 (<sup>1)</sup>癌研, <sup>2)</sup>東大・医科研): 乳癌における第1番染色体短腕の欠失地図と臨床病理因子の関連性. 第55回日本癌学会総会, 1996. 10.
- 23) 飯田有俊, 黒瀬圭輔, 岩瀬拓士<sup>1)</sup>, 霞富士雄<sup>1)</sup>, 中村祐輔<sup>2)</sup>, 江見 充 (<sup>1)</sup>癌研, <sup>2)</sup>東大・医科研): 乳癌における第22番染色体欠失地図の作製. 第55回日本癌学会総会, 1996. 10.
- 24) 中田朋子, 多田隆士<sup>1)</sup>, 霞富士雄<sup>1)</sup>, 中村祐輔<sup>2)</sup>, 江見 充 (<sup>1)</sup>癌研, <sup>2)</sup>東大・医科研): 乳癌における第11染色体短腕欠失とホルモン依存性の消失. 第55回日本癌学会総会, 1996. 10.
- 25) 松本智司, 吉本賢隆<sup>1)</sup>, 霞富士雄<sup>1)</sup>, 恩田昌彦<sup>2)</sup>, 中村祐輔<sup>3)</sup>, 江見 充 (<sup>1)</sup>癌研, <sup>2)</sup>外科学第一, <sup>3)</sup>東大・医科研): ホルモンレセプター消失に関わる第3番染色体短腕上の乳癌抑制遺伝子のマッピング. 第55回日本癌学会総会, 1996. 10.
- 26) 黒瀬圭輔, 飯田有俊, 窪田吉信<sup>1)</sup>, 小川 修<sup>2)</sup>, 吉田 修<sup>2)</sup>, 江見 充 (<sup>1)</sup>横浜市大・泌尿器, <sup>2)</sup>京大・泌尿器): 膀胱癌における第9番染色体長腕欠失地図の作成. 第55回日本癌学会総会, 1996. 10.
- 27) 横田 隆, 松本智司, 吉本賢隆<sup>1)</sup>, 霞富士雄<sup>1)</sup>, 中村祐輔<sup>2)</sup>, 江見 充 (<sup>1)</sup>癌研, <sup>2)</sup>東大・医科研): 乳癌における第18番染色体上の DCC および DPC4 遺伝子領域の解析. 第55回日本癌学会総会, 1996. 10.
- 28) 植田 健<sup>1)</sup>, 小宮 顕<sup>1)</sup>, 鈴木啓悦<sup>1)</sup>, 江見 充, 矢谷隆一<sup>2)</sup>, 島崎 淳<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>千葉大・泌尿器, <sup>2)</sup>三重大・病理): ヒト前立腺癌における第18染色体の3つの共通欠失領域. 第55回日本癌学会総会, 1996. 10.
- 29) 小宮 顕<sup>1)</sup>, 鈴木啓悦<sup>1)</sup>, 植田 健<sup>1)</sup>, 市川智彦<sup>1)</sup>, 江見 充, 中村祐輔<sup>2)</sup>, 矢谷隆一<sup>3)</sup>, 島崎 淳<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>千葉大・泌尿器, <sup>2)</sup>東大・医科研, <sup>3)</sup>三重大・病理): ヒト前立腺癌における DPC4 および PRLTS 遺伝子異常. 第55回日本癌学会総会, 1996. 10.
- 30) 塚元和弘, 春田 健, 細井孝之<sup>1)</sup>, 折茂 肇<sup>2)</sup>, 江見 充 (<sup>1)</sup>東大・老年医学, <sup>2)</sup>大蔵省東京病院): 骨粗鬆症に関わる候補遺伝子多型性マーカーの単離. 日本人類遺伝学会第41回大会, 1996. 10.
- 31) 松本智司, 江見 充, 恩田昌彦<sup>1)</sup>, 吉本賢隆<sup>2)</sup>, 霞富士雄<sup>2)</sup>, 中村祐輔<sup>3)</sup> (<sup>1)</sup>外科学第一, <sup>2)</sup>癌研, <sup>3)</sup>東大・医科研):

乳癌における染色体欠失と臨床病理学的諸因子との相関。日本人類遺伝学会第41回大会，1996. 10.

- 32) 平山恒憲，江見 充，八巻恵美，辻 昌宏<sup>1)</sup>，羽田 明<sup>2)</sup> (<sup>1)</sup>社会保険中央病院，<sup>2)</sup>北大・公衆衛生)：a型高コレステロール血症の遺伝子スクリーニング：14症例のLDL受容体の遺伝子変異の同定。日本人類遺伝学会第41回大会，1996. 10.
- 33) 八巻恵美，江見 充，平山恒憲，太田八千雄<sup>1)</sup>，辻 昌宏<sup>2)</sup>，羽田 明<sup>3)</sup> (<sup>1)</sup>聖母会天使病院，<sup>2)</sup>社会保険中央病院，<sup>3)</sup>北大・公衆衛生)：ホモ接合体例および3姉妹例を含むFH家系におけるLDL受容体遺伝子異常。日本人類遺伝学会第41回大会，1996. 10.
- 34) 黒瀬圭輔，飯田有俊，江見 充，明楽重夫<sup>1)</sup>，小西英喜<sup>1)</sup>，荒木 勤<sup>1)</sup>，霞富士雄<sup>2)</sup>，中村祐輔<sup>3)</sup> (<sup>1)</sup>産婦人科学，<sup>2)</sup>癌研，<sup>3)</sup>東大・医科研)：乳癌における第22番染色体長腕欠失地図の作製。第1回日本産婦人科腫瘍マーカー・遺伝子診断学会，1997. 2.



## 2. ワクチン療法研究施設

### 研究概要

昭和47年の当施設開設以来、25年を経過、SSM（人型結核菌体抽出物質）使用登録悪性腫瘍患者累積数は32万人を越え、平成9年3月31日現在、324,062例を算した。丸山千里先生のご逝去後5年を経た現在も、以前同様、日に新患50名前後、再来・郵送を含めて、500名もの多数の紹介癌患者を迎えている。従来からの2万数千名にのぼる共同治験医師に、さらに新しい協力医療機関の参入がみられることは、世界に先駆けて非特異的癌免疫療法を唱導された丸山千里先生の丸山ワクチン（SSM）という偉大な遺産が、進行末期癌の治療において一層定着しつつあることを示している。また、SSMの濃厚溶液が放射線療法による白血球減少抑制剤として健保適用となったことは、SSMに関する基礎的ならびに臨床的研究が評価された結果である。現在、産婦人科領域の悪性腫瘍の放射線療法併用時における臨床効果について、全国の国立大学・国立病院等において治験が進められている。

1979年から1997年3月までの17年間の患者累積数は221,606例で、このうち、21,275例（9.60%）が3年以上の長期SSM加療例であった。これらの症例の多くが進行末期癌であるにも拘らず、良好な一般状態（Performance Status：PS）で長期延命する症例が多数を占めている。これはSSMが癌治療における全身療法として重責を果たしている結果といえ、その治療状況や成績については疾患別に検討を加え報告している。

現在は、SSMの本来の使用目的ともいえるBiological Response Modifiers（BRM）としての作用および癌免疫療法としての作用について、特に進行末期癌におけるQOL向上と延命効果の立場から、当施設ならではの膨大な患者数を基にした臨床生命表を作成し、SSM療法の優れた点についての検討を続行中である。また、SSMの経口投与の可能性ならびに癌予防への応用についても検討を重ねている。

### 研究業績

#### 論文

##### (1) 原著：

- 1) Shimizu M<sup>1)</sup>, Iida K, Yoshida H<sup>2)</sup>, Shichinohe K<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>Division of Laboratory Animal Science, <sup>2)</sup>Sensyu Univ.) : Electrophoretic study of lactate dehydrogenase and alkaline phosphatase isoenzymes of the Mongolian gerbil (*Meriones unguiculatus*). *J Vet Med Sci* 1996 ; 58 : 401-406.

#### 学会発表

##### (1) シンポジウム：

- 1) Fujita K : Statistical Surveys on the Clinical Applications of an Extract from Human Tubercle Bacilli (SSM ; so-called Maruyama Vaccine) in Various Malignant Tumors. The 3rd International Symposium, Impact of Cancer Biotechnology on Preventive Oncology and Therapy (Nice), 1996.10.

##### (2) 一般講演：

- 1) Iida K, Fujita K, Hirai T, Goto H, Miyazaki S, Arai Y, Iwaki H, Otake M, Kudo H<sup>1)</sup>, Sakamoto S<sup>1)</sup> (<sup>1)</sup>Medical Research Institute, Tokyo Medical and Dental University) : Preventive Effects of Polysaccharides Extracted from Human Tubercle Bacilli (SSM) on Colonic Carcinogenesis in Rats. The 3rd International Symposium, Impact of Cancer Biotechnology on Preventive Oncology and Therapy (Nice), 1996.10.
- 2) 清水眞澄<sup>1)</sup>, 七戸和博<sup>1)</sup>, 飯田和美 (<sup>1)</sup>実験動物管理室) : 化学伝達物質に対する小型齧歯類の皮膚感受性の比較について (2). 第94回日本薬理学会関東部会, 1996. 6.
- 3) 藤田敬四郎, 飯田和美, 平井敏之, 後藤博一, 新井彦彦, 宮崎定活, 岩城弘子, 大竹 稔 : 当施設における結核

菌体抽出物質（SSM）使用登録癌患者の現況。第64回日本医科大学医学会総会，1996. 9.

- 4) 飯田和美，藤田敬四郎，平井敏之，後藤博一，新井愛彦，岩城弘子，宮崎定活，大竹 稔：マウス実験皮膚腫瘍発生に対する人型結核菌体抽出物質（SSM）経口投与の影響。第64回日本医科大学医学会総会，1996. 9.
- 5) 藤田敬四郎，飯田和美，平井敏之，後藤博一，新井愛彦，宮崎定活，大竹 稔：当施設における結核菌体抽出物質（SSM）使用登録癌患者の現況（第18報）。第34回日本癌治療学会総会，1996. 11.

# 付 表

## 各種研究費補助金・研究助成金交付状況

### 1. 平成8年度科学研究費補助金交付決定一覧

研究種目	審査区分	氏名	所属・職	交付額 (万円)	研究課題
重点領域研究(1)		西野 武士	生化学第一・教授	6,470	金属蛋白質による情報変換
重点領域研究(2)		太田 成男	老人病研究所・教授	200	アポトーシス制御因子 Bcl-2 ファミリーの高次構造の解明
〃		江見 充	老人病研究所・教授	800	乳癌の遺伝子診断
〃		程 久美子	薬理学・講師	250	ショウジョウバエ幼虫中枢神経 系培養細胞株を用いた変態期に おけるアポトーシスの研究
〃		池島三与子	生化学第二・講師	200	ヒト MSH3蛋白質の機能解析
基盤研究(A)	試験	秋元 成太	泌尿器科学・教授	180	※ヘルペスチミジンキナーゼ遺伝 子、ガンシクロビルによる膀胱 癌遺伝子治療
〃	〃	寺島 保典	泌尿器科学・講師	380	腎温存をめざした腎細胞癌に対 する遺伝子治療
基盤研究(B)	一般	荒木 勤	産婦人科学・教授	70	※胎児脳室周囲白質軟化 (PVL) の発生機序ーヤギ胎仔の慢性実 験モデルを用いてー
〃	〃	江見 充	老人病研究所・教授	130	※家族性および散発性乳癌におけ る BRCA1遺伝子異常の検索と 発症前診断への応用
〃	〃	島田 隆	生化学第二・教授	250	※遺伝子治療を目的とした非分裂 細胞への遺伝子導入法の開発
〃	〃	太田 成男	老人病研究所・教授	450	変異ミトコンドリア DNA の除 去によるミトコンドリア脳筋症 の遺伝子治療法の開発
〃	〃	寺本 明	脳神経外科学・教授	630	細胞起源よりみた脳下垂体腺腫 の機能的病理分類の確立
〃	〃	秋元 成太	泌尿器科学・教授	310	膀胱腫瘍予後規定因子としての p53とその修飾因子の究明
〃	〃	八木 聰明	耳鼻咽喉科学・教授	350	緩徐および急速眼球運動の三次 元解析
基盤研究(C)	一般	富田 喜文	内科学第一・助手	60	※特発性心筋症の発症と進展にお ける成長因子 bFGF, TGF $\beta$ の 役割
〃	〃	長江 安洋	内科学第一・助手	60	※心筋組織内でのサイトカインに よる局所急性期反応の解析
〃	〃	横田 裕行	救急医学・助教授	50	※重症頭部外傷における脳代謝・ 脳血流の持続モニタリングシス テムの開発
〃	〃	富田ゆかり	法医学・助手	100	※主要臓器における死後変化の組 織学的検討ならびに死因との関 連
〃	〃	雪吹 周生	内科学第一・助手	40	※再灌流不整脈の発生機序：細胞 内 pH, Na <sup>+</sup> , Ca <sup>2+</sup> 動態異常との 関連
〃	〃	清水 一雄	外科学第二・助教授	100	※モノクローナル抗体を応用した 内分泌悪性腫瘍抗原の組織化学 的、生化学的解析
〃	〃	加藤 俊二	外科学第一・助手	90	※発癌物質の代謝に関与する遺伝 子や癌関連遺伝子の多型性分析 による癌発生、転移の予知
〃	〃	笹島 耕二	外科学第一・助教授	110	※潰瘍性大腸炎における一酸化窒 素の変動と薬剤抵抗

〃	〃	吉田 大蔵	脳神経外科学・講師	80	※ Estramustine の malignant glioma の成長に対する抑制効果
〃	〃	小池 薫	救急医学・助手	100	※ 多臓器不全におけるホスホリパーゼ A <sub>2</sub> の解析
〃	〃	朝倉 啓文	産婦人科学・助教授	30	※ 母体運動負荷による胎児 well being の評価 (胎児循環制御機構からの検討)
〃	〃	竹下 俊行	産婦人科学・講師	20	※ 妊娠と接着分子一流産, 妊娠中毒症の病態形成における接着分子の役割について
〃	〃	富山 俊一	耳鼻咽喉科学・助教授	130	※ メニエール病の免疫学的研究
〃	〃	今城 純子	解剖学第一・講師	100	※ 明暗変化に伴うラット網膜の CREB の遺伝子活性化機構
〃	〃	大国 寿士	老人病研究所・教授	200	緑色レンサ球菌群の産生するヒト血小板凝集因子の作用を阻害する血漿成分の同定
〃	〃	工藤 翔二	内科学第四・教授	130	呼吸音のデジタル解析による, 自動解析システムの開発に関する研究
〃	〃	木内 要	内科学第一・助手	180	再灌流心筋における $\beta$ 受容体細胞内情報伝達経路の役割
〃	〃	田島 廣之	放射線医学・講師	90	重症骨盤骨折の出血に関する研究—回転デジタル血管撮影装置を用いた診断と治療—
〃	〃	福生 吉裕	内科学第二・助教授	100	単球/マクロファージの分化を調節する生理活性物質の精製と cDNA クローニング
〃	〃	南 史朗	内科学第三・講師	210	成長ホルモン自己分泌調節におけるニューロペプチド Y の意義
〃	〃	徳永 昭	外科学第一・助教授	120	周術期免疫抑制メカニズムの解明—開腹術後浸出液の関与—
〃	〃	松倉 則夫	外科学第一・講師	110	胃十二指腸潰瘍合併症へのヘリコバクター・ピロリ感染の関与の解明
〃	〃	内田 英二	外科学第一・講師	70	ハムスター肝癌同種脾内移植モデルによる肝転移の生物学的特性の検討および治療応用
〃	〃	高橋 弘	脳神経外科学・助教授	70	2 種の癌抑制遺伝子を用いたヒト悪性グリオーマのカクテル遺伝子療法の研究
〃	〃	坂本 篤裕	麻酔科学・講師	60	ショックおよび虚血再灌流時の一酸化窒素の変動とその対策—臨床評価への応用—
〃	〃	澤 倫太郎	産婦人科学・助手	20	胎児脳障害に対するアデノシンの防御機構に関する研究
〃	〃	米山 芳雄	産婦人科学・講師	110	妊娠中毒症におけるアデノシンの血小板凝集抑制作用の臨床的意義の考察
〃	〃	大原 国俊	眼科学・教授	150	老人性白内障に対する自己免疫機構の関与に関する研究
〃	〃	石崎 正通	病理学第一・講師	120	角膜における新生血管の動態とアポトーシス
〃	〃	平井 幸彦	生化学第二・講師	100	アデノ随伴ウイルスの特定の染色体上への部位特異的な挿入機構についての解析
〃	〃	木山 裕子	生理学第一・講師	120	特異的 DNA 構造からヒト・グロビン遺伝子スイッチング制御
〃	〃	加藤 昌克	生理学第一・講師	130	ラット下垂体における SRIF 受容体と GHRH 受容体の局在とその生理的意義
萌芽の研究		南 正康	衛生学・公衆衛生学・教授	200	サリン代謝物のバイオリジカルモニタリング

〃	山本 保博	救急医学・教授	90	災害スコア・災害マニュアルの作成
〃	島田 隆	生化学第二・教授	190	染色体上の特定の位置に遺伝子導入できる AAV ベクター系の開発
〃	鈴木 聡	生化学第二・助手	90	任意の細胞に特異的遺伝子導入するための組換えシレトロウイルスベクター産生系の確立
〃	武政 徹	解剖学第一・助手	90	細胞内ストレスファイバーの伸展刺激による発現・消失のメカニズム
奨励研究(A)	中村 哲子	英語・講師	90	18世紀英国におけるチョーサー作品の校訂版と英語訳の相互関係に関する研究
〃	加藤 章	生理学第一・助手	80	雌ラットの誘惑行動に同期する視索前野ニューロンの活動
〃	岡本 研	生化学第一・助手	100	キサンチン酸化酵素における非ヘム鉄の機能に関する研究
〃	稲垣 弘文	衛生学・公衆衛生学・講師	100	メチル馬尿酸に対する酵素免疫測定法の確立
〃	山崎 峰雄	内科学第二・助手	100	ビンズワンガー型痴呆の大脳白質病変におけるグリア細胞死の分子病理学的研究
〃	勝又 俊弥	内科学第二・助手	110	ラット慢性低灌流状態モデルの脳循環代謝と白質の病態についての検討
〃	奥村 敏	生化学第一・助手	100	心筋障害における心筋内遺伝子転写調節機構の解析
〃	長谷川 修	内科学第三・助手	80	成長ホルモン分泌促進ペプチド(GHRP) の受容体の局在と作用に関する研究
〃	三宅 弘一	生化学第二・助手	100	HIV ベクターによる血球系細胞(リンパ球, 造血幹細胞) への遺伝子導入
〃	埴 秀樹	内科学第三・助手	100	t(4;12)転座白血病の TEL/X 遺伝子の同定
〃	松本 智司	外科学第一・助手	100	乳癌の発生・進展に関わる第3染色体短腕上の癌抑制遺伝子の同定
〃	森 隆	老人病研究所・助手	110	脳血管攣縮に於ける superoxide anion の関与と細胞障害機序の解明
〃	近藤 幸尋	泌尿器科学・講師	110	腎細胞癌における予後因子としての核組織中のメタロチオネインの役割
〃	大久保公裕	耳鼻咽喉科学・講師	80	上気道過敏性におけるニュートラルエンドペプチダーズ(NEP)
〃	野中 学	耳鼻咽喉科学・講師	110	マクロライド抗生物質の線維芽細胞に対する影響についての検討
〃	池園 哲郎	耳鼻咽喉科学・助手	100	動物モデルによる内耳自己免疫疾患の病態解明
〃	陣内 賢	耳鼻咽喉科学・助手	100	内耳におけるエンドセリン動態について
〃	岩崎 俊雄	生化学第一・助手	90	一酸化窒素合成酵素(複合ヘムフラビン蛋白質)の機能解析
〃	若尾 りか	老人病研究所・助手	100	ウロキナーゼ型プラスミノゲン活性化因子 mRNA 分解制御機構の解析
〃	山本 直之	解剖学第二・助手	100	中脳に存在するゴナドトロピン放出ホルモン産生細胞の機能の解明

〃 近藤 保彦 生理学第一・助手 100 雄ラットのペニス勃起における延髄縫線核の役割

計 72件 16,490円

備考 1. ※は前年度から継続である。

2. 基盤研究(B)の医療管理学・講師・今中雄一は4月30日付退職、奨励研究(A)の老人病研究所・助手・猪原直弘は7月31日付退職予定のため、研究廃止届を提出した。

2. 平成8年度文部省科学研究費補助金(分担研究)の採択・交付状況

研究者・所属	種 目	主任研究者・所属	研 究 課 題 名
1 菊地 浩人 物理学	基 盤 研 究(A)	三室 守 岡崎国立共同研究機構・基礎生物学研究所	蛋白質集合体の対称性の起源と系譜—機能的要請か, 系統性か
2 三上 俊夫 保健体育	基 盤 研 究(C)	伊藤 朗 筑波大学体育科学系	運動時の活性酸素の生成を予防できる運動処方—過酸化脂質の産生と抗酸化防御物質とのバランスより見た運動処方シグナゼよりみた運動処方—
3 今城 純子 解剖学第一	基 盤 研 究(B)	松田 英彦 北海道大学医学部	c-fos 遺伝子を介した網膜細胞の転写制御機構
4 西野 武士 生化学第一	重点領域研究	三井 幸雄 長岡技術科学大学	キサンチン脱水素酵素における蛋白構造とそのダイナミクス
5 島田 隆 生化学第二	基 盤 研 究(A)	松田 一郎 熊本大学医学部	遺伝子治療実用化にむけての技術開発及びそのシステムの検討
6 島田 隆 生化学第二	重点領域研究	浅野 茂隆 東京大学医科学研究所	遺伝子治療の基礎的研究
7 島田 隆 生化学第二	重点領域研究	山本 直樹 東京医科歯科大学医学部	エイズの病態と制御に関する基礎研究 柱5・感染と病態の制御
8 折茂 英生 生化学第二	重点領域研究	石川 隆俊 東京大学医学部	ヒト発がんにおける複製・修復遺伝子の変異
9 高橋 秀実 微生物学・免疫学	重点領域研究	永井 美之 東京大学医科学研究所	エイズの病態と制御に関する基礎研究 柱3・病態の免疫学的基盤
10 高橋 秀実 微生物学・免疫学	重点領域研究	齋藤 隆 千葉大学医学部	キラーT細胞の認識と活性化調節
11 仁平 信 法医学	基 盤 研 究(A)	寺田 賢 大阪大学医学部	法医中毒情報の統合および情報システムに関する研究
12 近藤 幸尋 泌尿器科学	国際共同研究	井村 伸正 北里大学薬学部	メタロチオネインの生理機能の分子レベルでの解析と臨床応用に関する研究
13 小池 薫 救急医学	総 合 研 究(A)	工藤 一郎 昭和大学薬学部	ホスホリパーゼ A <sub>2</sub> の異常発現とヒト疾患
14 大国 寿士 老人病研究所	基 盤 研 究(A)	加藤 裕久 久留米大学医学部	川崎病の成因, 病態解明に関する総合研究
15 太田 成男 老人病研究所	重点領域研究	太田 茂 東京大学医学部	脳細胞の選択的死と機能分子
16 江見 充 老人病研究所	重点領域研究	大木 操 国立がんセンター研究所	ヒトゲノム構造解析
17 江見 充 老人病研究所	国際学術研究	児玉 龍彦 東京大学先端科学技術研究所	マクロファージのスカベンジャー受容体と動脈硬化

補助金額合計 38,800,000円

3. 平成8年度厚生省科学研究費補助金（主任研究・分担研究）の交付状況

研究者・所属	主任 分担	研究事業名・主任研究者・所属	研究課題名
1 芝崎 保 生理学第二	分担	内分泌疾患調査研究班・中尾 一和・京都大学医学部	中枢性摂食異常症に関する研究
2 丸 栄一 生理学第二	分担	精神・神経疾患研究委託費・八木 和一・国立療養所静岡東病院てんかんセンター院長	難治てんかんの難治化要因と予後と対策に関する研究
3 島田 隆 生化学第二	主任	高度先進医療研究事業	AIDS 遺伝子治療法の開発に関する研究
4 島田 隆 生化学第二	分担	がん研究助成金事業・吉田 輝彦・国立がんセンター研究所・がん転移研究室	がんに対する遺伝子治療の臨床応用を目指した基礎的研究
5 島田 隆 生化学第二	分担	精神・神経疾患研究委託事業・桜川 宣男・国立精神神経センター・神経研究所	神経細胞への組換えウイルスベクターを用いた遺伝子導入法の開発
6 島田 隆 生化学第二	分担	エイズ対策研究推進事業・田代 真人・国立予防衛生研究所・ウイルス第一部	AAV ベクターによるエイズ遺伝子治療法の開発
7 高橋 秀実 微生物学・免疫学	分担	エイズ対策推進事業・竹森 利忠・国立予防衛生研究所・部長	HIV 感染による免疫異常に関する研究
8 高橋 秀実 微生物学・免疫学	分担	ワクチン予防対策総合研究事業・松浦 善治・国立感染症研究所・室長	C型肝炎ウイルス並びにその関連ウイルスの遺伝子組換え技術を用いたワクチン開発に関する研究
9 大庭 建三 内科学第一・老人科	分担	長寿科学総合研究事業・井藤 英喜・東京都老人医療センター・内分泌科	老年者糖尿病の長期予後に関する研究（QOL を中心に）
10 高野 照夫 集中治療室	分担	循環器病研究委託費事業・飯塚 昌彦・獨協医科大学	心不全治療効果の評価法に関する研究
11 吉野 慎一 リウマチ科	分担	長期慢性疾患総合研究事業・居村 茂明・国立加古川病院・院長	疫学とトータルマネジメントに関する研究
12 吉野 慎一 リウマチ科	分担	長期慢性疾患総合研究事業・西岡久寿樹・聖マリアンナ医科大学	RA 炎症病因解明に関する研究
13 工藤 翔二 内科学第四	分担	特定疾患「呼吸器系疾患」調査研究班びまん性肺疾患分科会	びまん性肺疾患(分科会長として)
14 本田 光芳 皮膚科学	分担	医薬品機構研究事業・野村 武夫・本学常務理事	副作用の発生に関する対応・措置に関する研究
15 徳永 昭 外科学第一	分担	がん研究助成金・吉田 茂昭・国立がんセンター・東病院	胃がんの発生の解析と治療への応用に関する研究
16 松倉 則夫 外科学第一	分担	がん研究助成金・田原 栄一・広島大学医学部	腸上皮化生と <i>Helicobacter pylori</i> との関連およびがん化に関する研究
17 寺本 明 脳神経外科学	分担	特定疾患「間脳下垂体機能障害」調査研究班・加藤 護・島根医科大学	脳下垂体腫瘍の発生と分化に関する研究
18 八木 聡明 耳鼻咽喉科学	主任	特定疾患「前庭機能異常」調査研究班	特定疾患「前庭機能異常」調査研究
19 大久保公裕 耳鼻咽喉科学	分担	長期慢性疾患総合研究事業・宮本 昭正・日本臨床アレルギー研究所	アレルギー総合研究 花粉症班「花粉症の免疫療法」
20 黒川 顯 救急医学	分担	化学中毒の情報ネットワークシステムの構築に関する研究・吉岡敏治・大阪大学特殊救急部	3次救急医療施設における医薬品中毒の実態およびコンピュータ通信を用いた中毒情報の収集や公開に対する意見
21 横田 裕行 救急医学	分担	臓器技術臨床開発事業・北川定謙・食品薬品安全センター	臓器移植の社会的問題に関する研究
22 太田 成男 老人病研究所	分担	精神・神経疾患研究費・高木 昭夫・国立精神神経センター	筋ジストロフィー及び関連疾患の臨床病態と治療法
23 江見 充 老人病研究所	分担	長寿科学総合研究・折茂 肇・大蔵省東京病院	骨粗鬆症予防のための危険因子に関する研究
24 江見 充 老人病研究所	分担	がん研究助成金事業・津田 均・国立がんセンター	がんの予後因子決定としての遺伝子診断に関する研究

補助金額合計 60,574,500円



4. 平成8年度その他省庁、自治体、財団による研究助成金等の交付状況

研究者・所属	各種財団等名称	助成等種目	研究課題名
1 近藤 保彦 生理学第一	金原一郎記念医学医療振興財団	基礎医学医療研究助成金	雄ラットのペニス勃起における嗅覚入力と体性感覚入力の統合
2 イッシュワール・パーハー 生理学第一	日本学術振興会	未来開拓学術研究推進事業	生命体の形成機構(生殖・発生) (分担)
3 島田 隆 生化学第二	科学技術庁	科学技術振興調整費	HIV 感染細胞への特異的遺伝子導入法の開発
4 高橋 秀実 微生物学・免疫学	科学技術振興事業団	戦略的基礎研究推進事業	生体防御のメカニズム (分担)
5 高橋 秀実 微生物学・免疫学	日米医学協力研究会	医学研究協力費	
6 南 正康 衛生学・公衆衛生学	環境庁	有機塩素化合物・炭化水素類評価	塩化エチル・塩化メチル
7 南 正康 衛生学・公衆衛生学	千代田生命健康開発事業団	社会厚生事業助成金	循環器疾患リスクファクターとしての産業ストレスの研究
8 岩崎 榮 医療管理学	日本医療機能評価機構	委託事業	病院機能評価の普及啓発に関する研究
9 伊藤 弘人 医療管理学	日本医療機能評価機構	日本病院管理学会受託	クリニカル・インディケータの開発に関する研究
10 伊藤 弘人 医療管理学	医療科学研究所	研究助成	精神科医療における質改善に関する実証的研究
11 早川 弘一/ 加藤 貴雄 内科学第一	(財)車両競技公益資金記念財団	心臓病の基礎的研究助成事業	抗不整脈薬長期治療の在り方
12 荒牧 琢己 内科学第一	東京都	特殊疾患に関する専門研究委託事業	難治性肝炎に関する研究・G型を含むウイルス肝炎の疫学的調査
13 本間 博 内科学第一	福田記念医療技術振興財団	研究助成	Color Kinesis法による左心室局所壁運動異常の自動的かつ定量的評価(心臓超音波法)
14 工藤 翔二 内科学第四	東京都衛生局医療福祉部		特殊疾病の発症因子除去療法に関する研究
15 工藤 翔二 内科学第四	公署健康被害補償予防協会		高齢患者に対する症状把握 日常生活の行動の程度に基づくケアの指標化に関する研究
16 浅野 健 小児科学	(財)上原記念生命科学財団	研究奨励金	薬剤耐性癌細胞へのトポイソメラーゼII 遺伝子導入による耐性克服の試み
17 野呂 恵子 小児科学	森永奉仕会	研究奨励金	新生児期から乳児期における鉄代謝の検討
18 林 宏光 放射線医学	医用原子力技術研究振興財団		三次元CT 顕微鏡のための新補間再構成法の開発
19 高橋 弘 脳神経外科学	社団法人 日本損害保険協会	研究助成	脳循環動態からみた急性期小児頭部外傷の新しい臨床分類の試み
20 白井 康正 整形外科	中央労働災害防止協会	研究費助成	職業性腰痛の予防
21 白井 康正 整形外科	建設業労働災害防止協会	研究費助成	建設業勤務者の腰痛防止
22 伊藤 博元 整形外科	(財)スポーツ治療医学研究会	特定研究費助成	変形性膝関節症に対する筋力強化訓練法の鎮痛効果
23 武内 俊次 整形外科	社団法人 日本損害保険協会	研究助成	交通事故による外傷性頸部症候群に対する電気生理学的検討
24 荒木 勤 産婦人科学	(財)日母おぎゃー献金基金	基礎研究助成	胎児脳障害の発生機序の解明および脳性麻痺の予防対策へのアプローチ

25	野中 学 耳鼻咽喉科学	日本アレルギー協会		Effect of macrolide antibiotics on nasal polypfibroblasts
26	近藤 幸尋 泌尿器科学	医科学応用研究財団	調査研究助成金	癌化の進行-癌細胞の増殖及びアポトーシス制御-におけるメタロチオネインの役割
27	近藤 幸尋 泌尿器科学	鈴木泌尿器医学振興財団	研究費助成	臨床試料および発癌動物モデルによる腎細胞癌の発癌・増殖におけるメタロチオネインの役割の究明
28	大国 寿士 老人病研究所	ボシュロムジャパン(株)	委託研究	コンタクトレンズ消毒液 BL-49のアカントアメーバに対する効果の検討
29	桜田 紳策 老人病研究所	ヒューマンサイエンス振興財団	科学研究費	Kaposi 肉腫の発症機構
30	江見 充 老人病研究所	神奈川科学技術アカデミー	研究助成金 (第一段階)	ヒト乳癌の癌抑制遺伝子の研究

助成金額合計 65,833,000円

## あ と が き

研究委員長の立場で、始めてこの研究業績年報のあとがきを書くことになった。島田教授が委員長を務められた過去3年間に、総論文数はめざましい増加を示した。本年、総論文数はやや減少したが、英文による論文数は依然着実に延びており、絶対数が一割増加し全体の23%を占める結果となったことは、本学の研究成果が世界に向かって発信される点で、着実な前進といえよう。もとより研究活動は論文の数だけで評価されるべきものではないが、数量化が容易なこともあって各種統計の基礎に用いられることが多い。今後、英文で刊行された論文についても、掲載雑誌の質や被引用回数などさらに綿密な評価が行われることとなろう。

本誌のような大学単位の業績集は、これまで過去一年を振り返る自己点検・自己評価の一方法ととらえられてきたが、国の研究費の配分でも業績・公刊の成果を最近やかましく言うようになって今日、外部の評価に対してアピールする側面を強調して行く必要があることが、私立医科大学協会の研究体制委員会でも提起されている。この点、外部のデータベースに掲載されている本学の業績はMedlineでは1993年以来1049件、学術情報センターのEMBASEでは約800件となっており、東京慈恵会医科大学を僅かにしのぐが慶応大学医学部の6割に留まる数字で、小成に安んじることなく一層の努力が必要である。学会発表についてみると昨年の3679件が本年は3887件と一割以上の増加を示した。学会発表は日常的な研究活動をより密接に反映し、次年度以降の論文の素材となって行くものであるから、明年はさらに論文数が伸びることが期待される。

最後に各領域についてみると、本年は基礎医学分野の活動が昨年と同程度か若干下回ったように思われる。本学の研究環境が人的にも経費の面でも恵まれた条件にあることは、地方国立医大から転任してきた小職が実感しているところで、基礎医学の一員として、この環境をまもり、維持発展を図るため一層の努力が必要であると自戒している。

平成9年12月

研究委員会委員長 佐久間康夫

平成9年 12月 20日 印刷

平成9年 12月 25日 発行

発行 日本医科大学  
研究委員会

〒113 東京都文京区千駄木1-1-5

TEL 03 (3822) 2131

印刷 株式会社杏林舎

〒114 東京都北区西ヶ原3-46-10

TEL 03 (3910) 4311-5